

2024 年度 事業計画書

2024 年 3 月 28 日

社会福祉法人どろんこ会

目次

1. 朝霞どろんこ保育園
2. 日高どろんこ保育園
3. メリー★ポピンズ 東武練馬ルーム
4. 鶴見どろんこ保育園
5. 越谷どろんこ保育園
6. 志木どろんこ保育園
7. 板橋仲町どろんこ保育園
8. P'S スマイル保育園
9. 三原どろんこ保育園
10. メリー★ポピンズ アトレ大森ルーム
11. 市川どろんこ保育園
12. 新座どろんこ保育園
13. 仲町どろんこ保育園
14. 新羽どろんこ保育園
15. 清瀬どろんこ保育園
16. 美しが丘どろんこ保育園
17. 大豆戸どろんこ保育園
18. 草加松原どろんこ保育園
19. 越谷レイクタウンどろんこ保育園
20. 駒沢どろんこ保育園
21. メリー★ポピンズ 清瀬ルーム
22. メリー★ポピンズ ラスカ茅ヶ崎ルーム
23. つくばどろんこ保育園
24. 岩切どろんこ保育園
25. メリー★ポピンズ エスパル仙台ルーム
26. 東寺尾どろんこ保育園
27. 船橋どろんこ保育園
28. 浦安どろんこ保育園
29. ふじみ野どろんこ保育園
30. 武蔵野どろんこ保育園
31. メリー★ポピンズ 市川ルーム
32. 若林どろんこ保育園

33. 中目黒どろんこ保育園
34. 船橋どろんこ保育園分園
35. 南魚沼どろんこ保育園
36. 和光どろんこ保育園
37. 三鷹どろんこ保育園
38. 万博公園どろんこ保育園
39. メリー★ポピンズ 桶川ルーム
40. 北千住どろんこ保育園
41. 一宮どろんこ保育園
42. 郡山どろんこ保育園
43. 学園の森どろんこ保育園
44. 中里どろんこ保育園
45. メリー★ポピンズ アトレ川崎ルーム
46. 春日どろんこ保育園
47. 宮下どろんこ保育園
48. つつじヶ丘どろんこ保育園
49. 前原どろんこ保育園
50. 石川どろんこ保育園
51. 馬場どろんこ保育園
52. 読売ランド前どろんこ保育園
53. 守谷どろんこ保育園
54. メリー★ポピンズ 登戸ルーム
55. メリー★ポピンズ 川崎西口ルーム
56. 八山田どろんこ保育園
57. 三筑どろんこ保育園
58. メリー★ポピンズ 南砂ルーム
59. メリー★ポピンズ 松山ルーム
60. 篠栗どろんこ保育園
61. 内箕輪どろんこ保育園
62. メリー★ポピンズ 海老名ルーム
63. 香取台どろんこ保育園
64. 見附どろんこ保育園
65. 西崎どろんこ保育園
66. 袖ヶ浦どろんこ保育園
67. 東大和どろんこ保育園
68. 発達支援つむぎ 荻窪ルーム

69. 発達支援つむぎ 吉祥寺ルーム
70. 発達支援つむぎ 阿佐ヶ谷ルーム
71. 発達支援つむぎ 駒沢ルーム
72. 発達支援つむぎ 目白ルーム
73. 発達支援つむぎ 横浜西口ルーム
74. 発達支援つむぎ ふじみ野ルーム
75. 発達支援つむぎ 池尻ルーム
76. 発達支援つむぎ 横浜東口ルーム
77. 発達支援つむぎ 府中ルーム
78. 発達支援つむぎ 桶川ルーム
79. 発達支援つむぎ 北千住ルーム
80. 発達支援つむぎ 調布ルーム
81. 発達支援つむぎ つつじヶ丘ルーム
82. 発達支援つむぎ 宮下ルーム
83. 子ども発達支援センターつむぎ 浦和美園
84. 発達支援つむぎ 八山田ルーム
85. 発達支援つむぎ 新羽ルーム
86. 発達支援つむぎ 生田ルーム
87. 発達支援つむぎ 武蔵野ルーム
88. 発達支援つむぎ 内箕輪ルーム
89. 発達支援つむぎ 海老名ルーム
90. 発達支援つむぎ 香取台ルーム
91. 発達支援つむぎ 北朝霞ルーム
92. 発達支援つむぎ 田無ルーム
93. 子ども発達支援センターつむぎ 東大和
94. 発達支援つむぎ 見附ルーム
95. 発達支援つむぎ 袖ヶ浦ルーム
96. 発達支援つむぎ 前原ルーム
97. 発達支援つむぎ 篠栗ルーム

2024年度 朝霞どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

(1) 子育て理念 「にんげん力。育てます。」

(2) 子育て目標 ①センス・オブ・ワンダー

自然の中での原体験や畑仕事・ヤギや鶏の世話などの労働を通して、ものの性質や身近な事象・生命の神秘や尊さ・食材や食の循環に気づく。多様な体験から感じた事を自由に表現することができ、子どもが“したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援する。

②人対人コミュニケーション

銭湯でお風呂の日、商店街ツアー、青空保育など地域交流、世代間交流を実施し、一人でも多くの人と挨拶を交わし、一つでも多くの仕事を目にする機会を用意する。また自分が周囲の人的環境に支えられ見守られている事を知り、自己と他者を信頼し、他者に貢献する気持ちを育てる。

(3) 実現したい保育・子育てのあり方

①法人の子育て理念・目標に基づいて、子どもにとって真に必要な機会と環境を用意することで、生活力を体得し、自分で考え、選択し、行動することのできる心身ともに豊かでたくましく生きる力のある子どもを育成する。

②乳幼児期の保育が、子どもの生涯にわたる人格形成にとって極めて重要な時期であることをスタッフ一人ひとりが深く理解し、養護及び教育が一体となった受容的で応答的な保育を実践する。

③子どもの主体性と大人の主体性が共存し、1人ひとりの思いや考えが大切にされ、子どもも大人も共に学び成長し合う関係となる。

④法人の子育て理念・目標に基づいて、保護者・職員と協働で地域・行政に働きかけ地域が一体となった子育て環境の実現に取り組む。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	いつ来ても居心地が良い施設環境をつくる。
	実践予定内容	スタッフ全員が、子ども、保護者、施設利用者に対して受容的にかかわり、風通し良く安心感を土台とした笑顔が溢れ活気ある環境をつくる。また気持ちが良い挨拶と常に整理整頓された状態が保たれ、いつ来ても居心

		地がよい環境が作られている。
2	計画・ねらい	園内研修を通し、互いが学び合う集団となる。
	実践予定内容	フタッフが個別に自身の目標を設定する。スタッフ一人ひとりが法人理念と学ぶ目的を理解し、リーダー、中堅スタッフがファシリテーターとなり園内研修を実施する。また法人が運営している研修動画等のコンテンツを積極的に園会議に取り入れ、ディスカッションや研修を実施する。
3	計画・ねらい	怪我・ご意見のケーススタディ研修 自園の環境の中で発生しやすい怪我の分析と改善案の策定。保護者、地域からいただく貴重なご意見の根幹や背景の理解。
	実践予定内容	自園他園、他法人で実際に起きた怪我やご意見に対し、その状況を詳しく記録した資料を、事例として園内研修に活用し、リスク管理と保育の質を向上させていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育園での日常から、子どもたちのありのままの姿や成長をわかりやすく伝え続けることで、保護者の安心と信頼関係をつくる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・常に気持ちの良いあいさつを心がける。 ・連絡帳、タイムライン、ブログを活用する。 ・お迎え時は伝達だけではなく、保護者の言葉を傾聴し、困りごとやニーズを聞き取る。 ・ポートフォリオの充実化（変容する子どもたちの姿を感じ取ることができているか、見やすい構成になっているか等） ・ご意見、質問等があった場合に統一的な対応を取ることができるようスタッフ間の情報共有を徹底する。 ・個別対応のために担当を置く場合は、誰が担当であるかを明確化したうえで共有し、お問合せに迅速かつ適切に対応できるよう備える。
2	計画・ねらい	目で見て安心できる保育環境を整備する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園側、玄関、保育室を保護者目線となり、清掃や整理整頓を実施する。掃除分担表を活用し、日々の清掃確認をスタッフ全員が役割を明確にして怠りなく行う。 ・利用時間中に清掃が難しい個所は、日時を設定し、定期的かつ計画的に清掃を実施する。
3	計画・ねらい	個別面談の利用促進
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談を必要とする保護者には、「いつでも、何度でも」実施し、子育てのパートナーとしての信頼関係を醸成する。 ・随時面談実施の旨は保護者に再度周知を行い、「面談したい」と感じたときに即時対応できるという認識が根付くよう働きかける。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	潜在的ニーズへの働きかけ
	実践予定内容	保育園見学や出前保育、自治体を活用し広告配布等の広報活動を展開することで、地域子育て支援拠点事業を利用したことがない家庭に対し、働きかける。
2	計画・ねらい	地域子育て世帯への育児相談
	実践予定内容	・発達、保健衛生、離乳食等に関する悩みを保護者で共有できる場、保育士や子育て経験者の立場から気軽に相談できる機会を提供する。
3	計画・ねらい	自園の環境を活かした支援活動
	実践予定内容	どろんこ遊び、野菜の収穫、焚火、鶏やヤギとのふれ合いなど、朝霞どろんこ保育園ならではの環境を活かした体験活動を実施し、子育ての楽しさや地域とのつながりを感じてもらう。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフの人間力育成
	実践予定内容	計画通りにいかない事象や困難な局面を受け入れ、失敗を積極的に報告し合い、改善と学びにつなげる園の文化を作る。挑戦し続ける事に躊躇しないスタッフ全員の人間力を磨いていく。
2	計画・ねらい	チーム保育
	実践予定内容	異年齢保育を行う中で、クラスの垣根がなく全スタッフがすべての児童を把握し、一つのチームとして保育を行う。責任の所在、役割を明確にして心理的安全性の高い環境のもと保育を行う。
3	計画・ねらい	就学後の子ども達の未来を想像しながら保育計画を立案する
	実践予定内容	就学後に大きくかわる乳幼児期の重要性にスタッフ全員が責任を持って保育に取り組む。10年後20年後の子ども達が過ごす未来を想像し、「子ども達が将来を生きるために必要な力は何か」を話し合い、子ども達の未来から逆算して思考し保育計画を立案する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を知る機会を生活の中に取り入れる
	実践予定内容	畑仕事、野菜の下処理を日々の日課として実施。梅ジュース作り、味噌作り、たくあん作り等の食材加工。魚の解体、鶏を捌いて食す体験。飼育している鶏の卵を使った自園調理。ヤギ糞、鶏糞を利用した肥料作りにより、畑で使用する堆肥の自給自足化をめざす。
2	計画・ねらい	給食残渣、調理過程で発生した生ごみの削減と活用
	実践予定内容	給食残渣を定期的に測定し記録検証を行う。調理過程で発生した生ごみや残渣をコンポストで堆肥にする。玉ねぎの皮で染物作りを実施。
3	計画・ねらい	樹木や木材に親しむ体験
	実践予定内容	木登りや大小の木々による天然の木陰の中で園庭遊びを実施。柿、梅、花梨、夏みかん、ザクロ等を園庭の樹木から収穫して食す。木の温もりや感触を楽しめる玩具を取り入れ木育を実施。牧や採取した枝を使用した焚き火体験。

〈6〉遊び環境の探求

1	計画・ねらい	遊びの大切さを理解する
	実践予定内容	就学前の遊び込む経験は、困難に立ち向かう力や、失敗経験から回復する力を育てるとされている。園内研修で各発達段階に適した遊び環境について学ぶ。また遊びで育つ力や学びに繋がる様子を保護者、園内外に積極的に発信していく。
2	計画・ねらい	主体的、対話的で深い学びに繋がる遊び環境の探求
	実践予定内容	子ども達が個別と集団で思う存分遊び込むことができるよう、様々な素材や遊びゾーン等の環境を整える。スタッフは子ども達をよく観察し遊びを最後まで見届け、振り返りの時間をつくる事で遊びを継続させ、学びに繋げていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	15人	15人	24人	24人	24人	108人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	14人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	1人
	事務	1人	言語聴覚士	0人	臨床心理士	0人	嘱託職員	0人
パート スタッフ	保育士	2人	子育て支援員	2人	用務	2人	事務	0人

3. 運営方針

施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	園内研修（グループワーク・勉強会）、各月のねらいについて共有・各担当者からの報告、共有
給食運営会議	月1回	食育活動の実施内容・喫食状況の確認、実践報告
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で発生した事故の検討会、ヒヤリハット・インシデントの分析と改善計画の策定
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り及び省察と見直し
乳児幼児連絡会	毎日	ケガ及び子どもの様子の共有
リーダー会議	月1回	保育内容の振り返り。園内連携について、園全体の課題共有と検証

〈4〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	諸連絡及び運営方針の共有・系列園運営状況報告・
施設長勉強会	月1回	業務改善、マネジメント・コンプライアンス 課題改善計画立案及び取組成果発表
食育会議	年4回	献立内容の改善、提案 給食提供マニュアル及び運用ルールの作成・見直し 食育計画の策定
保健会議	年4回	感染症対策やガイドラインの作成・見直し 保健計画の策定
主任会議	月1回	業務改善・マネジメント等の資質向上 グループワーク・ディスカッション
子育ての質を上げる会議	月1回	業務改善、マネジメント・コンプライアンス 課題改善計画立案及び取組成果発表

〈5〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
保健・衛生管理係	園内の汚染区域、園周辺の衛生管理や備品等の管理。感染症予防。身体測定・定期健康診断の実施と保護。職員への衛生教育。
安全対策係	安全な人的物的環境の整備、点検。避難訓練実施。消防署、警察署との

	連携。不審者情報の掲示。ハザードマップの更新。
防火管理者	避難訓練計画の立案。設備の防火管理。消防設備点検の実施。
食品衛生責任者	食品の品質衛生管理。食育会議の立案。職員への食品衛生教育。
畑係	年間農業計画と実施の責任者。
生き物係	ヤギ・ニワトリ等、生き物の飼育全般に関する管理。

〈6〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者と協働し、準備進行を実施する。
彩夏祭係	保護者と協働し、準備・進行を行う。

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欲求が満たされ情緒が安定できる環境づくりを行う。安心感を持ち好きな遊びを十分にできるように応答的な人的環境と物的環境を整える。 ・ 基本的な生活習慣を身につけることができるように、生活のリズムを整え、主体的な行動を見守る。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊びを通じて、満足感や自己肯定感が得られる環境を整える。 ・ 周囲への興味関心を受け止め、自発的に「やりたい」という気持ちや自ら気持ちを立て直す気持ちを見守りながら丁寧に関わる。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異年齢保育を主体とし自分の好きなことを好きな仲間と好きな場所で安心して思う存分遊び込める環境を整える。 ・ 基本的な生活習慣の確立に向け、個々の発達状況に応じて丁寧に関わる。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟度別やグループ活動により、自分で取り組みたい活動を選択する。多くの異年齢の友だちと関わりながら、じっくり遊び込む。相手の気持ちを理解し、折り合えるようにする。 ・ 異年齢での活動を通じて自分の成長を感じながら、友だちとの協力や役割分担を行い、進級することに喜びを感じられるような環境を整える。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼

保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・ 2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	人や食材との関わりから、食べる意欲を育てる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 畑仕事による作物の栽培や収穫を通じて、子ども自ら野菜を獲得することで、食に対する興味関心や積極性を育てる。 ・ 一緒に食べる人と楽しく会話を交わし、より多くの共感体験を得ることで食の豊かさを実感するとともに、人と食卓を囲むことの喜びを知る。
2	計画・ねらい	食の循環を理解し、実感することで生命の尊さを頭と心で理解する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魚や鶏の解体と焚火調理を体験し、食のサイクルの全行程を知り、命の尊さ、自分の体が他の生き物の命で繋がれている事を理解する。 ・ 採卵等、鶏の世話を通し、生命のサイクルを体験する。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月20日に身体測定を実施し発育や栄養状況の把握を行う。 ・ 手洗い、うがい指導、トイレの使い方指導 ・ 身体づくりと健康に関する指導 ・ 性教育①「体の不思議と大切さ」 ・ 性教育②「大きくなった喜び～命の誕生～」
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス

	感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～9月頃…手足口病・咽頭結膜炎・ヘルパンギーナ・とびひ 11～3月頃…インフルエンザ・ウイルス性胃腸炎・RSウイルス・溶連菌感染症
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	現在該当する薬の預かり無し
エピペン使用できるスタッフ	本日現在22名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については4月20日までに受講予定
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	本日現在22名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については4月20日までに受講予定
その他保健に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防のため、保育室内外の衛生管理に努める。 ・日々の子どもの健康状態や近隣園、地域での感染症流行状況を把握し、感染症拡大防止のための情報発信を行う。 ・保護者に対して保健に関する知識や情報を提供し子どもの保健行動への協力を求める。 ・感染症対策として予防接種状況を把握し保護者に対し年齢に応じた計画的予防接種を勧める。 ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ

健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	遊び込める環境の整備
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が自発的に活動し、時間を忘れて遊び込める環境を整える。そのために大人が介入し過ぎず穏やかにかかわり、子どもの集中が途切れないように配慮する。また大人の声の大きさに配慮し、子どもの視界に入る際は落ち着いて行動する。 ・子どもの発達に合わせ、遊び環境の難易度が難しすぎず簡単すぎず、挑戦したい意欲を引き出せる環境を設定する。 ・取り組んでいる遊びが、自分自身が主人公であるという感覚を持って、連続性があり豊かに発展していく可能性を感じられるように設定する。
2	計画・ねらい	主体性と協働性を育む園庭環境の整備・改良
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に遊び込み、仲間との協働やtrial&errorの体験が豊かになるためのゾーンの構築。 ・木材を中心とした素材を厳選配置し、「何を使って、どのように遊ぶか」を子ども自身が創造する。 ・火、水、土を最大限活用するための園庭整備、修繕の実行。 ・火の特質、有用性、危険性を知り、子ども自身が活用方法を考えられるように、焚火等の機会を増やす。また、消防署への届出や手順、ルールを徹底することで、安全を確保する。
3	計画・ねらい	異年齢交流の推進
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・空間、クラス担当による障壁を排除し、異年齢交流が推進する方策を職員間で議論する。 ・異年齢との関係性を子ども自身が考え、積極的交流のアイデアを具現化する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	アーチ型トンネル	園庭	毎日
2	ままごと遊び用小屋	園庭	毎日
3	ベンチ	園庭	毎日
4	焚火台	園庭	毎日
5	ままごと道具入れ	園庭	毎日
6	登り壁	ホール	毎日
7	平均台	ホール	毎日
8	スロープセット	ホール	毎日
9	移動式用具入れ	ホール	毎日
10	八角型ベンチ	3.4.5歳児室	毎日
11	製作用収納棚	3.4.5歳児室	毎日
12	テーブル	3.4.5歳児室	毎日
13	木製組み立て玩具	3.4.5歳児室	毎日
14	ブロック遊び用収納箱	3.4.5歳児室	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	防災…危機管理マニュアルの災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練再開通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う。
2	実践予定内容	ケガ事故防止…危機管理マニュアルのケガ防止策・安全点検と保全、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、手作り備品チェック、安全教育、SIDS防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。
3	実践予定内容	不審者対策…危機管理マニュアルの不審者対策に則り、不審者侵入訓練・笛の携帯・代理送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行いながら、不審者侵入時には対応フローチャートに従う。
4	実践予定内容	光化学スモッグ…危機管理マニュアルの光化学スモッグ対策に則り光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応及び行政連絡に従って対応する。
5	実践予定内容	普通救命講習会への参加…消防署に協力を依頼し開催。
6	実践予定内容	洪水…集中豪雨等により、園内浸水の可能性を想定し、朝霞市役所と連動した要支援者施設における、洪水時対策計画書を作成。平成30年1月市役所へ提出済。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

次世代を担う人材育成の観点から、養成施設からの依頼があれば積極的に受け入れを行う。実習生や生徒の一人ひとりの様子に合わせて 具体的かつ家庭的に援助・指導を行う。また、実習やボランティア活動の実施に際し、法人理念や地域における役割などを説明することで、園の地域施設としての役割について周知・理解の深耕に努める。

1	実践予定内容	実習生…保育所保育指針と学習指導要領をベースとし、保育品質マニュアルに基づいた保育方法の実践指導を行う。
2	実践予定内容	職場体験…子どもと遊ぶ楽しさから養護と教育の実体験を提供する。
3	実践予定内容	学生ボランティア…現場体験を通じて、福祉の意義や保育園の地域における役割について理解を深める。

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (= 保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの人権・丁寧な関	子どもの人権と丁寧な関わりについて 共通認識が持てるよう話し合う。

		わり ③ 危険予測	見失い、置き去りを起こさないための ルールの共有と見直し、ハザードマッ プ更新。
5月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保護者支援・接遇	園長大学・保育士大学で学ぶ「ビジネ スマナー」「接遇」を視聴し、接遇や 美観についてのディスカッションを行 う。
6月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺のリスクマネジメント ③ 危機予測2	水遊びを開始するにあたってのリスク 管理・SIDSについて。
7月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 遊び込むための環境設定	遊び込める環境がなぜ必要か。子ども 達が遊びで何を獲得するかのディスカ ッションを行う。
8月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 遊び込むための環境設定2	遊び込むために必要な人的及び物的環 境のディスカッションを行う。 (法人主催講座の「心を育てる保育 環境」を研修資料として活用)
9月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 遊び込むための環境設定3	ISO14001の進捗確認。 遊び込むために必要な人的及び物的環 境の振り返りと改善策を考える。
10月18日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿とアプローチ・カ リキュラム1	10の姿を参考にしながら就学、進級 に向けた活動及び環境について共通認 識が持てるようディスカッションを行 う。
11月15日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿とアプローチ・カ リキュラム2	就学、進級に向けた活動及び環境につ いて評価見直しを行う。
12月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年間目標の振り返り1	次年度に向け、2023年度の保育や運 営の振り返りを行う。
1月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年間目標の振り返り2	次年度に向け、2023年度の保育や運 営の振り返りを行う
2月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第1回策定会議	2023年度の振り返りを基に次年度に 向け、園運営の基盤を固める。
3月2	9:00~18:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第2回策定会議	園目標や全体の計画をもとに、次年 度の活動計画を立案、決定する。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デノマークインターンシップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年2回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個別に目標設定面談を行う。中間面談で進捗の確認を行い、達成難易度に合わせて目標の修正を行う。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域と積極的に関わり、地域に開かれた保育園を目指す。

子どもたちが地域の中で、幅広い世代のより多くの人々と関わり合うことが健全な育成の観点から重要である。公開講座を開くなど、地域の子育て世帯、高齢者、小学校、近隣の保育園との交流を行いながら地域交流を行う。

活動を通して、子どもたちが地域に愛着を持ち、地域の方が子どもたちを地域にとってかけがえのない存在であると認識してもらえよう、職員も地域の方々と積極的に交流し、温かい支援に対する感謝の気持ちをしっかり伝えることを心がける。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：わくわくドームすこやか花壇
商店街ツアー	週1回
世代間交流	乳幼児の様子に合わせ、高齢者福祉施設や近隣住民、子育て支援センター来所児童親子との交流を計画。小中高生の職場体験や幅広い年齢層のボランティアの受け入れを行う
異年齢交流	系列園からの遠足の場所として、遊びの交流を深めたり中 学生から大学生までの体験保育の受け入れ
地域拠点活動	どろんこ祭り・彩夏祭
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

新型コロナウイルス感染症等が収束に向かい、「新しい生活様式」の中で社会情勢に合わせて交流の機会を広げていく。保育園と小学校の双方が可能な範囲で行事活動等に参加し交流を深め、子どもの就学への思いを培っていくための協力関係を築いていく。

学習指導要領と保育所保育指針の相互理解を前提として、子どもの成長の連続性が保障されるような密接な連携関係を維持確保する。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月3日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
9月頃	朝霞第三小学校	10名予定	運動会参加(小学校校庭)	子ども間交流
10月頃	朝霞第三小学校 1年	10名予定	公開授業参観	子ども間交流
11月頃	朝霞第三小学校 2年	20名予定	保育園見学(朝霞どろんこ保育園)	子ども間交流
11月頃	朝霞市の就学前施設	1～2名予定	幼保小意見交換会	職員間交流
12月頃	朝霞第三小学校	20名予定	学校見学(朝霞第三小)	子ども間交流
1月頃	朝霞市役所	2名予定	幼保小連絡会	職員間交流

2月頃	朝霞第三小学校 1年	20名予定	交流会	子ども間交流
-----	------------	-------	-----	--------

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

子どもの状況や発達特性を理解し、ケース会議で共有しながら個別計画の立案、見直しを進める。個々の強みや得意分野が発揮され、社会生活の中で自己効力感を持ち自己が肯定できるよう支援を行う。

〈2〉 毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：10～20名予定)

発達に特性があり手立てが必要と考えられる子どもを中心に、現在の発達状況を報告し職員全体で共有する。

課題解決のために保護者を含めた議論を要する場合には、面談などを適宜実施し、課題と方向性を共有するとともに、子どもの最善の利益を目標とした連携を図る。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

クラス担当と新年度前に引継ぎを実施する。

小学校への引継ぎは幼保小連絡会のみならず、小学校の担当者と連携を取り、接続が円滑に進められるよう引き継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

園に來訪した親子に都度署名をもらい、月間延來場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 園庭及び園舎、畑の一部を開放し自由に過ごしていただく。
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:わくわくドームすこやか花壇にて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年6月3週目に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：9時00分

自己評価終了予定時刻：13時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任、乳幼児リーダー、園事務

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	地域に開かれた子育て支援拠点となる。
	振り返り	周辺の恵まれた自然を利用した原体験が子どもの感性を開いていくことをスタッフが共通認識としながら、地域への園庭開放や近隣園との交流を通して互いが学びあえる場を作った。2024年度も引き続き継続していく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	子どもと大人の主体性を大切にする。
	重点施策	子どもも大人も1人ひとりが社会をつくる主体として、1人ひとりの思いや考えを大切に、社会性と個別性をバランス良く発揮しながら、前例にとらわれず、常に挑戦し、子どもも大人も共に学び成長し合う関係となる。
2025年度	目指す姿	日課・日常保育と地域の環境資源を活用した原体験の融合
	重点施策	保育の基礎となる日課や日々の保育内容を充実させ、環境要素と人的要素を活用し、朝霞どろんこ保育園ならではの保育活動を実践する。前年度までの取り組みを総括し、法人全体にその成果を波及させることでモデル園としての役割を果たす。
2026年度	目指す姿	朝霞どろんこ保育園ならではの保育実践や環境への配慮により、地域に貢献し、地域から選ばれる園となる。
	重点施策	人的・物的環境を最大限に活用し、園に関わる一人ひとりがお互いの個

		性や特性、大切にしている価値観を受容し、寛容で豊かな保育を展開する。また環境に配慮した朝霞どろんこ保育園ならではの保育を展開し、地域に選ばれる園となる。
--	--	------------------------------------------------------------------------------

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：朝霞どろんこ保育園 施設長 石井 崇洋

2024年度 日高どろんこ保育園 事業計画書

Ⅰ. 基本方針

●子育て理念…「にんげん力。育てます」

●子育て目標…「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

●私たちが育てる6つの力

- ① ケガをしない強い身体を育てる
- ② 自分でできることを自分でする
- ③ すべての人との関わりから判断・行動を身につける
- ④ 活動を選択し、自分で考えて行動する
- ⑤ 生死を知る、食の循環を知る
- ⑥ 感じたこと・考えたことを表現する

●日高どろんこ保育目標

「子どもを信じて待つ保育」

- ・子どもの想いを尊重し、自らが考え活動を選択し行動できるよう見守っていく。安心・安全に配慮しながらも子どもの挑戦する心を信じて待つ。

「混ざり合う保育」

- ・『日高どろんこ学童保育室』併設を活かし、法人の中でも0歳から12歳までの幅広い異年齢保育を展開していく。保育園にとどまらず、施設内全体で生活や遊び、労働を教え合える大きな家を目指す。

2024年度 施設運営方針

1. 生活の体得
2. 10の姿の体得
3. 子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定
4. 鶏を絞めて食す 命をいただく活動の実践
5. 自律運営

〈Ⅰ〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	ホンモノの体験
	実践予定内容	子どもの興味から広がった遊びから「ほんものの体験」へとつなげていく。ハザード・リスクを踏まえた上で、子どもの可能性を応援する活動を計画していく。見る・聞く・触れるなど五感を刺激するような直接的体験を常に意識する。
2	計画・ねらい	学び合う集団
	実践予定内容	職員一人ひとりが学びの姿勢を持ち、自らが学んだ知識を広め合い、質を

		高めるような職場の雰囲気づくりをする。職員の興味・関心を捉え、教材や講座を進めていくことで学びの場を提供する。
3	計画・ねらい	子ども同士の関わり
	実践予定内容	他者との協働の中で互いに思いや考えを共有し、共通の目的を実現する機会を設定する。異年齢の関わりの中で直接体験を通して、他者との協働・感情コントロール・目標達成を子ども自身が感じられるよう保育者の介入を見極めていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	積極的な家庭連携
	実践予定内容	お迎え時には活動ではなく子どものエピソードで様子を伝え、安心して預けられるような保育園を目指していく。短い時間でも保護者と関わりを大切に、信頼関係を築くことで、より良い子育て環境を作っていく。
2	計画・ねらい	おもてなしのこころ
	実践予定内容	保護者におもいやり・誠実さ・謙虚さ・感謝を忘れず、常におもてなしのこころを持ち関わっていく。あたたかい雰囲気保護者を迎えらるるよう相手に気持ちに立った姿勢でいる。
3	計画・ねらい	共有機会の増加
	実践予定内容	保護者参加型行事や保護者懇談会の他に日々の子どもの姿をドキュメンテーションやポートフォリオという形で作成し、園での様子が手に取るようにわかるような工夫をする。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域への発信
	実践予定内容	保育活動を地域に方にも知ってもらえるようSNSなどを用いて情報を発信する。認知度を高めていき、敷居が低く気軽の立ち入れるような拠点を目標していく。
2	計画・ねらい	子育て相談や支援
	実践予定内容	支援センターを利用した保護者にもあいさつから始まり、世間話をするこことで相談をしやすい環境を整えていく。相談室を利用し、相談しづらい内容でも話さるる場を用意しておく。
3	計画・ねらい	利用者同士が交流
	実践予定内容	園庭開放や自然学校等、イベントに参加された利用者同士がつながれるような雰囲気づくりをする。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもの気持ちに寄り添った保育
---	--------	-----------------

	実践予定内容	「やりたい」「いやだ」子どもの気持ちを受け止め、その子の最善の利益を考えられた関わりができるようになる。
2	計画・ねらい	預けたいと思える保育
	実践予定内容	日中、仕事で子どもと関われない保護者に代わって、一人ひとり丁寧な保育を行い、日々の出来事や子どもの成長をお迎え時に伝えることで安心して預けられるような保育園を目指す。
3	計画・ねらい	生きる力の向上
	実践予定内容	子どもと関わる保育者として「生きる力」である「情動調整力」「人と関わる気持ち」「目標に向かって頑張る力」の三つを意識した上で専門性を活かした保育を行えるようにする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	遊び込める環境構成
	実践予定内容	子どもの発達を捉え玩具を選別していく。玩具の購入や手作り玩具を作成し子どもの興味・関心を広げる選択制のある環境構成をする。
2	計画・ねらい	安全に楽しめる園庭
	実践予定内容	自然豊かで子どもが裸足で走り回れるような安全で楽しい雰囲気のある園庭の状態をつくり、維持する。

〈6〉子どもの「やりたい」を大切にする

1	計画・ねらい	子ども主導の保育
	実践予定内容	大人の価値観に囚われず、子どもたちが自分の意思で「やってみたい」を一つひとつ受け止め、自由に考え行動できるよう見守っていく。また、子どもの興味マップなどを作成しながら「やってみたい」から保育が始まるよう取り組んでいく。大人の用意した活動でなく、子ども自ら生み出した活動を広げていく。

〈7〉過ごしやすい環境づくり

1	計画・ねらい	環境構成
	実践予定内容	一年間環境を通して子どもを捉えていき、細かな環境整備をしていくとともに子ども達が遊び込める環境へとしていく。また、子どもにとって安心できる場所の確保や安全に過ごしていけるよう場所として発達過程や活動の展開に合わせ随時見直し、構成していく。 園内研修にて環境について振り返る機会を設け、子どもの現状に合わせた環境を常に意識できるようにする。

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	9人	12人	21人	21人	21人	90人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	17人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	2人
パート スタッフ	保育士	2人	用務	1人	事務	1人		

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	提案と意見交換 園内研修 会議報告 研修報告
給食運営会議	月1回	離乳食進行 食育計画 献立の見直し 喫食状況
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデントの振り返り・対策立案
ケース会議	月1回	個別の振り返り 個別指導計画確認・対応

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	業務報告 伝達事項 事故防止
施設長勉強会	月1回	保育所運営 マネジメント 保育について

食育会議	年4回	年間食育計画の作成 マニュアル確認 献立の提案
保健会議	年4回	マニュアル確認・見直し 感染症への対応等
主任会議	年4回	保育所運営 マネジメント リーダー育成
子育ての質を上げる会議	月1回	育てて欲しい10の姿・5領域

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康維持・温度・湿度・換気確認 ・感染症発症の予防策を実施 ・園内の清潔区域（調乳室/調理室）と汚染区域（トイレ・オムツ交換場所 シャワー室・沐浴室・トイレ後の着替え場所・感染症流行時居室）の安全と衛生管理・職員の検便
安全対策係	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練（毎月）、不審者侵入訓練（年2回）の実施報告書確認 ・設備安全点検 ・事故防止自主点検 ・園内外、公園のハザードマップの更新・更新（随時）
防火管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・消防計画作成と届出 ・安全対策係の任命 ・自衛消防組織作成 ・自主点検チェック票（日常） ・防災用備蓄品の確認（6月・12月）
食品衛生責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理、点検作業の実施 ・食育会議の計画、実践 ・「作業手順書」と「作業結果の記録」の作成
畑係	<ul style="list-style-type: none"> ・年間農業計画のもと、子どもと共に取り組む、毎月の種や苗の購入 ・食育計画との連動と進捗把握 ・各クラスへの畑仕事のマネジメント、予算計上
生き物係	<ul style="list-style-type: none"> ・健康チェック ・エサ、岩塩、EM菌等の発注 ・年間休日の当番表作成と実施管理 ・ヤギ小屋の整備、補修管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	企画運営 日程調整 会場設置 近隣広告配布
運動会	企画運営 大道具 会場設置 放送 保護者配布物作成
生活発表会	企画運営 大道具 会場設置 放送 保護者配布物作成

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の発達過程を把握し、生理的欲求やあまえなどの依存的欲求を満たしながら、生命の保持と情緒の安定を図る。 ・保育者との信頼関係の中で安心感を覚え、遊びを十分楽しむことが出来る環境のもと、様々な経験をする。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く、見る、触るなどの経験を通して感覚器官や手指の機能の働きを促す。 ・裸足での戸外遊びや室内遊びを十分に楽しみ、好きな玩具や自然物に積極的に関わりを持つ。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な動物を良く見たり、触れたり世話をすることで、親しみや愛情を持つと同時に命の大切さを知る。 ・家庭と異なる場での生活の流れが分かり、自ら考えて行動でき、思いを言葉で伝えることができる
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・年下の友だちに親しみや思いやりの気持ちを持ち、年上の友だちに憧れの気持ちを持つ。 ・異年齢で過ごす中で色々な遊びに興味を持ち、基本的な生活習慣やルールなどを覚えていく。 ・保育者に見守られながら、自分の意見を主張し、相手の意見を受け入れる経験を積む。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食べることで心を豊かにし、元気な身体をつくる
	実践予定内容	畑活動や食の循環を知る体験等により食材や食事について興味関心を持てるようにしていく。食事を楽しめるような雰囲気づくりを意識し環境構成を行っていく。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い・うがい・歯磨き指導 命の大切さ～幼児期からの性教育～
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 12～2月頃・・・感染性胃腸炎・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・預かり済み／冷蔵庫にて保管 抗アレルギー剤吸入・・・預かり済み／与薬ポケットにて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在全職員が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については4月中に受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在20名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。など各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検 (簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもが混ざり合う環境
	実践予定内容	全ての人との関わりから判断・行動を身につける。異年齢保育・インクルーシブ生活を通して、年齢や発達の違う子が交じり合うことでお互いが刺激し合う環境を用意する。大人の考えで選択肢を狭めない。

2	計画・ねらい	自己決定のできる人的環境
	実践予定内容	活動を選択し、自分で考えて行動する。子ども自身にまかせる人的環境を用意することで「自己決定」を繰り返し、責任感を持てるようにする。子どもの主体性を尊重することで自己肯定感を伸ばしていく。
3	計画・ねらい	「やりたい」と思いついたときに実現できる環境
	実践予定内容	子どもの表情や言動から「子どもたちの今」を捉え、必要な場やものを用意し実現できるよう環境構成する。試行錯誤することで、深い学びへとつなげるようにしていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	ツリーハウス	園庭	毎日
2	見晴台（中）	園庭	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災対策	消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策の設置・緊急地震速報の運用・災害発生時は対応フローチャートに従う。
2	怪我・事故防止	怪我事故防止策・安全点検と保全に則り、事故防止チェック及び設備点検チェックを実施し、安全教育・SIDS防止対策を行う。怪我発生時は対応フローチャートに従う。
3	不審者対策	6月と11月に防犯チェックリストに従い確認を行う。併せて不審者侵入訓練を実施する。不審者侵入時はフローチャートに従う。
4	化学スモッグ	光化学スモッグ対策に則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時は対応フローチャートに従う。

6. 実習生・中高生の受入

- ・ 依頼を受けた中高生の体験学習や保育養成校の実習や各種ボランティアは積極的に受け入れる。
- ・ オリエンテーションで接し方やルールを説明し、安心して体験できるように配慮する。
- ・ 将来の人材育成の意味もあり、目標を持って体験学習に参加してもらえるようにすすめる。また、職員においては、研修指導を通して教えることの責任感を育み、自分自身の保育を見直す機会にしていく。

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修 (年1回) ■園内研修 (月1回以上) ■保育スキル研修 (エリア別) ■リーダー養成研修 (9~2月) ■業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会 (月1回) ■デンマークインターンシップ (年1回) ■コンピテンシー自己採点 (月1回) ■人権チェック (4月・10月) ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習
保育スキル研修 	←お迎え 対応研修 	←避難訓練研修

〈1〉今年度方針・テーマ

次世代の保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、実習生・研修生を積極的に受け入れていく。保育現場を直接体験することで質の高い学びにつなげ、より実践的な技術を取得できるよう丁寧に指導していく。

1	実践予定内容	中高生の体験学習の受入
2	実践予定内容	保育養成校の学生の実習受け入れ
3	実践予定内容	一般および学生の各種ボランティアの受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 法人の理念 ③ 虐待防止研修	マニュアルの確認 子育ての質を上げる会議共有 虐待防止研修
5月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル再確認	マニュアルの確認 子育ての質を上げる会議共有
6月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 養護の行き届いた保育	子ども一人ひとりがそれぞれ「生命の保持」「情緒の安定」を保障された保育を学ぶ
7月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 丁寧な保育	預けている保護者の気持ちになって自身の保育を見つめ直す 子育ての質を上げる会議共有

8月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 5領域	5領域「健康」 子育ての質を上げる会議共有
9月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 5領域	5領域「人間関係」 子育ての質を上げる会議共有
10月18日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 5領域 ③ 虐待防止研修	5領域「環境」 子育ての質を上げる会議共有 虐待防止研修
11月15日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 5領域	5領域「言葉」 子育ての質を上げる会議共有
12月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 5領域	5領域「表現」 子育ての質を上げる会議共有
1月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 就学・進学に向けて	小1を知る：小学校1年生を見て知り、逆算した保育考える 子育ての質を上げる会議共有
2月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	策定会議
3月2日	9:00~18:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	策定会議

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日~30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											

デモンクインターソップ

希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

子どもが自ら環境に関わり、自発的に活動し、様々な経験を積んでいくことが出来るよう配慮する。積極的に園外に出かけ、近隣住民や異世代を含む様々な人との関わりの場をつくっていく。また、子どもを社会全体で育てるための子育て支援の施設としての役割を担っていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 近隣公園
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人福祉施設との交流
異年齢交流	小中高生の職場体験・ボランティア・幼保小交流活動（小学校体験）を通して、小学生・近隣保育園との交流を図る。本園学童との交流
地域拠点活動	毎月の地域清掃（青空保育実施時にみんなでゴミ拾い） 実習生の受け入れ（大学、専門学校との情報交換、交流） ちきんえっぐ・縁側かふえ
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

年度の始めから就学までに育ってほしい姿をイメージしたうえで全体的な計画・年間指導計画を立て、日々の保育を行っていく。「5歳児と小学校1年生との年間連携計画および報告書」を作成する

とともに個別記録や月・週の短期的な計画をアプローチカリキュラムへとつなげ、保育と小学校の接続を潤滑にする。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
4月頃	日高市立高萩北小学校	職員2名予定	情報交換・交流打合せ	職員間交流
4月頃	日高市立高萩北小学校	21名予定	小学校周辺散歩	小学校見学
1月頃	日高市立高萩北小学校	21名予定	伝承遊び	子ども間交流
2月頃	日高市立高萩北小学校	職員2名予定	情報交換	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

保育の方法や内容について、個別支援計画を作成し日常的に保護者と話して理解を得る事や子どもの発達状況・課題発達について情報を共有し、認識の相違を無くすよう努める。

必要に応じて医療機関や専門機関による医療方針・方法を共有する

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定)

半期ごとに立てている個別支援計画を基に子ども一人ひとりに合わせた目標を用意することで、発達の過程に沿った保育を行っていく。また、振り返りをこまめに行い共有することで保育者全員が適度な関わりを持てるようにする。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

進級するにあたり環境の変化を気にしながらその子の発達にあった環境を用意していく。ケース会議等で共有している内容を理解した上で見守る。

小学校や教育センターと連携を行い、どのような進学でも困り感が少なく、その子らしく通える場を保護者と一緒に考えていく。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
------	----

園開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週1回10:30~12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週1回10:30~12:00
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育 (支援センター主催)	月1回 近隣公園にて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年に2度「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：8時00分

自己評価終了予定時刻：17時00分

自己評価実施予定者：田中 誠、森谷 太郎、宮園 司

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	「子どもを信じて待つ保育」
	振り返り	子どものペースに合わせることや大人の意見を容易に挟まないことに注意しながら子どもと関わるようにしていったが、過干渉になってしまうことも多々あった。次年度は「子どもの失敗を見届けること」「子どものやりたいを大切にすること」を念頭に置いて保育を行っていきたい。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

24年度	目指す姿	「保育の質の向上」職員の意識改革
------	------	------------------

	重点施策	保育指針を中心に園内研修を行い子どもにとって必要な環境構成をする。常に「子どもたちの今」を把握し、各年齢の発達過程を理解した上で先を見据えた計画を立てていく。職員各々が意識を高め合い、質の向上を図ることで互いが刺激し合うような関係性の構築をする。また自園の良さや強みをスタッフが語れるような集団となる。
25年度	目指す姿	子どもの最善の利益を追求する集団
	重点施策	保育者の専門性と利用している保護者の想いを互いに理解し合い、目の前にいる子ども一人ひとりの最善の利益を考えられるよう交流を深めていく。職員のみならず、保護者との学び合いの場を設定していく。
26年度	目指す姿	地域に愛される保育園（選ばれる園）
	重点施策	子どもにとって必要なものを常に考え、子どもの最善の利益を考慮した保育を園全体で協力して行っていく。保護者や地域との関わりを通して、地域に根付き、地域ぐるみの子育てを確立する。日高市の保育園と言えば「日高どろんこ保育園」と認知される保育園にしていく。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：日高どろんこ保育園 施設長 宮園 司

2024年度 メリー★ポピンズ 東武練馬ルーム 事業計画書

1. 基本方針

法人理念 『にんげん力。育てます。』

法人保育方針 『センス・オブ・ワンダー』『人対人コミュニケーション』

を基に、子どもの生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期に、保育を担っていることを深く受け止め、一人の人間として人格を尊重し、一人ひとりに丁寧に関わることを大前提とする。十分な養護（安心・安全）が行き届いた下で、自分の持っている能力を引き出し、成長していける環境を用意する。その為に、子どもが求めたときにいつでも応答的に関わる。

一人ひとりが違う個性や特性を持っていることを当然のことと理解し、子どもの思いや発想、行動におよびに介入せず、子どもが様々な葛藤を繰り返しながら主体的に成長できる環境を用意する。

また、集団の中の個として、自分の思いや考えをしっかりと持ち、それを人に伝えられる子、相手の考えを受け入れられる子、考えが違ったときにどうしたら良いか折り合いがつけられる真のコミュニケーション力を育てる。

個々の発達・個性をしっかりと捉え、『今その子に必要な環境は何か』を深く考察し、子どもの最善の利益を追求し続ける職員チームになる。

どろんこ会グループが目指す園の姿、以下5点を実践していく。

1. 生活力の体得
2. 10の姿の体得
3. 子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定
4. 命をいただく活動の実践
5. 自律運営

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活力の体得をしていく
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 見守るだけでは子どもは育たない。道具の使い方・遊び・歌などは私たち大人が教えない限り知り得ない。 ● 道具（針と糸・ナイフ・工具等）を使って見せる環境を作っていく。 ● 遊び（あやとり・こま・まりつき等）をやって見せる環境を作っていく。 ● さまざまな歌を歌って見せる環境を作っていく。 ● 焚火にあたることで火との距離の取り方を知る。 ● 生きる力（感情制御力・人と関わる力）は指導では身につかない。経験と失敗で身に付く（Trial&Error） 園内研修で理解を深めながら、子どもにどんな体験が必要なのかを職員全体で考え、道具の使い方、遊び、歌を職員が背中を見せながら関わっていく環境を作っていく。
2	計画・ねらい	10の姿の体得をしていく
	実践予定内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な心と体 2. 思考力の芽生え

		<p>3. 自立心 4. 自然との関わり・生命尊重 5. 協同性 6. 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 7. 道徳性・規範意識の芽生え 8. 言葉による伝え合い 9. 社会生活との関わり 10. 豊かな感性と表現</p> <p>保育の質を上げる会議と連動をしながら園内研修で10の姿の理解を深め、実際の保育に落とし込み、取り組みをドキュメンテーションやポートフォリオにまとめて記録をして共有をしていく。</p>
3	計画・ねらい	子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定をしていく
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもが使うもの、触れるべき物を倉庫にしまわない。 ● 各保育室に玩具、教材、触れるべき様々なものを常設する。 ● 子どもが自分の意志で自由に各保育室を行き来できる生活を保障する。 ● 大人が決めない、誘導しない。 ● 子どもが自分で選ぶ、決める。 <p>子どもが経験を選択していく環境をどう構築していくかを他園の実践などを見学して、職員間で検討をしながら、東武練馬ルームとしての環境構成を試行錯誤していく。</p>

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の気持ちに寄り添った接遇
	実践予定内容	保護者の立場に立ち、気持ちに寄り添った接遇とは何かを考え、意見を出し合い、PDCAサイクル用いて実践していく。
2	計画・ねらい	保護者がいつ見ても気持ちの良い施設
	実践予定内容	掃除、片付け、整理整頓を基本に互いに声を掛け合い、いつ見ても気持ちの良い施設を作る。
3	計画・ねらい	年1回以上の保護者個人面談実施
	実践予定内容	保育園と保護者の円滑な連携、子どもの情報共有の場として個人面談を実施していく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた施設になる
	実践予定内容	地域の保護者の子育て支援の為、感染症に注意しながらちきんえっぐや青空保育等を行う。また、保育園を解放し、遊びの提供や子育て相談を行い、保育園が身近な存在となるように努める。
2	計画・ねらい	地域公開講座を実施
	実践予定内容	年1回以上の地域公開講座を実施する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人のにんげん力UP：学び続ける文化
	実践予定内容	全職員が年間目標設定を行い、目標を達成するための学びとアウトプットを行っていく。
2	計画・ねらい	保育所保育指針について理解を深めていく
	実践予定内容	保育の質を上げる会議参加者と連携し勉強会を進めていく。
3	計画・ねらい	マニュアルについて理解を深めていく
	実践予定内容	マニュアルの理解度の確認を毎月行い、再度マニュアルの理解を深めていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践予定内容	畑仕事（種まき、間引き、獲る）・命をいただく（捌く、解体する、焼く、食べる）・加工する
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルを実践
	実践予定内容	食材の廃棄を減らす。駅前園ならではの循環サイクルを考え実践する。
3	計画・ねらい	2022年度比70%に削減する
	実践予定内容	食材を余すことなく使い、2022年度比70%に削減を目指す。

〈6〉自らが活動・遊び・相手を選択する環境構成の継続

1	計画・ねらい	自らが活動・遊び・相手を選択する環境構成の継続
	実践予定内容	子どもの意思で散歩先を選択、園内を自由に行き来し、異年齢の様々な友達と関わり、したいことやしてほしいことを表現し、相手が何に困っているかを感じ、考え、自ら手を差し伸べられる子どもを育てる。

〈7〉期日とルールを守る組織となる

1	計画・ねらい	期日とルールを守る組織となる
	実践予定内容	なぜ期限やルールがあるのかを考え、一人ひとりが意識を高く持ち期限とルールを守る組織となる。期限があるものはスケジュール管理を組む。期限に遅れる場合は、なぜ遅れるのか、スケジュール管理に問題はなかったかを見直し、期限とルールを守る。
2	計画・ねらい	内部監査指摘事項を減らす
	実践予定内容	内部監査項目を全職員が理解する。 昨年度の指摘事項から重点的に担当を決め、担当を中心に全職員で改善を行っていく。

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	10人	12人	14人	14人	14人	70人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	3人
パート スタッフ	保育士	3人	事務	1人	嘱託医	2人

3. 運営方針

施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	コンピテンシー・各担当からの提案や報告・園内研修・研修報告
給食運営会議	月1回	食育計画進捗確認・献立内容の見直し・アレルギー対応の確認・離乳食の確認・提供方法の確認
事故防止委員会	月1回	園内外の事故記録簿考察・インシデント考察・ヒヤリハット考察・分析・検証
ケース会議	月1回	一人ひとりの子どもの発達の確認や引継ぎ・要支援児童の個別指導計画、経過確認・関係機関との連携
リーダー会議	月1回	園長・主任・各リーダーによる報告・連絡・検討
クラス会議	月1回	担任同士での報告・連絡・検討
昼礼	週2回	1週間の振り返りと次週に向けての共有、

〈4〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	コンピテンシー・各園の運営状況報告・各部署からの報告 ケース検討・マニュアルの見直し・運営状況の見直し
施設長勉強会	月1回	園運営に係る相互学習や検討・各種マニュアル等の改訂、 検討
食育会議	年4回	給食の見直し・食育マニュアルの見直し・各園の取り組み 共有
保健会議	年4回	保健マニュアルの見直し・ケース検討
主任会議	年4回	主任業務の向上に係る相互学習や検討を行った上での実践 的な業務改善アクションプラン作成とその実施
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の内容や質の向上に係る相互学習や検討を行った上での 実践的な業務改善アクションプラン作成とその実施

〈5〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生管理点検表を用いて、衛生的に園運営がされているか管理運営を行 う・清掃確認・染症発生時の対応
安全対策係	事故防止点検、設備点検を行うとともに日々点検・補修・修繕手配を行 い生活の安全を図る・事故記録簿、インシデント、ヒヤリハットの記入 確認と分析、事故防止への対策・ハザードマップ作成
防火管理者	災害に備え定期点検・避難訓練の実施・消防署への定期報告を行うまた 消防設備点検の実施
食品衛生責任者	衛生管理点検表・スタッフ細菌検査実施・食品衛生上の管理
畑係	農業計画作成・畑の管理・苗、植え、収穫の調整・畑の管理の調整
写真係	個人情報の確認・写真販売

〈6〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターとの連携を中心的に行う

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育者等に見守られながら、好きな遊びを楽しむ ● 子どものそれまでの経験や発達過程に留意し、子どもの気持ちを受容し、共感しながら継続的な信頼関係を築いていく ● スタッフ間の連携や嘱託医との連携を図る ● 栄養士・看護師は、その専門性を生かした対応を図る
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ● 土や水等に触れ、全身で感触を楽しみ、感性を育む ● 安心できる保育者等の関わりの中で人への基本的信頼関係を持ち、人間関係の基礎を培う ● 個々の発達の状況を捉え、生命の保持と情緒の安定を図り、生活リズムを作る ● スタッフ間の連携や嘱託医との連携を図る ● 栄養士・看護師は、その専門性を生かした対応を図る
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本的生活習慣を身に付け、喜びながら意欲的に生活する ● 友達との繋がりを広げ、集団で行動する事を楽しむ ● 異年齢で生活をする中で思いやりの心、協力し合う心を養うと共に達成感を知る
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ● 身近な環境や自然などに自ら関わり、様々な事物や事象と自分達との生活との関係に気付き、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる ● 小学校以降の生活や学習の基盤の育成に繋がることに留意し、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培う（幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を考慮する） ● 友達と歌を歌ったり合奏することで、ひとつの物を作り上げる楽しさを知るとともに、動きや言葉などで表現したり演じる楽しさを知る
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ● 随時、希望する保護者に対し実施 ● 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ● 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・ 2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

どろんこ会の3大食育方針（（1）調理員・保育士・施設長はこどもと一緒に食べる（2）噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する（3）子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる）を基本とする。

1	計画・ねらい	健康な心と体を育む
	実践予定内容	健康な心と体を育むために、体を使う遊びを十分に行い、お腹を空かせ意欲的に食べる
2	計画・ねらい	食に興味を持つ
	実践予定内容	畑で野菜を栽培することで、旬の素材に気づき、食に興味を持つ
3	計画・ねらい	人と食べる楽しさを感じる
	実践予定内容	好きな場所で好きな友達と食べ、人と食べる楽しさを感じる

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）0歳児のみ毎月実施
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗いの歌を一緒に歌いながら行うことで、手洗いに親しみを感じ正しい方法を伝えていく。また、バイキンスタンプや手洗いチェッカーを使って可視化することで、意識の向上を図る。
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 8月頃・・・手足口病、ヘルパンギーナ 1月頃・・・インフルエンザ・感染症胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在19名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	保護者に向け、感染症に関する予防対策についての案内を掲示 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検(定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検(簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 0歳児のみ年12回実施 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

保育所保育指針第2章保育の内容に記載されている「自分で考え、自分で行動する」「自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する」を基本とする。

1	計画・ねらい	子どもの成長にあった環境を設定する
	実践予定内容	子どもたちの発達、活動から月1回は保育環境の見直しを行い、担任を中心に子どもの成長、季節にあった環境を考え、見直しを行っていく。

2	計画・ねらい	見守る保育(子ども理解と適切な援助)
	実践予定内容	子どもの様子を注意深く観察し、子どもにあった適切な対応を常に考え、実践する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	LaQテーブル	4.5歳児保育室	使用時
2	カバン掛け	幼児棟、乳児棟各保育室	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	<p>防災</p> <p>危機管理マニュアルNo.3の災害対策(P.6～)に則り、消防計画・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得(継続)手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う。</p>
2	実践予定内容	<p>ケガ事故防止</p> <p>危機管理マニュアルNo.3のケガ事故防止策・安全点検と保全(P.8～)に則り、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施・上級救急救命資格取得(継続)手続き・安全教育・SIDS防止策・ケガ事故防止のための保育士行動指針を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。</p>
3	実践予定内容	<p>防犯</p> <p>危機管理マニュアルNo.3の不審者対策(P.14～)に則り、不審者侵入訓練の実施・笛の携帯・代理送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時には対応フローチャートに従う。</p>
4	実践予定内容	<p>光化学スモッグ</p> <p>危機管理マニュアルNo.3の光化学スモッグ対策(P.15～)に則り、光化学スモッグの知識を身に付け、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応及び行政連絡に従って対応する。</p>
5	実践予定内容	<p>防災</p> <p>危機管理マニュアルNo.3の災害対策(P.6～)に則り、消防計画・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得(継続)手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う。</p>

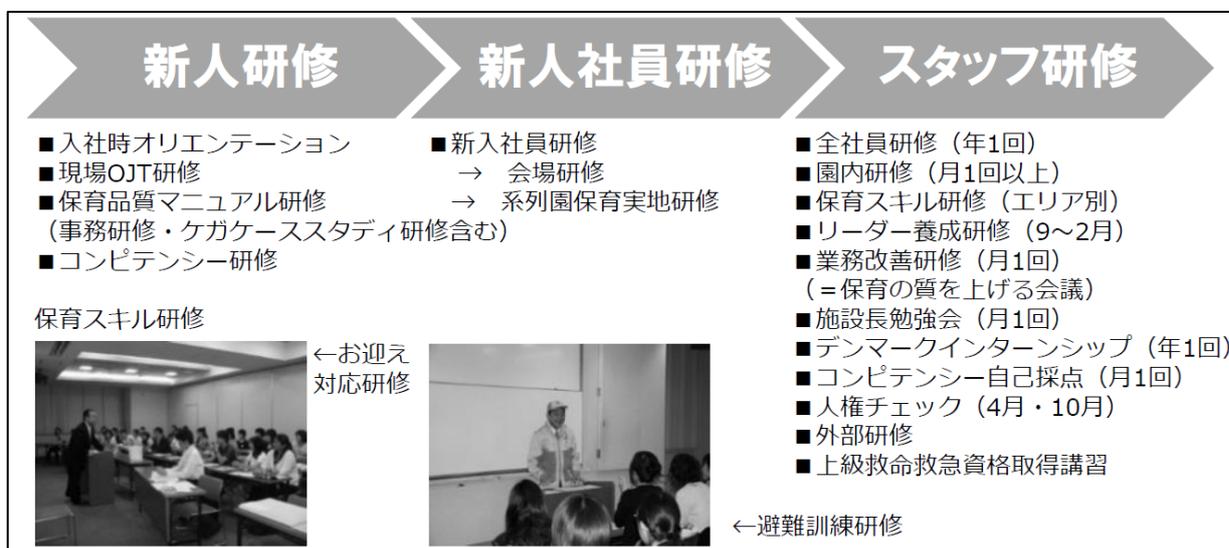
6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

- ・ 養成校、実習生の受け入れ
- ・ 小中高生の保育体験、ボランティアの受け入れ
- ・ 協働で進める保育実習
- ・ 受け入れられる実習生の不安な気持ちを受容して、応答的な関わりが出来るようにする
- ・ 実習体験からの学びを、学生と保育者と相互に対話を重ねて、確認する
- ・ 保育者は、実習指導を担うことでリーダーとしての力を身に付け、キャリアアップする
- ・ 実習指導での気づきが園全体の保育の質を上げる

1	実践予定内容	近隣の養成校と連携をとり、実習生の学びの充実を図ると共に保育業界の質を担保していく。
2	実践予定内容	実習指導者は学生の指導を通して、自身のリーダーとしてのアウトプットスキルやファシリテーションスキルを向上していく。

7. スタッフ育成と研修計画



〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 理念・方針・運営部ミッション ③ ケガ・ケーススタディ ④ 虐待防止研修 ⑤ 人権チェック	理念・方針・運営部ミッションを共有し、ディスカッションを通じて、本年度目指す保育について園スタッフの共通認識を図る。

		⑥ 質上げ会議の連動研修	
5月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育運営マニュアル ③ 生活力 ④ 質上げ会議の連動研修 ⑤ どろんこ祭り	子どもが生活力の体得をしていくために私たち大人がどう関わるのか、保育にどう取り入れていくのか、物的環境をどうしていくのかなど、職員間で考え、園スタッフの共通認識を図る。
6月28日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びの危険管理 ③ 内部監査 ④ 質上げ会議の連動研修 ⑤ 保育運営マニュアルチェック	水遊びの際の危険や注意事項、対応方法をロールプレイ使い確認し、園スタッフの共通認識を図る。
7月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② さくらさくらんぼリズム ③ 質上げ会議の連動研修 ④ 保育運営マニュアルチェック ⑤ 運動会	さくらさくらんぼリズムについて学び、実際の体の動きなどを確認しながら、子どもの体の発育との関わりについても理解する。
8月23日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 散歩、公園での危機管理 ③ 質上げ会議の連動研修 ④ 保育運営マニュアルチェック	散歩や公園での危険や注意事項、対応方法をロールプレイ使い確認し、園スタッフの共通認識を図る。
9月27日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 命と食育 ③ 質上げ会議の連動研修 ④ 保育運営マニュアルチェック	命と食育についてディスカッションをしながら職員間で考え、園スタッフの共通認識を図る。
10月25日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 虐待防止研修 ③ 人権チェック ④ 質上げ会議の連動研修 ⑤ 保育運営マニュアルチェック	子どもの人権研修を実施し、ディスカッションを通じて、子どもの人権の擁護について園スタッフの共通認識を図る。

		エック	
11月22日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 遊びと生活力 ③ 質上げ会議の連動研修 ④ 保育運営マニュアルチェック ⑤ 発表会	遊びと生活力についてディスカッションをしながら職員間で考え、園スタッフの共通認識を図る。
12月27日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 遊びと生活力 ③ 命と食育 ④ 質上げ会議の連動研修 ⑤ 保育運営マニュアルチェック	遊びと生活力、命と食育についてディスカッションをしながら職員間で考え、園スタッフの共通認識を図る。
1月31日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画振り返り ③ 質上げ会議の連動研修 ④ 保育運営マニュアルチェック	1年間の計画について振り返りを行い、次年度に活かしていく。
2月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	次年度園目標設定
3月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議 ③ キックオフ	<ul style="list-style-type: none"> ● 次年度の行事計画を作成 ● 登降園時の確認 ● ケガ発生時対応フローチャート ● 虐待対応マニュアルの確認 ● 見失いの定義を全職員で確認 ● 疾病発生時対応フローチャートの確認 ● 消毒の方法の確認 ● おむつ交換について確認 ● 嘔吐処理について確認 ● 与薬手順・ルールについて確認 ● アレルギー食について確認 ● エピペン注射ルールについて確認 ● ダイアアップについて確認

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

積極的に地域と関わっていくことを通して、園の存在を理解していただくと共に、地域で子どもたちの成長や安全を見守っていただけるようにしていく。

また、積極的に園開放することで、地域の子育て支援に貢献していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：電車の見える公園にて
商店街ツアー	週1回

世代間交流	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域との連携を積極的に行い、多様な年齢層との交流の中で人との繋がりを大切にしていく。「物おじせず、誰とでも目を見て話ができる子ども」を育む。 ● お年寄りを大切にする優しい心を育む。
異年齢交流	<ul style="list-style-type: none"> ● 養成校とスムーズかつ教育的な視点で実習期間を過ごせるよう連携していく。 ● 職場体験という貴重な学びの時間を充実させるため学校側と連携を取っていく。
地域拠点活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域のすべての子育て家庭を対象とし、毎月行う。 ● 小中高生の育児体験受け入れ
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

徳丸小学校、北野小学校を中心に交流を実施する。

小学校に対し卒園児の引き継ぎ、及び保育要録の作成、提出することで子どもの成長や発育を共有、また小学校と5歳児交流を積極的に行っていく。小学校教諭との情報交換の機会を作ることで、子どもの成長を連続的に見通し、保育と教育の垣根を無くして育ちにつなげることを目指す。また新たに小学校教諭・保育者・保護者の集う会を行い、それぞれの立場で子どもについて語り学び合う機会を設けていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を3月11日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
4月頃	徳丸小学校	職員2名予定	授業参観	職員間交流
5月頃	北野小学校	職員2名予定	授業参観	職員間交流
6月頃	徳丸小学校	14名予定	小学校に行ってみよう	小学校校庭・外観見学
7月頃	北野小学校	14名予定	小学校に行ってみよう	小学校校舎内見学
8月頃	徳丸小学校	14名予定	プールで遊ぼう	学校のプールを借りて遊ぶ
9月頃	徳丸小学校	14名予定	校庭で遊ぼう	子ども間交流

	1年1組			
10月頃	北野小学校 1年1組	14名予定	校庭で遊ぼう	子ども間交流
11月頃	徳丸小学校	14名予定	学校見学	学校見学
12月頃	北野小学校	14名予定	学校見学	宗小祭りに参加
1月頃	徳丸小学校 1年1組	14名予定	授業交流	子ども間交流
2月頃	北野小学校 1年1組	14名予定	授業交流	子ども間交流
	徳丸小学校	職員2名予定	情報交換	職員間交流
	北野小学校	職員2名予定	情報交換	職員間交流
3月頃	徳丸小学校 1年1組	14名予定	授業交流	子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

関係機関の機能を有効に生かし、子どもが健やかに成長すること、保護者が安心して子育てできることを目指す。毎月クラス会議とケース会議を行い、その都度どのように支援を行っていくかを話し合って進めていく。

〈2〉 毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：8名予定)

子どもの様子・対応についての検討・報告を行う。

必要に応じた対応と課題について検討していく。

全職員が家庭状況も踏まえ共通した対応を行っていく。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

進級引継ぎは、書面と引継ぎ会議で行う。

小学校への引継ぎは、児童指導要録、個別支援計画また各校の担当職員との面談によって行う。

1.1. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
自然食堂…親子ランチ交流	園行事予定表に沿って実施
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	園行事予定表に沿って実施
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行

1.2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

・2013年度、2014年度、2017年度、2020年度、2023年度実施済

〈2〉園による自己評価の実施

2025年1月31日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：19時00分

自己評価終了予定時刻：20時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任、各クラス代表者、調理代表者

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1.3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	子どもの「生きる力を育む」ために、日課・基本保育活動を実施する
	振り返り	1年間を通して、日課・基本活動の理解と実施について園内研修や保育の質を上げる会議を中心に取り組みを深めてきた。その為、職員の理解と取り組みが深まり、活動の実施が出来てきた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

24年度	目指す姿	子どもに必要な体験を職員同士で考え、安全を考慮しながら主体的に挑戦をしながら保育の質を上げていく。
	重点施策	生活力の体得や子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境を職員同士でディスカッションを行い、安全を考慮しながらも常に保育の質の向上を意識して取り組んでいく。
25年度	目指す姿	駅前型保育園としての保育園モデルとなる
	重点施策	保育の質の向上、駅前型保育園としての体験活動の充実、地域に選ばれる園、ブログ発信の充実化。
26年度	目指す姿	地域、保護者から愛され、地域に開かれた保育園になる
	重点施策	子育て支援や公開保育、実習生の受け入れを積極的に行い、地域、保護者から愛され、地域に開かれた保育園になる。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ 東武練馬ルーム 施設長 添島 崇夫

2024年度 鶴見どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針 ～子どもも大人も思いやりを大切に～

・相手の気持ちを想像する

相手の気持ちを想像することは、共感力の重要な要素。相手の表情や行動から気持ちを想像することで思いやりのある行動に繋がる。

・相手の気持ちは自分とは違う事を知る

相手と自分の境界が曖昧で相手の気持ちも自分と同じだと考えてしまいがちです。自分が悲しいから相手も悲しい、自分が嬉しいから相手もうれしいなど思うこともあります。しかし実際は同じ出来事が起こっても感じ方は人それぞれ異なります。共感力をもつためには、相手と自分を切り離し、相手の気持ちを考えてみるのが大切です。

・さまざまな気持ちを知る

人の感情には、喜びや悲しみ、怒りや不安だけでなく、さまざまなものがあります。子どもの感情の種類は年齢とともに増えていき、5歳ころには大人と同じ感情をもつようになります。自分の情緒が発達することで、相手の気持ちを想像する力も高まり共感力も高まっていくのです。

以上を基本として、子どもの姿を語り合う風土を生み出し、子どもがワクワクするだけでなく、保育者も保護者もワクワクする園を作る。

主体的で対話的な深い学びの基礎作り、小学校学習指導要領から保育所保育指針を踏まえた保育の実現とするため、2024年度どろんこ会運営本部missionと併せて、自ら考え表現していく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	主体的な保育
	実践予定内容	一人ひとりの生活を丁寧に保障していくために保育所保育指針を踏まえ、保育者、栄養士、施設長はそれぞれの専門的な知識と技術を高め、常に自己目標・グループ目標・組織目標に向かい学びを深めていく。
2	計画・ねらい	受容的・応答的な関わり
	実践予定内容	アタッチメントを大切に、安心できる環境作り、情緒的な絆を形成する。
3	計画・ねらい	振り返る
	実践予定内容	保育における「自己評価」「保護者アンケート」を使い、その都度課題となるものを解決できるように日々の振り返り、他クラスの状況把握を重ねていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の心の入り込んだ接遇
	実践予定内容	保護者の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を基本に気軽に保護者が相談できる機会を作る。保育参加への積極的な誘いを繰り返し行い、個々に合わせた支援が出来るような工夫をする。
2	計画・ねらい	保育者、保護者との連携
	実践予定内容	お迎え対応、保護者懇談会、個人面談、送迎対応、連絡帳アプリの活用な

		ど子どもの育ちを丁寧に共有する時間を積極的に提案していく。タイムラインの活用を引き続き行う。
3	計画・ねらい	どろんこサポーターとの関わり
	実践予定内容	どろんこサポーターと共に子どもが安全・安心して過ごせる環境作りを目指し、連携をとり、実現に向け進めていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	出張動物園
	実践予定内容	ヤギ・ニワトリの出張動物園（小学校や近隣保育園）を通して、自園の地域に限らず、広く地域との交流を図る。
2	計画・ねらい	食育を通じた地域交流
	実践予定内容	園内の畑でとれた野菜など焚火で焼いたり料理したりと地域の方も参加できるように呼び掛けていく。
3	計画・ねらい	地域に開かれた園
	実践予定内容	体験保育・出前保育・園開放・小中高生交流・世代交流・ボランティア受け入れ・勝手籠・子育てサロン、子育て相談を引き続き取り組み保育園の役割を果たす。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	考えるチーム
	実践予定内容	一人ひとりが目的を持ち、見通しをもった職員集団となるようにタスクマネジメントを行う。
2	計画・ねらい	リーダー層の育成
	実践予定内容	保育現場の中核「中堅保育者」がリーダーシップを発揮しチーム園運営を担っていけるような指導、環境を作る。
3	計画・ねらい	チーム力
	実践予定内容	みんなちがってみんないいを基本に職員が主体的に行動できるような環境作りを行う。日々の対話を大切に互いに愛を持って接し絆を深める。

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環サイクルの実行
	実践予定内容	野菜の芯などを廃棄せず、ヤギの餌に利用する。ヤギの糞で子ども達とたい肥を作り畑の土に再利用する。
2	計画・ねらい	給食残渣を減らし食べ物を大切に消費する
	実践予定内容	畑仕事を通して苦手な野菜を一人ひとりが克服し、給食残渣を減らす。生産者の気持ちを知り、食材を大切に扱う事を学ぶ機会を設ける。

〈6〉高め合う集団

1	計画・ねらい	リーダー会議
	実践予定内容	園の中心となるリーダーが集まって園内の課題だしや職員との関わりの共有をおこない、園が円滑に進めるように基盤をつくる。
2	計画・ねらい	語り合い
	実践予定内容	会議以外でもクラス以外の子どもの姿を捉え語り合うことを隙間時間ではなく、日常化する。語り合うだけでなく、ウェブやリフレクションなどを使って子ども探求していく。
3	計画・ねらい	気持ちに寄り添う
	実践予定内容	施設長・主任と定期的に面談を行う。個々の気持ちを聞く機会をつくり語り合っていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	16人	18人	20人	20人	20人	100人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	14人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	1人
	パート スタッフ	保育士	6人	調理	2人	事務	1人	
	用務	0人	嘱託医	2人				

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	研修計画に基づき園内研修など
給食運営会議	月1回	食育会議・アレルギー対応・衛生点検
事故防止委員会	月1回	事故記録簿・インシデント・ヒヤリハットを使い自己分析 園内環境・ハザードマップの見直し
ケース会議	月1回	特児に関する情報共有、指導方針の確認
リーダー会議	月1回	各リーダーの実践報告、課題だし
クラス会議	週1回	各クラスの保育の流れ、活動の共有

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各書類提出や運営についての確認事項
施設長勉強会	月1回	保育園の課題検討をしながらスキルアップ
食育会議	年4回	グループ全体で給食業務改善を目指し開催
保健会議	年4回	各園の状況からの意識統一、園児健康管理業務改善
主任会議	年6回	他園の主任と切磋琢磨しながら園運営やマネジメントを学ぶ
子育ての質を上げる会議	月1回	

〈3〉 各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内汚染区域の安全管理、備品などの管理
安全対策係	怪我防止・危機管理マニュアル参照
防火管理者	災害対策・避難訓練防災計画・自主点検
食品衛生責任者	食育会議の計画や実践、安全に対する管理
畑係	畑管理、畑計画に基づいた作業

生き物係	飼育全般に関する管理
------	------------

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	地域交流、支援に取り組む。どろんこ祭りのサポート

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 ・歩行の確立、言葉の獲得により盛んになる探索活動が十分できるようにし、友だちへの関わりの芽生えを促す。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な経験を通して、感情豊かにし、感じたことを少しずつ伝える場を大切にする。 ・生活や遊びの中で心身ともに伸びる場を保证する。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の中で友だちとの繋がりを深め楽しむ場をつくり、協調性や自主性を育む。 ・興味関心を持ったことに、主体的に関わり、発見を楽しんだり、考えたりと遊びに取り入れる
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の関わりの中で生活や遊びの達成感や充実感を味わえる経験を保证する。 ・自分で考え、工夫判断して、自ら行動できる。 ・情動的で様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培う。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	子どもの食欲と意欲を育てる
	実践予定内容	子どもが自分たちで盛り付け、配膳して食べる事を基本として、自分で食べる量を調節していく。十分な遊びから自然とお腹が空く子、意欲的に食べる子が増えるよう生活の中で保育者、栄養士と食事作りや準備に関わり、子どもの食への関心を広げる。
2	計画・ねらい	食品ロスを減らす
	実践予定内容	子どもも大人も食品ロスについて考える。対話を通して様々な経験を通じ「食」に関する知識とバランスの良い「食」を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践出来る力を育む。コンポスト作りに挑戦する。
3	計画・ねらい	クッキング・畑で作物作りを継続的に取り組む
	実践予定内容	自ら栽培したものを食することで、個に対しての愛着を持ち、自然の恵み・命の大切さに気付く。行事食、郷土食にも幅広く触れ合う。クッキングを行事にするのではなく、命を食す、命をいただく「いただきます」を子どもたちと活動を通して実感できるようにする。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導・手洗い、うがい指導
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 12～2月頃・・・インフルエンザ 11～3月頃・・・ウイルス性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・ 名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 エピペン・・・ 名より預かり済み／職員室にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在 名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員名については4月1日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在 名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員名については4月1日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検(簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	衛生管理のもと実行し日々の掃除、チェック
	実践予定内容	スタッフ全員が意識を変え、園内の清掃に取り組む。誰がいつ見ても気持ちの良い環境になるように考えて行動する。
2	計画・ねらい	みんなの大きな家をイメージし個々の居場所を確保する
	実践予定内容	園全体を使って遊びの保証をする。どこの部屋で遊んでも良い環境とな

		るようにスタッフ間のコミュニケーションや報連相を大事に連携と取っていく。
3	計画・ねらい	子どもも大人も主体的に活動できる環境
	実践予定内容	子どもの姿を捉えられるようにスタッフ間の対話を大事にしていく。子どもも大人も主体的で、遊び込める楽しい空間作りをする。何事もtrial & errorを基本に自ら挑戦する気持ちを大事にする。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	月1回の避難訓練実施と共に年2回に不審者侵入訓練実施（保護者にも共有する）。
2	実践予定内容	子どもの達の命を守るため、大惨事に備えて保護者との連絡が取れるようにアプリ利用の確認。
3	実践予定内容	安全マニュアルを2か月ごとに実施し、チェックリストと共に確認をし、保育者との周知に努めていく。
4	実践予定内容	事故防止自主点検を年4回実施。
5	実践予定内容	日々の保育中のヒアリ・ハットした内容用紙に報告し事故防止に努めていく。
6	実践予定内容	公園マップ（ハザードマップ）を作成しルート、危険場所、避難場所を職員同士でも確認し合う。
7	実践予定内容	光化学スモッグが発生しやすい気象条件、影響、情報、注意報を把握し、発令があった場合は内容に応じて張り紙、アプリを掲示し、室内で過ごすなど移動する。

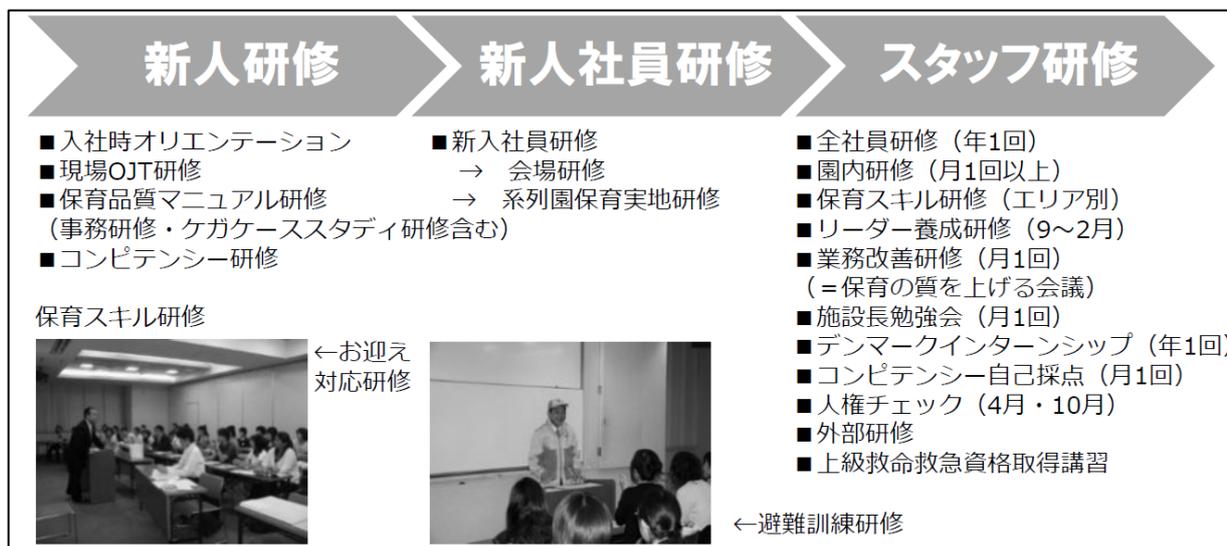
6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

1	実践予定内容	随時、積極的に受け入れる。実習生が不安にならないように温かく指導する。
2	実践予定内容	中高生の職場体験も積極的に受け入れ、子どもとの触れ合いから様々なことを感じてもらうようにする。先方教員と事前に確認し、安心して体験学習を行えるように配慮する。実習、職場体験も交流が継続して持てるようにしていく。
3	実践予定内容	実習生、一般および学生の各種ボランティア受け入れでは、随時いつでも受け入れる体制と雰囲気をつくる。

7. スタッフ育成と研修計画

同僚と話し合い、自らの保育を振り返りながら次の課題を見出すために、職場内での研修を行う」を第一に、毎日の連絡帳、保育日誌、週案月案の保育書類をエピソード記録、研修実践記録として高める。研修のための保育ではなく、日々の保育そのものが、学びの場として無理なく機能することで、保育記録の向上、充実を目指す。「主体的で対話的な深い学び」の実践として、保育者が自ら実践することで、子どもへ背中を見せるものとする。園内研修では、同僚と話し合い、自らの保育を振り返りながら次の課題を見出すために、職場内で「子ども探求」として研修を行う。施設長自身が中心となり、全スタッフと語り合い自園の保育を確実に良質にしてゆく場として園内研修を行う。



〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ケガ・ケーススタディ	過去のヒヤリハット・インシデント・事故記録簿を参考に危険箇所・危険予測の洗い出し、ハザードマップの見直し
5月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ディスカッション	散歩ロールプレイ 10の姿について
6月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ディスカッション	お迎え対応ロールプレイ 10の姿について
7月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ディスカッション	環境 10の姿について
8月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ディスカッション	プール事故防止ロールプレイ 10の姿について

9月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ディスカッション	生存確認ロールプレイ 10の姿について
10月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ディスカッション	ハザードマップ見直し 10の姿について
11月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ディスカッション	言葉 10の姿について
12月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ディスカッション	表現 10の姿について
1月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ディスカッション	健康 10の姿について
2月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ディスカッション	策定会議1日目
3月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ディスカッション	策定会議2日目

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日~30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デンマークインターンシップ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

保育園、地域が一丸となって、子育て支援をおこない、子どもの健やかな成長を保障できるよう取り組む。地域の方が自由に園を利用し気軽に相談できるような環境を作り子育ての仲間として地域交流をおこなう。

鶴見区子育て支援課と共に「子育て相談室」子育て支援事業を週1で定期実施を継続し、地域の中で大きな安心できる家となるようにする。

〈2〉具体的な地域交流計画

青空保育（保育園主催）	月1回	公園名：下末吉公園にて
商店街ツアー	週1回	
世代間交流		毎月来園する地域高齢者のみなさん（どろんこサークル）との昔遊びや手仕事交流。
異年齢交流		小学校訪問や中学生の職業体験の受け入れ、伝承行事の際に近隣中学校の生徒に來訪してもらい交流する（節分・すもう大会）
地域拠点活動		法人年間支援事業　ちきんえっぐ 福祉保健センターの子育て支援者事業の相談会場
銭湯でお風呂の日	月1回	〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

保育所保育指針における「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」①健康な心と体②自立心③協同性④道徳性・規範意識の芽生え⑤社会生活との関わり⑥思考力の芽生え⑦自然との関わり、生命尊重⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚⑨言葉による伝え合い⑩豊かな感性と表現以上の視点を具体的体験として、主体的で対話的な深い学びの基として、保育計画に取り入れていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を3月1日（水）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	末吉小学校	6名予定	末吉小学校	授業参観（職員）
9月頃	末吉小学校 下末吉小学校	各100名 予定	当園幼児保育室	子ども間交流
11月頃	旭小学校	20名予定	旭小学校	子ども間交流
2月頃	末吉小学校 上末吉小学校	20名予定	末吉小学校 上末吉小学校	子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

個別配慮の必要な児童は、個別支援計画を作成し、担当職員だけにとどまらず、園会議にて情報共有する。

〈2〉毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定 参加者：5名予定）

毎月の園会議に先立ち、関係機関とも連絡を取り合い担当職員を中心として施設長・主任・栄養士が参加する

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

進級時の引継ぎは、児童の個別記録を見ながら、現在の子どもの様子を共有する。小学校への引継ぎは、各進学予定小学校と連携を取り合い日程を決め、必要事項をまとめて直接面談して伝える。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（水）10:00～12:00
どろんこ芸術学校	毎週（木）10:00～12:00

どろんこ自然学校	
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:下末吉公園にて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

2019年に12月に横浜サステナビリティ研究センターにて受審

〈2〉園による自己評価の実施

2024年2月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 9時00分

自己評価終了予定時刻: 16時00分

自己評価実施予定者: 施設長、主任、事務、リーダー保育者1名

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日: 8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	(子ども) 見通しを持ち、他者のことも考えながら、自ら考えて行動する。 (保育者) 園内研修の充実を図り、リーダー層の育成をする。職員自身が主体的に「考える保育」に臨む。
	振り返り	・ 幼児クラスを中心に子ども会議の回数を増やした。子どもが主体で会議を行うことで自ら考えて行動できるようになってきた。会議では他者の意見も受け入れることが必要だが、はじめた当初は意見が言えない子、自分の気持ちが強い子など衝突があった。会を追うごとに職員ではなく子どもがリーダーとなり意見をまとめる姿がみえてきた。次年度も引き続き、子ども会議を通して相手を知り、主体的に行動できるようにする。 ・ 園内研修ではロールプレイを通してその時に必要な課題をおこなってきた。すべてにおいて自分事となるように考えて参加できた。今後も課題を見つけ園スタッフ全体で解決の糸口をみつけていく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	「多くの人が集まる保育園」
	重点施策	<p>(子ども) 地域、他園と幅広く交流する。</p> <p>(保育者) 子どもが安心して活動できるような安全面や衛生面に配慮する。地域の子育て事業、関連機関との連携及び共同を図る。</p> <p>地域の中で鶴見どろんこ保育園は「みんなの家」のように安心して育児相談や園活動に参加するなど気軽に足を運べるような関わりを築く。</p>
2025年度	目指す姿	「豊かでユニークな保育園」
	重点施策	<p>(子ども) 見立て遊びから始まり、言葉の面白さを知り、経験したことを言葉のやり取りで共有し合う。</p> <p>(保育者) 子どもの豊かな表現を面白がって受けとめ、大事にしていく。大人の発想も豊かになる。</p>
2026年度	目指す姿	「みんなちがってみんないい保育園」
	重点施策	<p>(子ども) たくさんの自然体験を通して個性を発揮し自分で考えて行動する。自分らしくありのままな姿で関われる関係を築く。</p> <p>(保育者) 子どもの姿をしっかりと捉え、一人ひとりの心情、行動を受け止め丁寧な関わりをおこなう。大人も認めあい、自己肯定感を高めあう。</p>

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：鶴見どろんこ保育園 施設長 井上 あゆな

2024年度 越谷どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

保育理念 「にんげん力。育てます。」

保育方針 「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

子ども一人ひとりを尊重し丁寧に関わる保育を実践していく。その中で養護と教育が一体化され『生きる力』の基礎を培う事を目標に保育を展開していく。「にんげん力」を身につけるために子どもの発達にあった必要な遊びや体験活動を提案し子ども大人も自分で考え行動できるように導く。基本保育活動の継続と丁寧な保育を実践していく。小学1年生を知り、就学までに育みたい10の姿を目指した保育を実践していく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	養護と教育が一体化された保育を展開する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針を読み解き、日課・基本保育活動を深める。 ・ 小学1年生の授業を見に行き、10の姿への理解を深め就学向けの保育を実践する。 ・ 保育士が背中を見せ一緒に行うことで子どもの知識を広げる。 ・ 丁寧に子どもと関わり安心できる環境づくりをする。
2	計画・ねらい	子どもたちが主体的になり、自ら選択し遊びこめるようにする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な物が整理整頓された環境で遊べる空間作りをする。 ・ やりたいことが存分に発揮できる環境を整え、保育者がそれを見守り支えていけるようにする。 ・ ゾーン保育の確立へ園全体で取り組む。
3	計画・ねらい	物的環境や人的環境を整え子どもが伸び伸びと遊べる環境を作る。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの遊びや様子を理解し、日々変化をしながら環境構成をする。 ・ 子どもたちと共感し寄り添い、その後の子どもの様子を見守りきる保育を実践する。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育園と保護者との密なコミュニケーションと連携をとる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイムラインでの投稿内容を充実させ、保育の様子を発信する。 ・ 子育て中の保護者の気持ちを理解し、コミュニケーションが図れるような研修を行い保護者に寄り添った連携が取れるようにする。

2	計画・ねらい	3分間対応の内容を充実し、スタッフ全員で子どもの様子を語れる集団にする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・伝達事項は的確に伝え、子どもの様子を表情豊かに伝えられるようにする。 ・待ち時間の充実を考え実施する。
3	計画・ねらい	積極的に挨拶を行い、気持ちの良い関係を築く。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちの良い挨拶で、朝・帰り共に保護者の方が安心してもらえるような雰囲気作りをする。 ・話しかけやすい、相談しやすい関係を作れるようなコミュニケーションをとる。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て内容の実現や美観を通し選ばれる施設を目指す。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSを通じて園の活動を発信することで保護者や地域に開かれた子育てを目指す。
2	計画・ねらい	地域の全ての子育て家庭の方のほっと一息つける場所を目指す。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の子育て世代だけでなく様々な地域の方に対して開かれた場所となり利用者同士が交流を図れるような仕組みを作る。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフ全体で学び合う意識を高め、園内研修を充実する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・『園長大学@・保育士大学』の動画を活用し研修を行う。 ・園内研修を充実させ、学び合える集団を作る。
2	計画・ねらい	一人ひとりの目標を設定し意識の向上をする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談を定期的に行い、目標に対しての進捗状況を確認する。 ・個人面談を通してスタッフの伸び悩みを聞き、解決の糸口を一緒に探し課題解決をする。
3	計画・ねらい	子育てのプロとしての意識の水準を向上する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシーの追求をし、行動を振り返ることで自身の特徴を分析し次に繋げる。 ・コンピテンシーを用いて良い所を伸ばし、課題を明確にし、次月に迎えられるような環境作りをする。

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環への意識を育む。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・食育にて食材の加工を体験できるようにする。 ・畑活動の充実。

2	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・給食残渣を減らす。 ・ヤギや鶏の糞を再利用する。

子どもを中心に考えられる保育（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	子どもに対して日々丁寧に関わる保育をする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの声に耳を傾けありのままの姿を共感できるようにする。 ・日々の関わりの中で子どもの人権の尊重や常に子どもにとってどうなのかを考えられるようにする。 ・笑顔が溢れ、応答的な関わりを持ちながら保育をする。
2	計画・ねらい	子どもと一緒に活動を楽しめる保育者集団にする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者もわくわくするような活動が出来るように心も身体も時間に余裕が持てるような環境作りをする。 ・子どもがどんなことに興味を持ち、夢中になって遊んでいるのかを保育者自身が発見・体験・共感できるようにする。 ・一緒に楽しめるような行事を考えPDCAサイクルをもとに保育に生かす。
3	計画・ねらい	スタッフ間で子どもの様子や保育について語り合う環境作りをする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しめた事や発見したことを語り合えるような時間と場づくりをする。 ・ポートフォリオやエピソード記録で子どもの様子を発表する機会を作る。 ・日々の保育についてPDCAサイクルできる時間を作る。

〈6〉気持ちの良い保育園作り（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	どんな人でも心地よく園を利用してもらえる環境作りをする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・美観を考え園内外の清掃が行き届き園を訪れる人が気持ちよく思えるようにする。 ・清掃分担や清掃時間の見直しをし、全員が清掃への意識を高く持つ。 ・整理整頓や次の人が気持ちよく使える環境作りをする。
2	計画・ねらい	園に関わる人が笑顔で、コミュニケーションの取りやすい雰囲気作りをする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内や近隣の方等と自然に挨拶の飛び交う関係作りをする。 ・会話やコミュニケーションを取れる時間を作る。 ・感謝の気持ちを忘れず、言葉として伝えられる関係作りをする。 ・良いことも改善することも相談し合える環境作りをする。
3	計画・ねらい	相手の気持ちや立場になって考えられる集団作りをする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなことも自分事として捉え考えられるようなコミュニケーションがとれるようにする。 ・園内研修で接遇研修を行い相手の立場に立つことを学ぶ。

	・電話、来客、保護者対応の確認。
--	------------------

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	9人	12人	21人	21人	21人	90人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	9人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	5人	補助	1人	調理	1人	事務	1人
	用務	1人	嘱託医	2人				

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	自己評価、コンピテンシー、統一事項確認、園内研修
給食運営会議	月1回	離乳食進行検討、食育活動の計画と振り返り、給食内容や残食の振り返り
事故防止委員会	月1回	情報共有、課題検討振り返り
ケース会議	月1回	支援計画の振り返り、計画見直し

共有会議	月2回	情報共有、連絡事項
------	-----	-----------

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	業務報告・伝達事項・情報共有
施設長勉強会	月1回	業務改善の研修・園運営についての協議と研修・各園の取り組みについてのディスカッション
食育会議	年4回	食育研修・マニュアル見直し・献立や調理方法の共有・各園の取り組みについてのディスカッション
保健会議	年4回	感染症対策・衛生管理・マニュアル見直し
主任会議	年12回	各園の課題改善・マネジメント研修・主任、ミドルリーダーとしての役割の理解
子育ての質を上げる会議	月1回	保育内容を深める、各園の活動内容のディスカッション

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防処置、保育所の衛生全般の管理
安全対策係	全スタッフの安全に対する意識の向上、施設における様々な安全点検と対策に取り組む
防火管理者	防火管理に関わる消防計画の作成、防火管理上必要な業務を計画的に行う、自主点検の確認
食品衛生責任者	食品取扱いに関する業務、施設の衛生管理や職員の衛生教育
畑係	畑の環境整備、植物の病気の予防、畑に必要な土や苗などの発注・管理
生き物係	飼育動物の健康管理、環境改善、餌の管理、卵の管理

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者と協同的に企画・準備・進行を行う。
運動会係	企画・準備・役割分担・進行を行う。

生活発表会	企画・準備・役割分担・進行を行う。
-------	-------------------

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人格形成の基礎となる重要な時期に、一人ひとりと密に信頼関係を築き、ゆとりのある保育を心かける。 ・ 一人ひとりの子どもの自主的な気持ちや意欲を尊重し、子どもの健やかな育ちを保障する。 ・ 保育者との信頼関係の中で安心して園生活を送る。保育者に見守られながら遊びを十分に楽しめる環境のもと人間関係を築き様々な経験を積む。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活に必要な言葉がわかり身の回りの事を自分でしようとする。 ・ 簡単な言葉で気持ちを表現し、友達や保育者と関わる。 ・ 色々な体験を通して、豊かな感性や創造性の芽生えを育てる。 ・ 様々な運動遊びを通して生活に必要な動きを身につける。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども本来の姿である遊びが十分に出来る環境の中で、一人ひとりが充実して遊び、仲間意識や集団活動の楽しさを感じる。 ・ 様々な体験や遊びの中で自分を発揮し、表現する意欲と協調性や社会性を育てる。 ・ 素話や紙芝居等の読み聞かせを通して、聞く力や想像力を伸ばす。 ・ 動植物の飼育栽培の体験を通じて自然物や小動物の命の大切さを養う。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちで考えた遊びを意欲的に取り組む。 ・ 子どもたちが主体的になり、目的を持ち継続性のある遊びを楽しむ。 ・ 自分のイメージした物を色々な方法で表現する。 ・ 自然界の中で発見や不思議さを体験し、豊かな感性を育てる。 ・ 異年齢での関わりの中で相手を受け入れる気持ちや思いやりの気持ちを育てていく。 ・ グループ活動から自信を持って自己表現をする。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	よく遊び、よく食べる子を育てる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・空腹感を感じて意欲的に食べる。 ・様々な食材に触れる中で自分が食べられる量を調節し、時間や場所を選択して食べる意欲を持つ。 ・スタッフ全員が子どもと一緒に食卓を囲み、美味しさを共感しながら食べる。
2	計画・ねらい	加工や命をいただく経験から食の循環を知る。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・魚を解体する様子を見て、命をいただく活動の実践をする。 ・食育活動の中で加工品作りの体験をする。
3	計画・ねらい	様々な食材に親しむことで食への興味を広げる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・畑で野菜を栽培し、収穫したものを味わう。 ・米研ぎ、野菜洗い等食事作りに積極的に関わる。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導・手洗い指導
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 7月頃・・・手足口病、プール熱、とびひ 12月頃・・・感染症胃腸炎、インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・2名より預かり済み／事務所鍵付き書庫内にて保管

エピペン使用できるスタッフ	本日現在20名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については6月末までに受講予定
その他保健に関する取組	年間保健計画作成 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検 (簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	安心して過ごせる環境作りをする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な物が整理整頓された空間作りをする。 ・保育室内・外の安全な環境整備のための工夫をする。 ・定期的な点検、整備、改善、衛生管理の徹底を継続的に行う。
2	計画・ねらい	伸び伸びと遊べる環境や、自ら考えて行動できる場所作りをする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・何に興味を持っているのか、何を必要としているのかをこどもの様子から読み取り、日々変化のある環境設定をする。 ・ゾーンの作り方の研修を行い、環境設定の方法を考える。 ・子どもが選択できる環境つくりを考える。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	駒台	3・4・5歳児保育室	毎日
2	ままごと冷蔵庫	1・2歳児保育室	毎日
3	肋木	0歳児保育室	毎日
4	のぼりロープ	縁側	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	防災…危機管理マニュアルNo.3の災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救命資格取得(継続)手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う。
2	実践予定内容	ケガ事故防止…危機管理マニュアルNo.3のケガ事故防止策・安全点検と保全(P.14～)に則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。事故記録簿、インシデント、ヒヤリハットに基づく事故検証の実施。(事故防止委員会)
3	実践予定内容	防犯…危機管理マニュアルNo.3の不審者対策(P.20～)に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う。
4	実践予定内容	光化学スモッグ…危機管理マニュアルNo.3の光化学スモッグ対策(P.21

		～)に則り、光化学スモッグの知識を身につけ注意法発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生に対応および行政連絡に従って対応する。
--	--	-----------------------------------------------------------------------

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の小中高生に職業体験や福祉体験が出来るようにする。実習生については沢山受け入れ現場で学べる充実感が味わえるようにする。また、保育の楽しさを現場のスタッフが伝え次世代育成の支援を行う。

1	実践予定内容	中高生の体験学習を受け入れる。
2	実践予定内容	関連学校と連携を取りながら、保育士・栄養士志望の実習生を積極的に受け入れる。
3	実践予定内容	ボランティア学生を受け入れる。

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修 (年1回) ■園内研修 (月1回以上) ■保育スキル研修 (エリア別) ■リーダー養成研修 (9～2月) ■業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会 (月1回) ■デンマークインターンシップ (年1回) ■コンピテンシー自己採点 (月1回) ■人権チェック (4月・10月) ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理について ③ 人権チェック	・ハザードマップ、ルートマップ等園外活動についての共有。 ・災害への対応と心構え。 ・ヒヤリハットの考え方。
5月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日課や基本保育活動を深める。	・保育所保育指針から日課や基本活動と繋がることを知る。 ・生活力の体得に向けて事例を挙げて学ぶ。
6月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 命について考える	・虐待定義について考える。 ・水遊びマニュアルの確認。
7月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保護者対応・接遇について	・園長大学®・保育士大学『保護者に感動していただける接遇とは？チームで身につける「おもてなし力」』視聴後ディスカッション。 ・保護者対応、電話・来客対応。
8月9日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿を深める。	・10の姿の体得に向けてグループ発表をし、内容を深める。
9月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 架け橋プログラムについて深める	・園長大学®・保育士大学の『スムーズな小学校進学は保育者次第！』の講座を元に架け橋プログラムを考える。
10月11日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 全体研修 ③ 人権チェック	・保育業界の動向を知る。 ・運営方針を知り、いま必要な事をディスカッションする。
11月8日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② SIDSについて考える	・園長大学®保育士大学『田上克男先生』の講義をもとにSIDSについて深め、視聴後ディスカッション。 ・生存確認の再確認。
12月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 感染症の理解を深める	・嘔吐処理手順を再確認し実践できるようにする。 ・感染症について知識を増やす。
1月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 物的環境を深める。	・物的環境の設定についての再確認。 ・非認知能力を深める。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デンマークインターンシップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

子どもたちが地域の方に見守られながら成長し、自然と挨拶が交わされ関わりが持てるような関係性を作る。また、様々な方との関わりから仕事や地域の活動等子どもたちが知るきっかけとする。地域に開かれた保育園となり、相談しやすく訪問しやすい園を目指して地域の方に愛される園運営を行う。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：平方公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	乳幼児の様子に合わせ、高齢者福祉施設や近隣住民、子育て支援センター来所、利用親子との交流を計画し、日常の保育活動の中で積極的に交流を行う。
異年齢交流	主に3～5歳児は日常的に異年齢保育を行い、生活の中で関わり合いが深められるように工夫する。 0～2歳児は子どもの様子に応じて異年齢で過ごせる機会を設け幼児や様々な人とのかかわりが充実するよう配慮する。小学校訪問、他園交流をする。
地域拠点活動	園児保護者の保育参加の随時受け入れ、保護者との協働によるどろんこ祭りの開催を行う。ちきんえっぐにて、園庭解放や給食体験など地域の方に利用して頂くイベントを実施する。また子育ての対応や子育てのサークルの支援を行う。
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣小学校との連携を行う。幼保小連絡協議会や学校訪問などを通し交流を深めていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	平方小学校 1年生	21名予定	運動会見学（平方小学校庭）	子ども間交流
10月頃	平方小学校 1年生	21名予定	学校見学（平方小学校庭）	子ども間交流
1月頃	平方小学校 1年生	21名予定	交流会（平方小教室）	子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

- ・関係機関と密に連携しながら作成し、子どもと保護者の支援を行う。
- ・ケース会議や子どもの様子より振り返りをしながら見直しをする。

〈2〉 毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：7名予定)

- ・担任からみた児童の様子や出来事、他職員から見た子どもの様子を話し合い多角面の見方で状況を把握する。
- ・目標を決め具体的な取り組みを個別の支援計画に記載する。
- ・検討した支援は速やかに実践し、変化が見られない場合は再検討を行う。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

- ・進学先の小学校、越谷市子育て支援センター、埼玉県越谷児童相談所、越谷市教育委員会に必要に応じて相談する。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：平方公園にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年7月31日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：10時00分

自己評価終了予定時刻：16時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任、保育士、園事務

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1.3.3 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	子どもを中心におき、保護者・地域・スタッフが手を取り合っていく姿を目指して保育所を運営することを1年間心掛け、行動実践する。
	振り返り	スタッフが子どもと関わる時間を1秒でも多く確保できるよう各業務の期日管理と事前準備の精度が高いものとなるようスタッフ間コミュニケーションを図り、可視化された情報を共有することに注力した。保護者とスタッフが直接対話できる機会を多く設け、保護者からの提案・助言より園運営に活かせることは積極的に取り入れた。地域交流をより活発にするため、近隣小学校や地域の方のもとへ足を運び、ご協力いただきたいことを誠心誠意伝え、地域に根ざした存在となるべく行動実践する土台作りがおこなえた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に園の取り組みを知ってもらい、子育て支援や近隣の方ともっと身近に関われる環境作りをする。 ・保育士自らが学ぶ意識を持ち、研修に積極的に参加し保育の質の向上に繋げる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に開かれた子育て内容による、子育て世代の育ちあえる場となる。子育て施設や近隣施設で学びを深めていけるよう環境を整える。 ・保育士のスキルアップへ繋げる。
2025年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・越谷市で選ばれた保育園になり、子育て支援として園を利用して下さる方を増やし、近隣の方から愛される園作りをする。 ・保育士が主体的になり学んできたことを現場に生かし保育の質の向上に繋げる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援を充実させ、園を様々な形で利用して下さる方が増えるようにする。

		<ul style="list-style-type: none">・保育士が研修で学んだ事を自園の研修に生かして共有出来るようにする。
2026年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none">・地域との関係が深まり、様々な角度から積極的に関わり地域一番園としての取り組みを積極的に発信していく。・保育について語り合い、保育士同士が刺激し合える関係が作られ、保育の質の向上に繋げる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none">・地域の活動に積極的に関わり、選ばれる園へと繋げていく。また、活動内容を発信し新しく利用する方も増やしていく。・保育についてディスカッションできる場を多く持ち保育を語り合う場をたくさん設けられるようにする。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：越谷どろんこ保育園 施設長 鈴木 聡子

2024年度 志木どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

・法人理念

「にげん力。育てます。」

・法人保育方針

「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

2024年度 施設運営方針

- ① 子どもが自分の足で人生を歩むために、自ら経験と失敗を体験できる環境で「豊かに生きる力」を育む
- ② 子どもも大人も相手の立場を思い、認め合い、協同性、社会性、道徳性、規範意識の体得を目指す。
- ③ 食材や食の循環、命を頂く活動の実践
- ④ 職員は「あなたはどうか」～大人も主体性～をキーワードとし、考え、学び、動く、自律した集団を目指す。

園目標

「互いに思い合い、分かり合い、認め合う、志木どろんこ保育園」

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもが自ら「豊かに生きる力」を育む
	実践予定内容	子どもが自ら経験の選択することができる発達に沿った保育活動と物的環境設定を行う。
2	計画・ねらい	協同性、社会性、道徳性、規範意識の体得
	実践予定内容	サークルを組み話し合いを日課とし、自分の思いを伝え相手の思いを知る機会を常態化する。 それぞれの力の体得をねらいとした保育計画を立てる。
3	計画・ねらい	食材や食の循環、鶏を絞めて食す、命を頂く。
	実践予定内容	食の循環で鶏を絞めて食すことを目標に保育年間目標を立て、段階を追って食の循環を体得出来るようにする。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	①思いやり②誠実さ③謙虚さ④感謝の気持ちをもってかかわる
	実践予定内容	日々の生活の中の関わりの中で、上記4点を常に意識して、接遇を行う。 また、どのような接遇が相手の立場を思っているか等振り返りを行い、より良い接遇を目指す。
2	計画・ねらい	保護者と共育て
	実践予定内容	・保育参加を積極的にアプローチし、子どもの姿を共有する機会を増やす。 また、参加時に園の運営方針をご理解頂く機会にもする。

		・保護者面談の実施（懇談会欠席家庭等）
3	計画・ねらい	子どもを真ん中に保護者と頼り頼られ合う関係の構築（どろんこサポーターズとの協同）
	実践予定内容	保護者参加行事やどろんこサポーターズとの協力の機会を増やし、保育園と保護者がチームとなれる機会を多く設ける。 家庭や個人が孤立することのないように、信頼関係の構築を体感してもらう。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の子育て世代にとって、開かれた園になる。
	実践予定内容	地域の保護者の子育て世代のため、ちきんえっぐ開催、青空保育（月1回）、園庭解放等を行い、子育て相談できる存在になる。
2	計画・ねらい	ちきんえっぐ、青空保育、園庭解放の利用者数を増やす。
	実践予定内容	地域の子育て世代のニーズを調べ、実態に合った計画、運営を行う。
3	計画・ねらい	地域公開講座の実施
	実践予定内容	年1回以上の地域公開講座を実施する。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	「自ら経験と失敗の体験を選択できる環境設定」を行える職員の育成
	実践予定内容	「豊に生きる力」を育むために、日々の保育計画を行う。 保育計画をPDCA化し、職員個々人が常にフィードバック、課題の抽出を行う
2	計画・ねらい	保育所保育指針の10の姿を体得する
	実践予定内容	特に協同性、社会性、道徳性、規範意識をロールプレイ等で学ぶ機会を設け、保育の中でどのように実践していくのかを細かく指導する。
3	計画・ねらい	常に学び、謙虚に誠実に、自己の成長を楽しむ
	実践予定内容	全職員が年間目標を設定し、目標達成の為の学びを常態とする。またその学びをアウトプットしていくことで、チーム力に強化につなげる。

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環、命を頂く
	実践予定内容	園庭裏側にある畑の整備を行い、畑仕事を日課とし食の循環を体得する。 食の循環を通して環境教育を行う。
2	計画・ねらい	園庭にクローバー緑地化
	実践予定内容	園庭に前年度2月頃より順次、クローバー、ダイカンドラの種まきを行う。 園庭の環境を緑地化し、土壌改善、安全で心地よい園庭作りを行う。
3	計画・ねらい	地域の自然への学びの深め
	実践予定内容	志木市宗岡の生態について、こどもが興味を持ち地域の生き物に興味を持つ。

--	--	--

〈6〉職員が学び、自己成長のできる環境の提供（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	職員それぞれの強みを生かしたチーム保育
	実践予定内容	それぞれの強みを見出し、学びを深め合うことで同僚性を強める。
2	計画・ねらい	園会議での自主研修の実施
	実践予定内容	年度当初の計画に捉われずに、その時の課題などをしっかりと見極めて自主研修を行う。
3	計画・ねらい	年間目標の振り返りとPDCA化
	実践予定内容	全職員が年間目標を設定し、主任、リーダーによるフィードバックと課題抽出を行いPDCA化し、常により良い保育へ繋げる。

〈7〉保護者との信頼関係の構築、サポーターズとの協同（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	保育参加の参加率30パーセントを目指す
	実践予定内容	保育参加を通して、日々の保育内容を体感して頂き、保育運営の理解を深める
2	計画・ねらい	保護者と協働での環境整備
	実践予定内容	園の環境を良くする取り組みを保護者と協同で行う。
3	計画・ねらい	保育活動の可視化
	実践予定内容	園の施設運営方針、保育内容を保護者にアプリ等を使って、常に開示する。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	12人	20人	20人	20人	90人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	10人	看護師	1人	栄養士	2人
	事務	1人	用務	2人		

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	コンピテンシー、園内研修計画内容
給食運営会議	月1回	食育計画 献立内容の見直し 喫食状況(残食の記録簿) 検食簿指摘事項の改善について 配膳方法 食育活動実施内容 給食提供マニュアルおよび運用ルールの作成の見直し
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策策定 全園事故防止委員会での内容共有
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り及び省察 要支援児個別計画の見直し
環境プロジェクト会議	月1回	子どもが自ら経験の選択をすることができる物的環境の考察と改良
保護者、地域支援プロジェクト会議	月1回	保護者、地域、どろんこサポーターズと頼りと頼られ合う関係の構築の為の活動

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	コンピテンシー、各園の運営状況報告、各部署からの報告、運営状況の見直し
施設長勉強会	月1回	園運営に係る相互学習や検討、各種マニュアル等の改定、検討
食育会議	年4回	給食の内容の見直し、食育マニュアルの見直し、各園の取り組みの共有

保健会議	年4回	保健マニュアルの見直し、ケース検討
主任会議	月1回	主任業務の向上に係る相互学習や検討を行った上での実践的な業務改善アクションプラン作成とその実施
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の内容や質の向上に係る相互学習や検討を行った上での実践的な業務改善アクションプラン作成とその実施

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
環境プロジェクト係	子どもが自ら経験の選択をすることができる物的環境の考察と改良
保護者、地域支援、どろんこサポーターズ係	保護者、地域、どろんこサポーターズと頼りと頼られ合う関係の構築の為の活動
防火管理者	災害全般の予防・対策の取り組み実践
食品衛生責任者	日々の食事や食育プロジェクトの企画と実践の中心
畑、生き物係	農業計画に沿った畑の維持管理と活動準備、および可視化

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
入園式、卒園式係	入園式、卒園式の準備
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズと連携をとり、保護者と協同して内容の企画、運営を行う。
運動会係	子どもの心身の発達を、運動を通して保護者と共有する。保育の継続性に重きを置き、日常の保育の延長にする。
生活発表会係	年間の園生活での育ちを全体的に保護者と共有するために、可視化及び実際に体験できるように企画する。

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に慣れ、生活のリズムを作る。 ・自我を発散できるように、安心できる人間関係を築く。 ・集団の中で自分の存在を知り、他者とつながっていく。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に自ら関わり、様々な体験を積み重ね、興味関心が広がる。 ・表現の基礎となる多様な実体験を通じて、感性が育つ。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢での大きな集団で過ごし、仲間との関わりでの自己を確立していく。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・選択や自己決定により、主体的に過ごすことができるようになっていく。 ・様々な自己表現を通して、集団を作っていくようになる。 ・仲間との協同を通して、自分の思いと仲間の思いを照らし合わせるようになる。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2025年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	健康な心と体を育む
	実践予定内容	健康な心と体を育むために、身体を使う遊びを十分に行いお腹を空かせ意欲的に食べる。
2	計画・ねらい	食育プロジェクト
	実践予定内容	子どもの現状を捉え、根拠を持ったアクションプランの作成し運営する。内容を保護者と共有する。
3	計画・ねらい	SDGSを視野に入れた食の循環の学びと実践。
	実践予定内容	「自分で」育てる、食べる、活用するなど循環にかかわる活動を行う。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い指導 ・歯磨き指導 ・ワクチン接種確認
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス、インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在18名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については3月21日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在18名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については3月21日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前

	検便・細菌検査	毎月1回/5日/全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月
	身長体重測定	毎月1回/20日
	児童健康診断	内科健診 年2回/6・10月 歯科健診 年1回/6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	環境改良プロジェクト
	実践予定内容	「子どもの発達にあった環境」「子どもが自ら経験の選択することができる発達に沿った物的環境の設定」を月ごとに見直し
2	計画・ねらい	子どもと共に作り上げる環境設定
	実践予定内容	子どもが話し合う機会を作り、自分たちの環境の充実についてレイアウトやルール制定などを共に考えて作り上げる。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	壁登り	ホール	使用前
2	配膳台	幼児室	毎日
3	棚	幼児室	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	年間計画に沿って、月1回の避難訓練（年2回の書き込み訓練）突発で起こる災害に対して想定した訓練にする。
2	実践予定内容	事故防止のチェックリストの活用
3	実践予定内容	設備点検チェックリストの活用

4	実践予定内容	毎月の法人事故防止委員会における、施設長間での事故防止の検討
5	実践予定内容	毎月の園内事故防止委員会における事故防止検討実践（数値データによる分析・図面による可視化を行う。）
6	実践予定内容	法人内事故記録簿の職員共有。
7	実践予定内容	ハザードマップ作成の見直し

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

保育園は、地域の社会資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生の受け入れに社会的責任があります。そのため、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、当グループでは実習生・研修生を積極的に受け入れます。

1	実習受け入れ	保育士・栄養士・調理師の実習受け入れを行い、実際の現場において行う業務や役割への理解を全面的にサポートする。
2	インターンシップ受け入れ	保育現場がどのような日々なのか丁寧に伝える。担当者は質問や疑問に細かに答えていく。
3	職業体験受け入れ	中高生の職業体験は、社会や職業を知る機会として受け入れしていく。

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修（年1回） ■ 園内研修（月1回以上） ■ 保育スキル研修（エリア別） ■ リーダー養成研修（9～2月） ■ 業務改善研修（月1回） (=保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会（月1回） ■ デンマークインターンシップ（年1回） ■ コンピテンシー自己採点（月1回） ■ 人権チェック（4月・10月） ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉2023年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの人権について (園内研修)	① 具体的アクションと振り返り ② セルフチェックの実施、子どもの権利条約
5月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点	① 具体的アクションと振り返り

		②さくらさくらんぼリズム (園内研修) ③行事について(園内研修)	②リズムの意義と共通認識の確認。 ③ねらいと内容の確認
6月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ②水遊び、水の安全(園内研修)	① 具体的アクションと振り返り ② 水遊びリスク管理
7月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ビジネスマナー・接遇 (園内研修)	① 具体的アクションと振り返り ② 昨年度の利用者アンケートから必要な「接遇」とは何か学ぶ。
8月16日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②1、2期振り返り(園内研修) ③チーム保育(園内研修)	① 具体的アクションと振り返り ② 振り返りと課題抽出 ③ チームで動くメリットの共有
9月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 運動会について ③ 小学校連携(園内研修)	① 具体的アクションと振り返り ② ねらいと内容の確認 ③ 小学校の実態理解と連携方法
10月18日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権研修(園内研修) ③ 保護者支援(園内研修)	①具体的アクションと振り返り ②人権チェック ③利用者アンケートから「支援」とは何かを学ぶ
11月15日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 非認知能力について (園内研修)	① 具体的アクションと振り返り ② 保育所保育指針より10の姿について学ぶ
12月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 行事について(園内研修) ③ 3期振り返り(園内研修)	①具体的アクションと振り返り ②ねらいと内容の確認 ③振り返りと課題抽出
1月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ②ケース会議	①具体的アクションと振り返り ③ インクルーシブ保育の再確認
2月16日	18:00~20:00	策定会議①	事業計画の振り返り、次年度の計画について
3月2日	9:00~18:00	策定会議②	次年度の行事、活動計画の制定について

エリア研修（朝霞、志木地区合同開催）

1 テーマ：『エリアで学び合う世代別職員研修』

内容：年代別、分野別に分かれて集まり、共通の課題解決や学びを通じて地域全体の保育の質の向上と地域コミュニティの活性化を目指す。

世代別、分野別の意見交換や研修を通じて、より実践に即した保育の力を身に着ける。

他園の職員と相互に学び合う中で、自園の課題を見つけ解決に向かう力を身に着ける。

日程：月に1度、計8回予定

2 テーマ：「エリア学ぶさくらさくらんぼリズムの共通理解」

内容:講義と実技研修。体を動かしながら共通理解を深めより質の高いさくらさくらんぼリズムを身に付ける。その後、各園に下ろし、職員に伝えて行く。

講師:古川みどりさん

日程:4月～6月で2回開催

時間:18:30～20:00

3 テーマ：「エリアで学び合う命を頂くとはい」

内容：講義と実技研修。鶏をさばくことで食の循環を知る。また命を頂くことを座学、実際にさばいてみることで体感し理解を深め合う。その後各園に学びを持ち帰り、子どもや保護者と共に捌いて経験の場を提供する。

日程：5月 時間：未定

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デンマークインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育

成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

積極的に地域と関わっていくことを通して、園の存在を理解していただくと共に、地域で子どもたちの成長や安全を見守っていただけるようにしていく。

また、積極的に園開放することで、地域の子育てに貢献していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：すみれ児童公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人福祉施設訪問 交流会、園行事招待
異年齢交流	小中高学生の職場体験受け入れ
地域拠点活動	どろんこ祭り、子育てちきんえっぐ
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

宗岡小学校、宗岡第三小学校を中心に、以下計画を進めていく。

保育・授業見学による、保育士と小学校教諭の相互の学びの機会を作る。

5歳児の保育要録の提出に加え、成長を共有する機会を持つことで、保育園と小学校の連携し、アプローチカリキュラム作成につなげる。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を2月7日（水）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
4月頃	宗岡第三小学校	職員2名	授業参観（宗岡第三小学校）	職員間交流
11月頃	宗岡第三小学校	20名予定	授業見学（宗岡第三小学校）	子ども間交流

2月頃	宗岡第三小学校	職員2名	情報交換	職員間交流
-----	---------	------	------	-------

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

- 個別支援計画を毎月作成し、必要に応じて見直しを行う。
- 全職員が周知し、子どもの成長発達を同じ視点で対応していく。

〈2〉 毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：6名予定)

- 毎月の会議で子どもの様子・対応についての検討・報告を行う。
- 必要に応じた対応と課題について検討していく、職員全員が家庭状況も踏まえ、共通した対応を行っていく。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

- 進級引継は書面と引き継ぎ会議で行う。
- 小学校への引継ぎは、児童指導要録、また各校の担当職員との面談によって行う。

11. 子育て支援事業

園に來訪した親子に都度署名をもらい、月間延來場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(木) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：すみれ児童公園にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2025年2月までに「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：19時30分

自己評価終了予定時刻：20時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任、各リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1.3.3 3カ年計画の具体化

昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	安全安心に預けられる保育園。美観に重きを置き保育において必要、不必要を精査。また、園を利用するすべての人にとって心地よく感じられる環境づくりに努め、清掃の徹底、園の内外に緑化に力を入れてすぞす。
	振り返り	美観においては、園長、主任から意識改革を行い、過去に頼らず心地よい美観を目指すため、清掃を中心に日常的な美観を目指した。 また、子どもが遊びこめる保育環境づくりにも力をいれ、変化を観察しより良い環境へとスピード感をもって取り組む事ができた。 しかし、スピード感をもって行っているため動きが落ち着かず、共有ミスや丁寧さにかけていたため、次年度への課題とする。

〈4〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	保護者、地域と子どもの共育をを考え、頼り頼られ合う関係の構築
	重点施策	・ 保育所保育指針10の姿に基づき、目指している保育内容の可視化に努める。保護者、地域と協同性を深め、大人がこどものモデルとなる。 ・ 保育参加の呼びかけを積極的に行い、どろんこサポーターズの活性化を図り、協同の機会の拡大。
2025年度	目指す姿	・ 保護者、地域と協同性を持ち、相手に立場を思い、愛され、開かれた保育園となる。
	重点施策	・ 保護者、地域との相互理解の関係性を保ち、協同の機会の企画から運営を継続的にこなす。
2026年度	目指す姿	保護者、地域に愛され、頼り頼られる関係の中でそれぞれの立場を思い合う。地域のこども達が「豊かに生きる力」を体得できる場所とする。
	重点施策	地域に愛されるために、園外への発信の強化を行う。地域団体との結びつきを広げると同時に強め、相互の信頼関係の発展を目指す。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：志木どろんこ保育園 施設長 柳澤麻衣子

2024年度 板橋仲町どろんこ保育園 事業計画書

Ⅰ.基本方針

- ・社会福祉法人どろんこ会の理念「にんげん力。育てます。」
 - ・子育て目標「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」
 - ・「わたしたちが育てる6つの力」
 - ① けがをしない強い体を育てる
 - ② 自分でできることを自分でする
 - ③ 全ての関わりから判断、行動を身につける
 - ④ 活動を選択し、自分で考え行動する
 - ⑤ 生死を知る・食の循環を知る
 - ⑥ 感じたこと・考えたことを表現する
- を基本として実施していく。

【目標】

園自治に向けて自園の強みや特性を生かした保育を続けていく。そのため、2024年度運営本部ミッションでもある①生活力の体得②10の姿の体得③子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定④鶏を絞めて食す 命をいただく活動の実践 に特に力を入れていく。

〈Ⅰ〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	ケガをしない強い体を育てる
	実践予定内容	裸足保育・草履保育、座禅、雑巾がけ、さくらさくらんぼリズム、長距離散歩
2	計画・ねらい	自分でできることを自分でする
	実践予定内容	畑仕事、縁側給食、自分たちで食事の盛付け
3	計画・ねらい	全ての人との関わりから判断・行動を身につける
	実践予定内容	異年齢保育、インクルーシブ生活、銭湯でお風呂の日、商店街ツアー、青空保育
4	計画・ねらい	活動を選択し、自分で考えて行動する
	実践予定内容	火と関わる、水と関わる、土と関わる、焚き火保育
5	計画・ねらい	生死を知る
	実践予定内容	ヤギ・鶏・生き物の世話、生死教育、食材と食の循環を知る、性教育
6	計画・ねらい	感じたこと・考えたことを表現する
	実践予定内容	言葉で表現する、描く・つくる、就学前教育（読み書き計算・体操・音楽）

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の子育てに対する様々な悩みや疑問などに寄り添い、どう解決していくかの方法を導き出せるようにサポートをし、喜びや充実感が得られるように支援をしていく中で、成長した姿を一緒に喜び合う
	実践予定内容	日々のお迎え対応や連絡帳でのやり取り、保護者懇談会、個人面談月間、保育体験
2	計画・ねらい	保護者がいつ見ても気持ちが良いと思える施設にする
	実践予定内容	整理整頓、チェックリストを用いた清掃、利用者や訪問者の視点に立っての省察・仕組み作り

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て支援行事について積極的な宣伝を行い、保育園が身近な子育て支援の場としての位置づけになるようにする
	実践予定内容	園の開放及び親子でクッキングを楽しむ自然食堂、親子で製作などを楽しむ自然学校、子育てに関して学ぶ寺親屋、保育園との子ども達と交流をする青空保育
2	計画・ねらい	板橋仲町どろんこ保育園の保育内容を紹介すると共に、子育ての見通しが持てるように支援を行う
	実践予定内容	保育体験、出産を迎える親の体験学習
3	計画・ねらい	地域の人や生き物（ヤギやニワトリ）との触れ合いを通して、自然との関わりや地域とのつながりを持つ
	実践予定内容	ヤギやニワトリ等の生き物の世話、商店街ツアー、他園交流

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園目標に沿った個人の目標設定を行い、目標達成の過程を一緒に考えて進めていく（生活力、10の姿の体得）
	実践予定内容	目標管理シートによる個人目標設定、定期的な話し合いや個人面談、定期的な施設長や主任の保育同行
2	計画・ねらい	リーダーを中心に年間を通したコンピテンシー計画を立て、保育を深めていく
	実践予定内容	毎月全体会議や昼礼でコンピテンシーに沿った課題に取り組む
3	計画・ねらい	次世代を担う職員育成に向けて、職務分野別の仕事を各自に割り振って実施する
	実践予定内容	各職務分野（施設長、主任、リーダー等）の仕事の権限委譲

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	地域に愛されているヤギをもっと身近に感じてもらえるように餌をあげやすくする
	実践予定内容	ヤギ小屋修繕
2	計画・ねらい	子どもたちが遊び込める環境構成を環境係と一緒に整えていく（子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定）
	実践予定内容	玩具一覧作成、必要な玩具の買い足し・作成等

〈6〉鶏を絞めて食す（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	鶏を絞めて食す意味を考える
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・鶏がなぜいるのかを子どもたちと考える時間を作る。 ・鶏を知る時間を作る。 ・普段から食している中で子どもたちが感じていることを聞く。

〈7〉生活力の体得、10の姿の体得（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	「生活力」とは何かを考え、体得できるように導く
	実践予定内容	園会議で「生活力」についての勉強会
2	計画・ねらい	「10の姿」について園会議の際に話す時間を作って、日々の保育を振り返る
	実践予定内容	園会議で「10の姿」についての勉強会

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
9人	10人	12人	13人	13人	13人	70人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	13人	看護師	1人	栄養士	4人	事務等	1人
パート スタッフ	保育士	2人	補助	1人	調理	0人	事務等	0人

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	事例検討会、園内研修、ケース会議
給食運営会議	月1回	年間食育計画に基づいた給食と食育運営に関する会議
事故防止委員会	月1回	事件事例検討会、ヒヤリハット・インシデントについて周知する中でどうすれば防げるのかの視点や意識の共有、各種訓練検討会
ケース会議	随時	気になる園児の共有、支援検討
昼礼会議	随時	子どもの姿についてのエピソード共有、活動報告、保育計画の確認、伝達、事務連絡等
クラス会議	随時	クラス運営に関することの共有

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人全体の保育運営に関すること
施設長勉強会	月1回	園運営・保育運営に関すること
食育会議	年4回	食育に関すること
保健会議	年4回	保健衛生全般に関すること
主任会議	年4回	園運営・保育運営に関すること
子育ての質を上げる会議	月1回	グループ毎による各園の保育活動の取り組み発表、評価、振り返り

〈3〉 各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	施設衛生管理、衛生自主点検の実施、感染症予防対策
安全対策係	怪我防止、危険箇所把握、安全点検
防火管理者	災害対策、避難訓練防災計画作成と実施、自主点検実施
食品衛生責任者	衛生点検実施、食品の衛生品質管理
畑係	畑の年間農業計画推進把握、畑の管理全般、食育計画
生き物係	生き物の飼育に関する管理
環境整備係	子どもの姿に合わせた環境整備 丈夫な体作りの環境整備
地域交流係	商店街ツアー・青空保育計画、地域交流計画と実施、 地域行事参加の対応

〈4〉 行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画、実施
運動会係	運動会の計画、実施
生活発表会係	生活発表会の計画、

4. 保育方針

〈1〉 基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者は一人ひとりの要求を優しく受け止め、愛情豊かに受容的応答的に関わることにより、信頼関係を築いていく ・ 保育者と一緒に友達と関わって、心地よい生活を送れるようにする ・ 健康状態や家庭環境に配慮しながら、一人ひとりが快適に生活できるようにする
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 散歩や戸外遊び、全身運動を十分取り入れ、身体能力の向上に努める ・ 自分のことを自分で行おうとする意欲を引き出し、自分でできた喜

		びを味わえるように援助する ・挑戦が次の意欲に向かうように自分でしたいという気持ちを大切に し、難しいときには手を差し伸べながらやる気を引き出し、満足感を 味わえるようにする
幼児保育	上半期 3～5歳児	・保育者との信頼関係のもと、自分の思いを十分に表現できるように する ・生活リズム、発達過程、保育時間等に応じて活動内容の調和を図り ながら、適切な食事や休息が取れるようにする。 ・保育者との信頼関係を基盤に、一人ひとりの子どもが主体的に活動 できるようにする
	下半期 2～5歳児	・個々の子どもの置かれている状況や発達状況などを的確に把握し、 子どもの欲求が適切に満たされるようにする ・自発性、探索意欲などを高めるとともに、自分への自信が持てるよう に成長過程を温かく見守り、適切に働きかける ・周囲から大切な個人として受け入れられ、主体的に育ち、自分 を肯定する気持ちが育まれていくようにする
保育参加	4～3月	・希望する保護者が参加／保育参加アンケートにご記入いただく
保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望へ の対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご 意見ご提案シート」を活用

〈2〉 年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	日々の食事が子どもたちの食べる意欲（食育）につながることを意識した 関わりを行う
	実践予定内容	調理者と保育者の連携を密にし、食事提供する時間、基本的な食事量を把握し、子ども自ら盛り付け、配膳ができるように見守り必要に応じて援助をする
2	計画・ねらい	子どもたちが食事の時間を日々楽しみにするような食事を提供する
	実践予定内容	季節の旬な食材、新鮮な食材を使用して噛む力を育て、素材本来の味を感じられる状態で提供する。また、おいしく食べられる状態と温度で提供できるように配慮する。
3	計画・ねらい	畑で収穫した作物を使ってクッキングをし、新鮮な素材の香りや味を味わ

		い、食の意欲に繋げる
	実践予定内容	畑活動、毎月の食育活動

〈4〉 保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月） 0歳児クラスは毎月
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導、うがい手洗い指導、その他健康に関する指導
流行が予測される感染症	通年…新型コロナウイルス、インフルエンザ 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 7月頃…手足口病、ヘルパンギーナ 12月頃…感染症胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップは現在1名預かり（38度で使用）
エピペン使用できるスタッフ	本日現在23名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については3月21日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在23名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については3月21日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・11月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日

衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・10月 0歳児のみ年12回実施 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉 環境整備

1	計画・ねらい	子どもたちが気持ち良く生活できるような環境にする
	実践予定内容	全職員が担当する室内整備を心がけ、玩具の清潔、水周り、棚の上の整理整頓、ガラス窓などを常に清掃し、綺麗な状態を保つ。
2	計画・ねらい	子どもたちの興味関心に合わせた環境を構成する
	実践予定内容	探究心や観察力が芽生える遊び、数量や図形、標識や文字に親しむ体験が積める環境を、環境係が中心となって全職員で考えて進めていく。

〈7〉 手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	名札立て	玄関	毎日
2	靴箱	1階縁側	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	危機管理マニュアルを基本とし、あらゆる事故を想定し事前の予防対策に配慮し、常日頃より予測を怠らずに保育にあたり、怪我や事故防止に努める。
2	実践予定内容	ヒヤリハット、インシデントを記入することを習慣化し、週会議において情報共有することで大きな怪我を未然に防いでいく。事故防止委員会において重要な視点の共有、自園・他園の事故記録簿の事故の検証を行い、怪我の防止につなげる。
3	実践予定内容	事故が起きたことを想定し、緊急時フローチャートの共有と年2回事故を想定しての訓練を実施する。
4	実践予定内容	毎月1回防災避難訓練を実施し、訓練後の省察、改善（記録に残す）を繰り返しおこない、緊急時にも慌てずに速やかな対応と行動をすべての職員がどの時間帯でも行えるようにする。
5	実践予定内容	保育中は施錠の徹底をする。年2回の不審者侵入訓練を行い、子どもの安全を守ることを最優先に、速やかな対応がとれるよう警察署とも連携して指導を受け、非常時に備える。
6	実践予定内容	室内ハザードマップ、戸外ハザードマップ、公園内ハザードマップを職員が見える場所へ設置し、年4回見直しを行う。また危険箇所が増えた場合には、速やかにハザードマップ上に記載して、全職員に周知する。
7	実践予定内容	光化学スモッグ発生時期には、区役所などの情報機関が発信する情報のこまめなチェックをおこない、光化学スモッグ発生時には子ども、保育者は屋外での活動を控え、速やかに屋内に入る。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

「目指せ！未来の保育士！！」

一人でも未来の保育士を育成できるように、「保育」の仕事のやりがいや楽しさに触れる体験を行う。

1	実践予定内容	人事採用部と連携を取り、保育、社会福祉系大学、養成校等からの実習を積極的に受け入れ、丁寧に指導を行う。また実習生、ボランティアの指導を通して職員自身の保育を見直す機会にしていく。
2	実践予定内容	夏休み期間に卒園児（小学1年生～3年生）におたよりを送って、保育体験を募集する。

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (= 保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日	18:00~20:00	① 倫理綱領 ② メラビアンの方則	① 保育士等に求められる子ども観やそれを踏まえた保育の基本姿勢及び専門職としての使命と役割を考える ② コミュニケーション技法について学ぶ
5月24日	18:00~20:00	① 6つの力「自分でできることを自分でする」 ② ミラーリング	① 「私たちが育てる6つの力」について深堀する ② コミュニケーション技法について学ぶ
6月28日	18:00~20:00	① 6つの力「自分でできることを自分でする」 ② ペーシング	① 5月に学んだ「私たちが育てる6つの力」について実践してみてもの省察をして、アクションにつなげる。 ② コミュニケーション技法について学ぶ
7月26日	18:00~20:00	① 6つの力「生死を知る」 ② オープンクエスチョン・クローズドクエスチョン	① 「私たちが育てる6つの力」について深堀する ② コミュニケーション技法について学ぶ
8月23日	18:00~20:00	① 6つの力「生死を知る」	① 7月に学んだ「私たちが育てる6

		② バックトラッキング	つの力」について実践してみ ての省察をして、アクションにつ なげる。 ② コミュニケーション技法につ いて学ぶ
9月27日	18:00~20:00	① 6つの力「感じたこと・考 えたことを表現す る」 ② Iメッセージ・YOUメッ セージ	① 「私たちが育てる6つの力」につ いて深堀する ② コミュニケーション技法につ いて学ぶ
10月25日	18:00~20:00	① 6つの力「感じたこと・考 えたことを表現する」 ② 傾聴	① 9月に学んだ「私たちが育てる6 つの力」について実践してみ ての省察をして、アクションにつ なげる。 ② コミュニケーション技法につ いて学ぶ
11月22日	18:00~20:00	① 6つの力「全ての人との 関わりから判断・行動を 身につける」 ② パラダイムシフト	① 「私たちが育てる6つの力」につ いて深堀する ② コミュニケーション技法につ いて学ぶ
12月27日	18:00~20:00	① 6つの力「「全ての人と の関わりから判断・行動 を身につける」 ② ペップトーク①	① 11月に学んだ「私たちが育てる6 つの力」について実践してみ ての省察をして、アクションにつ なげる。 ② コミュニケーション技法につ いて学ぶ
1月24日	18:00~20:00	① 「6つの力」振り返り ② ペップトーク②	① 今年度「私たちが育てる6つの 力」について深堀してきた中 での省察をして、来年度のアク ションにつなげる。 ② コミュニケーション技法につ いて学ぶ
2月14日	18:00~20:00	次年度に向けて	次年度に向けて職員意識の統一 次年度の全体的計画と年間指導計 画の作成
3月2日	9:00~18:00	次年度に向けて	年間行事の決定 農業計画

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

「地域から愛される保育園」

開園12年目。仲町地域の保育園と連携して仲町地域の子どもたちに根差した保育園になっていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：三葉児童遊園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域との交流（自治会、老人会、こども会、商店会）を感染症状況

	に応じて実施する
異年齢交流	小・中・高校生などの職場体験の受け入れや実習生の受け入れも積極的に行う（感染症状況に応じて）
異文化交流	「多言語・多文化」に触れる体験を行う（感染症状況に応じて）
地域拠点活動	近隣の認可保育園と連携し、地域との密接な交流をする（ヤギとの交流や体験活動等を介して）
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉（但し悪天候、猛暑日、極寒期は除く）

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

「地域小学校との円滑な連携が図れる関係作り」

小学校への円滑な接続を図るために「保育園長・幼稚園長・地区小学校校長連絡会（板橋地区）」へ参加し、情報交換や連携が取れる関係作りをする。また、学校行事や公開授業にも感染症状況に応じて参加する。

「小学校1年生を見て知り、逆算した保育を遂行する」

近隣小学校へこちらから連絡をとって板橋区の小学校では現在どのような教育が行われているのかを見て知った上で、保育園ではどのようなアプローチカリキュラムが必要かを考えて実践していく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月21日（月）より開始する。

日程	学校名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	板橋第6小学校	15名予定	校内見学	授業参観
6月頃	弥生小学校	15名予定	校内見学	授業参観
11月頃	板橋第6小学校	15名予定	校内見学	授業参観
12月頃	弥生小学校	15名予定	校内見学	授業参観
2月頃	板橋第6小学校	15名予定	校内見学	授業参観
3月頃	弥生小学校	15名予定	校内見学	授業参観

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

要支援児と他の子どもたちとの育ち合いも視点に入れる。保育園でどのような支援が必要か職員同士で考え、丁寧に関わることで社会において安心して生活し、その子の個性を磨くことのできる支援をしていく。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：5名予定)

職員全員が同じ目線で子どもを保育することができるよう、昼礼時にケース会議を盛り込み、園全体で子どもに必要な援助を考える。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

小学校へは保育所児童保育要録の送付とともに、引継ぎが必要な事項に関しては直接引継ぎの時間を設けていただき、子どもたちがスムーズに小学校生活を送れるように連携を図る。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：三葉児童遊園にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年6月28日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：8時30分

自己評価終了予定時刻：17時30分

自己評価実施予定者：施設長、主任、乳児リーダー、異年齢リーダー、調理代表

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1.3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	地域で選ばれる保育園として保育という仕事に誇りと責任を持った職員集団になる
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者としての専門性を高めるために各自が板橋区の研修を活用して学ぶことができた。また、施設長が園長大学®・保育士大学等で学んだことを日々の昼礼や園会議等で職員に共有することで保育の共通認識を図ることができた。 ・園見学の連絡や地域でお会いした家庭に積極的に保育体験を勧めたことで、園児の姿や保育内容だけでなく、子育ての相談についても対応することができた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	地域支援の発信地になる
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・在園家庭への支援のみならず、在宅子育て家庭の方に「ここに来ると話を聞いてもらえる」「心が和む」と言っていただけよう、利用者の心に寄り添う関係を育める人間性と専門性を身につける。 ・子どもの発達を語る（保護者の方に適切に伝える）ことができるように、知識をアウトプットする機会を設ける。
2025年度	目指す姿	他園と連携を図り、仲町地域の子どもたちの育ちをけん引する
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・他園の子どもたちと一緒に保育活動をする機会を増やすことで、センス・オブ・ワンダーが感じられる体験を提供する。 ・他園と一緒に学ぶ研修会や交流会を開くことで、保育に対して学び合う風土を構築していく。
2026年度	目指す姿	インクルーシブ保育を仲町地域に拡大していく
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・気になる園児の関わり方の勉強会を近隣園と合同で実施していく。 ・他法人の園児とのインクルーシブ保育を実践していく。 ・地域に向けてインクルーシブ保育を発信していく。

以上

作成日：2024年3月15日

作成者：板橋仲町どろんこ保育園 施設長 石堀 茂雄

2024年度 P'sスマイル保育園 事業計画書

Ⅰ.基本方針

保育理念・・・「にんげん力。育てます。」

保育目標・・・「センス・オブ・ワンダー」
「人対人コミュニケーション」

私たちが育てる6つの力

- 「ケガをしない強い体を育てる」
- 「自分でできることを自分でする」
- 「すべての人との関わりから判断・行動をみにつける」
- 「生死を知る 食の循環を知る」
- 「考えたこと・感じたことを表現する」

～子どものすべてを受け入れる～

「子どものすべてを受け入れる」子どもの可能性を広げるために子どもの自由な発言・表現・発想を肯定し受け止めることや子どもがどうしてそう思ったのか、そういう行動をとったのか過程に目を向けて、「それでいいよ」と認め一緒に楽しむことで子どもたちは、安心感を持ち遊びが展開され自信に繋がっていく。その中で、子どもたちは、日々の生活の中で「にんげん力」を身に付けていく。

間違えることもあるが間違いを修正しない。子どもたちは、失敗から学んで成長をしていく。物事をなんでも正しく教えるより失敗して自分で考えることがとても大事であることを踏まえ、間違いに気付いたらトライ＆エラーを繰り返すことで自信が付き、自分で考えるようになり、自主的に行動ができるようになり問題解決する力が身に付くようにする。子どもだけではなく、スタッフも同様である。スタッフは、子どもに手を差し伸べ無駄なことは何一つないと考え保育運営を行っていく。

〈Ⅰ〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	養護の行き届いた環境「生命の保持」「情緒の安定」 子どもの生理的欲求を満たすことで、情緒の安定は図られ、気持ちを十分に満たすことで心身の健やかな育ちを促す。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達過程等に応じて、適度な運動と休息をとることができるようにする。また、食事、排泄、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなどについて、子どもが意欲的に生活できるように適切に援助する。 ・一人一人の子どもの気持ちを受容し、共感しながら、子どもとの継続的な信頼関係を築いていく。 ・保育士等との信頼関係を基盤に、一人一人の子どもが主体的に活動し、自発性や探索意欲などを高めるとともに、自分への自身を持つことができるような成長の過程を見守り、適切に働きかける。
2	計画・ねらい	子どものすべてを受け入れる（大人の常識や価値観を押し付けない）
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの可能性を広げるために子どもの自由な発言・表現・発想を肯定し受け止める。 ・子どもがどうしてそう思ったのか、そういう行動をとったのか過程に目を向けて、「それでいいよ」と認め一緒に楽しむ。

		・遊びがさらに展開できるような環境をスタッフや子どもたちとも話し合い取り組んでいく
3	計画・ねらい	「にんげん力」を身につけるために必要な遊び・日課
	実践予定内容	・さくらさくらんぼリズム体操・うた・座禅・雑巾がけ・9時出発の散歩・体験活動（畑仕事・生き物のお世話・他）・異年齢保育・裸足保育・移動保育（鶴見どろんこ保育園）・商店街ツアー・銭湯 他

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	① 思いやり②誠実さ③謙虚さ④感謝 を忘れずに、おもてなしの心を込めたサービスを提供します。
	実践予定内容	・お子様を安心して信頼していただけるように接遇を意識する。 ・接遇研修を行う。
2	計画・ねらい	保育園でのお子様の様子が手に取って分かるように発信していく。
	実践予定内容	・お迎え時の3分間対応をする。 ・1か月の活動内容を模造紙にて、掲示をする。 ・日頃のタイムラインにて子どもたちの姿を配信し、保育のねらいも伝えていく。
3	計画・ねらい	保育参加を行っていることを随時に伝え気楽に参加していただける雰囲気づくりを意識する。
	実践予定内容	・保育参加に参加し、お子様の様子や保育園での取り組みを伝えていく。 ・今後の子育てのヒントに繋がるようにする。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	P'sスマイル保育園を知っていただく
	実践予定内容	・公園先で率先して名を名乗り元気よく心地の良い挨拶をする。 ・ちきんえっくのチラシを配布する。 ・青空保育・地域子育て講座・園開放 他
2	計画・ねらい	畑仕事を通して、食育活動を一緒に行う
	実践予定内容	・保育園の畑を活かし、地域の方と野菜を育てる。 ・育てた野菜を食育活動に取り入れ食事について困りごとなど解決できる場にしていく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	接遇（「遇する」とは「もてなす」という意味） 保護者様に安心感・信頼感をもって保育園利用をしていただく スタッフ同士のコミュニケーション能力マネジメントの向上
	実践予定内容	・新人研修・OJT研修・接遇の研修 ・日々の保育（自身）の振り返りを行う場を設ける
2	計画・ねらい	保育の質の向上・保育を語る
	実践予定内容	・保育を語る場を設ける（会議や昼礼等） ・自己評価に基づく課題等を踏まえ、研修に参加し必要な知識及び技能修

		得を行う。
3	計画・ねらい	主体性を育む 自らの意志に基づいて、自らの責任のもとで行動しようとする態度や性質
	実践予定内容	・主体性の研修・コンピテンシー・「保育運営マニュアル」読み込み ・園会議・昼礼等でアクティブラーニング（グループディスカッション）を取り入れ行う

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む
	実践予定内容	畑仕事（種まき・育てる・間引く・穫る） 食材加工（梅・味噌・ケチャップ）
2	計画・ねらい	食材の循環リサイクルの実行・食べ物を大切に消費する
	実践予定内容	給食調理における廃棄を減らす（皮を捨てずそのまま食べる） 再生野菜・リボン・ベジタブル（豆苗・人参・小松菜）

〈6〉保育内容（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	自分で選ばせる「指示待ちではなく自分で動く」
	実践予定内容	どんなに小さい子ども自身で選ぶ力があることを知り、大人がなんでも遊びや玩具を決めてしまうのではなく「どっちがいい」と言葉をかける。子どもが選択できる環境構成を行う。
2	計画・ねらい	信じて待つ「相手の話に耳を傾ける」
	実践予定内容	子どもたちにも子どものペースがあることを理解し、大人都合で時間を決め、先回りをして手伝ってしまわないように注意をする。子どもたちが考える時間を確保する。時間が決まっている場面では、事前に子どもたちに言葉かけを行うなど工夫をする。
3	計画・ねらい	満足するまでやらせる「強い自信が身に付く」
	実践予定内容	満足するまでやりきった子どもは心が安定、満足する前に終わらせてしまうと不満が残ってしまうことを理解し、強制的に終わらせないように意識をする。満足した子どもは、満足したときに自身で終わりを決めることができるようになる。遊びのルールを子どもたちと決めて行う・散歩帰る時間を事前に一緒に考えるなど言葉かけを行う工夫をする。
4	計画・ねらい	子どもに解決させる「困難なことがあっても乗り越える力」
	実践予定内容	スタッフは安全を確保した中で見守り、子ども同士で解決する・考える機会を奪わないようにする。もちろん、場面に応じてスタッフのフォローが必要な時もある。その場面を見極め一緒に困難なことをどのように乗り越えるのか行っていく。

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
0人	8人	10人	12人	12人	12人	54人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	7人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	8人	補助	0人	調理	1人	事務	1人
	用務	0人						

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	保育の振り返りと質の向上・園内研修・行事進捗・研修報告・安全対策
給食運営会議	月1回	食育・クッキング・保護者支援と発信・保育者との連携
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット分析・インシデント検討と共有・事故情報の共有と対策・マニュアル確認と実施方法の確認
ケース会議	月1	要支援児について情報共有と保育方法の確認・検討 気になる子の情報共有と保育方法の確認・検討
昼礼会議・担任会議	週1回	指導計画案・週案・行事・子どもの様子・共有事項確認
朝礼	日1回	一日の確認(保育・行事)・子どもの様子・来客確認・ア

		レルギー児の申し送り・その他 時間差で出勤する職員のためにシッターノートに網羅する
--	--	----------------------------------------------

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人内統一の情報共有・課題検討・園状況報告と共有
施設長勉強会	月1回	施設長のスキルアップ研修
食育会議	年4回	栄養士・調理師、施設長が参加 献立の検討・マニュアル確認・食育の推進・OJT・食品ロス・食の循環
保健会議	年4回	看護師、施設長が参加 子どもの健康と保育への参加 感染症・衛生管理・マニュアルの確認・社会の動向 新型コロナウイルス対策
主任会議	年5回	主任としての役割とは・職員育成・他
子育ての質を上げる会議	月1回	業務改善研修・子育ての質を上げるための計画立案 成果発表会を実施（自園の課題抽出・実行計画策定・成果発表）

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	身体測定・定期健康診断・歯科検診の実施と保護者との連絡・施設の清掃と衛生管理に係る消耗品及び備蓄品の補充と管理・感染症予防対策の管理点検・対コロナ対策消毒と危険管理
安全対策係	火災・地震訓練・不審者侵入時訓練および消火・防災自主点検の実施管理・消防署との連携窓口業務・救急講習計画と実施 施設内外の設備点検および事故防止対策の実施
防火管理者	消防計画の作成と備蓄リスト・帰宅困難者表作成 上記計画に基づいた地震・消火・通報訓練を定期的実施
食品衛生責任者	調理室全般の衛生管理 給食食材および提供食材の衛生管理と在庫品保管状況の管理
畑係	畑づくりの年間計画・畑の管理 子どもと職員の畑活動の推進を図る 教材・道具類の維持補充 保護者様への働きかけと情報発信

生き物係	飼育動物の丁寧なお世話と健康管理 子どもや保育者の生き物飼育活動の把握と推進・課題検討
環境整備・備品係	美観を意識し、保護者がいつ見ても気持ちよい施設 園内外の環境整備：子どもたちが自身で遊びを選択しのびのびと過ごせる環境づくり
内部プロジェクト	内部監査項目を理解し、保育園をより良く
地域係	地域の方々や団体等との対外的な窓口業務

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	祭りの企画と推進 保護者と協働して、準備・開催をする 地域の方も参加し、地域の交流の場とする
鶴見区鶴見中央育児支援イベント	地域の子育て支援の企画と開催

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・受容的・応答的な関りの下で、自分の気持ちや示したいことを伝えようとする意欲を育てる。（代弁や選択が与えられる）また、これらの関係性から身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う。 ・戸外活動を喜び、自然に触れて五感を育て、健康な身体を創る。 ・生活や遊びの中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気づき、感覚の働きを豊かにする。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期の受容的・応答的な関りの中で獲得した言葉を使って、自分の思いを伝えたり歌を唄う気持ちよさを感じたりして、気持ちを開放し生活する。発達的に駄々こねや癩癩も多いが、それを正当な主張と認められながら、自分自身を育てていく。 ・戸外活動を喜び、自然に触れて五感を育て、健康な身体を創る。 ・自由に動くようになってきた身体を十分に動かして、リズム遊びや散歩活動に意欲的に活動し、保育者に励まされ認めながら、自尊感情を培っていく
幼児保育	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムを整え、情緒を安定させた生活の中で、自分らしさを発

	3～5歳児	<p>揮し毎日を楽しみに登園する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意図的に環境設定された中で、自ら関り、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活の中に十分に取り入れようとする ・長距離散歩に挑戦し、集中力や忍耐力、チャレンジする気持ち、爽快な充実感・達成感を毎日体感し、自尊感情を高め、レジリエンスを築く <p>(レジリエンス：困難や逆境にあっても、しなやかに立ち直れる力)</p>
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の関りの中で自分を表現して受け入れてもらうこと、相手の気持ちを理解しながら、人対人コミュニケーションの実感をもって生活する。 ・自分が大事にされていることによって、相手をも尊重し、思いやりの気持ちを態度や行動に表して、接する。 ・上半期、戸外活動で五感を働かせ、培ってきた感覚・感性や長距離散歩で培ってきた集中力や忍耐力を活かし、描画や造形、歌やリズム遊び、劇遊びや楽器遊びなど、様々な表現活動を展開する。 ・地域や小学校など、今までよりも広い社会に目を向けて、小さなながらも、社会貢献できる自分に育っていることを自覚する機会を与えられて、そこに誠心誠意取り組み、自尊心を高める。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	<p>Doronkoの3大食育方針</p> <p>「調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる」</p> <p>「噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供」</p> <p>「子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる」</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・美味しく食べる経験 興味を誘う言葉かけや取り組み クッキングや作物 地域との連携 保護者支援 保育士だけではなく調理スタッフも一緒にスタッフ全員が協力して取り組む。
2	計画・ねらい	<p>畑仕事と食育活動の連携</p> <p>畑で育てた作物を使い、食育活動に繋げ食への興味・関心を高める</p>

	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・年間で育てる野菜を模造紙に記載し、子どもも大人も見通しを持って育てやすくする。 ・育てた野菜を使い、クッキング（ピザ・夏野菜カレー・豚汁）、野外炊飯（カレー作りや豚汁、釜でご飯を炊く等）
--	--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	<p>毎月20日：身体測定実施 手洗い、うがい指導・トイレの使い方指導・歯磨き指導 薄着と裸足：健康に関する指導と家庭への発信 性教育①「体の不思議と大切さ」 性教育②「大きくなった喜び～命の誕生～」</p>
流行が予測される感染症	<p>通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 5～9月頃・・・手足口病・ヘルパンギーナ・アデノウイルス・とびひ・咽頭結膜炎（プール熱） 11～3月頃・・・インフルエンザ・RSウイルス感染症・感染症胃腸炎（ノロ・ロタウイルス）流行性耳下腺炎 通年・・・溶連菌感染症</p>
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	<p>ダイアアップ・・・預かりなし その他・・・預かりなし</p>
エピペン使用できるスタッフ	<p>本日現在●名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員●名については3月31日までに受講予定</p>
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	<p>本日現在●名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員●名については3月31日までに受講予定</p>
その他保健に関する取組	<p>新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗いうがい指導を行う。また消毒・換気を徹底する。</p>

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
------	---------------	-------------------

	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回/6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回/15日
	不審者侵入訓練	年2回/6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回/5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回/4・7・10・1月の25日
	フロン点検(定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検(簡易)	年4回/4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿/毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回/5日/全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月
	身長体重測定	毎月1回/20日
	児童健康診断 ※認可園のみ歯科検診年1回	内科健診 年2回/6・11月 (各園入力 東京都0歳児のみ年12回実施) 歯科健診 年2回/6・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもたちが自ら遊びを選択できる環境構成
	実践予定内容	子どもたちの姿を捉え月1回室内の環境構成を見直す。 子どもたちの遊びに目を向けさらに遊びが展開できるようにマップに記載し、子どもの興味・関心に気づく。
2	計画・ねらい	保護者様がいつ見ても気持ちの良い施設
	実践予定内容	ロッカーの上には、極力物を置かず置いても綺麗に並べ美観を意識する。 毎朝拭き掃除を行い、衛生が確保されるようにする。

	足元に玩具が広がっていれば安全も考え拾う。
--	-----------------------

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	事故防止委員会 リスクマネジメント研修 怪我・事故の防止	事故の防止：ヒヤリハット収集と統計結果の確認（随時・月1回の共有） 統計結果から振り返りを行う（月1回） 園内インシデント・事故の再発防止検討 過去の重大な事故事例や身近な法人の事例研究 緊急連絡先への連絡・フローチャート確認 心肺蘇生・AED研修・怪我の対応・プール・水の事故防止策 散歩引率など 子どもへの安全教育の定期的な実施
2	避難訓練・ 不審者侵入訓練 防犯	・安全対策係が計画立案・実施・自衛消防隊の編成と役割分担 ・十分なシミュレーションの元、立案された計画を全職員で共有し、実施 ・子どもへの安全教育の定期的な実施 ・予想外の想定にも瞬時の適切な判断が自らできるよう、保育者は戸外・散歩時などの危険予測を日常から行っていく。 ・P'sの広域避難場所：総持寺（保護者様への周知を図る）
3	光化学スモッグ 熱中症	・自治体からの情報で判断、活動を加減する。 ・自治体からの情報を正確に得る。 ・子どもたちに何故屋内で過ごすのかを考え、安全教育と共に光化学スモッグのメカニズムや環境問題への問題的な芽生えにつなげる
4	災害対策	「保育運営マニュアル」・危機管理マニュアルの確認 決められたことの内容と意味を保育者は知って、園運営に携わる
5	日々の事故防止	・保育者の気づきの共有と報告（ヒヤリハット） ・子どもの様子、玩具、戸外、場面の切り替え、保育者同士の連携 ・ハザードマップの更新：室内、戸外環境の変化に気づき情報を共有し、ハザードマップに書き込み、講師をする。
6	苦情・ご意見対応	・「保育品質マニュアル」・苦情対応マニュアルの確認 保護者様のご意見を真摯に聴き受け取った保育者はどのようなことにも、自分事としてとらえ、謝罪と保護者様のご意向に添った問題解決を図ることを第一とする。

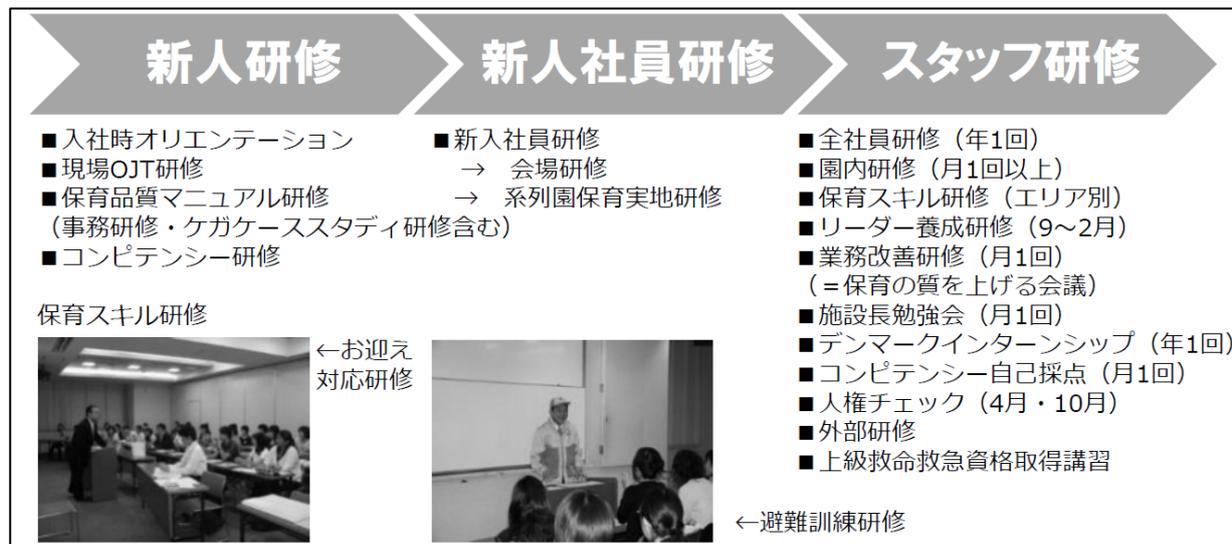
6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

保育園は、地域の社会資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生の受け入れに社会的責任があります。そのため、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、当グループでは実習生・研修生を積極的に受け入れます。

1	実践予定内容	小学生の保育園見学・交流の受け入れ・ドッチボール大会など
2	実践予定内容	中高生：保育体験（職場体験）の受け入れ・異世代交流
3	実践予定内容	実習生：次世代を担う実習生の受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画



〈1〉 2024年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事故防止委員会 ③ 虐待防止研修 ④ 人権チェック ⑤ 運営マニュアル読み合わせ ⑥ 保育計画・振り返り	保育を振り返り、保育計画作成 子どもに起こりやすいケガや事故を 知り、その手当と対応の共有 ハザードマップを活用し、ケガが起 こらないように防ぐ
5月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事故防止委員会 ③ 接遇について ④ 質上げ共有 ⑤ 保育計画・振り返り	保育を振り返り、保育計画作成 事故防止委員会：災害時のスタッフ の動き・対応について確認を行う
6月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採 ② 事故防止委員会 ③ 質上げ共有 ④ 保育計画・振り返り	保育を振り返り、保育計画作成 事故防止委員会では、保育中の重大 事故（水遊び・プール活動）水遊び マニュアル確認

7月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事故防止委員会 ③ 質上げ共有 ④ 保育計画・振り返り	保育を振り返り、保育計画作成
8月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事故防止委員会 ③ 散歩のロールプレイング ④ 質上げ共有 ⑤ 保育計画・振り返り	保育を振り返り、保育計画作成 9月より長距離散歩が開始するため 散歩のマニュアル確認を行い、ロールプレイングを実施する
9月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事故防止委員会 ③ 質上げ共有 ④ 上期の振り返りと下期目標の設定・話し合い ⑤ 保育計画・振り返り	保育を振り返り、保育計画作成 上期の保育の実践・振り返りを行い 再アクションの意見交換・話し合いを行う
10月18日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事故防止委員会 ③ 人権チェック ④ 虐待防止研修 ⑤ 全体研修	虐待の定義をマニュアルにて確認 共通認識を持つ
11月15日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事故防止委員会 ③ 質上げ共有 ④ 保育計画・振り返り	保育を振り返り、保育計画作成
12月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事故防止委員会 ③ 質上げ共有 ④ 保育計画・振り返り	保育を振り返り、保育計画作成
1月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事故防止委員会 ③ 質上げ共有 ④ 1年間の保育の振り返り ⑤ 保育計画・振り返り	1年間の保育の実践・振り返りと再 アクションの意見交換・残り2カ月の 課題を振り返り、絞り込みを行い、 進学・進級する子どもたちへの 必要な体験活動の場をつくる。 保育を振り返り、保育計画作成
2月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年間策定会議	2025年度事業計画とその方向性、 行事日時と概要の設定
3月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年間策定会議	2025年度「子どもにとって、必要 な生活・活動を定める」

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインナーシップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

・地域に開かれた保育園としてのPR活動を整える。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：本山前桜公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	月1回 ケアプラザ訪問：高齢者の方とのふれあい
異年齢交流	近隣の小・中・高・大学との交流会・ボランティアの受け入れ

地域拠点活動	青空保育・ちきんえっぐ・園開放
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

架け橋期のカリキュラムについて、幼保小が協働し、共通の視点を持って教育課程や指導計画等を具体化できるよう「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとし、育成を目指す資質・能力を視野に入れながら策定できるように工夫をする。幼保小の先生と一緒に振り返って評価し、改善・発展させていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月15日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	鶴見小学校 1年生	12名予定	園見学（鶴見小学校）	子ども間交流
11月頃	豊岡小学校 1年	12名予定	園見学（豊岡小学校）	子ども間交流
1月頃	5歳児・就学予定学校	12名予定	入学時情報交換	スタッフ間情報交換

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

特別な支援が必要な乳幼児については、個別に保育計画作成を行う。毎月のケース会議を開催し子どもの変化に気づき必要に応じた配慮等を共有し、全スタッフが把握し保育活動に取り組めるようにしていく。

〈2〉毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定 参加者：全正規スタッフ予定）

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

・クラス担任は、進級時に引継ぎを実施・引継ぎ事項を記録に残す

・小学校との情報交換（12月・1月）：訪問・電話

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	月1回 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月1回 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：本山前桜公園にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

（2020年度12月9,10日・横浜サステナビリティ研究センターにおいて、受審済）

〈2〉園による自己評価の実施

2025年2月3日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：18時00分

自己評価終了予定時刻：19時00分

自己評価実施予定者：施設長・主任・リーダーに準ずる当日出勤者

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・自然との関り、長距離散歩や戸外活動、畑仕事、言葉で表現するなどどろんこ会が示す基本活動を実施し、子どもの体を育て自尊感情を高める保育・保護者様と子どもの育ちを共有し、喜びあえる関係づくりをする。 ・どろんこ会の保育スタッフが自分自身の保育を語り、毎日楽しみながら子どもたちと過ごす。
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・日課活動を行う大切さにスタッフが気づき理解し子どもに必要な体験・経験とは何か日々、考え取り組んできた。保護者様にも保育園での活動や子どもの成長を感じられるように掲示物で発信を行ってきた。また、お迎え時の3分間対応でその日のエピソードをお伝えできるように園内研修も行ってきた。保護者様にどろんこ会が掲げている保育理念や日課で行う活動の意味を伝えることが自園での課題と感じた。掲示物に行ったことだけではなく、保育のねらいやその先のねらい等も発信を行い、保護者様と共に保育を進めて行く。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	「にんげん力」を身につけるために必要な遊び・日課が定着し保護者様や地域の方からも保育活動・保育内容・人材で信頼される「選ばれる保育園」が創られている。その中で、食を生活の一部と捉える。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼できる保育者との関係を築き、安全安心を確保されている中で、自分で遊びを選択し、主体的に意欲的に遊びこむことができる。 ・自分の足で人生を歩むために・自分で自分の命を守るために・助けながら生きるために「生活力」と危険なものとの距離の取り方を教える。 (実際にたき火を行い火との距離感や食育活動では、包丁をしようするなど危険なものとの体験をする) ・食べることは、生きていく中でとても重要なことであることを踏まえ、活動や畑仕事を充実していく。(戸外活動では、たくさん身体を動かす・畑仕事では、野菜に興味を持ち自らが進んで食べようとする)
2025年度	目指す姿	食育で育てたい「食べる力」 畑を豊かにする
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物をつくる人への感謝の心・一緒に食べたい人がいる・食事の重要性や楽しさを理解する・食べ物の選択や食事作りができる・心と身体の健康を維持する。
2026年度	目指す姿	「食べること」は「生きること」子どもだけではなく、保護者様や地域の方にも食について発信をしていく。 養護と教育が一体となってはじまる食育
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる。 ・生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができる

		ようにするため、食育を総合的に、計画的に進めて行く。 ・乳幼児の食育は養護・教育の内容と相互に関連しながら、一体的に総合的に展開されていることを踏まえ計画し、実践する。
--	--	-----------------------------------------------------------------------------------------

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：P'sスマイル保育園 施設長 森田 愛実

2024年度 三原どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

■保育理念 「にんげん力。育てます。」

■保育方針 「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

どろんこ会グループの法人理念に則り、子どもを中心にスタッフ・保護者・地域が参画し協同的に共に育つことで地域に根付いていく。朝霞市の自然に恵まれた環境を活かし、「にんげん力」に必要な遊びや野外体験を通じ、成功体験や失敗体験を経験する。そのなかで、他者との気持ちのぶつかり合いや折り合いをつけることを試行錯誤していく体験を積み重ねる。やってみたいことの実現や思い通りにならないことを経験し、目の前に壁が立ちただかかったときに自分で考え判断し、行動して切り抜けていく力を身につける。また、次世代に向け質の高いコミュニケーション力が必要となる。自分を知って、相手を理解しようとすることで、ぶつかり合い、頼り合い、助け合いながら人との繋がりを深めていく。

子どもたちの活動を保障していく中で、大人も主体性を持ち、考え、学び、みずから率先して行動できる集団となる。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた保育計画の作成
	実践予定内容	子どもの遊びを観察・理解・共有し、PDCAサイクルを用いて、子どもの姿ベースに必要な経験を盛り込んだ保育計画を作成する
2	計画・ねらい	協働力を身に付け、次世代を生き抜く力を身に付ける
	実践予定内容	子ども同士がグループで話し合い、役割を分担し、一つのモノ・成果物・ルールなどを創り上げる活動を実践する中で、合意形成エラーや感情コントロールエラーを繰り返す経験からコミュニケーション力を養う
3	計画・ねらい	命をいただく活動の実践
	実践予定内容	近隣園と協力をし、食の循環をするために鶏を絞めて食す体験を提案実践する。鶏には参加をしたくない子にも畑仕事や商店街ツアーを通して命をいただくありがたさを体験できるよう計画する

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の立場として考えるということを意識する
	実践予定内容	保護者理解、保護者支援の観点を意識し研修を行っていく。単に知識の詰め合わせではなく「保護者の気持ちになる」をキーワードにした研修をチームで築いていく
2	計画・ねらい	お迎え対応の充実
	実践予定内容	夢中で取り組んだこと、成長を感じたこと、試行錯誤しながら取り組んだことなど子どもの1日の様子を手に取るようにお伝えし、共に喜び、共に悩み合える関係性を築く

3	計画・ねらい	いつ見ても気持ちが良い施設となる
	実践予定内容	美観を意識し、物の整理や片づけ、清掃をまんべんなく行っていく

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた施設となる
	実践予定内容	・保育体験（自然食堂・自然学校・芸術学校） ・子育て支援センター、園内、園庭開放、親子の情報交換、交流の場として保育園を開放する
2	計画・ねらい	青空保育の充実
	実践予定内容	1人でも多くの親子が参加できるように内容の見直しを図り、地域の子育て拠点となる

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園目標・個人目標に対して各自の進捗状況を明確にしていく
	実践予定内容	・スタッフは個人で目標設定をし、定期的な振り返りをおこなう中で、1つずつステップアップが出来るようにする ・園目標を達成するために、毎月、日々どのような事を意識して実践していくかを考え実行する
2	計画・ねらい	保育所保育指針に記載がある「3本の柱」「10の姿」を理解し学び続ける大人集団になる
	実践予定内容	・乳幼児期だけの知識でなく、学童期に結びつくためにどんな働きかけが乳幼児期に出来るかを検討し、実行する。 ・状況に応じた手法を用いて学びあい、検証をしていく
3	計画・ねらい	他者の考えを知り、受容した上で自分の言葉で発言し、学びあえる環境を作る
	実践予定内容	どのスタッフも日々の中での保育についての雑談や毎週1回のフロア・クラス会議内でも自分の言葉で伝え、相手の思いも受容した中で適応した職場環境を日常化する

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	焚火保育
	実践予定内容	・火は暖をとったり、調理をしたり、人間が生きるために必要なものであることを「火」の保育を通して豊かに体験していく ・火を囲み、温かさ、ぱちぱちと薪が燃える音や炎のゆらめきを味わいながら、自然と心が安らぐ体験をする ・火起こし体験では、マッチを擦ってみたり、確実に火を起こすために落ち葉や薪など様々な素材を火にくべることで、よく燃えるもの、あまり燃えないものに気づいたりしながら、火に親しみを持つ ・たき火でさまざまな調理活動体験をし、薪や枝を拾い、火を維持する経験や空気を送ると火が変化すること、鍋が熱くなることなどに気づき、温かいものを食べる喜びを実感する ・火に関わることによる様々な気づきを大切にしながら、火の扱い方を間違えれば危険なものになることや、火の始末を学び、付き合い方を体得する

2	計画・ねらい	自分で選び・自分で選択する
	実践予定内容	散歩の行き先・遊ぶ場所を子ども自身が決める。「明日はこういうことをしたいからそれができる〇〇公園へ行きたい」を子どもが発信・選択する。意見が割れた場合は子ども自身がプレゼンテーションを行い、話し合いを通して決めていく
3	計画・ねらい	食材の循環サイクル、ヤギの糞の堆肥などを持続的に実行する
	実践予定内容	残渣やヤギの糞をたい肥として活用し、食の循環サイクルを体験できるようにする 残渣をグラフ化し、視覚的に捉えながら残渣を減らすことを目指し話し合いを遂行していく

〈6〉子どもを中心に考えられる保育の実践（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	子どもに対して日々丁寧に関わる保育をする
	実践予定内容	・子どもの言葉に耳を傾け、ありのままの姿を受け止め共感する ・日々の関わりの中で、人権や常に子どもにとってどうなのかを考え保育の実践をする ・応答的な関わりを大切にする保育の実践
2	計画・ねらい	子どもと一緒に活動を楽しめる保育者集団
	実践予定内容	・子どもがどのような事に対して興味を持ち、夢中になっているかを保育者自身が経験、体験し共感ができるようにする ・一緒に楽しむことが出来る行事を考え、PDCAをおこない日常の保育にも活かしていく

〈7〉100の本物の体験を追う（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	子どもたちの挑戦する気持ちを後押しする
	実践予定内容	・保育者、保護者は見守り、答えを導き出せるまで一緒に考えていく ・保護者にも速報を出し、心の動きを共感していく
2	計画・ねらい	旬の野菜の加工方法を学ぶ機会を提供する
	実践予定内容	旬の野菜を日本ならではの調理方法や調味料に加工する方法を子どもと共に調べ挑戦していく
3	計画・ねらい	日本ならではの行事に触れる
	実践予定内容	日本の伝統行事に触れる機会を用意し、興味を持ち意欲的に触れることが出来るようにする

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	9人	12人	21人	21人	21人	90人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	2人	事務	1人
パート スタッフ	保育士	2人	補助	1人	調理	2人	用務	1人

3. 運営方針

施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	保育の振り返り、保育の質向上の為の園内研修の実施
給食運営会議	月1回	食育活動の振り返り、食に関するエピソード共有
事故防止委員会	月1回	自園のヒヤリハットの検証、自園・他園の記録から危険予測のディスカッション
ケース会議	月1回	子どもの事例共有、保育計画の検討
クラス会議	月1回	保育計画の振り返り、次月の保育内容の検討、クラス内の課題解決

〈4〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人全体での運営課題の解決、情報共有
施設長勉強会	月1回	園運営の質向上の為のディスカッション
食育会議	年4回	食育活動の実践報告、調理業務における課題解決の為のディスカッションをおこなう
保健会議	年4回	保健に関する実践報告、保健衛生面の講義
主任会議	年4回	アクションプランの計画・振り返り
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質を上げる為の自園での取り組み共有、保育に必要な学び、自園の保育の見直し

〈5〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内の衛生管理や備品管理、感染症予防・対策
安全対策係	防災実施点検、設備点検、事故防止点検の実施
防火管理者	災害対策、消防計画に則った避難訓練の実施責任、自主点検の実施
食品衛生責任者	給食提供責任、食材の安全衛生管理
畑係	年間計画に基づいた畑活動の実施、計画の振り返り、畑管理
生き物係	飼育動物の環境管理、餌の管理・発注

〈6〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズとの連携窓口
運動会係	運動会の企画、進行
生活発表会係	生活発表会の企画、進行

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者等に見守られながら、好きな遊びを楽しむ ・子どものこれまでの経験や発達過程に留意し、子どもの気持ちを受容し、共感しながら継続的な信頼関係を築いていく ・スタッフ間の連携や嘱託医との連携を図る ・栄養士・看護師は、その専門性を生かした対応を図る
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・土や水等に触れ、全身で感触を楽しみ、感性を育む ・安心できる保育者等の関わりの中で人への基本的信頼関係をもち、人間関係の基礎を培う ・個々の発達の状況を捉え、生命の保持と情緒の安定を図り、生活リズムを作る ・スタッフ間の連携や嘱託医との連携を図る ・栄養士・看護師は、その専門性を生かした対応を図る
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の中での経験を通し感性を磨き表現する楽しさを味わう。 ・やりたいことを自分で選択し好きな遊びを通して興味関心を深め学びへ繋げていく。

	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢での関わりの中で相手を受け入れる気持ちや思いやる気持ちを育てていく ・生活や遊びの中で達成感や充実感を味わうことで自分たちの力でおこなうために創意工夫するなど見通しを持って行動する力を養う
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2023年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・調理員、保育者、施設長、事務含む子どもを取り巻く大人は、子どもと一緒に食事をする（3大食育方針） ・空腹感を感じ、食べたい時や場所、ひと、食べたいものを食べたいだけ、子ども自身で選択する環境を作る
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の給食での積極的な参加、関りから安心して心地よい雰囲気づくり適温給食を実施する ・繰り返しから知る自己コントロール（適度）を学ぶ 身近な大人や友だちを模倣したり教わったりして食事のマナーや食具の正しい使い方を知る ・散歩、畑での労働や戸外活動で空腹を得る環境を作る
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・実体験を通して食や食の循環について興味関心をもつ
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・畑活動の充実をはかり、失敗と成功を繰り返しながら、作物が育って食すことの嬉しさや喜びを感じられるようにする ・食材の加工や命をいただく経験ができるよう計画し、食の知識を学びながら、食べることの大切さを学んでいく
3	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の給食を楽しみにしながら日々の生活をおくる
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・共に食べる喜びを感じながら、心地よく食事を楽しむことができるようにする ・バイキングを通して自分の食べられる量を知りながら、食べたい気持ちを満たすことができるようにしていく ・日々の活動の中で、空腹感を感じられることのできる活動を保証し、食の増進や楽しみに変えていく

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い・うがい指導、性教育（年長児）、歯磨き指導の実施
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 8月頃・・・手足口病、ヘルパンギーナ 1月頃・・・インフルエンザ・感染症胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・0名より預かり済み エピペン・・・0名より預かり済み
エピペン使用できるスタッフ	本日現在22名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については3月21日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在22名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については3月21日までに受講予定
その他保健に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・嘔吐処理、おむつ交換、与薬方法等園会議にてロールプレイを実施。 ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染症予防のため、うがい指導、手洗い指導を強化。また、消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日

	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6月・11月 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

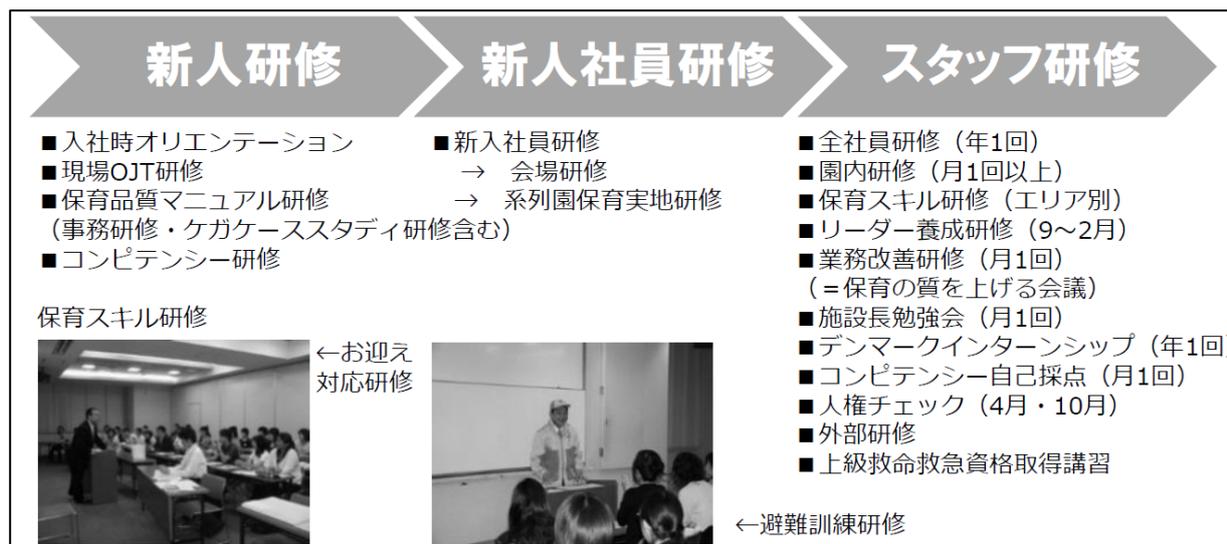
1	計画・ねらい	養護と教育が一体となった保育を目指し園内の環境を整える
	実践予定内容	個々の発達に合わせ、愛情豊かに応答的な関わりを大切にしながら、常に環境の見直し、改善を行う
2	計画・ねらい	子どもたちが遊びこめる環境を整える
	実践予定内容	子どもたちの主体性を第一に考え、一人ひとりがじっくりと遊びこむことができる場が保障されているかスタッフ間で連携を取りながら環境の見直し、改善を行う
3	計画・ねらい	子どもと共に考える
	実践予定内容	話し合いの場に子どもを交え、共により良い環境を考えていくようにする

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	パーテーション	幼児室/乳児室	毎日
2	テーブル	幼児室/乳児室	毎日
3	ベンチ	園庭/幼児室/乳児室	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）



1	実践予定内容 防災	危機管理マニュアルに則り、災害発生時には対応フローチャートに従う 防災計画に基づき、避難訓練を行う
2	実践予定内容 怪我防止	危機管理マニュアルに則り、災害発生時には対応フローチャートに従う 防災計画に基づき、避難訓練を行う
3	実践予定内容 防犯	危機管理マニュアルに則り、不審者侵入時にはフローチャートに従う 防災計画に基づき、不審者侵入訓練を行う
4	実践予定内容 光化学スモッグ	危機管理マニュアルに則り、光化学スモッグフローチャートに従う 行政の連絡に従って対応する。
5	実践予定内容 熱中症	環境省の熱中症予防情報サイトを随時確認し、子どもの活動が危険な時には屋外活動を避けるようにする

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

次世代を担う学生や中高生を、保育の現場で積極的に受け入れを行います。個々にあった指導や援助を丁寧に進めていきます。地域に開かれた保育園として、様々な人との関わりの中相乗効果で豊かな心を育くみます。

1	実践予定内容	小中学生の体験受入れ
2	実践予定内容	養成校の受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉2024年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理研修 ③ 虐待防止研修	「子どもの人権」についての虐待防止研修 園内、園外ハザードマップの見直し
5月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 見失い防止	職員間で危険な箇所を室内外共見直し、安全に努める。散歩ルートの危険箇所の検証と対策
6月28日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びのリスクマネジメント	子どもを水遊びの危険から守るためのリスクの共有 水遊び、プールが始まる前の注意すべき点の共有
7月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境構成	室内遊びの有効な過ごし方や室内遊びの工夫、環境の見直し
8月23日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 運動遊び研修	熱中症や脱水症状といった夏に起こりやすい症状の確認、対策
9月27日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理研修	「見失い」「置き去り」を防ぐためのリスクマネジメント研修 子どもの姿の共有
10月25日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 見失い防止 ③ 虐待防止研修	虐待防止研修 職員間で危険な箇所を室内外共見直し、安全に努める。 散歩ルートの危険箇所の検証と対策
11月22日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 感染症対策	感染症を拡大させない為の対策 室内清掃や嘔吐処理の再確認
12月27日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 見守る保育	エピソード研修、考察を行う
1月31日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境構成	環境構成の見直し、子ども観の考察
2月16日	18:00~21:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第1回策定会議	次年度の事業計画に向けた目標設定 チーム保育研修
3月2日	9:00~18:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第2回策定会議	年間行事計画の作成 畝研修

エリア研修（朝霞、志木地区合同開催）

テーマ：「エリアで学び合う世代別職員研修」

内容：年代別、分野別に分かれて集まり、共通の課題解決や学びを通じて地域全体の保育の質の向上と地域コミュニティの活性化を目指す。

世代別、分野別の意見交換や研修を通じて、より実践に即した保育の力を身に着ける。

他園の職員と相互に学び合う中で、自園の課題を見つけ解決に向かう力を身に着ける。

日程：月に1度、計8回予定

テーマ：「エリアで学び合う命を頂く」

内容：講義と実技研修。鶏をさばくことで食の循環を知る。また命を頂くことを座学、実際にさばいてみることで体感し理解を深め合う。その後各園に学びを持ち帰り、子どもや保護者と共に捌いて経験の場を提供する。

日程：5月 時間：未定

テーマ：「エリア学ぶさくらさくらんぼリズムの共通理解」

内容：講義と実技研修。体を動かしながら共通理解を深めより質の高いさくらさくらんぼリズムを身に付ける。その後、各園に下ろし、職員に伝えて行く。

講師：古川みどりさん

日程：4月～6月で2回開催

時間：18:30～20:00

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

子育て支援の拠点として、世代間交流（シニア交流・実習生を含む学生との交流・中学生の職場体験）地域子育て計画を元に時代に合わせた子育て支援を展開していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：星の森公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	小学校訪問・高齢者施設訪問
異年齢交流	9参照
地域拠点活動	青空保育・ちきんえっぐ
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

朝霞第五小学校、第七小学校を中心に交流を行う。

保育園で積み重ねられた子どもの育ち（保育所保育指針 第1章総則「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をもとに）を、小学校での生活や学びに繋げていくことが重要と考える。以下計画について、小学校と相談・協議を開始する。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	朝霞第5小学校	21名予定	学校見学	子ども間交流
10月頃	朝霞第7小学校	21名予定	授業見学	子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

子どもの発達状況を把握し、個別計画の立案、個の発達を大切にしたかかわりを職員全体で共有し

ていく。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：10名予定)

子どもの事例に対して職員それぞれの思いを共有し、かかわりの中での失敗例、成功例を出し合いながら、職員が同じ視点でかかわることができるようにする。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

小学校の担当教諭と細やかな引継ぎを行う。必要な場合は保護者の了承を得た上で、関係機関との相談を行い連携する。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	月2回 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月2回 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：星の森公園にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年10月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：13時45分

自己評価終了予定時刻：14時45分

自己評価実施予定者：施設長、主任、リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが選択できるあそびの環境があり、あそびを通して大人と子どもと一緒に成長できる場所にする。 ・ひとりひとりの成長を子ども、保護者、保育者が一緒に喜ぶことができる環境を整える。
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・園会議内で室内環境の現状と課題、どのように改善していくべきかディスカッションを重ね、環境の改善に努めてきた。幼児室では、静と動のメリハリがつけられるようなレイアウトにしたことで、集中して遊ぶ姿が多く見られるようになった。乳児室では、コーナー毎で遊ぶようになり、気に入ったあそびの場所に行き過ぎ姿があった。子どもにとって成長発達に繋がるようなあそびの工夫が今後更に必要と感じる。 ・環境が整ってきたことで、保育者が子どものあそびに寄り添い、あそびの楽しさを共感できるようになったことが前進といえる。あそびの中で子どもの様子、成長した姿を手取るように保護者に伝えられるよう、継続した環境の改善に取り組んでいきたい。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	子どもを真ん中におき、学び合い、語り合いができる園になる
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフは、子どもの気持ちや思いを受け止め、安心して主体的に遊びや生活が出来るように見守りの実践をおこなう事を基礎とする ・子ども理解を図るため、子どもの姿を観察し、様々な記録や語り合いを元に一人ひとりに必要なことを職員間で共有し行っていく ・子ども一人ひとりが主体的に遊び込める環境を常に課題とし、子どもの姿ベースで見直しを図っていく
2025年度	目指す姿	子ども主体の生活や遊びが定着する
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや生活のルールを5歳児が中心となり作りだせる環境を作り、スタッフは子どものファシリテーターとして見守る ・スタッフは、日々の保育を振り返り、子どもの遊びや生活が継続、発展していくように環境を模索する ・子どもの遊びのプロセスがどのような育ちとなっているのかを保護者に分かりやすく示す
2026年度	目指す姿	・リーダーを中心とした保育が定着し、一人ひとりの個性が輝く保育を実施する
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・保育環境を整え、保育者は指示を出さず、子ども自身が自分で考え行動できるように見守っていく ・互いの価値観、物事の捉え方を知る。また、自分の弱みを認めることで、互いに助け合い、弱みを強みに変えていくチーム力を育てていく

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：三原どろんこ保育園 施設長 金子 隼人

2024年度 メリー★ポピンズアトレ大森ルーム 事業計画書

Ⅰ.基本方針

法人の基本理念 「にんげん力。育てます。」

法人の保育目標

- ① センス・オブ・ワンダー
- ② 人対人コミュニケーション

法人理念及び保育目標を全スタッフが理解し、子どもの心情・意欲・態度に留意しながら日々の子どもの生活を大切にしていくこととする。その際、子どもの状況や発達過程を踏まえ、環境を通して養護及び教育を一体的に行うことを留意する。

また、保育所保育指針にも書かれている「子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場」となるようにスタッフ一人ひとり意識して過ごす。

具体的には、

- ・身の回りのことで一人ではできないことを周りの人に頼りながらできるようになっていく、少しずつ自分の力だけでできるようになる生活力を体得していく。
- ・5歳児だけでなく3.4歳児や乳児期のうちから10の姿を意識しながら保育を行う。また、就学に向けて小学校との連携にも活用していく。
- ・子どもが主体的に活動を選択できるように、様々な玩具が用意され自由に取り出し、片付けができる環境を設定していく。

以上を目指し、日々の保育に取り組んでいくこととする。

〈Ⅰ〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの主体の保育の実践。
	実践予定内容	子ども主体で活動できているかスタッフ間で都度振り返り、常に子どもが真ん中となっているか意識して保育をしていく。
2	計画・ねらい	ゾーン保育の実践。
	実践予定内容	年齢関係なく発達やその日の子どもの気持ちによって、子ども自ら活動を選択できるようにしていく。その中でスタッフはどこで子どもを見守るべきか、子どもによって必要になる援助を見極めていく。
3	計画・ねらい	子どもたちの自己肯定感を育む。
	実践予定内容	子どもたちが安心できる環境で、自分の意見を伝えられるようになる。また、相手の思いを受け取り相手への信頼や思いやりの心を育むよう活動や行事についての話し合いの機会を作るようにする。 全スタッフが応答的な関わりを行い、子どもの思いを受け止めることを心がけ、気持ちの切り替えができるように促していく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	接遇への意識を高める。
	実践予定内容	全スタッフが園を訪れる人全員に手を止め、顔を上げて挨拶をする。お迎え時には一日の様子を伝えることはもちろん、保護者の話を傾聴し、何気ない会話や表情から変化をくみ取り、保護者様に寄り添う対応を実施する。
2	計画・ねらい	保育参加・個人面談の積極的な実施
	実践予定内容	保護者様の持つ不安や悩みに寄り添い、必要な時に個別に話ができる機会を設ける。また普段のお子様のようなすをみてもらえるように保育参加など常に開かれ、相談をしやすい雰囲気作りを心がける。
3	計画・ねらい	保護者様の子育てへの意欲や自信を支援する。
	実践予定内容	全スタッフが保護者様と交流し子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを共感しあうことを心がける。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた園を目指す。
	実践予定内容	青空保育、園開放の実施。 参加していただきやすいよう配慮し交流をする。月1回の青空保育、毎日の園開放をちきんえっぐだよりにて告知するようにする。
2	計画・ねらい	保護者様や地域に、当該保育所が行う保育の内容を適切に説明するよう努める。
	実践予定内容	中学生職業体験、実習生受け入れ、世代間交流の実施。
3	計画・ねらい	公共の施設利用を通し、ルールやマナーを身につける。
	実践予定内容	幼児組を中心に、図書館の利用や、アトレ店舗との交流や買い物体験など子どもたちに必要な体験を取り入れた保育を行う。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園内研修で学びのアウトプット
	実践予定内容	園会議にてスタッフ同士で学び合える場を設ける。また、外部研修やキャリアアップなどで学んだスタッフは他スタッフに共有とともに自らの学びをアウトプットできるようにする。
2	計画・ねらい	日課・基本保育活動の充実
	実践予定内容	スタッフ一人ひとりが法人の保育理念、園目標、クラス目標、個人目標に向き合い、子どもたちの個々の発達に合わせ、子どもたちの成長に必要な活動、遊びを保障できるようにする。 デイリープログラムに沿った保育をするため、スタッフの動きや配置を見直す。
3	計画・ねらい	質の高い保育の実施
	実践予定内容	一人ひとりのスタッフについての資質向上及びスタッフ全体の専門性の向上を図るように努める。園内研修、外部研修、スキル講座、園長大学®保育士大学への参加を通し、個々の研修結果を園内で共有し活用していく。

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	12人	栄養士	2人		
パート スタッフ	保育士	4人	看護師	1人	用務	1人
					事務	1人

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	園内研修、園運営に関する情報共有、計画の決定
給食運営会議	月1回	食育計画振返り、確認と共有
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策・全園事故防止委員会での内容共有・ヒヤリハット及びインシデントの検討、分析、振り返り
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り及び省察・用紙園児個別計画の見直し
リーダー会議	随時	園全体の連携、相談、運営にまつわること
クラス会議	週1回	クラス運営について(週案、月案の立案)

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	連絡および議題に対する共有、意見交換
施設長勉強会	月1回	1限：マネジメント・コンプライアンスなど 2限：各園/課題改善計画立案及び取組み成果発表
食育会議	年4回	献立内容の改善、提案・給食提供マニュアル及び運用ルールの作成、見直し

保健会議	年4回	感染症対策やガイドラインの作成、改善・各園看護師スタッフとの連携
主任会議	年4回	各園の改題改善アクションプランの進捗確認と共有、マネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	1限：マネジメント・コンプライアンスなど 2限：各園/課題改善計画立案及び取組み成果発表

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防処置、施設内衛生管理全般
安全対策係	定期安全点検・防災自主点検・設備点検チェック・事故防止チェック、ハザードマップ作成更新
防火管理者	消防計画・備蓄品の確認・安全対策係の任命・自衛消防組織
食品衛生責任者	食品の安全に対する管理、食育会議の計画・実践
畑係	畑の環境整備・年間計画
生き物係	飼育に関する管理
内部監査係	内部監査項目指摘事項 桁の推進

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画、保護者との連携、地域への告知、安全対策
運動会	運動会の計画
生活発表会	生活発表会の計画

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0~2歳児	・保健的で安全な環境の中で子どもの生活の安全を「自分で」の思いを汲み取り、子どもの主体性や自発性を尊重しながら援助したり、温かく見守ったりする。
------	--------------	--------------------------------------------------------------------------

		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の身体的な関わりを伴う養護的な場面に、子どもが経験している教育的な側面を併せ、養護と教育が一体となって豊かな人間性を持った子どもの育成を目指す。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる保育士との関わりの中で、食事、排泄等の活動を通して自分でしようとする気持ちが芽生えるようにする。 ・保育者の話かけや発語が促されることにより言葉を使うことを楽しむようにする。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ・一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ・友だちと一緒に食事をしながら、様々な食べ物を食べる楽しさを味わう。 ・身近な人と関わり、友だちと遊ぶことを楽しむようにする。 ・生活に必要な言葉が分かり、したいこと、して欲しいことを言葉で表現できるようにする。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で出来ることに喜びを持ちながら、健康、安全など生活に必要な基本的習慣を次第に身に付けられるようにする。 ・幼児クラスへの憧れや期待感を持って過ごすことができるようにする。 ・友だちとのつながりを広げ、集団で活動することを楽しめるような雰囲気を作る。 ・進んで異年齢の子ども達と関わり、生活や遊びなどで役割を分担する楽しさを味わえるようにする。 ・感じたことや思ったこと、想像したことなどを、様々な方法で工夫して自由に表現できるよう環境を整える。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	体験を通して食べる意欲へと繋げる
	実践予定内容	プランターや畑での栽培活動を明確にし、子どもはもちろん全スタッフが継続的に関わるようにする。 野菜の皮むきやお米ときなど、給食を作る過程に触れ、体験する。子どもの体験する内容を調理、保育スタッフ間で話し合い共有をしながら計画していくようにする。
2	計画・ねらい	食の循環から食の重要性・大切さを学ぶ
	実践予定内容	コンポストについて保育スタッフも理解を深め、子どもたちと活用していく。 また、おいしい食事ができるまでにどのような人や仕事関わっているのかに気づくことで、食の生産から消費までに興味を持てるようにしていく。
3	計画・ねらい	一つの食材から様々なものができることを知る。
	実践予定内容	大豆や小麦粉など調理、加工法で様々なものが作られることを学ぶ。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導・手洗い指導・薄着のススメ・性教育
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 5月～9月 手足口病・ヘルパンギーナ 6月～9月 アデノウイルス・咽頭結膜熱（プール熱）伝染性膿痂疹（とびひ） 10月～1月 マイコプラズマ肺炎 10月～2月 RSウイルス感染症 11月～6月 溶連菌感染症 11月～4月 感染性胃腸炎（ノロウイルス・ロタウイルスなど） 12月～4月 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ） 12月～5月 インフルエンザ 12月～7月 水痘（水ぼうそう）
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	抗ヒスタミン薬・・・1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッ	本日現在21名が、研修受講し、修得済み

フ	未受講の新入職員2名については4月1日までに受講予定
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	本日現在21名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については4月1日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み ※対象物がない園及びJW園は削除すること
	フロン点検 (簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日 ※対象物がない園及びJW園は削除すること
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／ 保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断 ※認可園のみ歯科検診年1回	内科健診 年2回／6・11月 (各園入力 東京都0歳児のみ年12回実施) 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時

	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	養護と教育が一体となった保育を目指し園内の環境を整える
	実践予定内容	個々の発達に合わせ、愛情豊かに応答的な関わりを大切にしながら、常に環境の見直し、改善を行う。
2	計画・ねらい	子どもたちが遊びこめる環境を整える
	実践予定内容	子どもたちの主体性を第一に考え、一人ひとりがじっくりと遊びこむことができる場が保障されているかスタッフ間で連携を取りながら環境の見直し、改善を行う。
3	計画・ねらい	子どもと共に考える
	実践予定内容	話し合いの場に子どもを交え、共により良い環境を考えていくようにする。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	トンネル	幼児室	毎日
2	ジャングルジム	幼児室	毎日
3	L字パーテーション	幼児室	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容 防災	危機管理マニュアルに則り、災害発生時には対応フローチャートに従う。防災計画に基づき、避難訓練を行う。
2	実践予定内容 ケガ事故防止	危機管理マニュアルに則り、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。事故防止委員会にてケガや事故の共有、検証、再発防止策を共有する。
3	実践予定内容 防犯	危機管理マニュアルに則り、不審者侵入時にはフローチャートに従う。防災計画に基づき、不審者侵入訓練を行う。
4	実践予定内容 光化学スモッグ	危機管理マニュアルに則り、光化学スモッグフローチャートに従う。また、行政の連絡に従って対応する。
5	実践予定内容 熱中症	環境省の熱中症予防情報サイトを随時確認し、子どもの活動が危険な時には屋外活動を避けるようにする。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

次世代の保育者を育てるため、また、実習生を受け入れることにより保育士自身が自らの保育を振り返り、指導する力を身に付ける良い機会となるので、積極的に受け入れていく。保育士という仕事の素晴らしさとともに、子どもの命をお預かりしているということを伝え次の世代を担う保育・福祉

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修 (年1回) ■園内研修 (月1回以上) ■保育スキル研修 (エリア別) ■リーダー養成研修 (9~2月) ■業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会 (月1回) ■デンマークインターンシップ (年1回) ■コンピテンシー自己採点 (月1回) ■人権チェック (4月・10月) ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

の現場で活躍する人材を育成していく。

受け入れる際には、全スタッフで暖かく迎え入れることができるようにし、不安なく過ごしてもらえるようにする。

1	実践予定内容	保育士志望の実習生の受け入れ
2	実践予定内容	地域中学校と連携を取り、職業体験の受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・虐待防止研修 ③ ケガ・ケーススタディ研修	コンピテンシー自己採点、自己課題 子どものケガに対する知識、応用、 人権・虐待防止に関わる研修、お互い を知り理解する
5月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点	コンピテンシー自己採点、自己課題

園長大学®保育士 大学講座および社 内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
デモンクインターソップ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に開かれた保育園を目指す。保育士からの日常の挨拶はもちろんのこと、近隣公園での保護者との関わりや他保育園とのコミュニケーションなど丁寧にかつ、積極的に関わる姿勢を持つ。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：交通公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者との交流 地域小中高校生との交流
異年齢交流	近隣保育園との交流 小学校との連携
地域拠点活動	子育て支援事業「ちきんえっぐ」
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

以下計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。小学校との交流、見学、参加を通じて

子どもたちの就学がスムーズな連携の中進められるようにする。また小学校1年生の授業を見学できるよう近隣小学校と計画を立て、1年生を知ることで逆算した保育を遂行することができるようにしていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
9月頃	山王小学校 1年	15名予定	学校訪問	子ども間交流
6月頃	山王小学校 1年	3名予定	授業参観	スタッフ間交流
2月頃	山王小学校 1年	15名予定	学校訪問	子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

個々の保育計画を立て、見直しを持って保育にあたる。日々変化していく子どもたちの様子を観察、記録し、全スタッフで共有し保護者とも共有しながら、どのスタッフでも保育ができるような体制づくりを行う。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：全正規スタッフ)

支援の必要な子どもの様子、課題から支援の方向性の共有を行う。子どもの特性を生かすことができるよう支援の経過伝え、連携をしていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

5歳児の児童要録を作成し、小学校との連携、引継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	月2回開催 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月1回開催 10:00～12:00

勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育 (支援センター主催)	月1回 公園名: 交通公園にて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年9月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 17時00分

自己評価終了予定時刻: 18時00分

自己評価実施予定者: 施設長、主任、保育士、調理員

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日: 8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	子どもたちが自分の思いを言葉で表現し、相手の思いに触れる体験を繰り返し行える場を保障する。 日々の活動や行事を子どもたちが“やってみよう”と主体となり実践していけるようにする。 保育園が子どもたちによる、子どもたちのための生活を送ることのできる場であるようにしていく。
	振り返り	子どもたちが「やりたい」「やってみたい」と思える活動を計画的に執り行うことができておらず、スタッフ同士で計画の共有もできていないことがあった。 スタッフが少ない中で自然と異年齢で活動できていたが、子どもたちの発達を見極めながら、活動していくことが課題である。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	異年齢児や保育者の背中を見て様々なことに挑戦してみる。 スタッフ同士のコミュニケーションが円滑にとれ、連続性のある保育が実践されている。
	重点施策	園児が自己決定すべきことと大人が教えねばならないことを理解する。 大人の背中を見て幼児は挑戦してみる、乳児は幼児の姿に憧れを抱く。 また、スタッフは子どもから見られている自覚を持ち規範となる。 定期的な会議の開催、計画・実行・反省の共有を行い保育内容の充実を図る。
2025年度	目指す姿	子ども自らが選択し、行動できるゾーン保育の実施。
	重点施策	ワンルームという施設を活かし、保育室内を自由に行き来できる環境を整える。スタッフは担任の枠を超え、園全体の子どもたちを見守り、援助していく。
2026年度	目指す姿	メリー★ポピンズ アトレ大森ルームならではの保育実践の公開
	重点施策	日々の保育の記録を振り返り、保育の質の向上を目指す。自園の様子や取り組みを保護者様、地域へと公開し、目指す子育てを広め、知ってもらおう。また、選ばれる園を目指す。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリー★ポピンズアトレ大森ルーム保育園 施設長 池田エミ

2024年度 市川どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

保育者は子どもの「主体性」＝「ありのままの子ども」を第一に考え、発達に合った関わりを充実させていく。安心できる環境、感情の爆発、意見の尊重、子ども同士のつながり、気持ちの葛藤、伝え合う機会の環境を保障し、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の理解と個別理解を深める努力を最大限にし、子どもを理解しようとする姿勢を大人が意識していく。何かをさせる保育ではなく、一人ひとり個性と発達に向き合い、子どもと共に成長していく共主体の意識を常に持ち合わせる職員集団を目指していく。

大人も子どももすべて自分の力でやろうとするのではなく、苦手な部分と向き合い、周囲に受け止めてもらいながら自分の得意を発見し、伸ばしていく「自立」を目指していく。

幼児期からの途切れない教育の為に小学校との連携を大切にしていき、アプローチカリキュラムを保育計画の中に落とし込み、子どもの好き得意の探索、経験を選び取る機会、気持ちが受け止められる環境の3つを主とし保育に当たることを目的とする。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

基本活動の日課、基本活動を理解し、保育に従事していく。日々の活動にはねらいを持ち、ねらいを達成するためにチームで子どもの姿を観察し子ども観を磨いていくことを念頭におく。その考えを周りにアウトプットしていく機会を多く設けていく。

子どもの権利条約、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の理解「大きな声を出さない」「子どもを否定しない」を職員間の共通理解として保育にあたる。

1	計画・ねらい	・9時出発の定着を目的とし保育を展開していく。主活動の時間を充実させ、より多くのトライ＆エラーを体験の中で引き起こす。
	実践予定内容	子どもの成長発達や保証すべき体験を子ども主体で考えられるよう、日々の昼礼の時間に振り返りを行い「子どもの姿の共有」を充実させていく。
2	計画・ねらい	子どもの権利条約、幼児の終わりまでに育ってほしい10の姿の理解
	実践予定内容	園会議、園内研修、昼礼の機会を活用し勉強会を設けていく。
3	計画・ねらい	「見守る保育」見る＝子ども理解 守る＝適切な援助の理解と定着を目的とする。
	実践予定内容	園会議、園内研修、昼礼の機会を活用し勉強会を設けていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

保育園と保護者の円滑な連携、また子どもの情報共有の場として保護者懇談会、必要に応じて、個人面談を実施していく。

子育て相談や育児不安解消を目的とした子育てに関する支援を行い、保育園と保護者が子どもを真ん中において子育てできるよう支援していく。

- ・延長保育の充実（夕食、保育内容）と緊急延長預かりも行う
- ・個人情報保護

- ・感染症等の問題が生じた場合は多様な専門機関と協力し、保育者等と保護者が共通意識を持って対応する
- ・子育てや就労等の個々の事情に配慮し子どものための最善の利益を考えていく

1	計画・ねらい	保護者参加行事を通してコミュニケーションの充実を図る
	実践予定内容	保護者参加行事（任意参加）を企画し保護者との積極的なコミュニケーションを図る。
2	計画・ねらい	子育て支援の発信
	実践予定内容	子育てスキル講座の紹介など、子育て等に関する様々な支援を行い、保護者が主体的に育児を行えるよう、子育てのパートナーとして共に子どもの成長を共有していく
3	計画・ねらい	保護者の立場として考えるということを意識していく
	実践予定内容	保護者理解、保護者支援の観点を意識し研修を行っていく。単に知識の詰め合わせではなく「保護者の気持ちになる」をキーワードにした研修をチームで築いていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

- ・子育て体験（保育体験月2回）を通して地域子育て支援活動を実施
- ・地域子育て支援に関する情報の提供
- ・青空保育毎月1回
- ・勝手籠（無人無料フリーマーケット）設置

地域の人と繋がり子育てしていくことを目指す。子育て支援の拠点として、世代間交流（シニア交流・実習生を含む学生との交流・中学生の職場体験）地域子育て計画を元に時代に合わせた子育て支援を展開していく。

1	計画・ねらい	子育てのスキル講座の活用
	実践予定内容	子育て相談や子育て世代の繋がりを目的として支援事業を展開していく。
2	計画・ねらい	世代間交流（シニア交流・実習生を含む学生との交流・中学生の職場体験）
	実践予定内容	地域に開かれた保育園を目指すべく、シニア交流・実習生を含む学生との交流・中学生の職場体験の機会を大切にしていく。
3	計画・ねらい	子育て体験（保育体験月2回）を通して地域子育て支援活動の充実
	実践予定内容	地域に開かれた保育園として、スペースや時間を有効活用しながら地域の保護者が安心できるような場所を目指していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

子どもの人権、子ども基本法、子どもの権利条約を意識して保育を展開していく為、保育所保育指針の理解を深め、チームとしての保育の質向上を目指していく。ドキュメンテーションやエピソード記録、ウェブマップといった内容をテーマに研修を行っていき、インプットとアウトプットの機会を多くつくっていく。

1	計画・ねらい	保育の質を上げる会議と連動し、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について理解を深めていく。
	実践予定内容	保育の質を上げる会議、参加代表者と連携し勉強会を進めていく。ファシリテーションスキル向上も目的とし、学び合う集団を目指していく。
2	計画・ねらい	子どもの権利条約、保育所保育指針の理解
	実践予定内容	園会議、園内研修、昼礼の機会を活用し勉強会を設けていく。
3	計画・ねらい	共主体の理解と定着を目的とする。
	実践予定内容	園会議、園内研修、昼礼の機会を活用し勉強会を設けていく。

〈5〉環境実施目標

幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿の「健康な心と体」に着目し、子どもにとって環境が安心でき居心地の良い空間になるよう整えていき、子ども大人も自らが環境に関わり自発的に活動し様々な経験を積むことが出来る、共主体の環境を作っていく。

1	計画・ねらい	物的環境・人的環境についての理解を深めていく。
	実践予定内容	園内研修、環境勉強会にて理解の深め合いを行う。子どもの興味・関心から環境の課題を見つけ、子どもが自ら考えられるような関りと、遊びの続きがしたくなるような環境を目指していく
2	計画・ねらい	充実した保育計画の実施、保育の質の向上
	実践予定内容	ねらいにあった保育を充実させるために子ども観の共有や発達段階に合わせた環境構成を園内研修、自主勉強会、幼児会議、乳児会議から学んでいく。
3	計画・ねらい	清掃・美観を念頭に置いた仕組み作り
	実践予定内容	保育園で毎日過ごす、子ども、スタッフ、ヤギや鶏はもちろんこと保護者や訪問者にとっても過ごしやすく居心地の良い場所となるように日々の清掃や美観に対して敏感になる。

〈6〉就学に向けての取り組み

・小学校との接続におけた連携の重要を図る「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力。人間性等」は中学まで共通化されることを念頭におき、《三つの柱》を保育者が理解し、幼児期までに育って欲しい姿を含め、《環境を通して行なう教育》「遊びを通して学ぶ」ことを総合的に保育の中で意識し行っていく

・保育園にける子ども達を取り巻く学習の形がどうなっていくのかを把握し、スタートカリキュラムに繋げるため「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を保育の中に落とし込む。

1	計画・ねらい	7月頃 場所 鬼高小学校 交流会を開催
	実践予定内容	小学校へ足を運び小学生との交流をしていく。学校探検・授業体験を通して小学生へのイメージを持ち、期待感を持って就学を迎えられることを目的とした交流会である。
2	計画・ねらい	7月頃 場所 市川どろんこ保育園 交流会を開催
	実践予定内容	小学生との交流をしていく。交流を通して小学生へのイメージを持ち、期待感を持って就学を迎えられることを目的とした交流会である。

3	計画・ねらい	アプローチカリキュラムの理解と充実
	実践予定内容	園会議、園内研修、昼礼の機会を活用し勉強会を行い、スタッフがアプローチカリキュラムを理解し0歳からのアプローチカリキュラムを充実させていく。

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
12人	18人	18人	24人	24人	24人	120人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	3人	事務	1人
パート スタッフ	保育士	6人	補助	1人	用務	1人	嘱託医	2人

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	コンピテンシー・園内研修 (子育ての質を上げる会議・ウェブマップ・エピソード考察・環境勉強会・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿)
給食運営会議	月1回	給食会議・アレルギー対応・衛星点検
事故防止委員会	月1回	他園自園の事故記録簿考察・インシデント考察・ヒヤリハット考察

ケース会議	月1回	子どもの様子の共有・関係機関との連携
幼児会議	月1回	月案・週案ねらいの確認・様子の報告・課題の共有
乳児会議	月1回	月案・週案ねらいの確認・様子の報告・課題の共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人全体での課題解決・業務連絡
施設長勉強会	月1回	意見交換・ディスカッションでの学び合い
食育会議	年4回	法人全体で給食改善を目指した意見交換・ディスカッション
保健会議	年4回	法人全体で園児健康管理業務改善を目指した意見交換・ディスカッション・流行的感染性の把握
主任会議	年4回	主任としての意見交換・ディスカッションでの学び合い
子育ての質を上げる会議	月1回	法人の保育の質向上の為の講義・意見交換・ディスカッション

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	法人全体で園児健康管理業務改善を目指し、各園が園会議で検討した事項を元に開催する
安全対策係	設備点検・人権チェック・衛生推進者の職務遂行
防火管理者	消防計画の作成と届け出・自主検査チェック（日常）避難・消火・通報訓練の実施管理・防災対策・自衛消防隊の編成
食品衛生責任者	衛生管理点検表・職員細菌検査実施・食品衛生上の管理
畑係	畑活動に対する発信・現状把握
生き物係	生き物に対する発信・現状把握

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者と一緒に連携しながら行う

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者等に見守られながら、好きな遊びを楽しむ ・子どものそれまでの経験や発達過程に留意し、子どもの気持ちを受容し、共感しながら継続的な信頼関係を築いていく ・職員間の連携や嘱託医との連携を図る ・栄養士・看護師は、その専門性を生かした対応を図る
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・土や水等に触れ、全身で感触を楽しみ、感性を育む ・安心できる保育者等の関わりの中で人への基本的信頼関係をもち、人間関係の基礎を培う ・個々の発達の状況を捉え、生命の保持と情緒の安定を図り、生活リズムを作る ・職員間の連携や嘱託医との連携を図る ・栄養士・看護師は、その専門性を生かした対応を図る
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身に付け、喜びながら意欲的に生活する ・友達との繋がりを広げ、集団で行動する事を楽しむ ・異年齢で生活をする中で思いやりの心、協力し合う心を養うと共に達成感を知る
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境や自然などに自ら関わり、様々な事物や事象と自分達との生活との関係に気付き、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の経験を広げる ・小学校以降の生活や学習の基盤の育成に繋がることに留意し、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培う <p>(幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿を考慮する)</p> <p>友達と歌を歌ったり合奏することで、ひとつの物を作り上げる楽しさを知るとともに、動きや言葉などで表現したり演じる楽しさを知る</p>
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

【どろんこ会の食育方針】

- (1) 調理員、保育士、施設長は子どもと一緒に食べる
- (2) 噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供
- (3) 子どもが自分たちで盛付、配膳して食べる

以上、の3点を基本とする

- ・子どもの発達に応じた配慮を保護者と連携しながら行う
- ・子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事の提供をする

1	計画・ねらい	子どもが食に対して興味・関心が持てるよう日々の保育の中で積極的に食育活動を取り入れていく。
	実践予定内容	旬な野菜を取り入れたクッキングや、畑で収穫した野菜を素材の味を活かし子ども達に提供する。 魚の解体等、食育を通して命をいただくことが感じられるような体験を実施する。
2	計画・ねらい	調理スタッフと連携を図りながら食育活動に力を入れていく。
	実践予定内容	調理スタッフの積極的な保育参加により離乳食の進み具合や食事の状況を確認、子ども達の野菜への興味関心の向上。年長児は小学校へ向けた認知能力の刺激といった部分の教育をしていく。
3	計画・ねらい	月1回の給食会議にて情報の共有を行う。
	実践予定内容	離乳食の進み具合や食事の状況を確認し、発達に合わせた援助を行っていく。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いうがい ・歯磨き指導 ・性教育（年長児希望者のみ）
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス

	感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 夏頃…手足口病、ヘルパンギーナ 冬頃…インフルエンザ、感染症胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ…6名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在16名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員4名については3月21日までに受講予定
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	本日現在16名が研修受講し、修得済み 未受講の新入職員4名については3月21日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検 (簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月

		歯科健診 年2回/6月・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

子どもにとって環境が安心でき居心地の良い空間になるよう整えていき、子ども自らが環境に関わり自発的に活動し様々な経験を積むことが出来る環境や発達が保障できる環境を作っていく。

保育室は温かな親しみとくつろぎの場となるとともに、生き活きと活動出来る場所を目指していく。

1	計画・ねらい	物的環境・人的環境についての理解を深めていく。
	実践予定内容	園内研修、環境勉強会にて理解の深め合いを行う。子どもの興味・関心から環境の課題をみつけ、子どもが自ら考えられるような関りと、遊びの続きがしたくなるような環境を目指していく
2	計画・ねらい	発達（個別理解と発達段階）の理解、保育の質を上げていく。
	実践予定内容	発達段階に合わせた関りを行うため、昼礼等で共有した子どもの姿から必要な関りや発達を学んでいく。
3	計画・ねらい	清掃・美観を念頭に置いた仕組み作り
	実践予定内容	保育園で毎日過ごす、子ども、スタッフ、ヤギや鶏はもちろんこと保護者や訪問者にとっても過ごしやすく居心地の良い場所となれるように日々の清掃や美観に対して敏感になる。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し避難訓練を月1回実施。震度5弱以上の際は園が情報を発信し、安否・施設状況・避難先を情報共有する体制をとる。帰宅困難者対策を踏まえ、災害に備える。
2	実践予定内容	事故防止チェックリストについて、年4回設備点検6回を行い、事故防止の徹底を図る。
3	実践予定内容	インシデント・ヒヤリハット報告の分析
4	実践予定内容	法人内で事故報告を共有し、事故防止策を探る
5	実践予定内容	年2回防犯チェックリストに従い、確認し合わせて不審者訓練を実施。訓練は避難訓練・不審者訓練・通報訓練とし職員全員を対象とする
6	実践予定内容	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・光化学スモッグ注意報を把握し、発令があった場合は内容にあった情報を発信する。園児・職員は室内で過ごす。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

小中高生の保育体験、ボランティアの受け入れ

・協働で進める保育実習

受け入れられる実習生の不安な気持ちを受容して、応答的な関わりが出来るようにする
実習体験からの学びを、学生と保育者と相互に対話を重ねて、確認する

保育者は、実習指導を担うことでリーダーとしての力を身に付け、キャリアアップする
実習指導での気づきが園全体の保育の質を上げる

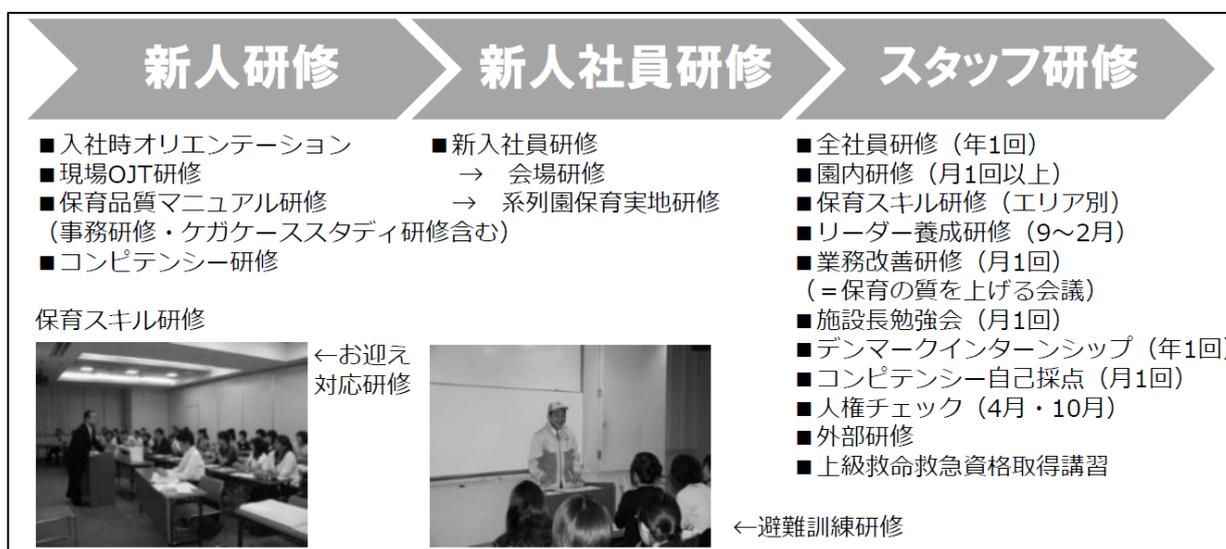
1	実践予定内容	近隣の養成校と連携をとり、実習生の学びの充実を図ると共に保育業界の質を担保していく。
2	実践予定内容	実習指導者は学生の指導を通して、自身のリーダーとしてのアウトプットスキルやファシリテーションスキルを向上させる。

7. スタッフ育成と研修計画

発達段階、子どもの姿の共有、めざす姿の確認の内容を念頭において研修を進めていく。子ども観の共有は職員のコミュニケーション向上にも効果的であり「保育の課題」「大人の課題」というように極端に分けた考えではなく共主体の保育を実現するために必要な「人対人コミュニケーション」を意識した勉強会を園内で行い、課題を自分たちで発見しチームで解決に向けて進んでいけるような保育を展開できるようにしていく。

子どもの成長や日々のエピソードの共有を保護者とも行い「子どもを真ん中においた子育て」を目標としていく。

毎月の園会議にてコンピテンシーの追及を行い「プロになる」「保護者の立場に立つ」について深めていき「計画・実行する」「判断する」も意識し、子ども観の振り返りや伝達の質等、子どもの成長を保護者に伝える工夫について考えていく。



〈1〉2024年度園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理研修	「子どもの人権」についての虐待防止研修 園内、園外ハザードマップの見直し ウェブマップを活用した研修
5月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 見失い防止	職員間で危険な箇所を室内外共見直し、安全に努める。散歩ルートの危険箇所の検証と対策 ウェブマップを活用した研修
6月7日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境構成	梅雨の時期の室内遊びの有効な過ごし方 室内遊びの工夫、環境の見直し ウェブマップを活用した研修
7月5日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びのリスクマネジメント	子どもを水遊びの危険から守るためのリスクの共有 水遊び、プールが始まる前の注意すべき点の共有 ウェブマップを活用した研修
8月2日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理研修	熱中症や脱水症状といった夏に起こりやすい症状の確認、対策 ウェブマップを活用した研修
9月6日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理研修	「見失い」「置き去り」を防ぐためのリスクマネジメント研修 子どもの姿の共有(現状把握と対応) ウェブマップを活用した研修
10月4日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 見失い防止	虐待防止研修 職員間で危険な箇所を室内外共見直し、安全に努める。散歩ルートの危険箇所の検証と対策 ウェブマップを活用した研修
11月1日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 感染症対策	感染症を拡大させない為の対策 室内清掃や嘔吐処理の再確認 ウェブマップを活用した研修
12月6日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 見守る保育	エピソード研修、考察を行う ウェブマップを活用した研修
1月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境構成	環境構成の見直し、子ども観の考察 ウェブマップを活用した研修
2月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第1回策定会議	次年度の事業計画に向けた目標設定 チーム保育研修 ウェブマップを活用した研修
3月2日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第2回策定会議	年間行事計画の作成 畝研修

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の人と繋がり子育てしていくことを目指す。子育て支援の拠点として、世代間交流（シニア交流・実習生を含む学生との交流・中学生の職場体験）地域子育て計画を元に時代に合わせた子育て支援を展開していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：遺跡公園にて
商店街ツアー	週1回

世代間交流	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携を積極的に行い、多様な年齢層との交流の中で人との繋がりを大切にしていく。「物おじせず、誰とでも目を見て話ができる子ども」を育む。 ・お年寄りを大切にする優しい心を育む。
異年齢交流	<ul style="list-style-type: none"> ・養成校とスムーズかつ教育的な視点で実習期間を過ごせるよう連携していく。 ・職場体験という貴重な学びの時間を充実させるため学校側と連携を取っていく。
地域拠点活動	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高生の育児体験受け入れ ・実習生の受け入れ
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

保育所保育要録の送付

保育園で積み重ねられた子どもの育ち（保育所保育指針 第1章総則 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をもとに）を、小学校での生活や学びに繋げていくことが重要と考える。

以下計画について、就学前支援の取り組みについて小学校と相談・協議を開始する。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
7月頃	鬼高小学校	24名予定	交流会（鬼高小校庭）	子ども間交流
10月頃	鬼高小学校	24名予定	市川どろんこ保育園（当園幼児保育室）	子ども間交流
2月頃	鬼高小学校	5名予定	授業参観	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

関係機関の機能を有効に生かし、子どもが健やかに成長すること、保護者が安心して子育てできることを目指す。毎月幼児会議、乳児会議を行い、その都度どのように支援を行っていくかを話し合っ
て進めていく。

〈2〉 毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：施設長・主任・担当職員)
施設長・主任・担当職員

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

個別支援計画を基に進級、小学校への引き継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(金) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(水) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：遺跡公園にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉 園による自己評価の実施

2024年6月3日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：13時00分

自己評価終了予定時刻：14時00分
自己評価実施予定者：施設長、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：8月25日

1 3.3 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	スタッフが保育の基本活動の目的や意味を理解しながら日課、基本活動を丁寧に取り組む。スタッフ同士がお互いの考え方、価値観の違いを認め面白がり、心理的な安全を感じながら、誰もが生き活きと挑戦できる環境をつくる。Try&errorを大切にしながら、一人ひとりの強みや特性を活かした保育を行う。
	振り返り	保育の基本活動に重点をおきながら上半期は指導を行った。下半期はスタッフとの対話を大切にしながら保育観をチームで共有できるよう園内研修の際にウェブマップを活用し個々の考えをチームに広げていった。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	園の課題をチーム力で解決できる職員集団を目指す
	重点施策	毎月の園内研修にて自身の考えを発信できるよう、意見交換の機会を多く設ける。
2025年度	目指す姿	園運営をスタッフ一人ひとりが自分事と捉え、主体的に業務を行い、自律した職員集団を目指す
	重点施策	トップダウンの園運営ではなくスタッフ一人ひとりの特徴や子ども観をチームで共有しリスペクト型マネジメントの考えを中心としていく。
2026年度	目指す姿	スタッフ一人ひとりの視座が高く、リーダー層が年間を通して人材育成の視点を持ち、業務にあたっている。
	重点施策	リーダーを中心とした園運営を行い、保育を取り巻く世の中の情勢を理解し業務にあたる。

以上

2024年度 新座どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

- ・「にんげん力。育てます。」の理念に基づき、障害の有無に関わらず、すべての子どもが自ら経験を選び取ることができる環境の下、生きる力のある心も体も逞しい子を育てる。
- ・新座市の豊かな自然環境を活かし、野外体験や主体的な遊びを通して、他者とのぶつかり合いや友だちと力を合わせて一つのものを作り上げる体験を繰り返し、生きる力(感情制御力・人と関わる力)を培う。
- ・就学を見据え、幼児の終わりまでに育ててほしい10の姿を具現化し、0歳児から逆算した保育を行う。
- ・毎日の基本活動を通して、子ども自らが食材や食の循環に触れ、環境への意識を育む環境教育を実践する。
- ・職員は、自らの保育力・人間力の向上に努め、未来を生きる子どもの育成に必要な幼児教育を追求し続け、学び続ける集団となる。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの「生きる力を育む」ための日課・基本活動の実施
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日課・基本活動の意義を改めて理解し、大人が背中を見せ、子どもと一緒に行う。 ・「大人が教えねばならぬこと」を理解・把握し、計画的に環境を用意する。 ・日課での子ども1人ひとりの育ちを職員間で共有する。
2	計画・ねらい	子どもの育ちを語り合える職員集団となる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、子どもについての発見の喜びを語り合いながら、どんな育ちにつながっているか、語り合いが日常となる風土を作っていく。
3	計画・ねらい	インクルーシブ保育の確立
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢や障害の有無に関係なく、子ども自らが主体的に遊びや活動を選べる物的環境とそれを見守れる人的環境の構築を図る。 ・インクルーシブ保育についての研修受講

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の心に入り込んだ接遇
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大切なお子さんを預ける不安を理解し、安心して仕事ができるようサポートしていく。 ・保護者の立場に立ち、思いやり、誠実さ、謙虚さ、感謝の気持ちを忘れずに接する。 ・どんな時も丁寧に大きな声で挨拶をする。
2	計画・ねらい	利用者から選ばれる園になる

	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のコミュニケーションを大切にし、お迎え時には、一日の様子を丁寧にお伝えし、信頼関係を築いていく。 ・個人面談の実施
3	計画・ねらい	保護者参加行事の実施
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会・生活発表会・どろんこ祭りの他に、親子で参加できる行事の計画を立てる

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた施設を目指す
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭解放、畑の解放で、地域の方の出入りが盛んになるきっかけを作る。
2	計画・ねらい	子育て支援センターの利用者を増やす
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・季節に合わせたちきんえっぐ（自然食堂、自然学校、芸術学校、寺子屋）の活動内容を外部に発信して集客を図る。 ・地域の方が集える場所、子育て相談ができる場所として発信していく。
	計画・ねらい	地域参加行事の開催
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・畑の解放を通して、収穫祭や加工を地域の方と計画して、園児との交流を図ると共に地域の拠点をめざす。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人の人間力UP
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・職員はMBOを設定し、目標達成のための具体的な研修計画、育成計画を立て、上長と進捗確認をしながら進める。 ・全職員が子どもに教えなくてはならないこと、基本活動の意味を理解し、大人も主体的に、背中を見せていく。
2	計画・ねらい	園長大学、保育士大学の講座を使った年代別研修の実施
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1.2年目職員…社会人としてのマナーや基本的スキルを身につけるための研修を受講し、園会議での発表、レポート提出をする。 ・中堅層職員…保育士スキル、接遇スキル、危機管理スキル向上のための講座受講、ディスカッション、レポート提出をする。
3	計画・ねらい	リーダー育成
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーとしての役割を理解する。 ・チームの課題を抽出し、PDCAサイクルで問題解決を図る。 ・リーダーによるスタッフ個人面談の実施 ・逆算した行事進行と報連相

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	鶏を絞めて食す体験
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・鶏が解体されていく過程を見ることで、命をいただいていることに気づき、食の循環を知る。
2	計画・ねらい	生きものの世話や畑仕事をする中で、労働の意味を感じる

	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児を中心に異年齢でヤギ小屋清掃、えさやり、糞をコンポストに混ぜるまでを日々行う中で、生きものを飼うために必要なことや、食の循環、みんなで掃除をするためにはどうしたら良いかを考える。 ・毎日畑仕事を取り組む中で、畑の状態や季節・気候によって何をしたら良いかを考え、収穫の喜びや天の恵みに感謝の気落ちを持つ。
--	--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈6〉子どもの表現力を培う

1	計画・ねらい	表現する喜びを提供する（子どもの権利）
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや考えたことを好きな時に好きな素材を使って思い思いに表現を楽しみ、さらにはその表現を大事にされたり、思いを受容されたりしながら、造形表現を通して表現する喜びを感じる。造形表現は何かをつくることを目的としない。 ・様々な素材の特徴や表現の仕方に気づき、感じたことや考えたことを表現することに意欲を持ち、豊かな感性を育む。
2	計画・ねらい	自己表現を尊重する
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者は遊びや生活の中で子どもの様々な表現に気づき、まだしゃべれない乳児や気持ちが上手に表現できない幼児の気持ちにも寄り添い、丁寧な言葉で代弁することで言葉の獲得や言語表現の心地よさを感じる ・遊びの延長上にある表現活動は自由な空間で、異年齢児が混ざり、自由に自己表現を楽しめる場にする

〈7〉就学への取り組み

1	計画・ねらい	小学校1年生を見て知り、逆算した保育を遂行する
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年生の授業見学 ・職員間共有(年2回) ・子ども間共有(年2回以上) ・アプローチカリキュラム作成
2	計画・ねらい	小学校就学に向けた0歳児からの保育を考察する
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼児の終わりまでに育てほしい10の姿」を体得し、環境の整備や保育者の関わりを意識して、逆算した保育計画の作成を行う。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	15人	15人	15人	15人	15人	81人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	0人	補助	1人	調理	0人	事務	1人
	用務	2人						

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	研修計画に基づき研修
給食運営会議	月1回	食育計画、献立の振り返り・食環境の振り返り
事故防止委員会	月1回	前月のヒヤリハット、インシデント分析・危機管理研修
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返りと計画
乳児会議・幼児会議	随時	月案、週案の確認・課題の振り返り、見直し
リーダー会議	随時	課題抽出、解決案の検討

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人全体での事務連絡・経営方針の解説
施設長勉強会	月1回	マネジメント研修・コンプライアンス研修・課題改善取り組み発表
食育会議	年4回	マニュアルの確認・食育研修
保健会議	年4回	保健管理業務の共有・確認・改善

主任会議	月1回	マネジメント研修・主任の役割・各園の課題改善アクションプランの進捗と共有
子育ての質を上げる会議	月1回	子育ての質を上げるための研修・課題抽出・課題改善計画立案及び取組成果発表

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	子ども、職員の健康保持のための環境整備 感染症予防における業務の維持・温度、湿度、換気確認
安全対策係	避難訓練（毎月）、不審者侵入訓練（6月/12月）の実施と振り返り、 設備点検（5月・7月・9月・11月・1月・3月の25日）、事故防止自主 点検（4月・7月・10月・1月の25日）
防火管理者	消防計画作成と届け出 安全対策係の任命 自主点検チェック（日常） 防災用備蓄の確認（6月・12月）
食品衛生責任者	衛生管理、点検作業実施 食育会議計画と実施 食育計画の作成と振り返り 作業手順と作業記録の作成
畑係	畑の管理

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	企画・運営、保護者との連携

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・生理的欲求を満たし、それぞれのリズムで安心して過ごす ・保育者との信頼関係を深める ・環境とのかかわりの中で、好きな遊びや探索活動を十分に楽しみ、友だちへの関わりの芽生えを促す
------	--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験を通して感性を豊かにし、感じたことや気持ちを保育者に受け止めたもらいながら、表現の喜びを感じる ・身近な自然に興味を持ち、五感を使って楽しむ ・保育者や友だちと一緒にいることで安心し、様々なことに興味・関心を広げる ・生活や遊びの中で、自分でやってみようとする気持ちに丁寧に寄り添い援助する中で、基本的な生活習慣が身につく
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の中で保育者や友だちに親しみを持ち、他者と共に遊んだり、生活することに喜びや楽しみを見出す ・興味関心をもったことに主体的に関わり、発見を楽しんだり、考えたりしながら、遊びに取り入れていく ・様々な素材や画材に触れ、思いおもいに表現することを楽しむ
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の関わりの中で、生活や遊びの達成感や充実感を味わう経験を保障する ・遊びや生活の中で、自分の気づきや、考え、思いを、友だちと共有しながら、互いに試行錯誤したり、創意工夫したりして、1つのものを作り上げる ・心を動かす様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培う
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	十分に体を動かし、空腹で食事に向かうリズムをつくる。
	実践予定内容	・午前活動は、9時に散歩出発、乳児は11:15、幼児は11:45まで十分に戸外遊びを楽しむ。
2	計画・ねらい	食事を通じたコミュニケーション
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな人と好きな場所で食べて美味しいと感じる子どもを育てる。 ・調理員・保育士・施設長は、子どもと一緒に食事を取り、楽しむ。
3	計画・ねらい	食材・食の循環を知る直接体験を行う
	実践予定内容	・畑仕事を日課とし、収穫野菜を加工する。

	・魚の解体などの体験を通して、命あるものをいただいていることを知り、感謝の気持ちを育む。
--	----------------------------------------------

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（5月・10月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導・手洗い指導
流行が予測される感染症	通年…新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 12月頃…ウイルス性胃腸炎 1月頃…インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ…3名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 アレルギー薬…1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在18名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	AED設置なし
その他保健に関する取組	・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み

	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子ども自らが様々なものに主体的に関われる物的環境の整備
	実践予定内容	・土・砂・水・氷・お湯・寒天水・石鹼・野菜・虫・動物・木の実・ほうき・ちりとり・トング・スポンジなど、多様なものを常設し、子ども自身が好き・得意を探索できるよう見守っていく。
2	計画・ねらい	子ども自らが経験を選び取ることができる活動の提案
	実践予定内容	・子どもの発達や興味関心を考察し、複数の体験活動を計画・実践する。
3	計画・ねらい	協働力を身に付ける遊び環境
	実践予定内容	・子ども同士がグループで話し合い、役割を分担し、一つのモノ・成果物・ルールなどを創り上げる活動を仕掛け、合意形成エラーや感情コントロールエラーを繰り返す経験からコミュニケーション力を養う。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	登りロープ	園庭	毎朝
2	園庭水道パーテーション	園庭	毎朝

3	やぎ鶏小屋	園庭	毎朝
4	長椅子 4個	幼児室	毎朝
5	鏡	幼児室	毎朝
6	コンポスト 2個	畑	毎朝

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	消防計画に基づき自衛消防隊を編成し避難訓練を毎日15日に行う。また、法人専用の「うちのこアプリ」にて災害時緊急連絡を使用し、園が情報を発信安否・施設状況・避難先を情報共有する体制をとる
2	ケガ事故防止	・ヒヤリハット共有と分析、インシデントの検証と対策 ・自園で起こった事故はその日のうちに事故防止委員会を開き、事故の検証と対策を講じる。事故防止として他園で起きた事故について検証を行う ・交通安全教室を実施し、交通マナーの基本を学ぶ
3	防犯	年2回不審者侵入訓練を実施する。また、訓練は避難経路確保・不審者撃退・通報の訓練で全スタッフを対象とする
4	光化学スモッグ	・光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響を把握する ・光化学スモッグ注意報の発令があった場合は内容にあった看板・貼紙等を提示する

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

- ・依頼のある中高生の体験学習やボランティアを積極的に受け入れする。オリエンテーションでルールや園内の案内を行い、安心して体験できるようにする。
- ・保育・社会福祉系大学、専門学校等の保育実習に関しては、将来の人材育成であることを踏まえ積極的に受け入れをし、目標を持って実習に励むことができるように丁寧に指導する。また、保育実習指導を通して、職員自身の保育を見直す機会にする。

1	実践予定内容	保育士養成校からの実習生の受け入れ
2	実践予定内容	近隣中学校からの職場体験受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修

- 入社時オリエンテーション
- 現場OJT研修
- 保育品質マニュアル研修
(事務研修・ケガケーススタディ研修含む)
- コンピテンシー研修

保育スキル研修



←お迎え
対応研修

新人社員研修

- 新人社員研修
→ 会場研修
- 系列園保育実地研修



←避難訓練研修

スタッフ研修

- 全社員研修 (年1回)
- 園内研修 (月1回以上)
- 保育スキル研修 (エリア別)
- リーダー養成研修 (9~2月)
- 業務改善研修 (月1回)
(=保育の質を上げる会議)
- 施設長勉強会 (月1回)
- デンマークインターンシップ (年1回)
- コンピテンシー自己採点 (月1回)
- 人権チェック (4月・10月)
- 外部研修
- 上級救命救急資格取得講習

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 虐待防止研修 ③ 危機管理研修 ④ 日課の理解	・危険予測・対策・職員連携についてディスカッションする ・日課の確認と理解
5月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学視聴研修	・年代別に視聴、ディスカッション
6月7日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺の危機管理研修 ③ 心肺蘇生	・水辺で起きうる事故を知り、マニュアルの読み合わせと確認 ・肺蘇生術を学ぶ ・水遊び・感触あそびがもたらす子どもの育ち・夏の環境・取り組みのディスカッションをする
7月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保護者支援 ③ ポートフォリオ研修	・「保護者の立場に立つ」についてディスカッションする ・ポートフォリオを通して子どもを観察する目を養う
8月2日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境整備 ③ 園長大学視聴研修	・OODAループで環境を見直す ・年代別に視聴、ディスカッション
9月6日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② リズム体操研修	・リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施

10月4日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日課の振り返り ③ 園長大学視聴研修	・ 日課から見える子どもの育ちの共有 ・ 見直し・クオリティーを上げる取り組み ・ 年代別に視聴、ディスカッション
11月8日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 焚火研修	・ 焚火の魅力とリスクを知る ・ 焚火時のルールの確認
12月6日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画書振り返り	・ 事業計画書を振り返り、課題点を抽出し、次年度の目標をイメージ・共有する
1月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育の振り返り・スムーズな進級・4月までの生活に向けて	・ 保育の振り返り、4月までの保育についてディスカッション
2月21日	18:00~21:00	② 第一回策定会議	・ 次年度の事業計画に向けた目標設定
3月2日	9:00~18:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第二回策定会議	・ 年間事業計画の作成 ・ 畝づくり研修

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日~30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターソップ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の方が自由に園を利用し、集いの拠点となるよう、園開放を積極的に行っていく。地域で子どもたちの安全や成長を見守り、更には共に子育てができる施設を目指す。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：ほたる公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人ホーム訪問、地域の高齢者との交流
異年齢交流	小中高生の職場体験・ボランティア・小学校交流
地域拠点活動	園開放・保育参加
銭湯でお風呂の日	月1回（3～5歳児）

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

子どもの生活の連続性を踏まえ、スムーズな接続を目指し小学校教諭と相互理解を図っていく。小学校の生活を知り、アプローチカリキュラムを作成し学びの基礎を培う。また、小学校見学や交流会に参加し、小学校就学へ期待が持てるようにしていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を6月2日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
----	----------	------	----------	----

7月頃	新座第四小学校	2名予定	ブロック別意見交換会（第四小学校）	職員間交流
12月頃	新座第四小学校 1年生	15名予定	授業参観（新座第四小学校）	子ども間交流
1月頃	新座第四小学校 1年生	15名予定	小学生と交流会（新座第四小学校）	子ども間交流
2月頃	新座第四小学校	2名予定	ブロック別意見交換会（第四小学校）	職員間交流
3月頃	新座第四小学校	2名予定	情報共有（当園）	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

対象児童の様子に合わせて、年に2回以上計画をたてる。

月1回のケース会議で振り返りとスタッフ間の共有を行い、見直していく。

〈2〉 毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定 参加者：5名予定）

個別支援系買うの振り返りと次月計画の確認

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

小学校への引継ぎは児童指導要録、または、各校の担当職員と面談を行う。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	月2回 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月2回 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00

ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：ほたる公園にて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年6月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻： 9時00分

自己評価終了予定時刻： 16時00分

自己評価実施予定者：横田修太朗、千代田春花

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフは子どもの気持ちや思いを受け止め、安心して主体的に遊びや生活ができるよう見守る保育の実践を基本とする ・子ども理解を図るため、子どもの姿を観察し、様々な記録や語り合いを元に一人ひとりに必要な援助を職員間で共有し行っていく ・子ども一人ひとりが主体的に遊び込める環境を常に課題とし、子どもの姿ベースで見直しを図っていく ・SDGsを意識できる活動を取り入れながら、子どもたちの中に根付くようにしていく ・5歳児は、子どもたちで話し合い活動を決めていく経験をし、主体性を育む
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者は1年を通してポートフォリオ作成を行ってきた。子どもの姿を観察し考察することで、保育の質の向上につながったと感じる。語り合いは少しずつ増えているが、記録を用いての子ども理解の定着までには至らなかった。 ・子ども一人ひとりが主体的に遊び込める環境の整備を図ってきたが、一人ひとりの発達を促す丁寧な環境の整備までには至らず、次年度も引き続き課題としていく。 ・5歳児は話し合いで必要なルールを決める活動や、感情のぶつかり合い

		から他者の気持ちを考えること、折り合いをつける事を経験し、考える力が身についてきている。幼児の終わりまでに育ててほしい10の姿を体得し、0歳児からの保育の逆算を図っていく。
--	--	----------------------------------------------------------------------------------------

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	日課が充実し、子ども主体の生活や遊びが定着する
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者は基本活動の理解を深め、子どもに背中を見せ一緒に歩いていく。 ・ 遊びや生活のルール、行事の内容など、5歳児を中心に話し合い、子ども主体の活動となるよう保育者はファシリテーターとなり見守っていく。 ・ 保育園は大きな家となり、年上児は年下児の世話や見本となり、育ちあいの場となる。 ・ 保育者は日々の保育を振り返り、子どもの遊びが継続・発展していくよう環境の構築を繰り返し行っていく。 ・ 園に通う保護者に安心していただけるよう丁寧な対応を心掛ける。
2025年度	目指す姿	スタッフ一人ひとりが保育を語ることができ、地域や保護者から愛される園になる
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新座の恵まれた自然環境の中で、1つでも多くの体験ができるよう環境や体験を提案・実践し、育ちを保護者に丁寧に伝えることができるプロ集団になる ・ 地域の子育ての拠点として、子育て相談や交流がなどニーズに合った支援をしていく
2026年度	目指す姿	大きな家で、子どもも大人も主体的に協働している
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活をする中で、必要なことを子どもと大人で話し合い決めていく。 ・ 未来を生き抜く子どもの教育を持論し合える職員集団となる

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：新座どろんこ保育園 施設長 新居 一枝

2024年度 仲町どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

約3年間の経済停滞期間を終え再開されたこの社会の価値観は大きな変化を遂げた。経済産業省の「未来人材ビジョン」会議によると今後の日本では次の社会を形づくる若い世代に対し、以下のような人材が求められているとしている。それは

- ・「常識や前提にとらわれず、ゼロからイチを生み出す能力」
- ・「夢中を手放さず一つのことを掘り下げていく姿勢」
- ・「グローバルな社会課題を解決する意欲」
- ・「多様性を受容し他者と協働する能力」

である。まさにどろんこ会が目指す子どもの姿と考える。

我々は今後未曾有の社会の中でこれらの能力を持ち、逞しく生き抜いていく子どもたちの育成に関わる集団として、子どもたちに必要だと感じたものは惜しみなく実現せねばならない。そして大人も主体性を以て考え、学び、動く、自立した組織になる必要がある。その為に今年度仲町どろんこ保育園では以下の方針としたい。

【法人理念】

「にんげん力。育てます。」

【法人子育て目標】

「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

【仲町どろんこ保育園 基本方針】

＝子どもの人権が守られ、大人が主体性を以て考え、学び、動く、自立した集団＝

- 1, 子どもの人権を尊重しながら最大の利益を優先し成長を見守る為、大人は何をすればよいのかを考え、その結果自身も主体性を以て考え、学び、動く。
- 2, 子どもの主体性を尊重する保育の実践をする。子ども自身が選択・選び取る環境を設定し、子どもが援助を求めてきた際に保育者は援助する。
- 3, 小学校1年生を見据え、逆算した保育を実践する。その為に子どもも大人も学び続け、井の中の蛙にならない。学び続けるからこそ技術が身に付き視野が広がり、心身ともに豊かになる。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

「共有」を「丁寧」に実施することでリスクマネジメントを確実にすることを前提とし、基本となる保育を進める。その上で、子どもにとって「大人になる為に必要なことは何か」を職員より考え抜かれた体験活動を実施する。

1	計画・ねらい	子どもも大人も「逞しく生き抜く力」＝にんげん力を育む
	実践予定内容	日課・基本保育活動の徹底と戸外活動時間の確実な確保。 なぜ戸外活動時間を確保するかを明確にし、さくらさくらんぼリズム・雑巾がけ・座禅を実施した上での9時散歩出発を実施する。戸外では子ども

		の主体性を尊重し、多くの体験を含む保育を実践する。 大人は保育を通じ、学び続ける。
2	計画・ねらい	乳・幼児混合の異年齢保育を当たり前前に実施
	実践予定内容	乳児は幼児により発達が促され、幼児は小さな子を慈しむ心を育むために、乳児・幼児の混合保育を当たり前前に進める。「大きな家」の取り組みを見直し、充実させる。
3	計画・ねらい	食の循環・SDGsを考慮した保育の実践をし、子どもの環境への意識を育む
	実践予定内容	食を通じた環境への配慮、物を大切に作る取り組みを実施する。 コンポスト等を利用した畑活動を実施し、自分で育てた野菜等を使用した食育活動を実施する（梅干し・梅シロップ・干し柿・干し野菜・味噌・ケチャップ等）。 命をいただく活動を通じ、食の循環を知る。
4	計画・ねらい	小学校1年生を知り、そこから遡った保育活動の実施
	実践予定内容	幼保小接続の重要性を鑑み、連携プロジェクトを組成しスムーズな接続となるよう取り組む。 小学校1年生を見学し、教職員と会話を進め、大人になる為に必要なものについて確認する。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

子どもを真ん中に心を込めた「共育て」の実施。

第三者の目線を持ち、職員自身が受けると嬉しい対応を考え実施する。

1	計画・ねらい	お迎え対応の質向上
	実践予定内容	前提：挨拶・笑顔 ■乳児クラス 子ども一人ひとりの様子を手に取るようにお伝えする。 ■幼児クラス 主に活動内容をお伝えし、ご家庭での会話作りのきっかけとなるようなキーワード伝達を行う。 乳児・幼児クラス共に体調面や様子の変化等については、詳しくお伝えし家庭と連携を密に行っていく。 また、お迎え伝達以外にも連絡帳やタイムライン、ポートフォリオ等を活用しながら保育の様子をお伝えしていく。 利用者アンケートを通じ、保護者からのご意見ご提案に真摯に取り組み、保護者懇談会時にて改善点を公表する。
2	計画・ねらい	積極的に個別面談、支援を行う
	実践予定内容	年に1回の保護者面談とは別に、面談希望のある方や子育てについて悩みを抱えている保護者に対し、面談の機会を積極的に設ける。園としての解決策の提示や、保護者と一緒に時間をかけて解決を行っていくなど親身に寄り添う。

3	計画・ねらい	保育参加への呼びかけ
	実践予定内容	積極的に保育参加を呼びかけ、日頃の園での子どもの様子を見ていただくことで、園と家庭が共に子どもを真ん中に歩み寄る。

〈3〉 地域の子育て支援事業

選ばれ続ける園になる為に、地域への園庭開放・子育て支援活動を積極的に実施する。

1	計画・ねらい	ちきんえっぐ行事の充実
	実践予定内容	ちきんえっぐの活動のアナウンスを積極的に行い、当園の存在や活動内容を地域へ発信していく。
2	計画・ねらい	地域保護者への関わり
	実践予定内容	公園や園周辺等で子育て中の親子を見かけた際には当園を利用していなくても声を掛け、子育ての悩みを1人で抱えてしまう状況を作らないよう、園庭開放や青空保育等のご案内を行う。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

異年齢保育・インクルーシブ保育・子どもの主体性を重要視した保育を実施するには、職員は常に自分をブラッシュアップする必要がある。それこそが保育が楽しく感じるための重要なポイントとなるであろう。井の中の蛙にならないよう常に学ぶ姿勢を忘れてはならない。

1	計画・ねらい	職員同士でスキル向上を目指して
	実践予定内容	個人で研修に参加するだけでなく、自身で学んだことや元々持っているスキルのアウトプットにも力を入れていく。毎月交代で一人一講座を持ち研修を実施する。内容は「幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿」を中心に個人が内容をまとめ発表する。最終的には法人内でも講師として研修を開催できることを目標としていく。

〈5〉 環境実施目標

異年齢保育・インクルーシブ保育の中で子どもが自分で選択し、協同性を育む

1	計画・ねらい	遊びの行き先は前日に自分で決める。若しくは自分で選択する
	実践予定内容	散歩は目的を以て行き先・遊ぶ場所を子ども自身が決める。 「明日はこういうことをしたいからそれができる〇〇公園へ行きたい」を子どもが発信・選択する。意見が割れた場合は子ども自身がプレゼンテーションを行い、多数決とする。
2	計画・ねらい	生活や遊びを通して協同性を育成する
	実践予定内容	遊びや生活の準備・片付けを一緒に自主的に最後までやりきる。
3	計画・ねらい	火・水・土を積極的に使用し、五感を使った活動の実施
	実践予定内容	火（焚火・クッキング）・水（川遊び）・土（どろんこ遊び）を積極的に 行い、集中力や危険察知能力等を養う。

〈6〉 リスクマネジメントの徹底

異年齢保育・インクルーシブ保育・見守る保育は全て、リスクマネジメントの徹底の上で成り立つ。

これを踏まえ、まずは各職員が確実にリスクマネジメントを習得し、その上で子どもも大人も楽しむ保育を実施する。

1	計画・ねらい	主体性保育の充実のために、安全・安心を前提とする。
	実践予定内容	「共有」を前提とし、怪我事故・インシデント・ヒヤリハット等の振り返り・ケース会議等を実施し、園の職員として必要なリスクヘッジは何かを常に考えながら保育ができるよう対話をする。
2	計画・ねらい	清掃・美観の徹底
	実践予定内容	リスクを減らすには常に整理整頓された場であることが重要である。第三者の目線を持ち、選ばれ続ける園となる為に常に美観を保てるよう清掃・断捨離を実施する。

〈7〉利用者アンケートの内容質向上

8月に実施される利用者アンケートは選ばれ続ける園としての指標となる。前年度比を上回る内容を目指す。

1	計画・ねらい	「ご利用中の保育園を他の人に勧めたいですか」項目で前年度比NPS5%向上を目指す。
	実践予定内容	保育内容の充実、職員の確実なリスクマネジメントの実施、朝の受入れ時・お迎え時の対応内容、笑顔、子どもの姿で前年度を上回る実践をする。
2	計画・ねらい	求められる改善意見について真摯に対応する。
	実践予定内容	スピードを以って改善を進め、保護者懇談会等で報告する。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	18人	18人	18人	18人	90人

弾力運用人数は108名

開所時間

7時00分～20時00分

〈1〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	15人	栄養士	1人	調理員等	2人	事務	1人
------------	-----	-----	-----	----	------	----	----	----

パート スタッフ	保育補助	1人	用務	1人		
-------------	------	----	----	----	--	--

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	保育の振り返りや課題の抽出、改善に向けての議論 行事の提案や振り返り、保育の質を向上に向けた研修
給食運営会議	月1回	食育活動の提案や振り返り 食事環境についての振り返り
事故防止委員会	月1回	自園、他園の事故記録簿を活用し事故防止に向けての討議 ハザードマップの見直し等
ケース会議	月1回	要支援児について情報共有、対応検討
リーダー会議	月1回	事業計画書の進捗確認、それに関わる園内主要課題抽出と 対策の検討
幼児、乳児会議	月1回	リーダー会議を元に細かい配慮の検討、一般職員視点から の課題抽出と検討

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人の共有事項の確認及び討議等
施設長勉強会	月1回	施設長の質向上に向けた勉強会
食育会議	年4回	献立内容の振り返り、改善や提案。食育活動の共有等
保健会議	年4回	感染症対策や衛生についての議論、共有
主任会議	月1回	主任の立場からの保育運営や職員育成について
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質向上に向けた研修や議論等

〈1〉 各種係の設置

係名	職務内容・役割

衛生管理係	子ども、職員の健康管理、園舎設備の衛生維持
安全対策係	ハザードマップの管理、設備点検及び事故防止
防火管理者	避難訓練、不審者訓練等の計画実施、自主点検等の管理
食品衛生責任者	食の安全に関する管理及び維持。
畑係	畑の年間計画の遂行、管理維持等
生き物係	ヤギ・ニワトリをはじめとする飼育物全般の管理、維持

〈4〉 行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	園主体としながらも、保護者ボランティアと連携し準備運営を行っていく
彩夏祭	保護者が主体として準備運営を行っていくが、園としても最大限に協力を行う

4. 保育方針

〈1〉 基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者との信頼関係を丁寧に築いていき、子どもが保育者に見守られながら安心して生活を送る。 ・ 子どもの個々の発達を見極め、必要に応じた言葉掛けや援助を行い、子どもの経験や機会を保障していく。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの心情意欲を汲み取り、気持ちに寄り添った環境構成を行っていく。また子どもが自発的に試してみたいと思う環境を準備し保育者が見守る中で十分に遊べるよう工夫していく。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら学び考え楽しめるような環境構成や玩具の導入等を行っていく。保育者は側で見守り、必要に応じて援助を行うことで子どもの自発的な行動を引き出していく。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異年齢児で触れ合う中で互いに刺激を受け合いながら、活動の中で自分たちで解決し様々なことを学び成長していく。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼

保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉 年間行事計画

- ・ 2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉 給食・食育運営方針

- ・ 園での食事時は子どもたちの「欲」が全面的に出る場面であり、異年齢・インクルージョンの中、コミュニケーションとそのエラーの体験が重要と捉える。

1	計画・ねらい	子どもの「食いたい」意欲を育てる環境
	実践予定内容	「食べることは生きること」であり、「楽しく食べる」をモットーとしたい。自分で食いたい分をよそい、自分で席を決める、を大事とする。その為の環境設定を重要視していく。
2	計画・ねらい	食材の流通経路や加工方法を知り、興味関心を高めていく。
	実践予定内容	三色ボードに加え、自園独自で作成した山川海の産地ボードを用いて、食材はどこで収穫されているのかを知ることで、食材に対してより興味関心を高めていく。
3	計画・ねらい	給食の下処理や調理に積極的に関わりを持つ。
	実践予定内容	朝の活動時に野菜の下処理や米研ぎなど積極的に行っていく。 定期的に保育室でお米を炊き、出来上がる匂いと共にお腹が空く体験を増やしていく。
4	計画・ねらい	保護者×食育支援
	実践予定内容	家庭での食に対する悩みを積極的に解決していく。食育だよりだけでなく食育相談会や給食メニューの共有等も行っていく。また、調理スタッフも積極的に保護者へ関わり、食に対する悩みへのアドバイス等を行っていく。
5	計画・ねらい	火×食材
	実践予定内容	調理の原点、直火を活用した食育活動を行っていく。直火ならではの不便さや香ばしい匂いを感じると共に、火の温かみや適度な緊張感も味わう。

〈4〉 保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（11月）

保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導、歯磨き指導 早寝早起き朝ご飯を推奨していく。
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス感染症 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 冬季頃・・・胃腸炎、インフルエンザ 等 手洗いうがいの徹底、指導を行っていく。
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・2名より預かり済み／事務所に保管 エピペン・・・預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在20名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については4月30日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在20名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については4月30日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルス感染症および他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ

健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／4・10月 歯科健診 年1回／11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉 環境整備

子ども自身が「自分で考え、自分で行動する」「他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する」ため、室内・室外ともに子どもが自発的に関わる環境を設定する。

1	計画・ねらい	子どもたちが自ら遊びを作り出せるような環境作りを行う
	実践予定内容	用意された環境ではなく、子どもが可動させることができる棚や大型ブロック等を用意しておくことで、子ども自ら考えて環境を構成し遊び込むことができるよう工夫していく。
2	計画・ねらい	衛生・安全管理について
	実践予定内容	子どもが安心、安全に過ごすことが出来るよう、遊具や建具の点検や清掃消毒を都度行っていく。特に子どもの帽子や歯ブラシの管理については一段と配慮する。
3	計画・ねらい	園舎の環境美化
	実践予定内容	早番、遅番で園舎内外の清掃点検を行う。 施設長、主任が率先し朝の清掃等も行い、園舎の美観を意識した取り組みを行っていく。

〈7〉 手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	パーテーション	乳児保育室/幼児保育室	毎週金曜日
2	荷物掛け、本棚	玄関ホール	毎週金曜日
3	幼児テーブル	幼児室	毎週金曜日
4	活動選択ボード	縁側	毎週金曜日
5	お店屋さんごっこ台	幼児室	毎週金曜日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	光化学スモッグ	朝霞市の情報をすばやく園内外の職員へ共有し、園外で活動している職員についてはマニュアルに基づいた対応を指示する。また、園内についても窓を閉め子ども達の健康状況について留意する。
2	安全対策係	係を中心に避難訓練や不審者訓練等を行い、日頃から防犯に対する高め有事の際にスムーズに対応できるよう意識していく。また定期的にマニュアルの読み合わせを行い、災害時における対応についての確認を行う。
3	水辺のリスクマネジメント ネジメントネジメント	川遊びやプール遊びの際の事故防止についての研修を行う。またプール活動時期前には事故が起きた際のシミュレーションを行い、全職員が迅速に対応できるよう対策を行っていく。
4	応急救命	消防署による救命救急研修を実施し、積極的に参加する。また保護者へもアナウンスし、乳幼児期の命を守る研修と一緒に学ぶ。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉 今年度方針・テーマ

- ・実習依頼があった学校からは積極的に受け入れを行い、実習生に寄り添った指導を心掛けていく。
- ・近隣の中学校、高校から依頼があった際も積極的に受け入れを行い、教員と連携しながら安心して体験学習を行えるよう配慮する。

1	通年	養成校の実習生受け入れを積極的に実施
2	通年	養成校の保育体験や見学を積極的に受け入れ
3	学校の授業・長期 休暇（夏期休暇 等）中	小中高のボランティアの受け入れを実施し、保育体験を行うことで、保育士の業務の楽しさを伝える。

7. スタッフ育成と研修計画

園長大学・保育士大学教材中心に、職員より今、何を学びたいかのニーズを出し合い学びを深める。確実なスキルアップに繋げる

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修（事務研修・ケガケーススタディ研修含む） ■コンピテンシー研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修（年1回） ■園内研修（月1回以上） ■保育スキル研修（エリア別） ■リーダー養成研修（9～2月） ■業務改善研修（月1回） （＝保育の質を上げる会議） ■施設長勉強会（月1回） ■デンマークインターンシップ（年1回） ■コンピテンシー自己採点（月1回） ■人権チェック（4月・10月） ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習
保育スキル研修 	←お迎え 対応研修 	←避難訓練研修

・2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②ケガケーススタディ ③主体性を以て考え、学ぶ	■命に関わる項目の確認 ■マニュアル確認 ■「健全な心と体」とは(エピソード研修)
5月31日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②主体性を以て考え、学ぶ	■「自立心」とは(エピソード研修)
6月28日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②水の事故のリスクマネジメント研修 ③事業計画書進捗確認	■プール遊びや川遊びを想定したリスクマネジメント ■事業計画書の進捗を確認し、上半期後期に向かって課題を抽出する
7月26日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②主体性を以て考え、学ぶ	■「共同性」とは(エピソード研修)
8月30日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②主体性を以て考え、学ぶ	■「道徳性・規範意識の芽生え」とは(エピソード研修)
9月27日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②主体性を以て考え、学ぶ ③事業計画書進捗確認	■事業計画書の進捗を確認し、下半期に向かって課題を抽出する ■「社会生活と関わり」とは(エピソード研修)
10月25日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②主体性を以て考え、学ぶ	■後半の保育環境を考察する ■「思考力の芽生え」とは(エピソード研修)
11月29日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②主体性を以て考え、学ぶ	■「自然との関わり・生命尊重」とは(エピソード研修)
12月27日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②事業計画書進捗確認	■事業計画書の進捗を確認し、下半期後期に向かって課題を抽出する
1月31日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②主体性を以て考え、学ぶ	■「量・図形、文字等への関心・感覚」とは(エピソード研修)
2月16日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②主体性を以て考え、学ぶ ③年間計画策定会議	■「言葉による伝え合い」とは(エピソード研修)
3月2日	9:00~18:00	①コンピテンシー自己採点 ②主体性を以て考え、学ぶ ③年間計画策定会議	■「豊かな感性と表現」とは(エピソード研修)

・エリア研修（朝霞、志木地区合同開催）

「エリア学ぶさくらさくらんぼリズムの共通理解」

内容：講義と実技研修。体を動かしながら共通理解を深めより質の高いさくらさくらんぼリズムを身に付ける。その後、各園に伝え職員に伝えて行く。

講師：古川みどりさん

日程：4月～6月で2回開催

時間：18:30～20:00

〈1〉 外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈2〉 法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デンマークインターンシップ	希望するスタッフが応募											

〈3〉 スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉 今年度方針・テーマ

コロナ禍明けだからこそ感染症に配慮しながら地域との繋がりを絶やさずに交流を行っていく。

〈2〉 具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：あけぼの公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者との触れ合い (町内会、老人施設、園児の祖父母と昔遊び会 等)
異年齢交流	小学生との交流、他保育園との交流会 等
地域拠点活動	ちきんえっぐ、青空保育、地域のお祭り参加
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

スムーズな小学校接続に向けて、近隣の小学校の協力を得ながら「職員間交流」「子ども間交流」を進める。アプローチカリキュラムを作成し、小学校1年生に向けた逆算の保育を実施する為に必要な活動を進める。

〈1〉 今年度方針・テーマ

- ・5歳児と小学校1年生との年間連携計画および報告書を作成し、積極的に働きかけ運用していく。

〈2〉 具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月15日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
7月頃	朝霞第八小学校 1年	24名予定	プール見学(学校)	見学
12月頃	朝霞第八小学校 1年	24名予定	マラソン大会応援	見学
1月頃	朝霞第八小学校	24名予定	交流会	子ども間交流
1月	近隣小学校 教諭	1名予定	幼保小連絡会	子どもの育ち共有

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

個別支援計画を立案し、具体的な対応を職員全員で共有していく。また保護者との面談を重視し、子どもの成長発達を同じ視点で得られるようにしていく。

すべての子どもと丁寧にに関わり、安心して園生活を送ることができるよう援助していく。

〈2〉 毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：6名予定)

配慮が必要な児についての共有や関わりについて職員間で話し合いを行う。

職員間での共有をしっかりと行っていくことで、職員全員が同じ視点で保育が行えるようにしていく。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

園児の姿、状況においては幼保小連携会にて各小学校の教諭へ引継ぎを行う。

必要と感じられる場合は保護者に就学相談を進め、それぞれの小学校へ安心して通えるよう支援していく。

1.1. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	隔週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	隔週(金) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：あけぼの公園にて開催

1.2. 園運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

平成28年度受審

〈2〉 園による自己評価の実施

2024年6月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：8時30分

自己評価終了予定時刻：17時30分

自己評価実施予定者：西村貴子、二階堂綸、鈴木典子、星野藍

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1.3.3 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントの確立した上で、基本の保育内容を充実させる ・日課・基本活動の完成と質の向上を目指し、知徳体を育む ・小学校1年生を見て知り、逆算した保育を遂行する ・新しいメンバーとのチーム保育の確立
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメントは確立されており、年後半には大きな怪我が殆どなくなった。 ・基本の保育内容は問題ないが、付加価値のある活動は充実していたとは言いきれない。したがって法人が求める理想的な知徳体を育む活動により近づきたい。 ・小学校1年生からの逆算した保育するための小学校への働きかけをもっとすべきであった。次年度に継続して課題としたい。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	大人になるために必要なものを育むオンリーワンの要素（自己差別性）の要素に優れた保育をする「地域ナンバー1」となる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自己選択すべきこと、大人が教えねばならぬことの理解度を深め実践する ・付加価値のある保育の実践をし、知徳体を育む ・小学校1年生を見て知り、逆算した保育を遂行する
2025年度	目指す姿	「同業者」から選ばれ続ける保育内容・スタッフの存在
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援活動の積極的な実践（来園者数の増加） ・ボランティア・実習生の受入を積極的に行いながら採用活動にアンテナを張る ・外部への積極的な発信
2026年度	目指す姿	「学生」や「中途求職者」が働きたい明るく働き甲斐のある保育園となる
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが大人になるために必要な活動を楽しんで実践し、大人のにんげん力を育成すると共に子どものにんげん力も育まれる ・働き甲斐ややり甲斐を感じられる職場づくり ・地域コミュニティを支える場を提供し、地域のハブとなる

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：仲町どろんこ保育園 施設長 西村 貴子

2024年度 新羽どろんこ保育園 事業計画書

Ⅰ. 基本方針

- ① 法人理念『にんげん力、育てます』を基に、生涯にわたる『生きる力』を培い、『次の時代を生き抜く子』を育てる。
- ② 併設するつむぎ新羽ルームと共に全ての子どもが混ざり合い、自由に行き来する子どもを真ん中にしたインクルーシブ保育を実践する。
- ③ 新羽どろんこ保育園・つむぎ新羽ルーム2024年度目標

『主体的・意欲的に行動できる子ども～育ち合いを大切に～』

基本方針に則り、以下に重点を置きながら養護と教育を一体的に進めていく。

- ・『にんげん力』を身に付けるために、遊びや野外体験、基本活動を通して経験を重ね、自分で考え行動する力を育む。
- ・子どもが自発的・意欲的に関わることのできる環境を構成し、主体的な活動や子ども相互の関わり合いを尊重する。
- ・自分のしたいことを満足するまでやり、思いを表出し、それを受け止めてもらうことのできる環境を構成し、一人一人が安心して生活できる場となる。
- ・子育てに関わる全てのスタッフは、子ども一人ひとりを尊重し、命を守り、情緒が安定した中で、乳幼児期にふさわしい経験が積み重ねられていくよう、その育ちを保证する。

〈Ⅰ〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活力の体得
	実践予定内容	自分で考え、行動する力を育む為に、生活力と危険なものとの距離の取り方を大人が背中を見せ教えたり、子どもが体験をする中で経験から身に付いたりできるようにしていく。
2	計画・ねらい	生活や遊びの中で、保育の連続性を保証する
	実践予定内容	・子どもの発達を理解し、興味関心合わせたねらいのある保育計画の立案をする。 ・子どもの姿を継続して記録し、振り返りながら長期的見通しを持ち保育の連続性が保たれるようにする。
3	計画・ねらい	保育園とつむぎの全ての子どもが混ざり合う、子どもを真ん中にしたインクルーシブ保育の実践
	実践予定内容	障害の有無に関わらず、一人ひとりの子どもが安心して自己を発揮しながら保育園での生活を送れるよう、保育園・つむぎが一体となり、丁寧な関わり、援助の充実化を図る。
4	計画・ねらい	10の姿の体得
	実践予定内容	生涯にわたる生きる力の基礎を培うため、資質・能力『①知識及び技能②思考力・判断力・表現力③学びに向かう力・人間性』を一体的に育む。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	整理整頓の行き届いた環境
	実践予定内容	・いつ誰がみても、いつ誰が訪問しても気持ちがいいと感じる、整理整頓と清掃が行き届いた必要な物しかない環境を作り、継続する。
2	計画・ねらい	園生活の様子や子ども間の関わりの見える化
	実践予定内容	・連絡帳やタイムラインに加えドキュメンテーションやポートフォリオを用い、連続的な子どもの姿や異年齢、インクルーシブな関わり合いの様子等園生活の様子を掲示し、継続した保育の見える化を行う。保育者は言葉だけでなく写真から情景が思い浮かび、様子が伝わるよう子どもの姿の捉え方や見抜く力を養っていく。 ・保育参加の呼びかけを積極的に行い、園でのお子様の様子や子ども同士の関わり、異年齢、インクルーシブでの生活を実際に見たり体験したりすることで、理解を深めてもらう。
3	計画・ねらい	保護者の立場になった丁寧な対応と共育て
	実践予定内容	・登園時の受け入れや降園時のお迎え対応では、子ども・保育者と目線を合わせて話をし、家庭での様子、園での一日の様子の伝達を丁寧に行う。お迎え対応では、その子の姿をお伝えし、保護者の心に寄り添い、保護者も安心できる関係作りを継続して行う。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の親子の憩いの場となる地域に根づく保育園
	実践予定内容	園庭開放や青空保育では集団遊びや伝承遊びを取り入れ、園児との交流を深めたり、園生活の様子や保育の中での取り組みを伝えたりする場となるよう努めていく。又、来園時に活動内容や支援に対する意見を聞き、利用者のニーズに合わせた子育て支援に繋がるようにしていく。
2	計画・ねらい	実体験のできる場の提供
	実践予定内容	・園庭の畑を利用して、苗の植え付け（種まき）、栽培、収穫、加工を年間で体験できるよう計画をする。 ・園庭開放やちきんえっぐ来訪時には、やぎに触れたり世話をしたりし、生き物を身近に感じる体験や堆肥作り等を通して実体験のできる場を提供する。
3	計画・ねらい	子どもの育ちや日々の不安などを気軽に話せる育児相談、子育て支援の場となる
	実践予定内容	・ちきんえっぐだよりや園だよりの掲示場所を増やしたり、散歩先の公園で配布したり、新羽駅や港北区の子育て支援事業と連携したりしながら、園での取り組みを知ってもらう機会を増やす。 ・併設するつむぎ新羽ルームと連携し、専門家による発達支援相談会や、栄養士による離乳食相談会、子育て経験者による子育て相談会を行い、子育て支援事業としての役割を広げていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

2024年度運営本部スローガン「あなたはどうか」を基に、大人も主体性～考え、学び、動く、自立した集団～を目指す。

1	計画・ねらい	考え、学び、動く、自立した集団になる
	実践予定内容	大人も主体性を持つために、保育や園運営の中で、すべきことを明確にし、自分で考えて行動する。
2	計画・ねらい	子どもが自ら選び取ることができる環境の設定
	実践予定内容	子どもの姿から興味関心を知り、発達に合わせたねらいを持った環境を構成する。又、子どもの姿に合わせて変化し続ける環境となるよう、クラスやフロア、保育園とつむぎ等、話し合いを定期的に行う。
3	計画・ねらい	チーム保育の充実化
	実践予定内容	保育園、つむぎ、業種に捉われず、一人ひとりの意見や思いが受け止められ、子どもを真ん中にした話し合いができるようtry&errorを繰り返しながら進んでいくチームを目指す。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	自然の恵みとして食材や食の循環教育
	実践予定内容	・畑を耕す、種を植える、生長を見守り世話をし、収穫する、加工する、食べるまでを子ども自身が経験することで食の循環を知る。 ・近隣園と共に鶏を絞めて食す、命をいただくことの意味を知る活動を実践する。
2	計画・ねらい	残菜のリサイクルややぎの糞の堆肥化をし、畑に還元する
	実践予定内容	・調理過程での廃棄食材ややぎの糞の堆肥化を行う。 ・給食残差の統計と食への興味への繋げ方の検討し、子どもと共に食の循環について考える機会を持つ。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	14人	16人	18人	18人	18人	90人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	13人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
	バス運転手 用務	1人						
パート スタッフ	保育士	4人	栄養士	1人	調理	2人	事務	1人
	バス運転手 用務	1人						

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修、子どもの姿の共有、保育討議、行事について
給食運営会議	月1回	献立の振り返り、食育活動の立案・検討他
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿から傾向分析と対策の共有。子どもの姿に合わせた園内外のハザードの確認と配慮点の共有。
ケース会議	月1回	気になる子・配慮を要する子の状況と関わり方について
クラス会議・フロア会議	随時	子どもの興味に合わせた活動の選定と安全に配慮した職員配置。環境構成の見直し。
リーダー会議(園・つむぎ)	随時	課題及びスタッフ連携の状況確認
各行事会議	適宜	各行事の計画、立案、進行、振り返りとまとめ

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	運営事項確認、事務連絡(書類関係他)
施設長勉強会	月1回	各園の課題を共有しながら、それぞれが選ばれる園になる為に、スキルアップを図る

食育会議	年4回	各園の給食・食育活動への課題と取り組みの共有、マニュアル確認
保健会議	年4回	感染症、保育園での保健衛生への課題と取り組みの共有、マニュアル確認
主任会議	年4回	次期施設長育成のマネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	保育所保育指針・10の姿の理解、子育ての質を上げる為の各園の課題と取り組みの共有

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内清掃、衛生管理、感染症予防対策、備品管理、子ども・スタッフそれぞれを対象とした保健衛生指導
安全対策係	避難訓練、不審者侵入訓練の計画と安全に関わる情報掲示、園内外のハザードマップの作成・更新と共有
防火管理者	消防計画を作成し、これに基づく消火・通報訓練及び避難訓練の定期実施と振り返り
食品衛生責任者	年間食育計画の作成とこれに添った食育活動の実施、食育会議への参加、給食運営会議計画や実施、食品の安全管理
畑係	年間畑、食育計画の主導と管理（子どもと行う作業計画）畑の管理
生き物係	飼育全般に関する管理

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズの活性化の推進、計画、立案、取りまとめ、進行他
地域支援係	子育て支援事業、区内他園と連携して地域子育て支援ニーズに応じた支援を行う
幼保小連携係	幼保小接続研修・小学校交流の取りまとめ、連携・接続の計画立案と振り返り

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の保育者との関わりの中で、信頼関係を築き、受容されることで、自己肯定感を育み、安心して園生活を送れるようにする。 ・一人ひとりの子どもの置かれている環境や発達過程などを把握し、子どもの欲求を満たしながら応答的な関わりや言葉掛けを行う。 ・見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなど探索行動を充分に行えるよう、清潔で安全な環境を整える。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの興味関心や身振り手振り、簡単な言葉にして伝えようとする自己表現を受け止め、応答的・受容的な関わりを通じて、自己肯定感を育む。 ・身近な物や人、環境に親しみ、触れ合う中で様々な事に興味関心を持ち、主体的に関わることのできる環境を構成する。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活の中で、一人ひとりが自己を発揮し、保育者や友だちと関わり合い認められる中で、自己肯定感を培う。 ・身近な環境に主体的に関わり、発見を楽しんだり、考えたり、選択したり、それを遊びや生活に取り入れていく環境を保证する。 ・自分でイメージすることや自由に表現することを楽しみ、創造性を培う。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との関わりの中で、一緒に活動する楽しさを味わい、協働して遊びや生活を展開していく経験を通して、自ら考え行動する力を培う。 ・異年齢で過ごし、刺激を受け合うことで、相手の気持ちに気づき、互いを認め合えるようになる。又、生活や遊びの中で充実感・達成感を保証する。 ・生活の流れに見通しを持ち、遊びや生活を進めていく中で、その場に応じた行動や、善悪の判断をしながら、自ら考えて行動する力を培う。 ・他者との関わりの中で、心を動かすような体験をし、豊かな言葉や表現力を培う。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「202

- 4年度年間スケジュール」に掲載
 ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	どろんこ会の3大食育方針
	実践予定内容	『調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる』『噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供』『子どもが自分で盛り付け・配膳して食べる』を実践する。
2	計画・ねらい	育てる、収穫する、調理、加工する体験を通して、食や食材に興味を持ち、食の循環を知る
	実践予定内容	・自分で育て、収穫し、調理、加工することが一連の体験となるよう年間で畑・食育計画を行う。又、全スタッフが子どもと共に体験し実体験を通して、子どもに伝えていく。
3	計画・ねらい	食の循環、環境への意識を身につける
	実践予定内容	給食の残食や調理過程での廃棄食材を再利用することでゴミを減らすことや、ヤギの糞から堆肥を作り畑に還元することで、身近にできるSDGsの取り組みを行う。又、持続的、連続的な活動となるよう保育活動へ計画的に取り込んでいく。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い・うがいの徹底、歯磨き指導・水分補給や休息の大切さについての話、衣服調整の仕方、年長児性教育
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～8月頃・・・手足口病・アデノウイルス 11～3月頃・・・インフルエンザ、感染性胃腸炎（ノロウイルス、ロタウイルス）
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在25名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については4月5日までに受講予定

その他保健に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児は適宜検温を行う。 ・登園時の視診、園児の健康状態の把握と健康管理 ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検 (簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年2回／6・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	全ての子どもが混ざり合い、育ちあう一つの大きな家
	実践予定内容	・全ての子どもが自由に行き来をし、好きな場所で好きな遊びを楽しみ、満足するまで遊びこめる環境、安心して過ごせる環境の為に、子どもの興味関心を知り、スタッフ間で共通認識をする場を定期的に持ち、子どもの姿に合わせ変化し続ける環境を目指す。
2	計画・ねらい	保育中の安全対策や衛生管理などの職員の共通理解や体制作りの強化をする。
	実践予定内容	・子どもが実体験の中で危険を感じ、危険を予測した身体の使い方を身に付けていかれるよう、スタッフは子どもの発達を理解し、姿を予測し、必要時には手助けができる位置で見守りながら、安全に配慮された環境を整えていく。 ・事故防止チェック・設備点検を定期的に行い、防火・防犯・事故防止など様々な視点を持てるようになっていく。又、日々新たに抽出されるハザードやリスクは速やかに園内で共有する。
3	計画・ねらい	必要なものしかない環境づくり
	実践予定内容	・いつ誰が見ても、いつ誰が訪問しても気持ちがいいと感じる、整理整頓と清掃が行き届いた環境を継続する為に、必要なものしかない環境を心掛け、随時園内外の環境の見直しを行う。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	ロフト	1・2歳児保育室	毎日
2	パーテーション	各保育室	毎日
3	帽子入れ	幼児保育室	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	避難訓練	・消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し、年間避難訓練計画に沿って消火訓練・避難訓練を行う。 ・年2回通報訓練と保護者と連携した児童引き取り訓練を行い、非常時はアプリを利用し、保護者へ情報発信を行う通知訓練を合わせて行う。
2	洪水計画	・消防計画に基づき、大雨洪水警報の発令等、必要時には速やかに情報収集をし、被害の未然防止の為、対策を行う。
3	事故防止委員会	・園内に事故防止委員会を設置し、ヒヤリハットやインシデントを活用し、再発防止と共に危険管理・危険予測をし、事故を未然に防ぐよう努める。 ・半期毎にリスクマップを活用し、園内外のハザードの見直しを行い、ハザードマップの作成と園内での意識の共有をする。作成したマップは

		子どもの姿に合ったものであるように定期的に見直ししながら、安全配慮に努めていく。
4	不審者侵入訓練	・園の置かれた環境、社会情勢を反映させた不審者侵入訓練を年2回実施し、安全・防犯への意識づけをする。
5	光化学スモッグ	横浜市メール配信システムを活用し、発令があった時は速やかに対応、室内で過ごし健康状態の確認を行う。
6	救急救命講習	新年度キックオフミーティングにてエピペン講習、AED講習を行い必要時には全職員が正しい知識の元で使用できるようにする。
7	事故防止、設備点検チェック	年4回の事故防止チェック・設備点検チェックはクラス会議内で見直しをしながら行い、新たなハザードやリスクは事故防止委員会を通して園内で共有する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

保育・福祉の現場で次世代を担う人材育成の為、積極的に実習生・中高生の受け入れを行う。子どもと関わり触れ合う中で様々な経験を通し、子ども理解を深め、将来保育現場で働きたいと思えるように配慮・応援していく。又、保育者は実習生と向き合うことで自身の保育を振り返り、保育のプロとして子どもへ関わりや対応について考える機会とする。

1	実践予定内容	実習生の受け入れや近隣の養成校への訪問を行い、交流を深めるとともに、保育のプロとして保育の仕事の楽しさややりがいを次世代へ繋げていく。特に実習生に対しては子どもと遊ぶことが楽しむことを第一とし、その中で、法人の理念、園の保育目標、日々のならいをわかりやすく、子どもの視点から見る重要性を伝えていく。
2	実践予定内容	新羽高校との継続的な関係を大切に、保育園に来園してもらい園児と遊んだり、「保育士の仕事」の授業を受け持ったり、高校を訪問する中で、将来、保育士になろうとする生徒の姿勢を大切にする。また、教師との連携を深め、保育園から高校生までの成長の連続性の重要性などを話し合う。また、大学、専門学校に行く学生のために、ボランティアを積極的に受け入れる
3	実践予定内容	地域に根づく保育園として、近隣の中学生の受け入れを積極的に行い、小さい子どもと触れ合う機会の少ない学生に対しては、子どもとの関わりや触れ合いに喜びが持てるようにする。

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新入社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;">←お迎え 対応研修</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新入社員研修 <ul style="list-style-type: none"> → 会場研修 → 系列園保育実地研修 <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;">←避難訓練研修</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ケガ・ケーススタディ ③ 虐待防止研修 ④ 危機管理	・ケガ・ケーススタディ ・子どもの人権、虐待の定義 ・目の数キープ ・乳幼児突然死症候群 (SIDS)
5月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育計画 ③ 園外保育リスクマネジメント	・保育計画の手順、ねらいと環境 ・散歩ロープレ①
6月28日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理 ③ 10の姿	・プール事故防止訓練・水遊び時の リスクを想定した危機管理。夏の遊 びと熱中症対策 ・10の姿の理解
7月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿 ③ 応答的な関わり	・10の姿の理解 ・子どもの育ちを考える
8月23日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿 ③ 運動会に向けて	・10の姿の理解 ・一人ひとりが主役になる運動会と は
9月27日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点	・10の姿の理解

		② 10の姿 ③ 園外保育リスクマネジメント	・散歩ロープレ② ・子どもの行動を予測して行動する (子どもの育ちの振り返り)
10月25日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿 ③ 虐待防止研修	・10の姿の理解 ・子どもの人権、虐待の定義 ・子どもを真ん中にした保育とは
11月22日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 生活発表会に向けて	・一人ひとりが主役になる発表会とは (上期の育ちと下期のねらいから考える)
12月27日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年度の振り返り(事業計画の振り返り)	年間の振り返り①(事業計画、行事、係、クラス)
1月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年度の振り返り	年間の振り返り②(前月の確認と次年度に向けての課題抽出)
2月21日	18:00~21:00	策定会議1日目	次年度に向けて
3月4日	9:00~18:00	策定会議2日目	次年度に向けて

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修(子育ての質を上げる会議)	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日~30日までの間に録画視聴(全スタッフ対象)											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デノマークインターソップ®	希望するスタッフが応募											

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈4〉 保育園・つむぎの一体化を図った取り組み

- ・2023年度より、スタートする保育園・つむぎ併設園での一体化において、それぞれのMBOを組織全体のものとし、連権を図りながらお互いが高めあっていく為、つむぎ施設長と共に課題を共有し合い、同じ視点でスキルアップを図っていく。
- ・各自の目標に向かうための具体的な取り組みを決定し、研修計画をたて、外部研修、系列園でのOJT研修、施設見学等積極的に組み入れる。

8. 地域交流計画

〈1〉 今年度方針・テーマ

- ・実体験の伴う地域支援
- ・駅前での利便性が良いという環境を最大限に活かし、地域の子育て支援拠点として地域の子育て家庭が集う場を目指す。
- ・地域の資源を保育に取り入れ、農家の方との交流、丘陵公園での草取り、新羽小学校文化スポーツクラブの会合、その他、商店街ツアーを通じて地域の方々とのさらなる広がりを持つ。

〈2〉 具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：新田公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	月1回程度、幼児対象で老人ホーム訪問、ケアプラザ訪問
異年齢交流	新羽高校との年間通じた交流（保育士希望学生対象）体験学習受け入れ
地域拠点活動	子育て支援『ちきんえっぐ』運営、園庭開放、青空保育の実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉 今年度方針・テーマ

- ・横浜市港北区の幼保小連携事業及び小学校と相談・協議を行いながら、小学校との連携を実施する。小学校見学や教師の保育園来訪、幼保小連携会議に参加し、スムーズな小学校への接続を行っていく。
- ・小学校1年生の姿を見て知り、逆算した保育を遂行する。年長児を担当する保育者だけでなく、全ス

スタッフは、小学校との接続研修や授業参加、子ども間交流に積極的に参加し、入学後の姿を実際に見て知り、知り得た情報をもとに、子どもの育ちの連続性が保証された接続を目指す。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
8月頃	新羽小学校	1名予定	保育園見学（新羽どろんこ保育園）	職員間交流
9月頃	新羽小学校	数名予定	運動会（新羽小）	学校見学
2月頃	新羽小学校 1年	18名予定	授業参観（新羽小教室）	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

子どもの状況や発達を理解し、ケース会議の中で共有・振り返りを行い、週案・月案の作成次期及び個々の変化や成長に合わせた見直しを都度行う。子どもの成長の見える化を行い、子どもの成長をどのように支援をしていくかを共有し保護者と共に子育てをしていく。

〈2〉毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定 参加者：数名予定）

- ・園会議・クラス会議・週案会議などを利用し、個々の様子を共有しながらその子にとって必要なことを考え、支援へとつながるような理解を深めていく。
- ・配慮の必要な子だけでなく、集団生活の中で気になる子や成長・発達の過程で配慮を要する子についても共有し、一人ひとりに合わせた丁寧な対応を検討、実践していく。
- ・インクルーシブ保育を視点につむぎとの合同ケース会議の場や課題の共有をしながら、各分野での専門家の視点から見た集団の中での関わり方や支援の手立てを園スタッフも学んでいく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

- ・進学先の小学校や必要に応じては各種関連機関と連携しながら、児童要録・引継ぎ面談での子どもの育ちの詳細伝達を行う。
- ・進級時は園内での細やかな引継ぎを行い、個々の育ちや背景を配慮した丁寧な関わりへと繋げていく。又、日ごろから全職員で全園児を見ることで、担当するクラスの子意外にも目を向け、信頼関係を築きながら、養護と教育が一体となった保育が絶え間なく提供できるよう努めていく。

1.1. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00~12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00~12:00
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:新田公園にて開催

1.2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

評価会社名 株式会社学研データサービスにおいて、2021年度受審

〈2〉園による自己評価の実施

2025年1月24日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 14時00分

自己評価終了予定時刻: 17時00分

自己評価実施予定者: 施設長、主任、つむぎ施設長、スタッフ代表

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日: 8月25日

1 3.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<p>子どもが主体的、意欲的に行動する力を育むために、「やってみたい」「どうしたらできるかな」「なぜだろう」などの体験を通して自然・物・人・事象・生活などに積極的に関わる力を育てていく。又、子ども一人ひとりの成長に合わせ、養護と教育が一体となった保育・教育を進め、安心して自己表現を行う中で、自己肯定感を育む。</p> <p>相手に思いを伝え、相手の気持ちを受け止め、人と関わる力や思考力など、「社会と関わる人」として生きていくための基礎を培う。</p>
	振り返り	<p>子どもが自ら考え、選び、決定し行動する為にはどうしたらいいのか。子どもの興味関心を知る為に姿を追い、保育の中に取り込むよう努めた。又、保育の中では応答的な関わり（思いを受け入れるのではなく受止めること）や子どもは子ども同士の関わり合いの中で育っていくことを意識した。次年度以降も子どもの行動のプロセスを考え、保育者は援助者であることを意識しながら、にんげん力を付ける為に自分で考え行動する力を育てていく。</p> <p>危機管理ではヒヤリハットを上げることで、ケガや事故を未然に防ぐ、子どもの行動を予測して意識を上げていくよう努めた。園全体での取り組みとしては不十分さも残り、次年度はスタッフ間の認識共有と一人ひとりがリスクを考え、子どもの動きを予測して行動できるように努めていく為、リスクマップを作成したり、散歩ローイングプレイを実施したりしながら、取り組み内容の見直しを合わせて行っていく。</p> <p>地域支援では、地域に根付く園を目指し取り組み、利用者の増加に繋がった。支援の幅を広げるために、区内の系列園との合同イベントを開催したり、参加時に簡単なアンケートを取るなどしたりし、利用者のニーズに合わせた企画となるようしていく。</p>

〈2〉当年度以降の3カ年計画

24年度	目指す姿	<p>保育園・つむぎが一つのチームとなり、全ての子どものありのままを受け止め、子ども主体の保育を行う</p>
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを動かすのではなく、子どもの心を動かせるチームになる。スタッフ自ら学ぶ機会を作り、学んだものをアウトプットしながら、変化し続け、チームとして子ども主体を常に考え、進んでいく。 ・全スタッフは、自分の足で人生を歩むために・自分で自分の命を守るために・助けられながら生きるために`生活力、と`危険なものとの距離の取り方、を教える。
25年度	目指す姿	<p>子どもが自ら考え、選択して行動する中で、必要な体験を通して、try & errorを繰り返し、生きる力を育む</p>
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・全スタッフは、自分の足で人生を歩むために・自分で自分の命を守るために・助けられながら生きるために`生活力、と`危険なものとの距離の取り方、を教える。又、大人もやってみる、挑戦することを大切に、子どもと共にtry & errorを繰り返しながら学んでいく。

26年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none">・併設園として形が確立し、専門性の高いインクルーシブ保育の実践・地域の子育て支援拠点として根付く
	重点施策	<ul style="list-style-type: none">・安定し、且つ専門性の高いインクルーシブ保育の実践に向け、子ども一人ひとりの特性や各年齢の発達や興味関心を理解し、柔軟な対応や支援が出来るように、スタッフそれぞれが学びを深める。・地域の子育て支援拠点として、区内の系列園と連携を図り、子育ての中での悩みや子育ての楽しさを感じられる機会を設けるなど、ニーズに合わせた支援、発信を行う。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：新羽どろんこ保育園 施設長 松下 杏

2024年度 清瀬どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

「人も食も仕事も循環し、0歳から人生を終えるその時まで全ての人が「生きる力」をもって、よく生きられる社会をつくる」ことを目指すDoronkoグループの保育園として下記の理念・目標を基盤に活動を行う。

【社会福祉法人どろんこ会 理念・目標】

子育て理念：「にんげん力。育てます。」

子育て目標：「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

育てたい6つの力

- ①ケガをしない強い体を育てる
- ②自分でできることを自分でする
- ③すべての人との関わりから、判断・行動を身につける
- ④活動を選択し自分で考えて行動する
- ⑤生死を知る、食の循環を知る
- ⑥感じたこと・考えたことを表現する

【清瀬どろんこ保育園 方針】

- ・多くの緑に恵まれた清瀬市に立地し、周囲の好環境と広い園庭を最大限に活かしながら「通って良かった」と保護者や本人にも思われるようなびのびとした保育園を目指す。
- ・子どもの健全な育ちを支援するために、スタッフ全員が主体性を持って「考え、学び、動く、自律した集団」を常に意識し続け、保育の質の向上に邁進する。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

日常生活・遊び・労働から生きる力を身につける「日課・基本活動の充実」、異年齢保育とインクルーシブ保育を通した「多様性の尊重」など、保育内容の充実・質の向上を図る。

1	計画・ねらい	生活力の体得
	実践予定内容	「生きる力」の基礎となる「生活力」を育むため、適切な環境を設定し大人が背中を見せながら経験と失敗を数多く体験させ、見守る。 日課を疎かにせず、それぞれの基本活動の持つ意味を理解し丁寧に取り組む。
2	計画・ねらい	幼児期の終わりまでに育てたい10の姿
	実践予定内容	・生涯にわたる生きる力の基礎を培うため「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性」という資質・能力を一体的に育む。 発達障害児、要支援児に対しても個別の配慮をしながらも生きる力を育む。 ・小学校との接続を意識し「協同性・社会性・規範意識」獲得に必要な支援を行う。
3	計画・ねらい	子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境

	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもが自己選択すべきこと」「大人が教えねばならないこと」を理解、把握し、様々なものに常時主体的に関わり、経験を選び取ることができる物的環境を整備することで、参加したくなる複数の体験活動を展開する。 ・大人は「自分の足で人生を歩むための支援」を行う。
--	--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

保護者の「安心・充実」を実現するよう、ホスピタリティを大事にした家庭支援を行う。

1	計画・ねらい	保護者と共に子どもの成長を喜びあえる信頼関係を築き発展させる
	実践予定内容	子どもの成長を園の全てのスタッフが共有しながら、保護者と成長を喜びあえる信頼関係を構築し発展させていく 日々の送迎時の連絡やアプリの有効活用の他に適時個別面談も実施する
2	計画・ねらい	スタッフの誰もが「挨拶」「お迎え対応」を自然にできるようになる
	実践予定内容	大人に対しても子どもに対しても敬意を持って丁寧な対応を行う 周囲への観察、気付きの感度を意識して上げることが継続することで定着化を図り、スタッフ相互で高め合う
3	計画・ねらい	子どもの育ちが見える指導計画と子どもの姿の共有
	実践予定内容	映像や画像を使用したドキュメンテーションを作成し、お迎え時の展示などで共有していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

自然豊かで広い園庭や、保育園の持つ専門性を地域の子育て拠点として活用できる環境を構築する。

1	計画・ねらい	広い園庭を活用した「火・水・土」の体験の提供
	実践予定内容	焚き火、水遊び、どろんこ遊び、畑仕事など自園ならではの環境を生かした「火・水・土」の直接体験を地域の親子に提供していく
2	計画・ねらい	支援を必要とする人が「気軽に話せる、聞くことができる場」になる
	実践予定内容	疑問や不安を気軽に相談できる場として、看護師・栄養士・保育士の専門性を活かしていく
3	計画・ねらい	「子育て家庭のつながりの場」コミュニティスペースの提供
	実践予定内容	園見学、園庭解放も活用し、室内外も在園児と一緒に活動に参加できる場を提供していることを近隣に知ってもらう

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

個々のスタッフの個性を認め合い、職種や経験年数を超えて互いに高め合えるチームとして成長していくため「社会人としての基本動作の徹底」「社会人としての資質向上」「保育の質の向上」のためのスタッフ育成を行う。

1	計画・ねらい	常に清潔で美しい環境を維持する
	実践予定内容	「整理整頓・清掃」に全てのスタッフが着意を持ち、居心地の良い園をつ

		くる。園を公共の場と認識して皆が行動できるようにする
2	計画・ねらい	本音で語り合えるスタッフ集団を目指す
	実践予定内容	子どもを中心に、子どもの最善の利益のために常に大人は考え、本音で語り合える風通しの良いチームを目指す
3	計画・ねらい	「大人のにんげん力アップ」
	実践予定内容	スタッフ一人ひとりが社会人としての資質を高め、スタッフ間のコミュニケーションや情報発信力、ビジネスマナーなど基本となるスキル向上のためのOJTや研修を進める

〈5〉環境実施目標

病院敷地内の立地から動物飼育が出来ないという制約下、自然木に恵まれた広い園庭を活かした環境教育を実践する。

1	計画・ねらい	園児、スタッフによる食材の加工
	実践予定内容	「味噌作り」「梅干し作り」「梅ジュース作り」「畑で収穫した野菜で調理」など食材加工を体験することを通して食材や食の循環を知り、環境への意識を育む。
2	計画・ねらい	給食残渣を2022年度対比70%に削減する
	実践予定内容	残渣測定を日々行うことで得る正確なデータを基に実績を集計する。これまでに育んできたノウハウ（子どもたちが食べられる適量を自ら選び、無駄な残渣が発生しない風土）を全ての大人が理解し、後戻りさせずに目標達成を目指す。
3	計画・ねらい	畑仕事、生き物の世話を丁寧に実施する
	実践予定内容	年間農業計画に沿った畑仕事や水槽飼育の魚類、昆虫の幼虫の世話をすることで命や食の循環を知ることによって環境への意識を育む。

〈6〉選ばれる保育園をつくる

全てのスタッフが来訪者や地域の方々に心のこもった挨拶や言葉掛けを行い、積極的に園に迎え入れる姿勢をしっかりと持つことで保護者や地域から「選ばれる」園をつくる。

1	計画・ねらい	「人と環境の魅力が感じられる」温かい雰囲気の定着化
	実践予定内容	「主体的に行動する子どもたちの姿」「園庭、保育室の魅力ある環境」「相手の立場に立った対応」「チームワークの良さから醸し出される明るい雰囲気」を園の魅力の重要な要素として全員が認識し、実現に向けて努力する。
2	計画・ねらい	利用して良かったと思っただけの丁寧な保育を全員で実践する
	実践予定内容	子どもたちが「通いたくなる」保育園を目指し、一人ひとりの子どもと丁寧に向き合い、保護者と成長を喜びあえる信頼関係を構築する。
3	計画・ねらい	全スタッフで共有できる客観的数値目標の達成
	実践予定内容	「内部監査指摘項目数の削減」「保護者評価NPS数値の改善」等に日頃から着意を持って取り組み、定着化させる。

〈7〉業務分担の可視化と共有

「保育の質の向上」ならびに「選ばれる園をつくる」ために、スタッフのチーム力を一層向上させるべく以下に取り組む。

1	計画・ねらい	園全体・各人の業務内容の可視化
	実践予定内容	誰がどの業務に就いているかを日単位で全出勤メンバーが把握可能な可視化掲示ツールを活用し人員運用の効率化を図る。全員が確実に「事務処理時間」「休憩時間」を確保できるよう運営の常軌化を目指す。良好なチームワークにより保育品質を高めることに繋げる。
2	計画・ねらい	日常ルーティン業務の着実な消化
	実践予定内容	業務分担割り振りに加え各種チェックリストを効果的に活用し、清掃消毒業務等の確実な実施を行う。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	12人	20人	20人	20人	90人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	2人
	パート スタッフ	保育士	7人	補助	1人	事務	1人	用務
	嘱託医	2人						

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	保育内容の充実化、園児個別の事例共有 園として取り組むべき課題への検討、園内研修
給食運営会議	月1回	食育活動実施内容、喫食状況、離乳食進行状況
事故防止委員会	月1回	自園、系列園で発生した事故のケーススタディと改善策検討。当月のインシデント・ヒヤリハット分析検討
ケース会議	月1回	要支援児についての情報共有・検討
リーダー会議	週1回	リーダー保育士・施設長・主任による報告連絡相談
乳児クラス会議	週1回	保育の計画と振り返り、課題共有と検討
幼児クラス会議	週1回	保育の計画と振り返り、課題共有と検討

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人内統一の事案共有、経営との接続
施設長勉強会	月1回	施設長のスキルアップ（マネジメント、コンプライアンス）、各園課題改善や取り組み成果共有
食育会議	年4回	献立内容の改善・提案、給食提供マニュアル及び運用ルールの作成・見直し
保健会議	年4回	保健計画策定、感染症対策やガイドラインの作成改善
主任会議	年4回	各園の課題改善アクションプランの進捗確認共有、マネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	各園課題改善や取り組み成果共有

〈3〉 各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内の汚染区域の安全管理、児童保健衛生に係る身体測定・定期健康診断歯科検診の実施と保護者との連携、施設の清掃と衛生管理に係る消耗品及び備品の管理、感染症予防対策の管理点検
安全対策係	園内・園周辺の施設環境安全整備、戸外活動時の危険個所の把握と周知

	避難訓練及び消火訓練・防災自主点検の実施管理 消防署との連携窓口業務、救命講習計画と実施 施設内外の設備点検及び事故防止の実施
防火管理者	消防計画を作成し、これに基づいて消化・通報及び避難の訓練を定期的に実施
食品衛生責任者	給食食材および提供食材の衛生管理と在庫状況の管理 食育会議の計画や実践、食品の安全に対する管理や啓蒙
畑係	年間農業計画に基づく円滑な畑仕事の遂行管理
生き物係	園内の動植物の飼育育成の計画立案と管理

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
保護者参加行事係	どろんこ祭り、運動会、生活発表会等 成長を伝える行事における内外との連絡調整、運営

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者等の愛情豊かな受容の下で、様々な欲求を満たし、心地よく生活できるようにしていく。 ・保育者等に仕草や表情、発声、言葉等を優しく受け止めてもらい、安心して思いを表現し、伝えたい気持ちを育めるようにしていく。 ・信頼する大人のあたたかく共感的な見守りの下で安心して生活し、興味関心を広げていくなかで活発に探索活動を楽しみながら、様々な感覚が育っていくようにしていく。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの発育に応じて、十分に体を動かす。 ・身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、自分でできることの喜びを感じながら習慣が少しずつ身についていくようにする。 ・温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生えるようにしていく。 ・生活のなかにある簡単な言葉に気付いて聞き分けたり、繰り返したり模倣したりして遊ぶ。 ・自然や生き物、様々な素材など身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもてるようにしていく。 ・生活や遊びの中で様々なものに触れ、手や指を使った遊びを通して

		感覚の働きを豊かにする。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・身体に異常を感じたら保育者に知らせる、交通ルールを守ろうとする、危険な場所や遊び方、災害時の行動がわかるなど、園生活を送る上で健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。 ・保育者等や友達など身近な人に親しみ、関わりを深め一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。 ・身近な環境に好奇心や探求心をもって関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを遊びや生活に取り入れようとする。 ・日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる。 ・自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 ・生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付き、美しいものや心動かす出来事に触れて感性を豊かにする。 ・生活の中でイメージを豊かにし、自分なりに表現して楽しむ。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を十分に動かす充実感を味わい、すすんで戸外で運動しようとする。 ・自分の健康に関心をもち、食事を楽しい雰囲気の中でバランスよく食べようとし、病気の予防などに必要な活動をすすんで行う。 ・自分で考え、自分の力で行動することの充実感を味わう。 ・生活や遊びの中で、友達と力を合わせて活動する楽しさを味わい、きまりや約束ごとの大切さに気付いて守ろうとする。 ・異世代や地域の方など、いろいろな人に親しみをもって関わろうとする。 ・身近な環境や事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。 ・人の言葉や話など聞き、自分の経験したことや考えを話し、伝え合う喜びを味わう。 ・いろいろな素材に親しみ、工夫して遊んだり、かいたり、つくったり、飾ったりなどする。 ・音楽に親しみ、歌を歌ったり、イメージを動きや言葉等で表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

どろんこ会の3大食育方針

- ①調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる
- ②噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する
- ③子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる

以上を基本として、子どもの食欲と意欲を育てるために以下の給食提供・食育を実施していく。

1	計画・ねらい	好きな友達や身近な大人と親しみをもって、楽しく心ゆくまで食べる
	実践予定内容	1年を通して、縁側や園庭を活用して気持ちよく食べる環境をつくる
2	計画・ねらい	意欲的に食事に向かい、魚や野菜を中心とした和食を好んで食べる
	実践予定内容	離乳食からかぶりつく、つかみ食べを導入する。だしや旬の食材を活かした和食の良さや、日本の行事にちなんだ食文化を伝える
3	計画・ねらい	分かち合う事のすばらしさや大切さを感じながら食事をする
	実践予定内容	異年齢での活動や給食、焚き火保育を通して思いやりを持つ

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	毎月20日に身体測定を実施し発育や栄養状態の把握に役立てる 手洗い、うがい指導・トイレの使い方指導 身体づくり、健康管理に関する指導 性教育①「性差について知り、 命をつなぐための大切なプライベートゾーンを守る」 性教育②「命のあゆみ」「多様性、相互尊重」
流行が予測される感染症	通年…新型コロナウイルス、溶連菌感染症 6～9月頃…手足口病・咽頭結膜熱・ヘルパンギーナ・とびひ 11～3月頃…インフルエンザ・ウイルス性胃腸炎・RSウイルス感染症 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施
発作・痙攣等の対応のため	ダイアップ…5名より預かり済み／調乳室冷蔵庫にて保管

の薬の預かり	
エピペン使用できるスタッフ	本日現在23名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員●名については●月●日までに受講予定
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	本日現在23名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員●名については●月●日までに受講予定
その他保健に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防のため、保育室内外の環境衛生管理に努める ・日々の子どもの健康状態や近隣園、地域での感染症流行状況を把握し、感染症拡大防止のための情報発信を行う ・保護者に対して保健に関する知識や情報を提供し子どもの保健行動への協力を求める ・感染症対策として予防接種状況を把握し保護者に対し年齢に応じた計画的予防接種を勧める ・新型コロナウイルス感染症およびその他感染症予防のため、うがい・手洗い指導を行う。また、検温、消毒、換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月

	身長体重測定	毎月1回/20日
	児童健康診断	内科健診 年2回/6・11月 (0歳児のみ年12回実施) 歯科健診 年1回/6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

乳幼児期における教育は“環境をとおして行う教育”であり、遊びを通じた総合的な子どもの発達の観点から、下記に記す環境設定や環境構成を具体的かつ意図的に整え、継続的に点検・整備・改善を行っていく。

1	計画・ねらい	主体性を育む
	実践予定内容	自分たちのあそび・生活を自己決定し、自分たちでまかなう事ができるための物的環境を提供することを通して、自分の力で人生を歩むための支援を行う
2	計画・ねらい	社会性を育む
	実践予定内容	一人ひとりを生かした集団を形成しながら人と関わる力が育つ「混ざる」異年齢・インクルーシブの環境構成
3	計画・ねらい	協同性を育む
	実践予定内容	自ら行動する力が育つとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができ「折り合いをつける力」と「トライ&エラー」を経験することができる環境を提供する

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	平均台	園庭	毎日
2	丸太ベンチ	園庭	毎日
3	ロープ渡り	園庭	毎日
4	自然木の平均台	園庭	毎日
5	屋台	保育室(可動式)	毎日
6	遊技台(玩具ボックス付：大)	保育室	毎日

7	遊技台(玩具ボックス付：小)	保育室	毎日
8	遊技台(フラット型)	保育室	毎日
9	トンネル潜り	0歳児室	毎日
10	井形棚	保育室	年4回(4,7,10,1月)
11	テーブル	保育室	年4回(4,7,10,1月)
12	トイレスリッパ置台	縁側	年4回(4,7,10,1月)
13	送迎受付台	玄関	年4回(4,7,10,1月)
14	本棚	保育室内	年4回(4,7,10,1月)

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	危機管理マニュアルNO.3の災害対策（P6～）に則り、消防訓練・避難訓練避難訓練再開通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報運用を行い災害発生時には対応フローチャートに従う。
2	ケガ事故防止	危機管理マニュアルNO.3（P8～）のケガ事故防止策・安全点検と保全、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従う。
3	防犯	危機管理マニュアルNO.3の不審者対策（P22）に則り、不審者侵入訓練・笛の携帯・代理の送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行いながら、不審者侵入時には対応フローチャートに従う。
4	光化学スモッグ	危機管理マニュアルNO.3の光化学スモッグ対策（P23）に則り光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

次世代育成の観点から、積極的に受け入れを行い、実習生や生徒一人ひとりの様子に合わせて具体的に援助・指導を行っていく。

1	中高生の体験学習の受け入れ	地域の社会資源であり地域研修の場として、地域の中・高生の職業体験やボランティア等を受け入れ、次代を担う学生の学びの機会を提供していく。
---	---------------	---------------------------------------------------------------------

2	保育養成校の学生の実習受け入れ	次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、実習生・研修生を積極的に受け入れていく。
3	一般および学生の各種ボランティア受け入れ	中高生に留まらず広く一般および学生の各種ボランティアを受け入れ、地域におけるボランティア活動の養成に寄与していく。

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修  <p>←避難訓練研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ケガ・ケーススタディ、保護者対応研修、虐待防止研修	安全・事故防止についての共通理解の浸透。保護者対応の仕方(事例研修)。虐待防止の徹底
5月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日課・基本保育活動「散歩」研修	戸外活動時の安全・防犯対策について認識を徹底
6月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② プール安全研修	事件事例を教材に事故防止安全対策のポイントについての認識を深める
7月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日課・基本保育活動「さくらさくらんぼリズム」研修	リズム体操の指導のポイントについて共通認識を図る

8月9日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日課・基本保育活動「運動遊び」研修	子どもの発達・育ちつつある力に応じた運動遊びについて検討し、実践のポイントについての認識を共有する
9月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保護者と成長を喜びあえる行事「運動会」	運動会の狙いを把握し、子どもの発達に応じた運動遊びについて共通認識を図る
10月11日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 虐待防止研修 ③ 事業計画の振り返り	利用者アンケート結果のフィードバック並びに事業計画・運営部Missionの振り返り。課題抽出と達成に向けたアクションプランの共有 虐待防止の徹底
11月8日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境構成について	環境構成について全スタッフで話し合い、認識の共有を図る
12月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② アプローチ・カリキュラムについて	就学、進級に向けた活動や環境について話し合い認識の共有を図る
1月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年間行事の振り返り	当年度の振り返りと、次年度に向けた課題の抽出。
2月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議第1回	事業計画及び来年度方針の策定
3月2日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議第2回	年間活動計画及び保育計画の策定

エリア研修予算内訳（清瀬地区4園合同開催）

開催日	予算	予算の内訳		4園で按分した自園負担額
11月後半	0円	講師代（交通費含む）	0円	0円
合計	0円			0円

・園長大学®・保育士大学の研修受講をもとに清瀬エリアで学びを深める

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
--	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

子どもの生活の連続性を踏まえ、家庭及び地域社会と連携して保育が展開されるようにする。家庭や地域の期間及び団体の協力を得て、地域の自然、高齢者や異年齢の子どもを含む人材、行事、施設等の地域の資源を積極的に活用し、豊かな生活体験をはじめ保育内容の充実がはかられるようにする。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 清瀬中央公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設（信愛の園 等）訪問 月1回
異年齢交流	随時
地域拠点活動	随時
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

- ・保育所保育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを配慮し、乳幼児期にふさわしい生活を通じて、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにする。
- ・変化の激しいこれからの社会を生きるために、生きる力＝知・徳・体のバランスのとれた力を子どもが身に付け主体的な判断の下に行動し自立した人間となるよう、小学校教育を見据えた保育を行う。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月15日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	清瀬第七小学校 1年	20名予定	体育授業見学 (清瀬第七小校庭)	子ども間交流 職員間交流
8月頃	清瀬第六小学校 高学年生	5名予定	小学生ボランティア受け 入れ(当園)	子ども間交流
11月頃	清瀬第三小学校 1年	5名予定	授業参観(清瀬第三小教 室)	職員間交流
2月頃	清瀬第三小学校 清瀬第七小学校	20名予定	小学生との交流会(清瀬 第三、第七小学校)	子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

計画作成を要する児につき、保護者・関係機関と情報共有しながら作成する

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：担任保育士、リーダー、主任、施設長他)

各クラス担任より、ケースを発表し、職員全員で共有(議事録回覧)、特に保護者を含めた課題においては、面談実施し課題と方向性を共有し、課題解決を図ることを重視する。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

クラス担任と新年度前に引き継ぎを実施、小学校への引き継ぎは保幼小連絡会にて要支援の場合は事前相談を行う。

1.1. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00~12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00~12:00
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 清瀬中央公園にて開催

1.2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年5月22日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：9時00分

自己評価終了予定時刻：17時00分

自己評価実施予定者：山崎健、木本宗子、伊藤綾花、藤本十望

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1.3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	基本の励行。原点回帰を軸に学び直し学びの継続により大人も成長を感じられる組織を目指す
	振り返り	年度初めには未達成が多かった散歩9時出発が年度後半には大きく改善するなど、散歩以外も含め「定時日課」の定着化がみられた。

		大人の意識改革が進み、子どもたちの登園時間の前倒し協力と併せ基本骨格が確立した。
--	--	------------------------------------------

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	・清瀬どろんこ保育園の伝統の良い面を受け継ぎつつ、新たなメンバーで行うチーム保育の完成
	重点施策	・基本を守り、大人一人ひとりが主体性を持って考え学び動く文化をつくる
2025年度	目指す姿	・全てのスタッフが自信を持って自園の良さを説明でき、リーダー層を中心とした円滑な園運営が図られている
	重点施策	・Doronkoが構想する社会（人も食も仕事も循環し、0歳から人生を終えるその時まで、全ての人々が「生きる力」をもって、よく生きられる社会をつくる）に近づく為、全てのスタッフが自ら考え行動する風土を定着させる
2026年度	目指す姿	・保護者、地域、自治体から信頼され選ばれる保育園としてのブランド性を確立する
	重点施策	・設備や人材を活用し、児童・母子・父子・高齢者等多様な福祉ニーズを持つ地域の方々に利用してもらえるサービスを充実させる。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：清瀬どろんこ保育園 施設長 山崎 健

2024年度 美しが丘どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

法人理念「にんげん力、育てます」

保育目標「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

横浜市「保育・教育宣言～乳幼児の心もちをたいせつに～ 今と未来を生きる子どもを育みます」

【様々な体験を通して自分で考えて行動する力を育む】

実体験を通して五感を刺激し、沢山の学び・気づきを保育者も一緒に共感する。また、自分の感じたことを表現し、伝えたり考えを出し合ったり、他者と協力することで自らの考えを広げ深めていく。子ども一人ひとりの発達・育ちに合った環境の中で、自分で考えて行動する力を育てていくよう援助していく。保育者も同様に本気で体験することで、子ども達の興味関心を肌で感じとれる。子どもたちが、好きな場所で好きな遊びを好きなだけ遊べる環境、子どもの「やってみたい」気持ちを満たすことのできる環境を子どもの姿を見ながら保育者同士が密に検討し仕掛けていく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子ども主体な保育を前提に、子ども同士が話し合い、考え合う場を設けることで協力・協働性を身に着ける
	実践予定内容	・保育者は子ども同士が話し合えるようにサポートし、子どもたちの様子や言動・思考を記録に取り子どもたちの心情を理解する。 ・子ども自身、他者との関わりの中でPDCAを考えられるようにサークルタイムを設け、1日の振り返りなどを行う。
2	計画・ねらい	子どもたちの発達段階を見極めて、子どもの様子に合わせた環境、関わりを提供することで、活動の連続性や新たな興味関心に発展させる。
	実践予定内容	・保育者は園会議や園内研修、自己研鑽など様々なツールを用いて、子どもの発達を理解する。 ・子どもたち一人ひとりがどの発達段階にあるのかを見極め、必要な環境や関わりを提供していく。
3	計画・ねらい	子ども中心に考えられる保育・子どもに対して日々丁寧に関わる保育
	実践予定内容	・乳児期から一人ひとりに養護を大切に保育していく中で、自己肯定感を育み、心の安全基地をつくる。 ・子どもの声や子どもの出すサインを見落とさず、主体的な活動ができるように、関わり方、環境を工夫し、自己選択を促しながら、温かく応答していく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者と子どもの成長を喜び合える信頼関係を築き発展させる。
	実践予定内容	・子どもの成長を担任だけでなく、全てのスタッフと共有することで、保護者が安心して保育園に預けることができる環境をつくる。 ・保育や子育てに関する知識や技術を生かして、保護者と子どもの関わり

		を支えるとともに、子育てを応援し、子育ての喜びを共に分かち合う経験を重ね信頼関係を気づいていく。 ・日頃からいつでも相談できる関係性を築いていく。 ・保育参加や個人面談の案内も随時行っていく。
2	計画・ねらい	保護者に子どもの姿がわかるよう丁寧にする。
	実践予定内容	・タイムライン、連絡帳では活動内容をお伝えするだけでなく、その活動での子どもの気づき、表現など、身体発達だけでなく、心の成長もお伝えし、子育てできる関係性を作っていく。
3	計画・ねらい	保護者が安らげる場所
	実践予定内容	・元気の挨拶を実施することを徹底し、「明るい保育園」「気持ちの良い保育園」と感じてもらえるようにする。 ・送り迎えにいらしたとき、スタッフは常に落ち着いた雰囲気を作り、笑顔で「おかえりなさい」と出迎えることで、安らげる場を作っていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	火・水・土で遊べる環境を提供し、地域の親子が直接体験を出来るようにする
	実践予定内容	水遊び、どろんこ遊び、畑仕事、焚き火（炭火）など園の環境を最大に生かした火・水・土の直接体験を地域の親子に提供していく。
2	計画・ねらい	見学時の丁寧な対応を行うことで、保育園に興味を持ち保育園の良さを感じていただく
	実践予定内容	・どんな時間に見学にいらしても日々の子どもの様子や生活が手に取るように分かるようにお伝えしていく。
3	計画・ねらい	青空保育・ちきんえっぐのさらなる充実
	実践予定内容	・散歩先で地域の方に積極的に挨拶をして、チラシを配布したりし、保育園の認知度を上げていく。 ・青空保育・ちきんえっぐに参加されたご家庭がまた来たいと思うような企画・振り返りをして、美しが丘どろんこ保育園を知っていただく機会を増やす。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園目標・個人目標に対して各自の進捗状況を明確にしていく
	実践予定内容	・スタッフは自身で個人目標を設定し、定期的にPDCAを行う中で、1歩ずつステップアップが出来るようにしていく。 ・園目標を達成するために、各月どんなことを意識して日々を過ごすかを全スタッフが考え行動していく。
2	計画・ねらい	保育所保育指針に記載がある「3本の柱」「10の姿」を理解し学び続ける大人集団になる
	実践予定内容	・乳幼児期だけの知識でなく、学童期に結びつくためにどんな働きかけが乳幼児期に出来るかを検討し、実行する。 ・ドキュメンテーションやポートフォリオ、エピソード記録など、状況に応じた手法を用いて学び合い、検証していく。

3	計画・ねらい	子どもが主体となる日課・基本保育活動の実施
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日課や基本活動を行う意図を理解し、実行していく。 ・日課や基本活動で培われる力はどのようなものか、より良い方法は何かを追求し、実施していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	残食を軽減し、肥料として畑へ再利用する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コンポストの設置をする。 ・生き物の糞や調理くずから肥料を作り、畑の肥料として使うという循環について知る場を設ける。 ・子どもが自ら配膳することで、自分の食べられる量を知り、残食を減らしていく。
2	計画・ねらい	畑仕事を通し、野菜への興味関心、食べ物に対しての有難みを伝えていく。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・畑仕事、食育活動を通して、自分達の育てた野菜が生長する過程を見ながら、作物が実る素晴らしさ、大変さを伝え、食べ物への感謝の気持ちを伝えていく。

〈6〉一日を振り返り実行できるチーム保育

1	計画・ねらい	一日の保育を他者や自身で振り返る
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なアクティビティーを用いて、子どもの姿や生活の在り方等を振り返り、課題の抽出を行う。また、抽出した課題を確実に実行していく。

〈7〉気持ちの良い保育園づくり

1	計画・ねらい	どんな人でも心地よく園を利用してもらえる環境にする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・美観を考え園内、園外清掃が行き届き園を訪れる人が気持ちよくなるようにする。子どもが自分らしさを発揮し、主体的に生活できる居心地の良い場所を作る。自分らしさが保障され、子ども・職員・保護者様が共に語り合える場を作る。
2	計画・ねらい	園に関わる人が笑顔で、コミュニケーションが取りやすい雰囲気づくりをする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内は子どもやスタッフの笑い声が絶えないような保育園となる。 ・園内だけでなく、近隣の方と自然に挨拶が飛び交う関係を気づいていく。

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	8人	10人	12人	12人	12人	60人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	9人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	2人
パート スタッフ	保育士	6人	補助	1人	調理	0人	事務	0人
	用務	1人	嘱託医	2人	看護師	1人		

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	園内研修、保育の振り返り、研修報告
給食運営会議	月1回	アレルギー対応、離乳食対応、食育
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハットの検証、安全対策、インシデントの共有
ケース会議	月1回	支援計画及び振り返り
リーダー会議	随時	スタッフ間の連携や共有、保育運営に関する共有
フロア会議	月2回	月案の確認・振り返り、子どもの姿共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	運営に関する確認事項、業務報告
施設長勉強会	月1回	保育園運営、保育の質向上に関して
食育会議	年4回	食育、離乳食、メニューの検討、給食室発信の保護者支援に関して
保健会議	年4回	感染症対策、衛生管理、保健業務に関する共有
主任会議	年6回	チーム保育・職場の良い風土作り
子育ての質を上げる会議	月1回	自園の課題を共有し系列園と共に高め合う

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内の衛星区域・汚染区域の備品管理、安全管理
安全対策係	避難訓練・園内及び園周辺の安全点検と対策に取り組む
防火管理者	防火管理に関わる消防計画を作成し、防火管理上必要な業務を定期的に行う。
食品衛生責任者	食品取扱に関する業務、施設の衛生管理やスタッフの衛生教育
畑係	年間農業計画の遂行や子どもと共に取り組む畑仕事の充実を図る。
生き物係	飼育動物の健康管理、環境改善

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズとの窓口 役割分担を整理する 稟議書作成
運動会係	役割分担を整理する 稟議書作成
生活発表会係	役割分担を整理する 稟議書作成

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ●保健的で安全な環境づくりを目指し、体の状態を観察して快適に生活できるようになる ●安定した生活リズムの中で食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る ●安全な環境を整え、探索活動が活発にできるようになる ●自然の中で、十分に体を動かして遊ぶ ●身近な動植物に親しみ、関心や愛情が持てるようになる ●言葉でやり取りができない乳児期は、まわりの大人が愛情をもって『応答的な対応』によりさまざまな能力の基礎となる『信頼感』の発達を促す ●優しく語りかけたり、喃語や発語に応答したりして発語の意味を育て言葉を使うことを楽しむ
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ●安心できる保育士との関わりの中で、食事・排泄・着脱などの活動を通して自分でしようとする気持ちを育む ●まわりにさまざまな大人がいることを知り、徐々に友だちと関わって遊び、見立て遊びやつもり遊びを楽しむ ●子ども一人ひとりが何に興味を示しているのかを考えながら見守り、学びに向かう意欲へとつなげていく ●生活に必要な言葉がわかり、簡単な喃語や言葉を使って自分の意志を伝えようとする ●身近な自然に触れ自然を使った遊びを楽しむ ●身近な動物に親しみ、関心や愛情が持てるようにする ●食べる喜びや楽しさを味わい進んで食べようとする気持ちが育つ。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの主体性や意図を理解し、子どもたち一人ひとりの学びがどのように存在しているのかを考えながら支援していく ●保健的で安全な環境づくりを目指し、快適に生活できるようにする ●友だちと一緒に食事をする中で、さまざまな食べ物を食べる楽しさを味わう ●子どもたち一人ひとりの欲求を満たし、生命の保持と情緒の安定を図る ●子どもが安心して自分の思いを言葉で伝えることができたり、人の話を聞いたりして言葉で伝えあう楽しさを味わう ●友だちとの関わりの中でそれぞれが自分の力を発揮しさまざまな活動に取り組む ●いろいろな体験を通して、五感が刺激され豊かな感性や創造性を育む ●自然に興味や関心を持ち自ら関わって遊ぶ ●自分でできることに喜びを持ちながら、基本的な生活習慣が次第に身につく

	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ●自分でできることの範囲を広げながら、健康、安全など生活に必要な基本的な生活習慣や態度を身につける ●子どもの姿を『幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿』に照らし合わせてとらえるようにする ●食事をするという意味が分かり、楽しんで食事やおやつを取るようになる ●いろいろな体験を通して、五感が刺激され豊かな感性や創造性が育まれ自由な発想でのびのびと表現することを楽しむ ●身近な動植物や自然に関心を持ち、不思議さや神秘さに気づく ●季節の変化に応じた健康的な生活に留意し、快適に過ごせるようにする ●友だちへの親しみや思いやりを深め、人の役に立つことに喜びを感じ、協力して取り組もうとする ●失敗してももう一度挑戦してみようとする気持ちが育つような配慮をする。 ●就学に希望を持ち卒園できるようにする。また在園児は5歳児の姿をみて進級に見通しを持てるようにする。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・ 2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

I	計画・ねらい	食への興味関心を深め意欲を持って食べる子ども
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな物を好きな場所で好きな人と食べることで食への楽しさを体験する。 ・バイキングを通して自分の食べる量を知る。 ・0歳～2歳児においても子どもの意思を尊重しながら食を進め、発達を見極めながら自ら取り分ける経験をする。 ・全スタッフ子どもと共に昼食を食べ、コミュニケーションを図ると共に、楽しい空間となるよう配慮する。 ・縁側給食を通して四季折々感じながら食べる環境をつくる。また旬の食材にも触れ食への興味関心が持てるようになる。
	計画・ねらい	「お腹が空いた」という経験を通して食への意欲を高める。

	実践予定内容	・食事の時間だから食べるのではなく、お腹が空いたことを感じることで食へ対しての意欲を高めていく。日中の活動を充実させ、夜は休息するという、人間にとって健康的な生活リズムを作っていく。
2	計画・ねらい	様々な体験を通して食や食の循環について興味関心をもつ。
		・畑活動を通して、作物が育つまでの大変さ、成功や失敗を体験することでまた、育てた野菜を自分たちで調理し、食材の有難みを感じるとともに、食の循環を学ぶ。 ・商店街ツアーを通して食の物流を知ること、食の興味関心が持てるようになる。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（5月・11月）
歯科検診	年2回（5月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯みがき指導・手洗い指導・感染症についての情報共有
流行が予測される感染症	通年…新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 4～9月頃…手足口病・ヘルパンギーナ 6～10月頃…マイコプラズマ肺炎 7～10月頃…咽頭結膜炎・流行性結膜炎 11～3月頃…水痘・インフルエンザ・感染性胃腸炎 1～6月頃…伝染性紅斑 3～4月頃…麻疹・風疹 一年を通して…突発性発疹・流行性耳科腺炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ坐剤…1名より預かり済み／事務所に保管 セレスタミンシロップ…1名より預かり済み／事務所に保管 フェキソフェナジン…1名より預かり済み／事務所に保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在24名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	設置なし
その他保健に関する取組	・保護者に対して内科検診、歯科検診、身体測定の結果を知らせるとともに必要に応じて治療をすすめる ・感染症、インフルエンザ等の情報をお知らせし、手洗い・うがいの励行は感染拡大予防に大切なことを知らせる

	・行政からのお知らせ掲示 ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。
--	---------------------------------------------------------------------

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検(定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検(簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／5・11月 歯科健診 年2回／5・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもが主体的に関わったり試行錯誤したりできる環境づくり。
	実践予定内容	・子どもの発達や子どもの現状に合わせて遊びのコーナーを設定する。 子どもと一緒に環境を作っていくことで試行錯誤しながら遊びこめるように場を整える。
2	計画・ねらい	子どもたちの活動をサポートする人的環境
	実践予定内容	・子どもたちが遊び込める環境を用意した状態で、子どもたちの興味関心を探りつつ、次の仕掛けを考えていく。 ・大人が遊び込む様子を子どもたちに見てもらい、あそびの発展を子ども自ら考えられるようにする。 ・大人も子どもも楽しい活動ができるように、子どもたちと対話をしながら活動を考える。
3	計画・ねらい	火・水・土に関わる体験強化
	実践予定内容	火・水・土に触れる体験を今までよりも盛んに行われるために、スタッフが積極的に活動し、子どもたちに背中を見せ、どろ遊びや水あそびが好きな子どもが1人でも多くなるように計画・実行する。
4	計画・ねらい	衛生・安全管理について
	実践予定内容	子どもが安心、安全に過ごすことができるよう、遊具や設備の点検や清掃消毒を常に行っていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	配膳台	幼児室	毎日
2	丸太ベンチ	園庭	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	人数確認方法（2名以上でのダブルカウント）をスタッフ全員に共有し、全員が同じようにできるよう、定期的にロープレや研修を行う。都度、ハザードマップの見直しを行い、人数確認のポイントを押さえ、散歩に行く前（前日）にハザードマップを見て、危険個所の確認を行う。保育中の事故防止のため、子どもの心身の状態をふまえて、園内外の安全点検に努める。施設長は怪我発生時対応フローチャートを、全スタッフに周知するフローチャートは事務室に設置し、全スタッフがいつでも対応できるようにする。月1回の事故防止委員会で、インシデント報告書の分析と再発防止策を話し合い、共有し、今後同じような怪我や事故が起こらない意識を高く持ち、保育にあたっていく。
2	実践予定内容	「光化学スモッグ注意報」が横浜市より発令された場合は、いち早く園内・園外にいるスタッフに周知するとともに、特に園外にいるスタッフに

		対しては、保育園に戻るなどの対応を考え共有する。園内にいる場合は窓を閉め、子どもたちの健康状態に留意する。
3	実践予定内容	遠足や銭湯でバスを利用し移動する際は、乗降時の人数確認（マニュアル参照）を徹底し、置き去り等の事故につながらないように十分に注意を払う。また、バス走行中でも足の位置・握り手を持っているか、度の過ぎる会話をしていないかなどに気を配り、運転の妨げにならないよう気をつける。（節度をもつこと）
4	実践予定内容	防災対策 災害や事故の発生に備え、危険個所の確認・点検を行い、消防計画に基づいた避難訓練を実施する。 施設長を中心とした連絡体制の強化と行政各所との連携を密に行う。災害発生時には各スタッフが迅速かつ適切な対応を取り、子どもの安全確保ができる体制を整える。
5	実践予定内容	防犯対策 定期的に不審者侵入訓練を行う際、自園の場合門扉からの侵入が可能な他、駐車場側の塀から簡単に侵入することができるため「どのように子どもたちを待機誘導させるか」を考えいく必要がある。（場合によっては調理室の勝手口を利用して誘導する）

6. 実習生・中高生の受入

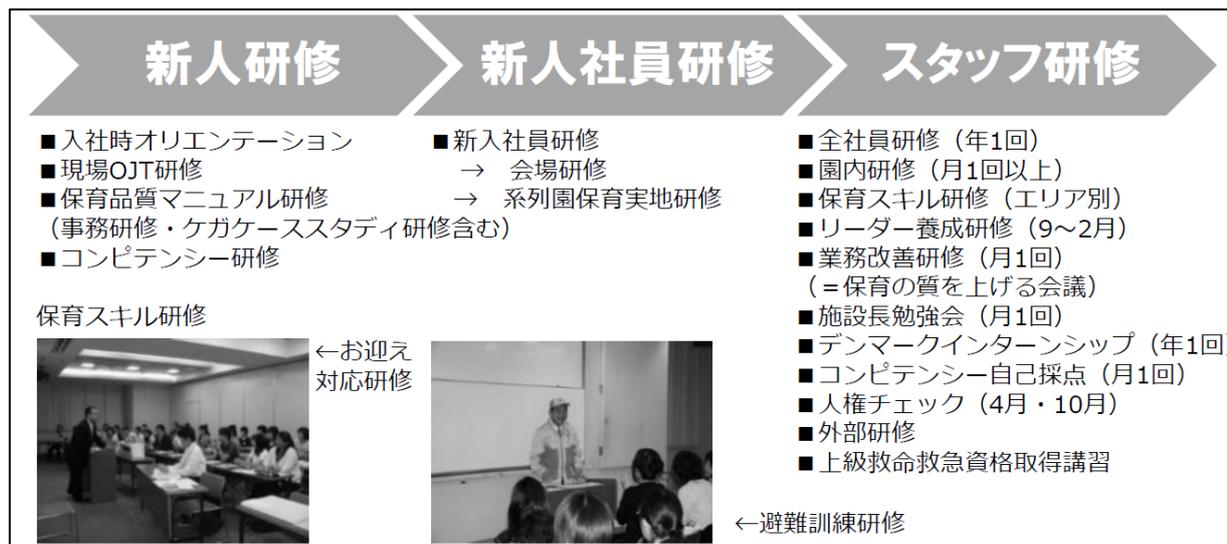
〈1〉今年度方針・テーマ

実習生が不安にならないようにスタッフ全員で温かく迎え丁寧な対応を行い、実習終了後もいつでも遊びにきてもらえるように温かい気持ちで接していく。

1	実践予定内容	実習生の受け入れを養成校と連携しながら、保育士・看護師・栄養士志望の学生を積極的に受け入れていく。
2	実践予定内容	中高生のボランティアや職業体験については、「命の大切さ」や「子ども・家庭の理解」を推進するために中学生・高校生と赤ちゃんとのふれあい交流を実施する。

7. スタッフ育成と研修計画

・園会議の時間を中心に、園内研修(エピソード研修)を行っていく。園内研修で保育士達が自らの実践を振り返り、成果や課題をしっかりと自覚して保育をスタッフ一丸となり改善していく。・法人内・外に関わらず、子どもや保育者自身に必要なと感じた研修は積極的に参加する。・研修を受けるだけでなく、研修の講師を経験することで自分の思いを伝えることや、難しさを知り、今後の学びとして繋げていく。



〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック ③ 危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ マニュアルを理解し、基本に沿った対応を全スタッフができるようにする。 ・ ハザードマップ・ルートマップ等散歩についての共有。災害への対応と心構え、ヒヤリハットの考え方。
5月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日課や基本保育活動を深める。 ③ 熱中症予防 ④ 園目標・I期振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日課や基本活動を深める。 ・ 熱中症についての症状や予防法を学び発症予防する。 ・ 園目標の振り返り
6月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺のリスクマネジメントについて ③ 相手の気持ちに立った接遇	<ul style="list-style-type: none"> ・ プール開きに向けて水辺の研修を行い事前にリスクを共有する。 ・ 保護者対応の方法・事例を交えて学ぶ。 ・ 電話や来客対応をロープレする。

会議)												
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士 大学講座および社 内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターソップ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

小学校訪問、老人ホームの訪問、絵本読み聞かせ、ボランティアなどを積極的に行っていくことで、保護者や地域の方の協力も得ながら地域に根ざした保育園になる。ちきんえっぐの取り組みを地域へ発信していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：美しが丘公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人ホーム「ヒルデモア訪問」で交流を深める 中学生・高校生の体験学習の受け入れ
異年齢交流	中学生・高校生の体験学習の受け入れ
地域拠点活動	ちきんえっぐ（自然食堂・寺親屋・芸術学校）の開催 地域支援活動（地域での落ち葉拾い） 園開放・園庭開放 地域公開講座の実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

子どもの発達連続性を見据えて保育園における保育が行われていること、子どもたちの生活が小学校へつながるものとして、就学を見通した保育がどのように行われているか、小学校と積極的に連携していく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を2024年4月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
12月頃	美しが丘小学校	12名予定	1年生との交流（美しが丘小教室）	子ども間交流
1月頃	奈良の丘小学校	2名予定	スタッフ間交流（美しが丘小教室）	職員間交流
2月頃	美しが丘小学校	12名予定	1年生との交流（美しが丘小教室）	子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

保育の方法や内容について個別支援計画を作成し、定期的に保護者の方と話しをして理解得ること。子どもの発達状況を捉えて課題を抽出し、情報を共有して認識を同じくしていくよう努める。

〈2〉毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定 参加者：開催日勤務状況によって参加者を選定）

必要に応じて専門機関と連携し、療育方針・方法を共有していく。スタッフ全員に対して障害児保育の正しい認識が持てるよう配慮していく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

小学校へは保育所児童保育要録の送付とともに、引継ぎが必要な事項に関しては直接引継ぎの時間を設けていただき、子どもたちがスムーズに小学校生活を送れるように連携を図る。

1.1. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(金) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:美しが丘公園にて開催

1.2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

学研データサービスに依頼して2022年度受審済み

〈2〉園による自己評価の実施

2024年1月12日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 13時00分

自己評価終了予定時刻: 14時00分

自己評価実施予定者: 施設長・主任・その他スタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日: 8月25日

1.3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが挑戦と失敗を繰り返すことができる体験の提供をする。そのためには、スタッフが自身の直接体験を増やし、自らの経験から子どもたちにどんな直接体験を提供できるかを考える。 直接体験をすることで、物の性質を理解し、五感「見る(視覚)」「聞く(聴覚)」「味わう(味覚)」「嗅ぐ(嗅覚)」「触れる(触覚)」
-------------	------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<p>覚)」を養い、自然の在り方を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自然に興味を持ち、自然や人に関わる中で「生き抜く力」をつけていく。
	振り返り	<p>自然を感じられる体験を子どもたちに提供することは意識して計画し実行できたと感じるが、スタッフ自身の直接体験は多く取り入れることが出来なかった。</p> <p>挑戦と失敗を繰り返し遊びの連続性を子どもたちと考えていくことに課題を感じた為、次年度に継続して子どもたち同士やスタッフ同士で遊びの連続性について検討していきたい。</p>

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども中心にスタッフ一人ひとりが専門性を活かした保育チームをつくる。 ・保護者・子どもたちが安心、安全、安らげる保育園となる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを中心に置き保育していく。保育者同士が日々子どもの姿を語り合い、理解し何かをさせる保育ではなく、一人ひとり個性と発達に向き合い、ありのままを受け止め、子どもと共に成長していく共主体の意識を常に持ち合わせるスタッフ集団を目指していく。
2025年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ trial&errorを大切にしながら、一人ひとりの強みを生かし保育の質の向上をめざす。 ・ 保育園、家庭と連携し子育てをする。子育てが楽しいと感じられるような子どもを中心に置き保護者支援を目指す。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもも大人も様々な実体験から学びを振り返り明日へとつながるような継続的な保育となる。子どもの姿から環境を設定し、「しかけ」を用意することで挑戦するきっかけを作っていく。成功・失敗を繰り返し対話することで生きる力をつけていく。 ・ 日々保育者同士が子どもの姿を語り合い、理解し何かをさせる保育ではなく、一人ひとり個性と発達に向き合い、ありのままを受け止め子どもと共に成長していく共主体の意識を持ち合わせるスタッフ集団となる。 ・ 子育ての楽しさや成長、喜びを互いに感じられるような支援や情報提供をしていく中で、スタッフ、保護者で子ども中心に置いた子育てを展開できるようにする。
2026年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者・子ども・地域からも愛される保育園になる。 ・ 子ども主体保育となる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域から選ばれた保育園になり、子育て支援として園を利用してくださいる方を増やす。またその実践により選ばれる園として継続していく ・ 子ども自らが遊びやルールを作り上げ保育園生活を築いている。 ・ 異年齢の子どもたちが、園舎を歩き来し、様々な友だちと関わり合い、お互いに手を差し伸べることができる。年下児は年長児へのあこがれ、年長児は年下児へいたわる気持ちを育み、大きな家になる。

以上

2024年度 大豆戸どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

「にんげん力。育てます。」という理念に基づき、私たちスタッフは、子どもを真ん中にし、子ども自身で考え、周りとは相談して行動することができる環境を作る。物的環境を整え、生活・遊び・労働を教え合うことで子どもたちの社会性を育てていく。スタッフは、見守るだけでなく、必要な場面に於いては、大人が教えていく環境を作ることによって、生活力を身につけ、自分の足で人生を歩むための支援をしていく。その為に、大人も一人ひとりが考え、学び、それを実際に動き、自律することで主体性を育てていく。

また、保育から子育ての支えとなるために、子どもたちの日々の姿を発信し、どんな経験が子どもの成長に繋がるのか、常に伝え合い、共に考え、見守り、寄り添いながら、子育ての素晴らしさを経験していく。保護者と地域の方々と共に考え、共に学び合えることができる環境を作っていくことを目指していく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

子ども一人ひとりの個性を尊重するために、保育者の自律と向上を目指す。

どのスタッフも自信を持って子どもと学びあえるように、子どもを真ん中にし、共に考えて、共に経験しながら互いに学び直し、学び合う保育とは何かを意識しながら、心にゆとりを持って最適な環境が作れるようにする。

その為、日常からスタッフ同士・スタッフと保護者・スタッフと地域の方々とコミュニケーションをとり、課題にぶつかった時には、受け止めあえる関係性を築き、共に語りあい、互いに学び直し、学び合える職場環境（会議、研修など）の下、質の向上を図る。

1	計画・ねらい	園のスタッフとしての現状からみる課題における園内研修を行う。
	実践予定内容	月に1回の園内研修において、どのスタッフでも主導を取り、プロの指導者としての現状からの課題だしを行いながら、具体的な保育の質の向上ができる研修を計画から実施、振り返りまで行う。
2	計画・ねらい	他者の考えを知り、受容した上で自分の言葉で発信し、伝え合える環境を作る。
	実践予定内容	どのスタッフも日々の中での保育についての雑談を語り合える関係を築いていく。毎週1回のフロア・学年会議内で自分の考えを言葉で伝え、相手の考えや思いも聞ける職場環境を日常化する。
3	計画・ねらい	子ども一人ひとりの発達や成長をフロアやクラス会議で話し合い、環境設定や計画から実施、振り返りを行う。
	実践予定内容	一人ひとりの発達や成長を知ること、その子に必要な養護や教育を知り、スタッフで共有することで、みんな同じ方向を向いて保育していく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

子どもを預ける不安や戸惑いを理解し、小さな心の変化や体調の変化を共有し、安心して保護者が子どもを預けて仕事ができるようにサポートしていく。

各家庭で異なる子育ての価値観や考え方を十分理解したうえで、子ども一人ひとりの良さや課題を保護者と共有しながら「共育て」を行っていく。

日々の子どもの成長をお迎え対応や連絡帳・タイムラインなどで伝えていく中で、信頼関係を築いていき、保護者の多様化したニーズに応えられるようにしていく。

1	計画・ねらい	子どもについて語り合いながら、保護者同士が互いを知ることができる保護者懇談会の実施をする。
	実践予定内容	年2回の保護者懇談会を開き、法人や園からの共有事項を確認すると共に、保育者と保護者が子どもについて語り、学び合う。
2	計画・ねらい	保護者の希望に応じて、子どもが日々、経験していることを知ることで、保育参加を実施する。
	実践予定内容	保育参加をすることで、子どもがどんなことを経験から学んでいるかを保護者が一人のスタッフとして経験して知り、今後の子育てのヒントに繋がるようにする。
3	計画・ねらい	保護者の希望に応じて、子どもの発達や子育てなどについての悩みを相談することができる保護者面談を実施する。
	実践予定内容	保護者の希望に応じて、子育てについての悩みや相談を話し、保護者に寄り添いながら、共に考え、学び合える機会を提供する。

〈3〉地域の子育て支援事業

住宅街の中にあり、園庭や園舎が広く、地域の方々に興味を持って気軽に利用して頂けるように、掲示を工夫したり、園見学や行事参加の際に自園の特性を伝えたりする中で地域の方々にとってのもいっまでも利用しやすい環境を整えていき、地域の方々とより密に関わり、自園ならではの経験から共に学び、考え、伝えあえるように、場を提供していく。

また、地域子育て拠点として、子育てに悩む地域の方々の心の拠り所を目指す。

1	計画・ねらい	子育て支援活動「ちきんえっぐ」を知ってもらい、活動に参加する中で、自園の魅力も伝える。
	実践予定内容	「芸術学校」「自然学校」「自然食堂」「寺親屋」「青空保育」について、ポスターの掲示や散歩時のスタッフからの声掛けにより、地域の方々にも共に活動を通して自園を知って頂く。
2	計画・ねらい	園庭開放を知ってもらい、利用をして頂き、気軽に立ち寄れる場所だと感じてもらう。
	実践予定内容	地域の方々に向けて、より分かりやすい表示をすることによって、気軽に立ち寄れる場所で安心して遊べる場所にしていく。
3	計画・ねらい	ベビーステーションや絵本の貸し出し、子育て相談など、分かりやすく表示していく。
	実践予定内容	地域の方々に気軽に立ち寄れる場所であることを知ってもらい、子育ての悩みを相談できる場にしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

園の子どもに関わるスタッフは、職種や経験に関わらず専門性を高めるために研鑽を積み、日々の保育を展開していかなければならない。子どもが人間形成をしていく極めて重要な時期に関わる者としての責任をしっかりと理解し、自覚できるスタッフを育てる。一人ひとりが運営方針に従い、状況の変化に応じて、どのスタッフも主体的に判断、行動する組織にしていく。

トップダウン型の園運営ではなく、各職種の専門分野、得意分野にて各自の力を発揮し、互いに連携を図りながら共に語り合い、考え、伝え合うことにより、園全体のチームとして質を上げる。

1	計画・ねらい	他者の考えを知り、受容した上で自分の言葉で発信し、伝え合える環境を作る。
	実践予定内容	どのスタッフも日々の中での保育についての雑談を語り合える関係を築いていく。毎週1回のフロア・学年会議内で自分の考えを言葉で伝え、相手の考えや思いも聞ける職場環境を日常化する。
2	計画・ねらい	園のスタッフとしての現状からみる課題における園内研修を行う。
	実践予定内容	月に1回の園内研修において、どのスタッフでも主導を取り、プロの指導者としての現状からの課題だしを行いながら、具体的な保育の質の向上ができる研修を計画から実施、振り返りまで行う。
3	計画・ねらい	主任、中堅リーダーが園運営についての組織マネジメントの計画の一員となる。
	実践予定内容	施設長からの園の基本方針に基づいて、主任・中堅リーダーとしてできる園運営についての課題を考え、実行する。

〈5〉環境実施目標

法人が構想する社会として、食材の循環、環境の意識を育む環境教育、自然の豊かさを守る活動・共助と自立のための環境作り・仕組み作りを実現し、0歳から人生を終えるその時まで、全ての人が「生きる力」を持って、よく生きられる社会を目指していく中で自園の特性や地域性に応じて環境マネジメントを実践していく

1	計画・ねらい	畑仕事や生き物の世話を日課して実践することで食材や食の循環への意識を育む。
	実践予定内容	毎日の畑仕事や週2回他園訪問の鶏の世話を通して、食材加工などの食育活動へつなげ、計画から実施、振り返りまでを行う。
2	計画・ねらい	子どもの食べる意欲を育て、給食残渣を減らし、食材の循環サイクルを執行する。
	実践予定内容	毎日の子どもの喫食状況を把握する。給食残渣を意識し、減らしていけるようにしていく。また、コンポストの活用も考え、食材が変化していく様子を学ぶ。
3	計画・ねらい	食材を加工することで長期保存できることを学ぶ。
	実践予定内容	食材を加工することによって、保存できる物を知り、実際に作り、保存状態し、食すまで行う。

〈6〉 保育環境の整備

園を大きな家として捉え、スタッフ全員で見守り、協力しあいながら、子どもの成長や興味に気付き、子どもの遊びや興味が持続して夢中になり、発展できていく環境を作る。

保育環境について定期的に話し合い、一人ひとりの子どもたちの個性を捉えながら、子どもの興味が伸ばせるように、全年齢の子どもが自由に行き来でき、夢中になれる環境、子どもの特性が様々な形で表現でき、また、子ども自身がいつでも経験を選択できる環境も意識し、多くの音楽に触れ、造形活動を充実していき、個々の感性を磨いていく。

1	計画・ねらい	チーム保育を維持するための話し合いを行う。
	実践予定内容	週1回のフロア・学年会議に限らず、日々の報告・連絡・相談の中で、子どもの成長や変化に応じて、常にスタッフ同士が話し合える環境を作り、計画・実践・振り返りを行う。
2	計画・ねらい	園内研修で環境について、スタッフ間で丁寧に振り返りをする。課題を出し、その課題の解決に向けて話し合いを行う。
	実践予定内容	日々の振り返りから、補えない部分を全体で話し合う。子どもの成長や遊びの展開を予測して具体的にスタッフ同士で考え、計画し、実践し、環境を整えていく。

〈7〉 危機管理マネジメントの育成

全スタッフが、子どもの命を守る意識を持つ。チーム全体の保育力を見極め、安心・安全な環境を目指していく。定期的に事故や怪我の具体的なリスクや安全管理に於いて、過去の事故例から事故の予測をして予防に努め、ハザードマップを使って自園の特性を知り、話し合い、安全性に強化していく。

1	計画・ねらい	過去の事故例を共有し、事故の予防に努める。
	実践予定内容	事故記録簿・インシデント・ヒヤリハットから、傾向と対策を毎週1回の昼礼で共有する。
2	計画・ねらい	園内設備の細やかな点検を行い、安全性を保つ。
	実践予定内容	事故防止係・用務員が中心となり、園内設備の安全を確認し、全スタッフにも共有する。
3	計画・ねらい	園内研修で「危機管理」について、スタッフ間で丁寧に振り返り、課題出しあう。
	実践予定内容	子どもの特性、成長や遊びの展開を予測して具体的にスタッフ間で話し合う。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	16人	18人	18人	18人	90人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	0人
	事務	1人						
パート スタッフ	保育士	9人	補助	2人	調理	2人	用務	1人

3. 運営方針

(施設内会議の開催(勤務時間内))

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	・コンピテンシー・保育の質向上に関わる勉強会 ・系の共有
給食運営会議	月1回	・給食献立の振り返り ・各クラスの昼食の様子
事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハット、インシデント、事故記録簿の傾向と対策
ケース会議	月1回	・個人の目標の振り返りと共有
保健会議	月1回	・保健計画の振り返り、感染予防方法の確認
リーダー会議	月1回	・園全体の運営、人材育成計画・振り返り・共有
昼礼	月1回	・事務連絡、子供の様子を共有、事故・怪我の共有
フロア会議	月1回	・フロアごとの保育計画の振り返り・立案

		・子どもの様子共有
学年会議	月1回	・フロアごとの保育計画の振り返り・立案 ・子どもの様子共有

〈4〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回	施設長
主任会議	年4回	主任
子育ての質を上げる会議	月1回	ミドルリーダー

〈5〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	子ども及び保育者の健康保持のために、施設内外の保健的環境の維持向上、衛生管理
安全対策係	施設内外の設備及び用具の安全管理・点検、事故記録の作成、避難訓練計画立案・実施
防火管理者	災害を想定した訓練や消防設備点検、避難経路の確保・点検
食品衛生責任者	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応
畑・食育係	日課（畑仕事）の振り返り・共有・計画立案・実施、食材や食の循環・環境への意識を育む
子育て支援・地域交流係	子育て支援事業・地域交流についての計画立案・実施
室内・戸外環境係	室内・戸外環境について計画立案・実施
備品管理係	園の備品管理・発注、絵本通信の作成
写真・卒園アルバム係	写真販売に関する写真の確認
絵本係	絵本の管理・発注、絵本通信の作成

〈6〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画立案・実施などの補佐
運動会係	運動会の計画立案・実施
生活発表会係	生活発表会の計画立案・実施

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・生理的・心理的欲求を満たし、一人ひとりの生活リズムに合わせ安心して過ごす。 ・保育者との信頼関係のもと、情緒の安定を第一に自分で見つけた遊びを十分に楽しみ、応答的な触れ合いをする。 ・個々の子供たちの発達課題を的確に把握した中で、多角的・適格に子どもを捉え、指示をせず、子どもが自ら選択する保育を行い、発達の連続性・つながりを大切にする。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの感性を揺さぶり、目を輝かせて遊んでみたくなるような環境を整え、遊びによる満足感や充実感を得られるような保育を行う。また、自発的に試してみたいと思う環境を準備し、保育者の見守る中で子どもが十分遊べるようにする。 ・他児や周囲の人への関心が高まる時期なので、十分に身体を動かす・諸感覚を働かす・興味や関心を育てる・探求意欲を満たす・思考力や認識力の基礎を培う保育を行う。 ・子どもの様々な感情表現を積極的に受け止め、子どもの自己肯定感が育まれる様に努めていく。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの子どもが、主体的に活動できるような環境を準備し、異年齢での経験を大切にしていく。 ・異年齢の中で友だちとの繋がりを深め、楽しむ場を作り、協調性や自主性を育む。 ・興味や関心を持ったことに主体的に関わり、発見を楽しみ、考え、遊びを取り入れていく。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢児との関わりの中で、生活や遊びの達成感や充実感を味わう経験を保証する。 ・子どもが自分で考え、工夫し、判断して自ら行動できる。 ・心を動かす様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを行う。
保育参加	4～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・希望保護者による保育参加

		<ul style="list-style-type: none"> ・保育参加後アンケート記入依頼 ・普段の生活を見て、一緒に活動していくことで、子どもの育ちや園での取り組みを知って頂く機会とし、期間を定めず自由に参加ができるようにする。
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

- ・乳幼児期に欠かせない栄養のバランスを配慮し、噛む力を育てる・素材を味わえる献立を提供する。
- ・季節の恵み、地域の産物を取り入れながら、保育者も子どもと共に楽しみを待つ給食に努める。
- ・食材を加工することで、様々な食べ物へ循環することや自然環境への意識を身に付ける食育活動を行い、命を頂くことの大切さを知る経験をする。
- ・畑で野菜を栽培することで、旬の素材に気づき、食に興味を持つ。
- ・子どもが自分で「食べたい時に食べたい場所で食べたいものを食べたい人と食べただけ」選択することで意欲的に食べる食育を行い、自分で食べたいと思う意欲も育てる。

1	計画・ねらい	野菜や花などの植物を育てることで畑仕事の充実感を得る。
	実践予定内容	日々の畑仕事（土づくり・畝づくり・種まき・苗植え・水やり・雑草とり・収穫）から、命を育てて命を頂く大切さを知る。
2	計画・ねらい	自分が「食べたい時に食べたい場所で食べたいものを食べたい人と食べただけ」選択する。
	実践予定内容	子どもの食に対する意識や意欲が育めるような環境を作る。
3	計画・ねらい	食育についての学びを教わる機会を作る。
	実践予定内容	挨拶やマナー、食具の使い方等、食育指導を隔月に取り入れ、身に付けていく。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	うがい・手洗い指導、歯磨き指導、体の仕組みを知らう等
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 7・8月 ヘルパンギーナ・プール熱 10・11月 RSウイルス、溶連菌 12月 インフルエンザ、胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアアップ・・・2名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 抗アレルギー薬・・・2名より預かり済み／事務所内にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在25名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については3月21日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在25名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については3月21日までに受講予定

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ

健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年2回／6・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

どろんこ会グループの日課や基本活動を見直し、園の特性も捉えながら、原点回帰を目指す。

月1回の園会議で子どものエピソードやドキュメンテーションの記録を作成し、子どもが自分で考え、他者と関わりながら自分の言葉で伝え、自分で行動できる保育環境の見直しを行い、子どもの成長、興味、季節を意識した戸外・室内環境を考え、共有しあう。

清掃分担チェック表を利用し、保育者で分担し、定期的な園全体の清掃に努める。

主任・美化・緑化係を中心に園内の整理整頓を行い、園内の美化・緑化に配慮しながら、子どもにとっても保護者や地域の方々にとっても、いつ見てもまた、ここに来園したいと思う環境を目指し、必要な設備や備品の見直しをしていく。

1	計画・ねらい	子どもの発達にあった環境の中で、興味や関心の姿をクラスで話し合い、ドキュメンテーションを用いて視覚化する。
	実践予定内容	子どもの興味や関心の姿を捉えたエピソードを交えたドキュメンテーション作りを行い、子どもの姿を的確に捉えた環境について話しあい、毎月1回の園会議内で発表し、園内にも掲示する。
2	計画・ねらい	園内環境の美化・緑化の向上に努める。
	実践予定内容	毎月1回、美化会議を行い、園内環境についての見直しを行い、園内の美化・緑化の向上に努める。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	築山	園庭	毎月1回
2	タイヤ	園庭	毎月1回

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	防犯計画に基づき自衛消防隊を編成し、避難訓練を毎月15日に行う。また、うちのごアプリにて災害緊急連絡先を使用し、園が情報を発信安否・施設状況・連絡先を情報共有する体制をとる。
2	実践予定内容	事故防止チェックを年4回、設備点検を年6回行い、怪我や事故防止に最善を尽くす。
3	実践予定内容	全園事故防止委員会を毎月1回行い、同グループ内での状況を共有し、事故防止策を探る。
4	実践予定内容	年2回不審者侵入訓練を実施し、避難経路・不審者侵入防止・通報の訓練を全保育者が行う。
5	実践予定内容	インシデント・ヒヤリハット報告書の運用をし、事故防止委員会で検証を十分に行うことで事故を未然に防ぐ。
6	実践予定内容	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響・光化学スモッグ注意報を把握し、発令があった場合は内容にあった貼紙等を掲示し、通知する。

6. 実習生・中高生の受入

小中高校の保育体験などの積極的な受け入れを行い、小中高校生が保育に対して興味を抱いていることを共に模索し、学びあいながら保育士の疑似体験が出来るようにする。

大学・専門学校の依頼による保育実習の積極的な受け入れも行い、保育実習を通して自園の保育士を経験する機会を持ち、実習経験から保育士として子どもの命を守ることの大切さやどろんこ会グループの日課や基本活動を園の特性も交えながら、丁寧に教え、伝える。

また、これを機会に体験や実習期間が終わっても行事などのイベントにも声をかけ、誘い、子どもたちや保育者や保護者や地域の方々と共に自園の魅力を経験していく。

〈1〉今年度方針・テーマ

基本方針である「子どもの個性を受け止め、一人ひとりが協力しあい、自立することで、子どもを真ん中にし、保護者や地域の方々と共に考えて、共に経験しあう環境」を基本とし、実習経験から保育者としての子どもの命を守ることの大切さも丁寧に教え、伝える。

1	実践予定内容	小中高校の依頼による保育士体験の受け入れ
2	実践予定内容	大学・専門学校の依頼による園見学や保育実習の受け入れ
3	実践予定内容	行事などのイベントに関するボランティアやイベント参加などの受け入れ
4	実践予定内容	大学・専門学校との交流会の計画立案・実施

7. スタッフ育成と研修計画

私たち一人ひとりが保育者として責任と誇りを持ちながら、子どもの成長を見守れるように自園の特性と課題を踏まえた園内研修の充実を図り、一人ひとりの保育者の目標設定を行う。

また、保育の質を高めていける園運営を目指し、子ども主体の遊びを重視しながら、保育者同士の同

僚性を高め、互いに自分の言葉で思いや意見を伝えあい、対話しやすい環境を整え、日常化していき、一人ひとりの保育者としての成長にもつながるようにする。

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修 (年1回) ■園内研修 (月1回以上) ■保育スキル研修 (エリア別) ■リーダー養成研修 (9~2月) ■業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会 (月1回) ■デンマークインターンシップ (年1回) ■コンピテンシー自己採点 (月1回) ■人権チェック (4月・10月) ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育理念・日課の理解 ③ 人権チェック・子どもの人権について ④ 園外保育リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り、アクションプランをたてる ・理念・日課の意味のすり合わせ ・子ども人権について学ぶ ・散歩時の人数確認の大切さを知る ・ハザードマップの味方
5月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理・避難訓練 ③ 保育計画・子ども発達からねらいを立てる	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り、アクションプランをたてる ・危機管理を学ぶ・避難訓練の実施手順 ・子どもの発達を学び、保育計画を立てる
6月28日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びの危険性 ③ 保育計画・子ども発達からねらいの振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り、アクションプランをたてる ・危機管理を学ぶ 水遊びの危険性を知る ・子どもの発達を学び、保育計画を立て、実行したことを振り返り、次の活動につなげる
7月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保護者支援を学びあう ③ 子どもが輝く運動会とは？	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り、アクションプランをたてる ・支援の種類や役割を知る ・誰のため、何のための行事かを再確認する
8月23日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 室内環境を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り、アクションプランをたてる ・子どもにとって過ごしやすい室内環境を学ぶ

9月27日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 戸外環境を考える	・振り返り、アクションプランをたてる ・子どもにとって過ごしやすい戸外環境を学ぶ
10月25日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 食と食の循環を学びあう	・振り返り、アクションプランをたてる ・子どもにとって必要な食と食の循環は何かを考える
11月22日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 地域支援を学びあう	・振り返り、アクションプランをたてる ・地域になくってはならない園になるための支援を考える
12月27日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度の振り返り①	・振り返り、アクションプランをたてる ・子どもにとって必要な環境は何かを振り返る
1月31日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度の振り返り②	・振り返り、アクションプランをたてる ・子どもにとって必要な環境は何かを振り返る
2月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度事業計画・園目標決め	・今年度を振り返り、互いに考えあい、次年度の目標を決める
3月2日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度行事計画策定	・次年度の計画をし、今年度の振り返りを踏まえ、子どもたちが経験したい活動を共に考え、語り合う

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターソップ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

積極的に地域と関わっていくことを通して、園の存在を理解していただくと共に、地域の子どものたちの成長や安全、保育者の子どもへの関わり方を第三者としての視点から見守っていただけるようにしていく。

また、積極的に園を開放することで、地域の子育て支援に貢献し、子育てについて語りあえる機会や場所を提供する。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：太尾町第二公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人ホーム訪問（新型コロナウイルス感染状況により、随時、訪問は検討する） 町内会（ラジオ体操）
異年齢交流	近隣小学校交流会（新型コロナウイルス感染状況により、随時、交流会は検討する）
地域拠点活動	近隣保育園との交流、ベビーステーション、絵本貸出
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

横浜市スタートカリキュラムに基づき、自園独自のアプローチカリキュラムを作成し、年間を通して計画的に幼保小連携を進めていく。また、幼保小連携会議・授業参観・授業研究会に積極的に参加し、地域の実態を把握しながら、教員と共に小学校学習指導要領について、これからの未来のために幼児期の子どもにとって必要な経験は何かを具体的に学んでいく。就学時には、横浜市保育所保育要録を送付し、必要に応じて一人ひとりの子どもの情報の申し送り等を丁寧に実施していく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
4月 ～3月頃	大豆戸小学校 大綱小学校 太尾小学校	54名予定	通学路確認（大豆戸小学校・大綱小学校・太尾小学校）	子ども間交流
4月頃	大豆戸小学校	2名予定	入学式（大豆戸小学校）	職員間交流
5月頃	大豆戸小学校 1年生	2名予定	授業参観（大豆戸小学校）	職員間交流
10月頃	大豆戸小学校	15名予定	運動会見学（大豆戸小学校）	子ども間交流
11月頃	大豆戸小学校 1年生	18名予定	1年生との交流会（大豆戸小学校）	子ども間交流
12月頃	幼保小連携 研究会	1～2名予定	職員の研究会	職員間交流
1月頃	大豆戸小学校 1年生	18名予定	小学校探検（大豆戸小学校）	子ども間交流
1月頃	大綱小学校 1年生	18名予定	小学校探検（大綱小学校）	子ども間交流
1月頃	太尾小学校 1年生	18名予定	小学校探検（太尾小学校）	子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

子どもの状況などを観察し、学年会議の中で振り返りと保育者間の共有を行い、見直していく。

〈2〉毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定 参加者：4名予定）

毎月第四金曜日に話し合いを設け、担当者と共に行う。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

小学校の引き継ぎは横浜市保育所保育児童要録の送付、各校の担当職員と子どもについての申し送りによって行う。

1.1. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(火) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:太尾町第二公園にて開催

1.2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

開園3年目と以降5年に1回、第三者評価を受審することにより、保育の質の向上を図る。

(株式会社学研データベースに依頼して2018年3月受審・2021年11月受審)

〈2〉園による自己評価の実施

2024年3月15日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 9時00分

自己評価終了予定時刻: 12時00分

自己評価実施予定者: 古山郁美、大山智美、荻原汐理、松本琴絵、金子葉菜

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日: 8月25日

1.3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	子どもが一人だけでなく、他者と関わりながら選択できるような機会や環境を日常化する中で、保育者は子どもと共に成功と失敗を何度も繰り返しながら、子どもにとって必要な心や体の成長を保護者や地域
-------------	------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

		の方々と共に模索する。
	振り返り	子どもが他者と関わりながら選択する機会を増やしていくことができた。また、環境を整えていくことは課題があり、日常化することまでは成果を出すことができなかった。次年度の課題とし、模索していく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが生き生きと活動できる環境作りを目指していく。生活のしやすさと安全に配慮しつつ空間を作っていくことを目指す。 ・日課（雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム・座禅・畑仕事）を継続していく中で、生活・遊び・労働の気持ちの切り替えをし、社会性を学んでいく。 ・保育のねらいを大事にし、丁寧な保育をしていく。 ・保育に必要な業務かを精査しつつ、業務を最適化していく。 ・保護者とは成長を伝え合い、喜びあえる関係性を築いていく。 ・子育て支援の役割や地域のニーズを知り、大豆戸どろんこ保育園にできる支援を模索する。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長や興味・関心によって、保護者がレイアウトを変えたり、子ども自身が空間を作り出したりすることができる、柔軟性を持つ。 ・日課（雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム・座禅・畑仕事）を継続し、失敗と成功を繰り返し経験していく中で責任を実感する。 ・保育内容やねらいが充実し、日々、スタッフ同士は対話を重ね、研鑽を積み、丁寧な保育ができる人材に育つ。 ・保育の業務の効率化を図る。子育ての最善の利益を考えることができる。 ・子育て支援の役割や地域のニーズを知る努力をし、地域との繋がりを持つ。
2025年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが主体的に過ごせるように柔軟性のある空間で保育をしていくことを目指す。 ・日課では、失敗と成功を繰り返し、経験していく中で、責任を持ち、子ども中心に取り組めるようになる。 ・保育業務も整理され、時間を有効に使えるようになる。 ・子ども一人ひとりの発達を捉え、計画し、実行していく。 ・お迎え対応などで信頼関係を深め、子どもの成長を喜びあったり、子育てに悩んだり、困ったりした時に相談される存在になっている。 ・地域の方々に園の活動を知って頂き、子育ての楽しさを伝えていく中で、一緒に子育てしていく場になっている。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども自身が自分の居場所を見つけ、子どもの心の育ちを育てていく。 ・年上児が年下児に教えるなど異年齢での活動を深めていく。その中で最年長児の5歳児が中心となり、引っ張っていくことができるように構築していく。 ・日課（雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム・座禅・畑仕事）も定着し、畑も充実したものとなり、食の循環を実現していき、子どもの興

		<ul style="list-style-type: none"> 味・関心を深める。 ・日々のお迎え対応では、接遇を対話の中で見出し、信頼関係を積みあげていく。 ・地域の方々のニーズに応え、利用しやすい環境を整えていく。
2026年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・大人も子どもも保育園にすることが心地よいと感じられるようにしていく。 ・安心して保育園を利用して頂き、保育活動を通して、子どもの成長を共に促進できる関係になる。 ・地域の方々にいつでも気軽に立ち寄って頂けるようになっていく。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども主体とし、大人が準備した環境を選ぶのではなく、子ども自身が準備し、活動できるように育てていく。 ・大人も子どもも一人ひとりが自分らしく行動できる環境になる。 ・接遇を持って、保護者と対話し、子育てについて学びあえる関係となる。卒園後も原体験・原風景の場になっている。 ・地域子育ての拠点として、また園を利用したくなる場、憩いの場となるように努力する。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：大豆戸どろんこ保育園 施設長 古山郁美

2024年度 草加松原どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

草加市が誕生したころに作られた松原団地、当時は「東洋一のマンモス団地」と言われた団地も現在は全て取り壊され公園や新しいマンションが建ち並びここ数年で周辺風景が大きく変わっている。しかし、核家族が多い中、様々な年代の方が草加松原周辺で暮らし散歩に一步出ると色々な方と関わることができる。保育の中でたくさんの方と挨拶を交わし地域の方との関わりから感じた事や考えたことを表現できる環境づくりをする。

また、子ども一人ひとりを尊重し丁寧に関わる保育を実践し、その中で養護と教育が一体化され『生きる力』の基礎を培う事を目標に日課・基本保育活動を大事にしながら保育を展開していく。その中で、子どもたちが主体的に遊びを通して様々な体験や幅広い豊かな人間性を育み、安心と楽しさが溢れ、自発的に子ども同士が関わられるような環境で過ごせる園作りに努める。そして、小学校1年生を知り、就学までに育みたい10の姿を目指した保育を実践していく。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	日課・基本保育活動を理解し、養護と教育が一体化された保育を展開する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針を読み解き、日課・基本保育活動を深める。 ・ 日課・基本保育活動の充実。 ・ 保育士が背中を見せ一緒に行うことで子どもの知識を広げる。
2	計画・ねらい	子どもたちが主体的に、自ら選択し遊びこめるようにする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な物が整理整頓された環境で遊べる空間作りをする。 ・ やりたいことが存分に発揮できる環境を整え、保育者がそれを見守り支えていけるようにする。 ・ ゾーン保育の確立へ園全体で取り組む。
3	計画・ねらい	物的環境や人的環境を整え、子どもにとって安心・安全な環境を作る。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの発達や遊びを理解し、日々変化する子どもの姿に合わせ随時見直し構成していく。 ・ 子どもの思いに共感し、寄り添い、目の前にいる子ども一人ひとりを最後まで見守りきる保育を実践する。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育園と保護者との密なコミュニケーションと連携をとる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育参加の内容を発信し、実際に参加をしてもらうことで子どもの様子や園での取り組みを理解して頂けるようにする。 ・ 子育て中の保護者の気持ちを理解し、保護者の思いに添った連携を取れ

		るようにする。
2	計画・ねらい	3分間対応の内容を充実し、スタッフ全員で子どもの様子を語れる集団にする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・伝達事項は的確に伝え、子どもの様子を表情豊かに伝えられるようにする。 ・3分間対応のロールプレーや園内研修を行い、保護者の方が話したい・聞きたいと思えるような関係作りをする。 ・待ち時間の充実を考え実施する。
3	計画・ねらい	タイムラインや連絡帳の充実。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムラインでは1日のどんな事を伝えたいのかを明確にし、写真も含めて伝えられるようにする。 ・連絡帳では3分間対応では伝えられない子どもの様子や成長を簡潔にわかりやすく伝えられる内容にする。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	一時保育・ちきんえっぐ・青空保育へ多くの方が安心して利用できる環境づくりをする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・一時保育についての情報を発信しリーピーターを増やしていく。 ・ちきんえっぐ、青空保育の告知を自治体や支援センター等の協力を得て、広く発信していく。
2	計画・ねらい	地域の方も参加できる行事を開催する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・どろんこ祭りではどろんこサポーターと協力しながら地域の方も参加できるような企画を立てる。また、来客数も増やしていく。 ・運動会では地域の方が参加できるプログラムを作り園での取り組みを理解できるきっかけを作る。
3	計画・ねらい	園庭開放やちきんえっぐの利用者を増やす。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援室を開放的に使用できる環境作りをする。 ・子育て中の方が悩みを話し、地域の方と繋がることのできる場を提供する。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが持っている力を発揮し、保育を楽しめる集団になる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育の振り返りや見直しをし、改善することを繰り返し行う。 ・保育者が失敗を恐れずやりたいことに挑戦できる環境作りをする。
2	計画・ねらい	スタッフ全体で学び合う意識を高め、園内研修を充実する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・『園長大学®・保育士大学』の動画を活用し研修を行う。 ・園内研修を全スタッフが担当し実践する。

3	計画・ねらい	一人ひとりの目標を設定し意識の向上をする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談を定期的に行い、目標に対しての進捗状況を確認する。 ・個人面談を通してスタッフの伸び悩みを聞き、解決の糸口を一緒に探し課題解決をする。 ・コンピテンシーを用いて良い所を伸ばし、課題を明確にし、次月に迎えられるような環境作りをする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環への意識を育む。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・食育にて食材の加工を体験できるようにする。 ・畑活動の充実。
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・給食残渣を減らす。 ・全職員で堆肥作りの方法を学び、コンポストを活用した畑活動を実施する。

〈6〉子どもを中心に考えられる保育（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	子どもに対して丁寧に関わる保育をする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思いに心を傾け、ありのままの姿を受け止めていく。 ・日々の関わりの中で子どもの人権の尊重について、その事柄が子どもにとってどうなのかを常に考えられるようにする。 ・笑顔が溢れ、応答的な関わりを大切にする。
2	計画・ねらい	子どもと一緒に活動を楽しめる保育者集団になる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者もわくわくするような活動が出来るように心も身体も時間に余裕が持てるような環境作りをする。 ・子どもがどんなことに興味を持ち、夢中になって遊んでいるのかを保育者自身が発見・体験・共感できるようにする。 ・一緒に楽しめるような活動を考えPDCAサイクルをもとに保育に生かす。
3	計画・ねらい	スタッフ間で子どもの様子や保育について語り合う環境作りをする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの発見や成長を語り合えるような時間と場を作る。 ・ポートフォリオやエピソード記録で子どもの様子を発表する機会を作る。 ・日々の保育についてPDCAサイクル出来る時間を作る。

〈7〉気持ちの良い保育園作り（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	どんな人でも心地よく園を利用してもらえる環境作りをする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・美観を整え、園を訪れる人が気持ちよいと感じられる空間作りをする。 ・清掃分担や清掃時間の見直しをし、全員が美観への意識を高く持つ。 ・整理整頓を心掛け、次の人が気持ちよく使える環境作りをする。
2	計画・ねらい	園に関わる人が、笑顔でコミュニケーションを取れる雰囲気作りをする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内や近隣の方々と自然に挨拶の飛び交う関係作りをする。 ・会話やコミュニケーションを取れる時間を作る。 ・感謝の気持ちを忘れず、言葉で伝えられる関係作りをする。 ・良いことも改善すべきことも相談し合える環境作りをする。
3	計画・ねらい	相手の気持ちや立場になって考えられる集団作りをする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなことも自分事として捉え考えられるようなコミュニケーションをとれるようにする。 ・園内研修で接遇研修を行い相手の立場に立つことを学ぶ。 ・電話、来客、保護者対応の確認。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	18人	18人	18人	18人	90人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	12人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	3人	補助	2人	調理	1人	事務	1人
	用務	1人	嘱託医	2人				

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	自己評価・コンピテンシーを深める・研修報告・行事や子どもの姿の共有・活動の振り返り・共有事項・園内研修
給食運営会議	月1回	食育活動の計画と振り返り・アレルギーやマニュアル確認・給食内容や給食残渣の振り返り
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハットの分析・インシデントの共有・事故報告書の分析・全園事故防止委員会の内容共有
ケース会議	月1回	支援計画の振り返り・計画見直し
クラス会議	月1回	保育内容の検討・環境設定の見直し・子どもの姿の共有

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	業務報告・伝達事項・情報共有
施設長勉強会	月1回	業務改善の研修・園運営についての協議と研修・各園の取り組みについてのディスカッション
食育会議	年4回	食育研修・マニュアル見直し・献立や調理方法の共有・各園の取り組みについてのディスカッション
保健会議	年4回	感染症対策・衛生管理・マニュアル見直し
主任・ミドルリーダー会議	月1回	各園の課題改善・マネジメント研修・主任、ミドルリーダーとしての役割の理解
子育ての質を上げる会議	月1回	保育内容を深める、各園の活動内容のディスカッション、

〈3〉 各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防処置、保育所の衛生全般の管理
安全対策係	全スタッフの安全に対する意識の向上、施設における様々な安全点検と対策に取り組む

防火管理者	防火管理に関わる消防計画の作成、防火管理上必要な業務を計画的に行う、自主点検の確認
食品衛生責任者	食品取扱いに関する業務、施設の衛生管理や職員の衛生教育
畑係	畑の環境整備、植物の病気の予防、畑に必要な土や苗などの発注・管理
生き物係	飼育動物の健康管理、環境改善、餌の管理、卵の管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	企画・立案・計画・役割分担・保護者との連携
運動会係	企画・立案・計画・役割分担
生活発表会係	企画・立案・計画・役割分担

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人格形成の基礎となる重要な時期に、一人ひとりと密に信頼関係を築き、ゆとりのある保育を心かける。 ・ 一人ひとりの子どもの自主的な気持ちや意欲を尊重し、子どもの健やかな育ちを保障する。 ・ 人との関わりの中で人に対する愛情や信頼感、そして生きる喜びを感じる。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活に必要な言葉がわかり身の回りの事を自分でしようとする。 ・ 簡単な言葉で気持ちを表現し、友だちや保育者と関わる。 ・ 色々な体験を通して、豊かな感性や創造性の芽生えを育てる。 ・ 様々な運動遊びを通して生活に必要な動きを身につける。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども本来の姿である遊びが十分に出来る環境の中で、一人ひとりが充実して遊び、仲間意識や集団活動の楽しさを感じる。 ・ 様々な体験や遊びの中で自分を発揮し、表現する意欲と協調性や社会性を育てる。 ・ 素話や紙芝居等の読み聞かせを通して、聞く力や想像力を伸ばす。 ・ 動植物の飼育栽培の体験を通じて自然物や小動物の命の大切さを養う。

	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで考えた遊びを意欲的に取り組む。 ・子どもたちが主体的になり、目的を持ち継続性のある遊びを楽しむ。 ・自分のイメージした物を色々な方法で表現する。 ・自然界の中で発見や不思議さを体験し、豊かな感性を育てる。 ・異年齢の関わりを通して思いやりを持って接する。 ・グループ活動から自信を持って自己表現をする。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	自分が食べる適量、時間、場所を選択し食べる意欲を育てる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児自身が自分で盛付・配膳して食べる事を基本とし、未満児は自分で口に入れる事で自分の食べられる量を知る。 ・調理員・保育士・施設長等職員全員が子どもと一緒に食卓を囲み美味しさを共有しながら食べる。 ・食べたい場所を選択できる環境作りをする。
2	計画・ねらい	様々な食材に親しむことや旬の素材に気付き食に興味を持つ。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・畑で野菜を栽培し、収穫したものを味わう。 ・米研ぎ、野菜洗い、皮むき等食事作りに積極的に関わる。 ・献立から気になるメニューや食材を視覚的に興味を持てる環境作りをする。
3	計画・ねらい	加工や命をいただく経験から食の循環を知る。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・魚を解体する様子を見て命をいただいていることを感じる。 ・味噌作り、ケチャップ作り、梅干し、梅ジュース等加工食品作りの体験をする。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導、歯磨き指導、性教育
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 7月頃・・・手足口病、プール熱、とびひ 12月頃・・・感染症胃腸炎、インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 アレロック・・・3名より預かり済み／事務所薬品庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在19名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフについては6月末までに受講予定
その他保健に関する取組	年間保健計画作成 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日

	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもたちが発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活の中に取り入れて伸び伸びと遊べるような環境作りをする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・何に興味を持っているのか、何を必要としているのかを子どもの様子から読み取り、日々変化のある環境設定をする。 ・ゾーンの作り方の研修を行い、環境設定の方法を再認識する。 ・1か月に1回環境について話し合う。 ・子どもが選択できる環境づくりを考える。
2	計画・ねらい	安心して過ごせる環境作りや自ら考えて行動できる場所作りをする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な物が整理整頓された空間作りをする。 ・保育室内・外の安全な環境整備のための工夫を継続して行う。
3	計画・ねらい	園庭の環境充実
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた園庭の中で遊びが充実できるようにどんなものが必要でどんなコーナーにするのかを話し合い、日々変化のある環境構成にする。 ・園外ではなく園庭でしかできない体験がどんな事なのかを考え保育に生かす。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
----	--------	------	--------

1	パレット遊具	園庭	毎日
2	テーブル	子育て支援室	毎日
3	カブトムシ台	保育室	毎日
4	鳥小屋	園庭	毎日
5	やぎ小屋	建物裏	毎日
6	やぎの柵	園庭	毎日
7	平均台	縁側	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	非常災害時の対策として毎月消防計画に基づいた避難訓練や消火訓練の実施。防災設備の点検。
2	実践予定内容	年2回の不審者侵入訓練の実施。
3	実践予定内容	保護者や送迎者の確認をし、オートロックによる外部侵入者の立ち入りを防ぐ。
4	実践予定内容	インシデントやヒヤリハットからの分析と改善。
5	実践予定内容	園内・園外ハザードマップと散歩ルートマップの作成と情報共有。
6	実践予定内容	警察や草加市からの不審者情報提供の周知。
7	実践予定内容	光化学スモッグ注意報の際情報の周知と園児・スタッフは外出を自粛する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の小中高生に職業体験や福祉体験が出来るようにする。実習生については沢山受け入れ現場で学べる充実感が味わえるようにする。また、保育の楽しさを現場のスタッフが伝え次世代育成の支援を行う。

1	実践予定内容	栄中学校・草加中学校・新栄中学校等職場体験を受け入れる。
2	実践予定内容	関連学校と連携を取りながら、保育士・栄養士志望の実習生を積極的に受け入れる。
3	実践予定内容	ボランティア学生を受け入れる。

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9～2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (= 保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理について ③ 人権チェック	・ハザードマップ、ルートマップ等園外活動についての共有。 ・災害への対応と心構え。 ・ヒヤリハットの考え方。
5月24日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 原点回帰	・日課・基本保育活動を深める。
6月28日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 命について考える	・虐待定義について考える。 ・水遊びマニュアルの確認。
7月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保護者対応・接遇について	・『園長大学®・保育士大学の保護者に感動していただける接遇とは？チームで身につける「おもてなし力」』視聴後ディスカッション。
8月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日課の必要性を考える	・日課の必要性を考え、再確認をする。 ・日々の日課の取り組みについてのディスカッション。
9月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 架け橋プログラムについて深める	・『園長大学®・保育士大学のスムーズな小学校進学は保育者次第！』の講座を元に架け橋プログラムを考える。

10月25日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 全体研修 ③ 人権チェック	・ 保育業界の動向を知る。 ・ 運営方針を知り、いま必要な事をディスカッションする。
11月22日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② SIDSについて考える	・ 生存確認の再確認。 ・ SIDSについて深める。
12月27日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 感染症の理解を深める	・ 嘔吐処理手順を再確認し実践できるようにする。 ・ 感染症について知識を増やす。
1月31日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 食材と食の循環につきて考える	・ 食の循環を深める。 ・ 堆肥作りのディスカッション。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学® 保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学® 保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日~30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デスマークインターソップ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

子どもたちが地域の方に見守られながら成長し、自然と挨拶が交わされ関わりが持てるような関係性を作る。また、様々な方との関わりから仕事や地域の活動等子どもたちが知るきっかけとする。

地域に開かれた保育園となり子育てについての情報を保育園より発信し、交流の場を提供できるようにする。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：松原団地西口公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設との交流
異年齢交流	小中学校との交流会、地域の保育園との交流
地域拠点活動	音楽演奏会、地域清掃、勤労感謝の日交流、ちきんえっぐ、子育て相談、園庭開放
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

職員が積極的に小学校の授業を見に行き、小学校の様子をより深く理解し、逆算した保育に取り組む。また、就学に向けて年間を通して連携を進めていく。幼保小連携協議会では情報交換だけでなく架け橋プログラムに沿った園での活動を部会で共有し子どもにとって連続した関わりになるようにする。また、昨年度復活し始めた子ども間交流を大事にし、沢山関わられる機会を作る。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	新田小学校 1年生	2名予定	授業参観（新田小教室）	職員間交流
6月頃	栄小学校	2名予定	授業参観（栄小教	職員間交流

	1年生		室)	
9月頃	松原小学校 1年生	2名予定	授業参観（松原小教室）	職員間交流
11月頃	栄小学校 5年生	18名予定	交流会（栄小教室）	子ども間交流
2月頃	栄小学校 1年生	18名予定	交流会（栄小教室）	子ども間交流
年5回	幼保小連絡推進協議会	1名予定	情報交流会	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

- ・関係機関と密に連携しながら作成し、子どもと保護者の支援を行う。
- ・ケース会議や子どもの様子より振り返りをしながら見直しをする。

〈2〉 毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定 参加者：7名予定）

- ・担任から見た児童の様子や出来事、他職員から見た子どもの様子を話し合い多角面の見方で状況を把握する。
- ・目標を決め具体的な取り組みを個別の支援計画に記載する。
- ・検討した支援は速やかに実践し、変化が見られない場合は再検討を行う。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

- ・進級引継ぎは書面や会議を通して行う。
- ・各小学校、草加市子育て支援センター、教育支援室との連携を取り引継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（土）9:30～16:30
子育て相談	（月）～（土）13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（火）10:00～12:00

どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（木）10:00～12:00
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：松原団地西口公園にて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年7月31日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：10時00分

自己評価終了予定時刻：16時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任、保育士、園事務

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援を充実させ、園を様々な形で利用して下さる方が増えるようにする。 ・保育士が研修で学んだ事を自園の研修に生かし学び合う関係作りと保育の質向上のための共有の場を作っていく。
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・どろんこ祭りの集客がたくさんあり、そこから園を知ってもらえる機会が増えた。園庭開放やちきんえっぐの参加者が増え子育て支援に力入れることができた。 ・共有の場作る機会を多く持てたが、研修への参加率がなかなか増えなかった。学びの場を多く持っていたのでそこから生かせる場をもっと作っていきたい

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関係が深まり、様々な角度から積極的に関わり多くの方に取り組み内容を知ってもらう。 ・保育士自らが研修に積極的に参加し、学んできたことを現場に生かし保育の質の向上に繋げる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動に積極的に関わり、選ばれる園へと繋げていく。また、活動内容を発信し新しく利用する方も増やしていく。 ・保育士が研修で学んだ事を自園の研修に生かし学び合う関係作りと保育の質向上のための共有の場を作っていく。
2025年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根付き、様々な方に保育内容や取り組みが理解されると共に、地域の保育に貢献していく。 ・保育について語り合い、保育士同士が刺激し合える関係が作られ、保育の質の向上に繋げる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針を読み解き実践している事をより多くの保育園でも行われるように自園から発信していく。また、その実践より選ばれる園を継続していく。 ・リーダーを中心に子どもたちに必要な体験活動や食育活動が計画され実行し振り返るまでを確立する。
2026年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の保育が充実するために率先して関わり、自園の取り組みに自信をもって語れる集団作りをする。 ・保育士自身が自信を持って保育を行い、より良い意見を交わしチーム保育が確立する。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の保育園へ自園の取り組みを発信していき、幼保小に貢献していく。 ・保育園全体がどんな事にもPDCAサイクルを行い、自信をもって保育士が自園の保育を様々な場で語れるようにする。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：草加松原どろんこ保育園 施設長 中川 希

2024年度 越谷レイクタウンどろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

0歳児から5歳児のつながりを大事にし、大きなお家として助け合い、支え合いながら思いやり溢れる園を目指し、スタッフ一人ひとりの丁寧な保育や養護への意識を身に付け、子どもも保護者も安心して過ごしていける越谷レイクタウンどろんこ保育園を目指す。

1. 興味関心を引き出し一人ひとりのやりたい思いを受け止め見守ることで、満足して遊びこめる環境をつくり関わっていく。
2. 考える力を身に着けるために、気づきや発見、じっくり遊び込むことでの探求心に寄り添える保育を大事にしながら、学びに向かう力の基礎や土台を育てていく。
3. 子どもの発達や姿に真剣に向き合いスタッフ一人ひとりがゾーン保育について知識を深め、定期的な環境構成や設定を行うことで、安心できる場はもちろん、学び関わり経験しながら成長できるゾーンを設け子どもたちにとって必要な成長を促していく。
4. 命をいただく意味を経験で実体験し、感じたことを受け止めながら食の大事さ尊さを経験できる機会を大事に大人も子どもも関わっていく。
5. 自分自身が動き考え丁寧なマネジメントを行うことで、自園での円滑な保育運営を行っていきけるように努める

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	自己分析を行い自分自身と向き合いながら、自分の強みを強化し、弱みを強みに変えていく。
	実践予定内容	自分自身に向き合い、強みや弱みをしっかり受け止めていくために自己評価並びに定期的な振り返りを行うことで前向きに捉え保育に向き合う。
2	計画・ねらい	自らの気づき、主体的・対話的学びを深め保育力を高める。
	実践予定内容	発達に応じた環境・関りを日々試行錯誤していく。また子どもたちの声を丁寧に聴き、主体的な学びや対話的深い学びにつなげていく観察力を高めていく。
3	計画・ねらい	養護的な環境に特化し、安心して過ごせる環境を考え、自立に向けた丁寧な養護的関わりを多くし丁寧な保育の質の向上に努めていく。
	実践予定内容	スタッフ同士での意見交換や発達の共有を行い、整理整頓された環境の中で、応答的または養護面で大事していくことをスタッフ自身が学び感じて丁寧な保育につなげていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	家庭での様子を把握し、園での様子や育ちを共有していくことで成長を共に喜び合い、信頼関係を築く
	実践予定内容	報告連絡相談をしっかり行う。情報共有進捗状況の確認を行う。

		3分間お迎え対応の伝達内容の質の向上に向け、スタッフ育成に努める。
2	計画・ねらい	専門性を生かした支援とともに的確で相談をしやすい職員の雰囲気づくりに努め、保護者とのコミュニケーションを大切にしていく。
	実践予定内容	行事や保護者懇談会都等でのわかりやすく育ちの説明や共有を行い、子どもたちの成長を共に悩み、喜び関係性を深めていく。
3	計画・ねらい	保護者の思いに寄り添いながら子育てへの不安や悩みに応じ、子どもの良さを伝え、保護者への感謝を忘れずに関わっていく。
	実践予定内容	保護者の変化を読み取り、声掛けをして子育てなどでの不安や悩みを和らげていく。また一人ひとり思いやり誠実に対応していく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域と密な関係性をもち、互いに協力し合える開けた場としての機能に努める。
	実践予定内容	越谷レイクタウン周辺の地域を活かし、青空保育・子育てサロン・園庭開放等で地域交流を深め地域を盛り上げより関係性を深めていく。
2	計画・ねらい	子育てに悩みや不安を抱えている地域の方にも、開かれた園となるように機会をつくる。
	実践予定内容	子育てサロンの声掛けや、団地内・園外先での細やかな配慮や挨拶を通し交流を大切にしていく。
3	計画・ねらい	地域の方との連携や交流を大事にし、ともに支え合う園となるように機会を作る。
	実践予定内容	近所や地域の方の特技や職を活かし、園での交流できる機会を増やして関り親しみを育てるようにしていく

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	何事にも真摯に向き合い、向上心をもって前向きに取り組める人材を育む
	実践予定内容	定期的な勉強会を行い知識や専門性を深める。また園長大学®・保育士大学等の学びに場を活用していく。
2	計画・ねらい	視野を広げ、報告連絡相談が密に行われ、風通しの良い同僚性や雰囲気を作る。
	実践予定内容	話し合いをする機会や時間を定期的に作り、コミュニケーションをとっていく。様々な視点から意見を交換し理解を深められるまで伝え、学びの場を作る。
3	計画・ねらい	スタッフの自己肯定感を高め、目標に向かって自律したスタッフ育成に努め向上していけるチーム力を作る。
	実践予定内容	互いを認め合い、一人ひとりが自分らしく保育を楽しむ中で気づきから考え行動するスタッフ自身の主体性を大事にしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑活動の充実と一つでも多くの経験と学びにつなげていく。
	実践予定内容	苦手な事にどう立ち向かい挑戦するのか、葛藤する気持ちを大事にしながらコントロールする力を身に付け、自分にできることを見つけ、どんな形でも関わっていく。
2	計画・ねらい	本物の環境や様々な経験ができる環境を整えていく。
	実践予定内容	魚の解体や食育、また土作りに特化しながら食の循環を実体験できるようにする。また、継続して保育を楽しめるように味噌づくりや梅干しづくりなど加工食品や知恵を知る機会となる活動を取り入れていく。

〈6〉子どもと真摯に向き合い保育を楽しむ

1	計画・ねらい	乳児期の特性や発達をとらえスタッフ一人ひとりが子どもと真剣に向き合い悩み考え関わっていく環境を作る。
	実践予定内容	発達の理解・多様性を受け入れ臨機応変にとらえることで常に子ども中心に考えるよりよい保育を模索していく。
2	計画・ねらい	子どもの気持ちに寄り添い安心して過ごす。
	実践予定内容	エピソードを持ち寄り、子どもの気持ちに気づきスタッフ同士共有し学びの機会を作る。ポートフォリオを活用しながら子どもの気持ちの深読みし気づきの学びにつなげていく。

〈7〉誰が来ても誰が見ても心地よい園

1	計画・ねらい	基本的な清掃や衛生環境を保ち継続しながら、スタッフ一人ひとりの美観的意識を高める。
	実践予定内容	清掃の習慣化や環境整理整頓しやすい導線等の仕組みを考えていく。
2	計画・ねらい	スタッフ全員が主体的に考え自ら行動し、安心安全な環境を整えていく。
	実践予定内容	接遇への意識を高め相手の立場に立って物事をとらえられるよう日々のスタッフ育成並びに研修を取り入れる。常に思いやりをもって園にかかわるすべての方との関わりを深めていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	14人	18人	19人	19人	19人	95人

〈2〉開所時間

7時00分～19時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	13人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
	事務	1人						
パート スタッフ	保育士	3人	補助	1人	用務	1人		

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分 ※4～1月	<ul style="list-style-type: none"> ・当月の行動計画の成果発表 ・園内研修 ・次月の行動計画決定
給食運営会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・食育計画策定 ・食育活動実施内容 ・喫食状況(残食の記録等)確認 ・検食簿指摘事項改善 ・配膳方法
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策策定 ・全園事故防止委員会での内容共有 ・当月のヒヤリハット、インシデント分析
ケース会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援児個別計画の振り返り及び省察

		・要支援児個別計画の見直し
学年会議	随時	・保育内容の確認と情報共有 ・子どもの様子の報告共有 など
週会議	随時	・行事内容の確認と情報共有 ・子どもの様子の報告共有 など

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	・連絡及び経営Visionとの接続
施設長勉強会	月1回	・マネジメント、コンプライアンスなど ・各園／課題改善計画立案及び取り組み成果発表
食育会議	年4回	・献立内容の改善、提案 ・給食提供マニュアル及び運用ルールの作成、見直し ・食育計画策定
保健会議	年4回	・感染症対策やガイドラインの作成、改善 ・保健計画策定
主任会議	年4回	・各園の課題改善アクションプランの進捗確認と共有、マネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	・マネジメント、コンプライアンスなど ・各園／課題改善計画立案及び取り組み成果発表

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	環境・衛生に関する事項の計画、実施
安全対策係	けが防止・危機管理マニュアル参照・施設内の設備点検
防火管理者	災害対策・避難訓練防災計画・自主点検
食品衛生責任者	衛生点検・給食提供マニュアル参照・提供食材の衛生管理
畑係	年間計画に基づく畑管理
生き物係	ヤギの管理・環境整備

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	地域との交流を図り、子どもの発達や保育の理解を深める
保護者・地域参加行事	保護者、地域と共同的に準備交流を深めながら行う。

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人ひとりが安心して過ごし、応答的で丁寧な関わりを通し信頼関係を気づく 養護的関わりを丁寧に行っていくことで豊かな心を育てていく。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> 様々な人と関わり応答的な関わりを重視することで心身ともに豊かな成長を促す。 身近な環境を活かし様々な経験を楽しむ。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 身近なものに関わり興味関心や好奇心をもって関わる。 主体的に遊びじっくり遊びを楽しむ。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 主体的で対話的な関わりを意識し、深い学びにつなげていく。 気づき発見し探求心を深めることで、考える力を身に付けていく。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> 随時、希望する保護者に対し実施 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用
運営委員会	年2回	なし

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	楽しい雰囲気の中で様々な食材に興味関心を持てるように素材の味を活かし一人ひとりが満足できる食事の時間を創る
	実践予定内容	盛り付けや見た目、提供の仕方を工夫し、自ら食べたくなる雰囲気を作り関わっていく。食事のタイミングや活動量を考え空腹を感じ食べる楽しさを育てる。
2	計画・ねらい	全職員が食事に携わり、食事の時間を大事にしながら発達段階・口腔発達を共通理解し食事の仕方を身に着けていく。
	実践予定内容	家庭と保育園との連携を大切にしていく。育ちの共通理解を定期的に行っていく。
3	計画・ねらい	食の循環を意識し、無駄のない食の環境づくりを考える
	実践予定内容	食や食材の循環を感じられるリアルな経験を大切にしていく。余り物や残食から作り出せるアイデアを引き出していく。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導・手洗い指導・トイレトレーニング
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 1月頃・・・ウイルス性胃腸炎 1・2月頃・・・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・2名より預かり済み／事務室にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在15名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については3月21日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在10名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については3月21日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもたち自らが選択し主体的に遊びこめる整理整頓された見通しのある環境を整える。
	実践予定内容	安心安全で心地よい環境を日々試行錯誤しながら環境設定を丁寧に行っ

		ていく。見通しをもった導入や準備が整えられ環境を考える。
2	計画・ねらい	四季を身近に感じながら様々事象を楽しみ経験できる場を作る。
	実践予定内容	大人も様々な経験をし、遊びの視野やアイデアを増やし遊びを楽しんでいく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	園庭テーブル2台	園庭	毎日
2	室内テーブル2台	室内	毎日
3	絵本棚	室内	毎日
4	園庭おもちゃ棚	園庭	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	消防計画に基づき避難訓練を月1回実施。震度5以上の際は園が情報を発信し、安否、施設状況、避難先を情報共有する体制をとる。また、帰宅困難者対策を踏まえ、災害に備える。マニュアルの徹底。
2	実践予定内容	事故防止チェックリスト年4回、設備点検年4回を行い、事故防止の徹底を図る。またマニュアルにある園外保育、遊具等の保育士行動指針の徹底を図る。
3	実践予定内容	インシデント、ヒヤリハット報告の分析をする。 スタッフ間で状況を共有し、日々の保育の中で事故防止策を探る。
4	実践予定内容	年2回防犯チェックリストに従い確認し、併せて不審者訓練を実施する。 また訓練は避難訓練確保・不審者撃退、通報の訓練でスタッフ全員を対象とする。
5	実践予定内容	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響・光化学スモッグ注意報を把握し、発令があった場合は内容に合った看板、貼紙などを掲示する。その際、園児・スタッフは室内で過ごす。
6	実践予定内容	リスク管理委員会によるリスクマネジメントを周知、徹底する
7	実践予定内容	園外・園内ハザードマップとお散歩マップの見直し・更新・共有。

6. 実習生・中高生の受入

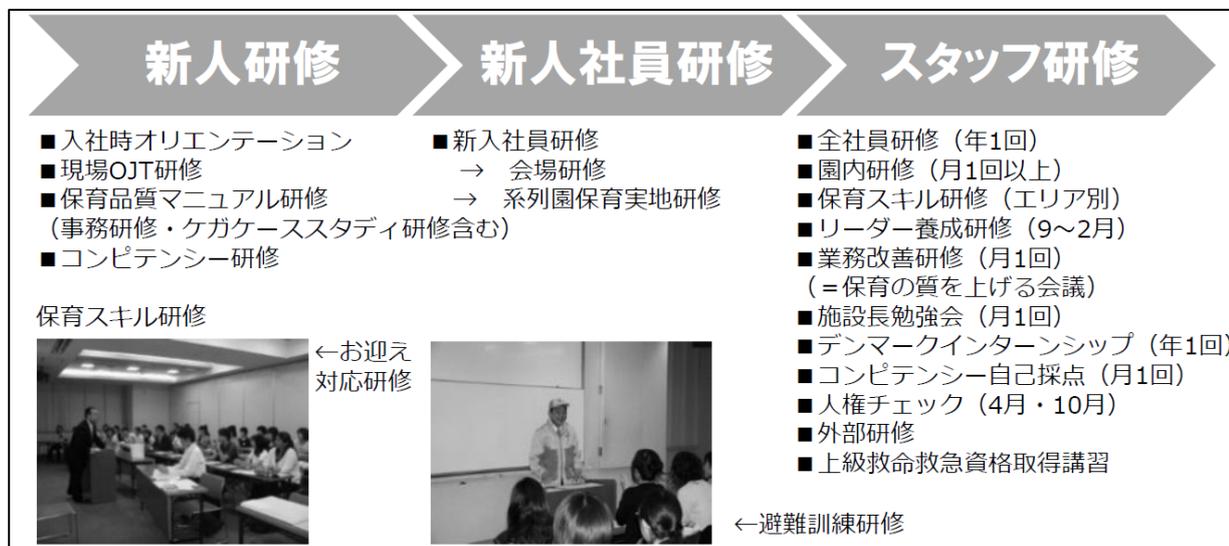
〈1〉今年度方針・テーマ

積極的に受け入れ、保育士の仕事内容や子どもとの関わりを通して保育の楽しさや面白さを知れる機会を持ち、同じ保育士の仲間とし温かく受け入れ実習生に必要な指導に努め保育士への期待を高められる機会にしていく。

1	実践予定内容	子どもの育ちの理解を深め、子どもと向き合う楽しさを感じる。
2	実践予定内容	保育者の役割や重要性を知る。
3	実践予定内容	思いやりを持って接し、安心して実習に取り組む。

7. スタッフ育成と研修計画

子ども一人ひとりの最善の利益や命を守る保育士としてのプロの専門性として自ら考え学び、それをチームとしてアウトプットしより学びを深める機械を大事にしていく。



〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月12日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②マニュアル確認 ③今年目標	目標を持ち向上心をもってしっかり自分自身と向き合っていく。
5月10日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②衛生管理・安全管理について	掃除の意識や役割分担の理解常に整理整頓への意識を高める

		て ③養護的関わりを考える	
6月14日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②水遊びの安全点検	水辺の危険性の全スタッフで共有していく
7月12日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②発達を理解し環境を考える	発達の学びを通し、子どもたちにとってより良い環境を整えていく。
8月9日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②エピソードを語ろう	子どもの向き合い子どもの気持ちを
9月13日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②給食の丁寧さを考える	給食での心地よい環境や食と向き合う環境についてスタッフと考えていく。
10月11日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②エピソードを語ろう	子どもの気持ちを深読みし、様々な視点からとらえる力を身に着けていく。
11月8日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②10の姿を考える	小学校接続について、今の発達をとらえ、関わりを見直し考えていく。
12月13日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②対話的学びについて考える	子どもの声に耳を傾ける。また傾聴を大事に対話的な学びを通し考える力を育む。
1月17日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②エピソードを語る	発達を読み取り、子どもたちの気持ちに寄り添い成長を育む
2月21日	18:00~21:00	①策定会議1回目	来年度の目標設定
3月2日	9:00~18:00	②策定会議2回目	・来年度の行事決定

〈2〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											

大学講座および社内限定公開講座	
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
デンマークインターンシップ	希望するスタッフが応募

〈3〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に開かれた憩いの場となる保育園であるために、子育て支援を行い地域の方にも寄り添いながら地域とともに子育てを楽しめる保育園となる。また、地域の方と深く関わり互いに支えあえるよう開放的な園となる。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：見田方遺跡公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人施設訪問 中・高校生ボランティア
異年齢交流	保育参観 体験保育 小学校交流
地域拠点活動	保育体験・マルシェ・園庭開放
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

就学に期待を持ちスムーズな接続を実現するために定期的な小学校見学や交流会を計画的に行いスタ

ップ自身も教職員との交流を行うことで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を理解し就学に向けて必要な関わりの意識を高めていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	越谷市立明正小学校	20名予定	運動会練習見学	学校見学
8月頃	幼保小連絡協議会	1名予定	意見交換会	職員交流
9月頃	越谷市立明正小学校	30名予定	校内・校庭見学	学校見学
1月頃	越谷市立大相模小学校	20名予定	校内見学	職員・子ども交流会
1月～ 2月頃	越谷市立明正小・大相模・川柳小学校	2名予定	就学準備連絡会	職員交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

一人ひとりの様子や発達段階を理解し、その子にとってより良い保育を模索しながら定期的な振り返りや意見交換を行いながら丁寧に支援方法を考えていく。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：10名予定)

園全体全スタッフで関わり、チームとして方向性やねらいを明確にしながら、要支援児自身が安心して成長できる関わりを定期的に共有し理解を深めていく

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

進学先や小学校、越谷市子育て支援センター、埼玉県越谷児童相談所、越谷市教育委員会に必要に応じて相談する

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30

自然食堂…親子ランチ交流	月2回開催 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月2回開催 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～19:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:見田方遺跡公園にて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年6月14日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 8時30分

自己評価終了予定時刻: 17時30分

自己評価実施予定者: 施設長・主任・リーダースタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日: 8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	基本保育の意図や意味を熟知し、更なる成長や発達を促すための保育を日々試行錯誤し、楽しさを一緒に築き上げるチームをつくる。
	振り返り	楽しさを共有し、向上心を高め前向きに取り組むチームを気づきあげられるように今年度作り上げた信頼関係をもとにさらに保育の質や人間性を高めていけるようにしたい。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

24年度	目指す姿	園にかかわるすべての人が子どもと関わる時間や保育を楽しみ、子どもも大人も自分自身を好きになり日々成長できる園にしていく。
	重点施策	自分自身を認め、子ども自身に真摯に向き合い一人ひとりにとって豊かな関りや保育環境を常に考え学び続けていくスタッフ育成を行っていく。
25年度	目指す姿	一人ひとりの強みが十分に発揮され、自園だけでなく地域にも発信しながら誰からも親しみが持てる園にしていく。
	重点施策	園にかかわるすべての人が、思いやりあふれるにんげん力高い豊かな人となり、だれからも愛され親しみの持てる園を創り、子どもや保護者だけでなく地域の方、卒園児、身近な人が気軽に立ち寄り人が集まる場を創る。
26年度	目指す姿	スタッフ一人ひとりが自律し、向上心をもち柔軟に物事をとらえながら子どもをど真ん中に置き、日々保育を楽しみ人間力を高め成長できる園を作る。
	重点施策	自分自身の目標を明確にして実行する。学びや経験をアウトプットし相手に伝える力を身につける。自分で考え行動できる人間性豊かな人材を育成する。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：越谷レイクタウンどろんこ保育園 施設長 榊原夏美

2024年度 駒沢どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

保育理念 「にんげん力。育てます。」

- ・野外体験を提案実践し”自分で考え、行動してみる思考”を育みます。

保育目標 センス・オブ・ワンダー

- ・自然の中に沢山足を運び、自然の中での発展から、生死などの環境認識を。

人対人コミュニケーション

- ・「物おじせず誰とでも目を見て話が出来る子ども」を育成する。

6つの力

- ・ケガをしない強い力を育てる。
(裸足保育・木登り・座禅・雑巾がけ・リズム体操・長距離散歩)
- ・自分でできることを自分でする。
(畑仕事・米の自給自足・縁側給食・食事盛り付け)
- ・すべての人とかかわりから判断・行動を身に着ける。
(異年齢活動・インクルーシブ・商店街ツアー・銭湯でお風呂)
- ・活動を選択し、自分で考えて行動する。
(火・水・土 焚き火保育)
- ・生死を知る。
(小動物や水生動物世話・生死教育・食の循環)
- ・感じた事・考えたことを表現する。
(言葉で表現・かく・つくる・就学前教育)

園目標 【ともに学び ともに歩み 個々が輝ける場所に】

併設園の理念【子どもが自分で考えて生活する家 身近な大人がすべての子を育てる家】とどろんこ会の理念をもとに園の目標を定めた。

2022年法改正により、駒沢どろんこ保育園は発達支援つむぎ 駒沢ルームと併設園として、日々の活動、行事の参加、人的環境、施設、設備の利用をなど、全面的に共有し歩むことができた。

2024年度は、学びの機会を増やし、両スタッフのスキルアップに努めていきたい。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子ども自らが経験を選択できる環境作り
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各年齢の発達の理解を深めることで、子どもの興味や関心に応じた環境を作れるようにしていく。 ・子どもたち自身が考えたり、工夫したりできるよう、玩具や道具を整えるとともに、正しく使用できるように援助していく。 ・遊び、散策先、遊ぶ仲間を自分で選んだり、決めたりできる取り組みができるように、スタッフ間での意見交換のしやすい環境、仕組みづくりを

		<p>行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自分の気持ちや思いを、表現できるような力をつけていく。
2	計画・ねらい	実体験を通して生活力を身に付ける
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の日課の実践。 ・伝承遊びの実践。 ・針仕事、木工制作を通して、指先の巧緻性と道具の使い方を学ぶ。 ・子ども自身が意欲的に取り組める、環境作りをおこなう。
3	計画・ねらい	就学を見据えて10の姿を会得していく
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年生を見据えて、子どもが自主性、主体性を発揮できるような、物的環境と、人的環境作りをおこなっていく。 ・園内研修にて10の姿に関して学びを深める。 ・協同性、社会性、規範意識を養うことの重要性と、具体的な取り組みについて共有と実践。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者とのコミュニケーションをこまめにとることで、信頼関係を築き相互理解を深めていく
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの接遇力を高めることで、登園時、降園時の丁寧な対応（3分対応）ができるようにしていく。 ・保育者と保護者が一体となり、子どもの心身ともに健やかな成長を遂げられるように常に緊密な連携を図れるようにしていく。
2	計画・ねらい	日々の保育の可視化により、開かれた園づくりを行っていく
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、タイムラインにて、日々の保育内容を伝えていく。 ・ドキュメンテーションやポートフォリオなどを通して、行事開催に至るまでの取り組みや経緯を伝えていく。 ・園行事や保育参加を呼びかけていく。 ・保育内容や園行事を事前に知らせていく。
3	計画・ねらい	個人面談、子育て相談など適宜実施し、子育て不安の低減に努める
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活のみならず、家庭においての子育て、しつけ、遊びに関しても、求めに応じて個人面談の場を設ける。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	青空保育、ちきんえっぐの実施にて、保育園での保育や活動内容について知っていただく
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログ、SNSなどにより、青空保育、ちきんえっぐなどの子育て支援活動を知らせていく。 ・園入り口などに行事予定を掲示し、参加者を増やしていく。 ・ちきんえっぐ 毎週水曜日実施。 ・毎月第一木曜日に青空保育実施 駒沢公園（こもれび広場にて）。
2	計画・ねらい	子育て相談の実施により、地域の子育て支援の促進に努める
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所体験、子育て相談などの活動内容を地域に発信していく。

		・子育て相談随時実施。
3	計画・ねらい	どろんこ祭り、保育所体験などを通して、園の行事や保育参加の推進
	実践予定内容	・町内会の掲示などにより広く園行事を知らせていく。 ・ブログ、SNSなどにより保育活動を発信していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	個々のスタッフの特性や方向性に合わせ、育成計画を作成する
	実践予定内容	・年度当初に個別に面談を実施し、個々の方向性や特性を踏まえたうえで、育成計画を作成していく。 ・個々の経験年数を応じて、短期、中長期の目標を立てることで、見通しが持てるようにする。
2	計画・ねらい	園内研修の実践と充実
	実践予定内容	・園内研修の年間計画を立て、実施していく。 ・園会議で研修報告や学んだことを、スタッフ間へ共有することで園全体のスキルの向上につなげていく。 ・実践した保育を振り返り、予想して、計画に反映させていく。 ・Plan（計画）－Do（実行）－Check（評価）－Act（改善）を実践していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	残渣を前年度の70%を目標とし、減少させていく
	実践予定内容	・戸外での活動内容を見直し、運動量を増やすことで、食欲の増進を進めていく。 ・調理法や盛り付けを工夫し、食が進むようにしていく。 ・野菜は皮付きのまま調理、提供していくことで廃棄部分を減らす。
2	計画・ねらい	継続したコンポストの運用
	実践予定内容	・廃材部分はコンポストにて肥料とし、畑活動に利用する。 ・食の循環について折に触れて伝え、実感できるようにしていく。
3	計画・ねらい	コンポストを運用し、畑の肥料づくりを行う
	実践予定内容	・残渣を利用することで、肥料づくりを行い、野菜の栽培に利用して行く。 ・残菜がどのように肥料に変化し、野菜の生育に役立つかを実践し、理解を深める。

〈6〉安全に配慮した環境づくりと怪我の低減

1	計画・ねらい	園内、園外危険個所を認知し、危険を回避する
	実践予定内容	・ハザードマップの作成、状況に応じて随時更新する。 ・危険個所をスタッフ間で共有し、安全対策を講じる。 ・園内、園庭、玩具、遊具の点検を日々行ない、危険個所はすぐ改善する。
2	計画・ねらい	ケガや事故が起こる原因を究明し、再発防止に努める
	実践予定内容	・ヒヤリハット、インシデント報告書を作成、内容を検証することで、再

		発防止につなげていく。 ・事故防止委員会にて、スタッフ間で意見交換し、多角的な方向から内容を検討する。
3	計画・ねらい	危機管理や応急処置についての見識を深め、全員が正しく使用や対応が行えるようにしておく
	実践予定内容	・AEDや応急処置法についてロールプレイングを通して、使用方法を知っておく。 ・嘔吐処理、午睡チェックなど定期的に確認し、迅速かつ確実にこなえるようにしておく。

〈7〉併設園としてのさらなる深化

2023年度は、園とつむぎルームと共に併設園としての深化を目指して日々取り組んできた。環境設定も大きく変え、『駒沢ごと』として支援、保育、環境構成、サービスの質の向上に努めてきた。2024年度は、さらに保育園、つむぎの相互理解を深めていき、『駒沢としてのインクルーシブ』の思いを共通で持ち、支援、保育に当たっていく。

1	計画・ねらい	【駒沢としてのインクルーシブのテーマの確定】 テーマ：一人ひとりの子どもを理解し、『駒沢』として全員で子育てを行っていく
	実践予定内容	・互いの子どもを知り、一人ひとりにあった子育てをしていく。 ・両スタッフ参加によるケース会議（月1回）。 ・園会議にクラスの振り返りの実施。 ・行事参加の共有。 ・詳細に関する情報の共有。
2	計画・ねらい	つむぎとの活動内容の発信
	実践予定内容	・入園説明会、保護者懇談会などを通して、つむぎとの取り組みや活動内容の発信の実施。
3	計画・ねらい	園とつむぎとの知識やスキルの共有と向上
	実践予定内容	・園会議などの場を利用して学びの場を設け、発達や支援方法について知識やスキルの向上に努める。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
9人	15人	18人	22人	22人	22人	108人

〈2〉開所時間

7時00分～20時30分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	20人	看護師	1人	栄養士	3人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	1人	補助	0人	調理	1人	事務	1人

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	つむぎとの情報共有と振り返り・園内研修・事務連絡
給食運営会議	月1回	食育計画の進捗状況、アレルギー対応、喫食状況確認
事故防止委員会	月1回	自園、他園で起きた事故をもとに、再発防止策検討
ケース会議	月1回	個別対応を要する子の情報共有、対応の検討
リーダー会議	月1回	園とのつむぎの代表者により、保育・支援計画の確認 情報共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人全体での課題討議、連絡、共通認識事項の確認
施設長勉強会	月1回	法人全体での課題討議・施設長のスキルアップ
食育会議	年4回	法人全体での課題討議・栄養士、施設長のスキルアップ
保健会議	年4回	衛生、感染症ガイドライン・取り組み報告・改善
主任会議	年4回	主任のスキル・マネジメントアップ
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士・園全体の保育スキルアップ

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内の安全管理や備品などの管理・衛生点検

安全対策係	ヒヤリハット・インシデント振り返り、ハザードマップの見直し、事故防止委員会の運営
防火管理者	避難訓練の立案・実施・反省
食品衛生責任者	食材の衛生管理・在庫確認と管理・給食運営会議の運営
畑係	畑の管理・栽培計画の進捗確認
生き物係	飼育動物の管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズ・保護者と共同で、行事内容の計画と運営

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士との信頼関係を築き、生理的欲求を満たし、安心安定した生活を送る ・遊び、食育、睡眠を中心として生活リズムを整えていく ・保育者に援助されながら、基本的な生活習慣の基礎を身につけていく
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりのことに興味をもち、保育者と一緒に取り組もうとする ・保育者を仲立ちとして、模倣遊びを楽しみ、友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ 自分の思いや要求を、自分なりのしぐさや言葉を使って伝えようとする
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身につけ、自主的に身の回りのことに取り組む ・友だちと協力し助け合うことで、遊びや生活を送ることが出来るようになる ・保育者や友だち、異年齢の子どもたちとの触れ合いを通して、人との関りやコミュニケーションを身につけていく 文字や数、社会事象や自然に、興味や関心を持つ
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身につけ、自主的に身の回りのことに取り組む ・友だちと協力し助け合うことで、遊びや生活を送ることが出来るようになる ・保育者や友だち、異年齢の子どもたちとの触れ合いを通して、人と

		の関りやコミュニケーション力を身につけていく 文字や数、社会事象や自然に、興味や関心を持つ
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・ 2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食べたいときに、食べたい場所で、食べたい人と、食べただけ食べられるような環境づくりを、スタッフ一体となって行い、ともにテーブルを囲み食する
	実践予定内容	・ バイキング形式の配膳の実施。 ・ 子どもが食器を持って行き来しやすい、環境設定を構築する。
2	計画・ねらい	魚などの解体を体験することで、命を頂くことの意味や尊さを知る
	実践予定内容	・ 生き物の解体を実体験することで、命を頂くことの意味や尊さ、感謝の気持ちをもてるようにしていく。 ・ 生き物の解体の実践に向けて、計画、準備していく。
3	計画・ねらい	栽培・収穫した野菜をクッキングで使用するなど、作る楽しさ、食べる楽しさを実感し相乗効果を得られるようにする
	実践予定内容	・ 子どもたち自身で栽培、収穫、クッキングに携わっていくような連続性のある取り組みを行っていく。 ・ 栽培計画に基づき、クッキングを行っていく。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）

園児への保健指導・取組等	歯磨き指導、手洗い・うがい指導、性教育（5歳児のみ）
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月～9月頃・・・手足口病、ヘルパンギーナ、とびひ、RSウイルス 12月～2月頃・・・インフルエンザ、ウイルス性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	該当園児がいる場合事務所に預かり
エピペン使用できるスタッフ	本日現在21名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員1名については3月31日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在25名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員1名については3月31日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 心肺蘇生、AED操作の周知と講習、嘔吐処理の確認 SIDS防止、午睡チェック方の徹底

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ

健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 0歳児：毎月1回 1～5歳児：年2回／6・11月 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	ハザードマップの作成、有効利用による 怪我の低減
	実践予定内容	・ハザードマップの作成、状況に応じて随時更新する。 ・危険個所をスタッフ間で共有し、具体的な安全対策を講じる。
2	計画・ねらい	園内、園外危険個所を認知し、子ども自らが興味や関心のもとに、安心 して遊び込める環境作り
	実践予定内容	・園会議にて通年環境構成の研修を実施。 ・スタッフ間で情報共有を行い、子どもの求めに応じた環境構成を行 う。 ・園内、玩具、遊具の点検を日々行ない、危険個所はすぐ改善する。
3	計画・ねらい	・衛生面に配慮し快適に遊び込める環境整備
	実践予定内容	・感染予防のために、定期的に玩具、遊具、施設内消毒実施。 ・日々の清掃の実施。 ・室内の換気、湿度を一定に維持するために加湿。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	座卓テーブル	幼児保育室	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	災害対策	・防災計画の作成と届出 ・毎月一回の避難訓練、消火訓練の実施 ・災害管理マニュアル、災害フローチャートの整備、確認
---	------	-----------------------------------------------------------------

		・災害用の備品の管理と点検
2	ケガ、事故防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ケガ、事故防止の為の危機管理マニュアルの設置と理解 ・SIDSの防止策を徹底周知と定期的にロールプレーを行う ・事故報告簿、インシデント・ヒヤリハット報告書の検証 ・投薬方法、アレルギー食の提供方法の徹底 ・保育士の上級救命救急資格取得、エピペン講習
3	防犯対策	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの不審者対策に則り、不信者侵入訓練の実施 ・カメラ付きインターホンでの防犯対策 ・送迎者登録カードによる園児の引き渡し
4	光化学スモッグ	<ul style="list-style-type: none"> ・光化学スモッグの知識の習得 ・光化学スモッグ注意報発令メールの配信システムへの登録

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

次世代の人材育成を視野に入れ積極的に受け入れを行い、保育の楽しさや重要性を実体験してもらえうえる場としていきたい。

1	小学生の保育体験受け入れ	保育体験を通して、園児たちとの関りを通して、幼い子を慈しむ気持ちをはぐくみ、保育士の仕事に興味や関心を持てる場とする。
2	中、高生の職場体験受け入れ	保育士がどのように園児と関り、どのような業務をおこなっているかを、実体験することで、将来の職業選択肢の一つとなるようにする。
3	保育実習生の受け入れ	保育園での実習を通して、保育士の役割や関わり、保育園の運営について実感することで、保育士の職がいかにかに有益かつ、尊い業務であるかしてってもらい、職業選択につなげていけるようにする。

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (= 保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題

4月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・虐待防止 研修・安全管理	・自己振り返り(通年) ・不適切関りについて認識を深め、 虐待を防止する
5月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 熱中症予防・接遇	・熱中症についての症状や予防法を 学び発症予防する ・ロールプレイングにより、望ま し接遇を学ぶ
6月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びのリスク管理	・水を介した活動で起こりえるリス クについて理解を深め、事故を防止 する
7月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 夏の感染症予防	・夏特有の感染症について知識を深 め、感染症予防、拡大の防止する
8月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 小学校への接続	・小学校教諭を招くなどして、小学校指 導要領読み込み、理解を深め、【小1を知る】 の理解につなげていく
9月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 防災・安全管理 ③ 見失い防止研修	・防災や安全管理について、スタッ フ間での認識を合わせ、必要事項を 共有する
10月4日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・虐待防止 研修	・不適切関りについて振り返り、改 めて認識を深め、虐待を防止する
11月8日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 冬の感染症予防	・冬特有の感染症に関して知識を深 め、感染予防、拡大防止に努める
12月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画振り返り	・次年度の事業・運営計画に向けて振り 返り
1月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 進学進級に向けて	・円滑な進学進級に向けて、状況共 有をする
2月14日	18:00~20:00	策定会議	・次年度の保育計画の準備
3月21日	18:00~20:00	キックオフミーティング	・次年度の保育計画、園の運営につ いて、スタッフ間で認識を深め、必 要事項を共有する

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デノマクインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉発達支援つむぎ 駒沢ルームとの研修会

毎月の園会議での勉強会を軸として、適宜、各年齢の発達の理解を深め、個々の特性に対する支援や援助の方法を学びあうことで、スタッフ全体の子ども理解やスキルの向上につなげていく。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣小学校、幼稚園、老人ホーム訪問などを通して、近隣の方との交流を深め、地域に根差した保育園づくりをめざす。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容	
青空保育（保育園主催）	月1回	公園名：二丁目緑地にて

商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人リハビリ施設（正和クラブ）訪問・交流
異年齢交流	近隣小学校との交流、小学生の保育体験、中学生、高校生の職場体験の受け入れ、近隣の高校、大学との交流
地域拠点活動	青空保育、ちきんえっぐ、保育体験
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

小学校訪問や子ども間交流を通して、就学に向けての安心感と期待感を持てるようにする。
教スタッフ同士での交流、懇談により相互理解を深め、円滑な小学校接続が出来るようにする。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月8日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	深沢小学校	22名予定	学校見学	見学
6月頃	東深沢小学校	22名予定	学校見学	見学
1月頃	深沢小学校	22名予定	授業参観	授業見学 子ども間交流
1月頃	東深沢小学校	22名予定	授業参観	授業見学 子ども間交流
2月	等々力小学校、東深沢小学校、その他	22名程度	小学校引継ぎ	スタッフ間交流、引継ぎ業務

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

要支援児在籍時は個々の特性を捉え計画を立て、園、つむぎの全スタッフで情報、対応を共有する。

〈2〉毎月のケース会議開催

4～3月に計12回開催予定 参加者：スタッフ12名の予定
日々の観察をもとに経過報告、対応策検討し、園、つむぎの全スタッフが共通認識のもと保育にあたるようにする。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

クラス担任と新年度担任で年度末に引き継ぎし、継続した支援が行えるようにする。
就学児に関しては幼保連絡会、要支援の場合は養護教諭や発達支援担当者との引継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎月1回 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎月1回 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：駒沢公園(こもれび広場)にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

2023年11月に実施済みにて今年度は受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年9月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：15時00分

自己評価終了予定時刻：18時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任、各年齢リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	発達支援つむぎ 駒沢と共に歩み、併設園としての新たな取り組みと安定した運営
	振り返り	<p>・4月当初より、登園時の受け入れを園、つむぎスタッフ双方で行い、午前の活動、昼食をともにするなど、全面的に活動を共にすることを実践することができた。</p> <p>また、運動会、生活発表会をはじめとする行事に関しても、計画、準備と両スタッフで、話し合いを重ね取り組むことを実践してきた。</p> <p>年度の途中でスタッフの動きや情報共有の不足を感じたことがあったが、スタッフの意見を吸い上げたうえで、施設長やリーダー層で振り返りの場を設け軌道修正軌をおこなった。</p> <p>・次年度はお互いの知識やスキルを交換することで、さらなる保育の質と、支援の向上していくことで合意している。</p>

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	駒沢全体としてのチーム力とスタッフ個々のスキルの向上
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の特性や各年齢の発達や行動を理解し、柔軟な対応や支援が出来るように、スタッフそれぞれが学びを深める。 ・スタッフ間での連携を深め、駒沢全体でのコミュニケーション力を向上していく。 ・実践した保育を振り返り、その後の保育計画に反映させていく。
2025年度	目指す姿	併設園駒沢としてのスタイルの確立
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・安定したインクルーシブ保育の提供が出来る、環境作りと人材育成 ・地域との交流も推進
2026年度	目指す姿	併設園としてのモデル園を目指す
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・併設園として積み上げてきた取り組み内容やスキルを、法人内や外部に発信していく。 ・見学者や保育参加希望者の受け入れ

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：駒沢どろんこ保育園 統括施設長 高井めぐみ

2024年度 メリー★ポピンズ清瀬ルーム保育園 事業計画書

1. 基本方針

- ・子どもの「生きる力を育む」ために幼児期に繋がる育ちの連続性を見通し、乳児期に必要な活動を日課として計画的に実施する。幼児期への接続を見据え、心と身体の栄養を蓄えていく。
- ・畑活動や食育活動を大人と一緒に رفتり、移動保育に行った先で動物の世話を手伝うことなどを通して乳児にもわかりやすい食の循環や環境教育の実践を行う。
- ・保育の質の向上に繋げていくためアセスメントを日々取り入れ、スタッフの専門性の向上を図る。
- ・開かれた保育園づくりに努め地域住民に園の存在を知ってもらい、いつでも気軽に立ち寄ってもらえるようにしていく。また、園を利用する保護者には相手の気持ちに寄り添い、一日の子どもの様子を丁寧に伝えていくなど子どもの成長を共に喜べる関係性を作り上げ「この園を選択して良かった」と思ってもらえるようにする。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	・自園の乳児保育の質を高めていくため、ポートフォリオ作りは継続しドキュメンテーションにも新たに取り組み、新たに保育の可視化に努める。
	実践予定内容	・新たにドキュメンテーション作りを取り入れる意義についての研修を行う。子ども理解につながるアセスメントについて勉強し振り返りに取り組んでいく。
2	計画・ねらい	・畑活動や食育活動を通して食材や食の循環を知り、環境への意識を育む。
	実践予定内容	・食の循環を知るため、調理くずを使用した堆肥作りを大人と一緒にを行う。作った堆肥で野菜を育て【育てる→収穫する→食べる→育てる】を毎日の日課で体験する。 ・絵本や魚の解体などを通して野菜以外の命の教育を乳児なりの理解ができるような形で保育に取り入れ、大人は命を頂く活動として鶏を絞めて食す体験を近隣園で経験する。
3	計画・ねらい	・幼児期への接続を見据え、近隣園との交流を深める
	実践予定内容	・移動保育や近隣園への散歩で定期的に幼児と交流する機会を作り、スムーズな接続を目指す。 ・夏休みや冬休み、などに近隣園の卒園児にボランティアを募り、小学生との交流を行う。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	・保護者との信頼関係の構築のため、日々真摯に丁寧に誠意ある対応を心がけ、子どもの育ちを共有していくようにする。
---	--------	---------------------------------------------------------

	実践予定内容	・一人ひとりの保護者が【現在】何を保育園に求めているのかを知るため、3分間対応はもちろんのこと随時面談や、相談がしやすい関係性作りに努める。
2	計画・ねらい	・待った気がしないお迎え対応、待たされたと思わせない仕掛けづくり
	実践予定内容	・ポートフォリオに加え、ドキュメンテーションも定期的に掲示し、保護者が待った気がしないサービスを行う。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	・道行く人に畑活動に興味を持ってフェンス越しにのぞいたり、声をかけていただき園に親しみをもちその後の園訪問に繋げていく。
	実践予定内容	・入園申請時期より前のどろんこ祭りや運動会などの行事に参加していただけるように案内し、園見学や保育所体験に繋げていく。
2	計画・ねらい	・地域活動事業の開催や青空保育などの工夫により地域住民に園の存在を知ってもらい交流の機会を持つ。
	実践予定内容	・地域活動事業や子育て支援のチラシを人通りのある園のフェンスに見やすいように掲示する。 ・近隣施設や連携施設を訪問し、チラシを配布する。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	・保育の質を高めるためドキュメンテーションに取り組み、保育内容の可視化を目指す
	実践予定内容	・ドキュメンテーションの作成に取り組む意義についての研修を行う。作成についてはクラスごとにスタッフ持ち回りで作成することとし、会議で発表、振り返りを重ね内容を深めていく。
2	計画・ねらい	・ワークを通して保育のプロとしての本物の実力をつける
	実践予定内容	・園会議にて計画的にワークに取り組み、保育士としての土台固めをする。
3	計画・ねらい	・相手の気持ちに寄り添った保護者対応について学びあう
	実践予定内容	・園会議にて相手の気持ちに寄り添った丁寧な保護者対応のロールプレイをする。

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	・畑活動や食育活動を通して食材や食の循環を知り、環境への意識を育む。
	実践予定内容	・食の循環を知るため、調理くずを使用した堆肥作りを大人と一緒にを行う。作った堆肥で野菜を育て【育てる→収穫する→食べる→育てる】を毎日の日課で体験する。

		・絵本や魚の解体などを通して野菜以外の命の教育を乳児なりの理解ができるような形で保育に取り入れ、大人は命を頂く活動として鶏を絞めて食す体験を近隣園で経験する。
2	計画・ねらい	・室内における子どもの育ち、興味関心に合わせて環境を整えていく。
	実践予定内容	・クラス会議などで子どもの姿の共有を行い、【現在】の子どもたちが遊び込める環境構成を話し合い見直しを行っていく。
3	計画・ねらい	・園庭における子どもの育ち、興味関心に合わせて環境を整えていく。
	実践予定内容	・クラス会議などで子どもの姿の共有を行い、【現在】の子どもたちが遊び込める環境構成を話し合い見直しを行っていく。 ・土遊びを通して細菌類に触れて免疫を高める。 ・実のなる樹木を育て、成長の過程と収穫の喜びを体験する。

〈6〉保育の可視化を目指す（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	・自園の保育をポートフォリオやドキュメンテーションを用いて可視化を目指す
	実践予定内容	・ポートフォリオは昨年より内容の充実を図る。 ・ドキュメンテーションではクラスで月に一回活動内容を作成し、閲覧する事で保護者が保育を理解しやすいようにする。
2	計画・ねらい	・毎日の保護者対応ではその日の子どもの様子が手に取るようにわかるようなエピソードを添える。
	実践予定内容	・園会議の中で定期的に保護者対応のロールプレイを行い、役割を交代しながら相手の立場に立って保護者対応が出来るように学びを重ねる。
3	計画・ねらい	・毎日の連絡帳はその日の子どもの様子が想像できるようなエピソードを保護者が読みやすい文章で記入する。
	実践予定内容	・園会議や昼礼の中でスタッフがお互いの連絡帳を読みあって添削する機会を作り、文章表現に磨きをかける。

〈7〉地域に開かれた園となる（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	・青空保育は地域の親子の時間に合わせて公園に出かけていき、地域の親子に保育園の楽しさを知ってもらう。
	実践予定内容	・地域の親子に合わせて遅い時間に施設長や主任と子育て支援の担当が出かけていき、紙芝居や手遊びなどで楽しい時間を提供し、保育園を知ってもらい、園への来園を促す。
2	計画・ねらい	・地域活動事業の開催ではチラシ配布の強化と園のフェンス掲示の工夫をして集客に努める。
	実践予定内容	・フェンス際の畑の充実を図ることでフェンス越しに園を気軽に覗いてもらえるようにし、掲示を自然と目に留まる場所に貼るようにする。
3	計画・ねらい	・園庭を使って畑やクッキング、保育の様子などの工夫をし、【見える保育、見せる保育】をアピールする事で、気軽に園を訪問してもらう。

	実践予定内容	・園庭でサーキット遊びなどで生き生きと遊ぶ子どもの様子や畑の野菜でクッキングする様子をフェンス越しに見てもらい、気軽に立ち寄れる雰囲気をつくっていく。
--	--------	-----------------------------------------------------------------------------

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	15人	18人	0人	0人	0人	39人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	12 人	栄養士	1人	調理	1人	
パート スタッフ	保育士	3人			事務	1人	嘱託医 1人

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修
給食運営会議	月1回	食育計画振り返り、献立振り返り、食環境改善議案
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディ 前月のヒヤリハット、インシデント分析
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り、次月計画の見直し
リーダー会議	月1回	園の課題を抽出し、解決策を検討

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	事務連絡及び運営Visionとの接続
施設長勉強会	月1回	マネジメント、コンプライアンス研修 課題改善計画の共有と取り組み発表
食育会議	年4回	食育活動の共有、マニュアルの確認、献立の提案
保健会議	年4回	感染症対策、保健衛生対策の課題への取り組み共有
主任会議	年4回	施設長育成マネジメント研修、 課題改善のアクションプランの進捗確認
子育ての質を上げる会議	月1回	子育ての質を上げるための研修、 課題改善計画の共有と取り組み発表

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	子ども及びスタッフの健康保持のために、環境の維持向上に努める
安全対策係	施設内外の設備及び用具の安全管理、点検
防火管理者	災害を想定した訓練計画や消防設備点検、避難経路の確保と保持
食品衛生責任者	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応
畑係	年間を通じた食育計画案の作成と実施。畑の管理
生き物係	命の尊さや自然事象への関心を広める機会を設定

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画・運営とどろんこサポーターズとの連携

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る ・身の回りの環境に主体的に関わる中で、一人ひとりの子どもの発達や興味関心に合わせた体験活動を充分に行う
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中での遊びを通して見通しやイメージを持つ。 ・身近な人と関わる心地良さを知り、感じたことや考えたことを少しずつ言葉で表現し、相手にも思いがあることに気づく
幼児保育	上半期 3～5歳児	・該当なし
	下半期 2～5歳児	・該当なし
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用
運営委員会	年2回	・該当なし

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	規則正しい生活を送ることで、健康な心と身体を育む。
	実践予定内容	健康な心と身体を育むために、体を使う活動を十分に行い、お腹を空かせて食欲を十分にかきたてる。
2	計画・ねらい	日課の畑仕事で育てた野菜を収穫し、採れたての野菜の味や加工した食材の味を体験する。
	実践予定内容	収穫した野菜をそのまま、または調理して食べることで、自分たちの育てた野菜を身近に感じられるようにする。
3	計画・ねらい	好きな場所で好きな人と一緒に食べる
	実践予定内容	食べる場所、人、時間は自分で選択できるようにする スタッフは子どもと一緒に食べ、子どもが楽しく食事できるよう環境を整

		える。
--	--	-----

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導、歯磨き指導
流行が予測される感染症	感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月頃・・・手足口病が発生しやすいので発生時は壁などの消毒を実施 10月頃・・・胃腸炎が発生しやすいので、下痢の児が多い時は 次亜塩素酸での消毒を行う
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・該当あり
エピペン使用できるスタッフ	本日現在17名中、15名が研修受講済み 未受講のスタッフは3月21日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在17名中、15名が研修受講済み 未受講のスタッフは順次受講する。
その他保健に関する取組	ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日

	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月（0歳児のみ年12回実施） 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	・室内における子どもの育ち、興味関心に合わせて静と動のエリアを分けた子どもに分かりやすい環境を整えていく。
	実践予定内容	・クラス会議などで子どもの姿の共有を行い、【現在】の子どもたちが遊び込める環境構成を話し合い見直しを行っていく。
2	計画・ねらい	・園庭における子どもの育ち、興味関心に合わせて時にはサーキット遊びなど変化のある環境構成を考えていく。
	実践予定内容	・クラス会議などで子どもの姿の共有を行い、【現在】の子どもたちが遊び込める環境構成を話し合い見直しを行っていく。 ・土遊びが十分にできる環境を用意して土の中の細菌類に触れて免疫を高める。 ・実のなる樹木を育て、成長の過程と収穫の喜びを体験する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	ままごとキッチン	保育室	毎日

2	パーテーション	保育室	毎日
3	ミニテーブル	保育室	毎日
4	絵本棚	保育室	毎日
5	制作用品収納棚	保育室	毎日
6	絵本棚	ちきんえっぐ	毎日
7	すのこベンチ	玄関	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	消防計画に基づき自衛消防隊を編成し避難訓練を毎月15日に行う。また法人専用の「うちのこアプリ」にて災害時の緊急連絡を使用し、発信安否・施設状況・避難先を情報共有する体制をとる。
2	怪我・事故防止	事故防止チェックを年4回、設備点検を年6回行い、怪我・事故防止に最善を尽くす。 インシデント・ヒヤリハットの分析を行い事故の発生を未然に防ぐ。
3	防犯	年2回不審者侵入訓練を実施する。また訓練は避難経路確保、不審者撃退・通報の訓練で全スタッフを対象とする。
4	光化学スモッグ	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響を把握する。光化学スモッグ注意報の発令や自治体から連絡があった場合は内容にあった看板・貼紙等を掲示する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

- ・中高生の保育園体験などを積極的に受け入れ、異世代交流の機会を作る
- ・大学・専門学校の依頼による保育実習の積極的受け入れ、保育の仕事の素晴らしさを伝える。

1	実践予定内容	保育士養成校からの実習生の受け入れ
2	実践予定内容	近隣中学校からの職場体験の受け入れ
3	実践予定内容	保育ボランティアの受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p style="text-align: right;">←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 <ul style="list-style-type: none"> → 会場研修 → 系列園保育実地研修  <p style="text-align: right;">←避難訓練研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園外保育のリスクマネジメント ③ 虐待防止研修	散歩時の人数確認等の基本事項を、 ロールプレイを通して確認する
5月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの人権チェック ③ ドキュメンテーション研修	ドキュメンテーションについて学 び、子ども理解に繋げていく
6月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びのリスクマネジメント ③ 水遊びについて時の室内環 境について	水遊びマニュアルの確認、ロールプ レイを通して学ぶ。
7月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育のプロになるワークI	ワークを通して、保育のプロとして の本物の実力を身につける
8月23日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園外保育のリスクマネジメント	ロールプレイを通して散歩時の人数 確認等、基本事項の確認

9月20日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②ドキュメンテーション事例研修 ③保育のプロになるワーク2	スタッフが作成したドキュメンテーションから事例の研修を行い、子ども理解を深める。ワークを通して、保育のプロとしての本物の実力を身につける
10月18日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②子どもの人権チェック ③ドキュメンテーション事例研修 ④保育のプロになるワーク3	スタッフが作成したドキュメンテーションから事例の研修を行い、子ども理解を深める。ワークを通して、保育のプロとしての本物の実力を身につける
11月15日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②ドキュメンテーション事例研修 ③保育のプロになるワーク4	スタッフが作成したドキュメンテーションから事例の研修を行い、子ども理解を深める。ワークを通して、保育のプロとしての本物の実力を身につける
12月19日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②ドキュメンテーション事例研修 ③保育のプロになるワーク5	スタッフが作成したドキュメンテーションから事例の研修を行い、子ども理解を深める。ワークを通して、保育のプロとしての本物の実力を身につける
1月23日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②今年度の振り返り	今年度を振り返り、アクションプランを立てる
2月21日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②次年度事業計画発表	事業計画を理解し、次年度の目標を決定する
3月2日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②次年度行事計画策定	プロポーザルを基に子どもたちに経験させたい行事を決定する

エリア研修予算内訳（清瀬4園合同開催）

開催日	予算	予算の内訳		例) ●園で按分した自園負担額
11月下旬	0円	講師代（交通費含む）	0円	0円
合計	0円		0円	0円

※保育士大学・園長大学の研修をもとに、清瀬エリアで学びを深める

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉中堅スタッフ育成計画

- ・目標に向かうための具体的な取り組みを決定し、研修計画を立て、外部研修、系列園でのOJT研修、他施設見学等積極的に組み入れる。
- ・保育園で課題になっている事柄を園会議で取り上げ、ワークを用いながら、職員が自ら答えを見出し子どもたちにとって何が必要かを考え、実践を積み重ねる機会を組み入れる。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

積極的に地域と関わっていくことを通して、園の存在を理解していただくと共に、地域で子どもたちの成長や安全を見守っていただけるようにしていく。

また、園庭解放や子育て支援事業を充実し、地域の子育て支援に貢献していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
------	----

青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：清瀬中央公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人ホームの訪問 月2回
異年齢交流	地域の小中学生との交流
地域拠点活動	子育て支援「ちきんえっぐ」運営
銭湯でお風呂の日	該当なし

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

保育所の子どもと小学校児童との交流を図る（職場体験の受け入れ等）

〈2〉具体的な連携計画

・年2回の保幼小連携会議に参加する予定。

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

対象児童の様子に合わせて年に2回以上計画を立てる。

月1回のケース会議で振り返りとスタッフ間共有を行い、見直していく。

〈2〉毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定 参加者：5名予定）

個別支援計画の振り返りと次月計画の確認

スタッフ間で計画と支援方法の共有

清瀬市発達支援「とことこ」の巡回指導を年2回受け、カンファレンスを行う。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

3歳児から進級していく施設（保育園・幼稚園・子ども園）等との連携、保幼小連携会議にて小学1年生から逆算した子どもの姿の引継ぎを行う

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(木) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(火) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育	月1回 11:00～ 公園名：清瀬中央公園にて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

2023年度(2023年12月25日に学研データサービスにて受審済)

〈2〉園による自己評価の実施

2024年6月3日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：9時00分

自己評価終了予定時刻：16時00分

自己評価実施予定者：山田千恵、鈴木裕子、村田妙江子、関真由美

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月26日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・保育の質、並びにスタッフの専門性の向上に繋げていくためポートフォリオ作りに本格的に取り組むことで一人ひとりの子どもへの理解を深め、子どもの成長を保護者とともに分かち合う。
	振り返り	・4月よりポートフォリオ作りを始めたが、毎月一回作り続けて保護者に開示していくことで保育園での子どもの姿と家での子どもの姿を共有

		しやすくなり、子どもの成長を分かち合うことが出来る様になった。
--	--	---------------------------------

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自園の乳児保育をポートフォリオやドキュメンテーションを用いて可視化し、スタッフ一人ひとりが子どもの心の育ちを自分の言葉で語れるようになる。 ・地域活動事業の開催や青空保育などの工夫により、地域住民に園の存在を知ってもらい交流の機会を持つ。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオは昨年より内容の充実を図り、ドキュメンテーションでは年度当初は月一回の活動内容を作成し閲覧してもらうことで保護者に園が目指している保育の方向性を伝えていく。 ・地域活動事業の開催においてはチラシ配布を強化したり、園のフェンス掲示の工夫をして集客に努める。青空保育は地域の親子が遊びに来る時間帯に改めていくようにする。
2025年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの子どもを理解するため、観察する力をつけ、ドキュメンテーションの回数を増やして保育の質の向上に繋げていく（1ヶ月1回→半月1回にする） ・園庭を使って畑やクッキング、保育の様子などの工夫をし、【見える保育、見せる保育】をアピールする事で、気軽に園を訪問してもらう。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・マップ型記録を取り入れて、ドキュメンテーションに繋がる子どもの様子を記録する ・園庭でサーキット遊びなどで生き生きと遊ぶ子どもの様子や畑の野菜でクッキングする様子をフェンス越しに見てもらい、気軽に立ち寄れる雰囲気をつくっていく。
2026年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・保育が「質の高い教育」になっていくため、自分たちの保育を日々アセスメントしていく。その結果子ども理解ができる保育士が増え、リーダーとして地域の保育の質を上げていけるようになる。 ・何時でも気軽に来園して園庭で遊んでもらったり、地域子育て支援の活動に参加してもらえようになり、その後の入園に繋がるようになる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の質をより高める為、日々アセスメントを取り入れる。アセスメントの方法としてはOODA（ウーダ）やSOAP（ソープ）で保育を振り返り、毎日変化する子どもの様子を観察し、記録していく。 ・青空保育でチラシを配布したり、子育て支援センターにポスターを掲示してもらったりして親子の訪問回数を増やし、園の評判が上がっていき、入園につながるようにしていく。

以上

2024年度 メリー★ポピンズ ラスカ茅ヶ崎ルーム 事業計画書

1. 基本方針

法人の基本理念 「にんげん力。育てます。」

法人の保育目標 ① センス・オブ・ワンダー ② 人対人コミュニケーション

法人理念及び保育目標を全スタッフが理解し、子どもの心情・意欲・態度に留意しながら日々の子どもの生活を大切にしていくこととする。その際、子どもの状況や発達過程を踏まえ、環境を通して養護及び教育を一体的に行うことを留意する。また、保育所保育指針にも書かれている「子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場」となるようにスタッフ一人ひとりが意識して過ごす。

全スタッフが、常に「あなたはどうか」と自身に問いかけ、自分の頭で考え、学ぶ、動くことができるように心がけていく。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもたちの自己肯定感を育む
	実践予定内容	子どもが安心できる環境の中で、自分の意見を伝え、相手の思いを受け取り相手への信頼や思いやりの心を育むよう活動や行事についての話し合いの機会を作るようにする。 全スタッフが応答的な関わりを行い、子どもの思いに寄り添い、受け止めることを心がけるようにする。
2	計画・ねらい	子どもの主体の保育の実践。
	実践予定内容	保育が子ども主体となっているかスタッフ間で都度振り返り、常に子どもが真ん中となっているか意識して保育をしていく。
3	計画・ねらい	子どもたちの毎日に必要な経験を育む保育。
	実践予定内容	子どもたちの成長、発達を捉え、子どもたちに必要な活動を見極められるよう園内研修を通して学び、心情・意欲・態度に留意していく。その際、長期的な見通しを持った保育計画の中で、遊びや生活が連続するようしていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	接遇への意識を高める。
	実践予定内容	園内研修や動画視聴を通して全スタッフが、挨拶・お迎え時などはもちろん、普段から保護者様に寄り添った対応を実施するようにしていく。
2	計画・ねらい	保護者様の子育てへの意欲や自信につなげられる支援をする。
	実践予定内容	全スタッフが保護者様と交流し、子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを共感しあうことを心がける。 保護者様の気持ちを受け止め、話をよく聞き、保護者様が自分で解決していくための方法を導きだせるよう保育や子育てに関する知識や技術を生か

		した支援を行う。
3	計画・ねらい	保護者参加へのお誘いや、必要に応じて個別に相談する機会を取り入れる。
	実践予定内容	保護者様の持つ不安や悩みに寄り添い、必要な時に個別に話ができる機会を設け、常に開かれ、相談をしやすい雰囲気作りを心がける。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた園を目指す。
	実践予定内容	青空保育、園開放の実施。 参加していただきやすいよう配慮し交流をする。月1回の青空保育、毎日の園開放をちきんえっぐだよりにて告知するようにする。
2	計画・ねらい	保護者様や地域に、自園が行う保育の内容を適切に説明するよう努める。
	実践予定内容	保育参加、小中学生職業体験、実習生受け入れ、世代間交流の実施。
3	計画・ねらい	公共の施設利用を通し、ルールやマナーを身につける。
	実践予定内容	幼児組を中心に、図書館の利用や、ラスカ店舗との交流や買い物体験など子どもたちに必要な体験を取り入れた保育を行う。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	日課・基本保育活動への原点回帰
	実践予定内容	スタッフ一人ひとりが法人の保育理念、園目標、クラス目標、個人目標に向き合い、子どもたちの個々の発達に合わせ、子どもたちの成長に必要な活動、遊びを保障できるようにする。
2	計画・ねらい	質の高い保育の追究
	実践予定内容	一人ひとりのスタッフについての資質向上及びスタッフ全体の専門性の向上を図るように努める。園内研修、外部研修、スキル講座、園長大学®保育士大学への参加を通し、個々の研修結果を園内で共有し活用していく。
3	計画・ねらい	学びのアウトプット
	実践予定内容	自身の学びを保護者、子どもたち、スタッフにアウトプットし、学び続け、成長し続けるようにしていく。
4	計画・ねらい	接遇力UP
	実践予定内容	「相手の気持ちに寄り添い接するとは。」接遇について学んだ中で自身の課題を見つけ、MBOに取り入れ年間を通して個々に合わせて目標に向かって取り組んでいく。

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	畑仕事・プランター栽培、食材加工等の活動を通じ食材や食の循環を意識することができるようにする
	実践予定内容	畑・プランターでの野菜の栽培、梅ジュース、味噌、ケチャップ作りなど
2	計画・ねらい	調理くずの有効活用を通し、廃棄を削減する
	実践予定内容	段ボールコンポストへ子ども、保育スタッフ、調理スタッフ共に取組み、廃棄の削減を意識して取り組む。

3	計画・ねらい	給食残渣を減らす
	実践予定内容	残渣の量を子どもと共有する機会を設ける。

〈6〉褒める・認める・感謝する

1	計画・ねらい	スタッフ間で連携を行い、チーム保育を行う。
	実践予定内容	異年齢保育を進める上でも、スタッフ同士で子どもたちの様子や輝いている場面を話題にし、その中で個々の成長を昼礼やチャットを通して全スタッフで共有していく
2	計画・ねらい	感謝を言葉で伝えあう。
	実践予定内容	子どもや保護者様に対してはもちろんスタッフ間においても、相手の良いところ、頑張っているところに気づき、認め、声に出して褒める。同じく、相手への感謝の気持ちを言葉にして感謝をする。園会議などでお互いへの感謝を伝える機会を設ける。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
3人	9人	12人	12人	12人	12人	60人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	9人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	5人	補助	1人	調理	1人	事務	1人
							嘱託医	2人

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	園内研修、園運営に関する情報共有、計画の決定
給食運営会議	月1回	食育計画振返り、確認と共有
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策・全園事故防止委員会での内容共有・ヒヤリハット及びインシデントの検討、分析、振り返り
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り及び省察・用紙園児個別計画の見直し

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	連絡および議題に対する共有、意見交換
施設長勉強会	月1回	運営全般の改善のための勉強会
食育会議	年4回	献立内容の改善、提案・給食提供マニュアル及び運用ルールの作成、見直し
保健会議	年4回	感染症対策やガイドラインの作成、改善・各園看護師スタッフとの連携
主任会議	年5回	各園の改題改善アクションプランの進捗確認と共有
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質向上のための討議・課題取り組み

〈3〉 各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防処置、施設内衛生管理全般
安全対策係	定期安全点検・防災自主点検・設備点検チェック・事故防止チェック、ハザードマップ作成更新
防火管理者	消防計画・備蓄品の確認・安全対策係の任命・自衛消防組織
食品衛生責任者	食品の安全に対する管理、食育会議の計画・実践
食育係	畑の環境整備・年間計画、食育・クッキングの計画実行

環境係	内部監査対応、保育室の環境の見直しの実行
-----	----------------------

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画管理、保護者との連携、地域への告知
運動会係	運動会の計画管理、地域への告知
生活発表会係	生活発表会の計画管理
卒園式係	卒園式の計画管理、保護者との連携
入園式係	入園式の計画管理

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・保健的で安全な環境の中で子どもの生活の安全を「自分で」の思いを汲み取り、子どもの主体性や自発性を尊重しながら援助したり、温かく見守ったりする。 ・保育者の身体的な関わりを伴う養護的な場面に、子どもが経験している教育的な側面を併せ、養護と教育が一体となって豊かな人間性を持った子どもの育成を目指す。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる保育士との関わりの中で、食事、排泄等の活動を通して自分でしようとする気持ちが芽生えるようにする。 ・保育者の話かけや発語が促されることにより言葉を使うことを楽しめるようにする。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ・一人ひとりの子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ・友だちと一緒に食事をしたり、様々な食べ物を食べる楽しさを味わったりする。 ・身近な人と関わり、友だちと遊ぶことを楽しめるようにする。 ・生活に必要な言葉が分かり、したいこと、して欲しいことを言葉で表現できるようにする。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で出来ることに喜びを持ちながら、健康、安全など生活に必要な基本的習慣を次第に身に付けられるようにする。 ・幼児クラスへの憧れや期待感を持って過ごすことができるようにする。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちとのつながりを広げ、集団で活動することを楽しめるような雰囲気を作る。 ・ 進んで異年齢の子ども達と関わり、生活や遊びなどで役割を分担する楽しさを味わえるようにする。 ・ 感じたことや思ったこと、想像したことなどを、様々な方法で工夫して自由に表現できるような環境を整える。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・ 2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	命をいただく活動の実施
	実践予定内容	魚の解体を経験し、命の不思議さや、命を頂くことに対して考えたり触れたりする機会を設ける。
2	計画・ねらい	体験を通して食べる意欲へと繋げる
	実践予定内容	畑での栽培活動に、子どもはもちろん全スタッフが関わるようにする。野菜の皮むきやお米とぎなど、給食を作る過程に触れ、体験する。子どもの体験する内容を調理、保育スタッフ間で話し合い共有をしながら計画していくようにする。
3	計画・ねらい	一つの食材から様々なものができることを知る。
	実践予定内容	大豆や小麦粉など調理、加工法で様々なものが作られることを学ぶ。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（4月・10月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）

園児への保健指導・取組等	歯磨き指導・手洗い指導・薄着のススメ・性教育
流行が予測される感染症	<p>通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 5月～9月 手足口病・ヘルパンギーナ 6月～9月 アデノウイルス・咽頭結膜熱（プール熱）伝染性膿痂疹（とびひ） 10月～1月 マイコプラズマ肺炎 10月～2月 RSウイルス感染症 11月～6月 溶連菌感染症 11月～4月 感染性胃腸炎（ノロウイルス・ロタウイルスなど） 12月～4月 流行性耳下腺炎（おたふくかぜ） 12月～5月 インフルエンザ 12月～7月 水痘（水ぼうそう）</p>
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアアップ・・・現在預かり無し（必要な時には預かり、園で保管）
エピペン使用できるスタッフ	本日現在19名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前

	検便・細菌検査	毎月1回/5日/全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月
	身長体重測定	毎月1回/20日
	児童健康診断	内科健診 年2回/5・10月 歯科健診 年1回/6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	養護と教育が一体となった保育を目指し園内の環境を整える
	実践予定内容	個々の発達に合わせ、愛情豊かに応答的な関わりを大切にしながら、常に環境の見直し、改善を行う。
2	計画・ねらい	子どもたちが遊びこめる環境を整える
	実践予定内容	子どもたちの主体性を第一に考え、一人ひとりがじっくりと遊びこむことができる場が保障されているかスタッフ間で連携を取りながら環境の見直し、改善を行う。
3	計画・ねらい	子どもと共に考える
	実践予定内容	話し合いの場に子どもを交え、共により良い環境を考えていくようにする。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	どろんこ遊び場	園庭	毎月
2	平均台	園庭	毎月

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	危機管理マニュアルに則り、災害発生時には対応フローチャートに従う。防災計画に基づき、避難訓練を行う。
2	実践予定内容	危機管理マニュアルに則り、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。

		事故防止委員会にてケガや事故の共有、検証、再発防止策を共有する。
3	実践予定内容	危機管理マニュアルに則り、不審者侵入時にはフローチャートに従う。防災計画に基づき、不審者侵入訓練を行う。
4	実践予定内容	危機管理マニュアルに則り、光化学スモッグフローチャートに従う。また、行政の連絡に従って対応する。
5	実践予定内容	環境省の熱中症予防情報サイトを随時確認し、子どもの活動が危険な時には屋外活動を避けるようにする。
6	実践予定内容	海岸付近で活動していた際の大津波警報発令時避難訓練を随時行う。

6. 実習生・中高生の受入

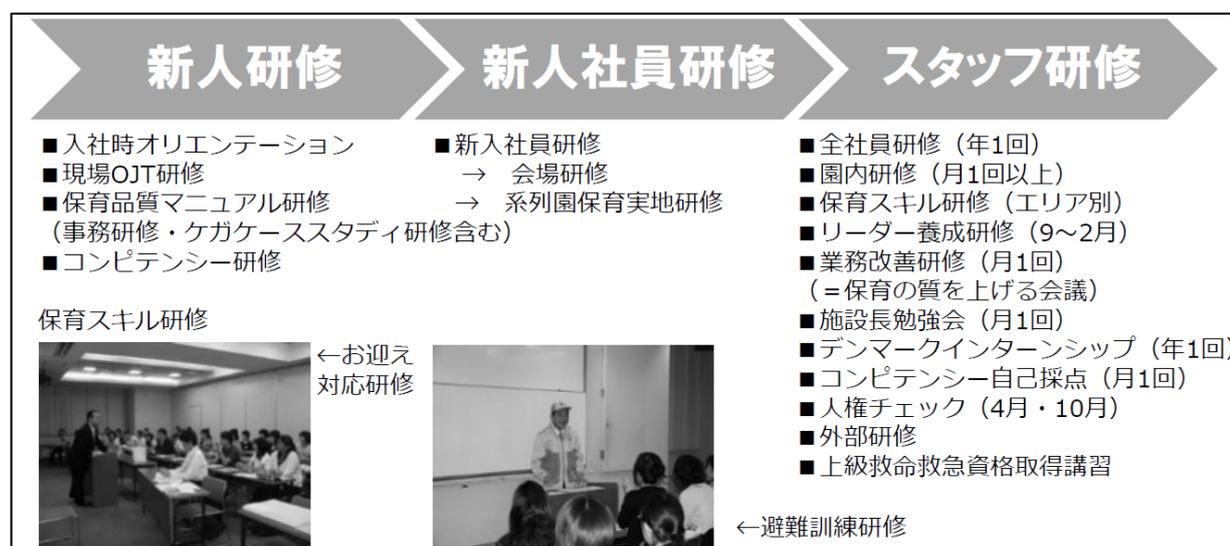
〈1〉今年度方針・テーマ

次世代の保育者を育てるため、また、実習生を受け入れることにより保育士自身が自らの保育を振り返り、指導する力を身に付ける良い機会となるので、積極的に受け入れていく。保育士という仕事の素晴らしさとともに、子どもの命をお預かりしているということを伝え次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成していく。

受け入れる際には、全スタッフで暖かく迎え入れることができるようにし、不安なく過ごしてもらえようにする。

1	実践予定内容	保育士志望の実習生の受け入れ
2	実践予定内容	地域中学校と連携を取り、職業体験の受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画



〈1〉 2024年度 園内研修計画
 (毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ケガ・ケーススタディ研修	コンピテンシー自己採点、自己課題 子どものケガに対する知識、応用、 人権・虐待防止に関わる研修
5月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 接遇について	コンピテンシー自己採点、自己課題 接遇についての理解を深め自身の課 題を見つけ目標設定をする
6月28日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 内部監査・マニュアルに ついて	コンピテンシー自己採点、自己課題 内部監査・マニュアルを理解し保育 に活かしていく
7月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 内部監査・マニュアルに ついて	コンピテンシー自己採点、自己課題 内部監査・マニュアルを理解し保育 に活かしていく
8月23日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 上期振り返り	コンピテンシー自己採点、自己課題 園目標事業計画の振り返り
9月27日	18:00~20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 利用者アンケート振り返り	コンピテンシー自己採点、自己課題 利用者アンケートの結果を受け、課 題への取組み、実践
10月25日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 内部監査・マニュアルに ついて	コンピテンシー自己採点、自己課題 内部監査・マニュアルを理解し保育 に活かしていく
11月22日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 内部監査・マニュアルに ついて	コンピテンシー自己採点、自己課題 内部監査・マニュアルを理解し保育 に活かしていく
12月27日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 内部監査・マニュアル について	コンピテンシー自己採点、自己課題 内部監査・マニュアルを理解し保育 に活かしていく
1月31日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 下期振り返り	コンピテンシー自己採点、自己課題 園目標事業計画の振り返り
2月	18:00~21:00	策定会議	来年度に向けてチーム作りの基盤を 作る
3月	18:00~20:00	キックオフ	来年度へ向けてチーム作りの基盤を 作り4月を迎えられるようにする

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に開かれた保育園を目指す。保育士からの日常の挨拶はもちろんのこと、近隣公園での保護者との関わりや他保育園とのコミュニケーションなど丁寧にかつ、積極的に関わる姿勢を持つ。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：中央公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者との交流

	地域小中高校生との交流
異年齢交流	近隣保育園との交流 小学校との連携
地域拠点活動	子育て支援事業「ちきんえっく」
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

以下計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。小学校との交流、見学、参加を通じて子どもたちの就学がスムーズな連携の中進められるようにする。また小学校1年生の授業を見学できるよう近隣小学校と計画を立て、1年生を知ることで逆算した保育を遂行することができるようにしていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を3月19日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	梅田小学校	13名予定	運動会見学	子ども間交流
5月頃	円蔵小学校	1名予定	授業参観	職員間交流
8月頃	茅ヶ崎小学校	2名予定	園見学（メリー★ポ ピンズ ラスカ茅ヶ崎 ルーム）	職員間交流
2月頃	茅ヶ崎小学校	13名	学校見学	子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

個々の保育計画を立て、見直しを持って保育にあたる。日々変化していく子どもたちの様子を観察、記録し、全スタッフで共有し保護者とも共有しながら、どのスタッフでも保育ができるような体制づくりを行う。

〈2〉 毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：全正規スタッフ予定)

支援の必要な子どもの様子、課題から支援の方向性の共有を行う。子どもの特性を生かすことができるよう支援の経過伝え、連携をしていく。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

5歳児の児童要録を作成し、小学校との連携、引継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	月2回 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月1回 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：中央公園にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉 園による自己評価の実施

2024年8月31日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：13時00分

自己評価終了予定時刻：15時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任、リーダー、調理、事務

〈3〉 利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	子どもの興味関心を観察し意見を聞きながら保育計画を立てる。 子どもたちが主体的にやってみたい気持ちになるよう環境を整備する。 子ども同士が異年齢を含むグループで話し合い、ぶつかり合いながら役割を分担し、物や活動、遊びを創り上げる。
	振り返り	保育計画や行事など、子ども主体で進めることができた。子どもたちの意見を聞く場を様々な形で整えることでどの子ども意見を言いやすい環境を用意した。子どもたちの興味を実践できるよう子どもの発達についてスタッフ間で話し合い、学び合うように心がけた。 引き続き異年齢での関わりが更に深まるような環境を整えていきたい。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

24年度	目指す姿	あたりまえの異年齢保育の実践
	重点施策	ワンルームという施設を活かし、子どもたちが自然に当たり前異年齢での交流を育み、関わり合う中で思いやりや心地よさ、遊びへの取組みが実施されるよう、スタッフも担任の枠を超え、園全体の子どもたちを見守り、援助していく。どの子がどこで過ごしても良いように園内の環境を見直し、整えていくようにする。
25年度	目指す姿	やってみようを見つけよう
	重点施策	子どもたちが自分たちの思いを言葉で表現し、相手の思いに触れる体験を繰り返し行える場を保障する。その中で、日々の活動や行事を子どもたちが“やってみよう”と主体となり実践していけるようにする。保育園が子どもたちによる、子どもたちのための生活を送ることのできる場であるように話し合いの場に子どもたちを交え、一人一人が“やってみよう”と思えることに向かっていくことができるようにしていく。
26年度	目指す姿	メリー★ポピンズ ラスカ茅ヶ崎ルームならではの保育実践の公開
	重点施策	日々の保育の記録を振り返り、保育の質の向上を目指す。自園の様子や取り組みを保護者様、地域へと公開し、目指す子育てを広め、知ってもらうことで、選ばれる園を目指す。

以上

2024年度 つくばどろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

つくば市は令和5年の人口増加率が初の全国1位となっており、住みやすさから選ばれる街として、多くの子育て世帯が転入してきている。

教育プランでは「教育日本一のまち」を謳っており、ICT教育も充実している。

その一方で、雄大で豊かな自然を有しており、農業算出額は全国で3位と街の多様性が際立つ。

つくばどろんこ保育園では、この豊かな風土と教育環境の充実という、将来を担う子どもたちの子育てには恵まれた特性を生かし、様々な体験から得られる「生活力の体得」に力点を置く。

保育所保育指針と社会福祉法人どろんこ会の保育理念、保育方針に則り、つくばどろんこ保育園の園目標である「チーム保育で支えよう！子どものやる気と根気」を全スタッフ合言葉として、下記の内容を本園の保育方針として園運営を展開する。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	計画：子どもの基本的人権を尊重し、その環境を保証する。 ねらい：子どもが愛され、認められ、自己発揮できる環境の中で、子どもの自尊感情を大事に育てる。
	実践予定内容	コンピテンシーの実践と振り返りシートの活用/品質マニュアルの順守/虐待等に係る園内研修
2	計画・ねらい	計画：自分の命を守ること、また助け合いや折り合いをつけるなど、社会や人のためにしなければいけないことを理解し、体験の中で学ぶ。 ねらい：社会生活をするために必要な生活力を身に付ける。
	実践予定内容	異年齢保育・座禅・雑巾かけ・さくらさくらんぼリズム体操・散歩9時出発・山羊と鶏の世話・畑仕事・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・青空保育などの実践/Trial&Errorの場の構築/健常児と障害児が共に過ごし学ぶ場の構築/生活力体得に向けての話し合いや園内研修の実施
3	計画・ねらい	計画：全スタッフが「幼児の終わりまでに育ててほしい10の姿」を認識し、日課活動や活動体験に組み込むことで、子どもの持つ能力や資質を大事に育てる。特に協同性・社会性・規範意識の育ちに配慮する。 ねらい：養護と教育の一体的な保育を実践し、バランスのとれた心身の発達を促す。
	実践予定内容	活動/異年齢保育・日課活動・協同的活動・社会的活動・創造的活動・行事などの実践 計画/保育計画・個別計画・5歳児と小学校の年間連携計画・自園の5歳の10～3月の保育計画などの作成と振り返り
4	計画・ねらい	計画：子ども自らが玩具・遊具・教材などを選び取れるように、環境を設定する。 ねらい：スタッフが子どもに扱い方や楽しみ方を教え、背中をみせながら様々な豊富な経験をさせる中で、生活力の獲得に繋げる。
	実践予定内容	道具（針・糸・ナイフ・工具など）・遊び（あやとり・こま・まりつきな

		ど)・歌などの指導/火などの危険物との距離の取り方や扱い方の指導
5	計画・ねらい	計画：伝達事項や事故や怪我の共有、また改善事項の周知を全スタッフ間で徹底する。 ねらい：今日一日の必要な情報を共有することで、保育に活用し家庭への対応に繋げる。問題を自分事として捉え、全スタッフで解決する姿勢を持つ。
	実践予定内容	朝礼・昼礼・園会議・クラス会議・リーダー会議を活用し早期に周知共有/ 園用のチャットアプリ・シッターノート・お迎え伝達シート・クラス間共有ノートの活用

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	計画：スタッフの誰もが「園の顔」であることを認識し、利用者には明るく笑顔での挨拶を心掛け、その日の心に残った場面をリアルタイムに丁寧に伝える。 ねらい：自分がされて嬉しい対応を実践することで保護者と気持ちを通じ合わせ、信頼関係を築く。
	実践予定内容	朝夕の送迎時の挨拶の実践/3分間対応の適切な言葉や内容選び/一日の子どもの様子が手にとって伝わるような丁寧な話し方/園会議において「接遇・保護者対応」の園内研修の開催
2	計画・ねらい	計画：生活や遊びの子どものあるままの姿から読み取れる日々の成長などを、保育者の視点からお伝えし、家庭と連携しながら保育を進める。 ねらい：各々の家庭の状況を鑑み、先の見通しを持った保育視点を今後の保育とご家庭の子育てに役立て、園に安心してお預けいただく。
	実践予定内容	3分間対応や連絡帳の活用/タイムラインの配信/保育参加/保護者懇談会/ 保護者個人面談/エピソード記録の玄関掲示/生活発表会での子どもの育ちの スライドショーの開催/行事等の開催
3	計画・ねらい	計画：一時保育のお子様の受け入れでは、低年齢児であることを踏まえ、家庭での情報を詳細にお聞きし、家庭と継続した保育を提供する。 ねらい：お子様を安全に、また丁寧な保育対応することで、園への信頼を深める。
	実践予定内容	送迎時の気持ちの良い挨拶/子どもの様子を丁寧に伝える言葉選びや内容 選び
4	計画・ねらい	計画：保護者からのご意見ご要望には謙虚な気持ちを持って受け止め、今後出来ることには、相手の気持ちを尊重して改善や実現に努める。 ねらい：保護者の生の声を感謝の気持ちを持って耳を傾けることで、開かれたより良い保育園を目指す。
	実践予定内容	保護者面談/利用者アンケートの実施/ご意見ご提案シートの設置/連絡帳の 活用などを利用して全スタッフに共有周知

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	計画：子育て支援「ちきんえっぐ」の拠点として、「子どもは地域の中で育つ」ことを念頭に、地域交流の場としての役割を果たす。 ねらい：居心地の良い環境と気持ちの良い対応を心掛け、地域の親子の心の拠り所になることで、地域社会に貢献する。
	実践予定内容	「ちきんえっぐ」のイベントの開催/青空保育での保育実践/子育て相談・園庭開放の実施
2	計画・ねらい	計画：就学までの子ども一人ひとりの育ちに向けて、近隣小学校との連携と交流を重ね、その保育実践をもって小学校へと繋げる。 ねらい：「就学までに育てたい子どもの10の姿」を目指して、取り組んできた保育内容と子どもの育ちを保証し、責任を持って小学校へ送り出す。
	実践予定内容	5歳と小学校との連携計画作成/3～5歳のアプローチカリキュラムの作成/児童要録の作成と提出/子ども間・職員間の学びの交流
3	計画・ねらい	計画：中学生・大学生の職業体験や保育参加や実習生の受け入れを通し、若い世代の育成を後押しする。また、老人施設との交流を通して、お年寄りへの親近感を抱く。 ねらい：地域社会の貢献と同時に、子どもたちが地域の様々な年齢層と交流し、地域社会との繋がりを意識して生活できるようになる。
	実践予定内容	中学校・大学からの保育参加やボランティアの受け入れ/実習生の受け入れ/老人施設との交流実施

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	計画：各々のスタッフは自身のスキルの高みを目指すために、必要な研修の参加に前向きに行動する。 ねらい：保育者としての資質を高めるために、努力する姿勢を園が後押しする体制を作ることで、全スタッフが学びに意欲的になる。
	実践予定内容	園長大学®・保育士大学の月1回以上の受講/園内外への研修参加 /研修実践報告
2	計画・ねらい	計画：スタッフ一人ひとりが組織MBOと個人MBOの作成に向けて、自身の役割を踏まえながら、努力を重ねて実践していく。 ねらい：毎年のMBOで掲げた事柄を達成してきたことが、園の質を引き上げていることに自信を持ち、今年度の目標達成を目指して全スタッフが取り組む。
	実践予定内容	MBOの理解と作成の仕方/年1回のMBO作成/MBOの実現に向けた年3回の振り返り面談
3	計画・ねらい	計画：スタッフが自らの保育の弱みを強みに変えるべく、「自らの保育実践」を計画し、行動実践したことを互いに発表し合う。 ねらい：計画だけに留まらず、自ら行動することを目的とし、保育者としてのスキルアップを確実なものとして、自信に繋げる。
	実践予定内容	6月に「自らの保育実践計画」立案と共有/7月から4回に渡り園内研修にて3名程度発表（一人10～15分程度）/地域発信

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	計画：田畑を耕し、米や野菜の収穫からクッキング体験に繋げる。また飼育している鶏は絞めて食する体験を行う。 ねらい：食の循環があって始めて、私たちは豊かな生活が送れることを理解し、食への感謝の気持ちを持つ。
	実践予定内容	鶏を食す体験・畑仕事（種蒔き・育てる・間引き・収穫）・食材加工（梅干し・梅ジュース・たくあん・干し柿・味噌・納豆作り）・卵拾い・山羊と鶏の世話と糞の始末
2	計画・ねらい	計画：食材の循環サイクルの実践を通して、生活の知恵を園の生活の中で最大限に生かす。 ねらい：給食の野菜くずや山羊・鶏の糞を堆肥として、子どもとスタッフが食の循環の知識を得て、生活に活用する。
	実践予定内容	食調理の野菜くずを山羊の餌に活用/給食の廃棄物や山羊・鶏の糞を活用して堆肥にして畑の肥料として活用
3	計画・ねらい	計画：給食残渣を減らし、誰もが出された食事や食べ物を大切にする。 ねらい：子どもの頃から、廃棄にかかる環境への負担を少なくして、食べ物を粗末にしない意識を育てる。
	実践予定内容	給食残渣の計量/食材の有効利用と廃棄部分の減量の工夫/子どもの偏食や食べ残しへの働きかけ

〈6〉チーム保育の充実

1	計画・ねらい	計画：子どもの生活力の体得に向けて、園目標である「チームで支えよう！やる気と根気」を合言葉に、人的・物的環境の両面から保育内容について協議を深め、チーム保育を進める。 ねらい：生活力の体得のための手立てとして、子どものやろうとする意欲や根気強く物事をやり遂げようとする姿を大事にして、保育を提案し自らも背中を見せていく。
	実践予定内容	園会議・ゾーン会議・クラスリーダー会議・クラス会議の活用/エピソード記録やドキュメンテーション記録の作成・記録や動画を用いての園内研修/園長大学®・保育士大学の動画活用
2	計画・ねらい	計画：ゾーン保育にあたり、毎月各クラスから1名ずつ参加しチームを組む。異年齢の関わり・季節感・行事などを盛り込み、保育内容の偏りに配慮して次月の計画を立てる。実施月には全スタッフが保育のねらいを目標とし、協力して保育を進める。 ねらい：子どもへの保育者の援助や関わりの仕方、環境構成について探りながら、チームが責任を持ってリードする。ゾーン計画を保育計画と連動させる。
	実践予定内容	ゾーン担当者と各チームのゾーン会議（月2回）の開催/次月の企画と発表とスタッフ共有・振り返り/保育計画との連動によるPDCA サイクルの活用
3	計画・ねらい	計画：全スタッフが各々の役割に責任を持ち、より良い園環境や保育体制

		に向けて、自らの考えや課題を提案する。 ねらい：自園が働きやすい環境や体制となるために全スタッフが協力・行動するチームとなる。
	実践予定内容	係活動・行事担当・清掃担当の役割遂行/ゾーン会議やクラス会議等で課題提案と改善の実践

〈7〉地域の文化継承

1	計画・ねらい	計画：つくばの地の生活文化や食の営みを保育体験として活動に取り込み、子どもと若手スタッフが共に学ぶ。 ねらい：つくばの地で生まれ受け継がれてきた生活文化や食文化を理解し、その多くの知恵を学びから受け取って、大事に継承する。
	実践予定内容	伝統行事「しめ縄づくり」「お正月飾り」「ならせ餅」「どんど焼き」/稲わらを利用した制作「稲わら半紙づくり」「稲わらホウキ」/加工食品づくり「味噌」「納豆」「たくあん」「干し芋」「干し柿」

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
15人	15人	15人	15人	15人	15人	90人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	16人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	1人	補助	0人	調理	0人	事務	1人
	用務	2人	嘱託医	2人				

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	園運営の目標に向けた課題や共有事項の協議/ 保育場面ごとの記録や話し合いに基づいた保育内容の実践 と子どもへの目線合わせ/チーム保育の進め方/園内研修
給食運営会議	月1回	喫食状況と嗜好の確認/食事環境や配膳方法の共有と改善/ 食育や畑活動報告
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故ケーススタディと改善策/ ヒヤリハットの共有と対策
ケース会議	月1回	要支援児個別計画策定と振り返り/要支援児計画の見直し
クラス会議	月1~2回	クラス運営の共有と検討
リーダー会議	月1回	各クラスリーダーによるクラス報告と保育内容の検討/園 運営に向けての提言と協議
ゾーン会議	月2回	ゾーン担当者とゾーン企画者による保育内容の企画立案と 実践振り返り

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	・月例確認事項/コンピテンシー ・各部署からの連絡伝達 ・部別課題協議
施設長勉強会	月1回	・部課別運営方針の共有/リスクとハザード ・日課活動の実践とアシスト ・労働時間管理 ・SWOT分析と園運営
食育会議	年4回	・食育計画策定と実践報告 ・給食運営並びに献立内容の改善と提案 ・給食時環境の検証 ・給食残渣などのSDGsに向けた取り組み
保健会議	年4回	・保育計画策定と実践報告 ・感染症対策と実践報告 ・生活習慣付けや怪我事故の対処法

主任会議	年12回	・日課活動の実践とアシスト ・役割に合わせたアクションプランの取り組み、共有、発表
子育ての質を上げる会議	月1回	・保育実践の話し合いと共有 ・日課活動へのアプローチ

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防処置/保育所の衛生全般の管理
安全防災対策係	全職員の安全に対する意識を高め、遊具点検・設備点検・備蓄品点検・安全防災点検や対策の取り組み/避難訓練の実施/ハザードマップ作り
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成と防火管理上必要な業務を計画的に実施
食品衛生責任者	食品の扱いに関する業務/厨房衛生環境全般 食育会議の計画や実践
田畑食育係	田畑の環境整備/作物の管理/食育活動との連携
生き物係	飼育動物の健康管理/環境改善/餌管理
環境整備・絵本係	園内や園庭遊具の整備や安全点検/園内掲示物の点検/絵本の修理や整頓
地域支援係	他園交流/小中学校との交流/実習生の受け入れ対応/一時預かり児の受入対応
ゾーン保育係	保育活動内容の企画・実践/保育内容に合わせた室内及び園庭の遊具・玩具設置と見直し
研修係	年間の園内研修の企画実践全般
倉庫・備品係	倉庫内点検管理/保育教材備品補充全般

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	・保護者の主体性を尊重し、どろんこ祭りの企画、準備、活動を共に実施
子育て支援係	・子育てに関わる相談業務、子育て支援、「ちきんえっぐ」の活動の実行
地域支援交流係	・地域の老人施設との文化交流、支援 ・地域小学校との授業・保育参観での子ども間、職員間交流 ・中学校の職場体験、実習生の受け入れ

4. 保育方針

〈1〉 基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・保健的な環境や応答的な関わりを大切にしながら、安心して過ごせるようにする。 ・一人ひとりの子どもの自主性や意欲を尊重し、子どもの健やかな育ちを保证する ・人との関わりの中で人への愛情や信頼感、生きる喜びを育てる。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な言葉がわかり、身の回りの事を自分でしようとする ・簡単な言葉で気持ちを表現し、友だちや保育者と関わる ・様々な体験を通して、豊かな感性や創造性の芽生えを育てる ・様々な運動遊びを通して生活に必要な動きを身につける ・生活に必要な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を育てる ・友だちや保育者と一緒に食べたいものを食べただけ食べ、食の楽しさを感じる
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の見守りの下、自然遊びや生活体験遊びを通し、自らやりたいことを選び取り、友だちと話し合いや調整をして遊ぶ ・社会の決まりを守ることや、みんなのために働くことの大切さを理解する ・リズム体操、表現遊び、歌遊びなどで自分を発揮し表現する意欲や協調性、社会性を育てる ・素話や絵本、紙芝居などの読み聞かせを通して、聞く力や想像力を伸ばす ・動植物を飼育栽培し、体験を通じて自然物や小動物の命を大切にすることを養う ・畑活動を通して、自ら育てた作物を調理加工などで味わう ・食物の成り立ちを理解することで感謝し、食べ物を粗末にしない気持ちを育てる
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・自信を持って自分らしく自己を表現する ・目的を持って友だちと思いや考えを出し、協同的に遊びをさせ、持続して遊びを楽しむ ・社会の中の一員としての意識が芽生え、友だちと折り合いをつけながら、決まりを作ったり守ったりする ・嫌なことも皆で分担することの大切さに気づき、自ら行おうとする ・生活をする上で必要な道具の使い方や火の関わり方などを身につける ・自分のイメージしたものを、色々な方法で表現する ・自然界の営みの中で発見や不思議さを体験し、豊かな感性を育てる ・畑活動、「命をいただく」などの食育体験活動を通して、食の循環や

		生活の営み、また環境への興味、関心を抱く ・異年齢で触れ合う中で、互いに刺激を受けながら自分たちで課題解決し相手の思いに気付くことができる
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・ 連絡帳、口頭でのご意見について、苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・ 2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

食育の5つの子どもの姿「お腹のすくりズムを持てる子ども」「食事を味わって食べる子ども」「一緒に食べたい人がいる子ども」「食事づくりや準備に関わる子ども」「食べ物を話題にする子ども」を目標に、食で得られる子どもの心と体の育ちを支える。またさらにどろんこ会の3大食育方針(1)調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる(2)噛む力を育て素材の味を味わう(3)子どもが自分たちで盛付・配膳して食べることを念頭に置き、食育を推進する。

1	計画・ねらい	計画：生活に必要な労働や日課活動、また戸外遊びを十分にいき、お腹がすいた感覚を感じながら良く噛み素材を味わい、食べたいものを食べたいだけ食べてその美味しさを感じる。 ねらい：活動後の食事の美味しさやお腹のすくりズムを体で感じ、意欲的に食べる。
	実践予定内容	9時出発の戸外活動/長距離散歩/日課活動/田畑の手入れ/乳児の口腔発達に合わせた離乳食の提供/低年齢児の手づかみ食べ/幼児の食材の噛みちぎりを推進
2	計画・ねらい	計画：年上児が配膳や盛り付けを行い、異年齢が助け合って食事環境を整え、好きな人と好きな場所で会話を楽しみながら食事をする。 ねらい：年上児が年下児のお世話をしながら自ら食環境を整えられる自立心を育て、好きな人と食事をする楽しさを実感する。
	実践予定内容	異年齢による縁側給食の実施/子どもによる配膳や盛り付けの実施/全スタッフが関わっての食卓を囲む環境作り/食後の清掃の手伝い
3	計画・ねらい	計画：田畑活動や「鶏を絞めて食す」活動を通して、自ら育てた作物や米や飼育している鶏を調理し、食の循環を学ぶ。 ねらい：人々の暮らしには、食べ物を粗末にせず食の循環を利用した工夫や環境を活かした知恵があることを理解し、自然の恵みに感謝する。
	実践予定内容	田畑活動の実践/鶏を絞めて食す活動実践/山羊・鶏の世話/山羊・鶏の糞の

		始末/野菜くずや糞による堆肥作り/食育活動の実施/食環境の教育/SDGsの教育
4	計画・ねらい	計画：地域の特産や加工品を学び、実際の体験活動を通して、子どもたちに継承する。 ねらい：食文化に触れて、生まれ育った地域への郷土愛を育む。
	実践予定内容	味噌作り/納豆作り/たくあん作り/梅干し作り/干し芋作り/干し柿づくり

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	うがい・手洗い励行/手洗いチェッカーによる手洗い指導/薄着の励行/身体測定/体温計測/歯みがき指導/生存確認チェック/温湿度管理/性教育（5才児）
流行が予測される感染症	感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 12月頃・・・流行性胃腸炎 1月頃・・・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・5名より預かり済み/冷蔵庫にて保管 レポセチリジン塩酸塩・・・1名より預かり済み/職員室にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在20名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については2024年3月までに受講予定
その他保健に関する取組	行政からのお知らせ掲示/予防接種の推奨/保健だよりの配信 ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回/4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回/6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回/15日

	不審者侵入訓練	年2回/6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回/5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回/4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回/4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿/毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回/5日/全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月
	身長体重測定	毎月1回/20日
	児童健康診断	内科健診 年2回/6・11月 歯科健診 年2回/6・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	計画：園舎内や園庭では、子どもたちがやりたい遊びを自ら選択し、継続して遊びを展開できる環境を子どもと共に作る。 ねらい：子どもたちでやりたいことを話し合い、形にできる。
	実践予定内容	安全で年齢発達に相応しい玩具と玩具棚の設置/針や糸・ナイフ・工具など使用方法を学ぶための道具の設置/自ら選び取り出し片付けができる配置/分量でない調整が必要な量の道具/話し合いの場と時間の確保
2	計画・ねらい	計画：感染症の予防の環境を整える。 ねらい：園内のスタッフ間や子ども達への感染を防ぎ、安心して過ごせる園の環境を整える。
	実践予定内容	朝の健康チェック・検温記録/うがい・手洗い/必要時の手指消毒・マスク着用/室内換気
3	計画・ねらい	計画：子ども・保護者・来客者の目線に立って園舎内外の清掃・整理整頓と管理を行う。

		ねらい：常に清掃が行き届いていることを心掛け、誰にも気持ちの良い環境を保持する。
	実践予定内容	清掃チェック表に基づいた清掃実践/園舎内外の草木の管理/田畑の管理
4	計画・ねらい	計画：園庭や園庭建造物の危険物や危険箇所の有無を確認、点検する ねらい：子どもたちを危険から守り、安全に遊ぶ場所を確保する
	実践予定内容	早番による毎日の園庭や手作り遊具の見回り点検/毎月25日の園庭遊具点検/年4回の事故点検と設備点検チェック/園内ハザードマップの作成
5	計画・ねらい	計画：保育室の遊具類の点検と衛生環境の保持をする ねらい：子どもの生活周りの安全と衛生面のチェックを小まめに行い、健やかな育ちを支える
	実践予定内容	毎日の保育室や遊具類の清掃と消毒の実施/危険有無の確認/衛生備品の補充/最適な室温温度の管理/生存確認のチェック/帽子や歯ブラシの衛生的な管理/年3回の布団乾燥

〈7〉 手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	丸太の平均台	園庭	毎日
2	乳児用平均台	園庭	毎日
3	三角アスレチック	園庭	毎日
4	幼児用平均台	園庭	毎日
5	四角基地	園庭	毎日
6	園庭遊具片付台	園庭	毎日
7	堆肥場	畑	毎日
8	一人用テーブル（2台）/つい立て	幼児室	毎日
9	子ども用ロッカー（2つ）	幼児と2歳児保育室	毎日
10	大型テーブル（2台）	2歳児保育室	毎日
11	飾り台（6台）	玄関、2歳児保育室	毎日
12	ハイハイスロープ	0.1歳児保育室	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・非常災害時の対策として、毎月消防計画に基づいた避難訓練や消火訓練を実施する。 ・防災設備(自動火災探知機、煙感知器、誘導灯、排煙窓)を設置する。 ・保護者向けアプリより、災害時の緊急連絡にて子どもの安否、園舎の状況、避難先の情報のおたよりを配信する。 ・備蓄品点検(年2回)や子ども引渡し訓練(年1回)を実施する。
2	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の不審者侵入訓練の実施をする。 ・警察官による訓練時の防犯講和/警察官による巡回を依頼する。 ・門扉や畑の入り口を施錠し、外部侵入者の立ち入りを防ぐ ・保護者登録情報による送迎時の保護者確認を行う。 ・市役所からの不審者情報を共有する。
3	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の影響が心配される場合、つくば市役所から「光化学スモッグ警報」が発令される。「光化学スモッグ注意報」が発令の場合には、それに従い発令中の外出や運動の自粛などの対策をとる
4	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症予防情報の自動メールつくば(茨城)を活用して1時間ごとの暑さ指数の情報を得て、戸外活動の目安とする
5	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園外の散歩先のハザードマップを作成し道中と散歩先での危険箇所を共有周知する。また年4回の見直し更新をすることによって最新の危険情報を共有し、危険防止に努める。 ・園内の新たな危険箇所を把握し、年4回の更新を通して職員間の共有に努める ・園外保育では出発前にハザードマップを確認し、出発時帰園時と現地、道中の要所で、職員がダブルチェックで子どもの人数確認を行う。また現地到着時に危険物がないかを確認し、事故防止に努める。 ・バスの乗降では前後や乗降口に職員を配置し、危険を回避する。
6	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の気持ちに立ち、どんな怪我でも保護者に状況を伝え漏らさず誠意を持って謝罪対応する。全職員に周知し、翌日の登園時には保護者と子どもに声をかけ、その後の状況を把握する
7	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・プール遊びについては職員2名体制をとる。事前に職員間で水遊びによる事故の共有をし、事故が起きた場合の対応もロールプレイを実施しておく。 ・救急救命の講習を受け資格を有しているため、救命の仕方やAEDの使用方法などを確認し行動できるようにしておく

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

地域への社会的役割を持った保育園として、中高大学生に保育の現場での実践体験の場を提供し、子どもへの興味・関心を持った次世代の人材育成のために貢献する。実際に子どもと関わることで、乳幼児期の子どもの可愛さに触れてその理解を深め、社会問題となっている虐待が少しでも減少することを目指す。

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>← お迎え 対応研修</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>← 避難訓練研修</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (= 保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習

1	実践予定内容	関連校と連携を取りながら保育士、看護師、栄養士志望の実習生を受け入れる
2	実践予定内容	地域の中高生のための職場体験やボランティア活動を受け入れ、乳幼児との関わり方を体験する場を提供する

7. スタッフ育成と研修計画

スタッフは「全スタッフで子どもを育てる」ことを念頭に、チーム力を発揮する。

今年度は特に、生活や遊びの中で、「協同性」「社会性」「規範意識」などを育くむことを重視し、そのプロセスをしっかりと見つめる。様々な会議等で意見を出し合い、アイデアと創意工夫をもって「乳幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の育ちに向けて、6年間の継続した保育を計画的に進める。

また、「生活力の体得とは？」を考える場や機会を多く設け、子どもの主体性だけに頼らず、大人がやって見せる場面の必要性を考えながら、多くの経験を積めるように選び取れる用具類の設置などの人的・物的環境を充実させていく。環境についてはPDCAサイクルを話し合いの場に活用する。

今年度の園内研修としては、スタッフ一人ひとりが「保育者としての強みと弱み」に向き合い、自身を振り返る機会を設ける。弱みを強みに繋げるための手立てを考え、まずは行動してみることを目標に、その実践報告をスタッフの前で発表することを年間の園内研修のテーマとする。

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題

4月16日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェックと虐待防止 ③ マニュアルの理解と運用 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシーを活用し仕事の向き合い方を自身で振り返る手立てとする（年間継続） ・子どもの人権を最大限に尊重する姿勢とマニュアルに則った保育の重要性を全スタッフで共有する。
5月21日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 生活力の体得に向けて ③ 保育の人的・物的環境を考える ④ マニュアルの理解と運用 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活力とは何かを考え、体得のための手立てを話し合う。 ・保育にとっての人的・物的の環境の重要性と設定を纏める。
6月18日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 気持ちの良い接遇と保護者対応（園長大学の動画視聴含む） ③ 「自らの保育実践」の計画と時期の立案と共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面設定ごとに最高の接遇を相手の立場に立って考え、共有する。 ・保育での自らの弱みを強みに変えるために、その行動実践の計画を立てて共有する。
7月16日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 保育の場面で光る「チームの力」 ③ 「自らの保育実践」の発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩・表現遊び・食事など多様な保育場面の中でのスタッフ間の言葉掛けや気遣いや、効率的な動線に配慮したスタッフ間の動きを考える。 ・保育における自らの「強みと弱み」見つめ、行動実践したことを発表する（年4回実施/一人1回発表）
8月20日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② ゾーン保育の中での「保育者の援助・関わり」の検証 ③ 「自らの保育実践」の発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゾーン保育における保育者の関わりや援助の見極めについて事例を用いて語り合い、より良い援助を目指す。
9月17日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② ゾーン保育の中での「環境構成」の検証 ③ 「自らの保育実践」の発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゾーン保育における環境の検証を行い、年度後半に向けて、子どもの発達や興味に合わせた見直しを行う。
10月15日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② ドキュメンテーション記録から子どもの育ちを捉える（共同性・社会性） 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが作成したドキュメンテーション記録を通して、共同性や社会性の育ちを捉え、今後の保育に活用する。
11月19日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが作成したドキュメンテ

施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士 大学講座および社 内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターンシップ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉「自らの保育行動計画を立て実践したこと」を発表する場の構築

保育における自らの「強みと弱み」に向き合い、自分の中でしっかりと見極める。弱みを強みに変えるためにはどんな手立てをすればよいかを考え、保育行動計画を立てる。計画を全スタッフで共有した上で計画に沿って実践し、その報告を園内研修にて発表し合う。出来た、出来ないに拘わらず、自身を見つめ考えたことを行動に移すことに重点をおき、自分なりの創意・工夫と実践力を養い、自信に繋げることを目的としたい。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

多様化する保育ニーズに合わせ、保育園としての専門的機能を地域のために活用する。小中学校との交流、老人施設交流、地域のシニアとの文化交流、近隣の商店街や官公庁との交流など、交流の仕方を検討した上で今後もさらに地域との連携を深める。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：みはらし公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人施設訪問/運動会/発表会/どろんこ祭り/伝承遊び体験/お正月飾り・しめ縄作り/ならせ餅作り/どんど焼き

異年齢交流	小学校交流/他園交流/中学生職場体験/異年齢クラスとの生活や遊びでの交流
地域拠点活動	ちきんえっぐのイベントの実施/青空保育/子育て相談/園庭開放
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3~5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

小学校と保育園が互いの教育内容や子どもの育ちに対して理解を深め、小1プロブレムなどの問題に対応できるように発達や学びが連続し段差がないことを目的とする。昨年度から連携や交流が復活してきたことから、今年度は、双方の職員間のカリキュラム等の情報交換や子ども・職員間の教育現場への活発な交流を実施することで、相互に子ども理解を深めるようにする。また、5歳児では、6年間の乳幼児期の心と身体の発達の経過を下に、アプローチカリキュラムや児童要録を作成し小学校へ繋げる。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を2月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
2月頃	地域の連携校と連携園	1名予定	幼保小次年度連携・交流研修	職員間交流
4月頃	春日学園義務教育学校 学園の森義務教育学校 研究学園小学校	2名予定	新年度挨拶 幼保小連携年間計画 アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの共有	職員間交流
4月頃	研究学園小学校	2名予定	授業参観(1年生)	職員間交流
5~6月頃	学園の森義務教育学校	17名予定	運動会招待見学	子ども間交流
8月頃	春日学園義務教育学校	7名予定	保育参観	職員間交流
8月頃	学園の森義務教育学校	4名予定	保育参観	職員間交流
11月頃	学園の森義務教育学校	17名予定	校内見学、学園の森祭り参加	子ども間交流
12月頃	春日学園義務教育学校	17名予定	校内見学、春日小祭り参加	子ども間交流
2月頃	学園の森義務教育学校	17名予定	小学校の行事、校内	子ども間交流

			案内	
3月頃	春日学園義務教育学校、 学園の森義務教育学校 研究学園小学校他	各校1名予定	学級編成資料・児童 要録提出、引継ぎ面 談	職員間交流
年間	春日学園義務教育学校 学園の森義務教育学校		毎月の学校通信、園 だよりの交換掲示	職員間交流 保護者支援

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

インクルーシブ環境の中で対象児の育ちを保障しながら個別の保育計画を立案し、全職員で具体的な対応を共有する。保護者との面談を見直し、子どもの成長発達を同じ視点に立って見る。また、関係機関との連携を図り、幅広い情報を得て支援にあたる。発達のに気になる部分を理解し、社会で生きていくための手立てを支援するようにする。

〈2〉 毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：4名予定)

課題と発達について具体的に検証し、発達促進について担当者一人ひとりの目線からの意見を出し合い、次の手立てとする。支援計画に基づいて、実践と検証を繰り返し進めていく。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

現状の育ちと必要な支援や配慮事項を、看護師・担当保育者に引継ぎ、その記録を次年度の個別計画に繋げる。小学校の引継ぎにおいて必要な場合は、保護者の同意を得て、教育委員会及びつくば市支援センターへ相談し、安心して通える状況を構築する。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00～12:00

勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：みはらし公園にて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年2月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：9時00分

自己評価終了予定時刻：12時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任、当日出勤の職員

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	保育実践の中で培ったスキルを人前で実践することで、自ら保育の楽しさを発信しリードできるスタッフ集団となる。互いに高め合う土壌の下、仕事に責任とやりがいを持って、子どもは基より利用者や地域へその力を還元し、貢献する。
	振り返り	保育の園目標に沿って、自らの保育の振り返りを月1回継続していく中で、スタッフ間の目線合わせとチーム保育を大事に進めることができた。特に、保育者が自らSNSや本、研修参加を通して学び取ったことをアウトプットすることを目標とした園内研修では、各々の発表の際に様々な工夫が見られ、楽しく実のある内容がスタッフの質上げに繋がった。その学びは利用者だけでなく、青空保育等でも発信し、地域貢献に活用した。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	全スタッフが子どもにとって必要な体験は何かを問い、将来にとって望ましい子ども像を育成することを目指す。スタッフは子どもが社会の一員として必要な体験を選びとれる環境を整え、丁寧で継続を重ねた保育を実践する。その実践による学びを深めてスタッフ間で共有し、保育の楽しさと共に子どもの姿の変化を利用者や地域に発信しながら、社会に役立つ資質の育成に努める。
	重点施策	園内外の研修参加と学びの実践と発表/ゾーン保育の話し合いと振り返りの実践/子育て支援・地域交流・小学校交流・次世代育成の実践
2025年度	目指す姿	子どもを取り巻く環境の変化に対応した保育内容を常に考え、実践から得られた知恵とスキルを持ったスタッフ集団による地域社会への支援を目指す。保育の多様性と向き合い、真摯により良い子育ての在り方を探ることでスタッフが仕事に自信と誇りと喜びを持って地域が望む支援を考え、その手立てを示しながら地域に還元する。
	重点施策	園内外の研修参加と学びの実践と発表/ゾーン保育の話し合いと振り返りの実践/子育て支援・地域交流・小学校交流・次世代育成の実践
2026年度	目指す姿	開園後10年間の園運営と保育内容についてその成果を統括し、地域の中で広がりゆくどろんこ会の卒園生やその家庭との絆を深め、地域に根を下ろす。全スタッフがその意識をもって保育にあたることで、将来を担う地域社会の子どもたちの育成を見届け、地域貢献に役立てる。
	重点施策	10年間の園運営と保育の成果の統括/子育て支援・地域交流・小学校交流・次世代育成の実践/園内外の研修と学びの実践発表/地域公開の実施

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：つくばどろんこ保育園 施設長 瀧澤 佳子

2024年度 岩切どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

～成長を楽しむ～

乳幼児期の教育は、子どもの人格形成や思考力の土台となり生涯に影響する。次世代を担う子ども一人ひとりの育ちを大事にした丁寧な保育を展開していかなければならない。また、今後AI社会で生きる世代だからこそ「生きる力」「自分で考えて行動する」を育てていく。一人ひとりの子どもの生涯に影響する大事な時期であるからこそ、子どもを真ん中に必要な体験の意義を理解しながら以下の方針を踏まえ全スタッフが保育の質の向上を目指していく。

質の向上のためには、学び続けるスタッフ集団であることが求められる。学びを深めながら、人として自分自身を磨き続け、にんげん力を高めていく。

上記を踏まえ以下の項目を基本方針とする

- ① 一人ひとりの保育を大事にする丁寧な保育
- ② 真の“子ども主体”を理解した保育の実践
- ③ 子どもの生活力を育む基本活動、環境教育の実践
- ④ 学ぶ、考える、伝える、葛藤、協同するなどを通したにんげん力UP
- ⑤ 相手の心に入り込んだ接遇、美観

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	対話を大事にした保育の実践
	実践予定内容	大人と子ども、子ども同士、大人同士の対話を大事にする。人も子どもも互いを受け止め尊重しながら自己発揮ができるよう関わりを持つ。 園会議等でクラス担任同士子どもの様子、保育について対話をする時間を確保し、互いの保育を理解しながら保育を展開する。
2	計画・ねらい	子ども主体の学び直しからの保育実践
	実践予定内容	子ども自身が経験の中で学ぶなど“子ども主体”の意味・意義について園会議等学び直し、スタッフ間の共通理解のもと保育を実践する。
3	計画・ねらい	養護と教育の一体
	実践予定内容	乳児期は月齢や発達に合わせた丁寧な養護の関わりを通して信頼関係や愛着関係を構築する。 大人が教えるべきこと、経験から学ぶことを小学校への見通しを持ち計画し保育を実践する。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の気持ちに寄り添った保護者支援
	実践予定内容	家庭や園でのお子さんの様子の共有はもちろんのこと、保護者の方の様々な困り感を傾聴していくことで保護者に寄り添った対応を心がける。
2	計画・ねらい	心を込めた挨拶・立ち振る舞い
	実践予定内容	顔を合わせて挨拶をする、元気に明るく挨拶をするなど基本的なことではあるが、基本的であるからこそ対応を徹底する。 挨拶とともに、しなやかなで落ち着いた立ち振る舞いをすることで、保護

		者が話しやすい雰囲気作り、気持ちよく保護者が園に来園できるようにする。
3	計画・ねらい	相手の心に入り込む保護者対応
	実践予定内容	スタッフの接遇に対する理解を深め、保護者一人ひとりの気持ちを汲み取った心を込めた対応を行う。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域のネットワークを活用した子育て支援の広報活動
	実践予定内容	子育てネットワークの会議で地域との繋がりを持つことで、自園の子育て支援の取り組みをアピールする。
2	計画・ねらい	子育て支援活動の充実
	実践予定内容	近隣施設のみだけでなく、範囲を広げて子育て支援の活動を広報することで一人でも多くの方に来園してもらう。 気軽に参加できる活動を計画し活動の充実を図る。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフ同士の対話による学びの共有
	実践予定内容	クラス会議とは別に保育や子どもについて語る場を設け、子ども理解を深めたり保育の気づきを増やしたりしながら共に学ぶ機会を持つ。 互いの保育を理解することで保育の視点を広げ質の向上を目指す。
2	計画・ねらい	学びのアウトプット
	実践予定内容	スタッフ一人ひとりに園長大学 [®] ・保育士大学等で学ぶ機会を作る。自分で学んだことを園会議等でアウトプットすることで自身の学びを深めたり、他のスタッフの学びにつなげたりする。
3	計画・ねらい	互いに認め合い自己肯定感を持つ。 保育のスキル向上とチームでの保育の実践
	実践予定内容	対話を通して互いの保育観を知りながら認め合い、自己肯定感を育む。自分の考えを発信し、ともに保育を実践していく中で自信につなげ保育のスキル向上を目指す。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑仕事、生き物の世話を通して自分の役割を考え判断する力を育む 畑仕事、食の循環、環境へ自ら関わろうとする意欲を育む。
	実践予定内容	畑仕事、生き物世話に取り組むにあたり、何をすべきか、協働で取り組むにはどうすべきかなど考えながら自ら活動に関わっていく。 調理くずが生き物のエサになる、生き物の糞や調理くずが堆肥になる活動を実践していくことで環境への興味関心を育む
2	計画・ねらい	命をいただく活動の実践
	実践予定内容	生き物をさばく経験を通して命の大切さ、食事の大事さ、食の循環について知る。

〈6〉対話力の向上（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	同僚性の向上
	実践予定内容	クラス担任での10分ミーティングを実践し、コミュニケーション力の底上げを図る。 自ら発信する場を意図的に持ち、発言する力を育む。
2	計画・ねらい	対話から保育の視野を広げる
	実践予定内容	クラスの枠を超え子どもや保育について対話をすることで、みんなで保育をしている一体感を作っていく。 対話を通して、様々な保育の仕方について知ることによって視野を広げ自分の保育につなげる。

〈7〉接遇と美観（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	思いやり、誠実さ、謙虚さなど心を込めた立ち居振る舞い
	実践予定内容	子ども、保護者、スタッフ等に対し、相手の立場や気持ちに寄り添った言葉かけ、立ち振る舞いをすることで園に関わる全ての人が心地よくいられる場所を作る。
2	計画・ねらい	誰もが同じ基準の美観
	実践予定内容	整った状態を可視化するなどし、誰もが同じ状況で美観を整えられる環境を作る。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
9人	18人	18人	22人	22人	22人	111人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	1人	事務	1人				

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	園内研修 保育の振り返り
給食運営会議	月1回	食事の様子の共有 食育活動振り返り
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデントの分析 危機管理等の共有
ケース会議	月1回	子どもの姿、課題と支援の共有
週会議	週1回	各クラスの情報共有 行事等の確認、共有
クラス会議	隔週	保育計画についての振り返りと今後の共有

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人内の情報共有 事故防止委員会
施設長勉強会	月1回	テーマに沿った研修、情報交換
食育会議	年4回	食育や食の循環教育活動に関する研修 実践報告
保健会議	年4回	衛生管理や感染症についての研修
主任会議	月1回	テーマに沿った研修 主任の役割について
子育ての質を上げる会議	月1回	テーマに沿った研修 実践報告、情報交換

〈3〉 各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	健康管理、衛生管理、感染症流行時、発生時の対応
安全対策係	施設内外の遊具、設備等の安全点検 職員の危機管理の共有
防火管理者	災害を想定した訓練の実施 設備の点検
食品衛生責任者	マニュアルに基づいた衛生管理 給食の提供
畑係	畑計画の作成 年間を通じた畑の管理 種、苗の購入

生き物係	飼育の管理 堆肥作り エサの管理、購入
------	---------------------

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズ企画、運営連携 地域との連携
岩切市民まつり	岩切市民まつりのお手伝い ブース展開

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの欲求を満たし、情緒の安定を図る 新しい生活に慣れ、生活リズムを整えながら安心して過ごす 身近な大人との信頼関係のもと様々なことへの興味関心を育む
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> 自ら様々な事象に関わり、感性を豊かにする 身近な大人との信頼関係が構築され、自分の気持ちを安心して表出する 一人ひとりの遊びを保障していく
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 生活に必要な習慣を身に付けていく 興味関心を持ったことに自ら関わり主体的に遊びを進めていく 言葉や行動で自分なりに思いを伝えようとする
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 話し合ったり、試行錯誤したり仲間と協働で遊びを進める力を育む 自己決定しながら主体的に生活する 自分で考えたり、工夫したり、判断したりしながら創造性を培っていく
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> 随時、希望する保護者に対し実施 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	家庭的で落ち着いた環境作り 一人ひとりに合わせた食事の提供
	実践予定内容	食事中の会話を大事に知るなど楽しく食べることを常に意識し、丁寧な関わり方をする。 一人ひとりの食事の様子が把握できる食事の空間作りを心掛け、食事の様子について家庭と連携を取りながら食に対す意欲を育む。
2	計画・ねらい	調理くずによるコンポストにおいて食の循環や環境への意識を育む 食育体験を通して食への興味関心を持つ
	実践予定内容	調理くずの有無を掲示して見える化をするなど、子どもと一緒にコンポスト等の取り組みが行えるようにする。
3	計画・ねらい	旬の食材や伝承行事を通した食育活動の実践
	実践予定内容	旬の食材を知らせる他、実際に触れてみる機会を持つなどし、季節感や伝承行事への関心を育む。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（4月・10月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い、歯磨き、薄着の指導
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 8月頃・・・プール熱 12～1月頃・・・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・3名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 抗アレルギー薬・・・3名より預かり済み／職員室にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在23名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	緊急時薬の更新確認 感染症発生時の情報共有 嘔吐処理対応、おむつ交換、生存確認のマニュアル確認 感染予防のための手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検 (簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／4・10月 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	自ら選択し遊びこめる環境構成の実践
	実践予定内容	子どもの姿を踏まえた環境構成をするのはもちろんのこと、子どもの声や発達を見据えた環境構成をすることで興味関心、創造を育てていく。 遊びが断続的にならず、“昨日の続き”が実践できるよう環境を整えた

		り、保育を展開したりする。
2	計画・ねらい	大人も子どももTrial&Errorしながら関わる環境作り
	実践予定内容	ゾーンの物的環境や人的環境を整えることで、“やってみた”意欲を引き出し様々な環境に自ら関わる経験を積んでいく。
3	計画・ねらい	スピード感のある環境の再構成
	実践予定内容	環境の定期的な見直しの他、環境の再構成を今、目の前にいる子どもの姿に合わせてスピード感を持ち実践していく。 全スタッフが環境の再構築はなぜ必要か共通の理解、認識が持てるよう学び、実践していく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	岩切ビックウエーブ	園庭	毎日
2	吊り橋	園庭	毎日
3	小屋	園庭	毎日
4	製作テーブル	1階保育室	毎日
5	レゴ台	1階保育室	毎日
6	お一人様コーナー	1階保育室 2階保育室	毎日
7	ベンチ	2階保育室	毎日
8	丸太の平均台	2階保育室	毎日
9	ハイハイスロープ	2階保育室倉庫	毎日
10	太鼓橋	2階保育室	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	園庭・室内遊具(手作り)毎日の点検 毎日点検することで未然にけがや事故を防ぐ
2	実践予定内容	地震等災害に備え避難訓練を実施する。また、備蓄品の在庫確認、発電機等の使い方を把握災害時速やかな対応ができるようにする
3	実践予定内容	けがや事故を未然に防ぐためヒヤリハット、インシデント、他園の事故記録簿を分析する。けがや事故が発生した場合は都度検証と分析を行い、同じことが起きないようにスタッフで周知徹底する
4	実践予定内容	築山にピンクたすきを付けたスタッフが立ち、子どもの遊びの様子の把握や安全なスタッフ配置の指示をするとともに、不審者に対する視点も持ちながら全体把握に努める
5	実践予定内容	年4回のハザードマップの見直し

6	実践予定内容	光化学スモッグについて確認し発生時の対応の共通理解を図る
---	--------	------------------------------

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

実習生：保育が楽しいと感じてもらえるよう丁寧に指導していく。細やかなコミュニケーションを図り、安心して実習に臨める環境を整える。

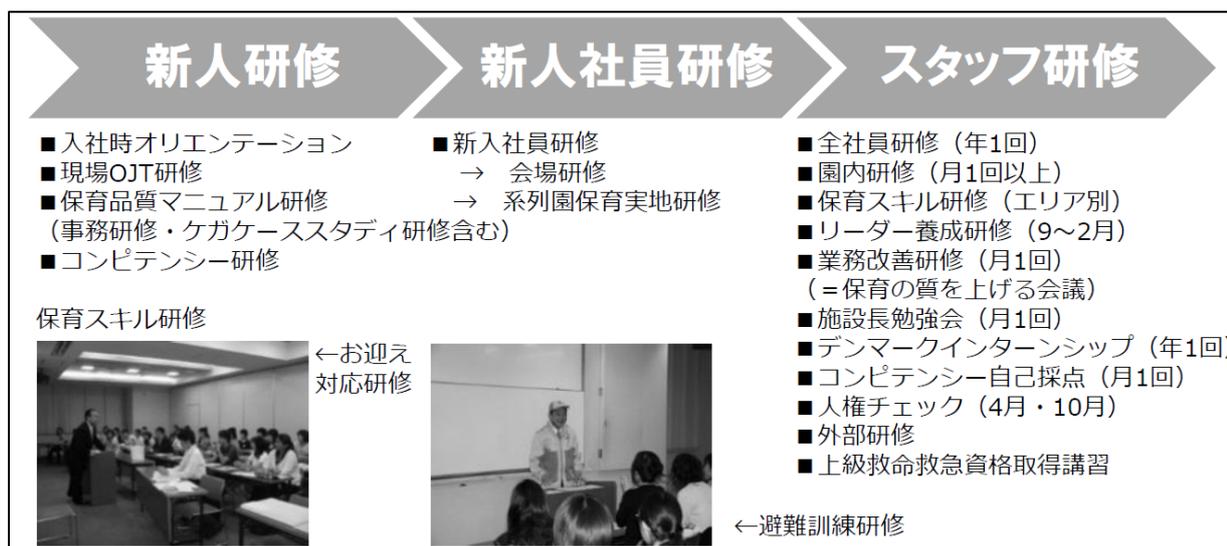
中高生の受入：保育の面白さ、楽しさを感じてもらえるよう子どもと関わる時間をしっかり保障する

1	実践予定内容	実習生の受け入れ
2	実践予定内容	中高生の職場体験の受け入れ
3	実践予定内容	養成校のボランティアの受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)



開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの人権擁護について	子どもの人権の尊重、虐待について学び、自身の保育を振り返る。人権擁護チェックリストを活用し、スタッフで共通認識を持つ。
5月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② さくらさくらんぼリズム研修	さくらさくらんぼリズムの基本的な動きや補助の仕方を学ぶ。座学を通して、知識を深める。

6月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境について(ゾーン保育の理解)	ゾーン保育とはどのような環境なのか等、改めて学びなおすことでスタッフ間での共通認識、理解を深め今後の環境構成につなげる。
7月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境について(環境の再構成の重要性)	“昨日の続き”ができる環境とは、子どもが遊びこめる環境とは、を学ぶことで再構成の重要性について知り保育にいかす。
8月9日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子ども主体の意義理解	“子ども主体”についての意義、意味の理解を再確認し共通の認識を持つことで真の子ども主体の保育の実践をする。
9月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② エピソード研修(対話による発達理解)	スタッフ同士で子どもについての語り合い、対話をする中で一人ひとりや年齢ごとの発達理解を深める。
10月11日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② エピソード研修(対話による保育の視野の充実)	繰り返しの対話を通して、様々な保育の仕方を知ることで各々の保育観を豊かにしたり、保育の視野を広げたりする。
11月8日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② エピソード研修(10の姿から子どもの育ちを捉える)	幼児期だけでなく0歳児から10の姿を見据えた保育内容や関わりについて学び、子どもの育ちを捉える。
12月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの人権擁護について	様々なことに慣れてきたところで自身の保育を振り返り、関わりを見直す。
1月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 養護についての学び	養護の視点での保育が十分に展開されているか見直し、安心して進級や就学に向けられるよう丁寧な関わりを学ぶ。
2月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度の振り返り	クラスごと一年間の振り返りを行い次年度の保育につなげる。
3月2日	9:00~18:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度の計画	法人の理念、園目標のもと子どもにとって必要な経験を考え次年度の計画を立てる。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デンマークインターンシップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉園長大学・保育士大学のコンテンツを活用した学びの創出

園長大学®・保育士大学の多数あるコンテンツを活用し、スタッフ一人ひとりが学ぶ機会を作る。園会議等で学んだことをアウトプットする場を設け、自分の学びの落とし込みをするとともに、園のスタッフの学びにつなげる。

人前で話す場を繰り返し持つことで大人もものおじせず話せるよう育成する

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

子育て支援ちきんえっぐや園開放の取り組み、園行事などの活動を広く発信し地域の遊び場として地域の子育て家庭の支援を行う。高齢者や異世代の人との交流の場を持つことで様々な人と関わり、にんげん力を育んでいく

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：一号公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人福祉施設訪問
異年齢交流	小中高生との交流
地域拠点活動	子育て支援ちきんえっぐ 園開放 岩切子育てネットワーク参加
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

小学校一年生との子ども間交流やスタッフの授業見学等の場を積極的に設けられるよう小学校と連携を図る。スタッフ間の情報共有を行い、スムーズな接続に向けていく。アプローチカリキュラムを作成し保育実践をしていく。連絡会に参加し丁寧な引継ぎを行っていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を3月4日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	岩切小学校 1年	22名予定	(当保育園保育室)	小学校一年を知る
9月頃	岩切小学校 1年	22名予定	岩切小学校	子ども間交流
9～11 月頃	岩切小学校 1年	3名予定	授業参観	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

半期の計画を年度初めに作成し、月ごと一人ひとりの発達に合わせながら必要な支援計画を作成する。月に1回ケース会議内で現状の課題や今後の支援について話し合い、保護者とも共有しながら計画を見直し作成していく

〈2〉毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定 参加者：6名予定）

支援計画をもとに、一か月の子どもの様子や取り組みについて振り返りを実施する。現状を共有し今後に向けた支援の共通理解を図る。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

幼保小連絡会の資料や保育児童要録を作成する。保護者とも綿密な連携を図り丁寧な引継を行う

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：一号公園にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年6月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：8時30分

自己評価終了予定時刻：18時30分

自己評価実施予定者：全スタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	基本方針の理解を深め、基本活動を実践する 接遇と美観
	振り返り	基本方針についてはスタッフ一人ひとりが理解を深めている。一方で、活動の展開に難しさや迷いを感じている部分もある。理解は深まっているので、個ではなくチームで向き合いながら基本活動を確立していく。接遇と美観については、接遇は引き続き学びつつ、一人ひとりの個性をいかしながら丁寧で心のこもった対応を目指してきた。相手に伝える点においてはまだ十分でないところがあるので引き続き接遇について身につけていく。美観は必要なもの以外置かない点で物の整理は進んだ部分は大きい。今後は可視化や仕組み化、やるべきこととしての習慣をつけ常に整理整頓された状況を保てるようにする

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	同僚性を高めチームとしての保育の実践の実現 一人ひとりの寄り添う養護と教育の実践 美観への基準を揃え整理整頓された環境設定の徹底 丁寧で心を込めた接遇での信頼関係の構築
	重点施策	会議に限らず対話を増やすことに重点を置き様々な人と対話をする中で保育の視点を広げながら保育の質を高めていく。 保育につながる会議の場では受け身にならず、自ら提案、発信し実行することで責任と意欲を持ち業務を遂行する。 自ら提案、実践する中で自信を持ち、にんげん力をつける。 一人ひとりの成長過程をよく理解し、丁寧な養護の関わりを大事にしながら育ちを保障する。そのためにはスタッフ間でのコミュニケーションの場を多く持ち子どもの理解を深める 可視化することで誰がやっても同じになる美観の仕組みを構築し、やるべきこととしてスタッフの中に習慣付け、美観を保つ。 接遇に対する学びを深める。 相手の立場にたったものさしで言葉がけや立ち振る舞いをすることで心地よいと思える園づくりを目指す。
2025年度	目指す姿	丁寧な保育による質の高い保育の実践 ホスピタリティ精神の構築 にんげん力の向上
	重点施策	保育実践に対する学びの場や語り合いの場をより多く作っていくことで、保育の知識を増やしスタッフ一人ひとりが願いや思いを持ちながら保育を展開していく。 丁寧な保育の実践により、心の安全基地となることで子ども自身が意欲的に生活できる園を目指す。 大人も子どももTrial&Errorを繰り返しながら経験を積んでいくことで学びにつなげ人間力の向上に向ける。 保育実践、環境構成、美観等自ら考え発信することで自信につなげたり、役割を任される中で推進力を身につけたりすることでリーダー意識

		を育てていく。 相手に寄り添った接遇が身につく、すべての方が気持ちよく過ごせる園作りを目指す。
2026年度	目指す姿	リーダー的スタッフを中心にチームでの保育を展開する 美観、接遇が整い選ばれる園になる
	重点施策	にんげん力が育まれ、リーダー的スタッフを中心に子どもにとって必要な経験を主体的に提案、実践する集団となる 保育を語り合い、お互い認め合いながらチーム力を高めチームとしての保育内容の充実や質の向上を目指す

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：岩切どろんこ保育園 施設長 山本 明子

2024年度 メリー★ポピンズ エスパル仙台ルーム 事業計画書

1. 基本方針

自分で考えて（スタッフを含めて）行動する力を育てていくために、以下を念頭に子どもの主体性を引き出す環境・体験・学び・成長に必要な環境を大切にしておく。人間形成に重要な乳幼児期を培っていることを受け止め、スタッフ全員が常に子どもの最善の利益を念頭に子どもの人格、危機管理意識を最善にしながら必要な体験を与え、保育にあたる。

1, 子どもをいつも真ん中にして、保護者と子どもの成長した事やよかったところを認めながらスタッフ全員で共有していくこと

2, どんご会グループの保育園として、子どもにとって真に必要な機会を用意して、生きる力のある心と体を育てる

3, どんご会グループが基本としている異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操や音楽指導・9時出発散歩・ヤギと鶏の世話・畑仕事・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・銭湯でのお風呂の日・青空保育を実施する

4, リアルな体験・原体験をもとに自分の力で健康で安全な生活をつくりだす力を養う。室内・室外共に子ども自発的に関わる環境を設定する

5, 感じたことや考えてことを水・砂・土・紙・粘土を使用し、造形・描写にて表現する。活動を子ども自身が選択したり自分で考えたことを発表したりする

6, 就学に向けてアプローチプログラムを作りつつ数量・図形・文字・運動・音楽表現を指導する

7, 地域の方々に積極的に挨拶をはじめ交流を深めることにより、地域に密着した保育園を目指していくと共に地域の核となる子育て支援を実施していく

8, 保育の課題などの共通理解や共同性を高め、保育園全体として保育の質の向上を図っていくための園内研修を計画的に実施していく子どもが自分たちで盛り付け・配膳して食べることを基本として食欲と意欲を育てる

9, どんご会の食育方針（1）栄養士・調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる（2）嚙力を育て素材の味を味わえる状態で提供する（3）子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる基本として食欲と意欲を育てる。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	保育士、栄養士、看護師、事務員、用務員などすべてのスタッフがそれぞれの専門知識と技術のスキルを磨き、常に自己目標に向かって研修などを利用して勉強に励む
	実践予定内容	研修会、勉強会などで得た知識を習得していく共に、それぞれの専門知識を持ってお互いに話し合いの場を多く持ち、共有していく
2	計画・ねらい	生活や遊びを通して子どもの心に寄り添い、見通しを持って物的、人的環境を整え、計画的に保育を実践する
	実践予定内容	子どもたちの様子を見て気持ちや遊んでいる様子など細かく観察し、話し合っ実践に移していく
3	計画・ねらい	子どもの主体性を伸ばすために、子ども同士で生じた課題は子ども同士で解決できるように話し合うことを普段から行い日常の姿としていく
	実践予定内容	子ども同士で話し合いが行えるよう、スタッフが介入方法を丁寧に対応していく

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	大切な子どもを預ける不安をしっかりと把握し、安心して仕事ができるように日々の様子をスタッフ全員が共有出来るようにしていく
	実践予定内容	スタッフは日々の子どもたちの様子を共有し、特に頑張ったところを保護者に伝えていく。また、連絡帳でも子どもの様子を細かく伝えていく
2	計画・ねらい	保育園は【いつ誰もが来ても良い所】だと地域の方々に浸透させていく
	実践予定内容	散歩やおぞら保育、商店街ツアーなどの機会をしっかりと利用して、地域の方々に積極的に挨拶、声かけをしていくことで、保育園の認知度向上に努める
3	計画・ねらい	年2回予定の保護者懇談会において、保護者に日々の子どもの姿を伝えると同時に保護者間の交流を深めていく
	実践予定内容	普段の生活の様子を細かく記録しながら、園での様子に興味を持っていただき懇談会に参加して良かったと感じてもらえるようにしていく

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育ての悩みや不安に対する相談や親子で遊ぶ機会の提供などを多く持ち、地域の中での子育て機能を明確にして、対象となる人々の拠点となる
	実践予定内容	保育園をより多くの方に知ってもらえるよう、パンフレットやちきんえっぐだよりを見やすいところや、子育て支援センター、市役所などに掲示し、興味をもってもらえるようにしていく。
2	計画・ねらい	保育園は【いつ来てもいい所】として、地域に浸透させていく
	実践予定内容	散歩や青空保育・商店街ツアーなどで地域の方に積極的に挨拶、声かけをして保育園の認知度向上に努める
3	計画・ねらい	地域の集まりや行事に参加しながら交流を深めていく

	実践予定内容	地域の行事にできるだけ多くの職員が参加して、意見交換を行い、保育園の認知度向上に努める
--	--------	---------------------------------------------

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	それぞれが自発的に学び、話し合いを繰り返すことで、共有する機会を増やし、学び合い、支え合う保育者集団をつくる
	実践予定内容	スタッフ各自が研修や課題について積極的に取り組み、学んだことを園会議などで多くのスタッフに共有していくことで視野を広げていく
2	計画・ねらい	スタッフ間のコミュニケーションを高めていきながらお互いの思いを共有できる様な話し合いの場を多く持つ
	実践予定内容	自分のやりたい事や相手の気持ちを汲み取りながら自発的なチーム保育をしていく
3	計画・ねらい	ダメと言わない保育・自己肯定できる保育を日々考えながら実践をすることで、子どもが自ら主体的に活動し、自発的に生活できるように援助できるスタッフ育成をする
	実践予定内容	場面を捉えて話し合いを多く持ち、考え、実態と比べながら実感させていく体験をかさねていく

〈5〉環境実施目標

	計画・ねらい	畑で採れた野菜で調理をしていく
	実践予定内容	職員中心で行っていましたが、子どもたちに中心になって行っていきたい、そして畑などに利用して野菜や植物の成長繋げる
2	計画・ねらい	コンポストを実施して肥料をつくり活用していく
	実践予定内容	改めてコンポストの意味を再確認して、みんなで目的・目標を話し合いしながら進める
3	計画・ねらい	仙台3園合同で鶏をしめる体験の実施
	実践予定内容	仙台3園で計画を立て実行し、命をいただくことへの感謝の気持ち・食の循環を子どもに教える

〈6〉食の大切さを知る（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	年間を通して野菜や植物の成長に関わり、収穫や食育活動等で、健康な体を作ることや生命の大切さを理解できるようになる
	実践予定内容	実際に畑やプランターで、野菜や植物の成長を観察しながら生命の大切さを教える
2	計画・ねらい	食べたいものを食べたい人と食べただけ食べる経験をもとに食への関心を持たせる

	実践予定内容	友達や保育者と一緒になって食べることの楽しさを味わうこと、機会を多く持つ
3	計画・ねらい	園庭にある畑での四季折々の野菜づくり・コメづくり・芋掘りを経験させ、また火起こし体験も行い・焼き芋・ピザづくりなど食の循環・工程を知り、食べることの楽しさ、作ることの楽しさ、感謝の心を育ませる
	実践予定内容	自前に立てた畑計画の進捗状況を見ながら、遅れや漏れが出ないようにリーダーを中心にスケジュールの確認をしていく

〈7〉大きな家の中で、全年齢の子どもたちが自由に行き来する保育園（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	子ども、保護者、スタッフが三位一体となり保育ができる保育園
	実践予定内容	いつも子どもたちの気持ち・成長を考えて話し合いを多く持ち、共有できるようにしていく
2	計画・ねらい	異年齢の子どもたちが園舎・園庭を自由に行き来し、様々な友だちと関わり合い、お互いに手を差し伸べたりしながら、子どもたち、スタッフの笑顔がいっぱいの保育園にする
	実践予定内容	いつも子どもの気持ちに寄り添いながら活動に前向きに検討話し合えるスタッフ集団として関わる

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	18人	18人	18人	18人	90人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	14人	看護師	1人	栄養士	3人	調理員等	0人
------------	-----	-----	-----	----	-----	----	------	----

パート スタッフ	保育士	1人	用務	1人	調理	1人	事務	1人
-------------	-----	----	----	----	----	----	----	----

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	・コンピテンシー ・活動の振り返り及び共有。子どもの姿の共有。 ・園内研修
給食運営会議	月1回	・食育会議の策定 ・食育活動実施内容の共有 ・喫食状況(残渣記録)の確認 ・給食簿指摘事項の改善
事故防止委員会	週1回	・ヒヤリハット、インシデントも分析 ・ハザードマップの見直し ・自園及び系列園で起きた事故のケーススタディ及び改善策を策定 ・全園事故防止委員会での内容共有
ケース会議	月1回	・要支援児個別計画の振り返り及び省察 ・要支援児個別計画の見直し
リーダー会議	週1回	各クラスの問題点、保育内容について
クラス会議	その都度	保育内容、環境、問題点

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	月例確認事項、コンピテンシー、請求スケジュール 各部署からの連絡事項伝達
施設長勉強会	月1回	マニュアル及び運用ルールの作成・見直し 保育における課題点の抽出・改善アクションプランの立案、成果発表 保育所保育指針の理解
食育会議	年4回	マニュアルの見直し、各園の取り組み、疑問や課題について話し合い

保健会議	年4回	マニュアルの見直し、各園の取り組み、感染症対策、衛生管理、疑問や課題について話し合い
主任会議	月1回	園の課題改善アクションプランの進捗確認と共有 マネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	環境設定、美観、日課の見直し等、改善アクションプランの進捗確認と共有

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	保育環境、衛生、予防に関する提案
安全対策係	防犯、保育備品の安全点検及び事故防止
防火管理者	避難訓練、不審者訓練の実施、改善の取り組み、消防署への届出
食品衛生責任者	食の安全、食育活動への取り組み、衛生点検
畑係	年間を通しての企画、種、苗の購入
生き物係	日々生き物の世話をしながら、命の大切さを知らせていく

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者と連携して一緒に行う
地域の文化祭	年長児共同作品展

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者との信頼関係の下、情緒の安定を第1に自分で見つけた遊びを充分に楽しむ ・ 一人一人の子どもの意欲を尊重し、食、遊び、眠りを満たす ・ 大人との対应的な関わりを通じて情緒的な絆が、形成される時期であるため愛情豊かに対应的に関わる ・ 天候にかかわらず基礎体力を培う
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの感性を揺さぶり、遊んでみたくなるような環境を整え、満

	0～1歳児	<p>足感・充実感が得られるような保育を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな体験を通して、豊かな感性・創造性を育て運動機能を身につける ・他児や周囲への関心が高まる時期であるため、充分身体を動かし、色々な感覚を働かせ興味や関心を育て、思考力や認識力の基礎を培う ・生活や遊びを通じて、子どもたちの身体的、精神的、社会的な基礎を培う ・大人との間に愛着関係が形成される大事な時期であるため、子どもの様々な要求を満たすように、気持のやり取りを丁寧に行う ・保育士などの応対的な関わりや言葉がけにより自ら言葉を使おうとしたり、生活に必要な言葉に理解し聞き分けたり、遊びの中で友達との言葉のやり取りを楽しむ ・自我の発達するこの時期友達とのトラブルを通じて人との関わりを知る ・自分の意欲や努力を認め温かく見守り励まし、子どもの気持ちを受け止め、自己肯定感や様々な力を身につける ・なるべく戸外に出て体を動かし、室内でさくらさくらんぼ体操して、基礎体力を培う
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・発達、興味、関心にあった遊具環境を整え、継続的に遊びが展開され、一人ひとりが充分満足感や充実感が得られる保育を行う ・異年齢で生活する中で助け合いする経験を積み重ねていく ・絵本、紙芝居、素話などの読み聞かせを通して、聞く力や想像力を伸ばし豊かな感性を育む ・動植物を飼育、栽培し体験を通して、自然物や生き物の命の大切さを学ぶ ・生活の中で、充実感を持って自分のやりたいことに向かい心と身体を十分に働かせ、見通しを持って行動し、自ら健康で安全な生活を作り出すようにする ・戸外遊びを日々行う中で、身体機能の発達を促し安全についての構えを身につける
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム体操、表現遊びなどで自分を発揮し表現する意欲や協調性を育てる ・異年齢で触れ合う中で、お互いに刺激を受け合いながら、自分たちで、問題や課題を解決する力が育ち、相手の気持ちに気が付くことができるようになる ・自分たちで考えた約束やルールの中で、目的を持ち積極的に遊びを楽しむそして仲間意識を深め共同性を培う ・経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し相手に話こと、聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う ・生活の中で、充実感を持って自分のやりたいことに向かって心と身体を十分に働かせ、見通しを持って行動し、自ら健康で安全な生活を作り出すようになる

		<ul style="list-style-type: none"> ・自然体験、野菜づくり体験、動物飼育体験のなかで命の尊さ等様々な感動を味わう ・戸外遊びを中心に、身体機能の発達、体力増進を図る ・子ども同士のグループで話し合い、役割を分担し、1つのものを、制作物、発表、ルールなどを作り上げ、共同遊びへつなげ、異年齢遊び、生活発表会などで表現していく
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回にて決定し別紙（2024年度年間スケジュール）に掲載
- ・保育参観、保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	家庭的で落ち着いた環境作り 一人ひとりに合わせた食事の提供
	実践予定内容	食事中の会話を大事に知るなど楽しく食べることを常に意識し、丁寧な関わり方をする。 一人ひとりの食事の様子が把握できる食事の空間作りを心掛け、食事の様子について家庭と連携を取りながら食に対す意欲を育む。
2	計画・ねらい	調理くずによるコンポストにおいて食の循環や環境への意識を育む 食育体験を通して食への興味関心を持つ
	実践予定内容	調理くずの有無を掲示して見える化をするなど、子どもと一緒にコンポスト等の取り組みが行えるようにする。
3	計画・ねらい	季節の恵み、行事食、伝統食などを取り入れながら、子どもたちが楽しみに待つ給食提供に努める
	実践予定内容	地域の伝統食などにみんなで話し合いながら、食に対して興味関心を持たせていく

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
--------	-------------

歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い・うがいの遂行・歯磨き指導・性教育
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 11月頃・・・嘔吐・下痢 12月頃・・・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアアップ・・・4名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ2名については5月1日までに受講予定
その他保健に関する取組	行政からのお知らせ掲示、保険関係研修、会議に参加 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。など各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ

健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6月・11月 歯科健診 年2回／6月・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

	計画・ねらい	子どもが遊び込めるゾーン作り、また同時にリスク防止強化
	実践予定内容	いつも危機管理を持ちながら遊びの様子や年齢や発達にあっていくかの視点で定期的にハザードマップを見直す
2	計画・ねらい	大人も子どももTrial&Errorしながら関わる環境作り
	実践予定内容	ゾーンの物的環境や人的環境を整えることで、“やってみた”意欲を引き出し様々な環境に自ら関わる経験を積んでいく。
3	計画・ねらい	自ら選択し遊びこめる環境構成の実践
	実践予定内容	子どもの姿を踏まえた環境構成をすることはもちろんのこと、子どもの声や発達を見据えた環境構成をすることで興味関心、創造を育てていく。遊びが断続的にならず、“昨日の続き”が実践できるよう環境を整えたり、保育を展開したりする。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	竹馬スタンド	園庭（屋上）	毎日（朝1番）
2	木製キッチン	園庭（屋上）	毎日（朝1番）
3	レゴブロック用テーブル	幼児室	毎日（朝1番）
4	製作ワゴン	幼児室	毎日（朝1番）
5	室内遊具（ボルダリング）	幼児室	毎日（朝1番）

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修  <p>←避難訓練研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (= 保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習

5. 危機管理 (防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ)

1	実践予定内容	年間計画に沿って避難訓練実施
2	実践予定内容	不審者侵入訓練 (年2回) の実施
3	実践予定内容	事故防止委員会を開催・事故の検証と防止対策の話し合い実施
4	実践予定内容	設備点検、自主点検 (毎日行う)
5	実践予定内容	インシデント、ヒヤリハットの検証、共有、再発防止策などの確認
6	実践予定内容	法人内の事故発生記録簿の全スタッフ回覧、再発防止策の話し合い実施
7	実践予定内容	ビル全体避難訓練 (年1回) の実施

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

実習生：保育が楽しいと感じてもらえるよう丁寧に指導していく。細やかなコミュニケーションを図り、安心して実習に臨める環境を整える。

中高生の受入：保育の面白さ、楽しさを感じてもらえるよう子どもと関わる時間をしっかり保障する

1	実践予定内容	小学生、中学生との交流や職場体験
2	実践予定内容	実習生の受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画

スタッフ全員が経験年数に合わせた目標をそれぞれ設定し、振り返ることをその都度行う。そして研修で学んだことを共有できる集団にしていく

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 音楽・体育・のびのび教室 指導について ③ 安心安全のための危機管理	2024年チームワーク作り園での取 り組みについて怪我など危機管理 研修
5月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 接遇向上、連絡帳・タイ ムラインの書き方	言葉遣いや、電話の対応など具体 的に説明して理解を深める
6月28日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② プールの安全・事故防止 (ロールプレイ) ③ 保育環境の現状と見直し	プールの安全、事故防止
7月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 不適切な行為・虐待につい て ③ 日々の保育についてエピソ ードを用いて考える	実例研究をしての勉強会
8月23日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 気になる子について理解と 連携について	各クラスの様子を共有しながら一 人ひとりの思いを話し合う
9月27日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの発達について学ぶ ③ 保育の現状を振り返る	インクルーシブ教育について
10月25日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 就学前の保育について ③ 安心安全のための危機意識	アプローチプログラムについて
11月22日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育環境の現状と見直し	保育環境について
12月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 内部監査について	内部監査勉強会
1月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育の振り返りと次年度の 方向性	保育所保育指針について(全学 年)
2月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	来年度に向けて

3月2日	9:00～18:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	来年度に向けて
------	------------	-------------------------	---------

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デノマークインターソップ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉園長大学・保育士大学のコンテンツを活用した学びの創出

園長大学®・保育士大学の多数あるコンテンツを活用し、スタッフ一人ひとりが学ぶ機会を作る。園会議等で学んだことをアウトプットする場を設け、自分の学びの落とし込みをするとともに、園のスタッフの学びにつなげる。

人前で話す場を繰り返し持つことで大人もものおじせず話せるよう育成する

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の方と触れ合い、思いやり、いたわりの気持ちを持ち、感謝の心を育む場所にする

〈2〉具体的な地域交流計画

青空保育（保育園主催）	月1回	公園名：五橋公園にて
商店街ツアー	週1回	
世代間交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣の老人施設との交流 ・ 地域の方々、祖父母の方々との交流 ・ 町内保育園との交流 	
異年齢交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな家で異年齢がまじりあい、兄弟のように過ごす ・ 小学校、中学校、高校との交流 	
地域拠点活動	青空保育、公開保育、職場体験の受け入れ、実習生	
銭湯でお風呂の日	月1回	〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

小学校一年生との子ども間交流やスタッフの授業見学等の場を積極的に設けられるよう小学校と連携を図る。スタッフ間の情報共有を行い、スムーズな接続に向けていく。アプローチカリキュラムを作成し保育実践をしていく。連絡会に参加し丁寧な引継ぎを行っていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（土）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	榴岡小学校 1年全クラス	18名予定	小学校探検（榴岡小学校庭）	子ども間交流
10月頃	榴岡小学校 1年全クラス	18名予定	授業参観	子ども間交流
2月頃	榴岡小学校 1年全クラス	18名予定	授業参観（一宮小教室）	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

半期の計画を年度初めに作成し、月ごと一人ひとりの発達に合わせながら必要な支援計画を作成する。月に1回ケース会議内で現状の課題や今後の支援について話し合い、保護者とも共有しながら計画を見直し作成していく

〈2〉 毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：3名予定)

支援計画をもとに、一か月の子どもの様子や取り組みについて振り返りを実施する。現状を共有し今後に向けた支援の共通理解を図る。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

- ・年度末、担任からの進級児についての共有
- ・小学校との引継ぎとして、小学校との連絡共有、保育要録送付

11. 子育て支援事業

園に來訪した親子に都度署名をもらい、月間延來場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(金) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(水) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：上市場公園にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉 園による自己評価の実施

2024年10月13日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：17時30分

自己評価終了予定時刻：18時00分

自己評価実施予定者：施設長・主任・各リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	日々話し合いを多くもつが、なかなか浸透しないことが多くありました。悩み悩みの日々でしたのでもう少し継続していく必要がある
	振り返り	課題を明確にして普段の保育に合わせて話し合いを多く持つようにしていく

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	非認知能力を高め自尊心、自己肯定感、自立心、自制心、協調性、社交性、道徳性、思いやりなど人と関わる能力が身につく子どもを育てる。
	重点施策	子どもたちを真ん中にした保育を展開し、保護者と連携を図ると同時に地域に密着して根を張り巡らす。
2025年度	目指す姿	前年度の反省点を生かし、自分たちの目指した保育の質を後追いする。自分たちの保育実践を保護者や地域、法人へ発信していく
	重点施策	常に先を見越した保育の連続性を意識し、線で保育を展開する。その連続性を形にして、保護者・地域などにツールを使用して発信する。
2026年度	目指す姿	次世代への引き継ぎを目的とし、リーダー的スタッフを中心にチームでの保育を展開する。
	重点施策	にんげん力が育まれ、リーダー的スタッフを中心に子どもにとって必要な経験を主体的に提案、実践する集団となる 保育を語り合い、お互い認め合いながらチーム力を高めチームとしての保育内容の充実や質の向上を目指す

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ エスパル仙台ルーム 施設長 末永 富貴子

2024年度 東寺尾どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

多様性(ダイバーシティ)を育む。ここでの多様性とは、安易な受容ではなく、話し合う対話から生まれる受容。「話し合おう」大人の一方的な思いや判断に寄らず、子どもたちとの対話、また、子どもたち同士でも対話。言葉のみによる対話ではなく、子どもたちの姿を捉え、受け止めることを、その基礎作りとする。そして、その探求を含めた学びである「体験活動」をTrial&Error中から育み、どろんこ会グループとしての目指す園の姿と併せて、子どもたちも大人もその成長を、多様性ダイバーシティな保育園を作るものとする。

以下の施設運営方針を基礎とする。

- ① 生活力・選択力・思考力を育む教育・保育・支援のフロントランナーとなる。
- ② 守る支援・矯正する支援を終え、子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる支援を実践する。
- ③ 自律に向けて施設長は適正なリスクマネジメントを実施し、また、いつでもどなた見られても、質の高い園となる。

スローガン：「あなたはどうか」 子どもも大人も主体性～考え、学び、動く、自立した集団～

どろんこ会グループの園としての姿を以下のポイントで目指す。

1. 生活の体得
2. 10の姿の体得
3. 子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定
4. 命をいただく活動の実践
5. 自律運営

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	自分の気持ちや考えを表現し、相手の言葉も聞く話し合う基礎を作る。
	実践予定内容	互いの意見をぶつけ合い、話す、聞くことを向き合える場としてのピーステーブルを設置活用し、対話をする意欲を育む。
2	計画・ねらい	日々の生活から子どもが自己を十分に発揮し、乳幼児期にふさわしい経験が積み重ねる。
	実践予定内容	生命の保持と情緒の安定を図る養護と、自発的・自主的活動を図る教育が一体となった保育を強く意識して臨む。生き物の世話、日課から命に係わる体験を実践していく。
3	計画・ねらい	子どもの個人差、子どもの姿を考慮しながら、10に姿を体得する保育内容を創意工夫する。
	実践予定内容	基本保育「私たちが育てる6つの力」を「目指す子ども像(10の姿)」を照らし合わせスタッフ間でよく話し合いながら実践し本園の子ども、保護者、環境等を考慮した上で、保育内容を工夫し質の向上に努める。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	ご家庭への発信、子どもの姿や保育の姿「こだわりの保育の可視化・見える化」を推進
	実践予定内容	引き続き、日誌、タイムライン等保育書類をエピソード記録・保育ドキュメンテーション化することで、その連携を最小限にし、毎日の積み重ねを可視化できるように確立する。
2	計画・ねらい	いつでも、どんなことも、誰でも、子どものため共に考える場、相談できる時間を周知していく。
	実践予定内容	育児に携わるすべての人に対して、いつでも、どんなことでも話し、相談できる保育園として、門戸を開き、随時育児相談できる支援体制を確立する。
3	計画・ねらい	以上を①思いやり ②誠実さ ③謙虚さ ④感謝 を忘れず、おもてなしの心を込めたサービスを提供します。
	実践予定内容	保育者と保護者様との礼節、敬意を以て、保護者支援に臨む。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て拠点としての役割を向上させる。
	実践予定内容	市町村や関係機関と連携及び協力を図り、子育て拠点として、保護者に寄り添いながら相談に応じる。障害がある子もいない子も均しく子育て支援の輪を広げていく。
2	計画・ねらい	交流をする機会と場として地域にある保育園となる。
	実践予定内容	保育所の役割や機能を達成するために必要となる、関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報がスタッフ間で共有されるようにする。
3	計画・ねらい	地域交流事業(ちきんえっぐ)の認知度向上、交流のハブ組織を目指す
	実践予定内容	散歩巡回を通して、おたより(ちきんえっぐ)を活用し、公園などで地域の方と言葉を交わしたときに、「いつ」「どんなことを」行っているかなど、対話を通して、繰り返し知らせしていく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園マニュアル、保育品質マニュアルの遵守。
	実践予定内容	マニュアルの重要性を毎月の園会議で、読み合わせ、その意図を再確認しながら、遵守することを徹底する。
2	計画・ねらい	保育の連続性を追求する中で、チーム保育を構築させていく。
	実践予定内容	保育の連続性をPDCA、OODAでサイクル的に日常化するために、デザインマップ、ポストイット、保育web等を活用し、クラス会議、ケース会議、園会議など、その時に有効な打ち合わせの中で検証していく中でチーム保育を作り上げる。
3	計画・ねらい	社会人として、保護者、地域の方と広くできる接遇力を身につける。
	実践予定内容	園長大学保育士大学、コンピテンシーの活用と併せて、事務、スタッフ間で昼礼にて常的に接遇の研修を日常的に行っていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材循環サイクル、SDGsの実行
	実践予定内容	給食調理廃棄を減らし、残渣の再利用の実施、「捨てる」ではなく「有効活用」の視点を持つ。
2	計画・ねらい	省エネ・省電力・カーボンニュートラルの実現
	実践予定内容	施設の日常生活で、環境に対する悪い影響を少なくする。
3	計画・ねらい	陸の豊かさをも守る活動の実践
	実践予定内容	木育＝木材利用に関する教育活動 の実施 地球温暖化や持続可能循環社会の形成など、環境問題について理解し、学び、実践し、保護者も興味関心をもつよう啓蒙活動を行う。

〈6〉マニュアル遵守を前提とした事故防止委員会で再発を防ぎ、事故件数を削減。

1	計画・ねらい	主体的に考え、ヒヤリハットに気付けるスタッフ集団になる
	実践予定内容	ヒヤリハットに自ら気づき、それを記録簿だけでなく、チャット機能で共有し、インシデント事故の未然防止へ繋げていく。
2	計画・ねらい	インシデント、対話的に深く考察し、通院事故を削減していく。
	実践予定内容	起こってしまったインシデントを共有し、再発事故に向けて、スタッフ間で考察し
3	計画・ねらい	主体的で対話的に、事故防止委員会を実施し、再発事故をゼロにする。
	実践予定内容	毎月の事故防止委員会をスタッフ主体で実施し、事故検証と共に再発防止策を多様なパターンで想定しながら、防止していく。

〈7〉ダイバーシティ(多様性)とインクルーシブ保育の充実

1	計画・ねらい	個別配慮、受容というフレームアウトする保育にならないようにする。
	実践予定内容	個別配慮の必要性を安易な受容やルーティンで計画するのではなく、配慮の視野を広げ、子どもの姿から、混ざった状態での保育できるケース会議を実施し、多くの保育者視点を集めるための口頭だけでなく、社用携帯におけるチャット機能を活用していく。
2	計画・ねらい	配慮、支援が必要な園児に対しては、多様な視点で対応を検討する。
	実践予定内容	一色単に子どもの姿を捉えることなく、スタッフ数の多さを利点に多様な視点から、ケース会議で対象の子どもを捉えていく。一人の子どもについて、リフレクションをしながら多方面から子どもをとらえることにより、他の子どもにも同じように必要な対応をみいだしていく
3	計画・ねらい	ダイバーシティなインクルーシブ保育の実践。
	実践予定内容	包括性だけでなく、多様性も考慮した保育に臨むために、日々の記録の中での「エピソード化」をしていく。子どもの姿そのものとそこでの関わりを日常の日誌で記録し、多様な姿、視点のエピソードを共有しながら、ケース会議へ繋げていく。

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
15人	24人	25人	30人	30人	30人	154人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	19人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	1人
	事務	1人						
パート スタッフ	保育士	12人	補助	1人	用務	2人		
	用務	2人	嘱託医	2人				

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	コンピテンシー、研修報告、保育の振り返り、共有事項
給食運営会議	月1回	給食内容の検討、マニュアルの確認、食育、アレルギー対応
事故防止委員会	月1回	安全対策、事故防止
ケース会議	随時	ケース検討、気になる子へのアプローチ、支援計画
週案会議	毎週	子どもの姿のベースで指導計画を立案する

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	業務報告、伝達事項
施設長勉強会	月1回	保育園の課題検討をしながらスキルアップ
食育会議	年4回	グループ全体で給食業務改善を目指し開催
保健会議	年4回	各園の状況からの意識統一、園児健康管理業務改善
主任会議	年6回	主任としての保育園の課題検討とマネジメント
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質を向上させるべく勉強会

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	施設清掃と日々の点検 衛生的改善と疾病の予防処置 感染症発症の予防策を実施 保育所の衛生全般の管理
安全対策係	全スタッフの安全に対する意識を高め、施設内において様々な安全点検・対策に取り組む
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理上必要な業務（防火管理業務）を計画的に行う
食品衛生責任者	食育会議の計画や実践、安全に対する管理や啓蒙
畑係	畑の年間計画の推進と環境整備、植物の病気の予防
生き物係	飼育動物の健康管理、環境改善

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画、立案、計画とどろんこサポーターズとの連携。地域、各関係機関への周知、安全対策
子育て支援・相談担当	子育てに関する相談業務、寺親屋開催、地域育児支援イベント、子育てサロン、地域育児支援講座開催

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉でのやり取りができない乳児期は周囲の大人との愛情やり取り豊かなやり取り（応答的）で、互いの気持ちを響き合わせて、様々な能力の基礎となる「信頼感」の発達を促す。 ・保健的で安全な環境をつくり、体の状態を観察し、快適に生活できるようにする。 ・一人一人の子どもの生活のリズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満ちし、生命の保持と生活の安定を図る。 ・優しく語りかけたり、喃語や発語に応答したりして発語の意欲を育て、言葉を使うことを楽しむようにする。 ・安全な環境を整え、探索行動が活発にできるようにする。 ・身近な動植物に親しみ、関心や愛情が持てるようにする。 ・自然の中で、十分に体を動かして遊ぶ。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが何に興味を示しているのかを考えながら見守り、学びに向かう意欲へとつなげていく。 ・安心できる保育士との関わりの中で、食事、排泄などの活動を通して、自分でしようとする気持ちを育む。 ・生活に必要な言葉が次第にわかり、簡単な喃語や言葉を使って自分の意思を伝えようとする。 ・身の回りに様々な人がいることを知り、徐々に友だちと関わって遊び、見立て遊びやつもり遊びを楽しむ。 ・身近な自然に触れ自然を使った遊びを楽しむ。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの主体性や意図を理解し、そこに子どもの個別の学びがどのように存在しているのかを考え、支援する。 ・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ・一人一人の子どもの欲求を十分に満ちし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ・友だちと一緒に食事をしたり、様々な食べ物を食べる楽しさを味わったりするようにする。 ・自分でできることに喜びを持ちながら、健康、安全など生活に必要な基本的な習慣を次第に身につける。 ・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。 ・友だちとの関わりの中でそれぞれが自分の力を発揮して活動に取り組む。 ・いろいろな体験を通して、五感が刺激され豊かな感性や創造性が育まれる。 ・自然に興味を持ち自分から関わって遊ぶ
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子を「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」の視点で捉えるようにする。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 季節の変化に応じた健康的な生活に留意し、快適に過ごせるようにする。 ・ 食事をするという意味が分かり、楽しんで食事や間食を取るようになる。 ・ 自分でできることの範囲を広げながら、健康、安全など生活に必要な基本的習慣や態度を身につける。 ・ 友だちへの親しみや思いやりを深めながら、人の役に立つことに喜びを感じ、協力して取り組もうとする。 ・ 色々な体験を通して、五感が刺激され豊かな感性や創造性が育まれ自由な発想でのびのびと表現することを楽しむ。 ・ 身近な動植物や自然に関心を持ち、その大きさ、美しさ、不思議さに気づく。 ・ 希友だちへの親しみや思いやりを深めながら、人の役に立つことに喜びを感じ、協力して取り組もうとする
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・ 2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

- 3大食育方針
 - (1) 調理員・保育士・施設長はこどもと一緒に食べる
 - (2) 噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する
 - (3) 子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる

1	計画・ねらい	子どもが、クッキング、畑での作物づくり、伝承的な取り組みといった生活の中で、意欲をもって食にかかわる体験を重ね、食事を楽しむ。
	実践予定内容	畑で作ったものを、その場で、そのまま食べ、素材の味を実体験できるように、保障する。 一過性の行事を行うのではなく、生活の中の行事として、継続的且つ日常的に楽しむ「行事」としての食育を目指す。
2	計画・ねらい	生き物の飼育や食育を通して、命をいただく活動と体験を充実する。
	実践予定内容	命を育み、その命を感じながら、命をいただいているということを、数回

		の行事のみで伝えるのではなく、日々の生き物の飼育から命を実感できるように伝え、感謝の心を育む。
3	計画・ねらい	SDGsの観点からの調理過程の野菜くずや残食などを堆肥づくり(コンポスト)や飼育動物の餌作りなど、子どもと一緒にしながら、持続的・継続的な保育の取り組みを行う。
	実践予定内容	調理前の野菜くずの一部を使ったコンポストだけでなく、調理後の残食も活用したコンポストや、鳥類、魚類の餌作成(乾物)と、使用できる可能性を全て使っていくことを子どもたちと考えながら実践する。 その過程、成果をポートフォリオで見える化し、継続していく

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回(6月・11月)
歯科検診	年2回(6月・11月)
保健だより	月1回(25日)発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回(5日)
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導…6月/11月 手洗い指導…6月/11月 手洗い指導…6月/11月 目・耳の話…10月/2月 衣服の調節…5月/12月 感染症についての話…12月頃
流行が予測される感染症	通年…コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 4～9月頃…手足口病・ヘルパンギーナ 6～10月頃…マイコプラズマ肺炎 7～10月頃…咽頭結膜炎・流行性結膜炎 11～3月頃…インフルエンザ・感染性胃腸炎 11～5月頃…水痘・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 1～6月頃 …伝染性紅斑 3～4月頃 …麻疹・風疹 1年を通して…突発性発疹・流行性耳下腺炎など
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ…2名より預かり済み/休憩室冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在36名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については3月21日までに受講予定
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	本日現在38名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については3月21日までに受講予定
その他保健に関する取組	アレルギー食提供手順及び発生時の対応について/嘔吐物・下痢の処理の仕方/おむつ交換手順/予薬ルールについて品質管理マニュアルに則

	<p>り、ロールプレイングしながら確認する。</p> <p>新型コロナウイルス感染症および他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。</p> <p>行政からの通知掲示</p> <p>スタッフの保健関係研修受講</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検 (簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年2回／6・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

「自分で考え、自分で行動する」

「自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する」

1	計画・ねらい	室内・室外・園外ともに子どもが自発的に関わる環境を設定し続ける。
	実践予定内容	<p>子どもの姿を起点に、園内、戸外で道具や材料などを随時仕掛けていき、クラス会議において、発達にあっていかなどアセスメントしていく。</p> <p>異年齢児が混じりあう環境の中で、発達の差を考慮した環境設定になっているか、子どもが遊びこんでいるかなど、webを用いながら考察展開していく。</p> <p>外部環境も、ありのままではなく、前述配慮を想定したものを仕掛けて環境設定していく。</p>
2	計画・ねらい	安全な環境を作るのではなく、安全性を確認していく、維持していくことを基本とし、子どもたちの発達、個性に合った環境設定に仕掛けていく。
	実践予定内容	<p>玩具の破損や材料の確認、設置場所の安全性など、各担当の係が中心になって、日常的に確認していく。</p> <p>玩具の設定がマンネリ化していないかを四半期に一度、検証していく。</p>
3	計画・ねらい	保育品質マニュアルを大前提として、前述1、2の環境設定の共通理解や体制作りのスタッフ意識を強化する。
	実践予定内容	<p>環境だけではなく、子どもの姿を踏まえて、保育中の事故防止のため、施設内外の安全点検に努める。</p> <p>重大事故が発生しやすい場面を抽出し、子どもの主体性、自主性を大切にしつつ、室内外の環境に配慮し、チーム保育に努めながら、ヒヤリハットなど積極的にあげ、スタッフ同士が共有することを習慣化していく。</p> <p>事故防止チェック、設備点検など確実にいき、不備がある場合にはすぐに対応し、全スタッフに周知する。</p>

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	現在、手作り遊具無し	手作り家具無し	該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	<p>防災対策</p> <p>災害や事故の発生に備え、危険個所の点検や毎月消防計画に基づいた避難訓練の実施。また、「連絡体制の周知」と「行政等関係各所との連携」を行い、災害発生時に各スタッフが迅速かつ適切な対応を取り、子どもの安</p>
---	--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		全を確保できる体制を整える。
2	実践予定内容	<p>ケガ事故防止対策</p> <p>保育中の事故防止のため、子どもの心身の状態等を踏まえつつ保育所内外の安全点検に努め、ケガ事故発生時対応フローチャートを全スタッフに周知する。フローチャートは更衣室・職員室に掲示し、全スタッフはいつでも対応できる状態にする。</p> <p>ケガ、事故発生時またはケガに至らなかった記録（ヒヤリハット）を作成し、報告・共有の上、時系列で検証、分析し今後同じような怪我・事故の発生を防ぐ。</p> <p>その都度、保育品質マニュアルを再確認し、マニュアル遵守を踏まえていく。</p>
3	実践予定内容	<p>防犯対策</p> <p>定期的な不審者侵入対策の他、日々の不審者対策として</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 笛の携帯 2. 代理送迎者登録の更新及び代理送迎者の身分証明書の確認 3. 不審者情報の収集（各関係機関と連携を取り）不審者情報を随時収集する。 <p>適宣、文書やメールでの共有・防犯速報の玄関への掲示等を行う。</p>
4	実践予定内容	<p>光化学スモック対策</p> <p>発令中は発令内容に看板・張り紙等の文書を掲示し、スタッフ・園児を屋外へ入れ、原則屋外活動は行わない。（特に運動）</p>
5	実践予定内容	<p>熱中症対策</p> <p>過度な水分補給による塩分、電解質不足による脱水症状を考慮した正しい水分補給を理解した上で、子どもたち自らが水分補給できる環境設定をする。水分の損失が多い天候下では、活動そのものを随時検討する。</p>
6	実践予定内容	<p>感染症対策</p> <p>マニュアル、規定での日々の消毒を徹底し、過度な消毒にも留意しながら、感染対策していく。</p> <p>法人、園、自治体、保健所と連携を取りながら対策していく。</p>
7	実践予定内容	<p>情報収集</p> <p>横浜市防災情報に登録。該当地域の情報を詳細に収集し、早期対応に努める。</p>

6. 実習生・中高生の受入

保育園は、地域の社会資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生の受け入れに社会的責任がある。そのため、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、当園では実習生・研修生を積極的に受け入れていく。

〈1〉今年度方針・テーマ

【種類】 小学校との生活科連携受入／中高生の体験学習の受入／保育養成校の学生の実習受け入れ／一般および学生の各種ボランティアの受け入れ／他随時相談

実習生一般および学生の各種ボランティアの受け入れでは、ワークショップ開催し、随時いつでも受け入れる体制と雰囲気、横浜どろんこ保育園の拠点園として確立していく。

1	実践予定内容	中学生、高校生や実習生が安心して保育園で子どもたちと接することができるようにスタッフが暖かく対応するように心がけ、子どもとの触れ合いから学びと楽しさを感じてもらえるように指導していく。
2	実践予定内容	実習、ボランティアといった一過性で終わってしまうのではなく、その後も継続的に交流で来てもらえるような体制作りをする。
3	実践予定内容	保育以外の分野の受け入れ、インターンシップの受け入れ。保育専門での学生だけでなくダイバーシティー(多様性)で受け入れていく。

7. スタッフ育成と研修計画

園長大学保育士大学を活用し、日常的に学べる環境を作る。

日ごろから、保育者が子どものことを話し合いお互いに勉強しあうことや、様々な方法で学べるよう、学ぼうとする意識や学びやすい雰囲気づくりを施設長や主任、リーダーが意識して工夫して作り出していく。

・外部研修 施設長は研修の機会を確保し、研修を個人的な体験に終わらせず、研修で得た成果を職場で共有し、園全体の力にしていくよう努め、職場全体の実践力を高めていく。

・園内研修 施設長は保育の質の向上に向けた課題に組織的に対応するため、保育の内容の改善や保育者等の役割分担の見直し等に取り組むとともに、各スタッフが必要な知識や技能を見につけられるようにする。また、日常的にスタッフ同士が主体的に学びあう姿勢と環境を整え、職場内での研修の充実を図る。

・スタッフから園内研修について学びたいこと、検討したいこと等聞き取り反映させていき、スタッフが講師となり学びの場を設定する。その成果を実践報告として発表の場を設ける。

また、外部に発表し保育士としての専門的知識と自信を身につけていく。

・コンピテンシーのNo.3「計画・実行する」、4「判断する」については、チェックをするだけでなく、「日々の業務を遂行する」にあたり「子どもたちを真ん中に計画し、判断する」とは何かを設問の実際のケースを取り上げ、スタッフ内で話し合い高め合う。

・2024年度、スタッフ一人ひとりがMBO目標を立て、半期ごとに施設長が確認することにより、実践を確実なものにしていく。

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 怪我・ケーススタディ	事故検証と再発防止策。事故防止委員の必要性を再確認する。
5月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育1	保育の在り方の検討 インクルーシブな教育・保育とは？
6月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育2	各園に委ねられた質的向上

7月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育3	子ども主体の保育 実現の壁
8月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育4	障害のある子ども、かかわりの難しい子どもの保育
9月11日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育5	こんな時はどうするの? 質疑応答から見えてくるもの
10月9日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 命をいただく保育	世話した鶏を捌いて食べる~導入と実践の記録~
11月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 選択できる物的環境1	心を育てる保育環境
12月11日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 選択できる物的環境2	環境は保育を考えるきっかけに
1月8日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 選択できる物的環境3	心地よさを支える環境
2月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 選択できる物的環境4	思い思いに居られる環境&園内で確かめあう方法
3月2日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの権利	子どもの権利を尊重した保育のあり方とは

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日~30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											

デノマークインターソップ

希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉キャリアアップ(エキスパート)研修の積極的な受講

どろんこ会主催のキャリアアップ研修を積極的に受講し、各能力を高めながら、自らが学ぶ意欲と共に、リーダーとしての役割を認識し学びを深める。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

ヤギ、畑といった園資源(法人資源)を最大限活用しながら、地域の拠点園として、園内外問わずに子どもの健やかな成長を保障できるよう取り組む。地域の方が自由に園を利用し相談しあえる仲間になれるように、月1回「ちきんえっぐだより」を発行し、年間計画のもと地域交流を行う。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育(保育園主催)	月1回 公園名:白幡公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域行事参加 老人施設訪問 どろんこ祭り 運動会 園外保育
異年齢交流	近隣の幼、保、小、中学校との交流他、教育施設及び保育士養成校との交流 日常生活の中で異年齢保育の実施
地域拠点活動	ちきんえっぐ、一時保育、寺親屋の開催
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3~5歳児〉人数多いため、分けて入浴

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

横浜市小学校架け橋プログラムを考慮し、年間を通して計画をたて、小学校への見通しを持って生活できるようにする。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月15日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	上寺尾小学校 1年	2名予定	授業参観（上寺尾小学校教室）	スタッフ間交流
10月頃	上寺尾小学校 全学年	30名予定	運動会（上寺尾小学校校庭）	子ども間交流
10月頃	上寺尾小学校 1年	30名予定	交流会（上寺尾小学校教室）	子ども間交流
11月頃	上寺尾小学校 5年	30名予定	交流会（当園幼児保育室）	子ども間交流
11月頃	上寺尾小学校 1年	30名予定	交流会（上寺尾小学校教室）	子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

- 保育の方法や内容について、個別支援計画を作成し日常的に保護者と話して理解を得ることや子どもの発達状況・課題発達について情報を共有し、認識の相違をなくすように努める。
- 期毎、保護者の願いを聞き取り、保育園での姿を共有するため計画的に個別面談を実施する。

〈2〉毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定 参加者：5名予定）

- 医療機関や専門機関による療育方針・方法を共有する。
- 保育所の保護者全体に対しても障害児保育への正しい認識が持てるように配慮していく。
- 子どもの特性を理解し心と体の発達にあったより良い保育のため、発達支援ルーム「つむぎ」と連携し、障害児保育研修を実施する。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

- 障がいのある子どもの生活の質が高められるよう、その子どもの特性を活かすよう支援の経過を伝えると共に連携していく。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00~12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00~12:00
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:白幡公園ログハウス公園にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

開園3年目と以降5年に1回受審。第三者評価を受けることにより質の向上を図る。
(2024年1月受審)

〈2〉園による自己評価の実施

2025年2月21日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 13時30分

自己評価終了予定時刻: 14時30分

自己評価実施予定者: 施設長、主任、各担当リーダー、若手スタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日: 8月25日

1 3.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	子どもの姿から、何が育ってきているか、何が課題なのかを考えながら保育に取り組んでいく。 言葉だけでなく、見て伝わる保育・教育のポイント、保育園が目指している子どもの姿を、ドキュメンテーションを通して、保護者様に伝えることを増やし、総合的な対話をしていく。
	振り返り	タイムラインをドキュメンテーション化するべく、積極的に作成し、日々の振り返りと共に、保護者様への情報開示としても活用できるようにしていった。併せて、子どもとも振り返ることができるドキュメンテーションとして、写真を活用し、見て伝わる保育を目指した。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	子ども中心の保育園 子どもを中心における「東寺尾どろんこ保育園」を、保育者自身の言葉で語るができる組織を目指す。
	重点施策	だれかではなく、自身が主体的に考え、言葉にし、周囲の大人が子どもを中心を考える環境を外部発信できるスタッフ集団になる。 主体的・対話的な深い学びの基礎となる背中を見せ続ける。
2025年度	目指す姿	子どもが主体に動く保育園 子ども主体における「東寺尾どろんこ保育園」を、保育者自身の言葉で語り、伝えることができる組織を目指す。
	重点施策	大人も子どもも主体的・対話的な深い学びを探究し続ける。 伝える語る力を伸ばす上で、主体的な学びの場を増やし、学ばなければいけないではなく、学びたい意欲を育てていく。
2026年度	目指す姿	ダイバーシティな対話的な保育園 多様性における「東寺尾どろんこ保育園」を、保育者自身の言葉で語り、伝えることができる組織を目指す。
	重点施策	多様性(ダイバーシティ)を実践する礎である対話とこれまで目指してきた主体性を踏まえて、多くの人の交流ができる場としての拠点保育園としての機能を定着化する。

以上

2024年度 船橋どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

船橋市は千葉県で千葉市に次ぐ人口2番目の市であり、都心に通勤する保護者も多い市の中心部に位置する保育園として、整備された都会的な雰囲気と人口の多い雑踏の中であるが、以下のどろんこ会の基本方針をもって子どもたちを育み成長を見守る。

子育て理念 『にんげん力。育てます。』

子育て目標 『センス・オブ・ワンダー』

『人対人コミュニケーション』

生活・遊び・労働を教えあう保育園生活を実践していく。

施設運営方針として生活力・選択力・思考力を育む教育・保育・支援のフロントランナーとなる地域子育て支援にも子育て支援室での催しや子育て相談、一時保育の実施などにより貢献していく子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる支援を実践する
いつでも穏やかに笑顔絶やさず、質の高い園となる
スローガン：「あなたはどうか」 大人も主体性～考え、学び、動く、自立した集団～

目指す園の姿

生活の体得 日々の日課を楽しく進め、その成果を確認し達成感を味わう

10の姿の体得 常に意識し日常の活動の中で認識していく

遊びこめる空間、子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定

自律運営 自分たちで考え、計画し、挑戦し、自分事としての園運営を進める

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	プロジェクト保育・年間を通じてテーマ設定に沿って保育を進める
	実践予定内容	策定会議で決定した担当保育者のテーマに沿って異年齢保育・表現活動・就学前教育などを担当保育者中心に進めていく
2	計画・ねらい	食育の充実・食育活動、畑作業、調理、廃棄物の活用の循環を意識する
	実践予定内容	畑にて野菜の生産し下拵え、クッキング、加工するなど食の循環を学ぶ
3	計画・ねらい	環境整備・心地の良い居場所づくり
	実践予定内容	各担当を中心に整理整頓・元に戻す・必要なものをきれいに設置する

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

保護者一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、子どもたちの成長を伝え合い、喜び合える関係を維持していく。

日々の挨拶、連絡帳やタイムライン・ポートフォリオの保育の見える化を進め保護者の理解を深めていく。

1	計画・ねらい	保護者の立場の理解・〈思いやり〉をもって個々に必要と思われる部分の援助
	実践予定内容	保護者の勤務・生活状況を把握し、必要に応じて子育てのアドバイスを進める。シッターノートやチャットの活用で情報の共有を進める。
2	計画・ねらい	日々の成長を〈誠実〉に伝え共有する・児童の成長を共に喜ぶ
	実践予定内容	朝の受け入れ、連絡帳、タイムライン、お迎え対応を通じて〈謙虚〉に〈感謝〉を忘れず、コミュニケーションを進める。
3	計画・ねらい	保育参加・保護者懇親会・行事への参加・保護者面談を通じて保育園を親子で親しむ
	実践予定内容	保育方針に共鳴してくださる保護者への園生活への参加を進める。保護者の個人面談の設定を行う。

〈3〉 地域の子育て支援事業

見学者対応・体験保育・園開放・ちきんえっぐ・小中高生交流・世代間交流・ボランティア受け入れ・子育て相談を継続し、地域子育て支援の拠点として保育園の役割を担う。

1	計画・ねらい	子育て支援室の活用・地域の子育て家庭の安心安全な居場所となる。
	実践予定内容	定期的なイベント(子育て相談・誕生会・保健衛生)を実施する。
2	計画・ねらい	青空保育の活性化・地域へのアピール
	実践予定内容	月1回の近隣公園での青空保育の予告(ポスター掲示など)と実践時の招集活動の促進を行う。
3	計画・ねらい	地域の商店や施設訪問・地域の保育園として親しまれる。
	実践予定内容	高齢者施設・公民館・商店・銭湯への挨拶、訪問を実施する。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもの人権・虐待防止の基本を理解する。
	実践予定内容	園内研修の実施。情報の共有。具体的な事例を知り、理解を深める。
2	計画・ねらい	大人の人間力を育てる。一人ひとりの特技を磨く。
	実践予定内容	自分の得意を極める。自分自身の生きる力を強める。
3	計画・ねらい	園事業計画を具現化する。自分の園の意識を高める。
	実践予定内容	事業計画に沿って、日々の保育内容の見直し、振り返り、ブログ、エピソード記録などで保育内容の発信をしていく。

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	食物残渣の減量化
	実践予定内容	調理と連携し、日々の残渣を減らす。子どもたちは、日々給食食材に触れることで今日の食事を楽しみに過ごす。
2	計画・ねらい	地球環境への取り組み、食の循環
	実践予定内容	給食廃材や土を使ってコンポストを作成し土を再生させる。

		命をいただく活動を通して環境教育を実践する。
--	--	------------------------

〈6〉 子どもも大人も笑顔で穏やかな時間を過ごせる大きなお家（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	笑顔があふれ穏やかな居場所となる。常に前向きな思考をする。
	実践予定内容	朝の受け入れから、笑顔を絶やさず、子どもたちの姿を全員で把握できているように情報共有を進める。
2	計画・ねらい	率先して動く。気づきに敏感な感性の育成。
	実践予定内容	自分に割り振られた担当を熟したうえで、周囲の状況も読み取れるような経験を重ねる。コンピテンシーの活用による振り返りの実践。
3	計画・ねらい	人間力を身に付ける。平等性・情報の共有。
	実践予定内容	様々な研修を意欲的に受講し、広い視野を持ち、客観的に自分を見ることができる人材の育成。

〈7〉 有言実行（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	期日を守る。提出期限・締め切りはあくまで最終日という事が意識出来る。
	実践予定内容	保育担当チームによるタスク管理。
2	計画・ねらい	有効な保育計画。子どもの成長に沿った保育計画を具体的に実践する。
	実践予定内容	保育計画の基本を意識した上で、臨機応変な対応をする。
3	計画・ねらい	自己計画。自分の目標を立て実行していく。
	実践予定内容	事務室内に目標を掲示し周知・周囲との協同を進める。

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	10人	12人	26人	28人	28人	110人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	施設長	1人	保育士	8人	栄養士	2人	調理員等	1人
	事務	1人						
パート スタッフ	保育士	5人						
	用務	1人					嘱託医	2人

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	コンピテンシー・情報共有・研修・交流
給食運営会議	月1回	給食の振り返り・食育について
事故防止委員会	月1回	安全確認・事故記録、ヒヤリハット、インシデント振り返り
ケース会議	月1回	支援の必要な児童について
リーダー会議	週1回	日常の保育の振り返り・見通し
行事会議	都度	行事についての計画反省

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人の確認事項など・月次報告
施設長勉強会	月1回	施設長の連携・保育を深めるための勉強会

食育会議	年4回	調理・施設長による食育全般について
保健会議	年4回	看護師・施設長による衛生管理などについて
主任会議	年4回	課内の主任による交流・勉強会
子育ての質を上げる会議	月1回	各園のリーダーによる保育についての会議

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生管理の確認
安全対策係	安全対策の確認
防火管理者	消防計画の作成・避難訓練の実施、確認・
食品衛生責任者	給食の安全管理
畑係	作物の定期的な作付け・見守り・収穫など
生き物係	生き物の世話

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画と実施
船橋市市民フェスティバル係	地域行事への参加

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 ・歩行の確立、言葉の獲得により盛んになる探索活動が十分に出来るようにし、友達との関わりの芽生えを促す。
------	--------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な大人との安定した関係のもと、一人遊びを十分に楽しみながら、自我が芽生える。 ・生活の中の様々な遊びや人との関りを通して自我が育つ。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活や遊びの中で基本的習慣や運動が心地よい感覚として身につく。 ・友達との関りを通し、自分の気持ちを言葉や行動で表現し熱中して遊ぶ。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の要求や思いを言葉や行動で相手に表現しながら他者を受容する感情が育つ。 ・生活や遊びの中で達成感や充実感を味わう経験し、目標に向かって友達と力を合わせて活動する。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

保護者とのコミュニケーション、保育者・調理など全職員が専門性を活かしながら、子どもの様子に寄り添いながらの食育活動を進めていく。

1	計画・ねらい	子どもたちの食材への意識を高める。素材を知り味わう。
	実践予定内容	素材への関心を高め、噛む力を育て素材の味を味わう。
2	計画・ねらい	食を楽しむ。子どもが自分たちで盛り付け・配膳をする。
	実践予定内容	自分で食べられる量を知り、自分の体を育てる意識を持つ。
3	計画・ねらい	子どもと一緒に食べる。子どもの食事内容、食べ方を知る。
	実践予定内容	調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に給食を食べる事で、好きなものを好きな人と好きなだけ食べられる経験を促す。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き・手洗い・うがい指導
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月頃・・・溶連菌 1月頃・・・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・ 預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在 19名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については5月31日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在 19名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については5月31日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み

	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

保育所保育指針第2章保育の内容に記載されている「自分で考え、自分で行動する」「自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する」を基本とし、室内・室外ともに子どもが自発的に関わる環境を設定する。

1	計画・ねらい	室内環境の整備
	実践予定内容	季節や興味を意識し、子どもたちの興味を促す環境の設定。
2	計画・ねらい	保育園の出入り口の環境整備
	実践予定内容	子どもたちや保護者のスムーズな動線整備。随時見直す。
3	計画・ねらい	散歩コースの環境整備・安全管理
	実践予定内容	子どもたちと共に、ハザードマップの作成を進める。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

無し

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	避難訓練(月1回)火災・地震を想定。通報訓練・引き渡し訓練・うちの子アプリ保護者向け書き込み。
2	実践予定内容	事故防止チェックリスト(年6回)
3	実践予定内容	不審者対応訓練(年2回)
4	実践予定内容	設備点検(年4回)
5	実践予定内容	事故防止委員会
6	実践予定内容	地域河川氾濫を想定した水防計画
7	実践予定内容	光化学スモッグの対応

6. 実習生・中高生の受入

保育園は、地域の社会資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生の受け入れに社会的責任がある。そのため、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、当グループでは実習生・研修生を積極的に受け入れる。

実習生、中高生の職場体験など積極的に受け入れ、オリエンテーションにおいて、しっかりと方針や内容を伝え、不安のないように実践を進められるよう配慮する。実習終了後も交流を継続できるようにコミュニケーションを進める。

〈1〉今年度方針・テーマ

1	実践予定内容	保育専門学校などの実習生の受入れ
2	実践予定内容	中高生の実習体験の受入れ
3	実践予定内容	研修生の受け入れ

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修  <p>←避難訓練研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月19日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②マナー研修 ③ケガケーススタディ・安全指導・虐待防止	新たなスタートの月。原点回帰。 事故記録簿などの見直し。
5月17日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②安全教育	子どもの人権の理解。虐待の定義。
6月21日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②危機管理 ③プール実施前事故防止	子どもの命を守る。
7月19日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②保護者対応	保護者の信頼を得る。
8月16日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②保護者支援	保護者面談について。
9月20日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②プロジェクト保育	上半期プロジェクト保育の進展
10月18日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②異年齢保育 ③安全教育・虐待防止	異年齢保育の魅力。
11月15日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②発達支援	インクルーシブ保育
12月20日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②子ども観共有	エピソード記録公開
1月17日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②来年度の目標	今年度の振り返りから来年度へ。
2月21日	18:00~21:00	①コンピテンシー自己採点 ②策定会議	事業計画及び来年度方針の作成
3月21日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②策定会議	年間活動計画・保育計画の策定

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デンマークインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉リーダー育成

リーダー会議での積極的な意見交換を重ね、具体的な対応を学ぶ。様々な事例を検討し、先を見通せる力を培う。また常に現状を把握し、今日の前の子どもの最善の利益を追求出来ているかを確認しあう。学ぶ姿勢を継続する。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

船橋どろんこ保育園の存在を広く地域に知っていただくことで、子どもたちと地域の方々との交流を深め、成長や安全を見守っていただけるようにしていく。また積極的に園を開放し地域の子育てに貢献していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名： 天沼池弁天公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設訪問・中学・高校の体験学習の受け入れ
異年齢交流	小中学校交流、大学生との交流。他園との交流。
地域拠点活動	ちきんえっぐ・青空保育
銭湯でお風呂の日	月3回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

就学を視野に入れ「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識し年長児の保育計画を立案し小学校との接続がスムーズに行われるように配慮する。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月8日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	市場小学校・八栄小学校 1年1組	5名予定	運動会见学（市場小・八栄小校庭）	見学
9月頃	船橋小学校・八栄小学校 1年1組	24名予定	授業参観（船橋小・八栄小教室）	スタッフ・子ども間交流
2月頃	市場小学校・八栄小学校 1年1組	24名予定	学校見学（市場小・八栄小教室）	子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

年度初めに個別支援年間計画を保護者と関係機関と相談しながら作成する。
半期に一度保護者と関係機関と面談を実施し、見直しをする。

〈2〉 毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：5名予定)

対象児の日々の行動記録を書き留めたものから考察し本児の成長・課題を共有し合い、次月の目指す姿や保育者の援助を話し合う。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

進級引継ぎは書面と引き継ぎ会議で行う。

小学校の引継ぎは児童指導要録、また各校の担当職員との面談によって行う。

11. 子育て支援事業

園に來訪した親子に都度署名をもらい、月間延來場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	月2回 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月1回 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：天沼弁天池公園にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年10月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：9時00分

自己評価終了予定時刻：15時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任、幼児リーダー、乳児リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1.3.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	『みんなちがって みんないい みんなのなかの生きる力』を保育目標に掲げ、異年齢交流・戸外活動・主体的に生活する。
	振り返り	異年齢交流に関しては0歳児と1歳児は早目に交流が進められ、年度の後半から2歳から5歳のグループでの活動が進められた。本園・分園2歳児合同保育も積極的に実施出来た。遠距離散歩は積極的に進められている。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	チーム保育の確立。異年齢・インクルーシブ保育の推進。
	重点施策	個人とチームでの目標設定。必要なコミュニケーションを全員が意識し、インターネット等を活用し発信していく。
2025年度	目指す姿	どろんこ保育園の理解を得る 広報活動の充実
	重点施策	どろんこ会の保育方針の浸透、実現が進められている。 思いやりの心・誠実な行動・感謝の気持ち・謙虚な姿勢を意識している。
2026年度	目指す姿	どろんこ会の保育方針がすべての人々に理解され、 保育園＝どろんこ保育園のイメージを確立する。 『大きなお家』ここなら安心いつでも快適。 どろんこ保育園旗艦園となる。
	重点施策	どろんこ会の保育方針の浸透、実現が進められている。 思いやりの心・誠実な行動・感謝の気持ち・謙虚な姿勢が全ての関係者に行き渡っている。

作成日：2024年3月15日 作成者：船橋どろんこ保育園 施設長 齋藤 みどり

2024年度 浦安どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

① 日課・基本保育活動へのこだわり

子どもの成長、人格形成に必要な体験を日常的に繰り返すことで、生活力を身につける。畑仕事、座禅、雑巾がけ、散歩（自分の脚で歩く）、太陽が出ている時間は目一杯戸外で活動する。大人は焚火やナイフ、針など危険と敬遠されがちな道具に触れる環境を作り、子どもは火との距離の取り方を学び、ナイフや針の使い方を知る。指導では身につかない経験と失敗を繰り返すことで生きる力を体得する。

② 年間100曲の歌をうたう

歌詞の情景をイメージしながらたくさん歌を歌うことで語彙力が広がり、音楽の楽しさを自然に感じ取ることによって感性や感情が豊かになる。

③ 子ども自らが経験を選択できる環境設定

毎日のゾーン保育は、子どもが自分で行先を選択する。大人は主体的に参加したくなる複数の体験活動を展開する。大人が指定、制限しない。子どもが自分で選ぶ、決める。

④ 命をいただく活動の実践

食べることは生涯にわたって続く「生きる力」である。子どもが自らの感覚や体験・労働を通して、自然・食材・食の循環・生命・環境への意識を身につけていく。

⑤ 選ばれる園づくり

基本活動に基づく保育を実践していくことで、子どもも保護者も安心して過ごせる環境を整える。タイムライン・ポートフォリオ等で園の取り組みを配信したり、祭り等の行事への参加を呼びかけ地域の人との交流を盛んにしたりすることで、保護者、地域から選ばれる園を作っていく。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	日課の充実
	実践予定内容	戸外活動9時出発、おなかがすくまで目一杯遊ぶことを保障する。畑仕事・生き物の世話・長距離散歩・座禅・雑巾がけ・裸足保育・園側給食・さくらさくらんぼリズム・100曲の歌・すべてが子どもたちに必要な活動と捉え実践する。
2	計画・ねらい	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を見据えた保育の実践
	実践予定内容	大人は、子どもが主体的に参加したくなるような複数の体験活動を展開し、Trial&Errorを重ねていく中で、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の資質・能力を育む。
3	計画・ねらい	命をいただく活動の実践
	実践予定内容	季節の移り替わりを感じながら、日々の労働（畑仕事・生き物の世話）を実践し、食の循環、環境への意識を育む。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の気持ちに寄り添った接遇
	実践予定内容	整理整頓・清掃を行い、いつみても気持ちのいい園内環境・明るく元気な挨拶を心がけ、丁寧な対応をすることで、保護者の方が安心できる環境を整える。
2	計画・ねらい	タイムライン・ポートフォリオによる共有
	実践予定内容	日々の活動の様子、子どもたちの姿を共有する。 お迎え時3分間対応は、日々の活動内容の共有だけでなく、一人ひとりの子どものエピソードを交え丁寧な対応を心がけることで保護者との信頼関係を築いていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の子育て支援拠点となる
	実践予定内容	園の行事やちきんえっぐのイベントに地域の方が参加していただけるようポスター掲示や浦安市子育てサイトでの周知をしていく。
2	計画・ねらい	ちきんえっぐのイベント・園見学・青空保育の参加者増
	実践予定内容	地域の方が必要としている参加したくなる活動を設定し、一度参加した方が何度も参加したくなるようにする。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園長大学®・保育士大学の動画視聴を推奨
	実践予定内容	職員一人ひとりが自分に必要なコンテンツを視聴し、学び得たことを園会議などで共有、共通理解の機会を設ける。
2	計画・ねらい	学び続ける保育者集団になる
	実践予定内容	一人ひとりがテーマを決め、それに沿って学びを深め、講師となり園内研修を行う。園会議は、傾聴だけでなく、誰もが自分の意見を自分の言葉で話し、学び合う。
3	計画・ねらい	背中を見せられる大人になる
	実践予定内容	日課・基本活動を子どもとともにやり、自分の仕事を最後までやり遂げる、約束を守るなど子どもの憧れの存在になる。

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	食物残渣の減量化
	実践予定内容	調理と連携し、日々の残渣を減らす。子どもたちは、日々給食食材に触れることで今日の食事を楽しみに過ごす。
2	計画・ねらい	地球環境への取り組み、食の循環
	実践予定内容	給食廃材や土を使ってコンポストを作成し土を再生させる。 命をいただく活動を通して環境教育を実践する。

〈6〉ゾーン保育の充実

1	計画・ねらい	自己選択できる環境づくり
	実践予定内容	クラス、年齢にとらわれず興味関心の赴くままに遊び込める室内環境、ゾーン保育の充実を図る

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	10人	12人	14人	14人	14人	70人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	9人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	2人	事務	1人	嘱託医	2人		

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	施設長会議内容共有、子育ての質を上げる会議内容共有、園内研修、グループワーク
給食運営会議	月1回	アレルギー確認、食育・給食振り返り
事故防止委員会	月1回	事故・インシデント・ヒヤリハットの振り返りと再発防止
ケース会議	月1回	要支援児の課題共有、個別計画の振り返り
昼礼会議	月・木	各部署からの連絡、伝達、事故・インシデント・ヒヤリハットの共有
週案会議	月1回	園全体の課題共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人からの伝達事項
施設長勉強会	月1回	施設長としてのスキルアップのための研修
食育会議	年4回	マニュアルの見直し、各園の取り組み発表
保健会議	年4回	感染症の共有と対策、マニュアルの見直し、各園の取り組み発表
主任会議	年6回	各園の状況共有、課題検討
子育ての質を上げる会議	月1回	保育者のスキルアップ研修

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内全般の衛生管理、職員の健康に留意した職場環境の見直し
安全対策係	設備点検、事故防止チェック、事故・インシデント・ヒヤリハットの分析
防火管理者	消防計画の作成、避難訓練計画の作成
食品衛生責任者	食品の取り扱いに関する業務、給食設備の衛生管理
畑係	畑の環境整備、植え付け、収穫管理
保健係	身体測定、サーベイランス記入、救急箱、散歩リュックの確認
写真、卒園アルバム係	うちのこアプリ管理画面内のアルバム整理・卒園アルバム作成

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズとの連絡、稟議作成、どろんこ祭り計画、運営
運動会係	稟議作成、運動会の計画、運営
生活発表会係	稟議作成、生活発表会の計画、運営
入園・卒園式係	入園・卒園式の計画、運営
MY浦安係	園行事、ちきんえっぐイベントをサイト内に書き込む

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0~2歳児	<p>健やかにのびのびと育つ、身近な人と気持ちを通じ合う、身近なものに関わり感性が育つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園生活に慣れ安心して過ごせるよう環境を整える。 ・基本的な生活習慣を身につけることができるように丁寧な関わりを心がける。 ・睡眠や食事など個々の生活リズムを考慮し、無理なく園生活のリズムに慣れるようにする。 ・手づかみ食べにより、一口量を知り、自分で食べる喜びを感じられるようにする。
	下半期 0~1歳児	<p>異年齢児や友だちとのやり取りを通して、好きなあそびが楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階段の上り下りなどを遊びの中で積極的に取り入れ、園内を自由に行き来する。 ・食事や身のまわりのことをする喜びが感じられるよう、環境を整え丁寧に関わる。 ・自分の食べられる量を知り、多い、少ないなどを身振りや動作で伝えられるようにする。
幼児保育	上半期 3~5歳児	<p>園生活に慣れ好きな遊びを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立に向けて丁寧な関わりを心がける。 ・バイキング給食に慣れ、準備から後片付けまでを、自信をもって行えるようにする。 ・保育室の移動の際には保育者間で声を掛け合い、園内のどこにだれがいるのかを把握する。 ・さくらさくらんぼリズムや雑巾がけなどの日課による、けがをしない強い体を育てると共に、午前中目いっぱい体を動かして遊ぶことでお腹が空くリズムを整える。
	下半期 2~5歳児	<p>異年齢児や友だちとの関わりが深まり、共通のイメージを持ち好きな遊びを十分に楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身についた生活習慣を確認しながら共に成長を喜び合い、進級に期待を持てるような関わりを心がける。 ・洗う、ちぎるなど給食で使用する食材に触れる機会を通して、食への興味関心を深める。 ・年長を中心に食事や片付けの時間を自分たちで決め、1日のおおまかな流れを決められるようにする。 ・幼児の終わりまでに育てたい10の姿を意識して活動を振り返り、保育内容の充実を図る。
保育参加	4~3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用

意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見スレッド」を活用
-----------	----	-------------------------------------------

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食の循環を知る
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・畑仕事に意欲的に取り組む。 ・コンポストを活用し、堆肥を作成する。 ・命を頂くことの大切さを知る。
2	計画・ねらい	食材に触れる
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の皮むきや米とぎ、包丁で野菜を切るなどの下処理を行う。 ・三色ボードを使い、栄養素を知る。 ・朝の食材紹介をする。
3	計画・ねらい	食べる意欲を育てる
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢児で食事をし、年上児が年下児の世話をする ・炒める、煮る、焼く、計量する、を経験する。 ・必要な食材や栄養バランスについて知る。 ・行事食の由来を知り、食べる。 ・食に関する絵本や、食材クイズを準備し、給食を楽しい時間にする。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導・歯磨き指導
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月頃・・・手足口病 12月頃・・・胃腸炎・インフルエンザ等

発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 抗ヒスタミン剤・・・1名より預かり済み／事務所に保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在18名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については4月30日までに受講予定
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	本日現在18名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については4月30日までに受講予定
その他保健に関する取組	行政からのお知らせ掲示 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う、また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検 (簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年2回／6・11月

運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもたちが活動を選択し、生き生きと遊べる環境づくり
	実践予定内容	子どもの気持ちを尊重し、遊びたい場所、人を自己決定できるようにする。
2	計画・ねらい	魅力を感じる環境づくり
	実践予定内容	午前・午後、活動場所に関係なく、保育者は子どもたちが遊びたい、やってみたいと魅力を感じるような環境づくりに努め、生きる力を育てていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	荷物かけ	幼児室	毎日
2	飼育棚	玄関	毎日
3	棚	縁側	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施、水防訓練の実施
2	実践予定内容	防災設備対策の実施（自動火災探知機、煙感知機、誘導灯等）
3	実践予定内容	年2回の不審者侵入訓練
4	実践予定内容	ヒヤリハット、インシデント、事故記録簿記載による事故防止と、事故防止委員会による検討会議
5	実践予定内容	園内外のハザードマップによる危険個所の確認と安全確認の周知
6	実践予定内容	門扉を施錠状態にすることで外部侵入者の立ち入り禁止
7	実践予定内容	光化学スモッグ発生時には、市役所などの情報機関が発信する情報をチェックし発生時には屋外での活動を控える。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に根ざした保育園として、地域の中高生の体験学習や、保育養成校の実習受け入れ、その他学生ボランティアなどを積極的に受け入れていく。

1	実践予定内容	中高生の体験学習受け入れ
2	実践予定内容	養成校の実習受け入れ
3	実践予定内容	学生ボランティア受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画

2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

新人研修	新入社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■新入社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修 (年1回) ■園内研修 (月1回以上) ■保育スキル研修 (エリア別) ■リーダー養成研修 (9~2月) ■業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会 (月1回) ■デンマークインターンシップ (年1回) ■コンピテンシー自己採点 (月1回) ■人権チェック (4月・10月) ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 怪我ケーススタディ ③ 虐待防止研修	昨年度の怪我、インシデントの振り返りと共有 保育士による虐待、子どもへの言葉がけについて考える
5月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保健衛生	嘔吐処理、与薬方法確認
6月28日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② プール実施前事故防止	プール・水遊びマニュアル読み合わせ
7月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② さくらさくらんぼリズム	さくらさくらんぼリズムの基礎を学ぶ
8月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 散歩ロープレ	マニュアル通りに散歩に行けるようロープレイングする
9月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 全体研修動画視聴	動画視聴後、意見交換する
10月18日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育所保育指針2	保育所保育指針を読み解き、自園の保育に生かす

11月22日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育	園長大学®保育士大学の動画視聴
12月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 要録の書き方	要録の記載方法を学ぶ
1月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 接遇	保護者の立場に立った保護者対応を学ぶ
2月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画について	次年度の事業計画を読み合わせる
3月2日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② エピソード記録	1年間を通した子どものエピソード記録を持ち寄り、次年度につなげる

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デノマークインターンシップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

子育てへの不安、孤独感を和らげる一助となり、ホッとできる場所として保育園を開放し、園児とともに過ごす機会を設ける。少し未来のわが子の具体的な姿を知ること、見通しを持てるような子育て支援を行う。

月1回「ちきんえっぐだより」を発行し、年間計画のもと地域交流を行う。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：しおかぜ緑道にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	こうゆうデイサービスとの交流、小中高生の体験学習の受け入れ
異年齢交流	青空保育、南小、東野小、堀江中との交流
地域拠点活動	青空保育、園庭開放、ちきんえっぐイベント、子育て相談
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

環境の違いに戸惑わないようスムーズに就学できるよう小学校と連携を取っていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月10日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	地域の小学校	2名予定	運動会見学 (南・東・東野・舞浜・浦安小)	スタッフ間交流
6月頃	東野小学校 5年生	14名予定	(東野小教室)	子ども間交流
12月頃	東野小学校	14名予定	(東野小学校)	子ども間交流
12月頃	南小学校 1年生	2名予定	授業参観 (南小学校教室)	スタッフ間交流
3月頃	近隣保育園	14名予定	(近隣保育園)	子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

要支援児だけでなく、気になる子として繰り返し園会議や共有の場で名前が挙がる児や保護者が支援センターなどに相談に行っている児に対して個別支援計画を作成し、月1回の会議の際、情報を共有し見直しする。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：15名予定)

毎月の会議で子どもの様子や対応について共有・報告・検討を行う。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

小学校への進級に際し、保護者の同意を得て支援センターや学びサポートなどの関係機関への相談を行い、安心して通える状況を作る。

養護教諭や発達支援担当スタッフ、教務主任など小学校スタッフへ引き継ぎがスムーズに行えるよう、該当施設を經由して行う。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂	隔週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	隔週(水) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育	月1回 公園名：しおかぜ緑道にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年6月15日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：13時30分

自己評価終了予定時刻：14時30分

自己評価実施予定者：相馬、小野、坂本、小池

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・全スタッフが基本活動の目的や意味を理解しながら日課、基本活動を丁寧に取り組む。大人同士がお互いの考え方、価値観の違いを認めて面白がり、誰でも生き生きと挑戦できる環境を作る。TRY&ERRORを大切にしながら、一人ひとりの強みや特性を生かした保育を行う。 ・登園してからの流れが身に付き、1日を通して自分の行きたいゾーンで過ごす。
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者は基本活動を行う意味を理解したうえで子どもにとって必要なことは何かを吟味しながら丁寧に取り組んだ。 ・週案会議等で児の様子を共有することで、全職員が今ある子どもの姿をありのまま受け止め、必要な支援を行っていた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者は指示をせず、子ども自身が自分で考えて行動する姿を見守る集団となる。 ・保育では危険と敬遠されがちな針、ナイフ、包丁などを使える環境を用意し、指導では身につかない経験と失敗を繰り返すことで生きる力を体得する。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に必要なコミュニケーションを取り、大人同士がお互いの考え方価値観の違いを認め、誰もが生き生きと挑戦できる環境を作る。 ・1日を通して自分で考えて行動できるよう、保育者は環境を整え、好きな遊びを十分に楽しみながら過ごせるようになる。
2025年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・大人も子どもも自らの意思に基づいて、主体的に行動する。 ・ドキュメンテーションを通じて、児一人ひとりの様子を全員が把握し、自分の言葉で伝えられるようになる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・学年、クラスに捉われず、子どもを多角的にみることで、全ての子どもの育ちをすべての保育者が把握し、その家庭環境や背景までも、共有して対応する。
2026年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・好きなことやりたいことだけではなく、園生活においてやらなければならないことを率先して行い、心も体も満たされる。 ・保護者、地域との繋がりを深め、選ばれる園、愛される園になる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・大人も子どもも主体的・対話的な深い学びを探究し続ける。 ・地域になくってはならない園づくりのため、関係機関と連携し、専門性を生かした子育て支援を行う。

以上

2024年度 ふじみ野どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

「成長を楽しむ」

子どもも大人も成長を感じられる施設運営を目指します。

- ケガをしない強い体を育てる
- 生死を知る
- 自分でできることを自分でする
- 感じたこと・考えたことを表現する
- すべての人との関わりから判断・行動を身につける
- 活動を選択し、自分で考えて行動する

① 子ども一人ひとりの育ちに合った適切な環境の中で、保育士が子どもの自ら学ぶ機会を排除する事なく、時には大人がやってみせ、生きる力のある心も身体も逞しい子どもを育てていく。また、ヤギの世話や畑仕事、焚き火などのホンモノの体験である原体験を通して、自分の力で健康で安全な生活をつくりだす力を養う。

② 保育所保育指針、保育理念、方針に則り、人との関わりを大切に子どもの様々な思いや表現を受容し、認め、共感する事を大切にしていく。子どもの内面の豊かさを育むため、自ら興味・関心のあるものを選び、主体的・自発的に生活や遊びを展開できる環境、安心し、集中して遊びこめる空間・時間の環境を創っていく。

③ 子どもも大人も安心して集える温かく愛に溢れる場所を目指し、すべての人や物に感謝の気持ちを大事にしていく。

④ 大人の子どもの関わり・言葉掛けが子ども達の内面の発達に影響する事を意識し、丁寧に関わりをもつ。関わり合いの中でのぶつかり合いや失敗体験を通し、思考・工夫し、感情のコントロールをする、非認知能力を育む環境づくりをしていく。

⑤ 一人ひとりの個性を大事にした保育実践を行ない、様々な人と関わりながら自分を認め、自己肯定感を育む場所となるよう、併設園を活かした多様なインクルーシブ保育を実践していく。

⑥ 子育て情報の発信・保育園の開放・育児相談等、保護者の立場にたち、利用者一人ひとりの目線においた関係をもち、皆で子ども達を育てていく。子ども・保護者・職員・地域に愛され選ばれる園を目指します。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	保護者と共に子どもを育て、人との関わり・日々の生活の中での発達の成長・育みを保障していく。
	実践予定内容	日々の保育実践を共有していく。ポートフォリオやドキュメンテーションの活用。
2	計画・ねらい	子どもの気持ちに寄り添い、個を認め、見守り、主体的に活動できるよう最後まで見届ける保育をしていく。
	実践予定内容	子ども一人ひとりを人間として捉え、人権を大切にし、安全に生活を送ることのできる様、危機管理意識をもつ。常にアンテナを張り、心を置き、

		流さない思考を大事にする。
3	計画・ねらい	心身発達の理解を深め、活発な対話のできるチームで一つのを創り上げる保育実践を行なっていく。
	実践予定内容	自分たちで学び、発表していく、アウトプットを繰り返し行う。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育の見える化
	実践予定内容	日々の保育、園内外での子ども達の様子・成長が伝わるような視覚的な情報の発信、送迎時の対応を通し、関係づくりに全職員で努めていく。
2	計画・ねらい	子ども達を共に育てる
	実践予定内容	「子どもを真ん中に」を捉え、子どもにとって何が大切か考え、共有し合える関係、関わり合うことを大切に互いに子どもを育てるパートナーであることを意識し、関係づくりをしていく。
3	計画・ねらい	利用者のニーズに合わせた選ばれる施設を目指す
	実践予定内容	いつでも気持ちの良い施設を維持する。保護者の目線に降りた対応を心掛ける。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の憩いの場の提供
	実践予定内容	地域のニーズを捉え、子育て世代の方同士の繋がりや多世代の憩いの場となるよう、園に留まらず、園外へ向かう支援を行なっていく。
2	計画・ねらい	子育て支援の相談や情報収集できる場
	実践予定内容	保育園行事への参加・交流等、大人も子どもも様々な体験ができる拠点とし、子育て支援の場としての役割を果たしていく。保育園と地域が共に支え合える、安心できる風通しの良い保育環境を構築する。
3	計画・ねらい	支援内容の発信と利用しやすい環境構成
	実践予定内容	ちきんえっぐ、つむぎカフェ、園の保護者の方々の見えるスペースに活動内容を掲示することや、ブログの発信を行う、つむぎのパンフレットを関係機関に置く。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

職員一人一人が自分の持っているスキルの向上を図ると共に、チーム力の向上を目指します。職員全員が自分事としての意識を高めることで、共に育ち、影響し刺激しあえる人材育成を行います。

1	計画・ねらい	子どもの心の動き、気持ちに気付く事のできる職員集団となるため、子どもの様子を日常で共有できる「対話的で個を尊重しあえる」環境を構築していく。チーム保育の実践。
	実践予定内容	あそびに夢中になれる環境をチームで考察し、保育者同士が積極的に情報共有・意見交換することで多面的に子どもを捉え、個々の理解を深める。
2	計画・ねらい	アウトプットを意識し「振り返り」をしっかりと行いファシリテーション能力を高める。個々の学びを深めると共に、園全体の質の向上を目指す。
	実践予定内容	実践報告会や発達の学びを個々に行う。聞くだけの研修から、誰もが学んで伝える研修意識していく。
3	計画・ねらい	職種（保育士、看護師、調理師、用務、事務）、経験、年齢にとらわれ

		ず、全職員が保育者として一人ひとりの子どもに向き合うことを基本とする。それぞれの専門性を存分に生かし、子どもの主体性を引き出す保育を行う。
	実践予定内容	各専門分野を理解した上で、色々な角度からの関りを実践していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環・環境への配慮、意識を育む保育
	実践予定内容	畑仕事（種まき・育てる・間引く・収穫）・食材の加工（梅・味噌・ケチャップなど）生き物の世話・命をいただく活動。
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行
	実践予定内容	給食調理における破棄を減らす、残渣やヤギ糞鶏糞の再利用など、「捨てる」ではなく「有効活用」の視点を持つ、コンポスト設置。
3	計画・ねらい	自然の豊かさを守る活動の実施
	実践予定内容	木育として木材を利用した活動の実施、園庭改良、木陰を感じる空間の維持、ペーパーレス化。

〈6〉リズムあそびの充実化

1	計画・ねらい	計画：園会議毎にリズム研修を行う ねらい：ケガをしない丈夫な体づくりを行う
	実践予定内容	基礎となるリズムの習得、集団リズムの習得を図る。 実践し振り返りを行う
2	計画・ねらい	計画：スキル講座の主催をする（リズムを行うモデル園となるよう） ねらい：主催する側となることで、手本となることを経験する（自身とルームのスキルUPにも繋げる）
	実践予定内容	園会議での園内リズム勉強会を行う。 実践と振り返りを行っていく。
3	計画・ねらい	計画：集団リズムを取り入れていく ねらい：ケガをしない丈夫な体づくりを行う中、他者と関りながら体を動かす楽しさを経験する
	実践予定内容	幼児を中心に集団リズムを取り入れていく。 乳児はわらべ歌や、触れ合い遊びを取り入れていく。

〈7〉ふじみ野の伝統を園と共につくる

1	計画・ねらい	荒馬踊り、太鼓を活動に取り入れていく 現在子どもたちがとても興味をもって取り組んでいる民舞のため、更に学びを深めふじみ野の特色となっていくよう活動に組み込んでいく
	実践予定内容	リズム体操の後に荒馬踊りを取り入れる。 現在は馬役を子どもが行っているが、跳人役やお囃子をする役も設け、自分の得意分野で参加できるようにしていく
2	計画・ねらい	運動会や地域の方に向けて披露する機会を設ける 披露することで自身に繋がる場の提供を行う

	実践予定内容	運動会での披露、地域の方を呼んで披露等、披露する場を作る ブログで活動の様子を発信していく
3	計画・ねらい	すべての職員が太鼓、笛、踊りのいずれかの知識を深める 職員全員が子どもに対し伝承者となれるようにする
	実践予定内容	園内勉強会として盛り込む。習得した職員が次の職員へ教えていけるよう、伝承していくことを大切に、知識を深めていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	18人	18人	20人	20人	20人	102人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	13人	看護師	1人	栄養士	3人	調理員等	-人
	再雇用スタッフ	-人	言語聴覚士	-人	臨床心理士	-人		
パート スタッフ	保育士	3人	補助	-人	調理	人	事務	2人
	用務	1人	嘱託医	2人				
	言語聴覚士	-人	臨床心理士	-人				

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	行事の振り返り実践報告、ディスカッション、研修計画に基づいた園内研修
給食運営会議	月1回	食育会議、食に関するエピソード共有、ディスカッション

事故防止委員会	月1回	自園の事故やケガの検証、他園の事故やケガの共
ケース会議	月1回	子どもの様子・状況の共有、対応について つむぎとの連携・情報の共有
リーダー会議	月1回	園長・リーダーによる園運営・各クラスの連絡・課題の抽出及び検討
各係・担当会議	随時	業務の見直しと改善、行事の進め方や進捗状況

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人全体での運営課題の解決・連絡・共有
施設長勉強会	月1回	園運営改善の為のディスカッション・学び合い
食育会議	年4回	法人全体での給食業務改善・検討 食育計画の振り返り・実践報告
保健会議	年4回	衛生面・感染症マニュアルの確認・検討 各園の実践報告
主任会議	年6回	各園の課題改善アクションプランの進捗確認と共有、マネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	コンピテンシー実践の共有、テーマに即した実践の共有と振り返り、エリア内での情報交換

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内の衛生管理や備品管理 安全管理 感染症予防・対策 管理点検
安全対策係	避難訓練・消火訓練・不審者訓練の計画・実施・振り返り 防災実施点検の管理・設備点検・事故防止点検の実施・振り返り
防火管理者	災害対策・消防計画に則り避難訓練の実施・自主点検の実施 避難訓練の計画・実施・振り返りを行う
食品衛生責任者	給食・提供食材の安全・衛生管理
畑係	年間畑計画に則り、子どもと共に行う畑活動の実施・計画の振り返り及び検討 畑の管理
生き物係	飼育動物の健康管理・飼育活動の意義の理解・計画の検討

	飼育環境整備
美化係	園庭・室内の清掃整備の計画・伝達

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者と共に計画・実行を行う 地域との連携・連絡窓口
保育環境整備係	園庭・室内の環境整備・どろんこサポーターズとの連携・整備作業の計画・実施
大井まつり係	保護者と共に計画・実行を行う 地域との連携・連絡窓口

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生理的欲求に応え、保育者情緒的な安定した信頼関係を築く ・個々の発達を把握し、十分な探索活動が出来る環境を保障し外界への興味に繋げていく
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども自らが、主体的・自発的に活動し、様々な体験を積み重ねる ・身近な人との応答のある安定した関わりの中で、十分に身体を使い、満足感の得られる遊びを充分にしていく
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の関わりの中で自分の思いを十分に表現し、相手の思いに気づく ・自ら興味関心のもてるような環境の中、発見や工夫を楽しめる遊びを充分に保障していく
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の関わりの中、達成感・充実感を味わう活動を行い、友達と力を合わせたり、助け合ったりする様々な経験ができる環境を整えていく ・関わりの中、様々な葛藤を経験し、自分で考え、工夫し自ら行動できる様、また自分たちで約束事やルールを決め、活動できるようにしていく
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2023年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	好きな物を、好きな場所で好きな人と食べる 食を通して、皆で食べることの楽しさの体験を、食を通しての「コミュニケーションを図る
	実践予定内容	縁側給食を通して、四季を感じながら食べる場所の提供 自分の食べたい物を自分で配膳できる環境設定
2	計画・ねらい	食の循環 0からの食を学ぶことで食を通して学ぶ
	実践予定内容	畑で野菜を育て、収穫、調理、食す、加工品をつくり調理に使用する等 畑仕事、調理活動を活動の中に取り入れていく
3	計画・ねらい	お腹が空いたという経験を通して食への意欲を高める 食事の時間だから食べるのではなく、お腹がすいたことを感じることで食に対する意欲を高められるようにする
	実践予定内容	リズム、散歩、園庭遊び畑仕事、ヤギの世話など、9:00からの活動に参加し沢山体を動かす

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い・うがい・歯磨き・性教育（年長児）等、実施
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～9月頃・・・プール熱・手足口病・ヘルパンギーナ・とびひ・溶連菌感染症 11～2月頃・・・インフルエンザ・流行性胃腸炎・RSウイルス感染症
発作・痙攣等の対応のための	ダイアップ・エピペン・・・現在預かりなし

薬の預かり	
エピペン使用できるスタッフ	年本日現在24名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員1名については3月24日までに受講予定1回
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	本日現在24名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員1名については3月24日までに受講予定
その他保健に関する取組	本日現在25名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	園会議にてロールプレイなど、学習会 年間2回 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検(定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検(簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年1回／6月

運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

自分で考え、自分で選択し、自分で行動できるように、環境を整えられるよう、常に職員で環境構成を話し合い、振り返り、改善を行っていく。また、来所されるすべての方が心地良いと感じられる環境を保つ。

1	計画・ねらい	計画：園庭、室内の整理整頓を徹底する ねらい：子どもたちが自然と片付けの習慣が身につくような環境を整える
	実践予定内容	大人が片付けている姿勢を見せていく 物の場所が分かるようにする
2	計画・ねらい	計画：環境整備委員会の設定 ねらい：美化意識を高められるよう、組み立てを行う
	実践予定内容	園庭、室内の環境整備や安全に考慮した環境を整えられるよう話し合い、全体に周知していく
3	計画・ねらい	計画：必要な物を揃える ねらい：必要な物を考え、揃え、管理する姿勢を皆が持つことで過ごしやすい環境を作る
	実践予定内容	必要な物を揃える、定期的な環境点検 教材の見直しを適宜おこなっていく

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	ベンチ・テーブル	園庭	毎日
2	ロープ登り	幼児室	毎日
3	かまど	園庭	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	消防計画に基づき、自衛消防隊を編成、避難訓練・消防計画を行う。火災・地震発生時の避難方法を確認。アプリを使用し、園児の情報を発信す
---	----	-------------------------------------------------------------------

		る
2	怪我・事故防止	事故防止チェックリスト・設備点検チェックの実施。怪我発生時、対応フローチャートに従う。ヒヤリハット報告書・インシデント報告書の検証をし、再発防止策に重きをおき、怪我や事故、保育の見直しを行う。職員同士の対話を大切に、情報の伝達・共有を職員皆で行っていく。上級者救命救急資格取得・消防職員による園内講習（AED・応急手当・エピペン・ダイアップ）を行う
3	防犯	年2回不審者訓練の実施、笛の携帯・送迎者の把握及びつむぎルーム・子育て支援センター利用者へ言葉掛け・インターフォンでの確認を行い、地域との連携をし、安全・防犯への意識づけをしていく
4	光化学スモッグ	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・注意報等を把握し、発生時には発生時対応を行政連絡、対応をする。園児・職員は室内で過ごす、健康状態の確認をする
5	その他	遠足時、バスを利用する際の児童の発達の把握をし、乗車が適切であるかの検討・計画の立案をし、乗車時のルールの確認や意識づけをする。リスクマネジメント会議・各リーダー会議・事故防止委員会を中心として行う

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

1	実践予定内容	・地域の中の保育園という意識や次世代育成の観点から積極的に受け入れを行い、実習生や生徒一人一人の様子に合わせた温かい受け入れの体制を整えていくことを職員全体で意識の底上げを図る。
2	実践予定内容	・コミュニケーションを取り、社会の中で関わりが持てるよう、育成をしていく。
3	実践予定内容	・中学・高校の職場体験を受け入れ、事前に学校との連携を図り、体験活動を通し、子どもとの関わりの中で、様々なことを感じてもらえることのできる様にする。また、今後も繋がれる環境をつくっていく。

7. スタッフ育成と研修計画

① 責任感を持つ。

計画、行動に気づき・ねらい・願いをもって行い、それらを言語化していくスキルを身に着ける。

② 事業分担の見える可を行う。

スタッフ一人ひとりの業務が見える化し把握する事で、スムーズな業務遂行と残業時間のマネジメントをスタッフ間でも意識して行う。

③ ファシリテーション力の向上

個々が自身の考えを言語化し発信する機会を、園会議を中心に作っていく。それを実現するためにもファシリテーション力を向上できる研修を行っていく。

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (= 保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月5日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 法人理念研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの安全な環境づくりに特化し、法人マニュアルの理解・確認をし、基本に沿った対応が全職員できる様にする。 ・ 小グループによるディスカッション及び発表
5月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育理念研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの発達に特化し、法人マニュアルの理解・確認をし、基本に沿った対応が全職員できる様にする。 ・ 小グループによるディスカッション及び発表
6月7日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境研修 ③ 水の事故・プールあそび	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境づくりとはを基礎からスタッフみんなで学び合う ・ マニュアルの確認・理解をし、プール遊びの役割分担・保育の見直しを図る
7月5日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② あそび研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の引き出しを豊かにするため、多角的にアイデアを出し合い研修を行う
8月9日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② テーマに沿った勉強会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に課題や学びたいテーマを出し合い、小グループによるディスカッションをしながらインプットアウト

			トピットを意識して学び合う。
9月6日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② テーマに沿った勉強会	・事前に課題や学びたいテーマを出し合い、小グループによるディスカッションをしながらインプットアウトピットを意識して学び合う。
10月4日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② テーマに沿った勉強会	・事前に課題や学びたいテーマを出し合い、小グループによるディスカッションをしながらインプットアウトピットを意識して学び合う。
11月8日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② テーマに沿った勉強会	・事前に課題や学びたいテーマを出し合い、小グループによるディスカッションをしながらインプットアウトピットを意識して学び合う。
12月6日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② テーマに沿った勉強会	・事前に課題や学びたいテーマを出し合い、小グループによるディスカッションをしながらインプットアウトピットを意識して学び合う。
1月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育実践の振り返り	・自園の弱みを改善し、良かったところを評価し、次年度に向けて同じ方向で保育していくためのディスカッションを行う。
2月下旬	18:00~21:00	策定会議①	運営方針
3月2日	9:00~18:00	策定会議②	園方針・行事計画・新年度準備

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日~30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											

リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
デモンクインターシップ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域との関係を深め、町会との関係を密にして地域の行事にも積極的に参加し、地域の中の保育園を目指す。又、近隣園や近隣施設との交流の機会を持っていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：亀久保西公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	・高齢者との交流（発達支援センター訪問・世代間交流開催・伝承遊び会実施） ・中学校体験学習受入れ
異年齢交流	・小学校・他保育園・子育て支援センター利用者との交流 ・つむぎとの交流
地域拠点活動	・青空保育・ちきんえっぐ・子育て支援拠点・子育て相談等 ・町会の交流（防災避難訓練参加など）
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

就学時の成長発達の情報共有・就学後の繋がりも見据え、アプローチカリキュラムを基に、話し合いの機会をもっていく。

要録持参時に丁寧に細かく連携をもつようにし、小学校行事参加をし、交流を図っていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を●月●日（●）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	三角小学校 1年	20名予定	校庭交流（三角小校庭）	子ども間交流
6月頃	近隣小学校	20名予定	どろんこ祭り（当園 幼児保育室）	子ども間交流
1月頃	東原小、三角小、西原小、 鶴ヶ丘小、亀久保小、福 岡小、大井小、西小、さ ぎのみや小 1年	各2名予定	授業参観（各小教 室）	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

子どもの様子・発達状況を把握し個別計画の立案、具体的且つ個の発達を大切にしたい関わりを職員全体で共有していく。個を認める保育・異年齢保育・インクルージョン・主体的活動を繋げ、計画の立案をしていく。個々のよいところに気づくことのできる関わり合い、自己肯定感を育む環境づくりをし、人との関わりの中で人と支えあい、社会参加することのできる力を育む環境・保育実践を行う。

〈2〉毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定 参加者：10名予定）

丁寧な関わりを必要とする発達が緩やかな子への関わりを中心とした計画を立て、実践で有効なPDCAを取り入れ、職員皆での共通理解・情報の共有を行い、保育を展開していく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

就学児の様子状況を学校、校長を中心に養護教諭・発達支援担当・1年担当教諭へ細かな引継ぎを行う。（手立て・家庭状況等）教育委員会・連携施設通所が必要と判断した場合、保護者の了承を得て、関連機関との相談を行い、連携をもつ。

1.1. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(木) 10:00~12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00~12:00
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名: 亀久保西公園にて開催

1.2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年10月25日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 14時00分

自己評価終了予定時刻: 14時00分

自己評価実施予定者: 施設長、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日: 8月23日

1.3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	併設園としてインクルーシブ保育の実践を行う。混ざり合い、話し合いを重ね、子どもたちが遊び込める環境の充実、保育の楽しさを実感できる計画を立案。
	振り返り	実践と振り返りを繰り返しながら、初心を振り返りねらいをも

		って計画出来るよう研修を行った。環境が変わることで、子どもたちの動きに変化がみられることを目の当たりにし、次への願いが大きくなった一年となった。
--	--	--------------------------------------------------------------------------

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・気づきを言語化して、ねらい・願いを持った保育ができる職員集団となる。 ・子どもも大人も楽しめる環境構成を整える。
	重点施策	<p>子どもたちが、じっくり集中して意欲的に遊び込むのに必要な環境を構成し、常に振り返れる環境を構築する。</p> <p>実践・振り返り・学びの共有をシステム化していく。</p> <p>深掘りした発達の学びができる環境を構築する。</p>
2025年度	目指す姿	・インクルーシブ保育の実践をし、交じり合いの最高品質を構築する。
	重点施策	併設園でしかできない事に挑戦し続け、専門性を学び合い担当の壁をなくしていく。
2026年度	目指す姿	・担当の壁を越えた保育計画・実践を構築し、地域の子育ての拠点として、子育ての楽しさを伝える園となる。
	重点施策	園全体で、どのクラスでも計画が立てられる様な保育を実践し、子どもも大人も楽しめる園活動を、地域にも広めていく。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：ふじみ野どろんこ保育園 施設長 内田あゆみ

2024年度 武蔵野どろんこ保育園 事業計画書

Ⅰ. 基本方針

- ・子育て理念「にんげん力。育てます。」
- ・子育て目標「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」
- ・インクルーシブ保育：発達支援つむぎ 武蔵野ルームと連携し、「一人ひとり丁寧に」「みんなと一緒に生活する」ことを目指します。
- ・Doronkoの子育てで身に付く6つの力：①「ケガをしない強い体を育てる」②「自分でできることを自分でする」③「全ての人との関わりから、判断、行動を見につける」④活動を選択し自分で考えて行動する」⑤「生死を知る 食の循環を知る」⑥「感じたこと・考えたことを表現する」を育める保育を実践します。6つの力を身に付け「生活力の体得」に繋げるために、たくさんの物的環境を整備します。
- ・「10の姿の体得」：大人は勉強会を行いながらインプットとアウトプットを繰り返し、子どもたちに良い環境を整え、丁寧に関わっていきます。
- ・どろんこ会グループの日課：8時15分より「さくらさくらんぼリズム」「座禅」「雑巾がけ」「戸外活動9時出発」「畑仕事」「生き物の世話」を実践します。
- ・大人のにんげん力UP：園内研修を充実させ、インプットしたことをアウトプットしていく場を企画し自己変革に繋がります。「コンピテンシー」を追求しながら保育のスキルを高めます。
- ・園内環境の整備：保護者・来訪者がいつ見ても整理整頓されている保育園を保ちます。
- ・ホスピタリティ：相手の気持ちに寄り添い、対応できるスタッフ集団にしていきます。
- ・畑改革：発達支援つむぎ 武蔵野ルーム、就労支援つむぎ 武蔵野ルームと連携をとりながら、年間通じて畑を活かし、食の循環に繋がっていきます。
- ・自律運営：適切かつ効率的な保育シフトを作成し、自園スタッフで自律的に園を運営いたします。

〈Ⅰ〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	インクルーシブ保育…個性の違いを認め合い、その違いを踏まえたうえでどのような関わり方をするのが望ましいか生活の場で学び、今後の社会で生き抜くうえで必要な力の基盤を育てる。 他者との協同 ②感情コントロール ③目標の達成 ④成長を楽しむ
	実践予定内容	つむぎ職員を交えたケース会議 子ども観の共有（子どもについて話しあう） 子どもの成長の共有（成長を楽しむ）
2	計画・ねらい	どろんこ会グループの日課・基本活動へのこだわり 子どもたちが自ら活動を選び行動し毎日充実した日々を過ごしている。
	実践予定内容	日課8：15開始、戸外活動9：00出発を行う。畑仕事を日課にする。 園会議（日課、基本活動の学びを深める）
3	計画・ねらい	経験の選択をすることができる物的環境の設定を行う。
	実践予定内容	室内、戸外共に子どもたちが自分で触れてあそべる環境を用意する。

		様々なものを用意していく。
--	--	---------------

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	朝の受け入れ・お迎え対応の充実を行い保護者との信頼関係を築く。
	実践予定内容	保護者の立場に立ち、笑顔で受け入れ、お迎え対応ではエピソードを伝えていく。(タイムラインの充実)
2	計画・ねらい	個人面談実施(随時・月間)
	実践予定内容	保護者一人ひとりの気持ちに寄り添い、話し合える機会を作っていく。7～8月頃個人面談月間を設けていく。
3	計画・ねらい	保護者同士の交流を深める。
	実践予定内容	保護者懇談会、どろんこ祭り、運動会、生活発表会等で、保護者交流が活発にできるように仲立ちをしていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	保育所体験、自然食堂、自然学校、芸術学校、寺親屋、青空保育の実施。
	実践予定内容	毎月の地域子育て支援を周知して、立ち寄りやすい保育園を目指していく。保育所体験では保護者と一緒に保育園生活を体験してもらい、自園の良さを知ってもらう。
2	計画・ねらい	小中高生職業ボランティアの受け入れ実施。
	実践予定内容	保育士の仕事をみてもらう機会を設けていく。
3	計画・ねらい	地域子育て世帯への育児相談
	実践予定内容	発達、保健衛生、離乳食等に関する悩みを保護者で共有できる場、保育士や子育て経験者の立場から気軽に相談できる機会を提供する。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	発達について
	実践予定内容	発達支援つむぎ 武蔵野ルームの職員が講師となり勉強会(毎月)を行う。
2	計画・ねらい	「10の姿の体得」の勉強会を園会議内で行う。(毎月)個人またはクラスで担当する。
	実践予定内容	「10の姿の体得」を考え、掘り下げて具体的なアクションプランを話し合い、実践していく。
3	計画・ねらい	園長大学・保育士大学講座勉強会
	実践予定内容	個人またはグループで視聴を行い、講座の感想や講義内容について2～3人の少人数でディスカッションをすることを習慣化させ、学びを深める。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を知る機会を作る。
	実践予定内容	梅ジュース作り、梅干し作り、味噌作り等の食材加工体験。魚の解体し食す体験。コンポストで、堆肥作り体験（うさぎの糞）。
2	計画・ねらい	給食残渣を2023年度から70%削減する。
	実践予定内容	給食残渣を毎日測定し記録検証を行う。給食運営委員会で話し合い、残渣量を減らす対策をたて実践していく。

〈6〉「日課にこだわる」（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	さくらさくらんぼリズム8：15開始。
	実践予定内容	伴奏者を固定し毎日同じ環境で行えるようにしていく。
2	計画・ねらい	散歩9時出発。
	実践予定内容	身支度を早く行い、出発できる環境を作っていく。
3	計画・ねらい	畑仕事。
	実践予定内容	「毎日畑に行き畑仕事をする」ことを習慣化していく。

〈7〉10の姿の体得（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	保育者が毎月園内研修で学び合う。
	実践予定内容	保育者が「10の姿」を理解し、保育に繋げていく。
2	計画・ねらい	決まり（毎日の仕事）を守ることを子どもたちに教えていく。
	実践予定内容	日課は全員で行えるように声をかけ、保育者が一緒に行っていく。
3	計画・ねらい	言葉による伝えあい出来る環境を整えていく。
	実践予定内容	幼児組は子ども会議を行い、話し合いの機会を増やして行く。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	15人	18人	20人	20人	20人	99人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	13人	看護師	1人	栄養士	3人	調理員等	1人
	バス運転手 用務	1人		人		人		人
パート スタッフ	保育士	3人	用務	1人	調理	0人	事務	1人

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	保育の懸案事項、園内研修、コンピテンシー、行事内容の確認、ディスカッション等
給食運営会議	月1回	喫食状況、食育計画、アレルギー児確認、献立振り返り、給食残渣量の前年比等
事故防止委員会	月1回	事故記録簿、インシデント、ヒヤリハットの検証、再発防止策検討等
ケース会議	月1回	支援計画（振り返り、来月の支援計画）
各クラス会議	週1回	クラス運営について（週案、月案の立案）
昼礼	週1回	各クラス懸案事項共有、各連絡事項の共有
各係、行事会議	随時	各係、行事企画等の詳細検討

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	本部より園運営に関する事項の確認

施設長勉強会	月1回	施設長としての保育における課題点のディスカッション
食育会議	年4回	園の栄養士、調理師、施設長による食育の質をあげる会議
保健会議	年4回	看護師、施設長による保健活動の質をあげる会議
主任会議	年4回	各園の課題改善アクションプランの進捗確認と共有。マネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	園代表職員による保育内容に関する研修

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
美化衛生管理係	施設内の衛生状況の確認、および徹底
図書係	園内の図書の管理、必要図書の購入
防火管理者	火災予防と有事の際の避難訓練計画及び実施
食品衛生責任者	食材の発注および品質管理
畑係	年間計画をもとに畑の管理、必要物品の手配
生き物係	生き物世話全般の計画、実施、餌等の必要物品の手配
卒園アルバム係	卒園アルバム内容の検討、実施、作成

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画、実施。保護者への呼びかけ。どろんこサポーター募集
運動会係	運動会の計画、実施
生活発表会係	生活発表会の計画、実施。

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期	・保育士とゆったりとした関わりの中で、安心してひとりあそびを充
------	-----	---------------------------------

	0～2歳児	分に楽しむ。 ・よくあそび、よく食べ、よく眠る。 ・戸外活動を充分に行う。
	下半期 0～1歳児	・室内や戸外で好きなあそびを存分に楽しむ。 ・保育士との信頼関係のもと自我が芽生え、自分の要求や思いを伝えようとする。
幼児保育	上半期 3～5歳児	・友だちとの関わりを通し、自分の気持ちを言葉や行動で表現しながらあそぶ。 ・自分で活動を選択し、自分で考え行動しながら、好きなあそびを存分に楽しみ達成感を味わう。
	下半期 2～5歳児	・自分の要求や思いを言葉や行動で表現しながら、友だちの要求や思いを受け入れようとする。 ・自分で考え行動しながら、何事も意欲的に取り組み、達成感を味わう。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食べることの楽しさと食への意欲を育てる。
	実践予定内容	ゆったりとした食事時間にできるように、環境を整える。
2	計画・ねらい	噛む力や食べる意欲を育てる。
	実践予定内容	子どもたちの食べる姿を見て、食材の大きさや固さ、盛り付け方を配慮する。
3	計画・ねらい	空腹のリズムを確立し、食に対する意欲を育てる。
	実践予定内容	お腹が空いた状態で帰って来られるように、散歩9時出発を目指し、午前中めいっぱい活動する。食物残渣を減らせるよう残さず食べるよう声をかけ見守っていく。
4	計画・ねらい	食材の大切さや感謝の気持ちを育む。

実践予定内容	畑仕事を通して食の循環の直接体験を行う。
--------	----------------------

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（5月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導・歯磨き指導・熱中症対策・生活リズムについて・性教育
流行が予測される感染症	<p>通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施</p> <p>7. 8月頃・・・伝染性膿痂疹、手足口病、流行性角結膜炎、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、水いぼ、ヒトメタニューモウイルス</p> <p>7～3月頃・・・RSウイルス感染症</p> <p>11～3月頃・・・ウイルス性胃腸炎(ノロ・ロタウイルス感染症)、インフルエンザ</p>
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアアップ・・・1名より預かり済み／事務所に保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在25名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員●名については9月30日までに受講予定
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	AED設置なし（武蔵野徳洲会病院にあり） 本日現在1名が、研修受講し、修得済み 未受講の職員が6月30日までに受講予定
その他保健に関する取組	<p>園児の健康状態を把握。既往歴・予防接種歴の把握。</p> <p>水あそびの際の安全・衛生管理。</p> <p>健康保険証・乳児医療証の有効期限確認。</p> <p>身体測定毎月20日。</p> <p>園会議にて職員への保健関係の情報提供・指導。</p> <p>新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。</p>

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
------	---------------	-------------------

	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回/6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回/15日
	不審者侵入訓練	年2回/6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回/5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回/4・7・10・1月の25日
	フロン点検(簡易)	年4回/4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿/毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回/5日/全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月
	身長体重測定	毎月1回/20日
	児童健康診断	内科健診 年2回/5・11月 (東京都0歳児のみ年12回実施) 歯科健診 年1回/6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	乳幼児の育ちを捉え、環境設定や環境構成を具体的かつ意図的に整え、継続的に、点検・整備・改善を行い必要に応じて新たに製作していく。
	実践予定内容	園会議で子どもの発達について学ぶ時間を設け環境について話し合う。
2	計画・ねらい	子どもが自ら環境に関わりながら、好きな場所で好きな仲間と遊び込む経験ができるように環境づくりをする。
	実践予定内容	子どもの姿をテーマにした会議を開催していく。
3	計画・ねらい	必要なものが必要な場所、必要な量、整理整頓されている状況を維持し、必要な時にそれが使えるようにする。

実践予定内容	整理整頓の視える化をしていく。 衛生管理、清掃の役割分担をしていく。
--------	---------------------------------------

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	乳児室 家	2階乳児室	毎日早番業務
2	乳児室 棚	2階乳児室	毎日早番業務

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	避難訓練	毎月一回避難訓練を実施。火災、地震発生時の避難方法を確認検討
2	ケガ事故防止	ハザードマップの更新をしながら、常にケガや事故防止に努めていく。 ヒヤリハットでの気づきを持ち、ケガにつながる前に防止できるよう、危険察知能力のスキルをあげていく。 インシデント報告書、事故記録簿は、全職員が直ぐに確認し、再発防止が出来るようにしていく。 事故防止委員会で話し合った内容の確認は、直ぐに行い、他園や他クラスで起こったことを他人ごとととられないように、再発防止に努めていく。
3	防犯	年2回不審者侵入訓練を実施。不測の事態に備える。保育者の動きや合言葉の確認をする。
4	光化学スモッグ	西東京市の情報をもとに、園児の室内待機・保護者へのお知らせ等徹底していく。
5	情報共有の徹底	全ての事項の情報共有を強化していく。（昼礼、園会議、緊急事故防止委員会、事故防止委員会）

6. 実習生・中高生の受入

積極的に受け入れを行い、実習生や小中高生の一人ひとりの様子に合わせて丁寧に援助や指導を行っていく。

〈1〉今年度方針・テーマ

次世代育成の観点から、積極的に受け入れを行い、実習生や生徒一人ひとりの様子に合わせて具体的に援助・指導を行う

新人研修

新人社員研修

スタッフ研修

- 入社時オリエンテーション
- 現場OJT研修
- 保育品質マニュアル研修
(事務研修・ケガケーススタディ研修含む)
- コンピテンシー研修
- 新人社員研修
→ 会場研修
- 系列園保育実地研修

保育スキル研修



←お迎え
対応研修



←避難訓練研修

- 全社員研修 (年1回)
- 園内研修 (月1回以上)
- 保育スキル研修 (エリア別)
- リーダー養成研修 (9~2月)
- 業務改善研修 (月1回)
(= 保育の質を上げる会議)
- 施設長勉強会 (月1回)
- デンマークインターンシップ (年1回)
- コンピテンシー自己採点 (月1回)
- 人権チェック (4月・10月)
- 外部研修
- 上級救命救急資格取得講習

1	保育士養成校の実習生受け入れ	オリエンテーションを細かく実施し、実習への参加意欲を高める。担当は決めるが、誰に質問してもいいような雰囲気づくり、また、それに対応できるように職員のスキルを上げていく。
2	小中高生の職業体験受け入れ	保育の仕事の楽しさややりがい伝わり、将来の職業選択肢の一つとなるように受け入れ、勧めていく。
3	各種ボランティアの受け入れ	地域に開かれ、根差した保育園となれるように可能な限り受け入れ地域の方々とのつながりを深めていく。
4	特別支援学校からの実習受け入れ	インクルーシブ生活の一環として特別支援学校からの受け入れを率先して行っていく。

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 救命救急講習	① 自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ② 救命救急講習 (消防署)
5月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 健康な心と体	① 自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ② 10の姿勉強会
6月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺の事故対応・対策	① 自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。

			②水辺の事故対応・対策
7月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 自立心	①自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ②10の姿勉強会
8月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 協同性	①自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ②10の姿勉強会
9月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 道徳性・規範意識の芽生え	①自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ②10の姿勉強会
10月18日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 社会生活との関わり	①自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ②10の姿勉強会
11月15日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 思考力の芽生え	①自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ②10の姿勉強会
12月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 自然とのかかわり・生命尊重	①自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ②10の姿勉強会
1月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 数量・図形・文字等への関心・感覚	①自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ②10の姿勉強会
2月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ① 言葉による伝えあい	①自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ②10の姿勉強会
3月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 豊かな感性と表現	①自己採点の共有とともに課題点を抽出し、アクションプランをたてる。 ②10の姿勉強会

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
--	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターンシップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の方と積極的に関わり、いつでも来てもらえる保育園を目指していく。
小中学生の職業ボランティアを積極的に受け入れていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：おおぞら公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人施設と交流を深める。 つむぎ武蔵野ルーム（就労支援・課後デイ）つむぎ田無ルームとの交流を深める。
異年齢交流	小学生との交流。 小中高生の保育所体験受け入れ。
地域拠点活動	実習生の受け入れ、職業体験、研修生の受け入れ。

	ボランティアの受け入れ。
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣の就学先小学校との連絡を取りながら、就学に向けて保育園側から発信していく。
園児、保護者が安心して就学できるように、アプローチカリキュラムを作成、実施をしていく

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月22日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	上向台小学校	20名予定	(上向台小学校校庭)	学校の中休み見学
11月頃	上向台小学校	20名予定	(上向台小学校)	展覧会見学
2月頃	上向台小学校 1年生	20名予定	学校体験	学校を知る

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

全職員が要支援児の情報を共有し、適切な支援が出来るようにしていく。
毎月の園会議、クラス会議で子ども達の様子を伝えあい支援計画を常に見直していく。
発達支援つむぎ 武蔵野ルームと連携をとり、アドバイスをもらいながら作成・見直しする。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：担任、乳児クラス、幼児クラス、つむぎ職員、主任、看護師、施設長 7名予定)

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

小学校の引継ぎは、児童指導要録、また各小学校の担当者との面談を行っていく。

1.1. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
自然食堂…親子ランチ交流	月2回 10:00~12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月1回 10:00~12:00
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：おおぞら公園にて開催

1.2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

2024年度受審予定。

〈2〉園による自己評価の実施

2024年12月16日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：14時00分

自己評価終了予定時刻：17時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任、乳児リーダー、幼児リーダー、事務、調理

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1.3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	日課、保育内容、環境設定、表現、長距離散歩、さくらさくらんぼリズムなどの見直し。 散歩では長距離散歩に力をいれた。 インクルーシブ生活で子どもたちからの発信が増えてきた。 畑改革をする。
	振り返り	保育内容では、散歩9時出発がもっと習慣化出来るよう、来年度も取り組んでいく。 さくらさくらんぼリズムの8:15開始は定着した。 長距離散歩は、年度末に向けて歩ける距離を伸ばしていくことが出来た。 畑の日課は毎日行うことに課題があるため、引き続き日課になるようにしていく。コンポストを成功させる。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	①インクルーシブ保育（つむぎ連携3年目） 子どもたちが混ざり合う中で活動を選び、たくさんの経験やあそびを楽しんでいる。 ②大人のにんげん力UP 「理想の自分」になり質の高い保育を行っている。毎月園のコンピテンシー目標が達成できる集団になる。 ③地域交流 地域の方が、園見学、園庭開放、保育所体験と毎月来てもらえる園になっている。子育て支援活動を地域の方に知ってもらい、参加者を増やす。
	重点施策	①子どもたちが混ざり合う中で、大人は子どもたちにたくさんの物的環境を保障している。 ②スタッフの質をあげる為、園内研修ではインプットとアウトプットできる集団になっている。 ③地域の子育て支援の園として活動していることを地域の方に周知していく。チラシを地域の方に手渡しできるようにしていく。
2025年度	目指す姿	①インクルーシブ保育（つむぎ連携4年目） 子どもたちが混ざり合う中で生活力の体得をしながら、たくさんの体験を楽しんでいる。 ②大人のにんげん力UP 学び直し学び続けるスタッフ集団になっている。 地域交流 ③近隣学校から職業体験の受け入れ、子育て支援など地域との繋がりを強めていく。
	重点施策	①子どもたちが混ざり合う中で、一緒に長距離散歩にも挑戦している。 ②学び直し、学び続けるスタッフ集団になり、自分からアウトプットの機会を作っていく。 ③近隣小中学校からの職業体験の受け入れを行いながら、保育園での役

		割を伝えていく。特別支援学校からの職業体験の受入れも積極的に行っていく。子育て支援活動の集客の為、チラシ配布を行う。
2026年度	目指す姿	<p>①インクルーシブ保育（つむぎ連携5年目） 子どもたちが混ざり合う中で、子どもが好きなものを選択し、あそべる環境が定着している。</p> <p>②大人のにんげん力UP コンピテンシー追求をしながらスキルアップしている。</p> <p>③地域交流 子育て支援の自然食堂や自然学校を知ってもらい参加してもらえる園になる。</p>
	重点施策	<p>①子どもたちが混ざり合う中で、子ども自らいつでも経験が選べる物事ができる物的環境を整えていく。</p> <p>②児童発達について学び合えるように、つむぎスタッフと共に勉強会を行っていく。</p> <p>③地域の子育て支援拠点として利用が増えるように自然食堂や自然学校についてチラシを配布していく。小中学校や特別支援学校からの職業体験の受入れを積極的に行えるようにチラシ配布や学校へ連絡をしていく。</p>

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：武蔵野どろんこ保育園 施設長 今村真里

2024年度 メリー★ポピンズ市川ルーム 事業計画書

1. 基本方針

1. 自分で考え行動する

保育者は子ども一人ひとりの人権を尊重し寄り添いながら、ひとつでも多くの「ホンモノの経験の機会」を用意していく。その為に必要な発達を理解した保育計画の作成や物的環境の設定を実現していく。自分には何が出来るかを常に考え、意見交換や学びの機会を通じて自己研鑽に努める。

子どもたちは自分で活動を選び、日々trial&errorを重ねていく。

上手くいかない時に諦めずに継続する気持ちや、他者と思いのぶつかり合いが生じた時の折り合いのつけ方を、経験を通して身につけていく。

2. 生活力の体得

保育者は基本としている日課・異年齢保育・散歩9時出発などを実施する。基本の保育活動の理解を深め、子どもの発達への関係性などを考慮した保育が行えるよう質上げを図る。

子どもたちは日常で繰り返される、生活・遊び・労働から「生きる力」を身につけ主体的に生活する力を育む。

3. 思いを伝え合う・表現する

保育者は子どもの育ちや保育の計画・振り返りを共有し、語り合う集団になる。

保育者は子どもの言葉や行動に丁寧に向き合い、豊かな対話と信頼関係の構築を図る。

子どもたちは身近な人に親しみを持ち、言葉を交わす喜びや挨拶の大切さを身につけていく。

子どもたちは話し合いの場を通して、自分の気持ちを伝える力を育むと共に、相手の意見や気持ちにも目を向け理解しようとする力も身につけていく。

4. 食の循環・命をいただく活動の実践

保育者・調理員は「命あるものを食している」ということを、魚をさばくなどの体験を通して伝えていく。

日課の畑仕事で自ら育てたものを調理して食し、食への興味関心を高める。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	見守る保育・継続する保育の実践
	実践予定内容	保育所保育指針・法人理念の理解を深める為の研修を園会議で行い、保育計画・保育内容の充実を図る 指示するのではなく、子どもが自ら考えて行動する機会を保障する。
2	計画・ねらい	丁寧な保育実践
	実践予定内容	それぞれの基本活動と子どもの発達の繋がりを理解し、日々確実に実践していく。 発達に即した体育指導・音楽指導を行う為に、計画を再考して実践する。
3	計画・ねらい	伝え合う力・表現する力を育てる

	実践予定内容	子どもたちが自分で決めて行動する力が身につくよう、日常的に話し合いの場を設けていく。 また話を聞く態度や相手の意見にも耳を傾け、折り合いをつけていく経験を保障する。
--	--------	---------------------------------------------------------------------------------------

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

思いやり、誠実さ、謙虚さ、感謝の気持ちを常に持ち、信頼関係を深めていく。

保護者一人ひとりの気持ちの寄り添いながら、子どもたちの成長を喜び合うことの出来る関係作りをしていく。

1	計画・ねらい	明るい挨拶と誠実な対応
	実践予定内容	保育者は常に笑顔で明るい挨拶を心掛ける。 園での様子が手に取るようにわかるよう、その子ならではの姿や成長を具体的に伝えていく（3分間お迎え対応）。 保護者面談の機会を作り、安心してコミュニケーションが取れるような環境を整えていく。
2	計画・ねらい	常に整理整頓を心掛け、気持ちの良い選ばれる施設を作る。
	実践予定内容	棚の上に無駄な物が無く、いつも気持ちの良い環境が整っているようにする。清掃点検表を活用し、確実に清掃・整理整頓を実行していく。
3	計画・ねらい	保護者同士が繋がりを持てるような活動の実践
	実践予定内容	保護者同士の交流や親睦を深める機会を作る。 （どろんこサポーターズを募り、保育者と共に行事を運営する。保護者懇談会で懇親の場を設ける。）

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた施設として交流の場となる
	実践予定内容	青空保育や園見学にいらした方に園開放の機会をお伝えしたり、ポスターを掲示したりし、いつでも遊びに来られることを周知していく。
2	計画・ねらい	ちきんえっぐの参加者数を増やす
	実践予定内容	ちきんえっぐ活動計画を、地域の方が足を運びたくなるような魅力的な物とすると同時に、ちきんえっぐだよりを掲示・配布するなどの広報活動を行い、参加者の増加を目指す。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフが子どもの育ちを語り合う集団になる
	実践予定内容	スタッフは日常的に保育を語り合い、子どもの理解を深め、共に成長を喜んでいく。保育の楽しさ・やりがいを共有し、園全体のボトムアップを目指す。
2	計画・ねらい	学び続け、個々が成長していく集団になる
	実践予定内容	園長大学・保育士大学の視聴を進める（各自年間10回の受講を目指す）。 受講内容や学びを会議で発表し、講師としてスタッフに共有する。
3	計画・ねらい	10の姿の理解を深め保育計画と結びつける

	実践予定内容	中堅・リーダースタッフが会議や昼礼などで10の姿についての研修講師を務め、スタッフ全員で学びを深めていく。 10の姿を盛り込んだ体育指導・音楽指導のねらいを作成し計画的に実践していく。
--	--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	園内の整理整頓に努め、気持ち良く過ごすことが出来る園を目指す
	実践予定内容	清掃チェック担当者を決め、園内の整理整頓に努める。
2	計画・ねらい	給食残渣の削減と調理くずの有効利用の実践
	実践予定内容	毎日の畑仕事で育てた野菜を調理して食すことで、食への興味関心を高め給食残渣の削減へ繋げていく。 調理くずはコンポストを使って堆肥にし、有効利用する。

〈6〉日課と基本的活動の丁寧な実践（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	日課・基本の活動と子どもの育ちの繋がりを深く理解し、日々丁寧に取り組んでいく
	実践予定内容	会議や昼礼でリーダー層のスタッフが講師となり日課や基本の活動について学び、理解を深めていく。 日課や基本の活動を全スタッフが日々丁寧に実践し、子どもたちがより多くの「ホンモノの経験に機会」に出会えるようにしていく。 体育指導・音楽指導の計画を再考し全スタッフで学び直すことで指導の充実を図る。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	8人	10人	12人	12人	12人	60人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	0人	栄養士	3人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	4人	補助	1人	調理	0人	事務	1人
	用務	0人	嘱託医	2人				

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	各クラスの様子、行事進捗、園内研修
給食運営会議	月1回	クッキング内容の共有、アレルギー対策、食育
事故防止委員会	月1回	当月の事故怪我の振り返り、分析、再発防止策話し合い
ケース会議	月1回	要支援児の姿、個別計画、振り返り
昼礼会議	毎日	子どもについての伝達、インシデント、ヒヤリハット報告
担任会議	週1回	担任同士の情報共有、相談、計画立案
リーダー会議	月1回	園全体の問題の共有、課題検討

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各書類提出や運営についての確認事項
施設長勉強会	月1回	保育園の課題検討をしながらスキルアップを目指す
食育会議	年4回	マニュアルの見直し、園の取り組み発表
保健会議	年4回	感染症対策、衛生管理
主任会議	年4回	主任としてのスキルアップ、園運営の課題検討
子育ての質を上げる会議	月1回	各課題についての事例検討、講義

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生改善と疾病の予防措置、保育所の衛生全般の管理
安全対策係	設備点検、インシデント、ヒヤリハットの分析
防火管理者	防火管理に関わる消防計画の作成、防火管理上必要な業務を計画的に行う
食品衛生責任者	食品の取り扱いに関する業務、施設の衛生管理
畑係	畑の環境整備、植え付け、収穫管理
生き物係	生き物の飼育、管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りのサポート
地域との連携係	地域との連携および子育て支援に関することを立案し実践

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生活リズムを大切にしながら、園生活に慣れるよう丁寧に関わる ・特定の大人との応答的な関わりを通じて、情緒的な絆を形成する ・安心できる静かな環境で、ゆったりと食事や睡眠をとる ・個々の発達に応じた環境を設定し、自ら探索活動をしようとする意欲を育てる
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な姿勢で様々な遊びができるようになる中で、やり取りを楽しみながら表現する楽しさを感じる ・生活に必要な言葉がわかり、身振り手振りや簡単な言葉のやり取り、挨拶を通して身近な人と気持ちが通じ合う ・人との関わりを喜び、園内を自由に行き来する ・手づかみや食具を使って意欲的に食し、保育者や友だちとの食事を楽しむ
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・体育指導やリズム体操などで自分の体を十分に動かし、様々な動きが身につく

		<ul style="list-style-type: none"> ・準備から片付けまでの流れを知り、バイキング給食で友だちや保育者と食事を楽しむ ・友だちと積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う ・身近な動植物に親しみ、命の大切さに気付き、大切にする
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・健康、安全な生活に必要な習慣に気付き、自分でしてみようとする気持ちが育つ ・自分で育てた食物を調理して食す機会、給食で使う食材の皮むきや洗う機会を通して、食への興味関心を深める ・自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く ・色々な素材に触れ、工夫して遊ぶ
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	十分な遊びから自然とお腹が空く子、意欲的に食べる子を育てる
	実践予定内容	午前中の活動の充実を図り、十分に遊び、お腹が空くような状況を作る
2	計画・ねらい	調理過程の野菜のくずや残菜などはコンポストを使って再生土にし、有効利用する
	実践予定内容	コンポストについての知識を高め、子どもと一緒にしながら持続的、継続的な保育の取り組みを行う
3	計画・ねらい	クッキング、畑での野菜作りなど、生活の中で意欲を持って食にかかわる体験を重ね、食事を楽しむ
	実践予定内容	畑で収穫したものを食育活動で取り入れ、自分たちで作ったものを自分たちで食す経験を積んでいく 生活の中のひとつとして、継続的、日常的に楽しむ食育を目指す

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
--------	-------------

歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	うがい手洗いの励行、歯磨き指導、温度湿度管理
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月頃・・・手足口病 12月頃・・・胃腸炎 1月頃・・・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアアップ・・・1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 エピペン・・・1名より預かり済み／衛生室にて保管 抗ヒスタミン薬・・・1名より預かり済み／衛生室にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在20名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については4月12日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在20名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については4月12日までに受講予定
その他保健に関する取組	行政からのお知らせ掲示、保険関係研修の受講 ウイルス感染予防の為、うがい指導・手洗い指導を行う また消毒、換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日

	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年2回／6・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

子ども自らが遊びを展開したくなるようなゾーンを設置する。

子ども同士の関わりが豊になるような環境作りをする。

1	計画・ねらい	整理、整頓、清潔を意識し、子どもがいつでも気持ちよく生活できるようにする。
	実践予定内容	清掃担当を中心に、園内の清掃状況をチェックする。
2	計画・ねらい	充実した環境の中で、子ども自らが活動を選択する。
	実践予定内容	子どもの興味や関心がどこに向いているかを見極め、都度、環境設定を見直していく。
3	計画・ねらい	室内、戸外共に子ども同士、試行錯誤しながら活動できる環境作り
	実践予定内容	保育者は子どもの今の姿を捉えたねらいを持ち、その達成に必要な環境を適宜考え、設定していく。 丁寧な保育の振り返りを行うことで、継続して環境の改善に取り組んでいく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

該当無し

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	毎月の消防避難訓練、消化訓練の実施、水防訓練の実施
2	実践予定内容	防災設備対策の実施（自動火災探知機、煙探知機、誘導灯、非煙等）
3	実践予定内容	年2回の不審者侵入訓練

4	実践予定内容	ヒヤリハット、インシデント、事故記録簿記載による事故防止と、事故防止委員会による検討会議
5	実践予定内容	園内外のハザードマップによる危険個所の確認と安全確認の周知
6	実践予定内容	オートロックで外部侵入者の立ち入り禁止
7	実践予定内容	光化学スモッグ発生時には、市役所などの情報機関が発信する情報をチェックし屋外での活動を控える

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

実習生、中高生の職場体験、小学生ボランティア等を随時積極的に受け入れ、未来の保育士育成に尽力する。

実習、職場体験後も交流が継続し、保育士の職業としての魅力も伝えられるように努める。

1	実践予定内容	実習生を随時積極的に受け入れる。実習生が不安にならないように温かく指導する。
2	実践予定内容	中高生の職場体験や小学生のボランティアを積極的に受け入れ、子どもとのふれあいから様々な事を感じてもらうようにする。
3	実践予定内容	保育が楽しいと思える保育実習の場を提供する。

7. スタッフ育成と研修計画

スタッフの経験年数や能力に合わせた目標設定をし、適宜振り返りを行う（概ね3か月に1度）。実践に繋がる園内研修を実施し、園全体の保育の質上げを図る。

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修（年1回） ■園内研修（月1回以上） ■保育スキル研修（エリア別） ■リーダー養成研修（9～2月） ■業務改善研修（月1回） (=保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会（月1回） ■デンマークインターンシップ（年1回） ■コンピテンシー自己採点（月1回） ■人権チェック（4月・10月） ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ケガ・ケーススタディ研修 ③ 虐待防止研修	昨年度の事故防止委員会の振り返り ハザードマップ見直し 虐待の早期発見、日々の関わりについて
5月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 散歩ロールプレイ ③ 各指導法	散歩時の安全管理、マニュアル理解 のびのび、体育、音楽、リズム指導
6月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 夏の指導法 ③ 接遇、マナー	夏の感染症、保育環境、熱中症 接遇、電話対応、来客対応
7月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びの事故防止 ③ 小学校連携	水の事故の事例検証と事故防止 10の姿、幼保小連携について
8月9日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 体育指導	運動遊びの基本を知る、補助の仕方 を知る
9月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 上期保育の振り返り	上期保育の振り返り、事業計画の振 り返り、ハザードマップ見直し
10月11日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 音楽指導 ③ 保健衛生	音楽指導の基本を知る、楽器の正しい 扱い方や指導法を知る 嘔吐処理、ケガ発生時の対応方法
11月8日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 性教育	性教育の理解を深める 性教育の実施方法を学ぶ
12月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理	見失い、置き去り防止 針や工具の使い方と指導法
1月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの姿の捉え方	エピソード記録の考察 保育計画、記録の書き方
2月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度に向けて	次年度行事案、園運営方針 次年度目標
3月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育環境	ハザードマップ見直し 保育環境の見直し、子どもの姿

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デンマークインターンシップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

保育園、地域、家族が一丸となって子育て支援を行う。月1回「ちきんえっぐだより」を発行し、積極的に発信することで利用者の増加を目指す。

活動を工夫する、気持ちの良い環境、丁寧な関わりで、何度も訪れたい園を目指す。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容	
青空保育（保育園主催）	月1回	公園名：平田公園にて

商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域行事参加、高齢者施設訪問、小中高生の体験学習受け入れ
異年齢交流	青空保育 近隣小学生、近隣保育園との交流
地域拠点活動	青空保育、子育て相談
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

保育者は、就学、子どもの未来を見据えて小学校教育について学び、交流をし、日々の保育に活かす。子どもの生活の連続性を踏まえ小学校と連携が円滑にいくように努める。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月●8日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	平田小学校	12名予定	校庭見学	子ども間交流
9月頃	八幡小学校	2名予定	授業参観	職員間交流
12月頃	八幡小学校	12名予定	学校見学	子ども間交流
2月頃	八幡小学校	12名予定	交流会	子ども間交流
3月頃	平田小学校、八幡小学校 真間小学校	2名予定	小学校への引継ぎ	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

個別支援計画を作成し、月1回の会議の際、情報を共有し見直しをする。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：20名予定)

毎月の会議で子どもの様子や対応について共有、報告、検討を行う。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

小学校の進級に際し、養護や発達支援担当スタッフへ引き継ぎを行う。

また、通所など必要と感じられた場合、保護者の同意を得て関係機関への相談を行い、安心して通える状況を構築する。小学校への引継ぎは、その間該当施設を経由して行う。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(木) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(金) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:平田公園にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年9月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻:13時30分

自己評価終了予定時刻:14時30分

自己評価実施予定者:鳴尾凧沙、竹田美咲

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日:8月25日

1 3.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	『みんなが楽しく』大切に1年間活動した。 ワンフロア環境を活かし、異年齢の子供たちが園内を自由に行き来することで、年上児が年下児の面倒を見、年下児が年上児の行動に憧れを持つ姿が多く見られた。 多くの体験を用意し、子ども自らが興味関心のある遊びを選択できる環境構成をすることで、主体的・自発的に、自分で考え行動する場面が年齢問わず多く見られた。また、畑活動を盛んに行い、子どもの食への興味関心を高めることが出来た。
	振り返り	小学校との連携について、交流活動、見学等の実施、小学校指導要領の園内研修を行うことにより、子ども、スタッフ共に意識の高まりは見られたが、次年度以降に活動の充実を図りたいと考える。総じて、充実した活動を送ることが出来た。次年度以降も更に充実した保育内容を検討していく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	日課や基本の活動が丁寧に行われ、ホンモノの体験の機会が保障されている
	重点施策	午前中、目一杯太陽を浴びながら体を動かしてお腹を空かせ、たっぷり食べ、休息を取る生活リズムが根付き生き生きと過ごす。 保育者は畑仕事や雑巾がけなどの労働や、体育指導・音楽指導の理解を深め、日々実践する。
2025年度	目指す姿	子どもも大人も主体的に生活する園
	重点施策	様々な経験を通して身についた自己肯定感を存分に発揮できる環境のもと、挑戦する力・やり通す力を育む。 スタッフは自身の人間力向上にも注力し、常に学び続ける意識が育つ。
2026年度	目指す姿	語り合う・学び合う姿勢の確立 地域にどろんこ会の保育が広がる
	重点施策	全てのスタッフがどろんこ会の保育を語り、実践できる力がつく。 学び続ける姿勢も根付き、活発に意見交換が出来る集団となる。 ちきんえっぐや青空保育には沢山の地域の方は参加し、開かれた施設として定着する。

以上

2024年度 若林どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

2024年度、若林どろんこ保育園は8年目を迎える。失敗や苦しみ、嬉しさや感動など複雑な感情が入り混じった7年間であった。今までの歴史を振り返り、良い所はもっと良くなるための努力を惜しまず、反省すべき点は改善できるよう力戦奮闘していく時であると考えている。

・生活力の体得

私たち保育者は子どもたちが自分で考え、自分の言葉で表現して選択できる機会をサポートし、継続していくこと、また、命の尊さを体験できる機会や毎日の日課と労働の意味を教えていく。大人は近くでただ見守るだけでなく、教えていくこと、示していくこと、大人と一緒にやっていくことで背中を見せていく。

・10の姿の体得

1つのことに向かって進んでいくための決まりや守るべきこと、どうしたら達成できるかを子どもたち自ら考え、悩みながら話し合う機会を作り、子どもたちが決めたことは尊重し見守っていく。失敗してもその失敗を経験したことで次の成功に導いていくことができるよう支援する。

・子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定

子どもが自ら選択し、体験できる環境設定を作っていく。そのためにはどんなことに興味を持ち、必要としているかを子どもの姿から読み取り、理解することで物的環境を整えていくことができるようにする。毎日変化していく子どもの姿を見逃さず、察知するアンテナを磨いていく。また、一人ひとりの個性を認め合い、子どもも大人も混ざりあいながら嬉しいこと、悔しいことを経験できるようにしていく。

・鶏を絞めて食す「命をいただく」活動の実践

食は生きていくためには必要不可欠なことであり、豊かな食は心と体を作る大切な役割をはたしている。食べるためには命の恩恵を受けることで感謝をし、食の循環を知っていく。生きるためにいただく命の尊さを感じ、食の循環を知ることができるようにする。

少子化であると言われる昨今であるが、若林どろんこ保育園は昨年同様、今年度も新入園児入園希望者数3桁を目標とし、保護者や地域の方に選んでいただけるよう努力をしていきたい。

また、学生の入職希望者を増やすこと、そして日々子どもたちと向き合っている保育者全員が輝き、充実感を持ちながら仕事ができる環境を新たな気持ちで作っていくことが施設長の使命であると考えている。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	日課、基本活動の実施と継続
	実践予定内容	やらねばならぬ日課の継続を大人がやって見せることで子どもたち自身が自ら取り組み、自分で考えて行動できるようにする。

		また、散歩の9時出発を実施し、毎日少しずつ距離を延ばし、強い足腰と体力を作る。
2	計画・ねらい	子ども自らが選択でき環境設定
	実践予定内容	子ども自らが遊びを選択し、遊び込める環境作りをする。発達に合った玩具や、いま必要な物は何かを見極めながら環境を考えていく。そのためには子どもの姿をじっくり観察し、仕掛けたり試したりしながらチームで工夫をしていく。
3	計画・ねらい	多様性を認め合い、共に生活をする
	実践予定内容	先入観を持たずに認め合い、障がいのある無しに関係なく共に安心して生活できる居場所づくりをする。大人も子どもも対等になり、お互いが成長できるように関わっていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の気持ちに寄り添いながら、子育ての喜びを共有する。
	実践予定内容	保護者一人ひとりの気持ちに寄り添い、誰一人孤立することなくコミュニケーションを取りながら子どもの成長を喜び合えるようにする。また、保護者が相談しやすい環境を整え、保育園が保護者にとって安心できる場所になるよう支援していく。
2	計画・ねらい	子育てをする保護者の立場になり、一人ひとりの職員が心を込めた丁寧な対応をする。
	実践予定内容	若林どろんこ保育園を選んでいただいたことに感謝をし、職員一人ひとりが笑顔で丁寧な対応を心掛けていく。保護者が悩んでいる気落ちや困っていることを受け止め、言葉を掛けながら支援できるようにする。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	若林どろんこ保育園が地域の拠点となるよう周知を広めていく。
	実践予定内容	若林どろんこ保育園がどんな保育をして、どんな活動をしているのかを地域の方々に知っていただくため「ちきんえっぐ」「青空保育」「園庭開放」の周知活動を行っていく。来園していただいた方とコミュニケーションを取りながら入園に繋げていくようにする。
2	計画・ねらい	近隣施設との交流を図り、地域に根差していく。
	実践予定内容	近隣の幼稚園や保育園、小学校、中学校、福祉施設との交流の場を設け、交流をきっかけに様々な形で貢献できる保育園となるよう努力していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育士としての心構え～初心に帰ってみよう～
	実践予定内容	保育のプロとして保育者同士学び合いながら向上心を高めていく。若い職員もキャリアのあるスタッフも混ざり合いながら初心に帰り、学びを深めていく。
2	計画・ねらい	プロとしての接遇
	実践予定内容	プロの保育士として、言葉遣いや所作、笑顔などをロールプレイしながら学んでいく。学んだことは現場で即実践できるようにする。
3	計画・ねらい	インクルーシブについて～普通ってなんだろう？～
	実践予定内容	インクルーシブとは何か、どろんこ会で大切にしていることは何かを考え、学んだことは実践で生かせるようにする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環、命の尊さを知る。
	実践予定内容	畑の土づくりをし、耕し苗を植える。水をやり間引きをし、収穫して加工することを年間通して行っていく。また、生き物の世話をすることで命の大切さ尊さを学んでいく。
2	計画・ねらい	食材残差を減らす。
	実践予定内容	給食残渣を減らすため、食材の仕入れや量について工夫をし、無駄がないようにする。また、コンポストなどを利用して肥料を作り、再利用できるようにする。数値的にも前月よりも減となるよう工夫していく。

〈6〉子どもの人権と尊重（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	子どもは大人と同等であり、平等である。
	実践予定内容	子どもは大人と同じで同等であり平等であること、お互い尊重し合いながら関係性を築いていくようにする。子どもの気づきや話に耳を傾け、共感し丁寧に関わっていく。
2	計画・ねらい	子どもの人権と尊重について
	実践予定内容	将来を担っていく子どもたちの人権や虐待について全スタッフが学び、グループワークの中で自らの保育を振り返る。また、法人の虐待の定義の読み合わせをし、毎日の保育で意識できるようにしていく。

〈7〉人間性と保育の質の向上、キャリアアップ（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	多様性を認め合い、受け止める。
	実践予定内容	多様性や、多様な考え方を寛容に受け止め尊重し、同じ目標に向かっていく仲間としての関係性を築く。小さなことをないがしろにせず、積み重ねながらチームを作っていく。
2	計画・ねらい	働きやすく輝くことができる環境
	実践予定内容	保育に意欲を持ち、充実感を持つことができる環境を作る。年齢やキャリア関係なく意見を言い合える関係性、お互い学び合うことで人間性の向上とキャリアアップに繋がるようにしていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
9人	18人	18人	20人	20人	20人	105人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	19人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	2人
パート スタッフ	保育士	2人	用務	1人	事務	1人	嘱託医	2人

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催（勤務時間内）

施設内会議名	頻度	会議内容
--------	----	------

園会議	月1回 20分	リーダー、主任、園長による研修、毎日の日課と活動について、行事について
給食運営会議	月1回	保育現場との連携、食育について、アレルギー児、離乳食の共有、給食残渣について
事故防止委員会	月1回	自園及び他園で起きた事故の共有と改善策
ケース会議	月1回	子どもの特性を理解し、支援の仕方について話し合う
リーダー会議	月1回	園で現在起きている問題や今後の対応、改善策、保育に関する全てをリーダーで話し合い共有
フロアー会議	月1回	幼児クラス、乳児クラスで子どもや保護者の状況、室内環境について話し合う

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	連絡事項、園事業計画
施設長勉強会	月1回	園運営に関すること、共有事項
食育会議	年4回	アレルギーについて、事例、マニュアル確認
保健会議	年4回	感染症や保健に関するマニュアル確認
主任会議	年1回	連絡事項、共有事項
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質の向上についての学び、共有事項

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	薬品管理、衛生環境、
安全対策係	事故防止委員会開催、安全点検、ハザードマップ製作と管理
防火管理者	消防計画、消防自主点検確認
食品衛生責任者	食品衛生管理、給食会議開催
畑係	畑全般、管理

生き物係	ヤギ、鶏の世話、餌発注、ヤギ当番管理、その他生き物管理
環境係	園庭全般の安全管理と保持、子どもが遊び込める環境について
教材備品発注係	教材、備品の発注と管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズとの連携、計画など

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・安心、安全な環境の中で、心地よく過ごす。 ・意欲的に自分で食べ、大人に見守られながら食べる意欲を育み、食べる楽しさを味わう。 ・身近な環境との関わりを通して、自発的な欲求や自由に探索する姿を温かく見守られることで信頼関係を形成する。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・安心、安全な環境の中で、体を十分に動かすことを楽しむ。 ・身近な大人や子どもとの関りの中で喜怒哀楽や自己主張することで自我を表出していく。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活に慣れ、安心、安全な環境の中で異年齢との関わりを楽しむ。 ・日課である畑仕事や生き物の世話、雑巾がけ、長距離散歩を継続し、自分の仕事は自分で行う。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人に親しみを持ち、自分の気持ちや思い、経験したことを相手に伝えながら、やりとりを通して異年齢との関わりを楽しむ。 ・日課である畑仕事や生き物の世話、雑巾がけ、長距離散歩を通して様々な経験を積み、充実感や満足感を味わいながら生活力を育む。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用
運営委員会	年2回	実施なし

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食の意欲を育む
	実践予定内容	スタッフは子どもと一緒に給食を食べ、食事を共にすることでコミュニケーションを取りながら食べる意欲に繋げていく。また、子どもの食べ具合を観察し、形状や味付けについて給食スタッフと連携していく。
2	計画・ねらい	自分のことは自分です。
	実践予定内容	子ども自身が自分で配膳する。食べられる量を調整したり、こぼしたり、時には皿や茶碗を落としてしまい割れてしまいうことも子どもにとっての経験となる。
3	計画・ねらい	口腔発達の理解と食への意欲
	実践予定内容	年齢ごとの口腔発達について学び、正しい理解ができるようにする。また、食への意欲は心と体の発達に大きな影響があることを十分に理解する。午前、午後と体を存分に動かして遊び、空腹感を感じ、その空腹感を満たすことで幸せや満足感が味わえるようにする。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（4月・10月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い、うがい、手指消毒、早寝早起きの習慣、感染症について
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 12月頃・・・インフルエンザ 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 12月頃・・・ノロウイルス

発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・3名より預かり済み／園冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在25名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	AED設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルス感染症や季節ごとの感染症の予防や感染対策についての予防

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検(定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検(簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／4・10月 歯科健診 年1回／6月

運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもが自ら選択し、主体性を育む環境設定
	実践予定内容	生活や遊びの中で主体的に考え、行動できるような環境を設定する。やってみたいこと、挑戦したいことを日常的に継続してできるように魅力的な環境を考え設定する。
2	計画・ねらい	子ども同士が思いや考えを話し合い、試行錯誤しながら活動を展開する。
	実践予定内容	遊びや活動の中で気づいたことを子どもたちで話し合い、試行錯誤しながら友だちと協力し合うことができる環境をつくる。子どもがどんなことに興味があり遊び混めるのか、何を必要としているのか、保育者はよく観察して仕掛けていくようにする。
3	計画・ねらい	玩具と素材、ゾーンの充実
	実践予定内容	年齢にあった玩具や素材を充実させ、子どもたちが遊び込めるゾーンを作っていく。また、遊びが次に繋がり展開できるような環境設定を継続していく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	丸太	園庭	毎日
2	ヤギ小屋	園庭	毎日
3	鶏小屋	園庭	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	防災 …危機管理マニュアルに則り、消防計画、避難訓練、防災自主点検、危機管理マニュアル整備、自営消防組織と安全対策係の設定を行い、災害発生時にはフローチャートに従う。
2	実践予定内容	ケガ事故防止 …危機管理マニュアルのケガ防止策、安全点検と保全に則り、事故防止チェック及び設備点検チェック実施、安全教育、SIDS防止策を行い、ケガ発生児にはフローチャートに従う。
3	実践予定内容	防犯 …危機管理マニュアルの不審者対策に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、ケガ発生児にはフローチャートに従う。
4	実践予定内容	光化学スモッグ …危機管理マニュアルの光化学スモッグ対策に則り、光化学スモッグの知識を身に付け、注意報発令の把握をしながら発生時には光化学スモッグ発生時には光化学スモッグ発生時対応及び行政連絡に従って対応する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

実習生や職場体験の学生を積極的に受け入れ、子どもと関わる仕事の楽しさや、大変な中にもやりがいを感じ「保育士」が将来の職業選択の一つにしてもらえるようにする。実習生が不安にならないよう、明るく笑顔で受け入れ、疑問や質問には丁寧に対応し「どろんこ会」の入職に繋がるようにしていく。

1	実践予定内容	実習生、職場体験の受け入れを積極的に行う。また、実習が楽しくなるような話をしながら関わることで期待が持てるようにする。 ロコミで「どろんこ保育園」が良い意味で知れわたり、入職に繋がるよう働きかけていく。
2	実践予定内容	学校との繋がりを大切にし、学生ボランティアや見学に来てもらえるよう積極的に働きかけていく。

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (= 保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ② 児童、保護者の人権と守秘義務について ③与薬ルール、ケガについて	コンピテンシーについて、遊び込める、選択できる環境構成の計画し、継続していくことについて学び合う。 人権チェック、与薬ルールについて
5月24日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②保護者対応 ③日課について	向上心を持つための学びについて、どんなことを学びたいのか、スキルアップに繋げるための学びを共有する。 丁寧な保護者対応、法人の3分間対応を学ぶ。 なぜ9時出発なのか、畑仕事、生き物の世話、雑巾がけ、座禅、リズムなどの日課の意味を理解し学び合う。
6月28日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②プールのルール確認 ③書類の書き方No.1	子どもがやってみたいことを選択できる環境とは、実行するためにはどうしていくのかを話し合う。 プールのルール、安全面について確認し理解する。 保育所保育指針について、子どもの姿の捉え方、保育計画の立て方を具体的に学ぶ。

7月26日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②インクルーシブについて ③書類の書き方No.2	障害の有無に関係なく思い通りにならないことも、やってみたいことも全て経験することを話し合う。 保育所保育指針の解説、計画の立て方、書類の書き方のポイントについて学び合う。
8月23日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②社会人としてのマナー ③10の姿を考えよう	社会人としてのマナーや言葉遣いについて学ぶ。 子どもが育ってほしい10の姿について学ぶ
9月27日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②子どもの主体性について	子どもの主体性を育てる保育とはどのような保育であるのかを考える。 丁寧な保護者支援について学ぶ。
10月25日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②社児童、保護者の人権と守秘義務について ③家庭支援について	子どもの人権と保護者の守秘義務について 保護者も多様化しているため、家庭支援について学ぶ。
11月22日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②保育の質向上 ③食べることは生きる力	質の向上が出来ているか、どんなことを学び実践してきたかを振り返る。 食の循環、食の大切さ、食が与える影響について学ぶ。
12月27日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②環境設定について ③保育要録について	自ら選べる環境構成について計画、実行ができたかを振り返り、今後どうしていくのかを話し合う。 保育要録とは何か、書き方のポイントについて学ぶ。
1月31日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②危機管理について ③インクルーシブ保育について	危険回避するためには、子どもを見守る目線と立ち位置、ケガの対応について再度確認 混ざり合い、育ちあうインクルーシブ保育について学び合う。
2月16日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②策定会議	1年間の自らの保育を振り返り、こだわってきたことや到達できなかったことを共有し話し合う。No.1。 今年度を振りかえりながら法人の理念、目標を理解し、共有し、来年度に向けての意欲に繋げる。
3月2日	9:00~18:00	①コンピテンシー自己採点	1年間の自らの保育を振り返りながら

		② 策定会議	来年度について話し合う。No.2 来年度の計画をスタッフ全員で提案し、創り上げていく。
--	--	--------	------------------------------------------------

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デノマークインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉経験年数別の研修実施

経験年数ごとに保育について、人間関係についての研修を実施することで、若手には分かりやすい内容にする。また、お互い共感し、悩みを共有することで前向きな気持ちになれるようにする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の保育園や施設、商店街や地域の方々との交流をすることでどろんこ会の保育や活動を知っていただくきっかけを作っていく。また、気軽に園に足を運んでいただけるよう、常日頃の交流も大切に、園が地域の拠点となるよう働きかけていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：南小泉交通公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設訪問や地域住民との交流、来園した親子との交流を計画、実施する
異年齢交流	全年齢が混ざり合い、関わり合いながら他園との交流をする。
地域拠点活動	保育参観や保護者共同による「どろんこ祭り」の開催、誘致、未就園児や地域の親子への園庭開放「ちきんえっぐ」誘致、子育て支援、相談
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

授業参観や幼保小連携に参加し、実際の小学校1年生の姿を知る。また、幼保小の職員間で子どもの姿や支援の工夫を共有し、子ども理解の幅を広げていく。子どもたち同士が対面で交流をすることで就学時の段差を低くし、滑らかな接続に繋がるようにする。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
4月頃	若林小学校	1名予定	年間打ち合わせ (若林小学校)	職員間交流
7月頃	若林小学校	2名予定	幼保小合同研修会 (会場未定)	職員間交流
11月頃	若林小学校	27名予定	生活発表会 (若林小学校体育館)	子ども間交流
1～2月	若林小学校	1名予定	幼保小連絡会	職員間交流

頃				
1～2月頃	古城小学校	1名予定	幼保小連絡会	職員間交流
1～2月頃	南小泉小学校	1名予定	幼保小連絡会	職員間交流
1～2月頃	遠見塚小学校	1名予定	幼保小連絡会	職員間交流
1～2月頃	沖野小学校	1名予定	幼保小連絡会	職員間交流
1～2月頃	古城小学校	1名予定	幼保小連絡会	職員間交流
1～2月頃	沖野東小学校	1名予定	幼保小連絡会	職員間交流
1～2月頃	六郷小学校	1名予定	幼保小連絡会	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

子どもの特性を理解し、支援の仕方や配慮について一人ひとりの計画を見直しながら保育を進めていく。子どもたちが同じ空間で生活をし、体験や活動を選択できる環境づくりをすることで将来生きていくための生活基盤ができるように計画を立てる。

〈2〉 毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：10名予定)

要支援児や気になる子の関わりについて話し合う。支援の方法や子どもの状況、保護者の様子についても共有する。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

進級時、就学時に子どもの様子を丁寧に伝え、引継ぎを行う。就学に関しては滑らかな接続に繋がるよう情報共有をする。

1.1. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 園開放は9:30～16:30で実施
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:南小泉交通公園にて開催

1.2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年6月3日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 13時00分

自己評価終了予定時刻: 15時00分

自己評価実施予定者: 施設長、主任及び当日出勤職員

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日: 8月25日

1.3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	保護者、地域に愛される「若林どろんこ保育園」
	振り返り	「どろんこ保育園」の知名度はだいぶ上がってきている。令和4年度新入園児0歳児9名募集の枠に第2希望も含めた入園希望者が100名を越

		した。希望された方々の期待を裏切らないように丁寧な保育、丁寧な関りが大切になってくる。どろんこ会の保育を世の中の人たちに知っていただくためにも保育のプロとして成長し続けなければならない。
--	--	-----------------------------------------------------------------------------------------------

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	若林どろんこ保育園在籍数100% スタッフ離職率減
	重点施策	入園希望者が昨年同様3桁を目指す。 スタッフの離職を減らす。スタッフにとって働きやすく輝ける職場を作っていく。若いスタッフもキャリアのあるスタッフも一人ひとりの個性を尊重し、気持ちを受け止めていくようにする。
2025年度	目指す姿	保育士としてスキルを磨き向上心を持ち、楽しんで学び続けていく人材育成
	重点施策	学ぶことで自分のスキルを磨き、向上心を持って学びあうことができる集団になる。お互い良い刺激を受けながら楽しく学べるような雰囲気を作っていく。また、自分の考えや方向性を明確に示し、動くことができる人材を育てていく。
2026年度	目指す姿	何も言わずとも常に考え行動できるプロ集団となっている。
	重点施策	子どものこと、保護者のこと、自分のこと、相手のこと、全体を見渡して考え、自身で行動できるような最高のプロ集団となっている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：若林どろんこ保育園 施設長 門脇 篤子

2024年度 中目黒どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

IT技術の進歩により目まぐるしく変化する世の中で、知識を習得するだけでなく、その知識を生かして自分で考え判断することが求められています。

子どもたちには幸せを自分で探し出せる能力は備わっています。自分で自分を育てようとする力を持っている子どもたちは大人の適切なサポートを受け、さまざまな体験を通じて学びを深め主体性を養い、未知なことに遭遇したとしても困難な課題を乗り越える方法を生み出すことができます。

これからの社会を生きる子どもたちは、人々と関わりながら“Try&Error”「失敗したって、やってみなきゃわからない」子どものチャレンジを私たちは応援していきます。

そして、保育資源を活用し、保護者、スタッフ、地域の方々とともに子どもに関わる全ての人々が協働的に関わりあい、中目黒どろんこ保育園が地域になくてはならない保育施設を目指していきます。

中目黒どろんこ保育園 園目標

聞く力・伝える力・考える力・想像する力・楽しむ力

どろんこ会グループが目指す園の姿のポイント

1. 生活の体得
2. 10の姿の体得
3. 子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定
4. 鶏を絞めて食す 命をいただく活動の実践

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	法人理念や法人目標から落とし込まれた、保育目標に向かって、全スタッフが計画的・数量的・体系的な行動計画を持ち実践する
	実践予定内容	園や個人の課題に基づいた園内研修（園長大学・保育士大学）を軸に学び続ける文化を醸成する。その上で「目指す子ども像」「園目標」に適った行動になっているのか、具体的に行動レベルで何が組織として正しくて、何が合理性に欠けるのかを全スタッフで評価し、歩みを進めていく。
2	計画・ねらい	子どもが人として生活し成長するための基本的な生活習慣（生きる力）を身につける。
	実践予定内容	どろんこ会グループの日課・基本活動を柱に生活に減り張りを持たせ、基本的な生活習慣（睡眠・食事・排泄・清潔・衣服の着脱）を子どもと学ぶ姿勢で保育者が根気強くサポートし、日々の生活の中で習慣化していく。 「早寝早起き・朝ごはん」保護者とともに、1日の生活リズムを整えていく。
3	計画・ねらい	生活力の基本（社会的な生活習慣）「あいさつ」がすすんでできるようになる。
	実践予定内容	朝の受け入れから始まり、散歩の道中、日常の生活の場面で保育者が相手にわかるように丁寧なあいさつを心掛ける、挨拶運動を展開する。 相手の気持ちに気づいたり、思いやるきっかけになったりする「あいさ

		つ」を0歳児から学ぶ機会を積極的に取り入れていく。
4	計画・ねらい	聞く力、伝える力、考える力を育てる
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の聞く力が子どもの話す力・聞く力を育て、保育者が子どもの耳に届く話し方を工夫することでさらに聞く力が育つ。そして、保育者は子どもに有効な質問をすることで伝える力＝考える力が育つようにする。 ・保育者が子どもの気持ちを汲み取って、代弁してあげ、子どもも気持ちを自覚することで、言葉で伝える姿勢を学ぶようにする。 ・絵本の読み聞かせは、自分以外を考えるきっかけとして大変有効であり、想像する力を養うためその時々、年齢、生活、あそび、子どもの興味関心に合わせて積極的に行う。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	<p>明るい挨拶と丁寧な対応 (①思いやり ②誠実さ ③謙虚さ ④感謝) を忘れずおもてなしの心を込めたサービスを提供する)</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・全スタッフが常に明るい笑顔で挨拶するとともに、一言添える。心理的安全性という、安心感と話しやすい雰囲気づくりをこころがけ、保護者と協働の子育てを意識していく。 ・その子ならではの姿・育ちを具体的に伝えるお迎え対応(黄金の15秒)に取り組む。
2	計画・ねらい	保護者と協働の子育て①子どもの基本的な生活習慣の自立を支える
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活力」は日々の生活の中ではぐくんでいくことが大切であり、規則正しい生活リズム(毎日、同じ時刻に寝たり、起きたりすることや朝ごはんを欠かさず食べる)を身につけることが、保育園で元気に過ごす活力になり、「主体的に生きる力」の土台になることをあらゆる方法を用いて知らせる。 ・子ども、それぞれの保育園での生活の姿をわかりやすく知らせ、家庭での生活の姿と歩調を合わせながら、規則正しい生活リズムへと近づけていく。
3	計画・ねらい	保護者と協働の子育て②保育園づくり
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者懇談会の充実。法人の理念、中目黒どろんこ保育園の保育方針を日々の保育の姿から、目に見える姿だけでなく、その取り組みを通してどのような力が育っているのか、日々の活動にはどんなねらいがあるのかについて知らせ、「子ども主体の保育」を伝えていく。 ・保育参加の推進。保護者が保育者として保育に参加していただくことで、「保育現場は面白い」「子どもも大人も多様性に満ちている」ことを実感していただく。また、保育者とは違った視点から保育園の運営に対し貴重なご意見を伺い、「選ばれる保育園」への一助とする。 ・個人面談の推進。子ども一人ひとりの置かれている状況や特性に合わせて、柔軟に対応し、子どもの生活の場として相応しい充実した保育を展開するため、保護者の意見のお聞きしながら協働的保育を進める。
4	計画・ねらい	保護者同士つながりを紡ぐ
	実践予定内容	保護者同士の交流・親睦を深めるため、保護者懇談会での懇談の場、園の

		<p>行事に関わっていただく機会（行事のお手伝い）の提供、年数回の絵本修理や整理（図書コーナー）のお手伝いなど、保護者から募集してお茶のみ懇談しながら、保護者同士のつながりを深めていただく。</p> <p>そうした中で、子育て世代同士が交流し、子育ての問題を気軽に話し合い保護者が孤立することなく、みんなの励ましと知恵を受けられる場所となるよう、子育てコミュニティを作る。</p>
--	--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域子育て拠点として、交流の場となる保育園
	実践予定内容	<p>保育所保育指針「地域に開かれた子育て支援」及び「東京都の保育所地域子育て支援」を鑑み、保育所の役割や機能を達成するために地域のニーズを把握し地域の資源として保育園を利用できるようにする。そのために、関係機関や各団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報が全スタッフ間で共有されるようにする。</p>
2	計画・ねらい	地域に開かれた保育園「ちきんえっぐ」の認知度を高め、活用を進める。
	実践予定内容	<p>商業施設や公的機関を含め地域の子育て家庭に、「ちきんえっぐだより」やチラシの配布を積極的に行い、広報活動に力を注ぐ。また、散歩先の公園で出会った親子にも積極的に言葉を交わし、興味を持っていただくようにする。</p>
3	計画・ねらい	青空保育の充実
	実践予定内容	<p>青空保育の内容がマンネリ化しないように、担当保育士だけでなくそれぞれのスタッフの個性が生かされるような取り組みとしていく。その際、参加している親子に対して、この地域に中目黒どろんこ保育園があり、子育て支援室「ちきんえっぐ」の存在を知らせ、利用をお勧めする。</p>

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもの姿ベースの指導計画の作成
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「子ども主体の保育」を目指して、全体的な計画から年間指導計画、そして月案、週日案へと落とし込む工程の中で、子どもたちの素朴な興味や関心、小さな発見やつぶやきを捉えながら、次の日の、また次の週の保育の展開を構想してゆける保育者を育成する。 ・養護と教育の一体化について学びを深め、計画に反映し、子どもの姿に照らし合わせ、評価する。 ・やりっぱなしの保育から脱却するため、PDCAの取り組みを週会議の場で行ない、仲間とともにキャリアアップを図る。
2	計画・ねらい	どろんこ会グループの日課・基本活動に対して全スタッフがその意味、根拠を示すことができ、中目黒どろんこ保育園の課題を明らかにし、深め、実践できる人材の育成
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修で学び、小グループで話し合い課題の抽出。課題解決の手立てを考察、実践。年間指導計画の省察と共に振り返り、検証する。

3	計画・ねらい	子どもの姿を捉え、3本の柱、5領域、10の姿の重要性を追求していく。子どもの資質・能力を育むことで、「生きる力」の土台を培う。
	実践予定内容	10の姿について学び（何を育てる？→育てている子どもの姿は？）子ども育ちを具体的な事例から見取り、子ども理解を進めて子どもの育ちを保証できる人材を育成する。
4	計画・ねらい	スタッフの接遇・ビジネスマナーの向上及びコミュニケーション能力を養う。
	実践予定内容	コンピテシーの活用、接遇研修の開催と合わせ、実際の園の事例をスタッフ全員で考える機会を設ける。（連絡帳・タイムラインのコメント、お迎え対応等）
5	計画・ねらい	保育目標実現を目指して、スタッフが主体的に行動計画を明確にする。
	実践予定内容	・スタッフ一人ひとりが課題を抽出し、保育目標を実現するためには何をすべきかを明確にし、進捗状況を確認し合う。 ・スタッフ一人ひとりのMBOの実践を確実なものにしていくため、施設長、主任、リーダーはこまめな個人面談などを通してモチベーション管理をする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	給食残渣を減らすことで廃棄にかかる環境負荷を減らし、食べ物を大切に
	実践予定内容	子どもの規則正しい生活リズムを家庭と協力して、日々思いっきり体を動かしお腹のすくりズムで給食を食べ、給食残渣を減らしていく。
2	計画・ねらい	調理くずの有効利用や給食残渣・ヤギの糞によるたい肥作りをし、循環型のエコサイクルを知らせていく。
	実践予定内容	バケツコンポストやヤギのお世話をすることで、畑やプランターに撒きたい肥を作り、栽培に役立てる。収穫した野菜をクッキングしたり、生育について調べたりして、食の循環を知らせていく。
3	計画・ねらい	自分たちが生きてゆく上で食と労働が欠かせないものであることを知る。
	実践予定内容	畑仕事・食材の加工・ヤギの世話(小屋の掃除や糞の始末)、魚を子どもが実際に捌いて食べる命をいただく等の活動を通して、生きてゆく上で食と労働が欠かせないことを知らせていく。

〈6〉自律した保育園運営（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	スタッフ一人一人が事業計画・年間スケジュールで約束したことを達成するため、責任をもって取り組む。
	実践予定内容	事業計画・年間スケジュールで約束したことを達成するためスタッフ一人一人が「あなたはどうか」主体性に考え、学び、動き、MBOのアクションプランを着実に実行する。
2	計画・ねらい	主任・各リーダーが保育現場の牽引者として、PDCAを実施。保育の質の向上に努める。

	実践予定内容	リーダー会議を適宜行い、課題の抽出、改善について検討する。 ・保育の連続性を担保するためPDCAサイクルを日常化、週会議・クラス会議等で保育Wevやデザインマップなどを活用して、その時々により有効な打ち合わせの中で検証し、保育の質の向上に努める。
3	計画・ねらい	意見が出しやすい雰囲気づくりと子どものことが常に話題になる職員集団の構築
	実践予定内容	・毎日、各クラス、給食、用務・事務職ごとに5分から10分間の振り返りの時間をもつ。 ・施設長は職員に対して指導よりも支援を重視し、施設長はトップダウンではなくスーパーサポーターとして下支えをする。 ・ボトムアップを図り、各園会議では批判をしない、まずは受け入れる姿勢を基本として、若手職員や給食や用務・事務職など、意見を言いやすい雰囲気と仕組みづくりに着手する。
4	計画・ねらい	スタッフ一人一人が内部監査の確認ポイントを理解し、実践することで質の高い保育を提供する保育園となり、選ばれる保育園を構築する。
	実践予定内容	内部監査の確認ポイントを学習し、PDCAサイクルで自主的運営を目指す。そのために、スタッフがチームとなって園運営にかかわり、園会議の場で振り返り、アクションプランを立てていく。

〈7〉子どもの人権に配慮した丁寧な保育の実践（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	丁寧な保育の基本を徹底する
	実践予定内容	・子どもには常に笑顔で「大丈夫」「先生がいるよ」というメッセージを送り、子どもが自由に活動を展開できるようにする。 ・0歳児であっても、いきなり抱き上げたり、交換条件を出したり、全ての子どもに対して傷つけしまう言葉遣いや態度は示さない。
2	計画・ねらい	応答的な対話で子どもの意見が尊重され、発達に応じて考慮される
	実践予定内容	・対話の主導権は子どもに委ね、子どもの興味に沿って対話を重ね、言葉を引き出していく。 ・子どもの主体性を育てるため、むやみやたらに話しかけるのではなく、話かけて欲しそうなときに、話して欲しがっていることを推察して対話する。
3	計画・ねらい	スタッフに見守られながら、安心して未知の状況にあっても自分で考え、選択し、表現する力を養う
	実践予定内容	「ダメと言わない」保育の実践

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
9人	10人	12人	13人	13人	13人	70人

〈2〉開所時間

7時00分～20時30分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	15人	看護師	2人	栄養士	4人	調理員等	0人
	再雇用スタッフ	0人	言語聴覚士	0人	臨床心理士	0人		
パート スタッフ	保育士	2人	補助	1人	調理	0人	事務	1人
	用務	0人	再雇用スタッフ	0人	嘱託職員	0人	嘱託医	2人
	言語聴覚士	0人	臨床心理士	0人				

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	コンピテンシー、児童処遇改善検討、保育の内容を図る検討、園として取り組むべき課題討議及び研修
給食運営会議	月1回	運営部ミッションに則り、園の課題を協議、食育計画の振り返り
事故防止委員会	月1回	園内外におけるヒヤリハットやインシデン事例に鑑み事故予防と防止の具体的施策に係る検討
ケース会議	月1回	支援が必要な配慮児の状況把握、職員の意識統一などを行う。

週会議	週1回	指導計画、子どもの状況把握、各情報の共有と意思統一行事の確認
クラス会議	月1回	指導計画、子どもの状況把握、各情報の共有と意思統一行事の確認

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人本部よりの伝達事項、運営状況の報告、検討事項
施設長勉強会	月1回	業務改善会議と連動し、施設長としてのマネジメント方法、園の運営、保育のスキルアップを図る
食育会議	年4回	給食業務改善(衛生管理、SDGs、残渣、栄養給与目標量、食環境、保育士との連携、喫食状況、マニュアルの確認等)を図る。
保健会議	年4回	園児健康管理業務改善(保健にかかわる検討、保育との連携、マニュアルの確認等)を図る。
主任会議	年5回	施設長の補佐、保育の質向上のリーダーとしてのマネジメントの確認、園運営のマネジメントを学ぶ。
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の内容や質の向上に係る相互学習や検討を行った上での実践的な業務改善アクションプラン作成とその実施。

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園児保健衛生管理、安全管理、環境衛生管理などを行う。
安全対策係	避難訓練実行及び検証、環境安全整備、危機管理などを行う。
防火管理者	施設の火元の管理、消防計画の作成と届出、防火、消火についての毎月1回の職員訓練と日常的な啓蒙を行う。
食品衛生責任者	食品の安全に関わる管理や啓発、衛生点検などを行う。
畑係	畑状況の管理、道具類の維持補充、乳幼児や職員の畑活動の把握や課題検討におけるイニシアチブをとる。
生き物係、植木係	飼育動物の健康管理、動物小屋の維持管理、乳幼児や職員の生き物飼育活動の把握や課題検討におけるイニシアチブをとる。 植木や植え込み園庭状態の管理、把握や課題検討におけるイニシアチブ

	をとる。
--	------

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズの企画・検討・運営のサポートを行う。

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉でのやり取りができない乳児期は周囲の大人との愛情やり取り豊かなやり取り（応答的）で、互いの気持ちを響き合わせて、様々な能力の基礎となる「信頼感」の発達を促す。 ・保健的で安全な環境をつくり、体の状態を観察し、快適に生活できるようにする。 ・一人一人の子どもの生活のリズムを重視して、食欲、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし、生命の保持と生活の安定を図る。 ・優しく語りかけたり、喃語や発語に応答したりして発語の意欲を育て、言葉を使うことを楽しむようにする。 ・安全な環境を整え、探索行動が活発にできるようにする。 ・身近な動植物に親しみ、関心や愛情が持てるようにする。 <p>自然の中で、十分に体を動かして遊ぶ。</p>
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが何に興味を示しているのかを考えながら見守り、学びに向かう意欲へとつなげていく。 ・安心できる保育士との関わりの中で、食事、排泄などの活動を通して、自分でしようとする気持ちを育む。 ・生活に必要な言葉が次第にわかり、簡単な喃語や言葉を使って自分の意思を伝えようとする。 ・身の回りに様々な人がいることを知り、徐々に友だちと関わって遊び、見立て遊びやつもり遊びを楽しむ。 <p>身近な自然に触れ自然を使った遊びを楽しむ。</p>
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの主体性や意図を理解し、そこに子どもの個別の学びがどのように存在しているのかを考え、支援する。 ・保健的で安全な環境をつくり、快適に生活できるようにする。 ・一人一人の子どもの欲求を十分に満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。 ・友だちと一緒に食事をしたり、様々な食べ物を食べる楽しさを味わったりするようにする。 ・自分でできることに喜びを持ちながら、健康、安全など生活に必要な基本的な習慣を次第に身につける。

		<ul style="list-style-type: none"> ・人の話を聞いたり、自分の経験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。 ・友だちとの関わりの中でそれぞれが自分の力を発揮して活動に取り組む。 ・いろいろな体験を通して、五感が刺激され豊かな感性や創造性が育まれる。 <p>自然に興味を持ち自分から関わって遊ぶ。</p>
	<p>下半期 2～5歳児</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点で捉えるようにする。 ・季節の変化に応じた健康的な生活に留意し、快適に過ごせるようにする。 ・食事をすることの意味が分かり、楽しんで食事や間食を取るようになる。 ・自分でできることの範囲を広げながら、健康、安全など生活に必要な基本的習慣や態度を身につける。 ・友だちへの親しみや思いやりを深めながら、人の役に立つことに喜びを感じ、協力して取り組もうとする。 ・色々な体験を通して、五感が刺激され豊かな感性や創造性が育まれ自由な発想でのびのびと表現することを楽しむ。 ・身近な動植物や自然に関心を持ち、その大きさ、美しさ、不思議さに気づく。 ・友だちへの親しみや思いやりを深めながら、人の役に立つことに喜びを感じ、協力して取り組もうとする。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	一人一人の口腔機能の発達を理解し発達に合わせた支援をする。
	実践予定内容	空腹感や食欲を感じ、それが適切に満たされる快感を覚えさせる。（お腹のすくりズムがもてる子どもに）

2	計画・ねらい	食べたいもの・好きなものが増える子ども
	実践予定内容	味わうという感覚は、感覚的な要因と環境的な要因が融合しなければ成立しない。快適な食卓で、五感をしっかり使った食べ方を体得させる。（嚙む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する）
3	計画・ねらい	一緒に食べたい人がいる子どもに
	実践予定内容	スタッフはこどもと一緒に食べる。共食共感とは社会性発達の目安であり、食は人と人をつなぐ食育活動を通して実感させる。
4	計画・ねらい	食事づくり・準備に関わる子どもに子ども
	実践予定内容	「満足感」や達成感を味わい、食の自立を獲得していく食育活動を「共同学習」としてとらえる。（子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる）
5	計画・ねらい	食生活や健康に主体的に関わり、食べることを会話する子ども
		<ul style="list-style-type: none"> ・「作って食べて後片付け」といった一連の食生活活動を体験し、作ってくれた人への感謝の気持ちを覚えさせる。 ・こどもSDGsの観点から残食やヤギの糞など堆肥づくりなど、こどもと一緒にしながら、持続的、継続的な保育に取り組む。
6	計画・ねらい	自分の体に関心を持つ
	実践予定内容	子どもが自分の身体に関心を持ち始めたら、虫歯や好き嫌いなどを通して、食べ方や生活の仕方の悪さを自分でコントロールできるように、食と健康の関わりを教える。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・足の話（5月・9月） ・歯磨き指導（6月・11月） ・手洗い指導（6月・11月） ・目の話（10月） ・耳の話（10月） ・性教育（1月ごろ年長児対象）
流行が予測される感染症	<p>通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施</p> <p>4～9月頃・・・手足口病・ヘルパンギーナ</p> <p>6～10月頃・・・マイコプラズマ肺炎</p> <p>7～10月頃・・・咽頭結膜炎・流行性結膜炎</p> <p>11～5月頃・・・水痘・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</p> <p>11～3月頃・・・インフルエンザ・感染性胃腸炎</p>

	1～6月頃…伝染性紅斑 3～4月頃…麻疹・風疹 1年を通して…突発性発疹・流行性耳下腺炎など
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ…1名より預かり済み／事務所冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	2023年度末現在、全職員が研修を受講し、修得済み 未受講の新入職員を含む全スタッフがキックオフ時に研修を受講し復習・習得する予定
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	本日現在21名が、研修受講し、修得済み 未受講の職員については10月までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。など各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日

	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 (東京都0歳児のみ年12回実施) 歯科健診 年2回／6.11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

子どもたち自身の生活やあそびは子どもたち自身でまかなう事ができるよう、乳幼児の育ちをとらえ児童処遇を考察し、環境設定や環境構成を具体的かつ意図的に整え、継続的に点検と整備、改善を具体的に行う。

1	計画・ねらい	「自分で考え、自分で行動する」「自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する」を基本とし、室内・室外ともに子どもが自発的に関われる環境設定に努める。
	実践予定内容	・子どもの興味関心、意欲をから道具や材料などを用意し、週会議やクラス会議において、発達にあっているのかなど検証していく。 ・異年齢児が混ざり合う中で、発達の差を考慮した環境設定になっているか、子どもが遊びこんでいるか等、保育Wevなどを用いて考察し改善していく。
2	計画・ねらい	ゾーン保育や玩具の安全性を常に確認しながら、子どもの興味関心に合わせ、マナー化を防ぎ遊びを豊かにしていく。
	実践予定内容	玩具の破損や材料の安全性を常に確認しながら、子どもが遊びこめる環境を作っていく。
3	計画・ねらい	保育中の安全対策や衛生管理など職員の共通理解できる体制を整え強化する。
	実践予定内容	・危ないから排除するのではなく、安全性を確認し維持していくことを考えていくことを基本とする。子どもたちの発達、個性、心身の状態に合った環境設定を仕掛けていく。 ・睡眠中、プール活動中、水遊び中、散歩中、食事中、歯磨き中などの場面では命にかかわる重大事故が発生しやすいこと踏まえ、子どもの主体性、自主性を大切にしつつ、室内外の環境に配慮し、チーム保育に努めながら、職員同士の連携を強化していく。 ・玩具や園児の持ち物などは衛生管理に注意し清潔に保つようにする。 ・事故防止チェック、設備点検などを確実にを行い不備が認められた時には速やかに対応し、職員周知する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	ヤギ小屋	園庭	毎日
2	配膳台	幼児室	毎日
3	平均台(大・中・小)	遊戯室	毎日
4	ヤギ休憩台	園庭	毎日
5	キーボード台	幼児室	毎日
5	パーティション	屋上	毎日

危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	厚生労働省、法人の運営マニュアル・保育品質マニュアル、自治体条例・規則に基づいて的確に行動する
2	実践予定内容	防災対策 災害や事故の発生に備え、危険個所の点検や毎月消防計画に基づいた避難訓練や初夏訓練の実施。また、施設長を中心に日頃から「連絡体制の周知」と「行政等関係各所との連携」を行い、災害発生時に各スタッフが迅速かつ適切な対応を取り、子どもの安全を確保できる体制を整える。
3	実践予定内容	ケガ事故防止対策 ・保育中の事故防止のため、子どもの心身の状態等を踏まえつつ保育所内外の安全点検に努め施設長はケガ事故発生時対応フローチャートを全スタッフに周知する。フローチャートは更衣室・職員室に掲示し、全スタッフはいつでも対応できる状態にしておく。 ・ケガ、事故発生時または「ケガに至らなかったが、一歩間違えたらケガをしたであろう」という場合の記録（ヒヤリハット）を作成し、報告・共有の上、時系列で検証、分析し今後同じような怪我・事故の発生を防ぐ。
4	実践予定内容	防犯対策 定期的な不審者侵入対策の他、日々の不審者対策として、 1. 笛の携帯 2. 代理送迎者登録の更新及び代理送迎者の身分証明書の確認。 3. 不審者情報の収集（各関係機関と連携を取り）不審者情報を随時収集する。適宜、文書やメールでの共有・防犯速報の玄関への掲示等を行う。
5	実践予定内容	光化学スモッグ対策 「光化学スモッグ注意報」が発令された場合、予報・注意報・警報・重大緊急方に従って、園児、スタッフの安全を確保する。
6	実践予定内容	熱中症対策 正しい水分補給を理解した上で、子どもたちが自ら水分補給ができる環境設定をする。天候によっては戸外活動を控える。
7	実践予定内容	有事の際は、地域と連携し地域防災マップに則り、園児、スタッフの安全を確保する。

5. 実習生・中高生の受入

今年度方針・テーマ

保育園は、地域の社会資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生の受け入れに社会的責任があります。そのため、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、当グループでは実習生・研修生を積極的に受け入れます。

【種類】 中高生の体験学習の受入／保育養成校の学生の実習受け入れ／一般および学生の各種ボランティアの受け入れ／他随時相談

実習生一般および学生の各種ボランティアの受け入れでは、ワークショップを地域連携園と開催し、いつでも受入れる体制と迎え入れる雰囲気を作っていく。同時に広報活動をしていく。

1	実践予定内容	中学生、高校生や実習生が安心して保育園で子どもたちと接することができるようにスタッフが温かく対応するように心がけ、子どもとの触れ合いから学びと楽しさを感じてもらえるようにする。
2	ここは〇〇内容?	授業の一環として保育園を訪れることも考えられるが、その後個人的にも保育園に遊びに来てもらえるようなかかわりをもつ。
3	実践予定内容	学生以外のお業種の社会人や教育・保育関係者等の受け入れ、インターシップの受け入れ、保育園に興味関心がある方々を柔軟に受け入れていく。
4	実践予定内容	小学生ボランティアの受け入れ（卒園児）

6. スタッフ育成と研修計画

日ごろから、保育者が子どものことを話し合いお互いに勉強しあうことや、様々な方法で学べるよう、学ぼうとする意識や学びやすい雰囲気づくりを施設長や主任、リーダーが意識して工夫して作り出していく。

・外部研修 施設長は研修の機会を確保し、研修を個人的な体験に終わらせず、研修で得た成果を職場で共有し、園全体の力にしていくよう努め、職場全体の実践力を高めていく。

・園内研修 施設長は保育の質の向上に向けた課題に組織的に対応するため、保育の内容の改善や保育者等の役割分担の見直し等に取り組むとともに、各職員が必要な知識や技能を見につけられるようにする。また、日常的に職員同士が主体的に学びあう姿勢と環境を整え、職場内での研修の充実を図る。

・職員から園内研修について学びたいこと、検討したいこと等聞き取り反映させていき、職員が講師となり学びの場を設定する。その成果を実践報告として発表の場を設ける。

・コンピテシー「計画・実行する」「判断する」の2点を重点的に行う中で、園全体で取り組むべき項目を抽出し、1か月実践した後、振り返りながら、一つ一つの項目を定着していく。

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育所における危機管理 ③ 虐待防止研修 ④ 安全指導研修	安心、安全に過ごせる環境を守る 不適切保育を防ぐ
5月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「心を育てる保育環境」	遊びこめる環境設定を学ぶ
6月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「stop水難事故」 ③ プール事故防止訓練	重大事故を防ぐ
7月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「運動遊び 実践編」	生きる力を育む 運動遊びについて 学ぶ
8月9日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの姿から指導計画 を立てる	こどもの姿を指導計画に落とし込み 次につなげる保育計画の作成
9月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「飼育・栽培・散歩どう してる」	法人の基本活動の理解する
10月11日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育所における危機管理 ③ 虐待防止研修 ④ 安全指導者研修	安心、安全に過ごせる環境を守る

11月8日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「スムーズな小学校進学は保育者次第！」	創造的な思考と主体的な生活態度を育む保育とは何か
12月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「性教育の始め方」	子どもの性教育 世界の潮流を学ぶ
1月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「表現の本質」 アート支援研修	保育の5領域「表現」を学ぶ 支援する側の視点
2月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画の振り返り	事業計画の振り返りと次年度の計画について検討
3月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 自己評価	自身のMBOの振り返りと次年度の目標について強みを探る

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デンマークインターンシップ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

7. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

法人理念における保育方針の「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」にある通り、園外に出かけ近隣住民や身近な人と様々なかかわりを体験し、子どもたち一人ひとりが地域に愛される存在になるよう計画し実践する。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：なべころ公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	・乳幼児の様子に応じて、高齢者福祉施設や近隣住民、子育て支援センター来所利用親子との交流を計画し、日常の保育活動の中で積極的に交流を行う。
異年齢交流	・主に3-5歳児は日常的に異年齢保育を行いながら、年少児と年長児の生活の中でかかわり合いが密になるように工夫する。 ・0歳-2歳児は子ども一人ひとりの様子に応じて異年齢で過ごせる機会を設け、様々な人との関わりが充実するように配慮を行う。
地域拠点活動	・園児保護者の随時受け入れ、保護者との協議によるどろんこ祭の開催を行う。 ・一時保育事業を実施する。 ・地域親子に向けて、子育て支援センターちきんえっぐと協同による園庭開放や給食体験、どろんこサポーター祭への誘致を行う。
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

8. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

子どもの発達の連続性を見据えた上で、保育所における保育がおこなわれていること、子どもたちの生活が小学校へつながるものとして、就学を見通した保育がどのように行われているか小学校と積極的に連携する。子どもたちと小学生の交流も積極的に実施できるよう小学校との連携を深めていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を目黒区公私立園長会を通じて4月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	中目黒小学校	2名予定	授業参観	職員間交流

	1学年		(中目黒小学校教室)	
7月頃	下目黒小学校 1学年	13名予定	下目黒小学校(校舎)	子ども間交流
12月頃	中目黒小学校 全学年	13名予定	学校探検 (中目黒小学校校舎・ 校庭・体育館)	子ども間交流
2月頃	烏森小学校 新6年生	13名予定	新6年生との交流 烏森小学校(教室・体育 館)	子ども間交流

9. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

特別な支援が必要な乳幼児については、個別に保育計画を作成し、家庭や関係機関と連携しながら、計画的かつ継続的に一人ひとりに応じた保育内容や配慮を実践する。個別ケース会議を毎月実施し、園全体でも共通理解を図る。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：7名予定)

- ・医療機関や専門機関による療育方針・方法を共有する。
- ・保育所の保育者全体に対しても障害児保育への正しい認識が持てるように配慮していく。
- ・子どもの特性を理解し心と体の発達あったより良い保育のため、波多津支援ルーム「つむぎ」と連携し、障害児保育研修を実施する。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

障害のある子どもの生活の質が高められるよう、その子どもの特性を活かすような支援の経過を伝えるとともに連携していく。

10. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校	毎週(金) 10:00～12:00

どろんこ自然学校	
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:なべころ坂緑地公園にて開催

1.1. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年10月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 13時30分

自己評価終了予定時刻: 14時30分

自己評価実施予定者: 施設長、主任保育士、リーダー保育士、若手保育士

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日: 8月25日

1.2. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	どろんこ会の日課・基本活動の取り組み・SDGsの身近な取り組みがあることを地域・家庭・保育園が連携を進めていく。 どろんこ会、中目黒どろんこ保育園の強みを前面に押し出し、職員が自園に誇りとロイヤリティを高く持つ
	振り返り	「原点回帰」子どもの「生きる力を育む」ために、どろんこ会の日課・基本活動を見直し一から実施。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

24年度	目指す姿	様々な生活体験の中から、規則正しい生活のサイクルを知る。 子どもSDGsに鑑み、子どもたちや身近な大人が協働しながら日々の生活を送ることができる。 地域社会とのつながりが深まり、子どもも大人も様々な経験や活動の幅
------	------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		が広がっていく。
	重点施策	家庭と協力し、子どもたちの基本的な生活習慣の自立を目指す。 どんご会の基本活動を実践する中で環境教育を推進する。 つむぎ池尻ルームとの連携や子育て支援（青空保育・ちきんえっぐ等）の活動を通じ、地域とのつながりを深め子どもも大人も様々な経験を積む。
25年度	目指す姿	様々な生活体験の中から、規則正しい生活のサイクルを知る。 連携・協働の中で保育所としての役割を果たす。 「すべての子どもと子育て家庭」の支援に取り組む
	重点施策	家庭と協力し、子どもたちの基本的な生活習慣の自立を目指す。 どんご会の基本活動を実践する中で環境教育を推進する。 保育園が地域の資源として、子育て相談、遊びの提供、交流の場として保育園を利用している保護者、地域の子育て家庭、園児、地域の子どもたちを支援する。
26年度	目指す姿	環境教育（保育環境づくり・自然(地球)環境の理解・ものの大切さ）の実践から生命、自然、社会の事象に興味や関心を持つ。 連携・協働の中で保育所としての役割を果たす。 「すべての子どもと子育て家庭」の支援に取り組み、エビデンスを得る
	重点施策	保育環境づくり・自然(地球)環境の理解・ものの大切さを様々な活動の中で触れて、気づき、成長できるように積極的に保育者がかかわり、環境に関われるようにする。 保育園が地域の資源として、子育て相談、遊びの提供、交流の場として保育園を利用している保護者、地域の子育て家庭、園児、地域の子どもたちを支援する。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：中目黒どんご保育園 施設長 中村 利江

2024年度 船橋どろんこ保育園分園 事業計画書

1. 基本方針

船橋市は千葉県で千葉市に次ぐ人口2番目の市であり、都心に通勤する保護者も多い市の中心部に位置する保育園として、整備された都会的な雰囲気と人口の多い雑踏の中であるが、以下のどろんこ会の基本方針をもって子どもたちを育み成長を見守る。

子育て理念 『にんげん力。育てます。』

子育て目標 『センス・オブ・ワンダー』

『人対人コミュニケーション』

生活・遊び・労働を教えあう保育園生活を実践していく。

施設運営方針として生活力・選択力・思考力を育む教育・保育・支援のフロントランナーとなる
地域子育て支援にも子育て支援室での催しや子育て相談、一時保育の実施などにより貢献していく
子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる支援を実践する
いつでも穏やかで笑顔を絶やさず、質の高い園となる
スローガン：「あなたはどうか」 大人も主体性～考え、学び、動く、自立した集団～

目指す園の姿

生活の体得 日々の日課を楽しく進め、その成果を確認し達成感を味わう

10の姿の体得 常に意識し日常の活動の中で認識していく

遊びこめる空間、子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定

自律運営 自分たちで考え、計画し、挑戦し、一人一人が自分事としての園運営を進める

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	プロジェクト保育・年間を通じてテーマ設定に沿って保育を進める
	実践予定内容	策定会議で決定した担当保育者のテーマに沿って異年齢保育・表現活動などを担当保育者中心に進めていく
2	計画・ねらい	食育の充実・食育活動、畑作業、調理、廃棄物の活用の循環を意識する
	実践予定内容	畑にて野菜の生産し下拵え、クッキング、加工するなど食の循環を学ぶ
3	計画・ねらい	環境整備・心地の良い居場所づくり
	実践予定内容	各担当を中心に整理整頓・元に戻す・必要なものをきれいに設置する

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

保護者一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、子どもたちの成長を伝え合い、喜び合える関係を維持していく。

日々の挨拶、連絡帳やタイムライン・ポートフォリオの保育の見える化を進め保護者の理解を深めていく。

1	計画・ねらい	保護者の立場の理解・〈思いやり〉をもって個々に必要と思われる部分の援助
---	--------	-------------------------------------

	実践予定内容	保護者の勤務・生活状況を把握し、必要に応じて子育てのアドバイスを進める。シッターノートやチャットの活用で情報の共有を進める。
2	計画・ねらい	日々の成長を〈誠実〉に伝え共有する・児童の成長を共に喜ぶ
	実践予定内容	朝の受け入れ、連絡帳、タイムライン、お迎え対応を通じて〈謙虚〉に〈感謝〉を忘れず、コミュニケーションを進める。
3	計画・ねらい	保育参加・保護者懇親会・行事への参加・保護者面談を通じて保育園を親子で親しむ
	実践予定内容	保育方針に共鳴してくださる保護者への園生活への参加を進める。保護者の個人面談の設定を行う。

〈3〉 地域の子育て支援事業

見学者対応・体験保育・園開放・ちきんえっぐ・小中高生交流・世代間交流・ボランティア受け入れ・子育て相談を継続し、地域子育て支援の拠点として保育園の役割を担う。

1	計画・ねらい	子育て支援室の活用・地域の子育て家庭の安心安全な居場所となる。
	実践予定内容	定期的なイベント(子育て相談・誕生会・保健衛生)を実施する。
2	計画・ねらい	青空保育の活性化・地域へのアピール
	実践予定内容	月1回の近隣公園での青空保育の予告(ポスター掲示など)と実践時の招集活動の促進を行う。
3	計画・ねらい	地域の商店や施設訪問・地域の保育園として親しまれる。
	実践予定内容	高齢者施設・公民館・商店への挨拶、訪問を実施する。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもの人権・虐待防止の基本を理解する。
	実践予定内容	園内研修の実施。情報の共有。具体的な事例を知り、理解を深める。
2	計画・ねらい	大人の人間力を育てる。一人ひとりの特技を磨く。
	実践予定内容	自分の得意を極める。自分自身の生きる力を強める。
3	計画・ねらい	園事業計画を具現化する。自分の園の意識を高める。
	実践予定内容	事業計画に沿って、日々の保育内容の見直し、振り返り、ブログ、エピソード記録などで保育内容の発信をしていく。

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	食物残渣の減量化
	実践予定内容	調理と連携し、日々の残渣を減らす。子どもたちは、日々給食食材に触れることで今日の食事を楽しみに過ごす。
2	計画・ねらい	地球環境への取り組み、食の循環
	実践予定内容	給食廃材や土を使ってコンポストを作成し土を再生させる。 命をいただく活動を通して環境教育を実践する。

〈6〉子どもも大人も笑顔で穏やかな時間を過ごせる大きなお家

1	計画・ねらい	笑顔があふれ穏やかな居場所となる。常に前向きな思考をする。
	実践予定内容	朝の受け入れから、笑顔を絶やさず、子どもたちの姿を全員で把握できているように情報共有を進める。
2	計画・ねらい	率先して動く。気づきに敏感な感性の育成。
	実践予定内容	自分に割り振られた担当を熟したうえで、周囲の状況も読み取れるような経験を重ねる。コンピテンシーの活用による振り返りの実践。
3	計画・ねらい	人間力を身に付ける。平等性・情報の共有。
	実践予定内容	様々な研修を意欲的に受講し、広い視野を持ち、客観的に自分を見ることが出来る人材の育成。

〈7〉有言実行

1	計画・ねらい	期日を守る。提出期限・締め切りはあくまで最終日という事が意識出来る。
	実践予定内容	保育担当チームによるタスク管理。
2	計画・ねらい	有効な保育計画。子どもの成長に沿った保育計画を具体的に実践する。
	実践予定内容	保育計画の基本を意識した上で、臨機応変な対応をする。
3	計画・ねらい	自己計画。自分の目標を立て実行していく。
	実践予定内容	事務室内に目標を掲示し周知・周囲との協同を進める。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	12人	0人	0人	0人	30人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	7人	看護師	0人	栄養士	0人	調理員等	1人

パート スタッフ	保育士	2人	嘱託医	2人		
-------------	-----	----	-----	----	--	--

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	コンピテンシー・情報共有・研修・交流
給食運営会議	月1回	給食の振り返り・食育について
事故防止委員会	月1回	安全確認・事故記録、ヒヤリハット、インシデント振り返り
ケース会議	月1回	支援の必要な児童について
リーダー会議	週1回	日常の保育の振り返り・見通し
行事会議	都度	行事についての計画反省

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人の確認事項など・月次報告
施設長勉強会	月1回	施設長の連携・保育を深めるための勉強会
食育会議	年4回	調理・施設長による食育全般について
保健会議	年4回	看護師・施設長による衛生管理などについて
主任会議	年4回	課内の主任による交流・勉強会
子育ての質を上げる会議	月1回	各園のリーダーによる保育についての会議

〈3〉 各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生管理の確認

安全対策係	安全対策の確認
防火管理者	消防計画の作成・避難訓練の実施、確認・
食品衛生責任者	給食の安全管理
畑係	作物の定期的な作付け・見守り・収穫など
生き物係	生き物の世話

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画と実施
船橋市市民フェスティバル係	地域行事への参加

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 ・歩行の確立、言葉の獲得により盛んになる探索活動が十分に出来るようにし、友達との関わりの芽生えを促す。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な大人との安定した関係のもと、一人遊びを十分に楽しみながら、自我が芽生える。 ・生活の中の様々な遊びや人との関りを通して自我が育つ。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活や遊びの中で基本的習慣や運動が心地よい感覚として身につく。 ・友達との関りを通し、自分の気持ちを言葉や行動で表現し熱中して遊ぶ。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の要求や思いを言葉や行動で相手に表現しながら他者を受容する感情が育つ。 ・生活や遊びの中で達成感や充実感を味わう経験し、目標に向かって友達と力を合わせて活動する。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼

保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・ 2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

保護者とのコミュニケーション、保育者・調理など全職員が専門性を活かしながら、子どもの様子に寄り添いながらの食育活動を進めていく。

1	計画・ねらい	子どもたちの食材への意識を高める。素材を知り味わう。
	実践予定内容	食材への関心を高め、噛む力を育て素材の味を味わう。
2	計画・ねらい	食を楽しむ。子どもが自分たちで盛り付け・配膳をする。
	実践予定内容	自分で食べられる量を知り、自分の体を育てる意識を持つ。
3	計画・ねらい	子どもと一緒に食べる。子どもの食事内容、食べ方を知る。
	実践予定内容	調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に給食を食べる事で、好きなものを好きな人と好きなだけ食べられる経験を促す。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き・手洗い・うがい指導
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施

	6月頃・・・溶連菌 1月頃・・・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・ 0名より預かり済み／保管なし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在 10名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員 1名については 5月 31日までに受講予定
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	本日現在 10名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員 1名については 5月 31日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検 (簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月

		歯科健診 年1回/6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

保育所保育指針第2章保育の内容に記載されている「自分で考え、自分で行動する」「自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する」を基本とし、室内・室外ともに子どもが自発的に関わる環境を設定する。

1	計画・ねらい	室内環境の整備
	実践予定内容	季節や興味を意識し、子どもたちの興味を促す環境の設定。
2	計画・ねらい	保育園の出入り口の環境整備
	実践予定内容	子どもたちや保護者のスムーズな動線整備。随時見直す。
3	計画・ねらい	散歩コースの環境整備・安全管理
	実践予定内容	子どもたちと共に、ハザードマップの作成を進める。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

園内に手作り遊具・家具無し

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	避難訓練(月1回)火災・地震を想定。通報訓練・引き渡し訓練・うちの子アプリ保護者向け書き込み。
2	実践予定内容	事故防止チェックリスト(年6回)
3	実践予定内容	不審者対応訓練(年2回)
4	実践予定内容	設備点検(年4回)
5	実践予定内容	事故防止委員会
6	実践予定内容	地域河川氾濫を想定した水防計画
7	実践予定内容	光化学スモッグの対応

6.実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

保育園は、地域の社会資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生の受け入れに社会的責任がある。そのため、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、当グループでは実習生・研修生を積極的に受け入れる。

実習生、中高生の職場体験など積極的に受け入れ、オリエンテーションにおいて、しっかりと方針や内容を伝え、不安のないように実践を進められるよう配慮する。実習終了後も交流を継続できるようにコミュニケーションを進める。

1	実践予定内容	保育専門学校などの実習生の受け入れ
2	実践予定内容	中高生の実習体験の受け入れ
3	実践予定内容	研修生の受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

新人研修	新入社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■新入社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修 (年1回) ■園内研修 (月1回以上) ■保育スキル研修 (エリア別) ■リーダー養成研修 (9~2月) ■業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会 (月1回) ■デンマークインターンシップ (年1回) ■コンピテンシー自己採点 (月1回) ■人権チェック (4月・10月) ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月19日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②マナー研修 ③ケガケーススタディ・安全指導・虐待防止	新たなスタートの月。原点回帰。 事故記録簿などの見直し。
5月17日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②安全教育	子どもの人権の理解。虐待の定義。
6月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己	子どもの命を守る。

園長大学®保育士 大学講座および社 内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
デモンクインターソップ	希望するスタッフが応募

〈4〉 スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉 リーダー育成

リーダー会議での積極的な意見交換を重ね、具体的な対応を学ぶ。様々な事例を検討し、先を見通せる力を培う。また常に現状を把握し、今日の前の子どもの最善の利益を追求出来ているかを確認しあう。学ぶ姿勢を継続する。

8. 地域交流計画

〈1〉 今年度方針・テーマ

船橋どろんこ保育園の存在を広く地域に知っていただくことで、子どもたちと地域の方々との交流を深め、成長や安全を見守っていただけるようにしていく。また積極的に園を開放し地域の子育てに貢献していく。

〈2〉 具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：本町中央公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設訪問・中学・高校の体験学習の受け入れ
異年齢交流	小中学校交流、大学生との交流。他園との交流。

地域拠点活動	ちきんえっぐ・青空保育

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

就学を視野に入れ「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識していく。
本園幼児との連携を計画していく。

〈2〉具体的な連携計画

乳児のみの為特に無し。

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

年度初めに個別支援年間計画を保護者と関係機関と相談しながら作成する。
半期に一度保護者と関係機関と面談を実施し、見直しをする。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：5名予定)

対象児の日々の行動記録を書き留めたものから考察し本児の成長・課題を共有し合い、次月の目指す姿や保育者の援助を話し合う。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

乳児のみの為、対応児無し。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
自然食堂…親子ランチ交流	月2回 10:00~12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月1回 10:00~12:00
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：本町中央公園にて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年10月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：9時00分

自己評価終了予定時刻：15時00分

自己評価実施予定者：園長、主任、乳児リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	『みんなちがって みんないい みんなのなかの生きる力』を保育目標に掲げ、異年齢交流・戸外活動・主体的に生活する。
	振り返り	異年齢交流に関しては1歳児と2歳児は早目に交流が進められ、年度の

		後半から本園の2歳から5歳との行事活動が進められた。本園・分園2歳児合同保育も年明けから積極的に実施出来た。遠距離散歩は児童の様子に寄り添って積極的に進められた。主体的な活動に関しては保育者の「見守り、待つ」意識が高まってきた。
--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	チーム保育の確立。異年齢・インクルーシブ保育の推進。
	重点施策	個人とチームでの目標設定。必要なコミュニケーションを全員が意識し、インターネット等を活用し発信していく。
2025年度	目指す姿	どろんこ保育園の理解を得る 広報活動の充実
	重点施策	どろんこ会の保育方針の浸透、実現が進められている。 思いやりの心・誠実な行動・感謝の気持ち・謙虚な姿勢を意識している。
2026年度	目指す姿	どろんこ会の保育方針がすべての人々に理解され、 保育園＝どろんこ保育園のイメージを確立する。 『大きなお家』ここなら安心いつでも快適。 どろんこ保育園旗艦園となる。
	重点施策	どろんこ会の保育方針の浸透、実現が進められている。 思いやりの心・誠実な行動・感謝の気持ち・謙虚な姿勢が全ての関係者に行き渡っている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：船橋どろんこ保育園分園 施設長 齋藤 みどり

2024年度 南魚沼どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

法人 保育理念 「にんげん力、育てます。」
 子育て目標 「センス・オブ・ワンダー」
 「人対人コミュニケーション」

南魚沼どろんこ保育園がある南魚沼市は、日本有数の豪雪地帯であり、センス・オブ・ワンダーの中にある。開園8年目となる本年は、社会福祉法人どろんこ会が目指す法人理念・保育目標・子育て方針、保育所保育指針、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿（保育所保育指針）を柱に子どもたちにとって真に必要な経験をスタッフ一人一人が考え、南魚沼市の自然、環境を活かした保育の実践と地域になくてはならない園を目指していく。子どもたちに育みたい「生きる力」は日々の保育の積み重ねにより生まれ、私たち保育者はその瞬間を逃さず、子どもたちが原体験できる環境、保育内容の充実を目指した保育実践に取り組む。また、子どもたち一人ひとりを尊重し丁寧に関わる養護と教育の一体化と「生きる力」の源となる日課や基本活動の意義を深め子どもと共に実践していく。その中で子どもがいつでも経験を選ぶことができる環境設定を行い、主体的に活動に取り組めるように様々な道具やものを常設し、生きる力を育む。

地球温暖化と言われる中で、この南魚沼市の雪も年々減少方向となっている。雪国の四季を通じた生活や田舎ならではの知恵のある生活を日々の保育の中に活かし、子どもと大人が共に生活していく中で生活力を体得していきたい。

子どもたちの心にこの南魚沼の原風景や保育園で経験したことを残し、このふるさととの雄大さ、温かさをいつの日かこの地を離れることがあっても、この「ふるさと」に帰ってきたくなる場所を目指しここに2024年度事業計画を記す。

南魚沼どろんこ保育園 園目標
 「豊かな心と強い体で のびのびと遊ぶ」

2024年度 南魚沼どろんこ保育園スタッフのキャッチフレーズ
 「自ら考える」「自ら学び」「自ら行動」「自ら楽しむ」 ～自律した集団～

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	法人理念を理解する。 ねらい：法人の理念・方針等を深く理解し自園への思いを持ち、業務にあたる姿勢を育成する。
	実践予定内容	・創業者の思い、エピソードの共有。 ・法人理念・方針、基本活動の意義を深める。 ・日々の保育の充実。 ・スタッフの職務の自律。
2	計画・ねらい	6つの力と基本活動の充実。 ねらい：子どもたちにとって真に必要な体験・活動の充実を図る。

	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・6つの力と基本活動の意義を深める。 ・チーム保育の必要性の再確認。 ・チーム保育のメリットとデメリットを共有。 ・日々の保育を実践。振り返り。 ・ゾーン保育の実現。
3	計画・ねらい	<p>子どもに必要な生活力とは何か。</p> <p>ねらい：生きる力を育む本物の体験から生活力を身につける為の環境作り。子どもも大人も一緒に体験し体得する。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・本物の道具を使える環境作り。 ・伝承遊びを大人も子どもも一緒に行う。 ・火・土・水を使った活動の充実。釜戸を子どもと一緒に活用。 ・季節の歌を唄う。
4	計画・ねらい	<p>食の循環を知る、食育活動。</p> <p>ねらい：年間を通して主体的に子どもと大人が体験を通し学ぶ。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・食育活動。年間計画を立案。 ・堆肥作り、畑・田んぼ作り等 子ども、全スタッフで実践。 ・命を頂く（さばく、解体する、調理する、食べる） ・加工する（梅干し、味噌、たくあん、干し柿など） ・卵の収穫。 ・ヤギ小屋掃除、糞の始末。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	<p>お迎え3分間対応、連絡帳、タイムラインの充実。</p> <p>ねらい：園の様子や保育内容を手に取るように分かりやすく発信、園で実践している保育内容への理解を深めていく。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の立場にたったお迎え3分間対応。 ・タイムラインの充実。様子がわかるような写真撮影・文章構成研修。 ・連絡帳の質の向上。 ・保護者との会話の中から家庭での様子や悩み、要望などを引き出していきける関係作り。
2	計画・ねらい	<p>保護者面談の充実。</p> <p>ねらい：保護者の様子、子どもの様子から気軽に面談を行い、保護者の悩みや心理的負担の軽減、子育てに前向きに取り組めるような子育て相談を実施。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の関わりの中で、信頼関係を築く。 ・子育て中の保護者の思いに心を寄せ、保護者の立場に立つ保護者支援を深める。 ・全スタッフがクラスの枠を超え、子どものエピソードを伝えていく。（全スタッフで全園児を保育していく） ・様々なケースを通し、保護者支援力アップ。
3	計画・ねらい	<p>保育参加のねらいを伝え、利用者の増加を目指す。</p> <p>ねらい：実際に保育参加をして頂き、保育内容や子どもの発達の様子を深く知って頂く。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者懇談会などで保育参加の周知。

		・保育参加のPR強化。
4	計画・ねらい	どろんこサポーターズの活動のサポート。 ねらい：どろんこサポーターズの活動を通し、保護者同士の親睦を深める。子どもにとって必要な機会の提供のサポートを行う。
	実践予定内容	・どろんこサポーターズ募集の声かけ。 ・どろんこサポーターズの企画運営のサポート。 ・どろんこサポーターズ活動の定着。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	ちきんえっぐの地域の子育て拠点を旨指す。 ねらい：地域の子育て世代の方が気軽に立ち寄り、相談しあえる信頼関係を育む。
	実践予定内容	・利用者のニーズに合わせた活動内容。 ・来園に対し、全職員で心地良いお迎え。 ・出前保育や青空保育の内容の充実。 ・出前保育の開催場所の再考と地域の子育て支援センターとの連携。 ・利用者の口コミからネットワークを拡大。 ・在園保護者への声かけを推進。 ・自然食堂等のちきんえっぐの活動を地域に広く宣伝。
2	計画・ねらい	どろんこまつりとコラボ開催、「糸と糸盆踊り」の開催。 ねらい：地域で復活した糸と糸盆踊りをコラボ開催し、地域を盛り上げ地域の子育て世代にも昔からの原体験を繋いでいく。
	実践予定内容	・9月第1土曜日に開催。 ・開催に向けて、実行委員会議、太鼓・盆踊りへスタッフが参加。 ・どろんこサポーターズとの連携。 ・地域の伝統盆踊り、太鼓の伝承。 ・当日は、ちきんえっぐとして木六神社へ子育て支援ブースの設置。 ・盆踊り子どもタイムの実施。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	主体的に学ぶ職員育成。 ねらい：自ら学ぶ姿勢をもち、学んだことをアウトプットしていく機会を作る。
	実践予定内容	・「園長大学・保育士大学」のコンテンツの利用。 ・園会議でのアウトプットタイムの実施。 ・主体的に学び、学ぶことを怠らない職員育成。
2	計画・ねらい	地域の社会資源として貢献する意欲をもつ職員育成。 ねらい：地域に根差した園を目指し、園の顔となり地域活動に貢献。
	実践予定内容	・春の木六神社清掃にボランティア参加。（任意） ・糸と糸盆踊りの実行委員。（施設長・スタッフ〈任意〉） ・糸と糸盆踊りの太鼓・盆踊りへの参加。（任意） ・園の駐車場に接続している消防小屋の除雪。（冬季）

		<ul style="list-style-type: none"> ・園所在地の歴史、愛宕山に登る思いを語り継ぐ。 ・地域に根差した園運営。（ご近所付き合いを継続）
3	計画・ねらい	<p>互いに育ちあう職員関係作り。</p> <p>ねらい：社会人として仕事に取り組む姿勢を先輩の姿から学ぶ。若手育成に向け、背中を見せていく意識をもち伝えながら業務にあたる。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・全スタッフで取り組む日課や基本活動の充実と質の向上。日々、同じように取り組む。 ・登園、降園時の子ども対応、保護者対応の向上。（季節や状況に合わせた対応力向上） ・社会人としての姿勢態度・言葉使いの定着。
4	計画・ねらい	<p>リスクマネジメントの理解を深める。</p> <p>ねらい：ヒヤリハット、インシデントの抽出、共有、検討からリスクマネジメントの重要性と理解を深める。</p>
	業務予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園におけるリスクマネジメントのきっかけとなった事故を振り返る。 ・リスクとハザードの違いを深める。 ・マニュアルの重要性を深める。 ・リスクマネジメントから子どもたちにとって真に必要な保育実践。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	<p>食の循環を知る食育活動。</p> <p>ねらい：畑活動を通し、食の循環を知る生の体験を実践。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日課の充実、継続。課題抽出から改善、実践。 ・畑仕事の意味を子ども、大人が深める。 ・旬の野菜を知り、生長や変化を感じる。収穫を喜び、朝どれ野菜の味を味わう。
2	計画・ねらい	<p>加工食を通し、昔からの知恵や伝統、保存食、味の変化を知る。</p> <p>ねらい：様々な食材を加工することで形や味が変化し保存食の意味を学ぶ。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・梅干し、干し柿、味噌、たくあん、マヨネーズ作り。
3	計画・ねらい	<p>年間を通した堆肥作り。</p> <p>ねらい：山羊の糞、鶏糞、落ち葉などを利用した堆肥作りを年間通し取り組み、畑作りやプランター栽培に使用する。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日課の一つとして、畑仕事と同時に堆肥作りを行う。 ・給食残渣を減らす。（皮付野菜の給食提供、廃棄野菜は山羊、鶏の餌として利用） ・ビオトープの藻を乾燥し堆肥に混ぜる。 ・草刈り後の草や落ち葉などを利用する。 ・プランター栽培にも利用する。
4	計画・ねらい	<p>ビオトープの環境整備。</p> <p>ねらい：畑、田んぼの中にあるビオトープに自然のままのアメンボやカワニナ、蛙などの水辺の生き物が生息し、観察できる環境作り。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・蛙やカワニナ、水カマキリなどが生息できる環境作り。 ・水辺の生き物を観察する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・藻を取り上げ後、乾燥し堆肥作りに利用。 ・ビオトープの小川の環境整備。（土上げ、草取り、草刈り） ・用水の量の調整によるビオトープの環境整備。（スタッフが季節に合わせた適正量や調整方法を知る）
--	--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈6〉子どもたちにとって毎日が充実した日々が過ごせる保育実践

1	計画・ねらい	<p>子どもたちが面白い、楽しい、もっとしてみたいと思う保育実践。 ねらい：常に子どもの目線に立ち、毎日期待感を持ち登園する保育内容を考える。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを中心とした保育実践の姿勢の育成。 ・発達に合わせたモーニングサークルの実践、継続。 ・サークルの意義の共有と理解。（研修） ・意見をまとめる力を伸ばす保育者の関わりの理解。 ・子どもの興味関心を知る。 ・子どものつぶやき、発言を実現できる行動力の育成。 ・幅をもった保育計画。
2	計画・ねらい	<p>すべての子どもが意欲を持って登園する。 ねらい：子どもが自ら園内に入り、意欲的に活動をスタートする。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・登園受け入れ時、子どもが主体的に活動に入る環境作り。 ・子ども一人ひとりの視診や様子を見極める。 ・子どもの成長に合わせた受け入れ方法。 ・子どもが面白く楽しい保育内容の実践。
3	計画・ねらい	<p>火・土・水、ハサミ、針と糸などが身近にある環境の中で生活力を育む。 ねらい：本物の道具を実際に使い、道具の扱い方や危険なものとの距離の取り方を学ぶ。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・釜戸での火つけ、火の調整から適切な距離の取り方を学ぶ。 ・ハサミ、針、糸、工具など様々なものを大人と一緒に使い、使い方を学ぶ。
4	計画・ねらい	<p>子どもが自ら経験の選択をできる環境作り ねらい：子ども自身が様々なものに主体的に、ものとの距離感を知ることができる環境作りを設定。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に参加したくなる環境設定。 ・本物の道具やものを準備する。 ・子どもの身近にあるものを実際に手に取り使える環境。 ・自ら選び触れ体験する。

〈7〉にんげん力と主体性を育む園内研修

1	計画・ねらい	<p>にんげん力を高める園内研修。 ねらい：にんげん力を高めるために、必要なことは何か。自ら考え、学び深めていく。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大人のにんげん力・主体性とは何か。 ・学び、実践からの楽しい保育。

		・インプットからアウトプットをする機会作り。（全スタッフ）
2	計画・ねらい	ポジティブ思考を持つ。 ねらい：社会人としてポジティブ思考に切り替えていくことで、自分自身の成長や豊かな人生になることを知り、学び続ける姿勢を持つ。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の思考はどこにあるのか、自分自身を知る。 ・自分の思考を変えるポイントはどこにあるのか方法を学ぶ。 ・批判的思考力を育む。 ・自分の短所を長所に変える。 ・偏らない思考が人生を豊かにしていく。 ・保育者に必要なポジティブ思考。 ・常にアップデートする。
3	計画・ねらい	社会人としてプロになる。 ねらい：接遇を身につけ、社会人として成長する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場に立った接遇力研修。 ・電話対応、来客対応、保護者対応の基本研修。 ・挨拶、言葉使い、ペーペーシップの基本確認。 ・身近な人の背中を見る。

〈8〉次世代を担うリーダーの職員育成

1	計画・ねらい	法人の理念や方針を理解し、日課・基本活動をリーダー中心に保育をリードしている。 ねらい：法人の理念や方針を深く理解し、子どもが主体的に活動に向かっているように全スタッフを導いている。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の理念や方針、保育所保育指針を学ぶ。 ・日課・基本活動に取り組み、課題に気づき改善し取り組んでいく。 ・さくらさくらんぼリズムの質の向上。 ・互いに育ち合う意識を持つ。 ・日々の日課で子どもが主体的に活動に取り組んでいけるように導いている。背中を見せている。
2	計画・ねらい	保護者、来客の立場に立った対応をリードしている。 ねらい：リーダーの対応力を若手育成に活かしていく。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な時に、必要なタイミングで声をかけ導いている。 ・保護者・来客の視点に立つ意識の育成。 ・アンテナの高い職員育成。
3	計画・ねらい	各係・プログラムが環境構成や充実した保育を展開していけるように、リーダーを中心に導いている。 ねらい：チームとしてスタッフ一人ひとりが責任を持ち環境構成や保育内容を考え実践している。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各係・プログラム運営会議の開催。 ・全スタッフが責任を持って業務に当たる仕組み作り。 ・全スタッフがチームとなり、保育が展開している。 ・課題の抽出からの検討、共有。

〈9〉 いつ来ても綺麗な園舎景観、園庭、園舎内

1	計画・ねらい	いつ来ても綺麗な園庭・園舎環境を保持する。 ねらい：心を込めて、丁寧に管理されていることが伝わる美観を全スタッフで保つ。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長は常に、園舎・園庭の景観、外からの視線を意識する。 ・園庭や園舎周りの草が近所の迷惑にならないように巡回をする。 ・整理整頓。 ・園庭やビオトープへの野生動物の侵入等にも注意。見回り。 ・掃除を業務の中に組み込み、いつでも整理整頓・清潔な環境を保つ。 ・降雪期の除雪は、保護者を優先し安全と景観に配慮する。
2	計画・ねらい	掃除の行き届いた園舎。 ねらい：日々の業務に掃除を組み込み、常に掃除が行き届いている状態を維持する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除を業務の中に組み込み、いつでも整理整頓・清潔な環境を保つ。 ・常に開園当時に思い出す磨かれた園舎。 ・物をどかして掃除をする。 ・小さなゴミを拾う。 ・汚れに気づいた時には、率先して掃除をする。 ・はみ出して掃除をする。（担当の場所からはみ出して掃除をすることで掃除が全体に行き渡る）
3	計画・ねらい	突然の訪問にも、自信を持ってお迎えできる園内環境、接遇力。 ねらい：どんな時も相手に喜んで頂ける接遇力を高め、保育環境として自信を持って整理整頓された環境を維持する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓された園舎を維持。組織で確認。 ・全スタッフが環境整備に関わる。 ・物を出したら元に戻す。（一人ひとりの習慣化） ・気配り・心配り・相手の立場に立つ接遇マナーの基本研修。 ・来客時、スタッフの接遇対応力をケースから学ぶ。 ・観葉植物の育成、配置。

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
7人	16人	16人	18人	26人	16人	99人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	16人	看護師	1人	事務員	1人	調理員等	2人
パート スタッフ	保育士	2人	保育補助	1人	用務	2人	嘱託医	2人

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	計画に基づきスタッフの研修、共有事項。
給食運営会議	月1回	喫食状況、嗜好、アレルギー児に関わることの共有、検討
事故防止委員会	月1回	法人から発信された事故の情報や自園のヒヤリハット、インシデント、事故分析の結果から改善を検討。発生した自園の事故は都度検討。季節に合わせた危機管理の検討、共有。
ケース会議	月1回	要支援児のアセスメント情報、育ちの共有、検討。
リーダー会議	月2回	施設長、主任、リーダーによる運営に関わる共有、検討。
乳児・幼児、各クラス会議	月1回	乳児クラス、幼児クラスの連携や各年齢の活動についての共有・課題検討など保育内容を充実するための会議。
保育計画会議	毎週木曜日	次週の計画検討。計画表の掲示→子ども、スタッフに共有。
各プログラム会議	月1回	教育環境として、言葉・音楽・伝承遊び・アート等をどう保育に取り入れていくのか検討し実践をリードしていく。
各係会議	月1回	戸外、園内環境や地域との繋がりなど自園を多方面から考え各係のリーダーとして業務の中にどう取り組んでいくか検討しリードしていく。

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人による連絡、共有事項。事故防止委員会。
施設長勉強会	月1回	マネジメント力の向上のための勉強会。
食育会議	年4回	施設長、調理担当者による食育活動の取り組み、給食に関する情報共有とレベルアップのための内容。
保健会議	年4回	施設長、看護師による保健、衛生指導関係の情報共有とレベルアップのための内容。
主任会議	年4回	主任としての役割の理解と園運営への理解。
子育ての質を上げる会議	月1回	若手職員参加による次世代育成のための内容。

〈3〉 各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	看護師を中心として子どもの健康管理、衛生管理に関わる事項全般
安全対策係	事故防止に関わること全般 ヒヤリハット集計・分析。改善と検討の周知 施設設備点検及び管理
防火管理者	園長：田村真由子 防火設備点検管理 消防計画作成
食品衛生責任者	調理師：小林千春 食品衛生管理
畑係	畑・田んぼ・ビオトープ・堆肥に関わる運営・管理
生き物係	山羊・鶏・飼育コーナー小動物に関わる運営・管理
ハザードマップ係	散歩コース、園内外のハザードマップ作成 (4.7.10.1月改定)
研修係	園会議の運営 自主研修の計画・運営 公開講座の計画・運営
環境整備係 (園内)	園舎内の清掃、整備、整理整頓に関わる運営・管理
環境整備係 (園外)	園舎外 (ビオトープ・園庭) の整備、整理整頓に関わる運営・管理
保育環境係	ゾーン保育のための室内・園庭の環境を構成し運営・管理
花・花壇係	花・花壇・プランターの管理
タイムライン係	日々の保育の様子を発信 運営

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	地域の「系と系盆踊り」コラボ開催でどろんこ祭りを計画・運営
運動会係	運動会開催に関わる計画運営
生活発表会係	生活発表会に関わる企画運営
行事係	四季・伝統行事、子どもたちに伝えたい行事を計画・運営
地域ボランティア係	春の木六神社清掃、消防小屋除雪、地域防災訓練に関わる事項

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの子どもの発育や発達状態を明確に把握し、養護の重要性、アタッチメントの大切さを認識していく。 清潔で安全な環境を整え安心して園生活を送ることができるようにする。 一人ひとりの発達を踏まえて、応答的な触れ合いや言葉がけを行う。表情豊かに応答的な関わりの中で信頼関係を築いていく。 一人ひとりの生活リズム、発達過程などを踏まえ、活動内容や適切な食事、休息を摂ることができるようにする。 異年齢で過ごす中で、子ども同士が育ち合う環境を大切にする。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの興味関心を尊重し、センス・オブ・ワンダーの世界を十分に経験できるようにする。 身近な環境や人に興味をもって関わろうとする姿を大切にしながら満足感や充実感が得られるように生活や遊びを大切にする。 様々な感覚の働きを豊かにする環境を作る。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達や興味関心にあった環境構成の中で子どもが主体的に活動に取り組んでいく。 発達の個人差に配慮しながら、一人ひとりの子どもの発達や気持ちを受け止めて援助する。 子どもが自ら周囲に働きかけ、試行錯誤しながら自分の力で行う活動を見守り、適切な援助を行う。 十分に体を動かす気持ちよさや達成感から、自ら体を動かそうとする意欲が育つ環境設定作り。 日課・基本活動に主体的に取り組んでいくための援助を行う。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> モーニングサークルを通し、1日の活動に目的をもって主体的に活動に取り組んでいくための援助を行う。

		<ul style="list-style-type: none"> ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に基づいた活動を通して資質能力を育む。 ・異年齢で過ごす中で、互いに刺激し合い憧れや思いやり、思うようにならないことなど様々な気持ちを体験し、解決しようとする姿が増え生活や遊びの達成感や充実感を味わえるように援助を行う。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	<p>子ども・スタッフが一緒に食べる縁側給食の継続実施。</p> <p>ねらい：巻機山など周りの景色や園庭を眺めながら1年間を通し子ども・スタッフが一緒に食べる。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・縁側・玄関前スペース・園庭と季節に合わせて巻機山を眺めながらの給食を子ども・スタッフで実施する。 ・子どもたちによる盛付・配膳を実施。 ・子どもが自ら空腹感を感じられるように午前中に思いきり遊び、食事への意欲・関心を広げていく。 ・食べさせるのではなく、一緒に食べる。会話を楽しみながらコミュニケーションを深める。
2	計画・ねらい	<p>噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する。</p> <p>ねらい：地元食材に可能な限りこだわる。旬の食材の旨味を味わう。</p> <p>噛む力を育てる調理に留意。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・新鮮な地元食材の仕入れるように配慮する。 ・子どもの発達にあわせた提供を共有。 ・噛む力に留意した具材の大きさ・味を調理担当・スタッフ、検食で共有。 ・畑で育てた食材も使用。
3	計画・ねらい	<p>子どもたちが自分で盛付・配膳して食べる。</p> <p>ねらい：毎日の盛付・配膳の中で自分の食べられる量を知り、盛付をしていく。できない時には、友だちが手伝う。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・盛付しやすい食具準備。正しい食具の使い方を知る。 ・年下の子には手伝ってあげようとする。

		・こぼす経験も大切に、片付けをスタッフが一緒に行い方法を伝える。
4	計画・ねらい	堆肥活動を日課として実施。(田んぼ・畑仕事) ねらい：食材・食の循環への意識を育てる。実践していく。
	実施予定内容	・堆肥作り(ヤギの糞、鶏糞、給食残渣、落ち葉、ビオトープの藻)については継続実施。 ・前年度に作った堆肥を使い、畑を作り、収穫し食す。 ・日課として、子ども・スタッフが一緒に行う。
5	計画・ねらい	四季を通じて食の循環を知る体験。命を頂く。 ねらい：加工食品作りなど豊かな食の体験の機会を作っていく。命をいただく体験。(魚のつかみどり・鶏を絞めて食す)
	実施予定内容	・梅干し・梅ジュース・味噌作り・たくあん作り・干し柿・マヨネーズ作り ・ビオトープに放したヤマメ、ニジマスのつかみ取り・捌いて食す ・鶏を絞めて食す
6	計画・ねらい	食育計画による年間活動の計画的実施。 ねらい：生きるために必要な食についての関心を深め、食べる意欲を育てる。食事のマナーやルールについても伝えていく。
	実施予定内容	・2024年度3月までに年間計画作成。 ・食への関心を高める。幼児クラスを対象に栄養指導・食育教室を月に1回開催。 ・食事のマナーとルールを発達に合わせて援助していく。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回(5月・9月)
歯科検診	年2回(5月・9月)
保健だより	月1回(25日)発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回(5日)
園児への保健指導・取組等	手洗い指導・うがい指導・歯磨き指導・栄養指導
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月頃・・・ロタ。ノロウイルスなどによる感染症胃腸炎 8月頃・・・咽頭結膜炎(プール熱) 12月頃・・・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアアップ・・・1名より預かり済み/事務室にて保管 エピペン・・・1名より預かり済み/事務室にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在21名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員・中途職員6名については4月30日までに受講予定

AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	本日現在21名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員・中途職員6名については7月30日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・ 手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 ※10人以上の感染を確認した場合は法人本部、県、市に報告対応。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検 (簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／5・10月 歯科健診 年2回／5・10月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもたちが自分で考え、自分で行動する園庭・室内環境作り。 ねらい：築山、ビオトープ、小川、草花、木など広い園庭・室内で子どもたちが自分のやりたい遊びを満足するまで展開できるような環境作り。 ・0歳児から5歳児までが混ざり合い遊ぶ。
	実践予定内容	・毎朝のモーニングサークルで自分のやりたいことを伝え、友だちの意見を聞くなどの経験を通し人と関わる力を育む。 ・日々変わる環境の中で同じ瞬間はない。一瞬を逃さず、センス・オブ・ワンダーの世界を感じる保育の実践。 ・静・動のメリハリのある環境を整え、一人ひとりの気持ちが満足できるように園庭のスペースの使い方に留意する。 ・子どもの姿、発達に合わせた室内環境設定。
2	計画・ねらい	友だちと試行錯誤しながら活動を展開する。 ねらい：子どもが互いに協同して遊ぶことができるように自ら行動する力を育て、共通の遊びを展開し実現する楽しさ、喜びを味わう。
	実践予定内容	・ビオトープに橋をかける。 ・生き物探し。（カエル、てんとう虫、アメンボなど） ・植物遊び。 ・雪遊び。（かまくら作り、雪だるま作りなど）
3	計画・ねらい	子どもが自ら経験を選べる室内環境。 ねらい：自分で遊びを選び、友だちと協同し工夫して遊びこむことができる。子ども同士の関わりの中で協同する体験等を主体的に取り組める室内環境作り。
	実践予定内容	・室内環境レイアウト検討会開催。（随時） ・子ども一人ひとりの観察と共有。 ・子どもが自ら様々なものに主体的に関わり選択することのできる物的環境設定。 ・子どもたちにとって必要なものが揃っている。 ・共同する活動に配慮した保育環境整備。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	雨具かけ	幼児室	毎日
2	ベンチ	事務室	毎日
3	出前保育の看板	玄関	毎日
4	ピーステーブル	玄関	毎日
5	生物飼育台	縁側	毎日
6	たまご販売台	玄関	毎日

7	ベンチ (2客)	幼児室	毎日
---	----------	-----	----

5. 危機管理 (防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ)

1	実践予定内容	非常事態発生の場合は、法人のマニュアルに従い迅速な対応ができるよう、緊急時の連絡体制などを掲示、共有するなど対応に最善をつくす。
2	実践予定内容	毎月1回実施の避難訓練を基本に日頃より火災・地震・風水害に対する意識を高める。災害は突然に起こるものであり、避難訓練の動作を基本としどんな状況でも最善を尽くす意識を高める。
3	実践予定内容	事故・怪我については、法人ルールに従い迅速かつ的確な対応をする。ヒヤリハットの収集に努め、園内で集計・分析・改善・実行のPDCAサイクルで重大事故防止に努める。
4	実践予定内容	防犯、不審者に対する訓練は年2回実施する。日々の生活の中でアンテナをはり常に意識することが重要である。年1回舞子駐在所の警察官より訓練時に指導を受けている。散歩時における対応や園内における対応の仕方など会議などで意識統一する。
5	実践予定内容	地域の避難場所、近隣住人等の救援のための施設として重要な役割を担っており、Jアラートの発令頻度が高くなっていることを踏まえ、防災ラジオからの情報を頼りに避難場所は1階幼児室と定める。
6	実践予定内容	個人情報漏洩や管理については万全を期し、定期的にスタッフの意識を高めるための啓発を行う。
7	実践予定内容	広域災害によるライフライン停止、調理担当者感染症発生による給食提供停止などを想定した、外注による食事提供訓練の実施。《広域災害食訓練の実施》その他として年1回、非常時の炊き出し訓練を実施する。備蓄品の点検は定期的に行う。
8	実践予定内容	新潟県柏崎市に原子力発電所が再稼働に向け進んでいる中、災害対策重点区域外（半径30キロ圏内）であっても東日本大震災時の原発事故後には土壌の放射能濃度が高い地域とされてきた経緯を含めて、給食で提供する食材の放射能濃度などにも引き続き配慮する。
9	実践予定内容	例年、熊・猪など野生動物の出没が相次ぎ園外保育を見合わせる事態が発生しており、熊出没情報を常に把握して万全を期す。
10	実践予定内容	雪害に対しての意識を高め、降雪量などの気象状況の情報収集をし、こまめな除雪で安全を確保する。落雪、陥没、転落事故などの防止のため日々、コーンを設置し安全確保に努める。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

保育園は、地域の社会資源であり地域研修の場でもあるため、次の世代を担う実習生・中高生・ボランティアの受け入れに社会責任があると考え、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世

代を担う保育・福祉の現場で活躍できる人材を育成するために積極的に受け入れる。一人ひとりの学生に対する指導援助が適切に行われるように配慮していく。近い将来、夢や希望を胸に現場へと進んでいけるように緊張や不安、疑問など実習生の気持ちに配慮しながら保育現場の楽しさを伝え、実りある実習となるように丁寧に対応していく。

1	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生担当者の配置。 ・全スタッフに実習生受け入れ時の心構えを共有。 ・緊張をほぐす丁寧なオリエンテーションの実施。 ・不安のない現場実習を実施。
2	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各校との連携の強化・情報交換。 ・信頼関係の確立。
3	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の実習の振り返りの実施。 ・フォロー体制作り。 ・保育の楽しさを体験できる実習への配慮。

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月16日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②アウトプットタイム ③日課・基本活動の意義 ④虐待について	<ul style="list-style-type: none"> ・保育指針から子どもたちに必要な体験とは何か。日課・基本活動の意義を深める。 ・虐待について様々なケースから深める。
5月21日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②アウトプットタイム ③養護と教育の一本化とは ④心に響く接遇力とは	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育から考える。養護と教育の一本化とは。 ・日常のケースから考える接遇。相手の立場に立った心に残る接遇力を身につける。
6月18日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②アウトプットタイム ③生活力の体得	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちにとっての「生活力」とは何か。生きる力を育むために私たちが取り組むべきこと。
7月9日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②アウトプットタイム ③三つの柱 ④幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿①	<ul style="list-style-type: none"> ・三つの柱から幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿とは。子どものエピソードから学ぶ。
8月20日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の終わりまでに育てほ

		②アウトプットタイム ③幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿② ④インクルーシブ保育とは	しい10の姿を日々の保育から深める。 ・インクルーシブ保育とは何かをケースから深める。
9月17日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②アウトプットタイム ③子どもが自ら経験を選択するとは何か。	・子どもに視点を合わせ、私たち保育者の役割とは何かを考える。
10月15日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②アウトプットタイム ③大人の主体性とは何か。	・ミッションから自分自身を振り返り、大人の主体性とは何かを深める。
11月19日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②アウトプットタイム ③命を頂く活動の意義とは	・食の循環。命を頂く活動の意義を考え、理解を深める。
12月17日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②アウトプットタイム ③架け橋プログラムとは	・就学前教育の意義と必要性を考える。文部科学省が推進している「架け橋プログラム」の理解を深める。
1月21日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②アウトプットタイム ③自園の現状と課題	・自園のおかれている地域の現状を知る。保育内容の質の向上を目指す。社会的役割の理解を深める。
2月19日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②アウトプットタイム ③次年度mission ④次年度に向けて	・次年度に向けての共通理解。 次年度missionの共有。 次年度への夢と希望から提案をイメージし夢の実現へ。
3月2日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②アウトプットタイム ③次年度に向けて ④子どもの人権・虐待 ⑤事故防止	・次年度に向けての共通理解。 子どもの人権を守る。 虐待の定義の確認・共有。 ハザードとリスクを深める。 豊かな体験のための事故防止。

エリア研修予算内訳（南魚沼どろんこ保育園 助成金活用事業）

開催日	予算	予算の内訳		例) 自園で按分した自園負担額
8月1日	13万円	講師代（交通費含む）	10万円	0円
		材料費	3万円	

合計	13万円			0円
----	------	--	--	----

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターソップ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉南魚沼市子ども子育て体制整備総合推進事業助成金 地域公開講座

南魚沼市子ども子育て体制整備総合推進事業助成金を使用して外部講師による地域公開講座を開催し子育ての質を上げる研修会の開催。

子育ての質を上げる研修会の開催

【公開講座】 小学校へのスムーズな接続のために ～自己肯定感を高める表現活動～

【講師】 青木善治先生 滋賀大学大学院教育学研修科 高度教職実践専攻（教職大学院）

【開催日時】 2024年8月1日（木）18：30～20：00

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

開園8年目となり、地域の一員として地域活動に参加していきたいと考える。毎年、恒例の春の木六神社清掃、糸と糸盆踊りへの参加が定着しスタッフの若い力が地域の社会資源としての役割を担っていく。静かな住宅街に戸外で遊ぶ子どもたちの声が響き「子どもたちの声が聞こえると元気になる」と地域の方から言っていた。また、園で飼育している鶏も日中は園外に散歩に出かけ「来ていたよ」と温かく見守って頂いている。8年間築いてきた地域との温かな信頼関係を今後も継続し、近隣の方への感謝の気持ちと日頃のコミュニケーションを大切にする。スタッフ一人ひとりができることを考え、地域の一員としてまずは「日常の挨拶プラス一言」を合言葉になくてはならない地域の一員を目指す。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：木六神社にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	・シニア交流 ・中学校 保育体験交流 ・中之島小学校 伝統太鼓交流 ・糸と糸盆踊り 伝承交流
異年齢交流	・中之島小学校訪問 ・小学校運動会幼児レース参加 ・中之島小学校 マラソン大会応援
地域拠点活動	・交流訪問（公立保育園・中之島小学校等） ・防災訓練参加（7月） ・春の木六神社清掃参加（4月） ・冬季、消防小屋前除雪
銭湯でお風呂の日	近隣に銭湯がないため、実施なし

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

2024年度は、卒園児の就学先が4校と広域であり、小学校との連携が重要になる。南魚沼市の年中児発達検査、年長児希望者の就学相談など保健課の保健師、総合支援学校のUD支援教諭による就学に向けた個別のアプローチを継続し、市のスムーズな就学に向けての取り組みを各関係機関と連携し進めていく。

5歳児と小学校1年生との年間連携計画を柱として、子ども、保護者が夢や希望をもち就学に向けていけるように支援を継続していく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を5月13日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	塩沢地区保幼小中学校	30名予定	情報交換会（上田小学校）	職員間交流
5月頃	中之島小学校 栃窪小学校 塩沢小学校 上田小学校	12名予定	小学校運動会参加 （各校校庭）	子ども間交流
4.6.2月頃	中之島小学校 栃窪小学校 塩沢小学校 上田小学校	10名予定	授業参観・情報交換 （各校）	職員間交流
7月頃	中之島小学校	60名	伝統太鼓教室・盆踊り体験	子ども・職員間交流
8月頃	中之島小学校 栃窪小学校 塩沢小学校 上田小学校	10名	交流訪問	職員間交流
9月頃	木六神社	400名	地域盆踊り・系と系盆踊り（木六神社）	子ども・職員間交流
10月頃	塩沢地区保幼小中学校	30名	共有会議・研修 （塩沢公民館）	職員間交流
10月頃	中之島小学校	30名	マラソン大会応援 （中之島小学校）	子ども・職員間交流
2～3月頃	中之島小学校 栃窪小学校 塩沢小学校 上田小学校	15名	就学に向けた情報交換会	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

個別の支援計画は、年度初めに半期ごと個別に立案し具体的な対応を月に1度のケース会議（必要に応じて都度開催）でスタッフが共有、検討し見直しを行う。保護者面談を通し保護者の動向を知り、各関係機関との連携を密に専門職の意見を頂きながら、一人ひとりに合わせた支援を行う。全ス

スタッフに共有し、同じ視点で子どもを支援することでより良い支援へと導いていく。

〈2〉 毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定)

月に1度、施設長、主任、担当スタッフで発達段階の関わりや保護者の様子などを共有、検討、見直しを記録し経過を共有することを目的に会議を開催。その後、会議内容を全スタッフに共有。一人ひとりの子どもたちを全スタッフがチームで支援していく意識を高めていく。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

南魚沼市総合支援学校のUD支援センター、各就学先小学校と連携し対象児に対して専門的なWISC検査などへ繋げ、就学相談を実施することで就学後を見通した支援体制を作る。

南魚沼市では、特別支援の体制がチームで支援する体制となっているため、各関係機関と子どもたちの未来を見据えた支援に向けて協力し取り組んでいく。

11. 子育て支援事業

園に來訪した親子に都度署名をもらい、月間延來場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(木) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:木六神社にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉 園による自己評価の実施

2024年6月26日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：14時00分

自己評価終了予定時刻：15時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任、リーダー、園事務

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1.3.3 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・質の高い保育を目指して、スタッフの意識が高まり積極的に学ぶ職員が増える。 ・リーダーとなるスタッフが育成されている。 ・子どもにとって真に必要なと思われる体験を積極的に実施している。 ・保育の内容が地域で理解されている。
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・園会議等で、全スタッフがインプットした内容をアウトプットする機会を作った。次年度もインプットしたことをアウトプットし、一人ひとりの学ぶ意識を高め、質の高い保育を目指し取り組んでいく。 ・リーダー育成が求められる中でリーダー会議を通し課題を共有、検討してきた。リーダーに求められることを深めながら、今後も育成に力を入れていく。 ・日々、変わる戸外環境の中で子どもたちにとって真に必要な体験を実践できるように考え保育をしてきた。子ども中心の視点を持ち、保育を展開してこうとするスタッフが増えてきている。今後も理念や基本方針、活動の意義を深め保育を展開していきたい。その為には、保育者間の連携が重要となり、チーム保育を目指し継続していく。 ・園児数が横ばいであり、学区外の広域からの入園が継続していることから自園の保育が地域で理解されているのではないかと感じる。今後も地域の保育の質の向上の一旦を担っていけるように、保育の研鑽を重ね進んでいきたい。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の質の向上を目指し、リーダーを中心に自ら学びアウトプットし育ち合う組織となっている。 ・リスクマネジメントが行われている中で、子どもたちが様々な体験をのびのびと行うことができる。 ・子どもたちにとって必要な室内・園庭環境構成を全スタッフで構築していく。 ・日課、基本活動が定着し、子どもたちにとって魅力ある学びの場と定着している。
--------	------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容が地域で理解されている。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修の充実。 ・スタッフが必要だと思う自主研修を開催。 ・リスクとハザード、リスクマネジメント等、研修会を実施。 ・環境構成について、真に必要な環境を検討、改善。 ・日課、基本活動の意義を深め、子どもたちの姿を捉え改善しながら教育的活動として毎日実施。
2025年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・全スタッフが常に学びアップデートする風土ができています。保育の質が着実に向上している。 ・地域に保育内容が理解され、園児数が横ばいである。 ・子どもたちにとって必要な体験ができる保育が展開されている。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが学びインプットしたことを、アウトプットできる場を作り互いにリスペクトし合い、保育の質が向上している。 ・リーダーを中心に子どもたちにとって必要な保育を展開している。 ・子どもと大人が季節や活動の見通しを持ち、子どもと共に保育の計画を考え1年を通し継続した保育内容が展開されている。
2026年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化が進む中で園児数が横ばいであり、地域に保育内容が広く理解され選ばれる園となっている。 ・思いのあるスタッフが自ら学び、子どもたちにとって最善の保育を子どもと共に楽しみ展開している。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・どろんこ保育園の保育内容が地域で理解され、少子化となる2025年以降も横ばいとなり、保育の質の向上から地域で選ばれる園となっている。 ・思いのあるスタッフが子どもを中心に、真に必要な活動が実践している。 ・子どもが毎日、期待感を持ち登園してくる保育が展開されている。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：南魚沼どろんこ保育園 施設長 田村 真由子

2024年度 和光どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

法人理念 『にんげん力。育てます。』

法人保育方針 『センス・オブ・ワンダー』『人対人コミュニケーション』

以上の法人方針を基に

- ① 日課、基本保育活動を大人と一緒に行うことで、子どもの身体的、精神的発達を促し、生きる力を育む。
日課、基本保育活動を遂行する上で、大人が背中を見せて取り組むことの意味、子どもにどんな経験を積ませてあげたいか、ねらいをもって保育を進められるようにする。
- ② 子どもがTrial&Errorを経験する環境を用意し、ひとりひとりの成長をすべての職員が見守る保育をすすめていく。
大人も子どもも、期待感をもって一日を過ごすことができる場となるよう、人的環境、物的環境を整えていく。職種にとらわれることなく、すべての職員が子どもたちと一緒に過ごし、成長を喜ぶことのできる場とする。
- ③ いつ誰が来ても気持ちの良い園であり、地域に愛される園となる。
来園者が心地よく感じるような挨拶や声かけ、気配りができ、心地良い保育園を目指す。大人の姿が子どもに連鎖し、地域の中で和光どろんこ保育園が選ばれる園になる。

以上を基本方針とする。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	ひとりひとりの発達を理解し、見通しのある保育の実践をすすめる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について、子どもの姿から職員間で学びを深め、継続した保育内容に繋がられるようにしていく。 ・ 保育の振り返りを定期的に行い、成功と失敗を重ねながら見通しのある保育の充実を目指す。
2	計画・ねらい	自分で選択し遊ぶことのできる環境の充実をはかる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ コーナー毎のねらいを明確にし、子どものやってみたい気持ちを満たすことのできる環境作りを行う。 ・ 定期的な環境の見直しを行い、その時々の子どもの成長発達に合わせた環境作りを実施する。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	毎日の様子が手に取るようにわかり、安心できる保護者対応を行う。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ お迎え時、その日の様子が具体的に伝えられるよう、保育の中での気づきを大切にし、成長を感じるワンエピソードをお話するようにする。また、子どもの姿を職員間で共有し、園全体で成長を見守り保護者と一緒に

		成長を喜べる関係を築いていく。 ・目で見てわかる情報発信を工夫し、待った気がしない保護者対応を目指す。
2	計画・ねらい	保育参加を通して園での生活を知っていただき、より密に情報交換を行う。
	実践予定内容	・保護者へ保育参加の目的や実際の様子を知っていただき、参加してみたいと思えるような案内を工夫する。 ・保育参加を通して保護者との情報交換を行い、より安心して利用してもらえる機会にする。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	青空保育の充実をはかり地域と保育園との繋がりを深める。
	実践予定内容	・一緒に遊んでみたいくなるような遊びを計画し、地域の方が入りやすい雰囲気作りを行いながら進めていく。 ・リピーターを確保し、ちきんえっぐの利用にも繋げられるよう、温かいコミュニケーションで、和光どろんこ保育園を知ってもらえるようにする。
2	計画・ねらい	園からの情報発信を強化する。
	実践予定内容	・ちきんえっぐや青空保育の活動を保護者にも定期的にお知らせし、未就園児への参加に繋がるようにしていく。 ・ちきんえっぐだよりで園での魅力的な活動を伝え、園に行ってみたいと思える情報発信を行う。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	自分自身の役割を理解し、スタッフ間で高め合えるチームとなる。
	実践予定内容	・自身の目標を明確にし、互いの目標を共有し合いながらチームで達成できるように、進捗確認をこまめに行っていく。 ・クラスや園の課題を共通理解し、それぞれの立場で何ができるか、リーダーを中心とし課題解決できるチーム作りを行う。
2	計画・ねらい	エリアで学び保育の質向上に繋げる。
	実践予定内容	・実地研修を開催し、他園を知ることで自園の課題解決、保育の質向上につなげていく。また、保育の幅を広げるきっかけとし、自園の保育を語れるようにする。 ・互いの園の良い所を吸収し合い、エリア全体で保育の底上げをしていく。

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を通し環境について実体験から学ぶ。
	実践予定内容	・コンポストの作製を行い、堆肥作りを通して食物の循環について学んでいく。そこから食材残渣を減らすことにも繋げていく。 ・食材について知る機会をもち、食品ロスを身近なものとして考えられる

		ようにする。
2	計画・ねらい	植物や植樹を有効活用し、心地よい園庭づくりを目指す。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンカーテンを作り夏場の日陰を確保する。 ・園庭内の植樹の剪定を定期的実施し、明るさや涼しさを感じながら、楽しむことのできる場所にする。

〈6〉いつ誰が来ても気持ちの良い園（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	園を利用するすべての方にとって気持ちの良い環境を保つ。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内、園周辺が常に整っている状態を目指し、役割分担を明確にしなが ら、整理整頓を日常化していく。 ・掲示物など必要最小限に留め、清々しく明るい印象の園内を目指す。
2	計画・ねらい	接遇力を向上させ安心感のある対応を目指す。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・来園する方が気持ちよくいられるよう、言葉遣いや動作など客観的に振 り返る機会をもち、接遇を意識した対応ができるようにする。 ・職員間のコミュニケーションが密に取れるよう、情報共有のしくみづく りを行い、安心できる保護者対応に繋げていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	12人	20人	20人	20人	90人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	12人	調理員等	2人	用務	1人
パート スタッフ	調理員等	1人	事務	1人		

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	保育の振り返り、保育の質向上の為の園内研修の実施
給食運営会議	月1回	食育活動の振り返り、食に関するエピソード共有
事故防止委員会	月1回	自園のヒヤリハットの検証、自園・他園の記録から危険予測のディスカッション
ケース会議	月1回	子どもの事例共有、保育計画の検討
クラス会議	月1回	保育計画の振り返り、次月の保育内容の検討、クラス内の課題解決

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人全体での運営課題の解決、情報共有
施設長勉強会	月1回	園運営の質向上の為のディスカッション
食育会議	年4回	食育活動の実践報告、調理業務における課題解決の為のディスカッション
保健会議	年4回	保健に関する実践報告、保健衛生面の講義
主任会議	月1回	アクションプランの計画・振り返り
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質を上げる為の自園での取り組み共有、保育に必要な学び、自園の保育の見直し

〈3〉 各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内の衛生管理や備品管理、感染症予防・対策
安全対策係	防災実施点検、設備点検、事故防止点検の実施
防火管理者	災害対策、消防計画に則った避難訓練の実施責任、自主点検の実施
食品衛生責任者	給食提供責任、食材の安全衛生管理

畑係	年間計画に基づいた畑活動の実施、計画の振り返り、畑管理
生き物係	飼育動物の環境管理、餌の管理・発注

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズと共同し企画、運営の実施

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生理的欲求に応え、保育者と情緒的な安定した信頼関係を築く。 ・個々の発達を把握し、十分な探索活動が出来る環境を保証し、外への興味に繋げていく。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども自らが自発的に活動し、様々な経験を積み重ねる。 ・身近な人との応答のある安定したかかわりの中で、十分に身体を使い、満足感の得られる遊びをしていく。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢のかかわりの中で、自分の思いを十分に表現し、相手の思いに気づく。 ・自ら興味関心のもてるような環境の中、発見や工夫を楽しめる遊びを保障していく。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・かかわりの中、様々な葛藤を経験し、自分で考え行動できるようにしていく。 ・自分たちで約束事やルールを決め、活動できるようにしていく。 ・異年齢のかかわりの中、達成感や充実感を味わう活動を行い、友だちと力を合わせたり、助け合ったりする様々な経験ができる環境を整えていく。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	実体験を通して食や食の循環について興味関心をもつ。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・畑活動の充実をはかり、失敗と成功を繰り返しながら、作物が育って食すことの嬉しさや喜びを感じられるようにする。 ・食材の加工や命をいただく経験ができるよう計画し、食の知識を学びながら食べることの大切さを学んでいく。
2	計画・ねらい	毎日の給食を楽しみにしながら活動する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・食べたい環境を自分で選択できるようにし、共に食べる喜びを感じながら、心地よく食事を楽しむことができるようにする。 ・全ての職員が子どもと一緒に食事を共にし、食事を通してのコミュニケーションを充実したものにしていける。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（7月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い・うがい指導、性教育（年長児）、歯磨き指導の実施
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～9月頃・・・プール熱、手足口病、ヘルパンギーナ、とびひ 11～2月頃・・・インフルエンザ、流行性胃腸炎、RSウイルス感染症
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	なし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在14名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員1名については3月21日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在15名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員1名については3月21日までに受講予定

その他保健に関する取組	嘔吐処理、おむつ交換、与薬方法等園会議にてロールプレイを実施。新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染症予防のため、うがい指導、手洗い指導を強化。また、消毒・換気を徹底する。
-------------	----------------------------------------------------------------------------------------

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検(定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検(簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年1回／7月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	好奇心をもちやってみたいと思える環境を整える。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもった保育を進める中で、やってみたいと思えるきっかけ作りを行い、あそびの続きを楽しめる環境作りを工夫していく。 ・環境についての意見交換を行い、定期的な環境の見直しを進めながら、その時々の子どもの様子に合わせた環境作りを行う。
2	計画・ねらい	あそびの中で生活力を身に着けることができる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を送る為に必要な活動を環境の中に取り入れ、指先を使ったり、他者とのやりとりのあるあそびを楽しめる場所を作る。 ・子どもの同線を意識しながら、動と静の活動を無理なく行える配置になるようにし、あそびの充実度をあげていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	壁登り	1階保育室	毎日
2	かばん掛け	縁側	毎日
3	ピザ窯	園庭	毎日
4	焚火台	園庭	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し防災訓練を行う。 ・定期的に火災・地震発生時のマニュアルの読み合わせを行い、避難方法の確認を行う。
2	実践予定内容	安全計画に基づき事故防止チェック、設備点検チェックの実施。
3	実践予定内容	ヒヤリハット・インシデントの検証を行い、再発防止に努め、その都度保育の見直しを行う。
4	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の不審者侵入訓練の実施。あらゆる場合を想定し、職員で連携し対応できるようにする。 ・近隣園との不審者情報の共有や、市からの情報収集に努める。
5	実践予定内容	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・注意喚起を把握し、発生時に迅速な対応をする。

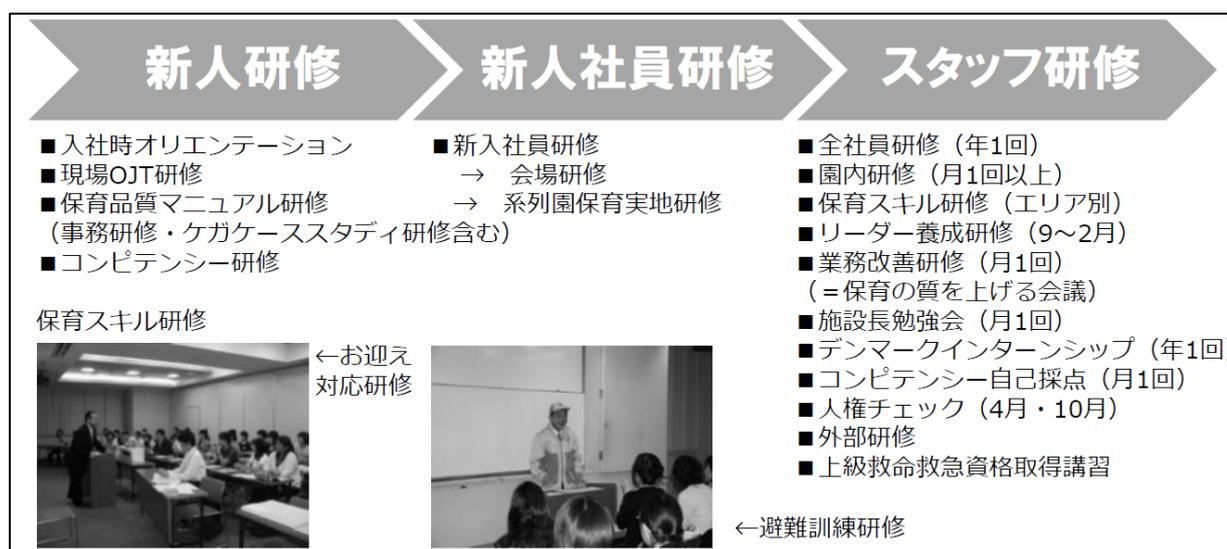
6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の中の保育園という意識や次世代育成の観点から、積極的に受入れを行っていく。

1	実践予定内容	実習生ひとりひとりに合わせた温かい受入れ体制を整え、実習担当だけでなく、職員全体でコミュニケーションをとり育成していく。
2	実践予定内容	その日毎の気づきや疑問に対し、丁寧な振り返りを行い、翌日の実習に生かせるような指導を行う。
3	実践予定内容	実習や見学期間だけにとどまらず、地域のつながりとして継続して交流していけるようにする。

7. スタッフ育成と研修計画



〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿の理解『健康な心と体』 ③ 虐待防止研修	・ 『健康な心と体』についてのディスカッションや事例発表を通して理解を深める。 ・ マニュアルに沿って虐待防止研修の実施。
5月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿の理解『自立心』 ③ 保護者対応	・ 『自立心』についてのディスカッションや事例発表を通して理解を深める。 ・ ロールプレイを行い、相手の気持ちに寄り添った保護者対応を学ぶ。
6月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿の理解『共同性』 ③ 水あそびのリスクマネジメント	『共同性』についてのディスカッションや事例発表を通して理解を深める。 ・ プール遊び時の監視方法等ルール

			プレイを行いながら共通認識し、水遊びにおけるリスクマネジメントを身につける。
7月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿の理解『道徳性・規範意識の芽生え』 ③ 接遇（環境）	<ul style="list-style-type: none"> ・『道徳性・規範意識の芽生え』についてのディスカッションや事例発表を通して理解を深める。 ・『いつ誰が来ても気持ちの良い園』をテーマに環境面において現状の見直しを行う。
8月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿の理解『社会生活との関わり』 ③ 接遇（人的）	<ul style="list-style-type: none"> ・『社会生活との関わり』についてのディスカッションや事例発表を通して理解を深める。 ・『いつ誰が来ても気持ちの良い園』をテーマに人的環境において現状の見直しを行う。
9月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿の理解『思考力の芽生え』 ③ 食の循環	<ul style="list-style-type: none"> ・『思考力の芽生え』についてのディスカッションや事例発表を通して理解を深める。 ・畑や食育活動を行っての子どもを共有し、より良い食育活動に繋げていく。
10月18日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿の理解『自然との関わり・生命尊重』 ③ 虐待防止研修	<ul style="list-style-type: none"> ・『自然との関わり・生命尊重』についてのディスカッションや事例発表を通して理解を深める。 ・マニュアルに沿って虐待防止研修の実施。
11月15日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿の理解『数量・図形・文字等への関心・感覚』 ③ 小1を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・『数量・図形・文字等への関心・感覚』についてのディスカッションや事例発表を通して理解を深める。 ・小学校との連携を通して、保育の中に取り入れるべき活動の検討していく。
12月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿の理解『言葉による伝え合い』 ③ 日課・基本保育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・『言葉による伝え合い』についてのディスカッションや事例発表を通して理解を深める。 ・日々の日課・基本保育活動についての現状把握、課題検討。
1月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿の理解『豊かな感性と表現』	<ul style="list-style-type: none"> ・『豊かな感性と表現』についてのディスカッションや事例発表を通して理解を深める。

		③ 事業計画の振り返り	・事業計画の振り返りを行い、次年度に繋げる。
2月14日	18:00~20:00	策定会議①	事業計画の共有、次年度の計画設定。
3月2日	9:00~18:00	策定会議②	次年度の行事計画設定。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日~30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デンマークインターンシップ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

保育園の活動を知ってもらう為、情報公開を強化し、地域に根付いた保育園を目指す。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：外環C広場にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	小学校訪問・高齢者施設訪問・商店街ツアー
異年齢交流	小学校との交流・中学校との交流・職業体験学生の受け入れ
地域拠点活動	どろんこ祭り・青空保育・ちきんえっぐ
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣小学校との交流を行う。幼保小連絡会により卒園児の引継ぎを行い、保育要録を作成することで子どもの成長記録を共有する取り組みは実施済み。小学校教諭との情報交換の機会をつくることで、子どもの成長を連続的に見通すことができ、保育と教育の垣根をなくして育ちに繋げていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	幼保小連絡協議会	2名予定		職員間交流
10月頃	北原小学校	20名予定	授業参観	子ども間交流
11月頃	北原小学校	20名予定	授業参観・交流	子ども間交流
2月頃	幼保小連絡協議会	2名予定		職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

子どもの発達状況を把握し、個別計画の立案、個の発達を大切にしたかかわりを職員全体で共有していく。

〈2〉 毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：10名予定)

子どもの事例に対して職員それぞれの思いを共有し、かかわりの中での失敗例、成功例を出し合いながら、職員が同じ視点でかかわることができるようにする。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

小学校の担当教諭と細やかな引継ぎを行う。必要な場合は保護者の了承を得た上で、関係機関との相談を行い連携する。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：外環C広場にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉 園による自己評価の実施

2024年10月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：11時45分

自己評価終了予定時刻：12時45分

自己評価実施予定者：施設長、主任

〈3〉 利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・原点に立ち返り基本事項を丁寧に取り組む。 ・保育者が主体性を発揮し、チーム力を高める。
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・以前から意識していた散歩9時出発を軸にして、基本活動の確立を目指してきた。保育の基本活動の目的や意味の理解深めようと努力し、日課、基本活動を丁寧に取り組むことを意識している。 ・大人同士がお互いの考え方や価値観の違いを認めて、誰もが生き生きと挑戦できる環境作りをしている。失敗や成功を糧にしながら、一人ひとりの強みや特性を生かした保育を目指している。 ・細かいところでの修正は必要だが、業務の細分化を構築した。 ・ことある毎にマニュアルを確認することを意識し、マニュアルに沿った保育を遂行するようになってきている。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	保育を取り巻く人的環境、物的環境が充実し、子どもひとりひとりに寄り添った保育の実践ができる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な室内外の環境の振り返りを重ねながら、子どもの成長発達に必要なあそびの環境を整えていく。 ・保育者のかかわりによる子どもの姿について、意見交換を密にしていき、あそびの中での保育者の役割を意識した保育を進める。
2025年度	目指す姿	選択できる環境の中で子どもの成長を見守り、継続した保育を展開する。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム間で先を見越した保育計画を検討し、次の日保育園が楽しみになるようなあそびが繰り広げられる環境を保证する。 ・日々成長する子どもの姿を共有し合い、その時々で必要な経験や体験を、環境の中に柔軟に取り入れていく。
2026年度	目指す姿	和光どろんこ保育園でしかできない体験・経験を園の魅力とし、地域から愛され選ばれる園となる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある環境設定や、継続したあそびを通しての子どもの姿を発信し、園の魅力としていく。 ・園の魅力を発信することを通して、遊んでみたい、通ってみたいと思える園づくりを行う。

以上

2024年度 三鷹どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

法人の子育て理念「人間力。育てます。」、子育て目標「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」を実現し、育てたい6つの力を育める保育を実践していく。また、与えられた環境の中で子どもたちのために何ができるかを常に考え、主体的に行動できる自律したスタッフ集団となり保育の質を高め、選ばれる保育園を目指していく。

そのために①自分で考え行動できるようになるための生活力を、体得できる保育実践を行う。

②10の姿を体得できるように、小学校就学から逆算した保育計画の見直しを行う。

③子どもが自らいつでも経験の選択をすることができるように、人的環境・物的環境を整える。

④守る支援・強制する支援ではなく、すべての園児がともに育ちあえる保育実践を行う。
またその保育実践を保護者に積極的に伝えていく。

⑤命をいただく活動の実践を行う。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活力の体得（自分で考え行動できるようになるために）
	実践予定内容	様々な体験の中から生活力、危険な物との距離の取り方を学べる保育実践を行っていく。
2	計画・ねらい	10の姿の体得（小1を知り、逆算した保育計画の見直し）
	実践予定内容	就学を見据え、卒園までに10の姿を体得できるように逆算し、0歳児からの保育計画、保育実践を見直していく。
3	計画・ねらい	物的環境の見直し、改善
	実践予定内容	子どもが、自らいつでも経験の選択ができる物的環境の見直しを行う。課題を抽出し、PDCAサイクルを行い、常に改善を行っていく。
4	計画・ねらい	すべての園児がともに育ちあえる保育実践
	実践予定内容	守る支援・強制できる支援ではなく、園児がともに考えそだちあえるような保育実践を行えるように、2023年度の保育の課題を抽出し、PDCAサイクルで常に、保育の見直しを行っていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

朝は「行ってきます。」と安心して仕事へむかい、お迎えの時は子どもとスタッフの笑顔でホッとできる保育園を目指す。

1	計画・ねらい	保護者の方々が安心して預けられるような、丁寧で細やかな保育実践を行い、朝夕の保護者対応で、1日の様子を手に取るように伝えていく。
	実践予定内容	どのスタッフが対応しても質の高い対応ができるように、園内研修を行いスキルアップにつなげていく。
2	計画・ねらい	お迎え時に待たされた気がしないお迎え対応、待たされたと思わせない仕組み

		つくりをする。
	実践予定内容	お迎え対応の場所や対応者の人数等の検討を行う。ドキュメンテーションや制作物等の掲示と掲示場所の検討を行う。
3	計画・ねらい	保護者会、個人面談で個人のお子様の様子だけでなく、園全体の保育の様子を細やかに伝え、とも育てができるようにしていく。
	実践予定内容	子どもたち同士が関わりの中で成長している様子を伝え、育ちあう良さが伝わるような保護者会、個人面談を行う。

〈3〉地域の子育て支援事業

地域の方がいつでも気楽に立ち寄れる「地域に開かれた拠点」となるように、子育て支援センター事業の活動を活性化し、広めていく。

1	計画・ねらい	現行週3日実施を週5日に変更し、いつでも気楽に立ち寄れる場所にする。
	実践予定内容	週に3日が定着しているため、5日間開所していることを広め、いつでも立ち寄れる場所となるように広報に力をいれていく。
2	計画・ねらい	活動内容を充実させ、集客率をあげる。
	実践予定内容	イベントだけでなく、日々立ち寄りやすい場所となるような取り組みに力をいれ、集客率をあげる。また、園の前にその月の活動を掲示したり、公園でパンフレットを配布して多くの方に三鷹どろんこに子育て支援センターがあることを知ってもらう。
3	計画・ねらい	青空保育の開催
	実践予定内容	子育て世代がたくさん集まる公園に行き、一緒に活動することで保育園を身近に感じてもらえるようにする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

与えられた環境の中で子どもたちのために何ができるかを常に考え、主体的に行動できる自律したスタッフ集団となるために、主体的に学び合えるよう園内研修、法人内園長大学や保育士大学の研修等を積極的に受講しインプット・アウトプットを行っていく。職種や立場を超えてディスカッションができ高め合えるスタッフ集団となるために、ディスカッション形式で学び合う場を多くし意見の言い合える雰囲気作りをしていく。

1	計画・ねらい	園内研修を定期的に行いインプット・アウトプットの機会を多くする。
	実践予定内容	園の課題となる分野の研修を行い、必ずディスカッションできる時間を設ける。その中で様々な考え方を学び、自分の意見も言えるような雰囲気作りをしていく。
2	計画・ねらい	マネジメント力をつけ、業務時間内に業務が終了できるようになる。
	実践予定内容	自分自身の仕事量、仕事のスピードを把握し自分にあつたマネジメント力が身に着けていけるように研修や他のスタッフのマネジメントの仕方を学んでいく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材を加工して給食でいただく。
	実践予定内容	食材を加工して出来上がっていく工程を楽しめるように工夫しながら行う。（味噌作り・梅干し作り・梅ジュース・切干大根等）
2	計画・ねらい	給食残渣を現在の70%に減らす。
	実践予定内容	子どもたちにSDGsの話の中から食べ物を大切にすることを伝えていき、給食残渣減少につなげていく。
3	計画・ねらい	木陰で遊べる園庭作り。
	実践予定内容	現在の園庭に木陰が少ないので、木陰を考慮して園庭改良を行う。

〈6〉生活力（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

自分で考え行動できるようになるための生活力を体得できる保育実践を行う。

1	計画・ねらい	現時点で、日々の保育の中で身に着けている生活力は何かを検証し、今後の保育実践を見直していく。
	実践予定内容	現在、身につけている生活力、身につけていない生活力を洗い出し0歳児からの保育実践を見直す。
2	計画・ねらい	生活力を身に着けるために必要な環境（人的・物的）を見直し、改善していく。
	実践予定内容	課題点を抽出し、PDCAサイクルで1年間かけてより良い環境をつくっていく。
3	計画・ねらい	子どもたちが主体となり、自分たちで考え行動できるようになるために必要なスタッフのスキルをあげていく。
	実践予定内容	スタッフの見守り方、関わり方のスキルがあがるように研修を重ねていく。

〈7〉環境（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

子どもが自らいつでも経験の選択をすることができるようになるように人的環境・物的環境を整える。

1	計画・ねらい	園庭改良
	実践予定内容	子どもたちが主体的に遊びを作れる園庭環境とはどのような環境かを検討し、改良を実施する。
2	計画・ねらい	室内環境整備
	実践予定内容	子どもたちの発達にあい、主体的に遊びこめる空間作りを行う。幼児クラスは子どもたちと話し合いながら環境を整備していく。
3	計画・ねらい	人的環境のスキルアップ
	実践予定内容	スタッフ一人ひとりが人的環境であることを意識し、スキルアップしていきけるように研修を行う。

〈8〉すべての園児がともに育ちあえる保育実践（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	自由に行き来できる大きな家で育ちあっている保育実践を行う。
	実践予定内容	良い点、改善点を抽出し、どのような保育実践を行うと育ちあっているのかを検証していく。
2	計画・ねらい	子どもが自らいつでも経験を学び取ることができる支援の実践
	実践予定内容	守る支援・矯正する支援ではなく、すべての園児が経験から学んでいける支援ができるような保育実践ができるスタッフ集団となるように情報共有を行い全スタッフで支援していく。そのために実例を交えながらの研修を行う。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	15人	18人	20人	20人	20人	99人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	10人	子育て支援	2人	栄養士	3人	調理員	1人
	施設長	1人	主任	1人				
パート スタッフ	保育士	3人	補助	1人	看護師	1人	事務	1人
	用務	1人						

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	保育の懸案事項検討、園内研修、行事内容の確認等
給食運営会議	月1回	喫食状況報告、アレルギー、離乳食状況共有、食育計画
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデント、自園・他園の事故記録簿に基づき事故再発防止策検討
ケース会議	月1回	発達の気になる子の情報共有と支援計画作成（振り返り、来月の支援計画）
リーダー会議	月1回	リーダー層における園の課題抽出と検討
各クラス会議	週1回	クラス運営検討（週案・月案の修正・立案）、情報共有
乳児会議	月1回	乳児クラスでの情報共有、課題検討
幼児会議	週1回	幼児クラスでの情報共有、課題検討
パートスタッフ会議	月1回	情報共有、懸案事項検討等
子育て支援センター会議	月1回	振り返り、次月の予定、集客数の確認等
各行事会議	随時	各行事企画等の詳細検

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	本部より園運営に関する事項の確認
施設長勉強会	月1回	施設長としての保育における課題点のディスカッション
食育会議	年4回	園の栄養士、施設長による食育の質をあげる会議
保健会議	年4回	看護師、施設長による保健活動の質をあげる研修
主任会議	年4回	各園の課題改善アクションプランの進捗状況と共有。マネジメント研修。
子育ての質を上げる会議	月1回	園代表スタッフによる保育内容に関する研修

〈3〉 各種係の設置

係名	職務内容・役割

衛生管理係	室内外の衛生状況の確認および徹底
安全対策係	保育環境の検討、整備、確認
防火管理者	火災予防と有事の際の日念訓練計画および実施
食品衛生責任者	食材の発注及び品質管理
畑係	年間計画をもとに畑の管理、必要物品の手配
生き物係	生き物の世話全般の計画、実施、餌等の必要物品の手配
図書係	園内の図書管理、必要図書の購入

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画、実施。保護者への呼びかけ。
運動会係	運動会の計画、実施。
生活発表会係	生活発表会の計画、実施。

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりとしたかかわりの中、安心して1人遊びを充分に楽しむ。 ・1人ひとりの子どもの気持ちや意欲を尊重し、子どもの健やかな発達を促す。 ・よく遊び、よく食べ、よく眠る ・安心できる大人との関わりの中で、人に対する信頼感、自己肯定感を育む。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな遊びに熱中し、戸外や室内でたっぷり遊ぶ。 ・安定した関わりの中で、自我が芽生え、自分の要求や思いを伝えようとする。
幼児保育	上半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との関わりやぶつかり合いを通して、自分の気持ちを言葉や行動で表現し、相手の気持ちを知ろうとする。 ・色々なことに意欲的に取り組み、達成感を味わう。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の要求や思いを言葉や行動で表現しながら、友達の要求や思い

	2～5歳児	も受け入れようとする。 ・自分たちで考えた遊びに意欲的に取り組み、継続的な活動に期待を持ちながらすごす。 ・自分の感じたことイメージしたことを色々な方法で表現する。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

今食べているものが自分の身体を作っていることを知り、食も自分も大切に作る心を育てる。

また全職員で法人の3大食育方針の理解を深め、方針を実現するための人的環境、物的環境を整えられるようにスタッフのスキルをあげていく。

1	計画・ねらい	命をいただいていることを知り、食べ物を大切にする心をそだてる。
	実践予定内容	鶏や魚をさばいて食べる体験や、自分たちで育てた野菜を食べることによって、命をいただいていることがわかる活動を多く取り入れていく。
2	計画・ねらい	自分たちで準備、盛り付け、配膳して食べることができる環境（人的・物的）を整え、意欲的に食事できるようになる。
	実践予定内容	子どもたちの発達に応じた環境を設定し、体系的な取り組みを構築し、実施する。
3	計画・ねらい	子どもたちが主体的に畑仕事に取り組み、栽培→収穫→調理→食べるというサイクルを体験する中で食に関する興味、関心を育てる。
	実践予定内容	引き続き、子どもたちが主体的にかかわれるように、大人の見守る姿勢を大切にする。また主体的に行う中で、Trial&Errorを体験できるようにしていく。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・12月）
--------	-------------

歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	自分で自分を守るための力をつけるための指導や取り組みを行う。 （感染症について、手洗いうがいの大切さ、ケガをした時等）
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 11月～1月月頃・・・ノロウイルス 12月～2月月頃・・・インフルエンザ・ロタウイルス 通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイヤップ・・・1名預かり済/事務所にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在全スタッフが、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については9月30日までに受講予定
その他保健に関する取組	・園内研修（感染症・衛生マニュアル・怪我の対応等）を行う。 ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日

	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・12月 (0歳児のみ年12回実施) 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

子どもが自ら遊びたい場所で、遊びたい空間をつくることのできる環境を目標に、環境を整えていく。施設全体が、必要なものが必要な場所に整理整頓され、誰がいつ来園しても気持ちの良い環境を整える。

1	計画・ねらい	【園庭】自分たちで環境に働きかけて遊びが作りだせる環境
	実践予定内容	大人が作りこみすぎずに、自分たちで設定を変えられるような環境作りをする。 また、築山に土を入れて新たに環境を整えるために職員間で話し合いを行う。
2	計画・ねらい	【保育室】発達にあわせ、自分たちで工夫をしながら遊びこめる環境
	実践予定内容	乳児：くつろげる空間・好きな遊びを選んで集中して遊びこめる設定 幼児：くつろげる空間を確保する。 自分たちで考え、遊びにあわせて空間が作れる素材を確保する。
3	計画・ねらい	保護者、来訪者がいつ見ても気持ちの良い施設
	実践予定内容	清掃は役割分担、範囲、きれいの基準を明確にし、常にきれいな状態が保てるようにする。また第三者の目線でチェックを行い、気持ちの良い状態を保てるようにする。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
----	--------	------	--------

1	丸太	園庭	毎日
---	----	----	----

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	【防災】毎月1回避難訓練実施。火災、地震発生時の避難方法を確認検討。
2	実践予定内容	【防犯】年2回不審者訓練実施。不測の事態に備える。
3	実践予定内容	【事故防止】ハザードマップの適宜更新。事故防止委員会にて再発防止策を検討し全職員に共有。
4	実践予定内容	【光化学スモッグ】三鷹市育成課からの情報をもとに、園児の室内待機、保護者へのお知らせを徹底する。
5	実践予定内容	【SIDS防止】午睡チェックの徹底。SIDSの園内研修を実施し危機管理能力を高める。
6	実践予定内容	【怪我をしない強い身体をつくる】日々の活動の中で注意して取り組む。
7	実践予定内容	【情報共有】全ての事項の情報共有を強化し、システムを構築していく。（朝礼、クラス会議、園会議、事故防止委員会、リーダー会議等）

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

全職員が「未来の保育士を育てる」という責任をもち、実習生や中高生を温かく受け入れる。また保育の仕事の楽しさや、やりがいを伝えられる受け入れを実践していく。

1	実践予定内容	【保育士養成校の実習生受け入れ】 オリエンテーション時に、細かく実習に向けての希望を聞き、気持ちに寄り添いながら実習計画を立て、意欲を高めていく。 実習中は質問しやすいように、必ず担当者を付けて丁寧に質問に答えられるようにしていく、またそれに対応できるようにスタッフのスキルをあげていく。
2	実践予定内容	【中高生の職業体験受け入れ】 保育の仕事の楽しさや、やりがいが伝わり、将来の職業の選択肢のひとつとなるように受け入れていく。
3	実践予定内容	【一般及び学生の各種ボランティア受け入れ】 地域に開かれ、地域に根差した保育園となるように可能な限り受け入れ、地域の方々とのつながりを深めていく。

7. スタッフ育成と研修計画

全スタッフが主体的に学び合い、行動できる人であるために高めあっていく。
 職種や年齢、立場を超えて話し合いができるスタッフ集団となることを目指していく。

〈1〉 2024年度 園内研修計画 (毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;">←お迎え 対応研修</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;">←避難訓練研修</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月28日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② リスクマネジメント (園外・園内ともに) ③ 保護者対応	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 実際に行く公園や園庭、園社内の様々な状況を想定して趣味レーションを行う形式で研修し理解を深めていく。 ③ 保護者に気持ちに寄り添った丁寧な対応を学び、話し合いながら、理解を深めていく。
5月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境の見直し	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 園の課題を抽出しPDCAを繰り返し、環境を見直していく。
6月28日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びについて	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 水遊びの楽しさと危険を学び、7

			月からのプール活動、水遊びに備える。
7月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 生活力とは	③ 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ④ 生活力とは何か、どのような体験で身につくかを学び合う。
8月23日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② リスクマネジメント（園内・園外）	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 実際に行く公園や園庭、園社内の様々な状況を想定して趣味レーションを行う形式で研修し理解を深めていく。散歩の機会が多くなる秋に向けて再確認する
9月27日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿を体得するために	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 10の姿を体得するために行っていることを確認し、課題点を抽出し今後の保育計画を見直していく。
10月25日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境の見直し2	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 園の課題を抽出しPDCAを繰り返し、後期に発達にあった環境を見直していく。
11月29日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 生活力とは2	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 生活力とは何か、どのような体験で身につくかを学び合い実際の保育と結びつけながら保育実践を見直していく。

12月27日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿を体得するために	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 10の姿を体得するために行ってきたことを検証し、課題点を抽出し今後の保育計画を見直していく。
1月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ②保護者対応2	① 自己採点の共有とともに次月の課題点を抽出しアクションプランを立てる。 ② 実例から保護者の気持ちに寄り添った丁寧な対応を学び、話し合いながら、より一層理解を深めていく。
2月21日	18:00~21:00	策定会議	
3月2日	18:00~21:00	策定会議	

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日~30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											

リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
デモンクインターンシップ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉プロジェクトチームに分かれてのスキルアップ（2022年度より継続）

園の全体的な質を高めるために必要なプロジェクトは何かを話し合い、各プロジェクトチームが中心になって課題点を改善していく。プロジェクトチームで進めていく中で、お互い高め合っていく。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

誰でも立ち寄りやすい拠点となり、地域に開かれた保育園となるように地域の方々と交流していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：井口あさかぜ公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設への訪問・地域のラジオ体操に参加
異年齢交流	小学生との交流・中高生の保育体験受け入れ
地域拠点活動	実習生の受け入れ、職業体験・研修生の受け入れ
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣の就学先となる小学校と連携する活動を積極的に行うことで、園児・保護者が小学校を身近に感じ、就学が楽しみに感じられるようにする。

また、小学1年生を見て知り、逆算した保育計画が立案できるようにしていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を5月頃より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	井口小学校	2名予定	スタッフの連絡会 (井口小学校教室)	スタッフ間交流
6月頃	井口小学校	2名予定	公開授業見 (井口小学校教室)	スタッフ間交流
6月頃	井口小学校	年長児・担任予定	運動会リハーサル見学 (井口小校庭)	子ども間交流
9月頃	井口小学校	2名予定	スタッフの連絡会 (井口小学校教室)	スタッフ間交流
10月頃	井口小学校	全園児・保護者・スタッフ予定	運動会 (井口小校庭・体育館)	スタッフ・子ども間交流
1月頃	井口小学校	2名予定	公開授業見学	スタッフ間交流
1月頃	井口小学校	2名予定	スタッフとの連絡会 (井口小教室)	スタッフ間交流
2月頃	井口小学校	年長児・担任	交流会 (井口小1年生教室)	子ども間交流
3月頃	井口小学校、第2小学校、第7小学校他	2名	進学児童の引継ぎ (各小学校教室)	スタッフ間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

毎月のケース会議で情報を共有し、支援計画の作成・見直しを行う。

また全スタッフが要支援児の情報を共有できるようにケース会議の内容を園会議にて共有する。

会議内容を共有していくことにより、全スタッフで適切な支援ができるようにしていく。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：5名予定)

各関係機関と連携を取りながら、担任、リーダーを中心に毎月ケース会議を行う。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

進級に対する不安を軽減するために、どのスタッフが対応しても同じ支援ができるようにしていく。

小学校への引継ぎは、年度末に各進学予定小学校と日程を決め情報を共有する。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月) (水) (金) 10:00~12:30 13:30~16:00
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週 (水) 10:00~12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週 (金) 10:00~12:00
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育 (支援センター主催)	月1回 公園名: 井口あさかぜ公園にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年5月24日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 9時30分

自己評価終了予定時刻: 11時30分

自己評価実施予定者: 大久保奏、坂田しおり、望月由紀子、山田理子

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日: 8月25日

13. 3カ年計画の具体化

スタッフが入れ替わっても保育の質が低下しない基盤づくりに力を入れ、選ばれる保育園であるために保育の質を高めていく。また、子どもも大人も主体的に考え、学び、動く、自立した集団となり一番預けたいと思われる園を目指していく。

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	2022年に培った基礎をもとに、さらに保育内容（日課・基本活動）の質が向上し、三鷹どろんこならではの活動も質が向上している。
	振り返り	スタッフが多数入れ替わったことで、前年度の継承が上手くいかず、前半は2022年度までに積み重ねてきたことの質が低下した。そのため後半内部監査を通しての基本の保育の見直しや様々な情報の共有の方法を見直していった。チーム力も向上し2023年度ならではの三鷹の保育の質を向上することができた。来年度は今年度行ってきたことをさらに深めていきたい。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	三鷹市で一番預けたいと思える保育実践を行い、地域の方から愛され選ばれる保育園になる。
	重点施策	園児：5歳児がリーダーとなり、主体的に遊び、生活ができるような環境（人的・物的）を整える。スタッフ：生き生きと仕事ができ、主体的に考え、学び、動くことができる自立したスタッフ集団となるようにマネジメントを強化していく。
2025年度	目指す姿	自律したスタッフ集団となり、質の高い保育、接遇、美観を提供することで、より選ばれる保育園となる。
	重点施策	2024年度に実践したことの課題を抽出し、PDCAサイクルを繰り返し行い、より質を高めていく。
2026年度	目指す姿	生活力、選択力、思考力を育む保育実践を行うことで、大人も子どもも主体的に考え学び自律した集団となり、より魅力的な保育園となる。
	重点施策	2026年までに深めたものをさらにレベルアップしていく。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：三鷹どろんこ保育園 施設長 山田 理子

2024年度 万博公園どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

豊かな自然と高度な都市機能が両立しており、住みやすい街にあげられているつくば市に万博公園どろんこ保育園があります。万博公園どろんこ保育園では、棚田と共に四季折々の季節を、五感で感じ、思考力や感性を磨いています。近隣に香取台どろんこ保育園・学童保育・発達支援つむぎ・放課後等デイサービスがあります。多様な人との関りの中で、知識や考え方を深めてまいります。より一層インクルーシブ保育を推進していきます。

どろんこ会の法人理念である生きる力を育むように以下の3点に力を注ぎます。

- ① 生きるために必要な力を体得している子
自分の思いを伝える、相手の思いを汲む、折り合いをつける経験を重ねていく。
多様な人との混ざる経験を通して、判断する力を身に付けていく。
火・水・土を存分に関り、興味関心がある活動を選択していく。
生活に必要な道具の使い方を知っていく。
- ② 生命の尊さを感じられる子
畑仕事、生き物の世話、日課を通して肌で感じていく。
食の循環、命をいただく、環境への意識を高めていく。
食を豊かにする。
- ③ 感じたことを表現できる子
心が動いたその瞬間に様々な方法で表現できるようにする。
共同で一つのものを作り上げる喜びを味わう。

2024年 保育目標

【広げて つむぐ あい】

個として大人も子どもも輝いているが、絡みあい、拾いあい、認めあい、つながりあいつむぐことができたら更に2倍、3倍へと輝きが増します。たくさんのあいを地域へ広げていきます

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	どろんこ会の基本保育について知識を深め、実践する
	実践予定内容	日課のひとつひとつの丁寧さ、裸足保育、長距離散歩、一つずつ行う意味を掘り下げPDCAサイクルを回して実践していく
2	計画・ねらい	学びあう、育ちあう共主体保育を目指す。
	実践予定内容	子どもの興味にアンテナを立てて、子どもの力と集団で生き抜く力を育む他者との共同の中で、様々な感情と向き合い、互いに思いや考えを共有していく
3	計画・ねらい	子どもが自発的に関われる環境を、子どもとともに作っていく 物的・人的環境を整え、ゾーンをアップデートしていく
	実践予定内容	子どもの興味を拾い、その場で環境構成を仕掛けていく 全年齢が混じりあい、主体的に遊ぶ

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の立場に立ち、いつでも心地良い対応をする
	実践予定内容	保護者に対して傾聴、丁寧な対応を心掛ける。一人ひとりに合った支援の仕方を構築する。
2	計画・ねらい	子どもの育ちを喜びあえるような場を設ける
	実践予定内容	子どもの成長した場面を見逃さず3分間対応で伝える。活動の速報を作り、子どもと喜びあい保護者にも自由に感想を伝えられる場を作る
3	計画・ねらい	保護者がいつ訪れても気持ちが良い施設にする
	実践予定内容	整理整頓、細やかな気配りができるようにする。 家具や物、配置や管理の仕方を考えて、動線を考える。 清掃の徹底、人にも物にも各々の意識を高める。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の子育て家庭にとって、子育て支援の窓口となるような存在を目指す
	実践予定内容	青空保育、ちきんえっぐ活動などを通して、地域の子育て家庭同士が繋がる機会を提供する
2	計画・ねらい	地域内外との繋がりを深めて、子育て支援拠点としての役割を担う
	実践予定内容	見学者や園庭開放に訪れた人たち、職場体験や実習生の受け入れを通しての交流の様子を地域にも発信していく

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人のスキルアップ
	実践予定内容	個々の課題を抽出し、面談を通して具体的な取り組みと進捗状況を追っていく 実践で学んだことを、理論として結び付けられるように分析して、アウトプットする
2	計画・ねらい	保育の目線の捉え方を認め合い語りあう集団
	実践予定内容	1枚の写真から、各々の目線や感じ方があり、認めあい成長していく集団であることを考える機会を設ける 10の姿に結び付けて、子どもを読み解く力が身に付くようにする
3	計画・ねらい	保育の引き出しを増やし、互いに学ぶ場を設ける
	実践予定内容	園長大学の講座を用いて、園会議で学びの場を広げていく わらべうたや遊びの引き出しが増やせるように、学ぶ機会を提供し、アウトプットする場を用意する

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	命をいただく
	実践予定内容	鶏、魚など命があるものをいただく経験を行う 感謝をしていただけるように導く
2	計画・ねらい	食の循環を毎日の畑仕事から肌で感じられるようにする
	実践予定内容	堆肥作り、土作り、種蒔き、間引き、収穫、野菜くず、と循環していることを実体験から学びへと繋げられるようにする
3	計画・ねらい	食材の加工への興味を持つ
	実践予定内容	旬の食材を長持ちさせる方法や無駄にしない方法、日本ならではの伝統食への加工 調味料や原材料への興味や関心を深める

〈6〉チーム保育の強化

1	計画・ねらい	子どもの心情を読み取り語りあう
	実践予定内容	一つの事例から子どもの気持ちを読み取り、様々な角度から子どもの成長について理解が深められるようにする 学びあう姿勢を大切にしながら、10の姿に結び付けられるようにする
2	計画・ねらい	認めあい、拾いあい、つむぐ輪
	実践予定内容	得意なことを認識して、互いに学びあう姿勢を持ち続ける 職員間で課題があるときに、チームでPDCAサイクルを回せるようになる
3	計画・ねらい	コンサルテーション能力を高めていく
	実践予定内容	施設長をはじめ、各リーダーは定期的に課題を整理し、適宜助言・指導をしていく

〈7〉100の本物の体験

1	計画・ねらい	道具の使い方を習得できる環境を作る
	実践予定内容	様々な道具や工具を大人が使って見せて、実際に本物に触れる機会を設ける
2	計画・ねらい	子どもが経験を選び取ることができる環境の設定
	実践予定内容	一つの大きな家を行き来し、自分の意志で選び決めることができる環境を用意する 玩具の数や細やかな動線など子どもたちの状況に合わせて改善していく
3	計画・ねらい	子どもの挑戦する気持ちを後押しする
	実践予定内容	子どもが立ち止まった時には、自分で答えが出せるまで一緒に考えていく 保護者にも、丁寧に口頭で伝え、速報で伝え、心の動きを共感していく

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
15人	15	15人	15人	15人	15人	90人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	16人	看護師	1人	栄養士	2人		
パート スタッフ	保育士	2人	用務	1人	嘱託医	2人		

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	園内研修、コンピテンシーによる自己評価、研修報告、共有事項、活動振り返り
給食運営会議	月1回	給食内容の検討、マニュアル確認、各クラスの状況共有、アレルギーへの対応、食育や畑活動報告
事故防止委員会	月1回	事故記録・インシデント・ヒヤリハットの分析、検証、再発防止策
ケース会議	月1回	特別配慮を要する子どもについて情報共有、指導計画
リーダー会議	適宜	活動の軸となる計画、全体での調整事項
乳児・幼児会議	週1回	翌週の活動計画、より良い保育をするために子の現状の把握と共通の目線が持てるような関わりと配慮

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	業務報告、共有事項
施設長勉強会	月1回	園運営における
食育会議	年4回	園の取り組み報告、マニュアルの見直し、食育に関する課題・目標の共有
保健会議	年4回	衛生管理の統一、感染症等各ガイドランスの共有
主任会議	年1回	月運営、マネージメント
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質に向けたスキルアップ研修

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防、衛生全般の管理、心身の健康状態管理等
安全対策係	職員の安全に対する意識を高め、施設内において様々な安全点検・対策に取り組む
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理上必要な業務（防火管理業務）を計画的に行う
食品衛生責任者	食品管理に関する業務、食育会議の計画や実践
畑係	畑の環境整備、植物の病気の予防
生き物係	飼育動物の健康管理、環境改善

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者の主体性を尊重し、準備・活動を進める。
子育て支援・相談係	子育てに関する相談業務、子育て支援（ちきんえっぐ）開催

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人格形成の基礎となる重要な時期に、十分に養護の行き届いた環境のもと、一人ひとりと愛着関係を築き、ゆとりのある保育を心掛ける ・ 一人ひとりの子どもの様々な感情や意欲を尊重し、健やかな育ちを保障する ・ 応答的な関りの中で、愛情や安心感が得られ、人との関りの基礎が培われるようにする
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人格形成の基礎となる重要な時期に、十分に養護の行き届いた環境のもと、一人ひとりと愛着関係を築き、ゆとりのある保育を心掛ける ・ 受容的・応答的な関りのもとで、身近な人と親しみ、関りを深め、人との関わる力の基盤を培う ・ 様々な体験を通して、豊かな感性や創造性の芽生えを育てる ・ 子どもの自主的な気持ちや意欲を尊重し、子どもの健やかな育ちを保障する ・ 簡単な言葉で自分の気持ちを表し、友達や保育者と関わる ・ 様々な運動遊びを通して、生活に必要な動きを身につける
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者の見守りのもと、子ども本来の姿である遊びが十分にできる環境の中で、一人ひとり遊びきった満足感・仲間意識や集団活動の楽しさを感じ、充実感を得られる保育を行う ・ リズム体操、表現遊び、歌遊びなどで自分を発揮し表現する意欲や協調性・社会性を育てる ・ 動植物を飼育栽培し、体験を通じて自然物や動物の命の大切さ、食の循環に気づくことができるようになる ・ 素話や絵本・紙芝居等の読み聞かせを通して、聞く力や想像力を伸ばす
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちで考えた遊びに意欲的に取り組む ・ 目的を持ち継続した遊びを楽しむ ・ 自分のイメージしたものを様々な方法で表現する ・ 自然の中で発見や不思議さを発見し、豊かな感性を育てる ・ 異年齢で触れ合う中で、互いに刺激を受け問題を解決し、相手の思いに気づく ・ 自信をもって自己表現する
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食事を楽しみにしていて、意欲的に食べられる子ども
	実践予定内容	お腹が空くまで遊ぶ、好きな人と楽しく食事をする、旬を味わう、国内産・高品質の食材、日本食・伝統食を大切に考え、昼食・おやつ・夕食も全て手作りのものを提供する
2	計画・ねらい	食の循環を知り、SDGsを意識する
	実践予定内容	自ら育てた作物食する、命をいただく（捌く、解体する）体験を通して自然の恵み・命をいただいていることに気付く
3	計画・ねらい	食への関心を広げ、食を豊かにする
	実践予定内容	素材の味を味わえる形状・温度で提供する 畑で収穫したものを自分たちで考え、調理し食べる機会を提供する 行事食、郷土食などと触れ合い、伝統文化を知る 落ち着いた雰囲気づくりをして、心から食事を楽しめるようにする 食器・動線など細かいところまで整えていく

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い・うがいの施行、歯磨き指導、温湿度管理、SIDS予防チェック 命の大切さ（5歳児）
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 7月頃・・・咽頭結膜炎、手足口病等 11月頃・・・インフルエンザ、胃腸炎等
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・1名より預かり済み／冷暗所にて保管 セレスタミン・・・1名より預かり済み／常温にて保管

	フェキソフェナジン・・・1名より預かり済み／常温にて保管 プレドニゾロン・・・1名より預かり済み／常温にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在21名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については6月●日までに受講予定
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	本日現在21名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員4名については6月までに受講予定
その他保健に関する取組	5歳児対象に性教育指導 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・ 手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検 (簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年2回／6・11月

運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもたちが主体的に遊びこめるような環境設定
	実践予定内容	子どもたちが興味を持っている遊びを察知して、数や出し方など調整をして最適な環境を更新していく
2	計画・ねらい	子どもが安心できる居場所を作る
	実践予定内容	安全を基本に、物的環境、人的環境、社会的環境を整えていく 子どもたちの心の拠り所となれるような環境を整えていく
3	計画・ねらい	子どもたちの遊びが継続的に広がる環境の設定された
	実践予定内容	新たな創造性が育まれるような、素材の提供、仕掛けづくり

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	レゴテーブル	幼児保育室	毎日
2	配膳台（2台）	幼児保育室	毎日
3	一本橋	園庭	毎日
4	鶏小屋	園庭	毎日
5	かまど	園庭	毎日
6	廃材入れ	玄関ホール	毎日
7	平均台（2台）	ホール	毎日
8	竹馬（5組）	ホール	使用前

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	（防災）
---	--------	------

		危機管理マニュアルに則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う
2	実践予定内容	（ケガ事故防止） 危機管理マニュアルに則り、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従う
3	実践予定内容	（防犯） 危機管理マニュアルに則り、不審者侵入訓練の実施・笛の携帯・代理送迎者把握・不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う
4	実践予定内容	（光化学スモッグ） 危機管理マニュアルに則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生対応及び行政の連絡に従って対応する

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

次世代を担う学生や中高生を、保育の現場で積極的に受け入れを行います。個々に合った指導や援助をきめ細やかに進めていきます。地域に開かれた保育園として、様々な人との関わりの中で豊かな心を育みます。

1	実践予定内容	小中学生の体験学習の受け入れ
2	実践予定内容	養成校の受け入れ（保育士・養護教諭・看護師・栄養士）

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修

新人社員研修

スタッフ研修

- 入社時オリエンテーション
- 現場OJT研修
- 保育品質マニュアル研修
(事務研修・ケガケーススタディ研修含む)
- コンピテンシー研修

保育スキル研修



←お迎え
対応研修



←避難訓練研修

- 全社員研修 (年1回)
- 園内研修 (月1回以上)
- 保育スキル研修 (エリア別)
- リーダー養成研修 (9~2月)
- 業務改善研修 (月1回)
(=保育の質を上げる会議)
- 施設長勉強会 (月1回)
- デンマークインターンシップ (年1回)
- コンピテンシー自己採点 (月1回)
- 人権チェック (4月・10月)
- 外部研修
- 上級救命救急資格取得講習

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月15日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ケガ・ケーススタディ研修 ③ 子どもの人権	・子どもの人権について考えて、保育の質の向上。 ・リスク管理について実践例を踏まえて行う。
5月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② さくらんぼリズム ③ 10の姿について	・実技を交えながら、指導法のポイントを理解する。 ・10の姿の内容の、理解を深める
6月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺のリスクマネジメント	・水辺の危険性について考える
7月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 木育について	・木材を使って、実際に道具の使い方を知る
8月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境について (前期)	・室内環境と物の管理の仕方と人員配置等意見交換。
9月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② アプローチカリキュラムについて	・小学校への理解を深める。虹の架け橋プログラムの内容理解
10月15日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 共主体の保育について	・共主体の保育についての知識を深める
11月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点	・わらべ歌の引き出しを増やす

		② わらべ歌の世界	
12月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 冬の感染症について	・冬の感染症について学び、対策・防止策を考える。
1月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境について（後期）	・室内環境と物の管理の仕方、人員配置等の意見交換と共通理解
2月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年度振り返り	・1年を振り返り、それぞれの課題・園の課題を考える。
3月2日	9:00~18:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度に向けて	・課題への共通理解や共同性を高め、目標を設定し計画を立てる。

エリア研修予算内訳（香取台どろんこ保育園合同開催）

開催日	開催時刻	名称・予算	会場
6月	9:00~12:00	救命救急講習 0円	香取台どろんこ保育園

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日~30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認

をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に開かれた社会資源として、専門的機能を地域のために還元する。小学校との交流、地域の商店街や官公庁との繋がりを広げて、地域に根差した保育園になるように密接に連携していく

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：吉祥公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人会との交流（年間を通して、高齢者グループとの伝承遊び） 運動会・園外保育等、日常保育活動で積極的に交流
異年齢交流	小学校との連携、他園との交流 中高生の体験活動やボランティアの受け入れ 日々の生活の中で、異年齢で共に過ごす
地域拠点活動	ちきんえっぐ・青空保育 園庭開放利用者や見学者には積極的に誘い掛け、行事参加やちきんえっぐの広報に努める。
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

小学校との連携を密にして、小学校の授業内容について理解を深め、逆算をして子どもの姿や発達が適切であるかを検討する。子どもたちの学びの連続性を共通理解し、目標設定を相互でしていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
4月頃	高山学園島名小学校	10名予定	組織作り（島名小学	職員間交流

			校)	
5月頃	高山学園香取台小学校 1年生	18名予定	授業見学（香取台小学校校庭）	子ども間交流
7月頃	高山学園香取台小学校 1年生	2名予定	給食参観（香取台小学校）	職員間交流
9月頃	高山学園香取台小学校 1年生	2名予定	授業参観（香取台小学校）	職員間交流
10月頃	高山学園香取台小学校	4名予定	運動会見学（香取台小学校校庭）	子ども間交流
11月頃	高山学園香取台小学校 2年生	8名予定	町探検で来訪（園）	子ども間交流
11月頃	高山学園香取台小学校 1年生	2名予定	園見学（園）	職員間交流
12月頃	高山学園香取台小学校 1年生	18名予定	交流会（香取台小学校）	子ども間交流
2月頃	高山学園香取台小学校	18名予定	学習発表会見学（香取台小学校）	子ども間交流
3月頃	高山学園島名小学校	2名予定	入学者引継ぎ面談（島名小学校）	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

個別の保育計画を立案し、全職員で具体的な対応を共有し園全体で取り組む。保護者との面談を重視し、子どもの成長発達を同じ視点で見られるようにする。また、関係機関と連絡を取り、幅広い情報を収集し対応を考えていく。

他児との育ち合いの視点で考え、社会の中で生きていくための手立てを援助する。その子の発達の偏りを理解し、伸びる部分をより伸ばすことで、補う部分も育つように援助する。

〈2〉 毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定 参加者：園会議出席者）

担当・保護者等、特に配慮の必要な事例や気になることを職員間で共通理解を図り、支援していく。発達支援つむぎとの連携を視野に入れていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

看護師や担当保育者へ個の状況を共有し、丁寧な引継ぎを行う。小学校へ必要な場合は、保護者の同意を得て、教育委員会への相談を行い、安心して通える状況を構築する。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（火）10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（火もしくは金）10:00～12:00
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：吉祥公園にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年12月28日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：13時30分

自己評価終了予定時刻：14時30分

自己評価実施予定者：施設長及び当日出勤の全職員

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	課題抽出から解決に向けて、保育者自身が考えて提案できる機会。 写真から見る子どもの姿から、発達や目線の確立。 多様な人との関りから、相手を知ること、地域を知ること、文化を知ること、自ら視野を広げていく。
	振り返り	子どもを知る、地域を知る、知ることから始めて、様々な人との関わりから視野を広げられるようになりつつある。 年間通して、子どもの姿から読み取れる発達の様子や目線の確立へ向けて、事例を共有し、様々な目線や考え方に触れ共有し知ることができた。次年度は、認めあう機会を更に作っていく。 環境について課題抽出し、自ら進んで話しあいをしてPDCAサイクルを回す姿が見られた。更に、課題を明確し全職員が取り組めるようにする。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

24年度	目指す姿	多様な人々の中で、自分がやりたいこと・できることを認識し、互いに学びあう土壌のもと、知識を深めて自らPDCAサイクルを回していく集団となる。 園内だけでなく、地域へその力を還元する。
	重点施策	自分をさらけ出すことから、相手を受け入れ融合することに意識を持つ。 学んだスキルを、更に高め合えるようにチームで、園全体で、地域にも発信しリードできるような機会を提供する。
25年度	目指す姿	万博公園どろんこ保育園らしい保育の明確なビジョンを持ち、一人ひとりが自信と誇りを持ち地域をリードできる存在となる。
	重点施策	保育を心から楽しみ、地域の子育て家庭にも広められるようにする。 万博公園どろんこ保育園らしい保育は何かを一人ひとり考えて、チームとして進化し続けていくことを目指す。
26年度	目指す姿	地域で選ばれる園・頼りにされる園
	重点施策	専門性を高めて、常にアップデートしていく集団となる。 園内で回していたPDCAサイクルを、地域の方との関りにも意識を持つ。 困ったときに、いつでも何度でも誰でも受け入れられる園を目指す。

以上

2024年度 メリー★ポピンズ 桶川ルーム 事業計画書

1. 基本方針

桶川市は、急速な少子化の進行、地域とのつながりの希薄化や経済的理由による子育てへの不安から、『子どもがのびのびと個性豊かに育ち、育てられるまち』を理念とし、子育て支援事業計画を立てているが、メリー★ポピンズ桶川ルームは駅前園という利便性の高さから、開園8年目を迎えても尚、園児数は常に定員に達している。また、一時保育事業も多数の方にご利用いただいていることから、今後も高い保育需要が見込まれる。

省令改正により2023年4月からは、保育園と児童発達支援センター・事業所双方が同じ施設を共用でき、スタッフも双方の子どもの支援が可能になった。メリー★ポピンズ 桶川ルームでは、併設の発達支援つむぎ桶川ルームと協働し、地域の先駆けとして、障害のある、なしに関わらず、子どもたちの力を信じて、生きる力、意欲を育み、たくさんの経験が出来るインクルーシブ保育を提供していくとともに、法人方針である『生きる力のある子どもを育てる』を礎とし、子ども・保護者・スタッフが協働的に関わりながら、選ばれる園となるよう地域に愛される保育を実践していく。

① 分け隔てなく全員が自己選択できる環境設定を行う

子ども自らが様々なものにいつでも主体的にかかわれる環境、経験を選び取れる環境設定を行う。

大人が制限したり、指定したりせず、子ども自身が選ぶ機会を作る。自分の好きなことを見つけ、得意を伸ばす保育の場を提供する。

② 子どもを真ん中にしたインクルーシブ保育の実践

子どもの「好き」や「やりたい」の気持ちを育み、大人は、一定の距離を取って見守る。子ども同士のけんかやトラブル、うまくいかないことを経験し、自分の中で折り合いをつける力を育てていく。

友達との関わりの中で、自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりする機会を作ることで、様々な意見や思いがあることを知り思いやりの気持ちを育む。

③ 大人も主体的に学び、思考し、成長し続け、チーム保育を行う

大人が主体的に学び、考え、動く姿を見せる。常に子どもを真ん中に、何が必要か、どうすべきかを模索し、考え続ける集団になる。スタッフは、研修等にも積極的に参加し、園内でアウトプットすることで知識の定着をはかる。全ての子どもを全てのスタッフで見守ることが出来るよう、情報共有を徹底し、子どもの育ちについて語る機会を作り、チームで保育を行っていく。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生きる力のある子どもを育てる
	実践予定内容	・どろんこ会グループの日課・基本活動である、散歩9時出発、畑仕事、生き物の世話、長距離散歩を実践し、日常の生活、遊び、労働から生きる力を育てていく。また、それぞれの活動の意味を、スタッフ一人ひとりが理解し自分の言葉で説明できるようにする。
2	計画・ねらい	子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定

	実践予定内容	子ども自身が遊びを選択し、遊び込める環境を整える。子どもの姿を見て、スタッフが主体的に環境設定に関わることができるよう、話し合う場を作っていく。
3	計画・ねらい	保護者、来訪者が見て気持ちの良い施設を作り、おもてなしの心を持って最高級の接遇で対応する。
	実践予定内容	・施設内の美観を維持し、整理整頓を徹底していく。 ・スタッフの接遇研修を行い、自分の得手、不得手を自覚し、チームで補い合いながら最高級の接遇を目指す。
4	計画・ねらい	地域にインクルーシブ保育を発信する。
	実践予定内容	発達支援つむぎ桶川ルームと協働でインクルーシブ保育を実施し、その保育を地域に向けて発信する機会を多く持つ。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	・保護者と、子どもの育ちについて協働的に関わる。
	実践予定内容	・保育内容の説明を丁寧に行う。 ・日々の園での子どもの様子をエピソードと共に具体的に伝える。また、家庭での様子や、心配事等のヒアリングを行う。
2	計画・ねらい	・園と保護者の情報共有の場を積極的に作り、信頼関係を築く。
	実践予定内容	・保護者懇談会、個人面談、送迎対応、連絡帳のアプリやタイムラインなどを活用し、子どもの育ちを丁寧に共有する場を作る。
3	計画・ねらい	・保護者同士の交流の場、スタッフとのコミュニケーションの場を作る。
	実践予定内容	・どろんこ祭りや、畑の除草作業、救急救命講習、キャンプなどを企画し、保護者同士の交流や、スタッフとの信頼関係を作る場としていく。
4	計画・ねらい	・発達に関する悩みを気軽にできる場を作る。
	実践予定内容	・併設園の強みを活かし、心理士、言語聴覚士、理学療法士などの専門士に子どもの発達について相談できる機会を作る。また、勉強会などを開き、就学に向けての不安の解消を図っていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域における子育て支援の重要性をスタッフ全員が理解し、実践する。
	実践予定内容	地域の保護者等に、保育園の専門性を活かした子育て支援として、相談会や勉強会などを積極的に行う。
2	計画・ねらい	地域の子育てしている保護者の安らぎの場となる。

	実践予定内容	ちきんえっぐの広報活動を行い、地域の子育てしている保護者が気軽に利用できる場にする。また、そこで生まれる保護者同士の繋がりも大切にしていく。
3	計画・ねらい	地域の関係機関との連携強化
	実践予定内容	・地域の関係機関と説教的な連携を図るとともに、子育て支援に関する地域の人材と積極的に連携を図る。 ・近隣の園や、小学校、行政と連携を図り、安心して就学に繋がられる体制を築く。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	どろんこ会グループのマニュアルの徹底
	実践予定内容	マニュアルについての理解と実践が行えるように、定期的にロールプレイ研修を実施し、定着を図る。
2	計画・ねらい	法人の取り組みである、雑巾がけ、座禅、畑仕事等の日課を行うことの理解を深める。
	実践予定内容	毎日の日課を行うことの意味を、スタッフ一人ひとりが十分に理解し自身の言葉で語るができるようにする。
3	計画・ねらい	スタッフの学びの機会を設けていくことで、保育の質の向上を図る。
	実践予定内容	発達支援つむぎ桶川ルームと交換研修等を実施し、子どもへの関わり方やケース会議の進め方など実践的に行う。
4	計画・ねらい	リーダーの育成
	実践予定内容	様々な場面で、自分の仕事に責任を持ち、後輩に指導していける立場になれるよう、自分の保育をスタッフの前で語る機会を設けていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑仕事、食材加工、捌いて食べる命をいただく等の活動を通し、食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育を実践する。
	実践予定内容	自分たちが畑で野菜を育て、収穫し、食する経験を通じ、食について考える機会を作る。また、魚の解体を通し、食の循環について学ぶ。
2	計画・ねらい	給食残渣を減らすことで廃棄にかかる環境負荷を減らし、食べ物を大切に消費する。
	実践予定内容	・野菜を皮つきで調理したり、皮を使ったメニューを考えたりして、給食残渣を減らす。 ・調理くずを用いて、コンポストで堆肥を作り、畑へと循環する。
3	計画・ねらい	木や竹、花などに触れる機会を作り木育を行うことで、環境保全の意識を持つ。
	実践予定内容	・桶川市の緑化ボランティア団体と協力し、竹細工や、木工遊び、花の植栽などを行うことで緑化意識の向上と実践を行う。

		・全国植樹祭に向けて苗木のスクールステイを行うことで、森林保護について関心を持ち、緑を大切にすることを育てる。
--	--	---------------------------------------------------------

〈6〉インクルーシブ保育の実践（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	併設園の強みを活かしたインクルーシブ保育を実践する。
	実践予定内容	・保育園、つむぎのスタッフの垣根を無くし、チームで子どもを見守る。 ・要支援児のケース会議では、つむぎのスタッフからの助言も得て、その子に必要な支援が行っていきけるよう環境設定を行っていく。
2	計画・ねらい	全ての子どもの育ちを全てのスタッフが共有する。
	実践予定内容	・スタッフ間の情報共有が徹底されるよう、事務所で会議を行い、内容は議事録で全員が回覧し共有する。 ・子ども一人ひとりを全てのスタッフで見守ることの必要性、面白さ、難しさを共有し、目の前の子どもの姿を全員で理解する。
3	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりがチームとしての意識を高める。
	実践予定内容	・保育者間での連携を密にし、声を掛け合うことでチームとして子どもを見守っていく。 ・スタッフ一人ひとりが学ぶ意識を持ち、主体的に取り組むことができるよう、個々が課題を見つけて取り組む。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	12人	12人	12人	12人	66人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	10人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	0人
------------	-----	-----	-----	----	-----	----	------	----

パート スタッフ	保育士	6人	補助	0人	調理	0人	事務	1人
-------------	-----	----	----	----	----	----	----	----

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	・コンピテンシー ・活動の振り返り及び共有。子どもの姿の共有。 ・園内研修
給食運営会議	月1回	・食育会議の策定 ・食育活動実施内容の共有 ・喫食状況(残渣記録)の確認 ・給食簿指摘事項の改善
事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハット、インシデントも分析 ・ハザードマップの見直し ・自園及び系列園で起きた事故のケーススタディ及び改善策を策定。 ・全園事故防止委員会での内容共有
ケース会議	月1回	・要支援児個別計画の振り返り及び省察 ・要支援児個別計画の見直し
週会議	週1回	・各クラスの共有事項報告 ・次週の週案の確認と共有 ・クラス運営策定

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	月例確認事項、コンピテンシー、請求スケジュール 各部署からの連絡事項伝達
施設長勉強会	月1回	マニュアル及び運用ルールの作成・見直し 保育における課題点の抽出・改善アクションプランの立案、成果発表 保育所保育指針の理解
食育会議	年4回	献立の内容改善・提案 給食提供マニュアル及び運用ルールの見直し

		食育計画策定
保健会議	年4回	感染症対策やガイドラインの作成・改善 保健計画策定 保健指導についての共有
主任会議	月1回	園の課題改善アクションプランの進捗確認と共有 マネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	環境設定、美観、日課の見直し等、改善アクションプラン の進捗確認と共有

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内の汚染区域の安全管理や備品などの管理
事故防止係	避難訓練計画の立案や、環境安全整備 ヒヤリハット、インシデントの分析、事故防止会議運営
防火管理者	園の災害などに対する訓練の立案、実行
食品衛生責任者	食育計画の計画や実践、食品の安全に対する管理
畑係	年間農業計画の遂行状況の確認、及び整理
写真係	写真販売の写真整理と確認

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者の主体性を尊重しながら、計画、準備、活動を共に行う。
運動会係	行事の企画、立案、実施
生活発表会係	行事の企画、立案、実施
入園式、卒園式係	行事の企画、立案、実施

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の成長や発達にあった援助を行い、一人ひとりが安心して過ごせる。 ・子どもの気持ちに寄り添い、共感し受容する。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然や社会とかかわれるような体験の場を作る。 ・子どものやりたいことが保証され、応答のある環境の中、様々な経験や体験を行い、興味関心が促される。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安心して大人や友達と関わり、様々な体験や経験を通して友達と学び合い、助け合い、協力できる。 ・喜怒哀楽などの様々な感情を表現することができる。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験や経験のもと、自分の興味関心のあることに気づき、それに対して探求し、挑戦する姿が見られる。 ・子ども同士のグループで話し合い、役割を分担し、1つのものを作り上げる経験の中で、合意形成や感情コントロールが身に付く。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に食べる子どもが増えるよう、食への関心を広げる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・十分に遊び、身体を動かし、自然とお腹の空く環境を作る。 ・生活の中で、食事作りや準備に関わる。 ・献立を、栄養素毎に視覚化し、食への興味に繋げる。
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士、栄養士、全てのスタッフが口腔発達を理解し、食事提供を行う。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修で口腔発達について学び、子どもの噛む力を育て、素材の味を味わえる状態で提供できるようにする。 ・盛り付け、配膳を自分たちで行うことで、自分で食べられる量を把握する。
3	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の恵み、命の大切さに気付く

	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで栽培し、それを食する機会を多く作る。 ・梅ジュース作り、干し野菜作り、いちごジャム作りなど、季節ごとに収穫する日本ならではの食材を加工する。 ・魚を捌いて食べる等、命をいただくことを知る。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがい指導では、スタッフが手本となり、習慣化できるように促す。 ・歯磨き指導では、紙芝居や模型を用いて歯の磨き方を伝える。 ・身体の絵や絵本を用いて、からだのしくみを伝える。 ・性教育から、身体の大切さ、自尊心を育むきっかけを作る。
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月頃・・・ウイルス性胃腸炎 1月頃・・・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在19名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については4月30日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在16名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日

	避難消火訓練	毎月1回/15日
	不審者侵入訓練	年2回/6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回/5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回/4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回/4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表/毎日	毎日
	衛生管理点検表/毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表/毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿/毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回/5日/全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 /保険証期限確認	年2回/4・10月
	身長体重測定	毎月1回/20日
	児童健康診断	内科健診 年2回/6・11月 歯科健診 年1回/6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回/4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	整理・整頓を意識し、必要なものを以外置かない気持ちの良い空間を作る。
	実践予定内容	環境による保育が原点であることを念頭に置き、保育室内の清掃、消毒を毎日行い、安全で清潔な環境を整える
2	計画・ねらい	子どもが自発的に興味、関心のあるものに取り組み、自ら学び挑戦し続けられるような環境設定を行う。
	実践予定内容	目の前の子どもをよく見て、子どもに必要な玩具、遊びたい場所を自分で選択していけるゾーン設定を行う。
3	計画・ねらい	ホンモノに触れる機会を作る。

実践予定内容	玩具、楽器、画材、自然物など、ホンモノを用意し、子ども自らの意思で使うことができる環境設定を行う。
--------	---------------------------------------------------

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	なし		

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	安全管理	園における事故にかんする安全管理危機マニュアルを設置しており、全てのスタッフは各自内容を読み込み理解し、マニュアルに基づいた運営管理を行う。
2	危機管理	事故発生時における危機管理マニュアルを設置しており、全てのスタッフは各自内容を読み込み理解し、マニュアルに基づいた運営管理を行う。
3	救急救命講習の実施	スタッフは、応急処置に関する基本的な知識を持ち、事故発生時には適切な連携を図り処置する。
4	防火管理	<ul style="list-style-type: none"> ・防火管理者を選任し、所轄の消防署に遅滞なく届け出る。 ・消防法に定められた必要事項を満たした消防計画を作成し、消防計画の内容を全スタッフに周知する。 ・避難、消火、通報訓練は法令・通達で定められている回数実施する。 ・少なくとも年1回は引き取り訓練を実施するが、実施の際は保護者の負担をできる限り少なくす配慮をする。 ・防火管理者は、消防設備等の自主点検を実施し、不良箇所があった場合には即時に改善する。 ・避難機器や消火器を、適正な場所に設置する。 ・非常ベルまたは非常警報設備を設置、点検を行う。
5	光化学スモッグ対応	埼玉県または、桶川市からの情報を素早くスタッフに周知し、園外にいる場合には素早く日陰に入るなどの対応を取り、子どもたちの健康状態などに留意する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

- ・保育園は地域の社会資源であり、地域研修の場であることを意識し、実習生、研修生を積極的に受け入れていく。
- ・次の世代を担う保育・福祉の場で活躍する人材を育成し、また、自園スタッフの自分の保育を振り返るきっかけに繋げ、共に成長の機会となるようにする。

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (= 保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

1	実践予定内容	近隣の中学校や高校などからの体験学習の依頼があった際は、積極的に受け入れる。
2	実践予定内容	保育養成校の学生の實習、一般および学生各種ボランティアの依頼があった場合は、積極的に受け入れる。
3	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生とは、日々の振り返りを行い、疑問点などはすぐに解決できるように指導する。 ・保育の楽しさを伝えられるように関わる。

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック ③ 虐待防止研修 ④ BCP ⑤ ケーススタディ研修	非常時に備えた行動ができるよう、 スタッフ周知する。 怪我についての対応について
5月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル研修 ③ 接遇	マニュアルの徹底。全スタッフが同レベル で行えるようにする。 相手の気持ちに寄り添い、最高の接遇を 学ぶ
6月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水の事故 ③ 保護者対応	・水の事故への対応、危機管理 ・接遇、連絡帳、タイムラインの書き方、写 真の撮り方
7月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブについて	・併設園として、インクルーシブ保育の実 際や課題について学ぶ。
8月9日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿	保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉 える。
9月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 小学1年生を知る	小学校1年生を見て知り、逆算した保育 を遂行する
10月11日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの環境について ③ 利用者アンケート分析 ④ 人権チェック ⑤ 虐待防止研修	子どもの姿を捉えた環境設定について 利用者アンケートの分析を行い、園運営 について考える
11月8日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 併設園の役割	地域の中での併設園としての役割
12月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 指導要録	小学校へのスムーズな移行を考える
1月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 進級、進学に向けて	日課の振り返り
2月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年度の振り返り	体験活動の振り返り、及び次年度の課 題抽出
3月2日	9:00~18:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度目標設定	課題への共通理解を深め、次年度の目 標を設定する

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣の保育園や幼稚園、小学校、商業施設等との関わりを持ち、コミュニケーションを大切にしている。また、保護者や地域の方を対象とした子育て相談会を実施し、地域に貢献できる活動を行う。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：駅西口公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者と交流 中高生の体験学習、ボランティアの受け入れ

異年齢交流	小学校訪問 近隣園との交流
地域拠点活動	ちきんえっぐ(自然食堂・寺親屋・芸術学校)の開催 園庭開放 地域公開講座の実施 救急救命講習
どろんこ祭り	地域の方にも参加していただき、交流の場となるようにする。 また、園の活動を知っていただく機会とする。

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

- ・小学校1年生の授業を実際に見て知り、逆算した保育を遂行する。
- ・子どもの発達の一貫性を見据え、子どもたちの生活が小学校へ繋がるものとして就学を見通した保育を行っていく。
- ・小学校接続アプローチカリキュラムの理解を深める勉強会を実施し、スムーズな接続が行えるようにする。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を2月29日（木）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	桶川小学校	4名予定	授業見学(1年生教室)	スタッフ研修
9月頃	朝日小学校	12名予定	小学校に行こう(校内)	子ども間交流
11月頃	桶川西小学校	12名予定	公開授業(校内)	子ども間交流
1月頃	桶川小学校	15名予定	小学校の先生を招いて(園内)	スタッフ間交流
2月頃	桶川小学校	12名予定	校内探検(校内)	子ども間交流
2月下旬	桶川市内小学校	2名予定	連絡協議会(市役所)	スタッフ間交流

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

個別支援計画は、年齢・障害・手帳の有無に関わらず、気になる子ども全員に対して作成し、ケース会議を月1回開催する。

毎月1回行われるケース会議にて、計画・実施状況・結果等の振り返りを行い、前期または後期の個別支援計画に赤入れをして実施する。

〈2〉 毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：6名予定)

園長、主任、担任、つむぎ専門スタッフとケース会議を行い、記録を取り、全スタッフに周知する。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

支援の必要な園児に行ってきた援助、支援内容を引き継ぎ、入学後の円滑な学校生活に繋げることを目的に作成する。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(木) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校	毎週(火) 10:00～12:00
どろんこ自然学校	毎週(水) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：駅西口公園にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉 園による自己評価の実施

2024年3月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価開始予定時刻：13時30分

自己評価終了予定時刻：14時30分

自己評価実施予定者：千葉 彩華、軽部 瑛子、菅野 仁美

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1.3.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・つむぎスタッフと協働して業務を行うことにより大人が背中を見せ、つむぎ利用児と保育園園児が助け合い、学びあい、生活、遊びを支え合うインクルーシブ保育を行っていく。また、スタッフはインクルーシブ保育についての理解を深め、自身の言葉で語れるようになる。 ・地域や社外に向けて保育を公開し、インクルーシブ保育を地域に浸透させる。
	振り返り	<p>保育園、つむぎの垣根なく、スタッフが関わり合いながら一緒に保育を考えた1年だった。インクルーシブ保育について、スタッフの学びの時間を多く持つことが出来た。環境設定については、まだ試行錯誤の途中で今後も継続して、子どもにとってのより良い環境を作っていく話し合いをしていきたい。また、主体的に動くスタッフが出てきているので、スタッフの一人ひとりのスキルを上げながら、引き続き主体的に考え動けるチームを作っていく。</p>

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども自らがいつでも経験を選び取ることのできる保育環境の構築。 ・子どもを真ん中に、全スタッフが生活力・選択力・思考力を主体的に育む保育を行っていく。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが主体的に選択できる環境を作っていくうえで、大人主導ではなく、子ども主導での環境設定ができるよう、自分で考える力を養う保育を行っていく。 ・大人が主体的に動く背中を見せることで、子どもの育ちを促す。
2025年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士のスキル向上と保育の質向上。 ・地域の子育て支援の拠点となるよう、外部向け講座や発信を行う。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・目の前の子どもの姿を見て、今の子どもに必要な環境と体験を用意できるよう、スタッフ一人ひとりのスキル向上を行う。 ・スタッフ一人ひとりが、自分の持っている力を十分に発揮できると共に、研修等に積極的に参加し、インプット、アウトプットすることにより保育の質向上に繋げる。
2026年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に愛され、子育て支援の拠点となる開かれた園になる。 ・地域の中で、障害のあるなしに関わらず、全ての子どもが共に育つインクルー

		シブ保育のモデル園となる。
	重点施策	・地域の方が気軽の利用できるような取り組みを考え発信する。 ・インクルーシブとしての取り組みを外部発信し、地域の中に浸透させていく。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ 桶川ルーム 施設長 千葉 彩華

2024年度 北千住どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

北千住どろんこ保育園の強みである、温かい雰囲気と子どもを中心に置いた保育を更に追求し、地域で「選ばれる園」となる。

- ・生活力の体得を意識した保育を展開する。自分の足で人生を歩むために・自分で自分の命を守るために・助けられながら「生活力」と「危険なものとの距離の取り方」を教える。
- ・発達支援つむぎ北千住ルームと併設されている環境を最大限に活かしながら、子どもも職員も保育園、つむぎということに左右されず、子どもを中心に置き、どの職員でも対応し関わっていく保育を行っていく。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	温かい雰囲気の中で子どもを中心に置いた丁寧な保育を追求する。
	実践予定内容	職員同士が互いを認め合い、相手を尊重し合える関係を築き、子どもに対してきちんとした日本語で話をする。 振り返りは毎日行い、発達や子どもの姿をしっかりとらえて環境設定をする。 園長大学 [®] ・保育士大学を園会議で視聴し、ディスカッションする中で学びを深める。
2	計画・ねらい	気持ちよく過ごせる環境設定及び、美観を意識した清掃体制を作る。
	実践予定内容	誰にとっても気持ちの良い保育園であるために、当番制で美観係となり清掃に対する意識の向上に努める。また、整理整頓を意識し、棚の上には何も置かないことを徹底していく。
3	計画・ねらい	虐待の定義について学び、子どもがのびのびと過ごせる保育を展開する。
	実践予定内容	虐待の疑いさえも絶対のない保育者となるための学び、園内研修を定期的に行っていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子育てが楽しいと感じられるような保護者支援を目指し、最高のパートナーとなる。
	実践予定内容	子育ての楽しさや成長、喜びを互いに感じられるような支援や情報提供をしていく。保護者が保育者に話しかけやすい雰囲気を保つ。
2	計画・ねらい	保護者同士がつながりを持てるようなどろんこサポーターズや、おやじの会の活動の場を作る。
	実践予定内容	どろんこサポーターズとともに、保護者がいきいきと積極的に関われる場を増やし、かけがえのない保育園時代を楽しんでいただけるような場や、環境を提供し、職員と保護者、地域で子どもを中心に置いた子育てを展開できるようにする。

		特にどろんこ祭りは保護者とともに作り上げ、横のつながりも大切にした取り組みとなるよう工夫する。
3	計画・ねらい	掃除の行き届いた施設
	実践予定内容	日々の整理整頓、清掃の徹底、過ごしやすい環境づくりに努める。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域子育て支援事業の実施
	実践予定内容	子育て支援事業としての定期的な取り組みを行い、年4回地域の保護者やお子様向けにイベントを開催。 子育てが楽しいと思えるような企画や、悩みが軽減するようなイベントが開催できるようにする。
2	計画・ねらい	ちきんえっぐを気軽に利用していただけるプランを立て、広く周知できるように情報発信をしていく。
	実践予定内容	ヤギの餌やり、園庭開放。 青空保育や、散歩先でチラシを配布し周知する。 自然食堂、芸術学校の実施。
3	計画・ねらい	孤立する子育てを少しでも減らせる場として、「地域に開かれた子育て支援」ができる園を目指す。
	実践予定内容	子育て相談、保育園体験、寺親屋の開催。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	チーム保育の向上を図る。
	実践予定内容	リーダー中心の体制を作り、誰もが子ども中心の丁寧な保育ができるよう、意見交換をしながら園全体のモチベーションを上げ、チーム力向上を目指す。
2	計画・ねらい	子どもの人権を学ぶ。虐待防止について学び徹底した対応をする。
	実践予定内容	子どもの人権をしっかりと学び、子どもを保育することはどういうことなのか、大人都合で子どもたちに接していないか、子どもを一人の人間として応対しているか、子どもの心を傷つけていないか、日々常にプロの保育士として誇りと責任を感じて保育に当たれるようにする。また、人権を守れていないと感じたときは、お互いに指摘しあい子どもの人権を考えた行動がとれる職員集団を目指す。

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	園スタッフ自身のにんげん力を育てる。子どもたちののにんげん力をはぐくむためには大人のにんげん力（人的環境）が大切であることを学ぶ。
	実践予定内容	子どものために何ができるか考え、行動し、しっかりと自分の言葉で語る職員となる。 道具の扱い方、うた、遊びなど子どもに伝えるべき生活力をスタッフ自身も身に着け、子どもに正しく伝えられるようにする。

2	計画・ねらい	日課の確立を図る。
	実践予定内容	法人が大切にしている日課を、なぜ子どもとともにするのかを考え、さくらさくらんぼリズムで健康な心と体をはぐくみ、つながる畑仕事でSDGsの実践をし、午前中の戶外活動の充実や、朝ならではの自然事象を感じられるための散歩の9時出発を生活リズムに定着させる。
3	計画・ねらい	食の循環についての意識を高める。
	実践予定内容	命をいただく経験のための取り組みとして鳥の解体を行う。 食の循環を知り、食や環境への意識を育てられるようにする。

〈6〉 真のインクルーシブ保育を実践する施設づくり

1	計画・ねらい	個々の発達に合わせた個々への配慮と支援を行っていく。
	実践予定内容	発達の早い子も緩やかな子も、その子の豊かな生活を願ってその先に繋がる支援を行っていくことを意識できる職員集団となる。
2	計画・ねらい	要支援児、つむぎ利用児、保育園児等、携帯にとらわれず、子ども同士のつながりを大切にする園づくりをする。
	実践予定内容	保育園、つむぎという枠を取り払い、園児をつむぎ職員が対応する、見守る、保育園職員がつむぎ利用児の対応をする、見守ることを実践する。またその関わりについて共有を密に行い全職員が一人ひとりの把握ができ、一緒に丁寧な対応ができる施設づくりをする。 そのために真のインクルーシブ保育とは何か、混ざり合うとはどのようなことなのかを、インクルーシブについての園内研修を行い追及し、職員の意識をさらに高めていけるようにする。

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	12人	20人	20人	20人	90人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時30分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	4人	バス運転手	1人
パート スタッフ	保育士	2人	補助	2人	事務	1人	用務	1人
	嘱託医	1人						

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	当月の行動計画の成果発表／園内研修／次月の行動計画決定
給食運営会議	月1回	食育計画策定／食育活動実施内容／喫食状況確認／検食簿指摘事項改善／配膳方法など
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策策定／全園事故防止委員会での内容共有／当月のヒヤリハット・インシデント分析
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り及び省察／要支援児個別計画の見直し
幼児会議	週1回	幼児クラスについての情報共有
乳児会議	週1回	乳児クラスについての情報共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人からの連絡及び経営Visionとの接続
施設長勉強会	月1回	マネジメント・コンプライアンスなど。課題改善計画立案及び取り組み成果発表
食育会議	年4回	献立内容の改善・提案／給食提供マニュアル及び運用ルールの作成・見直し／食育計画策定
保健会議	年4回	感染症対策ガイドラインの作成、改善／保健計画策定

主任会議	月1回	各園の課題改善アクションプランの進捗確認と共有／マネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	マネジメント・コンプライアンスなど。課題改善計画立案及び取り組み成果発表

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園舎、職員、園児衛生全般の改善と感染症予防対応、衛生管理全般の管理。掃除チェック表管理・細菌検査とりまとめ・予防接種把握・身体測定などを行う。
安全対策係	様々な災害を想定した訓練実施。施設内避難経路の管理点検設備点検チェック、事故防止チェック、防災自主点検、不審者侵入訓練を計画し実施する。
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理上必要な業務（防火管理業務）を計画的に行う。
食品衛生責任者	食育会議の計画や実践。食品の安全に関する管理や啓蒙をする。
畑係	畑の管理をする。
生き物係	生き物に関すること全般。

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭り実施に関わる取りまとめをする
運動会係	運動会実施に関わる取りまとめをする
生活発表会係	生活発表会に関わる取りまとめをする

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して過ごすことができる環境を整える。 ・どんなことも気持ちを受け止め共感する。
------	--------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔や笑いを引き出す保育を展開する。 ・様々な行動や欲求に適切に応え、身近なおとなとの情緒的な絆を形成する。 ・活発な探索活動を楽しみながら、様々な感覚が育つ。 ・身近なおとなや、少し大きい子どもとの日常の中で、身近にいる子どもを見て学び、感情を十分に表現し、大人に見守られながら健やかにのびのびと育つ。 ・生活の中の様々なあそびや、身近なものとの関わりを通して感性が育つ。 ・園児同士の関わり合いの中で身近な人と気持ちが通じ合う。気持ちのぶつかり合いや、モノの取り合いなど、さまざまなやり取りを通し、気持ちを立て直す中で、関係の基礎、コミュニケーション力の基礎、非認知能力の基礎が育つ。
	<p>下半期 0～1歳児</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自我形成の時期で、他者を認め始める時期に当たるので、異年齢での活動、たくさんの大人との関わりを十分に取り入れ0歳児1歳児共に活動する時間を増やしていく。 ・とにかく気持ちを受け止める保育者が側にいることを実践する。 ・保育者も一緒に遊び、遊びのバリエーションや、展開のヒントを率先してみせることで生活の中の様々なあそびや、身近なものとの関わりを通して感性が育つ。 ・園児同士の関わり合いの中で身近な人と気持ちが通じ合う。気持ちのぶつかり合いや、モノの取り合いなど、さまざまなやり取りを通し、気持ちを立て直す中で、関係の基礎、コミュニケーション力の基礎、非認知能力の基礎が育つ。
<p>幼児保育</p>	<p>上半期 3～5歳児</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活やあそびの中で、基本的な生活習慣や運動が心地よい感覚として身につく。 ・友だちとの関わりを通し、自分の気持ちを言葉や行動で表現し熱中して遊ぶ。 ・遊びたいものを自分で選択し、道具や玩具をいつでも手に取って使える環境の中で思いきり遊ぶ。 ・園児同士の関わり合いの中で人間関係、コミュニケーション能力を身につける。 ・自分の要求や思いを言葉や行動で相手に表現しながら、他者を受容する感情が育つ。 ・生活やあそびの中で、達成感や充実感を味わう経験をし、目標に向かって友だちと力を合わせて活動する。 ・遊びの中で様々な経験を通し、思考力、判断力、表現力を身に付け、結果ではなく、その過程での取り組みを、しっかりと見守られながらのびのびと遊ぶ。
	<p>下半期 2～5歳児</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児の午睡が終了し、2歳児が幼児クラスに合流するので、手伝いや当番活動の充実を図る。 ・10の姿を、卒園する時期の子どもの育ちに照らし合わせながら成長を見守る。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちとの関わりを通し、自分の気持ちを言葉や行動で表現し熱中して遊ぶ。 ・ 自分の要求や思いを言葉や行動で相手に表現しながら、他者を受容する感情が育つ。 ・ 生活やあそびの中で、達成感や充実感を味わう経験をし、目標に向かって友だちと力を合わせて活動する。 ・ 遊びの中で様々な経験を通し、思考力、判断力、表現力を身に付け、結果ではなく、その過程での取り組みを、しっかりと見守られながらのびのびと遊ぶ。 ・ 失敗してももう一度挑戦してみようとする気持ちが育つような配慮をする。 ・ 就学に希望を持ち卒園できるようにする。また在園児は5歳児の姿を見て進級に見通しを持てるようにする。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・ 2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

- 給食運営会議・食育会議を通じ、子どもが楽しく食事できる環境を設定していく。
- 日常の生活に密着した食育を深く考察し、実践する。
- 分かち合う事の素晴らしさや、大切さを感じられるよう工夫する。
- 食品の加工や命をいただく経験から食の循環を知る。

1	計画・ねらい	友だちや身近なおとなと親しみを持って、好きな場所で、好きな人と、自分の食べられる量を、楽しい時間空間の中で食べる。
	実践予定内容	バイキング方式を実施。大人が決めすぎない設定の中で食事ができる環境づくりをする。楽しく食事ができ、食べることを楽しめるような工夫をする。
2	計画・ねらい	食の循環を知る。命の大切さを学ぶ。
	実践予定内容	コンポストづくりを行い、土にかえたものを使って畑活動をする。鶏をしめ、命をいただく経験ができる取り組みを行う。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（5月・11月） 0歳児検診毎月1回実施
歯科検診	年1回（7月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導・うがい歯磨き指導・鼻のかみ方指導
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 5～7月頃・・・ヒトメタニューモウイルス、RSウイルス、アデノウイルス、手足口病 12月頃・・・インフルエンザ、感染症胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアアップ・・・1名より預かり済み／調乳室の冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在、23名が研修受講し修得済み
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	AED未設置
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み

	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／5・11月 （0歳児のみ年12回実施） 歯科健診 年1回／7月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもたち自身が主体的に、またいつでも経験の選択をすることができる環境設定をする。
	実践予定内容	環境設定は日々の振り返りや、子どもの発達に合わせて行い、子ども自らが選択し、遊び込めるよう保育者は適切な関わりや言葉がけ、物を用意し、豊かな発想や自信を備え、学びの芽生えとなる環境を整備する。
2	計画・ねらい	環境の与える影響を理解し、人的環境・物的環境を整える。
	実践予定内容	子どものための環境を追求する。 人的環境を整えるために勉強会を開き保育のスキルの向上に努める。
3	計画・ねらい	園長大学®・保育士大学による環境構成についての講座を受講する。
	実践予定内容	学んだことを生かして子どもたち自身が主体的に選べるように環境設定をする。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	ベンチ	園庭	毎日
2	ブランコ	園庭	毎日
3	テーブル	園庭	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	防災…危機管理マニュアルNo.3の災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛防災…危機管理マニュアルNo.3の災害対策（P.12～）に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う。
2	実践予定内容	ケガ事故防止…危機管理マニュアルNo.3のけが事故防止策・安全点検と保全（P.14～）に則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、S I D S防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従う。
3	実践予定内容	防犯…危機管理マニュアルNo.3の不審者対策（P.20～）に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う。
4	実践予定内容	光化学スモッグ…危機管理マニュアルNo.3の光化学スモッグ対策（P. 21～）に則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

次世代育成の観点から、積極的に受け入れを行い、実習生や生徒の一人ひとりの様子に合わせて具体的かつ家庭的に援助・指導を行う。中高生の体験学習の受入、保育養成校の学生の実習受け入れ、次世代の子育て保育に携わる人材育成ととらえ、丁寧な受け入れ、指導する。

1	実践予定内容	保育が楽しいと思える保育実習の場を提供する。
2	実践予定内容	自分が思い描く保育士像に希望が持てる体験を実践する。 職員が思いやりとプロとしての意識をきちんと見せられるようにする。

3	実践予定内容	実習を終えて、より具体的に保育士として働くイメージをもって、どろんこ会で働きたいと思える実習生を増やす。
---	--------	------------------------------------------------------

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修

新人社員研修

スタッフ研修

- 入社時オリエンテーション
- 現場OJT研修
- 保育品質マニュアル研修
(事務研修・ケガケーススタディ研修含む)
- コンピテンシー研修

保育スキル研修



←お迎え
対応研修

- 新人社員研修
→ 会場研修
- 系列園保育実地研修



- 全社員研修 (年1回)
- 園内研修 (月1回以上)
- 保育スキル研修 (エリア別)
- リーダー養成研修 (9~2月)
- 業務改善研修 (月1回)
(=保育の質を上げる会議)
- 施設長勉強会 (月1回)
- デンマークインターンシップ (年1回)
- コンピテンシー自己採点 (月1回)
- 人権チェック (4月・10月)
- 外部研修
- 上級救命救急資格取得講習

←避難訓練研修

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 虐待防止・接遇	美観の意識・最上級のおもてなしの心(最上級のサービス)について考える 園長大学の視聴、ディスカッションを行う
5月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 接遇・環境構成	接遇についての日々の振り返り、洗濯できる環境設定について考える 園長大学の視聴、ディスカッションを行う
6月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水の事故・救急救命	ハザード・水の事故について/救急対応/感染症について 園長大学の視聴、ディスカッションを行う
7月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 架け橋プログラム	就学に向けた幼保小の架け橋プログラムについて 園長大学の視聴、ディスカッションを行う
8月23日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点	戸外活動、散歩時の危機管理、園内

施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士 大学講座および社 内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインテンシッ*	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

積極的に園外に出かけたり、招待したりしながら近隣住民や身近な人と様々な関わりを経験し、地域に愛されるよう計画し実践する。つながりをより深める。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：千住旭公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	日ノ出町にお住いの地域の方々との交流を、年3回以上行う。
異年齢交流	主に3～5歳児は日常的に異年齢保育を行い、年少児と年長児の生活の中でのかかわり合いが密になるように工夫する。 0～2歳児はこどもの様子に応じて異年齢で過ごせる機会を設け、幼児や様々な人とのかかわりが充実するように配慮する。 小学校訪問や、1年生を園に招待し主に5歳児と交流しながら小学校を知る体験を行う。 地域の小学生を対象に年3回の交流事業を行う。
地域拠点活動	園児保護者の保育参加の随時受け入れ、保護者との共同によるどろんこ祭りの開催を行う。 ちきんえっぐにて園庭開放や給食体験など地域の方に利用していただくイベントを実施する。 また、子育て相談の対応や子育てサークルの支援を行う。

	また、地域にお住いの保護者とそのお子さんを対象に、育児講座を年3回以上開催する。
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

足立区接続期カリキュラムをもとに、北千住どろんこ保育園アプローチカリキュラムを作成し、小学校へのスムーズな移行ができるように小学校との連携を図りながら取り組む。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月15日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	千寿小学校	3名予定	幼保小連携会議	協議会
7月頃	千寿常東小学校	3名予定	職員間交流研修	見学・
11月頃	千寿常東小学校	20名予定	展覧会見学	見学
1月頃	千寿常東小学校	2名予定	幼保小連携会議	協議会
2月頃	千寿常東小学校	20名予定	給食交流会	参加・交流
2月頃	千寿本町小学校	20名予定	1年生との交流会	見学・交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

特別な支援が必要な乳幼児については、個別に保育計画を作成し、家庭や関係機関と連携しながら、計画的・継続的に一人ひとりに応じた保育内容や配慮を実践する

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：毎月20名予定)

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

併設園としての特性を生かし、職員間での共有や小学校との連携をしっかりと行い、情報共有していく。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00~12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00~12:00
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:千住旭公園にて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年11月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 9時00分

自己評価終了予定時刻: 12時00分

自己評価実施予定者: 施設長、主任、当日出勤のスタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日: 8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	丁寧な保育を展開するために、園内での言葉遣いを職員同士で意識しあえるような園内研修を継続して行なっていく。 インクルーシブをさらに発展させていくために、保育園とつむぎの保育体制や、振り返り時間の確保ができるよう、新たな仕組み作りを行い、保育園児もつむぎ利用児も子どもたち同士のやり取りの中で安心して過ごせる場となる。
	振り返り	保護者対応においては、園内研修の成果もあり、保護者の満足度の向上が図れた。言葉遣いはさらに意識し合うようにし、正しく美しい日本語を使って保育にあたるようにする。

		インクルーシブの観点においては、日常生活や行事などつむぎ北千住ルームの職員と計画段階から取り組んだことで、混ざりあうことが普通になってきている。今後、さらにインクルーシブを学び、追及していく。
--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	インクルーシブ保育のモデル園になるための基盤強化。
	重点施策	インクルーシブの基盤強化を強固にする。 保育、支援の視点を交えながら、園児、つむぎ利用児が双方に認め合い、切磋琢磨できるインクルーシブな環境を作っていく。
2025年度	目指す姿	地域から認められるインクルーシブのモデル園となる。
	重点施策	保育と支援の視点の融合、どの職員も丁寧な関わりができる併設園となる。足立区内の保育園や、発達支援事業所、近隣小学校、保育園、幼稚園にインクルーシブのモデル園としての取り組みを伝え、広めていく。
2026年度	目指す姿	足立区近隣の地域から認められるインクルーシブ園となる。
	重点施策	保育と支援の融和した子育て施設として、取り組みやインクルーシブのメリット、次世代の保育のあり方を発信していく。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：北千住どろんこ保育園 施設長 金子 仁美

2024年度 一宮どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

どろんこ会の子育て理念「にんげん力育てます」に基づき自園の恵まれた環境を活かし、子どもたちの「やってみたい」を尊重し認め、「自分で考え、行動する思考を育む保育」を目指す。

- ・日課、基本活動の安定と充実を図ることで、子ども一人ひとりの育ちのちからを伸ばしていく。
- ・異年齢での関わりの中で様々な体験を通して、日認知能力「目標に向かって最後までやり抜こうとする力」「周りの人と上手にコミュニケーションする力」「気持ちを上手くコントロールする力」を育むための環境を整える。
- ・子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境を設定すると共に、一つひとつにねらいと意図をもち、子どもたちの育ち合う姿や様々な活動を通して自己選択を積み重ね「自ら考える力」を育む。
- ・保育士や友達と一緒においしく食べる、楽しく食べる、食文化に触れる、クッキング体験、自分たちで栽培したものを食するなどの体験を通して食に興味を持てる子どもを育てる。子どもが自らの感覚や体験を通して自然の恵みとしての食材や食の循環を知り、調理する人への感謝の気持ちを育てる。
- ・一人ひとりの子どもの発達を理解し、子どもの姿を捉えた保育計画を作成し振り返りを行い日々の保育の充実を図る。
- ・幼児期に育ってほしい10の姿を方向性とし、子どもの育ちを汲み取り、就学へと繋げていく。
- ・子どもの姿やエピソードをタイムラインやブログを通して公開することで、保護者様の保育園への理解を深める。
- ・地域を巻き込んだ行事や園外保育の充実を図り地域に溶け込む保育園となる。
- ・園舎内外の環境整備に努め、気持ちの良い施設を保つ。
- ・子どもや保護者の心に寄り添うために、保育士一人ひとりが豊かな心で保育に努める。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもが「やってみたい」遊びや活動を選択できる環境の保障
	実践予定内容	子どもの発達を理解し状況や時期を鑑み、ねらいを含みながらtrial&errorを体験できる環境を設定していく。 子どもの姿に合わせての環境の見直しを実施。
2	計画・ねらい	安心・安全の園外活動に努める
	実践予定内容	子どもたちの発見や不思議などの興味関心を大事にしながら安心安全の園外活動を実践する。 スタッフの危機管理の習熟度の向上を目指すための研修実施と実践。
3	計画・ねらい	一人ひとりを大切にした保育
	実践予定内容	見守られている・受け止めてもらえる安心感を子どもに与えることで挑戦する力育み、信頼関係を築く。 子どもを認めることで次の行動に向かう意欲を育む。 スタッフ間で子どもの姿を語り合い、育ちを喜び合う。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の心に届く接遇
	実践予定内容	登園時、降園時の挨拶や丁寧な対応。 子どもの姿や育ちを捉えた連絡帳やタイムラインの書き方の充実。
2	計画・ねらい	気軽に相談できる保育園作り
	実践予定内容	保護者のニーズに応じて柔軟で細やかな対応ができ、安心して任せてもらえる保育園となる。 保護者と保育園と連携を図りながら子育てをしていく場となる。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育ての輪を広げていく保育園作り
	実践予定内容	遊びの場を提供することで地域の親子同士の繋がりを作る。 安心して子育て相談ができる場となる。
2	計画・ねらい	ちきんえっぐの充実
	実践予定内容	地域の方が参加したくなるような年間活動計画の立案・企画をする。 活動内容を園庭開放や掲示、町発行の広報にて公開し参加を呼び掛け集客に努める。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	若手スタッフの育ちを支える
	実践予定内容	保育についての迷いや悩みについて中堅職員とディスカッションし解決に導く。子どもの育ちのエピソードを語り合うことでやりがいに繋げていく。
2	計画・ねらい	ミドルリーダーが力を発揮できる環境
	実践予定内容	施設長、主任、ミドルリーダーとで日々の保育の現状を報告し合い振り返ることで目指す保育に繋げていく。 保育の方向性を共有し若手職員へ下ろしていく役割を担っていく。 ミドルリーダーの育成から保育全体の力を向上させていく。

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	堆肥を活用した畑での野菜作り
	実践予定内容	コンポストを利用し堆肥作りの実践。
2	計画・ねらい	一年を通しての食の循環を知る
	実践予定内容	田んぼの土壌作りから田植え・稲刈り・収穫・稲(藁)の再利用までのサイクルを実体験していく。

〈6〉 スタッフみんなで作る保育園

1	計画・ねらい	子どもを主人公にした保育
	実践予定内容	保育士としての責任を理解し保育士努める。 丁寧で受容的で応答的な保育に努める。
3	計画・ねらい	子どもが育ちを喜び合う場
	実践予定内容	保育の実際を目で見ることのできる保育参加や子どもの育ちを話し合い情報
1	計画・ねらい	チーム保育の充実
	実践予定内容	保育士同士が支え合い高め合っていく協働的な関係をもつ。 保育経験年数に関わらず全職員で学び合える園内研修の実施。 保育の話語る振り返りの時間の確保。
2	計画・ねらい	他職種との連携
	実践予定内容	保育士、看護師、栄養士、調理師、事務、用務、全職員がそれぞれの専門の知識を活かし連携を図りながら子どもたちの育ちを喜び合う。
3	計画・ねらい	地域と繋がる保育
	実践予定内容	商店街ツアーや異世代交流など様々な人との触れ合いを通して、人と繋がる力や豊かな心を育む。

〈7〉 魅力のある保育園

1	計画・ねらい	清潔感のある保育園
	実践予定内容	園舎内外の環境整備と清掃の実施により美観を保つ。
2	計画・ねらい	子どもの育ちの見える保育園
	実践予定内容	親子で楽しめる保護者参加行事の充実。 子どもの姿が見えるタイムライン・ブログ・連絡帳の充実。
3	計画・ねらい	素敵な先生がいる保育園
	実践予定内容	子どもや保護者の心に寄り添う保育士を目指す。 豊かな心で保育に努める。 気軽に相談できる保護者との関係性を築く。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
12人	24人	24人	30人	30人	30人	170人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	20人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	1人	補助	1人	調理	1人	事務	1人
	用務	1人						

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修(ロールプレイ含) 事故防止委員会行事進捗会議 報告
給食運営会議	月1回	アレルギー対策給食残量報告 給食の様子共有
事故防止委員会	月1回	当月の事故振り返り ヒヤリハット インシデント
ケース会議	月1回	要支援児の様子 個別支援計画の振り返り
クラス担任会議	担任週1回	子どもの様子について情報共有 日々の怪我報告
行事・係担当会議	週1回	行事計画 共有振り返り

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	本社より、運営についての確認事項の共有
施設長勉強会	月1回	各園の施設長による学び
食育会議	年4回	各園の取り組み発表と課題の検討
保健会議	年4回	各園の取り組み発表と課題の検討
主任会議	月1回	スキルアップ研修 各園の取り組み発表
子育ての質を上げる会議	月1回	各園のエピソード・記録の共有・学び

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	保育園の衛生全般の管理 毎日の点検・改善
安全対策係	安全報告 安全管理対策
防火管理者	安全報告 安全管理対策
食品衛生責任者	食品の取り扱いに関する義務
畑係	田んぼ畑の環境整備 栽培物の管理・土作り・コンポスト管理
生き物係	生き物飼育 小屋衛生管理 エサ管理

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭り計画・実施。どろサポとの連携。

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠と哺乳を中心とする生活リズムの安定を図る。 ・泣きや喃語に対してその都度あたたかく適切に関わることで人に何かを伝えようとする気持ちや相手に対する信頼感の基礎を培う。 ・身近な大人との間に愛着関係を築く基礎を作っていく。
------	--------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<ul style="list-style-type: none"> ・走る、跳ぶ、登る、降りる等の全身運動を楽しめる環境を整える。 ・遊びのイメージを豊かに広げながら周囲の人たちとの言葉のやり取りを楽しめるようにする。 ・自我の育ちや自己主張を受け止め自信を深めるとともに気持ちを止めることやしてはいけないこと等も少しずつ体験する。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・移動の開始によって探索活動をすることで周囲への環境への関心を広げていく。 ・身近な大人が子どもの状態に応じて語りかけたり、やり取りを楽しんだりする経験を通じて、言葉によるコミュニケーションの土台を培う。 ・「自分でしたい」という子どもの思いを受け止め、できることを自分でするという経験を大切にする。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢児と一緒に遊ぶ姿を見守り、時には保育者も加わって一緒に体を動かして遊ぶ楽しさを伝えていく。 ・相手を思いやることや言葉の掛け方を援助し一緒にいると楽しいという気持ちを共感していく。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・年下の子どもが年上の子どもに教えてもらうなどの関りを見守り、必要に応じて保育者が仲立ちをしていく。 ・異年齢で関わる中で、遊びが継続できるよう見守ったり、保育者が手助けしたり、遊びの中で関わりが深まるようにする。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	おなかがすく子どもを育てる
	実践予定内容	日中よく体を動かすことでおなかがすくりズムを作る。 園外活動の充実。長距離散歩の実施。70メートルの縁側の雑巾がけ。
2	計画・ねらい	食べることに関心をもつ
	実践予定内容	自分たちで育てたものをクッキングとして友達と一緒においしく食べる。 自分たちで盛り付け、配膳をするバイキング形式の実施。 食べ物を話題に楽しく食べる。
3	計画・ねらい	食べ物の大切さと感謝をもつ
	実践予定内容	自園のコンポストを活用し食の循環を知る。 自園米作り。通年の野菜作り。 自然の恵みや命の大切さを知る。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導 手洗い指導 性教育
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 4・5月頃・・・水痘・流行性耳下腺炎・はしか 7・8月頃・・・プール熱・クループ・手足口病 12・1・2月頃・・・インフルエンザ・感染性胃腸炎・溶連菌感染症
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアアップ・・・4名より預かり済み／職員室にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在22名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員5名については3月31日までに受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在22名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員5名については3月31日までに受講予定
その他保健に関する取組	職員の出勤時の検温・うがい・手指消毒の励行 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検 (簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年2回／6月・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	遊びたくなる環境
	実践予定内容	子どもの興味関心に合わせた見通しをもった環境作り。 年齢や発達を理解した環境作り。 子どもたちと一緒に環境を作っていく。 子どもが選択できるような遊びの設定。
2	計画・ねらい	落ち着ける環境
	実践予定内容	子どもがクールダウンできるような場の確保。 くつろげる場の設定。
3	計画・ねらい	作ってみたいくなる環境
	実践予定内容	材料、道具などの充実。 作品展示、掲示の工夫。安全な道具の使い方の共有。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	木製ベンチ	園庭	毎日
2	焚火コーナー	園庭	毎日
3	火起こしコーナー	田んぼ	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	毎月1回の避難訓練実施 年2回の総合避難訓練実施
2	実践予定内容	年2回の不審者侵入訓練実施
3	実践予定内容	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿について、事故の検証・事故防止策について事故防止委員会にて会議の実施
4	実践予定内容	園内外のハザードマップによる危険個所の確認と周知
5	実践予定内容	園独自のルールの実践
6	実践予定内容	園内研修・実践により職員の危機意識の習熟度の向上

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

保育養成校学生の実習生や小中高生職場体験、学生ボランティアなどの受け入れを行う。・子どもたちとの触れ合いや職員とのかかわりの中で保育園が学びの場となるように、育成に取り組み就職への意欲を高めるとともに、人材確保にもつなげていく。・職場体験において、地域交流も含め保育士の職業としての魅力を伝えていく。

1	実践予定内容	実習生の受け入れ
2	実践予定内容	中高生の職場体験・家庭科授業 小学生職場見学
3	実践予定内容	ボランティアの学生受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修 (年1回) ■園内研修 (月1回以上) ■保育スキル研修 (エリア別) ■リーダー養成研修 (9~2月) ■業務改善研修 (月1回) (= 保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会 (月1回) ■デンマークインターンシップ (年1回) ■コンピテンシー自己採点 (月1回) ■人権チェック (4月・10月) ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② チーム保育とはI ③ 接遇と保護者対応 ④ 今年度の保育について	・チーム力の意識向上を目指す ・接遇と保護者対応について学ぶ (ロープレ含む) ・方向性を揃える
5月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園外保育/園内職員配置 ロープレ研修I ③ 幼児期に育ってほしい10	・安心安全のための危機意識の向上 ・幼児期に育ってほしい10の姿について考えていく(1、2)

		の姿を学ぶ	
6月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② さくらさくらんぼリズム体操実践研修 ③ 幼児期に育ってほしい10の姿を学ぶ	・ さくらさくらんぼリズム体操の指導についての確認・周知 ・ 幼児期に育ってほしい10の姿について考えていく (3、4)
7月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育の引き出しを増やす ③ 幼児期に育ってほしい10の姿を学ぶ	・ 手遊び 集団遊びなどを学び実践に繋げる ・ 幼児期に育ってほしい10の姿について考えていく (5、6)
8月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 入園に関する事項を知る ③ 幼児期に育ってほしい10の姿を学ぶ	・ 理解の共有と保育実践へ繋げる ・ 幼児期に育ってほしい10の姿について考えていく (7、8)
9月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 就学時前保育とは ③ 幼児期に育ってほしい10の姿を学ぶ	・ 就学時前の保育について学ぶ ・ 現状の子どもの様子から実践へ繋げていく ・ 幼児期に育ってほしい10の姿について考えていく (9、10)
10月18日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② チーム保育とはⅡ ③ 幼児期に育ってほしい10の姿を学ぶ	・ 保育園の現状を振り返りチーム力の向上を目指す ・ 幼児期に育ってほしい10の姿について自園を振り返り保育の向上に繋げる
11月15日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブとは ③ 保育環境とは	・ インクルーシブについて学ぶ ・ 子どもの姿から環境を考え設定し繋げる
12月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園外保育/園内職員配置ロープレ研修Ⅱ ③ 主体性とは	・ 主体性について学ぶ ・ 安心安全のための危機意識の向上 ・
1月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育の振り返りと次年度の方向性	・ 今年度の保育についてのディスカッションする ・ 進級・就学に向けての丁寧な保育についての確認・周知
2月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	・ 次年度に向けて
3月2日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点	・ 次年度に向けて

② 策定会議

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デノマクインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

子どもにとってより良い子育て環境を確保するためには保育園、家庭、地域との連携を図ることが必要である。保育園から情報を発信し交流深めることで地域に開かれた役割を担う。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：上市場中央公園にて
商店街ツアー	週1回

世代間交流	地域行事への参加 高齢者施設への訪問
異年齢交流	近隣小学校との交流 青空保育 小中校生の職場体験・家庭科授業
地域拠点活動	子育て相談 ちきんえっぐ
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

小学校との接続をよりスムーズにするために小学校見学・交流会・運動会参加などを通じて交流を図る。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を方向性とし、保育を進めていく。

保育所保育要録送付・小学校教諭の保育園見学・年長児の情報共有など小学校との連携を図る。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	一宮小学校	2名予定	授業参観 (一宮小学校)	職員間交流
10月頃	一宮小学校 東浪見小学校	35名予定	運動会運動会運動会 (各小学校校庭)	子ども間交流
11月頃	一宮小学校	2名予定	授業参観 (東浪見小教室)	職員間交流
1月頃	一宮小学校	35名予定	近隣園合同交流会 (一宮小学校)	子ども間交流
3月頃	一宮小学校	2名予定	引継ぎ	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

- ・要支援が必要な児について計画を作成する。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：9名予定)

- ・役割分担を決めていくことで支援の幅や可能性を広げていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

- ・個別の支援計画や保育所指導要録を引き継ぐ。
- ・小学校教諭来園、引継ぎ実施（3月）

1.1. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(火) 10:00~12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(水) 10:00~12:00
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名: 上市場中央公園にて開催

1.2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年10月18日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 17時00分

自己評価終了予定時刻: 17時30分

自己評価実施予定者: 乳幼児担任、栄養士、各リーダー、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日: 8月25日

1.3. 3カ年計画の具体化

異年齢での関わりの中で様々な遊びを自ら選択しtrial&errorをくり返しながら伸び伸びと遊んでいる子どもの姿があり、地域を巻き込んだ保育を展開している。

保育士、保護者、地域と共に子どもたちの育ちを支え、見守っている。

〈1〉昨年度の振り返り

3月末まで	重点施策	子どもたちを真ん中にした保育を目指して保護者と連携を図る、と同時
-------	------	----------------------------------

に 指し た 姿		に地域に密着して根っこをはって行く。
	振り返り	保護者参加や保育参加に沢山の保護者に参加いただき、子どもたちの成長の様子を把握してもらうことができた。地域との関わりを多くもったことで、根っこが張り始めている。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	日々の保育が安定し子ども一人ひとりが「やってみたい遊び」を選択し trial&errorをくり返しながらか伸び伸びと遊んでいる姿がある。 保護者に安心して任せてもらえる保育園となる。 全スタッフで子どもたちの育ちを喜び合うチーム保育の実現。
	重点施策	子どもの発達を理解し状況や時期を鑑みながら環境を設定していく。 保育士同士連携を図り安心安全の保育に努める。 保護者とのコミュニケーションを図り保育園への関心を深めていく。 全スタッフで子どもたちへの丁寧な保育に努める。
2025年度	目指す姿	子どもたちが異年齢の関わりの中で育ち合いが見られている。 保護者と保育園が連携を図り、共に子どもの育ちを見守っている姿がある。 安心・安全な保育園が継続している。
	重点施策	職員一人ひとりが法人の理念を理解し同じ方向性をもって保育に取り組む。 子どもの興味関心に寄り添った環境を設定していく。 危機管理の習熟度の安定と継続。
2026年度	目指す姿	異年齢での関わりの中で様々な遊びを自ら選択し夢中で遊ぶ姿がある。 異年齢での遊びや活動を通して思いやりや優しい気持ちが育っている。 安心安全の信頼ある保育園となっている。 地域との交流が深まり、地域に開かれた保育園となっている。
	重点施策	子どもが自由に行き来する大きな家の中で育つ環境を大切にする。 保育士と他職種、全スタッフがチームとなり保育に努める。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：一宮どろんこ保育園 施設長 矢部幹子

2024年度 郡山どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

開園7年目を迎える郡山どろんこ保育園は福島県の中央に位置している。住宅地に囲まれているが、これまでの保育の積み重ねが地域の方にもあたたかく受け入れられていると感じている。郡山市は交通の利便性が良く、住みやすさが県内1位ではあるが、年々未就学児の人口が減り続けている。その中で選ばれる園であり続けるために、どのような取り組みが必要になるのか模索し、以下のことに力を注ぎたいと考える。

①子どもの「生活力」を育む

大人が子どもに伝えていかなければならないと身につかないことを理解し、見せる、やってみる環境を整え、子どもが楽しく主体的に取り組めるようにしていく。子どもの年齢に合った発達や環境を捉え、経験してほしい活動を計画的に取り入れていく。様々な活動を選べる環境を常に考え、子どもが自己決定できるようにする。そのために必要な時間、場所などを確保しながら、心動かす取り組みを大人も一緒にしていく。

②共に育ち合う

子ども一人ひとりの育ちを把握することを前提とし、就学までに育ててほしい姿に合わせた保育を計画し、見通しを持った関わりをしていく。遊びを通して協力することや他者への思いやり、諦めずに取り組むこと、挑戦する力を育み、感情をコントロールする力を重視する。スタッフは自己の成長のために必要なことを明確にし、目標を持ちながら学び続け、自らの保育力・人間力の向上に努める。気持ちよく過ごせる環境を整えることをスタッフ一人ひとりが意識し続け、主体的に動く背中を見せることで、子どもたちも動き出せるようにしていく。

③食の循環と命の尊さを知る

畑活動を通しての種まき・育てる・収穫・いただくという体験の中での子どもの「気づき」に寄り添い、「やってみよう」という気持ちを育む。命をいただく経験を通して自分たちのために尊い命が犠牲になっていることを知り、感謝の気持ちを持つ。

④自律運営

様々な提出期限を守りながら、園運営を行う。自園のスタッフの配置状況を把握し、スムーズな保育を実践していく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

・一人ひとりの育ちや関わりでの変化などを日々の振り返りなどで共有し、様々な視点からの子どものニーズを探っていく。その中で保育内容の見直しを繰り返し、季節、子どもの興味に合わせた環境を構成し、育ちを見通した準備をしていく。

・自己成長のために必要なことを把握し、周りのスタッフとの関りで学んだり、自発的に保育講座の機会に参加したりすることで保育の質の向上に努めていく。自らの学びをアウトプットしていくことで、園全体の質の向上に繋げていく。周りのスタッフとコミュニケーションをとり、互いの強み、弱みを伝え合うことで信頼関係を構築し、スタッフ一人ひとりのモチベーションアップに繋げていく。

1	計画・ねらい	様々な視点から子どものニーズを探るために雑談コミュニケーションでの会話、ロア会議にて子どもの興味・関心を共有し、今後の保育環境に活かしていく。
	実践予定内容	事務時間の合間、休憩時間 火曜日・・・2歳児、幼児 水曜日・・・0歳児、1歳児 金曜日・・・昼礼
2	計画・ねらい	園長大学®・保育士大学講座を視聴しながら、自分の強みを強化し、弱みを強みに変えていく。園会議での視聴も取り入れ、学びの機会を設ける。
	実践予定内容	興味を持った講座から積極的に参加し、学びをアウトプットしていく。すぐに保育に取り入れられることはすぐに実践し、自分のものにしていく。園の課題と感じることを全体で視聴し、共に学び合っていく。
3	計画・ねらい	どろんこギャラリーを活用し、自らの気づき、子どもの育ちや心の動きの読み取りを深める。
	実践予定内容	スタッフから発案されたどろんこギャラリー（玄関入口両脇の掲示）を活用し、月に一度のペースでスタッフ一人ひとりがエピソードを作成していくことを継続し、保護者への発信と自らの学びに繋げていく。エピソード作成が苦手なスタッフは、周りのスタッフにアドバイスをもらいながら子どもの姿を捉える視点を積み重ねていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

子どもを安心して預けられるように、保護者とのコミュニケーションを大切にし、保護者一人ひとりの思いに寄り添い、ニーズに合わせた対応を心掛ける。そのために一人ひとりの家庭状況を把握し、対応を合わせ丁寧に関わっていく。

1	計画・ねらい	家庭での様子を把握し、園での様子や育ちを共有していくことで成長を共に喜び合い、信頼関係を築く。
	実践予定内容	お迎え3分間対応・保護者懇談会・個別面談・保護者との日々のコミュニケーション
2	計画・ねらい	保護者の変化を読み取り、声を掛けて子育てなどでの不安や悩みを和らげていく。
	実践予定内容	保護者の思いに寄り添いながら子育てへの不安や悩み相談に応じ、今後の子育てについて一緒に考える。 必要に応じて医療機関や行政に繋げていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

「ちきんえっぐ」の活動に関心を持ってもらい、子育て世代との交流を充実させ、地域子育ての拠点としての役割を果たしていく。地域の方が参加できる園行事についてよりくわしく発信し、地域交流を深める。

1	計画・ねらい	「ちきんえっぐ」のおたよりを公共機関に配置し、興味を持ってもらい参加人数を増やす。
	実践予定内容	季節に合わせた自然学校、自然体験、芸術学校などの活動内容を具体的に発信する。

2	計画・ねらい	地域参加の園行事を計画し、地域との交流を深める。
	実践予定内容	どろんこまつり・季節のマルシェを計画し、公共機関や園の入り口にポスターなどを掲示して知らせることで参加を促す。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

保育の中での気づきや思いを共有し、それぞれの保育感を話し合うことで気づきの視点を育む。スタッフ一人ひとりが自分の弱みと強みを理解した上で、補う努力と強化していくことを意識し、学ぶことを継続していく。困りごとに直面した時には、解決方法や対応の仕方を一緒に考えてバックアップしていくことで、安心感を持って保育できるようにし、一人ひとりのスキルアップに繋げていく。

1	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが目標を持ち、具体的な取り組みを明確にする。
	実践予定内容	普段のコミュニケーションの中で、スタッフの弱みや強みを抽出し合い、自己の今後の目標を明確にして記録する。
2	計画・ねらい	常日頃から園長大学 [®] ・保育士大学の講座内容を確認することを意識し、興味を持った講座を自ら視聴して学び続ける。
	実践予定内容	スタッフは情報を共有することで、仲間を巻き込みながら共に学び合う意識を持ち続ける。年に一度は自らの学びを園会議で発信していくことで学びを自分のものにし、保育の質を高めていく。園会議では共に学びにしたい講座を視聴し、今後の保育へと活かしていく。
3	計画・ねらい	スタッフの自己肯定感を高め、チームとしての連携を大切にする。
	実践予定内容	スタッフは日頃の保育の中で、お互いの強みと感じることを伝え合い、それぞれの存在意義を確認することで自己肯定感を高める。 施設長、主任、リーダーは職員一人ひとりのモチベーションを探り、自分の気づきを具体的に伝えたり、関り方などをアドバイスしたりすることで信頼関係を築いていく。

〈5〉環境実施目標

畑活動を子どもと一緒に取り組み、種まき、育てる、収穫、いただくという体験の中での子どもの「気づき」に寄り添い、「なぜ?」「どうして?」「やってみたい」という気持ちを育む。
命をいただく体験を通し、命の尊さと感謝の気持ちを持ち、食の循環を知る。

1	計画・ねらい	鶏の解体を経験することで、命をいただくことへの興味を持つ。
	実践予定内容	鶏が解体されていく過程を見ることで命をいただいていることに気づき、食の循環に興味を持ち、命の繋がりを知る。(3歳児～5歳児対象)
2	計画・ねらい	毎日畑仕事に取り組む中で、その時に必要なことを判断し、自ら活動する。
	実践予定内容	野菜の成長を見守り、畑の状態や季節によって何をしたら良いのかを考えて取り組み、収穫する喜び、いただくことへの感謝の気持ちを持つ。

〈6〉大人も子どももわくわくする保育環境（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

子どもたちの活動の中での気づき、対話、試す、失敗などの学びのプロセスを大事にした保育を目指す。子どもの興味・関心を丁寧に捉えて、大人と一緒に取り組みながら関わることで、保育が連続し

ていくことを実感する。

1	計画・ねらい	日々の関わりから、子ども一人ひとりの興味・関心を探る。
	実践予定内容	日々の保育での振り返りをする中で、子どもの気づき・興味・関心を捉え、今後の関わり方や保育準備をチームで探り実践する。 子どもの育ちに合った願いを持って保育を計画し、子ども自身が活動を選択して取り組める環境を構成し続ける。
2	計画・ねらい	子どもの年齢に合った経験してほしい活動を用意する。
	実践予定内容	大人が用意しなければ経験できないことを理解し、経験できる場所、時間を確保しながら、大人と一緒に取り組み心動かす。 活動を見せる、やってみる環境を整え、子どもと一緒にTrial&Errorを楽しむ。

〈7〉 保護者支援（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

一人ひとりの家庭環境や事情を把握し、保護者の思いやニーズに合わせた丁寧な対応をしていく。
いつでも相談できる、気軽に集えるなど、園が安心できる場として信頼関係を築いていく。

1	計画・ねらい	保護者の現状を把握し、ニーズに合わせた丁寧な関わりをする。
	実践予定内容	子ども一人ひとりの家庭環境、事情を把握し、共有が必要と思われる内容はスタッフ間で共有し、対応を統一していく。 状況に応じて保護者面談を取り入れ、現状の改善策や今後の関りを共通にすることで、保護者の心を軽くし、子どもの育ちを支える。
2	計画・ねらい	あたたかい雰囲気の中での保護者対応を心掛ける。
	実践予定内容	朝の受け入れ、お迎え時などは保護者の顔を見て笑顔で対応し、子どもの育ちを丁寧に伝えることで信頼関係を築いていく。保護者一人ひとりが大切にされていると実感できるように配慮する。

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	15人	15人	15人	15人	78人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	13人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	2人	補助	2人	用務	1人	事務	1人
	嘱託医	2人						

3. 運営方針

施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	コンピテンシー・研修計画に基づき研修
給食運営会議	月1回	食育会議・アレルギー対応・衛生点検
事故防止委員会	月1回	危機管理・安全対策・研修
ケース会議	月1回	子どもの困りごとの明確化と対応
学年会議	随時	月・ねらいの確認・子どもの様子報告等
フロア会議	随時	フロアでの共有事項・連携確認

〈4〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人全体での課題解決・連絡
施設長勉強会	月1回	意見交換をしながら学び合う
食育会議	年4回	グループ全体で給食業務改善を目指し開催する
保健会議	年4回	グループ全体で園児健康管理業務改善を目指し、各園が園会議で検討した事項をもとに開催する
主任会議	月1回	意見交換をしながら学び、主任としての立ち位置を確認しながら、自園の保育を振り返り活かす
子育ての質を上げる会議	月1回	意見交換をしながら学び、明日への保育へ活かす

〈5〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	環境・衛生に関する事項の計画、実施
安全対策係	けが防止・危機管理マニュアル参照・施設内の設備点検
防火管理者	災害対策・避難訓練防災計画・自主点検
食品衛生責任者	衛生点検・給食提供マニュアル参照・提供食材の衛生管理
畑係	年間計画に基づく畑管理
生き物係	ヤギの管理・環境整備

〈6〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	地域との交流を図り、郡山どろんこ保育園の保育の理解を深める
クリスマスマルシェ	地域との交流を図り、郡山どろんこ保育園の保育の理解を深める

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりを愛情豊かに受容して生理的欲求を満たし、安心して過ごせるようにする。 自分でしようとする気持ちを尊重し、温かく見守りながら応答的な関わりを大切にする。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人に親しみを持って接し、自分の感情を表現して受け止めてもらう経験を通して、言葉の習得を促す。 身近な環境に興味や好奇心を持って関わり、感性を豊かにする。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと関わりながら集団的な遊びや協同的な活動が楽しめる場を作り、協調性や自主性を育てていく。 友だちとの関わりの中で、心を動かされるような体験を通し、思いを伝え合うことの喜びを味わう。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 様々な体験を通し、試行錯誤しながらも諦めずに取り組み、達成感を味わう。 友だちと共通の目的を見出し、工夫したり、協力したりすることの大切さを経験する。

保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・ 2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

- ・ 自然の風を感じ、縁側で気持ちよく食べることを大事にし、家庭的なあたたかい雰囲気の中で、友だちや身近な大人と一緒に楽しく食べられるようにする。
- ・ 「くう」「ねる」「あそぶ」のサイクルの中で、食への意欲が育つよう家庭と連携を取っていく。
- ・ 命をいただく体験を通して、感謝の気持ちを育む。
- ・ 畑仕事を通しての野菜作りの喜びを味わい、加工体験することで興味を持ち続ける。

1	計画・ねらい	調べられた空間で心地よく食べられるよう連携する。
	実践予定内容	調理を担当する者は、子どもが「美味しそう」と思えるようなきれいな盛り付けを心掛ける。 職員が、食べ物への興味を誘う言葉を意識することで、子どもの食への関心を育てていく。
2	計画・ねらい	体をたくさん動かして、お腹が空いて食に向かうリズムを大切にする。
	実践予定内容	園では午前活動で体をたくさん動かすことを意識し、「あそぶ」「たべる」「ねる」のリズムを整える。 園での様子を家庭と共有し「あそぶ」「たべる」「ねる」のサイクルの大切さを伝えていく。
3	計画・ねらい	食べ物の大切さ、命をいただいているということはどんなことかを子どもと一緒に考える。
	実践予定内容	畑で野菜を育て、収穫したものをいただく体験を大切に、食べ物への興味を高める。 魚を解体するなどの体験を通して、自分たちが命あるものをいただいて生きていること、生き物の命の循環について考える機会を設ける。 「いただきます」「ごちそうさま」の言葉の意味を伝え、感謝の気持ちを育む。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導・手洗い指導
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 12月頃・・・インフルエンザ 2月頃・・・ウイルス性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在10名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については2024月3日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	AED設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日

	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

安全で活動しやすい環境を整え、その中で一人ひとりが安心して過ごし、探索活動ができる場を大切にする。子どもが安心して遊び込める場・空間・時間を保障し、子ども主体での活動を大事にしていく。子どもの興味・関心を探り、「やってみたい」と感じて活動を選択できるような環境を構築していく。

子ども自身が取り出しやすい、片付けやすいように保育室の整理整頓を心掛け、清掃・消毒・換気を丁寧に行うことで、安全に過ごせるようにする。

1	計画・ねらい	子どもの興味・関心を探り、スタッフ同士で連携を取りながら子どもの活動を把握する。
	実践予定内容	学年で区切ることなく、大きな家の一人として子どもの主体性を大事にし、マインドマップなどで子どもの興味・関心を探っていく。その中で必要な環境をチームで考え、試行錯誤しながら連携していく。
2	計画・ねらい	環境構成では集団での空間、個の空間を大事にしながら構成していく。
	実践予定内容	遊びに応じて安心して遊び込めるような場を確保し、個の空間を確保することで、一人ひとりの活動を大事にする。
3	計画・ねらい	整えられた空間で過ごし、子どもたちにも整える習慣が身につく安心して過ごす。
	実践予定内容	スタッフ一人ひとりが整理整頓を心掛けることで、子どもたち自身が物を大事にする気持ちを育む。取り出しやすさ、片付けやすさを考える。清潔な場で過ごす心地よさを感じ、安心して過ごす。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	パーテーション	幼児フロア	月に1回
2	木製スロープ	乳児室前の縁側	使用前に都度
3	木製トンネル	乳児室	使用前に都度
4	木製テーブル	幼児室・玄関	月に1回
5	焚火ベンチ	園庭	月に1回
6	竹馬台	園庭	月に1回
7	泥場の枠組	園庭	使用前に都度
8	L字サークル	幼児室	使用前に都度
9	ドレッサー	幼児室	使用前に都度
10	名札台	玄関	月に1回

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	消防計画に基づき避難訓練を月1回実施。震度5以上の際は園が情報を発信し、安否、施設状況、避難先を情報共有する体制をとる。また、帰宅困難者対策を踏まえ、災害に備える。マニュアルの徹底。
2	実践予定内容	事故防止チェックリスト年4回、設備点検年4回を行い、事故防止の徹底を図る。またマニュアルにある園外保育、遊具等の保育士行動指針の徹底を図る。
3	実践予定内容	インシデント、ヒヤリハット報告の分析をする。 スタッフ間で状況を共有し、日々の保育の中で事故防止策を探る。
4	実践予定内容	年2回防犯チェックリストに従い確認し、併せて不審者侵入訓練を実施する。 また訓練は避難訓練確保、不審者撃退、通報の訓練でスタッフ全員を対象とする。

6. 実習生・中高生の受入

- ・地域の中学校・高校の職場体験を受け入れ、地域に貢献していく。子どもとの触れ合いから様々なことを感じてもらえるようにする。
- ・実習生を積極的に受け入れ、次世代の人材育成に力を入れていく。実習生が保育の仕事にやりがいを見出し、希望が持てるよう丁寧に対応しながら取り組めるようにしていく。

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (= 保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

〈1〉今年度方針・テーマ

実習生を積極的に受け入れ、郡山どろんこ保育園の実習経験者からどろんこ会の保育に興味を持ち、入社希望者を増やしていく。

1	実践予定内容	オリエンテーションでは緊張をほぐしながら、実習の見通しが持てるようなスケジュールなども明確にしていく。
2	実践予定内容	実習生と日々の丁寧な振り返りをする。その中で、実習生の気づきなどを認め、自信に繋げていく。
3	実践予定内容	コミュニケーションを取りながら、どろんこ会の保育へ興味を持ち、保育の楽しさが伝わるように関わっていく。
4	実践予定内容	子どもの姿から保育の楽しさが伝わるようなコミュニケーションの時間を設ける。

7. スタッフ育成と研修計画

保育に携わるスタッフは必要な知識や保育力を身につけ、質を高めていく必要がある。人権に配慮した保育を行うためには、その倫理観や人間性も大事である。日々の保育の振り返りを習慣化し、今後の保育に必要な環境を考えたり、計画を立てたり環境を整えていく意識が求められる。

専門性を高めるためのキャリアアップ研修、外部研修、園長大学[®]・保育士大学講座に積極的に参加し、個々の学びを園内研修に繋げていくことで保育の質向上を図る。研修で学んだことを共有することで、自らの学びを確実なものにし、仲間と学び合う環境を作っていく。

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保護者、3分間対応 ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 保護者対応で大事なこと、3分間対応でのポイント

5月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 非認知能力について ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 非認知能力を育むためのかかわり
6月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びの安全管理 ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 水遊びの危機管理の共通理解
7月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの主体性の理解 ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 子どもが主体的に活動するとはどんな姿か、事例をもとに考える
8月9日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 気になる子へのかかわり ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 一人ひとりの発達を捉えてのかかわり。小学校連携を考える
9月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿の捉え方 ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 子どもたちの遊びの動画を視聴しながら10の姿を探っていく
10月11日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 小学校接続を考える ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 園長大学®・保育士大学の講座を視聴し、接続について学ぶ
11月8日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② Trial&Errorの考え方 ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り Trial&Errorに必要なかかわり方
12月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 感染症対策 ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 感染症の理解と対応の共有
1月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度の振り返り ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 個人と学年、フロアでの振り返り 次年度に活かす
2月14日	18:00~21:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議1回目 ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 次年度活動内容について
3月2日	9:00~18:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議2回目 ③ リスクマネジメント研修	コンピテンシーの振り返り 次年度の活動内容決定

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

2~3月実施の「外部研修受講アンケート」に基づき、施設長および運営部が推薦する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に開かれた温かさが感じられる保育園であるために、子育て支援を行い子どもの健やかな成長を保障できるように取り組む。

地域の方が自由に園を利用していただきながら園運営の理解を深め、地域の方の見守っていただける保育園となる。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：開成山公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人施設訪問（イルヴィラージュ）
異年齢交流	青空保育・保育参加・体験活動参加・小学校交流
地域拠点活動	保育体験・観劇・音楽鑑賞

9. 小学校との連携の計画

就学を見据え、必要な経験や身につけておきたいことを把握するために、小学校見学や教職員の交流を計画的に実施する。「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を理解し、「5歳児と1年生の年間連携計画」に沿った保育を逆算しながら展開していく。昨年度に引き続き、幼保小連携推進事業へ積極的に参加し、他園や小学校との情報交換をすることで、就学を見据えて必要なことを考えていく。小学校へのスムーズな接続を実現するために、保育所保育要録の送付、児童情報の申し送りや面談を実施する。

今年度方針・テーマ

近隣小学校の情報を収集し、行事などへの参加または見学可能な活動へ積極的に働きかけていく。

〈3〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	開成小学校	30名予定	運動会練習の見学	子ども間交流
6月頃	にこにこ子ども館	2名予定	幼保小連携推進事業	職員間交流
6月頃	大成小学校	15名予定	授業参観	子ども間交流
9月頃	開成小学校	15名予定	授業参観	子ども・職員間交流
10月頃	にこにこ子ども館	2名予定	幼保小連携推進事業	職員間交流
11月頃	就学予定小学校		情報伝達	職員間交流
2月頃	開成小学校	15名予定	小学校見学	子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

要支援児がいる場合は、一人ひとりの様子に合わせて年間・半期ごとに計画を作成する。関わっていく中でケース会議を行い、見直しをしながら丁寧な支援を考えていく。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：8名予定)

要支援児の過ごす保育室によって、担任だけではなくチームとして話し合い、関わりを検討していく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

今までの支援計画に基づく関わり、ケース会議の資料を使いながら丁寧な引継ぎを行う。

小学校へは保育所保育児童要録の申し送りの他に細やかな面談を実施し、丁寧な引継ぎを行う。

1.1. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00~12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(木) 10:00~12:00
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:開成山公園にて開催

1.2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年8月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 10時00分

自己評価終了予定時刻: 11時30分

自己評価実施予定者: 施設長、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日: 8月25日

1.3. 3カ年計画の具体化

子どもの興味・関心・発達に合わせた環境を整え、一人ひとりが楽しんで取り組めるように配慮し、子どもたちの意欲を高めていく。保育の中でのTrial&Errorを繰り返すことで、子どもの非認知能力を高め、未来を生き抜く力を育む。大人が伝えていかなければ身につかないことを理解し、大人自身が楽しみながら取り組む姿を見せていく。昔ながらの文化を受け継ぎながらも、そこから新たな文化を創っていける子どもたちを育てていく。

昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	季節ごとや子どもの発達によって、子どもに経験してほしいことを明確にし、スタッフ間で思いを出し合うことで実践に繋げていく。 そこでの気づきや学びを振り返り、次の活動へ活かしていくPDCAサイクルを意識する。
	振り返り	子どもの発達や季節によって経験してほしい活動を考え、職員一人ひとりが提案し合う姿があった。活動によって一人ひとりの育ちや心の動きを捉え、スタッフ間で情報を共有しており、次への活動へ活かしていた。 保育環境も常に見直しを考え、子どもの興味を探るためにマインドマップを活用しながら構成し、PDCAサイクルを繰り返し取り組んでいた。 子ども一人ひとりの育ちの願いを持って丁寧に関わり、スタッフ間での情報共有が常にされている。

〈4〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	子どもの主体性を育むためのかわりやそのために必要な環境を自分たちで考え、子どもの興味に合わせた環境の再構築が繰り返していく。 目の前の子どもたちに必要なことを常に話し合い、学んだことを活かし共有することで、専門性の高い集団になっていく。
	重点施策	子どもの興味関心をウェブマップなど使いながら探り、年齢や発達に合わせた環境を常に考え、フロア全体で子どもに必要な環境を試行錯誤しながら構築していく。 専門性を高めるために何が必要かを意識し、自身での学びに繋げていく。その学びを園内で共有していくことで、園全体の向上に繋げ、学びへの意欲を高めていく。
2025年度	目指す姿	目の前の子どもの姿から必要なことにすぐに対応し、子どもの願いを読み取れる眼を確かなものにしていく。 PDCAサイクルの意識が定着し、保育の提案をし合っている。
	重点施策	昨年と同じで良いという考えではなく、目の前の子どもたちに必要なことや思いに気づく眼を養うために、スタッフ間で気づきを共有して提案し続ける。 子どもの学びの姿を捉え、大人も共に学び続け、PDCAサイクルの意識で保育を見直して対応する。
2026年度	目指す姿	子どもの主体性を育むために必要な環境を一人ひとりが考え、興味や発達に合わせた環境の再構築が繰り返していく。 子どもたちのTrial&Errorの姿を大事にし、自立心を育てている。
	重点施策	子どもが自ら活動を選択し、主体的に動き出せるような環境を探り、ウェブマップなど使いながらチームで考えていく。子どもの発達段階と安全性から判断して必要最低限の援助で留める。「やってみたい」「できた」の経験を重ねることで自立心を育む。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：郡山どろんこ保育園 施設長 佐藤 陽子

2024年度 学園の森どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

「住んでみたい 住み続けたいまち つくば ～人と自然と科学が育む スマート・ガーデンシティ～」をスローガンに掲げ、スーパーシティ特区となったつくば市。TX沿線、研究施設も多いこともあり多国籍層や若年層の子育て世帯の増加に伴い、保育園の位置付けはより重要な地域であると捉える。

先進的かつ自然豊かなつくば市に求められるニーズ、法人の運営本部Missionを踏まえ以下のスローガン、園目標及び4点を中心に置いて運営を推進していく。

スローガン「あなたはどうか」 大人も主体性～考え、学び、動く、自立した集団

園目標「地域全体での大家族を目指す」

① 共主体で育ち合う

子どもたちのやりたい気持ちと保育士の育てたいと願う力が共存し、互いに学び合い共に成長し合えるようにしていく。

まずは共に主体性を育むために開かれた環境作り、自己肯定感を高めるために肯定的なフィードバックを推進していく。また、自己選択の機会を与えその中での問題解決の場で責任感や自己効力感を育てていく。

② 生活力の体得

子どもたちが自ら考え自らの足で歩むために昨年度からの継続でサークル活動を行い、自分の言葉で思いを伝え相手の声に耳を傾け、問題解決の過程で葛藤し折り合いをつける力を身に付けていく。様々な体験活動の中で、自分の得意不得意を知り危険なものとの距離の取り方を学ぶ機会を設ける。

③ 命をいただく 「いただきます」の意味を知る

日課として行っている畑仕事・生き物の世話を通して労働の大変さを経験し、収穫した作物を加工する。鶏を絞めて食す。生きていく命をいただく意味と感謝の気持ちを持つ。

④ 自立運営

自園の中でシフト管理（休憩や事務）、職員の能力に合わせた職員配置と役割分担を行っていく。リーダー層の育成を園内研修の中に織り込んでいく事で職員同士が共に学び合う風土作りを行う。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもたちが安心して居心地良く過ごせる環境の中で、子どもとのやり取りを丁寧に行う
	実践予定内容	・整理整頓、いつみても気持ちが良い空間作り ・正しい言葉使い、丁寧な対応
2	計画・ねらい	主体的に集中して遊びに取り組める保育の中で、自己選択を促しつつ、温かく応答的に関わっていく
	実践予定内容	・子どもの姿を捉えた保育計画の構築 ・環境のローリングアップ ・自分の言葉で気持ちを伝える
3	計画・ねらい	職員一人ひとりが目的と意識を持ち、計画を実行・実践する

	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育の振り返りを語り合う ・保育計画検討委員会の継続
--	--------	-------------------------------------------------------------------------------------------

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	掃除が行き届き整理整頓された気持ちの良い園の環境を常に維持する
	実践予定内容	・マンスリーコンシェルジュ制度の継続
2	計画・ねらい	ポートフォリオやドキュメンテーションなど園内での様子や成長が伝わる情報の発信
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメンテーション等の研修を深め、感動を与えられる発信を目指す ・保護者に向けて定期的な発表
3	計画・ねらい	保護者からの発信を見逃さず、丁寧に受け止める
	実践予定内容	・3分間対応の内容を深め、子育ての楽しさや成長を共に喜び合い、支援につなげていく

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域すべての子育て家庭を対象とし、ちきんえっぐを拠点とした憩いの場を提供する
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て情報交換 ・楽しみにできる計画・企画 ・園活動への巻き込み
2	計画・ねらい	地域参加の園行事を計画し、地域との交流を深める
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・どろんこ祭りや地区の祭り、ごみ拾いなどを計画し公共施設にポスターを掲示していく ・ごみ拾いは地域の方と行えるように共に計画を立てていく
3	計画・ねらい	ちきんえっぐ、青空保育の充実
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ちきんえっぐで行っている企画などを青空保育の際に紹介できるように、まずは青空保育の参加者の増加を図る ・子育て世帯の方が家庭では経験することが難しいパネルシアターや大型紙芝居、集団遊びなどを展開していく

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園職員がそれぞれの専門力を高めるとともにチームとしての力を高めていく
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・個人目標の設定 ・協力すれば達成できるチーム作り
2	計画・ねらい	若手と中堅をペアリングし、共に学び合い協力して学ぶ研修制度を確立していく
	実践予定内容	・毎月1回の園会議内にて学びの研修会を行う。学び合う中で自ら調べた

		り、情報を共有し発表したりすることで、知識を増やし自信を持って保育に向き合えるようにする
3	計画・ねらい	自分の考えを自分の言葉で発していき、園作りに率先して参加する
	実践予定内容	・大人のサークル活動を会議内で実施し、小さな集まりの中で経験差や年齢差に囚われず、発言できる場を作る。風通しの良い園作り ・失敗を恐れずに、まずは子どもたちが楽しいと思う、自分がやってみたいことをやってみる風土作り。保育者のTrial&Error体験

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環・環境への意識を育む
	実践予定内容	・畑仕事で世話・収穫をしたものの加工 ・調理くずの有効活用 ・生き物の糞・資材等を堆肥化し循環
2	計画・ねらい	木育を通じて環境保護・保全のための活動を実施する
	実践予定内容	・散歩コースや公園にある木や花に興味を持てるよう、子どもも職員も一緒になって、マップの作製を行う ・木の種類によって香りや触感の違いがあることにも気付けるようにしていく

〈6〉子どもも大人も心が躍る本物の体験（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	日々のサークル活動を充実させ、自分のやりたいことを自分の言葉で発信できる環境作りの継続
	実践予定内容	・サークルの内容の確認と意義の周知を職員間で行う ・子どもたちが何に興味を持っているのか、子どもの視点を考える目を養う
2	計画・ねらい	子どもの年齢とその時々の育ちに必要活動を保育者も一緒に楽しむ
	実践予定内容	・園長大学®・保育士大学「遊びの解体新書」の受講 ・子どもたちが興味を持つ遊びを学び、保育者も自信を持って保育を楽しむ

〈7〉職員間の協力体制の確立（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	風通しの良い人間関係作りを心掛け、明るい園を目指す
	実践予定内容	・「ありがとう」感謝の気持ちを伝える ・「私がやります」自ら進んで取り組む姿勢をもつ ・園全体の協力の輪をつなげていく
2	計画・ねらい	チームの力、信頼関係を築くためのアクティビティの実施
	実践予定内容	・園内研修時に簡単なゲームを行い、人とのかわり方を考える

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
15人	15人	15人	15人	15人	15人	90人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	17人	看護師	1人	栄養士	3人	調理員等	人
パート スタッフ	保育士	1人	補助	1人	調理	人	事務	1人
	用務	1人					嘱託医 歯科医	2人

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園として取り組むべき課題への研修 研修報告 子どもの姿の共有
給食運営会議	月1回	食育計画の振り返り 給食内容と残渣状況
事故防止委員会	月1回	事故報告書の分析 再発防止 ヒヤリハット インシデントの報告
ケース会議	月1回	要支援児の育ちの共有
リーダー会議	週1回	施設長、主任、リーダーによる運営に関わる共有検討

乳児・幼児会議 クラス会議	週1回	乳児クラス、幼児クラスの保育の計画と振り返り 課題の 検討
------------------	-----	----------------------------------

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人による伝達事項、運営状況の報告、検討事項
施設長勉強会	月1回	園運営検討 各種マニュアルの改訂
食育会議	年4回	給食提供および食育に係る検討 各種マニュアルの改訂
保健会議	年4回	児童保健に係る検討 各種マニュアルの改訂
主任ミドル会議	月1回	園運営の核となるスキル向上 役割と運営への理解
子育ての質を上げる会議	月1回	次世代育成と現場の質の向上のためのテーマ別研修

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	児童保健衛生に係る身体測定・定期健康診断・歯科検診の実施と保護者との連携、施設の清掃と衛生管理、衛生管理に係る消耗品および備品の管理、感染症予防対策の管理点検
安全対策係	避難訓練及び消火訓練・防災自主点検の実施管理、消防署との連携窓口業務、救命講習計画と実施、施設内外の設備点検および事故防止点検の実施
防火管理者	施設の火元の管理、消防計画の作成と届出、防火・消火についての毎月1回の職員訓練と日常的な啓蒙を行う
食品衛生責任者	給食食材および提供食材の衛生管理と在庫状況の管理
畑係	畑状況の管理、道具類の維持補充、乳幼児や職員の畑活動の把握や課題検討におけるイニシアチブをとる
生き物係	飼育動物の健康管理、動物小屋の維持管理、乳幼児や職員の生き物飼育活動の把握や課題検討におけるイニシアチブをとる
写真係	園児の写真管理、販売用写真の選定、確認販売用および保存用写真の保護管理・選定
環境整備・備品係	園内外の環境整備状況の管理・ゾーン保育のための環境構成、備品の点検と補充

地域 厚生係	地域住民や団体などへの対外的な窓口業務管理 職員厚生に係る業務
--------	---------------------------------

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者と協働的に準備・進行を行う
運動会係	保護者と協働的に準備・進行を行う
生活発表会係	保護者と協働的に準備・進行を行う

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境の中で落ち着いた雰囲気、丁寧な関りを心掛け情緒の安定を図る ・一人ひとりを受容し、生理的欲求を満たし愛着関係を築いていく ・異年齢保育で過ごす中で、子ども同士で育ちあう環境に配慮する
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・応答的な関りの中で安心して探索活動をし、様々な経験を通して感性を豊かにする ・自分でやろうとする気持ちを大切に、最後まで頑張る姿を見守り達成感を共有する ・子ども一人ひとりの発達を理解し、必要な環境を整えることで歩行の確立に繋げていく
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して遊びこめる環境を確保し、日々登園に期待感を持って生活できるように配慮する。機会を排除しない保育を心掛ける ・畑や生き物の世話をすることで、自ら考え世話をすることの大変さや生長に喜びを感じたり命の尊さを知る
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとの関りの中で様々な経験をし、達成感を感じ自信を持って生活する ・異年齢ならではの子ども同士の関りを見守り、小さな子への寄り添いの気持ちや大きくなることの憧れを育む ・様々な体験の中で試行錯誤しながら成功体験や失敗体験をしながらも最後までやり切る
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用

意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用
-----------	----	---------------------------------------------

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	共に食べる楽しさ・心地よさを味わえる食事の場作りを大切にする
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢で一緒に食事をする ・空腹感を感じて意欲的に食べる ・保育者を含めての園側給食での共食を基本とし、楽しみを共に感じる
2	計画・ねらい	自ら栽培、体験したものを食するという循環から、環境、命の大切さに気付く
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・畑活動、堆肥作りを全スタッフと子どもが共に行う ・行事食、伝統食作り・加工品作りを体験する ・食と命のつながりの体験や知識を知る機会を提供する
3	計画・ねらい	さまざまな素材を楽しみながら、自分で意欲的に食べることを大切にする
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・手掴み食べを推奨 ・素材を味わえる状態で提供する ・食べる機能の発達を捉えた援助を行う

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）および入園前
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導・手洗い指導
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 11月頃～4月頃・・・インフルエンザ 12月頃～3月頃・・・胃腸炎

発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・2名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 ナウゼリン・・・1名より預かり済み／常温にて保管 アレロック・・・1名より預かり済み／常温にて保管 オロパタジン1名より預かり済み／常温にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在23名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については3月21日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 職員への周辺のAED設置場所や操作の周知、5歳児対象に性教育指導

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検(定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検(簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年2回／6・11月

運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもが快適に過ごせるように環境を整える
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓と日々の清掃、換気や消毒を丁寧に行い、心地よさを味わえるようにする。 ・子どもの動線を考え、ゾーンを配置して身の回りのことがやりやすい環境を整えていく。
2	計画・ねらい	子どもが主体的に育つ環境を作る
	実践予定内容	安心して過ごせるゾーンや子どもたちがやりたいことが詰まった各ゾーンを充実させ、年齢に囚われることなくやりたいゾーンの往来ができるよう見守る。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	ひな壇	幼児室	毎日
2	配膳台	幼児室	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	危機管理マニュアルに則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛防災…危機管理マニュアルに則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う。
2	実践予定内容	危機管理マニュアルに則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従う。
3	実践予定内容	危機管理マニュアルに則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャ

		ートに従う。
4	実践予定内容	危機管理マニュアルに則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する。

6. 実習生・中高生の受入

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修  <p>←避難訓練研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習

〈1〉今年度方針・テーマ

- ・近隣地域の中高生の職場体験やボランティアの受け入れを積極的に行い、子どもたちと関わる仕事を身近に感じてもらえるようにする。
- ・実習生が教室ではなく現場でしか学べない経験をたくさんできるように、また保育の楽しさが味わえるように丁寧に対応を行い、人材育成に繋げていく。

1	実践予定内容	小中学生、高校生のボランティアや職場体験の受け入れをしていく。
2	実践予定内容	実習生のオリエンテーションの際は、不安の内容に丁寧に行う。
3	実践予定内容	実習中の振り返りは日々行っていき、実習担当保育者が指導を行う。

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック ③ 日課の意義 ④ グループワーク 散歩	<ul style="list-style-type: none"> ・自己採点 ・子どもの人権、権利条約について考える ・ハザードマップの見直し、リスクとハザードの洗い出しをグループ討議

			<ul style="list-style-type: none"> ・どろんこ会が考える日課の捉え方 マニュアルの見直し
5月14日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 保育所保育指針・10の姿 ③ グループワーク 保育環境 ゾーン保育 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己採点 ・職員の学びのアウトプット 10の姿で場面を読み取る ・大人のミニサークル 保育環境・ゾーンの環境、提案
6月11日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 衛生管理 アレルギー対応 ③ リスクとハザード 水辺のリスク ④ グループワーク 生活力の体得 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己採点 ・エピペンの使用方法とアレルギーの対応 マニュアルを用いての嘔吐処理、おむつ替えの確認 ・学びのアウトプット 園内のリスクとハザードの見直しと水辺のハザード ・大人のミニサークル 生活力体得のために必要な経験とは
7月9日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 乳児保育 ③ グループワーク 保護者対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己採点 ・学びのアウトプット 養護とは？乳児保育で大切にしたいこと ・大人のミニサークル 園長大学[®]・保育士大学講座視聴後に昨年度の利用者アンケートを元に討議
8月13日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② さくらさくらんぼリズム ③ グループワーク 大人の主体性とは 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己採点 ・学びのアウトプット さくらんぼリズムの基本と応用 ・大人のミニサークル 保育者のにんげん力とは？ 自ら考え、動き、楽しむ保育
9月10日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 全体研修視聴 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己採点 ・全体研修視聴
10月8日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック ③ 幼児保育 ④ グループワーク 共主体の保育 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己採点 ・子どもの人権・権利条約について考える ・学びのアウトプット 幼児の育みたい力とは？ ・大人のミニサークル 子どもが中心の共主体とは？

11月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 小学校への接続 ③ グループワーク 命をいただく	・自己採点 ・学びのアウトプット 園長大学®・保育士大学講座視聴後、架け橋プログラムの理解を深める ・大人のミニサークル 園長大学®・保育士大学講座視聴後、自園での取り組みを具体的に考え見直す
12月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保健衛生 ③ 選ばれる園になるために	・自己採点 ・冬の感染症の理解と対応 ・学びのアウトプット 大人のミニサークル 利用者アンケートから見る自園の強みと弱み
1月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 非認知能力・Trial&Error ③ グループワーク 選ばれる園になるために	・自己採点 ・学びのアウトプット レジリエンスとは？Trial&Error 必要な環境、体験とは？ ・大人のミニサークル 自律した集団になるために
2月16日	18:00~20:00	① 今年度の振り返り ② 次年度に向けて	策定会議1
3月2日	9:00~18:00	① 次年度に向けて	策定会議2

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											

大学講座および社内限定公開講座	
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
デンマークインターンシップ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

保育課程における園目標の「人との関わりの中で健やかに育つ」にある通り、積極的に園外に出かける。その中で地域の方々との連携を図り、保育園の活動を地域に広めることを目指す。

地域のイベントに参加したり、地域の方が保育園を自由に訪れたりするなど保育園全体でのコミュニケーションを図っていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：BLANDE広場にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	乳幼児の様子に合わせ、高齢者福祉施設や近隣住民、子育て支援センター来所利用親子との交流を計画し、日常の保育活動の中で積極的に交流を行う。 小中高生の職場体験や幅広い年齢層のボランティア受け入れを随時行う。
異年齢交流	主に3～5歳児は日常的に異年齢保育を行い、生活の中での関わり合いが深められるよう工夫する。 0～2歳児は子どもの様子に応じて異年齢で過ごせる機会を設け、幼児や様々な人との関わりが充実するよう配慮する。 学園の森義務教育小学校訪問（近隣小学校）他園交流 異年齢保育
地域拠点活動	園児保護者の保育参加の随時受け入れ、保護者との協同によるどろんこ祭りの開催を行う。

	ちきんえっぐにて園庭開放や給食体験など地域の方に利用していただくイベントを実施する。 また、子育て相談の対応や子育てサークルの支援を行う。
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

以下計画について、小学校と相談・協議を行い進めていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
4月頃	学園の森義務教育学校・ 研究学園小学校	2名予定	幼保小連携年間計画	職員間交流
4月頃	研究学園小学校 1年生	2名予定	授業参観	職員間交流
6月頃	学園の森義務教育学校	2名予定	運動会招待見学	子ども間交流
12月頃	研究学園小学校	2名予定	授業参観	子ども間交流
12月頃	つくば市	1名予定	幼児教育と小学校の 連携・接続のための 研修会（zoom参 加）	職員間交流
3月頃	学園の森義務教育学校	2名予定	学級編成資料・自動 要録提出、引き継ぎ 面談	職員間交流
年間	学園の森義務教育学校		毎月の学校通信掲示	職員間交流 保護者支援

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

・個別支援計画を作成し、日常的な保護者対応の中で相互理解を図り、子どもの発達状況について職員間で情報共有する。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：園会議参加者)

- ・医療機関や専門機関による療育方針・方法を知る。
- ・担当者会議も必要に応じて行い、全体周知していく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

看護師や担当保育者へ丁寧な引継ぎを行う。小学校へは必要な場合保護者の同意を得て、教育委員会への相談を行い、安心して通える状況を構築する。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(火) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：BLANDE広場にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年2月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：9時00分

自己評価終了予定時刻：12時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任、当日出勤の職員

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1.3.3 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者の課題、園の課題を自ら見つけ出す ・ 課題達成のための取り組みを考える ・ 自園の強みを発揮できる保育計画 ・ チームの力で子どもを育む 2023
	振り返り	<p>保育者の課題に合わせてテーマを探し、園長大学®保育士大学、様々な学びを継続していく。</p> <p>全職員で「ゾーン保育」「自己決定」「火水土」「造形表現」の4つのチームに分かれてテーマの探求をしていく。園内研修で話し合い発表を重ね、成果をまとめた物を掲示し保護者や見学者にも広く知ってもらえるようにする。</p> <p>ひとつひとつのテーマがつながりお互いに協働して保育への興味関心を深めていく。</p> <p>保育を楽しみ自分で考え、行動できる子どもたち、職員となるために努めていく。</p>

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<p>子どもたちが自主的に学び、主体的に行動できるような環境をチーム全体で構築していく。</p> <p>自分のやりたいことを見つけ実現する過程で主体的・対話的な学びを実現する。</p>
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自園の弱みと強み、個々の弱みと強みを学びの中で抽出する。 ・ 保育者一人一人が自信を持って子どもと向き合い、楽しめる保育園を目指す。 ・ チームの力で子どもを育む ・ 園内研修で発表の機会を設け、全体で学び合う
2025年度	目指す姿	<p>保育に携わる専門家として、子どもたちが自分自身や他者との関りの中で主体的に行動できる環境を整える集団を目指す。</p> <p>リーダー層の自立</p>
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題提起を現場から行えるよう、リーダー会議、乳幼児会議ではリーダー層がファシリテートしていく。また各会議では状況に応じてリフレ

		クシヨソやウェブマップなどを適宜活用し、「見える」化して共有 ・サークル活動の経験を重ねていき、子どもたちが安心して自分の気持ちが出せる環境を回していく。
2026年度	目指す姿	地域全体で一体感を持ち、地域全体での共育ちを目指す ちきんえっぐ来園者前年度比3倍
	重点施策	・垣根のない社会作り、自園の保育が地域から求められ認められるような子育て支援を実施する。 ・ちきんえっぐの活動のPRを習慣化し、近隣にどろんこ会の保育への理解と好感を図る。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：学園の森どろんこ保育園 施設長 植杉 麻実

2024年度 中里どろんこ保育園 事業計画書

Ⅰ. 基本方針

- 保育理念：「にんげん力。育てます。」
- 保育方針：「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」
- 中里どろんこ保育園 園目標：
「子ども どまんなか ゆとり保育」

どろんこ会グループの法人理念に則り、子どもを中心にスタッフ、保護者、地域が参画し協同的に共に育ち地域に根付いていく。清瀬市の自然に恵まれた環境を活かし、「にんげん力」に必要な遊びや野外体験を通じ、成功体験や失敗体験を経験する。そのなかで、他者との気持ちのぶつかり合いや折り合いをつけ、試行錯誤する体験を積み重ねていく。やってみたいことの実現や思い通りにならないことを経験し、目の前に壁が立ちだしたときに自分で考え判断し、行動して切り抜けていく力を身につける。また、次世代に向け質の高いコミュニケーション力が必要となる。自分を知って、相手を理解し、ぶつかり合い、頼り合いながら人との繋がりを深めていく。保育者も主体的となることで、自ら考え、学び、見通しをもった実践をすることで自律した集団を目指す。多様性のある現代社会において、突然の事象にも柔軟に対応できる能力、すなわち「生き抜く力」を培っていく。

〈Ⅰ〉保育内容の充実・質の向上

全スタッフが日課の必要性を理解し、子どもたちに取り組んでいる背中を見せていく。
ゾーン保育・指示をしない保育・継続性のある保育を意識し実践する。
子どもも大人も主体的に生活することで、非認知能力を育み「にんげん力」を向上していく。

1	計画・ねらい	生活力の体得
	実践予定内容	日々の日課に加え、遊びの充実・道具の扱い方・歌・火との距離のとりかたを、保育者が実際に行動して背中を見せていく。 また、人と関わることで交渉する力や感情制御力を身につけていく。
2	計画・ねらい	10の姿の体得（異年齢・インクルーシブ保育）
	実践予定内容	保育所保育指針にて育むよう定められた10項目の資質・能力を、保育者が意識し、計画的に学びを深めていく。 年長児がリーダーとなり、子どもたちで話し合い、保育者は導きを支援していく。
3	計画・ねらい	見守る・継続する保育の実践
	実践予定内容	指示をするのではなく、子ども自身が考え判断し、行動する機会を保障できるように見守る保育を実践していく 「今日の遊びが明日もできる」というような期待をもって、子どもが登園できるように保育計画をたてていく 振り返りを重ねることで、次の保育計画につなげていく 結果、子どもたちの情緒が安定し、健康な心と体が保障されていく

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

思いやり・誠実さ・謙虚さ・感謝を基盤とし、信頼関係を深めていく。

保育園に安心して通っていただくためにも、疑問や不安を汲みとり、すばやく解決へ導いていく。自園が目指す保育・子どもの成長発達を理解していただけるよう、保育の可視化を図る。ポートフォリオ・ドキュメンテーションをもとに、お迎えが重なる時にもお待たせした気持ちにならないよう工夫する。お迎え時の対応・個人面談・保育参加を通じ、子どもの成長を共有し見守ることで保育者も保護者も共に育ちあう。

1	計画・ねらい	保護者様の心に入り込んだ接遇
	実践予定内容	受け入れ・お迎え伝達時のコミュニケーションを豊かにとり、子どもたちの様子が手にとるように伝わる伝達を心がける。 スタッフ誰もが対応に気遣いとおもてなしの気持ちをもって接する。 接遇・伝達対応について園内研修を実施（5月・8月）。 ファシリテート研修を実施し、会話を導くことで保護者様の求めている事柄を手渡していけるようにしていく。
2	計画・ねらい	利用者様に選ばれる施設となる。
	実践予定内容	保育園見学対応を主任・リーダー層も柔軟に対応し、保育園の良さを最大限にお伝えできるようにしていく。 前年度よりも入園第一希望者数の増加を目指す。 保育の可視化を図り、保育園での様子を透明化する。
3	計画・ねらい	いつ見ても気持ちが良い施設となる
	実践予定内容	日常的な清掃に力を入れ、常に一定の清潔を保つ 不要なものが明確になってきたため、計画的に断捨離を実施する

〈3〉 地域の子育て支援事業

毎月一度の青空保育の内容を深め、地域の方々にも参加していただくことで子育てのネットワークを広げる。ちきんえっぐ（自然食堂・自然学校・芸術学校・寺親屋）への参加率を向上させ、地域に開かれた保育施設を目指す。清瀬市の子育て拠点となるよう、積極的に見学や子育て相談を受け入れ、地域の子育て世帯が集いやすい保育園となる。

1	計画・ねらい	地域に開かれた施設の確立を目指す
	実践予定内容	地域の子育て世帯を対象に、子育て相談や保育講座などを開催することで、子育ての負担を軽減できる場所となる。 また、保護者様・地域へ向けて、ブログ等を活用することで子どもたちや保育の様子を分かりやすくお伝えする。その際、自園の強みや特徴を活かした内容を心がける。
2	計画・ねらい	地域に根付く活動の充実
	実践予定内容	清瀬市の地域事業を活用し、市内に住まわれている近隣の方にも保育園へ足を運んでもらえる機会を積極的に設けていく。 清瀬市のボランティア団体が運営している川を守る会や自然を守る会と連携し、自然を中心とした保育活動を取り入れることで地域に根付くことを目指す。
3	計画・ねらい	ちきんえっぐ参加率の向上を図る
	実践予定内容	ちきんえっぐ（自然食堂・自然学校・芸術学校・寺親屋）や園庭開放などを対象とし、地域の子育て世帯へ呼びかけることで参加率を前年度よりも向上させていく。中里どろんこ保育園を知っていただく機会を増やしてい

		くことで、入園第一希望者数の増加も目指す。
--	--	-----------------------

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

施設長・主任・リーダースタッフをはじめ、3～4年目スタッフが中心となり園内研修を率先して行う。特に「環境」についての学びを深め、能力の向上を図る。これは、「物的環境」と「人的環境」の二点が含まれる。

また、リーダースタッフが他スタッフへ、見守りの立ち位置や子どもとの関わり方について、自身の経験をもとに指導していく。

1	計画・ねらい	多様性を認めるスタッフ集団
	実践予定内容	子どもも大人も関係なく、自身の在り方を知り、相手を理解しようとする ことで、自分自身の価値観にとらわれず自分と相手を認めていく土台を構築していく。 これを確立することにより、建設的な話し合いやコミュニケーションのもと、情緒の安定を図る（離職防止）。
2	計画・ねらい	保育の質の向上
	実践予定内容	園長大学・保育士大学からスタッフ自身が研修内容を選びとり、常に学ぶ意欲の向上を目指す。特に、環境に特化した学びを深めていく。 身近なスタッフが園内研修を行うことで、相乗効果を期待する。 また、清瀬エリア全体でも学びを深めることで、どこの園に行っても質の高い保育を継続していく。
3	計画・ねらい	基本的な接遇マナーを身につける
	実践予定内容	保護者対応のみならず、電話対応や新規来訪者に向けた基本的な接遇技術を身につける。 全スタッフが突然の来訪にも対応できるよう、自信をつけることで、心地よい対応を身につけていく。

〈5〉環境実施目標

清瀬市の豊かな自然を最大限に保育へ取り入れ、四季折々を感じられる環境を設けていく。

自然物を通して遊ぶことで、子どもたちが試行錯誤し、失敗と挑戦を繰り返しながら直接体験できることを期待する。

また、人的環境の構築にも力を入れ、心の安全基地となれるようスタッフ各々が意識する。

1	計画・ねらい	環境の充実を図る
	実践予定内容	室内外の物的環境を整理して更新し、保育者の保育技術を磨くことで人的環境の充実を図る。 定期的に環境構成を見直しする（6月・9月・12月・3月）。 園長大学・保育士大学などを利用して学びを深めることで、自分自身の保育に向き合い、実践と振り返りを繰り返すことで、人的環境を豊かにする。
2	計画・ねらい	環境設定の知識を深める
	実践予定内容	年間を通し、スタッフ5人以上が環境（物的環境・人的環境）についての研修を受講し、学びを深めて実践する。キャリアアップ研修や保育士大学・園長大学、園内研修の受講も可とする。
3	計画・ねらい	自然に特化した遊びの体験を実施

	実践予定内容	春は桜並木を眺めて歩き、夏は柳瀬川での川遊び体験をすることで楽しさやリスクを学び、秋は枯れ葉や木の実などを収集・制作・遊びへ活かし、冬は霜柱を踏みしめたり池の水が凍ったりしている変化に気付くなど、季節によって変化する環境を直接体験する
--	--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈6〉命の大切さを知る性教育（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

法人としての性教育は5歳児年長が対象であるが、中里どろんこ保育園では3歳児・4歳児から性教育を始める（任意）。体のプライベートゾーンを知ることによって自己防衛意識を高めると共に、命の大切さに触れる。個々の存在自体に価値・意義があり、人生のなかで何か大きな壁が立ちただかっても、決して命を捨てる選択をしないということを分かりやすく伝える。3歳児からの性教育では、相手に対する快と不快の触れ方、触れられ方を知ることによって友達同士との距離感も知っていく。この距離感を体得していくことが、社会に出たときの「人対人コミュニケーション」の質を上げていくことにも繋がる。

1	計画・ねらい	年齢に合わせた性教育の実施（3・4歳児）
	実践予定内容	3・4歳児に向けた性教育内容にする。 命の大切さを知ると共に、相手への触れ方・快と不快の感じ方を知り、人との距離感を知ることによってコミュニケーション能力を培う。
2	計画・ねらい	命の大切さを知り、自己肯定感を高める（5歳児）
	実践予定内容	5歳児における性教育では、法人指定の教材を基に行う。 ももちゃん人形を抱くことによって、この世に生まれた不思議さや尊さを疑似体験する。自身を愛し、存在するだけで価値があること、命を捨てる選択をしないことを伝えていく。
3	計画・ねらい	鶏を捌いて食べ、命のありがたみを知る
	実践予定内容	実際に飼育している鶏を目の前で捌いて食べるまで体験することで、「命をいただく」ことの本当の意味を知る。

〈7〉清瀬市の保育の質を底上げする

1	計画・ねらい	園内にて、自園スタッフによる研修を実施
	実践予定内容	リーダー層を中心に、個々のスタッフが、それぞれの得意分野を活かした園内研修を開催する（清瀬市内同法人4園の合同研修含む）。
2	計画・ねらい	清瀬市内同法人4園のスタッフによる合同研修の実施
	実践予定内容	清瀬市内同法人4園のスタッフ同士が交流を深め、合同で学び合う機会を設けていくことで、清瀬市の保育の質を総体的に向上させていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

6人	16人	18人	20人	20人	20人	100人
----	-----	-----	-----	-----	-----	------

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	16人	看護師	1人	栄養士	3人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	1人	事務	1人	用務	1人		

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	コンピテンシー実施、重要事項の共有 スタッフによる園内研修 危機管理等におけるロールプレイングの実施
給食運営会議	月1回	子どもの喫食状況の確認、離乳食の進捗確認 アレルギー児の進捗確認 食事マナー教室の実施内容の確認、その他必要事項の共有
事故防止委員会	月1回	自園のインシデント・ヒヤリハットを元に考察を行い、対策や起こり得るリスクを検討する
ケース会議	月1回	対象園児の情報共有、課題検討、その後の様子を振り返り
乳児・幼児会議 リーダー会議	各月2回	議案検討、保育運営確認、他会議内容の共有 (清瀬エリアでのリーダー会を1回以上実施)
清瀬エリア保健会議	年4回	各園の情報共有、課題抽出、質疑応答 保健指導の進捗確認

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
--------	----	------

施設長会議	月1回	運営本部より必要事項の共有、議案検討、意見交換 コンピテンシー実施、各課による課題内容の実施
施設長勉強会	月1回	法人内研修、スタッフ育成・保育の質の向上を目的とした ディスカッション、課題における取組共有、活動成果発表
食育会議	年4回	議案検討、他園事例紹介、意見交換、成果発表
保健会議	年4回	議案検討、他園事例紹介、意見交換、成果発表
主任会議	年4回	主任会議委員による課内研修、スタッフ育成・保育の質の 向上を目的としたディスカッション、課題における取組共 有、活動成果発表
子育ての質を上げる会議	月1回	子育ての質を上げる会議委員による課内研修、スタッフ育 成・保育の質の向上を目的としたディスカッション、課題 における取組共有、活動成果発表

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園全体の衛生管理、感染症予防対策の実施、園児・スタッフの体調管理 や自治体報告 等
安全対策係	園内安全管理、ハザードマップ作成・見直し、近隣情報収集 等
防火管理者	消防計画作成、避難訓練計画作成、定期点検の実施 等
食品衛生責任者	食品取扱内容の確認、食育活動の衛生管理 等
畑係	畑の年間計画に沿った作物の、種まきから収穫管理
生き物係	生き物の状態管理、飼育管理・指導 等
誕生日会	誕生日カード作成、各担当配布振り分け 等
青空保育	年間計画作成、実施サポート 等

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこサポーターズ窓口	どろんこサポーターズ主催の行事の協賛
おやじの会窓口	おやじの会主催の行事や活動の協賛

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・愛着関係を育み、様々な行動や欲求に適切に応え、特定の保育者と情緒の安定を図る。 ・自主的な探索活動体験を保障し、様々な感覚を養う。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人や物との関わりをもち感性を豊かにする。 ・自分でしようとしている気持ちを尊重し、見守ることで自我が芽生え育つ。 ・表現する力の基礎を養う。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活や遊びの中で生活習慣が身に付き、ルールへの定着を目指す。 ・身近な人や物との関わりを広げ、様々な事象に出会うなかで失敗と挑戦を繰り返す（感情コントロールエラーの体験）。 ・友だち同士の関わりを通し、自分の気持ちを言葉や行動で表現し伝えあう心地よさを感じる。 ・遊びの継続性を目指し、可視化を取り入れることで子ども自らが、自主的に遊びを展開していける環境を整える。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話をよく聞き、自分の思いや要求を言葉や行動で表現し通じ合う心地よさを感じる。 ・身近な人や物との関わりを広げ、様々な事象に出会うなかで失敗と挑戦を繰り返す（感情コントロールエラーの体験）。 ・遊びに熱中し研究を繰り返すことで、達成感や充実感を味わう。 ・保育所保育指針「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に向かっていくよう意識した保育を行う。 ・遊びの継続性が定着し、日々の充実感を高める。 ・子ども自らが遊びを考え、展開し、日常に新たな遊びのゾーンが生まれている。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

役職関係なく、全スタッフが子どもと一緒に食事をする。

好きな人と好きなときに好きな場所で好きなだけ食事をするを基本とし、子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる。また、できない子にはできる子が手伝うなど、異年齢保育を活かす。身近な人と一緒に食べる楽しさを味わい、食の話題が盛んになる子どもを目指す

1	計画・ねらい	素材の味を活かし、大きな食材にかぶりつくことで嚙む力を養う
	実践予定内容	離乳期から大きめの食材にかぶりつくことで、自分の一口量を知る。よく嚙むことで、咀嚼力の発達を促す。
2	計画・ねらい	食事を楽しむ
	実践予定内容	役職関係なく、全スタッフが子どもと一緒に食事をするので、食べることを楽しむ。 好きな人と好きなときに好きな場所で好きなだけ食事をするを基本とし、自分で盛り付けすることで、自身の食べられる量を知っていく。
3	計画・ねらい	空腹のリズムがもてる子どもの姿を目指す
	実践予定内容	空腹を感じられるよう、「散歩9時出発」を定着させ日中の活動を十分に行う。
4	計画・ねらい	素材を加工し、食の循環を知る
	実践予定内容	給食の残飯をコンポストに入れ、堆肥をつくる。堆肥を畑にまくことで育った野菜を、年間通して収穫し、食材を加工して食す。切った野菜くずをコンポストに入れるという、一連の循環を知れるよう機会を設けていく。また、鶏を捌いて食すことでも食の循環を知る機会となる。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い・うがい指導 トイレの使い方指導 歯磨き指導 3・4歳 性教育（体の大切さを知る） 5歳 性教育（体と命の大切さを知る）
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月～9月頃・・・胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナ、溶連菌 12月～2月頃・・・ノロウイルス、ロタウイルス

	1月～2月頃・・・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・0名 抗アレルギー薬・・・1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在22名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については4月13日までに受講予定
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	本日現在22名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については4月13日までに受講予定
その他保健に関する取組	感染予防のため、保育室内外の衛生管理に努める 年2回の清瀬市保健会議にて近隣園、地域での感染症流行状況を把握し、感染拡大防止対策をとる 感染症対策として予防接種状況を把握し、保護者に対し年齢に応じた計画的予防接種をすすめていく 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。 消毒・喚起を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ

健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 (0歳児のみ年12回実施) 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

子どもの興味関心がどこに向いているのかを保育者が感じ取り、子ども自らが遊びを展開したくなるようなゾーンを設置することで遊びを豊かにしていく。また、子ども同士で遊びの共有できるような関わり方を意識する。遊びの継続性では、「今日の遊びの続きが明日もできる」という期待をもって保育園に登園できるよう、環境の構成を行う。スタッフが子どもと遊び込むということ意識し、ルールのある遊びができる環境を強化する。

1	計画・ねらい	充実した室内環境の定着
	実践予定内容	子どもの興味関心がどこに向いているかをよく観察し、定期的に室内環境の見直しを図る（年4回6月・9月・12月・3月）。
2	計画・ねらい	継続性のある遊びの充実
	実践予定内容	室内外共に、今日の遊びが明日もできる環境を構築する。 園外にも虫の毬を仕掛けるなど、明日も散歩先に出向くことを期待できるような環境を設定していく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	鉄棒（大・小）	グラウンド	使用都度
2	レゴブロック作業台	幼児室	毎日
3	作業台2つ	幼児室	毎日
4	ままごと化粧台	幼児室	毎日
5	オオムラサキ飼育小屋	グラウンド	侵入都度
6	絵本コーナーテーブル	幼児室	毎日
7	外用ままごとテーブル2台	グラウンド	毎日

8	生き物コーナー台2つ	幼児室	毎日
9	ベンチ3台	グラウンド	毎日
10	お茶用の台4台	グラウンド	毎日
11	一本橋	倉庫収納（幼児室）	使用都度
12	遊び〇×ボード	幼児室	毎日
13	鶏小屋	グラウンド	毎日
14	ホワイトボード	幼児室	毎日
15	外用玩具棚	グラウンド	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	防災…危機管理マニュアルNO.3の災害対策（P6～）に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練再開通知・自衛消防訓練通知・普通救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備。自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う
2	実践予定内容	ケガ事故防止…危機管理マニュアルNO.3（P8～）のケガ事故防止策・安全点検と保全、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS防止策を行いケガ発生時には対応フローチャートに従う
3	実践予定内容	不審者対策…危機管理マニュアルNO.3の不審者対策（P14）に則り、不審者侵入訓練・笛の携帯・代理の送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行いながら、不審者侵入時には対応フローチャートに従う
4	実践予定内容	光化学スモッグ…危機管理マニュアルNO.3の光化学スモッグ対策（P15～）に則り、知識を身につけ、注意発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応及び清瀬市緊急連絡網に沿って情報を流す
5	実践予定内容	自園のヒヤリハット、インシデントをもとに検証・対策を積み重ね、怪我に対する危機管理をもって保育にあたる 子どもの視覚から、遊びや生活の危険を伝えられる可視化を強化する

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

実習生を積極的に受け入れ、次世代の保育人材育成をしていくために、一人ひとりの様子に合わせた具体的な援助・指導を行う。実習指導のみにとどまらず、就職相談から人生相談など幅広く寄り添い、社会福祉法人どろんこ会の人材魅力も伝えていく。

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修 (年1回) ■園内研修 (月1回以上) ■保育スキル研修 (エリア別) ■リーダー養成研修 (9~2月) ■業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会 (月1回) ■デンマークインターンシップ (年1回) ■コンピテンシー自己採点 (月1回) ■人権チェック (4月・10月) ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習
保育スキル研修 	←お迎え 対応研修 	←避難訓練研修

1	実践予定内容	実習生が展開したい保育活動の実現に向けて、リーダーが直接フォローしていく。
2	実践予定内容	当法人の魅力が伝わるよう、丁寧な実習の振り返りを実施する。 小さな疑問や悩みがあれば、その日のうちに解決できるよう心がけ、丁寧に聞き取っていく。
3	実践予定内容	小中高生のボランティアや職業体験を積極的に受け入れ、幅広く中里どろんこ保育園を知っていただき、認知度も向上させていく

7. スタッフ育成と研修計画

スタッフ一人ひとりの経験年数や能力に合わせた自己目標（MBO目標）を設定し、半期ごとに振り返りを行う。目標達成に向けた保育内容や取り組みを実践し、振り返り、新たな課題を見出すことを基本とすることで、保育に対して達成感や充実感を味わっていく。

施設長⇒主任⇒リーダー⇒スタッフへと流れるように情報を伝達していくことで組織を確立させ、リーダーによるスタッフ育成を目指す。上長面談制度を取り入れ、より身近なリーダー職と話しをすることで本音を伝えあい、より絆の深いチームを築いていく。また、コミュニケーションを密にとり、一つの保育チームとして関係を築くことで、スタッフ同士の人間性の質を高めていく。

保育園全体の質を上げていくためにも園内研修の充実を図ることで、目の前の子どもたちの姿を共通理解し、同僚と話し合い、自らの保育を振り返りながら実践していく。

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② リスク管理研修	・自園の子どもたちの姿から危険を予測する

			・リスク回避の方法を探る
5月11日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 接遇マナー研修	・接遇の基本を学ぶ ・気持ちの良い対応を考える
6月15日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 手遊び・絵の具の使い方研修	・簡単な手遊びや絵の具の使い方を改めて学ぶことで、身近に保育へ取り入れていけるようにしていく
7月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺の危機管理研修	・水辺の事故を起こさないためにできる基礎知識を学ぶ ・リスクと楽しさを知り、実践につなげる
8月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保護者支援とは	・保護者との信頼関係の築き方 ・保護者ニーズを探る
9月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画の進捗確認	・事業計画の進捗確認をすることで、後半に向けての方向性を見定めていく
10月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 運動遊び	・運動遊びの基本を知る ・運動補助の仕方を知る
11月9日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境設定研修	・子どもにとってどのような環境が必要か具体的に考える ・子どもの興味・関心がどこにあるかを改めて考え、後半に向けて遊びの探求心が高まるような環境を構築する
12月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもへの向き合い方	・子どもを肯定的に捉えるとは ・否定しないという本当の意味を理解する
1月11日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 小1を知る（生活力とは）	・小学校の見学を実施し、就学に向けてアプローチカリキュラムの強化を図る ・生活力が高まるような遊びや環境について考える
2月15日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第一回策定会議	・次年度の事業計画に向けた目標設定 ・チーム保育研修
3月15日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 第二回策定会議	・年間行事計画の作成 ・畝づくり研修

エリア研修予算内訳（清瀬エリア4園合同開催）

開催日	予算	予算の内訳		例) ●園で按分した自園負担額
10月頃 保育士大学・園長大学の研修をもとに、清瀬エリアで学びを深める	0円	講師代 (交通費含む)	0円	0円

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デンマークインターソップ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉スタッフ全員が一つの保育チームとなり、互いを育成し合う

細やかなコミュニケーションをとることで相互理解を図り、頼り頼られる関係性を築く。この土台があることで、スタッフ同士が一丸となり互いの保育を確認し合い、伝え合うことで保育の質を高められるチームとなる。また、自分の強みと弱みを認めることで、相手の強みと弱みを認めることがで

きるようになる。いかに自己開示をしていけるかに焦点を当て、自信をもって保育をしていける人間性を養う。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の方との交流を盛んに行うことで、子育て支援に力を入れた拠点となるよう以下計画を実施する。また、計画以外にも散歩先ですれ違った全ての方との挨拶をはじめ、交流を深めることで中里どろんこ保育園を開けた施設にしていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：けやき公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	社会福祉法人東京聖労院「清雅苑」に月1回訪問し、交流を図る歌や手あそびの披露など、普段関わりが少ない世代とのやりとりを楽しむ
異年齢交流	近隣の小学校・保育園などと交流できる機会を設けていく また、同系列保育園との交流会を定常化し、小中高生のボランティア受け入れも積極的に行う
地域拠点活動	どろんこ祭り、運動会、生活発表会に地域の方を招き、保育園を地域に開いていく ちきんえっぐへの参加呼び込みを強化し活性化することで、子育て相談のしやすい地域拠点を目指す
銭湯でお風呂の日	月1回 東久留米市「みどり湯」にて実施〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

小学校接続連携計画・アプローチカリキュラムを近隣小学校と密に相談し計画をたてることで、在園のうちから小学校への見通しをもって生活していく。卒園児がいる小学校へ積極的に向かうことで、進学への不安を取り除き期待を高める。

自園スタッフと小学校の担当教員合同で交流する機会を設け、保育所保育指針第1章4の（2）に記載のある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を元に研修を行う。普段の授業内容や活動内容を振り返り、共有し合うことでスタッフの保育の質を高めると共に小学校との相互作用が生まれる。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月22日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
9月頃	清瀬小学校 1年生	20名予定	学校見学（清瀬小校庭）	子ども間交流
11月頃	清瀬第八小学校 1年生	20名予定	ドッジボール大会 （清瀬第八小校庭）	子ども間交流
1月頃	清瀬市 保・幼・小接続研修	30名予定	コミュニティプラザ ひまわり（仮）	職員間交流
2月頃	清瀬第八小学校 1年生	20名予定	小学校へご招待	子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

清瀬市発達支援センターとことこ、清瀬市子育て支援課と連携を図り、スタッフ間で相談しながら計画を立てる。また、写真記録を用いて対象児を多面的に捉えることで、保育者は子どもの姿を見て決めつけた判断をしないよう視野を広げる。清瀬市発達支援センターとことこへ通っている児童がいる場合は定期的に行っている能力検査の結果をもとに計画をたて、専門的に近い活動や生活を保育に取り込んでいく。

〈2〉毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定 参加者：120名予定）

ケース会議のなかで、計画をたて、振り返り、課題抽出を行う。撮りためた写真記録を元に、対象児の成長点や近況の様子を共有し、次月の計画に取り入れることで個々にあった課題を見出す。また、対象児への関わりをスタッフが統一することで、子どもにとって戸惑いなく心地よい関係性を築いていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

年1回開催される保・幼・小連携合同研修に参加し、園での取り組みや情報の共有を行う。就学前健康診断前後には対象小学校と密に連絡をとり、必要に応じて共有会議を開く。場合によっては、担当教諭の方に来ていただき、園での生活の様子を見て頂く。

保護者の方にはその都度近況を共有していくことで連携を密にとり、育児や就学相談を積極的に受け入れていく。

1.1. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(木) 10:00~12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	10:00~12:00
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:けやき公園にて開催

1.2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年5月31日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 9時00分

自己評価終了予定時刻: 17時00分

自己評価実施予定者: 施設長、主任、保育士リーダー、看護師、事務

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日: 8月25日

1.3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末まで に目指し	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が仲介しすぎず、子ども同士で話し合いができるよう見守る ・日課を常に意識し、当たり前になるよう根付かせる
---------------	------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

た姿		<ul style="list-style-type: none"> ・危険に気付き、保育者に伝えられるよう可視化のポイントを増やす ・どろんこサポーターズ・おやじの会による行事参加を2回以上実施する ・日課の必要性を園内研修にて学び、意味のある日常をつくりあげる
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修を利用して、子どもへの言葉かけや、仲裁の仕方について学びを深めてきた。チームとしての相乗効果も発揮され、お互いに指摘をし合える集団になった。一方で、保育者の経験年数や能力によつての差も見られた。 ・日課の定着は見事に実現した。課題として、散歩9時出発が挙げられる。保育者の人数確認を早め、子どもたちを惹きつける能力を高めていく。日課の必要性に関しても、年間を通して学び続けた。 ・どろんこサポーターズ・おやじの会による行事が2つ以上展開できた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<p>(子ども)</p> <p>遊びの継続性が実現し、子どもの興味・関心がある環境に囲まれて過ごす。一人ひとりが自発的に遊びを発展させていく。</p> <p>相手の話に耳を傾け、折り合いをつけながら子ども同士で問題を解決しようとする。</p> <p>自らが危険を感知し、ケガをしない体づくりをする。</p> <p>命の大切さを知ること、自身を大切にする。</p> <p>(保護者、地域)</p> <p>どろんこサポーターズ、おやじの会を中心とした保育の充実を図る。</p> <p>園内保護者参加型行事において、保護者参加率20%、地域からの行事参加率10%向上を目指す。</p> <p>(スタッフ)</p> <p>日課活動を定着・充実することで、子どもの個々の変化を敏感に感じ取り、それを基に保育計画や個人の計画をたてることができる。</p> <p>小学校接続計画をもとに、逆算したアプローチカリキュラムが展開されている。そこに向けた乳幼児保育が、計画的に成されている。</p> <p>リーダー層を中心に個々のスタッフが、それぞれの得意分野を活かした園内研修を開催することができる(清瀬市内同法人4園の合同研修含む)。</p>
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が仲介しすぎず、子ども同士で話し合いができるよう見守る ・日課を常に意識し、当たり前になるよう根付かせる ・危険に気付き、保育者に伝えられるよう可視化のポイントを増やす ・どろんこサポーターズ・おやじの会による行事参加を2回以上実施する ・ちきんえっぐの広報を、散歩先にて1組以上に宣伝する ・計画の立て方をリーダースタッフが指導する ・アプローチカリキュラムが計画の中に、常に練り込まれている ・全スタッフが園内研修に携わる機会を設ける
2025年度	目指す姿	(子ども)

		<p>中里どろんこ保育園での遊びや生活のルールを、子どもから子どもへと伝承することができる。また、日課活動を年上児から年下児へ伝えることができる</p> <p>地域や他園の子どもたちと交流を重ね、自然を通じた体験遊びを通して関わりを深める (保護者、地域)</p> <p>ちきんえっぐが地域に根付き、ひと月に3組以上の来訪が確立する。深く地域に根付くため、清瀬市の他保育施設と合同で青空保育等の地域事業を展開し、合同保育を実現する (スタッフ)</p> <p>スタッフ自らが必要なことを学びとり、実践と振り返りを繰り返すことで、常に保育の質が向上していく仕組みができています。</p> <p>清瀬市内同法人4園の合同研修をもとに交流を深め、リーダー層スタッフがどの園に行っても良い視点を見つけ、助言ができる。</p> <p>園内だけでなく合同研修の場においても講師ができる(2人以上)</p>
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・年上児が年下児へ遊びや生活のルールを伝えられる機会を設ける ・他園の子どもたちがくる公園先へ積極的に出向き、交流を重ねる ・散歩先では、他園の子どもたちと次の遊びの約束ができるよう計画する ・他園との青空保育の合同実施を打ち合わせ、1回以上実施する ・清瀬市のボランティア活動への参加が定着するよう、計画的に交流する ・スタッフの学びを、月に1回以上共有する ・エリアで一つの大きな保育ができるよう、リーダースタッフが積極的に園を行き来する ・清瀬エリアでの合同研修において、2人以上講師を経験する
2026年度	目指す姿	<p>(子ども)</p> <p>子ども自らが遊びや生活のルールを作り上げ、保育園生活を築いているその基盤が、年下児にも定着している</p> <p>日課活動をもとに保育園生活における情緒が安定し、継続性のある遊びが常に展開されている</p> <p>また、地域や他園の子どもたちとも続きのある遊びが展開されている (保護者・地域)</p> <p>地域で子育てを共にしていく者として、地域の方とも保育運営を共同で進め、保育内容の充実を図る (スタッフ)</p> <p>積み重ねた学びをもとに、新しい園内事業を展開する(1人以上)。</p> <p>新組織の体制をもとに、現若手スタッフ(2024年度時点)がリーダー層と同等のスキルを習得している。</p> <p>リーダー層スタッフを中心とした、清瀬市内同法人4園の定期巡回を実現している。</p>
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが発案した遊びやルールが採用され構築するよう、保育者が柔軟に保育に取り入れる ・遊びに継続性がもてるよう、屋内外共にゾーンの確保を常に行う ・清瀬市のボランティア団体の方とも年間の計画をたてることで、子育

		<p>てを共に実践していく共育てを実現させる</p> <ul style="list-style-type: none">・園内での行事や遊び・研修などに対して、一つ以上の新しい分野を取り入れる・リーダースタッフによる巡回がエリアで定期的実践されることで、清瀬エリアから子育ての質を高めていく。
--	--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：中里どろんこ保育園保育園 施設長 小川 愛

2024年度 メリー★ポピンズ アトレ川崎ルーム 事業計画書

Ⅰ. 基本方針

・ 保育理念…『にんげん力。育てます。』

・ 運営本部Mission…「あなたはどうか」大人も主体性

①生活力の体得 ②10の姿の体得 ③子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる物的環境の設定 ④鶏を絞めて食す、命をいただく活動の実践 ⑤自律運営

・ 園目標…コミュニケーション+（つなげる）経験=じりつ

保育理念を柱として、『次の時代を生き抜く子を育てる』為に以下を基本方針とし、養護と教育を一体的に進めていく。

・ 子どもたちが様々な人との関わりや体験を重ね、経験していくことで遊びや生活に対して自ら意欲的に過ごすことができる。自分のしたいことを満足するまでやり、子どもたちの意見が尊重されることにより挑戦する意欲をもてるようにする。

・ 子どもの一人ひとりの成長を認め、常にその成長や発達をとらえる。子どもの成長について話し合うことを大切に、子どもに必要な物的環境を整える。

・ 大人も主体性を持ち、子どもたちの体験、経験の場を増やしていけるよう、職員全員で学び続けることをしていく。保育者は個々の得意なことを発揮し、園全体の保育の質を上げ、保護者からの信頼、子どもたちのにんげん力の向上に繋げていく。

・ 「大人のにんげん力・挑戦・繋がり・話し合い、考え学び続ける」をこの一年間大切にしていきたい。

〈Ⅰ〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	自分で考え、行動する力を育む～生活力の体得～
	実践予定内容	自分で考え、行動する力を育む為に、体験を通して生活力と危険なものとの距離の取り方を学ぶ。 体験できる機会を増やし、挑戦してみても失敗も成功も危険だと感じることも経験することで身につけていく。 失敗も認め合い、大人も子どもも挑戦できる環境を整える。
2	計画・ねらい	異年齢の子どもが混ざり合い、子ども同士が繋がる保育の実践
	実践予定内容	好きな場所で、好きな遊びを満足するまで遊び込める環境の構成と異年齢の子どもたちが混ざり合い、子ども同士が繋がる保育の実践の為、全スタッフで全園児を見、一つの大きな家の姿を目指す。 その保育の中で、0歳児からの育ちで10の姿を意識し保育内容を連続させる意識をもつ。
3	計画・ねらい	子ども一人ひとりの成長が大切にされ、安心できる環境の中で、自分の思

		いを表出し他者と育ち合える関係を援助していく。
	実践予定内容	子どもの姿の記録や様子を元に話し合いをじっくりと行い、発達や姿をしっかり捉えていく。話し合いを元に子どもの興味や発達に合った環境構成を設定し子ども主体の活動を行う。 応答的な関わりを心掛け、子どもに寄り添い、気持ちを受け止めることで安心して自分の思いを表出できる環境を作る。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の立場になって考える
	実践予定内容	受け入れやお迎え対応、電話対応などでは言葉遣いや丁寧な関わりを心掛ける。特にお迎え対応では、保護者の心に寄り添い、保護者が安心して預けることができる関係作りを行う。保護者の表情や話のやり取りの中で、面談が必要な場合は声をかけるようにし、保育所が相談しやすい雰囲気作りを心掛けていく。
2	計画・ねらい	園生活の様子や子どもの成長など保育の見える化の継続
	実践予定内容	日々のタイムラインなどに加え、ドキュメンテーションを用い活動の様子や子どもの成長を保護者へ伝え共に成長を喜び合う。 お迎え対応では、行先だけではなくどのような活動をしていたのかその見にあった対応をできるように心掛ける。
3	計画・ねらい	整理整頓の行き届いた環境の継続
	実践予定内容	いつでも整理整頓、清掃が行き届いた環境を継続する。 掲示物の日付や貼り方にも配慮する。棚の上は常に清潔に保つ。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の親子の憩いの場であり、ニーズに合わせた子育て支援の充実化を図る
	実践予定内容	園庭開放、子育て支援室のある保育園ということをより多くの地域の子育て家庭に知っていただく。青空保育や散歩先で出会った地域の子育て家庭へ声をかけ利用しやすい場や、地域の子育て家庭の親が集まり相談し合える場にしていく。また、対面時には簡易アンケートを行い、利用者のニーズに合わせた支援内容の計画へと繋げていく。
2	計画・ねらい	実体験のできる場の提供
	実践予定内容	園庭の畑を利用して、苗の植え付け（種まき）、栽培、収穫、加工体験を年間で行い、実体験が伴う支援を行う。
3	計画・ねらい	子どもの育ちや日々の不安などを気軽に話せる育児相談の場として根付く
	実践予定内容	ちきんえっぐだよりや園便りの掲示場所を増やしたり、散歩先で配布したりする取り組みを継続しながら園での取り組みを知ってもらう機会を増やす。 栄養士による食事相談会や子育て経験者、子育て支援員資格所持者による子育て相談、系列の発達支援施設つむぎと連携し発達支援相談会を行い、子どもの発達や子育ての悩みを専門的に相談できる場を設け、子育て支援事業としての役割を広げていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人も主体性を持ち、自分で考え行動する力を育む
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者も「にんげん力」を意識し、探求心を持つことで、子どもにとって何が必要なのかをそれぞれが考え、率先して行動に移していく。 ・ 誰かがやってくれる、誰かに言われてやるのではなく、それぞれの業務の進捗を確認し合い、支援したり支援してもらったりしながら大人も考えて行動していく姿を子どもに見せていく。 ・ 職員一人一人が自分で決めた課題、目標を適宜振り返りPDCAを回し続けながら、必要なことは何なのかそれぞれが考え取り組む力を身に付けていく。必要に応じて面談を行い、目標を明確化していく。
2	計画・ねらい	チーム保育を牽引するリーダー育成と若手スタッフが得意分野で自己を発揮できるチーム作り
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の質の向上のため、保育者自身が必要だと思う園内研修を主導し、保育スキルの共有や学んだものをアウトプットしていく。そうすることで理解を深めるとともに、園内の保育スキルの向上、スタッフの自信に繋げていく。リーダーを中心に年齢関係なく自分の意見が言え認め合う場を積極的に作り、互いの価値観を伝え、子どもの姿を共有し、子どもを真ん中にした話し合いができるチームを作る。 ・ 保育をしていく中で、期日やルールなど基本的なことを守る意味を自ら考え「チーム」としての意識を明確にする。
3	計画・ねらい	保育の質向上・保育を語る
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの心を動かせる保育者となるため、子どもの思いに寄り添い、どうしたら子どもの気持ちを引き付けられるのかを話し合う。 ・ 人権や記録など保育の基本となることについても園内研修で再確認していく。 ・ 法人内・外の研修を利用し必要なスキル（素話や手遊び、絵本の読み方や遊びの種類）や保育の引き出しを増やしていく。保育者間での話し合いや園内研修の場でも出し合うことで、園全体の保育の質の向上に繋げる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	「見守る」「見守られている」安心感のある場
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが安心して意欲的に日々の生活や遊びに取り組めるよう、保育者は側で見守っているという安心感を子どもに与えられるように環境や必要な声掛けを心がける。時には保育者が率先して挑戦する姿を見せることで、子どもたちも安心して挑戦できる環境を作る。
2	計画・ねらい	畑仕事からの食の循環教育・残菜のリサイクル
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業計画を元に子どもたちと畑仕事を行い、季節の野菜や草花を収穫する喜びを味わい、収穫した食材を調理加工する。育てること大変さを知るとともに食材のありがたさを感じ、食の循環を知る機会を持つ。 ・ コンポストを使い、残菜を土に返す取り組みを子どもと共に進める。残食の行方を知ることによって「もったいない」という気持ちを育て、環境への意識を持つ。

〈6〉主体性・学び続けることで自信に繋げる

1	計画・ねらい	子どもについて話し合う場を持ち続ける
	実践予定内容	<p>会議や昼礼などで子どもの成長や保育に対するの悩み、考えていることを話し合う。誰もが意見を言える場の雰囲気作りを行い、意見を出し合うことで相手の思いを知り子どもにとってより良い保育ができるようにしていく。園全体で助け合い協力し合い、必要な体験や物的環境を常に考えて設定できるようにしていく。</p> <p>必要に応じて園長大学@保育士大学などを利用し園内で学ぶ場を作る。スタッフ同士だけではなく、子どもとの対話も大切にし、繋がる遊びや体験を実施していくことで子ども自身も認められ、大切にされている実感を持てるようにする。子どもが安心して過ごす環境が整うことで、保護者への安心感へ繋げていく。</p>
2	計画・ねらい	主体的に動き、自信を付けていく
	実践予定内容	<p>1で立てた内容のように、子どもの主張が認められ満足できる経験をすることで子ども自身がやりたいことを主体的に、継続して体験していく意欲へ繋げ、挑戦する意欲へ繋げる。自分で体験することで成功体験を積み重ね、自信へと繋げていく。</p> <p>大人も、保育の活動への挑戦、地域との関わりなど「どうしたらよくなるのか」を自分で考え行動していく姿を見せていく。言われてやるのではなく、必要なことを考えて実行していく力を身に付けていく。必要な時には助けを求めることも大切にし、お互い助け合いながら成功体験を積み重ね、自信に繋げていく。</p>
3	計画・ねらい	乗り越える力を身に付ける
	実践予定内容	<p>保育者は安全を確保した中で、子ども同士で解決する場面や考える機会を奪わないようにする。側で見守り、時には一緒に困難を乗り越えるにはどうしたらいいか考えていく。</p> <p>スタッフは自身の課題を明確にし、日々の保育にただ向き合うだけではなくどうしたら自身の課題を乗り越えていくことができるのかを共に考えていかれるようにする。より理想の自分に近づいていかれるよう、考えて行動に移していく。</p>

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	10人	11人	11人	11人	11人	60人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	9人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	4人	調理	1人	事務	1人		

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修、子どもの姿の共有、保育討議、行事について
給食運営会議	月1回	献立の振り返り、食育活動の立案・検討他
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿からの傾向分析と対策共有、子どもの姿に合わせた園内外のハザードの確認と配慮点の共有
ケース会議	月1回	気になる子・配慮を要する子の状況と関わり方について
クラス会議	月1回	子どもの興味・関心や発達を理解したねらいを持った活動の選定と変化し続ける環境構成
リーダー会議	随時	体制や仕組みについての検討、園運営に関わる振り返り

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	運営事項の確認、事務連絡（書類関係他）
施設長勉強会	月1回	各園の課題を共有しながら、それぞれが選ばれる園になる為に、スキルアップを図る
食育会議	年4回	各園の給食・食育活動への課題と取り組みの共有、マニュアル確認
保健会議	年4回	感染症、保育園での保健衛生への課題と取り組みの共有、マニュアル確認

主任会議	年4回	次期施設長育成のマネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	保育所保育指針・10の姿の理解、子育ての質を上げる為の各園の課題と取り組みの共有

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内清掃、衛生管理、感染症予防対策、備品管理、子ども・スタッフそれぞれを対象とした保健衛生指導
安全対策係	避難訓練、不審者侵入訓練の計画と安全に関わる情報掲示、園内外のハザードマップの作成・更新と共有
防火管理者	消防計画を作成し、これに基づく消火・通報訓練及び避難訓練の定期実施と振り返り
食品衛生責任者	年間食育計画の作成とこれに添った食育活動の実施、食育会議への参加、給食運営会議計画や実施、食品の安全管理
食育・畑係	年間畑計画・プランター計画の主導と管理、子どもと行う作業計画

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズの活性化の推進、計画、立案、取りまとめ、進行他
行事係	計画、立案、取りまとめ、進行他
幼保小連携係	幼保小接続研修・小学校交流の取りまとめ、連携・接続の計画立案と振り返り

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0~2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の保育者との関わりの中で信頼関係を築き、個々の欲求を受容されることで自己肯定感を育み、安心して園生活を送れるようにする。 ・一人ひとりの子どもの発達過程を把握し、子どもの欲求を満たしながら応答的な関わりや言葉がけを行う。
------	--------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<ul style="list-style-type: none"> ・清潔で安全な環境の元、好きな遊びを見つけ、楽しみ安心して過ごすことができるようにする。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの興味関心を受け止め、応答的・受容的な関わりを通じて自己肯定感を育む。 ・一人遊びを十分に楽しめるよう環境を整える。 ・身近なものや人、環境に触れあう中で様々なことに興味関心を持ち、主体的に関わる。 ・事故防止に努め、自発的な活動をできる環境を整える。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で一人ひとりが自己を発揮し、保育者や友だちと関わる中で認め合う経験をし、存在感や自己肯定感を育む。 ・身近な自然に興味を持ち自ら関わって触れ合う中で、豊かな感性や思考力、表現力を養う。 ・身近な環境に主体的に関わり経験することで、発見を楽しんだり、考えたり、選択したりそれを遊びや生活に取り込んで自分で考え行動できるようになる。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとの関わりの中で、一緒に活動する楽しさを味わい、協力して遊びや生活を展開していく経験を通して、仲間意識を高めていく。 ・自分の気持ちや考えを自分なりの言葉で表現することの大切さ、相手の話を聞き、相手を想う気持ちの大切さを、話し合いの場や異年齢で過ごし刺激を受け合う中で気づき、共同性や社会性を身に付けていく。 ・生活の流れに見通しを持ち、遊びや生活を進めていく中で、その場に応じた行動や、善悪の判断をしながら行動できるようになる。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	どんご会の3大食育方針 食べる意欲のある子どもたち
	実践予定内容	調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる、噛む力を育て素材の味

		を味わえる状態で提供する、子どもが自分たちで盛り付け・配膳をして食べる事の実践。 子どもと一緒に食べることで行動でも食べる楽しさやおいしさを伝えていく。空腹感を感じ、意欲的に食事をとれるような活動を保証する。
2	計画・ねらい	育てる、収穫する、調理・加工する体験を通して食や食材に興味を持ち、食の循環を知る。環境への意識を身に付ける。
	実践予定内容	自分で育て、収穫し、調理・加工することが一連の体験となるよう年間で畑・食育計画を行う。自ら栽培したものを食べることで、自然や食への興味関心を持つ。又、全スタッフが子どもと共に体験し実体験を通して子どもと食育を考え、伝えて行く。 給食の残食をコンポストで堆肥にし、再利用することやごみを減らすことで身近にできることから環境への意識を持てるようにする。
3	計画・ねらい	鶏を絞めて食す～命をいただく活動の実践～
	実践予定内容	近隣園と連携し、命をいただく活動の実施を通して、肉を捌いて食べる＝命をいただく教育を行う。

〈4〉保健計画

園児健康診断	0～1歳 年6回（4月・6月・8月・10月・12月・2月） 2～5歳 年6回（5月・9月・1月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い・うがいの徹底、歯磨き指導、水分補給や休息の仕方の大切さについての話、衣服調整の仕方、年長児性教育
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス、インフルエンザ 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～8月頃・・・手足口病、アデノウイルス 11～3月頃・・・インフルエンザ、感染性胃腸炎（ノロウイルス、ロタウイルス）、溶連菌
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在13名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ4名については3月21日までに受講予定
その他保健に関する取組	乳児は適宜検温、身体に触れ体温確認を行う。 登園時の視診、園児の健康状態（ケガの確認）の把握と健康管理 新型コロナウイルス及び感染症予防の為、うがい・手洗い指導を行

	う。又、園内の消毒・換気を徹底する。
--	--------------------

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検 (簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 0～1歳 年6回 (4月・6月・8月・10月・12月・2月) 2～5歳 年6回 (5月・9月・1月) 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	掃除や管理の行き届いた保育環境を提供する。整理整頓がされた環境。
	実践予定内容	整理整頓を日々意識する。掲示物や掲示物の日付なども。 室内は掲示物なども必要なものだけに整頓することで、視覚からの情報によつての遊びの集中力を乱さないようにする。 保育者が進んで掃除や整頓を意識して行うことで子どもたちへも気持ちよさを伝えていく。
2	計画・ねらい	遊びの中で経験し、学び、身に付ける
	実践予定内容	成長に合わせた物的環境を整え、自分で選択し考え遊ぶことができるようにする。自由な発想で使える廃材や棒など素材を用意し、安全に管理する。 戸外では散歩先を考えて設定し体験や遊びの繋がり、季節の変化を感じる。 子どもたちが実体験の中で危険を感じ、危険を予測した体の使い方を身に付けていられるよう、保育者は子どもの姿を予測して動く。のびのびと遊べるよう安全に配慮された環境を整える。
3	計画・ねらい	自由に行き来できる一つの大きな家
	実践予定内容	子ども自身が安心できる場、やりたいことが発揮できる場で過ごせる環境の構成。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	避難訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し、年間避難訓練計画に沿って消火訓練・避難訓練を行う。 ・年2回通報訓練を兼ねた総合避難訓練、年1回保護者と連携した児童引き取り訓練を行う。非常時はアプリを利用し保護者へ情報発信を行う為、通知訓練も合わせて行う。 ・入居するアトレ川崎の合同避難訓練に参加し、連携を図る。
2	洪水計画	洪水計画に基づき、大雨洪水警報の発令等、必要時には速やかに情報を収集し、被害の未然防止の為対策を行う。又、年1回垂直避難訓練を行い、非常時を想定した安全対策訓練を行う。
3	事故防止委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・園内に事故防止委員会を設置し、ヒヤリハットやインシデントを活用し、再発防止と共に危険管理・危険予測をし、事故を未然に防ぐよう努める。 ・半期毎にリスクマップを活用し、園内外のハザードの見直しを行い、ハザードマップの作成と園内での意識の共有をする。作成したマップは子どもの姿に合ったものであるように定期的に見直ししながら、安全配慮に努めていく。
4	不審者侵入訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・園の置かれた環境、社会情勢を反映させた不審者侵入訓練を年2回実施し、安全・防犯への意識づけをする。 ・入居するアトレ川崎の防災センターとの連携を図り、緊急時の体制を整える。

5	光化学スモッグ	川崎市メール配信システムを活用し、発令があった時は速やかに対応、室内で過ごし健康状態の確認を行う。
6	救急救命講習	新年度キックオフミーティングにてエピペン講習、AED講習を行い必要時には全スタッフが正しい知識の元で使用できるようにする。
7	事故防止・設備点検・誤飲誤嚥防止チェック	年4回の事故防止チェック・設備点検チェックはクラス会議内で見直しをしながら行い、新たなハザードやリスクは事故防止委員会を通して園内で共有する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

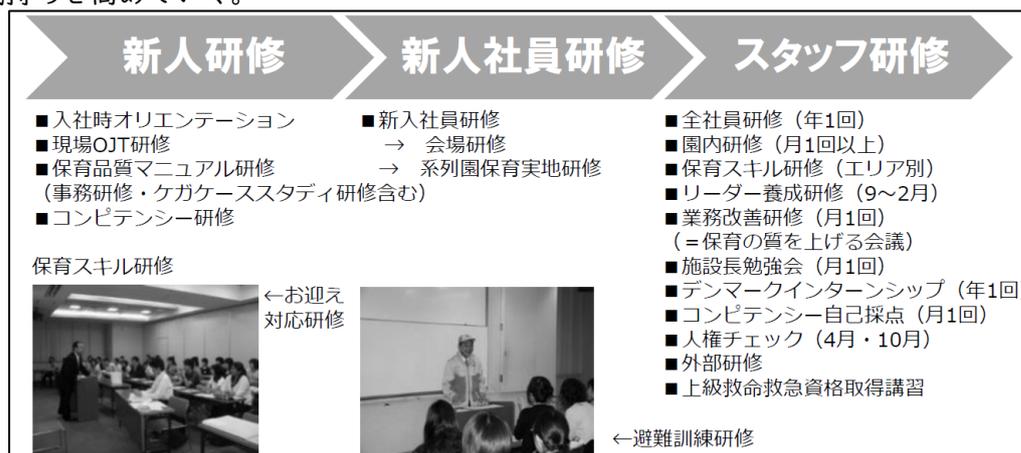
保育・福祉の現場で次世代を担う人材育成の為、積極的に実習生・中高生の受け入れを行う。子どもと関わり触れ合う中で様々な経験を通し、子ども理解を深めていかれるようにする。又、保育者は実習生と向き合うことで自身の保育を振り返り、保育のプロとして子どもへ関わりや対応について考える機会とする。

1	実践予定内容	中高生の体験学習の受け入れ、保育養成校の学生の実習の受け入れを行う。保育の仕事のすばらしさを次世代へ繋げていく。また、希望する学生には実習からバイトやボランティアへ誘うなどして継続した関わりが持てるようにする。 養成校や学校との交流に繋げていく。
2	実践予定内容	保育者を実習担当につけ、より親身になった指導を行い学生も質問や疑問を聞くことによって安心して実習に取り組むことができるようにする。保育者自身も保育を振り返り考える機会を持つ。

7. スタッフ育成と研修計画

・全スタッフが、保育をはじめとする日々の園業務を自分事として捉え、自分の意見を伝え合うことでより良い園にしていこうという自覚をもつ。

・各自の目標が成し遂げられるよう、理想像に向け日々学び続け、自身の保育や自身の取り組みに対する気持ちを高めていく。



〈1〉2024年度園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「人権」「子どもの権利条約」虐待の定義について ③ 「命」を守る仕事の自覚を持つ	・園児の情報共有と理解 ・子どもの人権、虐待の定義 ・命を守ることの大切さ、自覚をもつ。SIDSについても話をする。
5月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園外保育のリスクマネジメント、危機管理	散歩ロールプレイを行い、道中、公園内の安全確認の再確認を行う。危険か所それぞれ出し、話し合いを行う。事故の予防や対処方法。
6月7日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びのリスクマネジメント、保健衛生	プール事故防止訓練・水遊び時のリスクを想定した危機管理。水遊びと熱中症対策。
7月5日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子ども理解「3つの柱と10の姿」、計画と記録	10の姿を保育者自身改めて再確認し、子どもたちが体得していくために子どもの姿に照らし合わせて話し合う。子どもの姿から保育計画に落とし込んでいく。
8月2日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子ども理解「6つの力」、ポートフォリオ	写真を元に6つの力について事例を出し話し合い、再確認していく。ポートフォリオ作成方法について学び合える研修を行う。
9月6日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの理解（下半期に向けて） ③ 環境構成について	・スタッフが作成したポートフォリオを元に子どもの理解を深める。 ・環境構成について理解を深め、子どもに必要な物的環境について考える。
10月4日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの育ちに対して必要なことについて考える ③ 利用者アンケートの振り返りと次年度に向けて	・子どもの発達を把握し、適切な遊びや気持ちに向き合うために必要なことを考える。引き出しを広げるための研修を行う。
11月1日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育所児童要録	0歳児からのかかわり方の繋がりについて話し合う。小学校に上がる子どもたちに必要なことを考

			える。
12月6日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② スタッフ提案による園内研修	スタッフ自身が今子どもたちや自分たちに何が必要なのかを考え、必要な研修を行う。
1月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度の振り返り	今年度を振り返り、アクションプランを立てる
2月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議Ⅰ 次年度事業計画発表	・今年度の振り返りをもとに次年度の園目標を決定する
3月	18:00~20:00	策定会議Ⅱ 次年度行事計画	・プロポーザルをもとに子どもたちに経験させたい行事を決定する ・農業計画

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日~30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉大人も『にんげん力』

保育者一人ひとりが園のねらいや課題を理解しながら日々の保育や保護者対応、地域との交流を自ら進んで行う。

園内研修や行事をスタッフ主導で進めていくことで、自身で必要なことに気付き調べて考えた情報をアウトプットしていく。そうすることでより理解を深め、相手への伝え方も学び、自身にとって何が必要なのかに気付いていく。自らそのPDCAを回していくことで、自身が必要なことを大人も挑戦し体験し学んでいく。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

- ・ 駅前で利便性が良いという環境を最大限に活かし、より多くの地域の子育て家庭に知っていただく。知っていただくために、入居するアトレ川崎や近隣の商業施設、商店街との交流を増やしていく。
- ・ 地域の子育て家庭のニーズに合わせた交流の場になることを目指す。
- ・ 園庭開放やちきんえっぐの利用を気軽にできるような雰囲気作りを行う。また、リピートしてもらえるような活動を行う。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：スカイコートにて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	・ 高齢者施設の定期訪問や公園、銭湯の日や商店街ツアー、公共の場での交流を行う。
異年齢交流	幼保小接続の中での定期的な小学校との連携、地域の中高生による園訪問などのボランティア活動を行いながら、子ども達が年齢の枠を超えて関わり合う。その中で、社会性・協調性・思いやりの気持ちなど人と関わる力を育む。
地域拠点活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入居するアトレ川崎や近隣の商業施設、同法人内の川崎西ロルームとの連携を図り、駅型保育園の立地を活かした地域子育て支援拠点としての土台を作る。 ・ アトレ川崎屋外広場や散歩先の公園では地域の親子を巻き込んだ出張保育を行い、地域支援として実施している子育て支援講座の紹介、活性化を図る。 ・ ちきんえっぐや園庭開放では利用時にアンケートを取り、子育て支援内容として求めるものを聞き取り、ニーズに合わせた講座の開催へと繋げる。 ・ 駅前ビル型保育園だが、園庭・屋上があるという自園の環境を最大

	限に活かし、苗の植え付け（種まき）、栽培、収穫、加工体験を年間で行い、実体験が伴う支援を行う。
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

『スタッフ間交流』『子ども間交流』

子ども一人一人が生活の変化に対応し、その後の教育において実り多い生活や学習を展開できるように、全スタッフは小学校との接続研修や授業参加で小学校の教育内容を理解したり、子ども同士の交流を図ったりする機会を増やす。

子ども間交流をすることで、小学校生活に親しみや期待を寄せ自分の近い将来を見通すことができるようにしていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月8日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	旭町小学校 川崎小学校	2名予定	運動会見学（旭町小学校庭）	スタッフ間交流
6月頃	幼保小連携研修/意見交換会	1名予定	研修/意見交換会	スタッフ間交流
12月頃	川崎小学校・旭町小学校 1年	2名予定 14名予定	授業参加（川崎・旭町各小学校） 小学校見学（川崎小学校園庭）	スタッフ間交流 子ども・スタッフ間交流
12月頃	幼保小連携研修/意見交換会	1名予定	研修/意見交換会	スタッフ間交流
2月頃	川崎小学校 1年	14名予定	交流会（川崎小教室）	子ども・スタッフ間交流
2月頃	川崎小学校 1年	12名予定	手紙交換	子ども間交流
3月頃	川崎小学校	14名予定	小学校の施設利用（川崎小）	子ども・スタッフ交流

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

子どもの状況や発達を理解し、ケース会議の中で共有・振り返りを行い、週案・月案の作成次期及び個々の変化や成長に合わせた見直しを都度行う。

〈2〉 毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：4名予定)

- ・園会議・クラス会議・週案会議などを利用し、個々の様子を共有しながらその子にとって必要なことを考え、支援へとつながるような理解を深めていく。
- ・配慮の必要な子だけでなく、集団生活の中で気になる子や成長・発達の過程で配慮を要する子についても共有し、一人ひとりに合わせた丁寧な対応を検討、実践していく。
- ・定期的につむぎからの訪問巡回や合同ケース会議の場を持ち、専門家の視点から見た集団の中での関わり方や支援の手立てを学んでいく。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

- ・進学先の小学校や必要に応じては各種関連機関と連携しながら、児童要録・引継ぎ面談での子どもの育ちの詳細伝達を行う。
- ・進級時は園内での細やかな引継ぎを行い、個々の育ちや背景を配慮した丁寧な関わりへと繋げていく。又、日ごろから全スタッフで全園児を見ることで、担当するクラスの子意外にも目を向け、信頼関係を築きながら、養護と教育が一体となった保育が絶え間なく提供できるよう努めていく。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎月第2火曜日 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎月第4水曜日 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 アトレ川崎屋外広場：スカイコートにて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年3月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：14時00分

自己評価終了予定時刻：17時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任、保育士代表1名、事務員

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<p>生涯にわたる「生きる力」を培い、「次の時代を生き抜く子を育てる」為に以下を基本方針とし、養護と教育を一体的に進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にんげん力」を身に付けるために、遊びや野外体験、基本活動を通して経験を重ね、自分で考え行動する力を育む。 ・子どもが自発的・意欲的に関わることのできる環境を構成し、主体的な活動や子ども相互の関わり合いを尊重する。 ・自分のしたいことを満足するまでやり、思いを表出し、それを受け止めてもらうことのできる環境を構成し、一人ひとりが安心して生活できる場となる。 ・子育てに関わる全てのスタッフは、子ども一人ひとりを尊重し、命を守り、情緒が安定した中で、乳幼児期にふさわしい経験が積み重ねられていくよう、その育ちを保証する。
え	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、子ども主体の保育と丁寧な保護者対応に取り組んだ。好きな場所で好きな遊びを満足するまで行える環境の構成や指示出し保育、大人主体の保育ではなく、一人ひとりの子どもに寄り添い、応答的な関わりを大切にする中で、子どもの姿から保育のねらいを立て活動を行うことや子どもの興味関心の合わせた環境の見直しがなされるようになった。又、一つの大きな家を目指し、クラスに捉われず全スタッフで全園児をみることを今年度の大きな目標としていたが、異年齢の関わり合いが当たり前になり、大きい子が小さい子を手伝ったり自ら進んで関わったりする姿が増えた。大型行事の運動会では異年齢の関わりを保護者に見てもらう機会も持て、園として大切にしている子どもの姿や関わりを理解頂く機会にもなった。異年齢の関わりを通し感じる成長や子どもの変化も大き

		<p>く、次年度以降も継続し園全体で子どもの成長を見守り、アトレ川崎としての保育の基盤となるようしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者対応に関しては、相手の立場になり丁寧に対応することや保育の見える化を継続することで、保育や取り組みにご理解を頂くと共に、保育参加も増えている。 ・地域子育て支援は、現状に対する目標を持ち、取り組み内容を決めて行ったことで参加率が増えている。今年度目標としていたちきんえっぐ参加者へのアンケートを行い、そのニーズに合わせた講座の開催までは行きつかず、次年度の課題とする。しかし、性教育や保育の中で行う自然学校など保育活動として行っているものに関しては参加や問い合わせが多く、どろんこ会ならではの取り組みも継続して行いながら、地域に根付く園を目指す。
--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈2〉当年度以降の3カ年計画

24年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自立した集団、専門性の高い保育集団となる ・子どもの成長を常に捉え計画、環境設定を行う。 ・子どもたちが遊びや生活を意欲的な姿で工夫しながら自ら挑戦していく。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・保育のプロとして、子どもを動かすのではなく、子どもの心を動かせる保育者集団になる。保育者自身も探求心を持ち自ら学び続ける機会を作り、学んだものをアウトプットしながら、変化し続け、園として集団としての質を高めていく。 ・子どもの姿を保育者で話し合う場を多く持ち、成長、発達を捉えた環境設定や保育をする。必要に応じて園内研修で取り入れより深く考えていく。 ・子どもたちが意欲的に遊び、体験できる場を地域との交流の中で増やしていく。意欲を持ち続けられる保育を行えるよう保育者自身も挑戦する心を持ち続ける。
25年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・にんげん力、生きる力が育つ園 ・地域や小学校との関わりを広げ、地域の保護者の憩いの場になる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考え、選択して行動する中で、生きる為に必要な体験を通して、身に付けて行かれる環境を構成する。 ・地域との関りを大切にし、継続して関わりを持てるようにする。
26年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・にんげん力が育ち、子ども自ら気づき、考え、行動できる。 ・『選ばれる園』となれるよう、活動の発信や地域の保育所としての役割を広げていく。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・体験を通して、子どもが自らやりたいことを主張し、話し合い、遊びや活動を進めていくことができるように保育者は子どもとの対話を大切にする。より意欲がわくような環境を整える。 ・保育所の地域での役割を最大限に活かせるよう、相談できる場であることや交流や様々な体験ができる場であることをより表に出していく。

以上

2024年度 春日どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

■保育理念：「にんげん力、育てます。」

■保育方針：「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

昨年度はチーム春日として子ども中心の保育と業務が円滑に回る組織文化をより強化し「春日どろんこ保育園らしさ」を更に追及していくことに推進に注力してきた。2024年度は子どもや職員のワクワクを形に「体験」をテーマにして様々な保育を展開する。そのために職員1人ひとりのレベルアップを図り、継続する力を付けていく。

【目指す子どもの姿】

・体験を経て知った学びや意思に沿った遊びに没頭する中で、子どもの生きる力が育つ経験をしている。

【目指す保育者の姿】

- ・保育内容：子どもの発達に沿って様々な体験を作る。
- ・園の雰囲気：互いの考えや保育を認め、それぞれが意思を出しながら協力する。
- ・職員の業務：園で作った仕組みを継続して最後まで行う。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	個々の子どもの発達を職員が理解する。
	実践予定内容	子どもの姿の共有、それを元にした子どもの発達に関する研修、振り返りを行う。
2	計画・ねらい	子どもが自発性を持って日々の日課や活動に参加し、様々な経験をする。
	実践予定内容	子どもの意思を大切にしつつ、様々な体験ができる物的環境や人的環境、活動を提供する。
3	計画・ねらい	子どもの主体性を育てる。
	実践予定内容	子どもが自分自身の意思の伝え方を学べるような活動を提供する。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者一人ひとりの気持ちに寄り添い、家庭と保育園の両方で子どもが健全に保育をされる。
	実践予定内容	保護者が気持ちよく子どもを迎えられるお迎え対応、方針を共有できる保護者懇談会、保護者が気持ちを話せる保護者面談など。
2	計画・ねらい	5S（整理整頓清掃清潔しつけ）を徹底した保育園となり来訪される保護者様が心地よく感じる。

	実践予定内容	整理：要不要の区別 整頓：場所を決める 清掃：整った状態であることを点検する 清潔：きれいな状態を保つ しつけ：習慣化する
3	計画・ねらい	子どもが成長している姿が多様なメディアツールで共有される。
	実践予定内容	タイムライン、おたより、掲示物、写真販売、外部発信ツールなど。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域子育てセンター「ちきんえっぐ」を拠点とし、地域に開かれた子育て相談の場所として役割を全うする。
	実践予定内容	一時保育の受入れ、園庭開放、子育て相談と講話、イベント、子育て講座、育児相談会など。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	全職員が「心理的安全性」を大切にし、職員間の言葉遣いや立ち居振る舞いに気を遣い、お互いに思いやりを持って気持ちよく働ける環境を作る。
	実践予定内容	互いを思い合う気持ちを高め自己開示の研修、「社会人としての人間性」を身に付ける研修など。
2	計画・ねらい	全職員が保育のプロとして自覚を持ち、自分の知識をより深める。またそれを実行に移す。
	実践予定内容	子どもの発達に関する知識を深める研修、発達理論と実践をつなげる研修、若手勉強会、ケース会議など。
3	計画・ねらい	リーダーはスタッフの声を拾い上げ課題を設定し、保育の質の担保と園務分掌の仕組みづくりを行う。
	実践予定内容	目標設定を職員自ら行い、達成のために園長・主任・リーダーと主に課題を遂行する。 園運営における課題設定、業務の仕組みづくりなど。
4	計画・ねらい	心地よい園を作る。
	実践予定内容	5Sを徹底し、心地よい園を継続できる仕組みづくりを行う。

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	持続し循環する環境を知る（SDGs）
	実践予定内容	食物→廃棄物→土→食材の循環を知る仕組みを作る。
2	計画・ねらい	食べたい料理の原材料を育てる。
	実践予定内容	食べたい料理の素材を自ら育て、生活と生産の循環を体験する。

〈6〉 チーム春日どろんことしての組織文化の確立

1	計画・ねらい	個々の職員の考え方、気持ち、知識、知恵を合わせ、組織の強みとする。
	実践予定内容	職員のいいところと得意分野を共有する場、個人の強みに併せた園務分掌。

2	計画・ねらい	まずはやってみる。改善していく。
	実践予定内容	周りを巻き込みスモールスタートを実践、改善をして品質を上げていく。

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
12人	24人	24人	30人	30人	30人	150人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	22 人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	1人	補助	0人	調理	1人	事務	1人
	用務	1人	嘱託医	2人				

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	保育の振り返り、及び、次月に向けての意見交換 研修報告、保育の質を上げる園内研修
給食運営会議	月1回	喫食状況報告、アレルギー児確認・対応、食育計画確認、 食事提供の改善ディスカッション
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故報告の共有と注意喚 起、必要な事案を検討し日々の保育に活かす

ケース会議	月1回	発達に特性がある子どもについての情報共有、支援計画の振り返り
クラス会議・週案会議	週1回	保育計画の振り返り、子どもの姿共有、活動計画
週会議	週1回	各クラスの情報共有、行事の検討
リーダー会議	月1回	園全体の関わるクラスを横断する議題の意思決定
マネジメント会議	月1回	園の運営に関する情報共有、検討

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人内統一の議案共有・意見交換、運営状況報告
施設長勉強会	月1回	保育における共通テーマについての検討・意見交換
食育会議	年4回	自園の取り組み成果発表
保健会議	年4回	献立内容の改善・提案、食育計画進捗状況報告
主任会議	年4回	保育における共通テーマについての検討・意見交換
子育ての質を上げる会議	月1回	子どもの発達についての検討・意見交換

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	清掃指導と衛生管理、感染症予防・拡大防止策の実施、園児の健康管理と保護者への発信
安全対策係	避難訓練・消火訓練・不審者侵入訓練の実施、設備点検・事故防止点検の実施、ハザードマップの見直しと更新
防火管理者	消防計画を作成し、これに基づいて消火・通報および避難訓練を定期的 に実施
食品衛生責任者	食材発注および給食提供食材の衛生管理と在庫管理
畑・田んぼ係	畑・田んぼの計画・管理、用具類の管理および補充
生き物係	生き物の世話の計画・管理
写真係	写真チェック・販売申請、卒園アルバム作成
保育環境整備係	子どもが遊び込める室内・園庭環境整備、提案、実施

備品発注係	消耗品・事務用品・保育材料の購入、管理
福利厚生	職員のおやつの買い出し、飲み会幹事

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭係	祭の企画・運営、地域への広報
地域交流係	異世代交流、地域行事参加等の窓口業管理
子育て支援係	ちきんえっぐの活動計画、実施

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	ゆったりとした関わりの中で、子ども一人ひとりの気持ちや意欲を尊重し、健やかな発達を促がす
	下半期 0～1歳児	安心できる大人との関わりの中で、人に対する信頼感、愛着関係を形成し、自己肯定感をはぐくむ
幼児保育	上半期 3～5歳児	個々の発達を把握し「見守る保育」を実践する中で、子どもが自らやってみたいと思えるような環境を整え、遊びによる満足感や充実感を得られる保育を行う
	下半期 2～5歳児	好きな遊びを見つけ、戸外や室内で友だちを意識して遊ぶ
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	随時、希望する保護者に対し実施 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

どろんこ会グループ・春日どろんこ保育園の食育方針は（1）調理員・保育士・施設長はこどもと一緒に食べる（2）噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する（3）子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる である。以上を基本として下記方針を職員全員で行う。

1	計画・ねらい	五感を使える体験を行い多様な味覚を育て、子どもも大人も心身ともに豊かになる。
	実践予定内容	堆肥作り、畑仕事、日々の味見体験、出汁比べなどの行事。
2	計画・ねらい	持続可能な食環境を子どもが考えられる機会を作る。
	実践予定内容	自分の食を知る：食べこぼしの認知、残食糧の可視化、バイキングにて自分が食べきれぬ量の把握。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（4月・10月）
歯科検診	年2回（6月・12月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導、手洗いうがい指導、咳エチケット
流行が予測される感染症	感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～8月頃・・・手足口病、プール熱 12～2月頃・・・溶連菌、インフルエンザ、感染性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・1名より預かり済み／事務所冷蔵庫にて保管 抗アレルギー薬・・・3名より預かり済み／事務所冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在27名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については6月30日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在20名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については6月30日までに受講予定
その他保健に関する取組	インフルエンザおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検(簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／4・10月 歯科健診 年2回／6・12月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	整理整頓・清掃・衛生管理
	実践予定内容	5Sを知る研修。理想状態を作り共通認識を作ること、日々確認すべきことを徹底することをリーダーと共に確認を行う。
2	計画・ねらい	室内環境・屋外環境

	実践予定内容	物的環境と自然環境を子どもの発達に併せて適宜更新していく。 室内では子どもの発達に合わせた体験ができる環境を作る。 屋外では子どもが自然の中で体験できることが自由にできることを徹底するために火水土など十分な素材を用意する。
--	--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	長ベンチテーブル	園庭	毎日
2	六角テーブル	園庭	毎日
3	木製 巧技棚	園庭	毎日
4	平均台	室内	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災対策	危機管理マニュアルの災害対策に則り、月1回の避難訓練を行い火災・地震の避難方法を確認。（6月・11月は消防署と連携をした総合訓練を行う）災害緊急時にはアプリを使って園児情報を発信する。
2	事故防止	危機管理マニュアルのケガ事故の防止策に則り、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。ハザードマップを作成・半年に1度更新し、ケガや事故防止に努めていく。毎月の事故防止委員会で事故記録簿・インシデント・ヒヤリハット報告書の共有・分析、防止策を検討し再発防止に努める。
3	防犯対策	警察と協力し年2回不審者侵入訓練を実施し、不審者侵入時にはフローチャートに従う。日々の生活の中でも常に不審者を意識することが大切であり、散歩時における対応も意識統一しておく。
4	光化学スモッグ pm2.5	危機管理マニュアルの光化学スモッグ対策に則り、光化学スモッグ・pm2.5の知識を身につけ、注意報発令の把握をしながら発生時には、光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従い対応する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

・基本方針

実習生や中高生の職場体験・交流などの受け入れは、次世代育成・地域貢献のため積極に行い、実習生や生徒の一人ひとりの様子に合わせて保育・子育てで大切なこと、大事にして欲しいことなどを具体的に理解し易いように伝え、援助や指導を行う。

・配慮点

実習生には保育の楽しさや魅力を熟練度に沿って伝えるように配慮し、次世代を担う実習生にとって保育の魅力を感じてもらえるようにする。

1	実習生	近隣養成学校より受入れ予定。
2	中高生	春日東中学校1年生他を受入れ予定。
3	実践予定内容	保育体験、保育実習、記録の記入方法、子どもとの接し方の指導 など

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日	18:00~20:00	① コンピテンシーNO3自己採点 ② マニュアル確認	品質改善マニュアルと春日での細かいルールの再確認。
5月24日	18:00~20:00	① コンピテンシーNO4自己採点 ② 子どもの発達段階理解	各クラスの子どもの発達の現状を確認し、一年後を見据えてどのような体験が必要か理解する。
6月21日	18:00~20:00	① コンピテンシーNO3自己採点 ② 保育計画	保育計画の立て方、PDCAサイクルの再確認、
7月26日	18:00~20:00	① コンピテンシーNO4自己採点 ② 5領域 人間関係	5領域（人間関係）の再確認
8月23日	18:00~20:00	① コンピテンシーNO3自己採点 ② 5領域 環境	5領域（環境）の再確認
9月27日	18:00~20:00	① コンピテンシーNO3自己採点 ② 5領域 言葉	5領域（言葉）の再確認
10月25日	18:00~20:00	① コンピテンシーNO3自己採点 ② 5領域 表現	5領域（表現）の再確認
11月22日	18:00~20:00	① コンピテンシーNO4自己採点 ② 5領域 健康	5領域（健康）の再確認

12月27日	18:00~20:00	①コンピテンシーNO3自己採点 ②保育計画 振り返り	各クラス 保育計画を振り返り、新年度に向けてどのような体験が必要か理解する。
1月24日	18:00~20:00	①コンピテンシーNO4自己採点 ②一年総括：翌年度に向けて	個人とチームで一年の総括を行う。翌年度の計画に生かせる振り返りをし、翌年度の飛躍を狙う。
2月21日	18:00~21:00	①策定会議1	翌年度の方針を全員が理解する。
3月2日	9:00~18:00	②策定会議2	翌年度の行事を全員が理解する。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日~30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターンシップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉年代別勉強会

年代に合わせて毎月または3か月に1度、その年代に合わせた講習を行う。テーマは年代に合わせて幅広く設定する。知識の増補と振り返りや職員の育成状況の確認、指導方針

の統一、心理的安全性の構築方法など。

研修の担当は年代に合わせて4年目以降の職員から主任、施設長が担当する。

〈6〉リーダー会

毎月第2火曜日の14:00～14:30に、各クラスのリーダーを対象にクラス間の進むべき方向を共有し視座を合わせる。またリーダーとは何か、その立ち居振る舞いを確実に身に付け実行するための研修も同時に行う。講師は施設長が行う。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

積極的に園外に出かけ、地域の人々と様々な関わりを経験し、また、地域からも関心を持ってもらえる発信をもとに地域との関わりを深めていける計画を実施する。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：大谷ふれあい公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人施設訪問、中高校生の職場体験学習の受入れ 地域の方・園開放利用の親子との交流
異年齢交流	他園交流、小中学校生徒との交流
地域拠点活動	一時保育・ちきんえっぐ・地域行事への参加
銭湯でお風呂の日	なし

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

以下の計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。メインは大谷小学校との交流を図り、他小学校とも連携を進めていく。スムーズな就学を目的とし、保育園と小学校との接続が円滑に進む情報交換や発達・成長の様子をはじめ、子どもの姿を共有できるように働きかけていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月19日（金）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	春日市立大谷小学校 春日市立春日東小学校	4名予定	小学校との連携を確立する (各小学校)	職員間交流
7月頃	春日市立大谷小学校	30名予定	小学校の校舎を見よう/授業参観 (大谷小学校)	子ども間交流
10月頃	春日市立大谷小学校 春日市立春日東小学校	4名予定	小学校との連携を確立する (春日どろんこ保育園)	職員間交流
11月頃	春日市立大谷小学校	30名予定	授業参観 (大谷小学校)	子ども間交流 情報共有

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

支援が必要な子どもについては個別に保育計画を作成。家庭や連携機関と情報交換を密にして一人ひとりに応じた保育を行い、自らの育つ力を伸ばしていけるように支援し丁寧に関わる。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：20名予定)

毎月1回 年間計12回開催予定。日々変化していく子どもの様子を記録し職員全員での共通理解を図る。どの職員でも同じ対応で関わる。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

特に幼児クラスにおいては、就学を見据え必要に応じて関係機関との連携を図っていく。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30

子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
自然食堂…親子ランチ交流	月2回 10:00~12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月1回 10:00~12:00
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:大谷ふれあい公園

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年9月までに「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 9時00分

自己評価終了予定時刻: 16時00分

自己評価実施予定者: 内部監査室担当者、施設長、主任、保育士

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日: 8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	チーム春日をして子ども中心の保育と業務が円滑に回る組織文化をより強化し「春日どろんこらしさ」を追求していく。
	振り返り	業務が円滑に回る仕組みが整ってきたが、継続するという面では課題を感じる。組織内で自発的に判断し、行動に移す職員が増えたことで様々な考えを理解する機会が増えたことは評価できる。子ども中心に子どもの意思を尊重した職員の関わりが増えてきている。翌年度は子どもの発達を職員1人ひとりがより深く理解し、発達に沿った体験ができる保育を展開したい。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024 年度 (開園7 年目)	目指す姿	<p>業務の仕組み改善と基盤となる保育文化の完成</p> <p>【子ども】 子どもの発達と感情に寄り添う人的環境のもと、自己決定が尊重され自己肯定感が満たされている。</p> <p>【保育者】 保育の方針がチーム間で共通で理解され春日どろんこ保育園の基盤となり業務が適切に行われている。また子どもも大人もどんどん挑戦できる雰囲気となっている。</p>
	重点施策	<p>業務の細分化と仕組みづくり、またその確認。</p> <p>保育の知識と保育方針の共通理解を行う場作り。</p>
2025 年度 (開園8 年目)	目指す姿	<p>基盤を元にした発展とリーダー意識</p> <p>【子ども】 子どもの発達に沿った適切な環境が整っており、子ども自身で考え行動している。また自分に自信を持てることでお互いのことを思いやることが文化になっている。</p> <p>【保育者】 業務の仕組みが整い改善されている。またそのための諫言ができています。目指す保育の姿が共通理解されている中で、職員は自ら考え最善の行動を選択している。またお互いのことを尊重しながら穏やかな言葉遣いでチームが機能している。</p>
	重点施策	<p>子ども観の共有と議論をする場作り。</p> <p>業務における仕組みの改善、振り返り。</p> <p>諫言できる雰囲気づくり。</p>
2026 年度 (開園9 年目)	目指す姿	<p>発展と互いの思いの尊重</p> <p>【子ども】 互いを思い合いながら、共同して過ごすことが出来ている。また自信を持って子ども自身で考え行動している。</p> <p>【保育者】 業務の新たな発展の為の仕組み作りを常に心がけている。また子どもの発達に沿った適切な環境が整っており職員は自ら考え、互いの思い、を尊重しつつチームで発達への理解、知識を深め保育に生かしている。</p>
	重点施策	<p>子どもの発達に沿った適切な環境作り。</p> <p>保育の知識と保育方針の共通理解を行う場作り。</p> <p>諫言できる雰囲気づくり。</p>

以上

作成日：2024年3月31日 作成者：春日どろんこ保育園 施設長 篠原 百合香

2024年度 宮下どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

宮下どろんこ保育園は2024年度で開所7年目となる。近隣環境においては豊かな自然に恵まれ、田園風景の中を散歩したり、川遊びをしたりなど自然環境を最大限に生かしながら保育を行っている。また、地域の方々や学生とも積極的に交流を行い、地域で支えあい、見守られながら子どもたちは日々成長している。今後も、地域に根差した保育園を運営し、地域や保護者からも選ばれ続ける園を目指していくために、以下の取り事業計画を策定致します。

【どろんこ会の基本理念「にんげん力。育てます。」を念頭に置いた保育】

・ITやゲーム等が急速に普及し、間接体験が増える一方で直接体験の不足が懸念されている。保育園が幼児教育機関として認められた今、保育園で出来ることは日頃から火や水、土など本物の自然に触れることで、子ども自身が直接体験を通して五感を研ぎ澄ますこと、地域に守られていく中で交流を深め様々な世界を知り、感じることである。そのために保育者は様々な機会や学びが生まれる環境を用意していく

【誰もが主役になれる場所】

子ども、保育者、利用者、それぞれの個性や強みを生かし、一人ひとりにスポットライトを当てていく。子ども中心はもちろんのこと、時には大人が中心となりそれぞれの個性を発揮しながら、大人も子どもも輝ける場所を目指していく。そして共に学び、共に育ち、助け合う仲間と、より良い「宮下どろんこ保育園」の未来を創り上げていく。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	散歩から広がる様々な世界へ
	実践予定内容	保育園周辺の豊かな自然環境を積極的に活用していくなかで、発見や学びを得ながら想像力や探求心を培っていく。子どもだけでなく、保育者も自然を学ぶことで、自然界との付き合い方や適切な距離の取り方を学んでいく。
2	計画・ねらい	体験を経験に
	実践予定内容	様々な体験の場を用意していくことはもちろんのこと、量を増やすだけでなく、体験したことを生かせる場面を通して経験に繋げていくことが重要である。保育者は子どもにとって必要な体験やその先の経験を見据えた、ねらい、計画を立てていく。
3	計画・ねらい	みんな違ってみんないい～多様性を認め合う～
	実践予定内容	子どもも保育者も、自分とは違う価値観などを持っている人がいることを理解し、それを尊重することを知り、学んでいく。子ども同士で話し合う場を設けることや、保育者が子どもに頼る機会を増やしていくことで、子ども同士で気づき、支えあう循環を作っていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	ポートフォリオ・エピソード記録の活用
	実践予定内容	保育園での様子をより詳しく丁寧にお伝えできるよう、ポートフォリオ等の活用も行っていく。子どもの様子だけでなく、園内環境設定や保育のねらい等にも触れることで、保護者にも保育活動におけるねらいや考えを共有していく。
2	計画・ねらい	お迎え対応
	実践予定内容	<p>「012歳クラス」 エピソードのなどを交えながら、お子様の園での様子を手に取るようにお伝えしてく。</p> <p>「345歳クラス」 活動内容やお子様の姿の一部をお伝えする「キーワード伝達」を行うことにより、ご家庭での会話作りのきっかけを提供する</p> <p>乳児幼児クラス共に、子どもの体調面や様子の変化についてはより丁寧にお伝えすることで、家庭との連携を密に行っていく。 また、連絡帳やタイムライン等を活用しながら保育の様子を発信していく。</p>

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域子育て支援拠点としての役割
	実践予定内容	地域の子育て拠点として、積極的に地域へ情報を発信していく。いつでも気軽に支援センターを利用できるよう、園舎周辺の清掃や日々の挨拶等を丁寧に行うことで、地域に開かれた園を目指していく。
2	計画・ねらい	地域子育て支援拠点との連携強化
	実践予定内容	地域の子育て支援拠点及び、新たに開所される支援センターとの連携や交流を密に行うことで、地域における支援課題を抽出し課題に合同で取り組んでいく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育者同士の学び合い
	実践予定内容	保育の質向上のために研修を受講することはもちろん、職員同士で知識を共有（アウトプット）することで相互の学びに繋げていく。研修を受けるだけでなく外部に向けた研修の実施や社内外に向けた取り組み発表等も行っていく。また近隣園の内箕輪どろんこ保育園とも連携し、研修の場や交換研修等も実施していく。
2	計画・ねらい	リーダー層のマネジメント力強化
	実践予定内容	保育運営には欠かせないリーダー層のマネジメント力強化、育成について力を入れていく。リーダー会議だけでなく、マネジメントについての勉強

		会の開催や外部研修にも積極的に参加し、リーダーがミドルリーダーを育成していく循環、仕組みづくりを行う。
--	--	-----------------------------------------------------

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	木材や樹木を知り、親しみを持つ。
	実践予定内容	園庭では木登り等で樹木を活用しているが、散歩等でも木々に興味関心を向けられるよう、子どもたちと名前や木の効能について調べる。また、木の活用方法等についても調べ、子どもたちと加工等を楽しむ。
2	計画・ねらい	給食残差減少に向けて
	実践予定内容	給食残差を昨年比70%に減少させていく。そのために、日々の畑仕事を通じて食材の加工を知り、味わうなど食に興味関心を持ち、食べたくなるような環境づくりや言葉がけを園全体の取り組みとして行っていく。

〈6〉保育者の主体性

1	計画・ねらい	園全体が1つのチームとして一丸となり園運営を行っていく
	実践予定内容	クラスや事業形態の枠にとらわれず、保育者一人一人が全園児のことを考え、発言提案していける現場を創っていく。そのためにも定期的に子ども感を共有する場や、職員が保育の中で挑戦してみたいことなどを話し合う場を設けていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	16人	19人	18人	19人	90人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	2人
----	-----	-----	-----	----	-----	----	------	----

スタッフ	事務	1人	施設長	1人	主任	1人
パート スタッフ	保育士	5人	用務員	1人	嘱託医	2人

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	保育の振り返りや課題の抽出、改善に向けての討議 行事の進捗確認、園内研修等
給食運営会議	月1回	食育活動の提案や振り返り 食事環境についての振り返り、改善策の検討
事故防止委員会	月1回	自園、他園の事故記録簿を活用し、事故防止に向けての討議やハザードマップの見直し等
ケース会議	月1回	要支援児についての情報共有、個別記録、振り返り
担任会議	月1回	担任、担当同士の情報共有、相談、計画立案
リーダー会議	週1回	園全体での課題の抽出、改善に向けた討議

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	共有事項の確認及び討議
施設長勉強会	月1回	施設長の質向上に向けた勉強会
食育会議	年4回	献立内容の振り返り、改善や提案。食育活動の共有。
保健会議	年4回	感染症対策や衛生についての討議、共有
主任会議	年4回	主任としてのスキルアップ、園運営、職員育成について
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質向上に向けた研修や討議等

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生改善と疾病の予防措置、保育所の衛生全般の維持管理
安全対策係	ハザードマップの管理、設備点検、ヒヤリハット、インシデントの集計、分析
防火管理者	避難訓練、不審者訓練の計画実施、自主点検等の管理
食品衛生責任者	食品の取り扱いに関する業務、調理室、配膳用品の衛生維持管理
畑係	畑の年間計画の遂行、維持管理
生き物係	生き物の飼育、管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画、運営

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との信頼関係を丁寧に築いていき、子どもが保育者に見守られながら安心して保育園生活を送る。 子どもの個々の発達を見極め、必要に応じた言葉掛けや援助を行う。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの心情や様子を汲み取り、気持ちに寄り添った環境構成を行っていく。また子どもが自発的に試したいと思う環境を準備し、保育者が見守る中で十分に遊べるように工夫していく。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 自ら学びを考え、楽しめるような環境構成や遊具の導入等も行っていく。保育者は側で見守り、必要に応じて援助を行うことで子どもの自発的な行動を引き出していく。 友達との繋がりを広げ集団で行動することを楽しみ、自分の気持ちを言葉や行動で表現する力を養う。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢児で触れ合う中で、互いに刺激を受けながら自分たちで解決し様々なことを学び成長していく。 数量や図形、文字などへ興味関心を持つ。

保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・ 2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	火×食材
	実践予定内容	調理の原点、薪や炭を利用した調理方法を体験し、直火ならではの魅力を感じる。日頃から焚火を行い、自然の2面性を知ること、火の取り扱いを安全に身に付けていく
2	計画・ねらい	命を頂く～鶏を捌く～
	実践予定内容	運営本部MISSON2024を踏まえ、鶏を捌き食す体験を行う。実際に体験を行う際は保護者へ周知し同意を得た子どものみ参加する。体験を通して命の尊さや食のありがたさに気づく。
3	計画・ねらい	お米を知る
	実践予定内容	日本人に慣れ親しんでいるお米について学んでいく。知識だけでなく、実際に釜や飯盒、災害時の米の炊き方等を子どもたちと学んだり食べ比べたりしながら違いを知る。また、園庭の田んぼを活用し田植えや稲刈りを通して労働の大変さや食材のありがたみを知る

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導、歯磨き指導、流行性感染症の予防

流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 冬季・・・インフルエンザ、胃腸炎 等
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアアップ・・・4名より預かり済み／事務所にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在30名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員●名については4月19日までに受講予定
その他保健に関する取組	法人内外の保健に関するお知らせの掲示 基本的感染症対策の遂行

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検 (簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年1回／6・11月

運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもが探求できる環境を
	実践予定内容	子どもは遊びや生活の中で常に「仮説」を立てて「実験」し「検証」を繰り返している。その繰り返しの中で考える力や予測する力、あきらめない力などが育っていくため、子どもが常に遊びこめる、調べられる環境と時間を用意し、保育者は見守っていく。
2	計画・ねらい	園舎の環境美化
	実践予定内容	開園が7年目になり、修繕箇所が増加や汚れが蓄積されている箇所が増えてきている。早番、遅番で園舎内外の清掃点検を行うだけでなく、施設長、主任が率先し朝の清掃等も行い、園舎の美観を意識した取り組みを行っていく。
2	計画・ねらい	異年齢保育の実施
	実践予定内容	異年齢保育をより深めていくために、子ども感の共有や保育の流れ等の共有をしっかりと行っていく。乳児クラスにおいては、できる限り幼児園庭を使用し積極的に交流を図り、散歩等も日頃から合同で行っていく。幼児クラスにおいては、希望児が乳児クラスにいつでも遊びに行ける環境を用意すると共に、以上児としての自覚や期待が持てるような言葉かけ等を行っていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	対象なし	対象なし	対象なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	光化学スモッグ	市が発信する光化学スモッグ情報を随時共有するとともに、園外で活動についてはマニュアルに基づいた対応を行っていく。 園内についても窓を閉め、子ども達の健康状況について留意する。
2	水辺のリスクマ	川遊びの資格を有する職員が中心となり、川遊びやプール遊びの際の事故

	ネジメント	防止についての研修をおこなう。プール活動時期においては事故防止だけでなく事故発生時のシミュレーションを行い有事に備える。
3	応急救命	怪我の応急手当や心肺蘇生方法について学ぶ。また、職員も積極的に上級救命等の講習へ参加し資格を取得していく。
4	危険生物対策	危険生物や危険植物についての基礎知識を学び、戸外活動時におけるリスクを未然に防ぐ。また、危険生物に対する応急手当についても学ぶ。
5	防犯対策	不審者訓練実施や警察との連携を図る。 消防計画に基づいた訓練の実施、振り返りをおこなう。
6	怪我防止	ヒヤリハット、ハザードマップの集計分析を行う。他園の記録も活用することで、自園で発生しうる可能性がある事故を未然に防いでいく。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

- ・実習依頼があった園からは積極的に受け入れを行い、実習生に寄り添った指導を心掛けていく。
また、保育園側からも学校等へ積極的に関わりを行っていく。
- ・近隣の中学校、高校から依頼があった際も積極的に受け入れを行い、教員と連携しながら安心して体験学習を行えるよう配慮する。

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

新人研修		新人社員研修		スタッフ研修	
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 		<ul style="list-style-type: none"> ■新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 		<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修 (年1回) ■園内研修 (月1回以上) ■保育スキル研修 (エリア別) ■リーダー養成研修 (9~2月) ■業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会 (月1回) ■デンマークインターンシップ (年1回) ■コンピテンシー自己採点 (月1回) ■人権チェック (4月・10月) ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習 	
保育スキル研修 		←お迎え 対応研修 		←避難訓練研修	
開催日	開催時刻	名称・テーマ		ねらい・共通理解する保育課題	
4月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 新年度振り返り		・新年度の振り返りを行い、子ども感の共有や保育について討	

		③ 趣味を保育につなげる	議する。 ・ 職員の個性を保育へ最大限に生かすための手法や思考を学ぶ。
5月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保護者支援研修	・ 職員が保護者の視点になり保育や保護者支援についてディスカッション研修を行う
6月28日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺のリスクマネジメント ③ 水遊びにおける研究	・ 幼児乳児それぞれ研究課題を決め「水に関わる活動×子どもで」それぞれ研究を行う。
7月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危険生物対策研修 ③ 応急手当について ③ 水遊びにおける研究中間報告	・ 危険生物、植物に対する知識を身に付ける。熱中症対策をはじめとするファーストエイドについて学ぶ。
8月23日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育×科学 研修	・ 日常生活を科学的視点で学ぶことにより、保育内容の充実や職員の知識向上を図る。
9月27日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びにおける研究発表会	・ 「水に関わる活動×子どもで」の研究発表を行う。
10月25日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 利用者アンケートについて ③ 虐待防止研修 ④ SIDS予防研修	・ 利用者アンケートをもとに課題を抽出し、改善点等について話し合う。 ・ 11月の虐待防止月間、SIDS予防月間に向けて基礎知識研修及び他法人の事例に基づいた事故予防ディスカッションを行う。
11月22日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ポートフォリオ研修	・ ポートフォリオ作成を通して、子どもを見る視点や、自分の思いを相手に伝える技術を身に付ける。
12月27日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 感染症における基礎知識 ③ 嘔吐発生時におけるロールプレイング	・ 感染症における基礎知識を身に付けると共にロールプレイングを通して、冬の感染症拡大に備える。
1月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年間振り返り	・ 年度の振り返りを行い、残り2か月間で課題解決を行いながら、次年度へ繋げていく。

2月28日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	・ 次年度に向けての計画を行う。
3月2日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	・ 次年度に向けての計画を行う。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デンマークインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

- ・ 施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。
- ・ 法人内部、外部で実施される研修を見える化し、積極的に参加を募る。
- ・ 若手職員に向けたフォローアップ研修を施設長が年数回行う。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に根付いた園であることから、今後も近隣住民の方や、学校、老人ホーム施設等の交流を積極的に行っていく。地域を見守ると同時に見守られる園として近隣地域と密に連携を取りながら運営を行っていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：宮下公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域行事への参加、高齢者施設みのりへの訪問交流、 小中高生の体験学習受け入れ
異年齢交流	散歩先で小学生との交流、青空保育での交流等
地域拠点活動	青空保育、子育て相談、ちきんえっぐ
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

小学校に隣接している環境を最大限に生かし、小学校教諭との意見交換を積極的に行う。保育者は学習指導要領やスタートアップカリキュラムを理解したうえで、小学校への接続が円滑に行えるように意識していく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月8日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月12日	周南小学校 1年生	18名予定	・就学に向けての授業見学 と情報交換会 ・特別支援学級の見学実施	子ども間交流 職員間交流
6月13日	周南小学校 1年生	18名予定	・就学に向けての授業見学 と情報交換会 ・特別支援学級の見学実施	子ども間交流 職員間交流
1月22日	周南小学校 1年生	18名予定	「小学校ってどんなところ？」校舎内探検予定	職員間交流
2月21日	周南小学校 校庭	18名予定	校庭探検予定	職員間交流

3月19日	周南小学校	18名予定	児童要録を基に園児の引継ぎを行う予定	(教職員保育士間連携)
-------	-------	-------	--------------------	-------------

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

個別支援計画を立案し、具体的な対応を職員間で共有していく。

保護者との面談の重視し、子どもの成長発達を同じ視点で得られるようにしていく。

〈2〉 毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：10名予定)

配慮が必要な児についての共有や関わりについて職員間で話し合いを行う。

発達支援つむぎと連携し、情報と支援の在り方を共有しながら支援していく。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

進級に際し支援が必要な子どもに対しては早期相談の場を求め、擁護教諭や発達支援担当スタッフへの引継ぎを行う。

通所など必要と感じられた場合は、保護者の同意を得て発達支援つむぎ宮下ルーム及び関係者への相談を行い、安心して通える状況を構築する。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(金) 9:30～16:30 10:00～12:00と13:00～16:00の計5時間は2名の職員を配置とし、その他時間帯は自主事業として実施する。
子育て相談	(月)～(金) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(金) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：宮下公園にて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年10月7日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：13時00分

自己評価終了予定時刻：14時00分

自己評価実施予定者：羽澤佑太・佐藤宏美・高橋美桜

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月26日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	保育園、つむぎが一体となり、子どもや職員が分け隔てなく過ごすことで「大きな家」を実現していく。
	振り返り	職員間でビジョンを明確にし、子どもの主体性や安全を第一としたうえで大人を含めた異年齢保育、インクルーシブ保育を日常的に行っていく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	園自治～法人モデル園を目指して～
	重点施策	保育の質やインクルーシブ、職員の知識技術向上や園の美観などを総合的に高めていくことにより、法人のモデル園としての確立していく。結果、実習生の受け入れ拡充や地域や保護者からも選ばれる園として宮下どろんこ保育園を全員で作り上げていく。
2025年度	目指す姿	自立した、保育のプロ集団をめざして
	重点施策	職員一人ひとりが保育に対する思いを持ち、互いに認め合いながらチームとして、子どもにとって最善の利益を考えながら保育を行う。研修を受けるだけでなく、自身の経験や知識をアウトプットすることで共に学び合い、保育の質を深めていく。
2026年度	目指す姿	地域の子育て支援拠点として積極的に外部発信を行い、地域との連携を密におこなっていく。地域の子どもを見守り、見守られる関係性を深めていく。

	重点施策	社会、地域の子育て環境における課題を抽出し、必要とされる支援や連携を図る。園庭開放や、ちきんえっぐを利用される方とも積極的にコミュニケーションを図り、いつでも安心して相談等が行える関係性作りを行う。
--	------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

以上

作成日：2024年1月31日 作成者：宮下どろんこ保育園 施設長 羽澤 佑太

		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の子どもの活動をタイムラインやポートフォリオで作成しいつでも見られるようにしていくまた、保護者には面談や保育参加の機会を多く持つ。 ・保護者懇談会の場で、保育者が大切にしている保育のポイントや日頃の活動の様子など分かりやすく伝える。 ・うちのこアプリを活用し、子どもの育ちが分かるように伝えていく。
2	計画・ねらい	保育参加、個人面談の実施
	実践予定内容	保護者にしっかりと寄り添い子どもの状況、時には課題について共に理解し、家庭と園とが同じ目線での育ちを保障していく。
3	計画・ねらい	保護者との「共育て」の意識を高める。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを軸においた対話的なやり取りを通し、子育ての楽しさや成長、喜びを互いに感じられる支援や情報提供をする。園で行っていること、大事にしていることを保護者と共有し、常に保護者と共に育てていくという意識を持てるよう、ドキュメンテーション型の発信（園内掲示・タイムライン）していく

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	選ばれる園を作り。
	実践予定内容	いつ見学者が来ても良いように、親切・丁寧な入園説明や案内など、どの職員でも自園の保育を自分の言葉で伝えられるようにすると共に、スタッフがやりがいを持ち、働きやすく、保護者・地域・自治体の方から愛され、評判がよい園づくりをしていく。
2	計画・ねらい	園庭を活用した火・水・土の直接体験の提供
	実践予定内容	水遊び、どろんこ遊び、畑仕事、たき火など園の環境を最大に生かした火・水・土の直接体験を提供、体験していく。
3	計画・ねらい	地域に開かれた子育て内容の実現や美観を通し選ばれる施設を目指す。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントだけでなく園庭開放や室内開放での子育て支援事業と、保育事業が混ざった環境の保証をする。 ・保護者・来訪者がいつ見ても気持ちの良い環境を整え、選ばれる施設を目指す

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	リーダー層の職員が若手職員の育成担当としての役割を担う
	実践予定内容	人材育成の役割をリーダー層の職員が担当し、職員の目標設定、業務確認、進捗確認のサポートを行う。また、保育の質の向上や職員のチーム保育を進めるための園内研修の企画、運営を担っていく。
2	計画・ねらい	チーム力を高める
	実践予定内容	全職員が全ての子どもを見守り、保育する環境を作る。また、保育の質の向上、チーム保育作りに本気で向き合い、本音で話し合いができる関係を作る。
3	計画・ねらい	スタッフのMBO目標設定から達成までマネジメントする。
	実践予定内容	スタッフが主体的に考え行動する中で、進捗状況を確認しながら、課題が

		あれば何が原因か見極め働きかけていく。またスタッフの特性、個性、長所を活かしていく。
--	--	--------------------------------------------

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	一人ひとり目的をもって登園し、充実して過ごせる環境作りを行う。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園舎、園庭も含めた「大きなみんなのお家」の中で、「居たい場所」「一緒に居たい人」の選択を担保する。 ・遊びの選択肢が充分にあるよう様々な素材を準備し、園庭でも様々な工夫や創造ができ、遊び込めるような環境作りと素材の充実を図る。
2	計画・ねらい	心地の良い環境を整えよりよい子どもの育ちへとつなげる。
	実践予定内容	・園内環境の整備・美観に努め、各係で子どもの育ちに関連付け日々を振り返り環境整備と連動して取り組む。

〈6〉発達支援 つむぎつつじヶ丘ルームの連携

1	計画・ねらい	同じ空間での生活
	実践予定内容	マンスリーで通所するお子さんも保育園の活動を共にし、保育園に通う子どもたちと同じ空間で生活できるようにする。
2	計画・ねらい	インクルーシブ保育を目指す。「誰もが自由に行き来する大きな家」
	実践予定内容	園のスタッフ、つむぎのスタッフが壁をなくし、すべての子どもと一緒に見ていきそれぞれの目線で子どもを把握していくために振り返りや連携を強化する
3	計画・ねらい	子どもをとらえる質の向上を目指す
	実践予定内容	子どもの動きや遊びを観察し、どのような心の動きがあるのか、どのような関わりがあるのかをエピソードとして記録し共有していく

〈7〉「見守る」「やって見せる」 原体験を組み込んだ保育の実践

1	計画・ねらい	考える保育
	実践予定内容	実践予定内容 「できる」「できない」ではなく、相手の姿を捉え「このやり方ならできる」「こんなやりかたもある」と他者肯定を基本とする視点を持つ
2	計画・ねらい	「try&error」
	実践予定内容	「大人がやってみる」ことで子どもたちは興味を持って様々なことに挑戦することができる環境を作り、また、「try&error」を繰り返すことで子どもたちは経験を通して生きる力を身につける機会とする。

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	15人	18人	18人	18人	18人	93人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	14 人	看護師	0人	栄養士	3人
パート スタッフ	保育士	5人	用務	1人	事務	1人

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	事例検討会、園内研修、ケース会議、行事進捗
給食運営会議	月1回	献立、離乳の振り返り共有・アレルギー対応・衛生点検
事故防止委員会	月1回	他園自園の事故記録簿考察・インシデント考察・ヒヤリハット考察・分析・検証
ケース会議	月1回	子どもの様子の共有・関係機関との連携
コンピテンシー会議	月1回	・自らの課題を認識し、チームとして解決に向けて話し合う
リーダー会議	随時	月案・週案ねらいの確認・様子の報告・課題の共有
クラス会議	週1回	保育計画の振り返り・立案・子どもの様子の共有

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
--------	----	------

施設長会議	月1回	法人全体での課題解決・業務連絡
施設長勉強会	月1回	意見交換・ディスカッションでの学び合い
食育会議	年4回	法人全体で給食改善を目指した意見交換・ディスカッション
保健会議	年4回	法人全体で園児健康管理業務改善を目指した意見交換・ディスカッション・流行的感染性の把握・新型コロナウイルス対策
主任会議	年4回	主任としての意見交換・ディスカッションでの学び合い
子育ての質を上げる会議	月1回	法人の保育の質向上の為の講義・意見交換・ディスカ

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康維持・温度・湿度・換気確認 ・感染症発症の予防策を実施 ・園内の清潔区域（調乳室/調理室）と汚染区域（トイレ・オムツ交換場所 シャワー室・沐浴室・トイレ後の着替え場所・感染症流行時居室）の安全と衛生管理 ・職員の検便
安全対策係	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練（毎月）、不審者侵入訓練（6月/11月）の実施報告書確認 ・設備安全点検（5月・7月・9月・11月・1月・3月の25日） ・事故防止自主点検（4月・7月・10月・1月の25日） ・園内外、公園のハザードマップの更新（3月・随時）
防火管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・消防計画作成と届出 ・安全対策係の任命 ・自衛消防組織作成 ・防災用備蓄品の確認（6月・12月） ・自主点検チェック表（日常）
食品衛生責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理、点検作業の実施 ・食育会議の計画、実践 ・「作業手順書」と「作業結果の記録」の作成
畑係	畑の年間計画の遂行、管理維持、子どもたちを巻き込み活動をおこなう。
生き物係	ヤギ、ニワトリをはじめとする飼育物全般の管理、維持、子どもたちへの働きかけ

物品管理	<ul style="list-style-type: none"> ・勝手籠の管理、落とし物の管理 ・衛生用具の管理（在庫管理、発注）
環境係（室内、園庭）	<ul style="list-style-type: none"> ・室内外の園庭、遊具の清掃点検、施設の清掃状況の確認、指示 ・室内外の設備危険個所の点検 ・破損個所の補修、地震時の落下防止、遊具・設備・樹木等の安全点検
アルバム係	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の確認、写真販売、卒園アルバムの作成

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	園主体としながらも、保護者ボランティア（どろんこサポーター）とも連携し準備運営を行って行く
環境改良チーム	保育環境の発展、整備をどろんこサポーターズと連携した環境改良の計画と実行

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者等に見守られながら、好きな遊びを楽しむ ・子どものそれまでの経験や発達過程に留意し、子どもの気持ちを受容し、共感しながら継続的な信頼関係を築いていく ・スタッフ間の連携や嘱託医との連携を図る ・栄養士・看護師は、その専門性を生かした対応を図る
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・土や水等に触れ、全身で感触を楽しみ、感性を育む ・安心できる保育者等の関わりの中で人への基本的信頼関係をもち、人間関係の基礎を培う ・個々の発達の状況を捉え、生命の保持と情緒の安定を図り、生活リズムを作る ・スタッフ間の連携や嘱託医との連携を図る ・栄養士・看護師は、その専門性を生かした対応を図る
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身に付け、喜びながら意欲的に生活する ・友達との繋がりを広げ、集団で行動する事を楽しむ ・異年齢で生活をする中で思いやりの心、協力し合う心を養うと共に達成感を知る
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境や自然などに自ら関わり、様々な事物や事象と自分達との生活との関係に気付き、それらを生活や遊びに取り入れ、生活の

		<p>経験を広げる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校以降の生活や学習の基盤の育成に繋がることに留意し、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培う <p>(幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を考慮する)</p> <p>友達と歌を歌ったり合奏したりすることで、ひとつの物を作り上げる楽しさを知るとともに、動きや言葉などで表現したり演じたりする楽しさを知る</p>
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

どろんこ会の3大食育方針

- (1) 調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる
- (2) 噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する
- (3) 子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる

1	計画・ねらい	子どもが食に対して興味・関心が持てるよう日々の保育の中で積極的に食育活動を取り入れていく。
	実践予定内容	旬な野菜を取り入れたクッキングや、畑で収穫した野菜を素材の味を活かし子ども達に提供する。
2	計画・ねらい	月1回の給食会議にて情報の共有を行う。
	実践予定内容	離乳食の進み具合や食事の状況を確認し、発達に合わせた援助を行っていく。
3	計画・ねらい	火×食材
	実践予定内容	調理の原点、たき火を活用したクッキングを行っていく。たき火ならではの不便さや香ばしい匂いを感じると共に、火の温かみや適度な緊張感も味わう

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回(6月・12月)
--------	-------------

歯科検診	年2回（5月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いの歌を一緒に歌いながら行うことで、手洗いに親しみを感じ正しい方法を伝えていく。また、バイキンスタンプや手洗いチェッカーを使って可視化することで、意識の向上を図る。 ・手洗い、うがい、歯磨きの意味を絵本や紙芝居で伝え、正しい方法を伝えていく。
流行が予測される感染症	<p>感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施</p> <p>12月頃・・・インフルエンザ、胃腸炎</p> <p>1月頃・・・インフルエンザ</p>
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	<p>ダイアップ・・・1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管</p> <p>抗アレルギー薬・・・1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管</p>
エピペン使用できるスタッフ	<p>本日現在23名が、研修受講し、修得済み</p> <p>未受講の新入職員 名については3月までに受講予定</p>
その他保健に関する取組	<p>ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。</p>

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日

	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年2回／5月・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもが自分で選択して遊ぶ場所・遊ぶものを決めることが出来る環境を整備する。
	実践予定内容	環境整備を分担し、月毎に振り返り・更新を行う。また子どもたちの発達や、年間を見通した計画的な更新を継続する。
2	計画・ねらい	生き物や植物が育つ力を持った園庭作り。
	実践予定内容	落ち葉やたい肥を子どもたちと一緒にすき込み、植物が育ち虫が集まる園庭を目指す。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	図書館用の本棚	エントランス	毎日
2	長椅子(4台)	縁側、エントランス	毎日
3	おままごと机(1台)	ひえ組保育室	毎日
4	ピーステーブル(2台)	エントランス	毎日
5	お茶台(2台)	縁側	毎日
6	飼育ケース台	縁側	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し避難訓練を月1回実施。震度5弱以上の際は園が情報を発信し、安否・施設状況・避難先を情報共有する体制をとる。帰宅困難者対策を踏まえ、災害に備える。
2	実践予定内容	事故防止チェックリストについて、年4回設備点検6回を行い、事故防止の徹底を図る。
3	実践予定内容	インシデント・ヒヤリハット報告の分析
4	実践予定内容	法人内で事故報告を共有し、事故防止策を探る
5	実践予定内容	年2回防犯チェックリストに従い、確認し合わせて不審者訓練を実施。訓練は避難訓練・不審者訓練・通報訓練としスタッフ全員を対象とする
6	実践予定内容	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・光化学スモッグ注意報を把握し、発令があった場合は内容にあった情報を発信する。園児・スタッフは室内で過ごす。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の中の保育園という意識や次世代育成の観点から、積極的に受入れを行っていく。

1	実践予定内容	実習指導者は学生の指導を通して、自身のリーダーとしてのアウトプットスキルやファシリテーションスキルを向上させる。
2	実践予定内容	実習生一人ひとりに合わせた温かい受入れ体制を整え、実習担当だけでなく、職員全体でコミュニケーションをとり育成していく。
3	実践予定内容	その日毎の気づきや疑問に対し、丁寧な振り返りを行い、翌日の実習に生かせるような指導を行う。

7. スタッフ育成と研修計画

月1回の園会議では一人ひとりが発表できるテーマの場を設け保育を語れるスタッフ育成を行う。また、活発な意見交換と適切なフィードバックから、保育者が自分の強みとなるよう、また保育へのやりがいを感じる場とする。自分とは違う考えも受容し、それぞれのファシリテート力を伸ばす

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

新人研修	新入社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■新入社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修 (年1回) ■園内研修 (月1回以上) ■保育スキル研修 (エリア別) ■リーダー養成研修 (9~2月) ■業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会 (月1回) ■デンマークインターンシップ (年1回) ■コンピテンシー自己採点 (月1回) ■人権チェック (4月・10月) ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00~20:00	①園内研修「健康な心と体」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	・保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 ・リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
5月16日	18:00~20:00	①園内研修「思考力の芽生え」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	・保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 ・リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
6月20日	18:00~20:00	①園内研修「自立心」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有 ⑤水遊びのリスクマネジメント研修	・リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施 ・プール開きに向けて水辺の研修を行い事前にリスクを共有する。
7月18日	18:00~20:00	①園内研修「自然との関わり、生命尊重」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	・保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 ・リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
8月15日	18:00~20:00	①園内研修「協同性」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会	・保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 ・リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施

		④行事共有	を促すのかの理解と実施
9月19日	18:00~20:00	①園内研修「数量と図形標識や文字などへの関心、感覚」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	・保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 ・リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
10月17日	18:00~20:00	①園内研修「道徳性、規範意識の芽生え」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	・保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 ・リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
11月21日	18:00~20:00	①園内研修「言葉による伝え合い」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	・保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 ・リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
12月19日	18:00~20:00	①園内研修「社会性との関わり」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	・保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 ・リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
1月23日	18:00~20:00	①園内研修「豊かな感性と表現」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	・保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 ・リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
2月	18:00~20:00	① 策定会議一回目	今年度の課題をもとに次年度の園目標、方向性を決定し、行事のありかたについて話し合う。
3月	18:00~20:00	① 策定会議二回目	今年度の課題をもとに次年度の次年度の行事を具体的に決めていく。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デスマークインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

- 1 個人・チームのあらゆる業務で目的を明確にして目標設定を行う
- 2 業務設計を行い、詳細な計画を立てる
- 3 業務ごとに振り返りの時期・日程を設定してPDCAのサイクルを一つひとつ回していく
- 4 リーダー層のスタッフが若手スタッフの育成担当とし目標設定、業務設計、進捗確認のサポートの役割を担う。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

月1回「ちきんえっぐだより」を発行し、年間計画のもと地域交流を行う。また積極的に園外に出かけ、地域の人々と様々な関わりを経験していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：中原もみじ防災公園公園にて
商店街ツアー	週1回

世代間交流	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携を積極的に行い、多様な年齢層との交流の中で人との繋がりを大切にしていく。「物おじせず、誰とでも目を見て話ができる子ども」を育む。 ・お年寄りを大切にする優しい心を育む
異年齢交流	小学校、中学校、近隣保育園との交流
地域拠点活動	どろんこ祭り 子育て支援事業「ちきんえっぐ」 青空保育・地域に向けた子育てスキル講座
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

幼保小連絡会に参加し、子どもたちが小学校へ安心して就学できるよう、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを共有しながら積極的な情報交換や意見交換を行う。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	滝坂小学校 1年	20名予定	滝坂小学校	子ども間交流
10月頃	上ノ原小学校 1年	20名予定	上ノ原小校庭	子ども間交流
2月頃	緑ヶ丘小学校、滝坂小学校	20名予定	緑ヶ丘小学校校庭、1年生交流	子ども間交流
2月頃	滝坂小学校 1年	2名予定	保幼小連携	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

関係機関の機能を有効に生かし、子どもが健やかに成長すること、保護者が安心して子育てできることを目指す。毎月クラス会議を行い、その都度どのように支援を行っていくかを話し合っ進めていく。

〈2〉毎月のケース会議開催

4～3月に計12回開催予定 参加者：園長、主任、幼児担任、つむぎスタッフ 計7名予定
ケース会議の内容は全職員が確認し共有していく

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

個別支援計画を基に進級、小学校への引き継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	月2回10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月2回以上10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：中原もみじ防災 公園にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年3月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻： 9時00分

自己評価終了予定時刻： 10時00分

自己評価実施予定者： 木下里佳、市川真己、 、 、

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	併設園としての連携を行うなかで保育園とつむぎの壁をなくし、すべての子どもを中心に考えそれぞれの見方で子どもを捉え情報共有をしていく。大人も子どもも共感力を身につけ、雰囲気、居心地のいい大きな家作りを目指す保育園とつむぎ共同でインクルーシブ保育の実践と土台作りをする
	振り返り	併設園として土台作りを行う中で、連携はまだまだ不十分と感じる1年だったので、来年度の課題として引き続き取り組んでいく。また、大人も子どもも共感力を身につけ、雰囲気、居心地のいい大きな家作りを引き続き継続した目指していく

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	【子どもを真ん中におく保育】＝向上の年（にんげん力UP）
	重点施策	インクルーシブ保育の向上を目指す。異年齢で生活しているが各年齢の発達、子どもの興味、乳児と幼児の遊びの保障を考えた上で、現場での意見交換を活発に行いよりよい環境作りをしていく。
2025年度	目指す姿	【子どもを真ん中におく保育】＝定着の年（にんげん力UP）
	重点施策	ゾーン保育、チーム保育の定着を目指す。子どもたちが一緒に暮らし、大きな家の兄弟姉妹のように関わっていく。園全体を自由に行き来し、自らが遊びを選び、没頭して遊べる環境を保育者が整える。
2026年度	目指す姿	【子どもを真ん中におく保育】＝充実の年（にんげん力UP）
	重点施策	子どもが主体的にやりたいことを提案し、実現に向け考える力を育む。また大人はそっと子どもたちに寄り添える環境を用意する。

以上

2024年度 前原どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

開園して6年目を迎え、今年度からは発達支援施設つむぎ前原ルームを併設する。保育園を大きな家として、0歳から5歳児が安心して過ごし、好きな遊びを選べる環境を保証していく。障害を持った子ども、持たない子ども、混ざり合いながらホンモノの経験をする、インクルーシブ保育のあり方を日々研鑽し、生きる力のある心も身体もたくましい子どもを育てていく。また、地域とのかかわりを大切に、地域から選ばれる「地域一番園」を目指していく。

法人 保育理念：「にんげん力。育てます。」

保育方針：「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

前原どろんこ保育園 【目指す子どもの姿】

- ・挑戦と失敗を楽しみ、表現する子ども
- ・思いやりと感謝の気持ちを持つ子ども

【目指す保育者の姿】

「あなたはどうか」大人も主体性～考え、学び、動く、自立した集団～

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	日課・基本活動の充実
	実践予定内容	日課（雑巾がけ、さくらさくらんぼリズム体操、座禅、畑仕事、生き物の世話、散歩）を充実させる。 日課・基本活動の意義を職員が理解し、活動の意味を深めながら、子どもと実践していく。
2	計画・ねらい	子ども主体の保育の実践
	実践予定内容	子どもの発達を理解し、個々の発達を尊重した保育計画を立てる。 子どもの姿を記録に取り、スタッフ間で共有、意見交換する。
3	計画・ねらい	子どもたちの好奇心をくすぐる環境設定
	実践予定内容	日々の保育の連続性を大切に、見通しを持ち生活ができるよう環境設定を行っていく。 子どもたちの「不思議」「知りたい」「試したい」が実現できるような仕掛けや体験を用意していく。 感動体験を経験することで、挑戦する意欲や探求心を育てていく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	安心できる保護者対応
---	--------	------------

	実践予定内容	連絡帳、タイムライン、ポートフォリオなどを用い、園での子どもたちの様子がわかるよう積極的に発信し、伝える機会を増やしていく。
2	計画・ねらい	丁寧な保護者対応
	実践予定内容	おもてなし（思いやり、誠実さ、謙虚さ、感謝）接遇の研修 一日の様子や子どもの成長が感じられる3分間対応
3	計画・ねらい	保護者同士が関わり、仲良くなれる憩いの場
	実践予定内容	保育活動の積極的な参加を促す（保護者懇談会、行事等） 保護者同士の会話が弾むよう、間に入り橋渡しをする役割を担う。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援の実現
	実践予定内容	園庭開放やちきんえっぐ活動、園見学等で来園、利用された方に関しては継続してきていただけるよう積極的にかかわっていく。
2	計画・ねらい	一時保育、児童発達支援施設つむぎ事業の円滑な運営
	実践予定内容	スタッフ全員が子育て支援について共通意識を持ち、一時保育、発達支援つむぎと連携しながらコミュニケーションを図っていく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	職員一人ひとりの年間の抱負、MBOを明確にする。
	実践予定内容	スタッフは面談や前年度の振り返りから、個々の目標設定を設定し、通年で取り組むテーマを決定する。 個人MBOは同じ目標を掲げている職員もいるため、共有しながら高められるようにしていく。（年間抱負、MBOの掲示）
2	計画・ねらい	分野別リーダーの育成
	実践予定内容	園の課題を提起し、その課題を自分事としてとらえ、常に考えながら改善に向け行動する力のある職員集団を育成する。 接遇リーダー、コンピテンシーリーダー（内部監査）、業務効率化リーダー、を立て、リーダーを中心に保育園をよりよくするための提案、実践が行える仕組み作りを計画的に行っていく。

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環、環境への意識を育む環境教育を実践する。
	実践予定内容	子ども自ら田植え、稲刈り、野菜の種まき、収穫を経験する。 （梅干し、味噌、たくあん、ケチャップ、マヨネーズなど） 命をいただく （鶏を絞める、魚をさばく）
2	計画・ねらい	食の循環サイクルの実行
	実践予定内容	食の残渣を記録し、グラフで可視化や実際に天秤に乗せるなどし、子ども

		が関心を持ち残渣が少なくなるよう工夫する。 コンポストを設置し、調理くずやヤギの糞を利用した肥料の生産、利用を行う。
--	--	---------------------------------------------------------------

〈6〉インクルーシブ保育の実践

児童発達支援事業との併設園である強みを最大限活かせるよう、両施設のスタッフがともに子ども一人ひとりをよく見て必要な援助を行う。また両施設の相互の関係性や協働が十分に発揮される土台作りを行う。

1	計画・ねらい	園、つむぎの子ども一人ひとりを多面的に捉え、肯定的に子どもを理解しようとする。
	実践予定内容	園内研修で子どものエピソードを基にした考察の機会を設ける。 話し合いの場を多く持ち、子どもの発達理解に努める。
2	計画・ねらい	自然に協働するチームの構築
	実践予定内容	普段の保育活動、行事、研修、会議等施設内のおおむねの物事において、ともに協力しあう体制をとり、互いの専門性を活かしながら、地域に必要とされる施設になる土台を築いていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
12人	18人	18人	24人	24人	24人	120人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	施設長	1人	主任	1人	栄養士	2人	調理員	2人
	保育士	16人	看護師	1人	事務	1人		
パート スタッフ	保育士	2人	補助	0人	調理	0人	用務	1人

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	園内研修、コンピテンシー考察
給食運営会議	月1回	喫食状況確認、アレルギー児確認、食育指導
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデントの前月分検証、法人内で起きた事故の共有、危機管理、安全対策
ケース会議	月1回	気になる子についての状況共有、支援計画書の見直し
リーダー会議	月2回	園の課題を抽出し、解決策を検討
週会議	週1回	各クラスの情報共有、行事の検討
週案会議	週1回	全クラスの保育計画の調整と連携

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人内の共有事項、意見交換、事故防止委員会
施設長勉強会	月1回	職員育成、保育の質の向上を目的としたディスカッション、課題の取り組み共有等
食育会議	年4回	法人全体での食育活動の共有、意見交換、成果発表 等
保健会議	年4回	保健衛生に関する事項についての共有、意見交換 等
主任会議	年4回	職員育成・保育の質の向上を目的としたディスカッション 課題の取り組み共有 等
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質向上を目的としたディスカッション 課題の取り組み 等

〈3〉 各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内の衛生管理、清掃及び備品の管理・発注・感染症予防・拡大防止策の実施、園児の健康管理と保育者への発信

安全対策係	避難訓練・消火訓練・不審者侵入訓練の実施、施設内外の設備点検・事故防止点検の実施、ハザードマップの作成・更新
防火管理者	消防計画の作成、それに基づく各種訓練の実施
食品衛生責任者	食材発注、給食提供食材の衛生管理と在庫状況の把握
畑係	畑・田んぼの年間計画作成と実施、用具類の管理と補充
生き物係	鶏、ヤギの健康管理、飼育環境の整備・改善 命の尊さや自然事象への関心を広める機会の設定

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	祭りの計画・実行、地域への広報
運動会係	運動会の計画・実行、地域への広報
生活発表会係	生活発表会の計画・実行、地域への広報

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの生理的欲求を満ち、情緒の安定を図る 子どもの興味関心に寄り添った遊びの提供、新進ともに安心して遊べる環境の中で、五感の感覚を育み探索活動を楽しむ
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> 応答的な関わりを大切にしながら、発語を促し情緒の安定を図る。 自分でやろうとする気持ちを大切に、時間がかかっても最後まで頑張ろうとする思いに寄り添い、達成感を共有する ハイハイや歩ける範囲の活動を大切に、発達段階を踏まえて全身を使って遊びこむ活動を十分に尊重する
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 安心して夢中になって遊びこめる時間を十分に配慮し、機会を排除しすぎない保育を心がける。 自己を十分に発揮し、活動を通してやり遂げる喜びや自信が持てるように配慮する
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちや経験を自分なりの言葉で表現することの大切さに留意し、友だちと伝えあったり話し合ったりすることの楽しさが味わえるようにする 感じたことや思ったこと、想像したことなどを様々な方法で自由に

		表現できるような環境設定に留意する
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・ 2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	実体験を通して食や食の循環について興味関心を持つ
	実践予定内容	鶏やヤギの糞、廃棄食材で肥料を作り、畑に使用して、食の循環を認知する ・ 季節に応じた作物を育てて畑活動の充実を図り、失敗と成功を経験しながら、作物が育つまでの世話の大変さ、収穫、食すことのうれしさや喜びを感じられるようにする ・ 食材を加工し、手間をかけることで食べられるものや長期保存できるものを知らせ、魚の解体を通して命をいただくことの意味を実体験として伝えるなど食の知識を学びながら食べることの大切さを学んでいく
2	計画・ねらい	・ 食べる意欲を育てる
	実践予定内容	・ 食べたい環境を自分で選択できるようにし、共に食べる喜びを感じながら心地よく食事を楽しめるようにする ・ バイキング給食を実施し、自分の食べたいものを自分で盛り付け、自分の食べきれぬ量を知る ・ 日々の活動の中で、空腹感を感じることでできる活動を保証し、食欲につなげる。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（5月・11月）
歯科検診	年2回（6月・12月）
保健だより	月1回（25日）発行

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導、歯磨き指導、体の仕組み、等
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6から8月頃・・・胃腸炎、手足口病、プール熱 1から2月頃・・・インフルエンザ、溶連菌、胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・0名より預かり済み
エピペン使用できるスタッフ	本日現在26名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については4月の園会議までに受講予定
その他保健に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の子どもの健康状態の把握、近隣園、地域での感染症流行情報の把握、情報発信 ・生存確認、嘔吐処理、おむつ交換、与薬、アレルギー食の提供、定期的なロールプレイを実施 ・新型コロナウイルス及び他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また、消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日

	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／5・10月 歯科健診 年2回／6・12月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	一人ひとりにあった教育的意図を持った環境構成（室内・戸外）を考察し続ける
	実践予定内容	子どもにとって最適な環境設定を行うために月1回保育Webマップを用いて、子どもの興味関心を理解するため、の会議を行う
2	計画・ねらい	防犯、防災、怪我防止の視点での事故防止チェック、設備点検を定期的に行い、破損などは速やかに修繕する
	実践予定内容	様々な視点で点検できるように交代で行う。 門のカギ閉めの注意喚起を定期的に行う
3	計画・ねらい	保護者、来訪者が見ても、気持ちの良い環境を維持する
	実践予定内容	清掃分担チェック表を利用し、園全体の清掃に努める

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	マルチ棒	屋上園庭倉庫	毎日

5.危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容 【防災】	・危機管理マニュアルの災害対策に則り、月1回の避難訓練を行い、火災・地震の避難方法を確認する
---	----------------	------------------------------------------------

		<ul style="list-style-type: none"> ・アプリの災害時緊急掲示板を使って、安否情報（園児数・保育者数・ケガ人・建物の被害状況・避難場所）を書き込み、保護者と情報共有する体制をとる
2	実践予定内容 【ケガ事故防止】	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット・インシデント報告書の運用を徹底し、事故防止委員会で検証を行い、事故を未然に防ぐ ・事故防止委員会を毎月行い、同グループ内で起こった事故状況を共有し、事故防止策を探る ・ハザートマップを作成・更新し、ケガや事故防止に努めていく
3	実践予定内容 【防犯】	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回不審者侵入訓練を行う ・日々の生活の中でも常に不審者を意識することが大切であり、散歩時における対応も意識統一しておく（笛の携帯・代理送迎者の把握など）
4	実践予定内容 【光化学スモッグPM2.5】	<ul style="list-style-type: none"> ・光化学スモッグ、PM2.5の知識を身に付け、発生時には光化学スモッグ発生時対応、および行政連絡に従い対応する

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;">←お迎え 対応研修</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;">←避難訓練研修</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修（年1回） ■ 園内研修（月1回以上） ■ 保育スキル研修（エリア別） ■ リーダー養成研修（9～2月） ■ 業務改善研修（月1回） （＝保育の質を上げる会議） ■ 施設長勉強会（月1回） ■ デンマークインターンシップ（年1回） ■ コンピテンシー自己採点（月1回） ■ 人権チェック（4月・10月） ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習

で
ま

一
般

司
を

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月12日	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点 保育理念・日課の理解 子どもの人権について	保育の振り返り、共有を行う 保育のねらいや計画の重要性 園全体としての課題を抽出し改善に 向けて話し合いを行う
5月10日	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点 インクルーシブ保育について 学ぶ	インクルーシブ保育への理解 つむぎ担当 園全体としての課題を抽出し改善に 向けて話し合いを行う リズム研修
6月14日	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点 リスクマネジメント研修 保護者支援	プールや水遊び活動時におけるリス クの抽出や活動の見守り方について 学ぶ
7月12日	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点 0歳：3つの視点	乳児リーダーによる研修 園全体としての課題を抽出し改善に 向けて話し合いを行う
8月9日	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点 5領域について	幼児リーダーによる研修 園全体としての課題を抽出し改善に 向けて話し合いを行う
9月13日	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点 小学校との接続	就学リーダーによる研修 就学前教育の意義の必要性 「架け橋プログラム」の理解を深め る
10月11日	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点 虐待防止研修	事業計画進捗状況確認 虐待防止研修 安全計画・人権チェック
11月8日	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点 相手の視点から考える接遇	接遇リーダーによる研修 園全体としての課題を抽出し改善に 向けて話し合いを行う
12月13日	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点 今年度の振り返り①	園全体としての課題を抽出し改善に 向けて話し合いを行う
1月10日	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点	今年度の振り返りを行い、次年度へ

		今年度の振り返り②	つなげていく
2月	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点 策定会議	次年度に向けての計画を行う
3月	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点 策定会議	次年度に向けての計画を行う

エリア研修予算内訳（園合同開催）

開催日	予算	予算の内訳		例) ●園で按分した自園負担額
6月23日	12000円	交通費（前原⇄石川）	360×25 円	3園での命を頂く職員研修 食材費は分担 1000円
		食材費	3000円	
1月25日	12000円	交通費（前原⇄石川）	360×25 円	3園での命を頂く研修 （親子参加行事） 食材費は分担 1000円
		食材費	3000円	
合計	24000円			2000円

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											

デノマークインターソップ

希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

青空保育、商店街ツアー、散歩時など、基本活動の際に、地域の方との交流を大切にしながら、異世代交流、シルバー交流を行っていく

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：前原公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人ホーム訪問、ボランティアや行事を通じた学生との交流
異年齢交流	青空保育時や近隣の小学生との交流
地域拠点活動	青空保育、ちきんえっぐ運営
銭湯でお風呂の日	実施なし

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

うるま市の方針に基づき、近隣保育園との年長児交流や情報交換、また、小学校を知るための取り組みを積極的に行う。「5歳児と小学校1年生との年間連携計画」に沿って、子ども間、スタッフ間の交流を深める。アプローチカリキュラムを保育計画に取り込み、小学校への接続がスムーズになるような学びに向かう準備をしていく

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	うるま市保幼小連携会議	1名予定	進学先学校	職員間交流
9月頃	小学校、保育園	職員	勉強会	職員間交流
1月頃	近隣小学校お招き会	24名予定	進学先にて交流	子ども間交流
2月頃	うるま市保幼小連携会議	2名	進学先学校	職員間交流を行う

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

つむぎ前原ルームと連携しながら、共に子どもたちを見る中で、要支援児の個別支援計画、課題の整理表を作成し、多様な人との関わりの中での子どもの姿、変化をスタッフ同士で共有し、多様な視点から、子どもを援助していくようにする。また、保護者との対話を密に行う中で、子どもの成長を保護者、スタッフ間で共有していく

〈2〉毎月のケース会議開催

4～3月に計12回開催予定 参加者：10名予定

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

小学校への引継ぎは児童指導要録、また各校の担当スタッフとの面談によって行う

11. 子育て支援事業

園に來訪した親子に都度署名をもらい、月間延來場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	月2回 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月2回以上 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00

ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：前原公民館にて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年8月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：9時00分

自己評価終了予定時刻：12時00分

自己評価実施予定者：施設長・保育士・看護師・栄養士・調理士

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	日課を子どもたちと一緒に毎日行う。 部屋の環境を整え、子どもがいつでも好きな遊びを選択できる環境を整える インクルーシブ保育への共通理解を行い、スタッフ全員で見守り、混ざり合いながらホンモノの経験をしていく
	振り返り	日課のながれは定着してきた。子どもたちがいつでも好きな遊びを選べる環境づくりには課題はあるが、引き続き、子どもの姿から様々な仕掛けを準備し継続して遊びこめる環境づくりを行っていく。 インクルーシブについてはどうしたら一緒に遊べるのか、子どもたち、スタッフと話す機会も増え、個に対する理解も増えた。 引き続き、皆で混ざり合いながら成長を促していく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> 質の高い保育を目指し積極的に学ぶ姿勢が増える リーダーとなるスタッフが育成されている
--------	------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園・つむぎが一体となり混ざり合いながら分け隔てなく過ごす「大きな家」を実現していく
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園内研修の充実、スタッフが必要だと思ふ内容を企画し、実施する。 ・ 保育の質向上に向けた意識が高まり、向上している ・ スタッフ間で、ビジョンを明確にし、子どもの主体性を大事にしながら異年齢保育、インクルーシブ保育を行っていく
2025年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ リーダーが中心となり、互いに学びあい、伝えあう職場風土になっている ・ 保育園・つむぎの活動が地域に広まり、専門性の高い集団となる
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育計画の計画・実行・評価・改善というPDCAサイクルが確立し、保育の質が担保されている。 ・ どんご会のインクルーシブ保育を発信していく
2026年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園・つむぎのスタッフ一緒に、真のインクルーシブ保育・支援を行える組織となる ・ どんご会の保育が地域に理解され、誰もが入りたくなるような地域一番園となる
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタッフ一人ひとりが自園に熱い思いを持ち、互いに認め合いながらチームとして子どもにとっての最善の利益を追求していく ・ 保育園・つむぎが分け隔てなく混ざり合いながらインクルーシブ保育が行われている

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：前原どんご保育園 施設長 アイオメス 美和

2024年度 石川どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

2017年度保育所保育指針にのっとりうえて、法人理念に沿った保育の実践を目指す。

保育理念・・・「にんげん力。育てます。」

保育目標・・・「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

法人理念を柱とし、園児・保護者・地域・行政・保育者が相互的かつ協同的にかかわりあえるように努め、地域に根付いた保育を実践していく。

<目指す子どもの姿>

「やりたいこと」にあふれ、挑戦と失敗を楽しめる子ども

思いやりの気持ちと感謝の気持ちを持つ子ども

<目指す保育者の姿>

「あなたはどうか」

大人も子どもも主体性を重んじ、考え、学び、動く、自立した集団での運営を目指す

子ども主体の保育の実践のために「チーム保育」で取り組む

日々の生活・遊びの中から子ども自身が経験の選択ができるような物的環境の設定

地域に即した食の学びや経験に加え、鶏を絞めて食し「命をいただく活動」などの実践

それらの活動を通し、生活力を身につけ、10の姿の体得した子どもを小学校へ送り出すことを目指す

そのために園は「保育の質の向上に向けた職員育成と研修の充実」を図り、保育者は個々に資質の向上及び専門性の向上に努め、個々の「得意」が活かされる保育の展開をめざす。

<1> 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活力の体得 日々の生活・遊びを通して学ぶ
	実践予定内容	子どもに経験させたい活動を選択できるように物的環境を整える 火・水・土に始まり刃物、針などの道具を使う「本物の体験」を通じ、危険との距離の取り方や人との距離の取り方も学んでいく
2	計画・ねらい	10の姿の体得
	実践予定内容	保育所保育指針、保育運営マニュアルをもとに、子どもたちに就学までに身につけさせたい10の姿を具体的に計画に取り入れ、実践する。 日々の保育において0歳児から10の姿を意識することで、保育内容を連続させる。 施設長・主任・リーダーが計画から振り返りまでのPDCAを共有し指導を行う。
3	計画・ねらい	考えを形にする、失敗も認めあい自己肯定感を育む人的・物的環境の整備

		を「チーム保育」として行う。
	実践予定内容	子どもも大人も共に積極的に挑戦し、安心して失敗できる環境を作り上げる。「環境」「音楽」「造形」「運動」の係に分かれ、年間を通じて子どもの姿に寄り添った保育計画を「チーム」で作成・実践・振り返りを行う。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	共に考え、共に育てる仲間となる
	実践予定内容	朝の丁寧な視診、触診による受け入れ。 夕方の子どもの姿が手に取るようにわかる丁寧な伝達。 すべての保育者がすべての子どもについて語り、すべての保育者と話題を共有することを目指す。 そのために、チャットや画像も利用し「大切な子どもたち」の情報を朝礼・昼礼・クラス、フロア、フリー会議で議題に上げ姿を共有し育ちを話し合う。
2	計画・ねらい	保育活動の見える化（デジタル・アナログツールの活用）
	実践予定内容	「うちのこアプリ」の活用や、園内掲示で日々の子どもの活動内容を保護者にしっかりと「伝える」ことを意識する。 毎日のクラスごとのタイムラインや壁新聞の活用。
3	計画・ねらい	子育て相談、適切なサービスの案内 ご意見を園運営の改善に取り込む
	実践予定内容	保護者と保育者の丁寧なコミュニケーションを通して、大小様々のご意見や問題点を拾っていく。 ご意見は保育を見直す最大のチャンスととらえ、自らを振り返り誠意をもって対応する。 保護者懇談会の7割参加、個人面談を全員に実施することを目指し、子どもの育ちに応じた関りの共有とサービスの提供を行う。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の親子も含めた子育て拠点となる
	実践予定内容	青空保育や自然食堂、芸術学校・自然学校などの活動の参加率を上げ、どろんこ会の保育に触れることで園として目指している保育理念に触れてもらい、何が子どもたちに必要であるのかを共に考え共に育てる仲間となっていく。 地域支援活動は①沖縄生まれ沖縄育ち向け②転勤・移住者向けの2本柱とし、参加家庭年間100家庭を目指す。 園のHPや外部に向けた掲示、市役所の案内も活用する。
2	計画・ねらい	一時保育・病後児保育事業の円滑な運営
	実践予定内容	需要の高い乳児の一時保育をスムーズに行える職員配置を行う。 問い合わせ、利用前面談、当日の受け入れに何の情報が必要なのかをすべ

		での保育者が理解し説明できるようにすることで、希望者の利便性と安心感を上げていく。
3	計画・ねらい	子育てスキル講座の開催
	実践予定内容	子どもに関する悩みや疑問を地域の保育者と園とが共有し、一緒に考える場と機会を用意する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育所保育指針と保育品質マニュアルを学び保育者の質を上げる
	実践予定内容	1年を通じて学ぶテーマを意識する。(具体的な計画は7職員計画参照) 日々の保育との紐づけ作業も行い、保育を理論的に語る集団を目指す。
2	計画・ねらい	個々のMBOの設定と取り組み
	実践予定内容	保育者は面談や前年度の振り返りから個々の目標を設定し通年で取り組むテーマを決定する。 計画は全職員にも共有され、自主勉強会への参加や開催、昼礼や園会議での講師を行う機会を持つ。個々のスキルアップこそ園全体のスキル向上につながると考え、自らの得意を意識し伸ばす。 個々のMBOについては適宜ロングまたはショート面談を実施し、継続的に振り返ることで目標を明確化していく。
3	計画・ねらい	保育者の「にんげん力」も育てる 「チーム保育」の実践
	実践予定内容	指示されて動く、注意されて改めるのではなく子どもたちに求めている「自分で考える力」「好奇心や探求心」を保育者が率先して行っていくことで子どもと一緒に保育者もより良く育つ意識を持つ。 期日などの基本的なことを自ら守る意味を考え、保育者が「チーム」で実践していくために、役割分掌を明確にする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	「見守る」「やって見せる」 原体験を組み込んだ主体的な保育の実践
	実践予定内容	活動の中で生まれる子どもたちの主体的な意欲を汲み取り、原体験につなげていく。保育者は時には見守り、時には先頭となり一緒に成功と失敗を経験することで子どもたちも安心して挑戦できる環境を作る。
2	計画・ねらい	豊かな自然環境も最大限に利用し「科学する力」につなげていく
	実践予定内容	乳児期の空を見上げる経験から、幼児期には雲の色・形や風の変化 海水からの塩づくり、にがりからの豆腐作り 太陽の光を利用したクッキングなど沖縄の気候を最大限に活用する。
3	計画・ねらい	沖縄の「美ら海」と自分たちできることを考える
	実践予定内容	サンゴの白化、海洋ごみ問題などを、子どもたちでもできることがないかといった切り口で考えることで、食べ残しを減らし、ゴミを出さない生活を考えていく。

〈6〉 伝統を大切にしながら興味の幅を広げていく（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	沖縄の伝統的な文化や風習に敬意をもって学ぶ機会を持ち、継承する責を子どもたちと保育者が担っていく。
	実践予定内容	エイサーや組踊り、三線などの伝統文化だけでなく、沖縄ならではの行事の由来を理解し、地域交流も含め保育活動にも組み込んでいく。 全国に系列園があることを「資源」と捉え、WEBなども活用し間接的に子どもたちが他地域の文化や風習に触れる機会も積極的にもち、沖縄の魅力を自ら発信しながらも子どもたちの興味や関心を他県や世界に広げる起点となる。
2	計画・ねらい	伝統の食文化を行事と合わせて触れる機会を持つ
	実践予定内容	沖縄の独特な食文化を子どもたちと調べ、使用する食材を畑育てるなど、食の循環や環境への意識を意識した保育を実践する。 給食残渣を前年比の50%削減を目指す。
3	計画・ねらい	沖縄戦の歴史に触れる機会を持つ
	実践予定内容	通学先となる宮森小学校の戦闘機墜落事故を通じ平和について考える子どもそれぞれの平和や幸せについて考える時間を持つ

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
12人	18人	18人	24人	24人	24人	120人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	18人	看護師	1人	栄養士	0人	調理員等	2人
	パート スタッフ	保育士	1人	補助	0人	調理	1人	事務
	用務	1人						

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	園の課題・情報共有・討議事項（園内研修含）
給食運営会議	月1回	離乳食進捗状況・アレルギー確認、残渣・喫食状況確認
事故防止委員会	月1回	他園・自園の記録から危険予測をする
ケース会議	月1回	要支援児についての情報共有・検討
リーダー会議	週1回	園長・主任・リーダーによる報告・連絡・検討
クラス会議・フリー会議	週1回	保育計画と振り返り、園児ごとの検討
週会議	週1回	全クラスによる報告・連絡・検討

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人内統一の議案の共有・意見交換
施設長勉強会	月1回	施設長のスキルアップを目的とする
食育会議	年4回	施設長及び栄養士・調理師 今後の方針の検討
保健会議	年4回	施設長及び看護師 今後の方針検討
主任会議	年4回	主任のスキルアップを目的とする
子育ての質を上げる会議	月1回	職員のスキルアップを目的とする

〈3〉 各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	身体測定、健康診断、歯科検診などの実施。園内の衛生管理・清掃及びそれにかかる備品類の管理・発注。感染症予防。
安全対策係	避難訓練及び消火訓練・防災自主点検の実施管理。

防火管理者	救命講習実施。施設内外の設備点検及び事故防止点検の実施
食品衛生責任者	消防計画の作成。それに基づく各種訓練の実施報告
畑係・生き物係	給食食材及び提供食材の衛生管理と在庫状況の把握 畑状況の管理・計画の見直し。用具類の管理及び補充
地域係	地域住民・自治体との対外的な窓口業務管理 ちきんえっぐ活動の実施及び報告書の作成

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	地域や保護者と共同的に準備・進行を行う
運動会係	地域や保護者と共同的に準備・進行を行う

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	月齢・育ちに配慮し、個々の欲求を受容しされることで身近な大人との信頼関係を築き、心身の安定を図る。 好きな遊びを十分に楽しみ、健康に安心して園生活を送れるようにする
	下半期 0～1歳児	一人遊びを十分に楽しみ、他者との関わりも持つ中で自我が形成されるよう、環境を整える 事故防止に努め、自発的な活動を促していく
幼児保育	上半期 3～5歳児	自然と触れ合う中で豊かな感性や認識力・思考力及び表現力を養う 自己を十分に発揮し、活動を通して達成感や自己肯定感を持てるように配慮する
	下半期 2～5歳児	自分の気持ちや考えを自分なりの言葉で表現することの大切さを知り、共同性や社会性を身につけられるようにする
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加／参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> 随時、希望する保護者に対し実施 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食べることの楽しさや感謝の気持ちも育み伝えていく
	実践予定内容	子どもと食事を共にすることで言葉に頼らず行動でも表現し伝えていく。 作る、触れる、味わうなどの食育体験をすべての年齢において計画的に行うことで、食事になるまでの流れや携わった人への感謝の気持ちを持てるようにしていく。 空腹感を感じ、意欲的に食事を摂れるような活動を保証する。
2	計画・ねらい	食材・食の循環を知る直接体験をする
	実践予定内容	自ら栽培したものを口にすることで、自然や命への興味関心を持つ。 また、行事食・郷土食にも積極的に触れ合う機会を持つ。 落ち葉やヤギの糞や残菜などから堆肥を作り、園での畑仕事に組み込むことで、栽培から収穫や加工までの流れを子ども自身が体験し食の循環を考えるきっかけとする。 配膳をすることで自分の食べられる量を知り、残食を減らす（前年比50%）、きれいに食べることを子どもと保育者は一緒に考えていく。
3	計画・ねらい	個々の子どもの発達を理解し適切な援助を行う
	実践予定内容	家庭との連携を図りながら、保育士・栄養士・看護師などの全職員がそれぞれの専門性を活かして関わる。 発達に応じた食事形態での提供、安全な食事の提供と介助が行える知識を持つための研修の実施と受講。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（5月・10月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	規則正しい生活習慣の獲得におけた働きかけ 手洗い・うがいの敢行、歯磨き指導、栄養の話

流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス・インフルエンザ 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 7月頃・・・胃腸炎 10月頃・・・アデノウイルス・手足口病など通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・0名より預かり済み／
エピペン使用できるスタッフ	本日現在27名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在27名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 2か月に一度の看護師による保健・衛生指導の実施。 「早寝早起き朝ごはん」活動への参加

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日

	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／5・10月 歯科健診 年2回／6・12月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	必要なものだけがある保育施設を目指し、掃除や管理の行き届いた保育環境を提供する。
	実践予定内容	衛生管理に配慮し園舎内外の清掃を行う。 環境係が中心となり、清掃の意義を理解し率先して実行することで、子どもたちへも気持ちよさを伝えていく。
2	計画・ねらい	日々の遊びの中に子どもの育ちがあると考え、自由度の高い遊具の作成を保護者と協同で行う。
	実践予定内容	意図的な環境設定・環境構成を整える。 遊びが限定される遊具ではなく、自由な発想で使える棒や板などの素材を安全に管理し提供できるようにする。 材料は建築現場などから譲り受け、危険がないように毎日の確認と定期的な入れ替えを行う。
3	計画・ねらい	子どもたちが常に主体性をもって遊びを選択できるような環境を整える。
	実践予定内容	目的を持った複数の戸外活動の準備や、室内遊びを好む子どもへの遊びの保証を考える。 保育者は子どもたちの「今」に必要なことを考え職員全員で共有し、週・月での遊び方を工夫し変化させていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
----	--------	------	--------

1	ブロック用テーブル	幼児室内	毎日
2	ベンチ	園庭	毎日
3	平均台	園庭	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	防災…危機管理マニュアルに則り、毎月の訓練を通して日頃より職員が緊急時の対応を身につける。対応フローチャートの活用
2	実践予定内容	怪我・事故防止対策…危機管理マニュアルに則り、安全点検の実施を行う
3	実践予定内容	怪我・事故発生時には対応フローチャートの活用。安全教育、SIDS防止研修の実施。
4	実践予定内容	事故防止委員会で怪我・事故の検証と防止策検討。
5	実践予定内容	不審者対策…年二回の不審者侵入訓練により、緊急時の対応を身につける。
6	実践予定内容	発生フローチャートの活用。職員の笛携帯、登録者のみへの引き渡し徹底。
7	交通安全教室	5月予定 警察も招き交通安全について学び安全な戸外活動につなげる

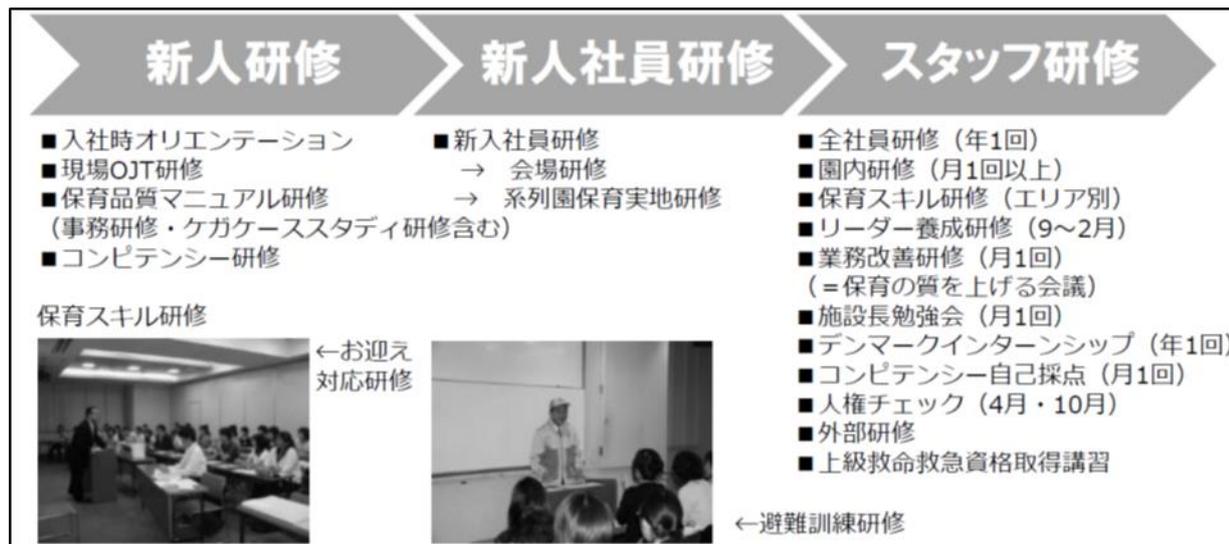
6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

未来の同僚となる保育士育成の観点より、実習生・中高生の受入は積極的に行う。一人ひとりの様子に合わせ、温かく思いやりのある対応を心掛ける。また、職員は自分自身の保育の見直しの機会と捉え、保育内容の向上に役立てる。

1	実践予定内容	中高生の体験学習の受入／保育養成校の学生の実習受け入れ／一般および学生の各種ボランティアの受け入れ 前年度まで築いた関係を良好に保ち、養成校・近隣小中高校への訪問を継続する。
2	実践予定内容	若手保育者を学生担当につけより親身になった指導を行い、その保育者担当としてリーダーをつけ、指導の在り方の確認と保育者自身の保育の見直しを行っていく。

7. スタッフ育成と研修計画



〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

・担当者は園長大学、保育士大学を活用し、具体的な講座をもとに研修を組み立てる

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月12日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②人権チェック ③保育における「人権」とは 虐待の定義について ④「命」を守る仕事の自覚を持つ	②保育における「人権」についてチェックシートを使い改めて考える (森 美咲) ③④園長大学・保育士大学の講義を活用し、「命」を守る仕事の自覚を新たにする (瑞慶山美恵子)
5月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿と計画と記録 ③遊びの引き出し (春)	②毎日の保育の中で子どもたちに必要な力をどのように身につけさせるための記録を考える。(山田慶子) ③自分の遊びの幅を広げよう (玉城真穂)
6月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺のリスクマネジメント	②プール目前 保育者の動き、注意点を整理する (新垣亮太)
7月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「命」を頂くということ ③遊びの引き出し (夏)	②鶏を捌いて食べる経験を通して私たちは子どもたちに何を伝えたいのか。(片本尚美) ③自分の遊びの幅を広げよう (宮内美沙)

8月23日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育環境と子どもの育ち	②物的環境を整えることで保育と子どもはどう変わるのか（仲村智賀）
9月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 半期振り返り	②上半期を振り返り子どもの発達に応じた保育実践ができたかを考え、下半期の計画を立てる。
10月18日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 運動遊びと子どもの育ち ③遊びの引き出し（秋）	②子どもの発達を把握し、適切な遊びを提供するために保育士がすべきこと。（比嘉沙耶） ③自分の遊びの引き出しを広げよう（安里桃花）
11月15日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 折り合いのつけ方 感情コントロールとレジリエンス	②子どもの発達に応じた具体的な事例をあげ、日々どのように向き合っていくのか、なぜそれが必要かを考える。（安東聖加）
12月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② アプローチカリキュラムについて	②0歳児からの関わり方を考える 10の姿で捉えてみよう（五十嵐かのん）
1月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② （再）遊びの環境と子どもの育ち ③遊びの引き出し（冬）	②今の子どもの発達に合った保育環境を考える。足りないものはないか。（木田美咲） ③自分の遊びの引き出しを広げよう（大城香代子）
2月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 卒園・進級までに身につけさせたい力	②10の姿と保育計画を連動させ、よりよい育ちのための保育を考えよう。（渡邊淳紀）
3月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 1年間のふりかえり	②1年間の保育を振り返り、自分の強みと弱みを整理しよう。

エリア研修予算内訳（園合同開催）

開催日	予算	予算の内訳		〈2〉3園で按分した自園負担額
6月23日	12000円	交通費（石川⇄前原）	360×25円	3園での命を頂く職員研修 食材費は分担 石川負担分 1000円
		食材費	3000円	
1月25日	12000円	交通費（石川⇄前原）	360×25円	3園での命を頂く研修 （親子参加行事）

		食材費	3000円	食材費は分担 石川負担分 1000円
合計	24000円			20000円

外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉園内委員会の設置

活動の意味を理解して保育を展開することで保育内容の質を向上させるために「環境」「音楽」「造形」「運動」等の委員会を設定する。保育者は策定会議において自らの所属を選択し、1年と通じて考え学び、その内容を他者と共有していく。

各委員会の中でリーダーを選出し、毎月会議で保育計画、振り返りを行う。

環境委員会	保育にまつわる環境についての年間・月間計画・実践・振り返りを行う 同内容に関する自主研修会の実施
音楽委員会	音楽に関する年間・月間計画・実践・振り返りを行う 同内容に関する自主研修会の計画と実施

造形委員会	造形に関する年間・月間計画・実践・振り返りを行う 同内容に関する自主研修会の計画と実施
運動委員会	運動に関する年間・月間計画・実践・振り返りを行う 同内容に関する自主研修会の計画と実施

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に受け入れられ愛され育つ実感をもてる日々のために、職員は積極的に地域との交流を行う。未就園児家庭との交流をより積極的に行うために、ちきんえっぐ活動を市役所、公民館、児童館への広報活動を担当者中心に行う。

ちきんえっぐ活動は①沖縄生まれ沖縄育ち向け②移住・転勤者向けの二本柱とし、それぞれのニーズに応えられるよう年間計画を作成する。

〈2〉具体的な地域交流計画

青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：前原西公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	ここいちうるま、ひまわり、愛の花などの高齢者施設との交流を各学年定期的に行っていく。 小中高校生の体験学習受け入れ
異年齢交流	他園交流（学童施設含む） 小中学校訪問
地域拠点活動	ちきんえっぐ どろんこ祭り 地域行事への参加（夏祭り、餅つきなど）
銭湯でお風呂の日	実施予定なし
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：前原西公園にて

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（木）より開始する。

開園4年目となり、近隣小学校との連携もしやすくなってきた。まずは卒園児へのアプローチとして小学校へ訪問の関係を作り、そこから保育園と小学校との連携についての学びの場を提案していく。また、連携小学校に限らず、保護者の小学校教員にも協力を依頼し、新学習指導要領の理解のための講座開催を目指す。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画（会場）	目的
5月頃	うるま市保幼小連携会議	1名	進学先学校	職員間交流
9月頃	小学校・保育園	職員	学習指導要綱勉強会	職員間交流
10月頃	各近隣小学校お招き会	24名予定	進学先学校にて交流	子ども間交流
1月頃	うるま市保幼小連携会議	2名	進学先学校	職員間交流
2月頃	各近隣小学校お招き会	24名予定	進学先学校にて交流	子ども間交流
2月頃	各近隣小学校申し送り	2名	各進学先小学校	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

保護者と保育者で連携し子どもを取り巻くすべての大人が子どもの現状や育ちを共有する。

インクルーシブ保育を実践する中で子どもの「いきる力」をどのようにつけていくかを共に考える。集団の中での育ちと関りに加え、個別な配慮や対応が必要な場合は計画と現実の整合性を振り返りつつ、常に子どもの「今」に合わせた計画を立案する。子どもも保護者も安心して過ごすことができ、共に育てる「仲間」となる。

放課後デイサービス等の利用者に関しては、各機関との情報共有のための機会を自園が中心となり毎月設けることで、保護者と各施設が情報を共有し子どものより良い育ちのための体制を作る。

〈2〉毎月のケース会議開催

4～3月に計12回開催予定 参加者：6名予定

4～3月毎月の計画を立て 年12回開催予定 参加者：園長・主任・看護師・担任など
子どもの姿の共有と保育の振り返りと次月に向けた関りについて。

毎月の施設間での情報共有に加え、必要に応じて保護者や専門機関、関係機関とも連携する。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

安心して進級・進学できるように必要な情報の開示及び交流を積極的に行う。

行政・相談員・利用施設担当者・保育者との連携会議を年に2回開催し、十分な支援計画のもと保育を行い、情報共有をおこなうことで進級・進学へつなげていく。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	隔週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	隔週(木) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:前原西公園にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年8月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 9時00分

自己評価終了予定時刻: 12時00分

自己評価実施予定者: 施設長・保育士・看護師・栄養士・調理師

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日: 8月25日

1 3.3 3カ年計画の具体化

〈1〉 昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<p>選択制の主活動の実施。年長児がまず活動を理解し自ら選択できるようになる。</p> <p>個々の特性を理解し、それぞれに合ったかかわり方の学びと環境設定を行うために、委員会を軸として計画を立て実践する。</p> <p>子どもたちの「やりたいこと」にあふれ夢中になって遊ぶ毎日のために保育者は子ども主体の保育を園長大学・保育士大学などのツールを大いに活用し学び、実践につなげていく。</p>
	振り返り	<p>主活動の選択は戸外活動の行き先の選択にとどまり、活動内容そのものの選択までには至らなかったため、次年度も継続して取り組む。</p> <p>園内の委員会は活動にいたらなかった。個々のスタッフの強みを見つけ、力を発揮するための仕組みづくりを継続し、質の高い保育の実践を目指す。</p> <p>スタッフの学びの意識は毎月の研修も通じ高まっているため、個々のスタッフのスキルアップと保育実践をつなげる取り組みを継続していく。</p>

〈2〉 当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<p>子どもたちの「やりたい」が形となり、創意工夫して遊ぶ子どもの姿がいたるところで見られるようになる。</p> <p>保育実践記録の公開や研修の開催。</p> <p>保育内容が評価され、地域の保育観に一石を投じる存在となる。</p>
	重点施策	<p>選択制の主活動の実施。その先導を幼児が行えるようにしていく。</p> <p>個々の特性を理解し、それぞれに合ったかかわり方の学びと環境設定。子どもだけでなく保育者のにんげん力もあげるために「好奇心」「探求心」をもって学ぶ機会を自ら計画し、学びを深める。</p> <p>子どもも保育者も一人の人として大切にされることを理解し、「人権」について学びを続ける。</p>
2025年度	目指す姿	<p>「にんげん力」が育ち、「いきる力」に溢れる子どもたちと保育者がいる保育園となる。</p> <p>保育内容が評価され、「選ばれる園」となる。</p>
	重点施策	<p>様々な体験活動を通して子どもたちは「いきる力」を獲得していく。</p> <p>一生の宝となる「1より100の本物の体験」を用意する。</p> <p>小学校との連携では子ども主体となるよう園から交流会、勉強会の働きかけを行い、協力関係を築く。</p> <p>保育者は体験活動の意味と必要なものは何かを考え続け、子ども主体の保育の展開から地域の保育園等にも関りを深めていく。</p>
2026年度	目指す姿	<p>「にんげん力」が育ち、「いきる力」に溢れる子どもたちと保育者がいる保育園となる。</p> <p>子どもたちは自らの活動を判断し、主体的に取り組むことができるようになっていく。</p> <p>法人の理念を理解し保育実践を行いつつ、安定した運営を行う。</p>

	重点施策	「1より100の本物の体験」を提供するために必要なことを保育者が主体的に準備し、子どもたちはその中から選択できるように環境を整える。 保育内容が評価されることで入所率100パーセントを保ち、一時保育や病後児保育、地域支援活動を通し地域へ貢献していく。
--	------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：石川どろんこ保育園 施設長 加藤 直子

2024年度 馬場どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

子どもたちの「生きる力」を育てます。

私たち保育者の役割は、変容していく社会に柔軟に対応し、社会の一員として生き抜いていく力を育てることと考えます。子どもたちが未来を切り拓いていくためには、認知能力だけでなく、幼少期の非認知能力の獲得が不可欠です。異年齢保育を中心に、仲間と協力し合ったり、時には葛藤したりするなどの経験を積むことで、「目標を達成する力」「他者と協力する力」「情動を抑制する力」を育み、自分で考え行動する思考を構築していきます。私たち保育者は、子どもたちに指示をするのではなく、モデルとなり仲間となることで、子どもたちを主体的な体験に導き、非認知能力を育てていきます。そして子どもたちは自身が主体となり人と繋がり未来を創造していきます。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活の体得 自分の足で人生を歩むために・自分で自分の命を守るために・助けられながら生きるために「生活力」と「危険なものとの距離の取り方」を教える。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・見守るだけでは子どもは育たない。道具の使い方・遊び・歌などは私たち大人が教えない限り知り得ない。 ・道具（針と糸・ナイフ・工具等）を使って見せる環境を作っていく。 ・遊び（あやとり・こま・まりつき等）をやって見せる環境を作っていく。 ・さまざまな歌を歌って見せる環境を作っていく。 ・焚火にあたることで火との距離の取り方を知る。 ・生きる力（感情制御力・人と関わる力）は指導では身につかない。経験と失敗で身に付く（Trial&Error）
2	計画・ねらい	10の姿の体得 1. 健康な心と体 2. 思考力の芽生え 3. 自立心 4. 自然との関わり・生命尊重 5. 協同性 6. 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 7. 道徳性・規範意識の芽生え 8. 言葉による伝え合い 9. 社会生活との関わり 10. 豊かな感性と表現
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「一つのことを一緒に行うこと」を教える。 ・決まり（毎日の仕事）を守ることを教える。 ・やりたくなくても皆のために働かなければならないことを教える。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 充分量ではなく、話し合いや調整が必要な量の道具を用意する。 ・ 年長児、リーダーが調整する、みんなで話し合うを導き支援する。
3	計画・ねらい	子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる物的環境の設定
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが使うもの、触れるべき物を倉庫にしまわない。 ・ 各保育室に玩具、教材、触れるべき様々なものを常設する。 ・ 子どもが自分の意志で自由に各保育室を行き来できる生活を保障する。 ・ 大人が決めない、誘導しない。 ・ 子どもが自分で選ぶ、決める。
4	計画・ねらい	命をいただく活動の実践
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働としての畑仕事の実践 ・ 自然の恵みとしての食材や食の循環の教育 (食材加工・肉を捌いて食べる 命をいただく教育)

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	園での子どもの姿や日々の成長を保護者に共有
	実践予定内容	保護者向けにドキュメントやエピソード記録、またブログや写真公開等で自園活動の共有を行う。
2	計画・ねらい	園舎内外の美観整備
	実践予定内容	園舎内外を美しく整備し清潔のある施設にすることで、信頼感や安心感を提供する。
3	計画・ねらい	保護者の子育てを実践する力の向上に向けた支援活動
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士による子育てに関する相談対応や助言を行う。 ・ 栄養士による食に関する相談対応や栄養指導を行う。 ・ 看護師による健康管理に関する相談対応や情報提供を行う。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域行事への参画
	実践予定内容	地域との積極的な連携及び協働を図ると共に、子育て支援に関する地域の人材と積極的に連携を図るよう努め、地域との一体化を目指す。
2	計画・ねらい	地域子育て支援の拠点としての確立
	実践予定内容	開始から4年目となる「馬場どろんこ新聞」を今年度も作成、子どもたちと共に地域に配布する。自園の取り組みや日々の保育を積極的に地域に発信することで広く自園を知ってもらい、地域の方々と交流を深めながら、地域子育て支援の拠点としての確立を目指す。
3	計画・ねらい	孤立しない子育てへの支援
	実践予定内容	ブログや自治体ホームページ等にちきんえっぐの取り組みを掲載することで地域の親子が集うコミュニティの拠点となるよう、地域に開かれた保育園を目指し子育て支援を継続する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	主体的な学びの習慣
	実践予定内容	主体的な学び習慣の動機付けを行う。園長大学®・保育士大学研修等の運用で自己研鑽の習慣を身に付ける。
2	計画・ねらい	「接遇」理解と共通認識
	実践予定内容	相手の立場を想像した丁寧な保護者対応を目指し、園会議にて接遇をテーマにディスカッションやロールプレイングを実施する。
3	計画・ねらい	スタッフが講師となる園内研修の実施
	実践予定内容	スタッフが毎月交替で研修の企画、資料作成、講義という一連の工程に挑戦する。最後まで諦めずにやりきるという成功経験を積むことで人間力を向上させ質の高い保育を目指す。 アクティブラーニング中心の研修を多く行いスタッフ間の同僚性を発揮させることで園全体の人材成長に繋げていく。
4	計画・ねらい	主体的に思考し行動できる人材の育成
	実践予定内容	問題に取り組む機会を多く提供し、スタッフが自ら考えて解決策を見つける練習を促進する。柔軟性や適応力を伸ばし自己判断や問題解決を実践できる人材を育てる。
	計画・ねらい	MBOの有効的活用
	実践予定内容	具体的かつ明確また達成可能な目標設定、目標の共有、定期的なフィードバックを行うことで、スタッフの成長やキャリアプラン、園の成果向上に繋げる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行
	実践予定内容	給食調理における廃棄を減らす。残渣の再利用など「捨てる」ではなく、「有効活用」の視点をもつ。
2	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践予定内容	畑仕事（種まき・育てる・間引く・穫る）・食材加工（梅・味噌・たくあん・干し柿・ケチャップ・マヨネーズ等）生き物の世話・肉を捌いて食べる命をいただく活動を行う。

〈6〉利用者満足度向上（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	1.思いやり 2.誠実さ 3.謙虚さ 4.感謝 を忘れず、おもてなしの心を込めたサービスの提供
	実践予定内容	【挨拶】 ・来訪者が施設に入った時に大きな声で挨拶をしているか ・手を止め、顔をあげて挨拶をしているか 【お迎え対応】 ・すぐに保育士が対応に出ているか ・一日の子どもの様子を保護者に手に取るように伝えようとしているか ・複数の保護者がお迎えに来た際でも自ら満遍なく声をかけているか ・待った気がしないお迎え対応ができているか 待たされたと思わせない

		仕掛けづくりをしているか
2	計画・ねらい	保育参加・保護者個人面談のアナウンス強化
	実践予定内容	保育参加及び保護者個人面談のアナウンスを強化、参加者を多く募ることで、園の保育を知ってもらいオープンな園を目指す。
3	計画・ねらい	安全管理の徹底
	実践予定内容	感染症予防策や食物アレルギーの管理、設備の安全管理、緊急時の対応、交通安全等、子どもたちの健康と安全を確保し、保育環境を信頼性の高いものにする。

〈7〉表現活動の充実（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	毎月のアートの日開催
	実践予定内容	月1回アートの日を開催し、子どもたちの表現活動の場を数多く提供する。自由な表現活動を通じて子どもたちのコミュニケーションスキルや創造性を発展できるようにする。
2	計画・ねらい	年間100曲の歌を歌う
	実践予定内容	100の曲に触れられるようにする。様々な歌を歌うことで多様な文化に触れたり友だちとの一体感を感じたりしながら、歌の好きな心豊かな子どもを育てる。
3	計画・ねらい	様々な楽器に触れる
	実践予定内容	多様な楽器に触れられる環境を用意し、子どもたちが様々な音色やリズムに触れることで自分の思いを自由に表出し、表現力を豊かにし運動能力やリズム感を高める。
4	計画・ねらい	劇遊びの充実
	実践予定内容	役割分担を通じてコミュニケーション力を育み、チームワークの大切さを学ぶ。また子どもたちがストーリーを考え想像力を駆使することで、自由な発想や創造力を伸ばす。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	10人	12人	14人	14人	14人	70人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	2人	
パート スタッフ	保育士	3人	事務	1人	嘱託医	2人	

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

園会議	月1回 20分	園運営についての情報共有及び園内研修 等
給食運営会議	月1回	調理・運営方法の共有及び討議
事故防止委員会	月1回	安全管理についてのルール決め インシデント及びヒヤリハットの共有・再発防止策討議
ケース会議	月1回	ケース討議、保育・運営方法の共有及び討議
リーダー会議	月1回	保育・運営方法の共有及び討議
クラス会議	月1回	各クラスの保育・運営方法の共有及び討議

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人全体の動向共有や運営状況の周知
施設長勉強会	月1回	運営全般の改善の為にディスカッション等
食育会議	年4回	保育所における調理員の役割についての教育と討議
保健会議	年4回	保育所における看護師の役割についての教育と討議
主任会議	年4回	保育所における主任の役割についての教育と討議
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質を上げる為の教育と討議

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	施設内外の破損個所の補修及び清掃状況の確認
安全対策係	避難訓練（地震・火事・不審者）計画及び実施・記録
防火管理者	防災対策策定と及び避難訓練計画と実施 消防局との連絡
食品衛生責任者	食材の発注及び品質管理
畑係	農業活動の実践・記録・発信
生き物係	飼育物の管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	計画及び実施、保護者連携と地域告知 等

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・受動的・応答的な関わりの中で、思いを伝えようとする意欲や、身近な人との信頼関係を育て、人と関わる力の基礎を養う。 ・身近な環境に自ら関わり、感じたことを表現する力の基礎を養う。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・食べる喜びや楽しさを味わい進んで食べようとする気持ちが育つ。 ・自然体験や直接体験を通じて五感を刺激し、生きる力を養う。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・選択制保育や習熟度別保育を実施し、多くの異年齢の友だちと関わり相乗効果により成長し合う。 ・自然に直接触れる体験を通じて、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力（歌・音・絵・造形・言葉）の基礎が養われる。 ・健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢で過ごす中で、自身と他者との違いに気付き、自己表現や葛藤を繰り返しながら、コミュニケーション力を身に付ける。 ・協力して一つの物を作り上げる経験の中で、協働の楽しさを感じながら、感情をコントロールすることの大切さを知る。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼

保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・ 2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	自身で考え選択し食を通じて人とかかわる。
	実践予定内容	これまでの食育の取り組みや口腔発達の知見を活かしつつ、「食べたい時に食べたい場所で食べたい人と食べたいだけ」食べるという、子どもの意思決定を基盤とする食育を進める。
2	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践予定内容	1. 畑仕事を実施し、3大食育方針を推進しその記録を社外に広報する。 2. 子どもが自らの体験を通して食材や食の循環・環境への意識を身に付ける活動の実行 ①糞・ゴミの堆肥化 ②種まき、間引き、獲る ③命をいただく（捌く、解体する、焼く、食べる） ④加工する＝梅・味噌・たくあん・梅干し・ケチャップ・マヨネーズ
3	計画・ねらい	火の暖かさや素晴らしさ、不思議さを感じ、火に親しむ
	実践予定内容	・ 焚火やクッキングを通じて火育を行う。・ 火の取り扱いを学ぶ機会を提供する。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗いうがい指導（手洗いチェッカー）
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 12～1月頃・・・ノロウイルス

	1～2月頃・・・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイヤアップ・・・1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在17名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員1名については3月31日までに受講予定
その他保健に関する取組	保護者に向け、感染症に関する予防対策についての案内を掲示 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年2回／6・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時

	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	自分で考え行動する力、生きる力を育てる土壌を構築
	実践予定内容	設備的環境に加え、人的環境、時間的環境等、様々な側面から子どもを取り巻くすべての環境整備を行い、室内・室外ともに子どもが自発的に関わる環境を設定する。大人の目線や観点でなく、子ども自身が選び取り遊び込めるゾーン保育を基本とする。ゾーニングのねらいを共有・発信・記録化し、子どもの姿を捉え定期的に環境を見直していく。
2	計画・ねらい	集団社会化理論に基づく保育の実践
	実践予定内容	子どもたちが集団での経験を通じて社会的スキルを獲得し、コミュニケーション力や協調性を育ていけるよう、適切な環境や支援を提供する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	パーテーション	全保育室	毎日
2	ウッドデッキ	縁側	毎日
3	玩具棚	園庭	毎日
4	草履箱	縁側	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	年間計画に沿って月1回の避難訓練（地震・火災を想定）実施、及び年2回アプリへの書き込み訓練実施
2	実践予定内容	事故防止チェック実施
3	実践予定内容	不審者対策訓練実施
4	実践予定内容	ヒヤリハット事例の共有、検証、再発防止対策実施
5	実践予定内容	法人内の事故記録簿の全スタッフ回覧周知
6	実践予定内容	ハザードマップ（園外・園内・園庭）の作成及び更新

7	実践予定内容	月一回の法人内事故防止委員会会議実施
8	実践予定内容	月一回の園内事故防止会議実施
9	実践予定内容	環境省の熱中症予防情報確認（概ね5月～10月）

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成することは、保育所の重要な社会的責任と捉え、実習生・研修生の受け入れを積極的に行う。子どもにとっても地域の学生等とふれあう経験は、良い人間関係を築く力の基盤構築に重要なことと考える。近隣の養成校への訪問も視野に、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材の育成、開拓に向けて活動していく。

1	実践予定内容	学生向けの園イベントや現地園見学の取り組みをホームページ等で広く周知し、法人の目指す保育を伝える機会を提供する。
2	実践予定内容	中高生の体験学習や保育養成校の実習生の積極的な受け入れを行う。
3	実践予定内容	学生のアルバイトやボランティアの積極的な受け入れを行う。

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修（年1回） ■ 園内研修（月1回以上） ■ 保育スキル研修（エリア別） ■ リーダー養成研修（9～2月） ■ 業務改善研修（月1回） (=保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会（月1回） ■ デンマークインターンシップ（年1回） ■ コンピテンシー自己採点（月1回） ■ 人権チェック（4月・10月） ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 理念・方針・運営部ミッション/ケガ・ケーススタディ ③ 虐待防止研修 ④ 人権チェック	理念・方針・運営部ミッションを共有し、ディスカッションを通じて、本年度目指す保育について園スタッフの共通認識を図る
5月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② お迎え対応(接遇)研修 ③ スタッフ企画研修	接遇研修を実施し、ディスカッションを通じて、丁寧なお迎え対応の重要性について園スタッフの共通認識を図る
6月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育品質マニュアル研修 ③ スタッフ企画研修	保育品質マニュアル研修を実施し、マニュアル遵守の重要性とルール理解について園スタッフの共通認識を図る
7月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② チーム保育研修 ③ スタッフ企画研修	チーム保育研修を実施し、ディスカッションを通じて、チームワークの重要性について園スタッフの共通認識を図る
8月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの人権研修 ③ スタッフ企画研修	子どもの人権研修を実施し、ディスカッションを通じて、子どもの人権擁護の重要性について園スタッフの共通認識を図る
9月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② クラス別上期振り返り ③ スタッフ企画研修	各クラスによる上期振り返りプレゼンテーションを実施し、下期の保育質向上に繋げる
10月18日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② スタッフ企画研修 ③ 異年齢保育研修 ④ 虐待防止研修 ⑤ 人権チェック	異年齢保育研修を実施し、ディスカッションを通じて、異年齢保育の重要性について園スタッフの共通認識を図る
11月15日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 食育研修 ③ スタッフ企画研修	食育(食材・食の循環・環境)研修を実施し、ディスカッションを通じて、食育の重要性について園スタッフの共通認識を図る
12月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点	ゾーン保育研修を実施し、ディスカ

		② ゾーン保育研修 ③ スタッフ企画研修	セッションを通じて、環境構成の重要性について園スタッフの共通認識を図る
1月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② クラス別下期振り返り ③ 事業計画振り返り	各クラスによる下期振り返りのプレゼンテーションを実施し、来期の保育質向上に繋げる
2月	18:00~20:00	※策定会議 下期振り返り・次年度に向けて	次年度園目標・職員目標設定
3月	18:00~20:00	※策定会議 次年度に向けて	次年度行事設定
3月	18:00~20:00	※キックオフ会議 次年度に向けて	危機管理マニュアル確認・ロールプレイング実施

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デノマークインターソップ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認

をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域交流、世代間交流、異年齢交流等により、子どものコミュニケーション力の向上や実体験による環境への適応能力向上のため、新型コロナウイルスの状況を見定めながら、地域交流を推進する。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：馬場7丁目公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	近隣中学校、高等学校、ケアプラザと連携
異年齢交流	馬場小学校・近隣保育園
地域拠点活動	移動動物園・園庭開放
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

馬場小学校を中心に交流を実施する。

小学校に対し卒園児の引き継ぎ、及び保育要録の作成、提出することで子どもの成長や発育を共有、また小学校と5歳児交流を積極的に行っていく。小学校教諭との情報交換の機会を作ることで、子どもの成長を連続的に見通し、保育と教育の垣根を無くして育ちにつなげることを目指す。また新たに小学校教諭・保育者・保護者の集う会を行い、それぞれの立場で子どもについて語り学び合う機会を設けていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
10月頃	馬場小学校 1年生	14名予定	運動会（馬場小校庭）	子ども間交流

12月頃	馬場小学校 1年生	14名予定	協働活動（当園幼児 保育室）	子ども間交流
1月頃	馬場小学校 1年生	4名予定	授業参観（馬場小教 室）	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

半期に一度を基本とし、園児の状況によって随時行う。

〈2〉 毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定 参加者：20名予定）

園児の状況により開催（対象児童がいない場合は子ども観会議とする）

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

小学校生活の質が高められるよう、保幼小連絡会・保育要録・個別の申し送りを行う。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	（月）～（金）9:30～16:30 ※土曜日は東寺尾どろんこ保育園にて実施
子育て相談	（月）～（金）13:00～16:30 ※土曜日は東寺尾どろんこ保育園にて実施
自然食堂…親子ランチ交流	毎週（火）10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（火）10:00～12:00
勝手籠設置	（月）～（金）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：馬場7丁目公園にて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2025年1月31日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：13時30分

自己評価終了予定時刻：14時30分

自己評価実施予定者：施設長、主任、クラスリーダー、調理リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参画 ・地域子育て支援来訪者420人達成 ・利用者アンケートNPSの推薦者率70%達成 ※NPS (Net Promoter Score) ・畑活動・園庭改良の推進
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・みゆき商店街のクリスマス会に参画し、地域の親子や小学生との交流を深めた。引き続き地域社会とのつながりを強化していく。 ・利用者アンケートNPSは低下し目標達成には至らずであった。保育の質向上と併せて、保育者の保護者に対する情報提供力や共感力、柔軟性等のコミュニケーション教育を強化し利用者満足度向上を目指す。 ・畑活動を積極的に行い食の循環を知る経験を数多く提供できた。また園庭に木登りが出来る樹木を植え、緑の豊富な園庭となるよう改良を進めた。子どもたちの園庭遊びが更に充実したものとなるよう引き続き改良を行っていく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	保育の質さらなる水準の向上 保護者や地域との協力体制の構築 地域子育て支援拠点としての進展
--------	------	-----------------------------------------------------

	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの専門職としてのスキル向上 ・利用者アンケートNPSの推薦者率70%達成 ・どろんこサポーターズとの協力体制の構築 ・畑活動・園庭改良の推進 ・地域行事への参画
2025年度	目指す姿	保護者や地域との協力体制の構築 地域子育て支援拠点としての構築
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの専門職としてのスキル向上 ・利用者アンケートNPSの推薦者率70%達成 ・どろんこサポーターズとの協力体制の構築 ・地域行事への参画 ・地域との協働関係の構築
2026年度	目指す姿	保護者や地域との協力体制の構築 地域子育て支援拠点としての構築
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの専門職としてのスキル向上 ・利用者アンケートNPSの推薦者率70%達成 ・どろんこサポーターズとの協力体制の構築 ・地域行事への参画 ・地域との協働関係の構築

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：馬場どろんこ保育園 施設長 田中 三樹子

2024年度 読売ランド前どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

「にんげん力=生きていく上で必要な力のある心も体も逞しい子を育てる。」

開園5年目、今年度も一つひとつの活動にこだわり、一人ひとりの心を大切にしていく。

主体的にチャレンジできる子ども、人と関わるのが好きな子ども、表現することが好きな子ども、失敗しても再チャレンジできる子どもを育てていく。

全ての事、モノに教育的意図を持ち、一人ひとりの最善の利益を常に追求し続け、徹底的に質の向上に努める。

また、地域の方々と連携し、地域全体で地域の子どもたちを育てていくための拠点となり、地域になくってはならない保育園を目指す。

①「生きる力を育む」ために、質の高い日課・基本保育活動を実施する。《生活の体得》
くどろんこ会グループの基本活動の実践》

異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操・散歩9時出発・畑仕事
ヤギと鶏の世話・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・銭湯でお風呂の日・青空保育

②守る・矯正する保育ではなく、子ども自らの意思やタイミングで経験を選び取るための物的環境を徹底的に研究する。

③小学1年生を見て理解し、0歳児まで逆算した保育を遂行する。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の学びを強化する。（保育所保育指針解説より）

④食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践 《命をいただく活動の実践》

⑤大人のにんげん力UP ～考え、学び、動く、自立した集団となる～

⑥地域に認められ、地域に選ばれ、地域になくってはならない保育園となる。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	「生きる力を育む」ために、 <u>質の高い</u> 日課・基本保育活動を実施する。 《生活の体得》
	実践予定内容	・4月の園会議で日課・基本活動の意味・意義のディスカッションを行い スタッフ間で共通理解をする。 ・毎月の学年会議で振り返りを行い、内容を子どもの姿に合わせて更新し ていく。
2	計画・ねらい	守る・矯正する保育ではなく、子ども自らの意思やタイミングで経験を選び 取るための物的環境を徹底的に研究する。
	実践予定内容	・子どもを観察するスタッフを決め、記録を取る。 ・子どもの姿の記録をスタッフ間で共有し、意見交換する。
3	計画・ねらい	小学校1年生を見て理解し、逆算した保育を遂行する。
	実践予定内容	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を1年通して全スタッフで

		学ぶ。
--	--	-----

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の立場に立ち、感謝の気持ちや思いやりを忘れず、誠実さ、謙虚さを忘れず、保護者の心に入り込んだ接遇をする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大切なお子さんを預ける不安を理解し、小さな体調の変化も共有し、安心して仕事ができるようサポートしていく。（連絡帳） ・誰が対応しても同じ内容でお答えできるようスタッフ間の連携を強化する。
2	計画・ねらい	子どもの成長を共に悩み、共に喜び合える関係性をつくる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・できるようになったことだけではなく、日々何かに向かって努力する姿や葛藤する姿を伝えたり、家での様子も共有したりすることで、子どもが自ら育つ最善の環境と一緒に考え合える関係性を作る。 ・日頃から子育ての悩みを打ち明けやすい関係作りを心掛ける。
3	計画・ねらい	子育てのヒントを提供しつつ、園の方針を理解していただく。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園の強みや特徴を生かした園の様子をInstagramで発信する。 ・保護者懇談会実施 年2回（6月・11月） ・保育参加、個人面談 随時 ・地域公開講座

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に認められ、地域に選ばれ、地域に必要な保育園となる。
	実践予定内容	<p>①園の保育・行事に参加していただく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域参加大型行事を年3回開催 （どろんこ祭り、ダイナミックアート、お餅つき会） ・保育体験（自然食堂、自然学校、芸術学校、青空保育） <p>②地域公開講座の開催</p> <p>「子どもの表現とは」「食べる意欲を育む」</p> <p>③保育所施設及び設備の開放</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内、園庭解放 <p>④子育てに困難を感じている方への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て等に関する相談や援助（子育て相談、寺親屋） ・交流の場の提供、交流の促進（子育てサロン、青空保育） ・情報の提供（地域の子育て支援拠点の紹介） <p>⑤どろんこ保育園を知っていただく広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援イベントのチラシ配布 ・園の強みや特徴を生かした園の様子をInstagramで発信する。 ・多摩区広報誌「たまっこカレンダー」に月の予定を掲載

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人のにんげん力up ~考え、学び、動く、自立した集団となる~
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園の課題の抽出を週1回昼礼で行う。 ・園の課題をトップダウンではなく、自分事として捉え自分たちで解決するためにリーダーで月1回課題解決会議を行う。 ・無駄な業務の断捨離を積極的に行い、業務改善を行う。
2	計画・ねらい	全てのコト、モノに教育的意図を持ち、一人ひとりの最善の利益を常に追求し続け、徹底的に質の向上に努める。
	実践予定内容	<p>【環境会議】子どもの観察記録から、興味・関心を読み取り、その時々に必要なコト、モノを考察し、環境を変えていく。</p> <p>【月案立案会議】一人ひとりの子どもの発達段階を丁寧に確認し、必要な活動、環境を深く考察する。</p>
3	計画・ねらい	園内研修の講師となり、学びをさらに深める。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・順番で園長大学®保育士大学を視聴 ・園会議で講師となり、アウトプットすることで学びを深め、広げる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑の改良
	実践予定内容	土づくりにこだわり、質の高い野菜作りを行う。
2	計画・ねらい	ゴミの削減
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自作のコンポストで、野菜くず、落ち葉、ヤギの糞を堆肥に変え再利用する。 ・年長児が毎日、野菜くずを細かく切る。
3	計画・ねらい	園庭の緑化
	実践予定内容	講演会費で芝を購入し、植え、育てる

〈6〉他者との協働の中で互いに思いや考えを共有し、共通の目的を実現する活動実践

1	計画・ねらい	子ども同士がグループで話し合い、役割を分担し、一つのモノ・成果物・ルールなどを創り上げる活動を実践する。
	実践予定内容	<p>幼児は毎日サークルタイムを行う。</p> <p>自分の考えたことを発表したり、人の話を聞いたりする経験を積み重ね、合意形成エラーや感情コントロールエラーを繰り返すことで、真の人対人コミュニケーション力を養う。</p>

〈7〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	全ての子どもを分け隔てなく、全てのスタッフで観る。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・在園児だけでなく、系列の発達支援施設の子どもたちとの交流を通して、様々な人がいることを知る機会を持つ。 ・大人がやってあげるのではなく、その子の能力に合わせて仲間同士で支え合い、助け合いながら生きていく術を見つけられるような援助をしてい

		く。
--	--	----

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	12人	20人	20人	20人	90人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	13人	栄養士	3人		
パート スタッフ	保育士	4人	事務	1人	用務	1人

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修、コンピテンシー考察
給食運営会議	月1回	食育計画振り返り、献立の振り返り、食環境改善議案
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディ 前月のヒヤリハット、インシデント分析
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り、次月計画の見直し
子育て支援会議	月1回	子育て支援活動の振り返り、参加者・人数の分析
リーダー会議	月1回	園の課題を抽出し、解決策を検討

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	事務連絡及び経営Visionとの接続
施設長勉強会	月1回	マネジメント・コンプライアンス研修 課題改善計画の共有と取り組み発表
食育会議	年4回	食育活動の共有、マニュアルの確認、献立の提案
保健会議	年4回	感染症対策、保健衛生対策の課題への取り組み共有
主任会議	年4回	施設長養成マネジメント研修、 課題改善のアクションプランの進捗確認
子育ての質を上げる会議	月1回	子育ての質を上げるための研修、 課題改善計画の共有と取り組み発表

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	子ども及びスタッフの健康保持のために、施設内外の環境の維持向上に努める
安全対策係	施設内外の設備及び用具の安全管理、点検
防火管理者	災害を想定した訓練計画や消防設備点検、避難経路の確保と点検
食品衛生責任者	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応
畑係	年間を通じた食育計画案の作成と実施。畑の管理。
生き物係	命の尊さや自然事象への関心を広める機会を設定

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画・運営とどろんこサポーターズとの連携
地域子育て支援担当	子育て支援事業の計画、実行、広報活動

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 ・歩行の確立、言葉の獲得により盛んになる探索活動が十分にできるようにし、友達への関わりの芽生えを促す。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・沢山の経験を通して感性を豊かにし、感じたことを少しずつ言葉で伝える場を大切にする ・生活や遊びの中で心身ともに伸びる場を保障する。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の中で友達との繋がりを深め楽しむ場をつくり協調性や自主性を育む。 ・興味関心をもったことに主体的に関わり、発見を楽しんだり、考えたりしながら、遊びに取り入れていく。 ・感じたことや考えたことを水・砂・土・紙・粘土を使用した造形・描画にて表現する。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の関わりの中で、生活や遊びの達成感や充実感を味わう経験を保障する。 ・自分で考え、工夫し判断して、自ら行動できる。 ・心を動かす様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培う。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	健康な心と体を育むために、体を使う遊びを十分に行い、お腹を空かせ食欲をかきたてる。
	実践予定内容	0～2歳は11:15、3～5歳児は11:45まで戸外で身体を動かして遊ぶ。
2	計画・ねらい	食事とはコミュニケーションである。好きな人と食べるからこそ楽しく美味しいのである。好きな場所で好きな友達と好きな時に食べる。
	実践予定内容	食べる場所、人、時間は自分で選択できるようにする。

		全てのスタッフは子どもと食べることを楽しむ。
3	計画・ねらい	畑で野菜を栽培することで、旬の素材に気づき、食に興味を持つ。
	実践予定内容	畑仕事を日課とする。採れたての美味しさ、加工する美味しさを味わう。
4	計画・ねらい	食材・食の循環を認知する直接体験を行う。
	実践予定内容	魚の解体、鶏の採卵。

〈4〉保健計画

園児健康診断	0・1歳児 年6回隔月 / 2～5歳児 年3回
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導、歯磨き指導、水分補給とは
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 11月頃・・・胃腸炎、1月頃・・・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	特になし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在19名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については4月1日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み

	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 0・1歳児 年6回隔月 2～5歳児 年3回 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	一人ひとりに合った教育的意図を持った環境構成(室内・戸外)を考察し続ける。
	実践予定内容	子どもにとって最適な環境設定を行うために月1回保育Webマップを用いて、子どもの興味・関心を理解するための会議を行う。
2	計画・ねらい	防犯、防災、怪我防止の視点での事故防止チェック、設備点検を定期的に行い、破損等は速やかに修繕する。
	実践予定内容	様々な視点で点検できるように交代で行う。門のカギ閉めの注意喚起を定期的に行う。
3	計画・ねらい	保護者、来訪者が見ても気持ちの良い環境を維持する。
	実践予定内容	清掃分担チェック表を利用し、園全体の清掃に努める。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	ロープ	幼児室	毎朝

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	消防計画に基づき自衛消防隊を編成し避難訓練を毎日15日に行う。また、法人専用の「うちのこアプリ」にて災害時緊急連絡を使用し、園が情報を発信安否・施設状況・避難先を情報共有する体制をとる。
2	事故・怪我防止	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止チェックを年4回、設備点検を年6回行い、ケガ事故防止に最善を尽くす。 ・インシデント・ヒヤリハット報告書の運用を徹底し、事故防止委員会で検証をしっかりと行うことで事故を未然に防ぐ。 ・全園事故防止委員会を毎月1回行い、同グループ内で状況を共有し、事故防止策を探る。
3	防犯	年2回不審者侵入訓練を実施する。また、訓練は避難経路確保・不審者撃退・通報の訓練で全スタッフを対象とする。
4	光化学スモッグ	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響を把握する。光化学スモッグ注意報の発令があった場合は内容にあった看板・貼紙等を提示する。
5	里山管理	年に3回里山整備を行い、危険箇所や危険植物の確認や撤去を行う。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

- ・中高生の保育園体験などの積極的受け入れ、異世代交流の機会をつくる。
- ・大学、専門学校への依頼による保育実習の積極的受け入れ、保育の仕事の素晴らしさを伝える。
- ・地域公開講座の参加をポスター等で呼びかけ、学びの場を提供する。

1	実践予定内容	保育士養成校からの実習生の受け入れ
2	実践予定内容	近隣中学校からの職場体験受け入れ
3	実践予定内容	保育ボランティアの受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (= 保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターナショナル (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月25日	18:00 ~20:00	①コンピテンシー自己評価・人権 チェック ②保育理念・日課の理解 ③10の姿「健康な心と体」 ④怪我ケーススタディ研修	振り返り、アクションプランをたてる 理念・方針、保育目標、日課の意味を知る 10の姿の事例検証 怪我を対応の基本を学ぶ
5月24日	18:00 ~20:00	①コンピテンシー自己評価 ②10の姿「自立心」 ③避難訓練デモンストレーション	振り返り、アクションプランをたてる 10の姿の事例検証 災害時の自園での対応方法を確認する。 実際にやってみ役割分担の必要性を知る。
6月27日	18:00 ~20:00	①コンピテンシー自己評価 ②10の姿「協同性」 ③保育中の重大事故(水遊び)	振り返り、アクションプランをたてる 10の姿の事例検証 水遊びマニュアルの確認
7月25日	18:00 ~20:00	①コンピテンシー自己評価 ②保護者支援 ③10の姿「道徳性・規範意識の芽生え」	振り返り、アクションプランをたてる 10の姿の事例検証 支援の種類や役割の整理。
8月22日	18:00 ~20:00	①コンピテンシー自己評価 ②感動するお迎え対応 ③10の姿「社会生活との関わり」 ④子どもが輝く運動会とは？	振り返り、アクションプランをたてる 保護者が感動する内容を考察 10の姿の事例検証 何のために行事をするのかを再確認
9月26日	18:00 ~20:00	①コンピテンシー自己評価 ②10の姿「思考力の芽生え」	振り返り、アクションプランをたてる 10の姿の事例検証

	0	③表現したいと思える子どもを育てる	表現とは？を考察する
10月24日	18:00 ~20:00	①コンピテンシー自己評価 ②10の姿「自然との関わり・生命尊重」 ③嘔吐処理デモンストレーション	振り返り、アクションプランをたてる 10の姿の事例検証 マニュアル・手順確認
11月28日	18:00 ~20:00	①コンピテンシー自己評価 ②選ばれる保育園になるために ③10の姿「数量や図形・認識や文字などへの関心、感覚」 ④成長が伝わる生活発表会とは？	振り返り、アクションプランをたてる 発信する必要性、方法を知る。 10の姿の事例検証 個性を引き出す表現とは？
12月26日	18:00 ~20:00	①コンピテンシー自己評価 ②10の姿「言葉による伝えあい」 ③今年度の振り返り(人的・物的環境)	振り返り、アクションプランをたてる 10の姿の事例検証 子どもにとって必要な環境とは何かを考察
1月23日	18:00 ~20:00	①コンピテンシー自己評価 ②10の姿「豊かな感性と表現」 ③今年度の振り返り(行事)	振り返り、アクションプランをたてる 10の姿の事例検証 今年度実践した行事を振り返る。
2月14日	18:00 ~20:00	①コンピテンシー自己評価 ②次年度事業計画発表・園目標決め	振り返り、アクションプランをたてる 事業計画を理解し、次年度の目標を決定。
3月2日	18:00 ~20:00	①コンピテンシー自己評価 ②次年度行事計画策定	振り返り、アクションプランをたてる 次年度計画。プロポーザルを基に、子どもたちに経験させたい行事を決定する。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											

全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
デンマークインターシップ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉スタッフ個人別研修計画

- ・個々のキャリアプランを意識し、今年度の個人MBOを決定する。
- ・目標に向かうための具体的な取り組みを決定し、研修計画をたて、外部研修、系列園でのOJT研修、他施設見学等積極的に組み入れる。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

積極的に地域と関わっていくことを通して、園の存在を理解していただくと共に、地域で子どもたちの成長や安全を見守っていただけるようにしていく。

また、積極的に園開放することで、地域の子育て支援に貢献していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：寺尾台第1公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人ホーム訪問、地域の高齢者サークルとの交流
異年齢交流	小中学校との交流
地域拠点活動	子育て支援「ちきんえっぐ」運営・園内(カフェ)開放
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

川崎市の方針に基づき、近隣保育園との年長児交流や情報交換、また小学校を知るための取り組みを積極的に行う。「5歳児と小学校1年生との年間連携計画」に沿って子ども間、スタッフ間の交流を深め、実態を知る。またアプローチカリキュラムを保育計画に取り込み、小学校への接続がスムーズになるような学びに向かう準備をしていく。

【育みたい資質・能力】

- ア) 「知識及び技能の基礎」豊かな体験を通じて、感じたり気付いたり、分かったり、できるようになったりする。
- イ) 「思考力・判断力・表現力の基礎」気付き、できるようになったことなどを使い、考えたり試したり工夫したり、表現したりする。
- ウ) 「学びに向かう力、人間性等」心情、意欲、態度等が育つ中でよりよい生活を営もうとする。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
4月頃	多摩区	1名予定	園長・校長連絡会	スタッフ間交流
5月頃	西生田小学校	14名予定	授業参観(西生田小教室)	子ども間交流
6月・1月頃	多摩区生田地区	1名予定	年長児担当地区別懇談会	スタッフ間交流
9月頃	生田地区小学校	1名予定	授業参観・情報共有会	スタッフ間交流
11月頃	西生田小学校	14名予定	小学校見学	子ども間交流
11月・2月頃	近隣公園	14名予定	年長児交流	子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

対象児童の様子に合わせて、年に2回以上計画をたてる。

月1回のケース会議で振返りとスタッフ間の共有を行い、見直していく。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：3名予定)

個別支援計画の振り返りと次月計画の確認

スタッフ間で計画と支援方法の共有

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

小学校の引継ぎは児童指導要録、また各校の担当スタッフとの面談によって行う。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
自然食堂…親子ランチ交流	月2回 (木) 10:00~12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月1回 (木) 10:00~12:00
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育	月1回 公園名：寺尾台第1公園にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年6月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：9時00分

自己評価終了予定時刻：16時00分

自己評価実施予定者：平塚有未、堤葉里、古田めい、片野真実

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<p>①日課・基本保育活動の実施</p> <p>②食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践</p> <p>③小学校1年生を見て理解し、逆算した保育を遂行する</p> <p>④大人のにんげん力UP：学び続ける文化の醸成</p> <p>⑤相手の気持ちに寄り添い、もう最高に幸せ！とっていただけるような接遇</p> <p>⑥環境＝SDGsを意識した生活をする。</p> <p>⑦子どもの姿を捉えた生きた保育計画の作成、</p>
	振り返り	<p>①上半期は日課の質にこだわり、一つひとつの意味を子どもたちと話し合い、やらされる日課から子どもが主体的に行う日課になってきた。質を継続する難しさも実感したので、次年度に繋げていく。</p> <p>②コンポスト作りは継続して行うことができていた。2月に命（鶏）をいただく体験を実施する。</p> <p>③コロナが収束し、小学校の授業参観、交流、体験ができるようになり、実際の様子を踏まえたアプローチプログラムを作成することができた。次年度は保育所保育指針解説の幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿を1年通して学び、さらに学びを深めていく。</p> <p>④1年間、保育所保育指針の5領域を継続して学び、そこを意識した保育計画を作成し、子どもの発達に合った保育が実践することができた。</p> <p>⑤保護者との交流を深める機会を設け、子どもの話を気軽にできる関係性を作るようにした。送迎時の伝達がスタッフによって差が出たり、内容が違ったりすることがまだあるのでスタッフの連携を強化していく。</p> <p>⑥SDG 'Sを特別に意識することは少なかったが、日々畑仕事やコンポストづくりが習慣化されていると感じる。</p> <p>⑦毎月保育計画を立案する前に子ども一人ひとりの発達段階、興味、関心をスタッフ間で共有し合う時間を十分に取った。その上で子どもの姿を捉えた保育計画が実現し、その保育で子どもが変わっていくことを実感することができた。繁忙期になるとその時間を十分に取ることができない月もあったのでタイムマネジメントをしっかりと行っていく。</p>

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<p>〈保育〉生きるための作業や仕事を生活や遊びの中で学び、異年齢・異世代の人間関係の中で共に生活することで、自らを輝かせて今を生き抜く人間を育てる。</p> <p>開園以来続けてきた事、モノが本当に必要か精査し、モノと業務の断捨離を行い、最適化する</p> <p>〈子育て支援〉地域の子育ての拠点として、子育ての楽しさを伝え続け、地域に愛される保育園となる。</p>
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針、法人の理念の学びなおし ・一つひとつの活動の意味を確認し合う時間を子どもも大人も作る。 ・地域に必要な存在となるための行事や講座の強化

2025年度	目指す姿	<p>〈保育〉大人の指示なく、生きていくために必要な営み、労働が文化となり、子ども主体で行えるようになる。</p> <p>〈子育て支援〉 地域の子育て拠点として、また地域の方々が自然と集まる憩いの場となる。</p>
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・年長児が年少児に生きていく上で必要な営みや労働を伝えていく園の文化を意識して作る。 ・地域にこちらから積極的に関わり、園に来やすい関係性を作る。
2026年度	目指す姿	<p>〈保育〉スタッフが定着し、園の良いところを無理なく引継ぎ、新たなチャレンジをし続けるスタッフ集団となる。</p> <p>〈子育て支援〉 地域の子育て拠点として、様々なイベントや講座が地域とコラボして行い、町を活性化させる役割を担う。</p>
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・保育のやりがいを感じる思いがある保育の実践 ・地域の町会、自治体の方々との交流の機会を持ち、共に多摩区を活性化させるために協力し合う。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：読売ランド前どろんこ保育園 施設長 松久保 陽子

2024年度 守谷どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

守谷どろんこ保育園は「心身共に逞しくしなやかな子ども」を育てます。

今後訪れる不確実な要素の多い時代を生き抜く為には、乳幼児期こそ多くの直接体験を通じて、感性や思考を積み上げること。そして自分の意志を持った上で他者の考えや想いを知り、関係性を築き、目標に向けて協働していくことが大切だと考えます。

また子どもの近くにいる保育者と保護者が協働することで、子どもの人間関係のモデルとなっていきたいと願っています。保育を常に可視化し、保護者と共有することで、子どもの育ちを語り合い分かち合い、そして共育ちを実現していきます。

守谷市は今後も世帯数は増えていくことが予想されています。一方で、子どもの数は微減していく未来が見えています。言い換えると保育所として保育者としての本質が問われる未来がやってくるということです。しかしだからこそ私たちは以下に記載するどろんこ会の理念・目標・方針、守谷どろんこ保育園の園目標の達成を目指すことで競争を生き抜いていきます。そしてその道のりでは、保育者集団がにんげん力を高め、関係する人々と協働力を強め、地域に選ばれる園をみんなで協創したいという願いを持って進んでいきたと思っています。

法人 保育理念「にんげん力。育てます。」

二大保育目標「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

2024年度 施設運営方針

- ①生活の体得
- ②10の姿の体得
- ③子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定
- ④鶏を絞めて食す 命をいただく活動の実践
- ⑤自律運営

守谷どろんこ保育園 2024年度 園目標

「やってみたい」があふれる保育園

守谷どろんこ保育園 2024年度 職員目標

チャレンジは成功のもと

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	どろんこ会の基本保育活動と日課の理解を深める。
	実践予定内容	「どんな育ちにつながっていくのか」という学びを職員間で継続的に深めていく。
2	計画・ねらい	異年齢・インクルーシブ保育を軸に子どもの意志を育てる。
	実践予定内容	乳幼児期から分けることを排して、混ざる感性を育む。
3	計画・ねらい	保育研究の発信を行う。
	実践予定内容	学会や教育団体などへの研究資料発信を継続していく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	お迎え対応の質向上。
	実践予定内容	ロールプレイやOJTを通して、保護者の立場に立った伴走型の対応が出来るようにしていく。
2	計画・ねらい	共育ちの実現。
	実践予定内容	保護者面談はもちろんいつでも受けるが、申し出しやすいよう、クラスごと期間を決めて、園職員と個別に対話する機会をつくっていく。
3	計画・ねらい	保護者間コミュニティの形成。
	実践予定内容	各家庭を孤立させず、「つながることが子育てのエネルギーになる」ということを体感してもらう機会をサポートズと考えていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て支援センターちきんえっぐとして、利用者を増やす。
	実践予定内容	利用者推移をもとに毎月チーム内で会議を行い、課題抽出とアクションで昨年度対比増にする。
2	計画・ねらい	子育て相談の積極的受け入れ。
	実践予定内容	子育ての悩みや迷いを打ち明けてもらえるよう、相談を取りにいくアクションしていく。
3	計画・ねらい	地域力を取り込む。
	実践予定内容	法人外地域支援センターから直接学び取り、新規アクションを起こす担当職員だけでなく、地域の方の力を活用する。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	リーダー会議でのリーダーシップ・マネジメント力の向上。
	実践予定内容	ワークやディスカッション中心に自己研鑽を行う。
2	計画・ねらい	メンバー育成におけるリーダーの関与。
	実践予定内容	個人の成長や研鑽にリーダーが伴走する形をとる。
3	計画・ねらい	新卒研修の開催。
	実践予定内容	中堅職員が新卒のフォローアップ研修を行う。

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	伐採した樹木の活用。
	実践予定内容	伐採した園庭の木は、遊具づくりや冬場の焚火の薪として使用する。
2	計画・ねらい	木陰で遊べる環境づくり。
	実践予定内容	夏場も園庭での活動を保障できるように、園庭の約100本の樹木のメンテ

		ナンスと遊び園庭環境のレイアウト。
3	計画・ねらい	堆肥作成と畑での活用。
	実践予定内容	ヤギや鶏の糞、食品残渣などで堆肥を作り、畑の野菜栽培へ活用する。

〈6〉チーム保育（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	担当スイッチ。
	実践予定内容	保育士・事務用務員・調理員が自分の持ち場以外を体験し、仲間を尊重しチームの意味を理解していく。
2	計画・ねらい	同僚性強化。
	実践予定内容	担任が保育することに捉われず、各職員の強みや異なる視点を活かした子ども観を保育につなげ、職員相互が支え合えるようにする。
3	計画・ねらい	チーム保育の理論を学ぶ。
	実践予定内容	園内研修にてワークやディスカッションを行う。

〈7〉主体的な相互の学び（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	園内研修の活性化。
	実践予定内容	園会議では最大限研修を入れ、インプットとアウトプットを促進する。
2	計画・ねらい	自主研修の開催。
	実践予定内容	年度当初の計画に捉われず、課題やトレンドを鑑み、必要と思うものは適宜、計画実施する。（動画作成も利用）
3	計画・ねらい	自分たちの保育を法人外へ発信。
	実践予定内容	学会や教育団体への研究発表を継続する。

〈8〉サポーターズとの協働（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	協働での環境整備。
	実践予定内容	園の環境を良くする取組みを保護者と協働で行う。
2	計画・ねらい	サポーターズからの参画を実現。
	実践予定内容	提案型の活動を実現していく。
3	計画・ねらい	園の保育・サポーターズ活動の可視化。
	実践予定内容	園として、子どもをどう捉え、どう育てていきたいのかなど方向性のメッセージを掲示やアプリで常に発信する。サポーターズの活動も発信を強化する。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
15人	15人	15人	15人	15人	15人	90人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	施設長	1人	保育士	13人	看護師	1人	栄養士	2人
	主任	1人						
パート スタッフ	保育士	4人	栄養士	1人	事務	1人	用務	1人
	嘱託医	2人						

3. 運営方針

施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	園内研修や、園全般を議論する決定会議。
給食運営会議	月1回	チームとして子どもの職環境をどのようにデザインするかを検討する。
事故防止委員会	月1回	園内で発生した、インシデント・ヒヤリハットをもとに再発防止を検討する。
ケース会議	月1回	要支援児と気になる児について、ケース検討などを行う。
クラス会議	月1回	各クラスの保育の質向上に向けて是正検討を行う。
食育PJT会議	月1回	園としての食の位置づけや方向性を検討する。

〈4〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人情報の共有・各園の運営状況共有
施設長勉強会	月1回	法人内研修、各課の施設長間研修
食育会議	年4回	食環境の検討や実践報告
保健会議	年4回	園運営上の危機管理や養護面の検討
主任会議	年12回	主任及びミドルリーダーの研修
子育ての質を上げる会議	月1回	各園の質向上の為の、実践報告や研修

〈5〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	災害全般の予防・対策の取組み実践
安全対策係	日々の食事や食育プロジェクトの企画と実践の中心
防火管理者	保育園全体の環境改良（修繕・管理・購入・作成）の定期的見直し
食品衛生責任者	職員の研修参加への情報発信、参加数管理
畑係	農業計画に沿った畑や田んぼの維持管理と活動準備、及び可視化
生き物係	生き物の飼育管理全般

〈6〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭りチーム	内容について企画運営の中心になる。保護者の参画・協働を踏まえた全体のデザインをする。
運動会チーム	子どもの心身の発達から運動面を切り口に保護者と共有する。 保育と行事の連続性を持った内容に企画していく。
生活発表会チーム	年間の園生活での育ちを全体的に保護者と共有するために、可視化及び実際に体験できるようにデザインをする。サポーターズの参画参加を基本とし、連携していく。

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に慣れ、生活のリズムをつくる。 ・自我を発散できるよう、安心できる人間関係を築く。 ・集団の中で、自分の存在を知り、他者とのつながりを感じる。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に自ら関わり、様々な体験を積み重ね、興味関心が広がる。 ・表現の基礎となる多様な実体験を通じて、感性が育つ。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢での大きな集団で過ごし、仲間との関わりの中で自己を確立していく。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・自己決定により、主体的に過ごすことができるようになっていく。 ・様々な自己表現を通して、集団を作っていくようになる。 ・仲間との協働を通して、自分の思いと仲間の思いを照らし合わせるようになる。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食育プロジェクト実践力強化
	実践予定内容	子どもの現状を捉え、根拠を持ったアクションの中心を担うチームを園内で運営する。討議内容や情報を保護者へも発信していく。
2	計画・ねらい	食への取り組みの家庭への発信と協働
	実践予定内容	トレーニングや数値コントロールを越えた園への取り組みを家庭との協働へつなげる。

3	計画・ねらい	命をいただく活動で労働～食の循環を学ぶ
	実践予定内容	生き物を食べるということが、「命をつなぐ」活動ということだという理解を深め、「捌いて食べる」の先にあるものを学ぶ。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・12月）
歯科検診	年1回（9月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導（11月） 歯ブラシ指導（1月）
流行が予測される感染症	インフルエンザ・感染性胃腸炎・アデノウイルス
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・3名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 エピペン・・・2名より預かり済み／事務所に保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在26名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員はゼロ
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在24名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名
その他保健に関する取組	保護者周知（熱性けいれんの対応・胃腸炎発生時の洗濯・薄着のススメ・歯ブラシのススメ・熱中症予防・早寝早起きなど）

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日

	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・12月（予定） 歯科健診 年1回／9月（予定）
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	ゾーン設定基準の定期チェック
	実践予定内容	「子どもの発達にあった環境」・「主体的に過ごすための環境」の基準を設けて、毎月見直しを行い、アクションプランを立てる。
2	計画・ねらい	子どもが自ら育つ環境設定の再構成
	実践予定内容	環境改良チームのアクションから、各期ごとの評価及び環境見直しを行っていく。
3	計画・ねらい	保護者・地域との協働による環境整備
	実践予定内容	園庭を中心とし、保護者・地域と一緒に整備する機会をつくる。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	パーテーション	0歳児室・1歳児室・異年齢児室	毎日
2	名札入れ	玄関	毎日
3	丸太	園庭	毎日

4	小さなマイホーム	1歳児室	毎日
5	荷物掛け	各保育室	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

守谷市は災害が起こりにくい土地と言われる一方、意識が弱まることのないよう様々な想定や視点を持って危機管理を行っていく必要がある。

1	実践予定内容	年間計画に沿って、月1回の避難訓練（年2回の書き込み訓練）。突発で起こる災害に対して想定した訓練にする。
2	実践予定内容	事故防止チェックリストの活用。
3	実践予定内容	設備点検チェックリストの活用。
4	実践予定内容	毎月の法人事故防止員委員会における、施設長間での事故防止検討。園内での深化につなげる。
5	実践予定内容	毎月の園内事故防止委員会における事故防止検討と実践（数値データによる分析・図面による可視化を行う）。
6	実践予定内容	法人内事故記録簿の職員共有。 それを受けて自園で何が出来るか検討しアクションにつなげる。
7	実践予定内容	ハザードマップ・ハザード難易度表の作成及び見直し。 資料としてだけでなく、職員の想定力を活かし議論を反映させる。
8	実践予定内容	園に対しての防犯の目、有事の際の相互協力出来るよう、町内会や近隣とのコンタクトを定期的にとる。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

保育園は地域の社会資源であり、子ども専用の場所から、社会人研修の場所ともなるべきです。次世代を担う保育者育成も園の役割と捉え、受け入れは積極的に行います。子どもにとっても多くの人と関わる事が豊かな育ちへのきっかけとなると考えています。

1	実習受け入れ	保育士・栄養士・調理師の実習受け入れを行い、実際の現場において行う業務や役割への理解を全面的にサポートする。
2	インターンシップ受け入れ	保育現場がどのような日々なのかを丁寧に伝える。担当者は質問や疑問に細かに答えていく。
3	職業体験受け入れ	中高生の職業体験は、社会や職業を知る機会としての受け入れしていく。

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修  <p>←避難訓練研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修 (年1回) ■園内研修 (月1回以上) ■保育スキル研修 (エリア別) ■リーダー養成研修 (9~2月) ■業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会 (月1回) ■デンマークインターンシップ (年1回) ■コンピテンシー自己採点 (月1回) ■人権チェック (4月・10月) ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習

7. スタッフ育成と研修計画

育成テーマとして、「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら行動する」「自ら楽しむ」職員を育てる。

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月19日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②人権・虐待防止研修 ③園内研修Ⅰ (子どもの人権)	①具体的アクション設定 ②セルフチェック実施 ③子どもの権利条約と大人の存在
5月17日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②園内研修Ⅱ (守谷どろんこ保育園の強み弱み)	①具体的アクション設定及び達成度振り返り ②新旧メンバーでのポイント抽出と具体的アクション
6月21日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②ドキュメンテーション研修 (振り返りⅠ)	①具体的アクション設定及び達成度振り返り ②可視化による保育分析と相互評価
7月12日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②園内研修Ⅲ (チーム保育) ③どろんこ祭りに向けて	①具体的アクション設定及び達成度振り返り ②チームとグループの違いとチームビルディング

			③ねらいや内容の最終確認
8月23日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②ドキュメンテーション 研修（振り返りⅡ） ③園内研修Ⅳ（インクルーシブ保育）	①具体的アクション設定及び達成度 振り返り ②可視化による保育分析と相互評価 ③国の方針から実践まで
9月20日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②運動会に向けて ③園内研修Ⅴ（環境の再構成）	①具体的アクション設定及び達成度 振り返り ②ねらいや内容の最終確認 ③下期に向けての環境の見直し
10月18日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②人権・虐待防止研修 ③園内研修Ⅵ（リーダーシップとメンバーシップ）	①具体的アクション設定及び達成度 振り返り ②セルフチェック実施 ③リーダー中心に下期の保育の方向性を明確にする
11月15日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②園内研修Ⅶ（保護者支援）	①具体的アクション設定及び達成度 振り返り ②利用者アンケートから課題抽出
12月20日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②ドキュメンテーション 研修（振り返りⅢ） ③園内研修Ⅷ（気になる児の保育）	①具体的アクション設定及び達成度 振り返り ②可視化による保育分析と相互評価 ③平等と公平・公正について学ぶ
1月17日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②生活発表会に向けて ③園内研修Ⅸ（年間の相互評価）	①具体的アクション設定及び達成度 振り返り ②ねらいや内容の最終確認 ③各セクションの輝きをフィードバックする
2月21日	18:00~21:00	策定会議1	（事業計画振り返り・保育年間振り返り）園目標・職員目標制定など
3月2日	9:00~18:00	策定会議2	次年度の行事・活動計画制定など

茨城エリア合同研修

（つくばどろんこ保育園・万博公園どろんこ保育園・学園の森どろんこ保育園・守谷どろんこ保育園・香取台どろんこ保育園・アイビー保育園・ほしのか保育園・おひさま保育室）が参加予定

開催日	開催時刻	名称・テーマ	会場	総予算	按分
-----	------	--------	----	-----	----

					予算
6月中旬	9:00～12:00	救急救命講習 受講	つくばどろんこ 保育園	0円	0円

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士 大学講座および社内 限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デンマークインターシッポ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

守谷市内の現状を考え、高齢者のエンパワメントや子育て中の保護者がコミュニティを作れる場所として、子ども専用施設とせず、どれだけ多様な人が来てくれるかに取り組んでいく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：ログハウス公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	守谷市いきいき・プラザ元気館など
異年齢交流	他園や地域の園児と地域の方を招いて交流の機会を作る
地域拠点活動	子育て支援センターちきんえっぐの機能強化

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

黒内小学校・大野小学校を中心に、以下計画を進めていく。

保育・授業見学による、保育士と小学校教諭の相互の学びの機会を作る。

5歳児の保育要録の提出に加え、成長を共有する機会を持つことで、保育園と小学校の双方向での対話をもとに、アプローチカリキュラム作成につなげる。（状況により、小学校とのやり取りはWEBの活用を検討）

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月8日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	大野小学校 1年生	15名予定	授業見学（大野小校庭）	子ども間交流
6月頃	黒内小学校 1年生	15名予定	授業見学（黒内小校庭）	子ども間交流
8月頃	大野小学校 保育見学相談会	8名予定	当園	職員間交流
11月頃	大野小学校	4名予定	運動会見学（校庭）	職員間交流
1月頃	黒内小学校	15名予定	WEB授業参観	子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

年度当初に計画立案し、毎月具体的取組みを議論していく。9月に下期の計画立案を再度行い、子どもの実態に合った内容にしていく。地域の療育分野とも議論しながら学びを相互に深めていく。

〈2〉 毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：5名予定)

要支援児と気になる児、または気になる場面をもとに職員間で議論する。

要支援児に関しては、個別計画を作り、上期と下期に振り返りと見直しを行う。

具体的アクションを決めて、毎月振り返りと再計画を行う。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

学校生活との接続の質向上のために、保育要録の直接渡し及び個別申し送りを行う。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：ログハウス公園等にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉 園による自己評価の実施

2025年2月28日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：13時50分

自己評価終了予定時刻：14時30分
自己評価実施予定者：施設長・主任・リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。
アンケート配布予定日：8月25日

1.3.3 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ●リーダー層がどろんこ会の運営方針の理解を語れる ●チーム保育を原点に、他者と相互の「学び」「保育更新」し続ける ●サポーターズ・地域との相互理解と協働機会の拡大
	振り返り	今年度は上記三点のポイントを意識的に運営してきた。職員にしても保護者にしても共通で、チームの構造が徐々に強まった部分は大きい。一方そこに入りきれないメンバーを取りこぼさない体制にするという所は課題であった。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ●リーダー層がどろんこ会の運営方針の理解を語り・実践できる ●新たな保育活動や学びの場の推進 ●サポーターズ・地域との相互理解と協働機会の拡大
	重点施策	法人の保育と自分たちの保育のこだわりを語る機会を増やす。提案型保育の深化と外部発信を進める。共育ちに向けてサポーターズと協働の機会を重ねる。
2025年度	目指す姿	●園外・法人外への影響力を持つ
	重点施策	自分たちの保育を可視化し、発信する。
2026年度	目指す姿	●守谷市の園として、教育のフロントランナーとなる
	重点施策	他園のモデルとなれるように保育の更新と発信のサイクルを活発に行っていく。

以上

2024年度 メリー★ポピンズ登戸ルーム 事業計画書

1. 基本方針

スローガン：「あなたはどうか」 大人も主体性～考え、学び、動く、自立した集団～

自分たちは保育のプロとして大切に子どもたちを育てていることに誇りを持って、子どもたちにとって何が必要か、考え、実行する。

子どもたちは、保育園の生活の中で保育者がやっていることを見て、そして一緒にやってみて様々な経験と失敗をしながら生きる力を身につける。

子どもたちは様々な用意された環境から自分のやりたいことを見つけて集中して遊べる場がある。

スタッフはお互いの得意なこと苦手なことを理解しあい、考えを尊重し助け合える関係になる。

保護者は子どものことを保育者とたくさん話して笑顔で帰っていく。

地域の方が自由に訪れ、楽しくリラックスした時間を過ごしていく。

スタッフは子どもの姿を語り合え、自分のやってみたいことを協力しながら行える関係になる。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	教育・共育を意識して大人は何を教えるのか考え、子どもが共に育つために計画的に環境を用意する。
	実践予定内容	畑仕事・雑巾がけ・生き物の世話を通して子どもに伝えたいことは何か、丁寧に仕事をするの意味など保育者が一緒に行いながら教えていく。やりたくないこともなぜやらなければならないのかを教え、協力してやり遂げることの達成感を味わえる経験を用意する。
2	計画・ねらい	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を理解し成長段階に合わせた保育計画を行う。
	実践予定内容	保育所保育指針の10の姿からひとつをピックアップし、クラス会議で話し合いを行い毎月の計画に盛り込む。活動の内容を具体的にし、ねらいを持った活動を日々実践する。ねらいや活動場所については前日夕方までに確定し、活動で使用する道具類を事前に準備し余裕をもって活動ができる。
3	計画・ねらい	園長大学®保育士大学の研修やキャリアアップ研修で学んだことを保育者が学びあう環境を整える。
	実践予定内容	学んだ研修を昼礼や園会議などで子どものこと保育のことをたくさん話せる場を設ける。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子どもがどんなことをしていたのか楽しみにしながらお迎えに来られるようなお迎え対応をする。
	実践予定内容	保護者の気持ちに寄り添い、子どもの成長が伝わるような対応を心がける。何か質問や問い合わせがあった時には、その場で曖昧な対応するのではなく、園全体で話し合い、意見を一致させてからお伝えする。

		どの職員に聞いても同じ回答が返ってくるような体制を整え、安心感に繋げていく。 育児の悩みに寄り添い保育園でのかかわりを伝え、困りごとが少しでも解決できるような対応を心掛ける。
2	計画・ねらい	連絡帳アプリ、タイムラインの活用法を考え、成長を共有する。
	実践予定内容	アプリでの配信が多いため、お迎え対応時に配信されている手紙や写真に触れたり通路に掲示したりすることで見る習慣がつくよう工夫していく。 アプリをうまく活用し、日々の子どもの成長を伝えたり感じたりできる方法を職員全体で考える。
3	計画・ねらい	保育園の活動内容が手に取りようにわかる畑活動や育てている野菜の様子や畑仕事での活動を掲示する。
	実践予定内容	保護者が子どもの様子が手に取るようにわかるように写真を活用し、保育者がどんなかかわりをしているのかを伝える。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	どろんこ会の活動内容を発信し続ける。
	実践予定内容	青空保育、芸術学校、自然学校の内容を深め、散歩や、水遊び、季節に合わせた制作活動などで参加者を積極的に募っていく。子育て支援事業を通して園の存在をアピールしていく。
2	計画・ねらい	「勝手籠バザー」「園見学」をきっかけに育児講座を開催していく。
	実践予定内容	「勝手籠バザー」や「園見学」の参加者に声をかけ離乳食講座を年2回開催する。
3	計画・ねらい	こども未来局保育事業部多摩区保育総合支援の「たまっこカレンダー」を活用し参加者を募る。
	実践予定内容	青空保育・出張勝手籠・勝手籠バザー・寺親屋・子育て支援行事（マジックショー・骨盤ストレッチ講座）の日程を告知する。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	リーダー職員が中心となり、園内研修を行う。
	実践予定内容	園会議の時間を使って、リーダーに園内研修をする時間を用意する。 人前で話す・話す内容を分かりやすいようにまとめる・時間内で伝えきる等の機会があることでリーダーとしての自覚や自信が芽生えていく。 キャリアアップ研修や円買い研修で学んだ内容を職員にアウトプットすることで学びを深める。
2	計画・ねらい	自分の役割を理解し向上心のある職員を育成する。
	実践予定内容	キャリアアッププランを見据えて、年に4回上長と面談をする。 次のステップへの足掛かりになるアドバイスやサポートをしながら自信と向上心に繋げていく。 園での現状の課題に向き合い職員自身の役割は何か、役割を達成するために必要な行動を自身で決められるように話し合う。
3	計画・ねらい	環境設定研修を定期的に（毎月）課題を決めて行い、環境整備を行う。
	実践予定内容	絵本・おもちゃ・室内構成・畑と年に3回、子どもの姿をとおして何を必

		要とし、どこに設定するのか、どう活用するのかを考え発表し、環境を整えていく。
--	--	----------------------------------------

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	年間農業計画に沿った畑仕事や、自分たちで育てることによって感じる大切さや味わいを知り、食への興味に繋げる。読売ランド前どろんこ保育園に畑仕事に行った際にはヤギの世話をを行う。プランターや読売ランド前どろんこ保育園の畑に年間を通して野菜が育つ。
	実践予定内容	畑仕事を行った際は水やり・草取り・追肥・など必要なことを行えるように道具を準備する。 収穫した野菜は購入食材や畑で育てた食材等を保存できる状態や、食べられる状態に加工する。
2	計画・ねらい	どんな野菜がよく育つのか子どもと職員が学びながら育てていく。育つためには何が必要か調べて試し成長過程を記録する。
	実践予定内容	コンポストにヤギの糞を利用した堆肥づくりを行う。 畑カレンダーや畑の作業日誌を玄関前に掲示し、保護者や地域の方にも情報を共有する。
3	計画・ねらい	給食残渣を2021年度比70%に減らす
	実践予定内容	日々の給食残渣を子どもたちと測定し記録し、残渣を減らすことの意義を考える。

〈6〉チーム保育

1	計画・ねらい	リーダーは園の課題を話し合い、改善に向け意見を活発に伝えあう。
	実践予定内容	施設長・主任・リーダーによる月1回の会議を開催し、職員間の連携や運営がスムーズに行えていない課題について話し合い、改善点を明示し、次の会議に経過を報告する。
2	計画・ねらい	クラス会議を月に1回行い、月案や週案について話し合う
	実践予定内容	施設長・主任・クラス担任で子どもの姿を話し合い、個々のねらいや活動内容を決める。クラスでの困りごとについて具体的な改善点を洗い出し、いつまでに改善するのか明示し経過を次のクラス会議で報告する。
3	計画・ねらい	スタッフ全員が園の課題を自分事としてとらえ、他の意見を聞きながらも自分だったら何ができるかという考えや意見を持てるようになる。
	実践予定内容	子どもの姿から何を感じ自分がどのように行動したかを、よかったことやうまくいかなかったことなど園会議や、昼礼、クラス会議で自分の意見を言い合えるように施設長や主任・リーダーが話しやすい環境をつくる。

〈7〉園会議内での環境設定研修

1	計画・ねらい	園会議の中で環境設定を考える。
	実践予定内容	担当を割り振り、子どもの発達に合わせた絵本・玩具・美観・畑活動など調べたことを職員にレクチャーし、環境設定を見直す。

2	計画・ねらい	園会議の中での研修が職員の学びの場とスキルアップの場となる。
	実践予定内容	目の前にいる子どもたちの姿から気づいたことや必要なことを考え、グループワークを行う中でより具体的な環境設定を考えることができるようになる。
3	計画・ねらい	1年間の取り組みは記録を取り1月の園会議で振り返りを行う。
	実践予定内容	次年度の策定会議の前に振り返りを話し合う。また、自分たちが取り組んだことが1年間の成果となり保育士としてやりがいにつながる。

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	10人	12人	14人	14人	14人	70人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	9人	看護師	0人	栄養士	1人	調理員等	2人
	パート スタッフ	保育士	3人	補助	0人	調理	0人	事務
	用務	0人						

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	職員の園内研修、コンピテンシー追求

給食運営会議	月1回	アレルギー、離乳食、献立の振り返り
事故防止委員会	月1回	自園で起きた事故、ヒヤリハット、インシデントの事故分析、危機管理
ケース会議	月1回	個別計画の振り返り、省察
クラス会議	月1回	保育計画の立案振り返り、子どもの様子共有
リーダー会議	月1回	保育園の運営に関して情報共有と改善点話し合い

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	運営本部より情報共有、議案検討、意見交換
施設長勉強会	月1回	課題改善計画立案、取り組み成果発表
食育会議	年4回	食育計画の立案、献立見直し、給食提供マニュアル
保健会議	年4回	感染対策やガイドラインの作成、食育計画作成
主任会議	年4回	マネジメント、自園での取り組み発表、アクションプラン立案
子育ての質を上げる会議	月1回	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を学び実践、取り組み成果発表

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
子育て支援係	園青空保育、地域交流の計画と実施
畑係	年間を通じた計画の作成と実施、畑の管理
食育係	年間の即行く計画をもとに行事設定や行事の提案を行う
食品衛生責任者	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応
園内環境係	年間を通して子供の興味や発達に合わせ保育環境を見直し提案し是正する

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画運営
運動会係	運動会の企画運営
生活発表会係	生活発表会の企画運営

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人ひとりの気持ちを受け止めながら、ふれあいを多く持ち、安心して過ごせる環境の中で様々な経験をする。 個々の発達を把握し、欲求を満たし生命の保持と情緒の安定を図る。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> 多様な経験を通して、感情を豊かにし、感じたことを伝えられる場を大切にする。 自分でやってみたい気持ちを受け止めながら、遊びの幅が広がるようにしていく。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の生活や遊びの中で基本的な生活習慣が身につくようにする。 やりたいこと、必要なことを自分で選択し、好きな遊びを通して興味関心を学びに繋げていく。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢の関わりの中で生活や遊びの達成感や充実感を味わいながら経験できるようにする。 子ども同士で思いや考えを共有し、共通の目的を実現できる場をつくっていく。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> 随時、希望する保護者に対し実施 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	調理員は給食の時間に子どもが食べる様子を見て食事の形状について見直しをする。 保育者は子どもが楽しい雰囲気でき食事ができるように的確な椅子やテーブルの高さがあるか確認をし、「おいしいね」など会話を楽しむ。
	実践予定内容	給食会議で保育者と残食量・苦手なメニューの把握をし、改善点を話し合う。保育者は子どもの食具の使い方など観察し、遊びの中でトングや箸の使い方など身に着くように環境設定を行う。
2	計画・ねらい	離乳食の悩みを訴える保護者や地域の方に離乳食講座を開始する。 栄養や食材について調べ、実際に商店街ツアーを通してみる体験をし「食べること」に興味を持つ。
	実践予定内容	口腔発達・手づかみ食べの大切さなど年2回の離乳食講座を開催する。 寺親屋を通して「食べること」の大切さを子どもたちと一緒に学ぶ。
3	計画・ねらい	畑仕事やクッキングを通して食に興味を持つ。
	実践予定内容	プランター野菜の充実を図り、自分で育てた野菜からおいしい給食ができる喜びを体験する。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年0.1歳児 年6回(2カ月に1回) 2.3.4.5歳児 年3回(4カ月に1回)
歯科検診	年1回(6月)
保健だより	月1回(25日)発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回(5日)
園児への保健指導・取組等	はみがき指導、感染症予防、手洗い指導
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 5月頃・・・溶連菌 手足口病 1月頃・・・胃腸炎・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	対象児なし
エピペン使用できるスタッフ	2024年3月21日に現在17名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	該当なし
その他保健に関する取組	保育園感染症サーベランス登録 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい・手洗

	い指導を行い、消毒・換気を徹底していく。
--	----------------------

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検(簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診0.1歳児 年6回(2ヵ月に1回) 2.3.4.5歳児 年3回(4ヵ月に1回) 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	3階4階のプランター・読売ランド前どろんこ保育園の畑に年間を通して野菜が育つ。
	実践予定内容	どんな野菜がよく育つのか子どもと職員が学びながら育てていく。

		成長を楽しみにできるように子どもが気づいたことを記録して掲示していく。
2	計画・ねらい	子どもの成長に合わせて室内環境を改善する。
	実践予定内容	毎月の園会議で、美観・おもちゃ・絵本・畑について子どもの成長に見合った設定について学び環境設定を行う。子どもが自分で遊びを選び、遊びこめる環境を設定する。
3	計画・ねらい	ねらいをもった散歩を計画し、そのねらいを子どもに伝え散歩先を自ら選ぶ。
	実践予定内容	子どもの姿を捉え、子どもの成長にとって何が必要なのか考え散歩先や散歩先での遊びを計画し、実践振り返りを行う。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	消防計画に基づき自衛消防隊を編成し、避難訓練を毎月1回行う。また、うちのこアプリにて災害時緊急連絡を使用し、園が情報発信し、安否・避難状況・避難先の情報を共有する体制をとる。
2	防災	事故防止チェックを年4回、設備点検を年6回行い、ケガ事故防止に最善を尽くす。
3	ケガ事故防止	インシデント・ヒヤリハット報告書の運用を徹底し、事故防止委員会で検証をしっかりと行うことで事故を未然に防ぐ。
4	ケガ事故防止	法人内の全園で事故防止委員会を月に1回行い、同グループ内で状況を共有し、事故防止策を探っていく。
5	防犯	年2回不審者侵入訓練を実施する。また、訓練は避難経路確保・不審者撃退・通報の訓練で全職員対象として行う。
6	光化学スモッグ	光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響を把握し、発令があった場合は内容に合った看板や貼り紙等を掲示する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

中高生の保育園体験などを積極的に受け入れ、異世代交流の機会をつくる。

大学・専門学校の依頼があった場合は保育実習を積極的に受け入れ保育の仕事の素晴らしさを伝える。

1	職業体験	近隣中学校からの職業体験受け入れ
2	保育実習	保育士養成校からの実習受け入れ
3	保育ボランティア	大学生のボランティア受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修  <p>←避難訓練研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理 ③ 虐待防止研修 ④ 環境設定研修 (美観)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自園の子どもの様子、園内危険箇所 の予測と把握 ・ 園内ハザードマップの見直し ・ ケガの対応について ・ 保育品質マニュアル・内部監査に ついて
5月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 避難訓練デモンストレーション ③ 環境設定研修 (玩具)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時、不審者遭遇時の対応方法 ・ 避難経路の確認
6月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺のリスクマネジメント ③ 環境設定研修 (絵本)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水辺で事故が起こらないために気を 付けるべきことを確認する ・ 水遊びのマニュアル共有 ・ 子どもに見せたい絵本について (発達に合わせた絵本の設置)
7月18日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② さくらさくらんぼリズム ③ 環境設定研修 (畑)	<ul style="list-style-type: none"> ・ さくらさくらんぼリズムの必要性 と子どもの発達の理解 ・ コンポストについて ・ 秋冬野菜の栽培について
8月15日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点	散歩の道中や公園内の危機管理につ

		<ul style="list-style-type: none"> ② 散歩のロールプレイング ③ 環境設定研修（美観） 	<p>いて子どもの安全を守るための保育者の行動や子どもの配慮について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部監査是正計画について
9月19日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 感染症対応 ③ 環境設定（玩具） 	<ul style="list-style-type: none"> ・嘔吐処理のマニュアル手順の確認 ・感染症対策・流行った時の対応について ・子どもの発達の合わせたおもちゃの選定について
10月17日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 接遇 ③ 虐待防止研修 ④ 環境設定（絵本） 	<p>保護者、来訪者がいつ見ても気持ちの良い施設となるための接遇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人権を守るための保育者の対応について ・子どもの興味に合わせた絵本の選定について
11月21日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 食材や食の循環 ③ 環境設定（畑） 	<p>子どもが自らの体験を通して食材や食の循環・環境への意識を身につける方法</p> <p>子どもが楽しめる食育の環境設定について</p>
12月19日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 今年度の振り返り（クラス） 	<p>子どもの様子の振り返り、進級に向けた保育と環境の見直し</p>
1月23日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 今年度の行事・係振り返り 	<p>今年度を実施した行事の振り返り</p> <p>クラス、保育者、係での反省と課題の抽出</p>
2月20日	18:00~21:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 次年度事業計画書発表 ③ 園目標決定 	<p>事業計画を理解し、次年度の目標を決定する</p>
3月2日	9:00~16:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 次年度行事計画策定 	<p>次年度計画、プロポーザルを基に子どもたちに経験させたい行事を考える</p>

〈2〉 外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デノマークインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉園長大学®保育士大学の受講

職員の学びたい講座を最低年2回計画的に受講する。園の運営やキャリアにふさわしい講座を選び学ぶ機会を積極的に組み入れる。また、研修した内容は学びを深めるために園内研修で発表する。

〈6〉キャリアアップ研修の計画的な受講

自治体で開催される研修や法人内の講座を利用してキャリアアップ研修を計画的に受講し、リーダーとしての役割を認識し学びを深める。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

積極的に地域とかかわっていくことを通して園の存在を理解していただき、地域で子どもの成長や安全を見守ることができるようになる。また、積極的に地域の方と散歩に出かけたり、季節の変化を感じる行事に参加していただいたり、離乳食講座、マジックショーを地域に宣伝し、園内を開放することで地域の子育て支援に貢献していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：登戸第1公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人ホームの訪問、地域の高齢者サークルとの交流
異年齢交流	小中学校との交流
地域拠点活動	子育て支援「ちきんえっぐ」運営 勝手籠バザーを年3回開催（7月、11月、1月）
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

年間を通して計画をたて、小学校への見通しを持って生活できるようにする。
 幼保小連絡協議会や授業参加に参加し、小学校の実態を把握していく。
 就学時には保育所保育要録送付や申し送りを実施し、スムーズな接続を図る。
 小学校接続アプローチカリキュラムの理解を施設長、主任、年長児担任が深め、作成を行い、園内で共有していく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	登戸小学校 1年生	14名予定	運動会参加（登戸小学校庭）	行事見学
10月頃	登戸小学校 1年生	14名予定	公開授業参加	子ども間交流
12月頃	登戸小学校入園予定の近隣園年長児	14名予定	区内年長児交流会への出席	子ども間交流
3月頃	登戸小学校入園予定の近隣園年長児	14名予定	区内年長児交流会への出席	子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

クラス会議の中で振り返りと職員間の共有を行い、見直していく。
つむぎ生田ルームと保育所等連携支援を行う際は、連携を行いながら6か月に1回計画の見直しを行う。

〈2〉 毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：6名予定)

施設長、主任、各クラスリーダー4名

子どもの姿・支援計画・振り返りを行う。支援計画は6か月に1回見直しを行う。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

進級引き継ぎ：書面と引き継ぎ会議で行う。

小学校引き継ぎ：児童指導要録、また各小学校の担当職員との面談によって行う。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:00～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎月 1回 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎月 1回 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：登戸第1公園にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2025年2月28日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：14時00分

自己評価終了予定時刻：17時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任、園事務、リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1.3.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで保育する楽しさややりがいを感じる。 ・園の様子や取り組みを社内外に公開し地域に知れ渡る園となる。
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は異年齢で活動をする時間を多く設けたことにより、乳児担任、幼児担任の枠を超えて一つのチームとして保育をすることができた。チャットを利用し、子どもの姿を共有することが増え、成長する姿を喜びあい、かかわりが難しい時にはアドバイスをできる関係を築くことができた。 ・「たまっこカレンダー」に行事を掲載することで園への問い合わせや行事の参加が増えた。勝手籠バザーは地域に定着した行事となり、参加を楽しみにしている方が増えた。勝手籠が地域に根差したものとなり定期的に入れ替えの循環が行われている。玄関に掲示したバザーの日程を見て参加して下さる方が増えている。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーを中心とした保育が定着し、一人ひとりの個性が輝く。 ・地域に愛され必要とされる園になる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー会議を毎月1回開催し、リーダーが中心となって園運営を行っていく。また、クラス会議では子どもの姿を捉え、活発に意見交換をし、子どもの興味・関心・発達に合わせた環境設定を行う。 ・たまっこカレンダーで毎月の子育て支援行事を知らせ、集客人数を増やす。園見学に来られた方には積極的に散歩や水遊びにお誘いし園の日常を体験していただく。
2025年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム同士の連携が密になり保育園が「大きな家」となる。 ・保育園を訪れる方が顔なじみになり小さな子育てサークル仲間と保育園を訪れる方が増える。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー会議、クラス会議で活発な意見交換が行われ、日々の子どもの姿をとらえ、一人ひとりに合わせた活動場所、活動内容、援助ができるようになる。

		安心して過ごせる空間がある中で育児の悩みなどを地域の子育て世代の仲間と安心して語り合える場となる。
2026年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自分のやりたいことを見つけて集中して遊べる場がある。 ・再開発が進み子育て世代が増える中、園の行事や活動に参加した地域の方々に異年齢保育やインクルーシブ保育の良さを理解してくださる方が増え、登戸地区になくてもならない園となる。 ・保護者は子どものことを保育者とたくさん話して笑顔で帰っていく。 ・地域の方が自由に訪れ、楽しくリラックスした時間を過ごしていく。 ・職員は子どもの姿を語り合え、自分のやってみたいことを協力しながら行える関係になる。
	重点施策	<p>子どもの発達・興味・関心に合わせた環境設定が定期的に行われ、たくさんの経験を通して成長する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が安心して子どもを預けることができるよう保育園での出来事を丁寧に伝え、信頼関係を築く中で育児の悩みや不安に対して寄り添え保育のプロとしての的確なアドバイスが行えるようになる。 ・保育園の散歩や水遊び、子育て支援行事の参加者が年間を通して毎月70名訪問がある。 ・一人の負担が多くなならないよう、リーダー保育士は後輩の保育士に対して気遣える関係を築く。後輩保育士はリーダー保育士に相談しながら自分で考えやってみようとし、成功体験を増やしていく。リーダー保育士を中心とした信頼関係が職員間で構築される中で保育士の仕事にやりがいを感じる。施設長・主任はリーダー保育士と園の運営に関して一緒に考えるリーダー会議を月1回開催し、リーダーとしての役割、自分は今なにを優先しなければならないか考え、自発的に責任をもって仕事に向き合えるよう指導をしていく。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ 登戸ルーム 施設長 穂坂 晴美

2024年度 メリー★ポピンズ 川崎西ロルーム 事業計画書

1. 基本方針

社会福祉法人 どんご会の保育理念、保育方針に則り、以下の方針に基づき保育を実践していく。

『心身ともに健康な子どもたちを育み、子どもたちが“いきる力”を身につける』

保育園は、子どもの尊い命を預かっている場所ということを常に意識し、いかなる時も子どもにとって最善の利益を提供できる保育園であり続ける。

【目指すべき子どもの姿】

- ・自分でできることを自分でする子ども
- ・活動を選択し、自分で考えて行動できる子ども
- ・感じたこと、考えたことを様々な素材、また、言葉で自由に表現する子ども
- ・異年齢で交流していく中で、多様性を受容し、他者への思いやりを持つことのできる子ども
- ・様々なことに興味を持ち、また、その興味を自ら広げることができる子ども

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活の体得～どんご会の掲げる日課を通して、生活力を身につける～
	実践予定内容	危険なものとの距離を知り、危険を避けるのではなく、体験の中で危険との距離を知っていく。また、日常の保育生活の中に生きる力が身につく活動を積極的に取り入れていく。
2	計画・ねらい	生き物の世話、畑仕事などを通して、食材や食の循環・環境への意識を身につける。
	実践予定内容	日々の継続した畑仕事・生き物の世話を通しての生死教育。 SDGsを意識した地球環境への意識を育む環境教育。
3	計画・ねらい	10の姿の体得～就学までの姿を各年齢で描いた上での保育の実践。
	実践予定内容	ねらいに沿った保育を意識し、常に就学までの姿を逆算した上での保育を行う。
3	計画・ねらい	活動や行事を行っていく中で、育ってほしい姿を考えながらも、子どもたち自身でも考えていける環境を整える。
	実践予定内容	保育者・子どもたち同士のミーティング

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

『保護者の困りごとは、自分の困りごとだということを意識する』

1	計画・ねらい	子どもたちの育ちを広め、遊びの中で子どもたちがどのようなことを学んでいるのかを伝える。
	実践予定内容	タイムラインの内容の充実、絵本の紹介・貸し出し、SNSを中心とした保育の公開。

2	計画・ねらい	保育園運営を保護者とともにやり、保護者の方にも当事者となってもらうことで、保護者も一緒に作り上げる保育園を目指す。
	実践予定内容	どろんこサポーターズの拡充、保護者とともに一緒に学べる学びの場の提供。
3	計画・ねらい	常に保護者の立場に立ち、接遇の心を持つ。
	実践予定内容	3分間対応を意識し、誰が対応しても、その日の活動が子どもたちにとって楽しかった活動だと伝える。

〈3〉 地域の子育て支援事業

『地域の子育て支援拠点として、地域に必要とされる園となる』

1	計画・ねらい	駅前型保育園という立地を生かし、近隣の商業施設との連携を築く。
	実践予定内容	年間を通し、商業施設、商店街に子どもたちの制作などを飾らせてもらうことで、地域の子育て支援拠点として地域に認知してもらう。 商店街ツアーを通し、地域の人と関わる中で、地域に愛される保育園を目指す。
2	計画・ねらい	保育園が地域の子育て支援施設として、気軽に訪れることのできる地域の方の憩いの場にする。
	実践予定内容	青空保育の積極的な実施、ちきんえっぐだよりの配布先の拡充、勝手かごの認知度を高める。
3	計画・ねらい	近隣の中学校との共同の活動を増やし、異年齢交流活動を通して、地域の方にも保育園の存在を認知してもらう。
	実践予定内容	どろんこ祭りを通しての共同活動、地域への製作の共同製作の作成。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

『スタッフ同士による伝え合い、学び合い、支え合い』

1	計画・ねらい	施設長、主任のみならず、スタッフからスタッフへの学びを重要視し、伝える側もアウトプットすることで、自らの知識を深めていくことができるようにする。
	実践予定内容	スタッフ主体による園内研修の実施
2	計画・ねらい	法人の研修(園長大学・保育士大学)のコンテンツを活用し、様々な講師からの学びを深めていく。 また、ディスカッションすることで、より理解を深めていけるようにする。
	実践予定内容	法人の研修(園長大学®・保育士大学)の積極的な活用、少人数の中でのディスカッション

〈5〉 環境実施目標

『これからの地球のことを考えた未来思考を育む』

1	計画・ねらい	地球にある資源を大切にし、自分たちの住む地球を大切にする。
	実践予定内容	子どもたちのゴミ拾い活動、リサイクル活動、ゴミの行方を知る。
2	計画・ねらい	食品ロスの重要性を知り、給食残渣などを学んでいく上で、世界の食糧問

		題について学ぶ。
	実践予定内容	保育者だけでなく、ごみ回収事業者からも食品ロスについて学び、世界の食糧問題にも関心を向けていく。

〈6〉他園との合同研修

『地域の保育の質の向上』

1	計画・ねらい	自園のみだけの園内研修だけでなく、系列園と合同の園内研修を実施する。保育環境や子どもとの関わり方など客観的な視点を得ることで、自園の質の向上を目指す。
	実践予定内容	系列園と合同の園内研修。
2	計画・ねらい	系列園のみならず、近隣の他法人の園も招いた園内研修を実施することで、地域の保育の質の向上を目指す。
	実践予定内容	近隣の保育園との関係も徐々に築くことができ、2023年度は地域の子育て支援の目的で行ったマジックショーにも招待したことで、関係も深まったので、園内研修も一緒に行っていけるようにする。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	10人	11人	11人	11人	11人	60人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	9人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	3人	補助	1人	調理	0人	事務	1人

3. 運営方針

施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	園運営に関わる報告及び検討、保育についてのディスカッション・ロールプレイ
給食運営会議	月1回	児童の健康・アレルギー・クッキング等
事故防止委員会	月1回	子どもの事故、ケガを未然に防止することを目的とする
ケース会議	月1回	個別配慮を要する子どもについて
週案会議	週1回	クラスの子どもの情報を他クラスの担任と情報共有、ディスカッション

〈4〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	月例報告
施設長勉強会	月1回	保育における課題点のディスカッション等
食育会議	年4回	献立内容の改善提案・食育計画進捗報告等
保健会議	年4回	感染症対策・改善提案等
主任会議	年5回	保育の質向上検討、マネジメント
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質向上検討

〈5〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	保育環境・衛生・予防に関わる提案実施
安全対策係	防犯・遊具・保育備品の安全点検及び事故防止
防火管理者	避難訓練の実施・改善取り組みの実施
食品衛生責任者	衛生点検・予防及び管理と全職員への指導
畑チーム	他園のスタッフと連携を取り、畑計画を行う
地域関係構築チーム	商店街ツアー、各行事を中心とした地域との関係の構築

〈6〉 行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者、商業施設との連携、運営

4. 保育方針

〈1〉 基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境や友達、保育者と慣れ親しむ。 ・個々の発達を大切にゆったりと関わり愛着関係を育む。 ・自然物や生き物、地域との関わりを体験する。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の自立に向け、生活リズムの確立・排泄や着脱等に興味を持ちやってみようとする。 ・戸外での体験活動を広げ、異年齢との関わりを大切にしていく
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境や友達に慣れ、関わりを深める。 ・基本的な生活習慣の自立に向け、主体的に取り組む。 ・自然物や生き物・食・地域との関わりを体験する中で生命の大切さを知る。 ・遊びや日々の活動に主体的に取り組む力を育む。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験や生活に触れ合いを通して、友達同士の関わりを広げ、楽しむ。 ・遊びや日々の活動に主体的に取り組む力を育む。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉 年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	自分たちが育てた食材を調理し、食べることで『食』への興味関心を広げる。
	実践予定内容	畑仕事の充実、日常での食育
2	計画・ねらい	空腹感を感じ、食べたい時に食べたい場所で食べたいものを食べたい人と食べただけ食べるのできる環境作り
	実践予定内容	戸外活動の充実、縁側給食(テラス)
3	計画・ねらい	日本、世界の郷土料理を知る。
	実践予定内容	行事食に郷土料理を取り入れ、食から日本や世界への関心を広げる。
1	計画・ねらい	鶏を絞めて食す 命をいただく活動の実践
	実践予定内容	近隣園と協力し、自ら世話をした鶏を絞めることで、命の大切さについて体験を通して、実感する。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年12回(4~3月)
歯科検診	年1回(6月)
保健だより	月1回(25日)発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回(5日)
園児への保健指導・取組等	手洗いキットを使用した手洗い指導、歯磨き指導
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 インフルエンザ、ノロウイルス等
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアアップ・・・1名より預かり済み/冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在9名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	保育園にはAED設置なし。 保育園があるビル内の防災センターに設置あり。
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検(簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年12回／4～3月 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

『子どもを真ん中とした保育環境の構築』

1	計画・ねらい	子どもたちの遊びの姿に合わせた環境作り
	実践予定内容	子どもたちの遊びの姿や発達に沿った環境作りを行い、一年通して、常に同じ環境ということはなく、季節やその時の子どもの成長、遊びに合わせた保育環境作りに努める。
2	計画・ねらい	保育者の声よりも子どもの声に溢れた保育園にする。
	実践予定内容	保育者も人的環境として、子どもの主体性を尊重し、過度な言葉かけは

		せず、子どもたちを信じる心を持つ。
3	計画・ねらい	常に異年齢保育を意識した環境設定をする。
	実践予定内容	各クラスでの保育ではなく、常に異年齢での活動を意識し、クラスの制限のない室内の環境設定、また、活動内容を考え続ける。
4	計画・ねらい	就学を意識した「自らのことを自らができる」子どもを主体とした動線や環境の設定。
	実践予定内容	就学した時に、子どもたちが困ることのないように、子どもたちの小学校生活を常に描いた上で、自然と子どもたちが自らのことが自らできる環境設定を行う。また、そこに合わせて、保育者全員が統一した言葉かけができるようにしていく。
5	計画・ねらい	子どもたち自身が安全に、かつ、遊びを選択できる環境の中での統一されたルールの徹底。
	実践予定内容	子ども主体の環境を構築していく中で、子ども主体の定義が崩れ、ルールのない中で、無秩序の環境とならないようにする必要がある。保育者、子ども全員が理解した上での統一されたルールの中で、子ども主体である遊び込める環境とは何かを考え続ける。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	なし		

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	常に危機意識を持ち、避難訓練や情報を収集し対応に当たる。
2	実践予定内容	園内外の事故事例・ヒヤリハットを全職員で共有し、事故防止に繋げる。遊具、家具等の点検をし、危険箇所は速やかに共有、改善し事故防止に繋げる。
3	実践予定内容	各種マニュアルを理解し速やかに行動する。
4	実践予定内容	川崎市メール配信システムを活用し、発令及び解除等の最新情報を収集する。
5	実践予定内容	自治体の方に講師となってもらい、AED使用訓練やスタッフ向けの交通安全教室等の実施。
6	実践予定内容	クライアントとの共同の災害・非常時の避難訓練を実施し、クライアントと密に連携をした訓練を実施する。
7	実践予定内容	洪水時の避難訓練、不審者侵入訓練、総合避難訓練

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

地域研修の場として、実習生を積極的に受け入れていくことで、新しい保育の情報を手に入れていくとともに、実習生に自分たちの保育の考え方を言葉で伝えていくことで、自分たちの保育を振り返る場にもしていく。

1	実践予定内容	各養成校の実習生の積極的な受け入れ。
2	実践予定内容	小中高生の体験学習等の積極的な受け入れ。

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修 (年1回) ■園内研修 (月1回以上) ■保育スキル研修 (エリア別) ■リーダー養成研修 (9~2月) ■業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会 (月1回) ■デンマークインターンシップ (年1回) ■コンピテンシー自己採点 (月1回) ■人権チェック (4月・10月) ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「子どもの命を守るために」 ※ディスカッション形式 ③ 人権チェック	室内、戸外のハザードマップの見直し。 誤飲誤嚥の危険性の再確認。 ケガ・ケーススタディ研修
5月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 5領域~健康~ ※ディスカッション形式	5領域~健康~から現在の子どもの姿を考察し、小グループでディスカッションを行う。 10の姿も意識する。
6月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点	水の危険性を知る。 プール遊びを行う上でのマニュアル

		② 水遊びとプール遊びの安全について学び、技術を習得する。 ※講義・ロールプレイ・ディスカッション形式	の再確認。
7月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 5領域~人間関係~ ※ディスカッション形式	5領域~人間関係~から現在の子どもの姿を考察し、小グループでディスカッションを行う。 10の姿も意識する。
8月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 5領域~環境~ ※ディスカッション形式	5領域~環境~から現在の子どもの姿を考察し、小グループでディスカッションを行う。 10の姿も意識する。
9月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 5領域~言葉~ ※ディスカッション形式	5領域~言葉~から現在の子どもの姿を考察し、小グループでディスカッションを行う。 10の姿も意識する。
10月18日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 5領域~表現~ ※ディスカッション形式 ③ 人権チェック	5領域~表現~から現在の子どもの姿を考察し、小グループでディスカッションを行う。 10の姿も意識する。
11月15日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画書の振り返り	事業計画書に沿って、進めることができているか。
12月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿の体得 ※ディスカッション形式	今まで5領域について学び、そこから10の姿も意識している。 さらに、10の姿の体得に向け、子どもたちの発達を促すためにはどんなことが必要か。 小グループでディスカッションを行う。
1月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 幼保小の連携~小学校教諭を招いた小学校入学に向けての話し合い ※ディスカッション形式	就学を前に、小学校での子どもたちの学び、姿を小学校教諭とともに、学ぶ。
2月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 全体的な計画、指導計画の見直し	クラス単位での次年度を見据えての振り返りを行う。
3月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点	次年度の事業計画書を知り、次年度

		② 新年度の見通しを立てる。 ・事業計画を知り、具体的な指導計画の策定を行う。 ※講義とワーク形式	どのようにして保育を組み立てているのか、具体的な指導計画の策定を行う。
--	--	---------------------------------------------------------	-------------------------------------

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の子育て支援施設として、地域の子育て世代の交流の場となるようにする。そして、地域での認知が高まっていくことで、“選ばれる保育園”となり、地域になくてはならない施設となる。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：西口さんかく公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域行事に参加、老人福祉施設の訪問、子育て支援センターとの交流
異年齢交流	幼・保・小連携事業での交流会に参加 中学生の職業体験受け入れ、ボランティアの受け入れ
地域拠点活動	川崎市・区主催 作品展 参加
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

小学校との連携を密に行っていくことで、小学校の現状を理解する。

また、保育園での学びや学習指導要領についても、小学校教諭とともに学び、共有していく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	南河原小学校	13名予定	運動会见学（小学校校庭）	見学
5月頃	南河原小学校	13名予定	運動会见学（小学校校庭）	見学
1月頃	幸町小学校	13名予定	小学校教諭との情報交換	職員間交流
2月頃	幸町小学校	13名予定	幼保小交流会	子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

家庭、専門機関と連携して、全職員共通理解のもと保育にあたる。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：13名予定)

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

児童要録を基に、小学校との連携を図る。

1.1. 子育て支援事業

園に訪れた親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(火) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：西口さんかく公園にて開催

1.2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年某日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：12時00分

自己評価終了予定時刻：14時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	各年齢、発達を理解した上で子どもたちが自由に選択できる環境設定の構築。 どろんこ祭りや各行事を行う中で、地域や保護者と連携し、保育園運営を共に行う。 地球資源を守るためにSDGsへの意識。
	振り返り	環境設定では、室内環境等も含め、常に、試行錯誤を繰り返した一年だった。日課を子どもたちが生活の中で行うことができる動線、就学を意識し、自らのことを自らできるようになるには、どうすべきか。 常に、環境を変化させ、子どもたちの動きを観察することを意識した。環境設定に終わりではなく、常に、園目標である「子どもを真ん中」にし、環境を構築し続けていくようにする。 地域や保護者との連携した行事運営では、どろんこサポートーズが発足し、どろんこ祭りでの協力や保護者からの園内研修を実施し、保護者からの学びの機会も作る事ができた。ただ、地域、特に中学校との共同イベントをどろんこ祭りで企画したが、様々な障害があり、実施することができなかった。しかし、せっかく繋がっている中学校との繋がりを大事にするためにも、次年度も何か一緒にできることはないか考えていく。 SDGsへの意識は、年長児を中心に“ごみ”についての意識が高まり、ごみ業者からの学びも行うことができ、結果、その学びを生活発表会で保護者に向けて発表することもできた。ここで終わりにせず、この活動から様々なことに興味関心が向いてくれるようにする必要がある。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	各年齢の育ちを理解し、発達に合った物的環境を常に整えていくことで、安全にかつ、遊び込める環境設定を室内のみならず、戸外でも構築し続ける。 また、物的ではなく、人的環境も子どもたちに与える影響の大きさを知っていく。 また、試行錯誤したその保育の記録を保護者などの保育園の関係者だけでなく、SNSや自治体の研修を通して発信していく。
	重点施策	常に子どもの育ちを意識した環境構成を意識し、失敗を繰り返しながらも子どもにとってどうなのかを考え続ける。 また、その失敗の記録をSNSや自治体の研修を通し、発信する。
2025年度	目指す姿	法人内だけでなく、近隣の保育園とともに、合同で園内研修を行い、地域の中での保育の質の向上を目指す。
	重点施策	地域の保育園のリーダーとして、地域の保育園向けの研修を実施する。
2026年度	目指す姿	園内や地域の保育園の関係者だけでなく、地域の子育て世代も一緒になって、子育てについて学んでいくことで、子育て世代も含めた地域の子育ての質の向上を目指す。

	重点施策	地域の子育て支援の一環として、地域の保育園を巻き込んで研修を行うことで、保育園の目指している保育を地域の子育て世代に理解してもらい、理解した上で、入園をしてもらう。 また、保育園の保育について研修を通し、地域全体に理解してもらっていることで、地域に根付いた保育園となる。
--	------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ川崎西ロルूम 施設長 松居 聖陽

2024年度 八山田どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

発達支援つむぎを併設した保育園として地域に根差した園づくりを目指してきた。昨今、国の保育所におけるインクルーシブな保育の考え方も変化し、併設園の果たす役割も今後も大きいと捉える。今後も地域に根ざし多様性を大事にしながら一人ひとりに寄り添い、豊かな学びの場を保障し、真のインクルーシブな保育の在り方を日々研鑽し、発信していく時と捉える。

保育所保育指針並びに、社会福祉法人どろんこ会の保育理念、保育方針に則り、当園の保育目標を以下の3つとする。

- 「自分で考えて行動する子」
- 「人と繋がるのが大好きな子」
- 「未来に希望を持って探求する子」

この保育目標の実現のために、保育園・発達支援の施設全体で以下の5項目を推進していく。

- ① 子どもの保障される権利を尊重し、自分も他者も大切にできる価値観を育み、子どもの人権を尊重し気持ちに寄り添い、丁寧なまなざしを持って育くむ。特に併設園の良さを最大限に活かしながら、インクルーシブな保育の実践をする。
- ② 子どもの「やってみたい」を真ん中に「気づく力」「やりぬく力」「調整する力」を見据え、21世紀の保育のあり方を探求し人間力を育くむ。
- ③ 基本としている異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操・散歩9時出発・畑仕事・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・青空保育を実施しその中での質を大事にする。
- ④ 体験を重視し、子どもたちが人・自然・もの・出来事と様々に関わる暮らしの中で、豊かな感性と体験を通して探求の芽生えを育くむ。
- ⑤ 主体的・対話的深い学びに注目し「創造」「遊ぶ」「共有」「振り返る」「想像」のサイクルを基に豊かな創造的活動を生み出す。受容し安心して生活する場を保障し、自らの興味や関心に基づき主体性を大事にする保育を進める。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの興味関心にあわせて環境を再構成する。
	実践予定内容	・子ども主体の環境の在り方について学びあう。 ・養護的側面「一人の人として受け入れられる」教育的側面「資質・能力」を生活・遊びを通して育くめる環境を再構成する。
2	計画・ねらい	スタッフが語り合う集団になる。
	実践予定内容	・子どもの生活・遊びは学びであり「遊び」を通した子どもの育ちに気づき、学びの道筋をスタッフが考える。 ・育ちにどう向き合っていくかを、ポートフォリオ・ドキュメンテーションを用いて子どもが何に気づき、何を学んでいるのか、何を支援すればよいのか環境や手立てを言語化する。
3	計画・ねらい	「主体的・対話的で深い学び」を引き出す力を探り実践する。
	実践予定内容	・接続期カリキュラム「学ぶ力」「関わる力」「生活する力」を基に0歳児からの見直しを図る。 ・豊かな対話が生まれる保育士の役割を再考する。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保育園と保護者の綿密な連携をする。
	実践予定内容	随時、育児不安解消を目的とした子育て等に関する様々な支援を行い保護者が主体的に育児を行えるようにパートナーとして一緒に考え、共に子育ての楽しさを共有していきながら、繋がっていく。
2	計画・ねらい	子どもの成長を丁寧に伝えていく中で理解を深めるきっかけにする。
	実践予定内容	保育の過程や子どもの育ちの言語化・可視化し伝える機会をつくる。 スタッフが日々3分間対応の中で様子を丁寧に伝えていく。 日々何かに向かって努力する姿や葛藤する姿を伝え、家での様子も共有することで、子どもが自ら育つ最善の環境と一緒に考え合える関係性を作る。
3	計画・ねらい	送り迎えの際、ほっとできる場の構築・どろんこサポーター制度の拡大
	実践予定内容	大人が癒される場をつくる。保護者同士の関わりを大事にする。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	園庭を開放し地域の方の癒しの場にする。
	実践予定内容	畑仕事や季節折々に集える場を開放し地域の庭として機能していく。
2	計画・ねらい	保育園の様子を外部に発信していく。
	実践予定内容	SNSで保育園の様子を伝え、地域に開かれた子育て支援を行っていく。
3	計画・ねらい	園と家庭・地域が協働し、いつでも気軽に集える場として地域の方が保育園を活用し、園が安心拠点として機能していく。
	実践予定内容	子育て等に関する相談や援助、子育て支援としてのニーズを柔軟に対応し、地域の核となる地域に開かれた子育て支援を実施し「子育て拠点」としての役割を果たす。特に子育ての知識や情報を伝え地域との関係づくりに努め、地域や家庭と連携し、園が共に育ち合う場となるよう保育園の役割を果たしていく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフが子どもの育ちを常に語り合う集団であり続ける。
	実践予定内容	保育に打ち込める環境、互いに認め合い尊重される関係性を基に働きやすい職場環境の中で、より語り合う文化をさせていく。スタッフは日常的に保育を語り、子どもを深く理解していく。
2	計画・ねらい	主体的対話的深い学びを深める。
	実践予定内容	「主体性」「対話」「共同性」「学び」「環境構成」をキーワードに学んでいく。
3	計画・ねらい	学びの輪を広げていく。
	実践予定内容	自分の考えを積極的に表現する。 園長大学®・保育士大学の視聴を進める。 更に充実していくために環境構成の視点から考える。

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	15人	看護師	0人	栄養士	3人	調理員等	0人
パート スタッフ	補助	2人	事務	1人				

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	研修計画に基づき研修
給食運営会議	月1回	食育会議・アレルギー対応・衛生点検
事故防止委員会	月1回	危機管理・安全対策・検証・研修
ケース会議	随時	子どもの様子の共有
フロアー会議	随時	月案・ねらいの確認・様子の報告
リーダー会議	随時	マネジメントの共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人全体での課題解決・連絡
施設長勉強会	月1回	意見交換をする中で学び合う
食育会議	年4回	グループ全体で給食業務改善を目指し開催する。
保健会議	年4回	グループ全体で園児健康管理業務改善を目指し、各園が園会議で検討した事項をもとに開催する。
主任会議	年12回	主任の役割を考える。

子育ての質を上げる会議	月1回	若手職員のスキルアップを図る。
-------------	-----	-----------------

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	グループ全体で園児健康管理業務改善を目指し、各園が園会議で検討した事項をもとに開催する。
安全対策係	けが防止・危機管理マニュアル参照。
防火管理者	災害対策・避難訓練防災計画・自主点検
食品衛生責任者	衛生点検・給食提供マニュアル参照
畑係	畑管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者とともに企画・運営

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	個々の生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 歩行の確立、言葉の獲得により盛んになる探索活動が十分にできるようにし、友だちへの関わりの芽生えを促す。
	下半期 0～1歳児	たくさんの経験を通して感性を豊かにし、感じたことを少しずつ言葉で伝える場を大切にする。 生活や遊びの中で心身ともに伸びる場を保障する。
幼児保育	上半期 3～5歳児	異年齢の中での友だちとの繋がりを深め、楽しむ場をつくり協調性や自主性を育む。興味関心を持ったことに、主体的に関わり発見を楽しんだり考えたり遊びに取り入れる。
	下半期 2～5歳児	異年齢の関わりの中で、生活や遊びの達成感や充実感を感じる中で経験を保障する。自分で考え、工夫し判断して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培う。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼

保護者面談 発達相談	随時	随時、希望する保護者に対し実施 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への 対応	随時	連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	調理員・保育士・施設長とこどもと一緒に食べる。
	実践予定内容	身近な人と食べて美味しいと思う子を育む。
2	計画・ねらい	心地よい空間作りをする。
	実践予定内容	四季を感じる気持ちの良い空間の中で食事を頂く。
3	計画・ねらい	様々な伝統食や行事食を体験する。
	実践予定内容	食に旬があることを知り、季節を感じながら様々な地域の産物を活かした食事を経験する。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	歯磨き指導・手洗い指導
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 1月頃・・・ウイルス性胃腸炎 2月頃・・・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管

エピペン使用できるスタッフ	本日現在19名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員1名については4月7日までに受講予定
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	AED設置施設ではないが、消防官から受講・訓練済。(5月12日) 本日現在21名が、研修受講し、修得済み。 未受講の新入職員1名については4月7日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検(簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	居心地の良い場を創っていく。
	実践予定内容	安心でき、居心地の良い空間から隣り合う空間（0歳から5歳）の行き来を大切にする。
2	計画・ねらい	試行錯誤をしながら遊び込む環境を創っていく。
	実践予定内容	「深く学ぶ」「深く観る」ことを大事に心ゆさぶられる環境を大事に保育士も共に感じ、子どもと一緒に環境を創っていく。 興味・関心を基盤に「学びの芽生え」を大事に協働的な学びを生み出す場を大切にする。
3	計画・ねらい	遊び込む場の見直しを図る。
	実践予定内容	夢中になる場・空間・時間・他者との共有を保障する。再構成できる職員の育成。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	パーテーション	1歳児室／幼児室	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	防災：消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し避難訓練を月1回実施。震度5弱以上の際は、園が情報を発信安否・施設状況・避難先を情報共有する体制をとる。また、帰宅困難者対策をふまえ災害に備える。マニュアルの徹底。
2	実践予定内容	ケガ事故防止：事故防止チェックリスト年4回、設備点検年4回を行い事故防止の徹底を図る。また、マニュアルにある園外保育・遊具等の保育士行動指針の徹底を図る。
3	実践予定内容	インシデント・ヒヤリハット報告の分析
4	実践予定内容	グループ内で状況を共有し日々の保育の中で事故防止策を探る。
5	実践予定内容	防犯：年2回防犯チェックリストに従い確認し、併せて不審者訓練を実施する。また、訓練は避難訓練確保・不審者撃退・時報の訓練で職員全員を対象とする。
6	実践予定内容	光化学スモッグ・光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響・光化学

		スモック注意報を把握し発令があった場合は、内容にあった看板・貼紙等を提示する。園児・スタッフは室内で過ごす。
7	実践予定内容	リスク管理委員会によるリスクマネジメント

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

1	実践予定内容	年間を通した小中高生の保育園体験ボランティア活動の受け入れ一般および学生の各種ボランティアの受け入れ。
2	実践予定内容	保育育養成校の学生の受け入れは、次世代を担う保育・福祉の環境で活躍する人材を育成するために、積極的に受け入れる。

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修 (年1回) ■園内研修 (月1回以上) ■保育スキル研修 (エリア別) ■リーダー養成研修 (9~2月) ■業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会 (月1回) ■デンマークインターンシップ (年1回) ■コンピテンシー自己採点 (月1回) ■人権チェック (4月・10月) ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月14日	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点 丁寧な保育 危機管理について 見失いについて	基本理念を据える 自園の事故から 虐待の定義について
5月12日	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点 乳児幼児の姿から捉える 危機管理について	乳児の遊びの捉え方・環境の捉え方 指示をしない保育 人数確認・アレルギー確認・ヒ

			ヤリハットから
6月9日	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点 乳児幼児の姿から捉える 危機管理について	生活を子ども達が創るとは 事故記録簿からの検証
7月21日	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点 探求する子どもの姿 リスクマネジメント研修	遊びの子どもへのまなざし。子 どもの育ち ヒヤリハットからの検証
8月10日	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点 守らなくてはいけない基本事項 について 子どもにとって安心できる場・ 伝える場を引き出す場へ	子どもにとって安心できる場・ 伝える場から引き出す場へ
9月15日	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点 スタッフの情報共有（インス タ、行事、監査） 子どもにとって安心できる場・ 伝える場を引き出す場へ	時間・場・空間・仲間から据え る 他園の事故記録簿から
10月13日	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点 全体研修の視聴 虐待防止研修	子どものエピソードを保護者へ の伝え方 火・水・土を道具として使う意 義の再確認 虐待に関して再確認する。
11月10日	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点 乳児幼児の姿から捉える 探求する子どもの姿について リスクマネジメント	環境を支えるスタッフの眼差し 他園の事故記録簿から
12月8日	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点 乳児幼児の姿から捉える 探求する子どもの姿について リスクマネジメント	チームとして・同僚性と専門性 災害の対応・ヒヤリハット分 析・他園事故分析と要因
1月12日	18:00~20:00	コンピテンシー自己採点 乳児幼児の姿から捉える リスクマネジメント研修	保育の中で目指している理由を 再考する ヒヤリハット分析・他園事故分 析と要因
2月20日	18:00~20:00	来年度の運営方針	策定会議

3月2日	9:00～18:00	策定会議	策定会議
------	------------	------	------

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®・保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターシップ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：八山田子ども広場にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人施設訪問

異年齢交流	青空保育・保育参観・体験活動参加・小学校交流会
地域拠点活動	保育参加

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

21世紀の教育の在り方が模索され「小学校学習指導要領」「保育所保育指針」が改訂された。また、子どもの生活の連続性を踏まえ小学校と連携が円滑にいくように連携・接続していく。キーワードになっている「主体性・対話的学び」への教育の在り方を具体的に小学校の教諭と共に要領・指針の相互理解を図っていく。以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（月）より開始する。小学校との交流活動（小学校見学・運動会未就学児プログラムへの参加）を通じて小学校との交流を図る。また、幼保小連絡会議への参加を通じての情報交換を行う。また、小学校へのスムーズな接続を実現するために、保育所保育要録送付児童情報申し送りの面談を実施する。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を3月1日（金）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	行健第二小学校 1年	15名予定	交流会（行健第二小校庭）	子ども間交流
9月頃	行健第二小学校 1年	15名予定	交流会（当園幼児保育室）	子ども間交流
12月頃	行健第二小学校 1年	15名予定	授業参観（行健第二小教室）	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

対象児童の様子に合わせて、年に2回以上作成予定
ケース会議の振り返りと職員間の共有を行い、見直していく。

〈2〉毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定 参加者：8名予定）
個別支援計画の振り返りと次月計画の確認

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

小学校への共有は児童指導要録、または各校の担当スタッフとの面接を行う。

1.1. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(火) 10:00~12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(水) 10:00~12:00
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行

1.2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2025年3月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：9時00分

自己評価終了予定時刻：12時00分

自己評価実施予定者：八山田どろんこ保育園施設長・つむぎ 八山田ルーム施設長

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1.3. 3カ年計画の具体化

昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	地域発信する中で地域に理解され密接な関係性の中で、地域に根ざした子育ての場を創生し、インクルーシブな保育の実践
	振り返り	併設園で、子ども達も多様な友や人と出会い、共に育ち合う場を大切にしてきた。また、インスタグラム等で日々の様子を発信してきた。より丁寧な保育の場を今後も追及していきたい。

〈4〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	専門性の高い集団になり地域の核として担っていく。
	重点施策	一人ひとりが生き生きと、やりがいもち従事している集団を目指す。地域の核となる、開かれた子育て支援の充実を図る。

2025年度	目指す姿	近隣園の中でリードし、近隣園と協同しながら保育の在り方を提言する。
	重点施策	近隣園と保育の在り方を提言し子育ての在り方を一緒に考えていく。
2026年度	目指す姿	併設園として業界をリードしている。
	重点施策	多様性を認め合いながら、どろんこ会のインクルーシブ保育を発信していく。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：八山田どろんこ保育園 施設長 真島 里佳

2024年度 三筑どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

法人 保育理念「にんげん力。育てます。」

二大保育目標「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」

三筑どろんこ保育園 2024年度 園目標「(仮)まずはやってみよう」

【生活力の体得】

自分の足で人生を歩むために・自分で自分の命を守るために・助けられながら生きるために「生活力」と「危険なものとの距離の取り方」を教える。子どもたちが自分で考え、自分の言葉で表現して選択できる機会をサポートし、継続していくこと、また、命の尊さを体験できる機会や毎日の日課と労働の意味を教えていく。大人は近くでただ見守るだけではなく、教えていくこと、示していくこと、大人と一緒にやっていくことで背中を見せていく。

【10の姿の体得】

1つのことを一緒に行うこと、決まり(=毎日の仕事)を守ること、やりたくなくても皆のために働かなければならないことを教えていく。分量ではなく、話し合いや調整が必要な量の道具を用意する。年長児・リーダーが調整する・みんなで話し合う…を導き支援する。子どもたちが決めたことは尊重し見守っていく。失敗してもその失敗を経験したことで次の成功に導いていくことができるよう支援する。

【子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定】

子どもが自ら選択し、体験できる環境設定を作っていく。そのためにはどんなことに興味を持ち、必要としているかを子どもの姿から読み取り、理解することで物的環境を整えていくことができるようにする。毎日変化していく子どもの姿を見逃さず、察知するアンテナを磨いていく。また、一人ひとりの個性を認め合い、子どもも大人も混ざりあいながら嬉しいこと、悔しいことを経験できるようにしていく。

【「命をいただく」活動の実践】

食は生きていくためには必要不可欠なことであり、豊かな食は心と体を作る大切な役割を果たしている。食べるためには命の恩恵を受けることで感謝をし、食の循環を知っていく。生きるためにいただく命の尊さを感じ、食の循環を知ることができるようにする。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	どろんこ会の基本活動・日課の理解を深める
	実践予定内容	・異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらんぼリズム体操・散歩9時出発、生き物の世話・畑仕事・縁側給食が子どもにとってどのような成長に繋がるのかを職員が理解し、活動の意味を深めながら子どもと実践していく。

2	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた保育計画の作成
	実践予定内容	子どもの育ちや発達を理解して、個々の姿を職員間で共有しそれぞれの発達を尊重した保育計画を作成する。
3	計画・ねらい	子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる物的環境の設定
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが使うもの、触れるべき物を倉庫にしまわない。 ・各保育室に玩具、教材、触れるべき様々なものを常設する。 ・子どもが自分の意志で自由に各保育室を行き来できる生活を保障する。 ・大人が決めない、誘導しない。 ・子どもが自分で選ぶ、決める。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	安心できる保護者対応（子どもの成長を丁寧に伝える）
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ・お迎え対応時の充実を目指し、研修の実施や定期的な振り返りを行いながら「待たされた」と感じない保護者対応を職員誰もが気遣いとおもてなしの心を持ってできるようになる。 ・連絡帳・タイムライン・ブログ・ポートフォリオ等を使用し、園生活を積極的に発信して伝える機会を増やしていく。
2	計画・ねらい	保護者がいつ来ても、どこを見ても気持ちが良い施設づくり
	実践予定内容	園内の清掃・整理整頓を心がける。ごみを拾う、使わないものは元あった場所に片付ける、美しい掲示、手洗い場や鏡は汚れていないか・濡れていないか、窓の汚れはないか等、来訪者目線で確認していく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援の実現や美観を通し選ばれる園を目指す
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ちきんえっくイベントだけでなく、園庭開放や室内開放での子育て支援事業と保育事業が混ざった環境の保証をする。 ・いつ誰が来訪しても、親切・丁寧な入園説明や案内など、どの職員でも自園の保育を自分の言葉で伝えられるようにし、気持ちの良い挨拶や声かけができるよう、園内研修を積極的に行っていきコミュニケーション能力をあげていく
2	計画・ねらい	保育園での取り組みの地域発信を強くする
	実践予定内容	ブログ・園掲示板を利用して保育園での取り組み発信、散歩中の挨拶や公園等での声かけ・交流を行い、自園に興味をもってもらえるようにする。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	日課・基本活動の理解を深める
	実践予定内容	日課・基本活動を行う意味や活動を通しての子どもの成長について学び、「やらねばならぬ」ではなく「なぜやるのか」を深く理解する。

2	計画・ねらい	「報連相」の徹底したチーム保育づくり
	実践予定内容	「報告・連絡・相談」を徹底し、一人ひとりが考え職員同士で話し合う機会を持ち、子どもや保育の話だけでなく常にコミュニケーションを取ることを大切に、個々の能力を活かした保育ができるようにしていく。
3	計画・ねらい	リーダー層が若手職員の育成の役割を担う（保育の面白さを伝える）
	実践予定内容	リーダーが順番に月1回の勉強会を計画・実行し、1～2年目の若手職員の保育や業務に関する悩みを丁寧に聞いて、個々の悩みを一緒に考え解決できるようにしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環、環境への意識を育む環境教育の実践
	実践予定内容	ヤギ・鶏の糞、野菜くず、落ち葉の堆肥化、毎日の畑仕事、食材を加工する経験の充実、命をいただく等の体験を通して食の循環・環境への意識を身につける。
2	計画・ねらい	“木陰で遊べる環境づくり”の推進
	実践予定内容	園庭植樹・グリーンカーテン・ミストシャワー設置で、木陰を増やし過ごしやすい空間をつくる。

〈6〉大人も子どももわくわくする保育環境（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	日々の関わりから、子ども一人ひとりの興味・関心を探る。
	実践予定内容	日々の保育での振り返りをする中で、子どもの気づき・興味・関心を捉え、今後の関わり方や保育準備をチームで探り実践する。 子どもの育ちに合った願いを持って保育を計画し、子ども自身が活動を選択して取り組める環境を構成し続ける。
2	計画・ねらい	子どもの年齢に合った経験してほしい活動を計画する。
	実践予定内容	大人が用意しなければ経験できないことを理解し、経験できる場所、時間を確保しながら、大人と一緒に取り組み心動かす。 活動を見せる、やってみる環境を整え、子どもと一緒にTrial&Errorを楽しむ。

〈7〉保護者支援（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	保護者の現状を把握し、ニーズに合わせた丁寧な関わりをする。
	実践予定内容	子ども一人ひとりの家庭環境、事情を把握し、共有が必要と思われる内容は職員間で共有し、対応を統一していく。 状況に応じて保護者面談を取り入れ、現状の改善策や今後の関りを共通にすることで、保護者の心を軽くし、子どもの育ちを支える。
2	計画・ねらい	あたたかい雰囲気の中での保護者対応を心掛ける。
	実践予定内容	朝の受け入れ、お迎え時などは保護者の顔を見て笑顔で対応し、子どもの

	育ちを丁寧に伝えることで信頼関係を築いていく。いつでも相談できる、気軽に集えるなど園が安心できる場として信頼関係を築き、保護者一人ひとりが大切にされていると実感できるように配慮する。
--	---------------------------------------------------------------------------------------------

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
12人	18人	18人	24人	24人	24人	120人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	20人	看護師	0人	栄養士	2人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	2人	補助	0人	用務	1人	事務	0人
	嘱託医 嘱託歯科医	2人						

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 120分	園の課題・情報共有、研修報告、その他会議共有、園内研修、次月行事確認等
給食運営会議	月1回	喫食状況確認、アレルギー児確認、食育指導
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデントの前月分検証、法人内で起きた事故の共有、危機管理・安全対策

ケース会議	月1回	気になる子についての情報共有、支援計画書の見直し
週会議	週1回	各クラスの情報共有、行事の検討
週案会議	週1回	全クラスの保育計画の調整と連携

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人内の共有事項、意見交換、事故防止委員会
施設長勉強会	月1回	職員育成・保育の質の向上を目的としたディスカッション 課題の取り組み共有 等
食育会議	年4回	法人全体での食育活動の共有、意見交換、成果発表 等
保健会議	年4回	保健衛生に関する事項についての共有、意見交換 等
主任会議	年4回	職員育成・保育の質の向上を目的としたディスカッション 課題の取り組み共有 等
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質の向上を目的としたディスカッション 課題の取り組み共有 等

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園内の衛生管理・清掃及び備品の管理・発注、感染症予防・拡大防止策の実施、園児の健康管理と保護者への発信
安全対策係	避難訓練・消火訓練・不審者侵入訓練の実施、施設内外の設備点検・事故防止点検の実施、ハザードマップの作成・更新
防火管理者	消防計画の作成、それに基づく各種訓練の実施
食品衛生責任者	食材発注、給食提供食材の衛生管理と在庫状況の把握
畑係	畑・田んぼの年間計画作成と実施、用具類の管理と補充
生き物係	鶏の健康管理、飼育環境の整備・改善 命の尊さや自然事象への関心を広める機会の設定
地域交流係	異世代交流、地域行事参加等の窓口業務

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	祭りの計画・実行、地域への広報
運動会係	運動会の計画・実行、地域への広報
生活発表会係	生活発表会の計画・実行、地域への広報

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 子どもの興味関心に寄り添った遊びの提供、心身ともに安心して遊べる環境の中で、五感の感覚を育み探索活動を楽しむ。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> 応答的な関わりを大切にしながら、発語を促し情緒の安定を図る 自分でやろうとする気持ちを大切に、時間がかかっても最後まで頑張ろうとする思いに寄り添い、達成感を共有する。 ハイハイや歩ける範囲の活動を大切に、発達段階を踏まえて全身を使って遊び込む活動を十分に尊重する。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 安心して夢中になって遊び込める時間に十分配慮し、機会を排除しすぎない保育を心がける。 自己を十分に発揮し活動を通して、やり遂げる喜びや自信が持てるように配慮する。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちや経験を自分なりの言葉で表現することの大切さに留意し、友だちと伝えあったり話し合ったりすることの楽しさが味わえるようにする。 感じたことや思ったこと、想像したことなどを様々な方法で自由に表現できるような環境設定に留意する。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> 随時、希望する保護者に対し実施 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

どろんこ会の3大食育方針

- (1) 調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる
- (2) 噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する
- (3) 子どもが「自分たちで盛付・配膳して食べる」を基本とし、子どもが食に対して興味・関心をもてるよう日々の保育活動の中で積極的に食育活動を取り入れていく。

1	計画・ねらい	体をたくさん動かして、お腹が空いて食に向かうリズムを大切にする。
	実践予定内容	園では午前活動で体をたくさん動かすことを意識し、「遊ぶ」「食べる」「寝る」のリズムを整える。 園での様子を家庭と共有し「遊ぶ」「食べる」「寝る」のサイクルの大切さを伝えていく。
2	計画・ねらい	食べ物の大切さ、命をいただいているということはどんなことかを子どもと一緒に考える。
	実践予定内容	畑で野菜を育て、収穫したものをいただく体験を大切に、食べ物への興味を高める。 魚を解体するなどの体験を通して、自分たちが命あるものをいただいて生きていること、生き物の命の循環について考える機会を設ける。 「いただきます」「ごちそうさま」の言葉の意味を伝え、感謝の気持ちを育む。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（4月・10月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導、歯磨き指導、からだの仕組み等
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～8月頃・・・胃腸炎、手足口病、プール熱 1～2月頃・・・インフルエンザ、溶連菌、感染性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在25名が研修受講し、修得済み

フ	未受講の新入職員名については4月の園会議までに受講予定
その他保健に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の子どもの健康状態把握、近隣園・地域での感染症流行情報の把握、情報発信。 ・生存確認・嘔吐処理、おむつ交換、与薬・アレルギー食提供など、定期的なロールプレイを実施。 ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検(簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／4・10月 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	発達に沿った室内環境の充実
	実践予定内容	指先を使った遊びや文字や数に触れることができる遊びなど、発達に合わせたコーナーづくりをする。また、子どもの興味・関心がどこに向いているのかをよく観察し、定期的に室内環境の見直しをおこなう。
2	計画・ねらい	遊びの継続性の確保
	実践予定内容	子どもたちの活動の中での気づき、対話、試す、失敗などの学びのプロセスを大事にした保育を目指し、子どもの興味・関心を丁寧に捉えて、大人と一緒に取り組みながら関わることで、保育が連続していくことを実感する。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容 【防災】	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの災害対策に則り、月1回の避難訓練を行い、火災・地震の避難方法を確認する。 ・アプリの災害時緊急掲示板を使って、安否情報(園名・園児数・保育者数・ケガ人・建物の被害状況・避難場所)を書き込み、保護者と情報共有する体制をとる。
2	実践予定内容 【ケガ事故防】	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット・インシデント報告書の運用を徹底し、事故防止委員会で検証を行い、事故を未然に防ぐ。 ・事故防止委員会を毎月行い、同グループ内で起こった事故状況を共有し事故防止策を探る。 ・ハザードマップを作成・更新し、ケガや事故防止に努めていく。
3	実践予定内容 【防犯】	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回不審者侵入訓練を行う。 ・ちきんえっく利用者のインターホンでの確認、名簿記入 ・日々の生活の中でも常に不審者を意識することが大切であり、散歩時における対応も意識統一しておく。(笛の携帯・代理送迎者の把握等)
4	実践予定内容 【光化学スモッグ・PM2.5】	<ul style="list-style-type: none"> ・光化学スモッグ、PM2.5の知識を身につけ発生時には、光化学スモッグ発生時対応、および行政連絡に従い対応する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

実習生や中高生の職場体験・交流などの受け入れは、次世代育成・地域貢献のため積極的に行い実習生や生徒の一人ひとりの様子に合わせて保育・子育てで大切なこと、大事にして欲しいこと等、具体的に理解しやすいように伝え援助や指導を行いながら、保育の楽しさや魅力を伝えるよう配慮する。

1	実習生受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・不安のない受け入れ体制を整え、担当者だけでなく職員全体でコミュニケーションをとり、楽しく学びやすい実習にしていく。 ・その日の気づきや疑問に対して、丁寧な振り返りを行い、翌日からの実習に生かせるような指導を行う
2	職業体験受け入れ	小・中・高校生の職場体験・ボランティアを積極的に受け入れ、地域の社会資源としての役割を担っていく。

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修 (年1回) ■園内研修 (月1回以上) ■保育スキル研修 (エリア別) ■リーダー養成研修 (9~2月) ■業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会 (月1回) ■デンマークインターンシップ (年1回) ■コンピテンシー自己採点 (月1回) ■人権チェック (4月・10月) ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月12日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②危機管理 ③日課・基本活動の理解と現状把握	<ul style="list-style-type: none"> ・自園の子どもの様子、園内・園外危険個所の予測と把握 ・「子どもが自己選択すべきこと」「大人が教えねばならぬこと」を理解し、実践に活かす
5月10日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②美観・接遇・保護者対応 ③内部監査の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・美観の意識・接遇・保護者対応について考える ・内部監査を行う意味や設問を理解し、日頃の保育の見直しを行う。
6月14日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②水遊びのリスクマネジメ	<ul style="list-style-type: none"> ・プール・水遊び時の監視方法についてロープレを行いながら共通

		<p>ント</p> <p>③子どもに、保護者に、職員に「伝える」</p>	<p>認識し、水遊びにおけるリスクマネジメントを身につける。</p> <p>・ したら「伝える」のか、確実に伝える・共有するための言葉かけと見える化について事例報告・ディスカッションを通じて学ぶ。</p>
7月12日	18:00~20:00	<p>①コンピテンシー自己採点</p> <p>②丁寧な保育・丁寧な保護者対応とは</p>	<p>・ 子どもの発達を理解し、年齢ではなく一人ひとりに合わせた関わりや環境構成の事例報告・ディスカッションを通じて学ぶ。</p> <p>・ 送迎時の保護者対応を振り返り、事例報告・ロールプレイを行いながら接遇について学び、保護者との信頼関係を深める。</p>
8月9日	18:00~20:00	<p>① コンピテンシー自己採点</p> <p>②異年齢保育の共通理解と現状把握</p> <p>③続きがやりたくやる遊びの環境</p>	<p>・ 異年齢保育による子どもの発達や期待できる成長について事例報告・ディスカッションを通して学ぶ。</p> <p>・ 子どもの発達を理解し、今必要な環境を事例報告・ディスカッションを通じて学び、園内・園庭の環境を見直す。</p>
9月13日	18:00~20:00	<p>① コンピテンシー自己採点</p> <p>② 危機管理（見失い）</p>	<p>・ 職員間で危険な箇所を室内外共見直し、安全に努める。</p> <p>・ ハザードマップを使って散歩ルート上の危険箇所の検証と対策</p> <p>・ 「見失い」「置き去り」を防ぐためのリスクマネジメント</p>
10月11日	18:00~20:00	<p>① コンピテンシー自己採点</p> <p>② 感染症について（衛生管理）</p>	<p>・ 子どものかかりやすい感染症について学び、嘔吐処理やおむつ交換方法のロールプレイを行い再確認する。</p> <p>・ 常に清潔で衛生的な環境が保たれているか清掃チェックの仕組みを振り返り、子どもにとって安心安全な環境について学び、見直していく。</p>
11月8日	18:00~20:00	<p>①コンピテンシー自己採点</p> <p>②遊びの充実（表現遊び）</p>	<p>・ 感じたこと・体験したことを思い思いに表現することが出来る環境づくりについてディスカッションを通じて学び、個性を引き出す表現活動や話し合っ共同で一つの物を創りあげる活動へ繋げていく。</p>

12月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② チーム保育の必要性	・それぞれが持ち味を發揮しながら「気づき合い・伝え合い・助け合い・高め合う」職場環境について、事例報告・ディスカッションを通じて学ぶ。(一人の保育を皆の保育に)
1月17日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②今年度の振り返り	・園全体・クラス・個人で今年度の保育を振り返り、目標達成状況確認・課題の抽出を行う。
2月14日	18:00~21:00	①コンピテンシー自己採点 ②第一回策定会議	・次年度事業計画の発表、次年度に向けての目標設定 ・全体的な計画・年間計画書の作成
3月2日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②第二回策定会議	・次年度年間行事計画作成（プロポーザルを基に子どもに経験させたい行事を話し合う） ・畑活動・畝作り研修

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日~30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デンマークインターンシップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認

をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

積極的に園外に出かけ、地域の人々と様々な関わりを経験し、また、地域からも関心を持ってもらえる発信をもとに地域との関わりを深めていける計画を実施する。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：中尾公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設とのふれあい交流
異年齢交流	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の小学校・保育園などと交流できる機会を設けていく。 ・小・中・高校生のボランティア、職場体験の受け入れも積極的に行う。
地域拠点活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参加やどろんこ祭り・運動会・生活発表会に地域の方を招き、保育園を地域に開いていく。 ・ちきんえっぐの活動発信を強化することで、園に足を運んでくださる地域親子を増やし、子育て相談をしやすい地域拠点を目指す。
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

保育者は学習指導要領やスタートカリキュラムを理解したうえで、小学校への接続が円滑に行えるように意識していく。具体的な連携については、保護者懇談会等で保護者に向けて説明し、保育者と保護者が同じ意識を持ちながら、就学に向けて準備を行えるようにしていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。三筑小学校を中心に交流を図り、他小学校とも連携を進めていく。スムーズな就学を目的とし、情報交換や発達・成長の様子をはじめ、

子どもの姿を共有できるように働きかけていく。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	三筑小学校1年	24名予定	運動会见学 (三筑小校庭)	行事見学
10月頃	三筑小学校 他5校	24名予定	就学前健診 (各校体育館)	子ども間交流
2月頃	三筑小学校 他5校	各1~2名 予定	幼保小連絡会 (各小教室)	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

支援が必要な子どもについては個別に保育計画を作成し、家庭や連携機関と情報交換を密にして一人ひとりに応じた保育を行い、自らの育つ力を伸ばして行けるように支援し丁寧に関わっていく。

〈2〉 毎月のケース会議開催

(4~3月に計12回開催予定 参加者：7名予定)

日々、変化していく子どもの様子を記録し、全職員での共通理解のもと、どの職員でも同じ対応で関わっていけるようにしていく。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

年1回開催される保・幼・小連絡会に参加し、園での取り組みや情報の共有を行う。就学时健康診断前後には対象小学校と密に連絡を取っていく。また、保護者の同意を得て支援センターや療育など関係機関との連携を行い、安心して通える状況を作る。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00~12:00

どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（水）10:00～12:00
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：中尾公園にて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2025年2月28日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：9時00分

自己評価終了予定時刻：16時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任、ミドルリーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長発達に沿った保育環境や子どもにとって必要な経験は何か、活発に意見交換しながら、子どもも大人もTrail&Errorを楽しみながら保育を進めていく。 ・昨年度に続き、やらなければいけないではなく、なぜやるのかを職員が深く理解するための研修を丁寧に行い、意味を理解したうえで基本活動の実践・振り返り・課題抽出・改善を繰り返しながら、活動内容の質を高めていく。
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・上期はTrail&Errorを楽しむ余裕もなく「やらなければ」の思いで保育を行っていたが、次第に職員間の共有会議が増え「なぜやるか」を考えるようになってきた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

24年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の活動を自己決定できる子どもの姿があり、その姿を認め挑戦する姿を見守ることができる保育者集団となる。 ・リーダーを中心とした保育が定着し、一人ひとりの個性が輝く保育を実施する。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・保育環境を整え、保育者は指示を出さず、子ども自身が自分で考え行動できるように見守っていく。 ・互いの価値観、物事の捉え方を知る。また、自分の弱みを認めることで互いに助け合い、弱みを強みに変えていくチーム力を育てていく。
25年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで保育する楽しさややりがいを感じながら、子どももスタッフも主体的な園になる ・保護者や地域の方が成長を共有する場になる
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが中心となった園内研修の実施。スタッフ一人ひとりが同じ視点で子ども達を見守りながら保育を行って行く ・園行事や保育参加に保護者や地域の親子を巻き込み、一緒に園を盛り上げながら、子どもたちの成長を共有する場をつくっていく ・地域へ園情報の発信と内容の充実
26年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・子どももスタッフも主体的な園の定着 ・地域に開かれ、必要とされる園になる
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長だけでなく、リーダーが保育を語れ、園の課題等の抽出→解決に向けて取り組む。 ・地域の子育て環境における課題を抽出し、必要とされる支援や連携を図る。園庭開放や、ちきんえっぐを利用される方とも積極的にコミュニケーションを図り、いつでも安心して相談等が行える関係性作りを行う。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：三筑どろんこ保育園 施設長 北原 由美

2024年度 メリー★ポピンズ南砂ルーム 事業計画書

1. 基本方針

当保育園に関わる子ども、園スタッフが、活動や行動を自分で選択し、主体的に日々を過ごす園を目指す。

1. 子どもたちが「自由に行き来する大きな家」を目指す

保育者は、ワンフロア的环境を活かし、異年齢の子どもたちが園内を自由に行き来する環境を作る。

保育者は、個々の発達段階を理解し、援助していく。

年上児が年下児の面倒を見、年下児は年上児の行動に憧れが持てるようになる。

2. 生活力・選択力・思考力を育む

保育者は、子どもの生活力・選択力・思考力を育むために、日課・基本保育活動を実施する。

保育者は、日々の活動の中で、子どもが選択する生活・遊び、大人が伝える危険回避力、社会生活との関り、環境への意識等を理解し保育を行う。

子どもたちは、多くの原体験から生活力・選択力・思考力を身に付ける

3. 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の体得

保育者は、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の理解を深め、子どもたちの成長に必要な経験を考える

保育者は、未来を担う子どもたちが、自分で未来を切り開くことが出来るように支援する。

子どもたちは、生涯にわたって必要となる生活力・選択力・思考力を育む。

4. 保育環境の充実

保育者は、子ども自らが興味関心のあるものを選択し、主体的に生活や遊びを展開できる環境を作る。

保育者は、必要以上に介入せず子ども達を見守る。興味を持つ・継続する・最後までやり抜く・気持ちをコントロールする非認知能力の育成を目指す。

保育者は、子どもたちを主役にして、多くの動植物、自然事象、水・土・火に触れる機会を可能な限り多く作る。

室内・戸外・年齢を問わず、子ども自らが活動を選択し、自分で考えて行動する子になる。

5. 食の循環を知り、命をいただく

保育者は、子ども達が食べ物に触れ調理し、命をいただく体験をし、残菜の堆肥化を体験

することで、食への興味関心を高められるように環境教育を実践する。
子どもたちは、食べることに感謝し、食べることを楽しむ。

6. 気持ちの良い接遇

保育者は、大人にも子どもにも、相手に敬意を払った接遇を心掛ける。相手にとって気持ちの良い挨拶、応対をする。

保育者は、保護者が待った気がしないお迎え対応を工夫する。

保育者は、気持ちよく生活出来る園にするために、整理整頓に努める。

子どもたちは、大人の接遇を見て気持ちの良い挨拶をし、社会性を身に付ける。

7. 小学校との連携

保育者は、子どもの未来の姿を見据え、小学校との交流活動、小学校見学を行う。小学校学習指導要領を紐解き、学習指導要領スタートカリキュラムとの接続が出来るように努める。

子どもたちは、保幼小の連携した関りのもと、就学への期待感を高める

8. 地域に開かれた保育園を目指す

保育者は、日々の保育活動を地域に発信する。

地域の子どもたちを共に育てる拠点となる。

保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	室内・戸外を問わず、子どもが中心となり遊びや行動を選択できる環境作りを常に考え実践する。
	実践予定内容	その時々の子どもの発達状況を考慮し、昼礼、園会議で環境についての話し合いを行う。
2	計画・ねらい	スタッフ個々が園長大学・保育士大学講座を使い、設定した目標に向けて専門的な知識と技術を高め、常に自己研鑽を重ねていく。園内研修で知識を共有する。
	実践予定内容	園会議に於いて、得た知識を発表する機会を多くし、園全体のボトムアップを図る。
3	計画・ねらい	子どもの発達状況を理解した上で、連続性がある保育計画を作成する。
	実践予定内容	担任会議、園会議等を利用し、前月の子どもの姿を踏まえた次月の保育計画の作成を行う。 発達状況を理解し、発達の連続性を保つことが出来るような計画を作成する。
4	計画・ねらい	保育者、子ども、保護者と一緒に安全教育を進める
	実践予定内容	安全計画の内容を保育者と子ども、保護者と共有し実施する。
5	計画・ねらい	エピソード記録やポートフォリオを作成し、自園の保育姿勢を発信する。
	実践予定内容	エピソード記録やポートフォリオを作成し、スタッフ間で共有する。玄関に掲示し、保護者が待った気がしないお迎え対応に活かす。
6	計画・ねらい	日本の伝統行事を知り、理解を深める。

	実践予定内容	正月、節分等、我が国の伝統行事を知り、導入に力を入れる。絵本、手遊び、歌等を多く取り入れ、行事への理解を深める。
7	計画・ねらい	挨拶、応対、環境を念頭に置き、気持ちの良い接遇を行う。
	実践予定内容	園内研修で接遇に関して学ぶ機会を増やし、連絡帳、保護者対応、待った気がしない玄関対応等を話し合い、都度改善していく。

保育所を利用する子どもの保護者への支援

保護者一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、子ども達の成長を喜び合うことの出来る関係作りをしていく。

子どもの様子が目で見て分かり、保育者の保育への考えが伝わるようなタイムラインやエピソード記録、ポートフォリオ、子どもの作品等を発信し、保育の見える化に努める。

必要に応じて、保護者面談を実施する。

1	計画・ねらい	保護者の立場に立った接遇を心掛ける。随時保護者面談を実施する。
	実践予定内容	園内研修で接遇について学ぶ。チャット機能を使い、子どもの様子を共有する。必要に応じて、随時保護者面談を実施する。
2	計画・ねらい	保護者に園での様子を発信し、共有する。
	実践予定内容	日々の連絡帳やタイムラインを施設長がチェックし、内容の充実に努める。エピソード記録やポートフォリオを作成し、子どもの様子を発信、共有する。
3	計画・ねらい	常に整理整頓を心掛け、環境設定に必要なものをしっかりと揃え、気持ちの良い施設を作る。
	実践予定内容	清掃責任者による点検を実施していく。

地域の子育て支援事業

体験保育、園解放、小中高生交流、世代間交流、ボランティア受け入れ、無人フリーマーケット、子育てサロン、子育て相談等に取り組み、地域子育て支援の拠点として保育園の役割を果たす。

日頃活動している内容を地域に発信し、園が地域の子どもたちにとっても原体験の場となるように努める。地域の子どもたちと共に活動を楽しみ、成長し、地域の子育て拠点となる。

1	計画・ねらい	園解放の機会を地域にアプローチしていく。
	実践予定内容	園見学にいらした方や、訪問する商店街の方に園解放の機会をお伝えし、いつでも園に遊びに来ることが出来ることを知らせていく。
2	計画・ねらい	地域の方が楽しむことが出来るような活動を提供する。
	実践予定内容	年間のちきんえっぐ活動計画を、地域の方が足を運びたくなるような魅力的なものとする。

次世代を担うスタッフ育成

経歴、能力、得手不得手を考慮しながら、常に学び続け、スタッフ個々が成長していく集団となる。

1	計画・ねらい	経験の浅い職員については、法人ルール・方針の理解・日々の業務の習得を目指す。 子どもと可能な限り関わり、子どもを知る、子どもの思いを感じることを目指す。
	実践予定内容	保育品質マニュアルの読み込み、園長大学・保育士大学の講座受講を年間10回目指す。子どもの姿について、エピソード記録を作成する。

2	計画・ねらい	中堅職員については、法人理念・園目標の具現化に必要な事を考え、実践することを旨とする。
	実践予定内容	日々の保育についての振り返りを行いチャットで共有する。園長大学・保育士大学の講座受講を年間10回目指し、受講内容を会議で発表する。 日々の保育について、ドキュメンテーションを作成する。 経験の浅い職員のフォロー、指導を担う。
3	計画・ねらい	リーダー職員については、運営部mission・園事業計画の実現・十分な安全管理を念頭に置き、園全体の様子を把握し、職員を統率することを旨とする。
	実践予定内容	自身のスキルアップのため、園内研修講師役を務める。園長大学・保育士大学の講座受講を年間10回以上目指し、受講内容を会議で発表し、園全体のボトムアップを目指す。 新入職員、中堅職員のフォロー、指導を担う。中堅職員との面談を行う。

環境実施目標

1	計画・ねらい	生き物、畑に触れられるような環境を作る。
	実践予定内容	係りを中心に、当園の環境を活かした畑活動を行う。飼育可能な生き物を常に考え、子どもたちと共に飼育する。
2	計画・ねらい	給食残渣量の測定を継続的に行う。
	実践予定内容	給食残渣の測定を継続的に行い、残渣量の変化を視覚化する。環境教育の一貫として、子どもたちに残渣量を減らす意義を伝えていく。
3	計画・ねらい	コンポスト作りを行う。
	実践予定内容	子どもたちとコンポスト作りを一緒に行い、食の循環を知る機会を作る。
4	計画・ねらい	食材の皮や捨ててしまう部分を有効活用する。
	実践予定内容	食材の皮を調理したり、清掃やコンポストに利用したりする。

学ぶ集団となる

1	計画・ねらい	園長大学・保育士大学の講座を年間10回以上受講する。
	実践予定内容	園長大学・保育士大学の講座を年間10回以上受講し、経験値別にその内容を園内で共有し、園全体のボトムアップを図る。
2	計画・ねらい	日々の事象に対する疑問を、子どもと一緒に解決していく。
	実践予定内容	日々の事象で出会う自然、食べ物、行事、出来事等々に関する不思議を子どもと一緒に調べ、学び思考力を育む。
3	計画・ねらい	行事に関しての理解を深め、保育に活かす。
	実践予定内容	行事に関しての理解を深め、子どもたちに発信し、行事が単なるイベントにならないように努める。
4	計画・ねらい	子どもの様子を共有する機会を多く作る。
	実践予定内容	エピソード記録の作成を進め、内容を園会議で共有し、子どもの姿を園全体で捉えていく。

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の理解を深め、保育の質の向上を目指す

1	計画・ねらい	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の理解を深める。
	実践予定内容	園内研修を通し、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の理解を深める。

2	計画・ねらい	各年齢の子どもの発達段階の理解を深める。
	実践予定内容	園内研修、園長大学・保育士大学の講座を通し、子どもの発達段階の理解を深め、10の姿を絡めながら保育の質の向上を目指す。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
0人	10人	12人	14人	14人	14人	64人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	8人	看護師	0人	栄養士	3人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	3人	補助	0人	調理	0人	事務	1人
	用務	0人	嘱託医	2人				

3. 運営方針

施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	各クラスの様子、行事進捗、園内研修
給食運営会議	月1回	クッキング内容の共有、アレルギー対策、食育
事故防止委員会	月1回	当月の事故怪我の振り返り、分析、再発防止策話し合い
ケース会議	月1回	要支援児の姿・保育計画・対応方法の共有
乳児会議・幼児会議	月1回	子どもの姿・保育計画の共有、振り返り
昼礼会議	毎日	子どもの姿共有、伝達、事務連絡、活動の振り返り

法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各書類提出や運営についての確認事項
施設長勉強会	月1回	保育園の課題検討をしながらスキルアップを目指す
食育会議	年4回	マニュアルの見直し、園の取り組み発表
保健会議	年4回	感染症対策、衛生管理、園の取り組み発表
主任会議	年4回	主任としてのスキルアップ、園運営の課題検討
子育ての質を上げる会議	月1回	各課題について事例検討、講義

各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生改善と疫病の予防措置、保育所の衛生全般の管理
安全対策係	設備点検、インシデント、ヒヤリハットの分析
防火管理者	防火管理に関わる消防計画の作成、防火管理上必要な業務を計画的に行う
食品衛生責任者	食品の取り扱いに関する業務、施設の衛生管理
畑・生き物係	畑の環境整備、植付け・収穫管理、生き物の世話

行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの計画・実施

4. 保育方針

基本方針

乳児保育	上半期 1～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生理的欲求を満たし、情緒の安定を図る。 ・個々の生活リズムを大切にし、園生活に慣れるように丁寧に関わる。歩行、身体バランスの安定により盛んになる探索活動を楽しむことが出来るようにする。 ・様々な行動や欲求に適切に応え、身近な大人と情緒的な絆を形成する。 ・身近な大人や年上児、友だちとの日常の中で、見て学び、感情を十分に表現し、大人に見守られながら健やかにのびのびと育つ。
------	--------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中の様々な遊びや身近なものとの関りを通して感性が育つ。 ・園児同士の関わり合いの中で、身近な人との気持ちが通じ合う。
	下半期 1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢活動を通し感性を豊かにし、創造性が芽生え、活動に楽しみや喜びを感じる。 ・生活や遊びの充実を図るための環境設定をする。 ・生活に必要な言葉が分かり、身のまわりのことを自分でしようとする。 ・簡単な言葉で気持ちを表現し、友だちや保育者と関わる。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の中で、友だちとの繋がりを深め、楽しむ場を作り、協調性や自主性を育む。 ・遊びが十分にできる環境の中で一人ひとりが充実して遊び、仲間意識や集団行動の楽しさを知る。 ・リズム体操、表現遊び、歌遊びなどで自分を表現する意欲や協同性、社会性を育てる。 ・童話や絵本、紙芝居の読み聞かせを通して聞く力や想像力を伸ばす。 ・動植物を飼育栽培し、体験を通して自然物や生き物の命の大切さを養う。 ・興味関心を持った事に主体的に関わり、発見を楽しむ。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで考えた遊びや活動に意欲的に取り組む。 ・自ら考え、工夫判断して行動する。 ・目的を持ち継続性のある遊びを楽しむ。 ・自分のイメージしたものを自分なりの方法で表現する。 ・自然の中で発見や不思議さを体験し、豊かな感性を育てる。 ・年下児や仲間思いやりをもって接する。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用する。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用する。

年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

給食・食育運営方針

全スタッフが食育についての知識を高め、日々の取り組みを充実したものとしていく。家庭と連携を取り、プロとしての専門性を活かしながら、共に食を営む力を作る。全ての職員が子どもたちと一緒に食事を摂り、食事を楽しむ。

1	計画・ねらい	食事作りや準備に関わり、子どもの食への関心を広げる
	実践予定内容	野菜の下処理、米とぎを子どもと一緒にやる。 食事の配膳当番を決めたり、年上児が年下児の配膳の手伝いをしたりして、食への関心を高める。バイキング給食を取り入れることにより、自分が食べることが出来る量を知る。
2	計画・ねらい	十分な遊びから自然とお腹が空く子ども、意欲的に食べる子を育てる
	実践予定内容	午前中の活動の充実をはかり、十分に遊び、自然とお腹が空くような状況を作る
3	計画・ねらい	命をいただく体験、残菜をコンポストに取り入れ、再生土を利用し自ら栽培したものを食する事で、食に対しての愛着や感謝の気持ちを抱き、自然の恵み、命の大切さに気付く
	実践予定内容	スタッフが、命をいただく活動、コンポストや野菜栽培についての知識を高め、活動が充実したものとなるように努める
	計画・ねらい	離乳食、アレルギー、口腔発達、食具の利用の仕方等について、適切な援助を行う。嚙む力を育てることが出来るような援助を行う。
	実践予定内容	園長大学講座、園内研修を利用し、スタッフ個々が必要な知識を学び、適切な援助を行う。

保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	うがい手洗いの励行、歯磨き指導、温度湿度管理
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 夏頃・・・手足口病、プール熱 冬頃・・・インフルエンザ、感染性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在15名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については4月5日までに受講予定
その他保健に関する取組	行政からのお知らせ掲示、保健関係研修の受講 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検(定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検(簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年2回／6・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

環境整備

1	計画・ねらい	園内の整理整頓に努め、気持ちよく過ごすことが出来る園を目指す
	実践予定内容	清掃チェック担当者を決め、園内の整理整頓に努める。
2	計画・ねらい	清掃チェック担当者を決め、園内の整理整頓に努める。
	実践予定内容	子どもの発達段階を個々が学ぶと共に、担任会議、園会議で環境構成について話し合い、日々の環境構成を行う。
3	計画・ねらい	子ども達がいつでも休養できる環境を整備する
	実践予定内容	子どもが必要な時に体を休めたり、静かに本を読んだりすることが出来

		る環境を設定する。
4	計画・ねらい	戸外でも製作活動が出来るように準備する
	実践予定内容	自然物を利用した製作活動や、日頃室内で行っている描画活動等を戸外でも行い、子どもの発想を満たすことが出来るような活動を意識し、日々準備をして出かける。

手作り遊具・家具安全点検計画

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施、水防訓練の実施。
2	実践予定内容	防災設備対策の実施（自動火災探知機、煙感知機、誘導灯、排煙等）。
3	実践予定内容	年2回の不審者侵入訓練。
4	実践予定内容	ヒヤリハット、インシデント、事故記録簿記載による事故防止と、事故防止委員会による検討会議。
5	実践予定内容	園内外のハザードマップによる危険個所の確認と安全確認の周知。
6	実践予定内容	オートロックで外部侵入者の立ち入り禁止。
7	実践予定内容	光化学スモッグ発生時には、市役所などの情報機関が発信する情報をチェックし発生時には屋外での活動を控える。

6. 実習生・中高生の受入

今年度方針・テーマ

実習生、中高生の職場体験、小学生ボランティア等を随時積極的に受け入れ、未来の保育士育成に尽力すると共に、在園児が近未来の自分の姿を想像できるように交流を図る。実習、職場体験後も交流が継続し、保育士の職業としての魅力も伝えられるように努める。

1	実践予定内容	実習生を随時積極的に受け入れる。実習生が不安にならないように温かく指導する。
2	実践予定内容	中高生の職場体験を積極的に受け入れ、子どもとのふれあいから様々な事を感じてもらうようにする。
3	実践予定内容	小学生のボランティアを随時積極的に受け入れる。

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修（年1回） ■ 園内研修（月1回以上） ■ 保育スキル研修（エリア別） ■ リーダー養成研修（9～2月） ■ 業務改善研修（月1回） (=保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会（月1回） ■ デンマークインターンシップ（年1回） ■ コンピテンシー自己採点（月1回） ■ 人権チェック（4月・10月） ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

7. スタッフ育成と研修計画

2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 基本事項の確認	接遇、エピペン使用法、散歩時の安全管理、子どもの人権、ケガ・ケーススタディ研修、調乳・母乳扱い、おむつ替え手順
5月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日課、法人理念、内部監査	園長大学発表、日課・法人理念、離乳食について、基本のリズム体操、光化学スモッグ対応、座薬挿入方法、内部監査、健康な心と体
6月14日	18:00~20:00	② コンピテンシー自己採点 ② のびのび、体育、音楽指導方法、10の姿	園長大学発表、のびのび・体操・音楽・リズム指導について、救命救急(AED使用方法)、自立心
7月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊び指導方法、エピソード、10の姿	園長大学発表、水遊び指導法、保育環境、熱中症、エピソードとドキュメント、協同性
8月9日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 気になる子への対応、10の姿	園長大学発表、安全教育、子どもの姿の捉え方、気になる子への対応、道徳性・規範意識の芽生え
9月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 上期保育の振り返り、10の姿	園長大学発表、上期保育の振り返り、事業計画振り返り、ハザード見直し、SIDS、社会生活との関わり
10月11日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保幼小連携、10の姿	園長大学発表、小学校指導要領、保幼小連携について、嘔吐処理、思考力の芽生え
11月8日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 自己評価、10の姿	園長大学発表、自己評価、感染症、接遇、自然との関わり・生命尊重
12月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度振り返り、見守る保育、10の姿	園長大学発表、今年度振り返り・次年度に向けて、見守る保育、数量・図形・文字への関心・感覚
1月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 進級に向けて、養護と教育10の姿	園長大学発表、進級に向けてのクラス連携、養護と教育、SIDS、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現
2月14日	18:00~20:00	② コンピテンシー自己採	園長大学発表、次年度行事案、園運

		点 ② 次年度行事案、園運営方針	営方針
3月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度に向けて、ハザード見直し	園長大学発表、次年度に向けて、ハザード見直し、保育環境

外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学® 保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学® 保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デンマークインターンシップ	希望するスタッフが応募											

スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

今年度方針・テーマ

核家族化や地域のつながりの希薄化、子育て負担や不安、孤独感が高まってきているため、保育園・地域・家族が一丸となって子育て支援を行う。保育園が原体験の宝庫になるように、活動を工夫し地域に発信する。月1回「ちきんえっぐだより」を発行し、年間計画のもと地域交流を行う。

具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：南砂三丁目公園にて

商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者との交流(よっちゃん家、老人施設)
異年齢交流	小学校訪問、他園交流、職業体験・ボランティアの受け入れ 園庭開放
地域拠点活動	ちきんえっぐ、青空保育
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3~5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

今年度方針・テーマ

以下計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。小学校との交流活動、小学校見学・運動会未就園児プログラムへの参加を通じて小学校との交流を図る。保育者は、就学、子どもの未来を見据えて小学校教育について学び、交流をし、日々の保育に活かす。職員研修の中で小学校学習指導要領を紐解き、学習指導要領スタートカリキュラムとの接続が出来るように努める。また、卒園児の小学校へのスムーズな接続を実現するために、保育所保育要録送付、児童情報申し送りの面談を実施する。

具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月8日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
10月頃	江東区第五砂町小学校	9名予定	公開授業参観	子ども間交流
1月頃	江東区第五砂町小学校	2名予定	授業参観（第五砂町小教室）	職員間交流
2月頃	江東区第五砂町小学校 1年生	9名予定	交流会（第五砂町小教室）	子ども間交流

10. 要支援児計画

個別支援計画の作成・見直し

個別支援計画を作成し、月1回の会議の際、情報を共有し見直しする。

毎月のケース会議開催

（4～3月に計12回開催予定 参加者：●名予定）

毎月の会議で子どもの様子や対応について共有・報告・検討を行う。

進級引継、および、小学校への引継

小学校への進級に際し、養護教諭や発達支援担当スタッフへ引き継ぎを行う。

また、通所など必要と感じられた場合、保護者の同意を得て関係機関への相談を行い、安心して通える状況を構築する。小学校への引継ぎは、その間該当施設を経由して行う。

1.1. 子育て支援事業

園に來訪した親子に都度署名をもらい、月間延來場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
自然食堂…親子ランチ交流	月2回 10:00~12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月1回 10:00~12:00
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:南砂3丁目公園にて開催

1.2. 園運営の向上

福祉サービス第三者評価の受審

評価会社名●●●に依頼して受審予定
or受審予定なし

園による自己評価の実施

2024年某日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻:9時00分

自己評価終了予定時刻:11時00分

自己評価実施予定者:鈴木咲貴、川島もえぎ、大塚裕美、宍戸鉄郎

利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日:8月25日

1.3. 3カ年計画の具体化

昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ等の記録の充実と保護者への発信。 ・お互いに認め合い高め合えるスタッフ集団を目指すべく、計画的且つ積極的な研修への参加、園内研修の充実。 ・「10の姿」を深く学び、1歳児から必要な経験、環境を考察し、小学校への接続がスムーズに行えるようにする。
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオの掲示は出来なかったが、毎週の活動の様子や畑の作物の様子を写真で玄関に掲示し、保護者への発信力は高まったように感じる。エピソード記録やポートフォリオなどの作成経験が少ないスタッフも多い為、経験を積み重ねられる

		<p>ような取り組みも行っていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初は施設長が主体で研修を行っていたが、質会議に参加したスタッフによる研修や調理スタッフによる研修も年度末に近づくと行うことが出来、職員自身が園の弱みを高めようとする姿があった。またほぼすべての正職員がキャリアアップ研修に参加し、保育の質の向上に努める事が出来た。 ・質会議の内容が5領域だったこともあり、10の姿ではなく5領域の園内研修を領域ごとに行った。小学校の接続についての研修も一緒に行う事が出来た。10の姿についての研修は出来ていない為、今後1つひとつの項目の内容や乳児期にどのように援助し繋がっていくのか理解を深めていきたい。
--	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども、スタッフが共に、活動を自分で選択し、取り組んでいく主体的な集団となる ・個々の得手不得手を共に活かしていく集団となる ・保育園に関係する全ての方と共に、子どもの成長を共有する
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフによる活動の選定、立案、振り返りを重視する。「10の姿」の理解を深め、保育の質の向上を目指す ・個々の得意分野を披露する機会を作る ・ポートフォリオ、エピソード記録、タイムラインの内容充実を目指し、子どもたちの成長を保護者、地域と共有する。
2025年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども自身が共通の目的に向かって活動を考え、取り組んでいく ・大人も子どもも、自らが行動や活動を選択し、日々の活動が充実した集団となる ・異年齢児が兄弟姉妹のように生活する集団となる ・地域に開かれ、地域と共に子育てを実践していく集団となる
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や発表会等の大きな行事を、年上児を中心に進め実践する ・多くの原体験で感じたことを発表、共有する機会を多く作り、大人も子どもも感受性豊かな集団となる。 ・異年齢児の関わりの機会を恒常化する ・繋がりを深めた保護者、地域と共に子育てを楽しむ機会を設け実践する。
2026年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダースタッフが園を牽引し、法人内に於いても力を発揮する人材が育つ ・ワンフロア環境を最大限に活かした活動、保育を他園にも共有する ・異年齢が混ざり合い、子どもが園生活を作っていく集団となる。 ・地域と共に活動する場を増やし、地域子育ての拠点となる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダースタッフは、法人の方針や活動理念をスタッフ、保護者、地域に発信し、理解される方が増えるように努める。 ・日々の活動選択について、子ども任せにするのではなく、個々の発達を促すことが出来るような促しを意識し、発達の手助けをする。 ・未来を担う子どもたちを、地域と共に育てていくことを念頭に、子育

		て家庭を巻き込んだ活動を地域に発信する
--	--	---------------------

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ南砂ルーム 施設長 抜井 佳代子

2024年度 メリー★ポピンズ松山ルーム 事業計画書

1. 基本方針

メリー★ポピンズ松山ルームは、保育所保育指針並びに社会福祉法人どろんこ会の保育理念・保育方針に則り、日々の保育を実践して参ります。また、ここに集う子どもたち・保護者・保育者があるままの自分らしさを発揮でき、それを共感し受容し合える安心・安全な環境作りを目指します。日々の暮らしを大切に、たくましい心と生きる力の基礎となるべく、保育者たちが見本となり、子どもたちと共に成長することを楽しむ集団であり続けます。

どろんこ会保育理念：「にんげん力。育てます。」

- 目指す姿：1. 生活の体得
 2. 10の姿の体得
 3. 子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定
 4. 命をいただく活動の実践
 5. 自律運営

メリー★ポピンズ松山ルーム 基本方針：「子どもも大人もありのままを受容し尊重しあい高め合う」

メリー★ポピンズ松山ルーム 園目標：「新・輝・一・転」

～新しいことに挑戦・子どもたちが輝くために・一歩前進・発展していく～

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活力の体得
	実践予定内容	どろんこ会グループの日課・基本活動の実践
2	計画・ねらい	子どもの発達を理解し、心情に寄り添い適切な環境を保证
	実践予定内容	園内研修にて子どもの発達について学ぶ
3	計画・ねらい	労働・食の循環を意識した食育活動
	実践予定内容	食材や食の循環を知る直接体験をする 畑活動（種まき・収穫・コンポスト作り） 食材の加工（梅干し作り・梅ジュース） 命をいただく（魚の解体見学）

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	丁寧な保護者対応（相手の気持ちに寄り添う） 子どもの育ちの共有
	実践予定内容	3分間対応の充実 連絡帳の書き方の見直し お迎え時にお待たせしない工夫（ポートフォリオ・ドキュメンテーションの充実、季節感を大事にした玄関掲示物）
2	計画・ねらい	保護者の皆さまと共に学ぶ

	実践予定内容	園長大学・保育士大学の講座をご案内し、学びの場を共有する
--	--------	------------------------------

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援の実践
	実践予定内容	園庭解放・子育てサロン・青空保育・保育所体験
2	計画・ねらい	地域の様々なひととのつながりを大切にした子育ての実践
	実践予定内容	異世代交流（小中学生との交流） 世代間交流（シニア交流）

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育者自身のにんげん力の向上
	実践予定内容	接遇力の継続 保育者自身の感性を磨く
2	計画・ねらい	リーダー育成
	実践予定内容	主任・クラスリーダー・行事リーダー・処遇改善リーダー等それぞれの立場に応じた指導の実践
3	計画・ねらい	MBOの充実
	実践予定内容	個人に見合った目標設定のサポート

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践予定内容	畑仕事・食材加工・命をいただく活動
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行
	実践予定内容	給食調理における廃棄を減らす、残渣の再利用など有効活用する
3	計画・ねらい	畑仕事・生き物の世話
	実践予定内容	年間農業計画に沿った畑仕事の実施

〈6〉 五感を意識し、音・光・香り・風を感じ、表現する

1	計画・ねらい	日本の四季・行事を意識した取り組み
	実践予定内容	季節行事を実施し、日本の良さを伝える
2	計画・ねらい	五感で感じたことを言葉や様々な手法で表現し、子どもと共有する
	実践予定内容	季節ごとの花々や虫たちの観察。 日向と日陰の違いや影の存在を知る 風を活かした遊び 香りを意識してみる（花の香り・給食の食材の香り・焚火の香り等）

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
12人	15人	15人	0人	0人	0人	42人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	12人	看護師	1人	栄養士	3人	調理員等	—
パート スタッフ	保育士	3人	事務	1人	嘱託医	2人	—	—

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	コンピテンシー・園内研修・ディスカッション
給食運営会議	月1回	食育・アレルギー対応児について・離乳食形態確認
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故記録簿の検討
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の確認
リーダー会議	不定期	クラス間の課題検討・調整等
クラス会議	月1回	月案指導計画・行事内容の検討・立案等

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人本部より伝達事項の共有・運営状況報告・検討事項の共有
施設長勉強会	月1回	保育所運営・保育の事例検討
食育会議	年4回	食育・給食提供に関する案件の検討
保健会議	年4回	感染症対策やガイドラインの作成、事例検討
主任会議	年4回	各園の課題改善アクションプランの進捗状況・共有、マネジメント研修等
子育ての質を上げる会議	月1回	課題の提案・共有、改善計画立案及び取組成果発表

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生管理全般
安全対策係	設備点検・事故防止点検の実施
防火管理者	防災計画の作成・設備点検の実施
食品衛生責任者	給食食材・提供食材の衛生管理、在庫状況の管理
畑・生き物係	年間農業計画の遂行状況の確認、生き物の管理
備品係	保育材料・消耗品の在庫管理、発注

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターとの連携・補助

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい生活リズムの安定を図り、生活・遊び・食育を通して生きる力の基礎を培う ・保育者との安定した信頼関係のもと、様々な経験・体験をし、五感
------	--------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		を育む
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの感性を揺さぶり、目を輝かせて遊びたくなるような・自発的に試してみたいと思う環境を整え、満足感・充足感・達成感を得られるような保育の実践 ・周囲の人、物への関心が高まる時期なので、十分に身体を動かし、思考力や認識力礎を培う保育の実践
幼児保育	上半期 3～5歳児	・該当なし
	下半期 2～5歳児	・該当なし
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用
運営委員会	年2回	・該当なし

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	3大食育方針の実践
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・調理員・保育者・施設長は子どもと一緒に食べる。 ・噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供 ・子どもが自分たちで盛り付け・配膳して食べる
2	計画・ねらい	・畑・プランターで野菜を育て、調理して食べる
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら栽培に関わった野菜を食すことで、自然の恵み・命の大切さを知る ・野菜の栽培や下処理（野菜の皮むき等）に関わることで、食材に興味・関心を持つ
3	計画・ねらい	・食事から季節感を味わう
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の四季を感じ、旬の食材を知る。 ・行事に因んだ行事食に触れることで、季節を感じる

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）※0歳児のみ年12回実施
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー食への対応、爪・頭髮の保清チェック、基本的な生活習慣の指導 ・身体測定（毎月20日） ・手洗い、うがい指導、トイレの使い方指導 ・歯磨き指導（6月・1月）
流行が予測される感染症	6月頃…手足口病・ヘルパンギーナ・プール熱 12～2月頃…インフルエンザ・流行性胃腸炎 その他…新型コロナウイルス・ノロウイルス・溶連菌感染症・マイコプラズマ肺炎・RSウイルス
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ…2名より預かり済み／冷蔵庫にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在19名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在19名が、研修受講し、修得済
その他保健に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 ・感染症対策として予防接種状況を把握し、保護者に対し計画的接種を勧める ・「プールでの安全対策と危機管理」「熱中症対策」「皮膚の清潔と保護」「寒さに負けない身体を作ろう」「体力作り」「寒さに負けず元気に遊ぶ」等、市内系列園とも情報共有しながら進めていく

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日

	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月（0歳児のみ年12回実施） 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	常に気持ちの良い環境で、衛生的に整備された施設のもと、心地よく過ごすことが出来るよう施設内の美化に努める
	実践予定内容	掃除チェック表を作成し、管理する
2	計画・ねらい	子どもたちの成長・発達に必要な物・事を常に意識し、保育環境の整備に努める
	実践予定内容	環境リーダーが定期的に保育室内外の環境をチェックし、全スタッフで検討し改善していく

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

現在、手作り遊具・家具無し

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し避難訓練を月1回実施。震度5弱以上の際は、園が情報を発信安否・施設状況・避難先・を情報共有する体制をとる。また、帰宅困難者対策をふまえ災害に備える。マニュアルの徹底
2	ケガ事故防止	事故防止チェックリスト年4回設備点検年6回を行い事故防止の徹底を図る。また、マニュアルにある園外保育・遊具等の保育士行動指針の徹底を図る
3	事故防止	事故防止委員会によるリスクマネジメント インシデント・ヒヤリハット報告の分析・共有/改善案の実施
4	防犯	年2回防犯チェックリストに従い確認し、併せて不審者訓練を実施する。また、訓練は避難訓練確保・不審者撃退・通報の訓練で職員全員を対象とする
5	光化学スモッグ	光化学スモッグ発生しやすい気象条件・影響・光化学スモッグ注意報を把握し発令があった場合は、内容にあった看板・貼紙等を提示する。園児・職員は室内で過ごす

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

職場体験ボランティア、保育実習を積極的に受け入れ、子どもたちが様々な人と関わる機会を増やしていく。また、実習生を指導することで、保育者自身が自らの保育を振り返り見直す機会にもなるため、スタッフのスキルアップに繋がる。

1	実践予定内容	清瀬市内の中学校・高校 職場体験
2	実践予定内容	保育士養成校の学生の保育実習受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画

スタッフ全員が日々の保育実践を通じて、必要な知識・技術の習得・維持および向上を一人ひとりが自主的に行っていく。また、保育の課題への共通理解や協同性を高め、チームとして保育の質の向上を図るために、学び合う姿勢と環境作りが必要であることから研修の充実は不可欠である。個々のインプットに止まらず、アウトプットすることで、情報共有できるよう努めていく。

新人研修

- 入社時オリエンテーション
- 現場OJT研修
- 保育品質マニュアル研修
(事務研修・ケガケーススタディ研修含む)
- コンピテンシー研修

保育スキル研修



←お迎え
対応研修

新人社員研修

- 新人社員研修
→ 会場研修
- 系列園保育実地研修



←避難訓練研修

スタッフ研修

- 全社員研修 (年1回)
- 園内研修 (月1回以上)
- 保育スキル研修 (エリア別)
- リーダー養成研修 (9~2月)
- 業務改善研修 (月1回)
(= 保育の質を上げる会議)
- 施設長勉強会 (月1回)
- デンマークインターンシップ (年1回)
- コンピテンシー自己採点 (月1回)
- 人権チェック (4月・10月)
- 外部研修
- 上級救命救急資格取得講習

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月19日	18:00~20:00	② コンピテンシー自己採点 ② ハザードマップの確認	事故防止の基本・危機管理
5月17日	18:00~20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 人権研修	子どもの人権について
6月21日	18:00~20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 水遊びの危機管理	水遊びのリスクマネジメント
7月19日	18:00~20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 環境設定について	室内外の環境構成の検討
8月16日	18:00~20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 食育	3大食育方針の確認
9月20日	18:00~20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 身体発達	運動会に向けての保育の展開
10月18日	18:00~20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 感染症対策	嘔吐処理の実践
11月15日	18:00~20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 事例検討	事例検討
12月20日	18:00~20:00	② コンピテンシー自己採点 ② エピソード研修	子ども感の共有
1月17日	18:00~20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 研修発表	外部研修の学びの共有

2月21日	18:00~20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 策定会議1	事業計画書の確認、保育課程・年間計画の作成
3月2日	18:00~20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 策定会議2	年間行事計画・農業計画の作成

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デンマークインターンシップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

「選ばれる園作りを目指す」

保護者・地域・自治体の方々から愛され、親しみを持って気軽に立ち寄って頂ける場所となる

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：松山公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者とのふれあい 中高生の体験学習の受け入れ
異年齢交流	近隣保育園や、系列保育園との交流 未就園児との交流
地域拠点活動	実習生、ボランティア、研修生の受け入れ
銭湯でお風呂の日	該当なし

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

保育所の子どもと小学校の児童との交流を図る（ボランティアの受け入れ）

〈2〉具体的な連携計画

保幼小連携会議への参加

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

必要に応じ、「清瀬市子どもの発達支援・交流センターとことこ」や、系列施設である「つむぎ」と連携を図り、個々の発達支援計画を作成し、適切な支援・援助を行う

〈2〉毎月のケース会議開催

対象児のクラス担当・看護師・施設長・主任などが、会議時に振り返りを実施し、次月からの関わり方を検討する

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

3歳児として進級していく施設（保育園・幼稚園・子ども園他）から問い合わせがあった際は、在園期間中の様子をお伝えする。

1.1. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
自然食堂…親子ランチ交流	10:00~12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	10:00~12:00
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：松山公園にて開催

1.2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2025年3月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：9時00分

自己評価終了予定時刻：12時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任、リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1.3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	保育の質、スタッフの専門性の向上に努める。また、一人ひとりの子どもへの理解を深め、子どもの育ちを保護者と共に分かち合う
	振り返り	「保育の質をあげる会議」の課題への取り組み、園会議内でテーマを設定した中でのディスカッションを通して、少しずつではあるが、意識の統一を図れてきているようである。思考の深さ、気付きにはまだまだ個

		人差が見られるので、更に学びを深めていく中で足並みを揃えていきたい。保護者と子どもの育ちを分かち合うという点に於いては、ドキュメンテーション・ポートフォリオなどの手法を取り入れて実践しているが、写真の撮り方や、コメントの書き方など精度をあげていきたい。
--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	地域の子育て施設として、認知度をあげる
	重点施策	・地域の子育て世帯のニーズを探りながら、気軽に立ち寄りたくなるような安心・安全基地となるような環境作り ・地域支援事業の実践
2025年度	目指す姿	保護者・地域の子育て世帯・地域住民と共に「共育て」の実践
	重点施策	どろんこサポーター、地域の子育て世帯、地域住民のマンパワーを活かし、幅広い大人たちに見守られながら育つ環境を整えていく
2026年度	目指す姿	どろんこ会の目指す子育ての提案
	重点施策	地域支援事業の充実（未就園児） 卒園児も参加出来る活動の展開

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：メリー★ポピンズ松山ルーム 相沢 由美

2024年度 篠栗どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

園目標 「共に生きる人～生活を生活で生活へ～」 「食卓に花を」

2024年度よりつむぎ篠栗ルームが開所することを踏まえ、保育理念「にんげん力。育てます。」および、法人保育方針「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」に鑑み、こども園及びつむぎ篠栗ルームの乳幼児・保護者・職員・地域が相互的かつ協働的にかかわりあえるようにし、それぞれ一人ひとりの自主性を重んじ、篠栗町の地域に密着した教育機関・福祉施設を目指す。

篠栗どろんこ保育園・つむぎ篠栗ルームが色々な背景のある子どもたちが集まる場であり、おとな一人ひとりも自分達のこども園での生活がスムーズで安定し充実した時間になるよう、それぞれがやさしさや思いやり、常に感謝する心もちをもって、子どもたちとの生活を丁寧に紡ぎだしながら相互扶助していく。こども園での暮らしぶりが全ての子どもやおとなにとって「安定した生活の場・時間・人」となるようにする。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	つむぎ篠栗ルーム併設開所に際しては、子ども一人ひとりの姿に応じた養護をきめ細やかにし、実質的な体験を大切にしながら毎日の保育内容を丁寧に実践する。
	実践予定内容	四季を感じられる戸外活動や趣のある乳幼児の生活
2	計画・ねらい	園内にとどまらず、様々な環境（ひと・もの・とき）に慣れ親しみ、子どもも大人も豊かな経験をする。
	実践予定内容	保育園周辺への近隣さんぽ、公園の利用、世代間交流など
3	計画・ねらい	温かい言葉、温かい食事といった、子どもにとってうれしい人と温かい心配りに囲まれる、深い愛情を基本とした生活を送る。
	実践予定内容	かわいい歌、楽しいリズム運動、微笑みあふれる食育、心安らぐ触れ合い遊びなど

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	つむぎ篠栗ルーム併設開所に際し、保育内容や保育目標、保育理念についての説明を丁寧にし、不安なく利用してもらえるように特に気を配る。
	実践予定内容	日々の会話を大切にしながら並行して連絡帳アプリの活用
2	計画・ねらい	幼保連携型認定こども園・つむぎ篠栗ルームの併設園として、養護と教育が一体となった生活を丁寧に担保しながら、その様子を保護者と共有していく。
	実践予定内容	行事の参加。篠栗どろんこ保育園・つむぎ篠栗ルームの併設園のオリジナルティあふれるポートフォリオのスタートなど、ヴィジブルな情報共有

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援を実現すべく、保育園や園庭を活用した支援活動を行う。
	実践予定内容	園庭や保育室の解放、離乳食についての講座開催など（一時保育・子育て支援室ちきんえっぐ）
2	計画・ねらい	子育て世帯を取り巻く様々な人との繋がりを見つけ、実際に繋がり、広がっていくためのフィールド作りを始める。
	実践予定内容	ささぐりDoronko+Tsumuideパーク（異世代交流コミュニティ広場）

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	乳幼児の発達の道すじや連続性をとらえ、生活や遊びを明るく楽しく穏やかに展開しながら、子ども一人ひとりを大切にできる保育教諭として成長していく。
	実践予定内容	教育的な教育だけでなく、養護の懇切（温かい心配り）を教育として捉えた日々の丁寧な生活、幼保連携型認定こども園教育保育要領に係る乳児期の育ちと3つの視点・幼児期の育ちと5領域や10の姿についての学び
2	計画・ねらい	子どももおとなも一人ひとりが尊重される園を目指し、その人の持ち味やチームワークが生かされる保育・教育を行う。
	実践予定内容	畑や動物飼育の役割分担・コンポストでの堆肥づくり・ヴィジブルな保育評価などの幅広い取り組み

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	保育事業および子育て支援事業の両方を通し、篠栗どろんこ保育園・つむぎ篠栗ルームの環境そのものが地域における総合的な学びの場、相互的な育ちの場になることを目指す。
	実践予定内容	インタープリテーションを通じた保育アプローチ（自然事象や豊かな文化を基に「感じる体験」の展開）を行い、農作物や草花、樹木に囲まれ、子どももおとなも自主的に生活し、自発的に繋がりあっていける、そのような生き生きとした温かく美しい潤いのある園（その）となっていく。
2	計画・ねらい	食材や食の循環、環境への意識を育む環境教育を実践する。
	実践予定内容	子ども自ら野菜の種まき、水やり、雑草抜き、収穫、加工などを体験する。（梅干し、味噌、たくあん、ケチャップ、マヨネーズなど）命をいただく体験をする。（魚をさばく、鶏を絞める、猪を駆除しさばく）
3	計画・ねらい	食の循環サイクルの実践を行う。
	実践予定内容	食の残渣を記録し、グラフで可視化や実際に天秤に乗せるなどし、子どもが関心を持ち残渣が少なくなるよう工夫する。 コンポストを設置し、調理くずやヤギの糞を利用した肥料の生産、利用を行う。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

児童発達支援事業との併設園である強みを最大限活かせるよう、両施設のスタッフがともに子ども一人ひとりをよく見て必要な援助を行う。また両施設の相互の関係性や協働が十分に発揮される土台作りを行う。

1	計画・ねらい	こども園、つむぎ篠栗ルームの子ども一人ひとりを多面的に捉え、肯定的に子どもを理解しようとする。
	実践予定内容	園内研修で子どものエピソードを基にした考察の機会を設ける。 話し合いの場を多く持ち、子どもの発達理解に努める。
2	計画・ねらい	自然に協働するチームを構築する。
	実践予定内容	普段の保育活動、行事、研修、会議等施設内のおおむねの物事において、ともに協力しあう体制をとり、互いの専門性を活かしながら、地域に必要なとされる施設になる土台を築いていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児 (1・2号)	4歳児 (1・2号)	5歳児 (1・2号)	合計 (1・2号)
6人	12人	18人	29人 (11人・18人)	29人 (11人・18人)	29人 (11人・18人)	123人 (33人・54人)

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育教諭	16人	栄養士	1人	調理員等	2人	主任	1名
	施設長	1名						
パート スタッフ	保育士	1人	用務	0人	嘱託内科医	1人	嘱託歯科医	1人
	嘱託薬剤師	1人						

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	保育内容の充実を図る検討、園として取り組むべき課題への研修
給食運営会議	月1回	乳児の離乳食進行検討、乳幼児の喫食状況検討
事故防止委員会	月1回	園内外におけるヒヤリハットやインシデント事例に鑑み、事故予防と防止の具体的施策に係る検討
ケース会議	週1回	児童処遇改善個別ケース検討（0～2歳児は全員対象）

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人本部よりの伝達事項、運営状況の報告、検討事項
施設長勉強会	月1回	園運営に係る相互学習や検討、各種マニュアル等の改訂検討
食育会議	年4回	給食提供および食育に係る検討、各種マニュアル等の改訂
保健会議	年4回	園全体の保健に係る検討、各種マニュアル等の改訂
主任会議	年4回	職員育成・保育の質の向上を目的としたディスカッション課題の取り組み共有
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の内容や質の向上に係る相互学習や検討を行った上での実践的な業務改善アクションプラン作成とその実施

〈3〉 各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	児童保健衛生に係る身体測定・定期健康診断・歯科検診・眼科検診・耳鼻科検診の実施と保護者との連携、施設の清掃と衛生管理、衛生管理に係る消耗品および備品の管理、感染症予防対策の管理点検、園内外の環境整備状況の管理、備品の点検と補充
安全対策係	避難訓練及び消火訓練の実施、防災自主点検の実施管理、消防署との連携窓口業務、救命講習計画と実施、施設内外の設備点検および事故防止点検の実施、交通安全教室の実施

防火管理者	施設の火元の管理、消防計画の作成と届出、防火・消火についての毎月1回の職員訓練と日常的な啓蒙を行う
食品衛生責任者	給食食材および提供食材の衛生管理と在庫状況の管理
畑係	畑状況の管理、道具類の維持補充、乳幼児や職員の畑活動の把握や課題検討におけるイニシアチブをとる
生き物係	飼育動物の健康管理、乳幼児や職員の生き物飼育活動の把握や課題検討におけるイニシアチブをとる

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者と協働的に準備・進行を行う

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい生活リズムの安定を図り、生活、遊び、食育を通して生きる力の基礎を培う。 ・保育者との安定した信頼関係を基礎にして自己肯定感を育て、自分の気持ちを素直に表現できるようにしていく。 ・様々な行動や欲求に適切に応え、特定のおとなとの情緒的な絆を形成できるようにする。 ・活発な探索活動を楽しみながら、様々な感覚を育てる。 <p>生活の中の様々なあそびや人との関わりを通して、自我が芽生え拡大し充実できるようにする。</p>
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム遊び、運動遊び、戸外活動を積極的に行いながら丈夫な体を作れるようにする。 ・豊かな環境の中、子どもが主体的に活動する中で好奇心や探究心や考える力を育てる。 ・身近な大人や異年齢児と遊ぶ楽しさを経験する中で、人への関心や優しさ、思いやりの心を育てる。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム遊び、運動遊び、戸外活動を積極的に行いながら丈夫な体を作れるようにする。 ・豊かな環境の中、子どもが主体的に活動する中で好奇心や探究心や考える力を育てる。 ・仲間や異年齢児と遊ぶ楽しさを経験する中で、友達への関心や優しさ、思いやりの心を育てる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の要求や思いを言葉や行動で相手に表現しながら、他者を受容する感情を育てる。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本、お話、音楽、自然にふれる中で、豊かな感性や表現力を育み創造性の芽を培う。 ・毎日の生活やあそびの中で、基本的な生活習慣や運動が心地よい感覚として身につくようにする。 ・友だちとの関わりを通し、自分の気持ちを言葉や行動で表現し、熱中して遊べるようにする。 ・生活やあそびの中で、達成感や充実感を味わう経験をし、目標に向かって友だちと力を合わせて活動できるようにする。 ・家庭との連携をとり、子育てのパートナーとしての信頼関係を作っていく。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	<p>どろんこ会の食育方針 ((1)調理員・保育士・施設長はこどもと一緒に食べる (2)噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する (3)子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる を基本として食欲と意欲を育てる) を基本として食欲と意欲を育てる。</p>
	実践予定内容	子どもの成長発達に即した食育の推進
2	計画・ねらい	<p>日常の生活に密着した楽しい食育を充実させる。 分かち合う事の素晴らしさや大切さを感じられるよう工夫する。</p>
	実践予定内容	大人も子どもも一緒に卓を囲む食事風景
3	計画・ねらい	<p>1年を通して安心できる環境のもと、縁側や戸外で気持ちよく食べる。 友だちや身近なおとなと親しみを持って、楽しく食べる。</p>
	実践予定内容	季節の花を飾った食卓、文化としての食事

〈4〉保健計画

園児健康診断	入園前健診および、年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	安全な歯磨き指導（座って行う習慣付け）、正しい手洗いうがい指導
流行が予測される感染症	通年…新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 10月頃～5月頃…インフルエンザ 11月頃～3月頃…感染性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ…預かり無し
エピペン使用できるスタッフ	本日現在1名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在1名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、元気な体づくり体操・うがい指導・手洗い指導などを行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み

	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科検診 年2回／6・11月 歯科検診 年2回／6・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもたち自身の生活やあそびは子どもたち自身でまかなう事ができるよう、乳幼児の育ちをとらえ児童処遇を考察し、環境設定や環境構成を具体的かつ意図的に整え、継続的に点検と整備、改善を具体的に行う。
	実践予定内容	特に認定こども園への移行期間の工事個所について安全確保
2	計画・ねらい	新型コロナウイルスに係る外出自粛要請などの特別な措置が講じられた場合、活動内容の縮小や制限により子どもの育ちや学びが大きく阻害されないよう特に配慮し、新たな工夫や構想を以て健全な成長発達に確実に寄与していく。
	実践予定内容	園庭など戸外での活動を主とした感染しない環境と体作り

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧
該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	危機管理マニュアルNo.3の災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・
---	----	----------------------------------------------------------------------

		防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う。 また、土石流及び大規模災害や広域災害に備え、備蓄品の入れ替えや補充といった施設機能強化を継続して行う。
2	ケガ事故防止	危機管理マニュアルNo.3のけが事故防止策・安全点検と保全に則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従う。
3	防犯	危機管理マニュアルNo.3の不審者対策に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う。
4	光化学スモッグ	危機管理マニュアルNo.3の光化学スモッグ対策（P.21～）に則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する。

6. 実習生・中高生の受入

次世代育成の観点から、実習生や研修生、地域ボランティア受け入れを積極的に行い、その一人ひとりの様子に合わせて具体的かつ家庭的に援助や指導を行う。

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9～2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習
<p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>		<p>←避難訓練研修</p>

〈1〉今年度方針・テーマ

スタッフ全員が日々の保育実践を通じて、必要な知識および技術の習得、維持および向上を図るとともに、保育の課題などへの共通理解や協働性を高め、保育所全体としての保育の質の向上を図る。そのために日常的にスタッフ同士が主体的に学びあう姿勢と環境が重要であり、研修の充実を図る。

1	実践予定内容	養護と教育が一体となった「生活の場」としてのこども園作りを行う。
2	実践予定内容	幼保連携型認定こども園教育保育要領に係る乳児期の育ちと3つの視点・幼児期の育ちと5領域や10の姿、アプローチプログラムについての学びを深める。
3	実践予定内容	タイムラインやポートフォリオに代表されるヴィジブルな保育評価手法を学ぶ。

〈2〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日課・基本活動と役割分担 ③ 事故・怪我の予防	「チームワークを大切にする～畑や動物飼育の役割分担・コンポストで堆肥づくり～」※ディスカッション形式 具体的な事故・怪我の予防方法を知る。 ※グループワーク・ロールプレイ形式
5月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② アプローチカリキュラム ③ ヴィジブルな保育記録	・アプローチカリキュラムを策定する～幼児教育の3つの「資質・能力」・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」が現れ出る保育を考える～ ※講義・ディスカッションとワーク形式 ・「篠栗どろんこのポートフォリオを考える～ヴィジブルな保育記録および評価(ポートフォリオを知る)～」 ※ディスカッション形式
6月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びとプール遊びの安全	・水遊びとプール遊びの安全について学び、技術を習得する。 ※講義・ロールプレイ・ディスカッション形式

7月26日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② インタープリテーション ③ 充実した食育 	<ul style="list-style-type: none"> ・「インタープリテーションを通じた保育アプローチを学ぶ～自然事象や豊かな文化を基に「感じる体験」の展開～」 ※講義形式 ・コロナ禍を経験した上での充実した食育を考える。 ※ディスカッション形式
8月23日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 幼保連携型認定こども園教育保育要領 ③ 健康な体作りと運動遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼保連携型認定こども園教育保育要領について～乳児期の育ちと3つの視点について学ぶ～」 ※講義形式 ・夏季以降の健康的な生活と丈夫な体作りについて考える。 ※ディスカッション形式
9月27日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 幼保連携型認定こども園教育保育要領 ③ 丈夫な体作りと行事 	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼保連携型認定こども園教育保育要領について～幼児期の育ちと5領域について学ぶ～」 ※講義形式 ・ダイナミックな遊びの高まりと身体と頭と心の協応を知る～子ども主体の運動会を考える～ ※ディスカッション形式
10月25日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 食育基本法 ③ 生活を生活で生活へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育基本法の基本を学ぶ～本当の意味の楽しい食卓とは～ ※講義とディスカッション形式 ・日々の生活とそのサイクルの重要性を学ぶ～生活を生活で生活へ～ ※ディスカッション形式
11月15日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を学ぶ。 ※講義とディスカッション形式
12月20日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 子ども主体の生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育ちと学びを“見える化”する～子ども主体の生活発表会とは～ ※ディスカッション形式

1月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 生活発表会の在り方	・生活発表会について～生活を発表する～ ※グループワーク形式 ※準備作業など
2月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度の保育のリフレクション	・今年度の実践の振り返りとまとめを行う。 ・全体的な計画、指導計画の見直しを行う。 ※クラス、グループ単位でのディカッション形式および、実践報告会
3月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 新年度に向けて	・新年度の見通しを立てる。 ・事業計画を知り、具体的な指導計画の策定を行う。 ※講義とワーク形式 ・エピペン実技研修 ※ロールプレイ形式

〈3〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈4〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デンマークインターンシップ®	希望するスタッフが応募											

〈5〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

法人理念における保育方針「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」にある通り、園外に出かけ近隣住民や身近な人と様々なかかわりを経験し、子どもたち一人ひとりが地域に愛される存在になるよう計画し実践する。

〈2〉具体的な地域交流計画

青空保育（保育園主催）	月1回 園庭にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の様子に応じて、高齢者福祉施設や近隣住民、子育て支援ゾーン来所利用親子との交流を計画し、日常の保育活動の中で積極的に交流を行う。 ・保育士養成校の実習生の受け入れ、小中高大生の職場体験や社会人といった幅広い年齢層のボランティア受け入れを随時行う。
異年齢交流	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの様子に応じて異年齢で過ごせる機会を設け、様々な人とのかかわりが充実するよう配慮する。
地域拠点活動	<ul style="list-style-type: none"> ・園児保護者の保育参加の随時受け入れ、保護者との協働によるどろんこ祭の開催を行う。 ・一時保育事業を実施する。 ・地域親子に向けて、子育て支援ちきんえっぐと協同による園庭開放や給食体験、どろんこ祭への誘致を行う。
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

創造的な思考や主体的な生活態度の基礎を培う。こども園における遊びや生活を通しての体験を中心とした総合的な指導と、小学校における時間割に基づき教科・教材を用いて学習を行う教育への円滑

な接続に向け、アプローチカリキュラムの策定に取り掛かり、順次その改善を図る。また、児童等との交流、教師の意見交換や合同研究の機会を図る。

〈2〉具体的な連携計画

以下の計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。篠栗小学校を中心に交流を図り、他小学校とも連携を進めていく。スムーズな就学を目的とし、情報交換や発達・成長の様子をはじめ、子どもの姿を共有できるように働きかけていく。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	篠栗小学校 1年次クラス	1～2名予定	授業参観	職員間交流
1月頃	篠栗小学校 1年生	29名予定	小学生との交流会 (当園幼児保育室)	子ども間交流
3月頃	篠栗小学校 等	1～2名予定	保幼小連絡協議会	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

特別な支援が必要な乳幼児については、個別に保育計画を作成し、家庭や関係機関と連携しながら、計画的かつ継続的に一人ひとりに応じた保育内容や配慮を実践する。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：2名予定)

特別な支援が必要な乳幼児については、個別に保育計画を作成し、家庭や関係機関と連携しながら、計画的かつ継続的に一人ひとりに応じた保育内容や配慮を実践する。

〈3〉進級引継および、小学校への引継

町内や糟屋郡の地域での保幼小連絡会に参加し、園での取り組みや情報の共有を行う。就学時健康診断前後には対象小学校と密に連絡を取っていく。また、保護者の同意を得て家庭支援センターや療育など関係機関との連携を行い、安心して通える状況を作る。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30

子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっくだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 園庭にて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年9月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：10時30分

自己評価終了予定時刻：15時00分

自己評価実施予定者：平山

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	園生活における児の興味・関心・好奇心が揺さぶられるシーンを写真に収め、タイムラインや掲示などで表現した。また、ヴィジブルな保育記録として児の育ちの変化を知り、保育内容の工夫や具体的な考察の用いながら、実践へ繋げた。
	振り返り	今年度はこども園として運営開始した初年度であり、篠栗どろんこ保育園独自のポートフォリオのスタートとまではいかなかったが、保育評価についてヴィジブルな手法を用いる風土が醸成された。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

‘24年度	目指す姿	昨日、今日、明日が繋がる園生活を具体的に考察し、実践する。
	重点施策	遊びから生活へ（拡がりから繋がりへ）
‘25年度	目指す姿	様々なかたちでの地域社会との繋がりが充実し、子どもの大人も経験や活動の幅が広がっていく。
	重点施策	遊びから生活へ、生活から仕事へ（拡がり繋がり、まとまりへ）
‘26年度	目指す姿	地域開放型のこども園へ昇華すべく、環境や活動内容のバリエーションが充実していく。
	重点施策	仕事から繋がり、地域を包括した遊びへ

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：篠栗どろんこ保育園 施設長 平山 靖

2024年度 内箕輪どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

児童福祉法、保育所保育指針をすべての基盤に、君津市の子ども・子育て支援計画やどろんこ会グループの理念・方針・運営本部ミッションに沿って、常に子どもの最善の利益と真に必要な体験を追求しながら、保育を行っていくことを保育者一人ひとりが前提としたうえで、以下保育目標を達成する。

保育目標：「大人も子どもも主体性を大切に沢山のやってみたいがあふれるおうち
～楽しい・おもしろいを見つけよう～」

子ども自身が自ら遊びや生活にかかわり、自身で生活を創っているという実感を得られているかを振り返りの基準とする。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

子どもの人権を守ること・危機管理を前提に置き、保育の質・専門性を高めていくことが求められる。保育に携わるスタッフすべて（保育士、調理師、看護師、事務員、用務員、療法士など）を保育者とし、それぞれの専門性を高めると同時に連携を図り、子どもがいきいきと、園に来ることを楽しみにしながら継続的・連続的に生活や遊びを繰り返し広げられる環境を構成する。「チーム保育」を念頭に常にコミュニケーション・連携をとりながら日々保育の質が向上するよう努める。

1	計画・ねらい	子どもの発達と子どもに対する理解を深める
	実践予定内容	スタッフ同士で子どものことについて語り合う機会を多く持ち、エピソードの共有を行いながら子どもの感情や発達について多面的・肯定的に理解する。
2	計画・ねらい	子どもが育とうとする力を支えられるよう、知識や技術の向上に努める。
	実践予定内容	自己研鑽、園内研修、法人内研修などを通して、一人ひとりのスキルアップを図り、現場でアウトプットし、振り返りを行うことを繰り返す。
3	計画・ねらい	子ども達が安心して過ごせる環境づくりを行う
	実践予定内容	大人同士の心地よい挨拶やコミュニケーション、個々の些細な変化に五感を働かせて気づくこと、清潔で整頓されている環境構成、明確な役割分担の中で安全面と保育の展開両方を充実させ、子どもが安心して毎日の期待をもって過ごせるようにする。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

様々な子育て観や考え方がある中で、保護者同士が子どもの姿を共有し合える場や、保護者と保育者で子どもを真ん中として共に考えられる関係性の土台を構築する。

1	計画・ねらい	保育の可視化
	実践予定内容	つむぎ内箕輪ルームとも連携し、様々なスタッフが多面的に一人ひとりの子どもを見ていることが伝わるお迎え対応、保護者同士の関係を深められる保護者懇談会を行い、積極的に保育参加・個人面談を勧める。また、連絡帳・タイムライン・エピソード記録などを用いて生活・遊びの共有を積極的に行う。

2	計画・ねらい	運営面の可視化
	実践予定内容	施設として各保護者のニーズや社会情勢に見通しを持ち、適切に把握し、危機管理面・保健衛生面などの対応について先手で動けるようにする。また、保護者懇談会やタイムラインなどを活用して、保護者に園の動きを知らせられるようにする。保護者懇談会にて安全計画の内容を伝える。
3	計画・ねらい	安心・信頼できる保護者対応
	実践予定内容	先を見越して予測できることや気付いたことについてなるべく園からの発信を行い、頂いたご意見やご質問については迅速かつ明確に返答する。思いやり、誠実さ、謙虚さ、感謝の意を念頭に保護者対応を行う。

〈3〉 地域の子育て支援事業

地域に開かれた保育園・地域の核の拠点になる土台を構築するため、園児の生活と切り離すことなく園の子育て支援として以下の活動を行っていく。

1	計画・ねらい	地域性、地域の文化、地域のニーズについて積極的に情報収集する。
	実践予定内容	自治体による地域の園とのかかわりの場や、周辺地域の施設・集団の情報収集、宮下どろんこ保育園との協働や情報共有、君津市の文化についての情報収集を行う。
2	計画・ねらい	心地よく過ごせる環境づくりに努める。
	実践予定内容	来訪・電話対応では常に受容的な雰囲気を受け入れを行い、衛生的で安全対策がなされているようにする。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

保育所保育指針で謳われている内容や質の高い保育、これからの時代に子どもに必要な力などについては保育に携わる人だけではなく、多くの人が様々な場面で目にするがあり、社会一般的に高い保育の質が求められていることを今一度認識したうえで、保育の質を、結果ではなくプロセスを丁寧に見ていくことは子どもの認知能力・非認知能力を共に大事にしていくことに繋がる。これらを、園内研修や日々の話し合いの中で職員同士語り合い、一人ひとりが知識を広げながら研鑽していく。

1	計画・ねらい	保育者が主体的に保育を楽しもうとする
	実践予定内容	新しい環境や保育の面白さを感じられる研修の実施。（詳細は園内研修計画に記載。）ミドルリーダーを中心に、自己研鑽の学びの場を創る。
2	計画・ねらい	建設的に対話ができる関係性の構築
	実践予定内容	保育についての研修だけでなく、リーダーはファシリテーションなど、スタッフ同士のコミュニケーションについてのアクティビティを研修内で取り入れる。一人ひとりが考え、学び、動く、自立した集団となるよう施設長がマネジメントを行う。
3	計画・ねらい	誰が見てもわかりやすい情報共有の仕組みづくり
	実践予定内容	社内チャットの活用やミーティングのメンバー・内容精査、リーダーを中心とした伝達のフローの確立を行う。

〈5〉 環境実施目標

スタッフ一人ひとりがSDGsを念頭に置き、子どもが持続可能な社会の実現に向けて生活の中で日常的に意識を持てるよう働きかけを行う。

1	計画・ねらい	様々な物の循環を知る。
	実践予定内容	食材の様々な加工、コンポストを用いたたい肥作り、畑仕事、木材の加工、命を頂くことなど一つひとつの活動が単体ではなく前後の活動とつながり、循環を知ることができる活動となるよう活動への意義付けを行う。
2	計画・ねらい	様々な生活の知恵を知り、工夫によって豊かに暮らせることを知る。
	実践予定内容	掃除、食事、整理、暑さや寒さへの対応、自然物の加工による玩具づくりなど身の回りのものを活用した生活・遊びの充実について保育者も学びながら子どもたちと実践していく。

〈6〉インクルーシブ（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

児童発達支援事業との併設園である強みを最大限活かせるように両施設のスタッフが共に子ども一人ひとりをよく見て必要な援助を行う。

1	計画・ねらい	園・つむぎの子ども一人ひとりを多面的に捉え、肯定的に子どもを理解しようとする
	実践予定内容	園内研修で子どものエピソードを基にした考察の機会をつくる。 多角的な視点を整理しながら、子どもに必要な援助を考える。
2	計画・ねらい	自然に協働する関係性の構築
	実践予定内容	普段の保育活動に留まらず、行事・研修・会議体・園内整備など施設内のおおむねの物事において共に協力し合う体制をとり、互いの専門性を活かしながら地域に必要とされる施設になる土台を築く。

〈7〉生活と共にある食育と畑活動（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	食が生活の中で孤立しない活動を行う。
	実践予定内容	畑仕事、給食の下準備、米とぎなどを生活の一部とし、食にかかわることを日常的に行う。また、自分で決定すること、疑問を持ち調べること、日常的に調理にかかわること、人とのかわりや他の興味・活動と繋げることを子どもが行えるように、遊び・会話・知識・所作・文化など様々な面からアプローチを行う。また、戸外の畑だけではなく、室内での水耕栽培やプランター栽培など園環境を豊かに利用する。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
12人	18人	18人	24人	24人	24人	120人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	2人
パート スタッフ	保育士	3人	補助	1人	用務	1人	事務	1人

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	園運営に必要な情報の共有、各行事や係の進捗状況の共有、園内研修(60分)
給食運営会議	月1回	給食運営に関する情報の共有、課題の抽出・実行など
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデント・事故の分析、時季で予測される事故の注意喚起など
ケース会議	月1回	要支援児の支援状況、課題の整理、支援計画の立案など

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人からの確認事項、全園の状況確認や課題討議
施設長勉強会	月1回	質上げ会議を受けて、施設長としての行動計画を作成しながら自園の組織力を強化していく
食育会議	年4回	エリアごとに課題やスキルアップのため、討議を重ねる
保健会議	年4回	各園の状況報告や衛生面などについて意識の統一を図る
主任会議	年4回	各園の主任とマネジメントや後輩と保育を深めることについて学び合う
子育ての質を上げる会議	月1回	各園のミドルリーダーが自園の保育の質の向上推進のため、アクティビティを実践しながら保育を深めることにつ

		いて学び合う
--	--	--------

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	保健衛生関係物品・書類の管理、清掃・消毒の状況とりまとめなど
安全対策係	事故防止委員会の運営、ハザードマップの見直しなど
防火管理者	防火管理者：佐藤慶太 消防計画に則り、災害時や不審者対応に対する取り組み（避難訓練の立案・実行・省察なども含む）
食品衛生責任者	食品衛生責任者：林明美 給食運営会議の運営、食品の安全に対する管理や啓発など
畑係	年間計画の遂行管理、畑仕事の意義の確認及び整備・管理責任
生き物係	動植物の世話の管理責任（観葉植物なども含む）

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズとともに、園児・地域の子どものための行事を構築する（主導はどろんこサポーターズ）

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針に記載されている0歳児保育における3つの視点、1、2歳児保育における5領域を念頭に置き、保育者との愛着関係の中で安心して生活できるようにする。 ・ 一人ひとりの発達の理解を図りながら、子どもが育とうとする力を見極めて環境を用意するなど、適切に対応する。 ・ 養護の観点の重要性を理解しながら、一人ひとりに丁寧な保育を展開する。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して生活する中で、芽生える自我を十分に培えるよう、様々な興味・関心を持てる環境づくりとより受容的・応答的にかかわることを行う。 ・ 自ら生活や遊びにかかわろうとする子どもの心の動きを敏感に捉え自分でやろうとする気持ち・行動を助長する環境づくり、他者とのか

		かわりが広がる環境づくりを行い、多様な経験を積めるようにする。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとり保育園生活に楽しみや期待を持ちながら、満足感・充実感を味わえる生活を送れるよう、室内環境の充実、選択の機会の充実、活動の連続性の保障を行う。その中で子ども達は体を動かすこと、考えることの面白さを感じられるようにする。 友だちや保育者など様々な人とかかわる環境の中で、自分の思いを伝えたり、相手の思いに耳を傾けたり、折り合いをつけたり、協力し合ったり、けんかして仲直りするなどの経験を積み、毎日様々な人と関わることは楽しく幸福感が高まることであるとたくさん感じられるようにする。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びに主体的にかかわりながら自ら考えたことを行動に移し、判断の力をつけていくために、保育者は都度柔軟に人的環境・物的環境を構成し、子どもが能動的に活動できる生活を保障する。 異年齢での生活の中で、葛藤や充実感を多く経験し、自分の思いを言葉で伝える姿や他人の気持ちを理解しようとする姿が育まれるよう、保育者は受容的・応答的・対話的に子どもにかかわる。 「幼児期に育ててほしい10の姿」で保育を振り返りながら、子どもにとって必要な体験は何か、どんなことで心が動いているのかを事実を基に専門的に解釈することを集団で行う。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> 随時、希望する保護者に対し実施 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

法人の食育方針を鑑み、保育者（保育に携わる職員全員）は子どもと一緒に食べる中で、食の時間を共にする楽しさを味わい、食への興味・関心が広がるようにする。

食育は、健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培うことを目標とする。

1	計画・ねらい	食への意欲が高まるために毎日の食事の時間が充実したものである。
	実践予定内容	生活と遊びの中で意欲を持って食に関わる体験を積み重ねられる活動を行

		う。午前中の活動の充実化を図り、遊びこんだ充実感、達成感から空腹感を本能的に感じ、期待をもって食事に向かえるようにする。「自分で決める」ことを大事に、配膳は基本的にバイキング形式で行う。乳児期から子どもの言語面や認知面での発達や意欲を適切に見極め、「自分で決める」ことを推進していく。また口腔発達や手と口の協応等の発達についてもスタッフが理解を深め、誤飲・誤嚥事故の防止に努めながら、安全に食事をとれるようにする。
2	計画・ねらい	日常的にかかわる食育の推進
	実践予定内容	毎日の野菜の下処理手伝い、米炊き、調理活動など直接的に食にかかわる体験だけでなく、コンポスト、色や量の変化、においを感じられる配膳方法や遊び、腐敗を知ることなど多様な環境や遊び、ものづくりやものが無くなるまでのプロセスに触れながら、自然に身近で食育につながるきっかけを保育者がつくっていく。
3	計画・ねらい	日常生活の中で「食」を孤立させない
	実践予定内容	自ら栽培したものを自分たちで調理し食する一連の流れや、行事食・郷土料理などを食べて文化を知る機会、食具を使うことと遊びの中での手指の巧緻性などの繋がり、地域、科学、美しさを感じる感性、危機察知など様々なことと食が繋がっていることを意識して保育を行う。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗いうがいの励行、歯磨き指導、性教育（年長児）など年間計画に基づいて取り組む
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月頃・・・手足口病 12月頃・・・胃腸炎 1月頃・・・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・2名より預かり済み／調乳室にて保管 抗アレルギー剤・・・1名より預かり済み／事務室にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在16名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については3月21日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	AED設置なし

その他保健に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・行政からのお知らせや注意喚起掲示、保険関係研修の受講 ・感染予防のため、保育室の衛生管理・日々の子どもの健康状態を把握し拡大防止のための情報発信を行う。 ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。
-------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検 (簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

法人子育て目標のセンス・オブ・ワンダーの基、大いに自然にかかわりながら様々なことへの好奇心や興味を持てる環境を構成する。季節や子どもの興味や体験といかに自然に繋がる環境であるかも重要である。

1	計画・ねらい	環境の構成について
	実践予定内容	保育所保育指針に書いてある通り、「環境を通して」子どもの様々な力が育まれるように、五感を刺激する環境・粗大な動きを保証する環境・巧緻性のある遊びや生活体験の環境・共同性が広がる環境・連続、継続してかかわることのできる環境を構成する。また、子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる支援を実践する
2	計画・ねらい	振り返りについて
	実践予定内容	子どもが登園してわくわくするような環境か、降園するときに「明日も来たい」と思うかどうかを、園が充実した環境構成ができてきているかの指標とする。
3	計画・ねらい	保育者自身が豊かな感性を持つ
	実践予定内容	保育者が様々な物事に興味を持ち、面白さを感じられる感性を磨き続ける努力を行っていく。自分が目の前にいる子どもと同じ年齢だったらどう感じるのかを考え、美しさや心地よさ、面白さなど遊び心を持って環境構成に取り組む。
4	計画・ねらい	施設の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を常に適切な状態に保持するとともに、玩具・用具などの衛生管理に努める。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日室内の環境整備を行い、子どもたちが安全に生活できるか確認する。特に、棚の上の整理・整頓、清掃の他、子どもがいつでも気持ちよく生活できるようになっているか考えながら清潔な環境を整える。（清掃チェックに記録する。） ・子どもが朝登園してすぐに『遊びたい』と思える環境になっているかに焦点をあてて環境を整える。 ・子どもが意欲的に遊べる環境を整える。（常に、子どもの発達に合った玩具かどうかを見直して用意する。常に不要な玩具は所定の場所に片付けられ、床や机に玩具が散乱することはない。） ・保育者一人ひとりが小さなゴミや見えづらい場所の埃、落ちている玩具に積極的に目を向け片付けや掃除を行う。 ・帽子や歯ブラシ園児個人の持ち物などは、衛生管理に特に配慮し、常に同じ場所に清潔に保管する。
5	計画・ねらい	保育中の事故防止に努める。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の状態などにも踏まえつつ、施設内外の安全点検に努め、安全対策のために全職員での連携（共通理解や体制作り）を図る。 ・特に、戸外活動、睡眠中、プール活動、水遊び中、食事中などの場面では、重大事故が発生しやすいことを踏まえ、子どもの主体的な活動を大切にしつつ、施設内外の環境に配慮しチームでの連携を強化する。 ・事故防止チェック・設備点検などを確実にを行い、不備があった場合にはすぐに対処する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具はなし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	事故防止委員会	<ul style="list-style-type: none"> 過去の事例や予測される事故には、自園だったらどのような課題があり、それを防ぐ為にはどのように行動しなければならないかなど検証し、職員全員周知の上、事故に発展することが無いようにリスクマネジメントを行う。保育者は見通しや予測を立ててそれを互いに共有しながら行動する。 ヒヤリハット・インシデントの事例は、事故防止委員会やクラス会議の中で様々な視点から統計を出した上でケース検証を行い、事故防止につなげる。
2	避難訓練・不審者侵入訓練	<ul style="list-style-type: none"> 事故防止委員会、避難訓練係を中心に、防犯・防災に対する意識を高める。不審者侵入・災害は突然起こることを十分に意識し、日ごろより防犯・防災に対する意識を高め、シミュレーションを行い、避難訓練・不審者侵入訓練を有効に活用する。 非常災害時の対策として、消防計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施、年二回の不審者訓練の実施を行う。 防犯設備点検の実施（自動火災探知機、煙感知器、誘導灯、排煙窓）
3	事故・怪我の対応	事故・怪我においては、心身ともに苦痛を負った子どもと保護者の気持ちに誠意を持って応え事実を伝えるようにする。
4	光化学スモッグ	<ul style="list-style-type: none"> 非常災害時の対策として、消防計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施、年二回の不審者訓練の実施を行う。
5	ハザードマップ	<ul style="list-style-type: none"> 有事の際は、君津市の各種ハザードマップ（地域の危険度マップ）に則り、行動する。 散歩先、室内など子ども達が活動するすべての場所においてハザードマップを作成し、職員間でハザード箇所の共有を行うとともに、有事の際の所在確認に活用する。
6	安全計画	<p>バスの置き去りについては使用する全バスに置き去り防止を支援する安全装置の装備の取り付けを行っている。運転者は講習・研修を受講する。</p> <p>また、その他定期安全点検、安全指導、マニュアル遵守、訓練計画・研修計画をまとめた安全計画を策定している。</p>
7	虐待防止	虐待防止研修について法人本部がスタッフ入社時に1回、施設内で年2回行う。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

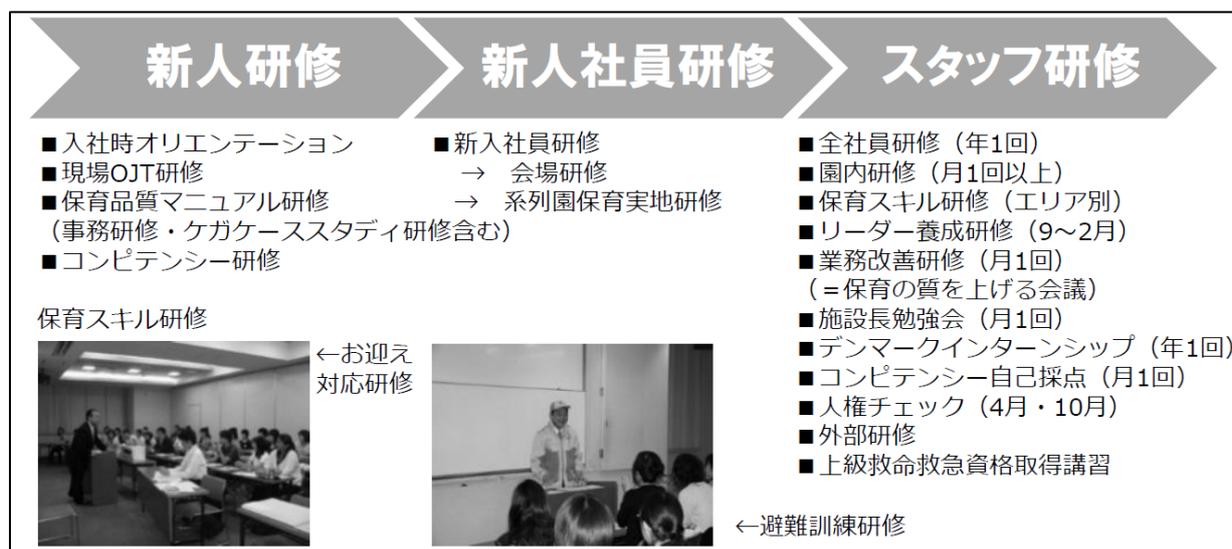
保育園は、地域の社会資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・ボランティア・中高生の体験学習の受け入れに社会的責任がある。そのため、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、実習生等を積極的に受け入れる。また、せっかく保育・福祉の養成校で勉学を積んでも保育現場に就職する学生が非常に少ない現状の

中、保育園で働く意義を見出し、子どもとワクワク・ドキドキする日々を送ることを経験する中で、保育業界への興味や期待を引き出せるような体験を提供する。

1	対象について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中高生の体験学習の受け入れ、保育養成校の学生の実習受け入れ、一般及び学生の各種ボランティアを受け入れる。 ・ 園児の兄、姉などかわりの深い中高生にも保育体験を積極的に勧め、地域との一体感を深められるようにする。
2	実習時の対応について	中高生や実習生が安心して保育園で子どもたちと接することができるようにスタッフが温かく対応するよう心がけ、子どもとのふれあいから様々なことを感じてもらいフィードバックの中で更に深められるようにする。特に、中学生や高校生の中には、乳幼児と触れ合う経験が無い生徒もいると思われるので、当該校の教師と事前に生徒の共有事項などを確認し、安心して体験学習が行えるように配慮する。実習生については、保育のやりがいや面白さに気付けるようスタッフが働きかける。
3	実習後の対応について	授業の一環として保育園を訪れることが考えられるが、その後も気軽に保育園に遊びに来るよう働きかける。
4	個人情報・機密情報の保持について	実習、ボランティアの体験を充実させる一方で、園児の個人情報や施設の機密情報、実習生・ボランティア自身の個人情報に関しては慎重に扱い、実習生・ボランティアも情報のセキュリティについて意識し安心して体験できるようにする。

7. スタッフ育成と研修計画

毎月全体会議の中で園内研修として60分以上は設け、テーマに沿って様々なアクティビティを用いながら討議を行い、スタッフ全体で意見を出し合い、スタッフ自らOODAに即して子どもの観察から大切にしたいことを見出せる力をつけていく。また、その場限りで話が終わることなく、次の日からの保育に活かし、実践の経過を翌月の園内研修の場でまた振り返るといった流れの中で、通年通して連続性のある園内研修の運営を園とつむぎ内箕輪ルームが協働して行っていく。



〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②マニュアルの理解 ③危機管理（ケガ・ケーススタディ）	マニュアルを理解し、基本に沿った対応を全スタッフができるようにする。
5月	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②見守る保育について ③園目標の振り返り	子どもたちの姿を見ていく中で、子どもの興味関心がどこへ向いているか事例を通して検討していく
6月	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②水辺のリスクマネジメントについて ③園目標の振り返り	プール開きに向けて水辺の研修を行い事前にリスクを共有する。
7月	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②環境について ③園目標の振り返り	子どもたちの発達や興味に合わせて、室内環境を見直す。
8月	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②自然体験について ③園目標の振り返り	直接体験をスタッフ自ら学び、スタッフの体験や引き出しを増やした上で、子どもたちとどう関わるかを考える。
9月	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②上半期の振り返り	上期を振り返り、事業計画がどこまで進められているのか。下期に向かうのはどこなのかを考える。
10月	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②学習指導要領に基づいたアプローチカリキュラムについて ③園目標の振り返り	小学校1年生のカリキュラムを理解して、逆算をしたアプローチを検討する。
11月	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②環境について ③園目標の振り返り	子どもたちの発達や興味に合わせて、室内環境を見直す。
12月	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②焚火研修 ③園目標の振り返り	職員が焚火を学び保育実戦として生かせるようにしていく。
1月	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②下半期及び1年の振り返り	コンピテンシーの振り返り 事業計画書の振り返り

2月	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②策定会議	事業計画及び来年度方針の策定
3月	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②策定会議	年間活動計画及び保育計画の策定

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デンマークインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

青空保育、商店街ツアー、散歩時など、地域に出かける中で積極的に挨拶や会話をし、内箕輪どろんこ保育園の認知度を高める。また、ちきんえっぐにおいては年間720名の来訪者数をめし、来訪した方が心地よく園を活用できるような環境を整える。小学校や近隣の保育園、児童発達支援施設との連携も計画していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：内箕輪運動公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域行事への参加、高齢者施設訪問、小中高生の体験学習受け入れ
異年齢交流	青空保育時や近隣小学生との交流
地域拠点活動	青空保育、ちきんえっぐ運営
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

良好な関係を築けるよう働きかけ、職員間での授業・保育見学や子ども同士の交流の機会を計画し、小学校へ期待をもって移行ができるように連携・引継ぎを行う。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	八重原小学校	20名予定	運動会见学（八重原小校庭）	子ども間交流
10月頃	八重原小学校 1年生	20名予定	小学校見学（八重原小）	子ども間交流
3月頃	八重原小学校	職員4名予定	授業参観・年長児引継（八重原小教室）	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

つむぎ内箕輪ルームと連携しながら、共に子ども達を見的过程中で要支援児の個別支援計画、課題の整理表を作成し、多様な人との関わりの中での子どもの姿の変化を職員同士で共有し、多様な視点から子どもを援助していくようにする。また、保護者との対話を密に行う中で、子どもの成長を保護者・職員間で共有していく。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：10名予定)

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

障害児に対しては、スムーズな小学校への引継ぎができるように、自治体や療育施設との連携を図っていく。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	第2金曜日 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	第4月曜日 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：内箕輪運動公園(ちびっこ広場)にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年4月15日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：8時30分

自己評価終了予定時刻：17時30分

自己評価実施予定者：施設長・主任・各リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

Ⅰ 3.3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<p>【子ども】自然の中での直接体験をひとつでも多く経験できるようにする。子どもに対しての理解を多方面から行う。</p> <p>【保護者支援】保護者が安心できる一瞬の細やかな心配り、心遣いを行う。なるべく多くかかわる機会をつくる。</p> <p>【地域支援】自園の存在をアピールし、認知度を高め、常にオープンなスタンスで来訪を受け入れる。</p>
	振り返り	<p>【子ども】経験値が様々な子どもたちが集まった中でも積極的に長距離散歩や直接体験に挑戦し、法人ならではの経験を提供できた。子どもに対しての理解の部分では園内研修やエピソード共有、日々の振り返りの中で、保育者同士の意思疎通や共有、目線合わせができるようになってきている。</p> <p>【保護者支援】新園での保育者の対応への不安や戸惑いなどにおいて、なるべく迅速かつ丁寧に対応してきた。少しずつ安心感や期待を持って頂けている。</p> <p>【地域支援】認知度は高く、来訪のリピーターも多い。様々な層の来訪者があり、それぞれのニーズに合わせた活用ができる環境を臨機応変に整えてきた。</p>

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	何事にも意欲を持って取り組む。
	重点施策	<p>【子ども】長距離の散歩や日課などに意欲を持って取り組めるよう、子ども達の思いや意欲や興味を見極める。</p> <p>【保護者支援】保護者が保育にかかわる機会の創出を行い、共育の場となる文化の礎を築く。</p> <p>【地域支援】継続的にかかわれる集団との関係構築、園庭やちきんえっぐを利用する常連確保のため、受け入れだけでなく自園の情報発信を積極的に行う。</p>
2025年度	目指す姿	心地よいコミュニケーションをとって活動の幅を広げられる。
	重点施策	<p>【子ども】子どもを基点とした話し合い、語り合いが活発に行われ、子ども理解について追及しようとする。</p> <p>【保護者支援】子育てについて共に学んだり語り合ったりする機会の創出を行う。</p> <p>【地域支援】子育ての場となるような地域資源の探求と関係構築を行い、園と地域がより密接につながるようにする。</p>
2026年度	目指す姿	常に慣例性を持たずに、最善を追求し実践を重ねる。
	重点施策	【子ども】積み重ねられた文化を尊重しながら、今の子どもにとって何が必要かを常にスタッフ同士で考え、積極的に挑戦・開拓を行っていく。

		<p>【保護者支援】どろサポとの協働を重ね、子育てについて語り合う機会の創出を続けていく。</p> <p>【地域支援】様々な施設や様々な層の地域の方との交流を続け、良い相互作用が働くよう、積極的に新しいアイデアを創出する。</p>
--	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：内箕輪どろんこ保育園 施設長 佐藤 慶太

2024年度 メリー★ポピンズ 海老名ルーム 事業計画書

1. 基本方針

2023年度は、「にんげん力。」とは何か、「こどもとは」「にんげんとは」を考えて保育を実践した。キーワードは「生物であるにんげん：体が満たされて、心が育つ」「心をそだてる関り・自尊感情の育ち」の2点であった。

2024年度もこの考えを礎にして「子どもにとって真に必要な機会」を見極め用意すること、このことをシンプルに体現したいと考える。

子どもは大人を小さくした存在ではなく、子どもならではの世界を十分に体験して、心・魂の根っこを太らしていく。我々保育者は「子どもを十分に分かっている」と思うのではなく、謙虚に、誠実に、目の前にいる「子どもの在りのまま」を受け止め関わっていきたい。「10より100の経験を」を掲げて日々保育するのは、子どもたちが「生きる力」を体得していくために「しなやかにたくましく、おおらかに」自分育てをしてもらいたいからである。

散歩や戸外遊び、屈託のないおしゃべりや戯れ、集中して取り組む描画・製作活動、日課などを通して、保育はよりシンプルに「子ども中心」「子どもを真ん中において」「子ども時代を保障」する保育を進めていく。

【どろんこ会グループが目指す園の姿・2024年度運営本部ミッションを通して】

1. 生活力の体得

園児が自己選択すべきことは、遊び・生活の中にあると考え、子ども自ら環境に関わり、自発的に活動し、様々な経験を積んでいくことができるように配慮していく。障害の有無関わらず、人権が保障され、守る支援・矯正する支援ではなく、子ども自身が選び取り、喜び、失敗も成功もその姿を喜ぶ大人集団となり、支援を実施する。

2. 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の体得

幼児期の終わりまでに育ってほしい項目を保育者は心にとめて、日常の生活や体験、遊びの中から子どもたちが体験できる環境構成を用意する。幼児期は体験的に感覚的に物事をとらえ、体や感情で学んでいくことを忘れずに遊び心を忘れずに「ワクワク」「ドキドキ」を引き出し、喧嘩やトラブルの機会をも奪わないようにする。任せる日常は、子どもが自身で自己コントロールする機会となるような保育実践を行う。

3. 子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定

戸外：自然の多いところを選ぶ。平坦な場所よりも起伏のあるところ、遊具が整ったところよりも山谷があるところ、人工的などところよりも自然が多いところを選択し、子どもの五感を刺激し、心も体も感覚もそだててゆく。

室内：自由に選択できる教材の設定とディスプレイをし、美観、片付けは子どもと共に意識していく。子どもの興味関心を見逃さず、常に少し上の課題を目指せる環境設定を心がけていく。

4. 命をいただく活動の実践

さまざまな命を頂きながら生かされていることを知るためにも、食の循環に関心をよせ、命を頂

いているという感謝を持ち、畑仕事や食育活動・クッキング活動を展開していく。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	十分に養護の行き届いた環境の下、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ることを第一とする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的・受容的な応答関係の日常 ・家庭との両輪の輪をつくって、生活リズムを整える ・朝の視診と保護者様との情報交換により、健康で安定した保育を進める ・遊びこめる環境・休める環境の設定 ・保育園に生活の決まりがあることを覚え、身の処し方を学ぶ ・危険と安全がわかり、自ら判断する基礎を養う
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どものすることに、無駄なことは何一つない」との考えを保育者の中に定着させて、子どもの在りのままを受容し、子どもの背景をくみ取って寛容に対応する。 ・子どもからのサインや発信を尊重する。大人の価値観ではなく、子どもの本質に迫る。子どもの発言を肯定的に受容すると同時に、子どもには、自分の発言に責任を持たせ、「子どもに任せる保育」を忍耐と楽しみをもって行う。Trial&errorの機会を日常に組み込む。
	実践予定内容	・ゾーン保育 ・インクルーシブ保育・保育全般
3	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで戸外で遊ぶ ・生活、社会生活の範囲を広げる ・他者との協働の中で互いに思いや考えを共有し、共通の目的を実現する活動実践、異年齢の関りなど、直接体験の中で ①他者との協働 ②感情コントロール ③目標の達成 の環境構成をし、見守る。関わる。教える。共感協働する。
	実践予定内容	・散歩、社会生活との関り ・自分の仕事をする・ルールのある集団遊び

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

保護者に①思いやり ②誠実さ ③謙虚さ ④感謝 を忘れず、おもてなしの心を込めたサービスを提供することを念頭に置き、「信頼」して頂ける支援を考え続けるスタッフ集団となる。また不適切・不具合があった時には、声を掛け合い、共に解決策を考え、共に動けることを常とする。

1	計画・ねらい	保育者はおもてなし（思いやり・誠実さ・謙虚さ・感謝など心のこもった接遇のこと）を研鑽し、心がけて、保護者様の満足度を図る
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちの良い行き届いたあいさつと受け応え ・ニーズをくみ取る気働きと働きかけ ・1日の子どもの様子とその姿に成長の意味づけが出来る3分間対応 ・こどもの姿を肯定的にとらえ、成長と現在のありのままの姿を丁寧に保護者様の立場に立って伝えていく方法の学びを図る。
2	計画・ねらい	「子どもの安全が確保され、様々な体験を通して、体も心も十分に育つこと」とし、保育活動を十二分に展開する。

		クラス・主任・施設長から果たし、十分な説明から理解を得て、保護者様との相互理解を図る
	実践予定内容	どろんこ会グループの日課・基本活動：異年齢活動・座禅・雑巾かけ・さくらさくらんぼリズム体操・散歩9時出発・生き物のお世話・畑仕事・戸外での食事・商店街ツアー・銭湯でのお風呂の日・青空保育 ・これらを生きいきと伝達できるように可視化する：エピソード記録・ドキュメンテーション
3	計画・ねらい	2024年度・事業計画の明確化・どろんこ会保育の推進度の可視化・説明保護者様と保育や子どもの育ちの目指す姿や目標の共有を図り、相互の理解を図る
	実践予定内容	「6つの力」の育ちを子どもの姿（活動時の写真）を通して示す・年12回（4月末GW前は必須・クラスごとに計画・実行する） 事業計画・掲示をする（4月・進捗状況）
4	計画・ねらい	卒園後も継続する保育 日々の活動やその中で親切で寛容な関りから、卒園の後子どもたちや保護者の方の心のふるさととなる保育園を目指す
	実践予定内容	卒園児が来園した時の気持ちの良い接遇を通年行う 新しいスタッフも卒園児に配慮して名前を覚える。関心をもって受け入れる 卒園時に子どもたち、保護者様にアナウンスを入れる

〈3〉地域の子育て支援事業

「ちきんえっく」の活動を通して、子育て世代を始め地域の方との交流を深め、地域子育ての拠点となる。地域の方が参加できる催事の企画を図り、地域交流を図る。

1	計画・ねらい	地域への発信・「開かれた海老名ルーム」「つむぎの知名度・利用率を上げる」 ねらい：駅ビル型の利便性を活用し、いつでも子どもと共に受け入れられる安心基地を地域の子育て家庭に開放する
	実践予定内容	園開放、支援室の長時間解放と利用者増への取り組み・情報発信・利用しやすい受け入れ方法・遊具、遊びの工夫・育児相談 ・安心して利用できる環境づくりに努める・くつろげる空間づくり ・園見学受け入れの当番制（スタッフ育成を兼ねる）：保育者1人ひとりが園外にも意識を向けて、保育園の社会的な役割を担う。自分事としてとらえ、考え、判断し行動する（年度後半） ・手順書の作成（案内の標準化）入所案内の読み込み 自園の保育の言語化と伝え方 視覚的案内の作製（デイリー・写真とねらい）
2	計画・ねらい	子育て相談の実施・地域家庭のニーズの把握 フォーマルな子育て相談と同時にインフォーマルな子育て相談を受け付けて、雑談や共に遊ぶ中で、子育ての悩みを聞き、保護者が感じている気持ちの開放を図る
	実践予定内容	・園開放・遊びの設定などの環境構成・話しかけから始まるインフォーマルな子育て相談とカウンセリング技術の習得と確認 ・園開放の担当の割分担制
3	計画・ねらい	・ピナガーデンズパーチや海老名市の地域向け催事への参加。海老名っ子

		を育てる意識付けと地域への貢献を図る
	実践予定内容	園周辺での催事への参加

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

「自分自身が自分自身で教育者としての教育力を高めていく」

「プライドをもって保育をする」

「保育者も五感を磨き、感性・教養を身に着ける」

自分を育てるのは自分自身であることを念頭に置いて、「自分磨き」ができる環境を整えていく

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの接遇・ビジネスマナーの向上を図る・対人コミュニケーション能力を養う ・保護者に安心感・信頼感をもって保育園を利用していただく ・お迎え対応をより良く展開するために保育の視点と丁寧で効果的な言葉を学ぶ。（保育ノートの活用と振り返り・話し合い） ・何よりも自分自身に対して、自尊感情を持ち、笑顔で何事にも楽しんでやりがいをもって、取り組める
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル研修 ・OJT研修 ・タイムラインや連絡帳の振り返り ・「言葉」の研修 ・保育のねらいや意図を語れる保育者を目指して研鑽する
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修の開催：保育技術を身につける ・ファシリテーション・プレゼンテーション技術の向上 ・多様な見方、問題解決能力の向上
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> 園会議時：アイスブレイク（手遊び、他）得意なバトン（5分間スピーチ）会議体の司会 ・ブレインストーミングの定着 ・課題の解決方法の学び
3	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> どろんこ会運営方針に沿った保育活動の推進 保育の質の向上：主体的な「にんげん力」ある保育者集団を育成する チャレンジ精神ある実際の保育活動の推進
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> コンピテンシー追求 「ダメと言わない保育」とは、またその保育を園の文化として定着させるには。 「セカンドステップ」：ソーシャルスキルトレーニング・アンガーマネジメント技術の向上：子どもの「生きる力」を引き出す・選択肢の幅を広げる 「保育マニュアル」「保育運営マニュアル」の読み込み 保育活動の可視化と情報発信：ドキュメンテーション・ポートフォリオなどの掲示 保育WEBの活用 保育活動の企画・実行・ハザード作成と継続性のある保育活動の展開
4	計画・ねらい	リーダーの養成
	実践予定内容	個からチームビルドへ。メンバー1人ひとりの資質・能力を活かし、チームの相乗効果で効果的な保育へつなげる。

		リーダー会議開催・月1回 リーダーによる人材育成を図る
5	計画・ねらい	保育者が主体的に業務の課題を抽出し、質の高い保育・業務の効率化・スタッフのモチベーションアップを図る。
	実践予定内容	MBO説明 1次評価者面談と2次評価者面談：目標面談と中間面接、評価面談 中間面談2回実施（7月・11月）

〈5〉環境整備

健康で前向きな姿勢を持つ子どもが育つ日常を展開する。

1	計画・ねらい	生活を大事に
	実践予定内容	「光・暗闇・外遊び」・（日体大 野井教授提）で子どもの生活リズムを整える 子ども自身の生活を安定させるためには、「子どもたちの主体的に生きる力」を子どもの内に培う必要がある。保育者は子どもたちと関わる時には、共感協働し、認め、励まし、見守り、禁止しないで、叱らないで、暖かい応答関係を作る。子どもたちの自尊感情を高め、有能感・肯定感を育てる。 背中を見せる保育・自己研鑽を怠らない日常の創造をしていく
2	計画・ねらい	長距離散歩・自然遊び
	実践予定内容	「自然に勝る保育者はなし」・自然という生命力あふれる事象・物に触れ、自分自身の生命力を高める。様々なものに触れ、「なぜ」や「不思議」を引き出し、その性質や仕組みに興味関心を持つ 散歩・戸外遊び：小さい自然をどれだけ感じるか・感性の育ち 自然とのかかわりを通して、（みる、聴く、触れる、味わう、嗅ぐ）を磨き、感じる力、受け取る力、感受性、豊かな感性を育てる ・長距離散歩：「歩くこと」は健康な身体を創るばかりでなく、子どもたちの前向きな姿勢や積極性、少し困難なことがらも体験しながら、適応したり回復したりする力を身に着けている。目的やそれを達成した時の達成感や充実感を毎日体で感じ、身の処し方、人生の生き方を学ぶ ・9時出発を継続して、午前中3時間の「散歩・畑仕事・労働」で直接体験の場を使って、自分育ちを試みる。 ・公共機関を使って、社会体験の場を広げる。公共の場でのマナーやルールを体験的に学ぶ。
3	計画・ねらい	表現：生活を歌いっぱいに
	実践予定内容	・保育者は次に掲げることを知って、保育園の生活を情緒的に、リズム的に進めて、子どもが持つ生体リズム（呼吸や鼓動、歩行・手足の振りなど）を整える。 ・歌は人間の魂を揺さぶり、情緒・感情を豊かにし、悲しい時も嬉しい時もその人の心情に寄り添う。子どもたちにとって、言葉で表現できることはまだ少ないが、音楽に乗って体で表現することは容易い。まだ完成されていない言語表現も良い歌詞、良い言葉を耳で聞き、感覚として、子どもの内に育てている。 ・歌は都市部では感じにくい季節を歌い、ひと昔前の情緒的な人や生き

		<p>物、事象とのやり取りを教えてくれる。保育者も歌から子どもとの関わりや子育てのヒントをもらい、より豊かな保育を展開する</p> <p>(例) ・季節の歌をその季節に歌う ・年齢にあった歌を歌う ・身振り手振りを加えて、子どもの表現の幅を広げる ・手話で歌をうたう ・輪唱・エコーソング・合唱の取入れ</p>
--	--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	子どものゾーン保育・保育者のゾーン保育「混ざる」「自己決定を助け合う」
	実践予定内容	<p>子どもが混ざる・環境づくり</p> <p>スタッフもワンチーム・クラスを超えて混ざり合う</p> <p>友達と関わることにより、葛藤を調整する力や、主張する力、折り合いをつける力が育つことを期待して支援する。</p> <p>チャットを利用しての日常の情報共有 昼礼での情報共有 担任会議録回覧</p> <p>ヒヤリハットやインシデントの共有</p> <p>再発防止策の話合い</p> <p>事故・怪我の予防と対応（フローの確認）</p>
2	計画・ねらい	インクルーシブ保育・スタッフの学びを進める
	実践予定内容	園会議：つむぎ専門士からの学び、共有事項と保育実践の検討

〈7〉地域と育つ

1	計画・ねらい	<p>世代間交流「ココファン」「プラチナコミュニティ」</p> <p>ねらい：お年寄りに子どもたちの歌や声・笑顔を届けて元気になってもらう。子どもたちは自分自身が「喜ばれる存在」と分かり、張り切って生活する糧にしたり思いやりの心を育てたりする。一方で、慈愛のまなざしで見守って下さるお年寄りに触れ、愛されたり守られたりする心地よさを知って、人のぬくもりに触れて心を育てていく。</p>
	実践予定内容	<p>協力・受け入れて下さる施設探しをする。（子どもたちとの相談）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海老名の地図を見て、どこに高齢者施設があるかを調べる（施設での生活を知る） ・電話でアポイントを取るときには、どのような言葉が必要か考えてみる ・実際に電話で交渉してみる（事前確認：スタッフ） ・月に1度、Zoomで歌と元気な生命力を届ける。 ・上記歌の交流から、子どもからの声を拾い（保育Web活用）保育者は子どもの発案を形にする手助けをし、年間の活動とする（プロジェクト保育へ）
2	計画・ねらい	商店街ツアー探検
	実践予定内容	<p>地域とのつながりを感じながら、職業体験や流通、社会の仕組みを体験的に学ぶ。</p> <p>2023年度の店舗にプラスして、子どもたちの体験の場をさらに広げていく。</p> <p>子どもたちもアポイントの方法を知り、効果的なお願いの仕方や受け入れ</p>

		て頂いた時のお礼を考えたり、断られたときにあきらめないで次の方法や場所を考えたりと成功だけでなく、失敗や困ったことからの問題の解決を図る体験を進める。
--	--	-----------------------------------------------------------------------------

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	8人	11人	11人	11人	11人	60人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	12人	看護師	1人	栄養士	1人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	0人	補助	1人	調理	0人	事務	1人

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	保育の振り返りと質の向上に向けて・園内研修・研修報告の共有・個別ケース会議・課題の検討・安全対策
給食運営会議	月1回	献立の振り返りと喫食状況と残渣の確認・食育活動・クッキング・行事メニュー・保護者支援と発信・環境への活動推進(地産地消や残食削減)・畑仕事の連携と推進
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット分析・インシデント検討と再発防止策・事故情報の共有と対策・マニュアル確認と実施方法の確認
ケース会議	月1回	要支援児についての保育方法の確認と検討・情報共有

		気になる子についての保育方法の確認と検討・情報共有
昼礼・担任会議	週1回	指導計画案・週案・行事・こどもの様子・共有事項の確認 他
朝礼	毎朝	一日の確認（保育のねらいと進め方・行事）・こどもの様子 の把握・体調確認・アレルギー児の申し送り・来客確認

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人内統一の情報共有・課題検討・園状況報告と共有
施設長勉強会	月1回	施設長のスキルアップ研修
食育会議	年4回	栄養士、調理師、施設長が参加 献立の検討・マニュアル 確認・食育の推進・OJT・食品ロス・食の循環
保健会議	年4回	看護師、施設長が参加 子どもの健康と保育への参加 感 染症・衛生管理・マニュアルの確認・社会の動向・新型コ ロナウイルス対策
主任会議	年5回	主任としての役割とは・スタッフ育成・他
子育ての質を上げる会議	月1回	業務改善研修・子育ての質を上げるための計画立案・成果 発表会を実施（自園の課題抽出・実行計画策定・成果発 表）

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	身体測定・定期健康診断・歯科検診の実施と保護者との連絡 施設の清 掃と衛生管理に係る消耗品及び備品の補充と管理 感染症予防対策の管 理点検・対コロナ対策消毒と危機管理
安全対策係	火災・地震訓練・不審者侵入時訓練および消火・防災自主点検の実施管 理 消防署との連携窓口業務・救急講習計画と実施 施設内外の設備点検および事故防止対策の実施
防火管理者	消防計画の作成と備蓄リスト 帰宅困難者表作成 上記計画に基づいた地震、消火・通報訓練を定期的実施
食品衛生責任者	調理室全般の衛生管理 給食食材および提供食材の衛生管理と在庫品保管状況の管理

畑係	畑づくりの年間計画・畑の管理 関連機関との連絡・調整 子どもとスタッフの畑活動の推進を図る 教材・道具類の維持補充 保護者様への働きかけと情報発信
生き物係	飼育動物の丁寧なお世話と健康管理 子どもや保育者の生き物飼育活動の把握と推進、課題検討
環境整備・備品係	美観・保護者がいつ見ても気持ちが良い施設 園内外の環境整備：子どもの生体リズムを整える環境づくり 室内に自然を取り込む、くつろげる環境設定
内監プロジェクト	内部監査項目に沿って、押印簿点検や課題解決の推進
地域係	地域の方々や団体等との対外的な窓口業務と広報係

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	祭りの企画と推進 保護者と協働して、準備・開催をする 懇親を図る 地域サービスとしての位置づけをする
運動会	法人内・地域の子育て支援の企画と開催
生活発表会	法人内・地域の子育て支援の企画と開催

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・受容的・応答的な関りの下で、自分の気持ちや示したいことを伝えようとする意欲を育てる。（代弁や選択肢が与えられる）また、これらの関係性から身近な大人との信頼関係を育て、人と関わるちからの基盤を養う。 ・戸外活動を喜び、自然に触れて五感を育て、健康な身体を創る ・生活や遊びの中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気づき、感覚の働きを豊かにする。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期の受容的・応答的な関りの中で獲得した言葉を使って、自分の思いを伝えたり歌を歌う気持ちよさを感じたりして、気持ちを開放し生活する。発達的に駄々こねや癩癩も多いが、それを正当な主張と

		認められながら、自分自身を育てていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 戸外活動を喜び、自然に触れて五感を育て、健康な身体を創る ・ 自由に動くようになってきた体を十分に動かして、リズム遊びや散歩活動に意欲的に活動し、保育者に励まされ認められながら、自尊感情を培っていく
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活リズムを整え、情緒を安定させた生活の中で、自分らしさを発揮し毎日を楽しみに登園する。 ・ 意図的に環境設定された中で、自ら関り、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活の中に十分に取り入れようとする ・ 長距離散歩にトライし、集中力や忍耐力、チャレンジする気持ち、爽快な充実感・達成感を毎日体感し、自尊感情を高め、レジリエンスを築く
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異年齢のかかわりの中で、自分を表現して受け入れてもらうこと、相手の気持ちを理解しながら、人対人コミュニケーションの実感をもって生活する。 ・ 自分が大事にされることによって、相手をも尊重し、思いやりの気持ちを態度や行動に表して、接する ・ 上半期、戸外活動で五感を働かせ、培ってきた感覚・感性や長距離散歩で培ってきた集中力や忍耐力を活かし、描画や造形、歌やリズム遊び、劇遊びや楽器遊びなど、様々な表現活動を展開する。 ・ 地域や小学校など、今までよりも広い社会に目を向けて、小さいながらも、社会に貢献できる自分に育っていることを自覚する機会を与えられて、そこに誠心誠意取り組み、自尊心を高める
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・ 2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

「食」を保育の真ん中に据えて、調理室と保育室が一つになって、子どもたちと考えながら食育活動を進めていき、子どもの健康と成長にかかわっていく。例えば、味噌づくり活動では作るこ

とのみではなく、「作った味噌をどのようにして食べたいか考える」「味噌を熟成させるまでの当番活動やメンバー構成をどのようにしていくか」「忘れないようにするためにどうしたらよいかとの話し合い」「大豆を畑から作るとしたらどうするのか」「大豆がいっぱいとれたら、どのように活用できるか」など。一過性で終わらせない、プロセスを大事にした取り組みを保育者と調理室とで考え、展開をしていく。

1	計画・ねらい	調理員・保育者・施設長・事務含む子どもを取り巻く大人は、子どもと一緒に食事をする（3大食育方針）・空腹を感じ、食べたい時や場所、ひと、食べたいものを食べたいだけ、子ども自身で選択する環境を作る
	実践予定内容	日々の給食での積極的な参加・関り 安心して心地よい雰囲気づくり適温給食・他者との関り・影響から学ぶことを知る・繰り返しから知る自己コントロール（適度）を学ぶ 身近な大人や友達を模倣したり教わったりして食事のマナーや食具の正しい使い方を知る 散歩・畑での労働・戸外活動で空腹を得る環境を作る
2	計画・ねらい	畑仕事と食育活動の連携 畑で育った作物を食する過程を知り、おいしく食べ、自然（日光・水・温度・土・大気）の恵みに感謝し、世話の大切さを知る
	実践予定内容	年間計画による畑活動・クッキング・野外炊飯
3	計画・ねらい	食材・食の循環を学べる直接体験
	実践予定内容	「リボベジ」・リボンベジタブル（再生野菜）の体験 （例） ・人参・豆苗・ブロッコリー・青ネギ→水耕栽培から土へ・パイナップル栽培　ヘタから育てる→2年越しのお世話と観察など 保育者は子どもに真に体験させたいことを考えて、実践に移す。 ・魚の捌く、手で開く　→　イワシ、豆アジなどを給食で頂く 調理と保育者の連携 ・苗植えから収穫・余すことなく使い切るプロジェクト サツマイモなど一年を通して栽培する、葉や茎も食べる、蔓を燃料にする、製作に使うなど
4	計画・ねらい	子どもが「自分たちで盛り付け・配膳して食べる」を環境構成する
	実践予定内容	・自分で選択し、自分で決め、自分で選んだことに責任をもつ体験を日常のさりげない場面に散りばめる。葛藤の体験を増やす ・友達と話し合う、相談する、協働して進める場面を見守る ・物の数量や大きさ、食器や壊れるものの扱い、丁寧に扱う方法、他者への気遣いなど、生活の場面で認知能力と非認知能力を共に使う場面と認識して係る これらを効果的に実践する工夫を話し合いの中から形作っていくことを試みる。
5	計画・ねらい	「今日の食材・産地」の発信
	実践予定内容	SDGsの観点から：「地産地消」「身土不二」「一物全体」「輸入品のマイル問題：添加物・防腐剤」を調理室から発信、子どもの食に何が必要で何が不必要かを話し合い、見極める。見極めたのちに確信あるメッセージで保護者への発信をする

	効果的な発信方法を考えて実施する。 献立レシポの配付 食育活動の報告 など
--	---------------------------------------------

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（5月・11月）
歯科検診	年1回（5月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	別紙保健計画に記載
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 7月頃・・・プール熱、手足口病など 12月頃・・・インフルエンザ、嘔吐下痢症など
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・1名より預かり済み 誤食緊急薬・・・1名より預かり済み
エピペン使用できるスタッフ	本日現在15名が研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ3名については3月キックオフで受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在15名が研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフ3名については3月キックオフまでに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月

	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・9月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／5.11月 歯科健診 年1回／5月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

保育所保育指針第2章保育の内容に記載されている「自分で考え、自分で行動する」「自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する」を基本とし、室内・室外ともに子どもが自発的に関わる環境を設定する計画を下記に計画する。

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・午前中の戸外活動を毎日展開する。雨の日や風の日も安全に配慮しながら、戸外に出て、危険を回避する身の処し方や不便な日も快適に過ごす方法を実体験の中から学んでいく。 ・春夏秋冬の季節の移り変わりを肌で感じ、暑さから身を守ること、寒くても楽しく遊ぶ方法を体験的に学び、身体を育て、心を育てる環境づくりに努める。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・9時出発 ・畑仕事 ・草花遊び ・土手滑り ・川遊び ・樹木のある公園へ行くなど、自然や自然物と関わる毎日を考えて保育活動とする。自然は一日として、同じ日ではないことを念頭に置いて、保育者自身も五感を働かせて、子どもと共に自然から学ぶ
2	計画・ねらい	子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる物的環境の設定をす

		る
	実践予定内容	ゾーン保育 異年齢の関りと活動 コーナー保育と環境設定 日常の散歩活動 自然との関り：「子どもに必要な環境」「子どもが自ら選択し、主体的に行動できる環境」作りを保育者は遊びこむ子どもの姿を通して環境構成していく。工夫された教材や遊びを感じ取り、子どもたちは自分の気持ちや考え、友達に与える影響を考えながら試行錯誤する。
3	計画・ねらい	保護者がいつ見ても気持ちの良い施設・子どもの安全な動線が守られ、不要な危険が排除された空間づくり ・意識的な空間づくりをして、信頼される安心される「選ばれる園づくり」につなげる
	実践予定内容	衛生管理点検表や内部監査資料を基に、整理整頓や清掃状況の確認をする。：清掃点検表を作成して、もれなく行う。 保育者は足元に見える小さなごみをも自分事として拾い、細やかな気配りができる存在となる。また、ひとが嫌がることへも率先して取り組むことができる保育者集団となり、子どもの前に立つ。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	なし		

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	事故防止委員会 リスクマネジメント研修 怪我・事故の防止	事故の予防：ヒヤリハット収集と統計結果の確認（随時・月1回の共有） 園内インシデント・事故の再発防止検討 過去の重大な事故事例や身近な法人の事例研究 緊急連絡先への連絡・フローチャート確認 見失い・置き去り概念の学び・散歩ロールプレイ 心肺蘇生・AED研修・怪我の対応・プール、水の事故防止策 散歩引率など ・子どもへの安全教育の定期的な実施
2	避難訓練・ 不審者侵入訓練 防犯	・安全対策係が計画立案・実施 ・自衛消防隊の編成と役割分担 ・十分なシミュレーションの元、立案された計画を全スタッフで共有し、実施 ・子どもへの安全教育の定期的な実施 ・予想外の想定にも瞬時の適切な判断が自らできるよう、保育者は戸外・散歩時などの危険予測を日常から行っていく。 ・広域避難場所：海老名小学校（保護者様への周知を図る）
3	光化学スモッグ	・自治体からの情報で判断、活動を加減する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・自治体からの情報を正確に得る。 ・子どもたちに何故屋内で過ごすのかを考え、安全教育と共に光化学スモッグのメカニズムや環境問題への問題的の芽生えにつなげる
4	災害対策	「保育運営マニュアル」・危機管理マニュアルP. 6の確認 決められたことの内容と意味を保育者は知って、園運営に携わる。
5	日々の事故防止	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の気づきの共有（保育者間で）と報告（施設長） 子どもの様子・玩具・遊具・屋上・公園・戸外移動時・保育者の保育、関わりと引率 ・ハザードマップの更新：室内、戸外環境の変化や人的要素を敏感にキャッチして、書き込み・更新をする。更新日時を記録する。 ・ヒヤリハット気づきと記録の習慣化を図る。ハインリッヒの法則を知る
6	ハザードづくり	・室内 ビル共用部 戸外・散歩コースのハザードマップの完備 ハザードマップ管理表で定期的な見直しを図る（4.7.10.2月）
7	苦情・ご意見対応	・「保育品質マニュアル」・苦情対応マニュアルの確認 保護者様のご意見を真摯に聴き（訊き）、自分事としてとらえ、謝罪と保護者様のご意向に添った問題解決を図ることを第一とする。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

【実習生を受け入れる意義】

- (ア) 保育園は、地域の社会資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生の受け入れには社会的責任がある。次世代を担う実習生を積極的に迎え入れ、どろんこ会の「にんげん力。」を育てる保育に共感する人材を育て、すべての子どもの育ちに還元することを目指す。
- (イ) 実習生を指導することは、保育者が自分自身を振り返る作業をすることである。実習生を丁寧に導けば、導くほど、自分自身の保育を丁寧に吟味しながら関わっているのである。教えること、相手のニーズをとらえること、親切に関わること、知っていることを言語化してアウトプットすること、仲間として迎え入れること、保育の専門性を問うこと、どれも相互の成長に係わっていることに留意する。

【小・中・高生を受け入れる意義】

- (ア) 少子高齢化・核家族化の現代において、赤ちゃんや子どもとの関りを持たないままに、親になり、経験のないことが子育てをさらに難しくしている背景を我々保育者は知っておく必要がある。「子どもの可愛さ」「泣くことには意味があること」「子どもへの関りや対応を見たことがある」「実際に関わったことがある」そのような体験の道しるべを残すことが、保育所並びに私たち保育者の役割である。
- (イ) 「人を育てる」「人を育て、関わり合いながら自分をも育てていく」そのような保育者という仕事に出会い、保育・福祉の場で活躍したいという人材を育て、増やす。仲間を作る。
- (ウ) 小・中・高校生を受け入れることのもう一方のメリットは、園の子どもたちの様々な人との関わりや多様性の体験、保育者や家族以外の人に優しくお世話をしてもらう体験、少し年齢が上の人への憧れから誘発される遊びや活動、どれも子どもたちの成長を促進する作用を持っていることである。

1	実践予定内容	小学生の保育園見学・交流の受け入れ ドッジボール大会など
2	実践予定内容	中学生・職場体験の受け入れ・交流
3	実践予定内容	高校生：高校の部活訪問 陸上部：早い走り方教室 吹奏楽部：本物の音に触れよう など

7. スタッフ育成と研修計画

園内研修本来の目的：「同僚と話し合い、自らの保育を振り返りながら次の課題を見出すために職場内での研修を行う」を軸にアクティブラーニングを意識して展開する。ブレインストーミングの手法を全スタッフが駆使できるファシリテーションの術を身に着けて、柔軟で多角的なアイデアや意見を数多く出し合って、活発でクリエイティブな会を創出していく。

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■新入社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修 (年1回) ■園内研修 (月1回以上) ■保育スキル研修 (エリア別) ■リーダー養成研修 (9～2月) ■業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会 (月1回) ■デンマークインターンシップ (年1回) ■コンピテンシー自己採点 (月1回) ■人権チェック (4月・10月) ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 怪我ケーススタディ 「生きる力を育てる～何が 必要か」 ③ 接遇と保護者対応・苦情 対応について ③ 保育運営マニュアル読み	コンピテンシー：子どもを真ん中に して「ビジネスマナー」「危機管 理」のPDCAを回す 「子どもの生きる力を育てる」をテ ーマに保育計画と実践、その振り返 りと再アクションの意見交換・話し 合いを年間のテーマとして、行う。

		合わせ 虐待防止研修 ④ 散歩ロールプレイ	子どもに起きやすいケガや事故を知り、その手当と応変な対応の共有をする 見失い・置き去りの定義を知り、未然に防止する
5月17日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②「生きる力を育くむ」ために日課・基本保育活動の確認と実施 ③保育運営マニュアル読み合わせ ⑤ 熱中症予防について」セキュリティチェック勉強会	コンピテンシー：子どもを真ん中にして「ビジネスマナー」「危機管理」PDCAを回す 「子どもの生きる力を育てる」をテーマに保育計画と実践、その振り返りと再アクションの意見交換・話し合いを継続して、行う。 ・真夏日に対応する
6月14日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育とは ③水遊びと水の事故「食うねる水遊び」 ④保育運営マニュアル読み合わせ・実践・主に危機管理 ⑤MBO発表・共有	コンピテンシー：子どもを真ん中にして「ビジネスマナー」「危機管理」PDCAを回す 「子どもの生きる力を育てる」をテーマに畑・保育計画と実践、その振り返りと再アクションの意見交換・話し合いを継続して行う。
7月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「生きる力を育てる～何が必要か」：大人のにんげんカアアップ「ソーシャルスキルトレーニング」実践 ② ハラスメント研修 ③ 不適切な行動とは・保育・虐待について考える、学ぶ	コンピテンシー：子どもを真ん中にして「ビジネスマナー」「危機管理」PDCAを回す 「子どもの生きる力を育てる」をテーマにソーシャルスキルトレーニングの講義と実践を行う。その振り返りと再アクションの意見交換・話し合いを継続して、行う。 ・子どもの権利を知る・不適切な関わりの抽出：ディスカッションする ・スキル講座のテーマに触れる
8月9日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「生きる力を育てる～何が必要か」：遊びの環境について考える ④ 小学校を知る（学習指導要領の学びと保育の方向性ディスカッション） 接遇・保育者としての必須	コンピテンシー：子どもを真ん中にして「ビジネスマナー」「危機管理」PDCAを回す 「子どもの生きる力を育てる」をテーマに保育計画と実践、その振り返りと再アクションの意見交換・話し合いを継続して、行う。

		事項・確認	
9月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「生きる力を育てる～何が必要か」：遊びの環境について考える 「生きる力」を育む遊びと環境構成 ③ 事業計画の振り返りと後半の推進の確認 アンケート内部監査項目についての勉強会	コンピテンシー：子どもを真ん中にして「ビジネスマナー」「危機管理」PDCAを回す 「子どもの生きる力を育てる：遊びと環境」をテーマに保育計画と実践を考える。その振り返りと再アクションの意見交換・話し合いを継続して、行う。
10月11日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「生きる力を育てる～何が必要か」：薄着・裸足・リズム体操 話し合いと実施	コンピテンシー：子どもを真ん中にして「ビジネスマナー」「危機管理」PDCAを回す 「子どもの生きる力を育てる」をテーマに薄着・裸足・リズム体操に焦点を当てる。保育計画と実践、その振り返りと再アクションの意見交換・話し合いを継続して、行う。
11月8日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「生きる力を育てる～何が必要か」：：感染予防と健康を創ること ③ マニュアルの確認・課題の抽出 ④ 虐待防止研修	コンピテンシー：子どもを真ん中にして「ビジネスマナー」「危機管理」PDCAを回す 「子どもの生きる力を育てる」をテーマに「6つの力」保育計画と実践、その振り返りと再アクションの意見交換・話し合いを継続して、行う。
12月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「生きる力を育てる～何が必要か」：6つの力について考える（KJ法を使って） ③ マニュアルクイズ大会 ④ MBO進捗・振り返りの中間報告	コンピテンシー：子どもを真ん中にして「ビジネスマナー」「危機管理」PDCAを回す 「子どもの生きる力を育てる」をテーマに保育計画と実践、その振り返りと再アクションの意見交換・話し合いを継続して、行う。 ・マニュアル知識と実践をチームで競う・
1月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「生きる力を育てる～何が必要か」：日常の保育を	コンピテンシー：子どもを真ん中にして「ビジネスマナー」「危機管理」PDCAを回す

		振り返ってみよう・1年の成果とまだ足りないところ ディスカッション 「あなたならどうするか」	「子どもの生きる力を育てる」をテーマに保育計画と実践、その振り返りと再アクションの意見交換・話し合いを継続して、行う。
2月未定		① コンピテンシー自己採点 ② 年間策定会議	2024年度事業計画とその方向性、行事日時と概要の設定
3月未定		① コンピテンシー自己採点 ② 年間策定会議	2024年度「子どもにとって、真に必要な生活・活動を決める」

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デモンクインターソップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

年1回実施するフィードバック面談時に施設長は「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画」を記録として整え個々に伝える。これにより、スタッフは自身のキャリアアップに必要な研鑽を自ら図っていく。

MBO（目標管理制度）は法人理念や保育目標、園事業計画に沿って、スタッフ自身が目指したい方向性や方法を定め、自ら目標設定し、成果までの道のりを管理することを指す。自主的なモチベーションアップや目指したい保育の構築を行えるため、保育の活性化や貢献度、やりがいを感じることにつながり、子ども中心の保育を推進、質のアップすることに寄与する。

【MBOのフローは次の通り】

目標の設定・目標面談→自身での進捗確認・中間面談→自身での振り返り・評価面談

目標を達成するためのスタッフ間での共有を図っていく。またチームを組んで共同の目標に取り組むこともチームを活性化させたり成功させたりするメリットがある。

【パートスタッフの研修の機会】

子どもや保護者様の前では、正規、パート職関係なく、プロとしての保育者との自負をもってあたる下地を整えていく。

園全体の課題や取り組むべきこと、なくしたほうが良い事柄などをサポートする立場から、忌憚のない意見を募る。その意見から、保育をより良くする方法や考えを探り、全スタッフの共有とする。

【パートスタッフ・園会議参加の推奨・月1回】

どろんこ会の方針や海老名ルーム・事業計画の説明
マニュアルの読み合わせや会議時の共有事項の話し合い
日常の保育についての意見や困りごとの共有

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に開かれた保育園としてのPR活動を整え、地域に開かれた園運営を目指す。

利用しやすい仕組み作りをして、地域との交流を深める。

園開放にも園スタッフが参加し、井戸端会議のようなたわいもない会話からの子育て相談を試みる。地域の保護者様が海老名ルームのスタッフと共働して「子育て」しているという実感を持てる、一歩近づいた接遇をおこなう。またこの地域支援を全スタッフが関心をもって関わるための話し合いや実際の活動を策定会議から模索し、効果的な活動を選択して開催にあたる。2024年度はクラス単位の担当制を取り入れていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：海老名中央公園において
商店街ツアー	週1回
世代間交流	月1回 ココファンまたはプラチナコミュニティ訪問 ：高齢者の方とのふれあい 老人施設：歌の訪問（Web交流も視野に入れる） ・訪問時期・回数は施設との相談のうえ決定する
異年齢交流	近隣の小・中・高・大学との交流・ボランティアの受け入れ・
地域拠点活動	青空保育 ちきんえっぐ 園開放
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

国の指針に準じ、『スタッフ間交流』と『子ども間交流』の両者を計画的にバランス良く盛り込んで計画を企画・実施する。年度初めには「5歳児と小学校1年生との年間連携計画および報告書」の確認を全スタッフで行い、効果的なアプローチカリキュラムを考えていく。

小学校教諭および保護者を交えた学習指導要領の読み解きなどのスタッフ勉強会や子どもの学校交流などを実行できるように、海老名市内の小学校にアプローチし企画・実施を試みる。

〈1〉今年度方針・テーマ

- ・小学校を知り（研修会や公開授業に参加）「幼児期に終わりまでに育ててほしい姿」を手掛かりとしながら、幼児期にふさわしい生活を通して、この時期ならではの資質・能力を育み、小学校の生活や学び、および子どもたちの育ちに必要と思われることを「5歳児と小学校1年生との年間連携計画および報告書」に網羅し、年度当初から意識して取り組んでいく。（保育者の研鑽）

- ・「アプローチカリキュラム」は、就学のための期間限定のものでないことをスタッフ間の共有とし、どろんこ会グループの目指す「生きる力」をはぐくむ日常の保育、日課や基本活動を丁寧に積み上げる。その結果、子どもたちの姿がどのような事柄に対しても、問題の解決を図り、主体的に対話的に乗り越え、喜びをもって生活する子どもたちの育ちになることを知って、保育する。（子どもの育ち）

- ・小学校・学習要領を知ることによって、今の保育の過不足を知り実施する。保護者様に知っていただくことで、「海老名ルームで取り組んでいる活動」の意味づけを強め、安心感をもった子育ての方向性を共有する。（保護者支援）

〈2〉具体的な連携計画

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	海老名市内・小学校 1年生	11名予定	海老名市立小学校・ 校庭	子ども間交流
9月頃	海老名市内・小学校 1年生	1クラス予定	海老名ルーム・畑活 動招待	子ども間交流
10月頃	海老名市内・小学校 教スタッフ	2名参加予定	授業参観（海老名市 立小・教室）	スタッフ間交流
1月頃	海老名市教育委員会開催 勉強会へ出席	5名予定	保幼小・合同勉強会	スタッフ間交流・勉強 会
2月頃	小学校との情報交換 保育所児童保育要録送付	11名	5歳児就学予定学校	スタッフ間・情報共有

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

2024年度開催時の確認事項は〈2〉毎月のケース会議開催に記す。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：18名予定)

・適宜ケアが必要な子どもやスタッフの対応に共通認識が必要な子どもに対しては、継続的な個別指導計画を作成し、継続的・包括的な支援を行い、保育の検討を図る。

- ①個別計画を立て、受容的・応答的な保育をスタッフ全体で展開する。スタッフは安心の存在となるよう努力して、海老名ルームが子ども自身の真の居場所となり、心身ともに成長することに心を留めてかかる。
- ②目先にとらわれず、将来の姿を見据えてどろんこ会の保育にあたり、子どもの持つ「生きる力」を引き出す。
- ③ 保護者様へは、その要望を確認し、在りのままの受容と成長の喜び、子育ての困難を共有し、道筋を示す。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

- ・クラス担任は、進級時に引継ぎを実施・引継ぎ事項を記録に残す
- ・進級時の引継ぎ時、面談の希望をとり、保護者様と成長や課題の認識のすり合わせをする。(希望者のみ)
- ・小学校への引継ぎは保護者様のご意見・ご要望を確認する。(卒園面談・希望者)
- ・保育所児童保育要録作成と送付
- ・小学校との情報交換(1,2月)：訪問・電話
- ・中途退園のお子様には、必要に応じて「保育の記録」の写しを転園先に送付し、引継ぎを行う。また転園の際には、今後も情報提供や相談が可能である旨とその連絡先を記載した案内文書を施設独自で作成し、退園届に添えて渡すことで、保護者様の安心を図る。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30実施
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	月2回開催 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月1回開催 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：海老名中央公園にて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2025年2月7日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：18時00分

自己評価終了予定時刻：19時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任、乳児リーダー、幼児リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

3カ年計画は、海老名ルームの中期目標を「子ども」「保護者支援」「保育者」の3つの視点で掲げる。共通する目標は「生きる力を育てる」ことであるが、記憶に新しい元旦の能登半島地震など、災害の多い日本を鑑みると「生き延びる力」を子どもの内にもおとなの内にも育てていくことが必要でないか。

そのような観点で掲げていく3カ年計画・海老名ルームが目指す保育を2024年度どろんこ会が発信したスローガンを強めて下記に計画、実施に向けて動いていく。

「あなたはどうか」大人も主体性～4考え、学び、動く、自立した集団～

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策 2023年	・新規開園
	振り返り 2023年	<p>・開所に向けて、児童発達支援事業所（つむぎ）との併設園として、つむぎ施設長との方向性のすり合わせなどを行い「保育園の子どももつむぎの子どももともに混ざって生活する」ことを標準化することを目標に、スタッフの協働、話し合いや疑問点の投げかけを積み上げた。このような取り組みは保育誌の取材や行政の視察、行政監査でも進んでいる取り組みとして認められた。</p> <p>・「10より100の経験を」と掲げて年間スケジュールを下に経験の場を作っていた。商店街ツアーや公共機関を使った遠足、日々の畑仕事や散歩活動が主な内容であるが、日課であるリズム体操や座禅、雑巾がけ、食育や描画制作活動など、子ども時代に体験したい保育活動を展開した。子ども中心に、子ども時代を保障し、冒険にチャレンジできる土壌づくりを今後も目指していく。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・10月からは、ポートフォリオで可視化した保育の様子をお届けすることができた。 ・利用者アンケートでは、海老名ルームの推奨率は63% 中立18% 批判19%であった。夏の戸外活動に関するご意見があったため、活動や対策の説明責任を果たすとともに、安全安心を感じていただける配慮や工夫、デイリープログラムや保育内容の精査をしていく。 ・海老名ルームスタッフにおいては、子どもの「生きる力・にんげん力」を育む保育活動に試行錯誤しながらも共感協働し、自分自身で育て、チームでの保育を展開することができた。
--	--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体を育て自尊感情を高める保育・保護者様と子どもの育ちを共有し、喜びあえる関係づくりをすすめる。 ・併設園ならではのインクルーシブ保育を進める。一人ひとりの子どもが尊重され、すべての子どもをすべての大人が関り、その成長を見守り支援されている。 ・畑仕事：土づくりを進める。労働に喜びと責任を感じながら食の循環を学んでいる ・地域支援：ちきんえっぐ、園開放の来園者が月60名となっている。
	重点施策	<p>【子ども】</p> <p>丈夫な体と健やかな心が育ち、自分で選択し、主体的に意欲的に遊びこんだり自己調整する力を養ったりする。困難なことがあっても、内言（自分で自分に語りかける）を育て、自分を立ち直らせることができる。</p> <p>【保育者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども主体を常に意識し子どもを尊重する保育が定着する。 ・「混ざる」児童発達支援+認可保育所の併設モデル園を目指し、生き生きとした保育を展開している。 <p>【子育て支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な広報活動を得て、ちきんえっぐ、園開放の来園者が月60名となっている。 <p>卒園後も子どもたちの原風景・原体験の場となっている。</p> <p>保育・子育てに関心を募り「どろんこサポーター」が誘発的・自発的に活動している。</p>
2025年度	目指す姿	<p>自然との関わりや日課、地域との関りから、子どもの体を育て自尊感情を高める保育を保護者様と共有し、喜びあえる関係づくりをしている。このことが定着し、保育活動・保育内容・人材で信頼される「選ばれる保育園」が創られている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼の構築から、県央地区に園庭在りの「どろんこ保育園」創設の芽生えを創っている。 ・地域支援：ちきんえっぐ、園開放などの来園者が月75名となっている。
	重点施策	<p>【子ども】丈夫な体と健やかな心が育ち、チャレンジする前向きな姿勢</p>

		<p>が養われて、毎日を生き活きと自分の好きを追求できる子どもが育っている。</p> <p>【保育者】子どもを真ん中におきながら、より良い保育を模索し、自己研鑽する自発的なスタッフが育つ。</p> <p>地域の家庭、社会的ニーズの研鑽を積み、公的な機関や子育て支援活動を担う人材が育っている。</p> <p>【子育て支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園・つむぎが一体となった地域の子育て支援の拠点となる。
2026年度	目指す姿	<p>「生きる力」「生き延びる力」を育てる保育が定着し、保育活動・保育内容・人材で信頼される「選ばれる保育園」が創られている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ちきんえっぐや園開放に月100名の来園が見込まれる。 ・ 信頼の構築から、県央地区に園庭在りの「どろんこ保育園」創設の芽生えを創ることが出来ている。
	重点施策	<p>【子ども】</p> <p>丈夫な体と健やかな心が育ち、仲間から学び合うこと、自ら発信できることが増えて、子どもたちが自ら生活を作り上げていく術を身に着けている。</p> <p>【保育者】</p> <p>先回りしない子どもを尊重する保育が定着する。</p> <p>子育てに関する社会的ニーズを把握し、その援助方法を学んで、公に子育て支援活動を担う人材が育っている。</p> <p>インクルーシブ保育を次世代に引き継ぐリーダー層が育ち、「混ざる保育」をより推進している。</p> <p>【子育て支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園・つむぎ双方の必要性が高まり、子育ての拠点となっている。 ちきんえっぐや講座、園開放が子育てのよりどころとなり、地域の方の子育ての活力のもとになっている。 「どろんサポート」独自の活動を園がともに共働する姿となりつつあり、活性化されている。

以上

2024年度 香取台どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

学都として発展してきた研究都市つくば。

自然と技術の融合された都市としての魅力の高さ、また都心からのアクセスも良いことから、子育て世代の移住者も増え2040年に人口増加のピークを迎えると予想されている。

国内では今や出生率減少の一途をたどる中、未来を担う子どもたちの「育ち」の場としてつくば市が選択されていることの重責を見据え、子育てを支える保育園として、つくばで生きる子どもたちの「学びと育ち」を支えていく存在・施設となることが責務であると考えている。

開園2年目を迎える香取台どろんこ保育園。つむぎ香取台ルーム・つむぎ香取台放課後デイサービス・香取台どろんこ学童4施設併設の強みを活かし、連携を取りながらともに学びあいともに育ちあう施設を目指す。インクルーシブ保育の実践を通して、地域へ、業界へ、様々な分野へ、その「学びと育ち」の場としての質を波及させていく。

保育所保育指針並びに児童発達支援ガイドライン、社会福祉法人どろんこ会の保育理念を核に、子どもも大人も育ちあい、地域の拠り所となる園を目指す。

法人保育理念 「にんげん力。育てます。」
必要な遊び・体験を提案実践し、“自分で考え、行動する思考”を育む。

子育て目標 「センス・オブ・ワンダー」
畑仕事・ヤギや鶏の世話などの労働や自然体験を通して、ものの性質や身近な事象、生命の尊さ、食材や食の循環・環境への意識を育む機会を持ち、子どもがしたいと思う活動を安全に行えるように見守り、支援していく。
「人対人コミュニケーション」
“感じたこと・考えたこと”を言葉で、ジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成していく。

保育園保育目標 「 えがおで やってみよう 」

- ・誰もが自由に行き来できる園舎という「大きな家」を軸とし、子ども・職員・保護者・地域社会がつながり、連携を深めながらインクルーシブ保育を実践していく。
- ・子どもたちに必要な遊び、野外体験、100のホンモノの経験を提案・実践しながら、一人ひとりの「やりたい、気持ちを後押ししていく。
- ・人権が守られ、安心して生活できるように受容し、欲求に丁寧に応答する保育を進めていく。
- ・自己選択すべきこと、大人が背中を見せて一緒に行くことを計画的に環境として用意し、「意欲をもって働くことができる人格形成」を見据え、日々の日課に取り組んでいく。
- ・生き物の世話や畑仕事、収穫物の調理・加工、堆肥作りなど、自らの体験を通して食材や食の循環、環境への意識を身に付けていく。
- ・地域の特性や社会環境を鑑み、子育て支援拠点として子育ての輪の入り口となるような存在を目指す。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	「生きる力」「にんげん力」の礎となる心情・意欲・態度を育てていく。
	実践予定内容	大人が子どもに背中を見せ、計画的に環境を用意する。子ども自身が自らやってみて体験する中で、物事の判断や周りの状況に気づくことができるよう援助していく。 子ども同士が複数で一つの活動に向かっていく中においては、意見のぶつかり合いを通して主張や譲歩・折衷など感情をコントロールする経験を重ね、関係性を深めながら、共通の目的を実現していく。
2	計画・ねらい	生活や遊びを通して、主体的・意欲的にかかわれる環境を作っていく。
	実践予定内容	子どもたちに真に必要なものは何か、必要なことは何かを見極め、子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる物的環境の設定を行っていく。
3	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた保育計画の立案を行っていく。
	実践予定内容	発達を理解し、一人一人の「今」をしっかりと捉えていく。 10の姿、その目指すべき方向性を見据え、一人一人の育ちを読み取っていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の視点に立ち、保護者に寄り添った細やかな支援を行う。
	実践予定内容	保護者の心情を汲み取り、丁寧に対応していく。 保護者会の開催、個別面談等。
2	計画・ねらい	子どもの成長を丁寧に伝え、育ちを共に喜び協力し合っていく。
	実践予定内容	送迎時の対応を通して保護者との関係性を深めていく。また、連絡帳やタイムライン等での日々の細やかな情報共有、およびポートフォリオ等子どもの姿の記録と共有を行っていく。
3	計画・ねらい	いつ来ても、どこを見ても気持ちの良い施設を作る。
	実践予定内容	整理整頓・美観を保つシステムの構築。 保護者・来園者への丁寧な対応（接遇）。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の子育て家庭にとっての、子育ての輪の入り口となる。
	実践予定内容	ちきんえっぐ・青空保育の機能充実。地域の子どもたち同士、子育て家庭同士が繋がる機会を提供する。
2	計画・ねらい	園と地域とのつながりを深め、子育て支援拠点としての役割を担う。
	実践予定内容	子育て等に関する相談の場の提供や援助。 地域集会所や施設、店舗などへのアナウンス。商店街ツアー、職場体験や実習生の受け入れなどを通して交流の様子など活動の発信を継続的に行っていく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人のにんげん力UP
---	--------	------------

	実践予定内容	学び続ける文化の醸造。学んだことを施設内・課内・部内・法人内で研修企画をし、アウトプットし自己変革につなぐ。
2	計画・ねらい	子どもたちに関わるすべてのスタッフが、互いを知り同僚性を育てていく。
	実践予定内容	スタッフ一人一人の強み・得意な分野を認識していく。 スタッフ同士が互いに吸収し育ちあう集団として成長していく。
3	計画・ねらい	各自が目標設定をしっかりと見据え、課題点を捉えた上でやるべきことを見出していく。
	実践予定内容	目標設定から課題抽出、進捗追いをそれぞれリーダー・ミドル・主任と順を追ってマネジメントしていく。

〈5〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	チームとして園全体の連携体制を強化していく。
	実践予定内容	自ら進んで取り組む姿勢を持つ。アンテナを張り全体の中での自身の動きを「あなたならどうするか」を見据えつつ、「自分で考え、行動する」「自分でできることは自分でする」を大人も実践していく。
2	計画・ねらい	大人同士も互いを認め合い、インクルーシブの意識を持つ。
	実践予定内容	それぞれの強み・弱みを認め合い、インクルーシブの意識の中で育ちあっていく。
3	計画・ねらい	インクルーシブ保育実践内容の発信と共有。
	実践予定内容	併設園の強みを活かしながら、互いの専門性を学び合う。 インクルーシブ保育の考え方や実践内容を、スタッフ一人一人が確りと学びつつ、エリアや業界へとその意義を発信していく。

〈6〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環、環境への意識を育む環境保育の実践。
	実践予定内容	日課としての畑仕事、食材の加工、糞・ごみの堆肥化、命をいただく（捌いて食す）等の経験を通して食の循環・環境への意識を身に付ける。
2	計画・ねらい	「つくば」という地域環境を活かし、遊びや体験につなげていく。
	実践予定内容	自然環境から」科学まで、あらゆる分野での機関が集中する「つくば」ならではの環境を活かし、子どもたちの興味とやってみようとする気持ちの後押しをしていく。

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	15人	15人	18人	18人	18人	90人

〈2〉 開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	11人	事務	1人	栄養士	2人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	2人	補助	1人	用務	1人		

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	園内研修、コンピテンシーによる自己評価、研修報告、共有事項、活動の振り返り
給食運営会議	月1回	給食内容の検討、マニュアル確認、各クラスの状況共有、アレルギーへの対応、食育
事故防止委員会	月1回	事故記録・インシデント・ヒヤリハットの分析、検証、再発防止策
ケース会議	月1回	特別配慮を要する子どもについて情報共有、指導計画
リーダー会議	適宜	活動のねらい確認および具体的計画、共有事項の確認
クラス会議	週1回	翌週の活動計画、子どもへの関わり、配慮等

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	業務報告、共有事項
施設長勉強会	月1回	園運営における質向上のための講義、ディスカッション
食育会議	年4回	園の取り組み報告、マニュアルの見直し、食育に関する課題・目標の共有
保健会議	年4回	衛生管理の統一、感染症等各ガイドンスの共有
主任会議	月1回	園運営・マネジメントにおけるスキルアップ研修
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質向上に向けたスキルアップ研修

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	衛生的改善と疾病の予防、衛生全般の管理、心身の健康状態の管理等
安全対策係	職員の安全に対する意識を高め、施設内において様々な安全点検・対策に取り組む
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理上必要な業務（防火管理業務）を計画的に行う
食品衛生責任者	食品管理に関する業務、食育会議の計画や実践
畑係	畑の環境整備、植物の病気の予防
生き物係	飼育動物の健康管理、環境改善

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者の主体性を尊重しながら準備・活動を共に進める
子育て支援・相談係	子育てに関する相談業務、子育て支援「ちきんえっぐ」開催

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人格形成の基礎となる重要な時期に、十分に養護の行き届いた環境のもと、一人一人と愛着関係を築き、ゆとりのある保育を心がける ・ 一人一人の子どもの自主的な気持ちや意欲を尊重し、子どもの健やかな育ちを保障する ・ 受容的・応答的な関わりのもとで、身近な人と親しみ、関りを深め、人と関わる力の基盤を培う ・ 様々な体験を通して、豊かな感性や創造性の芽生えを育てる ・ 生活に必要な言葉が分かり、身の回りのことを自分でしようとする ・ 簡単な言葉で自分の気持ちを表し、友達や保育者と関わる ・ 生活に必要な習慣や態度を養い、心身の健康の基盤を培う ・ いろいろな運動遊びを通して、生活に必要な動きを身につける
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人格形成の基礎となる重要な時期に、十分に養護の行き届いた環境のもと、一人一人と愛着関係を築き、ゆとりのある保育を心がける ・ 受容的・応答的な関わりのもとで、身近な人と親しみ、関りを深め、人と関わる力の基盤を培う ・ 一人一人の子どもの自主的な気持ちや意欲を尊重し、子どもの健やかな育ちを保障する ・ 生活に必要な言葉が分かり、身の回りのことを自分でしようとする ・ 簡単な言葉で自分の気持ちを表し、友達や保育者と関わる ・ いろいろな運動遊びを通して、生活に必要な動きを身につける
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者の見守りのもと、子どもの本来の姿である遊びが十分にできる環境の中で、一人一人が遊びきった満足感・仲間意識や集団活動の楽しさを感じ、充実感を得られる保育を行う ・ リズム体操、表現遊び、歌遊びなどで自分を発揮し、表現する意欲や協調性・社会性を育てる ・ 素話や絵本・紙芝居等の読み聞かせを通して、聞く力や想像力を伸ばす ・ 動植物を飼育栽培し、体験を通じて自然物や動物の命の大切さ、食の循環に気づく気持ちを養う
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちで考えた遊びに意欲的に取り組む ・ 目的を持ち持続性のある遊びを楽しむ ・ 自分のイメージしたものを様々な方法で表現する ・ 自然界の中での発見や不思議さを体験し、豊かな感性を育てる ・ 自信をもって自己表現する ・ 異年齢で触れ合う中で、互いに刺激を受けあいながら自分たちで問題を解決し、相手の思いに気づくことができるようになる
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼

保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用
運営委員会	年2回	該当なし

〈2〉年間行事計画

- ・ 2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・ 保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	意欲的に食べられる子どもとなる
	実践予定内容	「お腹がすくまで目一杯遊ぶ」「おいしく楽しく食事をとる」「旬を味わう」「国内産・高品質の食材」「日本食・伝統食」を大切に考え、昼食・おやつ・夕食すべて手作りのものを提供する。
2	計画・ねらい	食への関心を広げる
	実践予定内容	子どもたちが自分たちで盛り付け、配膳して食べる。 素材の味を味わえる状態で提供する。 自分たちで「作る」経験をする。 収穫したものを調理して提供する。 行事食・郷土食などとふれあい、伝統文化を知る。
3	計画・ねらい	食の循環を知る
	実践予定内容	自ら育てた作物を食する、命をいただく（捌く・解体する）体験を通して自然の恵み、食の循環を知る。 糞・ごみの堆肥化から、そのサイクルを知る。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・12月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	うがい・手洗いの励行 歯磨き指導 温湿度管理 SIDS予防チェック

	命の大切さ（5歳児）
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 11月頃～・・・インフルエンザ、胃腸炎等
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・2名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 セレスタミン・・・2名より預かり済み／キャビネットにて保管 オロバタジン・・・1名より預かり済み／キャビネットにて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在25名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員1名については4月までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在25名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員1名については6月までに受講予定
その他保健に関する取組	5歳児対象に性教育指導 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月

	身長体重測定	毎月1回/20日
	児童健康診断	内科健診 年2回/6・11月 歯科健診 年2回/6・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもが安心できる環境を作る
	実践予定内容	安全を基本に、物的環境・社会環境・人的環境を整えていく。子どもたちが必要とする環境（例えば思い切り身体を動かせる広さ、教材や素材のストック、自然との触れ合い、子どもにとっての安心基地がある、安心基地となる等）を職員間でしっかりディスカッションし、深め、共通認識を持つ。
2	計画・ねらい	創造的で自由に発展させられる環境を作る。
	実践予定内容	一つの事象に対し、それがどう発展させられるか保育者自身が想像し、あらゆる角度から準備を進めていく。子どもたちと一緒に楽しみつつ、子どもたちの目線に立ちながら環境をアップデートしていく。また、その角度を広げるための研修等にも積極的に参加し、スキルアップを図る。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	なし		
2			
3			

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	〈ケガ事故防止〉 危機管理マニュアルに則り、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに
---	--------	----------------------------------------------------------------------------------

		従う。
2	実践予定内容	<p>〈防災〉</p> <p>危機管理マニュアルに則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・救命救急資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う。</p>
3	実践予定内容	<p>〈防犯〉</p> <p>危機管理マニュアルに則り、不審者侵入訓練の実施・笛の携帯・代理送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う。</p>
4	実践予定内容	<p>〈光化学スモッグ〉</p> <p>危機管理マニュアルに則り、光化学スモッグの知識を身に付け、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する。</p> <p>つくば市においては、「光化学スモッグ注意報」が発令された場合には市役所から保育園・幼稚園・義務教育学校・公共施設・駅・郵便局等に情報を流し、運動の自粛や看板の設置などの対策をとっている。人体への影響が心配される場合、光化学スモッグ警報が発令される。「光化学スモッグ注意報」連絡体制に伴い、香取台どろんこ保育園でもそれに従い、発令中の間の外出を自粛する。</p>

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉 今年度方針・テーマ

次世代育成の観点から、積極的に受け入れを行い、実習生や児童生徒一人一人の様子に合わせて具体的かつ家庭的に援助・指導を行う。

1	実践予定内容	小中学生の体験学習の受け入れ
2	実践予定内容	養成校の実習受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修  <p>←避難訓練研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・子どもの人権・虐待防止	人権について考え、問題点の改善をはかる 子どもに対する見方、捉え方を学ぶ
5月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② さくらさくらんぼリズム	実技の確認とともに、指導法のヒントを探る
6月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 夏の感染症予防・危険生物植物	感染症について学び、対策・防止策を考える 生活の中で遭遇する危険生物や植物の知識を共有し、事故防止に繋げる
7月18日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ゾーン保育・環境について	室内環境の見直し ゾーンの組み方・整理整頓のライン共通理解
8月22日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 行動分析	一人一人の行動・特性の分析による対応共有
9月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 利用者アンケートについて	利用者アンケートを受けて、園の課題点の洗い出し・是正計画を行う
10月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点	室内環境の見直し

	0	② ゾーン保育・環境について	ゾーンの組み方・整理整頓のライン 共通理解
11月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 冬の感染症について	冬の感染症について学び、対策・防止策を考える
12月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② プロポーザルに向けて	法人理念、保育所保育指針、策定会議の意義の理解
1月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② レジリエンス	耐性について学ぶ（含むメンタルケア）
2月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年度振り返り	一年を振り返り、それぞれの課題・園の課題を考える
3月	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度に向けて	課題への共通理解や協同性を高め、目標を設定し計画を立てる

エリア研修予算内訳（万博公園どろんこ保育園合同開催）

開催日	開催時刻	名称・予算		会場
6月22日	9:00~12:00	救命救急講習	0円	香取台どろんこ保育園
6月29日	9:00~12:00	救命救急講習	0円	香取台どろんこ保育園

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日~30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											

デンマークインターンシップ

希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

多様化する保育ニーズにより、地域に開かれた社会資源として、専門的機能を地域のために活用する。小学校訪問、地域の商店街や官公庁との繋がりをひろげ、地域に根差した保育園になるように密接に連携していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：吉祥公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域行事参加
異年齢交流	小学校訪問 他園との交流 中学生の体験活動やボランティアの受け入れ 日々の生活の中で、クラスで分けることなく異年齢で共に過ごす
地域拠点活動	ちきんえっぐ 青空保育 園庭開放利用者には積極的に誘い掛け、行事参加やちきんえっぐの広報に努める

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

幼保小連携での関係性を深め、なめらかな接続を目指す。相手を理解し、相手から学ぶという姿勢を大事にしながら、子どもたちの育つ力・学びの連続性を共通の相互理解目標としていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
4月頃	高山学園島名小学校	7名予定	組織作り	職員間交流
5月頃	香取台小学校	18名予定	運動会見学	子ども間交流
2月頃	香取台小学校	18名予定	一日学校体験	子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

個別の保育計画を立案し、全職員で具体的な対応を共有しながら園全体で取り組む。保護者との面談を重視し、子どもの成長発達を同じ視点で見られるようにする。また、関係機関と連絡を取り、できるだけ幅広い情報を収集して対応を考えていく。

他児との育ちあいの視点で考え、社会の中で生きていくための手立てを援助する。その子の発達の偏りを理解し、伸びる部分をより伸ばすことでほかの力も育つよう援助を行う。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：園会議出席者)

担当・保護者等、特に配慮の必要な事例や気になることを職員間で共通理解を図り、支援していく。発達支援センター「つむぎ」との連携も視野に入れていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

看護師や担当保育者へ丁寧な引継ぎを行う。小学校へは必要な場合保護者の同意を得て、教育委員会への相談を行い、安心して通える状況を構築する。

11. 子育て支援事業

園に訪れた親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	月2回(火) 10:00～12:00

どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月1回（火）10:00～12:00
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：吉祥公園にて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年12月27日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：13時30分

自己評価終了予定時刻：14時30分

自己評価実施予定者：施設長及び当日出勤の全職員

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	子ども、スタッフ、保護者、地域の方々、皆が安心できる拠り所を目指す。
	振り返り	大人も子どももインクルーシブを念頭に、互いを認め合い分かり合おうと奔走した1年となった。地域に対しては知っていただくという点においてコンタクトをこまめにとっていたが、次年度は理解度を深めていただけようその波をより広げていけるようスタッフ一人一人の意識を高めていく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	育ちあえる場としての心理的・環境的支援の提供の充実を図る。
	重点施策	子どもの成長を支える保育と支援。 各自の強みを活かし、互いに認め合える存在となる。 インクルーシブ保育の理解をエリアに広げていく。
2025年度	目指す姿	地域に貢献できる施設となる。
	重点施策	質の高い保育と支援。 園や地域、様々なコミュニティ、多様な人々の中で、自分がやりたいこと・できることを見つけ出していく。
2026年度	目指す姿	地域をリードできる施設となる。
	重点施策	保育士・専門士それぞれが互いのスキルを学び合い、インクルーシブ保育の質の向上を目指す。 地域との交流、連携を積極的に行い、地域の保育施設全体をけん引していく。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：香取台どろんこ保育園 施設長 篠崎 理恵

2024年度 東大和どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

- (1) 今年度より始まる児童発達支援センターと認可保育園の併設施設である東大和どろんこ保育園では、すべての子どもたちが人とのつながりの中で育まれていく様々な体験を通して、生活力を高め、皆で育ちあう施設を目指す。
- (2) 「にんげん力。育てます。」という法人の子育て理念に基づき、保育を展開する。
にんげん力とは何か。生涯にわたって意欲をもち、逆境にも耐えうる力を身につけ人生を歩んでほしいと願うとき、これからの時代を生きていく子どもたちに必要な力とは、大人の言うことをきちんと聞ける力ではなく、ルールを理解せず守る力でもない私たちは考える。自分の意見をきちんと伝え、人の意見にも耳を傾けられる力であり、ルールは守るものではなく作っていくことができる力である。
また、生活力を身につけ、子どもたちが力強く社会を生き抜いていける土台を作っていく。その土台を作る大切な時期に、私たちは人とかかわる力や感情をコントロールする力を身につけられるような保育環境を整えながら、子どもたちにホンモノの経験を提供していくことこそが必要なことであり、にんげん力につながると考える。指示、命令を子どもに行うのではなく、子どもたちの気持ちに寄り添い、見守り、大人が背中を見せて、自分で選び自分で決める経験の積み重ねができる園を作り、保育を展開する職員集団を目指す。
- (3) 東大和どろんこ保育園は発達支援つむぎ東大和ルームに併設され、日本ではじめてのセンター型発達支援施設であり、初めての取り組みの中での共同生活となる。
併設されている環境を最大限に活かしながら、子どもも職員も、保育園、つむぎということに左右されず、すべての子どもたちが主体的に活動し、失敗から学び、大人は背中を見せて、保育、支援を行っていく。
保育園、発達支援センターの環境をフラットにし、どの職員でも対応しかかわっていただける保育を行っていく。そのために必要な環境構成や人員配置の徹底した仕組みづくりを整えていく。そして職員は、すべての子どもたちが日本を支える人材として育っていくことができるようにしていく使命感を持ち保育、支援にあたる。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

- ・生活力を向上させるために、必要な知識を身につけられるようにスタッフの教育力が不可欠と考える。保育者の言葉がけ、ホンモノの体験ができる環境設定を保育に取り入れていく。
- ・非認知能力が育まれる環境構成。スタッフの関わり。
- ・障害特性で決めつけない。

1	計画・ねらい	丁寧な保育の実践 人権：大人も子どもも一人の人として尊重され、居場所がある。
	実践予定内容	子ども扱いするような保育ではなく、思いやりを持った丁寧なかかわりをする。 人権について学びを深める。 障害の有無にかかわらずその特性を見極め、決めつけず、最善の利益を追

		<p>求する。</p> <p>子どもに対してきちんとした日本語で話をする。きれいな言葉づかいで話すとともに、職員の丁寧な所作も気を配り生活する。</p>
2	計画・ねらい	10の姿の理解を深め実践していく。
	実践予定内容	保育所保育指針の理解と実践を行う。その中で10の姿を意識しねらいとした保育内容の充実を図る。
3	計画・ねらい	インクルーシブ保育の実践と充実を図る
	実践予定内容	<p>発達支援センターつむぎとの併設園である強みを最大限に活かし、混ざり、認め合い、大人も子どもも環境も。“分けず”に全てが混ざり合った活動・環境を整える。</p> <p>子どもがやりたい遊び、経験を自分で考え、自分で決め、自分で行動できるよう援助し見守る。</p>
4	計画・ねらい	保育者・職員は常に温かくポジティブな養育を目指し、共感力を身につける。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに対しポジティブな態度を示す。（きちんと向き合う。否定的な態度をとらない） ・子どもの成長発達を正しくとらえ、常に発達にあった保育環境を提供する。 ・子どもの発声、発音にその都度応答したり、質問したりする。 ・子ども自身のほほえみや、笑うことを引き出し、促していく。 ・指示するのではなく、子どもが発するサインに答えていく。 ・目先の出来栄を追うのではなく、子どもの心を育てる保育を徹底する。 ・子どもの思いや気持ちに寄り添い、共感することができる保育を徹底する。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	<p>最高の子育てパートナーとなる。子育てが楽しいと感じられるような子どもを中心に置いた保護者支援を目指す。</p> <p>保育園の様子が分かるような発信力をプロの目線で展開していく。相手の立場にたったかわり。保護者と一緒に成長していける子育てのパートナーになる。</p>
	実践予定内容	<p>子育ての楽しさや成長、喜びを互いに感じられるような支援や情報提供をしていく。</p> <p>保護者の方に、元気や希望がわいてくるような最高のお迎え対応を目指す。</p> <p>相手の立場に立った対応力をつけるための研修を行う。</p>
2	計画・ねらい	どろんこサポーターズを募り、保護者同士がつながりを持てるような活動をする。
	実践予定内容	どろんこサポーターズとともに、保護者がいきいきと、子育てに積極的にかかわれる場を増やし、かけがえのない保育園時代を楽しんでいただける場や環境を提供し、職員と保護者、地域で子どもを中心に置いた子育てを

		展開できるようにする。 特にどろんこ祭りは保護者とともに作り上げ、横のつながりも大切にした取り組みとなるよう工夫する。
--	--	----------------------------------------------------------------

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域子育て支援事業の実施
	実践予定内容	子育て支援事業としての定期的な取り組みを行う。 同じ年代や子育て世代の横のつながりを深められるような場の提供となるようにする。
2	計画・ねらい	ちきんえっぐという場を知っていただき、気軽に利用していただけるプランを立て、広く周知できるように情報発信をしていく。
	実践予定内容	ヤギの餌やり、園庭解放。 青空保育や、散歩先でチラシを配布し周知する。 自然食堂、芸術学校の実施。
3	計画・ねらい	孤立する子育てを少しでも減らせるような場として「地域に開かれた子育て支援」ができる園を目指す。
	実践予定内容	子育て相談、保育園体験、寺親屋の開催。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	インクルーシブ保育を学ぶ。
	実践予定内容	園長大学®・保育士大学の講座を視聴し、法人が目指す真のインクルーシブ保育を追及する。 自園のインクルーシブ保育の実践の中でインクルーシブ保育の良さを収集し、さらに実践の場で活かせるよう研究する。 保育、療育ともにお互いの知識を学びあい、理解しあう。(個を見る力、集団を見る力) 大人のにんげん力向上のために、学びあえる集団を目指す。
2	計画・ねらい	子どもにかかわるすべての職員が丁寧な保育を実践できる職員を育成する。
	実践予定内容	園長大学®・保育士大学の講座を視聴し、ディスカッションを行いながら全員が丁寧な保育を実践できるようにする。 一人一人に寄り添う丁寧な保育とは何か自身で常に振り返り、園内研修等で学びあい、子どもの最善の利益を追求する。
3	計画・ねらい	子どもの人権を学ぶ。虐待防止について学び徹底した対応をする。
	実践予定内容	子どもの人権をしっかりと学び、子どもを保育することはどういうことなのか、大人の都合で子どもたちに接していないか、子どもに、一人の人間として応対しているか、子どもの心を傷つけていないか、日々常にプロの保育士としての誇りと責任を感じて保育に当たれるようにする。 年に2回の法人人権チェックのほかに、年4回自己チェックする。 虐待防止については、虐待の定義を意識し、大人都合である保育を行って

		いないかをしっかり学び、子どもの人権を考えた行動がとれる職員集団を目指す。
4	計画・ねらい	生活力とは何かを学ぶ。学びを保育の現場で実践する。 非認知能力が育まれる環境構成を学び、ととのえる。
	実践予定内容	子どもたちが、生きる力、生活力を身につけるために自分たちが実践していくべきことは何かディスカッションし、自分自身の頭で考え、失敗を恐れず行動し実践していける力をつける。 大人も主体性をスローガンに、自律した集団を目指す。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	生きる力をはぐくむために今行うべきことは何かを考え、そのために整えるべき環境は何かを考えられる職員集団となる。
	実践予定内容	園児が自己選択すべきことは何かをディスカッションし、そのために必要な環境とは何かを考える。
2	計画・ねらい	大人が教えなければならないこととは何かを考える。そのために必要な人的環境、物的環境とは何かを学ぶ。
	実践予定内容	園スタッフ自身のにんげん力を育てる。子どもたちののにんげん力をはぐくむためには大人のにんげん力(人的環境)が大切であることを学ぶ。 おとなが主体的に動く。自分自身が環境であることを自覚する。
3	計画・ねらい	法人が大切にしている日課について考えた時、なぜ子どもとともに畑仕事をし、ヤギ鶏の小屋掃除・糞の始末をするのか。そこに付随する人的環境、物的環境について考えられる意識を身につけ語れる職員となる。
	実践予定内容	食の循環についての意識を高める。

〈6〉真のインクルーシブ保育を実践する施設づくり

1	計画・ねらい	個々の発達に合わせた個々への配慮と支援を行っていく。
	実践予定内容	発達の早い子ども、緩やかな子ども、その子の豊かな生活を願ってその先につながる支援を行っていくことを意識できる職員集団となる。 分けない、大人がぴったりつかない、子ども同士のやり取りを通して情動のコントロールや、判断力を身につける。それはすべての子どもに対して平等にある権利であると考え。
2	計画・ねらい	要支援児、つむぎ利用児、保育園児等、形態にとらわれず、子ども同士のつながりを大切にする園づくりをする。
	実践予定内容	発達支援センターであり、保育園でもあるという日本で初のインクルーシブ

		<p>ブ保育であることを活かし、保育園、つむぎという枠を取り払い、園児も、つむぎ利用児も分け隔てなく、全職員が保育、支援にあたる。</p> <p>またそのかわりについて共有を密に行い、一人一人の把握ができ、一緒に丁寧な対応ができる施設づくりをする。</p> <p>そのために真のインクルーシブ保育とは何か、混ざり合うとはどのようなことなのかを、インクルーシブについての園内研修を行い追求し、職員の意識をさらに高めていけるようにする。</p>
3	計画・ねらい	インクルーシブの良さを職員が自らの口で語れる集団を目指す。
	実践予定内容	<p>見学者や施設の取材等、外部からの質問や保護者への発信を、実践の中での取り組みやインクルーシブであることでの良さを心から感じたことの中からできるようにする。</p> <p>園内研修等で語り、職員同士で取り組みの中で感じた喜びを話し合いの場で共有しあいさらにインクルーシブ保育を深めていけるように取り組んでいく。</p>

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
0人	16人	16人	16人	16人	16人	80人

〈2〉 開所時間

7時00分～19時30分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	15人	看護師	1人	栄養士	4人	バス運転手	1人
パート スタッフ	保育士	2人	補助	2人	事務	1人	用務	1人
	嘱託医	1人						

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	当月の行動計画の成果発表 / 園内研修 / 次月の行動計画決定
給食運営会議	月1回	食育計画策定 / 食育活動実施内容 / 喫食状況確認 / 検食簿指摘事項改善 / 配膳方法など
事故防止委員会	月1回	自園及び系列園で起きた事故のケーススタディと改善策策定 / 全園事故防止委員会での内容共有 / 当月のヒヤリハット・インシデント分析
ケース会議	月1回	要支援児個別計画の振り返り及び省察 / 要支援児個別計画の見直し
幼児会議	週1回	幼児クラスについての情報共有
乳児会議	週1回	乳児クラスについての情報共有

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人からの連絡及び経営Visionとの接続
施設長勉強会	月1回	マネジメント・コンプライアンスなど。課題改善計画立案及び取り組み成果発表
食育会議	年4回	献立内容の改善・提案 / 給食提供マニュアル及び運用ルールの作成・見直し / 食育計画策定
保健会議	年4回	感染症対策ガイドラインの作成、改善 / 保健計画策定
主任会議	月1回	各園の課題改善アクションプランの進捗確認と共有 / マネジメント研修
子育ての質を上げる会議	月1回	マネジメント・コンプライアンスなど。課題改善計画立案及び取り組み成果発表

〈3〉 各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	園舎、職員、園児衛生全般の改善と感染症予防対応、衛生管理全般の管

	理。掃除チェック表管理・細菌検査とりまとめ・予防接種把握・身体測定などを行う。
安全対策係	様々な災害を想定した訓練実施。施設内避難経路の管理点検設備点検チェック、事故防止チェック、防災自主点検、不審者侵入訓練を計画し実施する。
防火管理者	防火管理に係る消防計画を作成し、防火管理上必要な業務（防火管理業務）を計画的に行う。
食品衛生責任者	食育会議の計画や実践。食品の安全に関する管理や啓蒙をする。
畑係	畑の管理をする。
生き物係	生き物に関すること全般。

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭り実施に関わる取りまとめをする
運動会係	運動会実施に関わる取りまとめをする
生活発表会係	生活発表会に関わる取りまとめをする

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して過ごすことができる環境を整える。 ・どんなことも気持ちを受け止め共感する。 ・笑顔や笑いを引き出す保育を展開する。 ・様々な行動や欲求に適切に応え、身近なおとなとの情緒的な絆を形成する ・活発な探索活動を楽しみながら、様々な感覚が育つ ・身近なおとなや、少し大きい子どもとの日常の中で、身近にいる子どもを見て学び、感情を十分に表現し、大人に見守られながら健やかにのびのびと育つ ・生活の中の様々なあそびや、身近なものとの関わりを通して感性が育つ ・園児同士の関わり合いの中で身近な人と気持ちが通じ合う。気持ちのぶつかり合いや、モノの取り合いなど、さまざまなやり取りを通し、気持ちを立て直す中で、関係の基礎、コミュニケーション力の基礎、非認知能力の基礎が育つ。
------	--------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>下半期 0～1歳児</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自我形成の時期で、他者を認め始める時期に当たるので、異年齢での活動、たくさんの大人との関わりを十分に受け入れ0歳児1歳児共に活動する時間を増やしていく。 ・とにかく気持ちを受け止める保育者がそばにいることを実践する。 ・保育者も一緒に遊び、遊びのバリエーションや、展開のヒントを率先してみせることで生活の中の様々なあそびや、身近なものとの関わりを通して感性が育つ。 ・園児同士の関わり合いの中で身近な人と気持ちが通じ合う。気持ちのぶつかり合いや、モノの取り合いなど、さまざまなやり取りを通して、気持ちを立て直す中で、関係の基礎、コミュニケーション力の基礎、非認知能力の基礎が育つ。
<p>幼児保育</p>	<p>上半期 3～5歳児</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な経験や遊びを通して道具の使い方や、工夫などができ、生活を豊かにできるような生活力を身につける。 ・毎日の生活やあそびの中で、基本的な生活習慣や運動が心地よい感覚として身につく ・友だちとの関わりを通して、自分の気持ちを言葉や行動で表現し熱中してあそぶ ・遊びたいものを自分で選択し、道具や玩具をいつでも手に取って使える環境の中で思いきり遊ぶ ・園児同士の関わり合いの中で人間関係、コミュニケーション能力を身につける ・自分の要求や思いを言葉や行動で相手に表現しながら、他者を受容する感情が育つ ・生活やあそびの中で、達成感や充実感を味わう経験をし、目標に向かって友だちと力を合わせて活動する ・遊びの中で様々な経験を通して、思考力、判断力、表現力を身に付け、結果ではなく、その過程での取り組みを、しっかりと見守られながらのびのびと遊ぶ
	<p>下半期 2～5歳児</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な経験や遊びを通して道具の使い方や、工夫などができ、生活を豊かにできるような生活力を身につけたことが定着する。 ・5歳児の午睡が終了し、2歳児が幼児クラスに合流するので、手伝いや当番活動の充実を図る。 ・10の姿を、卒園する時期の子どもの育ちに照らし合わせながら成長を見守る ・友だちとの関わりを通して、自分の気持ちを言葉や行動で表現し熱中してあそぶ。 ・自分の要求や思いを言葉や行動で相手に表現しながら、他者を受容する感情が育つ ・生活やあそびの中で、達成感や充実感を味わう経験をし、目標に向かって友だちと力を合わせて活動する ・遊びの中で様々な経験を通して、思考力、判断力、表現力を身に付

		<p>け、結果ではなく、その過程での取り組みを、しっかりと見守られながらのびのびと遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失敗してももう一度挑戦してみようとする気持ちが育つような配慮をする ・就学に希望を持ち卒園できるようにする。また在園児は5歳児の姿を見て進級に見通しを持てるようにする。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

- 給食運営会議・食育会議を通じ、子どもが楽しく食事ができる環境を設定していく。
- 日常の生活に密着した食育を深く考察し、実践する。
- 分かち合う事の素晴らしさや、大切さを感じられるよう工夫する。
- 食品の加工や命をいただく経験から食の循環を知る。

1	計画・ねらい	友だちや身近なおとなと親しみを持って、好きな場所で、好きな人と、自分の食べられる量を、楽しい時間空間の中で食べる
	実践予定内容	バイキング方式を実施。大人が決めすぎない設定の中で食事ができる環境づくりをする。楽しく食事ができ、食べることを楽しめるような工夫をする。
2	計画・ねらい	食の循環を知る。命の大切さを学ぶ。
	実践予定内容	コンポストづくりを行い、土にかえったものを使って畑活動をする。命をいただく経験ができる取り組みを行う。梅干しづくり、ケチャップづくり、味噌づくりなど、食べ物を加工したり発酵させたりしていろいろな食べ物の循環を知ることができるようにする。
3	計画・ねらい	食べ物の種を採取し、種から栽培し収穫する。
	実践予定内容	苗を植えるのではなく、できるだけ種を収穫し、発芽させる体験ができるようにする。発芽したものを適切に植えて、野菜や果物の成長を見ることで、収穫する

		喜びを感じるとともに、食べ物の種に興味を持ち研究しようとする意欲を高めていく。
--	--	-----------------------------------------

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（5月・11月） 0歳児検診 毎月1回実施
歯科検診	年1回（7月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導・うがい歯磨き指導・鼻のかみ方指導
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 5～7月頃・・・ヒトメタニューモウイルス、RSウイルス、アデノウイルス、手足口病 12月頃・・・インフルエンザ、感染性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	未定
エピペン使用できるスタッフ	本日現在名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	AED未設置
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。子どもたちおよび、スタッフがこまめに手洗いうがいをするよう徹底する。消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日

	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年12回／実施月未定 歯科健診 年1回／実施月未定
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

子どもたち自身の生活やあそびは、乳幼児の成長発達を的確にとらえ、その都度発達に即した環境や遊びを展開できるように整えていく。遊具は継続的に点検・整備改善を行い、ゾーンの確立と展開のために、園庭、園内環境をしっかりと整備設置していく。また生活力向上に必要な道具や環境を都度見直し整えていく。

1	計画・ねらい	子どもたち自身が主体的に選べるように環境設定をする。 生活力を上げるために必要な道具の補充や、検討をする。
	実践予定内容	環境設定を園会議時に話し合い、実践共有しまた実践していけるようにする。子どもたち自身が主体的に選べるような環境設定とは何か、発達に応じた玩具の配置は何か必要か、生活力を上げるために必要な環境や道具は取り揃えてあるか、を話し合いながら、今、必要で、最適な環境を整えていく。
2	計画・ねらい	園長大学®・保育士大学による環境構成についての講座を受講する。
	実践予定内容	受講した内容を園内研修の場で学びあい、人的環境・物的環境について今最善の環境を検討する。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

未定

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	防災…危機管理マニュアルNo.3の災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛防災…危機管理マニュアルNo.3の災害対策（P. 12～）に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う
2	実践予定内容	ケガ事故防止…危機管理マニュアルNo.3のけが事故防止策・安全点検と保全（P. 14～）に則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、S I D S防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従う。
3	実践予定内容	防犯…危機管理マニュアルNo.3の不審者対策（P. 20～）に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う。
4	実践予定内容	光化学スモッグ…危機管理マニュアルNo.3の光化学スモッグ対策（P. 21～）に則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する。
5	実践予定内容	防災…危機管理マニュアルNo.3の災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛防災…危機管理マニュアルNo.3の災害対策（P. 12～）に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う
6	実践予定内容	ケガ事故防止…危機管理マニュアルNo.3のけが事故防止策・安全点検と保全（P. 14～）に則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、S I D S防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従う。
7	実践予定内容	防犯…危機管理マニュアルNo.3の不審者対策（P. 20～）に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う。

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修 (年1回) ■園内研修 (月1回以上) ■保育スキル研修 (エリア別) ■リーダー養成研修 (9~2月) ■業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会 (月1回) ■デンマークインターンシップ (年1回) ■コンピテンシー自己採点 (月1回) ■人権チェック (4月・10月) ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

次世代育成の観点から、積極的に受け入れを行い、実習生や生徒の一人ひとりの様子に合わせて具体的かつ家庭的に援助・指導を行う。中高生の体験学習の受入、保育養成校の学生の実習受け入れ、次世代の子育て保育に携わる人材育成ととらえ、丁寧に受け入れ、指導する。

1	実践予定内容	保育が楽しいと思える保育実習の場を提供する。
2	実践予定内容	自分が思い描く保育士像に希望が持てる体験を実践する。 職員が思いやりとプロとしての意識をきちんと見せられるようにする。
3	実践予定内容	実習を終えて、より具体的に保育士として働くイメージをもって、どろんこ会で働きたいと思える実習生を増やす。

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日 (金)	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②人権チェック・虐待防止 ③接遇、電話マナー研修 ④さくらさくらんぼリズム ⑤散歩研修	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人権の保障 ・人権チェックを行い、虐待防止について考える ・電話対応マナー、接遇について学ぶ ・日課の理解 ・散歩のロールプレイ

5月24日 (金)	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②アレルギー対応、与薬について ③I Oの姿	・アレルギーについての基礎知識や、対応方法について学ぶ。与薬方法について確認をする。 ・保育所保育指針のI Oの姿の理解を深める。
6月28日 (金)	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②水の事故防止 ③危機管理、災害時の対応 ④人権	・水の事件事例検証と事故防止について学ぶ ・危機管理意識について、災害時の対応、ロールプレイ ・丁寧な保育
7月26日 (金)	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②児童発達支援ガイドライン・保育所保育指針を学ぶ ③環境	・ガイドライン・指針の学び ・児童発達支援ガイドライン・保育所保育指針について理解を深める ・環境、ハザードマップ見直し
8月23日 (金)	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②小学校教育要領の学び ③スタッフ研修(テーマはスタッフが決める)	・学校指導要領・特別支援教育について最新の動向を学ぶ。I Oの姿についての理解も深める。 ・スタッフ同士で自らの知識、経験、技術のアウトプットをする
9月27日 (金)	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②保護者支援 ③全体研修	・保護者が感動をするような支援・関わり、保護者支援について学ぶ ・全社員への研修動画を視聴し、感想や意見を交換する
10月25日 (金)	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②アプローチカリキュラムを学ぶ ③感染症対策 ④インクルーシブ保育	・アプローチカリキュラムを学び、支援への取り入れ方を具体的に考える ・季節性の感染症の特徴、感染経路、予防方法などを学ぶ ・半年の保育の振り返り
11月22日 (金)	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②危機管理・安全・環境構成 ③就学支援シートについて	・施設環境構成の見直し・検討・改善。子どもが経験を選択できる環境構成を行う。 ・就学支援シートの書き方、就学先の把握、近隣小学校の見学など
12月27日 (金)	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②スタッフ研修(テーマはスタッフが決める)	・スタッフ同士で自らの知識、経験、技術のアウトプットをする
1月24日 (金)	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②今年度振り返り(支援内容や事業計画の取り組みなど) ③次年度支援方針・支援目	・今年度の振り返りと、次年度の支援方針や支援目標を設定する。 ・事業報告と次年度事業計画の内容について、意見を出し合う。

		標決め	
2月28日 (金)	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②スタッフ研修(テーマはスタッフが決める) ③一年間の振り返り(個人や係など)	・スタッフ同士で自らの知識、経験、技術のアウトプットをする ・個人や係などで一年間の振り返りを行い、次年度に向けた計画を立てる
3月28日 (金)	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ②次年度に向けた話し合いや準備	・次年度準備

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修(子育ての質を上げる会議)	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日~30日までの間に録画視聴(全スタッフ対象)											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デノマークインターソップ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に新しくできる発達支援センターとの併設保育園としてまず保育園の存在を知ってもらうとともに、子育て支援センターなど地域の方に開放し、行っている行事など多くの方々に利用していただけるように計画し実践する。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：東大和南公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域の方との交流を行う。
異年齢交流	隣接する東大和市立第八小学校との交流を実施し、小学校を知る機会を設ける。
地域拠点活動	園児保護者の保育参加の随時受け入れ、保護者との共同によるどろんこ祭りの開催を行う。 ちきんえっぐにて園庭開放や給食体験など地域の方に利用していただくイベントを実施する。 また、地域にお住いの保護者とそのお子さんを対象に子育て相談の対応や子育てサークルの支援を行う。
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

東大和どろんこ保育園に隣接する東大和市立第八小学校と連携を図りながら、小学校へのスムーズな移行ができるようなアプローチカリキュラムを作成する。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月15日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	第八小学校	1名	幼保小連携会議	協議会
6月	近隣小学校	3名	職員間交流研修(授業参観)	見学・
8月	近隣小学校	5名	職員間交流研修(園内見学)	見学・協議会
10月	第八小学校	5名	運動会见学	見学

9月頃	第八小学校	1名	幼保小連携会議	協議会
2月	第八小学校	16名	給食交流会	参加・交流
2月	第八小学校	16名	1年生との交流会	見学・交流

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

特別な支援が必要な乳幼児については、個別に保育計画を作成し、家庭や関係機関と連携しながら、計画的・継続的に一人ひとりに応じた保育内容や配慮を实践する

〈2〉 毎月のケース会議開催

4～3月に計12回開催予定 参加者：毎月20名予定

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

併設園としての特性を生かし、職員間での共有や小学校との連携をしっかりと行い、情報共有していく。

11. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：東大和南公園にて開催

12. 園運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年11月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：9時00分

自己評価終了予定時刻：12時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任、当日出勤のスタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3.3 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	保育所保育指針10の姿の読み解き、プロジェクト型の保育展開、インクルーシブ保育のさらなる定着化
	振り返り	園内研修で1年かけ10の姿を学び、保育の中でどのように展開していけばよいのか、着眼点はどこなのかなど学び保育の場で意識することができた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	「丁寧な保育・支援が確立され、全員が主体的にインクルーシブ保育へチャレンジしていく。」
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に欠かせないものを自分でできるようにする→そのためのスタッフの教育力。保育者の言葉がけ、ホンモノの体験ができる環境設定を保育に取り入れていく。 ・非認知能力が育まれる環境構成。スタッフの関わり。 ・障害特性で決めつけない。 <p>○丁寧な保育の実践</p> <p>人権：大人も子どもも一人の人として尊重され、居場所がある。</p> <p>環境：子どもがどのような力を育てたいかの願い、ねらいがある環境設定。</p> <p>日課：日課を通して生活力が育まれる保育とそれに必要な環境設定。</p> <p>教育：10の姿、アプローチカリキュラムの理解を深め、実践していく。</p> <p>保護者支援：保育園の様子が分かるような発信力をプロの目線で展開していく。相手の立場にたったかわり。保護者と一緒に成長していく。子育てのパートナーになる。</p> <p>○インクルーシブ保育</p> <p>混ざる(認め合う)：大人も子どもも環境も。“分けず”に全てが混ざり</p>

		<p>合った活動・環境。子どもがやりたい遊び、経験を自分で考え、自分で決め、自分で行動する</p> <p>学び：保育、療育ともにお互いの知識を学びあい、理解しあう。(個を見る力、集団を見る力)。大人のにんげん力向上のために、学びあえる集団。</p> <p>発信：どろんこ会のインクルーシブ保育を社内、地域、関係機関等へ発信をしていく。ブログ、創園、SNS、社内会議、勉強会…</p> <p>育成：新人への教育を丁寧に行う。どろんこ会のインクルーシブ保育を語るスタッフの育成。スタッフを育成できる人材の育成。</p>
2025年度	目指す姿	「インクルーシブ保育が根付き、選ばれる施設になる。地域、社内、など外部への発信を広げ、インクルーシブ保育のモデル園として認知される。」
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・混ざり、認め合う環境と関係の構築 ・保育園もつむぎも定員を満たしている。 ・インクルーシブ保育を実践するリーダー層の育成。 ・地域コミュニティの拠点になる。 ・どろんこ会の運営方針に沿った保育が実践され、研修の拠点施設になる。
2026年度	目指す姿	「日本のインクルーシブ保育のモデル園として確立する。」
	重点施策	主体的に考え、学び、動く＝自律したプロの集団。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：東大和どろんこ保育園 施設長 宮澤 叙栄

2024年度 見附どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

新潟県内で2園目となる「見附どろんこ保育園」は発達支援事業所「つむぎ見附ルーム」を併設し、県内初の保育所と発達支援事業所が同じ敷地内でインクルーシブ保育・支援を行う施設としてスタートする。

法人創設者の「保育業界に課題を感じ、日本の保育を変えたい。」という思いを実現するため、人口減少が加速している地方にも、あえて新規開設していく理由を心に刻み、質の高い保育を目指して、この地での役割を確立していく。

米どころ新潟の真ん中に位置し、園庭の先には広大な田園風景が広がっている。そんな雄大な自然環境を活かし、乳幼児期に必要とされる本物の体験の機会を創出し、子どもたちの「いきる力」を育む保育を追求する。子どもたちにとっては、その一日一日が成長の過程であり、重要であることに鑑み、日課活動の充実と自分で選択できる保育環境を整備する。0歳児から5歳児までが混じり合い、共に過ごす中で共感や葛藤を体験し、卒園頃までには保育所保育指針「就学までに育みたい10の姿」へと成長する保育を目指す。

さらに園は地域の社会資源であり、子どもたちと積極的に外に出向き、地域との交流の機会を持ち、地域に溶け込んでいきたいと考える。

開園初年度は全スタッフがチームとなり、保育の安全管理の土台を作り、子どもたちに必要な豊かな体験を保障する。そのために、子どもたちに育みたい「いきる力」と同様に、スタッフ自身の「いきる力」も育み、試行錯誤で進んでいくとともに、一人ひとりのスタッフの異なる経験が活かされ、同じ方向を目指してチームとして、スタートする。

見附どろんこ保育園 【園目標】 ※2024,2,21策定会議にてスタッフで決めた目標

- 「自分らしく、やりたい事にチャレンジ」
- 「遊びから好きな事を見つける、豊かな体験」
- 「ワクワクから、好きな事を見つけよう」

スタッフ共有キャッチフレーズ

「個の力をチームの力に変える」

〈1〉保育内容の充実・質の向上

初年度はまず、組織づくりを念頭に置き、保育所保育指針を軸に、どろんこ会の方針への理解を深めスタッフ間の共通理解を図る。子どもの主体性を育む保育とは何かを理解し、日課活動の定着を図ることで保育内容の充実と質の向上につなげる。

1	計画 ねらい	・保育所保育指針の理解（どろんこ会が目指すもの）を深める園内研修。 ・どろんこ会が目指す保育の根拠となる保育所保育指針の理解を深める。
	実践予定内容	・どろんこ会方針の根拠となる保育所保育指針の理解を深めるため、研修

		を実施する。
2	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・日課活動の充実と子どものスムーズな動線づくり。 ・日課活動の意味を捉え、日課活動の定着が保育の充実に繋がる事をスタッフが理解するとともに、実践していく。 ・子どもの動線への配慮の重要性について理解し、スムーズな保育の流れに導く環境を整える。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・雑巾がけ、座禅、さくらさくらんぼリズム体操、サークル、畑活動、生き物の世話及び9時散歩出発という日課活動を日々の保育に位置づけ、保育の充実を図る。 ・子どもの動線に配慮した環境を設定する。 ・全スタッフが参加し、日課活動を実践する。
3	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性を育む保育とは何かを、理解する研修と実践。 ・子どもの主体性を育む保育への理解を深め、保育の質の向上を図る。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの主体性」とは何かをディスカッションし、共有し合う研修とエピソード研修を実施する。 ・子ども自身が次の行動を考え、流れるような生活スタイルとなる保育のイメージを共有し、実践へと繋げる。（時間軸から、空間軸へ）
4	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の安全管理体制づくり。 ・保育の安全管理への意識を高め、安全管理体制を作り、安全な保育環境を整備する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの意義について確認し、マニュアルを遵守する。 ・室内、園庭、散歩コース等のリスクの把握に努める。 ・事故防止のためヒヤリハットの収集に努め、重大事故防止の体制を整備する。 ・子どもの豊かな体験を保障するための安全管理であることを共有する。
5	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ保育の理解を深める研修の実施。 ・インクルーシブ保育は全ての子どもたちに必要な保育であることを深く理解し、実践に繋げる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・つむぎスタッフの専門性を活かした研修を開催し、実践に結び付けていく。（年3回） ・保育の中のエピソードを交え、スタッフの思いを共有する。
6	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・内部監査を活用した保育の質を担保し、指摘数ゼロを目指す。 ・保育の標準化についてスタッフが理解し、保育の質を担保するために、内部監査項目を活用した仕組みを作る。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・内部監査項目の担当を分担し、スタッフ全員が業務に責任を持つ仕組みを作る。（エキスパートの育成） ・分担された業務について理解し、各々が園全体のレベルアップに貢献する仕組みを作る。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長や子育ての感動を保護者に伝える「お迎え3分対応」の充実。 ・保護者の立場に立ち、支援者としての役割を認識し、さらに子どもの育
---	-----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		ちを共有することで、保育の質の向上につなげる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の迎え時に一番大切なものは、スタッフの笑顔と、子どもの成長の姿や感動するエピソードを伝えることであることを理解する。 ・子どもや保護者が保育者から、尊重されていると感じることが出来る関りは、保護者支援の基本であることから、日々の何気ない会話などを大切にする。 ・保護者が知らない園でのいきいきとした子ども様子を伝えるロールプレイ新卒スタッフを中心に研修する。
2	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・「うちのコアプリ」のタイムライン、連絡帳の充実。 ・「うちのコアプリ」は、保育者と保護者がつながるツールであるため、伝える技術を磨く。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムラインは毎日、スタッフ一人が1コマ以上アップし、発信力を高める。 ・連絡帳の書き方の基本について園内研修を実施する。 ・保護者支援は保護者のエンパワーメントを高めることが目的であることを理解する研修を実施。 ・写真撮り方研修、保護者支援講座等の園長大学・保育士大学活用。
3	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長の姿を伝える、感動あふれる行事の開催。（運動会、どろんこ祭り、生活発表会） ・子どもの成長は保護者にとって何よりの励みであることから、子どもの成長を伝える行事は、感動あふれる内容になるようにする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会、生活発表会は普段の保育活動から、行事へと繋げていく。 ・子どもの年齢によらない一人ひとりの姿を大切に、何かが出来た、出来ないではなく、子どもの内面の育ちに着目した内容を盛り込む。 ・行事は子ども主体で、子どもたちの成長を伝えるという目的を見失うことなく開催する。
4	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ保育の保護者理解と周知への取り組み。 ・インクルーシブ保育の本質について、全ての子どもに、必要な保育であることを発信し広めていく。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・行事、保護者会、日々のタイムラインなどで、インクルーシブ保育は全ての子どもたちに必要な保育であることを発信する。 ・集団の中での、子ども同士の関わりにおける成長の姿について、エピソードを通して保護者に伝える。
5	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・どろんこサポーターズ募集と「どろんこ祭り」共催。 ・どろんこサポーター活動の活性化と活動の基盤づくり。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・どろんこサポーターの募集への理解と協力について発信する。 ・良い園づくりには保護者の協力が欠かせないことを理解いただき、保護者同士のつながりを支援する。

〈3〉地域の子育て支援事業

地域の社会資源として、地域の子育て支援の役割を担うべく、初年度は子育て支援センター「ちきんえっぐ」の広報に重点を置き、見附どろんこ保育園の園環境を活かしたイベントを企画し、市内のみならず近隣からの利用も視野に、利用数拡大に努める。

1	計画	・子育て支援センター「ちきんえっぐ」を地域に広め、気軽な利用を図る
---	----	-----------------------------------

	ねらい	ための広報活動。 ・開園初年度は見附どろんこ保育園の子育て支援センター「ちきんえっぐ」という名前を広め、利用促進を図る。
	実践予定内容	・市内公共施設等に毎月の「ちきんえっぐ」たよりのQRコード付きチラシの掲示。（7カ所以上） ・自然食堂、寺親屋、自然学校などの親子参加型講座の利用拡大は参加者の口コミを重視する。
2	計画 ねらい	・出前保育における勝手籠（子ども服フリーマーケット）の有効活用。 ・勝手籠は子育て親子が繋がり交流するきっかけとなるため、出前保育に勝手籠を持参し広める。
	実践予定内容	・子育て中の親子の交流は何気ないきっかけが重要であり、そのきっかけ作りの有効な手段として、出前保育では毎回、出張勝手籠を実施する。 ・大人サイズなど勝手籠のバリエーションを広げる工夫をする。
3	計画 ねらい	・広い園庭環境を活かした親子交流、地域交流の促進。 ・広い園庭環境で様々な人が交流できる機会を持ち、地域に開かれた園となる。
	実践予定内容	・生き物（山羊と鶏）との触れ合い、畑づくり、米づくりなど自園の特徴を生かして地域の方々を巻き込み、広い園庭を活用した子育て親子、地域の方々など世代を超えた交流を図る。 ・近隣の園や学校、老人施設、発達支援事業所などとの交流の機会を積極的に持つ。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画 ねらい	・組織づくりに取り組む。 ・開園初年度に重要なのは組織づくりであることを理解し、自身が目指したいものを実現していくという見通しを持つ。
	実践予定内容	・組織の中で働く一員として、自身が仕組み化に取り組むことを理解する研修と具体的に仕組み化する。 ・一人ひとりと対話を重ねながら、組織の基盤を作り上げる。 ・責任と役割の明確化。
2	計画 ねらい	・保育所保育指針が目指す日本の教育の方向を理解する。 ・保育所保育指針への理解を深め、目指すべき日本の教育について考え、保育の見通しを持つ。
	実践予定内容	・子どもたちに「育みたい資質能力 三つの柱」は、日本の教育が目指すものであり、乳幼児期に育てるべき力が何かを読み解く研修。 ・どろんこ会の理念や基本方針と保育所保育指針の繋がりを理解する研修を実施。
3	計画 ねらい	・どろんこ会が目指す「いきる力」のキーワードの理解 ・非認知能力・主体性・インクルーシブ保育など、どろんこ会が目指す保育のキーワードを理解する。
	実践予定内容	・様々な保育の中のキーワードを一つずつ読み解き、深く理解する内容を研修に盛り込み、共通理解を図る。 ・インクルーシブ保育が当たり前の世界を目指して、園スタッフとつむぎ

		スタッフが連携会議を定期的を開催する。
4	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・業務過多と言われる保育業界は自分たちで変える。 ・子どもたちに真に必要な業務を精査し、無駄な業務を洗い出し、業務改善に努める。
	実施予定内容	<p>検討見直し委員会の設置から改善へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育計画の内容の見直し「負担を減らして使える計画の作成」 ・雑務の整理と業務の仕組み化 ・行事の在り方改革 ・残業の在り方改革

〈5〉環境実施目標

1	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・給食残渣の有効活用と堆肥づくり。 ・適切な給食食材量の把握で残渣を減らし、残渣は有効に活用する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の残渣を常時把握し、残渣を減らす取り組みと同時に残渣を有効活用した堆肥づくりに取り組む。 ・山羊と鶏の糞、園庭の枯葉など堆肥となるものを集めて園庭の一角に堆肥場を作り、日課としての堆肥づくりを実施する。 ・野菜くずや野菜収穫時の間引き野菜等を山羊に与えるなど無駄なく活用する。
2	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・本物の食の循環を知る活動。 ・畑づくり、稲づくりは土壌づくりから苗の栽培、収穫まで本物の食の循環を通して、協同性、社会性、規範意識の芽生えへと導く。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日課としての畑活動等を通して、本物の食の循環を知る。 ・畑の作物は一朝一夕にできるものではなく、毎日、手間暇かける必要があることを体験から学べるように全スタッフ、全園児で取り組む。 ・自分の意志で動くことができるようになった0歳児から参加することで、卒園までの育ちの中に自然に協同性、社会性、規範意識が育つよう、日課活動の目的をスタッフが明確に持ち、保育を実施する。
3	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な食品の加工体験。 ・食品を加工する意義を知り、食品加工技術を体験する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・梅干し、味噌、干し柿、干し椎茸など食品を加工して食す体験を年間通して実施する。 ・食品の多くは長期間保存することができないことから、食品の品質保存、有効利用、安定供給を目的として、古くから生活の知恵として行われてきた食品加工技術を子どもたちとスタッフが共に試行錯誤しながら体験してゆく。
4	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木を保育環境に取り入れる。 ・様々な木に関心を持ち、木に触れる遊び環境を作る。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・雑木林に出かけ、四季を通して木の変化に気付き、興味を広げる。 ・薪づくり体験活動。（薪拾い、薪割り） ・年輪、木のかたさ、香りなど木々の特質について知る機会を作る。 ・身近に木がある保育環境を作る。

〈6〉地域とのネットワークの構築（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の方々との交流の機会を持つ。 ・地域の社会資源としての役割を担うため、初年度は地域に受け入れて頂けるような関係づくりに取り組む。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街ツアーなどで地域に出向いて関りの機会を持つ。 ・積極的に外に出向いて対話の機会を持つ。 ・地域コミュニティとのかかわりを模索する。
2	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・教育、福祉関係機関とのネットワークの構築。 ・保育に関わる関係機関とのつながりを明確にしながら、基盤づくりに取り組む。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所、医療機関、他の保育施設、小学校、中学校、特別支援学校など子どもたちの育ちに関わる関係機関とのネットワークを確立する。
3	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ご近所付き合いの輪を作る。 ・近隣住民の方々との良好な関係づくり。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に近所に出向き、挨拶や何気ない会話を大切に、地域に溶け込んでいけるよう、力を入れて取り組む。 ・すれ違う人と当たり前に、自然に挨拶を交わす事をスタッフと子どもたちが習慣化する。

〈7〉保育の質を担保するスタッフの働き方改革（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・保育業界の当たり前を見直す。 ・保育業務の在り方について再考し、業務のスリム化と保育の質を担保するための業務改革に取り組む。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・業務過多と言われる保育業務について、当たり前を見直しながら、具体的な業務改善会議開催。 ・課題の抽出と改善策の実行。 ・業務見直しのためのPDCAサイクルの確立。
2	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な職員配置とタスク管理。 ・シフトの適正管理とスタッフの業務を管理し、無駄な超過勤務の無い風土づくり。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・超過勤務の在り方の確認とスタッフ間の協力、協働で生み出す働きやすい職場環境のイメージの共有と実践。 ・業界課題解決のためのPDCAの仕組みづくり。
3	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい職場環境は自分たちで作る。 ・保育の質を担保する、業務のスリム化でワークライフバランスを実現する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・休暇の取得や休息のとり方等、働きやすいと思える職場風土を自分たちで作り上げる。 ・ノンコンタクトタイムの活用。

		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに必要ではない業務を洗い出し、業務のスリム化する。 ・子どもたちに必要な業務は力を入れて取り組む。
--	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈8〉組織づくりによる強固なチームづくり（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・組織づくりとは何かを理解する。 ・組織の一員として機能することがチームづくりにつながる事を理解する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの意義、責任の明確化、権限の明確化、業務の仕組み化など、園を運営する際に必要とされる事項について確実に伝わるような機会を持つ。 ・組織としての成長の過程があることについて、タックマンモデルを用いて、スタッフに組織の成長の見通しを伝える。 ・つむぎスタッフも含めて、仕組み化する。
2	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・対話型組織づくり。 ・経験が異なるスタッフの個を活かしながら、チームとして稼働していく組織づくり。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・個の力を発揮させるスタッフの個別の面談を定期的実施し、組織づくりへのモチベーションを向上させる。 ・個の力をチームの力に変えるための支援体制づくり。

〈9〉児童発達支援事業所「つむぎ見附ルーム」と連携し、インクルーシブ保育を目指す。（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・発達支援事業所と保育園の連携。 ・互いの立場を尊重し合い、協同する関係性を構築する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・どろんこ会が目指す保育園併設の児童発達支援事業所への理解を深める。 ・インクルーシブ保育の実現に向け、スタッフ同士が語り合う場を作る。 ・子ども同士の関りの中で育てる意義について、共通認識する。
2	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・職種の違いを超えた連携。 ・スタッフの専門性を活かした保育が実現できるように、職種の理解を深める。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の場面やケースを通して、互いの理解を深め共有する機会を持ち、インクルーシブを確立して行く。 ・子どもの姿を共通の軸にして、意見交換できる風土を作る。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
10人	15人	12人	25人	12人	18人	92人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	13人	看護師	2人	栄養士	1人	調理員等	1人
	再雇用スタッフ	1人						
パート スタッフ	保育士	2人	事務	1人	用務	2人	嘱託医	2人

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	保育の質の向上をめざしたスタッフの園内研修。 給食会議、事故防止委員会等の内容共有。
給食運営会議	月1回	喫食状況、嗜好、アレルギー児等に係ることの共有、検討。
事故防止委員会	月1回	法人から発信された事故の情報や自園のヒヤリハット・インシデント・事故分析の結果から改善の検討。 発生した自園の事故は都度実施。
ケース会議	月1回	要支援児のアセスメント実施、モニタリングの結果を共有。
業務改善会議	年3回 (5・9・12月)	保育の質の向上と効率化を目指して、年3回 スタッフの気づきを共有し、内容の精査を行う。

園&つむぎ連携会議	月1回	園とつむぎの連携における課題や共有事項などについて検討する。
保育魅力アップ会議	不定期	保育の魅力をアップするために、保育に停滞を感じた時、更なる向上をめざして必要な内容をピックアップして、スタッフ誰もが発案し開催できる会議。
乳児クラス会議 幼児クラス会議	月1回	クラス別に共有事項や課題の検討などを実施。保育の質を向上させるための検討。
ちきんえっぐ会議	月1回	子育て支援事業に関する利用拡大のための検討。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人による連絡、共有事項。事故防止委員会。
施設長勉強会	月1回	施設長のマネジメント力の向上のための勉強会。
食育会議	年4回	施設長、調理担当者による食育の取り組み状況、給食に関する情報共有とレベルアップのための内容。
保健会議	年4回	施設長、看護師による保健・衛生指導関係の情報共有とレベルアップのための内容。
主任会議	年4回	主任としての役割の理解と園運営への理解。
子育ての質を上げる会議	月1回	ミドルリーダー参加による、次世代育成のための内容。

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	看護師を中心として子どもの健康管理・衛生管理に関わる事項全般
安全対策係	事故防止に関する事項 ヒヤリハット集計・分析 改善策の検討と周知 施設設備点検及び管理
防火管理者	園長:若杉絵里子 防火設備点検管理 消防計画作成
食品衛生責任者	調理師:関口理絵 食品衛生管理
畑係	畑・田んぼ・ビオトープに関わる管理運営
生き物係	山羊・鶏・飼育コーナー小動物に関わる管理運営
ハザードマップ係	散歩コース・園内外のハザードマップ作成(4・7・10・1月改定)

環境整備係	園舎内外の清掃、整理整頓に関わる事項の運営
保育環境係	ゾーン保育のための室内・園庭の環境を構成する
仕組み化委員会	保育業務全般に渡り、リーダー的な視点で園全体の運営に関わる委員 保育の質の向上・研修・内部監査項目理解・内部監査項目理解などを主に担当

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズを中心として、7月に開催。
運動会係	運動会開催に関わる計画運営
生活発表会係	生活発表会に関わる計画運営

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの発育、発達状態や健康状態を適切に判断し養護する。 個別の発達を踏まえて愛情豊かに応答的に関わる。応答的な関わりの中で信頼感を育て人と関わる力の基盤を培う。 身近な人に親しみを持って自分の感情を表すことができるようになり、受容的な関わりを通じて自分を肯定する気持ちの芽生えを大切に育てる。 異年齢保育で過ごす中で、子ども同士で育ち合う環境に配慮する。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> 和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちを育てる。 身近な環境に興味や関心を持って関わり、感覚の働きを豊かにする環境を整える。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 発達の個人差に配慮し一人ひとりの子どもの気持ちを受け止めて援助する 自ら環境に働きかけ思考錯誤しつつ自分の力で行う活動を見守り適切な援助を行う。 日課、基本保育活動を主体的に行うための援助を行う。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 異なる年齢の子と生活する中で思いやりや憧れ、思うようにならないことを体験する中で様々な感情を経験し豊かな体験とする。

		・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に基づく活動を通じて資質能力を育む。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画 ねらい	・子どもたちと全スタッフが共に味わう縁側給食の実施。 ・園庭や景色を眺めながら、共に味わう縁側給食を日常の食事風景とする。
	実践予定内容	・毎日、子どもたちと全スタッフが園庭の景色を眺めながら四季を感じながら共に味わう縁側給食を実施する。 ・大人も子どもも一緒に味わい、食を楽しむ。
2	計画 ねらい	・素材の味を噛みしめて味わい、噛む力を育てる給食提供。 ・発達に配慮しながら、給食の素材の旨味を味わうことができる調理に配慮し、噛む力を育てることに配慮する。
	実践予定内容	・調理担当者と保育者の給食会議や施設長の日々の検食の機会を重視し、子どもたちの体づくりの基本である給食提供に関しては、緊密な連携を行う。 ・食材の大きさ、硬さなど子どもたちの噛む力に留意する。
3	計画 ねらい	・バイキング給食の実施で、食べるのが好きになる。 ・自分で盛付・配膳をスムーズに行える食事環境を作り、好きな人と食べる給食で食への意欲を育てる。
	実践予定内容	・食べる順番、食べる量などを制限するのではなく、食べるのが楽しみになるように、子どもたち一人ひとりの状態に配慮しながら、バイキング給食を実施する。 ・子どもの動線に配慮し、年齢の異なる子どもたちがスムーズに盛付や配膳が行えるように配慮する。
4	計画	・計画的に食育を推進し、豊かな食の経験を大切にする。 ・生きるために必要な食についての関心を高め、食べる意欲を育てるため

ねらい	に必要な経験を盛り込んだ計画的な食育の実施。
実践予定内容	・計画的に健康な体づくりに必要な食育に関する体験を実施する。 ※年間食育計画は別紙あり。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（5月・10月）
歯科検診	年2回（5月・10月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗い指導・栄養指導・歯磨き指導・肥満やせに対する助言
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアアップ・・・預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在5名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員17名については4月30日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在19名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については4月30日までに受講予定
その他保健に関する取組	通年で新型コロナウイルス感染等に考慮し、消毒・換気の徹底 手洗い指導、うがい指導は定期的実施、感染予防に努める 流行する感染症により、アルコール消毒、塩素消毒を区別し対策を講じる ※10人以上の感染を確認した場合は法人本部、県、市に報告対応

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月

	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／5・10月 歯科健診 年2回／5・10月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でやりたい遊びを選べる室内コーナー保育環境。 ・自分でやりたいコーナー遊びの玩具が十分に整えられ、子どもたちが毎日、意欲を持って遊べる環境設定。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室の動のスペースと静のスペースを分けし、一人ひとりの子どもたちのやりたい遊びが実現できるコーナー環境を整える。 ・年齢や発達に合わせて選べるように、十分な玩具を揃え、子どもの興味に応じて環境を変える。
2	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・探索行動が十分に行え、子どもの興味を引き出す園庭。 ・子どもたちの探索意欲を高めるために保育者が意図とねらいを持って、園庭の環境を整備する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭の広さを有効に活かして、子どもたちの探索意欲を高める環境設定においては、安全管理を基盤として、保育者が明確な意図とねらいを持って設定する。 ・子どもたちが夢中で遊び試行錯誤する環境づくり。
3	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・探索意欲が高まる園庭の、レイアウトを作成し魅力ある環境づくり。

ねらい	・魅力ある園庭にするためのねらいを持ってレイアウトし、子どもたちが夢中で遊べる環境にする。
実践予定内容	・子どもたちが遊びに見通しを持ち、様々な素材に触れ試行錯誤でき、探索意欲が高まる環境整備。 ・遊びを充実させるレイアウトされた園庭の整備と維持管理。 ・冬は雪国であることを、最大限生かした雪遊びを積極的に実施する。

〈7〉手づくり遊具・家具安全点検計画

手づくり遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	設置無し		
2			
3			
4			
5			

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	・非常事態発生の場合は法人のマニュアルに従い迅速な対応が出来るよう、緊急時の連絡体制などを掲示するなど対応に最善を期す。
2	実践予定内容	・毎月の避難訓練を基本に、日ごろより、火災・地震・風水害等に対する意識を高める。災害は突然に起こるものであり、日ごろよりシミュレーションを行い、避難訓練の動作を基本として、どんな状況でも最善を尽くす意識を高める。 ・風水害については、刈谷田川の側に位置する浸水地域内にあるため水害対策マニュアルに従い、移動が困難な乳幼児であることに配慮し、早めの情報キャッチと避難を心がける。近隣施設との連携、協働を図る。
3	実践予定内容	・事故・怪我においては、法人ルールに従い迅速かつ的確な対応をする。 ・園内の事故防止委員会設置。 ・ヒヤリハットの収集に努め、園内で集計・分析・改善・実行のPDCAサイクルで重大事故防止に努める。 ・開園初年度は園内外のハザードのスタッフ間共有と園庭でのタスキルール、園内のリスクなど安全管理には十分な配慮をする。 ※ケガ・ケーススタディ研修 4月に実施
4	実践予定内容	・防犯、不審者に対する訓練は年2回実施する。日々の生活の中で常に意識することが重要であり、年1回、新町交番の警察官より訓練時に指導を受ける。 ・散歩時における対応や園内における対応の仕方など、会議などで意識統一をする。
5	実践予定内容	・Jアラートが発令された際に備え、市からの防災メール情報を頼りに、

		避難場所は屋内幼児室と定める。
6	実践予定内容	・個人情報漏洩や管理については万全を期し、定期的にスタッフの意識を高めるための啓発を行う。
7	実践予定内容	・広域災害によるライフライン停止、調理担当者感染症発生による給食提供停止などを想定した、外注による食事提供訓練の実施。《広域災害食訓練の実施》 ・その他、年1回、非常時の炊き出し訓練を実施する。 ・備蓄品の点検は定期的に行う。 (業務継続計画 作成)
8	実践予定内容	・新潟県柏崎市に原子力発電所があることを踏まえ、災害対策重点区域(半径30キロ圏内)にあるため、影響を受けやすい乳幼児の安全に最大限配慮し、屋内にとどまって待機する。原子力事故の際には見附市の対応マニュアルに従い、速やかに行動する。ヨウ素剤の服用、圏外への移動などが必要となる避難勧告が出された場合は、保護者へ緊急連絡アプリで速やかな迎えを要請をする。
9	実践予定内容	・熊の出没が相次ぎ園外保育を見合わせる事態が発生しており、熊出没情報を常に把握して万全を期す。
10	実践予定内容	・コロナウイルス等の地域の感染状況を把握し、法人や区市町村からの指示に従い、対応しつつ、園内での感染対策には万全を期す。
11	実践予定内容	・雪害についての意識を高め、降雪量などの気象状況の情報収集に努め、こまめな除雪で安全を確保する。 ・気象状況を把握し、落雪、陥没、転落事故などの防止に努める。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

次世代を担う実習生・中高生・ボランティア等の受け入れについては、地域の社会資源としての役割と共に将来、福祉の現場で活躍する人材育成の一助になることを願い積極的な受け入れを行う。各校等とも連携し、一人ひとりの学生に対する指導援助が適切に行われ、生徒にとって将来、目指したい職業に夢と希望を持ち、実りある体験の機会となるように配慮する。特に保育実習生についてはコロナ禍で学生生活を過ごし、コミュニケーションの機会が十分でないことを踏まえ、受け入れ側としては不安を取り除き、保育現場の楽しさを伝えることが最優先事項であると考えている。さらにはスタッフも自己の振り返りの機会と捉え、次世代の人材育成についての学びを深める。

1	実践予定内容	・実習受け入れ担当窓口として担当者を置く。 ・丁寧なオリエンテーションの実施。 ・不安のない現場実習とする。
2	実践予定内容	・各校との緊密な連携体制の確立。 ・事前打ち合わせと情報交換。信頼関係の確立。
3	実践予定内容	・実習中の日々の振り返りの実施。フォロー体制づくり。 ・保育の楽しさを引き出す実習への配慮。

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

〈1〉 2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月16日	18:00~ 20:00	① コンピテンシー自己採点 ② どんご会の方針と保育指針の理解	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② 保育所保育指針の柱となる考え方の理解とどんご会の基本理念のつながりに気付く。
5月21日	18:00~ 20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 仕組み化の必要性と内部監査の意義	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② 組織づくりに必要な仕組み化の理解。合わせて内部監査担当リーダー制の分担。
6月18日	18:00~ 20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアルの必要性和リスク管理	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② なぜマニュアルが必要なのか、その活用とリスク軽減の仕組みの理解。
7月16日	18:00~ 20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの主体性と日課	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② 主体性とは何かについて、日課への取り組みと理解を深める。
8月20日	18:00~ 20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 探索意欲を高める保育環境とは。	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② 子どもたちが遊びを選び取る保

			育環境について考察する。探索こそが遊びである事への理解を深める。
9月17日	18:00~ 20:00	①コンピテンシー自己採点 ②インクルーシブ保育の実践と理解	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②子ども同士の関りの中で育つ「いきる力」について、事例を通して共有を図る。
10月15日	18:00~ 20:00	①コンピテンシー自己採点 ②仕組み化の振り返りと業務改善提案	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②年度初めに仕組み化した業務の振り返りとスタッフ提案を改善につなげるPDCAサイクル確認。
11月19日	18:00~ 20:00	①コンピテンシー自己採点 ②就学までに育みたい10の姿とアプローチカリキュラム、保育児童要録	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②文部科学省が推進する架け橋プログラムの理解。自園のアプローチカリキュラムに目を向け、就学までに育みたい10の姿について学ぶ。
12月17日	18:00~ 20:00	①コンピテンシー自己採点 ②非認知能力の理解・コミュニケーションでチームづくり	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②非認知能力とは何かについて理解を深める。生きていく上で必要とされる力について考察し、理解を深める。
1月21日	18:00~ 20:00	①コンピテンシー自己採点 ②年間の振り返りと次年度への抱負	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②1年を振り返り、自身の成長と次年度への思いについて、スタッフ一人ひとりが思いを伝え合う。
2月19日	18:00~ 20:00	策定会議 ①コンピテンシー自己採点 ②次年度の方針説明	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②次年度に向けた事業計画の説明。 ③次年度、園目標決定。
3月2日	18:00~ 20:00	策定会議 ①コンピテンシー自己採点 ②次年度の計画策定 ③子どもの人権 ④保育のリスク管理	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②次年度の行事計画等の計画策定。 ③園会議 次年度スタートに当たって、再確認すべき事項について研修する。

※毎回、会議内で事故防止委員会、ケース会議、つむぎスタッフから情報の共有を行う。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デンマークインターンシップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉保育士等キャリアアップ研修受講促進

保育士の処遇改善に関わる国が推進している保育士等キャリアアップ研修の受講を推進する。受講に際しては、保育の質の向上を目指して、自己研鑽の機会として積極的な受講を推進する。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

開園初年度は、積極的に地域に出向き園が地域に認知されるよう広報する。北谷みつば地域コミュニティとのつながりや老人施設、就労支援施設、野菜直売所など地域の方々が集まる場所との交流。熱田神社の神楽、名木野小学校の草薙太鼓、田井小学校のみつば太鼓など地域の文化に触れる機会を持ち、近い将来に、どんなつながりが持てるか模索していく。特に大切にしていきたいのは、地域の

方々と出会ったときの日常の挨拶であり、明るい声で自ら挨拶する姿を、スタッフが子どもたちに背中で見せていく。挨拶はコミュニケーションの第一歩であり、何よりも大切にしたい姿勢である。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：なかよし広場にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	・老人施設「越の里」様訪問交流
異年齢交流	・他園交流訪問受け入れ 遠足目的地として交流保育 ・名木野小学校 草薙太鼓見学 マラソン大会応援 ・田井小学校 みつば太鼓見学 ・葛巻小学校 アルパカ見学 ・見附南中学校 体育祭練習見学
地域拠点活動	・北谷南部地区みつばコミュニティ訪問 ・葛巻地区まちづくり協議会訪問 ・北谷北部くさなぎコミュニティ訪問
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

名木野小学校、田井小学校、葛巻小学校、見附小学校の4校を散歩コースに入れ、日常的に小学校の様子を目にする機会を作る。子どもたちが実際に授業の様子等を見学できる機会を持ち、小学校からの訪問も積極的に誘致する。スタッフもオープンスクール等で積極的に学校の授業を見学する。保護者を交えてアプローチカリキュラムに沿った保育実践や保育所保育指針が目指す姿から、学習指導要領が到達目標に変わる流れについて理解を深める機会を持つ。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を6月3日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	田井小学校 1年	6名予定	運動会練習見学（田井小学校小校庭）	子ども間交流 職員間交流
5月頃	名木野小学校	15名予定	運動会練習見学（名	子ども間交流

	1年		木野小学校校庭)	職員間交流
6月頃	葛巻小学校	6名予定	葛巻の森アルパカ見学(葛巻小学校)	子ども間交流
10月頃	名木野小学校 田井小学校 葛巻小学校	15名予定	マラソン大会応援見学	子ども間交流
9月頃	名木野小学校 田井小学校 葛巻小学校 今町小学校	10名予定	授業参観(各校1年生教室)	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

子育ての基本は、子どもが持っている力をどう発揮させるかが保育者の役割であると考えます。集団における子どもの成長の機会を重視し、大人が先回りし、手を出しすぎるのではなく、本来持っている子どもの能力が十分に発揮されるように、個別支援計画を立案し具体的な対応を月1回のケース会議(必要によっては都度開催)でスタッフ全員が共有し計画を見直し、保護者の意向確認、つむぎスタッフによる専門性を活かして、子どもの成長発達を多角的に捉えて共有する体制を確立する。さらにインクルーシブ保育の観点から計画との整合性があるか具体的事例に基づいて、検証していく。何よりも、子ども自身が安心した園生活を送れるように援助するという視点に立ち、アセスメントシートを用いて、モニタリングを十分に行う。

〈2〉 毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：120名予定)

特別支援児のみではなく、気になる子の様子についても記録し経過を観る。発達段階の関わり方の共有を目的として施設長と担当スタッフで開催し、必要な情報は関係するスタッフに共有する。インクルーシブによる集団の中での育ちに着目し、スタッフの関わり方の共有や保護者のニーズ等について、つむぎスタッフの専門的知見を入れて、建設的な意見交換の場とする。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

就学に向けては、毎年2月頃に保育児童要録を就学先小学校へ提出する。小学校への接続期の重要性に鑑み、スタートカリキュラムの確認、自園のアプローチカリキュラムによる環境の変化に適応する保育内容。保護者や関係機関、小学校との連携を重視し、情報の共有を密にする。進級に向けて、必要なケースについてはつむぎとの連携、5月頃までには、アセスメント面談を実施。その後は定期的な保護者面談を実施し、関係機関との連携から就学へと接続する。

1.1. 子育て支援事業

園に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(木) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：なかよし広場にて開催

1.2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年6月3日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：13時00分

自己評価終了予定時刻：15時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任、園事務、各リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1.3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	新規開設のため、記載なし
	振り返り	

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	・組織づくりとは何かをスタッフが理解し、仕組み化に取り組む。
--------	------	--------------------------------

		<ul style="list-style-type: none"> ・保育の質の向上をめざして、園内研修が計画的に行われている。 ・児童発達支援事業所「見附つむぎルーム」との協同し、インクルーシブ保育を目指す。 ・地域に周知され、様々な視察・見学者が年間100名を超えている。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは組織づくり、仕組み化に着手する。 ・計画した園内研修は法人理念の理解、保育所保育指針の理解など保育の基本となる研修を中心に、保育の質の向上におけた土台づくり。 ・発達支援事業所との連携のための、協同場面と役割の明確化。 ・地域に広く広報し、様々な形で視察・見学者を増やす。
2025年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・仕組み化の基盤ができあがり、稼働している。 ・現場の課題を通して、学び合いの風土がある。 ・業務改善がスタッフの提案を中心に具体的改善策となっている。 ・児童発達支援事業所「見附つむぎルーム」と連携の基盤が確立し、インクルーシブ保育が実践されている。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・仕組み化を適宜見直し、調整を行う。 ・現場における課題を通して、園内で更なる学びの機会を創出する。 ・批判的思考力を高める研修から、柔軟な考えによりアップデートしていくチームづくり。 ・保育園スタッフと児童発達支援事業所スタッフの互いの理解を深める研修実施。
2026年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・組織を基盤とし、全スタッフの保育の質の向上が図られている。 ・スタッフ一人ひとりがやりがいを持って、保育の魅力を感じている。 ・働きやすさが数値化された結果からも見える。 (超過勤務時間数、有給休暇取得率、離職率等) ・どろんこ会が目指す方針が理解され、保育内容に共感して、入園児が定員に達している。 ・児童発達支援事業所「見附つむぎルーム」との連携によるインクルーシブ保育が実現している。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の仕組み化の定着。 ・リーダー的視点を持ったスタッフを増やし、保育の質の向上に向けて園内研修をスタッフ主導で実施。 ・自園を誇りに勤務しているスタッフが増え、積極的な業務改善提案。 ・口コミによる入園児数拡大。 ・発達支援事業所「見附つむぎルーム」と協同する業務。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：見附どろんこ保育園 施設長 若杉絵里子

2024年度 袖ヶ浦どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

2024年4月「袖ヶ浦どろんこ保育園」は、児童発達支援事業所「つむぎ袖ヶ浦ルーム」を併設し、当たり前のインクルーシブ保育をスタッフ一人ひとりが認識し、誰もが生きやすい居心地の良い場所の実現を目指しスタートする。

袖ヶ浦市は、千葉県内房のほぼ中央に位置し、県内で多くの市町村が人口減少にある中、ここ10年増加傾向にあり、宅地開発が急激に進み利便性も高く、とても注目されている地域である。

インクルーシブ保育・異年齢保育を中心とした自園の保育内容についても、地域や保護者からの関心が非常に高く、認可保育園として、そして児童発達支援事業所併設園としての責任と役割を踏まえ、利用者のニーズを的確に捉えた保育と保護者支援、地域に根差した保育園運営を行う。

どろんこ会子育て目標である

①センスオブワンダー

②人対人コミュニケーション

を基盤に、「ジブンで考えジブンでできることをする」子どもを育み、保育に関わるすべての大人も子どももジブンで生きていくための「にんげん力」が育つ環境づくりを行っていく。

保育目標「みんなの「やりたい!」をやってみよう」

スタッフは、ただ見守るだけでなく、必要な場面に於いては大人が教えたり、背中を見せたりしていく環境を作ることによって、生活力を身につけ、自分の足で人生を歩むための支援をしていく。その為に、大人も一人ひとりが考え、学び、実際に行動し、自律することで主体性を育てていく。

毎日の散歩や戸外遊び、友達同士のおしゃべりや戯れなど、子どもが子どもらしく育つこと、その貴重さを感じ保証しながら、保育はよりシンプルに「子ども中心」「子どもを真ん中に」「子どもを置き去りにしない」「子ども時代を保障する」保育を進めていく。

2024年度 運営本部Mission

1. 生活の体得
2. 10の姿の体得
3. 子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定
4. 鶏を絞めて食す 命をいただく活動の実践
5. 自律運営

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	多くの経験から、子どもたちの「やってみよう!」が実現する保育。
	実践予定内容	ただ見守るだけの保育ではなく、様々な遊びをやって見せたり、様々な道具を使って見せたりすることで、子どもの興味関心を引き出す。

		一人ひとりの「やりたい」に耳を傾け、子どもからの発信に丁寧に関わっていく。
2	計画・ねらい	10の姿の体得
	実践予定内容	保育所保育指針に育むよう定められた10の姿について、園内研修で学びを深め、実践に繋げていく。
	計画・ねらい	子どもの姿を捉えた保育計画の作成 (昨日・今日・明日がつながる保育)
	実践予定内容	子どもの姿、成長発達を捉え、必要な環境づくり・支援の在り方を検討した保育計画を作成する。 全体の計画・年間計画・月案・週案・日案へと子どもの育ちや興味関心、経験させたいことなどを熟考しおろしていく。

〈2〉 保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子どもの幸せを最優先に、ともに考え、ともに成長を喜び合える関係性を築く。
	実践予定内容	「手に取るようにわかる子どもの様子」を意識したお迎え対応、タイムライン、連絡帳を心掛け、園と家庭が切れ目なく連携していく。
2	計画・ねらい	接遇力UP
	実践予定内容	①思いやり②誠実さ③謙虚さ④感謝を忘れず、おもてなしの心を込めた保護者支援を心掛ける。
3	計画・ねらい	いつ来ても気持ちの良い施設、いつ見ても気持ちの良いスタッフ
	実践予定内容	・整理整頓された室内・園庭。掃除が行き届いた園周辺。 ・身だしなみに気を配り、いつも明るい挨拶・いきいきとした表情で、一人ひとりの保護者に対し親身な対応を心掛ける。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた園づくり・居心地の良いみんなの居場所
	実践予定内容	園庭開放、ちきんえっぐ、つむぎカフェへの立ち入りがしやすいように、来訪者にはスタッフ全員が常に明るくお迎えし、また訪れたいくなるような雰囲気づくりを心掛ける。より多くの施設にちきんえっぐだよりの設置をお願いする。
2	計画・ねらい	相談しやすい環境づくり
	実践予定内容	子育ての相談がしやすいスタッフの関わりを常に意識する。笑顔や物腰の柔らかい雰囲気などの見た目はもちろん、ゆっくり話せる室内環境を作っていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	語り合い、学び合い、高め合うチームに。
	実践予定内容	子どものこと、保育のことを日常的に語り合い、試行錯誤を繰り返しながら学び合い、質の高い保育を目指して、お互いが高め合えるチームとなれるようスタッフ一人ひとりが意識する。
2	計画・ねらい	園内研修の充実
	実践予定内容	毎月の園会議では、園内研修に重点を置き、知識を深めることはもちろんのこと、スタッフ同士の語り合いや活発な意見交換の場になるよう計画する。
3	計画・ねらい	一人ひとりが組織目標・個人目標を設定し、自身の強みと弱みを理解し課題に取り組む。
	実践予定内容	目標設定時、途中経過、振り返りなど定期的に施設長・主任と面談を行い、方向性を捉えながら、目標達成に向け計画的に進めていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を知り、自ら関わっていく。
	実践予定内容	畑仕事、コンポスト作り、命をいただく活動の実施。
2	計画・ねらい	様々な食品を加工から食すまで体験し、興味関心を深める。
	実践予定内容	・梅シロップ、梅干し、味噌、ケチャップなど原材料から加工の工程を知り、実際に体験する。

〈6〉インクルーシブ保育の実践（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	良いところ探しのプロになる。
	実践予定内容	誰にでも寛容な心を持って接し、良いところを認め、伸ばしていける関係性を作る。一人ひとりの「こんなところが素敵だね」を共有し、認め合う。
2	計画・ねらい	大人も子どもも多様性を受け入れ、認め合う。
	実践予定内容	園内研修などで多様性についての理解を深め、どの子どもも排除されることなく特性が認められ、生きやすい環境を作っていく。
3	計画・ねらい	ユニバーサルデザインの理解
	実践予定内容	誰にとってもわかりやすく、使いやすい環境づくりについて学び考え、実践していく。

〈7〉居心地の良い環境づくり（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	「好きな場所で好きな人と好きな遊び」が展開でき保証される環境
	実践予定内容	子どもたちが自分で遊びを選択できるよう、日々の子どもの興味関心を十分理解し、たくさんの選択肢を準備する。またそれに夢中になれる空

		間づくり。
2	計画・ねらい	大人も子どもも整理整頓しやすい環境づくり
	実践予定内容	日常的に整理整頓されている環境を、一人ひとりが意識する。誰でも片付けがしやすく、わかりやすい環境設定を行っていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6人	12人	18人	18人	18人	18人	90人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	11人	看護師	1人	栄養士	2人	調理員等	1人
	パート スタッフ	保育士	3人	補助	0人	調理	0人	事務
	用務	0人						

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	園内研修、行事進捗、子どもの様子(園・つむぎ)共有
給食運営会議	月1回	各クラス食事の様子、食育、アレルギー対応、クッキング内容共有
事故防止委員会	月1回	当月のヒヤリハット、インシデント、事故記録の振り返り、分析と再発防止、

ケース会議	月1回	要支援児の姿、個別支援計画、振り返り
リーダー会議	隔週1回	園全体の課題検討、各クラス共有、

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	法人からの確認事項、全園の状況確認や課題討議各書類提出や運営について確認事項
施設長勉強会	月1回	質上げ会議を受けて、施設長としての行動計画を作成しながら自園の組織力を強化していく
食育会議	年4回	エリアごとに課題やスキルアップのため、討議を重ねる
保健会議	年4回	各園の状況報告や衛生面などについて意識の統一を図る
主任会議	年4回	各園の主任とマネジメントや後輩と保育を深めることについて学び合う
子育ての質を上げる会議	月1回	各園のミドルリーダーが自園の保育の質の向上推進のため、アクティビティを実践しながら保育を深めることについて学び合う

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	保健衛生関係物品・書類の管理、清掃・消毒の状況とりまとめなど
安全対策係	事故防止委員会の運営、ハザードマップの見直しなど
防火管理者	防火管理者：小松聡子 消防計画に則り、災害時や不審者対応に対する取り組み（避難訓練の立案・実行・省察なども含む）
食品衛生責任者	食品衛生責任者： 給食運営会議の運営、食品の安全に対する管理や啓発など
畑係	年間計画の遂行管理、畑仕事の意義の確認及び整備・管理責任
生き物係	動植物の世話の管理責任（観葉植物なども含む）

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画・運営、どろんこサポーターズとの連携

4. 保育方針

〈1〉基本方針

乳児保育	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> 愛情豊かに応答的に関わることを大切にし、個々の欲求を満たし、ゆとりを持って愛着関係を築く。 0歳からの学びの姿に気付き、子どもの意欲を認め見守る保育の中で、安心感ややってみようとする意欲を育む。 穏やかな気持ちと優しい笑顔で、目と目を合わせ対話をする。
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> 応答的な触れ合いや、ゆっくりとした語りかけなどから言葉のやり取りを楽しめるようにする。 異年齢児や友だちとの関わりを通して、好きな遊びが楽しめるような安全な環境構成を考える。 様々な体験を通して、豊かな感性や創造力の芽生えを育む。
幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢児や友だちとの関わりが深まり、共通のイメージを持ち遊び込めるような環境を作る。 身の回りのことや遊びの中で、自分でできたことを認め、自信と意欲を高める。 頭や心、体、全身を使って、自分のやりたいことに打ち込み、充実感や達成感を味わう経験を重ねる。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで考えた遊びに、意欲的に取り組む。 様々な活動の中で一人ひとりの良さを認め合い、子ども同士支え合って生活するために、自立心や人と関わる力を育む。 食に関心を持ち、友だちと楽しく食事をする。 健康な生活が送れるよう、手洗いうがいを丁寧に言い習慣化する。 避難訓練を行う中で、災害や緊急時の適切な行動を理解し、状況に応じて安全な行動をとろうとする。 就学に向け、数・図形・文字に興味を持つ。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> 随時、希望する保護者に対し実施 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食に興味を持ち、「食べることは楽しいこと」を実感する。
	実践予定内容	保育士・調理員・事務・用務、全スタッフは子どもとともに食卓を囲み、楽しく食事をする。その中で会話をしながら、食材や調理方法を伝えたり、大人が正しい食事のマナーを見せたり、丁寧に関わっていく。
2	計画・ねらい	コンポストづくりや畑仕事、クッキング活動を行い、自ら関わることで、食への興味関心を広げる。
	実践予定内容	土づくりから季節ならではの野菜栽培、収穫、調理までの一連の流れを、一年を通して計画的に行う。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回（6月・10月）
歯科検診	年1回（6月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
園児への保健指導・取組等	手洗いうがいの励行、歯みがき指導、衣類の着替えや調節
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月頃・・・手足口病、ヘルパンギーナ、とびひ、 11月頃・・・RSウイルス感染症、溶連菌感染症 12月頃・・・インフルエンザ、感染性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	未定
エピペン使用できるスタッフ	未受講の新入職員については3月22日までに受講予定
AED使用できるスタッフ	AED未設置

(AED設置施設のみ)	
その他保健に関する取組	自治体からのお知らせ掲示、保健関係研修の受講 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検 (定期1回/3年)	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検 (簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科健診 年2回／6・10月 歯科健診 年1回／6月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

	計画・ねらい	「外で遊びたい」気持ちをかき立てる園庭づくり
	実践予定内容	登りたくなる築山、思い切り遊びたくなる泥場や砂場、虫探しをしたくなる花壇や植え込みなど、子どもたちが様々な経験を重ね「やりたい」が実現できる園庭整備。 石拾いなどの安全対策は、定期的に子どもたちと行う。
2	計画・ねらい	子どもたちの「今」を大事にした室内環境づくり
	実践予定内容	子どもたちの成長発達を理解し、興味関心に常にアンテナを張り、その時々に必要な環境を提供する。
3	計画・ねらい	散歩の充実
	実践予定内容	目的を明確にした散歩コースを開拓する。たくさんの自然に触れ、自分の足で歩くことに充実感や達成感を思い切り味わえるようにする。 ハザードマップの更新や見直しを適宜行う。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	事故防止委員会	過去の事例や予測される事故には、自園だったらどのような課題があり、それを防ぐ為にはどのように行動しなければならないかなど検証し、職員全員周知の上、事故に発展することが無いようにリスクマネジメントを行う。保育者は見通しや予測を立ててそれを互いに共有しながら行動する。 ・ヒヤリハット・インシデントの事例は、事故防止委員会やクラス会議の中で様々な視点から統計を出した上でケース検証を行い、事故防止につなげる。
2	避難訓練・不審者侵入訓練	・事故防止委員会、避難訓練係を中心に、防犯・防災に対する意識を高める。不審者侵入・災害は突然起こることを十分に意識し、日ごろより防犯・防災に対する意識を高め、シミュレーションを行い、避難訓練・不審者侵入訓練を有効に活用する。 ・非常災害時の対策として、消防計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施、年二回の不審者訓練の実施を行う。 ・防犯設備点検の実施（自動火災探知機、煙感知器、誘導灯、排煙窓）
3	光化学スモッグ	光化学スモッグ発生時には、市役所などが発信する情報をこまめにチェックし、屋外の活動を控えるなど対応する。
4	ハザードマップ	園内外のハザードマップを作成し、危険箇所の確認と安全確認の周知を都度更新していく。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

地域におけるボランティアの養成とともに、次世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成するために、積極的に実習生・研修生を受け入れる。

中高生の職場体験や交流なども同様に受け入れを行い、保育に関わる仕事を知り、興味関心を持ってもらえるよう関わっていく。

1	実践予定内容	実習生・ボランティアの受け入れマニュアルに基づき、受け入れ時の配慮事項などについて学ぶ。保育士の良さを伝えられる対応をする。
2	実践予定内容	実習を指導する立場としてのスキルを習得する。実習記録の書きかたや指導案のアドバイスなどを学び実践する。

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修 (年1回) ■園内研修 (月1回以上) ■保育スキル研修 (エリア別) ■リーダー養成研修 (9~2月) ■業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会 (月1回) ■デンマークインターンシップ (年1回) ■コンピテンシー自己採点 (月1回) ■人権チェック (4月・10月) ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

〈1〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの人権	子どもの人権を「守り」「育む」ために、まずはこどもの権利条約について理解を深める。
5月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日課・基本活動の理解を深める。	「なぜやるのか？」を語り合いにより深めていく。形だけ行うのではなく、意味をもって日々実践できるよう理解する。
6月28日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理	・危険予測トレーニング、園のルール、ケガ発生時の対応などの再確認。 ・水辺のリスクマネジメント

7月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿「保育所保育指針」	保育所保育指針の読み合わせを行いながら、理解を深める。
8月23日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達と遊び～環境構成～	・子どもの理解するために、まず発達を知り理解を深める。今、目の前の子どもにどんな環境が必要なのか考え、実践に結び付ける。
9月27日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② アプローチカリキュラム	・10の姿を手がかりとしながら、小学校へのスムーズな接続をするために、自分たちにできることは何かを考える。
10月25日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 虐待防止	・保護者支援・子育て支援の充実。 ・虐待の早期発見に向けた流れを知る。
11月22日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育・要支援児の対応	・気になる子への対応、実践の振り返り。 ・就学に向けた支援の流れ
12月27日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 感染症対策	・嘔吐処理、衛生管理、感染症流行時の対策。
1月31日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画振り返り	・事業計画・園目標に基づき、一年を振り返る。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											

リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
デモンクインインターンシップ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

まずは開園したばかりの「袖ヶ浦どろんこ保育園」を知ってもらうところからスタートする。地域の様々な場所に積極的に出向き、園のPRやちきんえっぐのお知らせとともにチラシを配布する。日々の散歩時にすれ違う近隣の方々や商店街ツアーなどの園外活動中に出会うすべての方に、スタッフ自ら笑顔で挨拶をし、その背中を見て子どもたちも元気よく挨拶をすることを習慣化する。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：袖ヶ浦駅海側地区近隣公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	月1回 老人施設「シェアハウス彩輝」に訪問予定
異年齢交流	袖ヶ浦市立奈良輪小学校
地域拠点活動	連携園との合同の行事開催
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 宮の湯(木更津市)

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

交流の場が多く持てるよう、早い段階から小学校へアプローチし、理解を得ながら進めていく。近隣の奈良輪小学校をはじめ、市内の昭和小学校の2校は、日ごろの散歩や商店街ツアーで訪ねたり、交流したりしながら、身近な存在となれるよう働きかけていく。また、職員間交流を積極的に行い、お互いの現状や課題を理解し合い、スムーズな接続を目指す。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月5日（金）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	奈良輪小学校 1年1組	25名予定	保育園探検 (当園)	子ども間交流
8月頃	奈良輪小学校 学童	2名予定	学童体験 (奈良輪小学童)	子ども間交流
10月頃	奈良輪小学校 1年全クラス、支援級	4名予定	授業参観 (奈良輪小教室)	職員間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

気になる子、支援が必要な子、つむぎ併用児を中心に、具体的な個別支援計画を作成する。
前期・後期で課題の整理表の見直し、保護者の願いの聴き取りなどを行う。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：10名予定)

支援児については毎月ケース会議を行い、現在の様子などの情報共有、支援計画書を元に次月の支援目標を確認し、全スタッフが同じ関わりが

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

自動要録や個別支援計画をもとに、小学校接続への段差がないように引き継ぎを行っていく。

11. 子育て支援事業

園に來訪した親子に都度署名をもらい、月間延來場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 10:00～12:00と13:00～16:00の計5時間は2名の職員を配置とし、その他時間帯は自主事業として実施する。
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00

ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：袖ヶ浦駅海側近隣公園にて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年6月3日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：12時00分

自己評価終了予定時刻：14時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

新園のため振り返り無し

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ一人ひとりが、大人同士や子どもたちとの語り合いを大切にし、互いを知り、自園の良さや自園の強みを見つける。 ・スタッフ間のインクルーシブ、チーム力の向上
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ一人ひとりがどろんこ会の日課や基本活動の意味を十分理解し、なぜそれをやるのか？をスタッフ同士の対話により深め、自分のものとする。 ・それぞれの立場や役割を理解し、認め合い、補い合いながら、「みんなで」子どもたちを育てていく。保育士・調理員・事務・用務・専門士・施設長・主任・社員・パートなど子どもに関わる全てのスタッフが、役割・役職を越えてチーム一丸となり、みんなでみんなを育てる園の実現。
2025年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ保育が当たり前の日常となり、保育園・つむぎ・ちきんえっぐ・地域がいろいろな意味で壁のない「大きなお家」を実現する。

	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち一人ひとりが「好きな場所で好きな人と好きな遊びが」展開できるようスタッフ同士が子どもについて話すことを大事にし理解を深め、安心安全に見守ることができる保育力を身につける。 ・
2026年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に愛され、地域に根付いた「選ばれる園」になる。 ・併設園のモデル園を目指す。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは身近な立場にいる保護者に「人におススメしたい保育園」と思っただけよう、安心安全を第一に、子どもたちがいきいきのびのびと過ごせる保育環境の充実を図る。 ・日常の保育や行事などを、積極的に外部に発信する。 ・併設園のスタッフとしての意識を持ち、専門士による園内研修を実施し知識を深め、語り合いの場を多く設け、質の高い保育に向かって取り組んでいく。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：袖ヶ浦どろんこ保育園 施設長 小松 聡子

2024年度 西崎どろんこ保育園 事業計画書

1. 基本方針

社会福祉法人 どろんこ会の保育理念、保育方針に則り、以下の方針に基づき保育を実践していく。

『心身ともに健康な子どもたちを育み、子どもたちが“いきる力”を身につける』

保育園は、子どもの尊い命を預かっている場所ということを常に意識し、いかなる時も子どもにとっての最善の利益を提供できる保育園であり続ける。

【目指すべき子どもの姿】

- ・自分でできることを自分でする子ども
- ・活動を選択し、自分で考えて行動できる子ども
- ・感じたこと、考えたことを様々な素材、また、言葉で自由に表現する子ども
- ・異年齢で交流していく中で、多様性を受容し、他者への思いやりを持つことのできる子ども
- ・様々なことに興味を持ち、また、その興味を自ら広げることができる子ども

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活の体得～どろんこ会の掲げる日課を通して、生活力を身につける～
	実践予定内容	リズム体操、座禅、雑巾がけ、長距離散歩、生き物の世話。 また、危険なものとの距離を知り、危険を避けるのではなく、体験の中で危険との距離を知っていく。
2	計画・ねらい	こども園という集団生活の中で他者を意識し、協同することの楽しさ、喜び、また、大変さを知る。
	実践予定内容	異年齢保育の実践、どろんこ会の日課の活動、インクルーシブ保育
	計画・ねらい	生き物の世話、畑活動などを通して、食材や食の循環・環境への意識を身につける。
	実践予定内容	日々の畑活動・生き物の世話を通しての生死教育・環境への意識を育む環境教育。
3	計画・ねらい	こども園での活動や行事を行っていく中で、保育者の育ってほしい姿を考えながらも、子どもたち自身でも考えていける環境を整える。
	実践予定内容	保育者・子どもたち同士のミーティング

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

『保護者の困りごとは、自分の困りごとだということを意識する』

1	計画・ねらい	常に保護者の立場に立ち、保護者の立場を意識し、接遇の心を持つ。
	実践予定内容	積極的な保育参加・保育面談の案内。

		3分間対応を意識し、誰が対応しても、その日の活動が子どもたちにとって楽しかった活動だと伝える。
2	計画・ねらい	子どもたちの育ちを広め、遊びの中で子どもたちがどのようなことを学んでいるのかを伝える。
	実践予定内容	タイムラインの内容の充実、絵本の紹介・貸し出し

〈3〉 地域の子育て支援事業

『地域の子育て支援拠点として、地域に必要とされる選ばれた園となる』

1	計画・ねらい	今までも地域に根付いてきた歴史を大切にしながら、より近隣の小中学校、幼稚園、保育園、また、商店との連携を築く。
	実践予定内容	各箇所への子どもたちの制作などの展示、商店街ツアーの実施、積極的な連携施設との活動
2	計画・ねらい	保育園が地域の子育て支援施設として、気軽に訪れることのできる地域の方の憩いの場にする。
	実践予定内容	ちきんえっぐ活動の拡充、青空保育の積極的な実施、ちきんえっぐだよりの配布先の拡充

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

『スタッフ同士による伝え合い、学び合い、支え合い』

1	計画・ねらい	施設長、主任のみならず、スタッフからスタッフへの学びを重要視し、伝える側もアウトプットすることで、自らの知識を深めていくことができるようにする。
	実践予定内容	スタッフ主体による園内研修の実施
2	計画・ねらい	法人の研修(園長大学・保育士大学)のコンテンツを活用し、様々な講師からの学びを深めていく。 また、ディスカッションすることで、より理解を深めていけるようにする。
	実践予定内容	法人の研修(園長大学・保育士大学)の積極的な活用、少人数の中でのディスカッション

〈5〉 環境実施目標

『これからの地球のことを考えた未来思考を育む』

1	計画・ねらい	地球にある資源を大切にし、自分たちの住む地球を大切にする。
	実践予定内容	子どもたちのゴミ拾い活動、リサイクル活動、ゴミの行方を知る。
2	計画・ねらい	海の豊かさを守る、また、大切さを知る。
	実践予定内容	マイクロプラスチックやサンゴ礁減少についての学習

〈6〉 地域の特性を生かした保育

1	計画・ねらい	沖縄の歴史・食事・行事等を重んじ、後世にその素晴らしさを知ってもらおう。
---	--------	--------------------------------------

実践予定内容	沖縄本来の行事、沖縄の歴史を知ることのできる行事を多く取り入れる。
--------	-----------------------------------

2. 施設運営

〈1〉施設情報

児童定員

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
-人	-人	-人	20人	30人	30人	80人

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	7人	看護師	0人	栄養士	0人	調理員等	0人
パート スタッフ	保育士	5人	補助	0人	用務	0人	事務	0人

3. 運営方針

施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	園運営に関わる報告及び検討、保育についてのディスカッション・ロールプレイ
給食運営会議	月1回	児童の健康・アレルギー・食育活動等
事故防止委員会	月1回	子どもの事故、ケガを未然に防止することを目的とする
ケース会議	月1回	個別配慮を要する子どもについて
週案会議	週1回	クラスの子どもの情報を他クラスの担任と情報共有、ディスカッション

〈1〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	月例報告
施設長勉強会	月1回	保育における課題点のディスカッション等
食育会議	年4回	献立内容の改善提案・食育計画進捗報告等
保健会議	年4回	感染症対策・改善提案等
主任会議	年5回	保育の質向上検討、マネジメント
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質向上検討

〈2〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	保育環境・衛生・予防に関わる提案実施
安全対策係	防犯・遊具・保育備品の安全点検及び事故防止
防火管理者	避難訓練の実施・改善取り組みの実施
食品衛生責任者	衛生点検・予防及び管理と全職員への指導
畑チーム	年間畑計画に沿った継続的な畑活動・食育活動
地域関係構築チーム	商店街ツアー、各行事を中心とした地域との関係の構築

〈3〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り	保護者、地域との連携、運営

4. 保育方針

〈1〉基本方針

幼児保育	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境や友達に慣れ、関わりを深める。 ・基本的な生活習慣の自立に向け、主体的に取り組む。 ・自然物や生き物・食・地域との関わりを体験する中で生命の大切さを知る。
------	--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		・遊びや日々の活動に主体的に取り組む力を育む。
	下半期 3～5歳児	・様々な体験や生活に触れ合いを通して、友達同士の関わりを広げ、楽しむ。 ・遊びや日々の活動に主体的に取り組む力を育む。
保育参加	4～3月	希望保護者による保育参加/参加後アンケート記入依頼
保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	自分たちが育てた食材を調理し、食べることで『食』への興味関心を広げる。
	実践予定内容	畑活動の充実、日常での食育
2	計画・ねらい	空腹感を感じ、食べたい時に食べたい場所で食べたいものを食べたい人と食べたいだけ食べることのできる環境作り
	実践予定内容	戸外活動の充実、縁側給食(テラス)
3	計画・ねらい	鶏を絞めて食す 命をいただく活動の実践
	実践予定内容	近隣園と協力し、命の大切さについて体験を通して、実感する。

〈4〉保健計画

園児健康診断	年2回(6月・11月)
歯科検診	年1回(6月)
保健だより	月1回(25日)発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回(5日)
園児への保健指導・取組等	手洗いキットを使用した手洗い指導、歯磨き指導
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス

	感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 インフルエンザ、ノロウイルス等 7月頃・・・プール熱等 11月頃・・・インフルエンザ、ノロウイルス等
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	預かり無し
エピペン使用できるスタッフ	本日現在3名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員8名については3月22日までに受講予定
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	AED設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検(簡易)	年4回／4・7・10・1月の25日
	衛生管理点検表／毎日	毎日
衛生管理	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
健康管理	身長体重測定	毎月1回／20日

	児童健康診断	内科健診 年2回／6・11月 歯科健診 年1回／6月
	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時
運営管理	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

『子どもを真ん中とした保育環境の構築』

1	計画・ねらい	子どもたちの遊びの姿に合わせた環境作り
	実践予定内容	子どもたちの遊びの姿や発達に沿った環境作りを行い、一年通して、常に同じ環境ということではなく、季節やその時の子どもの成長、遊びに合わせた保育環境作りに努める。
2	計画・ねらい	保育者の声よりも子どもの声に溢れた保育園にする。
	実践予定内容	保育者も人的環境として、子どもの主体性を尊重し、過度な言葉かけはせず、子どもたちを信じる心を持つ。
3	計画・ねらい	常に異年齢保育を意識した環境設定をする。
	実践予定内容	各クラスでの保育ではなく、常に異年齢での活動を意識し、クラスの制限のない室内園庭の環境設定、また、活動内容を考え続ける。
4	計画・ねらい	就学を意識した「自らのことを自らができる」子どもを主体とした動線や環境の設定。
	実践予定内容	就学した時に、子どもたちが困ることのないように子どもたちの小学校生活を常に描いた上での見通しを持った上で、自然と子どもたちができる環境設定を行う。また、そこに合わせて、保育者全員が統一した言葉かけができるようにしていく。
5	計画・ねらい	子どもたち自身が安全に、かつ、遊びを選択できる環境の中での統一されたルールの徹底。
	実践予定内容	子ども主体の環境を構築していく中で、子ども主体の定義が崩れ、ルールのない中で、無秩序の環境とならないようにする必要がある。保育者、子ども全員が理解した上での統一されたルールの中で、子ども主体である遊び込める環境とは何かを考え続ける。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検計画

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	なし		

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	各種マニュアルを理解し、速やかに行動する。
2	実践予定内容	洪水時の避難訓練、台風時の避難訓練、不審者侵入訓練、総合避難訓練の実施。
3	実践予定内容	常に危機意識を持ち、避難訓練や各災害情報を収集し、対応にあたる。
4	実践予定内容	園内外の事故事例・ヒヤリハットを全職員に共有し、事故防止に繋げる遊具、家具等の点検を行い、危険個所は速やかに共有、改善することで、事故防止に繋げる。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度方針・テーマ

地域研修の場として、実習生を積極的に受け入れていくことで、新しい保育の情報を手に入れていくとともに、実習生に自分たちの保育の考え方を言葉で伝えていくことで、自分たちの保育を振り返る場にもしていく。

1	実践予定内容	各養成校の実習生の積極的な受け入れ。
2	実践予定内容	小中高生の体験学習等の積極的な受け入れ。

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉2024年度 園内研修計画

（毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「子どもの命を守るために～戸外」 ※ディスカッション形式	室内ハザードマップの見直し。 誤飲誤嚥の危険性の再認識。 ケガ・ケーススタディ研修
5月24日	18:00～20:00	コンピテンシー自己採点 「子どもの命を守るために～室内」 ※ディスカッション形式	散歩先ハザードマップの見直し。 見失い事故を防ぐ。

6月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びとプール遊びの安全について学び、技術を習得する。 ※講義・ロールプレイ・ディスカッション形式	水の危険性を知る。 プール遊びを行う上でのマニュアルの再確認。
7月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの発達段階に応じた室内環境の設定について～自らのことを自らする環境～ ※ディスカッション形式	発達に沿った室内環境とはどのような環境なのか。 また、「自らのことを自らすることのできる」環境となっているのか。
8月23日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの発達段階に応じた室内環境の設定について～変化させてみてどうか～ ※ディスカッション形式	発達に沿った室内環境に変化させてみてどうだったのか。 子どもたちの変化はどうか。
9月27日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもと畑の関わり、食育 ※ディスカッション形式	畑活動を行ってきて、子どもたちの食の変化はあるか。 また、西崎こども園でできる食育とは。
10月25日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 「幼保連携型認定こども園教育保育要領について～幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を学ぶ～ ※ディスカッション形式	就学に向け、幼保連携型認定こども園教育保育要領から今一度、10の姿を学ぶ。
11月22日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② リズム体操 ※実技ならびにディスカッション形式	リズム体操の見直し。 リズム体操を通しての子どもたちの育ち。
12月27日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画書の振り返り	事業計画書に沿って、進めることができているか。
1月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 幼保小の連携～小学校教諭を招いた小学校入学に向けての話し合い ※ディスカッション形式	就学を前に、小学校での子どもたちの学び、姿を小学校教諭とともに、学ぶ。
2月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点	クラス単位での次年度を見据えての

		② 全体的な計画、指導計画の見直し	振り返りを行う。
3月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 新年度の見通しを立てる。 ・事業計画を知り、具体的な指導計画の策定を行う。 ※講義とワーク形式	次年度の事業計画書を知り、次年度どのようにして保育を組み立てていくのか、具体的な指導計画の策定を行う。

エリア研修予算内訳（3園合同開催）

開催日	予算	予算の内訳		3園で按分した自園負担額
6月23日	7550円	交通費(前原⇄西崎)	650×7円	3園で命を頂く職員研修 食材費は分担 西崎負担分 1000円
		食材費	3000円	
1月25日	7550円	交通費(前原⇄西崎)	650×7円	3園で命を頂く保護者参加行事 (親子参加行事) 食材費は分担 西崎負担分 1000円
		食材費	3000円	
合計	15100円			2000円

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											

リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
デモンクインターンシップ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の子育て支援施設として、地域の子育て世代の交流の場となるようにする。そして、地域での認知が高まっていくことで、“選ばれる園”となり、地域になくてはならない施設となる。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：西崎親水公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域行事に参加、老人福祉施設の訪問、子育て支援センターとの交流。
異年齢交流	幼・保・小連携事業での交流会参加。 中学生の職業体験受け入れ、ボランティアの受け入れ。
地域拠点活動	連携園との合同の行事開催
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

開園一年目として、小学校との関係性を重視し、積極的に幼保小の連携をすることで、子どもたちがスムーズに就学に向かえるようにする。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	西崎小学校	23名予定	校庭で遊ぼう	子ども間交流
7月頃	西崎小学校	23名予定	西崎小学校 体育館	子ども間交流
2月頃	西崎小学校	23名予定	授業参観	職員・子ども間交流

10. 要支援児計画

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

家庭・専門機関と連携して、全職員共通理解のもと、保育にあたる。

〈2〉毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：名予定)

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

児童要録を基に、小学校との連携を図る。

11. 子育て支援事業

園に來訪した親子に都度署名をもらい、月間延來場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：西崎親水公園にて開催

1 2. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受診予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2023年某日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：12時00分

自己評価終了予定時刻：14時00分

自己評価実施予定者：施設長、主任

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

1 3. 3カ年計画の具体化

〈1〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	各年齢の育ちをしっかりと理解し、常に子どもたちが一定のルールの中で自由に遊びを選択できる環境を構築し続ける。 また、その中で子どもたちの育ちを自らの言葉で一人一人のスタッフが保護者、地域の方に発信することができる。
	重点施策	子どもたちの育ちをタイムライン、3分間対応、地域子育て支援等、様々な場面で自らの保育を発信していく。
2025年度	目指す姿	西崎どろんこ保育園の保育を理解してくれる保護者、地域の方が増え、保育の行事にも保護者、地域の方が積極的に参加してくれる。 また、双方の学びを深める場が多くなる。
	重点施策	どろんこ祭りや各行事を行う中で、地域や保護者と連携し、保育園運営を共に行っていく。
2026年度	目指す姿	法人内だけでなく近隣の保育園とともに、園内研修を行い、糸満市全体としての保育の質の向上を目指す。
	重点施策	地域の保育園のリーダーとして、地域の保育園向けの研修、公開保育等も行う。

以上

2024年度 発達支援つむぎ 荻窪ルーム 事業計画書

1. 基本方針

「にんげん力。育てます。」の理念に基づき、子どもが主体的に活動を選択し、思考すること、体験すること、表現することを引き出す支援を基本方針とする。また、乳幼児期から就学後の姿を連続したものとして捉え、小学校の現状を知り、逆算した支援(アプローチカリキュラム)に力を入れていく。

支援内容は、これまで大切にしてきた座禅、雑巾がけ、裸足保育、畑仕事、生き物との関わりについて更に深めていく。特に畑仕事に関しては、子どもが食べ物を育てる環境に興味関心や意識を向けられるよう、畑仕事から環境教育や食育へつなげていく。

開園10年目にあたり、園内の設備や備品等をいま一度見直し、本当に必要な物を厳選しながら整理整頓を心掛けるとともに、老朽化に伴い整備を要する箇所の把握に努める。また、スタッフはにんげん力の向上に努め、子ども、保護者、地域の方、自治体の方など全ての方、発達支援業界にとって役立つことを学び、利用者家族や社会に必要とされる事業所を目指していく。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	年間を通じた畑仕事から、実体験の中から様々な感触、運動を経験する(健康な心と体、思考力、数量や図形などへの関心)
	実践予定内容	<p>畑仕事では、土づくりから子どもたちと一緒に取り組んでいく。土壌作りを科学的な視点から考え、試験紙を用いてアルカリ性や酸性を子どもが実際に確認し、野菜に適した土づくりを行っていく。土の手入れ、種まき、草取り、収穫、調理、肥料づくりなど、野菜を単に収穫するだけでなく、畑仕事に必要なサイクルを一貫して体験する。戸外で季節を感じながら、子ども自身が主体的に作物の成長に関わり、ときには他者と協力しながら、思考し行動する経験を提供する。</p> <p>畑では種を撒くことや作物を間引く際、収穫をする際に数や量の概念を自然に体感することができる。また、思うように育たなかったり、歪な形になったりと困難な場面で、どうすれば上手くいくのか、トライアルアンドエラーを経験する機会を提供していく</p> <p>野菜以外にも育てたいものを子どもたちと相談し、花や綿などの植物も育てていく。</p>
2	計画・ねらい	生き物の飼育を通して生死を知る。命への理解、大切さや重みについて知り、思いやりの心を育てる(道徳性、共感性、責任感)
	実践予定内容	<p>小さな生き物の観察や世話をすることは、子どもの豊かな心の成長を促すことができる。カブトムシの土交換、メダカの餌あげ、飼育環境の掃除など、支援の中で実際に友達と協力しながら行うことで、責任感が育まれ、仲間意識が芽生えるように支援をしていく。</p> <p>生き物が卵から幼虫へ、幼虫から成虫へと変化する過程を見届け、ときには死に立ち会う経験から、命の尊さや大切さについて学ぶ機会を提供す</p>

		る。
3	計画・ねらい	協働でひとつの物を創り上げる経験（協同性、達成感、豊かな感性と表現）
	実践予定内容	支援中はスタッフが必要以上に介助したり、完成させることを目的にしたりせず、その過程で子どもがどのように考えたか、子どもが表現しようとしているものは何かを見極めるよう支援し、一人ひとりの表現を大切にしていく 園入口やカフェの壁面の装飾、生き物の展示スペースを子どもたちの製作物で飾り付けられるようにする。製作物を展示することで、共通の目的の実現に向けて考えたり、工夫したり、協力したり、諦めずにやり遂げた達成感や充実感を得られるよう支援する

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	事業所内相談支援を活用し、子育てに関する相談や助言、支援方法についてアドバイスを随時行う
	実践予定内容	事業所内相談支援（個別、集団 各1回/月）の制度を保護者へ周知する。「就学について」「子どもの発達について」などテーマを変え、有益な情報発信を行っていく。また、必要だと思われる保護者には随時スタッフからも案内し、参加を促していく
2	計画・ねらい	スタッフが定期的に小学校に訪問をして現状を知り、保護者へ小学校の説明を卒園児の保護者を招いた座談会を開催し、情報交換の場を提供する
	実践予定内容	年長児の保護者は就学に向けての情報を必要としているため、つむぎを卒園した保護者にご協力頂き、情報交換の場を提供する。就学にあたり準備しておいた方が良く、困難だったこと、実際に就学した子を持つ保護者の体験談を話してもらい、保護者同士の連携や交流の機会を提供する。
3	計画・ねらい	当法人で行われている園長大学@保育士大学の動画にて、一般向けに配信されるものの情報発信をしていく
	実践予定内容	性教育の一般向けの講座のように、一般向けの講座があった場合保護者に周知していく。 保護者向けの講座の提案を積極的に行っていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	園との連携を強化する。保護者と相談しながら園訪問の時期を検討し、支援に活用していく
	実践予定内容	つむぎでの様子だけでなく、実際に子どもの所属園に訪問し、生活の場面で子どもの姿を確認する。その結果から必要に応じて個別支援計画を更新し、支援の質を高めていく。訪問時には、園の先生と具体的な支援の手立てについて共有するだけでなく、園の雰囲気や大切にしていることなども特徴も把握する。
2	計画・ねらい	日帰りショートステイ事業を活用し、子どもや保護者にとってつむぎが安心できる場所になる

	実践予定内容	杉並区の児童通所受給者証を取得した子どもを対象に、日帰りショートステイ事業のサービス提供を行う。杉並区内の子どもが対象なため、地域の方に広く活用してもらえよう周知する。児童発達支援事業だけでなく、保護者のレスパイトやきょうだい児の病院受診等、支援以外の部分でも保護者の要望に応えられるようにし、子どもにとってもつむぎが楽しい場所、また行きたいと思えるような安心する場所になることを目指す
3	計画・ねらい	自治体が開催する情報交換会・実務者協議会などへの参加、所属園への園訪問、他事業所等との事例検討会への参加や情報共有、関係機関との連携を強化する
	実践予定内容	感染症予防等、安全に配慮しながら継続的に交流できるよう検討していく。実際に人の往来ができない期間は、オンラインや電話での聞き取り等を活用した連携を行う。積極的に交流できる時期が来た際に、これまで通り連携できるよう関係性を継続し続けることや、新たな関係機関との連携も積極的に行っていく

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	社内社外問わず、参加したい研修には積極的に参加を促す 園長大学@保育士大学の動画を個人だけでなく、ルーム内研修にもとりいれ、スタッフのコミュニケーション能力や支援の質の向上を目指す
	実践予定内容	ルーム内研修において、園長大学@保育士大学の講座を利用した研修を行っていく。また、スタッフが講座から学んだ知識や、個人の人生経験から得た知識等を園会議で共有したり、近隣園と連携して事例検討の機会を設けたりすることで、スタッフの知識・説得力・表現力も養うことで園全体の質を高めていく
2	計画・ねらい	戸外活動でのスタッフの関わり方について、子どもの最善の利益を考慮し、スタッフ同士共通見解を持ちながら支援の質を高めていく
	実践予定内容	戸外活動（畑仕事、公園遊び等）において、関わり方、見守り方についてスタッフによって差が見受けられる。動作分析におけるデータの蓄積により環境設定は整ってきているため、スタッフ全員で子どもの最善の利益を考慮し、共通見解を持ちながら支援の質を高めていく。写真や動画を用いた症例検討を定期的に行い、スタッフ間で意見交換を行う機会を増やしていく

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	虫を飼育することで、「命への理解や思い」「思いやり」を育む。また、飼育を通して他児と関わることで、「仲間関係」も育てていく(生命尊重、協同性、言葉による伝え合い)。
	実践予定内容	飼育する生き物の種類を増やす(畑や公園にいる虫や水辺の生き物等を)。これまで以上に様々な生き物との触れ合いにより、興味関心を引き出しながら、生と死について考える機会を提供する。生き物に触れることで「命への理解や思い」を促していく グループ支援の中で実際に生き物に触れ、世話をしながら、変化を他児と

		共有し、土交換や餌あげなど定期的に作業できる環境を用意する
2	計画・ねらい	生き物に触れる力をコントロールすることで、自分の身体の使い方を知る
	実践予定内容	<p>小さな命を扱う上で「そっと」「優しく」「ゆっくり」など、子どもが自身の行動と合わせて考えざるを得ない状況を飼育下で作り出し、力をコントロールする経験を学んでいく</p> <p>時には強く握ったり乱暴に触ったりしてしまうことで弱らせてしまうことも想定されるが、子どもが様々な経験をし、感じ、考え、主体的に行動することを大切にしていく</p>

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉開所時間

9時30分～17時30分

〈3〉スタッフ構成 (2月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者兼公認心理師1名

保育士2名

児童指導員1名

他1名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回90分	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内の情報共有 ・児童発達支援管理責任者、各専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内で発生したヒヤリハット、インシデント、事故の分析と再発防止について共有 ・他園で発生した事故について共有 ・全国で発生した事故について事例検討
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
虐待防止委員会 (施設内会議にて実施)	9月、2月	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待の定義の確認、虐待防止マニュアルを全員で確認する
ケース会議	適時	<ul style="list-style-type: none"> ・個別／グループ支援での課題の抽出、スタッフの認識のすり合わせ、適切な支援内容の検討

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	年2回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
食育会議	年4回	発達に合わせた食形態、食らう力を育てる関わり、アレルギー管理
保健会議	年4回	戸外活動におけるリスク管理
子育ての質を上げる会議	月1回	サービスの質の向上、業務の効率化、事業所間の情報共有
杉並区情報交換会	年2回	区からの連絡事項伝達、事業所間の交流

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかの飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案
体験学習係	活動の立案、計画書／報告書の作成、必要備品の準備、当日の運営、（ハザードマップ外の場合）園外保育計画書の作成

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
体験学習係	活動の立案、計画書／報告書の作成、必要備品の準備、当日の運営、（ハザードマップ外の場合）園外保育計画書の作成
地域連絡会係	近隣の他事業所との情報交換会への参加、商店や公共施設との関係づくり

4. 支援方針

〈1〉基本方針

グループ支援	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・畑仕事や公園活動で、直接土づくりや水遊びをするなど、自然の中で遊ぶことを体験する。畑仕事を通して食への関心を高める ・近隣の公園から徐々に歩ける距離を伸ばしていく ・戸外活動を通して基礎体力づくりを行う ・友達と一緒に活動に参加する経験から、協働する楽しみを知る ・座禅、雑巾がけ、リズム運動などの日課活動に取り組む
--------	--------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	下半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・畑仕事で農具の操作を通して、力加減や身体の動かし方を知る ・水や土、温かい、冷たいなど様々な感覚に触れる ・野菜を育てる過程で優しく触れたり、並べて植えたり、水を全体に撒いたり、力や身体をコントロールする経験を積み、左右の手、上下肢、目と手など協調運動の力を養う ・収穫した野菜の調理や加工を通して食への関心を高める ・子どもたち自らが計画を立て、手段を選び、協働で完成させる体験をする ・散歩の距離を徐々に伸ばしていく
親子グループ支援	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・つむぎに来ることに慣れ、安心した環境で友達と一緒に活動を楽しむ ・様々な感触に触れる ・安心した場所で主体的に遊ぶ ・保護者以外の大人との関わりを知る ・保護者の子育ての悩みや不安を受容しながら、子どもの成長を感じられるよう、保護者支援を行う
	下半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とのやり取りを楽しむ ・視覚や触覚など五感で体験する ・表現する楽しさを知る ・見守りを中心とした干渉しすぎない支援を心掛ける ・保護者同士の関わりを持てる場所になる
個別支援		<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画に基づき、子どもに合わせた支援を実施する ・活動は原則戸外で実施するが、子どもの希望によって臨機応変に室内活動も実施できる環境を用意する ・活動内容は子どもが主体的に選択し、スタッフはその手助けを行う関わりを心掛ける ・子どもの意欲を高める活動を提供し、「できた」という達成感を感じられる支援を目指す
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	子どもに合わせた食事形態、食具（手づかみ食べ）について、定期的に支援を行う
	実践予定内容	子どもに適した食事形態や食具の支援を行っていく。特に課題のある子どもについては、動画や写真を使って勉強会を実施し、児発管や言語聴覚士の意見をもとに今後の支援方法について検討していく。自ルームだけでなく、他ルームとのケース検討も行う中で、様々なケースについて理解を深めて行く
2	計画・ねらい	子どもたちが育てた野菜を収穫しその場で食べたり、加工・調理を行い提供したりすることで、食への興味関心を育てていく
	実践予定内容	子どもの「食」の興味関心を広げる関わりを心掛ける。実際に育てた野菜を食べるだけでなく、自分が育てた野菜をソースに加工して食べたり、保護者に食べてもらったりといった直接体験重ねていく。食物を育てて食べる、食べてもらうことで、喜びを感じたり自信を持ったりし食への興味関心を育てていく

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～9月頃・・・手足口病・咽頭結膜熱・ヘルパンギーナ・とびひ 11月～3月頃・・・インフルエンザ・ウイルス性胃腸炎・RSウイルス感染症
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ・・・ショートステイ2名より都度預かる／冷蔵庫にて保管 エピペン・・・ショートステイ2名より都度預かる／事務所にて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在6名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在6名が、研修受講し、修得済み

その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する
-------------	------------------------------------------------------

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
衛生管理	衛生点検チェックリスト	食育活動開始前：【食育活動】活動別チェックリスト
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	施設内虐待防止委員会	年2回／9・2月
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもが主体的に活動を選択する
	実践予定内容	全ての支援は子ども自身が選択できるように、環境を整える。戸外では畑仕事か公園かなど、その時に子どもが今やりたいことを実現し、その中で子どもの成長を促せる関わりを基本とする
2	計画・ねらい	年間を通して畑仕事を実施する
	実践予定内容	いつ行っても畑仕事を行えるよう、計画的に作物の育成を行う。収穫だけでなく、土づくり、種まき、堆肥づくり、間引きなど、畑が現在どのような状況で、どんな作業が残っているかをスタッフ全員で把握しながら管理していく
3	計画・ねらい	園の整理整頓
	実践予定内容	園内には様々な備品があるが、その備品を今一度見直し、必要なものしか置かない備品管理を徹底していく。一方で必要な物はしっかりと揃え、日々のメンテナンスを徹底する

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	なし		

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	危機管理マニュアルNo. 3の災害対策（P6～）に則り、消防訓練・避難訓練再開通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手引き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報運用を行い・災害発生時には対応フローチャートに従う
2	ケガ事故防止	危機管理マニュアルNo. 3（P8～）のケガ事故防止策・安全点検と保全事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従う
3	不審者対策	危機管理マニュアルNo. 3の不審者対策（P14）に則り、不審者侵入訓練・笛の携帯・代理の送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行いながら、不審者侵入時には対応フローチャートに従う
4	光化学スモッグ	危機管理マニュアルNo. 3の光化学スモッグ対策（P15～）に則り、光化学スモッグの知識を身に着け、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時の対応及び行政連絡に従って対応する

6. 実習生・中高生の受入

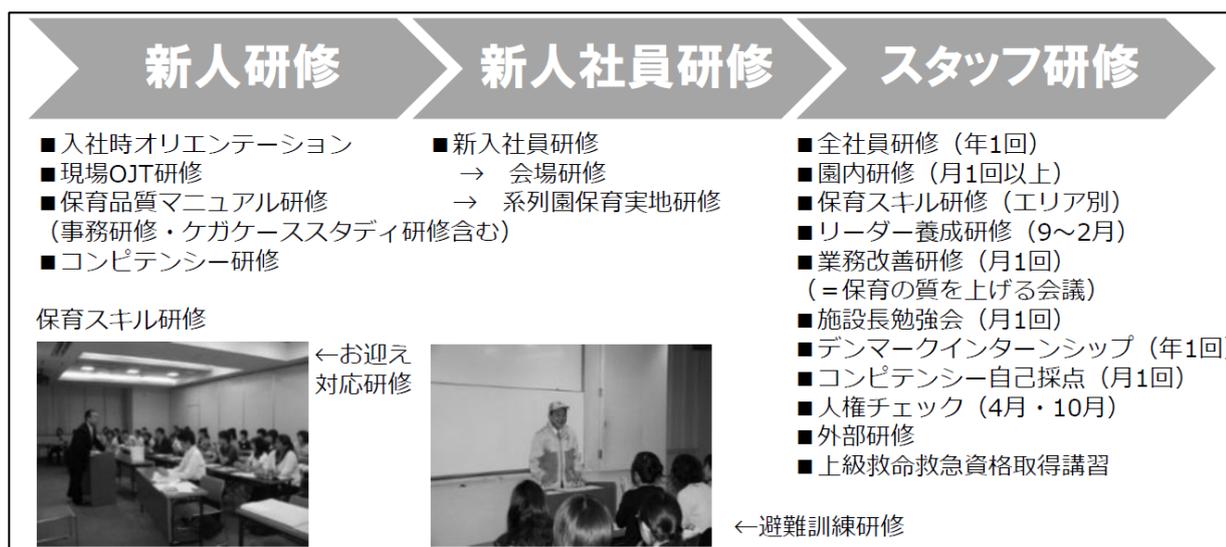
〈1〉今年度の方針・テーマ

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり、地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

実習生・中高生に限らず、見学や面接で来所された場合には、つむぎでの取り組みや大切にしていることを説明し、つむぎのファンになってもらえるようにする。また、オンラインでの見学にも対応できるように園の中は常に整理整頓を心掛ける。

7. スタッフ育成と研修計画

- ① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性を全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法や教材教具の活用、またひとりひとりの子どもに対する支援についてのポイントを全体で共有する。
- ② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「事業所での活動」「親子支援」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招くなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を行う。
- ③ ケース会議：児童個人の支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。基本的には月1回としケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケース会議を希望するがいれば回数を増やし随時開催する。
- ④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他



施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を超えた研修会を実施する。

- ⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：一人年間6回を目標とし、課長・施設長で機会の調整し積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。
 - ⑥ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、検知を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低1名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。
 - ⑦ 朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。
- (以上のナビゲーションは、本事業計画書を入力する際に削除してください。)

〈1〉 2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月12日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理・衛生管理研修 ③ 人権チェック・虐待防止研修 ④ 就学支援について ⑤ 畑仕事について	<ul style="list-style-type: none"> ・保育品質マニュアルを用い、子どもを安心して安心して任せられる施設となるべく危機管理・衛生管理について確認する。 ・人権チェック及び虐待防止研修を行い、スタッフ全員が子どもの人権について考え、虐待の定義や概要についての共通認識を持つ。 ・職員が就学の制度について理解し、保護者の相談に乗れるようにする。 ・夏の野菜の栽培を振り返り、畑仕事についての基本知識を全員で共有する。
5月17日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの発達・特性理解 ③ 表現・絵本研修 ④ 医療受診について ⑤ 救急救命研修	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの子どもの発達段階や特性に合わせた支援を提供できるようにする。 ・職員によるスキル研修を行い、さらなる質の向上を目指す。 ・医療受診に関する相談に対応できるよう知識の確認を行う。 ・緊急対応について全スタッフが対応できるよう改めてマニュアルの確認とAEDの取り扱いについてシミュレーションを行う。
6月14日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 個別計画作成に向けた手順と注意点 ③ 水遊びのリスク管理研修	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントの質向上および個別支援計画作成に向け、スタッフが担当するケースの支援方法をスタッフ間で検討を行う。 ・水遊びにおけるリスク管理について確認を行う。
7月12日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達検査研修	<ul style="list-style-type: none"> ・心理士による発達検査研修を行い、子どもの状態像の把握や支援の構築のスキルを上げる。
8月9日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 相談支援と保護者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援と保護者支援について、対応の仕方や相談の受け方について学ぶ。

9月13日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② ケース検討	・検討したいケースを持ち寄り、対応について協議する。
10月11日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 利用者アンケート改善案検討 ③ 虐待防止研修 ④ 就学支援シートについて	・虐待防止研修を実施し、スタッフ全員が虐待の定義や概要等の共通認識をもつ。 ・就学支援シート作成に向けて、作成のポイントを学ぶ。
11月8日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 性教育研修	・つおぎで行う「性教育」に関して学び、共通認識を持つ。
12月13日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画の振り返り	・今年度の事業計画について振り返り、次年度に向けた計画について全スタッフが構想を話し合い、方向性を定めていく。
1月17日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度Missionの共有と理解	・次年度Missionについて共有、理解し、達成に向けての具体的なアクションを考える。
2月14日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度構想	次年度の支援について具体的な年間計画の策定を全スタッフ担当ごとに行い、集約する。
3月14日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度打ち合わせ	次年度のスタートに向け、具体的な準備を進める。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											

リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
デスマークインターンシップ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

区民農園での畑仕事は地域の方と触れ合う貴重な機会であるため、今年度も関わりを強化していく。昨年度、好評で合った公共機関とコラボした体験学習や感染症予防の観点から中止にした企画も改めて内容を見直し実現できるよう努める。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：読書の森公園にて
商店街ツアー	都度 季節に合わせたイベントを企画する 園で必要な備品の購入等を実際に行う
世代間交流	畑仕事を通じて、地域の方との交流を図りコミュニケーションの楽しさや、保護者やスタッフ以外の大人とのやり取りを経験する
異年齢交流	異年齢のグループでは、年下の子を手伝ってあげる経験や、年上に手伝ってもらった経験を大切に、干渉し過ぎず見守る支援を心掛ける

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

アプローチカリキュラムおよびスタートカリキュラムへの理解を深め、小学校1年生の姿を逆算した支援が行えるよう努める。職員が就学先の小学校の見学に行き、小学校の現状を把握する。幼稚園、保育園、こども園、小学校の先生方と情報共有を行い、お互いに求めること、子どもにとって必要な支援等について確認する。また、就学後の相談先や相談方法について情報収集を行い、勉強会等を通じて保護者に伝えていく事で、卒園後も継続的な支援が受けられる体制づくりに努める。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を5月7日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
8月頃	桃井第二小学校	3~4名予定	・学校見学(桃井第二小学校)	スタッフ交流 登校の見通しを持つ 小学校の雰囲気を知る
8月頃	杉並第九小学校	3~4名予定	・遊びと憩いの場の活用(杉並第九小学校)	子ども間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせる。
- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

児童発達支援管理責任者が、“子どもの最善の利益”を常に念頭に置きながら、保護者の意向、子どもの適正、特性を踏まえ、提供するサービスの適切な支援内容等について検討し作成する。提示の2ヶ月前に保護者にモニタリングを実施し、子どもの家庭や園での様子、保護者のニーズなどについて

て適切に把握する。1ヶ月前に児童発達支援管理責任者を中心とした策定会議を行い、多角的に子どもの発達を捉え、適切な支援を考える。6ヶ月に一度以上個別支援計画の作成を行うが、子どもの状態や家庭状況などの変化に合わせて支援の見直しをする場合がある。所属園に訪問し、担任らと共に支援に対する共通理解を持つための策定会議を行った場合は、速やかに支援計画の書き換えを行い、園訪問での話し合いをもとにした支援内容を書き加える。

〈2〉 毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催予定 参加者：6名予定）

通所している子どもへの支援の妥当性をケース会議にて、さまざまな職種のスタッフより検討を行っていく。つむぎで見せる姿だけではなく、家庭、所属園、つむぎそれぞれの場所での様子を踏まえて子どもにとって最善の支援を考えていく。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

就学支援シートを用いて進級引継ぎおよび小学校への引継ぎを行う。当施設での子どもの様子、提供した支援内容、必要と思われる配慮事項などを伝える。また、子どもの発達過程を踏まえ「できること」「得意なこと」などを積極的に伝え、進級先および小学校での今後の見通しとなるような引継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
つむぎカフェ	(月)～(土) 9:00～17:00
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：読書の森公園にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉 施設による自己評価の実施

2024年年度内に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：未定

自己評価終了予定時刻：未定

自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	子育てのプロとして、障害特性だけでなく、あらゆる保護者様のニーズに応えられるよう知識や経験を増やしていく
	振り返り	職員の入れ替わりにより定着が難しかった。ルームとしての知識や経験の蓄積になるよう、研修や日々の振り返りで職員の平均スキルを上げる必要がある。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	子育てのプロとして、障害特性だけでなく、あらゆる保護者様のニーズに応えられるよう知識や経験を増やしていく
	重点施策	乳幼児期の子どもの発達について施設内会議や内部外部問わず講座へ参加し、個人の学びを深める機会を作る。また、得た知識はアウトプットする経験を重ね、知識を確実なものにしていく。その他にも、法人内または子どもの所属園等に訪れた際には、支援について適切なアドバイスが行えるよう、人前で話す力を高めていく
2025年度	目指す姿	戸外活動や畑仕事、日課を支援に定着させる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外活動、畑仕事、食の循環、日課 ・ねらいや目的の再確認、共有。 ・写真や動画を用いた症例検討を定期的に行い、スタッフ間で意見交換を行う機会を増やしていく。 ・つむぎならではの支援の定着。（職員、子ども、保護者、地域）
2026年度	目指す姿	地域に認められ必要とされる施設になる
	重点施策	ブログでの情報発信や地域での行事や会議に参加を継続して行う。荻窪ルームの取り組みが地域に認知され、地域の方が気軽に来所し、くつろいだり育児の相談等を話したりすることができる施設となる。また、関係機関や小学校との交流する関係を構築し、子どもに関わる全ての機関からも必要と思われる施設へとなる。

以上

2024年度 発達支援つむぎ 吉祥寺ルーム 事業計画書

1. 基本方針

◇ジブンのことはジブンで～必要なモノ・コトを整理し「生活力」を体得しよう～

子どもたちの支援をする中で、はじめは「手伝って」「難しい」「できない」という発言を聞くことが多くみられた。しかし支援の中で様々な「ホンモノの経験」や興味関心がひろがったことで活動の幅がひろがり、主体的に取り組めるようになると「ジブンで」「やりたい」などといった発言が増え、活動における試行錯誤を楽しめるようになってきている。発達支援つむぎ 吉祥寺ルームでは、子どもたちが自分の足で人生を歩むために、自分で自分の命を守るために「ジブンのことはジブンで」取り組む主体的な経験や環境設定を取り入れ、「生活力」の体得を目指していく。また、必要なモノ・コトも一人ひとり選び取り、自らを律していく経験へとつなげる。そしてスタッフや保護者、地域の方々の関わりや見守りから「ジブンで」経験の選択ができる機会を設定し、全ての方がよりよく生きていく礎を築く。身につけた「生活力」を家族・所属集団・そして地域などへとひろげ、生きる力の深化と充実化を目指す。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	「生きる力＝生活力」を育む活動と支援の提供
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達に合わせて日課の内容や実施方法に柔軟性を持たせる。 ・活動と活動の合間の時間など、限られた時間の中でも経験を積み重ねていけるように工夫する。 ・「火・水・土」に関わる活動の際には、楽しさや面白さだけでなく、リスクについても知ることができるよう、具体的なイメージをもって伝える工夫をする。 ・活動や支援の中から子どもたちがどのような「生活力」を身につけたかを社内外に発信する。
2	計画・ねらい	人や植物、生き物など命あるものと関わり、生命を尊重する気持ちを育み生き物に関する興味、知的好奇心が湧くようなきっかけ作り
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・畑仕事において、畑の土作りや畝作り、種まきや苗植え、水やりや雑草抜き、収穫や保存、調理まで活動の連続性を大事にし、食に関わることへの興味関心をひろげていけるようにする。 ・連続性のある活動から得た学びの様子を社内外に発信する。 ・ミスジドロガメの世話や井の頭動物園・水生物園での活動を通して、生き物の生態に触れる活動を継続して行い、命の大切さを感じることができるよう機会を設定する。 ・鶏や魚といった「命をいただく」活動を実践し、自然の恵みから命をいただき自らの命が育まれている経験をする。
3	計画・ねらい	子どもが自分自身で活動を選択できる環境設定の構築

	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日課や戸外活動、地域での活動や調理活動、素材や道具を用いた活動など、様々な環境から子どもが自ら経験や活動を選択できるような設定する。 ・子どもが決めた「やる」「やらない」「見る」「一緒に」などの気持ちを尊重し、子ども自身の気持ちの変化に寄り添いながら、子どもが安心して試行錯誤できる環境を整える。 ・自己決定しながら学び、成長する子どもの変化を社内外に発信する。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を見据えた活動を行うとともに、ねらいに対する子どもたちの学びや育ちを活動内容とともに定期的に振り返る機会を設け、質の向上を図る。
--	--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	就園・就学に向けた具体的な見通しを定期的に設定できる環境づくり
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回程度就園・就学に向けた保護者懇談会を実施し、就園・就学における見通しや、必要な準備・心配事等を保護者とスタッフが共に話し合い共有できる場を設定する。 ・利用児が小学校を見学し、就学へのイメージや期待感が持てるような機会を設定する。また可能な限り子どもたちと教職員・児童間での交流ができるよう働きかける。 ・日々の支援で就学相談の進捗や保護者の思いを確認する。適宜園訪問や就学支援シートの活用等を提案し、関係機関との連携を積極的に図る。
2	計画・ねらい	保護者が子どもを理解し、子育てを前向きに捉えられるような場の提供
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜事業所内相談支援の機会を設定し、現在の子どもの様子や今後の見通し等を伝えたり、子育てに関する悩みを整理したりするなど子どもの成長を共に喜んだりできるような場を提供する。 ・相談支援に繋がりやすくするため、保護者全員に向けて年度途中に相談支援に関する案内を配布する。相談内容に関する具体例等も挙げイメージを持ちやすくする。
3	計画・ねらい	子育てについて共有し、学べる場の提供
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回程度、子育てにまつわる話ができる「おはなしの会」を継続して行い、保護者同士の交流につなげていく。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に基づくルームにおける支援の実践報告や、子育てに関する講座等、学びの場を提供する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	近隣の小学校とのつながりから継続した支援の先を知る
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領・アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの内容について、定期的にスタッフ間で共有し、学齢期について学ぶ機会を作る。 ・近隣の小学校と連携を図り、小学校や教員との関わりを持つ。

		<ul style="list-style-type: none"> ・小1の授業や休み時間などの様子をスタッフが見学し、逆算した支援の実施検討や学校での実際、合理的配慮の環境などについて知る。 ・教職員間との交流の機会を設け、現状や課題などの意見交換を行い、より良い子どもの支援と接続期の学びを共有する。
2	計画・ねらい	地域へつむぎの取り組み・育ちを発信する
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵野中央公園内の管理を「子ども管理人」として継続的に行う中で、地域貢献や地域でともに育つことへの関わりを深める。 ・吉祥寺駅周辺のお店や施設に訪問し、諸活動における子どもたちの育ちの姿を外部に発信する。 ・商店街散策や清掃活動などを通じ、生活の中で地域と関わりが持てるよう活動を設定する。 ・武蔵野中央公園での青空保育や「おはなしの会」を通じて、法人や吉祥寺ルームから発信した地域子育て支援を展開する。
3	計画・ねらい	法人内外との定期的なつながり強化
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内外の保育園・幼稚園へ定期的に訪問し、連携を強化する。 ・法人内の保育園や部内のつむぎと共同で活動を実施したり、支援の内容や特色を知る機会を定期的に設けたりすることで、多職種かつ様々な考えを持つスタッフ間のインクルーシブを図る。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	大人も主体性～考え、学び、動く、自律した集団～
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ全員が「選ばれる施設になるためにはどうするか」を考え、3か月ごとに園会議で発表し、取り組みを行う。 ・「好き」や「学び」をアウトプットする場をスタッフそれぞれが自己決定し、創園・おはなし会・法人内・地域講座・園長大学保育士大学など、吉祥寺ルームから情報発信していく。 ・子どもの「生活力」を身につけるためにはどのような支援・活動が必要かを考え、経験と失敗を十分味わえる環境や見守る力を高め実行する。
2	計画・ねらい	質の高いアセスメント力を身につけ伝える
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・6月までに「アセスメント」の本質を考える学びを行い、スタッフが子どもの思いや行動をキャッチできる力を高める。 ・毎月の活動計画から日々の支援のねらいを確認し、子どもの行動の背景にあるものや「好き」をピックアップできたか、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に繋がる支援ができたかを振り返り、記録に残す。 ・5領域における学びを深めると同時に、個別支援計画の作成においてどのように記載していくかを検討する。 ・保護者に対し毎回の振り返りを写真やドキュメンテーションを活用し、わかりやすく伝えていくことで満足度があがることを目指す。また、その日の子どもの様子から、保護者に伝える方法やバリエーションを増やし、柔軟に対応できるスキルを身につける。

3	計画・ねらい	幅広い支援の連携を考え、地域社会を知る
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵野市の社会資源を知り、理解する中で相談支援の情報として活用する。 ・他事業所や小学校の教員との交流や学びの場を年に1回以上開催し、幅広い支援方法の獲得と保護者や子どもへの支援へと活かす。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を通じて環境への影響を知る
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・畑の作物を収穫後調理や加工をし、食材の変化や食べた後についての食物の変化について調べ、自然へ還るまでのイメージを持つ。 ・特に調理や加工活動においては、季節に応じた食物を活用し、年間を通じて計画を立て実施する。
2	計画・ねらい	身近な自然現象に触れる機会を持つ
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ雨はふるのか」「雷が起こる仕組み」といった自然現象について図鑑やICT等にて知識を深め学ぶ機会を持つ ・自然現象における天災等についても無理なく触れ、自分で自分の命を守ることや危機管理についても学ぶ。
3	計画・ねらい	様々な環境の循環を経験する
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーム外に「勝手籠」を設置し、リサイクルやリユースについての学びを深める。 ・環境におけるエコ活動とは何かを調べ、実行する。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

保育士1名
機能訓練担当スタッフ3名（公認心理師3名）

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門士による支援技術の共有 ・ 研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設 け、資料を使った研修を行う。 ・ つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園内で発生した事故・インシデント・ヒヤリハット報告の確認と改善点共有。 ・ 他園事故報告書を参照し、自園での事故防止に活かす。
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・ 支援担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共有相談等が必要なケースについて話し合う。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議		障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	食育の推進、意見交換、取り組みの共有
保健会議	年4回	感染症、アレルギー、衛生管理や保健業務の取り組みの共有
子育ての質を上げる会議	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
要保護児童対策地域	適宜	主に虐待などによる問題を抱えた家庭について、適切な保護

協議会		と支援を目的とし、関係機関が集まって相互理解を図り、役割分担を決めながら協力して支援を行っていく。
武蔵野市児童発達支援事業所連絡会	年4回程度	基幹センター的な役割をする「ハビット」が中心となり、市内の児童発達支援事業所が一堂に会し、情報交換や各回のテーマに沿って話し合いをする。

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	畑の整備、支援における計画的な活動の立案
生き物係	エビとミスジドロガメの飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
吉南まつり係	情報収集、商店街との連携
地域連携係	地域資源の利用や情報の収集と連携、市報の確認、地域小学校の学校公開やイベントの情報収集をする。

4. 支援方針

〈1〉基本方針

異年齢で構成された支援 (主に3～5歳児)	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい友達や環境に慣れる。 ・自ら活動に取り組む意欲を育てる。 ・異年齢での活動を通し、協調性や主体性、思いやりの心を育む。 ・戸外で実施する「ホンモノの経験」から豊かな感性や表現力を身につける。 ・様々な道具を使う経験を共にし「生活力」の体得を目指す。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・就学や次学年に向けて保護者と相談の場を持つ。 ・ジブンたちで相談・話し合いを通して活動を定める。
異年齢で構成された支援 (主に未就園児)	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつ環境に慣れながら通所を楽しいと思えるようになる。 ・ふれあい遊びや感覚遊び等体全体を使った遊びを経験する。 ・規則正しく通い、適切な生活リズムを作る。 ・スタッフや友達と共に遊ぶ中で遊びの幅をひろげ、経験を選び取れる環境を設定する。 ・保護者と活動を通じて、日々の子育ての悩みや話を聴き、子どもの成長について共に考える。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・就園や次学年に向けて保護者と相談の場を持つ。 ・子どもたち同士の関わり合う時間を徐々に増やし、人と関わる力や生活や遊びなど「好き」「得意」をじっくり味わえる経験をする。
個別支援		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの「やりたい」に寄り添い、主体性や選択する力を育む。 ・活動への意欲が持ちやすい環境設定を行い、子どもの言動を見守りながら達成感や自己肯定感へつなげる。
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	自然の恵みをいただく活動の実施
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・畑で野菜を育てるうえでの土づくりや種、苗植えも子どもとともにを行い、野菜の育ちや成長を定期的に見守る環境を設定する。 ・肉や魚を捌いて食べる命をいただく食の学びを経験する。 ・加工品を作る工程を知り、食がどのように加工されていくかを知る。 ・できた加工品を食し、食の経験や幅をひろげる。
2	計画・ねらい	季節の行事と連携した調理活動
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫した野菜等を調理し、自ら作ったものを食す経験から食べる意欲につなげる。 ・調理時の感触や食材の変化、食べた時の舌触りなど五感を十分に働かせて取り組めるよう環境を設定する。 ・季節を感じる調理活動を行い、日本の四季について触れる機会を持つ。
3	計画・ねらい	食べた後の食の仕組みや体の成り立ちについて知る
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・食物を食べた後に、体にどのように吸収され、体が作られていくか学ぶ。 ・便や尿になった後の行方や循環についても知る機会を設け、体や自然における食の循環についても学ぶ。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	<p>通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒を実施する。</p> <p>6～8月頃・・・アデノウィルス、ヘルパンギーナ、手足口病</p> <p>11～3月頃・・・インフルエンザ、RSウイルス</p> <p>11～1月頃・・・感染性胃腸炎</p>
エピペン使用できるスタッフ	本日現在6名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	虐待防止研修	年2回／4月・10月
	施設内虐待防止委員会	年2回／9月・2月
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉 環境整備

1	計画・ねらい	遊びや道具を選択する力ややりこむ感覚を経験する
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋やコーナー等で自由に遊びこめる環境を設定し、自らの力で遊びを展開する経験をする。 ・様々な道具を置き、子どもたちがいつでも主体的に関われる環境、経験を選び取れる環境を用意する。 ・決められた量や人数分の量ではなく、子どもたち同士の話し合いや調整が経験できる量の道具を用意する。
2	計画・ねらい	素材から自由な発想を育む経験をする
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・廃材や模造紙等を使用し、自ら決めた素材で自由に取り組む経験をす

		<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石や葉っぱ、野菜の端等自然のものも使用しながら豊かな想像力を育む。 ・その際に必要な道具は子どもが自ら用意したり、量を相談したりして取り組めるよう環境を設定する。
3	計画・ねらい	ルーム内の美観を保つ
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・来月活動で必要な物品については、毎月の活動計画作成時に明らかにし、不足がないよう確認する。 ・ルームの運営や支援等に必要な備品の見直しを行い、必要なもののみを置くサイクルを回す。 ・定期的なメンテナンスや掃除については、年間計画に盛り込み、確実に必要回数実施できるよう日時を設定する。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	武蔵野市からの防犯・防災メールを随時確認する。その他注意報や警報の発令を意識し、戸外活動に対する現状リスクを意識する。
2	実践予定内容	防犯を含めた避難訓練を実施し、スタッフの勤務体制にかかわらず、緊急時に誰でも最善の対応ができるよう努める。スタッフ全員が避難場所、避難経路、避難方法、AED設置場所等を熟知しているようにする。
3	実践予定内容	全スタッフがケガや事故に対して常に危機感を持ちつつ支援にあたる。起きたケガや事故に対しては原因の究明を怠らず、再発防止務める。また、未然に防げることへの気づきを忘れず、常にケガや事故の起こりにくい環境設定を配慮していく。

6. 実習生・中高生の受入

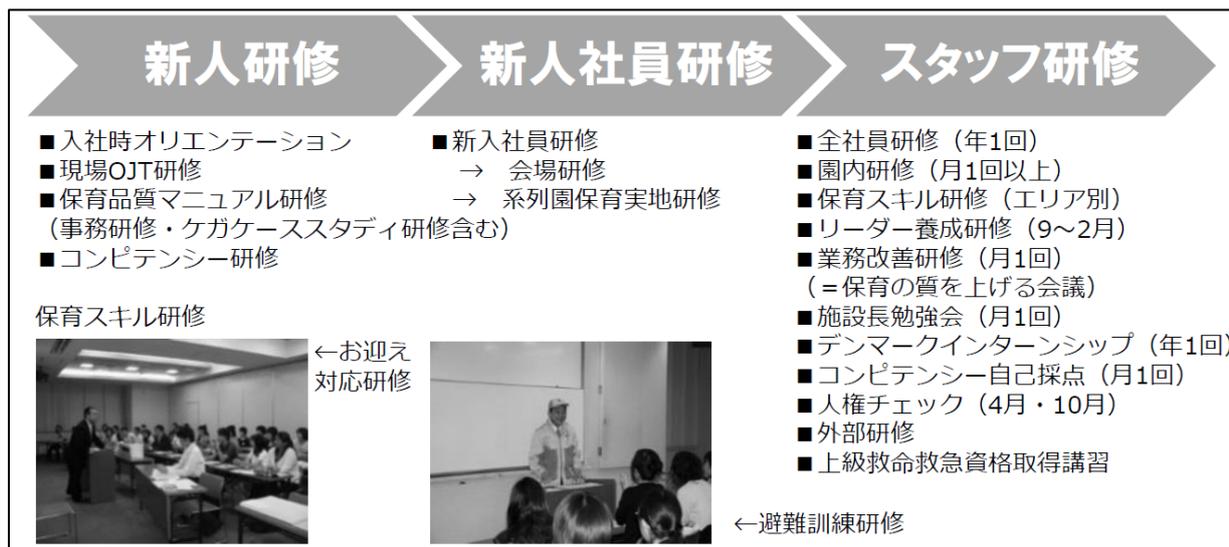
〈1〉今年度の方針・テーマ

地域における共育や交流を活発に行い、児童発達支援事業所を様々な方々に知ってもらうため、ボランティアや実習生等を積極的に受け入れ、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

1	実践予定内容	中高生の体験学習の受入
2	実践予定内容	保育養成校・専門士養成校の学生の実習受け入れ
3	実践予定内容	一般および学生の各種ボランティアの受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画

- ① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性を全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法や教材教具の活用、またひとりひとりの子どもに対する支援についてのポイントを全体で共有する。
- ② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「事業所での活動」「親子支援」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招くなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を行う。
- ③ ケース会議：児童個人の支援の現状や課題について、または支援のあり方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。基本的には月1回としケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケース会議を希望するがいれば回数を増やし随時開催する。
- ④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を越えた研修会を実施する。
- ⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：一人年間6回を目標とし、課長・施設長で機会の調整し積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。
- ⑥ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、検知を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低1名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。
- ⑦ 朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。



〈1〉2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月17日	9:30~11:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理・衛生管理研修	保育品質マニュアルを用い、特に子どもを安心して任せられる施設とな

		③ 虐待防止研修	るべく危機管理・衛生管理についてマニュアルを用いて確認していく。また、虐待防止研修を実施し、スタッフ全員が虐待の定義や概要等の共通認識をもつ。
5月15日	9:30~11:00	① コンピテンシー自己採点 ② アプローチカリキュラムおよび就学に向けた情報共有	アプローチカリキュラムの知識および支援について園長大学®保育士大学等も活用し、武蔵野市や近隣他市区の就学の流れを理解し、就学後の支援や保護者の相談に乗れるようにする。
6月12日	9:30~11:00	① コンピテンシー自己採点 ② アセスメントおよび個別支援計画作成における手順と注意点	アセスメントの質向上および個別支援計画作成に向け、スタッフが担当するケースの支援方法をスタッフ間で検討を行う。
7月10日	9:30~11:00	① コンピテンシー自己採点 ② 火・土・水に関わる研修	園長大学®保育士大学等のツールを用いて水遊びや火や土との関わり、取り組みやリスクについて学ぶ。
8月14日	9:30~11:00	① コンピテンシー自己採点 ② 相談支援と保護者支援	事業所内相談支援や保護者支援について、事例を用いながら全スタッフが対応・質の向上を目指す。
9月11日	9:30~11:00	① コンピテンシー自己採点 ② ケース検討	スタッフが担当するケースの支援方法をスタッフ間で検討を行う。
10月9日	9:30~11:00	① コンピテンシー自己採点 ② 利用者アンケートの改善策案検討 ③ 虐待防止研修	保護者からのご意見に対し、対応策を考える、迅速な対応を目指し、対応者を分担する。また、虐待防止研修を実施し、スタッフ全員が虐待の定義や概要等の共通認識をもつ。
11月13日	9:30~11:00	① コンピテンシー自己採点 ② 嘔吐処理	感染症流行期前に、再度嘔吐処理や対応についてシミュレーションを行い、全スタッフが対応できるようにする。
12月11日	9:30~11:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画書	次年度に向けた計画について全スタッフが構想を話し合い、方向性を定めていく。
1月15日	9:30~11:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度Missionの共有と理解	次年度Missionについて共有、理解し、達成に向けての具体的なアクションを考える。

2月12日	9:30~11:00	① コンピテンシー自己採点 ② 心肺蘇生	緊急対応について全スタッフが対応できるように改めてマニュアルの確認とAEDの取り扱いについてシミュレーションを行う。
3月12日	9:30~11:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度構想	次年度の支援について具体的な年間計画の策定を全スタッフ担当ごとに行い、集約する。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日~30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
デモンクインテンシブ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。また、1・2か月程度に1回月報面談を行い、目標達成における具体的行動の確認と進捗の確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

戸外活動や地域交流等を通じて、地域の方々や商業施設、商店街などにも認知されてきている。引き続き活動を通じて関係性を深めていく。また、子育て支援施設として通所の有無や支援の時間の有無によらず立ち寄りてもらいやすい環境を設定し、日々の子育ての話や悩みを気軽に話せる居場所としても認知されるよう取り組みを行う。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：武蔵野中央公園にて
商店街ツアー	随時 買い物や等を通じて関係性を深める。
世代間交流	近隣の高齢者施設等に訪問し、交流を深める。
異年齢交流	近隣の法人内保育園や小学校に訪問し、交流を深める。
地域拠点活動	“子ども管理人”として、園内の清掃、植樹、花壇等の管理を行う。また、それらを活用した製作や落ち葉プール等の活動を楽しむ。 園内掲示板を利用して、子どもたちが作成した製作や絵などを掲示する「つむぎギャラリー」を随時開催する。

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

引き続きアプローチカリキュラムおよびスタートカリキュラムへの理解を深め、小学校1年生の姿を逆算した支援が行えるよう努める。また積極的な保育園・幼稚園・他事業所等の訪問を行い、子どもの取り巻く環境・背景を踏まえて支援が行えるよう体制を整える。可能な限り教職員との交流を通じて、小学校教育の現状や学びあいの場を設定する。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を6月6日（木）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
8～9月頃	近隣の小学校	5名予定	小学校	就学見据えた学校探検 子ども間交流
10月頃	近隣の小学校	5名程度	小学校	授業見学 教職員間交流
1～2月頃	近隣の小学校の先生	10名予定	つむぎ吉祥寺ルーム	就学に向けた保護者勉強会

10. 個別支援計画の作成と更新について

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

児童発達支援管理責任者が、保護者の意向、子どもの適正、特性等を踏まえて適切な支援内容等について検討し作成する。また6か月に1度以上個別支援計画書の見直しを行い、子どもの様子や保護者のニーズ、それに伴う適切な支援が提供されているかを確認する。

〈2〉 毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催予定 参加者：6名予定）

保護者へのモニタリング実施後、児童発達支援管理責任者を中心とした策定会議を行う。

また、子どもの状態や家庭状況等の変化に合わせて支援や計画を見直す場合は、その都度策定会議を行う。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

所属園に訪問し、担任らと共に支援に対する共通理解を持つための策定会議を行った場合は、速やかに支援計画の書き換えを行い、園訪問での話し合いをもとにした支援内容を書き加える。

また、就学において子どもの様子や配慮事項については、必要に応じて就学支援シート等を用い、スムーズな就学準備や引継ぎが行えるようにする。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
つむぎカフェ	(月)～(土) 9:00～17:00
子育て相談	随時
自然食堂…親子ランチ交流	随時
勝手籠設置	(月)～(土) 9:00～17:00
青空保育	月1回 武蔵野中央公園にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年度内に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：未定

自己評価終了予定時刻：未定

自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	「好き」と感じる経験や「好き」を高めていける活動から自分自身の学びと成長につなげる支援
	振り返り	子どもの「好き」を支援の中で一緒に見つけたり感じたりする中で、じっくりと向きあう時間や見守る時間も意識的に増やした。また「好き」なことに対して他者に伝えたり共有したりする機会を定期的に持ち、「好き」からの学びを深めひろげていけるよう支援・環境を整えた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	断捨離～必要なモノ・コトの追及～ 発信力・実行力をもったスタッフの育成 地域に根差した施設と積極的なアウトリーチ活動
	重点施策	・2022年度・2023年度を振り返り、今必要なもの・こと以外は整理し、明確かつ分かりやすい施設の構築を行う。 ・年に1回以上全スタッフが自分で企画した内容について講師を行う。 ・幼稚園保育園等との定期的な連携や関係づくりの中で積極的なアウトリーチ活動を行い、「声なき声」を拾う。
2025年度	目指す姿	地域に見守られ、活用される施設 子どもも大人もインクルーシブ
	重点施策	・施設利用者のみならず、地域にひらかれた施設として利用されるよう環境を整える。地域公開講座の開催や立ち寄りまで気軽に足を運べる居場所づくりを行う。 ・施設を拠点とした様々な人との関わり合いの中から、共に育ち学びあえる

		インクルーシブな環境整備を行う。
2026年 度	目指す姿	インクルーシブな施設での活動深化
	重点施策	<ul style="list-style-type: none">・子育てにまつわる様々な交流や居場所づくりはもちろん、地域の方々が主催する講座等の開催も含め、居場所を深化させる。・全ての人が自分で選ぶ・社会を生きるため、ルームスタッフと共に過ごす環境を用意し、職業選択や実習等の機会を設ける。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 吉祥寺ルーム 施設長 石井 友貴

2024年度 発達支援つむぎ 阿佐ヶ谷ルーム 事業計画書

1. 基本方針

今年度は「他人ごとではなく、自分ごと」をテーマにつむぎ阿佐ヶ谷ルームを運営していく。常に客観的に相手の立場に立って物事を考えることや自分の行動を省みること、サービスの質の向上や子ども自身の行動や考えを見立てる力をスタッフ一人ひとりが身に着けていく。スタッフ同士が積極的に子どもについて学び、話し合うことで支援の質の向上を高め、ルーム内の美観を意識することで接遇や礼儀の観点からも利用者に信頼され、選ばれるルームを目指していく。

また、令和6年度の法改正により、総合支援型と特定プログラム特化型の2つに児童発達支援事業所は分類される。当法人は総合支援型として児童発達支援事業を行っていくものとする。日常生活の充実を図る活動や創作活動、地域との交流の活性化を図ることはどろんこ会として現在実施していることであり、継続していくものであると考え、内容を以下に記載する。

- ① 子どもの「生活力の体得」のため大人が道具の扱いを実際に見せることや全力で目の前のことを楽しみ取り組むことを実施する。大人が失敗する姿を見せることで子ども自身が「失敗してもいい」と安心して経験を積めるように進めていく。子ども自身で経験の選択ができるよう物的環境設定を行う。自由遊びの時間に何で遊びたいか問いかけることや様々な遊び、おもちゃを豊富に用意し好きや得意が探索できるように支援していく。
- ② 交通ルールや社会でのマナー、きまりなど、生きていく上で守る必要のある事柄を教えていくことで、小学校への進学、就職までを見通して子どもたちの「にんげん力」の向上を目指す。互いの思いや考えを分かち合いながら1つのことを一緒に行うことや、やりたくないこともやってみようとして挑戦する気持ちを育めるよう、スタッフが安全基地となり子ども自らで考え、行動を起こせるように見守っていく。
- ③ 地域との交流を活性化するため、小学校との連携強化や消防署、図書館、公園などの戸外活動の実施を行う。また、新たな繋がりを積極的に作り、職業体験や共生社会の実現を目指していく。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	支援内容の充実
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・繋がった地域資源との継続した交流、内容の充実を図った上で、新たな地域資源を模索する。デイサービスにアポイントメントを取り、連携が図れるように努めることや職業体験が行える施設を模索していく。 ・就学後の支援について、地域資源も含めて理解し、発信する。 ・子どもが主体的に活動に取り組めるよう、子どもの興味・関心・発達段階を把握し、現在の子どもの姿に合うプログラムを用意する。 ・グループ支援において、相談課題や協同制作課題等を設定することで、子ども同士での話し合いや、役割をもって協力をする経験を重ね、皆で一つのモノを創りあげていく。 ・小学校見学を継続し、利用児と一緒に小学校を訪問する。

2	計画・ねらい	質の向上
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・活動のねらいと効果を見立て、記録を基にしたケース検討会議や定期的な陪席を実施する。また、支援内容の評価と改善を話し合い、全スタッフで質の向上を目指す。 ・他事業所との交流会や学び合いの機会に積極的に参加し、地域交流を図るだけでなく、子どもにとってのより良い支援を自律して考え続ける。 ・専門職や他ルームとのケース検討会議を実施することや他園との交換研修を実施することで沢山の知識や様々な方の考えや行動を知り、良いものを吸収する。 ・全スタッフが児童発達支援ガイドライン、保育所保育指針、幼稚園指導要領、学習指導要領について一定の理解を持ち、児童発達支援の役割について考え直す機会を持つ。 ・保護者との信頼関係の向上を目指し、信頼される相談相手になる。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者が安心して頼ることのできるルーム
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・全スタッフがすべての子ども、保護者と面識があるように、日常的な支援として毎回のお出迎え・お見送り対応を丁寧に行うことを徹底する。 ・定期的に保護者に事業所内相談支援を提案し、保護者の話をじっくり聞いて受容と共感をしつつ、専門的な助言を行っていく。 ・担当でないスタッフが支援へ入った際に保護者が安心して過ごせるよう丁寧にフィードバックを実施し、根拠のある見立てを伝える。
2	計画・ねらい	保護者の学びとなる場の確立
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回、保護者が知りたい分野や情報を勉強会と称して提供する。 ・横の繋がりを広げ、保護者同士が困りごとや悩みごとの共有できる場となるように進める。
3	計画・ねらい	相談支援の活用
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園訪問の実施後、保護者に内容を報告し、家庭やつむぎ、園での今後の対応方法を共有する。 ・事業所内相談支援を実施し、普段のフィードバックでは拾いきれない困りごとや心配事の詳細を把握し必要に応じて助言する。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	他事業所との連携、情報交換
	実践予定内容	・杉並区内の他事業所との連携を更に深め、施設長・児発管のみならず、どのスタッフも積極的に見学に向かう。他区の併用先の事業所との連携も進めていく。また、近隣の小学校へのお見学も行う。
2	計画・ねらい	地域におけた発信
	実践予定内容	・地域の幼稚園・保育園・子ども園の先生につむぎに見学に来ていただき、情報共有や勉強会を開く。 ・小学校のお見学を実施する。 ・つむぎでの支援や取り組みをブログや創園で発信していく。 ・デイサービスや畑、地域の店舗、子育て家庭等を招いて、子育てに関する勉強会・座談会を行う。
3	計画・ねらい	青空保育の拡充
	実践予定内容	・梅里中央公園にて紙芝居、製作遊び、虫捕りや池遊びなどを実施する中で地域のお子どもと一緒に遊ぶ機会を増やす。つむぎや発達支援というものを広く知ってもらう機会とする。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	社会人としてのマナーを学ぶ
	実践予定内容	・公用文や敬語、尊敬語、謙譲語など一般的な言葉の使い方や文章の書き方を知る。挨拶の仕方やFAXの送付、電話対応など基本的な常識を学ぶ。 ・個別支援計画書やすばるⅡ（就学支援シート）を端的に書くことができるよう書き方の研修や計画的に実行できるよう見通しを伝える。
2	計画・ねらい	リスクマネジメントの徹底
	実践予定内容	・嘔吐処理や事故対応にスタッフ一人ひとりが冷静に対処できるようミーティング内にて半年に1回練習を実施する。 ・先天性の病気や薬の名称、バイタルチェック、口腔機能など、医学に関しても知識として取り入れ、初回アセスメント時に保護者へ聴取できることや子預かりショートステイにて重症心身のお子さんが来られた際には対応できるようにする。
3	計画・ねらい	時代の流れを知る
	実践予定内容	児童発達支援が今後どのように展開されていくのか、総合支援型と特化型の違いは何か、架け橋プログラムの内容把握など、児童発達支援事業に関する世間の動きを知る。

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を知る
	実践予定内容	畑仕事で畝づくりから育成、収穫を実施し、調理活動を行う。調理活動後にはコンポストを作成し、食べ物が土に還っていくことを知る。また、収穫したものから種を採取し、それを土に植えてみることで子どもの興味や意欲の幅を広げていく。
2	計画・ねらい	ISO14001を学ぶ ・ISOを学ぶことで内部監査へ取り組む姿勢や日々の仕事の効率化を図る。
	実践予定内容	・ISOとはどういうものでそれが今の支援にどう繋がるかをスタッフ全員が把握する。

〈6〉 “他人ごと”ではなく、“自分ごと”として物事を捉える

1	計画・ねらい	インシデントが起きた際に振り返りを実施する。
	実践予定内容	・ミーティング内で事故防止員会を実施した際、どうすれば防げたのか、どうして起こってしまったのか原因をしっかりと把握する。 ・他園で起こったことは自園でも起こりうることを自覚し、スタッフ一人ひとりが場面をイメージし、必要に応じて討論する。
2	計画・ねらい	スタッフ同士の協力を強固なものにする。
	実践予定内容	・仕事量が多いスタッフに対して自分ができないことはないか模索することや、保護者とのフィードバック中に子どもの対応をするなど保護者や子どもが安心し、満足して過ごせるように子どもの最善の利益を一番に尊重する。 ・子どもとの関わりでうまくいったことや失敗したことを共有することで、スタッフ全員が所属している子どもの全体像を把握する。どのスタッフがどのタイミングでも支援ができるように子どもの困りごとや好きなことを自分ごとのように知っておく。 ・無理のない範囲で自分の興味のある分野を学び、自施設で発表することやルーム会議内で全員が積極的に発言し、新たな発見や課題、考え方、学びをルーム間で共有する。

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉 開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長兼児童発達支援管理責任者1名
 保育士3名
 公認心理師1名
 児童指導員1名

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
事故防止委員会	月1回	自ルームヒヤリハット、インシデント共有と対策の確認。他園の事故共有と自園で気を付けるべきことの確認。
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	年2回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	保育園、他ルームの取り組み等を共有し、自ルームの活動に活かす。
保健会議	年4回	保育園、他ルームの取り組み等を共有し、自ルームの活動に活かす。

子育ての質を上げる 会議	月1回	保育と発達支援の情報・取り組みの共有。支援の質の向上につなげる。
-----------------	-----	----------------------------------

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理
畑係	ペットボトルプランターの整備、区民農園での計画的な活動の立案
生き物係	エビ、カブトムシの飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
体験学習	月に1度、普段の支援では行いづらいイベント、実体験を実施し、子ども達の新しい魅力を発見することや子どもも大人も楽しめる支援を行う。

4. 支援方針

〈1〉基本方針

親子グループ	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な行動や欲求に適切に答え、他者を認識し、特定の大人との情緒的な絆を形成する。 ・活発な探索活動を楽しみながら、興味の幅を広げ、様々な感覚を育む。 ・身近な大人との安心した関係の中で、自らの要求を他者に伝え、応答的な関りを楽しむ。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・一人遊びや人との関りを通して、自我が育つ。 ・親子で取り組むプログラムを通して、親子関係の構築や発展を促す。

		<ul style="list-style-type: none"> ・親の悩みや相談事を丁寧に聞き取り、適切な助言を行う。 ・親同士の交流が生まれやすい話題の展開や、話しやすい環境の設定を行う。
キッズグループ 3～5歳児	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験を通して、体に心地よい感覚刺激を入れる。 ・友達との関わりの中で、自分の気持ちを言葉や行動で表現する。 ・自分の要求や思いを言葉や行動で他者に表現しながら、他者を受容する感情が育つ。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に見通しを持って取り組み、達成感や充実感を味わう経験をする。 ・協力課題や相談課題を設定し、友達と主体的に関り、協力や相談をしながら目標に向かって活動する。 ・自分たちで畑仕事や戸外活動の計画を立て、実行することで達成感や満足感を味わい、子どもが主体的に戸外活動を展開できるよう関わる。
個別支援		<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安定・安全な環境・支援者との関係の中で、自分の気持ちを表現する。 ・個別支援計画と子どもの成長や現在の課題に合わせて、プログラムを組み立てる。 ・子どものその日・その時の状態に合わせ、臨機応変にプログラムや支援方法を展開していく。 ・子ども一人ひとりの興味・関心を把握し、主体的かつ意欲的に活動に取り組めるように関わる。 ・活動に見通しを持って取り組み、達成感や充実感を味わう経験をする。 ・子どもの姿に合わせて地域の商店や公園、自然を利用したプログラムを立てて実践していく。
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
関係機関との連携	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定する。
別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食材や食の循環を認知する直接体験
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・畑仕事を通して、食物を育てて食べる喜びを経験し、達成感や充実感を味わう。 ・区民農園を利用し、夏野菜・冬野菜等季節に応じた野菜を栽培し、年間を通して畑仕事を行っていく。 ・収穫した食物を使ったプログラムを実施していく。(調理、芋版制作等) ・調理したものを自分たちで盛付・配膳して食べる。 ・子預かり事業ではスタッフが弁当を持ち寄り、子どもと一緒に食べる。
2	計画・ねらい	保護者へ食に関する助言を行う
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・咀嚼や嚥下に悩みがある保護者から話を聞き、動画撮影や実際に弁当を持参してもらい、支援者が直接その様子を見て適切な助言や支援を行っていく。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回(5日)
流行が予測される感染症	<p>通年・・・新型コロナウイルス、マイコプラズマ肺炎 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施</p> <p>6～8月頃・・・手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱(プール熱)、流行性角結膜炎(はやり目)、伝染性軟属腫(水いぼ)、伝染性膿痂疹(とびひ)、アデノウイルス感染症</p> <p>11月～2月頃・・・溶結性連鎖球菌感染症、ウイルス性胃腸炎、RSウイルス感染症、インフルエンザなど</p>
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	<p>預かり未定。</p> <p>対応者いた場合、マニュアル通りに遂行する。</p>
エピペン使用できるスタッフ	<p>本日現在7名が、研修受講し、修得済み</p> <p>未受講の新入スタッフ1名については4月30日までに受講予定。</p>
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	<p>本日現在6名が、研修受講し、修得済み</p> <p>未受講の新入スタッフ1名については4月30日までに受講予定。</p>
その他保健に関する取組	うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を必要に応じて実施する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

「自分で考え、自分で行動する」「自ら行動する力を育てるとともに、他の子どもと試行錯誤しながら活動を展開する」を基本とし、室内・室外ともに子どもが自発的に関わる環境を設定する。

1	計画・ねらい	気持ちの良い環境づくり
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・整理・整頓・清潔を心掛け、不要な物や壊れている物は処分や修繕を行う。誰もが気持ちよく過ごせる環境設備と維持を徹底する。そのために、毎週のミーティングで修繕箇所や故障個所の確認を行うとともに、他ルームのスタッフ等にルームの環境を視察してもらい、別の視点から見た際に改善箇所がないかを把握する。 ・子どもが興味・関心があるものを把握し、ルームの環境に用意することで、自発的な行動が増え、意欲的に参加する姿が増えるようにする。
2	計画・ねらい	戸外での療育の展開と発展
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外への活動の幅を広げていくことにより、公園にある自然物・昆虫等の生き物・信号や車等の人工物と触れ合い、子どもの興味や関心を広げる。それらをプログラムに取り入れることで、子どもが意欲をもって主体性に行動できる環境を設定する。

〈7〉 手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	看板	カフェスペース	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	危機管理マニュアルNO.3の災害対策（P6~）に則り、消防訓練・避難訓練再開通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安産対策系の設置・緊急地震速報運用を行い・災害発生時には対応フローチャートに従う。
2	ケガ事故防止	危機管理マニュアルNO.3(P8~)のケガ事故防止策・安全点検と保全事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。
3	不審者対策	危機管理マニュアルNO.3の不審者対策(P14)に則り、不審者侵入訓練・笛の携帯・代理の送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行いながら、不審者進入時には対応フローチャートに従う。
4	光化学スモッグ	危機管理マニュアルNO.3の光化学スモッグ対策(P15~)に則り、光化学スモッグの知識を身に着け、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応及び行政連絡に従って対応する。
5	救命救急	普通救命講習会への参加

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉 今年度の方針・テーマ

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、要請があった場合には積極的に受け入れを行い、実習生やボランティア一人ひとりの様子に合わせて、具体的かつ丁寧に援助・助言を行う。

1	実践予定内容	「未来のスタッフを育成する」気持ちで、法人の理念や取り組みを丁寧に説明する。実際に支援内容を見ることがや体験する場も設ける。
---	--------	----------------------------------------------------------------

7. スタッフ育成と研修計画

- ① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性を全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法や教材教具の活用、またひとりひとりの子どもに対する支援についてのポイントを全体で共有する。
- ② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「事業所での活動」「親子支援」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招くなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を行う。
- ③ ケース会議：児童個人の支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。基本的には月1回としケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケース会議を希望するがいれば回数を増やし随時開催する。
- ④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を越えた研修会を実施する。
- ⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：一人年間6回を目標とし、課長・施設長で機会の調整し積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。
- ⑥ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、検知を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低1名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。
- ⑦ 朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。

〈1〉2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p style="font-size: small;">←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修  <p style="font-size: small;">←避難訓練研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
-----	------	--------	----------------

4月15日	10:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック ③ 総合訓練 ④ 怪我、ケーススタディ	人権と虐待防止について研修 怪我、ケーススタディについて 基礎知識の勉強会、電話対応・処遇
5月13日	10:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 接遇研修	基礎知識の勉強会 アプローチカリキュラム、小学校との 連携について
6月17日	10:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保護者、家庭支援	保護者の悩み、家庭での悩みの共 有、具体的な支援策の検討 グループリーダーとサブの役割につ いて
7月22日	10:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 個別支援計画作成につ て	救命講習 モニタリングの重要性、策定会議、 個別支援計画の作成について
8月19日	10:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② OT研修	感覚統合、身体の発達について
9月9日	10:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保護者・家庭支援	発達検査について所見の読み取り 方、検査の必要性について等
10月21日	10:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 衛生研修	嘔吐処理、感染症対策について 上半期振り返り、活動の共有
11月18日	10:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 就学支援シートについて	就学支援シート、 幼児期までに育ててほしい10の姿に ついて
12月16日	10:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達検査	就学後や放課後等デイサービスにつ いて
1月20日	10:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 性教育	性と心について
2月17日	10:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度に向けて	今年度の支援内容やルーム運営の振 り返し、次年度の支援内容とルーム の取り組みの話し合い
3月17日	10:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度に向けて	各グループのねらいと支援計画の立 案、新規利用児の個別支援計画の作 成と支援内容の立案。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
デモンクインターシップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

つむぎ阿佐ヶ谷ルームが地域に根付いているとは言えないため、阿佐ヶ谷の方にルームを知ってもらうことを第一に考える。区との交流会への参加、他事業所や商店街、寺社やデイサービスなど様々な分野の方と積極的な交流を図る。地域の核となれるようにスタッフや子ども、保護者と一緒に考え、交流の幅を広げていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	随時：戸外活動において、近隣の子どもも参加できるプログラムを実施する。
商店街ツアー	週1回
異年齢交流	体験学習やペア活動において、異年齢で関わる機会を積極的に設けていく。
地域拠点活動	阿佐ヶ谷七夕祭りの参加、図書館、消防署、公園

9. 小学校との連携の計画

- ① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
- ② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
- ③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
- ④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
- ⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。
- ⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。
- ⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

区で開催されている発達障害児地域支援講座や実践報告会、要保護児童対策地域協議会等に積極的に参加し、関係機関と連携した地域支援体制を構築していく。地域の課題や特徴を理解し、様々な関係機関と連携しながら地域単位で包括的な発達支援ができるよう、手立てを提案していく。

全スタッフが就学先の小学校の見学へ行き、小学校の現状を把握する。幼稚園、保育園、こども園、小学校の先生方と勉強会や情報交換会を企画し、お互いに求めること、子どもにとって必要な支援等の情報共有や意見交換を行う。また、就学後の相談先や相談方法について全スタッフが理解し、保護者に共有していくことで就学後も継続的な支援が受けられるよう努める。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を5月10日（金）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	杉並第一小学校 1年	2名予定	杉並第一小学校教室	小学校の現業把握
9月頃	杉並区全般の支援学級 1年	2名予定	杉並区の各小学校の支援学級	発達支援事業所に求められる支援の確認 特別支援教室の見学
12月頃	杉並第二小学校 1年	2名予定	授業参観	スタッフ間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認し

ていき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。

- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するとうことが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせる。
- ⑥ 原則として6か月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

児童発達支援管理責任者及び児童発達支援管理責任者基礎研修を修了者した者は、子どもの支援陪席や保護者との面談を定期的実施し、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていく。

区で作成している障害児支援利用計画やアセスメント・モニタリングの情報を照らし合わせ、具体的な支援目標や支援方法を担当スタッフと共有し、個別支援計画の作成を行う。6か月に1回以上モニタリングを実施し、目標達成度の評価や具体的な支援内容・支援方法の再考を行い、子どもや保護者の現在のニーズに適した支援を行っていく。

モニタリングは子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

積極的に所属園へ訪問に行き、生活場面の子どもの様子や状態を把握する。生活場面でできる支援を関係機関に提案することや、療育場面でできる支援を再考し、子どもの状態に合わせて個別支援計画を更新させていく。

アセスメント及びモニタリングの質の向上のため、児童発達支援管理責任者は施設内研修やモニタリングへの陪席とフィードバックを定期的に行っていく。

〈2〉 毎月のケース会議開催 （4～3月に計12回開催予定 参加者：7名予定）

毎月スタッフ一人ひとりがケースを持ち寄り、ケース会議を実施していく。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

小学校の現所把握、教諭との情報交換等を踏まえ、架け橋プログラムの内容を把握した上で、アプローチカリキュラムを立案、実施していく。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:00～17:00

つむぎカフェ	(月) ~ (土) 9:00~17:00
つむぎ新聞	4か月に1回発行
青空保育	月1回 公園名：梅里中央公園にて開催
卒園児・卒園児保護者交流	年1回

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年上期、下期に1回ずつ「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：9時00分

自己評価終了予定時刻：18時00分

自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、スタッフアンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校との連携 ・大人も子どもも気持ちよく利用できる施設 ・スタッフ育成（新しく入職したスタッフが半年で現スタッフと同様の支援を行うことができる。）
	振り返り	<p>小学校との連携は昨年度よりも2つ多く見学に行くことができ、昨年訪問した小学校にも2年続けて交流が行えている。一方で、小学校の先生との話し合いの場を設けることは難しく、次年度は先生との交流の場を設けたい。施設に関しては美観を意識して、清掃することや必ずお出迎えはできていたと感じる。スタッフの育成に関しては、1年間誰1人途中で退職することが無かったことは大きい。まだまだ経験の浅さや専門性の低さは見受けられるため、継続して勉強会を開催していく。</p>

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内保育所への定期的な訪問支援。 ・小学校との連携、情報発信。 ・様々な人に認知してもらう。地域交流活性化。 ・どのスタッフも子どもに安定した支援を提供することができる。 ・他ルームとの連携を深め、職業体験ができる。
--------	------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内保育所や他ルームへの訪問を行い、ケース共有や検討会を定期的実施する。 ・小学校への見学を通例として行い、普通級のみでなく、特別支援教室、特別支援学級、特別支援学校との連携も広めていく。また、それらの取り組みを社内外に発信していく。 ・青空保育やブログの充実を図り、当ルームのことを地域の幅広い人が認知している。 ・スタッフがそれぞれ学び、教えあう時間の確保。支援の提案をスタッフがどのスタッフにも行える。 ・つむぎ武蔵野、就労支援武蔵野ルームにアポイントメントを取り、つむぎカフェでの職業体験を行う。つむぎ目白ルームで焚火体験を楽しむ。三鷹どろんこ保育園で鶏やヤギ、園児との交流を図る。
2025年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所等訪問支援に携わる。 ・小学校との定期的な交流の確立。 ・地域に認められ必要とされる施設になる。 ・どのスタッフが支援しても保護者と子どもが安心して過ごせる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、時勢に合わせたアプローチカリキュラムについて、小学校、保育園、幼稚園、関係機関と会議や共有会の確立。 ・地域の方が気軽に来所し、くつろいだり育児の相談等を話したりすることができる。 ・スタッフが急に変更となっても担当スタッフと同様の支援を提示し、保護者にフィードバックが行える。
2026年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所等訪問支援が安定して行える。 ・様々な小学校との交流。中学校を視野に入れる。 ・地域にて職業体験が継続的に行える。 ・スタッフの入れ替わりがあっても質を保ち続けている。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、時勢に合わせて外部へ出ていくことを実施していく。小学校、保育園、幼稚園、中学校、関係機関と会議や共有会の確立。 ・地域の方が気軽に来所し、くつろいだり育児の相談等を話したりすることができる。 ・スタッフが急に異動となっても保護者が不安にならずに阿佐ヶ谷ルームにて支援を受けたいと思える。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ阿佐ヶ谷ルーム 施設長 岡本 里保

2024年度 発達支援つむぎ 駒沢ルーム 事業計画書

1. 基本方針

2023年度の発達支援つむぎ駒沢ルーム（以下駒沢と表記）では、『子どもも大人も「全力で自然体」で居られるルーム』というルーム理念を大切に過ごしてきた。

2024年度は、引き続きこのルーム理念を大切にしていきながら、さらなる併設園としての深みを目指していく。その為に、2024年度運営本部mission『あなたは どうする～大人の主体性～』にのっとり、『つむぎからの発信』というテーマを大切に、支援、保育にあたっていく。

●ルーム理念 【子どもも大人も「全力で自然体」で居られるルーム】

- ・駒沢に関わる全ての方が自由に自分を表現し、感じたこと、やりたいことや自分の思いを伝えられる環境を目指す。
- ・駒沢に通う子どもが「やってみたい」「挑戦してみたい」という気持ちを多く育てるようにする為に、「大人が全力で遊ぶ」「熱中する」「挑戦する」姿勢を見せていき、背中であげていく。

●運営部mission 2024の遂行

①生活力の体得

- ・木登りや泥遊びなどの戸外活動を通して、ホンモノに触れる体験を多く積んでいく。また、散歩を通して自分の力で歩く力を身につけていく。
- ・子どもも大人も「やってみたい」気持ちを大切に、共に考え、失敗や成功、葛藤を乗り越えていくことで『生きる力』を育てていく。

②10の姿の体得

- ・雑巾がけを通し、自分たちで使った部屋を綺麗にする。
- ・畑仕事を行い、責任を持って作物を植える、育て食す。
- ・生き物の世話をする。
- ・異年齢で活動することで、友達同士の葛藤場面や支え合い、補い合いを経験する。

③子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定

- ・行きたい場所、過ごしたい場所を自分で選べる環境にする。
- ・自分のやりたいことができる環境を保証し、じっくり遊びに取りくむ。
- ・大人は常に子どもについて支援をするのではなく、子どもと共に遊びに参加しながら、関わりが必要な場面かどうかを見極め、臨機応変に子どもと関わっていく。

④命をいただく活動の実践

- ・命に触れる機会の経験を得る為に、他園に出向きヤギ、ニワトリに触れる機会を設ける。
- ・魚屋さんに行き、捌かれる前の魚を知る、また魚を捌いて食す。
- ・生き物を育てることで、命の大切さを学ぶと共に、食の循環の教育を行う。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

●子育てスローガン(発達支援つむぎ駒沢ルーム)

～その子らしさを大切に、子どもの「やりたい」「やってみたい」気持ちを尊重する～

1	計画・ねらい	【子どもの『やりたい』を叶えられる場所の提供】 子育てスローガンを達成する為に、子どもも大人も「やりたい」「やってみたい」気持ちを自由に表現できる場所にする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大人が全ての遊び、行き場所を決めるのではなく、子どもと何をして過ごすか共に考える。 ・公園の行き先マップを子どもたちと作成する。 ・戸外の散歩中に子どもが「ここに行ってみよう」と要求が出た時はすぐに大人はハザードマップを作成し、行くことが叶えられるようにする。 ・大人は子どもに「先生」として接するのではなく、「ひとりの大人」として接していき、子どもと全力に遊びに取り組み、葛藤場面では一緒に悩みどうしたら良いかを考えていく。
2	計画・ねらい	【命をいただく活動の実践】 <ul style="list-style-type: none"> ・畑仕事を通して、自分たちで育て食すまで繋げていく。 ・生き物の世話を通して命を知る。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・全グループで畑仕事の実施。 ・命をいただく活動の実践に繋げていく為に、自分たちで生き物を飼い、カマキリが虫を食べる、ヤモリが蜘蛛を食べるなどの生き物の食物連鎖を学べる環境を用意する。

〈2〉 事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	【他療育、園訪問の実施】 どろんこ会の活動を伝える。また、他機関と繋がりながら全員で子どもを育てる為に、他療育、園訪問の実施を行っていく。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年4月より、保護者に改めて園訪問ができることを通知する。 ・園訪問の実施(年間8園以上)。 ・他療育への訪問の実施(年間3園以上)。
2	計画・ねらい	【就学に向けての丁寧な保護者支援】 就学に向けての保護者の不安、疑問を少しでも軽減する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・就学した先輩保護者を招き、既存の保護者に体験談を伝える機会を設ける。 ・新年度になったタイミングで就学相談の流れを保護者と共有する。
3	計画・ねらい	【接遇】 「どろんこ会を選んでよかった」と思われるよう、スタッフ、保護者への気持ちよい挨拶の徹底。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ時に子どもの体調の伺いを徹底する。 ・スタッフ全員が駒沢の子ども、保護者と面識があるよう、受け入れや見送り、「行ってらっしゃい」「おかえりなさい」の挨拶を徹底する。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	【関係性の深化】 新規開拓を目指すのではなく、現在繋がりがあある施設とさらに深い関係性
---	--------	------------------------------------------------

		を目指す。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・季節に応じたイベントを開催する(年2回)。 ・高齢者施設でのクリスマス会(つむぎ児童、園児を含む)の実施。
2	計画・ねらい	<p>【近隣施設をスタッフが知る、学ぶ、活かす】</p> <p>5歳児と1年生の年間連携計画を軸に、「生きる力」を具体化し小学校へ働き掛けていく為に小学校を知り、繋がっていく。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の小学校に対しアポイントをとり、見学に行く。 ・就学を控えた子どもと一緒に小学校に見学に行く。 ・保育所保育指針、小学校・特別支援学校の最新の指導要領を読み解く。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	<p>【自分たちの思い、取り組みを次世代に繋いでいく】</p> <p>つむぎ内だけでなく、駒沢どろんこ保育園のスタッフに対しても自分たちが支援に対して大切にしている「思い」「考え」を発信していく。そうすることで「駒沢」としての支援、保育の質向上を目指す。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース検討会の実施(月1回)。 ・つむぎ勉強会を園会議で開催(年4回)。 ・マンスリー児の支援計画作成をつむぎスタッフ、園スタッフと共に行う。
2	計画・ねらい	<p>【あなたならどうする～大人の主体性～(運営本部missionより)】</p> <p>駒沢として必要なこと、取り組みたいこと、やってみたいことを自由に発信できる環境にする。</p>
	実践予定内容	<p>スタッフは下記の思いを大切に支援、保育を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの個性を知り、認め合い、補い合い助け合う。 ・互いの得意なこと、苦手なことを知り、認め合い、補い合う。 ・考えや気持ちを否定せず、ありのままの気持ちを受け入れる言葉かけや対話を行っていく。 ・やりたいことを否定せず、実現する為にどうすれば良いかを共に考える。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	<p>【『駒沢』としての気持ちの良い環境の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃、整理整頓の徹底(内部監査、衛生面指摘項目5以下を目指す)。 ・全職員が責任を持って日々の清掃、安全面の配慮に努める。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・駒沢全体で内部監査時に衛生面指摘項目0を目指す。 ・内部監査に向けて実施するだけでなく、日々の業務の中で衛生係が中心となり月の衛生チェック項目に沿って清掃を実施し、ルームを清潔に保つ意識、責任を全職員がもつ。

併設園としてのさらなる深化(施設長が力を入れて取り組みたい内容)

2023年度は、駒沢どろんこ保育園と共に併設園としての深化を目指し日々取り組んできた。環境設定も大きく変え、『駒沢ごと』として支援、保育、環境構成、サービスの質向上に努めてきた。

2024年度は、さらに保育園、つむぎの相互理解を深めていき、「駒沢としてのインクルーシブ」の思いを共通で持ち、支援、保育にあたっていく。

1	計画・ねらい	【駒沢としてのインクルーシブのテーマの確定】 テーマ：一人ひとりの子どもを理解し、『駒沢』として全員で子育てを行っていく
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの子どもを知り、一人ひとりに合った子育てをしていく。 ・つむぎは、つむぎ児童の支援計画の共有をし、園のスタッフも子どもの目標を理解しながら保育にあたるようにする。 ・ケース会議への参加(月1回)。 ・園会議にて、クラスの振り返りの実施。 ・日々の些細な報連相を『当たり前』に行っていく。
2	計画・ねらい	【つむぎからの発信】 つむぎの知識、スキルを共有する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・懇親会、入園説明会などを通し園の保護者につむぎの説明を実施する。 ・園のスタッフに、子どもの発達に関する悩みを募り、つむぎスタッフが知識を共有する研修を開く。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

保育士1名

機能訓練担当スタッフ2名(臨床心理士2名)

他1名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	<ul style="list-style-type: none"> ・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ(造形、音楽、自然、食などを設 け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	・開催される会議に参加し、議事内容の情報共有をする。

事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハット、インシデント、事故の共有。 ・再発防止策の確認。
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	年2回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	議事内容の情報共有。
保健会議	年4回	議事内容の情報共有。
子育ての質を上げる会議	月1回	テーマに即した実践と成果報告。

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかの飼育管理、ビオトープ作成の指揮、動物や植物に触れる機会の検討立案
体験学習係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	駒沢どろんこ保育園や保護者と協働し、祭りを企画・実施する。

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー 【駒沢どろんこ保育園の子どもたちと共に生活をしていく】	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8時30分の受け入れ開始。朝の職員の動きの確認。 ・ 「ジブンで歩く」ことや、食べることなどの「生活の中で必要な力」を育てる。 ・ 戸外活動で全身を使って遊び、お腹が空いた感覚を味わい、食べる意欲に繋げていく。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども同士の関わり合いの中で、様々な葛藤場面、成功体験を経験する。 ・ 友達の遊びを真似ることで、遊び、興味の幅を広げていく。 ・ 長距離散歩に挑戦する。
キッズグループ 【自分で考え、自分で選ぶ】	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・ やりたいこと、過ごした場所、人を自分で考え、自分で選ぶ。 ・ 異年齢で活動することで、様々な年齢の友達と関わる。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上半期に引き続き、自分で考え、自分で選ぶことを大切にしていきながら、子ども同士の関わり合いも深めていく。 ・ 子ども同士で何の遊びをするか、どんなものを作りたいか（調理活動など）を話し合う時間を設けるようにする。
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・ 所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	<p>【「食」を楽しみと感じる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空腹感を味わった上で、自然と「食べたい」という気持ちになるように、9時出発を徹底し戸外での活動を充実させる。 ・友達と食を一緒にすることで、食への興味が乏しい子どもも、友達が食べている様子を実際に見ていくことで、食への興味関心を高めていく。
	実践予定内容	マンスリー活動時は給食を園児と共にとる。
2	計画・ねらい	<p>【食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが畑で育てたものを収穫・調理・食べる経験をする。 ・「命をいただく」ということを体験し知る。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1か月に1回の畑活動の実施。 ・通年で、プランター栽培の実施。 ・活動での調理活動の実施（育てるもの、作るものは子どもたちが決める）。 ・保育園の調理員さんを招き、プロに料理を学ぶ。 ・魚をさばき、命をいただくことを知る体験の実施。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	<p>通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月～9月：手足口病・咽頭結膜熱・ヘルパンギーナ・とびひ 12月～3月頃・・・インフルエンザ・ウイルス性胃腸炎・RSウイルス 感染症</p>
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ・・・特になし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在6名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在2名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日

	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	【安全な環境】 ・子どもたちが安全に遊べる環境の確保。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・公園に到着後、危険物が無いか確認の徹底。 ・園内での過ごしの中で、危険物が無いかの確認の徹底、床に落ちているものを片付けるなどの危険防止の実施。 ・全体把握の法人ルールの確認を全スタッフと実施。全体把握のスタッフの役割の確認、また、実施できていない場合は都度気付いたスタッフが言葉かけをすることで改善していく。 ・子どもに合った言葉かけができているか、振り返りの際にスタッフの動きや対応について疑問に思ったことはその都度話し合いを実施し、大人の保育スキルの向上に繋げていく。 ・事故防止委員会の実施。また、2023年度に引き続き事故が起きた際には園、つむぎ関係なくスタッフが参加し、改善策を共に考える。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	看板	玄関	毎日

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修 (年1回) ■園内研修 (月1回以上) ■保育スキル研修 (エリア別) ■リーダー養成研修 (9~2月) ■業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会 (月1回) ■デンマークインターンシップ (年1回) ■コンピテンシー自己採点 (月1回) ■人権チェック (4月・10月) ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	法人の定める、マニュアルに則って行動をする。
2	実践予定内容	安全対策係が中心になり、事故報告やインシデント、ヒヤリハットを分析し、再発防止に努める。なお、個人の危機予測の力が高まるよう、子どもが遊んでいる写真などを用い、起こりうる事故やケガを協議する。
3	実践予定内容	防火管理者が中心となり、避難訓練・不審者進入訓練を行う。訓練の訓練とならないよう、参加者が実際に起こりうるという意識を持ちながら参加できるようにする。なお、全利用児が年に1回は訓練に参加できるようにし、有事に備える。
4	実践予定内容	光化学スモッグについては、自治体の情報を職員に即座に伝達し、マニュアルに則って戸外活動を避けたり、戸外活動を切り上げて戻ってきたりという判断が迅速に行えるようにする。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

次世代育成の観点から、要請があった場合には積極的に受け入れを行い実習生やボランティア一人ひとりの様子に合わせて、具体的かつ丁寧に援助・指導を行う。

1	実践予定内容	児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり、地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。
---	--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

7. スタッフ育成と研修計画

- ① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性を全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法や教材教具の活用、また一人ひとりの子どもに対する支援についてのポイントを全体で共有する。
- ② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「事業所での活動」「親子支援」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招聘するなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を行う。
- ③ 園と合同でのケース会議：児童個人の支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。基本的には月1回としケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケース会議を希望する方がいれば回数を増やし随時開催する。
- ④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を越えた研修会を実施する。
- ⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：一人年間6回を目標とし、課長・施設長で機会の調整し積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。
- ⑥ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、見地を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低1名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。
- ⑦ 「子育てスキル講座」への参加と企画：社内で企画される子育てスキル講座に積極的に参加する（全スタッフが半期に一度の参加）また、つむぎ間での連携で講座の企画に関わる機会を持ち、情報発信していく。朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。

〈1〉2024年度施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェックおよび虐待防止研修 ③ 安全管理	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェックおよび虐待防止研修 ③ 全体把握、危機管理の共有、確認
5月10日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 熱中症予防	① コンピテンシー自己採点 ② 熱中症についての知識理解を深める
6月14日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びのリスク管理研修・法人内のフロー確認	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びのリスク管理研修・法人内のフロー確認

7月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 夏の感染症予防	① コンピテンシー自己採点 ② 夏に流行する感染症の確認、予防策の知識を得る
8月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 小学校への接続	① コンピテンシー自己採点 ② 小学校指導要領の読み込みの実施
9月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 地震災害時の対応、非常食、災害グッズの確認、戸外活動時に災害が起こった際の対応 ③ 見失い防止研修	① コンピテンシー自己採点 ② 地震災害時の対応、非常食、災害グッズの確認、戸外活動時に災害が起こった際の対応 ③ 見失いに対する法人ルールの意識の統一
10月4日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェックおよび虐待防止研修・人権、虐待についての理解・法人内のフローの確認・所属園内でできる支援	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェックおよび虐待防止研修・人権、虐待についての理解・法人内のフローの確認・所属園内でできる支援
11月8日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 冬の感染症予防	① コンピテンシー自己採点 ② 冬に流行する感染症の確認、予防策の知識を得る
12月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画の振り返り	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度に向けての想いやできたこと、今後実施したいことの洗い出し
1月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 2024年度の振り返り・感染症の種類、予防策・嘔吐処理の対応、法人内のフロー確認	① コンピテンシー自己採点 ② 2023年度の振り返り・感染症の種類、予防策・嘔吐処理の対応、法人内のフロー確認
2月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ②2024年度の支援内容の確認・今年度の取り組みの振り返り・2024年度のより高い支援に向けて	① コンピテンシー自己採点 ② 2024年度の支援内容の確認・今年度の取り組みの振り返り・2022年度のより高い支援に向けて
3月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ②2025年度に向けて・具体的な支援内容の話し合い	① コンピテンシー自己採点 ② 2025年度に向けて・具体的な支援内容の話し合い

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
デモンクイターシップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

現在関係が築けている公園管理事務所やコンビニなどとの関係を築いていき、さらなる交流を目指す。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：駒沢公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	<ul style="list-style-type: none"> 公園で活動が一緒になった際に近隣の小学生との交流をもつ 近隣にある高齢者施設（世和クラブ）との交流 小学校見学の実施。
異年齢交流	<ul style="list-style-type: none"> 保育園への活動参加。 異年齢グループの実施。
地域拠点活動	<ul style="list-style-type: none"> 駒沢オリンピック公園。

- ・駒沢管理事務所との連携。
- ・子どもが行きたいと思う場所(警察署、消防署)と子どもたちと繋がる。

9. 小学校との連携の計画

- ① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
- ② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
- ③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
- ④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
- ⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。
- ⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。
- ⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣の小学校への見学を実施していき交流を目指す。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を5月1日(月)より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	世田谷区立東深沢小学校	5名予定 (子どもを含める)	学校見学(東深沢小学校教室)	・職員間交流 ・子ども間交流
7月頃	目黒区立八雲小学校 支援学級	5名予定 (子どもを含める) 5名予定	学校見学(八雲小学校)	・職員間交流 ・子ども間交流
7月頃	目黒区立 鷹番小学校	5名予定 (子どもを含める)	学校見学(鷹番小学校)	・職員間交流 ・子ども間交流
9月～10月頃	世田谷区立 深沢小学校	5名予定 (子ども)	学校見学(東深沢小学校教室)	・職員間交流 ・子ども間交流

		を含める)		
9月～10月頃	久我山青光学園	5名予定 (子どもを含める)	学校見学(久我山青光学園)	・職員間交流 ・子ども間交流
9月～10月頃	矢口特別支援学校	5名予定 (子どもを含める)	学校見学(矢口特別支援学校)	・職員間交流 ・子ども間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせる行う。
- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

- ・ 児発管が中心となり、ルーム内会議の場でスタッフ全員が策定会議に参加していく。
- ・ 半年を待たずして目標を達成したり、幼稚園や保育園、その他関係機関とのケース検討の結果必要と考えられたりする場合には随時更新していくこととする。
- ・ マンスリー児、保育園利用児の計画は園スタッフと共に策定会議を実施し作成する。

〈2〉 毎月のケース会議開催 (4～3月に計12回開催予定 参加者：6名予定)

- ・ 策定会議だけでなく、ケース検討会を実施することで、子どもへの理解をスタッフ全員で深め、支援内容の充実に繋げていく。
- ・ つむぎスタッフだけでなく、園のスタッフと共に実施。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

就学支援シートを作成し、子どもの共有を行う。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30
つむぎカフェ	(月) ~ (土) 9:00~17:00
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育 (支援センター主催)	月1回 公園名: 駒沢オリンピック公園にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年6月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 9時30分

自己評価終了予定時刻: 10時30分

自己評価実施予定者: 内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	【併設園としての環境課題へ試行錯誤する1年】
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・つむぎ、保育園共に受け入れを実施したことで、保護者同士のコミュニケーションを図ることができた。 ・園会議の議題を共に考えたことで、駒沢としてどのような研修、話し合いが必要かを考えることができた。 ・つむぎスタッフが園事務で過ごすなど、環境を大きく変えることができた。よって、スタッフ同士のコミュニケーションが深まった1年となった。 <p>まだまだ課題点は多くあるが、駒沢として「混ざる」ことができた1年となった。</p>

〈2〉 当年度以降の3カ年計画

24年度	目指す姿	【駒沢としてのチーム力の向上】
	重点施策	・2023年度の取り組みを活かしさらなる環境、関わりの深化を目指す。 ・それぞれの知識を活かし、駒沢のスタッフがひとりひとりにあった保育、支援ができる「駒沢」となる。
25年度	目指す姿	【インクルーシブとして「当たり前」な環境・併設園としての確立】
	重点施策	スタッフ全員が「駒沢ごと」として考えられるインクルーシブな環境となる。
26年度	目指す姿	【インクルーシブとして「当たり前」な環境・併設園としてのモデル園となる】
	重点施策	つむぎ・保育園の壁が無い環境

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 駒沢ルーム 施設長 清水 郁

2024年度 発達支援つむぎ 目白ルーム 事業計画書

1. 基本方針

法人理念と2024年度運営本部ミッションに基づき、日々の日課・体験・環境を設定し、子どもの主体的な活動参加の中で、思考力・判断力・人間力・生活力が育まれるように支援していく。

スタッフは「子どもが自己選択すべきこと」と「大人が伝えていくこと」を念頭におきながら計画的に環境設定を行い、「6つの力」を身に着けることや「10の姿の体得」を目指す支援を行っていく。

様々な生き物と触れ合い、知り、食すことによって、食の循環や生命を尊重する心を育む。

質の高い子育て支援や最高品質の接遇を提供することで、「つむぎにきてよかった」「つむぎにまた行きたい」と思ってもらえるような施設を目指していく。

また、地域の未来を担う子どもたちが地域と共に成長できるように、近隣の学校、保育園、公共施設、福祉施設、寺など様々な人や場所と連携を取りながら、混ざり合い育ち合い学び合いのインクルージョンを実践していく。

〈1〉支援内容の充実・質自らがやりたい事を選択し、「生きる力」を育まれるようにしていく。の向上

1	計画・ねらい	計画：日課・基本活動の徹底。 ねらい：どの年齢、どのグループ支援においても、さくらさくらんぼリズムや雑巾がけ、座禅などの日課を当たり前実施し、継続して積み上げていく事で「強い心と体」の基盤を作っていく。
	実践予定内容	「強い心と体」を育てるべく心身の健康の基盤をつくるために、すべての年齢・すべてのグループ支援にて、日課を毎日当たり前支援として取り入れていく。
2	計画・ねらい	計画：自分で考えて動ける環境づくり。 ねらい：子ども一人ひとりが自分で考え、選択して動ける力（にんげん力）を付けるために、自己選択できる環境の中で、自分の意見を持ち、活動を考え、周りも巻き込みながら自分のやりたい事を選択できる仕組みづくりを行う。
	実践予定内容	やりたい事をやりたい時にやりたい人とやりたいただけ一緒に活動できる環境（自分で必要なものをいつでも自由に取り出せる環境）を設定し、自分で考えて選択・試行錯誤できる力を育てていく。
3	計画・ねらい	計画：異年齢を主とした直接体験のグループ支援での育ちあい。 ねらい：①友だちとの協働②感情コントロール③目標の達成をトライアル

		&エラーを繰り返しながら、子どもたちが育ちあいながら身につけていく。
	実践予定内容	ホンモノの経験ができる活動を通して、他者との関わり合いの中で、意見を共有し試行錯誤するグループ支援を行っていく。
4	計画・ねらい	計画：幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識した支援と記録。 ねらい：幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の視点から支援を考え、見守る支援を実践し、適宜ポートフォリオ等にて記録としてためていき、環境設定やスタッフが行う支援を更新していく。
	実践予定内容	スタッフは勉強会を通して、徹底的に幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を学んでいく。実際の支援においても実践していき、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の育ちの検証と記録を積み重ねていく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	計画：保護者同士や地域を繋げる場所になる。 ねらい：つむぎが保護者同士でつながる場、保護者と地域がつながる場になっていくために、ともに学び情報交換し、保護者もインクルージョンへ巻き込んでいく。
	実践予定内容	就学座談会や放課後等デイサービス座談会、保護者懇談会等で保護者同士のつながりを作ったり、社会福祉協議会などを中心に地域の方々を招待などしたりして縦も横も関係性を紡ぐ地域の子育て拠点づくりを目指していく。
2	計画・ねらい	計画：最高品質の接遇を目指していく。 ねらい：「つむぎって最高！」と常に感じられるような最高の接遇を心掛けていく。常に保護者の心に寄り添いながら、期待値を上回る保護者支援を目指す。
	実践予定内容	コンピテンシーに基づく最高品質の接遇と心に寄り添った支援を実践していく。
3	計画・ねらい	計画：誰もが安心して一息つける空間にする。 ねらい：子育てに限らず、悩みがあって目白ルームに来ると、ホッと落ち着ける雰囲気にするために物的にも人的にも環境づくりをしていく。卒園してもまた来たくなる施設になる。
	実践予定内容	ほっと一息つけるカフェの物的・人的な環境づくりと、他者に安心感を与えられるような人材の育成をしていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	計画：地域でのインクルージョンの実践。 ねらい：当たり前につむぎの子どもたちが街に溶け込んでいるようなインクルージョンが展開されることを目指していく。
	実践予定内容	池三商店街、椎名町商店街、目白図書館、近隣の区立公園、保育園、福祉

		施設などの地域資源を利用することだけではなく、共に活動を考えて実践していけるような活用をして地域と共に子育てを行っていく。
2	計画・ねらい	計画：気軽に相談できる拠点として認められる。 ねらい：「いつ」「どこで」「だれでも」気軽に相談できる地域の拠点になる。地域の方々に、特別な場所で特別なことをしているのではないと伝えられる環境や関係を築く。
	実践予定内容	図書館や自治会の掲示板などに目白ルームの活動の様子を掲示してもらったり、地域の方をカフェに招待したりして、特別な場所で特別なことをしているのではないと伝えられる環境や関係を築く。また、地域の方の居場所としてのカフェづくりも目指していく。
3	計画・ねらい	計画：ホンモノの経験ができる場所として地域の方々にも認知される。 ねらい：施設内やつむぎ利用児にとどまらず、地域の人たちと共に活動を展開させることで、目白ルームが火・水・土などホンモノの経験ができる場所として認知されるようにアウトリーチを進めていく。
	実践予定内容	近隣の保育園、福祉施設などと一緒に活動を展開することで、つむぎの良さを知ってもらい、地域に認められるルームになる。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	計画：スタッフの「にんげん力。」のさらなる向上。 ねらい：経験をその場だけの出来事と捉えるのではなく、未来の経験や成長に繋がるものとして捉え、子どもたちの「にんげん力。」の向上につなげていけるような環境を常に考えることのできるスタッフの育成をしていく。
	実践予定内容	大人が背中を見せることを意識し、スタッフがまず経験する・学ぶ、という事を徹底する。
2	計画・ねらい	計画：支援を楽しめる、好奇心やチャレンジ意欲をもったスタッフの育成。 ねらい：「楽しくなければつむぎじゃない」を根底に置き、子ども一人ひとりの「ワクワク」「ドキドキ」を追い求めていくことができるスタッフの育成をしていく。
	実践予定内容	園長大学@保育士大学をはじめとした研修の受講やスタッフがチームで支援内容を考えていけるようなチームビルディングの構築。
3	計画・ねらい	計画：機会を排除しないスタッフの育成。 ねらい：「危ないから子どもにやらせない」「子どもにはまだはやい」と安易に決めつけるのではなく、「どのようにすればよいか」という思考を持てるスタッフの育成。
	実践予定内容	園長大学@保育士大学によるリスクマネジメント研修の受講とルーム内研修、OJT研修の実施によるスタッフの育成。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	計画：食の循環、環境への意識を育む ねらい：畑仕事や食材加工、生き物の世話などを通して食の循環や環境への意識を高めていく。
	実践予定内容	自園で育てた食材を使用した調理活動や生き物の世話などを通じた環境教育を行っていく。
2	計画・ねらい	計画：園庭をはじめとした植樹などにおける木陰づくり ねらい：省エネ、省電力、カーボンニュートラルなどを理解するためのきっかけづくりを行う。
	実践予定内容	園庭に植樹を子どもと共に行い、配置や効果などを大人も子どもも考えてみる。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

保育士1名

機能訓練担当スタッフ4名（作業療法士3名、理学療法士1名）

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う。 ・園長大学®保育園大学を活用し研修を実施
給食運営会議	月1回	該当なし
事故防止委員会	月1回	自園や他園のヒヤリハット、インシデント、事故記録簿の検証を行う。
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
共有会議	月1回	グループ活動や子育ての質会議の共有を行う。
ケース会議	月1回	現状の問題点や分析、対策を検討する。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議		障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	食育にかかる事項の検討、マニュアルの確認と改訂
保健会議	年4回	保健にかかる事項の検討、マニュアルの確認と改訂
子育ての質を上げる会議	月1回	どろんこ会内の施設同士での情報共有と勉強会 リーダー級職員によるルーム内の質の向上

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	園庭のプランター・樹木の整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかやドジョウ、ざりがに、金魚などの飼育管理、ビオトープの管理、動物や植物に触れる機会の検討立案

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
アトリエ係	メジロックとのアート活動の窓口、交流活動の推進
異世代交流・目白協和会係	地域活動の窓口、各種地域行事の参加推進

4. 支援方針

〈1〉基本方針

異年齢グループ	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを表現して楽しい気持ちを共有する ・友だちとのやり取りを楽しむ ・日課・基本活動の実践
	下半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで協力してひとつの事をやり遂げる ・人とかかわりの場所を広げ、食の循環や環境への意識を高める ・異年齢ならではの育ちあいを経験する ・日課・基本活動の実践
親子グループ	上半期 1～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・つむぎが安心できる場所となるよう、保護者や友だちと一緒に楽しみながら活動する ・体づくりを中心に親子のかかわり、友だちとかかわりを様々

		な場面で経験する ・日課・基本活動の実践
	下半期 1～2歳児	・楽しい場所に、いつもの友だちが来ているという安心感からお互いを意識しやり取りが増える ・保護者と離れても安心して活動に参加できる ・日課・基本活動の実践
個別支援		・それぞれにあったペースで活動をおこなう ・同じ時間に活動している友だちと場を共有したり一緒に活動したりする ・好きな活動を子どもが自分で選ぶ
事業所内相談支援	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	計画：自分で育てて自分で食べる。 ねらい：種や苗を植えるところから収穫・調理までを経験すると同時に収穫した野菜から種を得ることを知る。
	実践予定内容	畑で土に触れ野菜の栽培を行う。日々の水やりなどの仕事を子どもたち自身が行い、自分で育てた野菜を自分で調理して食べる。
2	計画・ねらい	計画：食を通して様々な“楽しい”を経験する。 ねらい：様々な形での食を楽しむ。
	実践予定内容	季節の食材を味わい行事に即した調理や加工（梅ジュース・干し椎茸・夏野菜カレー・やきいも・ジャムなど）を経験する。
3	計画・ねらい	計画：子どもと一緒に大人も食べる ねらい：保護者やスタッフと一緒に食べることで、「ともに生きる＝食べること」についての意識を高め、どろんこ会の食育の観点が日々の生活に

		般化されることをめざす。
	実践予定内容	調理活動にてスタッフや保護者が率先して食べてみる。感想を共有し、様々な感情表出を促していく。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年…新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 10月～1月頃…嘔吐下痢症 11月～3月頃…インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ…該当なし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在6名が研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 感染症発生の場合は速やかに本部に報告し感染拡大防止の対策を強化する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前

	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック・虐待防止研修	年2回／4・10月の施設内会議時
	施設内虐待防止委員会	年2回／2・9月に実施
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	計画：室内・室外ともに自分で考えて、自分で選択する環境づくり。 ねらい：自分で考え、行動できるようになるために環境設定を行う。
	実践予定内容	自分で考え、行動できるようになるため、支援の内容や順番は大人が決めず、子どもがやりたい事をやりたい時にやりたいだけ自分で選択できるように設定。自らが選んだやりたいことに集中して取り組んでいる状況を作る。
2	計画・ねらい	計画：みんなで考え、話し合い、自分たちで決めていく力を育てる。 ねらい：自ら行動する力を育てるとともに、友だちと試行錯誤しながら活動を展開できるようにする。
	実践予定内容	決まりきったルールにはめるのではなく、子どもたちがルールを決めたり、選択をしたりするなど、子ども主導の活動を当たり前に行っていく。
3	計画・ねらい	計画：身近な生き物を通して生死が感じられる環境。 ねらい：生き物にとって良い飼育環境はどんなものかを考えたり、調べたりして、飼育物を自分の仲間のように身近に感じる。生き物へのより深い興味や理解、愛着が生まれ、生死に向き合うきっかけとする。
	実践予定内容	生き物の飼育を通し、ただ可愛がるだけではなく、命を育む活動として、全ての世話を子どもたちと共に考え行っていく。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	なし		

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	緊急時における対応について「緊急時対応マニュアル」に従い、全スタッフが対応を理解し、それぞれが役割を実行できるように訓練する。 非常災害に備えて消火設備等の点検をするとともに年間防災計画に沿って訓練を実施し、避難方法や関係機関・団体への通報及び連絡体制を確認す
---	----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		る。また、それらを定期的に保護者へ周知する。特性ごとの災害対応についても理解しておく。
2	ケガ事故防止	不必要なケガや事故を防止するために、室内や屋外のハザードマップの作成と定期的な見直しを行う。他園で起きたものも含め、ヒヤリハットやインシデント、事故記録簿をスタッフ間で共有し改善策を出す。
3	防犯	外部からの不審者の侵入など、子どもが犯罪に巻き込まれないように事業所としての防犯マニュアルを定期的に確認するとともに関係機関、団体と連携して見守り活動や防犯にかかわる安全確保への取り組みを行う。
4	光化学スモッグ	光化学スモッグに対しての正しい知識を身につけ、注意報発令の把握に努める。発生時には、危機管理マニュアルに則って対応し行政判断を仰ぐ。

6. 実習生・中高生の受入

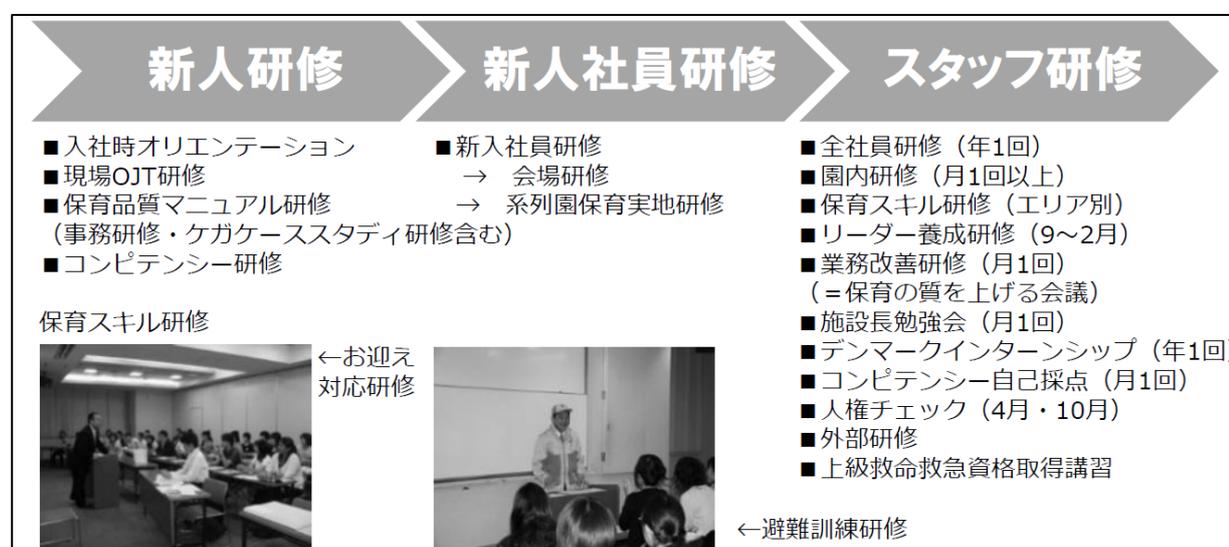
〈1〉今年度の方針・テーマ

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

種類) 中高生の体験学習の受入／保育養成校・専門士養成校の学生の実習受け入れ／一般および学生の各種ボランティアの受け入れ

1	情報の発信	インターネットやSNSを活用して、ボランティアや実習を受け入れていることの情報を発信する ボランティアや実習の依頼元となる学校などを調べ、連携する準備を行う
2	受け入れ	スタッフの受け入れ体制を整え、準備を行う

7. スタッフ育成と研修計画



〈1〉2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月10日	10:30～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② ガイドライン、保育所保育指針読み合わせ ③ 人権チェック・虐待防止研修	自己の振り返り 児童発達支援ガイドライン、つむぎガイドライン、保育所保育指針を読み解く 人権チェック・虐待防止研修を行う
5月8日	10:30～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル読み合わせ ③ 怪我の応急処置（園長大学@保育士大学）	自己の振り返り どろんこ会のマニュアルの読み合わせを行う 怪我の応急処置について学ぶ
6月12日	10:30～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿の振り返り ③ こころを豊かにする音楽の楽しみ方（園長大学@保育士大学）	自己の振り返り 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿についてこれまでの学習の振り返りを行う 保育・支援における音楽の楽しみ方について学ぶ
7月10日	10:30～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水を使った遊び方 ③ 地域交流のカタチ（園長大学@保育士大学）	自己の振り返り 水を使った遊びの幅を広げるために、水の遊びを学びあう 地域交流の方法をプロのマジシャンの例を参考に学ぶ
8月14日	10:30～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 学校を知る&学校連携 ③ ビジネスマナー（園長大学@保育士大学）	自己の振り返り 地域の学校を知り、連携を考えていく 保護者に満足してもらえるようなビジネスマナーを学ぶ
9月11日	10:30～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② ダウン症について ③ 保育所におけるセルフ防災（園長大学@保育士大学）	自己の振り返り ダウン症の特性や身体的な特徴について学ぶ 保育所における防災を学び、災害に備える
10月9日	10:30～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・虐待防止研修 ③ 子ども撮影テクニック（園長大学@保育士大学）	自己の振り返り 人権と虐待防止について学ぶ 子どもを撮影する際のテクニックをプロのカメラマンから学ぶ

園長大学®保育士 大学講座および社 内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
デモンクインテンシブ®	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修を一人年間6回程度行うことを目標とし、積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の様々な人や施設と連携を図り、交流の方法を探るとともに合同活動の実現へつなげる。商店街やギャラリーと協力し、つむぎが地域の一員になるような企画をする。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：上がり屋敷公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	「コンチェルト目白デイサービスセンター」との交流の場を設ける 感染防止に留意しながらできる限り交流を深めていく 訪問が難しい場合はオンラインでの実施も検討する
異年齢交流	戸外活動及び青空保育で出会う他園や地域の子どもたちとの交流 系列園のスタッフとのつながりを強める
地域拠点活動	福祉作業所のアートコラボ活動の継続 地域としての福祉活動の発信につなげる

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

区内の学校説明会、学校公開に関する情報を適宜収集し、できる限りの参加を試み、実際の小学生たちの姿を見ることで就学後の姿を見据えた支援を目指していく。幼少接続プログラムを意識し、所属園を積極的に訪問し、生活に根付いた支援、就学を見据えた連携について模索し、考えていく。

また、相談支援事業所、併用事業所を見学し、連携を図るとともに、子ども家庭支援センター、発達支援センターとの連携を強化し、適切な支援について多角的に考えて行く。そして、近隣の発達に関する医療機関についても学び、必要なときに情報提供できるようにしていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を6月3日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
10月頃	池袋第三小学校 1年1組	4名予定	校庭交流（池袋第三小学校校庭）	子ども間交流
10月頃	王子特別支援学校	3名予定	授業参観（教室）	スタッフ間交流
11月頃	大塚特別支援小学校	2名予定	交流（大塚特別支援学校）	子ども間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害の状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができると確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせる。
- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

児童発達支援管理責任者が、保護者の意向、子どもの適正、特性を踏まえ、提供するサービスの適切な支援内容等について検討し作成する。

提示の2ヶ月前に保護者にモニタリングを実施し、子どもの家庭や園での様子、保護者のニーズなどについて適切に把握。1ヶ月前に児童発達支援管理責任者を中心とした策定会議を行い、多角的に子どもの発達を捉え、適切な支援を考える。6ヶ月に一度以上個別支援計画の作成を行うが、子どもの状態や家庭状況などの変化に合わせて支援の見直しをする場合がある。また、個別指導担当者が支援計画を作成し、児童発達支援管理責任者が確認して提示する。

所属園に訪問し、担任らと共に支援に対する共通理解を持つための策定会議を行った場合は、速やかに支援計画の書き換えを行い、園訪問での話し合いをもとにした支援内容を書き加える。

〈2〉 毎月のケース会議開催 （4～3月に計12回開催予定 参加者：6名予定）

通所している子どもへの支援の妥当性をケース会議にて、さまざまな職種のスタッフより検討を行っていく。つむぎで見る姿だけではなく、家庭、所属園、つむぎそれぞれの場所での様子を踏まえて子どもにとって最善の支援を考えていく。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

就学支援シートおよび電話などで進級引継ぎおよび小学校への引継ぎを行う。当施設での子どもの様子、提供した支援内容、必要と思われる配慮事項などを伝える。また、子どもの発達過程を踏まえ「できること」「得意なこと」などを積極的に伝え、進級先および小学校での今後の見通しとなるような引継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
つむぎカフェ	(月)～(土) 9:00～17:00
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
勝手籠設置	(月)～(土) 9:00～17:00
青空保育	月1回 公園名：上がり屋敷公園にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年8月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：10時00分

自己評価終了予定時刻：15時00分

自己評価実施予定者：平石 友理、元住 野花、吉田 暁美

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	10より100のホンモノの経験を通し、日々発生する葛藤やエラーを経験し、積極的に戸外活動含む“地域”（アウトリーチを行う）に出ることで、様々な人がいて様々な考えがあり、自分も他人も受け入れることがあたりまえの思考を育む。
	振り返り	お寺での座禅体験、地域住民を巻き込んだワークショップ、魚屋で購入した魚をさばく体験、どろんこ保育園訪問、プレイパークなどの体験活動を多数支援に入れ込んだり、日々の支援においても、戸外にて火・水・土に触れたりしながら多くのホンモノの経験を地域にて実践することができた。さまざまな活動にて様々な人と出会い、かかわりを持つことで多様な考えを持つことができた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	地域の一員として社会を形成する
	重点施策	地域に出ること、地域の中に混ざること、地域の一員として役割を担っていくことを念頭に、単独拠点ならではのインクルージョンを実現させていく。
2025年度	目指す姿	地域に認められるインクルージョンの拠点となる
	重点施策	つむぎ目白ルーム＝インクルージョンを実践している拠点として、地域から認められる施設となる。子どもたちの生きる力を、地域を形成する一員として、地域の方々と共に身に着けていく。 子どもだけではなく地域の大人が気軽に立ち寄れる居場所づくりを行う。
2026年度	目指す姿	目白のインクルージョンモデルが他の施設の見本となる
	重点施策	つむぎ目白ルームのインクルージョンのアクションが地域から認められ、子どもの成長にも繋がる事が認知されていく。 また、他の施設が真似したくなるようにアクションプランを公開していく。 子育て相談や地域向けの講座を開き、地域の子育て広場となる。

以上

2024年度 発達支援つむぎ 横浜西口ルーム 事業計画書

1. 基本方針

法人理念である「にんげん力。育てます」に基づき、発達支援つむぎ 横浜西口ルームでの子育ての目標を「子どもがいつでも自分で選択し、直接体験し、それを学びにする人を育てる。また、それを見守り支えられる人を育てる。」と定め、基本方針とする。

加えて、2024年度施設運営方針である「守る支援・矯正する支援を終え、子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる支援を実践する」および、運営本部Missionである「大人も主体性」という指針に注力しながら運営する。

また、それを達成していくためには、

- ①支援形態に関わらず、子ども一人ひとりの気持ちを受け止めて支援する。
- ②子ども一人ひとりがやりたいことを選択できる環境を確保し、支援する。

の2つを重点施策として、スタッフ全員で取り組んでいくこととする。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	「心地の良い空間」 ・子どもも保護者も、スタッフにとっても、誰もが気軽に相談ができ、ちょっとしたことでも安心して話せる空間を作る
	実践予定内容	挨拶からお見送りまで、つむぎ 横浜西口ルームに訪れる誰もが気持ちの良いやり取りを行い、お互いの信頼関係を築いていく。その上で、一緒に子育てや家族のこと等の困りごとを解決に向かうよう支援を行う
2	計画・ねらい	「選ぶことができる環境づくり」 ・子どもが、自分で目的を持ち、行動し、最後までやり遂げることを、見守り、受け止めることができる支援を行う
	実践予定内容	選択ができる物的環境に加え、子どもの気持ちを受け止め、寄り添う、大人側が余裕を持ちながら対応できる人的環境を整える。子どもが自分の足でこの先歩んでいけるよう見通しを持てるよう関わる

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	「振り返りを丁寧に行う」 ・子どもの育ちゆく姿の喜びと悩みを保護者と一緒に分かち合う
	実践予定内容	その日の出来事や大人側の対応の背景、その時の子どもの気持ちや様子が子ども側の背景も手にとってわかるように伝えていく
2	計画・ねらい	「保護者の気持ちに寄り添い、子育てを一緒に行っていく」 つむぎを選んで良かったと感じられるように、子育てを一緒に行っていると安心できる関係作りを行っていく

	実践予定内容	最高品質の接遇に加え、保護者の気持ちも推測しながら、子どもへの悩みをスタッフが自分事として受け止め、アドバイスにとどまらず、継続して対応を一緒に考えていく
3	計画・ねらい	「所属園、就学先など、各関係機関との連携」 ・関係機関との連携を継続し、子どもと保護者が安心して生活できる環境づくりを行う
	実践予定内容	保護者の同意のもと、所属園への訪問、所属園の先生方の相談に応じる、就学先への就学支援シートの作成及び情報共有を行い、多面的な支援を行う

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	「支援内容」の発信 ・行っている支援の発信を継続して行い、子どもの気持ちに寄り添い、異年齢の集団の中で、幼児期までに育ててほしい10の姿が子どものペースに合わせて成長していく支援を多くの人に知ってもらおう
	実践予定内容	SNS（ブログ、Instagram等）の週1回の更新を行い、様々な人に向けて周知を行うことを全スタッフで取り組む
2	計画・ねらい	「青空保育、子育て相談の継続した実施」 ・子育ての拠点であることの周知を行い、誰でも気軽に来所して相談できる拠点となる
	実践予定内容	岡野公園での青空保育を継続して行う。青空保育参加者や地域の人にもパンフレットを渡して、随時発達や子育ての相談やカフェ利用の告知を行っていく

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	「自分の成長の機会を自分達で創るチームになる」 ・自分たちの課題を自分たちで見つけ、試行錯誤しながら解決に向かう。
	実践予定内容	子ども、保護者は当然のことお互いスタッフのことも尊重しながら、相手の立場、気持ちを考えながら、できることを考え、チームとしてできることを増やしていく。子どもに背中を語るスタッフ・チームになる
2	計画・ねらい	「スタッフ勉強会」 ・スタッフの経験や学びを、お互いに自ら発信し、スキルや情報を共有していく
	実践予定内容	定期的な勉強会を開催し、スタッフが講師を務めることで、自らの学び、チームとしての学びを深めていく

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	鶏を絞めて食す、農家・魚屋の食に関する実際の話聞く ・命を頂くことを学ぶ
---	--------	-----------------------------------------

	実践予定内容	希望者のみ、鶏を捌いて食べる活動に参加する。参加しない家庭は農家や魚屋からの命についての話や食についての話を聞き、食に関しての新たな視点を持てるようにする。
2	計画・ねらい	プランターで野菜を育てて食す、食の循環を知る ・身近に行える環境活動の一步としてコンポストを設け、環境に関心を持つきっかけにする。
	実践予定内容	・残飯を利用し、堆肥を作りながら、プランター栽培で活用する。それぞれの子どもの発達に応じた説明を行いながら実施していく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

保育士2名

機能訓練担当スタッフ2名(作業療法士1名、公認心理師1名)

他1名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ(造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。

事故防止委員会	月1回	・事業所内で起こったヒヤリハットやインシデント、事故の原因分析をし、再発防止策を検討する。
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	四半期1回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	議事内容の情報共有、実践
保健会議	年4回	議事内容の情報共有、実践
子育ての質を上げる会議	月1回	・保育内容の5領域および、10の姿など、子育ての質を向上させるための学び合い ・どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	プランターの整備、計画的な活動の立案

生き物係	生き物の飼育、動物や植物に触れる機会の検討立案
体験学習係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導

〈4〉 行事別係の設置

係名	職務内容・役割
青空保育係	岡野公園での青空保育を実現するため、関係各所に確認・調子柄したり、当日の内容を計画立案したりする
SNS係	ブログ・インスタグラムについてのスケジュールやテーマを計画立案、担当の割り振りを行う

4. 支援方針

〈1〉 基本方針

午前グループ	上半期 2～5歳	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりとした時間の中で、自分のことを知ったり、気が付いたり、自分で決める土台が培われるよう特に「安心と信頼」を重視して関わる ・集団生活の中で、自分のペースで過ごすことを保障し、子どもが周囲に自分のことを十分に受け止められたと感じられることを大切にする。
	下半期 2～5歳	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な養育者（保護者、スタッフ）から十分に受け止められた安心感や満足感を基盤に、「他者への気づき」「友だちに関わってみたい思い」「伝えたい思い」などが育まれるよう支援する。
午後グループ	上半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが主体的に活動に取り組めるような人的・物的環境を整え、子ども達的意思決定を支援する。 ・スタッフに見守られながら遊びの中で、子ども同士が安心してお互いを知ることや、安心して表現することを大切にしていく。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意思を決定する要素として、他者の気持ちや社会的なルール、周りの状況など、様々なことに自ら気づき、行動を決めるための判断材料としていけるよう支援をする。 ・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を、子ども一人ひとりのペースに合わせて成長できるようにしていく。
個別支援		<ul style="list-style-type: none"> ・安心して通えるよう、スタッフとの情緒的交流を密にとることで、人に対しての基本的信頼感を形成しながら他者意識を育てていく。

		<ul style="list-style-type: none"> ・傷ついた自己肯定感を回復する。 ・得意なことや苦手なことなど自分を知り、得意なことを生かしながら、どのように苦手を乗り越えるのかをスタッフと一緒に試行錯誤する。
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・電話、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	自分で育てた野菜などを調理し、味わう。 食べたい人が食べたいときに、作って食べる経験を重ねることで、食べる意欲、食への興味を育む。
	実践予定内容	プランターでの野菜栽培や、キノコ類を栽培する。
2	計画・ねらい	一口で入らないものをどうやって食べるのかを試行錯誤する。 自分の食べられる量、かじり取れる量、飲み込める量を知る。
	実践予定内容	大きな柔らかいキノコや、大きめのパンなどを作り、かじり取りを行う。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月頃・・・手足口病、ヘルパンギーナ 12月頃・・・インフルエンザ、感染性胃腸炎

エピペン使用できるスタッフ	本日現在4名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	「子どもたちが主体的に遊べる場」 ・子どもたちが自分のしたいことを見つけ、やり遂げやすい環境にすることで、より深い学びを得られるようにする。
	実践予定内容	子どもの手の届く範囲の棚には子どもが使うものを配置する。室内環境を随時見直し、人的環境は、スタッフの人数、立ち位置などを支援後に振り返る。
2	計画・ねらい	「ハザードマップを作る」 ・普段活動している公園や散歩の範囲の危険個所を子どもたちと考え、自分の身を自分で守るという安全教育に繋げる
	実践予定内容	主に岡野公園、新田間公園の危険個所を子どもたちと確認する。また、今

		後行く可能性のある公園や建物のハザードマップ及び道中のロードマップをスタッフが適宜作成する。
3	計画・ねらい	「カフェスペースの充実」 ・つむぎ利用者も地域の方も来所しやすく、リラックスできる場所に整える。
	実践予定内容	カフェにある物の清潔を保つ。スタッフから挨拶、フリードリンクについてご案内する。安心して過ごせるよう、エレベーターホールからカフェに入りやすい仕掛けを作る。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	なし		

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	避難訓練	防火管理者が中心となり月1回実施する。なお全利用児が年に1回は避難訓練に参加することを目指す。
2	ケガ事故防止	安全対策係が中心となり、事故報告やインシデント、ヒヤリハットを分析し、再発防止に努める。なお、スタッフ個人の危機予測の力が高まるよう、子どもが遊んでいる写真を用いて、起こりうる事故やケガを検討する。
3	不審者侵入訓練	防火管理者、安全対策係が協力し、年に2回不審者侵入訓練を実施する。
4	光化学スモッグ	自治体情報をスタッフに即座に伝達し、マニュアルにのっとり、戸外活動を避けたり、切り上げて帰園したりという判断が迅速に行えるようにする。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

保・専門士養成校等から、実習受け入れの打診があった場合には、可能な限り受け入れ、次の世代を担う、保育・福祉への人材育成に寄与できるようにする。加えて、近隣の教育機関や社会福祉協議会等からのボランティアの希望者、中高生の職場体験も同様に受け入れる。多くの方に実習に来ていただくために、保育・専門士養成校等に連絡し、顔の見える関係を作っていく。そうすることで、次世代の保育・福祉人材育成を図るとともに、どろんこ会の目指す子育てを地域に広め、つむぎに通う子どもそうでない子ども地域で安心して生活できるようにしていく。

1	実習受け入れ	保育・専門士養成校等からの実習を積極的に受け入れる
2	ボランティアの受け入れ	近隣大学、高校および社会福祉協議会等からのボランティアを積極的に受け入れる
3	体験学習の受け入れ	職場体験の提案および調整、実施。

7. スタッフ育成と研修計画

- ① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性を全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法や教材教具の活用、またひとりひとりの子どもに対する支援についてのポイントを全体で共有する。
- ② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「事業所での活動」「親子支援」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招くなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を行う。
- ③ ケース会議：児童個人の支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。基本的には月1回としケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケース会議を希望する者がいれば回数を増やし随時開催する。
- ④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を越えた研修会を実施する。
- ⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：一人年間6回を目標とし、課長・施設長で機会の調整し積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。
- ⑥ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、検知を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低1名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。
- ⑦ 朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。

〈1〉2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月3日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・虐待防止 研修	人権チェックをもとに、自らの支援を振り返る
5月8日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 記録について	SNSや就学支援シート等、外部発信文書の書き方について学び合う。

6月5日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 応急処置について	エピペンの応用など応急処置を学ぶ。毒を持つ昆虫や草花に関する知識も高める。
7月3日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 虐待防止に関わる研修	児童虐待とその対応方法について学ぶ。
8月7日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② ハザードマップ定期点検	戸外活動の難しい時期に、ハザードマップを見直すことで、秋口の活動再開に向けた準備をする。
9月4日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 上半期の主体性の振り返り	子どもが生活力や10の姿、経験の選択や命をいただく活動を子どものペースで学べているか振り返る。
10月2日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・虐待防止研修	人権チェックをもとに、自らの支援を振り返る。
11月6日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度の自分の学びについて	自分がこれまで参加した研修や、お勧めの園長大学の講座などをについて語る。
12月4日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度の振り返り	子どもたちの今年度の育ちについて振り返り、検証する。
1月8日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度の遊び	次年度、子どもたちに経験してほしい遊びとそれに必要な環境構成について語り合う。
2月5日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの育ちをまとめる	異年齢での生活、労働、遊びや危険回避力、葛藤を調整する力など項目ごとに発達についてまとめる
3月5日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 接続期について（実践および振り返り）	小学校や他事業所との連携について振り返りを、連携の結果について話し合う。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
デモンクインテンシブ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

スタッフ間での連携を密に行いながら青空保育を継続して行い、地域との交流のため、つむぎにできることを子どもと一緒に考えていく。つむぎの子どもや地域の方がお互いに安心して交流できる機会を定期的に設ける。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：岡野公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者福祉施設や障害者施設と交流する。
異年齢交流	近隣公園の地域の人や、近隣小学校と交流する。
地域拠点活動	つむぎカフェを開放し、地域の方の交流の場とする。

9. 小学校との連携の計画

- ① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
- ② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
- ③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
- ④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
- ⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。
- ⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。
- ⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

就学支援シートによる引継ぎのみならず、実際に訪問し、関係機関との基盤を固めていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を2023年3月18日（(月)）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	戸部小学校 1年1組	2名予定	授業参観（戸部小校教室）	スタッフ間交流
8月頃	戸部小学校 1年1組	2名予定	学校探索（戸部小学校校庭）	子ども間交流
10月頃	戸部小学校 1年1組	4名予定	交流会（登園幼児保育室）	子ども間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成す

る。

- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行う。
- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈2〉毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催予定 参加者4：名予定）

個別支援計画の見直し時期にあわせて、対象児童のケース会議を実施する。原則半年に一度の頻度となるがケース会議実施中、次月の継続について判断し、必要に応じて継続的な展開をする。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を参考に、子どもの育ちゆく姿を小学校に伝えられるよう、就学支援シートを作成する。

11. 子育て支援事業

施設に來訪した親子に都度署名をもらい、月間延來場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
つむぎカフェ	(月)～(土) 9:00～17:00
子育て相談	(月)～(土) 10:00～16:30
勝手籠設置	(月)～(土) 9:00～18:00
青空保育	月1回 公園名：岡野公園にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年6月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：9時00分

自己評価終了予定時刻：17時00分

自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<p>今までの支援の展開・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの支援内容を振り返りしながら、新たな支援を検討し、子ども一人ひとりに合わせた支援を行えるよう発展させる ・地域の中での活動資源を増やすため、新規資源を開拓する ・畑の新規開拓を行う ・幼稚園、保育園、小学校、放課後等デイサービスとの関係作りを強化する ・他園の子育て相談会の実施機会を広げる ・スタッフが小学校を見学し、現状を知る
	振り返り	<p>一つの目標、目の前の課題に対し、スタッフ間のコミュニケーションや連携がかみ合わず、スタッフそれぞれの良さを引き出すことができなかった。地域の他事業所との関係は深めることができたため、つむぎ 横浜西口ルームのみではなく、地域の施設として、地域の課題や地域の希望に直接触れる機会が多くあった。地域のための施設としての意識は全スタッフが持つことができた。</p>

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	支援の充実・展開
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで行ってきた子どもが「やってみたい」と思える直接体験の内容を増やし、さらに充実した支援を行えるよう展開していく ・スタッフ自身が自ら地域との関係作りを増やし、子どもにとっての遊びや興味関心の選択肢を増やす ・去年同様、幼稚園、保育園、小学校、他事業所との関係作りを継続し、子どもや保護者が安心して生活できるよう支援する
2025年度	目指す姿	地域の中での子育て支援の展開
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者だけでなく、地域の人が通いたくなる空間を用意する ・地域のイベントに積極的に参加を行う、また地域の人を招いて行うイベントを増やすことで子どもが身近な人以外の人と関わる経験をする
2026年度	目指す姿	利用者だけでなく地域の人を通う子育て拠点になる
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のニーズに合わせ、地域公開講座を行う

		・地域の子育て拠点として、親子が気軽に集まり、話ができる場所になる
--	--	-----------------------------------

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 横浜西口ルーム 施設長 佐藤 史恵

2024年度 発達支援つむぎ ふじみ野ルーム 事業計画書

保育園に併設された児童発達支援事業所として、インクルーシブ保育の実践をおこないます。

「保育所保育指針」「児童発達支援ガイドライン」に基づき、どろんこ会の「にんげん力。育てます。」を理念のもと、以下の項目を推進していきます。

- ① 一人ひとりの個性を大切にしながら、障がいの有無に関わらず生活を共にし、人と人との関りの中で、友だちと過ごす楽しさを感じ、コミュニケーション力を育みます。
- ② 異年齢との関りの中で生活に基づいた身近な経験や、実体験を重視したホンモノの体験ができる環境を用意していく。
- ③ 運営本部missionである「生活力の体得」「I Oの姿の体得」「子ども自らがいつでも経験を選びとることができる物的環境の設定」「命を頂く活動の実践」を達成するため、保育園と発達支援とが一つのチームとなり、常に学び続けること、対話を重ねていくことを大切にしていきます。
- ④ 「子どもの姿」から読み取り「どんな支援が必要か」「どんな活動を取り入れていくか」「どんなねらいをもち参加していくか」という意図やねらいを共通認識のもと進めていき、スタッフ皆が同じ方向で丁寧な保育・支援を行う。
- ⑤ 様々な専門士がいることで、子どもの姿を更に多面的にみることができ環境である併設園の良さを最大限に活かした組織づくりを目指します。

1. 基本方針

(

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	計画：子どもの姿、状況からの計画を立てる ねらい：「どう参加していくか」という子どもの姿を大切にし、子ども自身の持つ発達の可能性を高められるようにしていく。
	実践予定内容	・引き続き、マンスリーは振り返り、保育計画を園と共に行い、ビジターは支援毎の振り返りをおこなっていく。 ・子どもの姿→読み取り→ねらい→環境構成・計画立ての手順を踏む
2	計画・ねらい	計画：支援の明確化を図る ねらい：支援内容の意図やどんな力や成長に繋がるかを明確化し、利用者の理解促進にも繋げる
	実践予定内容	・支援後都度のフィードバックを行うと共に、定期的に懇談会や事業所内相談支援（Ⅰ）（Ⅱ）を利用し書面や写真で支援の様子を伝えていく
3	計画・ねらい	計画：安心できる環境のもとI Oの姿や生活力を育む ねらい：幼児期の育ちに大切な経験を積む
	実践予定内容	・遊びこめる環境を年間を通して再構築していく ・少人数で過ごせる環境や時間を子どもの姿から構成していく

〈2〉 事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	計画：事業所内相談支援の充実 ねらい：個別に相談できる場を設ける、同じグループ保護者間で学び合う時間や家庭でも行える支援を学ぶ機会を設けることで、支援のねらいの共通理解を図ると共に、保護者同士が交流できる場を提供することで、横の繋がりを作り、保護者自身が安心して相談できる人間関係を築いていけるような環境の構築を行う
	実践予定内容	・事業所内相談支援（Ⅰ）（Ⅱ）の周知、お話し会、勉強会、リフレッシュ企画等の開催 ・個別相談は随時受付、実施する
2	計画・ねらい	計画：関係機関との連携 ねらい：関係機関との連携を図ることで共通理解を得て相乗効果を図る
	実践予定内容	・保護者の同意のもと、所属園への訪問、就学先への就学支援シートの作成及び情報共有 ・自治体会議への出席、サービス担当者会議への参加を行う
3	計画・ねらい	計画：保護者の気持ちに寄り添った接遇を行う ねらい：保護者の不安や悩みに早期に気付く視線をもつ
	実践予定内容	・フィードバックは都度行い、子どもの様子や育ち、行った支援がどんな姿につながるかを分かりやすく伝えていく ・コミュニケーションの強化を図り、保護者の不安や悩みに早期に気付けるようにする

〈3〉 地域の子育て支援事業

ちきんえっぐと協働し、地域の子育て世代が気軽に相談できる場所となれるような環境を整えます。また、自治体や地域の子育て関係機関と繋がり

1	計画・ねらい	計画：ちきんえっぐ、相談支援つむぎとの合同企画の開催 ねらい：地域の方が気軽に来られる場所となり、つむぎが行う支援の周知や相談場所、情報提供の場所となることで「地域に開かれた子育て支援」を目指す
	実践予定内容	・合同で行う企画の開催（相談会、勉強会、交流会等） ・就学に向けての話について先輩保護者を招いて行う
2	計画・ねらい	計画：支援室を利用する方への発達相談の機会の提供 ねらい：支援室と連携し子育てや発達の相談の窓口となる。
	実践予定内容	・随時受付を行う 日頃から事務所廊下の窓をオープンにし気軽に声を掛けやすい雰囲気作りを行う
3	計画・ねらい	計画：支援内容の発信、発達支援情報の発信 ねらい：行っている支援の発信を行い、認知度を上げ地域の子育て力の向上を図る
	実践予定内容	・ちきんえっぐ、つむぎカフェ、園の保護者の方々の見えるスペースに活動内容を掲示することや、ブログの発信をしていく ・つむぎのパンフレットを関係機関に配架、定期的に訪問し自治体からの

		情報の更新を行う
--	--	----------

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	計画：スタッフ勉強会 ねらい：学びの発信を各スタッフ自らに待っていくことで、チームの一員として自分の得意分野を発信することで、存在意義を高める
	実践予定内容	・つむぎ会議時にルーム内勉強会を開催する ・チームとしての必要なこと等テーマは検討し決定する
2	計画・ねらい	計画：子どもの姿から保育、支援を展開できるスタッフ育成 ねらい：保育や支援を通してやりがいを感じられるようにすることで、学ぶ意欲を高められるようにする
	実践予定内容	・業務の見える化、動きの見える化を図ることで業務効率を上げ、話し合える時間を抽出する ・子どもの姿や様子をスタッフ間で話す時間を設けることで、子どもを多面的に捉えたり、チームの一員としてい実感できるようにする
3	計画・ねらい	計画：施設内外のOJT ねらい：保育士の視点を学ぶ事や、他ルームの支援を経験することで自園の良さや、他園の良さ、自園に取り入れられる技術を学ぶ
	実践予定内容	・園とつむぎのスタッフ同士を交換し保育の実践研修する ・他ルームと交換研修をすることで、違った視線から自ルーム支援を振り返る

〈5〉環境実施目標

自分で考え、自分で選択し、自分で行動できるよう、環境を整えられるよう、常にスタッフで環境構成を話し合い、振り返り、改善を行っていく。また、来所されるすべての方が心地良いと感じられる環境を保つ。

1	計画・ねらい	計画：園庭、室内の整理整頓を徹底する ねらい：子どもたちが自然と片付けの習慣が身につくような環境を整える
	実践予定内容	大人が片付けている姿勢を見せていくモノの場所が分かるようにすることで片づけやすい環境作りを行う
2	計画・ねらい	計画：廃材を利用した遊びを充実化する ねらい：ゴミとするか、工夫することでゴミではなく再利用し遊びの資源とするか、身近な「遊び」という環境の中で子どもたち自身が主体的にできるSDGsを行う
	実践予定内容	空の容器や空箱をすぐに捨ててしまうのではなく、自由制作の際に子どもが自由に使用できるようにする

3	計画・ねらい	計画：必要な物を揃える ねらい：必要な物を考え、揃え、管理する姿勢を皆が持つことで過ごしやすい環境を作る
	実践予定内容	必要な物を揃える、定期的な環境点検 教材の見直しを適宜おこなっていく

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

保育士1名

機能訓練担当スタッフ2名 (、作業療法士1名、公認心理士1名)

他1名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ(造形、音楽、自然、食などを設 け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	・食育活動実践報告、喫食状況確認、配膳方法等
事故防止委員会	月1回	・インシデント、事故記録簿、ヒヤリハットの共有・再発防止に向けた検証

支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	月1回	・子どもの様子、状況の共有、対応について・つむぎと園との連携、情報共有と検討・支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。
リーダー会議	月1回	各リーダーによる園運営、課題の抽出及び検討
つむぎスタッフ会議	月1回	・ルーム運営の各担当進捗報告 体験活動の企画や検討事項の話し合い ・マンスリー児の週目標設定や、様子の共有
朝礼、知恵袋、終礼	毎日	その日の確認と振り返り、園との情報共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議		障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	食育計画振り返り、実践報告
保健会議	年4回	衛生、感染症マニュアルの確認、検討、実践報告
子育ての質を上げる会議	月1回	コンピテンシー実践の共有、テーマに即した実践の共有と振り返り、エリア内での情報交換

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起

防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかの飼育管理、ビオトープ作成の指揮、動物や植物に触れる機会の検討立案
体験学習係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保育園と共に計画・実行を行う
運動会係	運動会の企画・運営
生活発表会係	生活発表会の企画・運営
卒園式係	卒園式の企画・運営
入園式係	地域との連携・連絡窓口
大井町市民祭り係	入園式の企画・運営

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して過ごすことのできる環境を整える ・情緒の安定を図りつつ、生活リズムを安定させていく ・身近な大人との安心した関りの中で、人と関わることの楽しさを感じ人間関係の基礎となる部分を養う ・やりとりを通して身振り・手振りや簡単な言葉を用いて、自分の気持ちや要求を表現する力を育む ・様々な体験を通し「やってみたい」と思う気持ちを育てる
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に基づいた身近な原体験を重ねていく

		<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の友だちとの関りの中で友だちと過ごすことの楽しさややりとりするためのコミュニケーション力を育む ・やりたいことを自ら選択し自己決定して参加していく中で興味や探求心を育む ・主体的な参加（どう参加するか）を大切にする
ビジターグループ	上半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して過ごすことができる環境を整える ・小集団での他者との関りの中でコミュニケーション能力を育む ・様々な体験を通し「やってみたい」と思う気持ちを育てる ・園庭遊び、散歩、公園など戸外に積極的に出かけ四季折々に触れる経験や、身体を動かすことを楽しめる環境を整える
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・四季折々の事象に触れ、様々な原体験を重ねる ・小集団の中で、自分の気持ちを伝えつつ、相手の気持ちにも触れながら関わる経験を積む ・活動内容を話し合う、作る物を話し合いで決める、必要な物を考えるなど子ども同士のやりとりをする機会を多く設ける ・主体的な参加（どう参加するか）を大切にする
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	計画：おいしく楽しく食事をする ねらい：食を通して、皆で食べることの楽しさを体験し、食を通してのコミュニケーションを図る
	実践予定内容	縁側給食を通して、季節を感じながら食べる場所の提供 自分の食べたい物を自分で配膳できる環境設定

2	計画・ねらい	計画：食の循環 ねらい：0からの食を学ぶことで食を通して学ぶ
	実践予定内容	畑で野菜を育て、収穫、調理、食す、加工品をつくり調理に使用する等 畑仕事、調理活動を活動の中に取り入れていく
3	計画・ねらい	計画：空腹感を感じることで、食べる事に期待を持つ ねらい：食事の時間だから食べるのではなく、お腹がすいたことを感じ食に対する意欲を高められるようにする
	実践予定内容	日々の日課、散歩、園庭遊び、畑仕事、生き物の世話など8：30からの活動に参加し、沢山体を動かす

〈4〉保健計画

(

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月頃・・・手足口病、咽頭結膜炎、ヘルパンギーナ 12月頃・・・ウイルス性胃腸炎、インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	特になし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在7名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については7月1日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	12月、1月までにスタッフ全員研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。など各園で記載

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日

	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	年2回／6・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

自分で考え、自分で選択し、自分で行動できるよう、環境を整えられるよう、常にスタッフで環境構成を話し合い、振り返り、改善を行っていく。また、来所されるすべての方が心地良いと感じられる環境を保つ。

1	計画・ねらい	計画：園庭、室内の整理整頓を徹底する ねらい：子どもたちが自然と片付けの習慣が身につくような環境を整える
	実践予定内容	大人が片付けている姿勢を見せていく モノの場所が分かるようにすることで片づけやすい環境作りを行う
2	計画・ねらい	計画：廃材を利用した遊びを充実化する ねらい：ゴミとするか、工夫することでゴミではなく再利用し遊びの資源とするか、身近な「遊び」という環境の中で子どもたち自身が主体的にできるSDGsを行う
	実践予定内容	空の容器や空箱をすぐに捨ててしまうのではなく、自由制作の際に子どもが自由に使用できるようにする
3	計画・ねらい	計画：必要な物を揃える ねらい：必要な物を考え、揃え、管理する姿勢を皆が持つことで過ごしやすい環境を作る
	実践予定内容	必要な物を揃える、定期的な環境点検 教材の見直しを適宜おこなっていく

〈7〉 手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	現在なし		
2			
3			

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災対策	非常災害時の対策として、相貌計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施
2	通報訓練	Twitterを利用し、保護者との緊急連絡掲示板の使用訓練実施
3	ケガ事故防止	事故防止チェックリスト、設備点検チェックの実施 ケガ発生時、対応フローチャートに従い迅速に対応する ケガを未然に防ぐためにヒヤリハットの共有やインシデント発生時の検証 を行い見直ししていく
4	防犯	年2回の不審者侵入訓練実施 笛の所持、インターホンでの確認、地域と連携し安全・防犯への意識付け をしていく
5	光化学スモッグ	光化学スモッグの知識を身につけ、市からの注意情報を把握する 久化学スモッグが発令された際は窓を閉め、室内で過ごす

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉 今年度の方針・テーマ

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。 種類) 中高生の体験学習の受入/保育養成校・専門士養成校の学生の实習受け入れ/一般および学生 の各種ボランティアの受け入れ

1	実習生の受け入れ 近	近隣の中学校や高等学校、専門学校、大学などから実習生の受け入れ依頼があった際に積極的に受け入れを行う
2	職業体験の受け入れ	依頼があった際は随時受け入れを行う
3	ボランティアの受け入れ	依頼があった際は随時受け入れを行う

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>←お迎え 対応研修</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>←避難訓練研修</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習

- ① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性を全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法や教材教具の活用、またひとりひとりの子どもに対する支援についてのポイントを全体で共有する。
- ② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「事業所での活動」「親子支援」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招くなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を行う。
- ③ ケース会議：児童個人の支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。基本的には月1回としケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケース会議を希望するがいれば回数を増やし随時開催する。
- ④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を越えた研修会を実施する。
- ⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：一人年間6回を目標とし、課長・施設長で機会の調整し積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。
- ⑥ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、検知を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低1名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。
- ⑦ 朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。

<1> 2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題

4月5日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採 ② 危機管理について ③ 人権チェック ④ 虐待防止研修 ⑤ 園内勉強会（法人理念）	・子どもの人権保障 ・虐待防止のための措置や対応 ・栄養士による食育研修 ・マニュアルの確認・理解
5月10日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採 ② 園内勉強会（法人理念）	・年齢ごと発達過程および保育実践に必要な知識の学び合い ・ディスカッション皆で学び合う
6月7日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採 ② 水の事故ロールプレイ ③ 園内研修（環境）	・マニュアルの確認・理解の促進 ・プール遊びの役割分担、配置の確認 ・リズム、民舞について
7月5日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園内研修（遊び） ③ リズム、歌	・発達を理解した上で保育実践していけるようディスカッションをしながら学び合う
8月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採 ② テーマにそった勉強会	・現状の保育・支援の課題よりテーマを抽出し内容を決定する
9月6日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② テーマに沿った勉強会 ③ リズム、歌	・現状の保育・支援の課題よりテーマを抽出し内容を決定する
10月4日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック 虐待防止研修 ③ テーマにそった勉強会	・人権チェックを行い虐待防止について研修を受ける ・事例をあげてディスカッションを行う
11月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② テーマにそった勉強会 ③ リズム、歌	・現状の保育・支援の課題よりテーマを抽出し内容を決定する
12月6日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採 ② テーマにそった勉強会 ③ リズム、歌	・現状の保育・支援の課題よりテーマを抽出し内容を決定する
1月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採 ② テーマにそった勉強会 ③ リズム、歌	・現状の保育・支援の課題よりテーマを抽出し内容を決定する
2月上旬	18:00～20:00	策定会議①	・次年度事業計画発表 ・年間計画の策定
3月2日	9:00～18:00	策定会議②	・プロポーサル内容の発表 ・次年度年間計画作成 ・畝づくり、環境整備

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
デモンクインテンシブ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

併設園であるふじみ野どろんこ保育園と共に、地域との関係を深め、地域に開かれた子育て支援事業所として、近隣園や近隣施設との交流の機会を設けていく。また、スタッフが地域の行事に参加するなど積極的に関わる。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：亀久保西公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者との交流（伝承遊び会実施）

異年齢交流	小学校、他保育園、子育て支援センター利用者との交流や、園の園児との交流
地域拠点活動	地域支援センターとの連携

9. 小学校との連携の計画

- ① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
- ② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
- ③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
- ④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
- ⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。
- ⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。
- ⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

併設園であるふじみ野どろんこ保育園と共に、地域との関係を深め、地域に開かれた子育て支援事業所として、近隣園や近隣施設との交流の機会を設けていく。また、スタッフが地域の行事に参加するなど、積極的に関わる。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を●月●日（●）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
7月頃	三角小学校 1年●組	20名予定	三角小学校 (三角小校庭)	子ども間交流
9月頃	おおぞら特別支援学校 1年1組	5名予定	おおぞら特別支援学校 (1年1組教室)	子ども間交流
12月頃	三角小学校 1年●組	2名予定	授業参観 (三角小教室)	スタッフ間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせを行う。
- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

子どもや家族への面談を行い、専門的視点からアセスメントを実施する。アセスメントでの情報を多面的に捉えて、課題を整理し具体的な手立てを検討し個別支援計画を作成する。支援内容について課題に着目しすぎずに、個の強みに注目し更に伸ばしていくことができるような支援計画の作成を行う。

〈2〉 毎月のケース会議開催 （4～3月に計12回開催予定 参加者：5名予定） 園と情報共有と支援内容の検討

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

就学支援シートの作成を行い、行ってきた支援や手立てを引き継ぐ

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30
つむぎカフェ	(月)～(土) 9:00～17:00
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30

自然食堂…親子ランチ交流	毎週（木）10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：亀久保西公園にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2023年度内に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

。

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	インクルーシブ保育の実践を行う中で、混ざり合う環境の構築に力を入れて取り組んだ。また、活動の計画立てを保育園と園とで作成することに加えて日々の振り返りを強化した。
	振り返り	マンスリーでは更に園と混ざり合い、計画立てだけでなく、日々の保育の振り返りを行うことができた。しかし、振り返りの仕方、子どもの姿から次の計画を立てていくための話し合う時間の抽出が十分ではなかったことが次年度の課題としてあげられる。 つむぎスタッフが保育を展開する機会は設けることができたため、次年度はさらに、保育園スタッフが支援の必要な子どもに対して合理的配慮を行うための療育的目線をもち関わるスキルの向上をしていけるよう対話していきたい。 ビジターは活動内容を大人が組み立て過ぎず、活動を子どもたちが自ら選び取って参加する環境の構築を運営本部missionのもと更に検討し構築していく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

24年度	目指す姿	保育・支援を行う中で気付きを言語化しチームで共有することが習慣になるような環境の構築を図る 子どもの姿から読み取り、ねらいや願いを持った職員集団を目指す
	重点施策	日々の業務を振り返り、業務の見える化を図ることで、チーム内で子どもの姿を話す時間の抽出を行う
25年度	目指す姿	インクルーシブ保育、混ざり合うことの最高品質の構築 選ばれる園になる
	重点施策	保育園と児童発達支援の併設園モデルとなる 併設園としての強みを打ち出し、発信していく
26年度	目指す姿	専門性を共有し園の底上げを行う 大人も子どもも楽しみ、成長できる環境を整える
	重点施策	専門士それぞれが個々の学びをアウトプットし常に学び続ける 継続してきた支援を次世代スタッフに伝えていく

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎふじみ野ルーム 施設長 佐藤 愛香

2024年度 発達支援つむぎ池尻ルーム 事業計画書

1. 基本方針

子どもたちの「生きる力」を育むために、昨年度に引き続き子どもたちが「好きなこと、得意なこと」を中心とした支援を展開していくことを基本方針とする。子どもの可能性を信じて、最大限に引き出しながら、つむぎでの経験が日常生活の中で生きていくようにする。子どもたちには自分の考えを持ち、それを相手に伝える力や自分で状況を判断して行動ができる力を身に付けて、時には他者に助けを求め、互いに支え合いながら「自分らしく生きる」力をつけてほしいと思う。また、人間が生きていく上で欠かせない、食に対する興味関心も広げていき、種まきから調理、加工までの食の循環を意識した、畑活動を取り入れ、食べること、命をいただくとはどういうことなのかを、子どもたちが実体験として学べるようにしたい。

保護者に対しては、日々抱える子育ての悩みや不安に寄り添いながら、子どもの成長を共に喜べるスタッフでありたい。保護者同士が集える会を定期的に設けるほか、普段から気軽に話せる雰囲気や環境を作っていく。

地域とのつながりにおいては、子どもたちが地域への愛着や自らの将来について考えるきっかけを提供していくために、子どもたちと足を運び地域の方と直接対話をする機会を積極的に作っていく。地域の中で活躍している人を通して、例えば生鮮食品を扱う店に行き、生きた状態から店頭で並ぶまでの経緯を学ぶといった「命をいただく」という活動にも力を入れたい。

そのためにスタッフは、スタッフ自身が主体的に「自分ならどうするか」という考えをもって、日々の支援にあたるようにしていく。何事にもどうしたらできるのか、という思考で物事を捉えるように意識して、自分の頭で考える癖付けをする。考えるだけにとどまらず、実際に大人が率先して取り組む姿を見せ、子どもたちの好奇心を掻き立てる存在でありたい。また、将来を見据えた子どもの姿を逆算し、子どもの成長のために必要な関わりや環境設定ができるように、スタッフ一人一人が学びを深めていく。スタッフ一人一人の意識を高めながら、地域に根付いたルームとして自立運営ができるようにしていく。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	「子どもが主体的に活動する」 子どもが自分で選び行動することで、自己効力感を得る。その中で、失敗しても立ち直る気持ちや新しいことに挑戦する気持ちも育てていく。
	実践予定内容	・子どもの好きなものを中心とした遊びを展開していき、子どもが自然と活動したくなるような内容を考える。 ・子どものやりたい気持ちをかなえられるような環境を設定し、子どもが夢中になれるものを探す。 ・子どもが安心して取り組めるように、評価的な言葉掛けはせずに子どもの気持ちに寄り添う。
2	計画・ねらい	「子ども同士の関りを中心とした支援」 自分の気持ちや意見が相手に伝わる喜びを感じ、相手のことも受け入れられる思いやりの心を育てる。また、相手とは異なる意見のためぶつかる場面では葛藤を経験し、自制心を養う。
	実践予定内容	・異年齢集団の支援を行う。 ・どのような活動をするのか、どのようにやるのかなどを子どもたち自身

		で話し合う機会を設け、ルールを作って守る経験をする。 ・意見の相違やトラブルを見守り、自分たちで解決していく過程を経験できるように見守る。
3	計画・ねらい	「子どもが様々なものを選択できる環境を設定する」 大人が子どもの経験を制限することなく、子どもの発達段階に合わせた環境を設定し、子ども自身が選ぶことで自ら関わり感じて表現できるようにする。
	実践予定内容	・戸外での活動では、必要な遊び道具をそろえて持参するようにする。 ・自然物を使って制作できるようにハサミ、画用紙などの画材をもっていく。 ・室内には、子どもの発達や状況に応じて、おもちゃや道具を配置する。
4	計画・ねらい	「10の姿、生活力の体得」 幼児期に必要な体づくりをしてケガをしない強い体の基盤作りをする。労働について学び、自制心を養うための感情コントロールの経験をする。
	実践予定内容	・雑巾がけやさくらさくらんぼリズム体操を実施し、健康な身体づくりをする。 ・生き物や食物の世話を通して、役割分担やみんなのためにやるべきことがあるとすることを知る。 ・みんなで一つのものを作り上げるなどの活動を行う。
5	計画・ねらい	「命をいただく活動、調理活動を行う」 食の循環を知り、食への興味関心を高める。また、食べ物には命があることを知り、感謝の気持ちをもって食することができるようになる。
	実践予定内容	・調理活動の中で、包丁や火の使い方を学ぶ。 ・道具の貸し借りなどを通して、気持ちを調整する経験をする。 ・魚をさばく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	「保護者同士のつながりを作る」 同じ悩みを持った保護者と話したり、先輩ママとの繋がりができたりするような場を提供する。
	実践予定内容	・座談会や就学相談会の開催。 ・保護者向け勉強会の開催。
2	計画・ねらい	「園や他事業所との連携や共通理解を図る」 所属園や他事業所との連携を図り、子どもにかかわる機関全体で子どもを支援できるようにする。
	実践予定内容	・園訪問の実施。 ・連携内容を保護者と共有し、個別支援計画を再作成する。 ・サービス等利用計画書を確認し、他事業所での支援方針や内容についてスタッフ間で共有しておく。
3	計画・ねらい	「カフェの充実」 保護者が日常から解放されてゆっくりと過ごすことができ、気持ちをリフレッシュできるような場所にする。

	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な物しかなく、常に整理整頓されていて清潔にする。 ・季節に合った飲み物や雑誌を配置したり、保護者の方に直接アンケートを取り希望の多いものを用意したりする。 ・スタッフから声をかけ、何気ない会話を気軽にできる雰囲気を作る。
--	--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	<p>「外部へつむぎの情報提供をする」 つむぎを知ってもらう機会を作り、地域の方との関係性を構築する。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事の情報を収集し参加する。 ・つむぎのパンフレットを相談事業所や区の福祉課などに配布する。 ・緑道での活動を行い、地域の方や清掃員の方とコミュニケーションをとる。
2	計画・ねらい	<p>「子育て支援ネットワークを構築する」 地域全体で子育て支援の力を高められるようにする。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の社会福祉協議会が開催する、まちこま会や子育て支援ネットワークへの参加をし、職員で情報共有をする。 ・協議会で企画された行事の中で、児童発達支援としての役割を果たせる機会を作る。
3	計画・ねらい	<p>「青空保育を行う」 公園で過ごす地域の子どもたちと接し、発達相談へのきっかけ作りをする。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせ、パネルシアターを実施する。 ・つむぎのパンフレットを渡し、希望があれば子育てや発達相談を受ける。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	<p>「高い質の支援を提供できる」 戸外活動でのスタッフの関わり方や遊びの広げ方について、スタッフ同士共通見解を持ちながら支援の質を高めていく。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・支援前後の振り返りで、戸外活動の在り方を見直す。 ・スタッフそれぞれが「遊び」「戸外活動」に関する研修を受講したり、関連書籍を読んだりしてスタッフ同士で意見を出し合う。
2	計画・ねらい	<p>「発信力をつける」 自分の頭で考えて「わたしならどうするか」ということを他のスタッフに伝えられるようになる。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎となる知識習得のために関連書籍を読む。 ・参加した研修の伝聞研修を実施する。
3	計画・ねらい	<p>「保育所保育指針、児童発達支援ガイドラインに精通する」。 支援を提供する上で大切な考え方の基礎を身に付ける。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針、児童発達支援ガイドラインについて学ぶ。 ・支援の中でどのように落とし込めるか、ルームで話し合う。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	「木に親しむ」 身近な自然のものを取り入れて、有効活用しながら日常の中で限りある資源について触れるようにする。
	実践予定内容	・公園で木々を拾う。 ・木々を使った制作をする。
2	計画・ねらい	「生き物や畑に触れる環境を作る」 自分たちの手で育てることで愛着を持ち、食への興味関心を高める。
	実践予定内容	・自分専用のポットや手作りネームプレートをつくる。 ・つむぎに来るたびに水やりをして観察する。 ・つむぎに来ていない日は、写真を撮り掲示するなどして食物の育ちの変化がわかるようにする。 ・飼っている生き物に自分たちで名前を付けて愛着を持つ。

〈6〉誰もが通いやすいルームづくり

1	計画・ねらい	「元気に明るく挨拶をする」 つむぎに来ただけで元気をもらえた、良かったと思えるようにする。
	実践予定内容	・来所した人には誰に対しても自分から笑顔で挨拶をする。
2	計画・ねらい	「積極的にコミュニケーションをとる」
	実践予定内容	・悩み以外にも最近の出来事など、どんな話でも話せる雰囲気を作る。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長兼児童発達支援管理責任者1名

保育士2名

臨床心理士1名

児童指導員1名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門士による支援技術の共有 ・ 研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う。 ・ つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人保育園の重要事故を振り返る ・ つむぎで起こった事故を振り返り、自園での発生を防ぐ ・ 自園のヒヤリハットを振り返り、再発防止策を検討する
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・ 個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	年2回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	食育の推進、意見交換、取り組みの共有
保健会議	年4回	健康増進、アレルギー、感染症等について
子育ての質を上げる会議	月1回	テーマに即した計画的な研修の遂行をする。 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進を行う。

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起

防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	<ul style="list-style-type: none"> ・緑道の整備に関する管理、計画的な活動の立案 ・ベランダプランターの整備、計画的な活動の立案 ・作物の栽培計画 ・栽培活動に関する予算管理 ・子どもと共に活動することの提案 ・食育へ繋げることを前提とした活動の提案
生き物係	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の世話に関する統括（イモリの水槽管理、カブトムシの世話、ザリガニの世話） ・新たな生き物との触れ合いの機会の充実 ・子どもたちと共に世話をしていくことへの提案 ・戸外での動物や植物に触れる機会の検討立案 ・「6つの力」⑤生死を知る、食の循環を知る を考える

〈4〉 行事別係の設置

係名	職務内容・役割
地域連携係	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した体験学習企画、実施 ・商店会との連携
中目黒どろんこ保育園連携係	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の行事などへの積極的な参加 ・要支援児対応会議への出席 ・勉強会、スタッフ交流会の企画、実施 ・合同行事の立案
青空保育係	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシの掲示 ・月ごとの内容を企画
小学校連携係	<ul style="list-style-type: none"> ・地域小学校の学校公開やイベントの情報収集 ・小学校への見学や交流会の計画

4. 支援方針

〈1〉基本方針

リトルグループ (0～2歳児、未就園児)	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・つむぎやつむぎスタッフに慣れ、通ってることが楽しいと思えるようになる。 ・保護者の思いに寄り添いながら、共に子育てを考えていく。 ・戸外活動やさくらさくらんぼリズムを多く取り入れ、基本的な運動機能の発達が促されるようにしていく。 ・着替えやトイレトレーニングに繋がる活動を取り込み、生活動作獲得のサポートをしていく。 ・子どもが自ら選んで自分の意志で取り組める活動を設定する。 ・他者と同じ空間で活動することを通して、他者に関心を向ける場所及び時間となるように環境を整える。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・各々の就園先に向けた集団活動への準備をしていく自分のことは自分でするという心身共に自立するような環境を用意する。 ・子どもが保護者を安全基地として、少しずつ保護者と分離して主体的に活動できるよう、見守りを大切にした支援を行う。 ・スタッフが仲介に入ること、他の子どもとかかわりをもって遊び、適切なかかわり方を少しずつ身に着けるようにしていく。
異年齢グループ (3～5歳児)	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とぶつかる中で、自分の気持ちをコントロールする経験を積む。 ・戸外活動やさくらさくらんぼリズムを通して、自由に体を動かす楽しさと気持ちよさを知る経験を積む。 ・生き物の世話を通し、生命の尊さや「生きること」を感じる ・プランターで食物栽培をし、収穫したものを調理や加工して食することを通して食への関心を高める。 ・生産から食卓までの「食べ物の循環」を知り、食を楽しめる経験をする。心身の健康維持、食べる楽しみ、作る楽しみ、食文化、生産者への感謝など、食育を通した豊かな生活のきっかけづくりをする。 ・地域での活動や戸外活動で、多様な人々との関わりを持ち、多様な人々と触れ合う機会を持つ。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢活動を通し、友達と一緒に活動する楽しみを知り、協調性や主体性、思いやりの心を育む。 ・子どもたち自身で活動内容を計画し実行するという機会を通して達成感を味わえるようにする。 ・安全に気をつけた行動ができるように、危険な場所や遊び方などの気づきを促すように支援する。 ・就学に向けて、一人一人の将来を共に描き、保護者と相談の場を持つ。
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施。 ・保護者の思いに寄り添い、傾聴すると共に現状や問題点、つむぎとして取り組む事項などを整理し、今後の支援の道筋を探る。 ・家庭や所属事業所、関係事業所と連携して取り組める方向性

		を、保護者と一緒に考える。 ・保護者の希望だけでなく、つむぎからも必要だと思われる家庭に声をかけ、必要に応じて相談にあたる。 ・「相談支援記録」を残す。
保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施。 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用。
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整。 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用。

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	「プランターで野菜を育てる」 食物を育てることから携わり、食材の変化や食の循環を知る。
	実践予定内容	・種まき、水やり、間引き、収穫、加工、食するという一連の流れを経験する。 ・子どもそれぞれにオリジナルのプランターを作ったり調理活動の計画を立てたりすることで、子どもたちがモチベーションを持って栽培活動を楽しめるような工夫をする。
2	計画・ねらい	「調理活動を行う」 食材の加工を経験し、その変化に気付き楽しむ。
	実践予定内容	・大豆から味噌を作り、収穫した野菜でみそ汁を作る。 ・梅から梅干しと梅ジュースを作る。 ・トマトを収穫し、手作りケチャップに挑戦する。
3	計画・ねらい	「スタッフと一緒に食べる」 他者と食事をするという楽しさの体験をする。
	実践予定内容	・調理したものをスタッフや他児と一緒に食べることで、味やおいしさ、楽しさを共有して、コミュニケーションとしての食の役割を知る。
4	計画・ねらい	「命をいただく体験をする」 実際に生きた状態からお店に並ぶまでという一連の流れの中で、命をいただくということを体験する。
	実践予定内容	・食にまつわる絵本の読み聞かせを行う。 ・鮮魚店で魚を捌いているところを見学する。 ・魚を捌く体験をする。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～7月頃・・・ヘルパンギーナ 7～8月頃・・・咽頭結膜炎（プール熱） 11～3月・・・インフルエンザ 11～12月頃・・・感染性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在5名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員1名については3月31日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	AED設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前

	検便・細菌検査	毎月1回/5日/全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回/4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回/施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	「遊具や教材配置の工夫をする」 子どもが主体的に関わることができるようにする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたち自身で選択できるように、どのような教材や玩具の配置がよいか考える。 施設内で飼っている生き物にいつでも触れられるように配置する。 本棚の整理整頓を行い、定期的に本を入れ替えるようにする。 子どもたちの興味、関心に合わせた道具や教材を適宜追加する。
2	計画・ねらい	「戸外活動の実施」 ホンモノに触れる機会を作り、生活に根付いた環境を大切にする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> カードや玩具、絵本での知識に留めず、畑仕事で収穫した野菜に触れたり、商店に並ぶ野菜や果物、魚などにも触れたりする経験を提供する。 緑道にある季節の植物、生き物に触れる機会を作る。
3	計画・ねらい	「施設内すべての整理整頓をする」 どこの場所であっても子どもが活動の場として選択できるようにする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> 支援に必要な環境に配慮しつつ、支援室を自由に行き来できるようにしておく。 カフェや事務所も自由に行き来でき、子どもたちが安全に活動できるように、常に整理整頓された状態を保っておく。
4	計画・ねらい	「子どもを見守る関わりを大切にする」 子どもが自信をもって行動し、試行錯誤をする機会を保障する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> スタッフが適切な立ち位置で子どもを見守り、必要な言葉かけができるように勉強会や事例検討を行う。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧
なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	避難訓練を月に1回実施し、緊急時にスタッフ全員が最善の対応ができるように努める。全スタッフが、避難場所・避難経路・避難対応の仕方を熟知している状態にいる。また、支援内で避難訓練を実施するなど、子どもや保護者の防災意識も高めるようにする。
---	----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2	ケガ事故防止	活動前に予想されるケガや事故について話し合い、未然に防げるように対策を考える。また、毎日の夕礼でヒヤリハットを出し合い、その場で環境や対応を改善していく。起きた怪我や事故に対しては、原因の究明を怠らず、再発防止や改善に努める。
3	防犯	不審者侵入対応訓練を年に2回実施する。誰もが自由に入出りできるカフェであることが前提であるため、来客者とは日々コミュニケーションを取り、異変に気付ける目を養う。
4	光化学スモッグ	光化学スモッグの知識を身に着け、自治体からの注意情報を把握する。また、光化学スモッグ注意報が発令された場合は、光化学スモッグ発生時の対応及び行政連絡に従って対応する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

1	中高生の体験学習受け入れ	・世田谷区桜木中学校の華道部の生徒の方に来所頂き、子どもたちと生け花体験を実施する。
---	--------------	--------------------------------------------

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	9:30~11:30	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック ③ 法人理念・方針・2024年度ミッション ④ ケガ・ケーススタディ	・子どもの人権を第一に考えられるようになるため、その定義や対応について理解を深める ・改めて法人内のミッション等の共通理解を図り、自ルームに照らし合わせて考える ・スタッフの立ち位置や声掛けなどについて学び、集団で起きうる事故を想定した動きができるようにする
5月16日	9:30~11:30	① コンピテンシー自己採点 ② 畑仕事	・食べること、食に興味を持つこと、口腔機能について学ぶ ・畑活動と食育を連動させた、食の循環について考える

6月20日	9:30~11:30	① コンピテンシー自己採点 ② 戸外支援について	・ 戸外での活動を振り返り、遊びの引き出しを増やす
7月18日	9:30~11:30	① コンピテンシー自己採点 ② 研修の伝聞講習	・ スタッフが受講した研修を全員で共有する ・ 保護者から検査についての質問があっても答えられるようになる
8月15日	9:30~11:30	① コンピテンシー自己採点 ② 保護者支援	・ 保護者支援の在り方をスタッフ間で話しあう ・ フィードバックのポイントや方法を共有する
9月19日	9:30~11:30	① コンピテンシー自己採点 ② 保育所保育指針、児童発達支援ガイドライン	・ 保育所保育指針、児童発達支援ガイドラインについて学ぶ
10月17日	9:30~11:30	① コンピテンシー自己採点 ② ハザードマップの見直し ③ 伝聞講習	・ スタッフが受講した研修を全員で共有する ・ ハザードマップを見直し、危険個所の共有をする
11月21日	9:30~11:30	① コンピテンシー自己採点 ② 内部監査	・ 内部監査項目の共通理解を図ると共に、子育てサービスや環境整備について振り返る
12月19日	9:30~11:30	① コンピテンシー自己採点 ② 就学相談について	・ 世田谷区、目黒区の就学相談の流れを知り、保護者の相談に応じられるようになる
1月16日	9:30~11:30	① コンピテンシー自己採点 ② ケース検討	・ 全員で検討会を開く。様々な角度からの見立てや意見を聞き、今後の指導に活かす。
2月20日	9:30~11:30	① コンピテンシー自己採点 ② ケース検討	・ 全員で検討会を開く。様々な角度からの見立てや意見を聞き、今後の指導に活かす。
3月20日	9:30~11:30	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度に向けての研修内容検討	・ 今年度を振り返り、来年度学びたい内容について話し合う

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
デモンクインターンシップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

昨年度、築いてきた商店街の方との関係性を継続さえ、商店街のイベントに参加するなど、スタッフが積極的に地域に出ていき、イベントや行事に参加するようにする。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：池尻三丁目公園
商店街ツアー	随時 買い物やハロウィンイベントを実施する
世代間交流	・緑道での活動を通じて、地域の方々との交流を図る
異年齢交流	・体験学習などのイベントでは積極的にきょうだい児の参加を促し、幅広い異年齢交流の場を設ける

	<ul style="list-style-type: none"> ・卒児と現利用児が交流できるようなイベントを開催する ・地域の公園を活動の場とし、そこに集まる小学生も共に遊びを展開する
地域拠点活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体「四季の会」の方々指導の下、緑道の整備を行う ・「みちあそび」：社会福祉協議会主催。道路もしくは施設にて、伝承遊びなどを通して、地域の方々が一緒に遊んで楽しめる機会を作る
中目黒どろんこ保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・園児との交流の機会を持てるように、公園での活動を共に行う ・運動会やどろんこ祭りなどに参加する

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

昨年度見学させていただいた小学校と連動し、スタッフの学校見学や子どもたち同士の交流会を実施する。スタッフが小学生の姿を見て、その姿から逆算した必要な支援や経験を熟考し、子どもたちに提供できるようにする。子どもたち自身も実際に学校の施設や小学1年生の姿を見て、自分が小学生になるときのイメージを膨らませて期待を持てるようにする。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を5月13日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
適宜	東山小学校	2~3名予定	学校見学（特別支援教室）	スタッフ間交流 小学校の雰囲気を知る
適宜	多聞小学校	2~3名予定	学校見学（特別支援学級） 子どもたちの交流会	スタッフ間交流 小学校の雰囲気を知る 子ども自身が小学生になったときの姿を想像する

10. 個別支援計画の作成と更新について

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるとして確認していき、子どもの発達状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。

- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせを行う。
- ⑥ 原則として6か月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。これらの情報を策定会議で話し合い、子どもの課題と支援方法を検討した上で、個別支援計画書の作成を行う。作成した個別支援計画は、保護者に説明を行い、同意を得てから計画に沿った支援の提供をする。また、6か月に1回以上のモニタリングを実施することを原則とする。

〈2〉毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催予定 参加者：6名予定）

保護者の困り感が強いケースや、支援が難しいケースなどを中心に事例を挙げ、対応や支援策について検討する。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

保護者の希望により、就学支援シートを作成し、小学校への引継ぎを行う。就学支援シートには、利用の状況、当施設での子どもの様子、提供した支援内容、必要な配慮事項などを記載する。子ども自身の強みや得意なことなども伝えて、就学後にその子が自分らしく過ごせるための情報提供となるようにする。

11. 子育て支援事業

施設に訪れた親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
つむぎカフェ	(月)～(土) 9:00～17:00
子育て相談	随時
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：池尻三丁目公園にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年8月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：9時30分

自己評価終了予定時刻：16時00分

自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	<p>重点施策</p> <p>1 幼稚園、保育園、小学校との関係づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園訪問を通して園との関係を深めていく。 ・つむぎ利用時の所属がない園に対してもアポを取り関係を作っていく。 ・スタッフが小学校の見学をして、小学校の現状を知る。 <p>2 原点回帰</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日課のねらいや目的を知り、食の循環についても学びを深める。 ・日課を取り入れた支援を提供し、トライアルアンドエラーを繰り返す。 ・戸外における支援について改めて振り返り、そのねらいや支援の引き出しを増やして充実させる。 <p>3 地域発信とニーズ収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の機関とつながるために、地域で実施されている会議や勉強会に参加する ・地域の現状を知り、どのようなニーズが潜在しているかを知る。 	
	<p>振り返り</p>	<p>戸外活動が定着してきて、スタッフも子どもも積極的に外に出るようになっている。また戸外での支援の在り方や質についても少しずつ職員一人一人が意識できるようになっている。次年度は、質の部分に力を入れてさらに支援の質向上を目指していけるように振り返りやケース検討などを定期的に設けたいと思う。</p> <p>地域の商店街の方にご協力いただいて、商店街ツアーやイベントなどを何度か実施することができ、少しずつ関係性が構築されつつある。次年度は、商</p>

		店街のイベントに参加するなど双方向にとって意義のある活動を実施していきたいと思う。
--	--	-------------------------------------------

〈2〉当年度以降の3カ年計画

24年度	目指す姿	子育て相談の施設として地域から認められる
	重点施策	<p>1 支援の質の安定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの「好き」を中心とした支援を展開する。その中で、子どもたちは、自分で考える、自分で判断する、自分で行動することが実現できるように、また生きる力を身につけられるようにする。 ・スタッフは、生きる力を身に付けるためには何が必要なかをそれぞれが考え、適切な環境設定と支援の提案ができるようになる。 <p>2 保護者支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士の懇談会を実施する。 ・就学先の情報収集。 <p>3 近隣の幼稚園、保育園、小学校との連携を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが小学校の見学に行き、小学生の姿から逆算しつむぎに通う子どもたちの成長を10の姿に沿って考えられるようになる。 <p>4 地域の方との結びつきを深めて継続的に関わっていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会と協力し、現在企画中のみちあそびなど、地域の方との合同行事を企画、実行していく。 ・商店街の方にご協力いただいて、商店街ツアーやお仕事体験などを行う
25年度	目指す姿	子育て相談の場において、つむぎの名前が上がり選ばれる施設になる
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・無料子育て相談会実施やカフェスペースの改善 ・子どもたちの成長の姿を外部に発信 ・定期的に園や学校との会議の場や勉強会の場を設ける
26年度	目指す姿	地域の子育て支援の中核的な機能が果たせる施設になる
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムに精通し、切れ目のない支援を実現化する ・保育や発達に限らず、地域のニーズにあったテーマで勉強会や研修を実施する

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ池尻ルーム 施設長 外山ちひろ

2024年度 発達支援つむぎ 横浜東ロルーム 事業計画書

1. 基本方針

横浜東ロルームは、2024年度法人スローガン「あなたはどうか」の下、スタッフ一人ひとりが大人として主体性を持ち、考え、動き、学び、自立することを目指す一年としたい。

一人の大人として「これからの社会はこうあってほしい」、社会の成員として「自分はこういう人間でありたい」という自己の意見を持ち、そのために日々どうあるべきかを問い、行動し、変化してゆく。

子どもにとって最大の環境である大人として、「子どもとその保護者の現在、そして未来に大きな影響を及ぼす自分は、どういう大人であるべきか」という問いを常に持ち、日々を積み重ねてゆく。

横浜東ロルームは、今の自分にあるものだけを子どもに分け与え授けるのではなく、一人ひとりの大人が変化する勇気と、それを継続する姿を子どもたちに見せてゆくことができるルームになることを目指す。

●大人が心から笑い、思い切り楽しむ

子どもたちが「つむぎに行きたい」「今日も楽しみ」と思うように、大人も「与え授ける」立場だけではなく、わくわく思い切り楽しむ。

そして、今まで以上に積極的に地域へ関わり、横浜市西区という多様なバックボーンを持つ人々と触れ合い、自分たちを包括する地域というものを肌で感じ、人々の営みや人々との関わりを交流を通じて学んでゆく。

大人も子どもも社会の成員として共に成熟してゆく「仲間」として、遊び、笑い、感じ、考え、同じ時間と場を共有し、様々な感情や葛藤を抱き、一人ひとりが個性を育み形成し、それぞれの存在を尊重し、認めてゆけるルームを目指す。

●運営部mission 2024の遂行

①生活力と10の姿の体得

つむぎ横浜東ロルームでは、遊びと労働を通じて子どもたち一人ひとりの成熟を目指します。その成熟とは、知識や能力の量的増大だけを指すではありません。それは、活動を通じて「別人になる経験を積む」ということである。

日々の活動はねらいと見立てを持ち、発達段階や課題に合わせた活動を行なってゆく。しかし子どもの成熟というものは「これをインプットすれば」「これがアウトプットされる」というものではなく、工業製品のように「より簡易、より効率的、より短時間」を目指すものでもない。

夢中になれる遊びや労働を通じて、自分がそれまで知り得なかったことに触れる。それは具体的な知識であったり能力であったり、自身の感情かも知れない。そういった「自分がこれまでその存在すら知らなかったもの」に触れることで、自己という存在と他者というものを認識する。そこで芽生える感情に向き合うことで自己を知り、他者のとの関わり、人との関わりの中で生きてゆく自分というものを形成してゆく。

そうした経験を通じて得られるものは知識や技術ではあるが、それらがもたらすのは視座の高まりである。これまで見えなかったものが見え、聞こえなかったものが聞こえる。自分という「入れ物」が変容し、まるで別人のようになる。そんな、いわば「脱皮」を繰り返して人は成熟してゆく。

そうした成熟を通じて得られた姿や能力が、子どもたちにとって「生活力や10の姿と呼ばれるものにカテゴライズできるもの」であった。そのような活動を目指していきたいと考える。

②自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定

子どもたちが精神的・物理的に「フリーハンド」が持てるよう、「これが好き」「これをやってみよう」といった能動的なものだけでなく、「うまくできるかわからない」「苦手だから」といった感情からの選択も肯定的に受け止められるような環境設定を行い、子どもたちが「これがやりたい」「これはやりたくない」を自分で選び、気後れなく発信できる環境を設けてゆく。

それを叶えるべく、大人は「できない」「危ない」「前例がない」を言い訳にせず、子どもたちと思い切り楽しく、わくわくできるよう、自由に選べる玩具の設置や子どもたちが話し合っ活動内容や散歩の行き先を決めるなど、子どもたちが主体的かつ能動的に活動できる環境設定を行う。

③命をいただく活動

一人の人間が生命活動を維持してゆくためには膨大な水や大気、土壌や空間、エネルギーを消費し続けなければならないということ。慎ましく敬虔に生きていても、人は浅ましく糧を必要とする存在なのだということ。

命をいただくという活動を通じてそうした事実の一端に触れることをねらい、横浜東口ルームでは年間を通じて飼育する泥鰌を調理して食する活動を取り入れる。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	【自ら経験の選択ができる環境設定】 <ul style="list-style-type: none"> 自分で決める力、自分の表現で発信するすべを育てていく為に、大人は声や表情、態度などで子どもを誘導しない。 子どもたちが自分で感じ、考える機会を十分に取り入れた活動を提供する。 活動の内容や戸外活動の行き先などをすべて大人が先回りして決めるのではなく、子どもたちが自分でやりたい遊びや行きたい場所を決め、参加する力を育む。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> 構成メンバーや発達段階、課題などを鑑みて複数の活動を想定準備し、子どもたちが主体的に選んだ、考えたと感じられるように提案やリードをしてゆく。 子どもの希望に任せて活動が「点」となってしまわないよう、子どもたちの興味や関心に呼応しつつ、活動が「線」として繋がるように活動を構成してゆく。
2	計画・ねらい	【地域との関わりを持てる活動の更なる充実】 <ul style="list-style-type: none"> 活動を通じて築いた地域との関わりをより深め、ルーム内だけではなく地域との交流を通じて子どもたちの成長を育む。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> 訪問や買い物といった一方向的な関わりだけでなく、つむぎイベントへの招聘や子どもたちが栽培した作物の提供など、双方向的な活動も並行し行ってゆく。
3	計画・ねらい	【食育活動の更なる充実】 <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちがより主体的、能動的に畑仕事に取り組み、より充実した経験と達成感を得られるようにする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> 活動日だけでなく、植える作物や担当する作業、料る品など、子どもたちが話し合っ決めることまで含めた総合的な畑活動スケジュールを作成する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・畑仕事と調理だけでなく、自分たちが植える作物について調べるなど、より食材に興味関心を持てる工夫をする。 ・収穫した作物を地域の方々に提供する、調理した品を地域の方々と食べるなど、子ども達が自分たちの労働の成果物で他者と繋がる機会を設ける。
4	計画・ねらい	<p>【プロのチームになる。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援はチームで当たるもの。個々人はもちろん、チームでプロになり、子どもの最善の利益を目指す。 ・自分が成長するためにどういうチームであってほしいか、チームが成長するために自分はどのような役割を担い、果たせるかを考えて行動する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が一日を過ごす場所として、挨拶はもちろん、会話やコミュニケーションを取る時間を大切にする。 ・振り返りや策定会議を子どもの様子や課題の共有だけで終わらせず、「目の前の子どもたちのために自分たちが」成長し合うための場という意識を持ち、忌憚のない意見や指摘を交わしてゆく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが保護者の気持ちに寄り添った接遇ができるよう、保護者が抱く不安や悩みに気が付ける関係性を築いていく。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りで子どもの様子、活動を分かりやすく伝えるだけでなく、挨拶はもちろん、会話やコミュニケーションを取る時間を大切にする。 ・保護者との関係性を「サービスの受益者と提供者」といったビジネスの言葉づかいでくくらず、「子どもの最善の利益を共に模索する対等なパートナー」として捉える。保護者の心情や置かれた状況を慮りつつ、支援のプロとして、保護者の要望だけを適えるのではなく子どもの最善の利益という観点から適切な対応を行ってゆく。
2	計画・ねらい	保護者がルームを「この子の大切な、一つの社会」と感じられるよう、保護者同士の交流を深める。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りにおいて子ども同士の関わりやグループ全体の成長などを、個別だけではなく保護者全体に伝えてゆく。 ・活動と並行して就学の相談会、茶話会などを実施する。 ・つむぎを卒業した保護者を招聘し、実際の学校生活の様子を聞ける場を設ける。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の他事業所との連携を計るため、西区児童部会と療育教育福祉連携会を中心に、横の繋がりを築く。
	実践予定内容	施設長、児童発達支援管理責任者だけでなく、すべてのスタッフが研修や見学会に積極的に参加し、顔の見える関係性を作る。
2	計画・ねらい	小学校を知り、長期的な視野を持った支援を行う。

	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の特別支援学級を訪問し、就学を見据えた支援を行なってゆくための見識を広げる。 ・小学校から先という長期的な視野を持つために、特別支援学校高等部や特別支援教育研究所などを訪問する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を出し、相手を知り、チームになる。 ・子どものために、侃々諤々の協議ができるようになる。 ・「子どもの将来に携わるプロのチーム」を目指す。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを子どもの支援記録と所感だけで終わらせるのではなく、大人が成長し合うための意見交換の場にする。 ・机上の話し合いや会議だけではなくロールプレイを積極的に取り入れ、意見や指摘をし合える素地を作る。
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・専門分野や得意分野、興味あることを学びインプットして、スタッフに向けてアウトプットする。 ・自分が学び感じたことや吸収したことを多角的客観的に捉えることで、学びの定着を目指す。またそれを相互に行うことで、相乗効果や学びの深化を目指す。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園長大学@保育士大学の講座を積極的に活用し、スタッフは年間で受講する数やテーマなどを決定し共有する。 ・スタッフで話し合っってテーマを設け、ルーム会議の時間を用いて園長大学@保育士大学の講座を視聴し、実際にどのように行動すれば自分たちの業務に落とし込めるかを話し合い、実践できる具体策を出し合う。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環サイクル
	実践予定内容	プランターで栽培した紫蘇を加工してジュースやかき氷のシロップを作り、地域に提供する。
2	計画・ねらい	食の循環サイクル
	実践予定内容	畑仕事で作付けした枝豆を大豆に栽培し、加工して味噌や豆腐作りを行なう。
3	計画・ねらい	食の循環サイクル
	実践予定内容	命をいただく活動を通して環境教育を実践する。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

機能訓練担当スタッフ3名(言語聴覚士2名、作業療法士1名)

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ(造形、音楽、自然、食など)を設け、資料を使った研修を行う。
事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハット、インシデント、事故の共有。 ・再発防止策の確認。
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直し

		など
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	月1回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
食育会議	年4回	議事内容の情報共有
保健会議	年4回	議事内容の情報共有
子育ての質を上げる 会議	月1回	テーマに即した実践と成果報告

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒や月1回の清掃の点検と管理、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	・事業所内、また周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 ・計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月1回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	どじょうの飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
体験学習	体験学習を通常の活動では体験できないイベントとして位置付け、保護者や地域にも協力を仰ぎながら開催する。

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが主体的に活動に取り組める環境を整える。 ・いろいろな遊びを経験し、興味と関心の幅を広げ、遊び込む力を育む。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことを表現したい、伝えたいという気持ちを育む。 ・友だちと楽しく過ごし、対人意識を育む。 ・単発的な点としての活動ではない連続した線としての活動を通じて、就園に向けた生活力を育む。
グループ	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが主体的に活動に取り組み、友だちと関わり合える環境を整える。 ・自分の気持ちを言葉で伝える経験を重ねる。 ・遊びや畑仕事などを通じて、相手の気持ちや考えに触れる。
	下半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを大切にしながら、友だちとの関わりや集団での活動を楽しんでいると感じる経験を重ねる。 ・どんな遊びをするか、散歩でどこに行くかなど、子ども同士で話し合い、参加できるようにする。 ・単発的な点としての活動ではない連続した線としての活動を通じて、集団で楽しむ力や行動する力を育む。
個別支援	随時	個別支援は1対1で完結させる時間ではなく、集団に繋げるためのステップの時間とし、グループ活動と同じ空間で過ごす、お互いの活動の様子を見るなど、それぞれが交流できる機会を頻繁に設ける。
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施する。 ・「相談支援記録」を活用する。
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施する。 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用する。
関係機関との連携	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・就学・就園に関する各関係機関との連携を行う。 ・所属している保育園・幼稚園と連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い、「ご意見ご提案シート」を活用する。

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	【食に対する興味・関心を高める】 ・自らが畑で育てたものを収穫し、素材の味を活かした調理を行い、食べる経験をする。
	実践予定内容	・年間を通じて毎月畑仕事を実施する。 ・子どもたちが主体となって調理活動で料るものを決める。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
児童への保健指導・取組等	手洗い・うがいや雑巾がけなど、清潔な環境への誘導
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月～9月：手足口病・咽頭結膜熱・ヘルパンギーナ・とびひ 12月～3月頃・・・インフルエンザ・ウイルス性胃腸炎・RSウイルス感染症
エピペン使用できるスタッフ	本日現在5名が研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在5名が研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日

	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック及び虐待防止研修	年2回／4・10月の施設内会議時
	施設内虐待防止委員会	年2回／9・2月
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子ども、保護者共に居心地が良く、また来たくなる環境を提供する。
	実践予定内容	日中の定期的な換気や消毒などの衛生管理を行い、整理整頓や清掃を日常的に取り入れ、常に安心して過ごせるルーム環境を作る。
2	計画・ねらい	子どもたちが遊び込める、安全安心な環境をスタッフ全員で確保する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> 活動が始まったら子どもも大人も全力で遊べるよう、打ち合わせや準備は事前に入念に行う。 戸外での活動では全体把握を法人ルールに沿って行うとともに、公園到着時の危険物チェックの徹底、不審者などに注意する。

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	法人の定める、マニュアルに則って行動をする。
2	実践予定内容	安全対策係が中心になり、事故報告やインシデント、ヒヤリハットを分析し、再発防止に努める。なお、個人の危機予測の力が高まるよう、子どもが遊んでいる写真などを用い、起こりうる事故やケガを協議する。
3	実践予定内容	防火管理者が中心となり、避難訓練・不審者進入訓練を行う。訓練の訓練とならないよう、参加者が実際に起こりうるという意識を持ちながら参加できるようにする。なお、全利用児が年に1回は訓練に参加できるようにし、有事に備える。
4	実践予定内容	光化学スモッグについては、自治体の情報を職員に即座に伝達し、マニュアルに則って戸外活動を避けたり、戸外活動を切り上げて戻ってきたりという判断が迅速に行えるようにする。

6. 実習生・中高生の受入

臨床心理実習をはじめとする外部からの実習受け入れの依頼については積極的に受け入れ、保育園訪問実習など法人全体を通して実習地とし学びの場を準備し提供してゆく。

7. スタッフ育成と研修計画

- ① ルーム内ケース会議：アセスメント・目標・プログラムを全員で見直すケース会議を毎月行っていく。
- ② ルーム内勉強会：年間で一つのテーマを定め、それについて勉強会を開きルーム全体の学びを深めていく。
- ③ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、知見を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低1名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。
- ④ 西区の児童発達支援施設連絡会、療育教育福祉連絡会の集まりに参加し、地域と共に子どもや福祉の支援を考える。
- ⑤ 園長大学@保育士大学の公開講座を積極的に活用し、スタッフ一人ひとりの知見を増やし、ディスカッションを通じてスタッフ全体のレベルアップや学びの深化を目指す。また、スタッフで話し合っただけでテーマを設け、ルーム会議の時間などを用いて全員で講座を視聴し、話し合う場なども設けていく。年間を通じての受講予定やディスカッションのスケジュールなども相互に発表し合い、計画的に取り組めるようにする。

〈1〉 2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月17日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック ③ 虐待防止研修 ④ 総合訓練 ⑤ 怪我、ケーススタディ ⑥ 接遇研修	・人権と虐待防止について研修 ・怪我、ケーススタディについて ・電話対応、接遇について
5月15日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学@保育士大学	・園長大学@保育士大学講座を活用した研修
6月19日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保護者、家庭支援	・保護者の悩み、家庭での悩みの共有、具体的な支援策の検討
7月17日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 個別支援計画作成	・モニタリングの重要性、策定会議、個別支援計画の作成について
8月21日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学@保育士大学	・園長大学@保育士大学講座を活用した研修

9月18日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 上期振り返り	・上半期振り返り、活動の共有
10月16日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・虐待防止研修 ③ 衛生研修	・人権について研修 ・虐待防止について研修 ・嘔吐処理、感染症対策について
11月20日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 就学支援シート	・就学支援シートについて
12月18日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度に向けて	・今年度の支援内容やルーム運営の振り返り、次年度の支援内容とルームの取り組みの話し合い
1月15日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 園長大学®保育士大学	・園長大学®保育士大学講座を活用した研修
2月19日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 虐待防止研修	・虐待防止について研修
3月19日	13:00～15:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度に向けて	・今年度の支援内容やルーム運営の振り返り、新規利用児の個別支援計画の作成と支援内容の立案。

〈2〉外部研修への出席

2～3月実施の「外部研修受講アンケート」に基づき施設長が推薦する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											

全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
デモンクインターンシップ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

横浜市西区という情緒あふれる魅力的な地域に在することを活かし、これまで以上に積極的に地域へ関わってゆく。活動を「買い物」や「訪問」といった単一的な関わり合いに限定せず、多様なバックボーンを持つ人々との触れ合いを通じ、自分たちを包括する地域というものを肌で感じ、人々の営み、人々との関わりを学んでゆける活動を行ってゆく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：石崎川公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設、銭湯など、世代を越えた交流ができる機会を設ける。
異年齢交流	グループ支援の中で常に取り入れる。
地域拠点活動	夏祭りだけでなく、自分たちで漬けた梅やシソを用いた「つむぎジュース屋」の開催、畑で栽培した作物を提供するなど、地域の方々との交流の場を設ける。

9. 小学校との連携の計画

- ① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
- ② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。

- ③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
- ④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
- ⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。
- ⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。
- ⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

就学支援シートを主な連絡ツールとし、利用児童がスムーズに就学先に適応できるように情報提供し、連携を図っていく。

また、近隣小学校が地域に公開する取り組みについてはスタッフと子どもが積極的に参加することで、地域の一員として連携が図れるようコミュニケーションを取っていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を9月1日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
10月頃	日野特別支援学校	2名予定	日の特別支援学校 支援学校の様子や連携 についての検討	情報共有
11月頃	戸部小学校	2名予定	平沼小学校 支援級の様子や連携に についての検討	情報共有

10. 個別支援計画の作成と更新について

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するとうことが計画の中で明確になるようにする。

- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行う。
- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

- ・ 児発管が中心となり、ルーム内会議の場でスタッフ全員が策定会議に参加していく。
- ・ 半年を待たずして目標を達成したり、幼稚園や保育園、その他関係機関とのケース検討の結果必要と考えられたりする場合には随時更新していくこととする。

〈2〉 毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催予定 参加者：5名予定）

策定会議だけでなくケース検討会を実施することで、子どもへの理解をスタッフ全員で深めていき、支援内容の充実に繋げていく。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

就学支援シートの作成を行い、行ってきた支援や手立てを引き継ぐ。

11. 子育て支援事業

施設に来院した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
青空保育	毎月第3水曜日 公園名：石崎川公園にて
つむぎカフェ	(月)～(土) 10:00～17:00
子育て相談	随時
ランチ交流	随時
卒園児交流会	年1～2回
就学に向けた保護者座談会	年1～2回

12. 施設運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年9月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：9時00分

自己評価終了予定時刻：17時00分

自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2024年11月に評価結果を開示予定である。同時期に職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	・新体制としてメンバーがチームとなり、保護者との関係性を構築し、地域との繋がりを築くために積極的に交流を図る。
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・新体制で手探りのスタートであったが、稼働率やNPS、内部監査などにおいて前年を上回る結果を出すことができた。 ・プロのチームになるという意味ではまだ互いに遠慮があるので、子どもの最善の利益を目指し、侃々諤々の話し合いができるプロのチームになる必要がある。 ・つむぎを卒業した保護者を招聘し、現利用者と共に実際の学校生活の様子を聞き、意見交換する場を設けた。 ・園訪問を行うことでつむぎ以外の場所での様子を知り、支援の充実化が図れた。また、所属園との関係性を築くための土台作りができた。 ・戸部小学校を訪問し、一般級及び特別支援学級を見学した。また、それぞれの担任の先生方と話し合いの場を持ち、意見交換の機会を得た。 ・高齢者施設や商店街への訪問、他児童発達支援事業所との相互見学会など、地域との関係性作りに注力した。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

25年度	目指す姿	チーム力の向上
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・自分とチームが目指す支援や子どもの最善の利益のために必要な環境や課題点などを共有し、率直に話し合えるようになる。 ・個人はチームに貢献し、チームは個人を支える。個人だけでなく、チームとしての支援の質も高まるよう、自分を成長させ、変化する勇気を持つ。
26年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携強化 ・自治体、他事業所との連携強化
	重点施策	・体験学習やイベントなどを保護者と一緒に企画し、運営実行する。

		<ul style="list-style-type: none">・つむぎを卒業した保護者も招聘し、保護者同士の年度を越えた関係作りを進めてゆく。・つむぎを利用する子どもの所属園だけでなく、地域の保育園などにも関係性構築の範囲を広げる。
27年度	目指す姿	西区の子育て支援の充実化を図る
	重点施策	西区児童部会、横浜市療育教育福祉連絡協議会を通じて各関係機関との情報共有や関係強化を図り、地域全体の児童発達支援の充実化に貢献する。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 横浜東口ルーム 施設長 田川 信政

2024年度 発達支援つむぎ 府中ルーム 事業計画書

1. 基本方針

2024年度 運営本部スローガン「あなたはどうか、大人も主体性」のもと、大人が自律し、生活力・選択力・思考力を育む教育・保育・支援のフロントランナーとして、子どもと共に「にんげん力」の更なる向上を目指すことを基本方針とする。その中で、子どもが自ら五感を使って感じ取り、考え、伝え合い、表現できるような支援を提供し、生きる力を育める環境を自分で選べる支援を実践する。

この地域社会で学齢期を迎えることを見据えた上で、今の子どもたちにとって何が必要で大切なことなのかを見定め、スタッフ全員が一丸となって地域に発信していく。そして、この時代を生きる子どもに対し、地域社会の中で生きる力を育める子育て支援事業所としての役割を確実に果たすと共に、地域からも選ばれる事業所になることを目指す。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

2024年度は運営本部mission「生活力の体得」「10の姿の体得」「経験の選択ができる物的環境」「命をいただく活動」に注力しバランスよく実践することで支援内容の充実と質の向上を図る。

大人の背中を見て子どもたちが挑戦できるように、提供する活動についてスタッフは改めて学び直し、全ての子どもがTrial&Errorの経験ができる環境を構成する。地域に定着してきた府中ルームだからこそできる子育て支援とは何かを常に考え、子どもの成長に必要な体験を繰り返し、日常的な支援となることを目指していく。

1	計画・ねらい	安定した食育活動の展開 ・食の循環や環境の理解 ・畑作業の発展
	実践予定内容	・食育活動と堆肥づくりを関連付けて日常化する。 ・畑の畝づくり体験や、魚捌き体験を通して、食の循環と環境について学ぶ。 ・焚火を使用した食育活動を行い、火との距離の取り方を知る。 ・子どもが主体的に畑の手入れを実施できる環境を整える。
2	計画・ねらい	戸外活動の展開 ・豊かな戸外活動の安定化 ・戸外活動効果の実証
	実践予定内容	・ダイナミックな泥遊びを実践する。 ・長距離散歩コースを増やし、日課散歩のコースを拡大する。 ・健康な心と体を育める戸外資源を活用する。 ・保護者に戸外活動研修を実施し、戸外活動の効果を実証する。
3	計画・ねらい	リズム体操の発展 ・歌うさくらさくらんぼリズムの導入 ・青空リズムの定着
	実践予定内容	・ピアノ伴奏ではなく歌伴奏でリズム体操を実施する。 ・誰もがどこでも歌って実践できるリズム研修を実施する。
4	計画・ねらい	異年齢活動の展開 ・道徳心、規範意識、協同意識の向上 ・生活力の体得

	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・造形、感覚、運動、相談、発表などの表現活動を通して、集団活動で必要な「思考し判断する」「ホンモノを扱う」体験ができる環境設定を実施する。 ・子ども同士で日本の伝統遊び（あやとり、こま回し等）をすることや、協同作業を行う中でたくさんのTrial&Errorを経験する。 ・「小学生」を意識し就学を楽しみに感じられる環境設定を実施する。
--	--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

保護者の不安が減り安心して子育てができるように、日々の対話や環境におもてなしの心を込めて支援する。子育てを一緒にしているという認識がお互いに持てるように、保護者との信頼関係を作っていく。

1	計画・ねらい	丁寧な保護者対応、接遇の実施 ・保護者の不安軽減 ・保護者との信頼関係づくり ・安心できる環境
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・来所時のお迎えや見送り時など、スタッフの丁寧な対応を徹底し継続する。 ・その日に不必要な物は排除し、常にカフェや廊下、室内が整理整頓されている環境を維持する。 ・リラックスできる雰囲気待ち時間を過ごせるよう、対応や環境について見直しを行う。
2	計画・ねらい	保護者座談会の実施 ・情報の共有 ・保護者の不安軽減 ・保護者同士の繋がりづくり
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に説明会（就学相談、就学、就園、放課後デイサービスなど）を実施する。 ・スタッフが特別支援学校を見学し知り得た情報の発信と共に、特別支援学校に就学した保護者を招いて保護者座談会を実施する。 ・テーマを決めて定期的に座談会を実施する。
3	計画・ねらい	事業所内相談支援の充実 ・保護者の不安軽減 ・支援の共通理解 ・家庭支援
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が気軽に話せるような雰囲気の中で対話を行い、定期的に利用したいと思えるように信頼関係を築く。 ・保護者と支援のフィードバック時間が足りない場合や、他児保護者の前では話しづらい場合などに、積極的に活用する。 ・電話相談も可能なことを保護者に周知する。 ・家庭で実践できる支援やヒントを伝える。 ・スタッフのスキルアップを図る。
4	計画・ねらい	所属園との連携の充実 ・支援の共通理解 ・地域との連携
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが所属する保育園や幼稚園、他事業所などへの訪問や電話での連携を継続的に行う。 ・子どもに対して多角的な視野のもとで支援する。

〈3〉 地域の子育て支援事業

地域で学齢期を過ごすことを見据えた不安や、子育ての困りごとなど、「つむぎに聞いてみよう」と思ってもらえるように支援の質向上を目指す。スタッフ全員で府中市についての知見を深め、スタッフも地域の一員としての自覚を持ち積極的に地域の資源を活用していく。

1	計画・ねらい	小学校との連携 ・就学を見据えた支援の提供
	実践予定内容	・武蔵台学園（特別支援学校）、近隣小学校（特別支援学級、通常級）の学校公開等にスタッフが参加し、小学一年生の学校生活について知り学ぶ。 ・近隣小学校の校庭開放を利用し、小学生との関わりを持つ。 ・府中市立若松小学校校内で体験学習を実施し、和太鼓クラブとの交流を持つ。
2	計画・ねらい	地域の子育て支援事業所との連携 ・地域資源としての自覚 ・情報収集
	実践予定内容	・府中市児童発達支援センターの移転開設に伴い、センターの事業内容を把握理解し連携に努める。 ・スタッフは地域の子育て研修や子育て勉強会、子育てイベントに積極的に参加し、地域で求められている子育てについて情報収集を行う。 ・子どもが地域で成長していくことを見据えて、センターだけでなく市内の相談支援事業所や子ども家庭支援センターなどの機関との連携にも努める。 ・NPO法人「ママチャリーズ」や、府中市発達障害児母の会「虹色てんとう虫」との関わりを深める。
3	計画・ねらい	カフェの充実 ・情報共有 ・身近な子育て支援事業所としての周知
	実践予定内容	・利用待機者には「いつでも行ける」場所としてカフェの利用を積極的に周知する。 ・子育て情報を誰でも閲覧できる場として、子育て支援情報や、勉強会資料を設置し内容を充実させる。 ・身近な子育て支援事業所と感じられるように、環境を適宜見直し改善していく。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

スタッフは自ら仕事の目標や自身の規範を打ち立て、それに沿って行動できる力の向上に努める。そして、支援者としての自覚を持ち、スタッフ一人ひとりの専門性を共有して柔軟に議論できる環境での育成を目指し、スタッフ一人ひとりの支援スキルが向上するように取り組む。

1	計画・ねらい	小学校との連携 ・学齢期を見据えた支援の提供 ・小学校を知る
	実践予定内容	・小学校を見学訪問し、就学先についての学びを深める。 ・小学校学習指導要領を読み解き、成長と共にどのように学習が進んでいくのかを知り得た上で、就学前に必要な力は何かを学び、支援に展開する。
2	計画・ねらい	自己実現 ・やりたいことの実現 ・支援者としての自覚と成長

	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの「やりたいこと」を活動計画に取り入れ、主体性を持って計画から振り返りまで丁寧にいき実現に向けて努力する。 ・子どもと一緒にスタッフの「にんげん力」が向上し成長できる活動や環境を考えて実行する。
3	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ勉強会の充実 ・大人のにんげん力向上 ・専門性の共有
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ一人ひとりが、職場や自身の課題を真摯に見立て、学ぶべきことを見極める。 ・目の前の子どもや保護者にどのように役立つかを考えながら学び続ける。 ・スタッフ勉強会で全員が講師を務める。人に分かりやすくアウトプットし、学んだ内容を整理して自己研鑽に繋げる。 ・園長大学®保育士大学を受講し、適宜報告会を実施する。

〈5〉環境実施目標

畑活動では「食」と「生き物」を得ることができている。その環境を活かした内容を支援に盛り込み、出来ることから環境への取り組みを実践していく。

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・食育残渣の削減 ・食材や食の循環理解 ・環境教育の実践
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・畑から収穫したのものを使った食育活動の企画を子どもと一緒にやる。 ・室内または野外で食育活動を行い、あらゆる環境で「生きる力」が育めるようにスタッフも全力で取り組む食べ物を大切に消費する。 ・子どもが自分で考えて食べられる量を盛り付け、残渣削減に取り組む。 ・廃棄にかかる環境負荷を減らす。
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の世話 ・生死の理解 ・環境教育の実践
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・畑で捕まえた魚やザリガニの飼育する方法を子どもと一緒に考え、計画的に実践する。

〈6〉他園との連携

自ルーム内の環境課題や支援の課題解決の一助として、客観的な考察を得る場を設ける。他園のスタッフと対話を持ち、多様な視点でより効果的な対応策を導けるように取り組む。解決に向けた一連の連携や取り組みを丁寧に且つ計画的に遂行できるように実施する。

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・他園とのケース検討会実施 ・課題解決 ・スタッフ同士の対話 ・他園連携 ・スタッフ育成
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・つむぎ他ルームと定期的にケース検討会を実施する。 ・法人内小規模保育園とスタッフの交換研修を行い、スタッフ間の繋がりを作ると共に、ケース検討会を実施する。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員 10人/日

〈2〉開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名
 児童発達支援管理責任者1名
 保育士3名
 機能訓練担当スタッフ1名(作業療法士)

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
全体会議	月1回 (第1月曜) 80分	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・施設内研修 ・支援内容検討会
部分会議	週1回 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議：月1回以上 ・各会議、各委員会、研修、勉強会の報告：適宜 ・スタッフ勉強会：月1回 ・必要なテーマの会議や委員会：適宜
グループ支援ミーティング	週4回 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・当日グループ支援の打ち合わせ ・活動の目的、流れ、人員配置、配慮事項、見たい姿の確認
事故防止委員会	月1回 (第2火曜)	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットや事故報告書の共有、検証 ・自ルームにおける事故防止についての検討
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者と児童発達支援管理者は必ず参加する ・基本的には全員参加とし、全員が支援できる体制を整える

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	月1回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	食育計画振り返り、実践報告
保健会議	年4回	衛生、感染症マニュアルの確認、検討実践報告
子育ての質を上げる会議	月1回	コンピテンシー実践の共有、テーマに即した実践の共有と振り返り、エリア内での情報交換

〈3〉 各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	畑管理者との連絡調整、畑仕事および食育活動の計画
生き物係	動物や植物に触れる機会の検討及び立案
広報係	SNSおよびブログ、創園の実践記録への発信 社用携帯およびパソコン内の画像動画管理
環境整備係	事業所内の環境整備、清掃計画、備品在庫管理
教材絵本管理係	教材や絵本の管理、修理、見直し
支援内容検討係	支援内容の立案および全体会議への議案提示

実績及び稼働管理係	実績および日報入力、稼働動向管理
-----------	------------------

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
体験学習係	体験学習の立案、計画、実行、振り返り
企画立案係	保護者参加型企画の立案（勉強会、交流会など）、計画、実行、振り返り

4. 支援方針

〈1〉基本方針

グループ支援	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢集団の中で場の共有、時間の共有、活動の共有を通して他児に関心が向くような活動を行う。 ・日課活動、戸外活動、畑仕事、食育活動、さくらさくらんぼリズム、表現活動などを行い「やってみたい」という気持ちを育てる。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・他児と協同の中で互いに思いや考えを共有し共通の目的を実現できる活動を行う。 ・日課活動や戸外活動、食育活動、表現活動、さくらさくらんぼリズムや畑仕事など、身体を動かす活動や労働を通して、様々な感覚を心身に受け、人とのコミュニケーションが豊かになることを目指す。
個別支援		<ul style="list-style-type: none"> ・室内活動や畑仕事、戸外活動、食育活動、さくらさくらんぼリズム、表現活動などを行い、その中で子どもの強みに焦点をあてて、Trial&Errorを繰り返す。 ・子どもの「できた」が増えるような支援を行う
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に案内し、随時希望する保護者に対し実施する。 ・「事業所内相談支援記録」を作成する。
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施する。 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を作成し活用する。
関係機関との連携	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・就学・就園に関する各関係機関と連携や連絡調整を行う。 ・所属している保育園・幼稚園と連携し、自ルームにおける支援内容の共有と今後の連携を行う。
意見・要望への対	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見ボックスや、口頭でのご意見について苦情対応マニュアル

応	ルに従い「ご意見ご提案シート」を活用する
---	----------------------

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

畑仕事から繋がる食育活動を毎月行っており定着してきている。2024年度は食育に関する活動の幅を広げていくと共に、子ども発信の食育活動を展開できるような取り組みを行う。

1	計画・ねらい	子ども主体の食育活動 ・協同性 ・自立心 ・言葉による伝え合い
	実践予定内容	・収穫した野菜からどのような料理ができるか、どんな料理を作り食した いかを子どもが考えて計画する。 ・料理に必要な食材の買い物、役割分担、調理、そして食すまでを子ども 主体で行う。食への関心を深めると共に「できた」「食べられた」経験を 増やしていく。
2	計画・ねらい	生を食す経験 ・命をいただくことへの理解
	実践予定内容	・東京卸売りセンターで、たくさんの魚や肉、加工品など五感を使って感 じながら、食についての知識関心を深める。 ・子どもたちが自ら魚を捌いて食す調理活動をグループ支援と個別支援で 実施する。 ・乳牛から生乳を搾って食す体験学習を実施する。
3	計画・ねらい	コンポストの充実 ・食材の循環理解 ・自然を感じる
	実践予定内容	・畑の畝にコンポストを設置し、堆肥になっていく様子を観察する。 ・子どもにとって身近になるような設置方法をルーム内で検討する。 ・できあがった堆肥で作物を育てる。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス、マイコプラズマ肺炎 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～8月頃・・・手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱（プール熱）、 流行性角結膜炎（はやり目）伝染性軟属腫（水いぼ）、伝染性膿 痂疹（とびひ）、アデノウイルス感染症など

	11～2月頃・・・溶血性連鎖球菌感染症、ウイルス性胃腸炎、RSウイルス感染症、インフルエンザなど
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在6名が、研修受講し、修得済み 未受講者なし
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	AED設置なし 本日現在6名が動画研修受講済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う 消毒・換気を徹底する

〈5〉 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	食育活動開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の全体会議時
	施設内虐待防止委員会	年2回／9・2月の全体会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／全体会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	教材や玩具の配置の整備 ・危機管理 ・美観への取り組み ・子ども主体の活動
	実践予定内容	・必要なもの、不必要なものの整備や整理整頓を行う。 ・子どもが自分でやりたいことを考え、選択し、安全に取り組むためにはどうしたら良いかを判断して行動できる環境を整備する。
2	計画・ねらい	子ども用マップの作成 ・子ども主体の活動 ・危機管理
	実践予定内容	・子どもが自分で活動場所を選択できるよう、子ども用マップを作成し、取り扱いしやすい場所へ設置する ・危険箇所を分かりやすく記し、自分で危険回避できる力を育む。
3	計画・ねらい	清掃時間の確保 ・美観への取り組み ・危機管理
	実践予定内容	・日々の清掃だけではなく、月に2回15分間スタッフ全員で集中清掃の時間を作る。 ・危険箇所の早期発見に努める。
4	計画・ねらい	子どもを見守る関わり ・子どもが自分で考えて行動する機会の保障
	実践予定内容	・支援の振り返りではスタッフ同士で意見を出し合い、一定の距離を保って見守る関わりができたか話し合う。 ・スタッフの立ち位置や声かけなどの事例検討を適宜行う。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	靴箱	支援室入口	月1回
2	椅子	北島体験農園	月1回

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災への対応	火災や災害を想定して月1回避難訓練を行う。訓練後の反省点の改善に努め、防災の意識を高める。また支援で防災に関係した活動を行い、保護者や子どもの防災意識を高める。
2	ケガ事故防止への対応	日々、ヒヤリハットな出来事の検証を行い、けがを未然に防ぐ意識を高める。グループ支援や体験学習など、複数の子どもが参加する活動では、必ず活動前にミーティングを行い、配慮事項や危険予測などを話し合う。
3	防犯への対応	不審者侵入訓練を行う。笛の所持、インターフォンドア解除の際の確認、施設周辺の変化への気づきなど、日々の行動を徹底する。
4	光化学スモッグへの対応	光化学スモッグの知識を身につけ、市からの注意情報を把握する。光化学スモッグ注意報発令時には室内で過ごす。

6. 実習生・中高生の受入

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり、地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

〈1〉今年度の方針・テーマ

中高生の体験学習の依頼や保育養成校および専門士養成校の学生の実習受け入れの打診があった場合には可能な限り受け入れ、次の世代を担う保育・福祉への人材育成に向けて努める。また、一般の方も含め学生からのボランティア希望があった場合も同様に受け入れる。そのためには、市報やSNS等で実習やボランティアを受け入れているという情報の発信に取り組む。

1	情報発信	市報やSNSを活用して、ボランティアや実習を受け入れていることの情報発信する ボランティアや実習の依頼元となる学校などを調べ、連携する準備を行う
2	受け入れ	新型コロナウイルスの状況を鑑みながら、積極的に受け入れる。職員の受け入れ体制を整え、準備を行う

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の全体会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月8日	10:40~12:00	①コンピテンシー自己採点 ②人権チェック、虐待防止研修 ③保育運営マニュアル ④ケガ・ケーススタディ研修	①自己の振り返り ②支援における人権侵害と虐待 ③保育運営マニュアルNo.1~8 ④ケガについての学び

5月13日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②児童発達支援センター ③就学支援	①自己の振り返り ②府中市児童発達声援センターの概要理解、連携内容 ③就学への流れ確認、共通理解
6月3日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②児童発達支援ガイドライン	①自己の振り返り ②児童発達支援についての学びと共通理解
7月1日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②熱中症、感染症 ③水辺のリスクマネジメント ④保育所保育指針	①自己の振り返り ②熱中症・感染症の知識、対応 ③水の事故についての学び ④10の姿の確認、共通理解
8月5日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②火災地震災害時対応 ③内部監査	①自己の振り返り ②消化器の使い方、非常食の試食 ③監査項目の共通理解
9月2日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②保護者対応	①自己の振り返り ②支援者としてのあり方、接遇
10月7日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②食育、衛生 ③人権チェック、虐待防止研修	①自己の振り返り ②食育内容、衛生面の見直し ③虐待防止の再確認
11月11日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②発達の見立て理解	①自己の振り返り ②支援における見立て理解、確認
12月2日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②焚き火研修	①自己の振り返り ②火のおこし方を学ぶ
1月6日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②支援内容の振り返り	①自己の振り返り ②支援内容の振り返り、確認、発展
2月3日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②ハザードマップ、ルートマップ	①自己の振り返り ②ハザードマップの見直し、戸外活動でのリスクマネジメント
3月3日	10:40～12:00	①コンピテンシー自己採点 ②次年度の取り組み	①自己の振り返り ②法人の理念・方針・目標・Missionの確認

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
デモンクインターシップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

多様な世代との交流を積極的に行う。また地域のイベントに参加する機会を得て「人」「モノ」との交流を行う。そのために市役所や市報、文化センターなどを活用し、情報収集に努める。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育	月1回 公園名：美好町公園
商店街ツアー	月1回
世代間交流	地域のイベント（府中市美術館、生涯学習センター、片町文化センター等）に参加する。 北島体験農園にて子どもの祖父母世代の方々との交流を行う 畑仕事を教えてもらう、道具の使い方を教えてもらうなどを通して交流を行う。
異年齢交流	利用児のきょうだい児や卒園児、学童及び放課後デイサービスを利用し

	ている小学生と交流を行い、その姿を通して「小学生」を知る。
地域拠点活動	地域のイベント（府中市美術館、生涯学習センター、片町文化センター等）に参加する。 子育てサークルとの交流や青空保育での交流を行い、情報交換やつむぎカフェの周知に繋げる。

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

- (ア) 通常級、特別支援教室、特別支援学級、特別支援学校にスタッフが出向き直接学ぶ機会を設ける。就学後を見据えた支援に向けてスタッフ全員で取り組む。
- (イ) 希望者には就学支援シートを作成して積極的な連携を行う。
- (ウ) 小学校の校庭開放を利用し、子どもと一緒に「小学生」を体験する機会を設ける。
- (エ) 府中市内の小学校の特色を調べ、情報を得ることで、子どもにとって豊かな連携になるように努める。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を2月15日（水）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
未定	府中第一小学校	未定	校庭開放の利用	子ども間交流
未定	府中第一小学校	未定	学校公開への参加	スタッフの学び
未定	府中第5小学校	未定	学校公開への参加	スタッフの学び
未定	府中第三小学校	未定	校内講座の参加	職員間交流
未定	武蔵台学園	未定	一般公開への参加	職員間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害の状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するとうことが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに

基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。

- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせて行う。
- ⑥ 原則として6か月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

原則6か月以内に1回以上のモニタリングを保護者に実施して、短期目標および支援目標やその実施方法を策定会議に教示して、個別支援計画書の作成を行う。保護者に説明して同意を得てから計画書に沿った支援を提供する。

〈2〉毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催予定 参加者：3名予定）

子どもや保護者の困り感が強いケース、支援が難しいケース、また、支援が良好なケースや発達が良好なケースなどもケース会議を行いスタッフで共有する。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

就学支援シートおよび電話などで進級引継ぎおよび小学校への引継ぎを行う。当施設での子どもの様子、提供した支援内容、必要と思われる配慮事項などを伝える。また、子どもの発達過程を踏まえ「できること」「得意なこと」などを積極的に伝え、進級先および小学校での今後の見通しとなるような引継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
つむぎカフェ	(月)～(土) 9:00～17:00
子育て相談	随時
青空保育	月1回 (第1木曜) 公園名：美好町公園にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年度「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である
6月15日

自己評価開始予定時刻：10時00分

自己評価終了予定時刻：15時00分

自己評価実施予定者：上田 朋子・望月 由利名

〈3〉利用者アンケートの実施

2023年8月に利用者アンケートを実施し、2024年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

令和6年4月に府中市児童発達支援センターが移設し事業拡大して開設する。センターと密に連携を図りながら地域の子育て支援の中核として発信力のある事業所になることを目指す3カ年計画とする。現代の多様な家族の在り方に向き合い、引き続き保護者だけでなく地域全体で手を取り合い温かな子育てをしていくことを提唱していく。また利用児だけでなく、地域の方々が気軽に子育てについて語り合い共に過ごせる子育て広場の実施を目指し取り組んでいく。

〈1〉昨年度の振り返り

3月未までに目指した姿	重点施策	地域資源の展開、発展
	振り返り	<p>スタッフ全員で府中市についての知見を広め深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府中市児童発達支援センター主催の講習会に2名のスタッフが合計3回参加した。勤務外での参加でもあり参加率は伸び悩んだが、連携に向けた第一歩ではあった。地域で求められている子育てについての見聞を継続して広める。 ・新規の地域資源として黒鐘公園、分梅消防署、東府中駅、北府中駅の4件を利用して活動を行った。近隣の公園や散歩コースの開拓には至らなかった為、近隣資源は継続して拡大できるように努める。 ・府中第一小学校の学校公開（2回）や特別支援教室教諭との座談会、府中第二小学校特別支援学級見学と教諭との座談会、武蔵台学園（特別支援学校）相談員との電話連携を実施した。今後は、連携小学校を増やしスタッフ全員が小学校へ出向き学びを深められるように努める。 ・府中市で活動している「ママチャリーズ」の勉強会や、発達障害児母の会「虹色てんとう虫」定例会に参加した。子どもだけでなく、保護者支援にも有益な内容であった為継続して参加する。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	地域の子育て支援事業所との連携
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年4月に移転開設する府中市児童発達支援センター「はばたき」主催の講習会に随時参加する。また地域の児童発達支援事業所としての連携やその体制づくりに努める。 ・府中ルームやスタッフ一人ひとりが子どもにとっての「地域資源」である自覚を持ちながら、市内の相談支援事業所や、発達支援センター、子ども家庭支援センターなどの機関と連携する。 ・連携する中で、現在地域で求められる子育て支援の在り方を検討し、支援の実施に向けた体制づくりに努める。 ・ルーム内外の勉強会・研修の講師を務める人材を輩出する。

2025年 度	目指す姿	地域における子育て支援活動の発展
	重点施策	<ul style="list-style-type: none">・地域の子育てイベントに積極的に参加し、地域から連携を求められるように取り組む。・府中市児童発達支援センターとの連携強化に努める。・子育て広場の実施に向けて取り組む
2026年 度	目指す姿	地域の子育て支援の中核的存在
	重点施策	<ul style="list-style-type: none">地域の子育て支援の中核として発信力のある事業所になる・子育て広場の実施

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 府中ルーム 施設長 上田 朋子

2024年度 発達支援つむぎ 桶川ルーム 事業計画書

1. 基本方針

- ① 子ども自ら「生きる力」を手に入れることができる発達支援を提供していく。特に、散歩や畑仕事、動物の世話等の戸外活動を中心とした原体験を大切に、子どもの興味関心の拡がりや自己選択を促すことのできる物的環境を提供しながら発達を支援していく。
- ② 子どもの「好み」を把握し、子どもたちの「遊び」に寄り添った支援を提供することで、「遊び」を通して主体的な自己選択スキルを身に付けていけるような環境を提供する。また、子どもたちの育ちに合わせた環境設定を行うことを通して、大人も主体的に学び、思考し、成長し続けるスキルを養う。
- ③ 近隣地域の連携を密接に行うことで、地域に開かれた児童発達事業所を目指していく。特に、小学校との連携を密接に行い、学校公開日や行事に参加をする等スタッフが積極的に外部に出ていく機会を設定する。スタッフ一人ひとりが自身の目で小学校1年生の姿を確認し、子どもにとっての最善の利益を考え、今行うべき支援を実行する力が身につくように環境を整えていく。
- ④ 畑仕事の充実を図り、子どもたちが畑仕事を通して作物の栽培、収穫、調理、加工、食べる等の経験をすることで、食への興味や食べることの大切さを知り、食材や食の循環・環境への意識を身に付けていく。栽培する作物も子どもたちで話し合い、選択し決定する機会を増やすことで、子ども自らが人、物、環境、活動を考え、選択できる力を引き出していく。
- ⑤ 併設されているメリー★ポピンズ桶川ルームとの協働を強化し、保育園児、つむぎ利用児の分け隔てなく、全員に対して自己選択できる環境を提示し、子どもをまんやかにしたインクルーシブ保育の実現を目指していく。また、保護者や地域の方を対象とした講座や相談会等を実施し、地域のセンター的役割を担えるような事業所を目指していく。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	戸外活動を充実させ、ホンモノに触れる原体験から子ども自身が学び取ることのできる支援を提供する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日課である散歩や畑活動等の戸外活動を中心に、子どもがホンモノに触れる機会を提供していく。 ・針や包丁等、危険を伴うモノについては、触れさせないではなく、安全に触れられるようスタッフが見守り、子ども自身が経験から学びとれるようにしていく。
2	計画・ねらい	子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的・人的環境を設定する。

	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが好むもの、興味のあるもの等を子どもたちの姿や言葉、保護者の聞き取り等から把握し、自己選択ができる環境を提供する。 ・併設園である強みを活かし、スタッフ全体でゾーン保育を実施し、運動遊び、音楽、表現等、子どもの成長に合わせたプログラムを年間通して見直しをもって提供する。
3	計画・ねらい	事業所における支援内容を可視化し、子ども、保護者とともに子どもたちの姿を見て成長を感じる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ等を用いることで支援内容を視覚的に提示し、子どもたちの成長を相互的に確認できる環境を設定する。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	相手の気持ちに寄り添った関わりをすることで、安心できる場を提供する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ全員が丁寧にあいさつ、お迎えを実施し、常に温かい雰囲気施設の施設を作っていく。 ・施設内は常に清潔感を意識し、リラックスできる環境を構築する。
2	計画・ねらい	保護者交流の機会を提供し、安心して相談できる環境を設定する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が参加できる交流会を実施し、保護者同士や保護者とスタッフが繋がることのできる機会を提供していく。 ・園保護者、地域保護者に対しても積極的に広報し、保護者が広く繋がれる機会を設けていく。
3	計画・ねらい	保護者との相談を充実させ、保護者の気がかりをタイムリーに知り支援につなげる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の「事業所内相談」の利用を積極的に勧め、保護者の抱えている気がかりに丁寧に対応する。 ・併設園を利用する保護者に対して、あいさつ、お迎え等日常の関わりから信頼関係を築き、スタッフの垣根なく安心して子どもの発達について気軽に相談できる環境を提供していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域における子育て支援の重要性をスタッフ全員が理解し、実践する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ一人ひとりが自らの専門性を活かした地域子育て支援を考え、実践する。 ・地域の保護者等に、専門性を活かした子育て支援として、相談会や勉強会等を積極的に実施する。
2	計画・ねらい	地域の子育てをしている保護者の安らぎの場となる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ちきんえっぐの広報活動を行い、地域の子育てをしている保護者が気軽

		に利用できる場にする。 ・子どもや保護者とスタッフ、保護者同士のコミュニケーションを大切に し、気がかりを相談できる環境を作る。
3	計画・ねらい	地域の関係機関との連携
	実践予定内容	・地域の関係機関等との積極的な連携を図るとともに、子育て支援に関する地域のニーズを把握し、地域に向けて門を開いていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	スタッフ自身が自ら学び、施設内研修を行う機会を設けることで、スタッフの自身の発信力とスタッフ全体の支援の質の向上、及び獲得を図る。
	実践予定内容	・スタッフを講師として、発達支援やインクルーシブ保育に関する施設内研修を実施する。 ・法人内施設との連携を通し、常に学びを深められる環境を提供する。
2	計画・ねらい	小学校就学におけたアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムを理解する。
	実践予定内容	・近隣小学校と連携を行い、スタッフ全員が就学に向けてし ・学校公開等を通して実際にスタッフが小学校一年生の姿を見ることが できる機会を提供する。
3	計画・ねらい	地域における各種会議、及び他施設見学の積極的参加
	実践予定内容	・地域内の他機関と連携しながら、子どもにとってより良い支援が提供できるようなネットワークの構築をしていく。 ・特別支援学校や特別支援学級等の見学に行くことで、将来の姿を見据えて就学に向けて円滑な支援を提供できるようにしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑仕事、調理、食材加工、捌いて食べる等の活動を通し、食材や食の循環や環境への意識を育む環境教育を実践する。
	実践予定内容	・自分たちが畑で野菜を育て、収穫し、食する経験を通じ、食について実際に経験することのできる環境を提供する。 ・魚や鶏等を解体して食べる体験を通して、命をいただき生きていることを知り、食の循環について学ぶ。
2	計画・ねらい	給食残渣を減らすことで、廃棄に係る環境負荷を減らし、食べ物を大切に消費する。
	実践予定内容	・保育園と活動を共有しながら、野菜を皮付きで調理する、皮を使ったメニューを考える等を行う。 ・調理くずを用いて、コンポストで堆肥を作り、畑へと循環できるようなシステムを構築する。
3	計画・ねらい	木や竹、花等に触れる機会を作り、木育を行うことで、環境保全の意識を持つ。

〈6〉インクルーシブ保育の実践（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	併設園の強みを活かしたインクルーシブ保育を実践する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・つむぎ、保育園スタッフの垣根を無くし、チームで子どもを見守る。 ・スタッフ一人ひとりの専門性を発揮し、全ての子どもに対して随時アセスメントする。 ・ケース会議では、アセスメントした情報を共有し、支援を必要とする全ての子どもに支援を行えるよう環境設定を行っていく。
2	計画・ねらい	全ての子どもの育ちを全てスタッフが共有する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ間の情報共有が徹底されるように、事務所で会議を行う、内容は議事録で回覧し共有する。 ・子ども一人ひとりを全てのスタッフで見守ることの必要性、面白さ、難しさを共有し、目の前の子どもの姿を全員で理解する。
3	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりがチームとしての意識を高める。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ間での連携を密にし、声を掛け合うことで、チームとして子どもを見守っていく。 ・スタッフ一人ひとりが学ぶ意識を持ち、主体的に取り組む。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

保育士2名

機能訓練担当スタッフ4名（心理指導担当職員3名、作業療法士1名）

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
週会議	週1回	・園児、マンスリー児の様子共有、対応策の検討
つむぎ会議	隔週土曜日	・利用児童の情報共有 ・活動プログラムの計画・立案 ・成果物等の発表、研修
園会議	月1回120分	・コンピテンシー ・活動の振り返り及び共有。子どもの姿の共有。 ・園内研修
給食運営会議	月1回	・食育会議の策定 ・食育活動実施内用の共有 ・喫食状況（残渣記録）の確認 ・給食簿指摘事項の改善
事故防止委員会	月1回	・ヒヤリハット、インシデントを分析 ・ハザードマップの見直し ・自園及び系列園で起きた事故のケーススタディ及び改善策を策定。 ・全園事故防止委員会の内容共有
支援計画策定会議	適宜	・児童発達支援計画の振り返り及び省察 ・児童発達支援計画の見直し ・作成に伴い、開催時期を調整する。 ・支援に関わるスタッフと児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	適宜	・要支援児個別計画の振り返り及び省察 ・要支援児個別計画の見直し ・併設園ケース会議（月1回）への参加

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直し等
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議		障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表

併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	献立の内容改善・提案 給食提供マニュアル及び運用ルールの見直し 食育計画策定
保健会議	年4回	感染症対策やガイドラインの作成・改善 保健計画策定 保健指導についての共有
子育ての質を上げる 会議	月1回	環境設定、美観、日課の見直し等、改善アクションプランの 進捗確認と共有

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近 隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食 品サンプルの管理
畑係	年間農業計画の計画や実践、食品の安全に対する管理

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係 (保育園合同)	保護者の主体性を尊重し、準備、活動をともに行う
運動会係 (保育園合同)	行事の計画、立案、実施
生活発表会係 (保育園合同)	行事の計画、立案、実施
入園式、卒園式係 (保育園合同)	行事の計画、立案、実施

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児がスタッフとの関わりの中で愛着を形成し、安心して過ごしていくことができる支援をしていく。 ・日課の一つである畑仕事を通して、野菜を育てる、収穫する等の流れを自身の手で経験する機会を提供する。 ・生活を通して、身近動作や人との関わり等を経験することで生活スキルを獲得していく。 ・散歩を中心とした戸外活動において、ホンモノに触れる経験を増やし、利用児の興味関心の幅を拡げられるように支援する。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で身近動作や人との関わりを大切に、経験を積むことで生活スキルの拡大、向上を目指していく。 ・他児や集団の中で、人やモノ、環境、活動等を考えて、自分で選択し、取り組むことができる支援をしていく。 ・他児と遊びを共有し、関わりを通して、コミュニケーション能力を高め、主体性を大切にしながら集団生活を楽しめるよう支援していく。
ビジター (グループ)	上半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外での活動を積極的に行い、「ホンモノ」に触れていきながら、創造性や表現力を高めていく。 ・インクルーシブな環境の下過ごし、人や場に慣れ、安心して活動できる支援をしていく。 ・併設園スタッフと協働し様々なゾーンを構成し、「やってみたい」という子どもの主体性を引き出せる支援をしていく。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れた環境の下、自ら「やってみたい」を周囲に発信できる力が育つよう主体性を大切にしながら活動を楽しめるよう支援していく。 ・他児と活動する中で、道具や玩具の貸し借りの経験等、子ども同士でやり取りをする機会を増やし、コミュニケーション能力を高めていく。 ・集団の中での自由遊びを通して、他児の遊びに自ら興味を持ち模倣する経験を増やし、自分自身で遊びを選択する力が育つよう支援をしていく。 ・異年齢の集団活動の中で自らの役割に気づき、行動する力を培う環境を提供していく。
ビジター (個別)	全年齢	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援計画書をもとに、子どもの発達を捉えて、遊びや支援を行う。 ・子どもの「やってみたい」を大切に、子どもの主体性を引き出せる支援をしていく。 ・基本活動は戸外で行い、「ホンモノ」に触れる機会を増やし、経験していく中で、子どもの表現力を引き出していく。

事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・ 所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食を楽しめるような環境を設定し、食への興味・関心を広げる
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸外活動中心で十分に遊び、身体を動かし、自然と空腹感を感じることでできる活動や環境を作る ・ 生活の中で調理や調理に関する準備に関わる ・ 献立を栄養素別に視覚化し、食への興味・関心を広げる
2	計画・ねらい	保育士、栄養士、専門士のすべてのスタッフが口腔発達を理解し、食事提供を行う
	実践予定内容	園内研修で口腔発達について学び、子どもの噛む力を育て、素材の味を味わえる状態で提供できるようにする
3	計画・ねらい	自然の恵み、命の大切さに気付く
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちで栽培し、それを食する機会を設定する ・ 畑で育てた作物を自分たちで調理し、食することのできる環境を設定する ・ 魚や鳥等、命を頂いて食べるという経験を通し、生と死の循環を学ぶ

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）

流行が予測される感染症	通年…新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月頃…ウイルス性胃腸炎 1月頃…インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ…0名 エピペン…0名
エピペン使用できるスタッフ	本日現在7名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員1名については4月30日までに受講予定
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	本日現在8名が、研修受講し、修得済み テナント内、4階桶川医療クリニック、桶川マイン歯科クリニック、 3階桶川市図書館、東武ストアサービスカウンターに設置あり 散歩先のAED設置場所に関してはハザードマップに記載予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・ 手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ

運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	施設内虐待防止委員会	年2回／9・2月
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	整理整頓を徹底し「必要なもの以外置かない」施設づくり。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者が居心地の良いと思える施設づくりを目指し、美観意識、物品の管理や整理、毎日の清掃や消毒を徹底する。 ・子どもやスタッフの動線を分析、再構成し、スタッフが効率よく働けるための職場環境を構築する。 ・内部監査指摘項目0を目指すためにスタッフ一人ひとりが内部監査項目を知り、日常的に意識して役割を理解し主体的に動けるようにしていく。
2	計画・ねらい	子どもの主体性を引き出す、自己選択、挑戦ができる環境づくり。
	実践予定内容	日々の活動の中で子どもの様子を把握し、自己選択できる環境設定、子どもへの言葉かけ等、物的及び人的環境を意識した環境を作る。
3	計画・ねらい	ホンモノに触れる、経験のできる機会の提供。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外活動では子どもたちが自然や人等を感じることでできる内容を提供していく。 ・生活で使うホンモノの道具、素材を用意し、遊びの中で触れ道具や素材に親しめる環境を提供していく。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	棚	支援室（収納内）	毎日
2	配線BOX	事務室	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	安全管理	事業所内における事故等に関する安全管理危機マニュアルを設置しており、全てのスタッフは内容を熟知し、マニュアルに基づいた運営管理を行う。
2	危機管理	事故発生時における危機管理マニュアルを設置しており、全てのスタッフは各自内容を読み込み理解し、マニュアルに基づいた運営管理を行う。

3	救命講習の実施	スタッフは応急処置に関する基礎的な知識を持ち、事故発生時には適切な連携をとる。
4	防火管理	<ul style="list-style-type: none"> ・防火管理者を選任し、所轄の消防署に遅滞なく届け出る。 ・消防法に定められた必要事項を満たした消防計画を作成し、消防計画の内容を全スタッフに周知する。 ・避難、消火、通報訓練は法令・通達で定められている回数実施する。 ・少なくとも年1回は引き取り訓練を実施するが、実施の際は保護者の負担をできる限り少なくする配慮をする。
5	光化学スモッグ対応	埼玉県、または桶川市からの情報を素早くスタッフに周知し、園外にいる場合には素早く日陰に入る等の対応をとり、子どもたちの健康状態等に留意する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

児童発達支援事業所と保育園が併設しているという特色を持つことから、最先端のインクルーシブ環境を学ぶことができる。この点を重点的に学べる環境を提供していき、実習生や学生、ボランティアの受け入れを積極的に行い、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

1	実践予定内容	近隣の中学校や高校等からの体験学習、保育養成校、専門士養成校の学生の実習、一般および学生各種ボランティアを積極的に受け入れる。子どもとの遊びや支援を通して、子どもと関わり働くことの楽しさや喜びを実感し、保育・福祉の現場で働く意欲を高める環境を提供する。
2	実践予定内容	遊びや支援を行うスタッフから、子どもの成長の見守り方、接し方、支援後の保護者に対するフィードバックの仕方等、子どもだけでなく保護者に対してのコミュニケーション力や接遇を学ぶ。
3	実践予定内容	子どもの姿を観察し、一人ひとりの特徴や性格、好みを把握する力を養い、遊びや支援内容の立案を学ぶ。子どもの育ちに合わせて遊びや支援内容、環境設定を主体的に考え、実践できる機会を設定する。

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック ③ 虐待防止研修 ④ B C P	非常時に備えた行動ができるよう、スタッフ周知する。 怪我についての対応について

		⑤ ケーススタディ研修	
5月10日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル研修 ③ 接遇	マニュアルの徹底。全スタッフ同レベルで行えるようにする。 相手の気持ちに寄り添い、最高の接遇を学ぶ
6月14日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水の事故 ③ 保護者対応	水の事故への対応、危機管理 接遇、連絡帳、タイムラインの描き方、写真の撮り方
7月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブについて	併設園として、インクルーシブ保育の実際や課題について学ぶ
8月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿	保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。
9月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 小学1年生を知る	小学校1年生を見て知り、逆算した保育を遂行する。
10月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの環境について ③ 利用者アンケート分析 ④ 人権チェック ⑤ 虐待防止研修	子どもの姿を捉えた環境設定について利用者アンケートの分析を行い、園運営について考える
11月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 併設園の役割	地域の中での併設園としての役割
12月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 指導要録	小学校へのスムーズな移行を考える
1月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 進級、進学に向けて	日課の振り返り
2月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年度の振り返り	体験活動の振り返り、及び次年度の課題抽出
3月2日	9:00～18:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度目標設定	課題への共通理解を深め、次年度の目標を設定する。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
デモンクイターシップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

- ① 施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。
- ② つむぎ他施設への連携を含め、自施設に対して肯定的なアウトプットができる学びの機会を提供する。また、つむぎだけではなく、保育園への研修も積極的に実施することで、併設園におけるつむぎスタッフの在り方について学ぶ機会を提供する。
- ③ 行政の実施する研修や交流会等には可能な限り最低1名は参加できるように施設内で調整し、積極的に外部から情報を獲得、かつ自施設の活動をアウトプットできる人材の育成を行う。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣の保育園や幼稚園、商業施設等との関わりを持ち、コミュニケーションを大切にしていく。当ルームが保護者や地域の方を対象とした子育てに関する講座や相談会を実施し、地域に貢献できる事業所を目指す。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園合同）	月1回 公園名：駅西口公園にて

商店街ツアー (保育園合同)	週1回
世代間交流 (保育園合同)	高齢者との交流 中高生の体験学習の受け入れ、ボランティアの受け入れ
異年齢交流 (保育園合同)	小学校訪問 近隣園との交流
地域拠点活動 (保育園合同)	ちきんえっぐ(自然食堂・寺親屋・芸術学校)の開催 園庭開放 地域公開講座の実施 救急救命講習
どろんこ祭り (保育園合同)	地域の方にも参加していただき、交流の場となるようにする。 また、園の活動を知っていただく機会とする。

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

- ① 小学校1年生の授業を実際に見て知り、逆算した保育を遂行する。
- ② 子どもの発達の連続性を見据え、子どもたちの生活が小学校へつながるものとして就学を見通した保育を行っていく。
- ③ 小学校接続アプローチカリキュラムの理解を深める勉強会を実施し、スムーズな接続が行えるようにする。
- ④ 実際に小学校に訪問する子ども間交流を実施し、子どもたちが小学校に対して期待感を持てるようにする。
- ⑤ 保護者からの要請に応じて就学支援シートを積極的に活用し、小学校等就学先と連携し、安心して進学できるよう環境調整していく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を2月29日(木)より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	桶川小学校	4名予定	授業見学(1年生教室)	スタッフ研修
6月頃	上尾特別支援学校	20名予定	保護者交流会	保護者交流 スタッフ間交流
9月頃	朝日小学校	12名予定	小学校に行こう(校内)	子ども間交流
11月頃	桶川西小学校	12名予定	公開授業(校内)	子ども間交流
11月上旬	上尾特別支援学校	2名予定	公開授業(校内)	スタッフ交流

1月頃	桶川小学校	15名予定	小学校の先生を招いて (園内)	スタッフ間交流
2月頃	桶川小学校	12名予定	校内探検 (校内)	子ども間交流
2月下旬	桶川市内小学校	2名予定	連絡協議会 (市役所)	スタッフ間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

- ① 個別支援計画は、障害の有無にかかわらず、子どもの多様なニーズを総合的に把握するためにアセスメントを行い、特性や発達段階を丁寧に把握し、それに応じた支援目標を設定する。
- ② 支援目標を達成するために必要な支援について、「本人支援」「家族支援」「地域支援」等における具体的な支援内容を設定する。
- ③ 策定会議では、支援計画のみではなく、日々の保育、発達支援の共有の場とし、多職種の視点が共有できる会議を行う。
- ④ 原則として6か月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合等は、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈2〉 毎月のケース会議開催 (4～3月に計12回開催予定 参加者：6名予定)

全児童を対象とし、日頃の様子及び保護者の不安等の情報をもとに優先順位を決め、開催していく。また、併設のメリー★ポピンズ桶川ルームが開催するケース会議に参加し、多角的な視点から支援が行えるように留意する。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

積極的に就学支援シートを活用することで、これまでに実施した支援を就学先に引き継ぎ、入学後の円滑な学校生活を送れるように支援していく。

11. 子育て支援事業

施設に訪れた親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30
つむぎカフェ	(月)～(土) 9:00～17:00
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(金) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(木) 10:00～12:00

勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育	月1回 公園名：駅西口公園にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2025年2月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：12時00分

自己評価終了予定時刻：14時00分

自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	常にスタッフが子どもの「好き」を理解しながら支援していくことで、子どもが活動に対して高い動機づけを持った状態で取り組むことができるように意識する。また、子どもの主体性に選択の幅を持たせることができるように環境を提供していく。
	振り返り	子どもの好きなこと、ものに対する理解がスタッフ間で拡がり、保護者に対して子どもの好みを聴き取り支援に取り入れることを常に実施できた。また、自己選択の幅を広げるために、玩具等の設定や公園での遊具の提示等、物的環境を中心とした環境調整を意識した支援を展開することができた。一方で、子どもの生きる力を育む上で見守る意識をスタッフが常に持っていく必要があり、次年度以降その点を強化していくことが求められる。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年 度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと合同での環境開拓 ・スタッフのスキル向上と支援内容の質の向上
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが主体的に選択できる環境をさらに発展するうえで、大人主導ではなく、子ども主導での環境を設定できるよう、自分で考える力を養う支援を展開していく。 ・自分たちの実践、及び支援を記録にまとめ、どのようなかかわりが望ましいのかを記録をベースに振り替える。また、同時にそのスキルを獲得するために記録の取り方に関しての研修を随時実践する。
2025年 度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・就学を見据えた接続期モデルの確立 ・幼保小との交流を含めた地域連携の強化
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校を見据えた保育に関しては、保育所、および児童発達支援事業所においてアプローチカリキュラムを鑑みた支援が求められる。そのため、桶川市を含めた近隣市区町村の架け橋プログラムを積極的に学び、小学校への接続を円滑にできるよう、施設全体でモデルを確立していく。
2026年 度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・地域におけるインクルーシブ保育のモデルになる ・地域の発達支援における中心的役割を担えるようになる
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・実践しているインクルーシブ保育を対外的に発信していき、自分たちの実践を評価してもらえるように常に意識を高く持った支援を心がける。 ・地域行事や会議等、地域や自治体との関係を密接に持てるように外にも活動の幅を拡げていく。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 桶川ルーム 施設長 糸賀 若奈

2024年度 発達支援つむぎ 北千住ルーム 事業計画書

1. 基本方針

発達支援つむぎ 北千住ルームは、荒川と隅田川に挟まれ、宿場町として栄えた北千住に、開所してから8年目を迎える。北千住どろんこ保育園と併設し、開所当初からインクルーシブを目指し、日々模索しながら、子どもを真ん中に置いた支援を行ってきた。今年度は、継続しているインクルーシブ保育の基盤をより強固なものにし、Doronkoグループの2024年度運営方針に基づき、にんげん力を育てる支援を実施していく。

支援においては、生活力、10の姿を育むための支援、主体的に遊びを選択できる環境構成、戸外でセンスオブワンダー、人対人コミュニケーションを大切にしたい支援を行っていく。併設園の強みを最大限に活かし、インクルーシブな環境の中で活動を選択できる環境を設定し、一人一人が主体的に活動に参加でき、コミュニケーション力を育む支援を行っていく。

またスタッフ一人一人が施設運営基準を遵守しながら、自律した運営が行えるように業務の効率化を意識した運営を行っていく。その上で、生活につながる力を育てる活動や命をいただく活動などホンモノの経験を提供できるようにルーム全体で日々の支援の質を高めていく。子どもを真ん中に置き、子どもも大人も主体的に考え、学び、自ら選択して動くことができる施設運営を行っていく。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	インクルーシブな環境での見守る、選択できる支援
	実践予定内容	併設する北千住どろんこ保育園の園児との活動を通して、スタッフの適正な距離での見守る支援を行う。友達とのやり取りによる合意形成エラーやコミュニケーションを育み、他者意識を広げていく 活動する場での物的環境、人的環境を併設スタッフ全員で考え、室内環境、園庭環境、日課や散歩の行先、散歩先での活動が選択できる環境を整えていく。その上で継続した遊びや活動を展開し、線としてつながる支援を実施していく。
2	計画・ねらい	「生きる力」を育む、生活に沿った支援
	実践予定内容	マンスリー支援やグループ支援等、支援形態を問わず、日常生活動作や日課活動を取り入れ、繰り返し積み上げの中で身体の使い方、見通し、活動に対する意欲を育てていく。 畑活動での農作業や育てたものを食す体験、命をいただく活動を通して、生活の基盤となる食への興味ややらなければならない仕事の経験を積める支援を行う。
3	計画・ねらい	話し合い、選択する活動の充実

	実践予定内容	やりたいことを選択できる環境において、自分たちで話し合うことや、選択して活動を展開する支援を行う。子どもたちの選択を最大限かなえられるように時に一緒に考え、公園、図書館、児童館、ビジターセンターなど地域の資源を活用し選択した活動が達成できるように支援していく。 スタッフも一緒に考え、意見しあい、様々な視点や考え方を認め合い、合意形成エラーを積み上げ、他者意識や共同性を育む支援を行っていく。
--	--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	日々の困りごとの解決、家庭でできる支援を一緒に考えていく
	実践予定内容	保護者が気軽に話せる環境を設定し、より深い関係性を構築する中で、子どもの発達特性や困りごとの原因から、先に予想されることも踏まえた、対応策や家庭での関わり方について支援していく。
2	計画・ねらい	丁寧な言葉遣い、所作を行い、最上級の接遇を提供する
	実践予定内容	不安を抱えた子どもや保護者が安心して帰宅できるように、来所時のお迎えや帰りの送迎まで一つひとつの言動や所作に最新の注意を払い、安心感を持てるように支援していく。落ち着いた動作や声の大きさ、抑揚など安心感を持ってもらえるような関わりを行う。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に根付いた事業所になる
	実践予定内容	どろんこ祭りや運動会などの行事において、地域の方々に参加してもらえ る行事にしていく。その中で、支援を希望する方や興味を持ってもらうこ とで選ばれる事業所になれるようにする。園庭やカフェの解放、発達相談 会などを開催し地域の方に寄り添う事業所運営を行う。
2	計画・ねらい	地域の発達支援事業所や相談支援事業所との連携を強固にしていく。
	実践予定内容	足立区や近隣の他区の障がい福祉課、および障がい福祉センターなどとの 連携を図っていく。 うめだあけぼの学園や近隣の発達支援事業所との連携を図り、研修会や情 報交換を行い、地域の支援力向上に努める。
3	計画・ねらい	誰もが自由に使えるカフェ、憩いの場所の提供
	実践予定内容	併設する北千住どろんこ保育園の保護者、地域子育て事業利用者、地域の方 が自由にカフェで過ごしていただけるように周知を行い、保護者同士の 憩いの場から、安心できる場所や子育てについて相談できる場所にしてい く。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	法人内のインクルーシブ保育・支援のモデル園になるための支援の質向上
	実践予定内容	法人内の併設園つむぎと交換研修やケース検討などを行い、マンスリー支援の質向上や、支援内容、環境設定などをより良いものにしていく。
2	計画・ねらい	生活力や接続期に必要な支援の質向上
	実践予定内容	ホンモノの経験ができるように、命をいただく活動や、畑仕事、雑巾がけ、日課をより高める活動、自然物を使った活動等、一人一人が生活力も高められる支援をスタッフ間で話し合い、連続した支援の中で提供していく。 あだち幼保小接続期カリキュラムを読み込み、日々の支援に必要な要素を一人一人が認識し、支援に反映できるようにする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	必要な物のみがある選択しやすい美しい環境
	実践予定内容	支援室、保育室、事務所など必要なものが整理整頓されて、すぐに使えるような配置、美観を意識していく。 カフェや支援室など保護者目線に立ち、わかりやすい配置、心地よい空間を提供できるように、清潔に保つように日々の清掃、点検を心掛けていく。
2	計画・ねらい	一人一人が美観、環境設定を意識する集団
	実践予定内容	入り口前から、裏の駐車場まで誰が見てもきれいで整われた空間を意識し、日々の清掃、美観、環境構成を行っていく。コンピテンシーや環境マネジメントマニュアルなどを用いて、振り返りを大切にし、PDCAサイクルを用いてより良い環境を構成していく。

〈6〉併設モデル園としてのチームビルディング

1	計画・ねらい	多職種の視点の理解、発達を理解した連携力の向上
	実践予定内容	併設園の強みとしての多職種の視点を園内研修や、園長大学・保育士大学の動画視聴、支援児会議などを活用し、お互いの視点を知る機会を増やしていく。また日々の支援、保育の振り返りを行い、お互いの視点を認め合う風土をより強固なものにしていく。
2	計画・ねらい	業務の効率化、自律した集団の形成
	実践予定内容	併設園との業務を共同で行う中で、園行事の業務分担やつむぎの業務分担を効率的に行えるようにスタッフ間で話し合い、自分たちで考えて効率的な仕組みづくりや、業務分担を行っていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長・児童発達支援管理責任者1名(兼務)

保育士2名

機能訓練担当スタッフ1名(作業療法士1名、理学療法士1名)

他1名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ(発達、接遇、戸外活動、日課など)を設け、資料を使った研修を行う。
給食運営会議	月1回	・食育計画策定、食育活動実施内容の共有 ・喫食状況(残食記録簿)確認 ・検食簿指摘事項改善 ・配膳方法
事故防止委員会	月1回	・事故報告書の事故分析、再発防止、ヒヤリハット、インシデントの報告を実施
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・マンスリー支援・グループ支援それぞれの担当者とは児童発達支援管理者が必ず参加する。
週会議	隔週1回	・併設される北千住どろんこ保育園との共有
乳児会議	隔週1回	・月案・週案を基に園の保育者と共に子どもの姿を共有
幼児会議	隔週1回	・月案・週案を基に園の保育者と共に子どもの姿を共有

要支援児会議	月1回	・個別支援計画を基に、園の保育者と共に子どもの姿を振り返り共有する。その中で、子どもにとってよりよい関わり方について、見直し検討
--------	-----	------------------------------------------------------------------

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	月1回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	・法人全体での共有 ・エリア開催の食育会議の内容を、施設長から調理員を始め園の保育者に伝え、園内で協議する
保健会議	年4回	・法人全体での共有 ・感染症対策やガイドラインの作成、改善 ・保健計画策定
子育ての質を上げる会議	月1回	・マネジメント、コンプライアンスなど ・各園/課題改善計画立案及び取組成果発表
サービス担当者会議	適宜	・相談支援事業所が開催する、子どもを取り巻く社会資源である事業所および保育所が集まり支援方針を共有する
自治体集団指導	年1回	・感染症対策及び虐待防止研修、児童福祉法に基づく支援についての指導

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進

食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかの飼育管理、ビオトープ作成の指揮、動物や植物に触れる機会の検討立案

〈4〉 行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	併設園として一緒に企画、運営を行う。保護者と協働的に準備・進行を行う。地域の方々が多く来ていただけるような企画を行う。
運動会係	併設園として子どもの日々の成長を、会を通して見てもらい、保護者にも一緒に参加できる運動会を開催する
生活発表会係	併設園として日々の成長を保護者に伝える場として設定し、開催する

4. 支援方針

〈1〉 基本方針

マンスリー支援	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・養護の視点を大切に働きかけ、安心できる環境づくりを行う ・繋がりある遊びや活動の展開を実施し、継続する楽しさを伝える ・情緒の安定を図り、生活リズムを安定していく ・戸外での関わりの中で、実際に体験し感覚を育む ・見守る支援の実践に力を入れる
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の友達との遊びの中で、コミュニケーションの楽しさや人との関わりを楽しさを伝えていく ・同意形成エラーを積めるように環境を設定し、他者の意見を知る機会を設定する ・やりたい、行きたいなどの選択を意思表示し、主体的に活動に関わる機会を増やす ・安定した生活リズムで、見通しをもって過ごすことができるように支援する
グループ支援	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢でのグループによるリーダー、フォロアーの相互作用を経験していく

		<ul style="list-style-type: none"> ・大人や友達との関係を深め、対人意識を伸ばしていく ・友だちと一緒に楽しさを共感できる支援を行う ・日課や製作など共同で何かを創り上げる経験を積む
	下半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・困った時に誰かにヘルプを出することができる ・友だちと一緒に遊びを相談し、展開することができる ・自分を様々な形で表現できる ・「どうすればよかったか」「どうすればよいか」を一緒に考えることができる ・就学に向けて、接続期に必要な力を、接続期カリキュラムを基に育てていく
個別支援		<ul style="list-style-type: none"> ・ビジターグループとの併用や園児とのかかわりを持つ時間を設定し、人と一緒に過ごすことの楽しさを知ることにつながる活動を展開していく。 ・子どもの発達段階により個別支援の形式から、少しずつ2人など少ない人数の関わりから、4～5名の小集団での活動へと繋げる ・最終的には、園などの小集団で安心して楽しく活動できることを目指す。
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」を活用
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

I	計画・ねらい	食を豊かにする取り組みを展開することで豊かな心を育む
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな場所で、好きな人と一緒に食べる喜びに繋げる ・相手の食べているものへの興味を広げる ・子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる

		・食事を通して溢れる言葉や身振り、手振りでの表現、やり取りを大切に する
2	計画・ねらい	食育から五感で感じる喜びを知り、生活の中で感じる感覚を豊かにする
	実践予定内容	・食感のあるものをよく噛むことで味を知ることにつなげる ・五感を育てる食の体験活動としての食育活動の実施 ・土や風、日光に触れることで視覚・触覚・嗅覚の感覚を養う
3	計画・ねらい	食への興味を広げる
	実践予定内容	・食物が調理され、違う形や味に変化する過程を知り、興味へと繋げる調理活動を実施 ・食材や食の循環・環境への意識へ繋がる活動の展開 ・食物が育つまでを仕事として経験する中で食物への興味を広げる

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～8月頃・・・ヘルパンギーナ・手足口病 12～2月頃・・・インフルエンザ 冬場・・・ロタウイルス・アデノウイルス・ノロウイルス
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ・・・現時点では、預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在5名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員1名については3月21日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	AED未設置 本日現在5名が救急救命講習受講し、習得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよびその他感染症予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を適時実施する。 室温計を用い、湿度管理を実施。必要に応じて加湿器を使用し加湿を行う。 併設園年長児と共に、希望児童家庭は性教育を実施。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
------	---------------	-------------------

	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	主体的に遊びを選択できる環境設定
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・やりたいことを選択できる環境構成 ・子どものその時の発達状況や興味に応じて物的環境を変化させていく ・見守る支援を主軸にした人的環境を調整していく
2	計画・ねらい	コミュニケーションを育む人的環境・物的環境の設定
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士のやり取りが発展できるような空間の設定 ・ごっこ遊びに展開できる玩具、コーナーの設置 ・子どもがやりたい遊びを展開できるような設定
3	計画・ねらい	子どもを取り巻く社会資源を活用し、生活に根付いた支援を実施する
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップの更新 ・地域の社会資源及び活用できる安全な環境を新規開拓

〈7〉 手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	テーブル	園庭	毎日
2	ベンチ	園庭	毎日
3	ブランコ	園庭	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災（消防訓練・避難訓練）の実施	危機管理意識を高めるだけでなく、未曾有の事態に対応できるように訓練を実施する。また、災害時スタッフ是認が災害発生時対応マニュアルに基づいた対応をできるように管理する。
2	ケガ事故防止	保育品質マニュアルに基づき、重大インシデントに繋がる前のヒヤリハットをルームスタッフ間で共有すると共に、人的・物的環境にアプローチし安全で安心できる場の設定を常時行う。ケガ・事故発生時には、ケガ事故発生時対応フローチャートに基づき、対応を実施する。
3	光化学スモッグ	戸外活動を展開する際、光化学スモッグの知識を持って、注意報が発令されているか否かの把握を行い、発生時には保育品質マニュアル光化学スモッグ注意報発令時対応に基づき対応する。
4	不審者対応	不審者対応訓練を実施すると共に、不審者発見時には保育品質マニュアル不審者侵入時対応フローチャートに基づき対応する。また、常時防犯意識を高めるため、特に戸外活動時など広い場所で子どもが活動していることを想定し、スタッフ間で活動場所に応じた対応を実施できるように共有する。

6. 実習生・中高生の受入

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

また、併設園として保育園側が受け入れる保育実習生や中高生の体験学習の受入等にも積極的に介入し、インクルーシブ保育を共に実践する中で、児童発達支援事業所の役割についても知ってもらう機会とする。

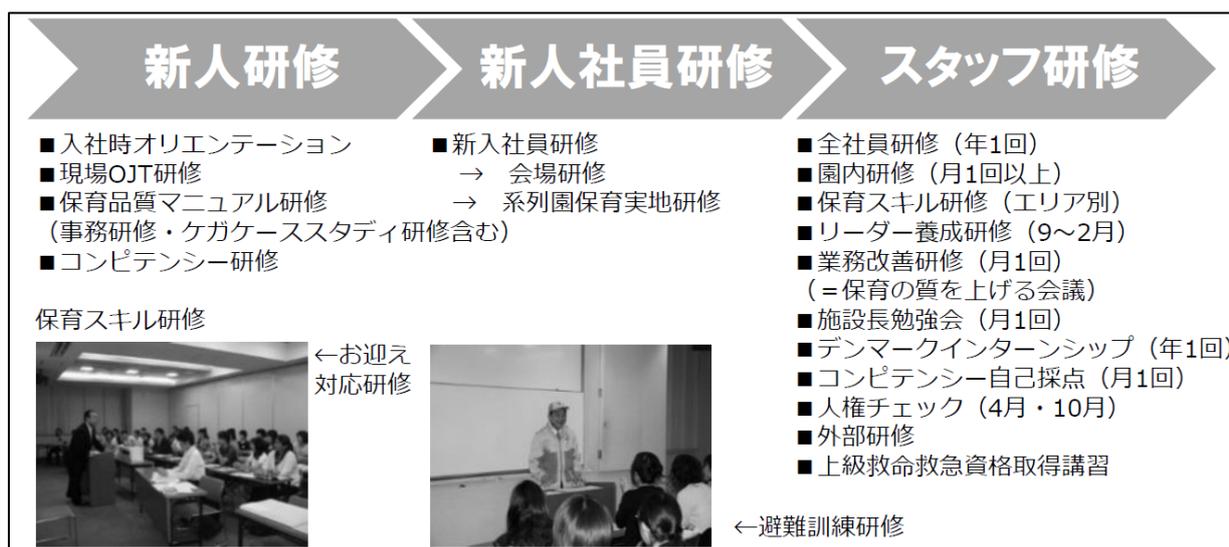
中高生の体験学習の受入／保育養成校・専門士養成校の学生の実習受け入れ／一般および学生の各種ボランティアの受け入れ

〈1〉 今年度の方針・テーマ

インクルーシブ保育の現場での支援を保育養成校・専門士養成校の学生の実習や中高生の体験学習において伝えていく。今後の保育業界や発達支援の動向を早期に伝えることで、より専門性を高めて子育ての質を向上できるような学生の育成に努める。

1	実践予定内容	児童発達支援事業所について基礎的な仕組みを知る。職員構成や支援の枠組み、一人ひとりに合わせた支援について知る。
2	実践予定内容	専門職の連携、お子様の発達特性に応じた支援の展開を知り、実際に支援に携わり、関わり方を学ぶ。
3	実践予定内容	インクルーシブ保育について、マンスリー活動と一緒に携わり、双方への相乗効果を体験する。

7. スタッフ育成と研修計画



〈1〉 2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル読み合わせ ③ 虐待防止・接遇	美観の意識・最上級のおもてなしの心(最上級のサービス)について考える 園長大学の視聴、ディスカッションを行う
5月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル読み合わせ ③ 接遇・環境構成	接遇についての日々の振り返り、洗濯できる環境設定について考える 園長大学の視聴、ディスカッションを行う
6月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル読み合わせ ③ 水の事故、救急救命	ハザード・水の事故について/救急対応/感染症について 園長大学の視聴、ディスカッション

			を行う
7月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル読み合わせ ③ 架け橋プログラム	就学に向けた幼保小の架け橋プログラムについて 園長大学の視聴、ディスカッションを行う
8月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル読み合わせ ③ 危機管理、ハザード	戸外活動、散歩時の危機管理、園内外のハザードについて考える 園長大学の視聴、ディスカッションを行う
9月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル読み合わせ ③ 全体研修	上期の保育、支援について園全体で振り返る 全体研修の動画視聴、意見討論を行う
10月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル読み合わせ ③ 虐待防止、命を知る	虐待防止について園全体で振り返る。命を知る（鶏を裁く、性教育について学ぶ） 園長大学の視聴、ディスカッションを行う
11月22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル読み合わせ ③ 心と身体の発達	心と身体の発達について専門職の視点から知る 園長大学の視聴、ディスカッションを行う
12月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル読み合わせ ③ 接遇・リフレーミング	接遇について振り返り、要録・就学支援シートなどに用いるリフレーミングについて知る 園長大学の視聴、ディスカッションを行う
1月24日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル読み合わせ ③ 1年の振り返り	一年間の振り返り（併設園の取り組みについて）
2月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル読み合わせ ③ 係振り返り	係・役割の振り返り
3月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル読み合わせ ③ 嘔吐処理・与薬・SIDS	アレルギー対応・おむつ交換・与薬・エピペン・嘔吐処理について

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
デモンクインターソシツ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に開かれた子育て支援事業所として、併設園である北千住どろんこ保育園と共に地域に根付いた支援を実施していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：千住旭公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域にある高齢者施設との関わりを設定

	小中高校生の職場体験や幅広い年齢層のボランティアの受け入れを併設園と共に実施
異年齢交流	併設園と共に、異年齢保育・小学校訪問を実施
地域拠点活動	近隣商店街や近隣保育園との関わりを実施 子育て支援センター「ちきんえっぐ」および園庭、つむぎカフェの開放

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

あだち幼保小接続期カリキュラムをもとに、北千住どろんこ保育園と一緒にアプローチカリキュラムを作成する。小学校への移行に大切な視点を支援に取り入れていき、小学校との連携を図りながら取り組む。

また、地域の情報なども収集し、支援学級や支援学校との連携も検討し、より具体的な見通しをもって支援に反映していく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月15日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	千寿小学校	3名予定	幼保小連携会議	協議会
7月頃	千寿常東小学校	3名予定	職員間交流研修	見学
11月頃	千寿常東小学校	20名予定	展覧会见学	見学
1月頃	千寿常東小学校	3名予定	幼保小連携会議	協議会
2月頃	千寿常東小学校	3名予定	給食交流会	参加・交流
2月頃	千寿本町小学校	20名予定	一年生との交流会	見学・交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するとい

うことが計画の中で明確になるようにする。

- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせる。
- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

子どもの状況と保護者ニーズをふまえ、児童発達支援ガイドラインに沿って最長半年間の個別支援計画を作成する。この計画は、子どもの成長と共に定期的に見直し、策定会議を経て書き換えを行うものとする。作成については、必ずモニタリングを実施し子どもの現状と保護者ニーズを把握した上で策定会議を実施。子どもの現状と課題にずれが生じていないか、設定している課題が適切であるか策定会議を開催しスタッフ間で討議する。評価は日々の指導の中で毎回実施するものと、モニタリングで半期の状態を振り返る際のものに合わせて実施していくこととする。

〈2〉毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催予定 参加者：6名予定）

日々の支援を通して、ケース会議資料を基に、活動内容及びアプローチ方法・見立ての共有を図り、よりよい支援を提供すると同時に、スタッフ全員が子どもの理解に努める。その中で、使える社会資源等を検討し、子どもを主体とし包括的に捉えることを大切にする。また、職種間でのアプローチ方法を共有し、日々の支援にそれぞれが汎化できるように設定する。併設園としてマンスリー支援を利用する子どもや北千住どろんこ保育園在籍の利用児に関して、保育園のスタッフの参加も依頼し、包括的なアプローチができるように実施していく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

進級引継については、必要に応じて、子どもの通う母体園に直接訪問、子どもの姿を園と共有し引継ぎを実施する。小学校への引継に関しては、就学支援シートを作成し、まず保護者と共有、その上で小学校に提出し、就学支援シートを持って引継とする。必要に応じて、小学校側と直接やり取りを図り、安心して小学校生活を送れるように支援する。

新しい環境となり、子ども自身も保護者も持つ期待と不安な気持ちに寄り添い、いつでも相談援助を受けることが可能であることを周知して継続的な支援に変えていく必要がある。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30
つむぎカフェ	(月)～(土) 9:00～17:00
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00

どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：千住旭公園にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年10月15日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：8時30分

自己評価終了予定時刻：17時30分

自己評価実施予定者：施設長、当日出勤のスタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	続・混ざる子育て。併設園として互いの領域を超えて見守る支援を行う 丁寧な言葉遣い、所作を行い、最上級の接遇を提供する アプローチカリキュラムを知り、接続期の支援を展開する 保育の視点の再認識、理解を深め、支援の質を向上する
	振り返り	併設園として互いの領域を超えながら、混ざる保育支援を目指して日々支援を行った。園児からのマンスリー支援希望者の増加や、スポット利用など保護者の希望にも寄り添うことができた。 丁寧な心遣い、所作を心がけ、保護者の目線に立ち、最上級の接遇を意識して支援や保護者支援を行った。利用者アンケートが昨年度よりも満足度が向

		<p>上した。</p> <p>アプローチカリキュラムや架け橋プログラムなどの情報収集や学校見学、給食体験など接続期に必要なスキルや情報提供を行った。</p>
--	--	--------------------------------------------------------------------------------

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年 度	目指す姿	インクルーシブ保育のモデル園になるための基盤強化
	重点施策	<p>インクルーシブの基盤強化を強固にする。</p> <p>保育、支援の視点を交えながら、つむぎの利用児、園児が双方向に認め合い、切磋琢磨できるインクルーシブな環境を作っていく。</p> <p>つむぎ利用児が周囲から見守られる環境の中で自ら選択し、活動に意欲的に取り組むことができる</p>
2025年 度	目指す姿	地域から認められるインクルーシブのモデル園となる
	重点施策	<p>保育と支援の視点の融合、どの職員も丁寧な関わりができる事業所になる</p> <p>足立区内の他事業所、うめだあけぼの学園や近隣小学校、保育園、幼稚園、事業所にインクルーシブのモデル園としての取り組みを伝え、広めていく。</p>
2026年 度	目指す姿	足立区近隣の地域から認められるインクルーシブ園となる
	重点施策	<p>足立区に隣接する市町村から認められる、保育と支援の融和した子育て施設として、取り組みやインクルーシブのメリット、次世代の支援の在り方を発信していく。</p>

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 北千住ルーム 施設長 奥秋 優太

2024年度 発達支援つむぎ 調布ルーム 事業計画書

1. 基本方針

児童発達支援事業所として、児童発達支援ガイドラインに基づき法人理念である「にんげん力。育てます。」および子育て方針である「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」を鑑みて、子どもを中心とし保護者と共に地域社会と協調し合い、子育てを実践する。

Doronkoが目指す社会として2024年度運営方針に基づき、主体的に新しいことへの挑戦・情報収集・発信力の向上を目指すと共に、知識を吸収し学び続けるスタッフを育成し、自律した園運営を一丸となり実施していく。

また、地域子育てを共に担う施設として保育所保育指針で定める10の姿から、子どもも大人も生活力を体得し地域社会へと発信していく。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	自律した園運営を行う
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシーを毎月実施する中で、保育・接遇など多角的な視点から自己覚知し、大人のにんげん力向上を図る ・地域社会の動向を自ら取りに行く ・スタッフ一人ひとりが自律し、それぞれの立場と役割意識を持って園運営を遂行する
2	計画・ねらい	法人理念（日課）の追求を行い「生きる力」「生活力」を育む
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日課の意図や意味、子どもにもたらす影響について考える ・生きる力に繋がる取り組みについて理解を深める ・畑仕事、食育含めてSDGsの取り組みに力を入れ、環境への意識を育む取り組みを実践する
3	計画・ねらい	10の姿の体得から自分で考えて行動できる子どもを育てる
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが必要なことを体験できるように環境を設定する ・保育（療育）の充実 ・子どもが選びとれる環境設定 ・子どもの遊びや活動を見守る・見届ける支援の実施
4	計画・ねらい	命をいただく活動の実践
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・魚の手捌きの実施（尾頭付きの魚を実際に見て、触れて、嗅ぎ、三枚に開き、調理していただく） ・地域の精肉店から丸鶏を仕入れ子どもと一緒に捌き、調理していただく

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	選ばれる施設、推薦される事業所となる
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力の中でも対人調和力（相手の意図や感情を理解し配慮できる力）の向上のための学びを深めるため、日常生活の中で「相手が何を求めているのか」、「なぜ相手はこう考えているのか」を深く探ることのできるスタッフ育成を行う ・事業所として大切にしていることをスタッフ個々が語るができるようにコミュニケーションスキルの向上を図る ・年1回、利用者アンケートの実施
2	計画・ねらい	生活に根付いた支援の提案を行うことで、日々の生活に汎化させる
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からコミュニケーションを大切にすることで、些細な悩みでも共有できるような関係性を構築し、日々揺れ動く保護者の気持ちに寄り添う支援の実施 ・生活に根付いた支援の提案（家庭で取り入れられることの提案） ・子どもの母体園である、幼稚園・保育園との連携の強化
3	計画・ねらい	保護者同士が繋がれる場の設定（ピア・カウンセリングの活用）
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフはピア・カウンセラーの役割を担い、保護者同士が日々の些細な悩みを共に語り合い、互いに話すことによって保護者同士が寄り添えるような場の設定を行う
4	計画・ねらい	共感力を育み、保護者支援に活かす
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場に立って物事を考えられるスタッフの育成 ・「傾聴力」を養う ・ルーム会議を通して、ディスカッションを実施 ・自分がされて嬉しいことを嬉しいことを、他者に対して一日一回実施する（決して、自分の価値観を押し付けないものとする） ・相手に伝わる伝え方への意識 ・接遇への意識をより高める

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て相談などの実施をしている事業所として地域により周知され、地域に開かれた事業所へ（地域から選ばれる社会資源へ）
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・調布市および府中市の子ども家庭支援センターとの連携強化 ・公共機関（市役所や小学校、近隣幼稚園・保育園）との連携 ・つむぎカフェおよびグループルームの開放

		<ul style="list-style-type: none"> ・子育て相談の実施 ・青空保育の実施
2	計画・ねらい	地域に事業所の存在や方針を発信し、開かれた事業所へ
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログおよびSNSでの発信（ブログ閲覧数の増加） ・調布市および地域の会議への出席 ・地域における社会資源の活用（社会福祉協議会や公園・図書館・児童館・図書館・商店街・幼稚園・保育園・小学校・放課後等デイサービスとの繋がり）
3	計画・ねらい	地域小学校との連携、理解を深め発信する
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域等学校との直接的な連携を図る（見学および、先生とのディスカッションを実施） ・つむぎを利用する子どもが直接、小学校を体験できる場の提供 ・小学校の情報をカフェでの掲示を活用して、カフェを利用する方へ発信する ・地域小学校の情報について、つむぎを利用する保護者を対象として保護者勉強会を開催し、発信する ・小学校の情報発信を行う事業所として、アプローチカリキュラムへの学びを深めると共に、小学校学習指導要領への理解を深めた上で、正しい情報を発信する

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	自律したスタッフ集団の育成
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングの実践 ・チーム支援の土台作り ・ルーム会議および法人内会議、勉強会での発信力、共感力を高める
2	計画・ねらい	更なる大人のにんげん力の向上により、保護者支援の幅を広げる
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利擁護について学びを深める ・まずは大人が心動かされる体験を多く重ね、「センス・オブ・ワンダー」への理解を深める ・対話を通して、傾聴力を深める
3	計画・ねらい	コンピテンシー、人権チェックを活用することで自省する
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月コンピテンシーを実施し、個人としての目標・事業所としての目標を設定 ・自己覚知を深める
4	計画・ねらい	スタッフの遊びや活動の幅を広げることで、支援の幅や提案が増える

	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの遊びから、展開して発展させる力を伸ばす ・スタッフの「センス・オブ・ワンダー」に対する感度の向上 ・勉強会の実施から体験的に学びを深める
--	--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	更なるSDGsの追求
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コンポストの実施を行うことで、食の循環について学びを深める ・勝手籠の設置（リサイクル・リユース・リデュースについて考える） ・互いを認め合い、よりよく生きる支援の展開（心の傷を分かりやすく可視化する、チクチク言葉・ふわふわ言葉の与える影響を子どもと考える） ・自然の不思議について、実験を通して考える ・命の大切さを知ることにつながる支援の展開（食の循環、環境との関わり） ・生命の大切さを知る（性（生）教育の実施） ・人や社会との繋がりを知る体験（商店街ツアーの展開、職業体験） ・子育てを支える地域拠点へ
2	計画・ねらい	子どもを取り巻く人的・物的な環境設定を行う
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが主体的に遊びを選択できる環境設定 ・子どもが挑戦したいと思えるような、きっかけ作り ・見守る支援、見届ける支援の実施

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

保育士1名

機能訓練担当スタッフ2名 (臨床発達心理士1名、理学療法士1名)

他1名

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	週1回60分	<ul style="list-style-type: none"> ・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ (造形、音楽、自然、食などを設 け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	食育計画の策定、食育活動実施内容の共有
事故防止委員会	月1回	事故報告書の事故分析、再発防止、ヒヤリハット・インシデントの報告実施
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース検討会議	適宜	子どもや家族に対する支援について、ルーム内で協議・対応し、よりよい支援方法

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	年2回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
食育会議	年4回	<ul style="list-style-type: none"> ・法人全体での共有 ・エリア開催の食育会議の内容を、施設長から園の保育者に伝え、事業所内で協議する
保健会議	年4回	・法人全体での共有

		<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策やガイドラインの作成、改善 ・保健計画策定
子育ての質を上げる会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・マネジメント、コンプライアンスなど ・各園、課題改善計画立案および取組成果発表、共有
サービス担当者会議	適宜	相談支援事業所が開催する、子どもを取り巻く社会資源である、事業所および保育所が集まり支援方針を検討・共有
自治体集団指導	年2回	感染症対策および虐待防止研修、児童福祉法に基づく支援についての指導
調布市児童発達支援事業所等連絡会	適宜	同地区にある、児童発達支援事業所同士の交流および、調布市の現状・課題・ニーズの把握

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	畑、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案、食育へと繋げる活動の立案および実践
生き物係	めだか・エビ・昆虫の飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案
美観・コンピテンシー係	毎月のルーム内美観・コンピテンシーの目標設定および振り返りの実施
ハザード係	ルーム内および地域の社会資源（公園、児童館など）までの道中、公園内のハザード見直し、マップの作製

〈4〉 行事別係の設置

係名	職務内容・役割
家族支援係	日々の支援でなかなか来所できない、きょうだい児や保護者支援の一環として、大型連休中を利用し、火・水・土に直接触れる体験を企画、実践

4. 支援方針

〈1〉 基本方針

乳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 養護の視点を大切に働きかける ・ 自ら健康・安全な生活を作り出す力の基盤を養う ・ 伝える力、人と関わる力の基盤を養う ・ 愛着形成を行う ・ 身近な大人に受け入れてもらうことで、自己肯定感の基盤を育てる ・ 好奇心を満たすことのできる遊びや活動から感性を育てる ・ ホンモノに触れ体験し、感覚養う ・ 見守る、見届ける支援の実践 ・ 自宅でできる遊びや関わり方の提案（家族支援）
幼児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 養護と教育の一体性 ・ 繋がりのある遊びや活動の展開の実践 ・ 遊びや活動を通して「思考力」「判断力」「表現力」を育てる ・ 遊びや活動を通して、社会性を育てる ・ 異年齢保育の実践 ・ 遊びを通して、非認知能力を育む ・ 共感力を育てる ・ 美しいものや、心を動かす出来事に触れる機会を作る（センス・オブ・ワンダー） ・ 遊びや興味の幅を広げる ・ 協働で何かを創り上げる経験 ・ 満足感や達成感を持てる機会を設定 ・ 「どうすればよかったか」「どうしたいか」を共に考える支援 ・ 誰かにヘルプを出すことができるような働きかける ・ 友達と一緒に遊びを展開することができる ・ 自分で選択して決める、行動できる
グループ支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 段階に応じて、場の共有・物の共有・やり取りに発展できるような人的・物的環境設定の実施 ・ 協働性を育む中で、対話を大切にする

		<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士のやり取りに発展できるように、スタッフはあくまでも環境設定・きっかけ作りを行い、最後まで見守る支援を実施 ・共感力を育む ・互いの表現を認め合えるような支援 ・人との関わりの中で、共に過ごすことが安心感に繋がるような支援の実施
個別支援		<ul style="list-style-type: none"> ・従来のスタッフと1対1で実施する支援に捉われない形態での関わりを実施 ・人と過ごすことの心地よさや楽しさを知ることができるよう段階的に活動を展開 ・子どもの発達段階に応じて、個別支援の形態を残しつつ、まずは少ない人数との関わりから場所の共有などから始め、安心して過ごすことができるように支援する ・最終的には幼稚園・保育園などの集団で安心して楽しく活動できることを目指す ・子どもの主体性を大切に、人や物への興味関心が広がるように支援する ・子供の“やってみたい”と挑戦する気持ちを育む
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食を豊かにする取り組みの展開をすることで、豊かな心を育む
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ支援を通して、好きな場所で友達と一緒に食べる喜びに繋げる ・友達の食べている姿から食への興味を広げる ・食べることを通して、そこから溢れる言葉や身振り・手振りでの伝え合い、やり取りを大切にする
2	計画・ねらい	「食べる力」＝「生きる力」を育む
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・心と体の健康を維持できるような働きかけを実施

		<ul style="list-style-type: none"> ・食事の重要性を伝える支援の実施 ・食べ物を自分で選択できるような支援 ・社会性を育む ・食べ物の生産過程を知り、感謝する気持ちを育てる
3	計画・ねらい	食育を通して五感で感じる喜びを知り、生活の中で感じる感覚を豊かにする
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・土や風、日光に触れることで視覚・触覚・嗅覚・聴覚の感覚を養う ・食感のあるものをよく噛むことで、味の深みを知ることにつながる ・五感を育てる食の支援の一環として、調理活動を実施
4	計画・ねらい	食への興味を広げる
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・畑仕事を通して、食物ができる過程、自分たちで育てた愛着から興味を広げる ・食物が調理され、違う形や色、味へと変化する過程を知り、興味へと繋げる調理活動の実施 ・食材や食の循環・環境意識へ繋がる活動の展開、食品ロスについて考える支援の実施（コンポストの実施） ・生産・加工・流通の過程を知ることができるような支援の展開
5	計画・ねらい	年間を通して、畑仕事を実施し、食への興味関心、豊かな心を育む
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・土づくりから行うことで、植物の育つ環境を知る ・種まき（苗植え）、雑草抜き、水やり、間引き、収穫を行うことで、植物が育ち収穫までの過程を実体験から学ぶ ・畑仕事における道具の操作から、食具の操作性を広げ自分で食べることの喜びへと繋げる ・畑仕事を通して、畑を共同利用する方との関わりを持つ

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
児童への保健指導・取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いの正しい実施方法を子どもが分かりやすい仕様にイラストを活用したものをカフェ・トイレに掲示し保護者にも併せて実施していただけるように伝える。来所時および支援終了後に含嗽ができるように。紙コップを設置し、含嗽指導を行う。 ・身体をつくる取り組みとして、戸外活動と食育を併せて実施する ・自分で健康管理ができるように指導する（衣服の調整・水分補給・適度な休息） ・生活リズムを整えることに繋がる指導（保護者との連携） ・健康的な体づくり（戸外活動の実践、怪我をしない体づくり） ・心の成長に関わる指導の実施（生命を尊重する心、他者を思いやる心、倫理観や正義感、豊かな心の育成の充実）

流行が予測される感染症	感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 通年・・・新型コロナウイルス 6～8月頃・・・ヘルパンギーナ・手足口病 12～2月・・・インフルエンザ 冬場・・・ロタウイルス・アデノウイルス・ノロウイルス
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ・・・現時点では、預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在6名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については3月21日までに受講予定
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	AED未設置
その他保健に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 ・室温計を用い、温度管理を実施。必要に応じて加湿器を使用し、加湿を行う。 ・年長児の希望児童家庭は性教育の実施を行う。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ

運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもが主体的に遊びを選択し展開することができる空間設定
	実践予定内容	・子どもがやりたいことを自ら選択することができる環境構成 ・人的環境に配慮（見守る・見届ける支援の実施）
2	計画・ねらい	つむぎカフェの環境設定の見直し
	実践予定内容	・子ども同士のやり取りに発展できるような空間の設定 ・子ども同士が一緒に遊ぶ中で、ごっこ遊びに発展できるような玩具の設置 ・子どもがやりたい遊びを選択し、展開できるような設定
3	計画・ねらい	子どもを取り巻く社会資源の活用を行う中で、生活に根付いた支援の実施
	実践予定内容	・地域の社会資源および活用できる安全な環境を知り、支援の中で活用 ・ハザードマップの更新

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	掲示板	カフェ	毎日
2	下駄箱	廊下	毎日
3	パソコン台	事務所	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災 （消防訓練・避難訓練の実施）	危機管理意識を高めるだけでなく、未曾有の事態に対応できるように訓練を実施する。また、災害時スタッフ全員が災害発生時対応マニュアルに基づいた対応をできるように管理する。
2	ケガ事故防止	保育品質マニュアルに基づき、重大インシデントに繋がる前のヒヤリハットをルームスタッフ間で共有すると共に、人的・物的環境にアプローチ

		し、安全で安心して過ごすことできる場づくりを行う。ケガ・事故発生時には、ケガ事故発生時対応フローチャートに基づき、対応を実施する。
3	不審者対応	不審者対応訓練を実施すると共に、不審者発見時には保育品質マニュアル不審者侵入時対応フローチャートに基づき対応する。また、常時防犯意識を高めること、特に戸外活動時など広い場所で子どもが活動していることを想定した訓練も併せて実施する。
4	光化学スモッグ	戸外活動を実施する際、光化学スモッグの知識を持って、注意報が発令されているか否かの把握を行い、発生時には保育品質マニュアル光化学スモッグ注意報発令時対応に基づき、対応を行う。

6. 実習生・中高生の受入

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

調布市市民活動センターと連携を図り、様々な年代のボランティアを受け入れることで地域の中核になる開かれた児童発達支援事業所となる

7. スタッフ育成と研修計画

- ① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性や得意としているものを活かし、全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法や活用方法、一人ひとりの子どもに対する支援にどのように繋がるかについて全体で共有し、学びを深める。一人ひとりの強みが施設の強みとなり、施設目標の達成に繋がられるように計画する。また、インプットしたものをアウトプットすることで、スタッフの『伝える力』の向上を図る。
- ② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「日課」「家族支援」「地域支援」「SDGs」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招くなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を行う。
- ③ ケース検討会議：支援の現状や方針、課題について、またグループ支援の在り方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証を行う。基本的には月1回とし、ケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケースの重要度などに応じて回数を増やし、随時開催を行う。
- ④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を超えた研修会を実施する。
- ⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：一人年間6回を目標とし、課長・施設長で機会の調整し積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。
- ⑥ 外部施設への見学（子どもを取り巻く社会資源の理解）：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、検知を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低1名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。

- ⑦ 朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。
- ⑧ 「園長大学・保育士大学」の受講：社内で企画される園長大学・保育士大学の講座で学びを深め、施設内で共有する。
- ⑨ 日本の社会福祉の現状や動向、子どもを取り巻く環境についてメディアや研修などを通して知り、地域課題と併せて施設としての在り方について考える時間を設定する。
- ⑩ 選ばれる施設に向けた姿勢の強化：自分がされて嬉しいと感じることを必ず1日1回以上、誰かに言葉や行動として返すことでスタッフの接遇意識への向上へと繋げる。

〈1〉2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p style="text-align: right;">←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新入社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修  <p style="text-align: right;">←避難訓練研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月3日	11:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック ③ 虐待防止・身体拘束 ④ 美観・接遇について ⑤ ハザードマップ見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシーの実施 ・虐待防止、身体拘束についての研修実施 ・美観意識の向上、最上級のサービスについて考える ・地域の社会資源に於けるハザードマップの見直し、戸外活動ルートの危険箇所見直し
5月1日	11:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 地域の社会資源について ③ 日課について ④ 保護者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシーの実施 ・地域の社会資源を知り活用に向けて動く ・日課についての理解を深める、法人理念の追求 ・卒園児の保護者を招き勉強会を開催する(成長と小学校で抱える悩み

			について)
6月5日	11:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 放課後の過ごし方について	・コンピテンシーの実施 ・学童・放課後等デイサービス・遊び場についての基礎知識および理解を深める
7月3日	11:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 就学について ③ リスクマネジメント	・コンピテンシーの実施 ・地域の小学校（普通学級・通級指導教室・支援級・特別支援学校）への理解を深める ・保護者勉強会の実施 ・水辺を含め、火・水のリスクマネジメント勉強会
8月7日	11:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達検査について	・コンピテンシーの実施 ・発達指標となる検査についての知識を深める
9月4日	11:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画半期振り返り	・コンピテンシーの実施 ・事業計画に沿って半期を振り返り、下期に向けて整理する
10月2日	11:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 全体研修 ③ 虐待防止研修	・コンピテンシーの実施 ・全体研修を通して、法人理念の追求の実施 ・虐待防止研修の実施
11月6日	11:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 感染症の理解 ③ 文章の書き方	・コンピテンシーの実施 ・感染症の知識及び対応について ・就学支援シートなど外部および保護者に提示する文章表現について
12月4日	11:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② アプローチカリキュラム ③ BCP研修	・コンピテンシーの実施 ・アプローチカリキュラムへの理解を深める ・災害時などに於ける事業継続計画について
1月8日	11:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今後の振り返り、来期の事業計画作成に繋がる見直し	・コンピテンシーの実施 ・事業計画に沿って今期の振り返りを実施
2月5日	11:00~12:00	① コンピテンシー自己採点 ② 性（生）教育	・コンピテンシーの実施 ・性（生）教育への知識および理解を深める

			・性（生）教育、保護者勉強会の実施
3月5日	11:00～12:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル・コンプライアンス	・コンピテンシーの実施 ・法令順守、マニュアルの読み合わせ

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
デモンクインテンシブ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に開かれた子育て支援を提供する事業所として、地域に根付いた支援を実施していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：高速下第5・6公園にて
商店街ツアー	適宜
世代間交流	地域にある高齢者施設との関わりを設定 小中高校生の幅広い年齢層のボランティアや卒園児との交流機会を設定
異年齢交流	小学校訪問を実施
地域拠点活動	近隣商店街や近隣保育園との関わりを実施 つむぎカフェの開放

9. 小学校との連携の計画

- ① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
- ② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
- ③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
- ④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
- ⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。
- ⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。
- ⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

スタッフ間で勉強会を実施し、アプローチカリキュラムおよび、小学校学習指導要領への学びと理解を深め、地域の小学校との連携を図り、小学校との接続がスムーズに行えるようにする。

児童発達支援事業所の役割を地域の小学校に知ってもらい連携を図ることで、子どもも保護者も就学に向けてのモチベーションが上がり安心して就学できるように働きかけを行う。

就学支援シートを基に、就学先と連携を図る上で、幼児期までに育ってほしい10の姿への理解を深める勉強会を実施する。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を6月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	富士見台小学校 通常級・特別支援学級	2名予定	学校公開見学 地域小学校の理解を深める	見学 スタッフ間交流
6月頃	飛田給小学校	2名予定	学校公開 地域小学校の理解を深める	見学 スタッフ間交流
6月頃	府中けやきの森学園 (特別支援学校)	2名予定	学校公開	見学 スタッフ間交流
6月頃	調布特別支援学校	2名予定	学校公開	見学 スタッフ間交流
6月頃	南白糸台小学校	2名予定	学校公開見学	見学 スタッフ間交流
7月頃	府中第二小学校	2名予定	学校公開見学	見学 スタッフ間交流
7月頃	府中第二小学校	10名予定	学校体験	年長児の学校体験
8月頃	府中第一小学校	2名予定	学校公開	見学 スタッフ間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせを行う。

- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

子どもの状況と保護者ニーズを踏まえ、児童発達支援ガイドラインに沿って最長半年間の個別支援計画を作成する。この計画は、子どもの成長と共に定期的に見直し、策定会議を経て書き換えを実施する。作成については、必ずモニタリングを実施し、子どもの現状と保護者ニーズを把握した上で策定会議を実施。子どもの現状と支援目標、手立てにずれが生じていないか、設定している支援目標が適切であるか、策定会議を開催し、スタッフ間で討議する。評価は日々の支援の中で毎回実施するものと。モニタリングとして半期の状態を振り返る際のものと一緒に実施していき、状況に応じて書き換えを行うものとする。

〈2〉毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催予定 参加者：名予定）

日々の支援を通して、活動内容およびアプローチ方法・見立ての共有を図り、よりよい支援を提供すると同時に、スタッフ全員が子どもの理解が深まるように検討会議を実施する。その中で、使える社会資源の検討や母体園、他事業所での様子を含め、子ども主体として包括的に捉えることで、保護者支援にも繋がるような会議とし、日常生活に般化できるようにする。また、職種間でのアプローチ方法を共有していく中で、アプローチ方法を広げていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

進級、引継ぎに関しては、必要に応じて子どもの通う母体園と連携を図り実施する。小学校の引継ぎに関しては、就学支援シートを作成し、まず保護者と共有、その上で小学校に提出し就学支援シートをもって引継とする。必要に応じて、小学校側と直接やり取りを図り、安心して小学校生活を送ることができるように支援する。

新しい環境下で、子ども自身も保護者も期待と不安でいっぱいであろう気持ちに寄り添い、いつでも相談援助を受けることが可能であること、つむぎカフェを開放していることを周知し、継続的な支援を実施できる環境を整えていく。

11. 子育て支援事業

施設に来院した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:00～17:00
つむぎカフェ	(月)～(土) 9:00～17:00
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年度内に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：9時00分

自己評価終了予定時刻：18時00分

自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<p>地域子育てを担う、社会資源との密な連携。子育て相談をいつでも受けることのできる施設としての認知度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会への発信（ブログやSNS、青空保育、幼保小への訪問） ・子育て相談を受けるスタッフの相談援助技術の向上
	振り返り	<p>地域子育てを担う事業所として、子ども家庭支援センターとの連携および近隣保育園との繋がりを大切に事業所としての存在意義を伝えることができた。また、保護者の口コミもあり結果的に相談から支援に繋がったケース、口コミから問い合わせの増加に繋がった。</p> <p>地域社会への発信としては、ブログで活動の取り組みを発信することで法人としての取り組みや理念の発信にも繋がり、何を大切に支援する事業所であるのかを発信し続けている。</p> <p>地域の幼保小学校への訪問回数としては昨年度よりも増加し、より児童発達支援事業所としての役割を周知できた。</p> <p>一昨年度より、保護者支援に力を入れていることもあり、日々の支援の中で子育て相談を受ける上でも相談援助技術は向上している。</p> <p>引き続き、地域に開かれた誰でも気軽に相談できる事業所として役割を遂行していく必要がある。</p>

〈2〉当年度以降の3カ年計画

24年度	目指す姿	地域子育てを共に担う施設として、つむぎの名前が挙がる
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域子育てを担う相談窓口となる ・気軽に子育ての悩みを相談できる施設へ ・子ども家庭支援センターおよび地域の幼保小との連携強化
25年度	目指す姿	地域の療育に対する敷居が下がる
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の幼保小からの理解が広がり、児童発達支援への理解が深まる ・利用を検討している方はもちろんのこと、悩みを抱える方が気軽にドアを叩ける環境へ
26年度	目指す姿	地域の子育て支援拠点事業所となる
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・公的機関との密な連携 ・子育て相談利用者の増加 ・利用者ニーズに合わせて幅広く選択可能な提案をできるスタッフの育成

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 調布ルーム 施設長 下町 紗世

2024年度 発達支援つむぎつつじヶ丘ルーム 事業計画書

1. 基本方針

「子どもも大人も共に認め合い、共に育ち合い、にんげん力を育む」という事を心掛け、保育園と発達支援が併設されている施設としてつつじヶ丘どろんこ保育園と共に、各所属の壁を越えて子どもたちが安心して過ごせる「大きな家」を目指し、この6年間歩んできた。大人も子どもも多様性を認め合い、互いに助け合い、共に育ち合う環境の中で、子どもたちが成長に必要な経験を積み重ね、にんげん力を育めるようスタッフ皆がチームとして保育・支援を行うことを軸とする。

生活力・選択力・思考力の体得を目指し、日課・基本保育活動を実施する。つむぎマンスリーを利用している子どもたちも保育園児と共に8時30分に登園し、雑巾がけ、朝の会、戸外活動9時出発、生き物の世話、畑仕事などの日課を行い、子どもの成長に必要な体験を日常的に繰り返し、ホンモノの経験を通してにんげん力を身に着ける環境を用意する。あくまでも大人がやらせたい事を子どもにさせるのではなく、子どもたちが自ら選んで活動を選択できる環境を用意し、自己決定を行う力・考える力を育てていく。

生きるために必要なことの1つである「食べる」意欲を育めるよう食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育を実践するため、ゴミ・糞のたい肥化を行い、種をまき、間引きや雑草取りをして育て、収穫したものを使って、焚き火で調理または加工し、食べることを年間通して行っていく。また、生きているものを捌く、解体する、焚き火で焼き、食べる経験を通して、命をいただいていることを知る。

各自治体・教育委員会・学校と連携を取り、就学先の小学校や支援学校へ、実際の授業を見に行き、子ども間の交流・教職員間の交流が実施できるよう交渉を行う。就学後の教育指導要領を把握し、保育所保育指針で示されている「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」を念頭においた支援・保育を行う。

大人のにんげん力UPを図るため、園内研修や園長大学・保育士大学の講義を受けるなど、スタッフ一人ひとりが学びたい時に学べる環境を確保する。また、スタッフが学んだことを施設内・課内・部内・法人でアウトプットできる場を通して自己改革につなげる。

つつじヶ丘の強みを強化させるべく接遇・環境整備を継続して行い、誰にとっても居心地がよい「大きな家」を作り上げることができるよう、保護者や来訪者に対して大きな声で気持ち良い挨拶をし、相手の気持ちに寄り添い、「つむぎつつじヶ丘」に来て良かったと心から思っただけの施設を目指す。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもたちが安心して楽しく通うことができる。 子どもの発信を受け止め、応答的に関わる。
	実践予定内容	・あらゆる場面や状況において、大人都合で子どもを動かしたり、「危ないからダメ」を言ったりせずに子どもが過ごしやすい安心できる環境を心

		<p>掛ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの主体性を考え、子どもの気持ちや状況を考慮し、考え、言葉をかけ応答的に関わる。 ・家庭と連携を取り、子どもの様子や体調の変化などを共有し、スタッフ間で対応の統一を図り、保護者や子どもを不安にさせることがないようにする。
2	計画・ねらい	<p>日課・基本保育活動の定着を図り、子どもの成長に繋げていく。 大人が子どもに背中を見せる。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・10より100の経験を計画・実施する。 ・個々の発達過程や個性、特性を理解し、見通しをもって意欲的に日課・基本活動に参加できるよう工夫し、計画的かつ継続的に進めていく。 ・常に子どもが選択できる環境を設け、自分で選び取り、経験する機会へとつなげていく。
3	計画・ねらい	<p>人と関わる力を育む。 子ども同士で伝え合い、関わり合える環境を用意する。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・見守ることを大切にし、過度に子ども同士の関りに入らずに育ちあいを目指していく。 ・Trial & Errorは見守り、自分で考えやってみる環境を設ける。 ・言葉で指示する、大人が意図的に環境をつくるのではなく、子どもたちが挑戦したいと思える環境を設ける。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	<p>保護者にとって居心地が良い場所となる。 全スタッフが自信を持って挨拶・お迎え対応する。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ一人ひとりが手を止め、顔をあげて挨拶をする。 ・お迎え時には、支援のねらいと子どもの様子を振り返り、今後の支援の方針と見立てを伝え、質問や疑問などに対して丁寧に誠意をもって答える。 ・家庭での様子を聞き取り、相互の情報を共有しながら子育てをしていく事で「とも育て」を目指していく。
2	計画・ねらい	<p>安心して子どもを託すことができる場所となる。 保護者が知りたい情報を提供する。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭の説明だけでなく、お知らせなど目でみてわかる情報の提供を定期的に行う。 ・支援の内容や意図を理解していただけるよう活動のねらいや個別の支援目標を分かりやすく伝える。 ・保護者懇談会を実施し、子どもの成長を共有・相談できる機会を設ける。
3	計画・ねらい	<p>地域との連携を積極的に図る。 地域全体で子育てを共にし、子どもの成長につながるあらゆる手段を活用する。</p>

	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ間で、地域からの連絡や相談事項などの共有を行い、迅速かつ確実に対応できる体制を整える。 ・必要に応じて、行政、保育園、幼稚園、他事業所、就学先との連携を図る。
--	--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	<p>相談したい時に、いつでも相談できる場所となる。 誰でも子育てや発達に関する相談ができることを周知する</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・行政機関へのパンフレットの配布を継続的に行い、市報などを活用しながら、誰もが利用できる場所として周知する。 ・発達支援について地域の方々に知っていただけるよう園外掲示板やブログを活用する。 ・子育て相談会を年2回実施し、支援が必要な子どもの早期発見に努め、社会資源へつなげる。
2	計画・ねらい	<p>地域の人たちがつながる場所となる。 いつでも訪れたくなるような、安心できるつむぎカフェを目指す。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに関する情報を収集し、お知らせや雑誌などを置き、定期的に新しい情報を提供する。 ・つむぎカフェでくつろげるよう飲み物、絵本、玩具の充実を図る。 ・いつでも安心して気持ちよく使っていただけるようカフェに置いてある物品（家電類・家具・絵本・おもちゃ）の整理整頓と消毒を定期的に行う。 ・カフェにいる方に適宜お声がけをして、「きてよかった」「話せてよかった」と思えるように相談援助・接遇面の向上を図る。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	<p>「子どもが自己選択すべきこと」「大人が教えねばならないこと」を理解・把握して支援を行うことができるようにする。 子どもの成長に必要な経験について学び直す場を設ける。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針・児童発達支援ガイドラインを使って、保育・支援のねらいを理解する。 ・園長大学・保育士大学を活用し、実践に活かせる学びの場を提供する。 ・学習指導要領を把握し、長期的な目標を見通した支援計画と支援を提供する。 ・定期的に「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を振り返りながら学習し、子どもの見立てに活用する。
2	計画・ねらい	<p>自身の意見や考えを持ち、主体的に動く。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいものを生み出すことを意識し実現する力を養う。 ・研修参加後、報告書を提出し、全スタッフと共有、学びを進化させ、議

		<p>事録を残す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言いたい事や提案したい事をいつでも話せる職場づくりをそれぞれのスタッフ・施設長が心掛ける。
--	--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	<p>誰もが心地よく過ごせる場所 大人も子どもと一緒に掃除・整理整頓を行う。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の掃除に加えクリーンデーとして掃除と整理整頓を行う時間を週1回設ける。 ・大人も子どもも使ったものを元の場所に戻せるように工夫した物の配置と掲示の仕方を工夫する。
2	計画・ねらい	<p>食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践。 日課である畑仕事を通して、子どもたちが食の循環を体験する。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コンポストや糞を使って、たい肥を作る。 ・畑を耕し、土壌を整え、種をまき、水をやるなど、畑仕事に積極的に取り組む環境を設ける。 ・火をおこし、収穫したものを調理し、食べる。調理する際に出たゴミはコンポストへ入れる一連のサイクルを体験する機会を設ける。
3	計画・ねらい	<p>室内環境・園庭環境の充実を図る。 子どもたちが遊び込める環境作りを行う。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・室内園庭にあるおもちゃの選別・メンテナンスを2カ月に1回、定期的に行う。 ・子どもたちの発達に合わせたおもちゃや家具や遊具の配置を定期的に見直し、誰もが遊び込める環境を作る。 ・子どもが安心できる場所を確保する。

〈6〉つつじヶ丘どろんこ保育園との連携

1	計画・ねらい	<p>子どもの成長を共に喜び合う 保育園・つむぎスタッフがチームとして子育てをする</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園・発達支援の壁を乗り越え、1どろんこスタッフとして、チームで子どもたち育てていく。 ・スタッフ間の言葉がけや共有を徹底し、言葉にして伝え合う。 ・互いの立場や役割を理解し、対等な立場で意見交換し合う。 ・行事は、計画から行事終了後の反省と記録まで、両スタッフで一緒に進めていく。 ・支援を必要とする子どもに対し、多角的・多面的な視点で保育計画を作り、実践、振り返り、改善を重ね、子どもにとっての最善の利益を追求する。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉開所時間

8時30分～17時30分

支援提供時間：マンスリー支援（5歳児） 8時30分～15時30分

マンスリー支援（3・4歳児） 8時30分～13時00分

ビジター（月・火・木・金） 15時40分～16時40分

ビジター（水） 14時00分～15時00分・15時10分～16時10分

ビジター（土） 10時00分～11時00分・13時30分～14時30分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

保育士5名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	<ul style="list-style-type: none"> ・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	離乳食進行・食育計画・アレルギー確認・給食状況
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット・インシデントの振り返り・危機管理・安全対策
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。

ケース会議	月1回	要支援児の姿・個別計画の立案・子どもの様子共有
リーダー会議	月1回	園全体の運営、人材育成
つむぎ会議	月1回	業務の伝達、共有など、つむぎ運営に関する内容

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	年2回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	献立内容の改善、提案・食育計画作成 給食提供マニュアルおよび運用ルールの作成や見直し
保健会議	年4回	感染症対策やガイドラインの作成 食育計画作成・実践共有
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の内容や質の向上に係る相互学習、実践的な業務改善

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	<ul style="list-style-type: none"> ・年間農業計画のもと、子どもと共に取り組む、種や苗の購入 ・食育計画との連動と進捗把握 ・各クラスの畑仕事のマネジメント

生き物係	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤギや鶏の健康チェック ・エサ、岩塩等の発注 ・年間休日の当番表作成と実施管理 ・ヤギ、鶏小屋の整備、補修管理
写真係	個人情報の確認、写真販売
体験学習係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導

〈4〉 行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズと連携し計画、実行
子育て支援担当	子育て支援事業の計画、実行

4. 支援方針

〈1〉 基本方針

マンスリー	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して過ごせる場所と人がいる中で、集団での生活を体験する。 ・自ら興味関心のもてるような環境の中、発見や工夫を楽しめる遊びを保障していく。 ・自分で選び、遊びこめる環境を保证する。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の関わりがいつでも持てるようゾーン保育や子ども自ら自主的に遊びが選択できる環境を設定する。 ・関わりの中、様々な葛藤を経験し自分で考え、工夫し自ら行動できるよう、また自分たちで約束やルールを決め、活動できるようにしていく。
グループ支援	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外での活動や原体験を通して、豊かな感性や表現力を育む。 ・自分で考え、工夫し行動できるよう、見守り、見届ける。 ・自分で選び取り、最後までやり遂げる経験を積み重ねられるよう支援する。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に取り組める活動が増え、協調性や社会性の向上が見られ、自己肯定感が高まることを目指す。 ・戸外での活動を通して、社会生活を送る上で必要なルールを知り、対応の仕方を学ぶ機会を設ける。

個別支援		・ 戸外での活動を基本とし、個々に合わせたさまざまな体験を通して、非認知能力を育み、自己肯定感を高める支援を実施。
事業所内相談支援	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・ 就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・ 所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

どろんこ会の3大食育方針

- (1) 調理員・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる
- (2) 噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する
- (3) 子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる

1	計画・ねらい	子どもが食に対して興味・関心が持てるよう日々の保育の中で積極的に食育活動を取り入れていく。
	実践予定内容	旬な野菜を取り入れたクッキングや、畑で収穫した野菜を素材の味を活かし子ども達に提供する。
2	計画・ねらい	月1回の給食会議にて情報の共有を行う。
	実践予定内容	離乳食の進み具合や食事の状況を確認し、発達に合わせた援助を行っていく。
3	計画・ねらい	火×食材
	実践予定内容	調理の原点、たき火を活用したクッキングを行っていく。たき火ならではの不便さや香ばしい匂いを感じると共に、火の温かみや適度な緊張感も味わう

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 12月頃・・・インフルエンザ、胃腸炎 1月頃・・・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアアップ・・・該当なし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在5名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については4月1日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在5名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員2名については4月1日までに受講予定
その他保健に関する取組	ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前

	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	年2回／6・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもが自分で選択して遊ぶ場所・遊ぶものを決めることが出来る環境を整備する。
	実践予定内容	環境整備を分担し、月毎に振り返り・更新を行う。また子どもたちの発達や、年間を見通した計画的な更新を継続する。
2	計画・ねらい	生き物や植物が育つ力を持った園庭作り。
	実践予定内容	落ち葉やたい肥を子どもたちと一緒にすき込み、植物が育ち虫が集まる園庭を目指す。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	図書館用の本棚	エントランス	毎日
2	長椅子(4台)	縁側、エントランス	毎日
3	おままごと机(1台)	ひえ組保育室	毎日
4	ピーステーブル(2台)	エントランス	毎日
5	お茶台(2台)	縁側	毎日
6	飼育ケース台	縁側	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	緊急時における対応について「緊急時対応マニュアル」に従い、全スタッ
---	----	-----------------------------------

		フが対応を理解し、それぞれが役割を実行できるように訓練する。 非常災害に備えて消火設備等の点検をするとともに年間防災計画に沿って訓練を実施し、避難方法や関係機関・団体への通報及び連絡体制を確認する。また、それらを定期的に保護者へ周知する。特性ごとの災害対応についても理解しておく。
2	ケガ事故防止	不必要なケガや事故を防止するために、室内や屋外のハザードマップの作成と定期的な見直しを行う。他園で起きたものも含め、ヒヤリハットやインシデント、事故記録簿をスタッフ間で共有し改善策を出す。
3	防犯	外部からの不審者の侵入など、子どもが犯罪に巻き込まれないように事業所としての防犯マニュアルを定期的に確認するとともに関係機関、団体と連携して見守り活動や防犯にかかわる安全確保への取り組みを行う。
4	光化学スモッグ	光化学スモッグに対しての正しい知識を身につけ、注意報発令の把握に努める。発生時には、危機管理マニュアルに則って対応し行政判断を仰ぐ。

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

種類) 中高生の体験学習の受入／保育養成校・専門士養成校の学生の実習受け入れ／一般および学生の各種ボランティアの受け入れ

1	情報の発信	インターネットやSNSを活用して、ボランティアや実習を受け入れていることの情報発信する ボランティアや実習の依頼元となる学校などを調べ、連携する準備を行う
2	受け入れ	スタッフの受け入れ体制を整え、準備を行う

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉 2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00～20:00	①園内研修「健康な心と体」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有 ⑤人権チェック・虐待防止研修	・保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 ・リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
5月16日	18:00～20:00	①園内研修「思考力の芽生え」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	・保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 ・リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
6月20日	18:00～20:00	①園内研修「自立心」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有 ⑤水遊びのリスクマネジメント研修	・リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施 ・プール開きに向けて水辺の研修を行い事前にリスクを共有する。
7月18日	18:00～20:00	①園内研修「自然との関わり、生命尊重」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	・保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 ・リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
8月15日	18:00～20:00	①園内研修「協同性」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	・保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 ・リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
9月19日	18:00～20:00	①園内研修「数量と図形 標識や文字などへの関心、感覚」 ②さくらさくらんぼリズム ③保育の質勉強会 ④行事共有	・保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。 ・リズム体操が子どものどんな発達を促すのかの理解と実施
10月17日	18:00～20:00	①園内研修「道徳性、規範意識の芽生え」	・保育所保育指針を踏まえ、10の姿を捉える。

園長大学®保育士 大学講座および社 内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
デモンクインテンシブ®	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

月1回「ちきんえっぐだより」を発行し、年間計画のもと地域交流を行う。また積極的に園外に出かけ、地域の人々と様々な関わりを経験していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：中原もみじ防災公園公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	・地域との連携を積極的に行い、多様な年齢層との交流の中で人との繋がりを大切にしていく。「物おじせず、誰とでも目を見て話ができる子ども」を育む。 ・お年寄りを大切にする優しい心を育む
異年齢交流	小学校、中学校、近隣保育園との交流
地域拠点活動	どろんこ祭り 子育て支援事業「ちきんえっぐ」 青空保育・地域に向けた子育てスキル講座

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

幼保小連絡会に参加し、子どもたちが小学校へ安心して就学できるよう、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを共有しながら積極的な情報交換や意見交換を行う。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	滝坂小学校 1年	5名予定	滝坂小学校	子ども間交流
10月頃	上ノ原小学校 1年	5名予定	上ノ原小校庭	子ども間交流
2月頃	緑ヶ丘小学校、滝坂小学校	5名予定	緑ヶ丘小学校校庭、 1年生交流	子ども間交流
2月頃	滝坂小学校 1年	2名予定	保幼小連携	職員間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害の状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせる。
- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

児童発達支援管理責任者が、保護者の意向、子どもの適正、特性を踏まえ、提供するサービスの適切な支援内容等について検討し作成する。

提示の2ヶ月前に保護者にモニタリングを実施し、子どもの家庭や園での様子、保護者のニーズなどについて適切に把握。1ヶ月前に児童発達支援管理責任者を中心とした策定会議を行い、多角的に子どもの発達を捉え、適切な支援を考える。6ヶ月に一度以上個別支援計画の作成を行うが、子どもの状態や家庭状況などの変化に合わせて支援の見直しをする場合がある。また、個別指導担当者が支援計画を作成し、児童発達支援管理責任者が確認して提示する。

所属園に訪問し、担任らと共に支援に対する共通理解を持つための策定会議を行った場合は、速やかに支援計画の書き換えを行い、園訪問での話し合いをもとにした支援内容を書き加える。

〈2〉 毎月のケース会議開催 （4～3月に計12回開催予定 参加者：6名予定）

通所している子どもへの支援の妥当性をケース会議にて、さまざまな職種のスタッフより検討を行っていく。つむぎで見せる姿だけではなく、家庭、所属園、つむぎそれぞれの場所での様子を踏まえて子どもにとって最善の支援を考えていく。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

就学支援シートおよび電話などで進級引継ぎおよび小学校への引継ぎを行う。当施設での子どもの様子、提供した支援内容、必要と思われる配慮事項などを伝える。また、子どもの発達過程を踏まえ「できること」「得意なこと」などを積極的に伝え、進級先および小学校での今後の見通しとなるような引継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30
つむぎカフェ	(月)～(土) 9:00～17:00
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	月2回 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月2回以上 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：中原もみじ防災 公園にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年7月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：9時00分

自己評価終了予定時刻：17時00分

自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2024年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	併設園としての連携を行うなかで保育園とつむぎの壁をなくし、すべての子どもを中心に考えそれぞれの見方で子どもを捉え情報共有をしていく。大人も子どもも共感力を身につけ、雰囲気、居心地のいい大きな家作りを目指す保育園とつむぎ共同でインクルーシブ保育の実践と土台作りをする。
	振り返り	併設園として土台作りを行う中で、連携はまだ不十分と感じる1年だったので、来年度の課題として引き続き取り組んでいく。また、大人も子どもも共感力を身につけ、雰囲気、居心地のいい大きな家作りを引き続き目指していく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	【子どもを真ん中におく保育】＝向上の年（にんげん力UP）
	重点施策	インクルーシブ保育の向上を目指す。異年齢で生活しているが各年齢の発達、子どもの興味、乳児と幼児の遊びの保障を考えた上で、現場での意見交換を活発に行いよりよい環境作りをしていく。
2025年度	目指す姿	【子どもを真ん中におく保育】＝定着の年（にんげん力UP）
	重点施策	ゾーン保育、チーム保育の定着を目指す。子どもたちが一緒に暮らし、大きな家の兄弟姉妹のように関わっていく。園全体を自由に行き来し、

		自らが遊びを選び、没頭して遊べる環境を保育者が整える
2026 年度	目指す姿	【子どもを真ん中におく保育】＝充実の年（にんげん力UP）
	重点施策	子どもが主体的にやりたいことを提案し、実現に向け考える力を育む。 また大人はそっと子どもたちに寄り添える環境を用意する。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎつつじヶ丘ルーム 施設長 増田 義之

2024年度 発達支援つむぎ 宮下ルーム 事業計画書

1. 基本方針

【守る支援から、自分の足で人生を歩むための支援へ】

- ・宮下どろんこ保育園との併設園として、「インクルーシブ保育とは」を、今一度、職員一同で考え、自園でできることを話し合いながら、一つずつ見直していく。
- ・子ども、一人ひとりの最善の利益を保障していき、自分のやりたいことを自分で選んで取り組めるような働きかけをして、生きる力を身に付けていく。

○子どもと向き合い、一人ひとりを知る。

- ・一人ひとりとの信頼関係や愛着関係を大切に築いていきながら、毎日を安心してのびのびと過ごせるようにする。
- ・養護面を大切にしていきながら、一人ひとりの今の成長をとらえ、日々を振り返り、支援をしていく。
- ・園の保育者との連携をしっかりと取りながら、ケース会議や園内研修を通して共有していき、全体で見守る目を養っていく。

○自分でできることは、自分でやろうとする気持ちを育む。

- ・身の回りのことのみではなく、遊びや活動、友だちとの関わりの中でのトラブルなどが起きた時の折り合いのつけ方など、保育者の見守りの中で、自分でやろうとする気持ちを大切に育てていく。
- ・子どもが自分でやりたい経験選び取れる環境を工夫し、子ども同士が考えて助け合える関りを大切にしていく。

○よく遊び、よく食べ、よく眠る。

- ・長距離散歩や探索、様々な発見を子どもたちと一緒に楽しみながら、好きな遊びをのびのびと楽しむようにする。
- ・食事をとる楽しさを味わいながら、友だちと一緒に好きな場所で好きなものを好きなだけ食べ、食べる意欲、食べる力を育てていく。
- ・十分に体を動かし、程よい疲労感を感じながら、しっかり体を休めることができるよう、生活リズムを作っていく。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

【守る支援・分ける支援・制限する支援・指定する支援】から、【自分の足で人生を歩むための支援】へ。

1	計画・ねらい	意識的に「養護面」のねらい、及び内容を理解するとともに、子ども一人ひとりに最善の利益を保障していく。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援の提供すべき支援として、保育指針の「養護」のねらい及び内容を理解し、大切にしながら、一人ひとりの子どもの健康状態や発育及び、発達状態を的確に把握していく。 ・一人ひとりの欲求を的確に満たし、応答的な触れ合いや言葉がけを行っていく。また、子どもの気持ちの受容し、共感しながら、継続的な信頼関係を築いていく。
2	計画・ねらい	大人が決めてしまうのではなく、子どもが自分で活動を選び、生きる力を身に付けていく。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大人がそばについて、活動を制限するのではなく、一定の距離を取って見守り、子どもが自ら経験を選び取れるようにしていく。その中で、危険なものとの距離の取り方を学び、生きる力を身に付けていけるようにする。

〈2〉 事業所を利用する子どもの保護者への支援

保護者の思いを大切に受け止めながら、子どもたちがのびのびと成長していく姿と一緒に見守っていく。

1	計画・ねらい	日ごろの様子を丁寧に伝え、保護者との信頼関係を築き、相談しやすい環境を作っていく。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のニーズに合わせた支援をし、一人ひとりの成長と一緒に喜び共感し合いながら、信頼関係を築いていく。 ・保護者が安心して相談しやすい環境の設定を工夫し、丁寧に対応していく。
2	計画・ねらい	保育者同士が交流できる場を作り、情報交換をしながら、地域交流にもつなげていく。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に保護者同士の交流会や、親子イベントを行い、情報交換が出来るような環境を作っていく。 ・情報交換の場から、地域の方との交流を広げていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	保護者の交流会を通じて、地域の方も参加できるようなイベントを開催していく。
	実践予定内容	保護者交流会を行っていく中で、相談できる場としての働きかけをし、地域交流が出来るようなイベントを開催していく。

2	計画・ねらい	他事業所との連携を図り、積極的に見学に行く。
	実践予定内容	園児が併用している園との連携を密に行いながら、様子を共有し、必要な支援が適切に行えるようにしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	インクルーシブ保育についての理解を深め、園職員と共に話し合い、勉強会をしていく。
	実践予定内容	インクルーシブ保育を展開していくうえで、自園ではどのようにしていけば良いかなど、園の職員とも話し合い、密に連携を取りながら、勉強会を行っていき、理解を深めていく。
2	計画・ねらい	報告・連絡・相談の徹底。
	実践予定内容	職員間の連携をしっかりとるために、報・連・相を徹底していき、自分で発信できるようにしていく。また、発信方法の簡潔化も考慮し、見直していく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	木材や樹木を知り、親しみを持つ。
	実践予定内容	園庭では木登り等で樹木を活用しているが、散歩等でも木々に興味関心を向けられるよう、子どもたちと名前や木の効能について調べる。また、木の活用方法等についても調べ、子どもたちと加工等を楽しむ。
2	計画・ねらい	給食残差減少に向けて
	実践予定内容	給食残差を昨年比70%に減少させていく。そのために、日々の畑仕事を通じて食材の加工を知り、味わうなど食に興味関心を持ち、食べたくなるような環境づくりや言葉がけを園全体の取り組みとして行っていく。

〈6〉インクルーシブ保育の実現

1	計画・ねらい	「インクルーシブ保育とは」を学び、考え、話し合う。
	実践予定内容	「インクルーシブ保育とは何か」を、今一度見直し、自園ができることは何か、どろんこ会が求めるものは何かを話し合い、一歩ずつ実現できるよう、話し合いの場を作っていく。
2	計画・ねらい	職員全体で、一人ひとりを理解し、同じ目標をもって関わっていくことで、全体で見守っていくチームになる。
	実践予定内容	一人ひとりの発達段階や、成長の目標を共有できるよう、ケース会議を改善していきながら、宮下の職員全員で、同じ目標をもって見守っていきけるようにしていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

保育士2名

機能訓練担当スタッフ2名 (作業療法士1名、理学療法士1名)

児童指導員2名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回120分	・保育園と合同で行う。つむぎ及び保育園各クラスの様子、行事進捗、園内研修
給食運営会議	月1回	食育活動実施報告、喫食状況確認、配膳方法
事故防止委員会	月1回	事故のケーススタディ、改善策、各月のヒヤリハット、インシデント分析
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ルーム会議	月1回	利用児の様子、行事進捗、園内研修
ケース会議	適宜	情報共有、支援内容の検討

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	月1回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	マニュアル、レシピの見直し、ルームの取り組み発表、アレルギー食検討
保健会議	年4回	マニュアルの見直し、感染症対策、衛生管理
子育ての質を上げる会議	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行、どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進

〈3〉 各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	畑・プランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかの飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案

〈4〉 行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画、調整
運動会係	運動会の企画、調整
生活発表会係	生活発表会の企画、調整

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者との信頼関係・愛着関係を丁寧に築いていき、安心してのびのびと過ごせるようにする。 ・ 子ども一人ひとりの特性をしっかりと捉え。職員間で共有し、同じ目標をもって支援していく。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 築いてきた信頼関係の下で、保育者に見守られながら、好きな遊びを自分で選んで、楽しめるようにする。 ・ 自分でできることは、自ら進んでやってみようとする気持ちを持ち、自信を持って取り組めるようにしていく。
ビジター	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人ひとりの特性を、保育者全体で共有していき、同じねらいをもって支援していく。 ・ 一人ひとりの個性を理解し、大切にしたい支援をしていく。
個別支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「相談支援記録」
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・ 所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
関係機関との連携	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

- ・ 2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024

年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	火×食材
	実践予定内容	調理の原点、薪や炭を利用した調理方法を体験し、直火ならではの魅力を感じる。日頃から焚火を行い、自然の2面性を知ること、火の取り扱いを安全に身に付けていく
2	計画・ねらい	命を頂く～鶏を捌く～
	実践予定内容	運営本部MISSON2024を踏まえ、鶏を捌き食す体験を行う。実際に体験を行う際は保護者へ周知し同意を得た子どものみ参加する。体験を通して命の尊さや食のありがたさに気づく。
3	計画・ねらい	お米を知る
	実践予定内容	日本人に慣れ親しんでいるお米について学んでいく。知識だけでなく、実際に釜や飯盒、災害時の米の炊き方等を子どもたちと学んだり食べ比べたりしながら違いを知る。また、園庭の田んぼを活用し田植えや稲刈りを通して労働の大変さや食材のありがたみを知る

〈4〉保健計画

児童健康診断	年2回（6月・11月）
歯科検診	年2回（6月・11月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
児童への保健指導・取組等	手洗いうがい指導、歯磨き指導、流行性感染症の予防
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 1月頃・・・インフルエンザ・胃腸炎
エピペン使用できるスタッフ	本日現在3名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については5月までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	設置なし

その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。
-------------	-------------------------------------------------------

〈5〉 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	年2回／6・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉 環境整備

1	計画・ねらい	「やりたいことを止めない保育」を目指した環境作りをする。
	実践予定内容	使うものを制限する、危険だからやらせないのではなく、子ども自ら経験を選び取り、危険であることも学びながら、生きていく力が身に着けられるような環境を作る。
2	計画・ねらい	一人ひとりの特性に合わせた、落ち着ける場所を工夫していく。
	実践予定内容	気持ちの切り替えが出来るよう、落ち着いた場所を考え、子どもの気持ちに寄り添って、安心して過ごせるようにしていく。

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="font-size: small;">←お迎え 対応研修</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="font-size: small;">←避難訓練研修</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習

火

	(不審者訓練)	オートロックでの外部侵入者の立ち入り防止 警察との連携 (不審者情報共有、交通安全教室)
3	設備点検	防災設備点検実施 (自動火災探知機、煙感知器、誘導灯、排煙窓)
4	ケガ事故防止	ヒヤリハット、インシデント、事故防止記録記載による事故防止と、事故防止委員会による検討会議 リスクマネジメント研修
5	人数確認	園外保育においての、人数確認(ダブルチェック)の徹底と、見失い案件0への意識付け
6	ハザードマップ 確認	園内外のハザードマップによる危険個所の確認と安全確認の周知 環境変化や状況によりその都度見直し、更新を図る。
7	光化学スモッグ	光化学スモッグ発生時には、自治体などにより発信される情報をチェックし、発声時には屋外での活動を控える

6. 実習生・中高生の受入

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉 2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 新年度振り返り ③ 趣味を保育につなげる	・新年度の振り返りを行い、子ども感の共有や保育について討議する。 ・職員の個性を保育へ最大限に生かすための手法や思考を学ぶ。
5月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ③ 保護者支援研修	・職員が保護者の視点になり保育や保護者支援についてディスカッション研修を行う
6月28日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺のリスクマネジメント ③ 水遊びにおける研究	・幼児乳児それぞれ研究課題を決め「水に関わる活動×子どもで」それぞれ研究を行う。
7月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危険生物対策研修 ③ 応急手当について ③ 水遊びにおける研究中間報告	・危険生物、植物に対する知識を身に付ける。熱中症対策をはじめとするファーストエイドについて学ぶ。
8月23日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育×科学 研修	・日常生活を科学的視点で学ぶことにより、保育内容の充実や職員の知識向上を図る。
9月27日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びにおける研究発表会	・「水に関わる活動×子どもで」の研究発表を行う。
10月25日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 利用者アンケートについて ③ 虐待防止研修 ④ SIDS予防研修	・利用者アンケートをもとに課題を抽出し、改善点等について話し合う。 ・11月の虐待防止月間、SIDS予防月間に向けて基礎知識研修及び他法人の事例に基づいた事故予防ディスカッションを行う。

11月22日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ポートフォリオ研修	・ポートフォリオ作成を通して、子どもを見る視点や、自分の思いを相手に伝える技術を身に付ける。
12月27日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 感染症における基礎知識 ③ 嘔吐発生時におけるロールプレイング	・感染症における基礎知識を身に付けると共にロールプレイングを通して、冬の感染症拡大に備える。
1月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年間振り返り	・年度の振り返りを行い、残り2か月間で課題解決を行いながら、次年度へ繋げていく。
2月28日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	・次年度に向けての計画を行う。
3月2日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	・次年度に向けての計画を行う。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日~30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
デモンクインテンシブ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に根付いた園であることから、今後も近隣住民の方や、学校、老人ホーム施設等の交流を積極的に行っていく。地域を見守ると同時に見守られる園として近隣地域と密に連携を取りながら運営を行っていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：宮下公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域行事参加、高齢者施設訪問、運動会、園外保育
異年齢交流	近隣小学校との交流、卒園児交流
地域拠点活動	子育て支援・青空保育

9. 小学校との連携

〈1〉今年度方針・テーマ

小学校に隣接している環境を最大限に生かし、小学校教諭との意見交換を積極的に行う。保育者は学習指導要領やスタートアップカリキュラムを理解したうえで、小学校への接続が円滑に行えるように意識していく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月8日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月12日	周南小学校 1年生	18名予定	・就学に向けての授業見学 と情報交換会	子ども間交流 職員間交流

			・特別支援学級の見学実施	
6月13日	周南小学校 1年生	18名予定	・就学に向けての授業見学 と情報交換会 ・特別支援学級の見学実施	子ども間交流 職員間交流
1月22日	周南小学校 1年生	18名予定	「小学校ってどんなところ？」校舎内探検予定	職員間交流
2月21日	周南小学校 校庭	18名予定	校庭探検予定	職員間交流
3月19日	周南小学校	18名予定	児童要録を基に園児の引継ぎを行う予定	(教職員保育士間連携)

10. 個別支援計画の作成と更新について

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができるツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせを行う。
- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

保育所保育指針の養護のねらい及び、内容を理解するとともに、一人ひとりに寄り添った支援を心掛け、必要に応じて見直ししながら、作成を行っていく。

〈2〉 毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催予定 参加者：10名予定）

職員全体で、同じ目標を持った支援や関わり方ができるよう、ケース会議の在り方を見直し共有できるようにしていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

各自治体と連携を図り、就学相談の流れに沿って進めていく。早期の段階で保護者の相談を受けながら、子どもたちが安心して就学できるように、適切な援助をしていく。就学先や放課後デイサービス事業所などにしっかりと引継ぎを行い、支援が途切れないようにする。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(金) 9:30～16:30
つむぎカフェ	(月)～(金) 9:00～17:00
子育て相談	(月)～(金) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(火) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(木) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(金) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:宮下公園にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審の予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年10月7日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻:13時00分

自己評価終了予定時刻:14時00分

自己評価実施予定者:羽澤 佑太・佐藤宏美・高橋美桜

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2024年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	スタッフ間での話し合いを充実させ、何でも話せる関係を構築し、子どもを中心とした保育の中で、一人ひとりの発達をしっかりととらえることができるように、学びを深める。必要な支援が途切れることがないように、縦の連携を強化する。
	振り返り	つむぎのスタッフでの話し合いは、しっかり出来ていたが、園の職員との連携がなかなか出来ない状態だった。発達についての共有も出来ていないこともあり、支援の仕方に迷いや、お互いに分からないこともあった。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度 (2025)	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの特性を園スタッフ全体で共有し、同じ目標をもって支援していく。 ・保育者が付きっきりにならず、一定の距離から見守る支援をする。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議の在り方や進め方を工夫し、園全体で見守っていく環境と関係性作りを大切にしながら、同じ目標をもって支援していく。 ・子どもについて、語り合える現場作りをする。 ・保育者が活動を定める制限した支援ではなく、子どもが自ら選んで活動ができる支援を目指していく。
2025年度 (2026)	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・園スタッフ全体で子どもたちを見守り、子どもたちが自分で選んだ活動がのびのびとできるようにしていく。 ・インクルーシブ保育を目指して、混ざり合う保育を目指す。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、いつでも自分でやってみたいものに関われるような支援を目指し、様々な体験を選び取れるようにしていく。 ・インクルーシブ保育についての学びを生かして、実践し、スタッフ同士で語り合える現場にしていく。
2026年度 (2027)	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが、保育者に見守られていることで、安心してのびのびと好きな活動ができる施設になる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が全体を見る目を持つことで、子ども同士が自分たちで考えて助け合える保育園となり、自分の足で人生を歩むための支援ができる施設になる。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 宮下ルーム 施設長 佐藤 宏美

2024年度 子ども発達支援センターつむぎ浦和美園 事業計画書

1. 基本方針

開設7年目を迎え、地域に根差し地域に開かれた施設を目標に、戸外活動の充実からさまざまな実体験を繰り返し、人間力を育てていく。一人一人が自身の思いを表出し、自己選択自己決定を行えるように選び取れる環境設定を行い、生活力を培っていく。地域連携から近隣施設との子ども間交流を充実させ、同年代の仲間づくりを行っていく。実体験から得られる「生きる力」、「感情のコントロール」や「人と関わる力」を土台にして、自分で自分の命を守る子どもたちを育てていく。支援に携わる大人は、自ら考え、学び、動き、施設を訪れる全ての人に心地よさを感じてもらえるように、快適で清潔な施設、主体的に行動できるチームになっていく。

センターの支援方針、目標を全スタッフで決定し、子どもの最善の利益を追求し、子どもたちの「やってみたい」を実現できる環境を整えていく。

<支援方針>

個々に寄り添い思いを受け止め世界を広げる

<目標>

心作り・身体作り・仲間づくり

好きからやりたい、実行実践する力～ホンモノの経験へ～

のびのびと過ごせる環境の中で好きなものを見つけ人と関わり、実体験を通して自身の世界を広げていく。自分を知り理解することから生活力を身に付け、社会の一員として過ごしていく土台作りを行っていく。

どろんこ会の「子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境を設定」することで、自己選択自己決定が当たり前の生活になっていく。「命をいただく活動の実践」では、畑活動の充実を図り、生長を感じられる環境づくりを行っていく。肉や魚をさばいて食す経験をまずは大人がやって見せ、子どもたちと共に食に向き合っていく。地域の中核施設となっていくために、「自律運営」を目指し、支援を必要としている方たちに広く知ってもらえる運営を展開していく。

<1> 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	生活力の体得 ・自分の足で人生を歩む力を育む
	実践予定内容	実体験を通してさまざまな失敗を繰り返し、自分で命を守ること、危険なものとの距離の取り方などを学んでいく
2	計画・ねらい	自己選択・自己決定 ・守られず、分けられず、制限されず、指定されない支援
	実践予定内容	個々の願いを基に多様な環境を提供し、好きなことや得意なことを見つけ

		て実行してく
3	計画・ねらい	食育活動の充実 ・食を通して環境教育を実施する
	実践予定内容	畑仕事、生き物の世話などの労働を経験し、自然の恵みや生き物に触れ、食や生への意識を高める

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子育て相談・地域講座開催 ・保護者同士が繋がる場を作り、相談し学び合える施設になる
	実践予定内容	継続して地域講座を開催し、センターを利用する保護者同士が顔見知りになり、相談し合える場を作っていく
2	計画・ねらい	安心して過ごせる施設づくり ・不要なものを整理し、気持ちの良い環境を提供する
	実践予定内容	清掃が行き届いており掲示物などが分かりやすく配置されていて、いつ来ても居心地よく過ごせる空間になっている施設を作っていく
3	計画・ねらい	充実したフィードバック ・丁寧な対応を行い子どもの成長を相談し合える関係づくり
	実践予定内容	事業所内相談やモニタリングを含め、日々の子どもの様子を分かりやすく伝えるために、大人の学びの場を充実させより良い支援につなげていく

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域講座開催 ・近隣施設や地域の方につむぎでの取り組みを発信していく
	実践予定内容	毎月「つむぎdeほっとカフェ」を開催し、地域参加型の講座を開催する学びたいこと、知りたい情報などの発信を行うと共に、保護者同士が繋がり合える場を作っていく
2	計画・ねらい	青空保育～地域に開かれた子育て支援 ・青空保育を通して近隣施設や地域の方につむぎを知ってもらう
	実践予定内容	毎月の青空保育を通して地域の方や近隣施設との繋がりを広げ、気軽に遊びに来てもらい身近な相談場所になっていく
3	計画・ねらい	他園交流 ・近隣施設や学校との連携を図り子ども間交流を行う
	実践予定内容	園庭解放を行い近隣施設との交流を行い、同年代の仲間づくりや異年齢交流を行う 地域の中核施設となるために、地域連携を担っていく

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	地域講座 ・保護者、関係機関、地域に向けて講座を開催する
	実践予定内容	つむぎdeほっとカフェを通して、地域講座を開催する。外部発信を行うことで、自己研鑽、接遇、内容の向上を図る。
2	計画・ねらい	自立運営 ・全スタッフが内部監査項目を理解し、実践する
	実践予定内容	内容を見える化し、個々が責任をもって向き合えるチームになり、より良い支援、質の向上につなげていく
3	計画・ねらい	地域連携の充実 ・近隣施設、小学校等への訪問実施
	実践予定内容	保育所等訪問支援を通して連携を図り、全スタッフが関係施設を知っていく。現状を知り、より良い支援に努めていく

〈5〉環境実施目標

	計画・ねらい	遊び込める環境づくり ・自己選択・自己決定・自己実現につながる環境整備
	実践予定内容	子どもたちが選び取れる環境構成を行い、毎月室内外の環境構成の見直しを行う
2	計画・ねらい	全身で感じられる経験 ・戸外活動の充実を図り、実体験からさまざまな経験を得る
	実践予定内容	畑仕事や散歩、戸外活動を繰り返す中で季節ごとの変化を感じていく好きなことや得意なことを自由に表現できる環境づくりを行っていく
3	計画・ねらい	命をいただく活動の実践 ・肉や魚がどのように食材になるのかを知る体験
	実践予定内容	毎日の畑仕事や給食を通して食べ物に興味を持っていく支援を実践する肉や魚を大人がさばく様子を見せ、子どもたちと共に食に向かい合う

〈6〉地域連携から中核施設としての発信（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	近隣施設、保護者への施設公開 ・発達支援の入り口として身近な存在になっていく
	実践予定内容	定期的に施設公開のご案内を行い、施設見学や支援内容を伝える場を整え必要な支援を広く周知していく
2	計画・ねらい	地域講座の開催 ・子どもの育ちを共に考えながら支援に関する学びを深めていく

	実践予定内容	つむぎでの支援を知ってもらうこと、各専門士がどのように子どもの支援を考えているのかなどを「つむぎdeほっとカフェ」を通して地域に発信していく
3	計画・ねらい	地域交流 ・近隣施設との繋がりを広げ、商店街ツアーや施設訪問の拡充
	実践予定内容	商店街ツアーを通してさまざまな仕事を身近に感じていることを活かし、新たな行先の開拓や近隣施設との交流から同世代の子ども間交流の充実を図る

〈7〉実体験から生活力を体得し生きる力を育む（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	自己選択・自己決定ができる環境づくり ・自分で選び決めていいことを知り実現していく
	実践予定内容	個性を尊重しながら、好きなことや得意なことを思い切り楽しみ遊び込める環境を保证する サークル活動を充実させ、他者との折り合いのつけ方を知っていく
2	計画・ねらい	日課の充実 ・大人と一緒にさまざまな活動に取り組む
	実践予定内容	毎日の日課に気持ちが向くように大人が背中を見せ一緒に行っていく 繰り返し体験していくことで自信の力を育てていく
	計画・ねらい	仲間づくり ・安心できる環境の中で互いの思いを伝え合う力を育む
	実践予定内容	実体験の中で自分の気持ちを伝えたり友だちの気持ちに触れたりする経験を積む 時にはぶつかったり思いが通らなかったりするやり取りを通して、生きるために必要な本物の経験を重ねていく

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 40人/日

放課後等デイサービス 10人/日

〈2〉開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉 スタッフ構成 （3月1日時点）

施設長1名
 児童発達支援管理責任者2名（児発、放デイ）
 事務スタッフ1名
 相談支援員2名
 用務1名

保育士12名
 機能訓練担当スタッフ7名（言語聴覚士3名、作業療法士2名、理学療法士2名）
 心理士2名
 児童指導員3名
 社会福祉士2名
 栄養士2名
 看護師1名

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・ 専門士による支援技術の共有 ・ 研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う。 ・ つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	食に関する子どもの共有、献立検討、代案の抽出、残渣などの検証、畑仕事との連携
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデント、事故記録簿の検証（自園他園）、改善
支援計画策定会議	適宜	・ 支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・ 個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	月1	情報共有、支援計画、活動の計画・検討、見直し
リーダー会議	月1	各グループの共有、振り返り、環境等の見直し
朝礼・終礼	毎日	子どもの様子、活動のねらい、内容、ヒヤリハット、インシデント、その他連絡事項の共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議		障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	給食改善検討・給食計画振り返り・実践報告等
保健会議	年4回	衛生・感染症マニュアルの確認・検討、実践報告等
子育ての質を上げる会議	月1回	情報共有、実践報告、研修等

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導 給食保健委員会（毎月）
安全対策係 （生き物・環境整備・畑）	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起、生き物の飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案、畑仕事の計画的な活動立案 事故防止委員会（毎月） インシデント、ヒヤリハット、事故記録簿（自園・他園）の検証、改善
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者 （給食関係全般）	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
地域交流係	見学、実習生、OJT等の受け入れ、青空保育、つむぎカフェ等の地域交流、図書管理、勝手かごの管理、掲示物管理
写真係	どろんこだより（毎月）、写真販売（毎月）

〈4〉 行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	計画立案、開催、保護者、地域へのアナウンス
体験学習係	策定会議に基づく体験活動の開催、保護者、地域へのアナウンス

4. 支援方針

〈1〉 基本方針

マンスリー (2歳児)	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭から離れ、つむぎの環境を知る、慣れる ・好きな遊びを見つけ、大人との関係を深めていく
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる環境の中で、大人や友だちと関わる心地よさ楽しさを感じる ・保護者と共に成長を楽しみ、保護者同士が繋がる場となる
マンスリー (3歳児)	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・つむぎの生活を知り、友だちと過ごす心地よさを感じていく
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・ジブンデ考え、ジブンデ決めて、行動したい気持ちを表現していく
マンスリー (4,5歳児)	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとの関りを十分に楽しみ、意欲的に遊びや日課に取り組んでいく
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとの集団生活の中で、自分の思いを伝え、相手の思いやルールなどを知っていく ・自分たちで遊びや生活を進める経験を積み重ね、達成感を味わう
土曜日グループ (児発)	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団の中で友だち同士を意識しながら思いを伝える経験や楽しさを知っていく ・継続的な活動の中で、子どもたちの発信を大切に、協同して物事に向かう力を育てていく
個別支援 (児発)	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる環境の中で、「あそび・実体験」を繰り返し、興味や関心を引き出していく ・個々の発達段階や特性を多角的に捉え、一緒に考えながら学びたい気持ちを育てていく
平日グループ	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる環境の中で、自分の気持ちに向き合い自分自身を認

(放デイ)		<p>める力を育てていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で過ごすことで、自分自身の様々な気持ちを知るとともに、他者理解や他者意識を広げていく ・自分のやりたい気持ちを表現することで探求心や意欲を育て、他児と一緒に経験する実体験を積んでいく
土曜日グループ (放デイ)	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団の中で自己表出と表現を繰り返し、やりたいことを実行しようという意欲を育てる ・継続した活動を通して他児と一緒にさまざまな体験をしていき、コミュニケーション力を育てていく ・自分の役割を理解することで、学校などの集団生活や日常のさまざまな場面に活かせる力をつけていく
個別支援 (放デイ)	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身を理解し自己実現を目指していく ・実体験を通しての関わりを積み重ね日常生活のコミュニケーション力や生活につながる力を育てていく
保育所等訪問支援 (児発・放デイ)	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な訪問を実施し、子どもや保護者が安心して過ごせるように所属先、家庭、つむぎが連携を図り支援を共有していく ・それぞれの所属園から小学校への引継ぎが円滑に行えるように、連携を図っていく
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	<p>大人と一緒に食を楽しむ環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温かく楽しい雰囲気の中で安心して食べられる場を作る
---	--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

	実践予定内容	子どもたちの摂食状況を把握しながら、食べることが訓練、苦痛にならないように、食事の場を楽しめる空間を作っていく
2	計画・ねらい	縁側給食、バイキング給食の充実 ・季節を感じながら好きな人と好きなものを自分でよそって食す経験
	実践予定内容	充実した戸外活動の後に空腹に気づき、食べたいという気持ちを育む バイキング給食を通して盛り付けや配膳などの経験を積み、食べる量を知ることや後片付けなどを行う機会を作っていく
3	計画・ねらい	畑の収穫物を味わう ・畑仕事を通して日々育っていく過程を知り、収穫野菜を食べてみる
	実践予定内容	毎日の畑仕事を通して作物を育てていく経験を重ねる 自分たちが育てた野菜をどのようにして食べるかを考えたり調理工程を行ったりしながら、食への興味関心を広げていく

〈4〉保健計画

児童健康診断	年2回（6月・12月） 児発マンスリー利用児対象
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
児童への保健指導・取組等	年間保健計画に基づき保健指導を行う ・手洗い、うがい、体力づくり、食育活動、湿温度等環境管理
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス、インフルエンザ 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～8月頃・・・手足口病、流行性結膜炎 11～2月頃・・・流行性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	エピペン・・・1名より預かり済み／薬ポケットにて保管
エピペン使用できるスタッフ	本日現在31名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフについては4月30日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在31名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフについては4月30日までに受講予定
その他保健に関する取り組み	関係機関からのお知らせの掲示 受け入れ時の健康観察、うがい、手洗い、消毒、換気の徹底

〈5〉 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	年2回／6・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉 環境整備

1	計画・ねらい	遊び込める環境づくり ・自身でさまざまなものに主体的に関わり、自己選択・自己決定・自己実現につながる環境整備
	実践予定内容	子どもたちの成長発達を中心に、毎月室内外の環境構成の見直しを行う。 日々の振り返りを基に継続や変更等を検討し、ハザードの見直しを行う。

2	計画・ねらい	全身で感じられる経験 ・ 戸外活動の充実を図り、実体験から生きる力の獲得を図る
	実践予定内容	畑仕事や散歩、戸外活動を繰り返し季節ごとの変化を五感で感じていく。 好きなことや得意なことを自由に表現できる環境づくりを行っていく。
3	計画・ねらい	清潔で快適な環境づくり ・ 必要なものが必要な場所にあり整理整頓が行き届いた環境
	実践予定内容	動線を確保し安心して活動に取り組めるように環境を整えていく。 施設を利用するすべての人が使いやすい場所になっていく。

〈7〉 手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	配膳台	1階室内	毎日
2	机	1階室内	毎日
3	下駄箱	玄関	毎日
4	荷物棚	2階室内	毎日
5	ベンチ	園庭	毎日
6	虫ハウス	園庭	毎日
7	一本橋	園庭	毎日
8	ヤギ小屋	園庭	毎日
9	黒板	縁側	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	設備点検チェック	年4回/4, 7, 10, 1月の25日
2	事故防止チェック	年4回/4, 7, 10, 1月の25日
3	防災自主点検 備蓄品点検	年2回/6, 12月の25日
4	避難訓練 (避難・消火)	毎月1回/15日
5	不審者侵入訓練	年2回/6, 12月の25日
6	事故防止委員会	毎月1回/15日
7	光化学スモッグ	さいたま市からの発令共有

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

オリエンテーションの充実を図り、学生が安心して学べる環境を整え積極的に受け入れていく。他職種が存在する利点を生かし、それぞれの視点から実習生を支え次世代を担う学生が学びを深めていける環境になっていく。

異世代のボランティアを受け入れることで様々な観点からの思いを受け入れ、地域に開かれた施設とになっていくことを目指していく。

1	保育実習	保育士資格取得のため、各学校からの受け入れ
2	言語聴覚士実習	言語聴覚士資格取得のため、各学校からの受け入れ
3	ボランティア	地域ボランティア、社会科体験学習の受け入れ

7. スタッフ育成と研修計画

学びのアウトプットを充実するために、一人一人が主体的に考え、学び、動いていく自立した集団になっていく。園長大学や保育士大学を活用し必要な知識を得ていくと共に、自らの考えを自分のことばで発信できる施設になっていく。

〈1〉2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日	17:30～19:30	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・虐待研修 ③ 重説、契約内容、各業務研修	・子どもの人権保障、虐待に対する意識合わせ ・つむぎ業務内容の園内研修
5月24日	17:30～19:30	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアル研修 ③ インクルーシブを学ぶ	・どろんこ会の理解を深める ・施設が目指す方向性の確認、異年齢が交じり合って生活すること、地域との連携を学んでいく
6月21日	17:30～19:30	① コンピテンシー自己採点 ② 事故防止(水の事故) ③ 水防訓練	・夏季活動に向けて水の事故について学ぶ ・大規模災害に備えて毎月の避難訓練の振り返り、水害対応についてのロールプレイ実施
7月26日	17:30～19:30	① コンピテンシー自己採点 ② 環境構成を学ぶ	・施設内インクルーシブの実施に向けて、活動の意図、環境構成について学び実施

8月23日	16:30～18:30	① コンピテンシー自己採点 ② 接遇研修	・上期の振り返りを行い、質の高いサービスの実施に向けて学び合う
9月27日	17:30～19:30	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理、災害時の対応を学ぶ	・心肺蘇生やAEDの使用法、備蓄品を使用したの炊き出し訓練を実施
10月25日	17:30～19:30	① コンピテンシー自己採点 ② 利用者アンケートの分析 ③ 人権チェック・虐待研修	・アンケート結果から改善策の検討、支援の見直しや接遇について学ぶ ・性教育、人権、虐待について学び合う
11月22日	17:30～19:30	① コンピテンシー自己採点 ② 環境構成の見直し	・施設全体の環境を見直し危機管理、改善を実施する
12月20日	17:30～19:30	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度振り返り	・今年度の振り返りから次年度の方針、目標検討
1月17日	17:30～19:30	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度について	・自身の振り返りを行い、次年度に向けての内容検討
2月16日	18:00～21:00	策定会議①	・次年度事業計画発表 ・方針・目標に向かい年間計画作成
3月2日	9:00～18:00	策定会議②	・次年度年間計画作成 ・畝づくり・環境整備

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											

リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
デスマークインターンシップ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

〈5〉つむぎdeほっとカフェ（地域公開講座）の講師

2023年度の取り組みを継続し、スタッフ全員が講師となり地域講座を開催し保護者や関係機関への発信を行う。スタッフひとり一人が自身の言葉で伝える機会を設けることで、学び続けるチームになっていく。朝礼終礼、センター会議を利用して互いの学びを検討し、知識の共有だけでなく接遇や美観についても切磋琢磨していかれる施設を目指していく。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域開放を通して定期的な近隣施設との交流を図っていく。また、商店街ツアーや青空保育、つむぎdeほっとカフェの充実から地域に根差した施設となっていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：美園台公園にて
商店街ツアー	週1回 イオンスタイル、シャトレーゼ、駅前交番、郵便局、浦和美園駅、イオンモール浦和美園、フラワーショップ オリオンなど
世代間交流	年間活動計画に沿って地域の方や家族を招き畑活動や伝承遊びを行う
異年齢交流	園庭解放、近隣施設との交流
地域拠点活動	つむぎdeほっとカフェ（地域講座開催）

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

保育所等訪問支援の拡大を図り、小学校訪問を充実させていく。スタッフが実際の訪問を通して小学校の現状を知っていき、学びを深めていく機会とする。

施設公開を定期的に行い、近隣施設との交流を図る。幅広い関係機関に地域公開講座を周知し、情報共有を行い、小学校への接続が円滑に行えるように連携を強化する。

園庭解放や戸外活動を通して近隣施設との子ども間交流を行う。同年代の仲間づくりから施設を利用する入り口が広がり、地域に開かれた施設になっていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
通年	浦和美園小学校 支援学級 通常学級	2名予定	保育所等訪問支援	スタッフ間交流
通年	大門小学校 支援学級 通常学級	2名予定	保育所等訪問支援	スタッフ間交流
通年	きらりつばさ保育園 きらり白妙保育園 浦和みその保育園	各50名予定	園庭解放	子ども間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

一人一人の状況に即した児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援の個別支援計画を作成し提示する。保護者とのモニタリング、スタッフによる策定会議を計画的に行い、子どもの特性や成長に合わせた支援計画の作成に努め、子ども自身の生きる力、人間力が育まれるように内容の充実に努めていく。

〈2〉毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催予定 参加者：名予定）

定期的に会議を開催し子どもの状況の共有、保護者支援（サポート）支援内容の見直し等を行っていく。児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援が連携を図り、センター全体で子どもたちの状況を多角的に捉え、より良い支援につなげていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援が一体となって、子どもや保護者、関係する各機関を支えていく。進級時には潤いファイルや就学支援シートを活用し小学校への円滑な接続を行い、入学後は、保育所等訪問支援の継続や放課後等デイサービスの利用などを含め、小学校との連携を図っていく。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30
つむぎカフェ	(月) ~ (土) 9:00~17:00
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
勝手籠設置	(月) ~ (土) 9:00~18:00
青空保育 (支援センター主催)	月1回 公園名: 美園台公園にて開催
つむぎdeほっとカフェ	月1回

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

実施時期未定だが、「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 8時30分

自己評価終了予定時刻: 18時00分

自己評価実施予定者: 内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが選び取りやりたいことの実現につながるように遊び込める環境づくりを行っていく。 保育所等訪問支援の充実を図り、小学校との連携、接続を担っていく。 毎月の会議内で研修を行い、地域講座を開催する。
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 策定会議内で決定した子どもたちに体験させたい活動を計画通りに実施した。室内外の環境の充実を図り、個々に寄り添いながら集団意識の芽生えを支えていった。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所等訪問支援を通して小学校や保育園等を訪れ、つむぎ以外の場で過ごす子どもたちを知り、より良い支援を共有する機会となった。 ・ センター会議内で各スタッフが自身の言葉で研修を行った。翌月に開催される「つむぎdeほっとカフェ」内で、保護者などに向け講座開催を行った。
--	--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが自身の思いを表出し、自己選択自己決定を通して生活力を充実させていく。 ・ 地域に開かれた施設を目指し地域開放を行い、近隣施設との子ども間交流を充実させ、共に過ごす環境づくりを目指していく。 ・ 幼児期から小学校低学年での人間力を育み、地域施設との連携を図りスムーズな移行支援を担っていく。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分を知り理解することから他者への意識を向けていく。 ・ 1つのことを一緒に行ったり、決まりを守ることを知ったりしながら共生していく力を育てていく。 ・ 定期的に子ども間交流を行い同世代の仲間づくりにつなげていく。 ・ 商店街ツアーや日々の散歩を通して地域や社会で生活する上で必要な力を育てていく。
2025年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動を通して培った生活力の充実を図り、自ら動き出したくなる、学びたくなる環境づくりを行っていく。 ・ 近隣施設との交流を充実させ、共に学び合える環境づくりを行っていく。 ・ 各関係施設との情報共有を密に行い、より円滑に移行支援を行っていく。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが主体となって生活していけるように、大人の学びを深め、子どもたちを支えていけるチーム力を身に付けていく。 ・ 継続して近隣施設との定期的な交流を行い、子どもたち同士が仲間意識をもって遊べる環境を作っていく。 ・ 児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、相談事業所が一体となって業務に努め、地域の中核施設となることを目指す。
2026年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生きる力を育み、実体験を通して自己実現を楽しめる施設になっていく ・ 日々の地域開放、定期的な公開講座を定着させ、親子が安心して集える地域拠点になっていく。 ・ 質の高いサービスを提供しながら地域の支えとなり、各事業が一体となって地域との連携を図っていく。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日課等日々の積み重ねを基に、自己実現のための交渉や思考する経験を積み、自己決定していく力を育む。 ・ 定期的な講座を安定させながら地域の課題を吸い上げ、学び合いの拠点になっていく。 ・ 関係機関との連携強化を図り、地域支援の質の向上を担っていく。

作成日：2024年3月15日 作成者：子ども発達支援センターつむぎ浦和美園
施設長 橋本千穂

2024年度 発達支援つむぎ 八山田ルーム 事業計画書

1. 基本方針

当事業所では、保育所保育指針、児童発達支援ガイドラインに則りどろんこ会グループの理念「にんげん力。育てます」「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」を基盤に地域に根ざした児童発達支援事業所になっていく。

保育園と併設された児童発達支援事業所としてインクルージョンの実践、一人ひとりが受け止め、多様性を互いに認め合い、活かしあえるようなインクルーシブな保育を行っていく。また、日々の生活において守る支援・矯正する支援を終え、自分で経験を選択していける環境を用意し、生活の体得を目指していく。

- ① 基本としている異年齢保育・座禅・雑巾がけ・さくらさくらぼりズム体操、散歩9時出発・畑仕事・裸足保育・縁側給食・商店街ツアー・青空保育を実施する。
- ② 異年齢の関わりの中でホンモノの経験・体験をもとに他者との協働や感情のコントロールを繰り返し積み重ねていき、他者との思いや考えを共有する中で目標達成ができる環境を作っていく
- ③ 併設している八山田どろんこ保育園と混ざりながら共に過ごし、「やってみたい」という気持ちを大切に、自然・物・人・事・生活に積極的、意欲的に関り生きる力を育む。
- ④ 開園4年目になり、現在よりも地域の方々とコミュニケーションを豊かにしていき、スタッフ一人ひとりが地域の一員である自覚を持ち、地域に根差した事業所となるよう努めていく。
- ⑤ 日頃の挨拶や振る舞い気配りを大切に、保護者、利用者、来訪者、誰が見ても綺麗な環境、気持ちの良い空間造りをしていき、地域に愛され選ばれる施設を目指していく。

2024年度施設運営missionである「生活力の体得」「10の姿の体得」「子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる物的環境の設定」「命をいただく活動の実践」「自律運営」を意識し、自立した組織を形成していく。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

法人が大切にしている日課、基本保育活動を理解し実践していく中で、つむぎ八山田ルーム・八山田どろんこ保育園が協働し、戸外活動や遊び、生活を通して子ども同士のかかわり、大人とのかかわりを通して、生きる力を身に着けていく。

1	計画・ねらい	インクルーシブな環境の中で様々な経験を積む
	実践予定内容	日課や保育活動から、子どもが主体的に取り組める活動を用意し、個々に合わせた配慮、支援をしていく
2	計画・ねらい	生活力が身につけられるような関わりと、物的環境を整える

	実践予定内容	様々な経験を自らが選択し実行していける環境を用意し、その中で葛藤や Trial&Errorを繰り返し生活力の体得していく
3	計画・ねらい	受け入れられた環境の中で自分の得意を伸ばしていく
	実践予定内容	得意不得意を理解しながら、自分が挑戦できる環境を用意し自信を持って生活できる場を整える

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

保護者が安心して利用させる事ができるよう、コミュニケーションを取り、悩みや課題を一緒に考え利用者のニーズを抽出し、保護者に寄り添った支援をしていく。関係機関との連携を図り、地域全体での支援をしていく。

1	計画・ねらい	保護者へのフィードバックの内容・質の向上
	実践予定内容	子どもの様子をエピソードで話していき、連続した支援の中での成長や課題を保護者様に伝えていく。また、支援しているポイントやアプローチの内容を分かりやすく伝えていく
2	計画・ねらい	事業所内相談支援を活用し、丁寧な保護者支援を行う
	実践予定内容	保護者の意向や気持ちを受け止め、障害の特性や発達各段階に応じて「育ち」や「暮らし」を安定させることを基本に家族支援を行う
3	計画・ねらい	関連機関との連携（関係連携加算）
	実践予定内容	相談支援、保育園、幼稚園と他事業所と連携を図り、地域全体で支援をしていく 小学校、放課後等デイサービスなど就学に向けてのアプローチもしていく

〈3〉地域の子育て支援事業

保護者が安心して子育てができるよう、日頃から保護者とのコミュニケーションを豊かにする。日々の支援を外部に発信し、保護者や地域の方に知ってもらい子育て支援の拠点となる。

1	計画・ねらい	SNS・ブログによる外部への発信
	実践予定内容	活動内容や取り組みを地域に発信し、子育てのヒントや活動内容の見える化を図っていく
2	計画・ねらい	TSUMUGIカフェの周知・園庭開放
	実践予定内容	地域の方が気軽にカフェや園庭に集い繋がる場を提供する 地域の方同士が繋がれる場所を提供

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

子どもの最善の利益を考え、サービスとスキルの向上を図ると共にスタッフ自身の人間力のアップをする。

1	計画・ねらい	保育所保育指針、児童発達支援ガイドラインを理解し支援の内容を充実させる
	実践予定内容	研修会を開き、それぞれの理解を深め、再確認する場を設ける 日々生活の中での支援のあり方を考えていき、個に合わせた手立てを考えていく
2	計画・ねらい	スタッフ一人ひとりが目標設定をしていく中で、自己分析、自己研鑽をしていき、プロとしての自覚を持つ
	実践予定内容	コンピテンシーの追及、MBOにて目標の設定をする。また、都度振り返り面談を行い、目標に対して進捗確認を行う。自身でPDCAサイクルを回していく。
3	計画・ねらい	学ぶ姿勢を持ち、学び続ける集団
	実践予定内容	園長大学・保育士大学を活用しながら自身のスキルアップを目指していく。また研修会で学んだ事を事業所でアウトプットし、また学びに繋げる

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育の実践
	実践予定内容	畑仕事・食材加工・命を頂く活動を行う
2	計画・ねらい	食材の循環サイクルの実行
	実践予定内容	給食調理における廃棄を減らす、残渣の再利用など捨てるではなく有効活動をする。SDGsを意識した取り組み

〈6〉インクルーシブな保育の実践

1	計画・ねらい	多様な子、大人との関わりの中で、受け入れられる経験を積み生活力の体
---	--------	-----------------------------------

		得
	実践予定内容	生活や遊びの中で、友だちや身近な大人から受け入れられる環境の中で、葛藤する経験を味わい、生きる力を身に付けていく
2	計画・ねらい	一人ひとりの成長に合わせた支援内容の充実を図る
	実践予定内容	一人ひとりの特性を理解し、支援の内容を考えその子に必要なアプローチをしていく
3	計画・ねらい	併設園の機能の充実を図る
	実践予定内容	保育園・つむぎ両機能の充実を測り連携の拡充を図っていく 専門性を生かし実践していく

〈7〉食の循環への直接体験

1	計画・ねらい	子ども自らが食材や食の循環・環境への意識を身につける活動の実行を進めていく
	実践予定内容	食育3大方針「調理・保育士・施設長は子どもと一緒に食べる」「噛む力を育て、素材を味わえる状態で提供」「子どもが自分たちで盛り付け・配膳して食べる」ことの実践をしていく
2	計画・ねらい	SDGsを考える場をつくる
	実践予定内容	子ども自らが食材や食の循環・環境への意識を身につける活動の実行を進めていく

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者 | 名
社会福祉士 | 名

作業療法士 | 名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門士による支援技術の共有 ・ 研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う ・ つむぎ内外から講師を招いた研修を行う(適宜)
給食運営会議	月1回	食育会議・アレルギー対応・衛生点検
事故防止委員会	月1回	危機管理・安全対策・検証・研修・ヒヤリハット・インシデント
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援計画作成に伴い、開催時期を調整する ・ 個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する
ルーム会議	適宜	利用者の様子・行事進捗・支援内容の検討
ケース会議	適宜	情報共有・支援内容の検討

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議		障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	グループ全体で給食業務改善を目指し開催する

保健会議	年4回	グループ全体で園児健康管理業務改善を目指し、各園が園会議で検討した事項をもとに開催する。
子育ての質を上げる会議	月1回	テーマに即した実践と成果報告

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	計画の立案・調整・実施
運動会係	計画の立案・調整・実施
生活発表会	計画の立案・調整・実施

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の生活に慣れ、安心して生活を送れるようにする ・戸外活動を通して異年齢や友だちとやり取りを楽しみ、遊びを見つけられるように環境を設定し、丁寧にかかわっていく ・興味関心をもったことに、主体的にかかわり発見を楽しんだり考えたり遊びにとり入れる
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢のかかわりの中で、生活や遊びに達成感や充実感を味わう経験を保証する ・様々な体験を通して感性を豊かにし創造性の芽生えを育てる ・友だちへの興味を広げ、遊びの中で共に育ちあう ・自分で活動を選択し、経験を重ねていく
ビジターグループ	上半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に慣れ、安心して過ごせる場を作る ・見通しを持てるように関わり、身の回りの事を自分で行う ・興味関心をもったことに、主体的にかかわり発見を楽しんだり考えたり遊びにとり入れる ・自らが遊びや活動を選択し、経験を選び取れるようにしていく
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中での簡単なルールや約束を守れるようにしていく ・遊びを通して興味関心を広げ、友だちとのかかわりを増やし、様々な葛藤を味わう ・友だちの様々な考えに触れる中で、自ら判断したり、考えたりし自己決定していく
個別支援		<ul style="list-style-type: none"> ・個々の発達課題に合わせ、就学に向けてアプローチをしていく
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	調理員・保育士・施設長と子どもと一緒に食べる
	実践予定内容	身近な人と食べて美味しいと思う子を育てる
2	計画・ねらい	食べたいもの、好きなものが多い子を育てる
	実践予定内容	食に旬があることを知り、季節を感じながら様々な地域の産物を生かした食事を体験する
3	計画・ねらい	様々な伝統食や行事食を体験する
	実践予定内容	食の循環野菜等の栽培や収穫し自ら食べる

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 1月頃・・・ウイルス性胃腸炎 2月頃・・・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在4名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員3名については4月30日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	AED設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日

	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

安心・安全で活動しやすい環境を整え、その中で一人ひとりが遊びを選択し遊び込める環境の場を作っていく。

室内の整理整頓を心掛け、清掃・消毒・換気を丁寧に行うことで、安全に過ごせるようにする。

1	計画・ねらい	居心地の良い場を創っていく
	実践予定内容	安心でき居心地の良い空間から隣り合う空間(0歳から5歳)の行き来を大切にす。夢中になる場・空間・時間・他者との共有を保障する。ありのままを受け止められている環境を考える
2	計画・ねらい	子どもの興味関心を引立てる環境を設定する
	実践予定内容	子どもの興味関心を察知し必要な環境を設定し、また環境の再構成できるスタッフの育成

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	パーティション	各クラス	毎日

2	丸テーブル	地域の窓	毎日
---	-------	------	----

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災対策	防災：消防計画に基づき、自衛消防隊を編成し避難訓練を月1回実施。震度5弱以上の際は、園が情報を発信安否・施設状況・避難先・を情報共有する体制をとる。また、帰宅困難者対策をふまえ災害に備える。マニュアルの徹底
2	ケガ、事故防止対策	ケガ事故防止 事故防止チェックリスト年4回設備点検年6回を行い事故防止の徹底を図るまた、マニュアルにある園外保育・遊具等の保育士行動指針の徹底を図る インシデント・ヒヤリハット報告の分析 グループ内で状況を共有し日々の保育の中で事故防止策を探る
3	防犯対策	防犯：年2回防犯チェックリストに従い確認し、併せて不審者訓練を実施する。また、訓練は避難訓練確保・不審者撃退・通報の訓練でスタッフ全員を対象とする
4	光化学スモッグ	光化学スモッグ・光化学スモッグが発生しやすい気象条件・影響・光化学スモッグ注意報を把握し発令があった場合は、内容にあった看板・貼紙等を提示する。園児・スタッフは室内で過ごす
5	危機管理	リスク管理委員会によるリスクマネジメント

6. 実習生・中高生の受入

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成し、インクルーシブな現場を体験してもらうことで、地域全体での子育てや社会における福祉サービスを認知してもらう。

保育養成校・専門士養成校の学生の実習受け入れ／一般および学生の各種ボランティアの受け入れをしていく。

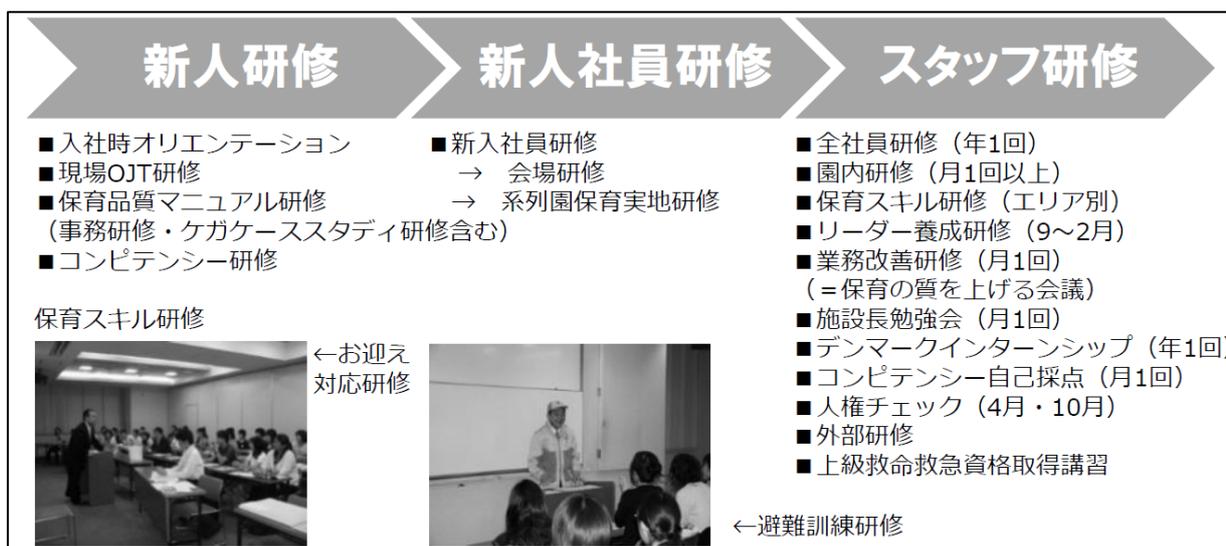
〈1〉今年度の方針・テーマ

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。近隣中学校および高等学校、大学校、専門学校などから実習受け入れ依頼が来るよう、自治体や学校に周知していく。

1	実践予定内容	実習生の受け入れを継続していく
2	実践予定内容	積極的に職場体験を受け入れる

7. スタッフ育成と研修計画

- ① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性を全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法や教材教具の活用、またひとりひとりの子どもに対する支援についてのポイントを全体で共有する。
- ② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「事業所での活動」「親子支援」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招くなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を行う。
- ③ ケース会議：児童個人の支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。基本的には月1回としケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケース会議を希望するがいれば回数を増やし随時開催する。
- ④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を超えた研修会を実施する。
- ⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：一人年間6回を目標とし、課長・施設長で機会の調整し積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。
- ⑥ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、検知を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低1名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。
- ⑦ 朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。



〈1〉 2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月14日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 探求する子どもの姿 ③ リスクマネジメント研修 ④ 虐待防止研修	基本理念を据える 自園の事故から 虐待の定義について
5月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 探求する子どもの姿 ③ リスクマネジメント研修	乳児の遊びのとらえかた・環境の捉え方 指示をしない保育の意識 人数確認・アレルギー確認・ヒヤリハットから
6月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 探求する子どもの姿 ① リスクマネジメント研修	生活を子どもたちが創るとは 自己記録簿からの検証
7月14日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 探求する子どもの姿 ② リスクマネジメント研修	遊びの子どもへのまなざし・子どもの育ち ヒヤリハットからの検証
8月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 探求する子どもの姿 ③ リスクマネジメント研修	子どもにとって安心できる場・伝える場から引き出す場へ 他園の事故記録簿から
9月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 探求する子どもの姿 ③ リスクマネジメント研修	時間・場・空間・仲間から据える マニュアルの再確認子どものエピソードを保護者への伝え方 火・水・土を道具として使う意義の 再確認 他園の事故記録簿から子どものエピソードを保護者への伝え方 火・水・土を道具として使う意義の 再確認 他園の事故記録簿から
10月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 探求する子どもの姿 ③ リスクマネジメント研修 ④ 虐待防止研修	子どものエピソードを保護者への伝え方 火・水・土を道具として使う意義の再確認 他園の事故記録簿から 虐待に関して再確認する。

11月10日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 探求する子どもの姿 ③ リスクマネジメント研修	環境を支えるスタッフの眼差し 他園の事故記録簿から
12月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 探求する子どもの姿 ③ リスクマネジメント研修	チームとして・同僚性と専門性 災害の対応・ヒヤリハット分析・他園事故分析と要因
1月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 探求する子どもの姿 ③ リスクマネジメント研修	保育の中で目指している理由を再考する ヒヤリハット分析・他園自己分析と要因
2月9日	18:00～21:00	来年度の運営方針	策定会議
3月2日	9:00～18:00	策定会議	策定会議

エリア研修予算内訳（八山田どろんこ保育園合同開催）

開催日	予算	予算の内訳		自園負担額
11月1日	25,000円	講師代（交通費含む）	25,000円	25,000円
合計	25,000円			25,000円

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											

全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
デモンクインターシップ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

核家族化や地域のつながりの希薄化、子育ての負担や不安、孤独感が高まっているため、保育園・地域・家庭が一体となって、子ども子育て支援を行い、子どもの健やかな成長を保障できるよう取り組む。地域の方が自由に園を利用し地域の相談しあえる仲間であられるようにとの思いから、月1回「ちきんえっく」を発行し、年間計画のもと地域交流を行う。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：八山田子ども広場公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人施設訪問
異年齢交流	青空保育・体験活動参加・小学校交流
地域拠点活動	子育て相談・地域拠点活動

9. 小学校との連携の計画

- ① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
- ② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
- ③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
- ④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
- ⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援とし

で行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。

- ⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。
- ⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

21世紀の教育の在り方が模索され「小学校学習指導要領」「保育所保育指針」が改訂された。また、子どもの生活の連続性を踏まえ小学校と連携が円滑にいくように連携・接続していく。キーワードになっている「主体的・対話的学び」とへの教育のありかたを具体的に小学校の教諭と共に要領・指針の相互理解を図っていく。以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（土）より開始する。小学校との交流活動（小学校見学・運動会未就園児プログラムへの参加）を通じて小学校との交流を図る。また、幼保小連絡会議への参加を通じての情報交換を行う。また、小学校へのスムーズな接続を実現するために、保育所保育要録送付児童情報申し送りの面談を実施する。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を3月1日（金）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	行健第二小学校 1年	3名予定	交流会（行健第二小学校）	子ども間交流
9月頃	行健第二小学校 1年	3名予定	交流会（当園幼児保育室）	子ども間交流
12月頃	行健第二小学校 1年	3名予定	授業参観（行健第二小教室）	スタッフ間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容に

なっているかどうか、同意を得る。

- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせる。
 ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

児童発達支援管理責任者が、保護者の意向を聞き、子どもの適正、特性を踏まえて適切な支援内容を検討し作成する。また、6カ月以内に1回以上のモニタリングを保護者に実践し、子どもの様子や保護者のニーズ、それに伴う適切な支援を提供する。

〈2〉毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催予定 参加者：6名予定）

策定会議だけでなく、ケース会議を実施することで、子どもへの理解をスタッフ全員で深め、支援の内容を充実させていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

各自治体、関係機関と連携を図り、就学支援シートを作成し小学校への接続をスムーズにすると共に放課後等デイサービスへの接続にも円滑に行う。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30
つむぎカフェ	(月)～(土) 9:00～17:00
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(火) 11:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(水) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：八山田子ども広場にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審受信予定なし

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2025年3月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：9時00分

自己評価終了予定時刻：12時00分

自己評価実施予定者：施設長

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	インクルーシブな保育、支援の実践。子ども一人ひとりが受け入れられ、安心して過ごす中で様々な葛藤を味わいながら成長していける環境
	振り返り	併設している保育園と共にインクルージョンを実践していく中で、個々に必要なアプローチを考えていった。また、経験や葛藤を味わう中で子どもも大人も試行錯誤しながら、その子にとっての最善の利益を考えて行った。支援の質・内容では日々の支援の共有を意識して行く中で時間の捻出に課題が見られ、共有に必要な時間を確保する仕組み作りが大事である

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	外部への発信を積極的に行う。地域に受け入れられた施設を目指す
	重点施策	併設園での実践を外部に発信していき、インクルーシブの重要性を地域に知ってもらう。インクルーシブな環境の中で、TRIAL&ERRORを子どももスタッフも繰り返し、支援の内容を充実させる
2025年度	目指す姿	地域で選ばれる事業所としての確立。県内でのインクルーシブな保育、支援の在り方、併設園のモデル化にしていく
	重点施策	自事業者だけの支援に留まらず、地域と連動しながら支援を行えるよう他機関との連携をしていく
2026年度	目指す姿	国内におけるインクルーシブな施設の代表となる
	重点施策	PDCAサイクルの意識を定着させ、学び続ける集団にする

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 八山田ルーム 施設長 阿久津 祐太

2024年度 発達支援つむぎ 新羽ルーム 事業計画書

1. 基本方針

児童発達支援事業所として、児童発達支援ガイドラインに基づき法人理念である「にんげん力。育てます。」及び保育方針である「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」を鑑みて、併設された新羽どろんこ保育園と共に生活を送り、ひとつの組織として共に協力し合いながらインクルーシブ保育を推進していく。

施設全体で大人も子どもも主体的・意欲的に生活していくことを目指す。子どもたちがたくさんの人と触れ合い、ぶつかり、協同して活動する中で自分を大切にしながら遊び、生活、労働を安心して行える環境を作る。異年齢、インクルーシブな環境で人と関わり、他者に自分の気持ちを伝えることや気持ちをコントロールする力を育む。戸外活動を通して五感を刺激し、様々なホンモノの体験や継続した活動を行い、「やってみよう」と挑戦する心を大切にしていく。乳幼児期の今を大切にしながら未来の小学校や社会生活を見据えて必要な力を体得できるような環境、経験を行うべく適切な距離を保って活動を行うことやひとり一人が責任と行動力をもって実践していく組織の土台を作っていく。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	戸外活動の充実を図り、子どもたちが主体的に活動に参加する。
	実践予定内容	子どもたち自身が行きたい散歩先や遊びたい道具の選択を行い、「したいと思う活動」「できる活動」を行える環境設定を行う。 大人も一緒に自然の中で体をたくさん動かし、継続した遊びを行うことで遊びの発展や好きな遊びの幅が広がり夢中になって活動できる環境を作る。 支援のねらいを明確にし、情報共有を行う。特に畑活動に力を入れ、食育活動を行う。
2	計画・ねらい	好きなこと、興味のあることを探求する。
	実践予定内容	自然物や人との関わり、ホンモノの体験を通して好きな活動を見つけ、探求できるように経験機会を作る。 子どもの選択や表現を受け止め、丁寧に応答することで自己肯定感を高め、新たな経験に広げられるようにする。
3	計画・ねらい	他者と過ごす時間を深め、子ども同士のやり取りが広がる。
	実践予定内容	様々な大人や子どもと信頼関係を築き、安心して生活できるように寄り添いながら大人が適切な距離で支援を行い、子ども自らが他者と関わるきっかけづくりを行う。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者同士で関わりを持てるよう、保護者同士の交流を深める場所を提供する。
	実践予定内容	月に1度は保護者参加行事を実施し、保護者同士の交流のきっかけづくりをする。年に3回保護者のみでのおはなし会を実施し、就学や就園、日々の生活での困りごとなどテーマを決め保護者同士で情報共有する場や話す機会を作ることによって保護者同士の交流を深める機会を設ける。
2	計画・ねらい	子育ての悩みや不安を相談しやすい場所となるよう受け入れやフィードバック時に丁寧でわかりやすい会話をし、事業所内相談支援を必要に応じて実施する。
	実践予定内容	受け入れや帰りのフィードバック時に保護者の悩みや不安に寄り添い、安心して通えるような関わりを行う。必要に応じて事業所内相談支援を行い、落ち着いた環境で日々の様子を聞き取ることで不安や悩みに寄り添い保護者支援を行う。
3	計画・ねらい	地域の中で生活するため、保育園・幼稚園への移行支援や相談支援、小学校との連携を行う。
	実践予定内容	今の姿から想像できる将来の姿を保護者と共に考え、未来を見据えた生きる力を育む。保護者の同意のもと、保育園・幼稚園見学を実施し、子どもの様子の共有や困りごとへの相談支援を行う。また、地域の小学校に訪問し、小学1年生の姿を見て知り、就学相談につなげていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域の子育て支援事業所として地域に開かれたルーム運営を行う。
	実践予定内容	ルームパンフレットに園庭開放やちきんえっぐの情報を記載し、ルーム見学時や電話での問い合わせがあったときに案内する。
2	計画・ねらい	地域連携会議に参加し、情報を地域に発信していく。新規利用者獲得に向けて支援のねらいや支援内容をブログで外部に発信する。
	実践予定内容	地域連携会議に参加し、ルームの情報を発信する。参加が難しい場合には併設園の新羽どろんこ保育園に情報発信を依頼する。ドキュメンテーションを作成し、子どもの様子やスタッフの関わりを整理し、ねらいや今後の展開を明確に記入し、ブログの内容を深める。
3	計画・ねらい	誰が見ても気持ちの良い環境を目指すため、清掃や整理整頓・挨拶を行う。
	実践予定内容	来園者には手を止めて挨拶をし、丁寧に親切な対応を心掛ける。月に1度は環境を振り返ることや清掃・整理整頓は第三者目線で確認をし、誰が見ても気持ちの良い環境にする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	インクルーシブ保育の中でのより良い支援を考え、実践し、学びを深める。スタッフ間の情報共有を自主的に行い質の高い支援につなげる。
---	--------	-----------------------------------------------------------------

	実践予定内容	保育所保育指針と児童発達支援ガイドラインの内容の理解を深め、実践する。アセスメント評価を継続的に繰り返し、日々の活動に落とし込むためにスタッフ間の情報共有を日報だけでなく昼礼または終礼を用いてスタッフ間の情報格差をなくし、自らが主体的に必要なことを考え支援にあたることができるスタッフを目指す。
2	計画・ねらい	子どもの気持ちに寄り添い、子どもに必要な言葉かけや関わり、見守る距離感を見極めることができるスタッフを目指す。
	実践予定内容	子ども同士の育ちのためにどのような関わりが必要かを検討し、適切な距離で支援を行う。ブログやドキュメンテーション、リフレクションを用いて周囲のスタッフと共に支援を振り返り、支援の内容を高める。
3	計画・ねらい	来園者がまた来たいと思えるような接遇マナーを身に着ける
	実践予定内容	保護者や地域の方が来園した際に笑顔で挨拶をすることや丁寧な対応を心掛け、気持ちの良い環境を目指す。問い合わせがあったときにいつでも対応できるよう、ルームの説明や案内を行えるようにする。日々のフィードバックや面談で保護者に合わせた伝え方を意識する。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	畑・食育活動の学びを深め、調理活動を通して食材加工を知る。
	実践予定内容	畑・食育活動の勉強会を行い、実施するための知識を増やす。子どもだけでなくスタッフ自ら活動を行えるようになる。畑で育てた食材を使用した調理活動を行い、食材の加工を学び継続した活動になるように計画を立て実施する。
2	計画・ねらい	自然の恵みとして食材や食の循環教育
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・畑を耕す、種を植える、生長を見守り世話をし、収穫する、加工する、食べるまでを子ども自身が経験することで食の循環を知る。 ・近隣園と共に鶏を絞めて食す、命をいただくことの意味を知る活動を実践する。
3	計画・ねらい	残菜のリサイクルややぎの糞の堆肥化をし、畑に還元する
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・調理過程での廃棄食材ややぎの糞の堆肥化を行う。 ・給食残差の統計と食への興味への繋げ方の検討し、子どもと共に食の循環について考える機会を持つ。

〈6〉畑、調理活動の充実

1	計画・ねらい	年間を通して植物や食物を育てる。 マンスリー・ビジターともに畑活動を行う時間を取り入れ、全員で育てていく。畑仕事を行い新羽の強みにすることでルームの特徴にする。
---	--------	-------------------------------------------------------------------------------------

	実践予定内容	畑係を中心に土づくりや耕作に必要な知識を学ぶ。 実践を通して活動記録に残し、掲示する。 つむぎ新羽全員で実施する仕事の意識を高め、毎日短時間でも活動を行う。畑まで行けないときにはプランターを活用する。 失敗や成功から得られたものを子どもたちと振り返り、次年度の活動につなげる。
2	計画・ねらい	調理活動を行う。 継続した活動になるように計画を立てることから子どもたちと一緒にを行う。点ではなく線の支援になるように畑活動に力を入れ実践し、支援の質を高めていく。
	実践予定内容	日々の支援や体験学習につなげられるように、子どもと一緒に計画を立て、実践する。保育園と共に食物を育て、収穫し、食べる喜びを経験する。食べたいもの、作りたい料理などから育てるものを選ぶなど子どもたちが目的をもって活動できるように内容の工夫を行う。

〈7〉インクルーシブ保育の充実

1	計画・ねらい	情報共有を密に行い、子どもの理解を深める。
	実践予定内容	クラスの振り返りやケース会議を行い、双方の子どもたちの発達や特徴の情報共有を行う。一日を通じて保育園・つむぎスタッフが分け隔てなく関わり、双方の役割を担いながら協力する。全員で子どもの成長を見守る意識をつける。
2	計画・ねらい	お互いを尊重し、共に活動する意識をつけ、双方の理解を深めながら環境を工夫し、新羽でできるインクルーシブ保育とは何かを考える。
	実践予定内容	散歩先や遊び道具の環境構成を一緒に考え、子どもたちが安心して遊びこめる環境を作る。 月に一度新羽の現状を振り返り、課題整理や強みを見つける。翌月に向けた取り組みを決め、新羽で行っているインクルーシブ保育についてスタッフ一人ひとりが話せるようになる。
3	計画・ねらい	将来を見据えたねらいについて保育園スタッフと共通認識を持てるよう目指したい姿について考察を深める。
	実践予定内容	支援計画作成時に保育園スタッフと将来の目指したい姿について話し、共通の認識を持つ。子どもたちのよりよい未来のために就学後の姿などを見据えてねらいを決める。 地域小学校との連携を行い、情報を共有する。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

保育士1名

機能訓練担当スタッフ3名（言語聴覚士1名、作業療法士1名、臨床心理士1名）

児童指導員1名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設 け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	給食内容、食事形態などの意見交換を行う。
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット報告書の共有、インシデント・事故報告書の改善策を検討する。
支援計画策定会議	適宜	・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	月1回	要支援児のケース検討を行う。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど

施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議		障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	食育の推進、意見交換、取り組みの共有
保健会議	年4回	健康増進、アレルギー、感染予防
子育ての質を上げる 会議	月1回	ミドルリーダーとしての質上げ、園全体への質上げの研修

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかの飼育管理、ビオトープ作成の指揮、動物や植物に触れる機会の検討立案
体験学習係	体験学習の計画立案、実施

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者と協働的に準備・進行を行う。
運動会	併設園スタッフとして準備・進行を行う。保護者にも参加していただき子どもの日々の成長を見てもらう。
生活発表会	併設園スタッフとして準備・進行を行う。保護者にも参加していた

だき子どもの日々の成長を見てもらう。

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー (乳児)	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園児と生活を共にし、つむぎでの生活の流れを覚え自分で選択し、実施する土台をつくる ・ スタッフとの愛着形成を行い、安心して過ごせるようになる ・ 戸外活動を通して身体の土台作りを行う ・ 他者への興味・関心を育てる
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他者と関わる楽しさを味わう ・ 自分の気持ちを他者に伝えようとする意欲を育む ・ 戸外活動を通して身体の土台作りを行う
マンスリー (幼児)	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸外活動を通して自然と触れ合い、豊かな心と体を育てる ・ 保育園児と過ごすことや異年齢の関わりの中で他児と遊ぶことを楽しむ気持ちを育てる ・ 自分の気持ちを表現しようとする意欲を育む
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異年齢での関わりを通してルールを理解や遊びなど他児との関わりを深める ・ 自分で選択し、考え、行動できるようになる ・ 様々な体験、経験を通して豊かな感性と表現を育てる ・ 困ったときには自分から他者に助けを求めることができる力を育てる
グループ支援	1年間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸外活動を通して自然と触れ合い、豊かな心と体を育てる ・ 異年齢の関わりの中で役割分担をしながら活動に主体的に取り組む ・ 見立て遊びやルール遊びを通して他児との関わりを深める
ロンググループ支援	1年間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸外活動を通して自然と触れ合い、豊かな心と体を育てる ・ 異年齢の関わりの中で役割分担をしながら活動に主体的に取り組む ・ 見立て遊びやルール遊びを通して他児との関わりを深める
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「相談支援記録」を作成
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用

関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	畑仕事を通して、食べ物への興味・関心を広げる
	実践予定内容	土を耕し、種を植え、水をあげ、成長を観察し、育ったものを収穫し、調理をして食べる一連の流れを体験し、食べ物への興味・関心を広げる。
2	計画・ねらい	他児と共に食事をする中で、食事への意欲を高める
	実践予定内容	他児と一緒に食べる楽しさを味わい、相手の食べている物への興味や食具の使い方、椅子の座り方などへの関心を高める
3	計画・ねらい	食育活動を通して、五感を刺激し、感性を豊かにする
	実践予定内容	調理活動の中で視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚を使い、様々な感覚を感じる。食材の加工を通して、形や色の変化などに気づき、感性を豊かにする。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
児童への保健指導・取組等	外出後や飲食前の手洗い・うがいの習慣づけを行う
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～9月頃・・・手足口病・咽頭結膜炎・ヘルパンギーナ・とびひ 11～3月頃・・・インフルエンザ・ウイルス性胃腸炎・RSウイルス感染症・ノロウイルス
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ・・・預かりなし

エピペン使用できるスタッフ	本日現在6名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員●名については●月●日までに受講予定
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	本日現在6名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員●名については●月●日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、手洗い指導・うがい指導を行う。また消毒・換気を徹底する。室内の湿度管理を行う。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもがやりたいこと・遊びたい場所、ものを選び主体的に戸外活動に参加する。
---	--------	---------------------------------------

	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩先の選択や何を持っていき遊ぶかなど子どもたちが自分たちで考えられる働きかけを行う ・子どもたちの興味・関心に対応できる環境づくりを行う ・季節ごとに室内、園庭の環境を見直し、子どもの発達に合わせた環境にできるよう、保育園スタッフと意見交換を行いながら環境整備をする
2	計画・ねらい	子どもたちが安全に遊べる環境の確保
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが遊ぶ場所に危険物がないかの確認を行う ・ヒヤリハットにつながるものを職員が把握し、行動、環境の改善を速やかに行う ・保育園スタッフと連携し、居場所の把握を行い好きな場所で遊べる環境を作る

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	のぼり棒	園庭	毎日
2	ロフト	乳児室	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	非常災害時の対策として、消防計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練実施
2	実践予定内容	防災設備点検実施
3	実践予定内容	年2回の不審者訓練実施
4	実践予定内容	ヒヤリハット、インシデント、事故記録簿記載による事故防止 事故防止委員会による検討会議
5	実践予定内容	園内外のハザードマップによる危険箇所の確認と安全確認の周知
6	実践予定内容	光化学スモッグ発生時には、自治体などから発信される情報を集約し、戸外での活動を控える

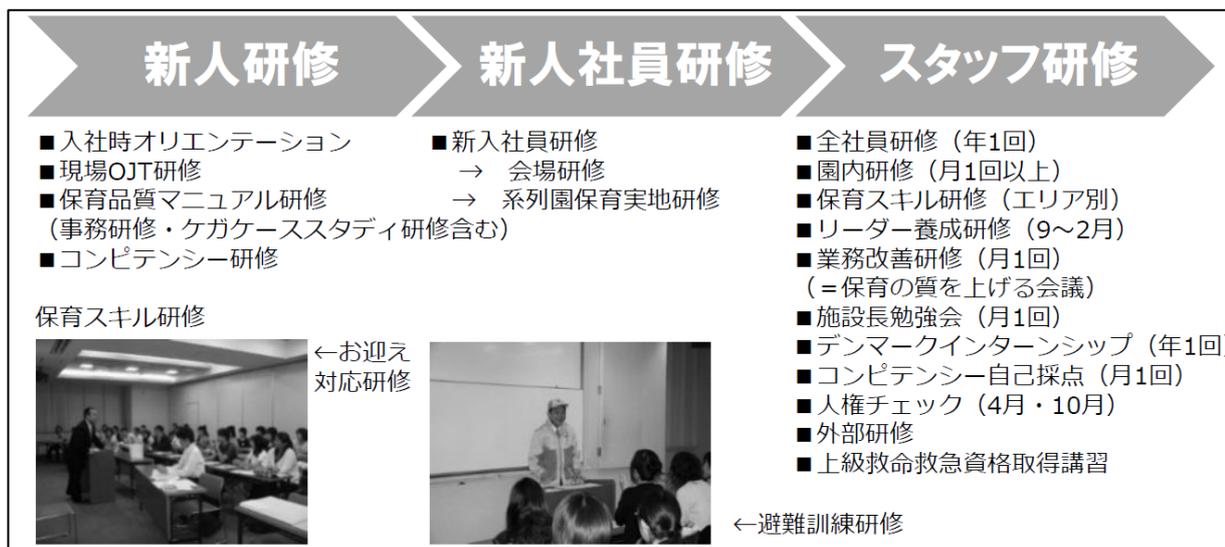
6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

児童発達支援事業所として次世代育成の観点から、積極的に実習生やボランティアの受け入れを実施し、一人ひとりに応じて保育・福祉の現場で活躍する人材育成を実施する。また、地域に根付いた開かれた事業所となるよう、積極的に受け入れを実施する。

1	実践予定内容	中高生の職場体験の受け入れを行い、施設を知ってもらう
2	実践予定内容	保育養成校・専門士養成校の学生の実習を受け入れ、学びを深める場とする。

7. スタッフ育成と研修計画



- ① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性を全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法や教材教具の活用、またひとりひとりの子どもに対する支援についてのポイントを全体で共有する。
- ② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「事業所での活動」「親子支援」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招くなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を行う。
- ③ ケース会議：児童個人の支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。基本的には月1回としケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケース会議を希望するがいれば回数を増やし随時開催する。
- ④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を越えた研修会を実施する。
- ⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：一人年間6回を目標とし、課長・施設長で機会の調整し積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。
- ⑥ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、検知を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低1名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。
- ⑦ 朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。

〈1〉 2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ケガのケーススタディ ③ 虐待防止研修 ④ 危機管理	・ケガのケーススタディ ・子どもの人権、虐待の定義 ・マニュアル確認（危険箇所、危険場面の共有）
5月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育計画、個別支援計画 ③ 園外保育リスクマネジメント	・保育計画・個別支援計画の手順、 ・ねらいと環境 ・散歩ロープレ①
6月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理 ③ 10の姿	・プール事故防止訓練 ・水遊び時のリスクを想定した危機管理、夏の遊びと熱中症対策 ・10の姿の理解
7月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿 ③ 応答的な関わり	・10の姿の理解 ・子どもの育ちを考える
8月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿 ③ 運動会に向けて	・10の姿の理解 ・一人ひとりが主役になるは運動会とは
9月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿 ③ 園外保育リスクマネジメント	・10の姿の理解 ・散歩ロープレ② ・子どもの行動を予測して行動する（子どもの育ちの振り返り）
10月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 虐待防止研修 ③ 10の姿	・10の姿の理解 ・子どもの人権、虐待の定義 ・子どもを真ん中にした保育とは
11月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 生活発表会に向けて	・一人ひとりが主役になる発表会とは
12月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年度の振り返り（事業計画の振り返り）	・年間の振り返り①（事業計画、行事、係、クラス）
1月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年度の振り返り	・年間の振り返り②（前月の確認と次年度に向けての課題抽出）

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
デモンクインテンシブ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に開かれた子育て支援事業所として、併設園である新羽どろんこ保育園と共に地域に根付いた支援を実施していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：新田公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域にある高齢者施設との関わりを設定。

異年齢交流	併設園と共に異年齢児で支援・保育を行う。
地域拠点活動	近隣商店街や近隣保育園との関わりを実施。

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

就学支援シートを活用し、児童発達支援が行ってきた支援内容、子どもの特性や状況、配慮事項など小学校生活がより豊かになるように情報提供に努める。放課後等デイサービスを利用する際には、保護者の同意を得たうえで放課後等デイサービス計画が適切に計画されるよう、必要な情報提供や助言を行う。地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで関係機関や団体と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月22日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	新羽小学校	2名予定	小学校へスタッフが訪問する	地域の小学校を知る
7月頃	綱島小学校	2名予定	小学校へスタッフが訪問する	地域の小学校を知る
10月頃	新田小学校	2名予定	小学校へスタッフが訪問する	地域の小学校を知る

10. 個別支援計画の作成と更新について

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

6か月に1度モニタリングを保護者と行い、支援内容の振り返りや保護者・子どもの希望、困りごとなどを聞く。児童発達支援管理責任者が中心となり、策定会議を実施し個別支援計画の作成・見直しを行う。

〈2〉毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催予定 参加者：6名予定）

担当者が実施したいケースを選び、スタッフ間で子どもの状況を話し合い、考察する機会をつくる。子どもを真ん中に併設園スタッフを含めたチームで考えることで子どもに対する考察を深め、広い視野で支援していく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

保護者の同意を得たうえで、進級する幼稚園・保育園・小学校等の関係機関に情報提供を行う。必要に応じて関係機関への見学・相談を行い、助言を行う。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月) ~ (土) 9:30~16:30
つむぎカフェ	(月) ~ (土) 9:00~17:00
子育て相談	(月) ~ (土) 13:00~16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(火) 10:00~12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(木) 10:00~12:00
勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:新田公園にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年5月1日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 10時00分

自己評価終了予定時刻: 11時00分

自己評価実施予定者: 内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月までに目指した姿	重点施策	支援の質の向上
	振り返り	支援に入ったスタッフが午前中の活動の振り返りを併設園スタッフと共に行い、子どもの遊びの継続や翌日の活動場所の選択につなげることができた。併設園施設の環境の中で子どもにとってよりよい支援は何かを考え、子どもとの距離感を大切にしながら子ども同士で関わるための援助とは何かを試行錯誤し実践した。戸外活動の実践におけ、子どもの選択をどのように広げられるか支援内容を考え新羽の環境を生かした支援を行う意識が高まった。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

24年度	目指す姿	支援の質の向上と自ルールの強みの強化 保育園と共にインクルーシブ保育の実践
	重点施策	一人ひとりのスタッフが自ルールの強みに自信を持ち、支援・保育の実践を行う。ルーム・併設園での振り返りの時間を作り、併設園スタッフとしてのスキル向上を図る。子どもが安心して遊び、生活、労働を行える環境を作る。
25年度	目指す姿	インクルーシブ保育の質の向上
	重点施策	新羽で行っているインクルーシブ保育の強みを発信する。互いの業務理解を進め、新羽のインクルーシブとはどんな形かを明確にしていくことで子どもたちの育つ環境の土台を安定させる。
26年度	目指す姿	地域との交流、浸透
	重点施策	新羽の取り組みを地域に発信し、選ばれる場所になる。小学校や地域との交流機会を増やし、社会に出ても子どもたちが安心できる場所をつなげてく。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 新羽ルーム 施設長 吉田 侑加

2024年度 発達支援つむぎ 生田ルーム 事業計画書

1. 基本方針

当法人の理念「にんげん力、育てます」、基本方針「センスオブワンダー」「人対人コミュニケーション」を前提として、2024年度の運営本部ミッションを指針として運営する。またつむぎ生田ルームが開所以来大切にしている、「生活の延長線上の支援」「10より100の経験を」「子どもたち自ら選び思考して行動する」この3点を支援の軸としながら、今年度の基本方針とする。

子ども一人ひとりの発達過程を十分に理解したうえで、これから育とうとする心情や意欲を見極め、必要な経験が提供できる環境を用意する。また大人が事前に危険を取り除くことなく、子どもたちが意欲的に取り組みたいと思える活動内容を複数設定する。

地域社会でのインクルーシブ保育の実践を増やし、人と関わりながら学びを深め、地域に根差し開かれた施設となるよう努める。

また仕事や日々の調理活動を実践するだけでなく、自分たちが生きていくために必要な「食」のために、労働や生き物を育てる必要があり、食材や食がどのように循環しているのかを伝え、知る経験ができる環境を用意する。そのためにも大人も「命をいただく」経験をし、子どもたちと実践する。

保育所等訪問支援では、子どもたちに関わる大人たち全員が共通理解できるように、訪問先の園や学校、家庭との連携を密に行い、必要な支援を実践する。子どもたちの気持ちやペースを大切にしながら、集団での過ごし方のサポートを行う。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	計画：子どもたちが主体的に選びとれる活動内容の充実 ねらい：自分で考え行動できる環境設定
	実践予定内容	畑仕事や日課活動に取り組みながら、子どもたちの発達過程を見極めた活動内容を複数用意し、選び取れる環境構成をおこなう。 また実施した環境構成に対しての子どもたちの様子を含めた、振り返りを行い、次回の支援に活かせるよう学びのある内容を意識する。 火・土・水に関わる活動や伝統的な遊びや文化、食育活動を実施するために、まずは大人が経験し学ぶ。危険なものとの距離の取り方や道具の適切な使い方などを見せ、子どもたちが意欲的に取り組みたいと思える環境を用意する。
2	計画・ねらい	計画：食材や食の循環を知る食育活動の実施 ねらい：食や食材が循環していることを知り、命の尊さや食を大切にする気持ちを育む。
	実践予定内容	日本の四季や行事にまつわる調理活動を実施し、食事や食材に込められている意味や願いを伝えていく。また鶏や生き物の世話ができる環境を作り、命をいただく為に必要な労働を行ったうえで、鶏を絞めて食す「命をいただく活動」を実施する。食や食材が循環していることを知り、命の尊さや食を大切にする気持ちを育む。
3	計画・ねらい	計画：地域社会との交流。

		ねらい：人と関わり、働くことの楽しさを知る
	実践予定内容	商店街ツアー、職業体験、地域行事に参加し、地域の中で生活していることを知れる活動の実施。作って終わりにするのではなく、つむぎ祭りや地域参加型イベントを開催し、地域の人を招き、子どもたちが振る舞い、おもてなしすることで、働くことの楽しさを知る体験ができる取り組みを行う。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	計画：事業所内相談の実施 ねらい：子どもの発達の共通理解を深め、保護者の不安感の軽減ができる場となる
	実践予定内容	日々の子育てや支援についての悩み等、全保護者に月1回事業所内相談の提案をおこなう。希望する利用者が年度内に2～3回以上、事業所内相談を実施できるように設定する。
2	計画・ねらい	計画：保育所等訪問支援、関係機関連携 ねらい：関係機関や家庭と密な情報共有を行い
	実践予定内容	長期休暇明けや入学就学等にもなう環境の変化がある月の前後で、全保護者に保育所等訪問支援を周知する。所属する母集団や家庭との連携を密に、子どもに関わる大人たち全員で共通理解し支援を実施する。
3	計画・ねらい	計画：保護者交流会、保護者勉強会 ねらい：保護者同士が繋がれる、学べる場の設定
	実践予定内容	年4回保護者交流会を実施。子育てに関する共通した話題や就学に向けて等、回毎にテーマを設定する。またその交流会の中でアンケートを実施し、子育てに関する講座等を年2回開催し学べる環境を用意する。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	計画：毎月の発達相談会の開催 ねらい：発達相談会を開催し地域との繋がれる場を作る
	実践予定内容	ルーム内で毎月の発達相談会を開催。また法人内外でも出張発達相談会を年4回実施する。定期的に相談会を設け、子育てをしている保護者が、安心して悩みや困り感を話せる環境と作る。
2	計画・ねらい	計画：青空保育 ねらい：地域の子育て世代と交流しながらともに、子育ての時間を共有する。またつむぎを知ってもらい、相談会に気軽に参加できるきっかけとなる
	実践予定内容	引き続き、毎月第4土曜日の11：00～11：30に生田緑地で行う。絵本の読み語り、手遊び歌やさくらさくらんぼリズム体操、季節の製作などを開催時期によって内容を変えながら実施する。また、参加者に当事業所のパンフレットを渡して、発達相談やカフェ利用のアナウンスを行う。
3	計画・ねらい	計画：SNS、ブログによる発信 ねらい：活動内容を広く地域社会に伝え、つむぎへの関心度の増加へと繋

		げる。
	実践予定内容	自施設での活動内容、利用者の様子、行事のアナウンス、利用の空き状況、月1回のブログ、週2～3回のSNSで発信をおこなう

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	計画：小学校を知る ねらい：小学校の学び、就学先を知る
	実践予定内容	年間を通してルーム会議で小学校学習指導要領、アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムを学ぶ。利用児の発達年齢に応じて、アプローチカリキュラムの視点を入れながら、小学1年を見据えた支援を行う。また全スタッフが各利用児の就学先に出向き、授業参観や学校の様子を知る環境を設定する。
2	計画・ねらい	計画：保育所保育指針の学び ねらい：子どもたちの発達過程を理解し、適切な時期に適切な関りができる
	実践予定内容	各年齢の発達の特徴を理解する。また年齢に囚われて支援するのではなく、一人ひとりの発達過程を見極め、必要な関りや活動についてスタッフ全員が考え、共通理解したうえで実践し、支援の質の向上に努める
3	計画・ねらい	計画：子どもの発達と食育についての関係性を知る ねらい：食と発達の関連性を知り、食育の大切さを理解する
	実践予定内容	年齢や発達にともなったねらいや調理形態を知り、食への関心が高まる活動について考える。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	計画：子どもたちと取り組むSDGs ねらい：「衣」について考え、作り、形にする。
	実践予定内容	昨年度から1年間大人たちが学んだSDGsを、今年度からは子どもたちに伝えて、ともに実践していく。「衣」を1年間のテーマとして、学び、体験し、紡ぎ、形にする活動内容を用意する。
2	計画・ねらい	計画：公共施設や活動のなかで、身の回りの資源について ねらい：身の回りにある生活資源について知る
	実践予定内容	普段生活していく中で必要な、火・水・電気はどのようにして私たちの暮らしに届いているのかを活動の中や、公共施設を利用しながら学ぶ機会を設定し、資源を大切にすることを育む。
3	計画・ねらい	計画：災害についての備えを知り、身に付ける ねらい：命を守る、生き抜く力を育む
	実践予定内容	近年自然災害が多く怒っているなかで、子どもたち自身が発達に応じて、自らの命を守る行動をとれるように、避難訓練時や活動のなかで安全のための決まりを知り守ることや日々の備えの大切さを伝える。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 5人/日

放課後等デイサービス 5人/日

〈2〉開所時間

9時00分～18時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

保育士2名

機能訓練担当スタッフ1名 (心理士1名)

児童指導員2名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシーの先月振り返り及び当月の自己採点を行う。また、当月の取組目標を決める。 ・事例検討(ケース会議)を行い、課題や支援内容などの課題を整理して、支援方法を検討する。 ・毎月のテーマに沿った研修及び勉強会を行う(7.スタッフ育成と研修計画 参照)
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・当月に起きた事故、インシデント、ヒヤリハットの原因分析と対策を検討する。
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
虐待防止委員会	9月 2月	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待の定義(法人の定義を含む)を知り、虐待防止に向け

		た支援員としての行動を考える。
--	--	-----------------

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	年4回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	食育計画の振り返り、実践報告
保健会議	年4回	衛星、感染症マニュアルの確認、検討、実践報告
子育ての質を上げる会議	月1回	コンピテンシー実践の共有、テーマに即した実践の共有と振り返り、エリア内での情報共有

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	年間畑仕事の計画立案及び実施、調整 読売ランド前保育園の畑の整備、管理、読売ランド前保育園との畑仕事の連絡調整 プランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	動物や植物に触れる機会の検討立案
広報係	SNS及びブログの発信、外部への発信

環境実践及び備品管理係	環境取組みの実施、美観取組み、備品及び在庫管理
外部連携調整係	外部機関への挨拶回り、当事業所の宣伝

〈4〉 行事別係の設置

係名	職務内容・役割
体験学習係	体験学習の立案、計画、実施、振り返り
読売ランド前どろんこ保育園 主催どろんこ祭り係	読売ランド前保育園との連絡調整、稟議申請、計画及び準備、実施、振り返り
地域向け企画係	青空保育、地域の子育て相談会、地域向けの企画計画、実施、振り返り
保護者交流会	保護者会の立案、計画、実施、振り返り

4. 支援方針

〈1〉 基本方針

放課後デイサービス 不登校支援	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での疲れを癒しながら、子どもが自分のしたいことに没頭できる安全な場所としての役割を果たす。 ・日課活動や調理活動を行い、活動が選択できる環境の中においても「自分ですること」の意識を持つ。 ・利用児にとって無理のない範囲で登校に向けて、学校や関係機関と連携を行う。その一方で、当施設が安心して過ごすことができる場所としての機能を保つ。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児の主体性を受け止めながら、地域の方や他児者との関わりを増やし、豊かなコミュニケーションを育む。 ・地域での活動の中で、職業体験や地域交流を増やし社会性を育む。 ・畑仕事や食育を行い、労働の意味を理解し取り組む。
午前グループ	上半期 2～3歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい友達や環境に慣れる ・安心して過ごす場所としての役割を果たす。 ・生き物の世話や畑仕事、食育・調理活動などを行い、生き物や食材に触れる
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・友達を意識することで、遊びや興味の幅を広げていく。

	2～3歳児	・自分の気持ちを自分なりに表出する場を増やしていく
午後グループ	上半期 3～5歳児	・新しい友達や環境に慣れる ・安心して過ごす場所としての役割を果たす。 ・生き物の世話や畑仕事、食育・調理活動などを行い、生命の尊さ、食や食材の循環を知る。
	下半期 3～5歳児	・子ども同士で遊んだり、話したりできる環境を用意し、豊かなコミュニケーションを育む。 ・子ども一人ひとりの表現方法で自分の気持ちを他者に伝えることができる。 ・畑仕事、生き物の世話を子どもたちが自ら進んで行う。
事業所内相談支援	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	計画：放課後等デイサービスの食育・調理活動 ねらい：食や食材の循環を理解し、自分を含めたすべての命を大切にすることを養う。食事の大切さや食事の選び方について理解する。調理過程を理解し、生活の中に取り入れる。
	実践予定内容	調理するために必要な買い物や食具の準備、盛り付け、片づけも調理の一環であることを知り、子どもたちの発達過程に合わせたメニューや活動内容を組み立て、子どもたちが意欲的に取り組める環境を用意する また食べた物で自分の身体が出来ていることを知ることができるよう、食材がもつ栄養や食事やおやつの選び方を伝える。 生き物の世話から鶏を絞めて食す経験ができる環境を用意し、生命を尊重する気持ちや食、食材の大切さを知る。
2	計画・ねらい	計画：児童発達支援（乳児）の食育・調理活動 ねらい：様々な食べものを見る、触る、食べる経験を通して自分で進んで

		食べる楽しさを知る
	実践予定内容	プランターや畑で育てた野菜を観察、収穫、調理し、食材に興味を持てるよう、子どもたちの発達過程を理解したうえで、調理活動を行い、子どもたちが進んで食べる意欲を育む。 また生き物と関わり、世話をする経験ができる環境を用意する。
3	計画・ねらい	計画：児童発達支援（幼児）の食育・調理活動 ねらい：他者と食べる楽しさを味わう。身近な食材を使って調理を楽しむ。食を通じて命の大切さ、循環を知る。
	実践予定内容	友達やスタッフと一緒に作り、食べる楽しさを実感できる環境づくりを行う。 経験から食べる意欲、作る意欲へと繋がれるよう、畑仕事で野菜を育て、その収穫物を使って調理活動を行う。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～8月頃・・・手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱（プール熱）、流行性角結膜炎（はやり目）、伝染性軟属腫（水いぼ）、伝染性膿痂疹（とびひ）、アデノウイルス感染症など 11～2月頃・・・溶血性連鎖球菌感染症、ウイルス性胃腸炎、RSウイルス感染症、インフルエンザなど
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在7名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	設置なし
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日

	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	計画：自施設の環境設定 ねらい：子どもたちが自ら選び取れる環境
	実践予定内容	「好き」「たのしい」の探索ができる複数の環境や活動内容を用意する。活発に活動するエリア、静かに落ち着けるエリアをつくり、子どもたちが過ごしたい場所を選択できる環境づくりをおこなう。
2	計画・ねらい	計画：カフェの環境設定の見直し ねらい：居心地のよいカフェをつくり、保護者や地域の利用者の憩いの場となる
	実践予定内容	本、掲示物、音楽、季節感のある植物を設置し、日々の育児や仕事から離れ、一息つける場所になるよう改めて環境設定をおこなう。
3	計画・ねらい	計画：地域資源の活用 ねらい：地域を知り、地域に認知される
	実践予定内容	地域で働く人や場所に親しみをもち、地域で生活していることを意識できるように、商店街ツアーや近隣の保育園、小学校と交流するなどの活動を行う。

〈7〉 手作り遊具安全点検計画

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災への対応	地震や火災、河川の氾濫などを想定して月1回の避難訓練を行う。訓練の実施前計画、実施後の反省、次回の課題などを話し合い、スタッフ全員が防災の意識を高める。また、防災に関する活動を支援内で行うなど、子ども及び保護者も防災への意識が高まることを期待する。
2	ケガ事故防止の対応	活動前にはミーティングを適宜行い、予想されるケガやその対応について話し合う。また、ヒヤリハットをスタッフで出し合い、事故を未然に防ぐ物的及び人的環境や活動場所の検証を行う。
3	防犯防止への対応	不審者訓練を年2回行う。笛の所持、インターホンの確認、ドアロックの解除、施設周辺の点検、合言葉の確認を適宜行う。
4	光化学スモッグ	光化学スモッグの知識を身に付け、自治体からの注意情報を把握する。また、光化学スモッグ注意報が発令された場合は室内で活動する。

6. 実習生・中高生の受入

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

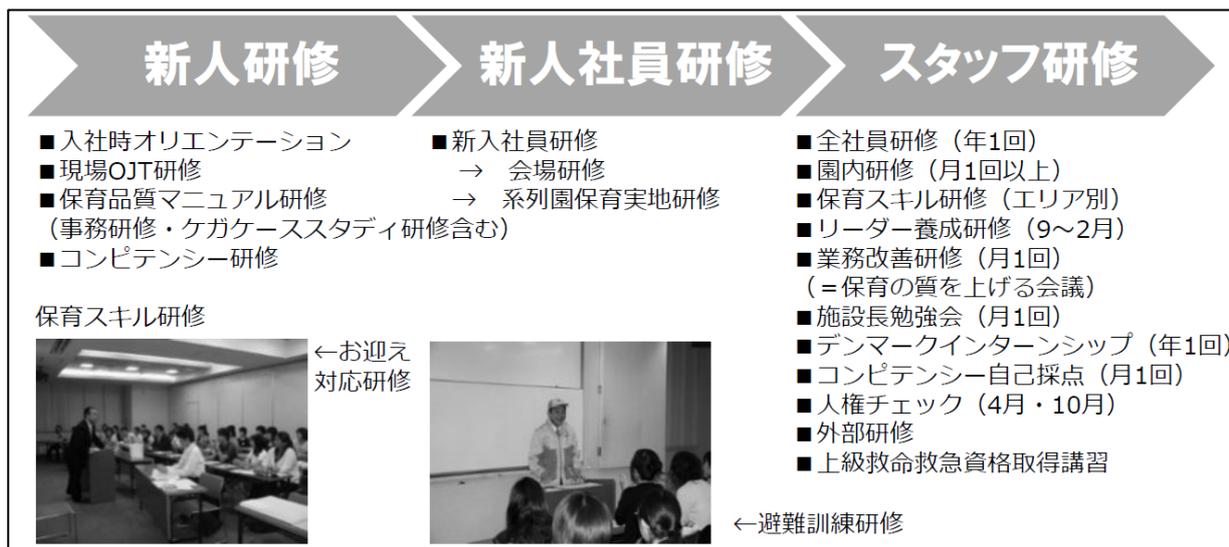
種類) 中高生の体験学習の受入／保育養成校・専門士養成校の学生の実習受け入れ／一般および学生の各種ボランティアの受け入れ

〈1〉 今年度の方針・テーマ

実習受け入れやボランティア活動ができることをSNSで周知する。ボランティアや実習生を積極的に受け入れ、福祉に関心を向けるきっかけ作り、保育や福祉で活躍する人材を育成する。

1	中高生の体験学習及び職業体験の受け入れ	中学生や高校生の体験学習や職業体験の受け入れを行い、保育や福祉に関心を向けるきっかけ作りをおこなう。
2	実習生の受け入れ	近隣大学生、専門学生の実習生受け入れを行い、保育や福祉を担う人材を育成に努める。
3	ボランティアの受け入れ	地域の方や学生などのボランティア活動の受け入れを行い、地域の保育や福祉が豊かになるようボランティアの育成に努める。

7. スタッフ育成と研修計画



- ① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性を全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法や教材教具の活用、またひとりひとりの子どもに対する支援についてのポイントを全体で共有する。
- ② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「事業所での活動」「親子支援」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招くなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を行う。
- ③ ケース会議：児童個人の支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。基本的には月1回としケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケース会議を希望するがいれば回数を増やし随時開催する。
- ④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を越えた研修会を実施する。
- ⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：一人年間6回を目標とし、課長・施設長で機会の調整し積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。
- ⑥ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、検知を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低1名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。
- ⑦ 朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。

〈1〉2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月11日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今月の食育/活動について	今月の活動内容や食育のねらいの共通認識を図る

		て ③ 保育運営マニュアル ④ 人権チェック ⑤ ヒヤリハット、インシデントから考える事故防止について	マニュアルの読み合わせ、事故防止について学ぶ。
5月9日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育所等保育指針 ③ 今月の食育/について ④ ケース会議	保育所等保育指針から発達について学び、支援を組み立てる 利用児の発達段階や支援内容について検討する
6月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今月の食育/について ③ 保育所保育指針について ④ ケース会議	保育所等保育指針から発達の視点を学び、支援を組み立てる 利用児の発達段階や支援内容について検討する
7月11日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今月の食育/について ③ 水辺のリスクについて ④ ケース会議	水遊びの危険性やチェックするポイントを学ぶ 利用児についての発達や支援内容について検討する
8月8日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今月の食育/について ③ 小学校指導要領について ④ ケース会議	小学校学習指導要領について学び、逆算した支援を考える 利用児の発達段階や支援内容の検討をおこなう
9月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今月の食育/活動について ③ 虐待防止委員会 ④ ケース会議	虐待についての学び 利用児の発達段階や支援内容の検討をおこなう
10月10日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今月の食育/活動について ③ 人権チェック ④ 保育所等保育指針について ⑤ ケース会議	人権について学ぶ 保育所等保育指針から発達の支援を学び、支援を組み立てる
11月14日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今月の食育/活動について ③ 小学校指導要領について ④ ケース会議	小学校学習指導要領について学び、逆算した支援を考える 利用児の発達段階や支援内容の検討をおこなう

12月12日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今月の食育/活動について ③ 今年度の振り返りと次年度について	今年度を振り返り、次年度に繋げるための話し合い
1月9日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今月の食育/活動について ③ 保育品質マニュアル ④ ケース会議	保育品質マニュアルの読み合わせ（戸外活動中のスタッフ配置や散歩同行について） 利用児の発達段階や支援内容の検討をおこなう
2月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今月の食育/活動について ③ 小学校指導要領について ④ ケース会議	小学校学習指導要領について学び、逆算した支援を考える 利用児の発達段階や支援内容の検討をおこなう
3月13日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度について	次年度の年間計画をもとに、支援や担当者について話し合う

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日~30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
デノマークインターシッ*	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

日々の戸外活動や地域交流を通して、生田ルームという存在が認知され始めている。地域に開かれた施設として、地域を招く体験活動や、職業体験などをより関係性を深める活動を実施する。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：生田緑地（中央広場）にて
商店街ツアー	週1回
職業体験	年2回
世代間交流	近隣大学生との交流
異年齢交流	法人内外の保育園との交流、近隣小学校との交流
地域拠点活動	つむぎカフェにて、地域の方や近隣保育園を招いて子どもたちが作ったものを提供する活動を行う。

9. 小学校との連携の計画

- ① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
- ② 子どもの支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
- ③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
- ④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
- ⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。
- ⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。

- ⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

保育所等訪問支援で見た、子どもたちの小学校で過ごすなかでの実際の姿や困り感、現場の先生の声をルーム内で共有する。また小学校学習指導要領を学び、スタッフ全員が公開授業や学校見学に出向き、小学校1年生の姿、保育所等訪問で見た姿を理解したうえで逆算した支援が行えるように努める。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を5月14日（火）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	生田小学校	当日の利用人数	放課後での校庭遊び	子ども間交流
9月頃	宿河原小学校	若干名予定	授業参観	職員間交流
10月頃	西生田小学校	若干名予定	授業参観	職員間交流
11月頃	西生田小学校	当日の利用人数	放課後での校庭遊び	子ども間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害の状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせる行う。

- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

原則6か月以内に1回以上のモニタリングを保護者に実施する。目標及び支援方法、見立てなどを策定会議にて話し合い、個別支援計画書の作成を行う。個別支援計画書の内容を保護者に説明をして同意を得てから、計画書に沿った支援を提供する。

〈2〉毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催予定 参加者：7名予定）

毎月のルーム会議の中でケース会議を行う。子どもや保護者の困り感が強いケース、支援が難しいケース、また、支援が良好なケースや発達が良好なケースなども含め会議を行い、スタッフ間の情報共有とともに、適切な支援を再考する。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

就学支援シート及び電話、来訪にて進級引継ぎまたは小学校への引継ぎを行う。自施設での子どもの様子、提供した支援内容、必要と思われる配慮事項などを伝える。また、子どもの発達過程を踏まえ「できること」「得意なこと」などの児の強みを積極的に伝え、進学先及び進級先での新しい生活における見通しとなるように引継ぎを行う。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～17:00
つむぎカフェ	(月)～(土) 9:30～17:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
勝手籠設置	(月)～(土) 9:00～17:30
青空保育	月1回 公園名：生田緑地（中央広場）にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年10月10日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：10時00分

自己評価終了予定時刻：13時00分

自己評価実施予定者：渡邊朋子、森谷太郎、田中誠

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・日課活動における階層構想図の理解 ・小学校1年生を見て知り、逆算した支援 ・スタッフの学びの拡大
	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のルーム会議内で階層構想図を利用してひとつひとつの日課活動の意味を理解する時間を設けた。その結果、児童発達支援の中で日課活動を大人が率先して行うことで、子どもたちも意欲的に取り組む姿が見られた。放課後等デイサービスでは、日々の調理活動のなかでの掃除や畑仕事などを、限られた活動時間の中で大人と実践する時間が増えた。 ・6月にルーム内で小学校指導要領についての勉強会を実施。また近隣の小学校での授業参観や担任の先生との交流会に参加し、学んだことをルーム内で共有を行った。また保育所等訪問支援も開始され、実際に小学校1年生の授業風景やその集団で子どもたちがどのような場面で困っているのかを共有している。だが、実際に小学校に出向いたスタッフが限られており、全員が逆算した支援を意識できていない状況である。今年度は全スタッフが小学校に出向く機会を設定し、就学に向けて逆算した支援とはなにかをルーム会議内で考える環境を設定し、実際の支援で取り組む。 ・園長大学@保育士大学で学ぶ他、各自学びを深めたいとおもう分野において、学んでいる姿が見られた。上半期は自分の知識をルーム内でアウトプットする時間を設けていたが、下半期から環境を用意できておらず、ルーム内で学ぶ機会が減ってしまった。今年度は、ルーム会議内で園長大学@保育士大学を利用し、大人たちが学ぶ機会を用意する。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

24年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ保育を地域で実践 ・食や食材の循環を知り、命の大切さを知る
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣保育園と地域の公園や自施設での共同活動を実施し継続する。また近隣の法人内園での活動を増やしていき、地域でインクルーシブ保育を認知できよう活動する。

		<ul style="list-style-type: none"> ・食や食材が循環していること、命に触れる、感じる経験をするために、生き物の世話ができる環境を用意する。また「命をいただく」経験を実施する。
25年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・他園や小学校から相談される地域に開かれた事業所 ・食と環境の見直し
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所等訪問支援や日々の地域での活動から、自施設が認知され、地域から相談しやすい施設となる。 ・食品残渣について知り、自施設でのコンポスト作成から活用までを子どもたちと実施し、食と環境について見直す機会を用意する。
26年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・食を通して環境、自分自身と向き合い大切にできる心をはぐくむ ・地域の子ども達、保護者、保育者、教育者から必要とされる事業所
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・命の大切さ、食と環境の見直しを経て、食べ物を大切にする気持ちや自分たちが住む地域の環境について考え、大切にすることを育む。 ・子ども達、保護者、保育者、教育者から、信頼され相談される、地域に開かれ根付いた施設となるために、地域でのインクルーシブ保育を実践し続ける。保育所等訪問支援での間接的支援にも力をいれ、地域の子育ての質を上げる。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 生田ルーム 施設長 辻 美怜

2024年度 発達支援つむぎ 武蔵野ルーム 事業計画書

1. 基本方針

理念（「にんげん力。育てます」）および目標（「センス・オブ・ワンダー」「人対人 コミュニケーション」）を基本とし、様々な人との触れ合いを通して、生活力、選択力、思考力を育める環境を構築する。児童発達支援では、園とのインクルーシブ保育を継続しながら、子ども同士の交流、感情のコントロール、社会性を遊びから学び、「生きる力」を育む。放課後等デイサービスでは「ホンモノの経験」を通して、働くことの楽しさを感じ、働く意欲を高め、利用者の未来へと繋げていく。

2024年度施設運営missionである「生活力の体得」「10の姿の体得」「子ども自らがいつでも経験を選り取りすることができる物的環境の設定」「命をいただく活動の実践」「自律運営」を目指す組織作りを行っていく。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	児童発達支援、放課後等デイサービス共に、武蔵野どろんこ保育園、就労支援つむぎ 武蔵野ルームとの交流
	実践予定内容	武蔵野どろんこ保育園の園児と共に過ごす環境と接点を作り、互いに意識し共に学ぶことで、インクルーシブ社会への架け橋とする。土曜日の活動においても、園児や地域との交流を通して学びを深めていく。就労支援つむぎ 武蔵野ルームの利用者とも接点を持ち、多様性を学べる環境を用意する。 放課後等デイサービスでは、園児との交流機会を通して、人のために役立つ経験、人との関りから社会性を学ぶとともに、就労支援つむぎ 武蔵野ルームと一緒に作業を行い、働くことへの意欲を高める。
2	計画・ねらい	支援内容の充実 遊びと労働を通じた支援を中心に、生活力の体得、10の姿の体得、自立性、主体性の向上を図る
	実践予定内容	児童発達支援では、遊びを大切にしながら、自己選択できる環境を作り、ホンモノの体験を通して生活力、協働性・社会性・規範意識を学べるよう支援する。 放課後等デイサービスでは労働を介して、生活力、協働性・社会性・規範意識の学びに繋がるよう支援する。 畑仕事と生き物の世話を通して、生死の原体験、食への意欲、食の循環、作物の成功、失敗体験を通して自立心を養う。
3	計画・ねらい	様々な人との交流
	実践予定内容	様々な関係機関、地域との交流機会を設けることで、地域を知り、他者を知り、社会性を学び、成長できる環境を作る。 地域行事参加、地域支援活動（ゴミ拾い等）を行い、地域につむぎを知っ

		てもらう機会を取り入れる。
--	--	---------------

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	関係機関との連携
	実践予定内容	学校、関係機関、保育園及び幼稚園を知ること、就学、就労へと繋げていく。関係機関と繋がることで、地域を知り保護者に還元する。関係機関を知り伝えていくことで、保護者の不安を軽減し、スタッフの学びにも繋げる。
2	計画・ねらい	保護者懇談会開催
	実践予定内容	就学後の福祉サービス、就学先の情報などを伝えることで、保護者の不安軽減に努めるとともに、保護者間交流機会を設け、輪を作っていく。他ルームと合同開催で行うことで保護者間交流、スタッフ間交流へと繋げる。
3	計画・ねらい	おもてなしの心を持ち対応
	実践予定内容	挨拶だけでなく、礼儀、掃除を意識したうえで、保護者が「来たい」と思える環境を作る。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	保育園利用者へのつむぎ紹介、発達についての学び
	実践予定内容	毎月保育園掲示物として、つむぎの紹介、発達についての紹介等を作成し掲示する。保護者に児童発達支援事業、放課後等デイサービス、就労支援を知ってもらう機会を作る。
2	計画・ねらい	つむぎカフェ利用者へつむぎの紹介
	実践予定内容	つむぎカフェにつむぎの案内を掲示し、待ち時間に見てもらおうなどつむぎを知ってもらえる環境を作る。
3	計画・ねらい	発達相談室開催
	実践予定内容	ちきんえっぐを活用し、武蔵野どろんこ保育園と共に相談会を開き、園児、地域の方向けに相談室を行うことで、つむぎを知ってもらう。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	毎月施設内会議において、発達研修実施
---	--------	--------------------

	実践予定内容	毎月の施設内会議の中で、研修会を実施。事前にテーマを用い発表者を決め、アウトプットに繋げ、つむぎスタッフ、保育園スタッフ共に学びを深める。
2	計画・ねらい	保育所保育指針、児童発達支援ガイドライン、小学校・中学校・高校の学習指導要領から支援の基礎を学ぶ。
	実践予定内容	改めて保育所保育指針、児童発達支援ガイドライン、学習指導要領を学び直し、保育、教育、療育現場において求められていることを再認識し基盤を学び、支援の質向上を目指す。
3	計画・ねらい	コンピテンシーから社会人として基盤を学び実践
	実践予定内容	コンピテンシーから課題を抽出し、得意不得意を見分け、業務効率化を図る。合わせて支援の質、接客対応向上に繋げる。報連相や業務の自己管理など当たり前のことを当たり前に行えるようになる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	自ら学びを求められる環境作り
	実践予定内容	子ども、利用者自身が自己選択し、学びを深める環境を作る。本人の意思を尊重しつつ、やりたいことの中から課題面を見つけてアプローチすることで、楽しみながら学びを深めていけるよう、スタッフが意識し、自己選択できる環境づくりを行う。自己実現欲求を満たせる環境を作る。
2	計画・ねらい	生き物、農作物と触れ合える環境作り
	実践予定内容	生き物や農作物と触れ合うことで、生命の尊さの学び、農作業から食育に繋げる。武蔵野どろんこ保育園の生き物の世話、年間を通して畑仕事を行う。
3	計画・ねらい	地域資源開拓
	実践予定内容	地域との繋がりを作っていく中で、地域に赴き、挨拶だけでなく一緒に企画を行う等、連携を構築する。ボランティアセンター、公民館、高齢者施設など地域資源を開拓していくことで、つむぎの認知度をあげていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 5人/日

放課後等デイサービス 5人/日

〈2〉 開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉 スタッフ構成 （3月1日時点）

施設長兼児童発達支援管理責任者1名

保育士1名

他5名

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回60分	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長会議共有 ・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う） ・つむぎ内外から講師を招いた研修
給食運営会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・メニューについて ・利用者の給食状況について共有
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内及びつむぎ全体の事故、インシデント、ヒヤリハットの共有、検討
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
園会議	月1回120分	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の懸案事項、園内研修、コンピテンシー、行事内容の確認、ディスカッション等、武蔵野どろんこ保育園と合同開催

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行

		どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	半年に1回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	食育計画作成など
保健会議	年4回	感染症対策などの情報共有
子育ての質を上げる 会議	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士の情報共有と連携の推進

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	畑の整備、計画的な活動の立案
生き物係	飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案
広報係	ブログ管理、インスタグラム管理

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	地域交流を目的とし、武蔵野どろんこ保育園と共に準備、進行を行う。
運動会係	子どもの日々の成長を、会を通して保護者に見てもらう。武蔵野どろんこ保育園と共に行う。

生活発表係	子どもの日々の活動を保護者に伝える場として実施
-------	-------------------------

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・日々園児と共に生活をしていく中で、生きる力を育ていけるよう武蔵野どろんこ保育園と協力し、友だちとの交流、物事場の共有を大切にする。また自己選択できる環境を構築していく中で、自然とコミュニケーションが生まれる環境作りを行い、子ども同士で学んでいける場を提供する。 ・戸外活動を中心に自然体験を取り入れ、感覚を刺激しながら成長を育む。
異年齢グループ	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外活動を中心に、子ども同士の交流、園児との交流機会、地域交流を推進する。 ・主体性を大切にしながら協同性を学び、自分の気持ちを表出しながら相手の気持ちを知る経験を増やす。 ・表現機会を取り入れ、自己表出場面、成功体験を増やし、自己肯定感を育む。
放課後等デイサービス	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の就労を意識した労働の経験を提供する。就労支援つむぎ武蔵野ルームの業務を共に行える場を作る。 ・武蔵野どろんこ保育園、地域との交流機会を大切にし、自己肯定感を育む。 ・就労を意識した中でも、主体性、原体験、戸外活動を大切にしていける。
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食を楽しむ。
	実践予定内容	午前活動でしっかり体を動かし、給食を楽しく取り、友だちと一緒に食べ楽しむ経験をしていけるよう日々の活動を行う。 食事を通して溢れる言葉や身振り・手振りでの表現機会を大切にする。 土曜支援では、お弁当を持参してもらい一緒に食べる機会や畑で取れた野菜での調理活動などを通して、友だちと一緒に作る機会、食べる機会を提供し食への関心を高めていけるよう取り組む。
2	計画・ねらい	畑仕事を通して食育
	実践予定内容	畑を通して一連の畑仕事を学び、食べるだけでなく、収穫、調理に繋げていく。また販売にも充てることで地域との繋がり、放課後等デイサービスでは販売業務にも繋がる場面を作る。
3	計画・ねらい	命をいただく経験
	実践予定内容	武蔵野どろんこ保育園と共に、ニワトリのお世話をしながら、実際に食す場面を提供する。食の循環、命の尊さを学ぶ。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
児童への保健指導・取組等	正しい手洗いの実施方法をわかりやすくイラストを用い、トイレに掲示するなど伝えていく。また体作りの面から食育と併せて伝える。
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～9月頃・・・手足口病、はしか、プール熱 11～3月頃・・・インフルエンザ、ノロウイルス
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ・・・該当児童無し
エピペン使用できるスタッフ	本日現在4名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員1名については3月21日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	未設置

その他保健に関する取組	衛生管理に努める。 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。
-------------	--------------------------------------------------------------------

〈5〉 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	調理時のみ
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	施設内虐待防止委員会	年2回／9・2月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉 環境整備

1	計画・ねらい	自己選択できる環境作り
	実践予定内容	武蔵野どろんこ保育園と共に子どもがやりたいと思ったことが出来る環境を作る。自己選択環境を作っていく中で、自然と友だちとのコミュニケーションが生まれる環境作りにも努める。 放課後等デイサービスでは就労を意識しながら、自己選択し、やりたいことを仕事として行えるプログラムを提供する。
2	計画・ねらい	室内環境整備

	実践予定内容	保護者や地域の方にとって心地よい環境にするために、就労支援つむぎ 武蔵野ルームと共に適宜室内環境を見直し、よりよい環境構築を目指す。
--	--------	--------------------------------------------------------------------

〈7〉手作り遊具安全点検計画

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災対応	地震や火災を想定して月1回の避難訓練を行う。訓練の実施前計画、実施後の反省、次回の課題などを話し合い、スタッフ全員が防災の意識を高める。また防災に関する活動を支援内で行うなど、子ども及び保護者も防災への意識を高めていく。
2	ケガ事故防止への対応	活動前にはミーティングを適宜行い、予想されるケガやその対応について話し合う。あた、ヒヤリハットをスタッフで出し合い、事故を未然に防ぐ物的および人的環境や活動場所の検証を行う。
3	防犯対応	不審者訓練を年2回行う。笛の所持、インターホンの確認、ドアロックの解除、施設周辺の点検、合言葉の確認を適宜行う。
4	光化学スモッグ	光化学スモッグの知識を身に着け、自治体からの注意情報を把握する。また光化学スモッグ注意報が発令された場合は室内で活動を行う。

6. 実習生・中高生の受入

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

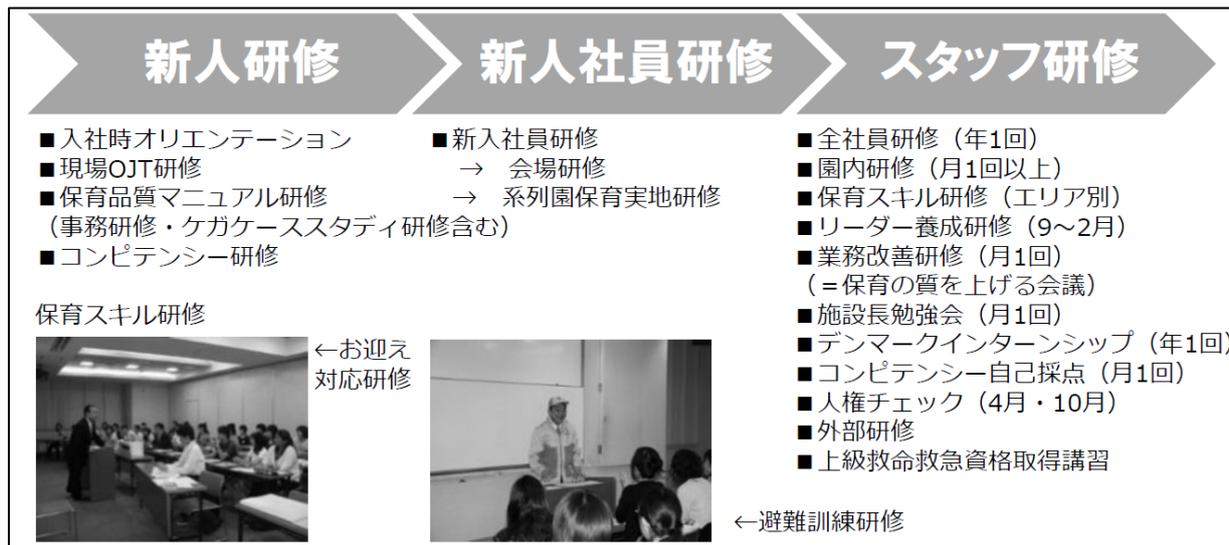
種類) 中高生の体験学習の受入／保育養成校・専門士養成校の学生の実習受け入れ／一般および学生の各種ボランティアの受け入れ

〈1〉今年度の方針・テーマ

地域に根付き、将来的に地域全体で見守っていくうえでも、地域の方につむぎを知り理解をしてもらう必要がある。ボランティアや実習生を受け入れることで、つむぎを知ってもらうきっかけ作りをしていく。

1	ボランティア受け入れ	ボランティアセンターと繋がり、子どもや利用者に様々な方との触れ合い経験を提供する。
2	実習生受け入れ	実習生を受け入れることで、つむぎを知ってもらい、就職に繋げる。

7. スタッフ育成と研修計画



- ① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性を全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法や教材教具の活用、またひとりひとりの子どもに対する支援についてのポイントを全体で共有する。
- ② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「事業所での活動」「親子支援」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招くなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を行う。
- ③ ケース会議：児童個人の支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。基本的には月1回としケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケース会議を希望するがいれば回数を増やし随時開催する。
- ④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を越えた研修会を実施する。
- ⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：一人年間6回を目標とし、課長・施設長で機会の調整し積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。
- ⑥ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、検知を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低1名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。
- ⑦ 朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。
- ⑧ 園長大学・保育士大学への参加と企画提案：社内で企画される園長大学・保育士大学講座に積極的に参加。
- ⑨ コンピテンシーを行っていくうえで毎月面談を行い、自身が深めていきたい内容を決め、実施、振り返りを行い、自身の成長へと繋げていく。

〈1〉2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修 ③ 児童発達支援・放課後等 デイサービスガイドライン	保育についての学び 発達についての学び ガイドライン読み合わせ
5月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修 ③ 保育所保育指針	発達についての学び 保育所保育指針から発達の視点を考 える
6月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修 ③ 水難事故研修	発達についての学び 水遊び、プール活動の危険性を学ぶ
7月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修	発達についての学び
8月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修 ③ 学習指導要領	発達についての学び 学習指導要領を知り、就学に繋げる
9月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修 ③ 虐待防止委員会	発達についての学び 虐待防止委員会の実施、学び
10月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修 ③ リスクマネジメント	発達についての学び 感染症の学び 上期のヒヤリ、インシデント、事故 について再確認
11月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修 ③ 感染症について	発達についての学び 上期の事故 感染症対策
12月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修	発達についての学び
1月22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達研修	発達についての学び
2月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事故防止 ③ 2024年度振り返り ④ 虐待防止委員会	年間の事故・インシデント・ヒヤリ ハットからの学び 2024年度の振り返りから次年度に 向けての話し合い 虐待防止委員会の実施、学び
3月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 来年度事業計画について	新年度のルーム目標について マニュアルの読み合わせ

		③ 保育運営マニュアル	
--	--	-------------	--

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
デモンクインテンシブ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に開かれた子育て支援事業所として、併設園である武蔵野どろんこ保育園と共に地域に根付いた支援を目指していく。保育園に通う子どもの保護者、地域の子育て家庭、高齢者施設、つむぎカフェ利用客など、つむぎを知ってもらう機会を作る。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：おおぞら公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者施設に行き、交流会
異年齢交流	中高生交流、つむぎ就労支援利用者との交流
地域拠点活動	実習生の受け入れ

9. 小学校との連携の計画

- ① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
- ② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
- ③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
- ④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
- ⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。
- ⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。
- ⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、就労支援事業所と連携を持ち、支援がよりスムーズに引継ぎが出来るよう連携体制を深めていく。

また保育所保育指針、学習指導要領の読み込み、中身を理解し、就学・就労に繋げていけるよう努めていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月8日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
----	----------	------	----------	----

9月頃	田無特別支援学校 石神井特別支援学校	1名予定	学校公開見学 (田無特別支援学校) (石神井特別支援学校)	学校見学 スタッフ間交流
9月頃	武蔵野市立第二中学校 (こぶし教室)	1名予定	学校公開見学(第二中学校)	スタッフ間交流
11月頃	上向台小学校	若干名予定	授業体験(上向台小学校)	子ども間交流
11月頃	向台小学校	若干名予定	授業体験(向台小学校)	子ども間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせを行う。
- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

子どもに合わせた支援の目的、内容を児童発達支援管理責任者、担当者とケース検討し、6ヶ月に1回以上モニタリングを行い、支援計画を更新し、子どもまたは保護者の同意のもと作成を行う。また相談支援事業所との連携、他事業所、高等学校、中学校、小学校、幼稚園、保育園等での様子、家庭での様子を含め、連携を密に取りながら作成していく。

〈2〉 毎月のケース会議開催 (4～3月に計12回開催予定 参加者：6名予定)

毎月ケース検討会議を行い、利用者にとっての最善の利益を考え、より良い質のある支援を提供できるようにスタッフ全員で検討していく。園のケース会議にも参加し、子どもにとって必要な支援を考

えていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

就学先には就学支援シートを活用し、児童発達支援が行ってきた支援内容、子どもの特性や状況、配慮事項等、小学校生活がより豊かになるように情報提供に努める。就労先も同様、特性や状況、配慮事項を伝えられるよう努めていく。

学校公開や交流会などを通して、安心して進級できるよう連携を取っていく。

11. 子育て支援事業

施設に来院した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月) ~ (土) 9:30~16:00
つむぎカフェ	(月) ~ (土) 9:00~17:00
子育て相談	随時
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(土) 12:00~13:00
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:おおぞら公園にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年上期、下期に1回ずつ「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 8時30分

自己評価終了予定時刻: 17時00分

自己評価実施予定者: 内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<p>武蔵野どろんこ保育園とのインクルーシブ保育の実践、連携 地域、関係機関との連携 外部発信 就労支援つむぎ武蔵野ルームとの連携</p>
	振り返り	<p>武蔵野どろんこ保育園とのインクルーシブ保育では、つむぎ、園児関係なく交わる機会を多く提供できている。また放課後等デイサービスの利用者が保育園に入り、子どもとの交流や仕事の手伝いなどを行うことが出来た。スタッフ間も会議や研修、ケースカンファなどを通して連携を密に取れている。地域、関係機関との連携を取ることは出来なかったが、SNSやブログを通して発信は定期的に行うことで、活動内容などを外部に向けて発信することが出来た。</p> <p>就労支援とは長期休暇期間を限定に交流し、就労の仕事を体験してもらうことは出来たが、まだ連携を密に取れているわけではないため、来年度に向けた課題とする。</p>

〈2〉当年度以降の3カ年計画

24年度	目指す姿	<p>ホンモノの体験を通して、生活力、10の姿の体得を目指す 支援の質向上 園、就労、地域、関係機関との連携</p>
	重点施策	<p>戸外活動を大切にしていくなかで、ホンモノの体験を通して、生活力を学び、児童発達支援、放課後等デイサービス共に主体性を学び深める。 継続して武蔵野どろんこ保育園、就労支援つむぎ 武蔵野ルームと交流機会を提供していき、様々な人と触れ合い、インクルーシブ社会実現へと繋げていく。また園、就労だけでなく、地域や関係機関との連絡を密に取り、お互いを知り、関係構築に繋げていく。</p>
25年度	目指す姿	<p>連携を深めていく 支援の質向上</p>
	重点施策	<p>24年度で構築した地域との連携強化に努め、関係性を深める。 武蔵野どろんこ保育園、就労支援つむぎ 武蔵野ルーム、関係機関、地域との活動を継続して行い、基盤構築に努める。</p>
26年度	目指す姿	<p>子ども、保護者、地域の方含め、帰りたい、行きたいと思える場所になる</p>
	重点施策	<p>支援の質を高めながら、地域との連携を深めていくことで、地域に頼られ、落ち着ける場所になり、行きたい場となれるように努める。 地域全体で子どもたちを見守っていけるようになる。</p>

以上

2024年度 発達支援つむぎ 内箕輪ルーム 事業計画書

1. 基本方針

2024年度運営本部Missionに基づきDoronkoが構想する社会を目指していく。

内箕輪どろんこ保育園と併設する児童発達支援事業所として、インクルーシブな環境の中、園児とつむぎの利用児と一緒に生活し、多様性を認め合う子育てを提供していく。政府のインクルーシブ重点視点からも保育園とつむぎが混ざり、互いの領域を超えて保育と支援を行う併設園としてインクルーシブ保育に力を入れていく。

子どもの「生きる力を育む」ために、法人の日課・基本保育活動をマンスリー、ビジター共に実施する。大人が背中を見せ、子どもたちが楽しみ取り組むことができる環境を創っていく。

また、園を取り囲む豊かな自然環境を存分に活かしながら、子ども自ら主体的に関われる物的環境を戸外・室内に設定し自分で考え、選択し、行動する力を育てていく。

児童福祉法、保育所保育指針、児童発達支援ガイドラインをすべての基盤に君津市の子ども・子育て支援計画やどろんこ会グループ理念・方針運営本部ミッションに沿って、常に子どもの最善の利益と真に必要な体験を追求しながら、保育を行って行くことを保育者一人ひとりが前提としたうえで、以下の保育目標を達成する。

保育目標：～楽しい 面白いを見つけよう～

「大人も子どもも主体性を大切に 沢山のやってみたいがあふれるお家」

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	計画：好きな場所を選び、行き来できる「大きな家」づくり ねらい：遊びを通してTrial&Errorを経験する。
	実践予定内容	子どもが安心して毎日に期待をもち過ごすことができる環境を創っていく。清潔で整頓されている環境構成や各スタッフ連携し、安全面も充実させ、様々なものに触れる機会を意図的に創っていく。
2	計画・ねらい	計画：生活力を育む保育と支援の実施 ねらい：道具の使い方、様々な素材を使っての遊び方など、生活の中で体得し「やってみたい」という意欲を引き出す。
	実践予定内容	日々の生活の中に遊びや歌を取り入れ、子どもの表現したい気持ちを引き出していく。火や工具を用いた活動を取り入れ危険な物との距離の取り方、道具の使い方などを子どもに伝え生活力の体得できる場をつくる。
3	計画・ねらい	計画：子どもの発達を理解し、個々に寄り添った保育と支援の実施 ねらい：一人ひとりの保育者が子どもの発達を理解し、受容的に関わり保育・支援を行う。

	実践予定内容	園内研修の中で、「子どもの心身の発達」「発達特性」「インクルーシブ保育」に関する議題を取り入れ、保育者の知識・スキルの向上を図る。日々の振り返りの中で子どものエピソードを共有し、保育内容・環境・関わり方などの見直しを行う。子どもの変化等情報を都度共有し、一貫した保育・支援を展開していく。 各保育者が得意なことなどを保育・支援に取り入れ子どもだけでなく大人の主体性を育てていく。
--	--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	計画：保護者交流会や講座の実施 ねらい：園の懇談会やつむぎ利用の保護者のみでの交流を通して、気軽に会話できる場を提供していく。
	実践予定内容	マンスリー利用の方対象の保護者交流会の実施。 就学相談、放課後等デイサービスなど就学に関する講座を実施。
2	計画・ねらい	計画：整理整頓、常に清掃が行き届いた園内環境 ねらい：必要・不必要な物を精査し、誰が見ても心地良く感じるような美観を意識した環境をつくる。
	実践予定内容	掃除等清掃の役割分担を明確化し、園内全体が常に整理整頓、清掃が行き届いている安心安全な環境を作る。
3	計画・ねらい	計画：親子参加型体験学習の実施 ねらい：参加対象をビジター・マンスリーとする中で様々な保護者の交流の場をつくる。つむぎでの活動を実際に保護者の方にも体験して頂き、つむぎの支援を知ってもらう。
	実践予定内容	近隣の豊かな環境を活かした体験学習を年3回程度実施する。 体験学習後、アンケートを実施し次年度の支援・体験学習に組み込む。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	計画：地域の事業所との連携を図る ねらい：地域の児童発達支援事業所との情報交換、支援の質向上を図るための連携を深める。
	実践予定内容	市役所・相談支援事業所・児童発達支援事業所・児童発達支援センターとの関わりを深める。子どもにとって最善の支援・環境を追求し、連携を図りながら地域全体で支援が行えるようにしていく。
2	計画・ねらい	計画：ちきんえっぐとの共同企画の実施 (青空保育・芸術学校・寺親屋等) ねらい：地域の方が気軽に足を運ぶことができる場所となり、つむぎについて認知度を高める。地域の中で気軽に相談できる場所となる。
	実践予定内容	ちきんえっぐと共同イベントの企画・実施 地域の子育て家庭のニーズを理解し、ニーズに応じたイベントを提案していく。平日だけでなく、土曜日近隣の公園での青空保育を実施する。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	計画：つむぎでのルーム内研修の実施（年3回以上） ねらい：支援・保育に関する知識を高める。様々な分野の学びを深め、支援の質を向上させていく。
	実践予定内容	専門士等、各スタッフ知識の分野に関しての研修の実施（地域資源・表現・心の発達・身体の発達） 各分野のファシリテーターを行う中で大人の主体性を育む。インプット・アウトプットの場を設けていく。スタッフ間相互での理解を深める。
2	計画・ねらい	計画：「生きる力」を育むための日課・保育・支援の実施 ねらい：大人が背中を見せて行う中で、子どもの興味や意欲を引き出していく。日課や保育に対する理解を深め実践していく。
	実践予定内容	日々の保育や日課を行う中で子どもたちの姿をスタッフ間で共有する。ひとり一人が「やってみたい」と思える環境を都度考え、見直しを行う。日課活動を行う中での子どもの変化を視覚的にまとめ共有する。
3	計画・ねらい	計画：建設的に対話ができる関係性の構築 ねらい：子どもだけでなく、スタッフ間での互いの理解を深める 対話を通して、学び直し学び続ける施設運営を行う
	実践予定内容	保育・支援についての研修だけでなく、リーダーはファシリテーションなど、職員同士のコミュニケーションについてのアクティビティを研修に取り入れる。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	計画：自然の豊かさを感じられる活動・行事の実施 ねらい：ホンモノの体験を通して自然との関わり方を知る。
	実践予定内容	川や山など近隣の自然と関わり、自然の豊かさや面白さを感じることができ戸外活動を計画的に行っていく。散歩の目的地や目的を子どもと共有し、四季を五感で感じながら楽しめる戸外活動を支援・保育の中で展開していく。
2	計画・ねらい	計画：循環を意識した環境教育の実施 ねらい：自らの体験を通して食材や食の循環・環境への意識を身に付ける。
	実践予定内容	日課である畑仕事を通し、食や循環について興味を持つことができる環境づくりに取り組む。野菜の収穫だけでなく、種の収穫を行い、翌年植えるなど連続した活動を行う。循環を意識した畑作りを行う。

〈6〉インクルーシブ保育

1	計画・ねらい	計画：インクルーシブ、発達特性に関する研修を行い子どもの理解を深め
---	--------	-----------------------------------

		る ねらい：子どもの発達・特性を理解した上で保育・支援を行っていただけるようになる。インクルーシブ保育についての理解を深め、スタッフ間での目線を合わせる。
	実践予定内容	園内研修で「インクルーシブ」「発達特性」に関する研修を1回以上実施する。講義だけでなく、実際のケースを挙げ、時間内で子どもへの関わり、日々の保育・支援の振り返りを行う。
2	計画・ねらい	計画：子どもを肯定的・多角的に捉えることができる視点をもつ ねらい：園・つむぎ関係なく、子どもの興味関心を理解し、一人ひとりの良い部分を引き出す保育、支援が行えるようになる。
	実践予定内容	ケース会議の場等で子どもの様子を共有するだけでなく、エピソードなどを用いて、どのような環境設定・関わりが必要か話し合う場をつくる。園会議や日々の振り返りの場で、子どもの良いところ素敵な姿などを各スタッフ間で共有していく。
3	計画・ねらい	計画：自然に協働する関係性の構築 ねらい：PDCAサイクルを意識し、対話しながら園、つむぎ連携し行事・研修の企画運営を行う。
	実践予定内容	普段の保育に留まらず、行事・研修・会議体・園内整備などの施設内おおむねの物事において共に協力し合う体制をとり、互いの専門性を活かしながら地域に必要とされる施設になる土台を築く。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長兼児童発達管理責任者1名

保育士1名

機能訓練担当スタッフ2名 (理学療法士1名・公認心理士1名)

児童指導員2名

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園会議	月1回 20分	・ 保育園と合同で行う。行事進捗共有。 ・ テーマを決め、資料を使った園内研修を行う。
給食運営会議	月1回	・ 食育活動実践報告、喫食状況の確認、配膳方法
事故防止委員会	月1回	・ 事故のケーススタディ、各月のインシデント・ヒヤリハットの共有、改善策の検討
支援計画策定会議	適宜	・ 支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・ 個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	適宜	・ 情報共有、支援内容の検討
朝礼・昼礼・夕礼	毎日	・ その日の確認と振り返り、情報共有

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	・ 各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	・ テーマに即した計画的な研究の遂行 ・ どんご会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議		・ 障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	・ インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	・ マニュアル、レシピの見直し、ルームの取り組み発表、アレルギー食検討
保健会議	年4回	・ マニュアルの見直し、感染症対策、衛生管理
子育ての質を上げる会議	月1回	・ テーマに即した計画的な研修の遂行 ・ どんご会内の施設同士での情報共有と連携の推進

〈3〉 各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策

	計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかの飼育管理、ビオトープ作成の指揮、動物や植物に触れる機会の検討立案
体験学習係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導

〈4〉 行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画、調整、どろんこサポーターとの連携
運動会係	運動会の企画、調整
生活発表会係	生活発表会の企画、調整
卒園・入園式係	卒園式・入園式の企画、調整、卒園アルバムの作成

4. 支援方針

〈1〉 基本方針

マンスリー	0～2歳	<ul style="list-style-type: none"> ・受容的、応答的な関わりの中で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う。 ・五感を使い感覚の発達が促されるよう環境構成を行う。 ・一人ひとりの発達の理解を図りながら、子どもが育とうとする力を見極めて適切な環境を用意する。 ・身振りや簡単な言葉などで、経験したことや考えたことを表現する力を養う。
	3～5歳	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の生活リズムをつくり、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。 ・異年齢の関わりの中で、共に達成する喜びや楽しさを味わう経験から協調性や思いやりの心、充実感を育む。 ・身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味関

		<p>心をもつことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団生活の中でのルールやマナーを知り、習得できるようにする。 ・感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、想像力を育む。
ビジター	0～2歳	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な興味関心をもつことができる環境づくりを行う。 ・受容的、応答的な関わりの中で大人との信頼関係を育て、安心して通える場となる。 ・見る・聞く・触るなどの経験を通し、感覚の働きを豊かにする。
	3～5歳	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担、ルールを守って遊ぶ共同遊びを通して、社会性の発達を促す。 ・遊びや生活の中で数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ね、興味関心を高める。 ・活動を自ら選択し、主体的に様々な人・物に関わる環境を設定する。 ・見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すことができるようにする。
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	<p>計画：戸外で目一杯遊び、空腹の延長で食事の時間を迎える</p> <p>ねらい：戸外で体を動かし、お腹が空き食事を取り、午睡を行うなど生活リズムの安定を図る。</p>
	実践予定内容	長距離散歩・畑仕事・生き物の世話など日を浴び、体を動かす活動を午前

		中目一杯行う。1日の生活の流れを定期的にスタッフ間で見直し、ひとり一人が安定して過ごすことができる保育を行っていく。
2	計画・ねらい	計画：循環を意識した食育体験の実施 ねらい：食材の加工などを通して、身近な食べ物への興味関心を高める
	実践予定内容	トマト、梅、だいちなどを使い加工する食育体験を年間の計画に組み込み実施する。作物の成長過程や食材の加工の過程を写真で伝え、貼りだし食への興味関心を高める環境をつくっていく。
3	計画・ねらい	計画：日常にかかわる食育の推進 ねらい：食との関わりを身近に感じる。
	実践予定内容	毎日の野菜の下処理の手伝い、米とぎ、調理活動など直接的に食に関わる体験だけでなく、コンポストなど循環を意識した食育を実施する。五感から、給食の時間であることに気づき、自ら手洗い、配膳ができるような動線を意識した環境設定を行う。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
児童への保健指導・取組等	うがい、手洗い指導、歯磨き指導、体力作り、湿度温度管理
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 6月頃・・・手足口病 12月頃・・・流行性胃腸炎 1月頃・・・インフルエンザ 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	対象者なし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在6名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在6名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 行政からのお知らせの掲示、保健関係研修の受講

〈5〉 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉 環境整備

1	計画・ねらい	計画：園内全体を通し、静と動を意識した環境づくり ねらい：個々の発達を理解し、誰もが安心して過ごすことができる環境を創っていく。
	実践予定内容	体を動かせるスペース、落ち着いて休むことのできるスペースなど、その日の気持ちによって、自ら選択し安心して過ごせる環境を創る
2	計画・ねらい	計画：連続性のある遊びを行える環境づくり ねらい：明日やりたいことなど期待を持ち登園できるような保育環境を創っていく。
	実践予定内容	協力し、作ることの楽しさや面白さを実感できるような環境を創っていく。子どもたちからの遊びの発信を大切に、実現できるよう子ども・大人共に対話しながら遊びや環境を創っていく。

3	計画・ねらい	計画：子どもが自ら主体的に関わることができる環境づくり ねらい：子どもの「やってみたい」という意欲を引き出す。ひとり一人が想像力を働かせ、遊びを展開・経験していける機会を増やしていく。
	実践予定内容	子どもの「やってみたい」という意欲を尊重し、様々な行事、経験の場を設定する。個々の興味関心・得意なことを理解し、遊びを子どもだけでなく大人も主体的に展開していく。半期に2回以上環境の見直しをスタッフ間で行う。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具・家具はなし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	非常災害時の対策として、消防計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施
2	実践予定内容	防災設備点検の実施（自動火災探知機、煙感知器、誘導灯、排煙窓）
3	実践予定内容	ヒヤリハット、インシデント、事故防止記録記載による事故の防止 事故防止委員会による検討会議 リスクマネジメント研修
4	実践予定内容	園内外のハザードマップによる危険個所の確認と安全確認の周知 環境変化や状況によりその都度見直し、更新をはかる
5	実践予定内容	光化学スモッグ発生時には、自治体などより発信される情報をチェックし、発生時には屋外での活動を控える
6	実践予定内容	年2回の不審者訓練実施 オートロックでの外部侵入者の立ち入り防止 警察との連携（不審者情報共有、交通安全教室）

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

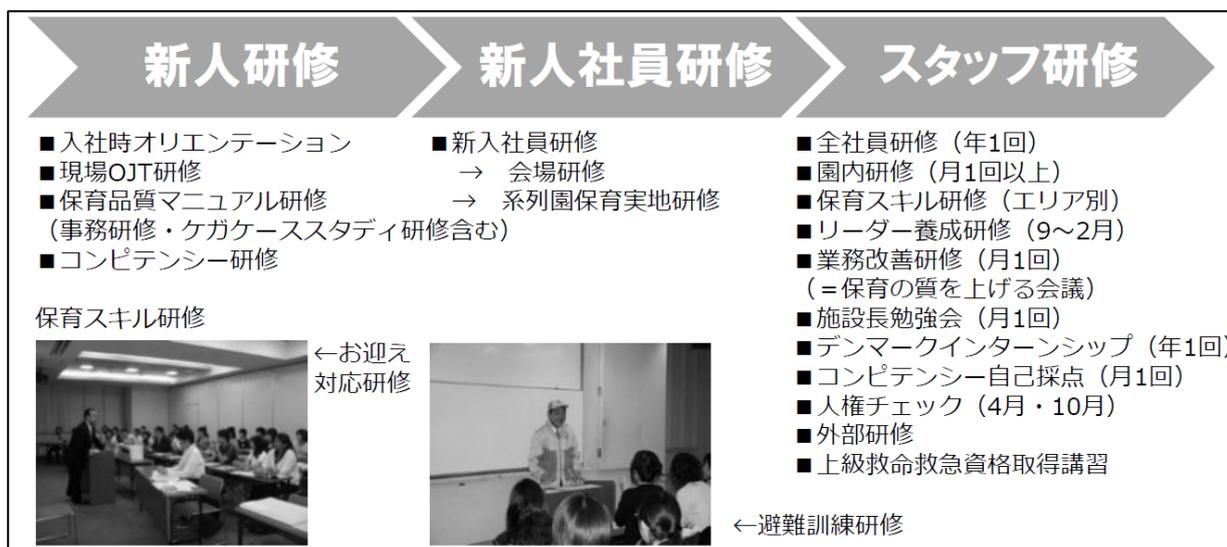
次世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材の育成に尽力する。

ボランティア、専門士の実習・職場体験を通し、インクルーシブ保育の理解を深める。

1	実践予定内容	保育士・機能訓練士の受け入れを行う。 受け入れのマニュアルを元に、受け入れ側の配慮を学ぶ
2	実践予定内容	中高生の職場体験を行い、保育・福祉の仕事について知ってもらう
3	実践予定内容	地域のボランティアを受け入れ、地域におけるインクルーシブ保育の推進をはかる

7. スタッフ育成と研修計画

毎月全体会議の中で園内研修として60分以上は設け、テーマに沿ってアクティビティを用いながら討議を行い、スタッフ全体で意見を出し合い、スタッフ自らOODAに即して子どもの観察から大切にしたいことを見出せる力をつけていく。また、その場限りで話が終わることなく、次の日からの保育に活かし、実践の経過を翌月の園内研修の場で振り返るといった流れの中で、通年通して連続性のある園内研修の運営をつむぎと内箕輪どろんこ保育園が協働し行って行く。



〈1〉2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 虐待防止研修 ③ ケガ・ケーススタディ	マニュアルを理解し、基本に沿った対応を全スタッフができるようにする。
5月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育 ③ 園目標の振り返り	
6月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水辺のリスクマネジメントについて ③ 園目標の振り返り	プール開きに向けて水辺の研修を行い事前にリスクを共有する。
7月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境について ③ 園目標の振り返り	子どもたちの発達や興味に合わせて、室内環境を見直す。
8月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 自然体験について	直接体験をスタッフ自ら学び、スタッフの体験や引き出しを増やした上

		③ 園目標の振り返り	で、子どもたちとどう関わるかを考える。
9月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 上半期の振り返り	上期を振り返り、事業計画がどこまで進められているのか。下期に向かうのはどこなのかを考える。
10月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 学習指導要領に基づいたアプローチカリキュラムについて ③ 園目標の振り返り	小学校1年生のカリキュラムを理解して、逆算をしたアプローチを検討する。
11月15日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境について ③ 園目標の振り返り	子どもたちの発達や興味に合わせて、室内環境を見直す。
12月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 焚火研修 ③ 園目標の振り返り	職員が焚火を学び保育実践として生かせるようにしていく。
1月24日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 下期及び1年の振り返り	コンピテンシーの振り返り 事業計画書の振り返り
2月	18:00～21:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	事業計画及び来年度方針の策定
3月	9:00～18:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	年間活動計画及び保育計画の策定

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											

リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
デモンクインテンシブ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域子育て支援センター「ちきんえっぐ」と連携を図り、保護者向け、親子向けのイベントを計画し実施する。地域の子育て世帯が気軽に足を運べる場として認知してもらえよう地域に活動の様子を発信していく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：内箕輪運動公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域行事参加、高齢者施設訪問（ウイステリア八重原）
異年齢交流	近隣小学生と交流、卒園児交流
地域拠点活動	青空保育、子育て相談

9. 小学校との連携の計画

- ① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
- ② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
- ③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
- ④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
- ⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。

- ⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。
- ⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

職員間交流を通し、就学までに必要な力について知り、逆算し保育・支援内容を工夫していく。
子ども間交流を年2回以上実施し、小学校就学に対して期待を持てるようにしていく。
縦の連携を深め、情報共有を図り円滑に支援が引き継がれるようにしていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	八重原小学校	20名予定	運動会見学 (八重原小校庭)	子ども間交流
10月頃	八重原小学校	20名予定	小学校見学 (八重原小校内)	子ども間交流
3月頃	八重原小学校	1～2名 予定	年長児引継ぎ (八重原小校内)	職員間交流・連携
未定	八重原小学校 支援学級	1～2名 予定	授業参観 (八重原小学校教室)	スタッフの学び
未定	君津特別支援学校	1～2名 予定	授業参観 (君津特別支援学校教室)	スタッフの学び

10. 個別支援計画の作成と更新について

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容に

なっているかどうか、同意を得る。

- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせる。
- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

原則6ヶ月に1回以上支援計画の見直しを行い、保護者にモニタリングを実施する。保護者の希望を聞き取り、子どもの心身の状況、日常生活の様子を整理する。児童発達管理責任者を中心とし、策定会議を行い、目標設定と具体的な支援を検討し、個別支援計画書を作成する。

個別支援計画書は保護者に提示し、説明と同意を得て支援を行う。

〈2〉毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催予定 参加者：5名予定）

毎月1回、児童個人の支援や現状や課題について、またはマンスリー・ビジター支援のあり方についてなど様々なケースを題材にし、支援の検証をする。

ケース会議を希望する職員がいれば回数を増やし随時開催する。

また、内箕輪どろんこ保育園と連携しながら、共に子どもを見る中で要支援児の個別支援計画書、課題の整理表を作成し、多様な人との関わりの中で子どもの姿の変化を職員同士で共有し、多様な視点から子どもを援助していくようにする。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

各自治体と連携を図り、就学相談の流れに沿って進めていく。早期の段階で保護者の相談を受けながら、子どもたちが安心して就学できるように、適切な支援をしていく。

就学先や放課後デイサービス事業所などにしっかりと引継ぎを行い、支援が途切れないようにする。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30
つむぎカフェ	(月)～(土) 9:00～17:00
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	第2、4(金) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	第4(月) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行

青空保育（支援センター主催）

月1回 園名：内箕輪運動公園（ちびっこ広場）にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年4月15日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：8時30分

自己評価終了予定時刻：17時30分

自己評価実施予定者：施設長・主任・各リーダー

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

(ア) 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	大人も子どもも、心地良く過ごせる静と動を意識した環境構成を行う。 日課を日々実践し、遊ぶ・寝る・食べる等生活リズムを整える。 職員会議を活用し、スタッフ同士の対話の時間を設け保育を振り返り、その都度保育の見直しを行う。
	振り返り	民営化からの新規の開所ということもあり、子ども・大人共に環境や流れに慣れるのに時間が掛かった。日課活動（雑巾がけ・リズム体操・座禅）に関しては、生活の一部として子どもたちが取り組む姿が下期に向けて増えて行った。スタッフ同士の対話の時間に関しては園会議のみでは共有が足りない点もあり、次年度に向けて日々の中で共有する時間を確保し円滑な連携を目指していく。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	つむぎ・保育園スタッフの連携を深め、質の高い保育行う
	重点施策	つむぎ・保育園スタッフ共に対話し今必要な経験を考え、子どもと共に保育を創っていく。また、立場を超えて対話できる関係性を構築する。 法人の日課、6つの力の意図やねらいを理解し、自分の言葉で語れるようになる。 インクルーシブ保育の様子、変化などを可視化し保護者、スタッフ、子ども

		もが見て理解できる機会をつくる。
2025年度	目指す姿	心地よいコミュニケーションをとって活動の幅を広げられる
	重点施策	地域の小学校・園・他事業所と円滑に連携を行える。 法人内だけでなく、地域に対してインクルーシブ保育を発信していく。 ちきんえっぐと連携し、地域の保護者・子どもに対してのイベントの実施。保護者や地域の人が「また来たい」と思える地域の拠り所となる。
2026年度	目指す姿	地域におけるインクルーシブ保育の実践、保育・支援の中核となる
	重点施策	市内での保育所・児童発達支援事業所間の連携の強化。 一人ひとりにあった事業所の選択ができる環境づくりを行う。 保育・支援の視点を明確にもち、支援を行う次世代のスタッフ育成をしていく。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 内箕輪ルーム 施設長 榊原 里紗

2024年度 発達支援つむぎ 海老名ルーム 事業計画書

1. 基本方針

つむぎ海老名ルームスタッフは併設園利用児全員がお互いにぶつかり合い、支え合い、学び合う家族と考え、全ての子どもの成長が互いに繋がっている事を意識する。

子どもの成長の為に何が出来るのか、園スタッフと一緒に考え、自分が持つ専門性を共有し、より広い支援の視点を持っていく。

1. 生活の体得

集団生活の中で互に関わる機会を見守る。望ましい関りを大人が教えるのではなく、子ども同士のやりとりの中で相手の気持ちに触れ、葛藤を繰り返す中で自分をコントロールする力を体得していく。

日課・基本保育活動・遊びを通し、火・水・土と触れ合い、鍬や工具などの使い方を伝える。方法を伝えるだけでなく、子どもたちが「何故危険か」「どうしたら安全か」と危険なものとの距離の取り方を考える経験を大切にする。

2. 10の姿の体得

日課・基本保育活動・遊びを通し、10の姿に繋がる経験を積み重ねる。

協働・規範・労働など10の姿の成長につながる活動や経験をスタッフが理解し、特性に合わせた支援を踏まえ園全体で支援する。

3. 子ども自らがいつでも経験の選択をすることができる物的環境の設定

子どもが選択できる権利を遵守する。日々、環境や関りが子どもの選択できる権利を侵していないか内省する姿勢を持つ。

子どもが選択したもの、好きなもの、興味をもったものから成長につなげ、必要に応じた配慮や支援を正しく判断する。

4. 鶏を絞めて食す 命をいただく活動の実践

畑仕事、食育活動を通し「食べるもの」「食べること」を感じ、学んでいく。食の循環については知識を伝える事ではなく、子どもたちが体感する経験から感じる事・考える事を表現することで成長につなげていく。

5. 自律運営

自園の稼働が安定した運営を行う。スタッフ全員がサービス継続するために必要な稼働を意識し、自分に出来る事を理解し、実践することで利用者、地域、行政に安心して頂ける施設運営を行っていく。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	【計画】 併設園の環境を活かす。日課や基本保育活動を通し子ども同士が学び合い、育ちあう経験を支援する。 【ねらい】 スタッフ全員が併設園の中で支援することを常に意識していく。
	実践予定内容	日課・基本保育活動・行事等を園スタッフと協働して作り上げていく。普段の遊びや活動の中で障害特性に対する理解や支援を園スタッフと共有

		し、全ての子ども達にとって経験が積み重なっていくよう支援する。
2	計画・ねらい	【計画】 併用児童以外の子どもたち（以下、ビジターと表記）の情報や支援方針の共有を行う。 【ねらい】 ビジターの支援を共有することで、園全体の障害への理解や支援を深めていく。
	実践予定内容	乳児・幼児会議の中でビジターの評価、支援計画や支援手段について資料を共有し、園全体でビジターの支援を行っていく。
3	計画・ねらい	【計画】園児全員の発達の様子に合わせて、必要な経験や活動につむぎスタッフとしての専門性や視点を取り入れていく。 【ねらい】 園の生活・経験に保育・療育の相互の視点をもった相互支援をおこなっていく。
	実践予定内容	認知・運動・対人・言語など自分たちの視点を利用児だけではなく園児全体に広げ、「子育て」として一緒に考える場を持っていく。 つむぎスタッフは自分が出せる支援で終わらずに周りに伝えて作っていただける支援を意識していけるようになる。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	【計画】 送迎時に最高の接遇を行えるようになる。 【ねらい】 「安心して子どもを預けて仕事に行ける」「仕事で疲れたけど、気分が救われる」と思ってもらえるような送迎対応を意識する。
	実践予定内容	送迎時の接遇に関して、スタッフ全員が上期・下期の目標を設定する。目標全てをまとめたものをルームの目標としスタッフ全員で送迎時の接遇を成長させていく。
2	計画・ねらい	【計画】 保護者が相談しやすい環境を整え、専門性を生かした相談支援を行っていく。 【ねらい】 保護者支援の経験を積み、保護者と一緒に子そだてを行う視点を広げていく。
	実践予定内容	発達の遅れやその他、育児に関する相談内容は園と共有しながら意見を交わし、支援につなげる。利用家族には相談支援について周知し、相談しやすい環境を整えていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	【計画】 専門性を生かした情報発信や地域の子育てを連携機関と持てる場を作る。
---	--------	-------------------------------------------

		【ねらい】 専門性をルーム内に留めず、地域の子育てという広い視野で其々の専門性を地域に還元する意識を持つ。
	実践予定内容	地域保育園へ公開型の勉強会（オンライン参加可）を実施していく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	【計画】 併設園を活かした自分の支援を実行することが出来る。 【ねらい】 併設園という環境を意識し、併設園にこだわった支援を年間通じて考えるようになる。その中には自分の持つ専門的視点を交え、目の前の児の支援から園全体の児の子育てが支援に繋がると支援と考えるようになる。
	実践予定内容	併設園を活かした自分の支援目標を設定し、定期的に振り返りながら実践していく。

〈5〉内外に認められる園づくり

1	計画・ねらい	【計画】 選ばれる園になる為、法人で求められる基準に到達する。また、ルーム内で環境構成の振り返りの場を持つ。 【ねらい】 園環境のすべてがサービスの対象と捕らえ、全スタッフが内部監査項目で求められる視点と繋がる支援について理解する。
	実践予定内容	内部監査項目は5項目以内。ルーム満足度調査は利用者・スタッフ共に平均で4.0以上を目指す。定期的な内部監査への意識を持てるよう、月間強化項目などを設定し進めていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名
 児童発達支援管理責任者1名 (施設長兼務)
 保育士3名
 機能訓練担当スタッフ1名 (理学療法士1名)

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門士による支援技術の共有 ・ マニュアル読み合わせ ・ 支援方針の検討 ・ つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食育会議の策定 ・ 食育活動実施の内容検討 ・ 喫食状況(残渣記録)の確認 ・ 給食簿指摘事項の改善
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒヤリハット、インシデントの分析 ・ ハザードマップの見直し ・ 自園及び系列園で起きた事故のケーススタディ及び改善策の策定 ・ 全事故防止委員会での内容共有
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・ 乳児、幼児に配置されたそれぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議		障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表

併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	献立内容改善、提案 給食提供マニュアル及び運用ルールの作成見直し 食育計画策定
保健会議	年4回	感染症対策やガイドラインの作成、改善 保険計画策定
子育ての質を上げる 会議	月1回	子供の理解を深め、自園の保育の質を高めるよう巻き込んでいく。

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月1回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	室内の水耕栽培、計画的な畑仕事や田植えの立案
生き物係	めだかの飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案
衛生保険係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者の協力を仰ぎながら、準備、活動を共に行う
運動会係	行事の計画、立案、実施
生活発表係	行事の計画、立案、実施

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー (併用園児)	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・他児と生活を共にし、日課・基本保育活動を通して一日の流れに共有していけるよう支援していく。 ・子どもが活動を選択できる環境を整え、安心して過ごすことが出来るよう支援していく。 ・子ども一人ひとりの特性を人として理解を深め、スタッフと関係性を構築していけるよう支援していく。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・選択できる環境、見守られる環境の中で自分の興味を広げ、遊びに没頭できるよう支援していく。 ・併用園児が互いに関わり合い、人と関わる中で集団性や社会性を養っていけるよう支援していく。
ビジター (外部利用児)	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・母園とは異なる集団の中で生活を共にし、日課・基本保育活動を園児同様に経験していけるよう支援していく。 ・子どもが活動を選択できる環境を整え、安心して過ごすことが出来るよう支援していく。 ・子ども一人ひとりの理解を深め、スタッフと関係性を構築していけるよう支援していく。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・選択できる環境、見守られる環境の中で自分の興味を広げ、遊びに没頭出来るよう支援していく。 ・互いに関わり合い、人と関わる中で集団性や社会性を養っていけるよう支援していく。
個別支援		<ul style="list-style-type: none"> ・ただの1対1の時間ではなく、集団につなげる為の個人に必要な経験を評価し提供していく。 ・個別支援を選択の一つとし、利用時間を個別支援だけに制限することはしない。個別に配慮しながら集団につなげていけるよう支援していく。 ・機能訓練士はその専門性を活かし、個別に必要とされる支援を検討し実践していく。
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	・自ら食べ物に食らいつく。食べることが大好きな子どもを増やす。
	実践予定内容	・大人も子どもも午前中にしっかり体を動かして、空腹状態でお昼を迎える。 ・気持ちよく食事をとれるよう、食事中であっても床や机を清潔に保つよう心掛ける
2	計画・ねらい	・食の循環を知り、命を頂いていることを感じる。
	実践予定内容	・利用児全員が畑仕事や田植えの経験を通し食の循環を学ぶ。普段食べているものは育まれ、実り、収穫され食卓に並んでいる事。また、それぞれの過程に「仕事」という人の関りが存在している事を知り、自らがそれを担い「ものを食べる」ということへ子どもが考える機会を設ける。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月頃・・・ウィルス性胃腸炎 12月頃・・・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・1名より預かり済み／冷蔵庫にて保管 エピペン・・・0名
エピペン使用できるスタッフ	本日現在5名が、研修受講し、修得済み 今後、未受講の新入職員が発生した場合、3月31日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在5名が、研修受講し、修得済み 今後、未受講の新入職員が発生した場合、3月31日までに受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検チェック	年6回／5・7・9・11・1・3月の25日
	事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもたちが毎日、自発的に遊びを選択し、遊びこめる環境を整える。
	実践予定内容	子どもたちが自ら届く高さに遊具が設置され、自発的に遊びを選ぶことが出来る環境を整える。また、選択した遊びをその場で遊びこめるように机、いす、棚などの室内環境を整える。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	安全管理	安全管理マニュアルの内容をスタッフと共有し、マニュアルに基づいた運営管理を行う。
2	危機管理	事故発生時に危機管理マニュアルの内容をスタッフと共有し、マニュアルに基づいた危機管理を行う。
3	救命講習会の実施	脱水症状、大きなけが、心臓マッサージなど応急処置に関する基礎的な知識を学び、事故発生時に適切な対応が出来るようにする。
4	防火管理	防火管理者の選任と所轄消防署への届け出の提出 消防計画を作成し、内容をスタッフと共有する。 法人が定めた防災訓練のスケジュールにそって訓練の実施を行う。
5	光化学スモッグ	横浜市からの情報を確認し、スタッフへ共有する。戸外活動中であった場合は日陰への誘導や帰園など適切に判断し対応する。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

東海大学大学院から受け入れ予定

併設園という環境下で、子どもたちが障害の有無に関わらず、互いに関わることで成長する姿から子どもたちを発達という知識で捉えるのではなく成長を考える機会をもってもらう。

1	実践予定内容	支援の基礎知識を知ると同時に生活の中で子どもたちの成長を支援することを一緒に生活する中で学ぶ。
---	--------	-------------------------------------------------

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉2024年度 施設内研修計画

（毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施）

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 怪我ケーススタディ「生きる力を育てる～何が必要か」 ③ 接遇と保護者対応・苦情対応について ④ 保育運営マニュアル読み合わせ ⑤ 虐待防止研修	コンピテンシー：子どもを真ん中にして「ビジネスマナー」「危機管理」のPDCAを回す 「子どもの生きる力を育てる」をテーマに保育計画と実践、その振り返りと再アクションの意見交換・話し合いを年間のテーマとして、行う。 子どもに起きやすいケガや事故を知り、その手当と応変な対応の共有をする

5月17日	18:00～20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 「生きる力を育くむ」ために日課・基本保育活動の確認と実施 ③ 保育運営マニュアル読み合わせ ④ 熱中症の危機管理 ⑤ セキュリティチェック勉強会 	<p>日課・基本保育活動について活動の意義について確認し、日々の振り返りをおこなう。</p> <p>夏の戸外活動に向け熱中症について理解を深める。</p>
6月14日	18:00～20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 食材や食の循環・環境への意識を育む環境教育とは ③ 水遊びと水の事故「食うねる水遊び」 ④ 保育運営マニュアル読み合わせ・実践・主に危機管理 ⑤ MBO発表・共有 	<p>コンピテンシー：子どもを真ん中にして「ビジネスマナー」「危機管理」のPDCAを回す</p> <p>「子どもの生きる力を育てる」をテーマに畑・保育計画と実践、その振り返りと再アクションの意見交換・話し合いを継続し行う。</p>
7月12日	18:00～20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 「生きる力を育てる～何が必要か」：大人のにんげん力アップ「ソーシャルスキルトレーニング」実践 ③ ハラスメント研修 ④ 不適切な行動とは・保育・虐待について考える、学ぶ 	<p>コンピテンシー：子どもを真ん中にして「ビジネスマナー」「危機管理」のPDCAを回す</p> <p>「子どもの生きる力を育てる」をテーマにソーシャルスキルトレーニングの講義と実践を行う。その振り返りと再アクションの意見交換・話し合いを継続して、行う。</p> <p>子どもの権利を知る・不適切な関わりの抽出：ディスカッションする・スキル講座のテーマに触れる</p>
8月9日	18:00～20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 「生きる力を育てる～何が必要か」：遊びの環境について考える ③ 小学校を知る（学習指導要領の学びと保育の方向性ディスカッション） ④ 接遇・保育者としての必須事項・確認 	<p>コンピテンシー：子どもを真ん中にして「ビジネスマナー」「危機管理」のPDCAを回す</p> <p>「子どもの生きる力を育てる」をテーマに保育計画と実践、その振り返りと再アクションの意見交換・話し合いを継続して、行う。</p>
9月13日	18:00～20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 「生きる力を育てる～何が必要か」：遊びの環境 	<p>コンピテンシー：子どもを真ん中にして「ビジネスマナー」「危機管理」のPDCAを回す</p>

		<p>について考える 「生きる力」を育む遊びと環境構成</p> <p>③ 事業計画の振り返りと後半の推進の確認</p> <p>④ アンケート内部監査項目についての勉強会</p>	<p>子どもの生きる力を育てる：「遊びと環境」をテーマに保育計画と実践を考える。その振り返りと再アクションの意見交換・話し合いを継続して、行う。</p>
10月11日	18:00～20:00	<p>① コンピテンシー自己採点</p> <p>② 「生きる力を育てる～何が必要か」薄着・裸足</p> <p>③ リズム体操 話し合い・実践</p>	<p>コンピテンシー：子どもを真ん中にして「ビジネスマナー」「危機管理」のPDCAを回す</p> <p>「子どもの生きる力を育てる」をテーマに薄着・裸足・リズム体操に焦点をあてる。</p> <p>保育計画と実践を考える。その振り返りと再アクションの意見交換・話し合いを継続して、行う。</p>
11月8日	18:00～20:00	<p>① コンピテンシー自己採点</p> <p>② 「生きる力を育てる～何が必要か」感染予防と健康を作る事</p> <p>③ マニュアルの確認・課題の抽出</p> <p>④ 虐待防止研修</p>	<p>コンピテンシー：子どもを真ん中にして「ビジネスマナー」「危機管理」のPDCAを回す</p> <p>「子どもの生きる力を育てる」をテーマに「感染予防と健康な体作り」の保育計画と実践を考える。その振り返りと再アクションの意見交換・話し合いを継続して、行う。</p>
12月13日	18:00～20:00	<p>① コンピテンシー自己採点</p> <p>② 6つの力</p> <p>③ MBOの評価</p> <p>④ 全体保育の見直し</p>	<p>コンピテンシー：子どもを真ん中にして「ビジネスマナー」「危機管理」のPDCAを回す</p> <p>「子どもの生きる力を育てる」をテーマに「6つの力」保育計画と実践を考える。その振り返りと再アクションの意見交換・話し合いを継続して、行う。</p>
1月17日	18:00～20:00	<p>① コンピテンシー自己採点</p> <p>② 「子どもの生きる力」</p>	<p>コンピテンシー：子どもを真ん中にして「ビジネスマナー」「危機管理」のPDCAを回す</p> <p>「子どもの生きる力を育てる」をテーマに保育計画と実践を考える。その振り返りと再アクションの意見交換・話し合いを継続して、行う。</p>

2月 策定会議	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年度の振り返り	一年を振り返って、策定会議に臨む
3月 策定会議② キックオフ	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度の方針設定	課題の共有と目標の設定

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
デモンクインテンシブ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣の保育園や幼稚園、商業施設との関りを持ち、コミュニケーションを大切に行っていく。海老名ルームが保護者や地域に開かれた講座や座談会などを開催し、地域に貢献できる事業所を目指す。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：海老名駅周辺の公園 絵本・紙芝居等 季節や天候に合わせて内容を実施していく。
商店街ツアー	週1回
世代間交流	高齢者との交流（プラチナコミュニティ・ココファン）
異年齢交流	大学生ボランティアの受け入れ
地域拠点活動	インクルーシブ保育の有効性 体や環境に関する専門性を活かした勉強会を地域への一般公開や近隣園の保育園に展開していく。

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

近隣小学校への訪問を通して連携をしていく。就学支援シートによる引継ぎのみに頼るのではなく訪問相談支援の開始に繋がるよう、関係機関との基盤を作っていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を6月3日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	近隣小学校 (園と検討して訪問)	2~3名予定	見学	開所挨拶
11月頃	近隣小学校 (園と検討して訪問)	2~3名予定	情報交換	交流
2月頃	近隣小学校 (園と検討して訪問)	2~3名予定	情報交換	次年度準備

10. 個別支援計画の作成と更新について

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害の状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることができると確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせを行う。
- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

生活場面より子どもの様子を確認し、多職種の視点から子どもの理解を深めたうえで長期目標から逆算した短期目標を設定し、支援していく。

〈2〉 毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催予定 参加者：6名予定）

生活場面の様子から園と相談し検討する子どもを決めて開催する。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

就学支援シートを作成することで進学席に適切な情報提供をおこなう。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:00～17:00
つむぎカフェ	設置なし
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ※保育園の計画に準ずる
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00 ※保育園の計画に準ずる

どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00 ※保育園の計画に準ずる
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行 ※保育園の計画に準ずる
青空保育	月1回 公園名：海老名駅周辺の公園にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年8月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：13時30分

自己評価終了予定時刻：16時00分

自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2024年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	併設園の中で子どもが生活する全ての時間に「10より100の経験」を意識し成長に繋げる。日課・基本活動を中心に生活の中で併設園児全員の成長を支援し見守る
「併設園という環境を活かし成長に繋げる事が出来る」	振り返り	スタッフは日課・基本保育活動を中心に生活の中で支援を行うことが出来た。また、個々に必要な機能訓練など個人に必要な支援を実施する事が出来た。今後は日課・基本保育活動の中にそれぞれの専門性をどのように活かし、成長に繋げていくか。園スタッフとどのように連携と子そだてを深めていくかを体制化していく事が必要と感じた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	併設園の取り組みを地域に伝えていき、また、園から外に出て地域支援をしていける園となる。
	重点施策	1年目の支援から生活の中で子どもを支援する視点を活かし、積極的に近隣保育園に訪問支援を行っていく。
2025年度	目指す姿	併設園としてマンスリー児童10人のサービスを実現する。
	重点施策	2年間の併設運営期間を経て、併設スタッフ全員がそこで過ごす全ての子どもの子育てを一緒に考える。障害の有無に関わらず、集団の中で成長する経験をマンスリー児童にも提供していく。
2026年度	目指す姿	海老名市に園庭付きの併設園設立に繋がるモデル園となる。
	重点施策	3年間の支援から「インクルージョン」から繋がる子どもたちの成長について取り組みをまとめ、公開型の勉強会等を通して外部発信を積極的に行い、海老名市に併設園の在り方を示していく。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 海老名ルーム 施設長 庄司 宜史

2024年度 発達支援つむぎ 香取台ルーム 事業計画書

1. 基本方針

近年、日本の公教育について大きな方向性の転換を迎え、次世代を生きる子どもたちは、「生きる力」を身に付け、変化の激しい社会を生きていくことになる。「生きる力」について、どろんこ会が掲げる子育て理念・目標を軸に「生きる力」と「にんげん力」を育てていく。

つむぎ香取台ルームが所在するつくば市では「つくばらしさ」をいかした保育を掲げ、つむぎ香取台ルームの発達支援は「つくばらしさ」といわれる自然・科学・文化・国際性などの豊かな資源や環境を支援内容に活かしていく。保育や支援は一斉・一方向ではなく、個別・双方向の学びの観点から、子どもたちは様々な体験とホンモノの経験を通して、自分で考え、選択し、行動する力を身に着け、10の姿を育む。大人は子どもたちの将来の可能性を広げていく。

私たちはつむぎ香取台ルームに併設する香取台どろんこ保育園・香取台どろんこ学童と協力し、丁寧な保育・支援に重点を置く。どろんこ会が取り組んでいる異年齢保育、子ども一人ひとりに必要な保育と支援を尊重し、子どもたちに「生きる力」と「にんげん力」を育てていくことを目標に、私たちは丁寧に子どもたちと関わっていく。また、子育てに関わる保護者、地域の方や関係機関との連携を強め、子どもも大人も「成長を楽しむ」ことができる施設運営をつむぎ香取台ルームが中心となり役割を担っていく。

つくば市は、2023年に人口増加率が全国1位となり、子育て世帯が増えている。つむぎ香取台ルーム・香取台どろんこ保育園が利用者や地域に選ばれることで事業として存在し続けることが重要である。つむぎ香取台ルームは香取台どろんこ保育園とともに利用者や地域の方、関係機関と協力することで「地域ともにある事業所」を目指していく。

法人保育理念 「にんげん力。育てます。」
必要な遊び、野外体験を提案実施し、“自分で考え、行動する思考”を育む。

子育て目標 「センス・オブ・ワンダー」
子どもが“畑仕事・稲刈り・ヤギや鶏の世話などの労働”や“自然の中での体験”を通して、ものの性質や身近な事象・生命の尊さ・食材や食の循環に気づくことができるように、10よりも100の経験を与え、子どもが“したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援していく。

「人対人コミュニケーション」
地域交流を実施していくうえで、一人でも多くの人と挨拶を交わし、一つでも多くの仕事を目にする機会を用意し、“感じたこと・考えたこと”を言葉で、ジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成していく。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	計画：子どもに生きる力を育むための保育と支援の実施。 ねらい：戸外活動や自然体験、人とのコミュニケーションを経験する機会を提供し、非認知能力の向上を図った保育と支援を充実させる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・会議や研修を通して、生きる力とは何かを知る。 ・戸外活動や自然体験、日々の支援内容の立案。 ・定期的に保育や支援、内容について振り返る。 ・子どもの成長を共有し合う。
2	計画・ねらい	計画：子どもの気持ちに寄り添った保育と支援の実施。 ねらい：子どもの気持ち・行動を知ることにも努め、一歩先またはその先も見据えた環境構成や遊びの提供を行う。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの全体像を把握し、記録する。 ・会議・研修を通して、ドキュメンテーションやポートフォリオの作成を行い、共有し合う。 ・定期的に保育や支援、内容について振り返る。
3	計画・ねらい	計画：食の循環を大切にされた支援の実施。 ねらい：途切れない食育を支援に取り入れる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・食の循環、農業に関する学び機会の提供。 ・畑仕事が日課となり、子どもが携わることのできる内容の提供。
4	計画・ねらい	計画：子どもの将来を見据えた支援と学校との連携。 ねらい：幼児期の終わりまでに育てて欲しい姿を増やす。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の小学校の生徒との交流会等の実施。 ・小学校の授業参観の参加、体験授業の参加。 ・アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを熟知し、保育や支援を実施していく。

〈2〉 事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	計画：安心して通うことのできる事業所。 ねらい：保護者とコミュニケーションを積極的にとり、丁寧な関わりを心掛け、保護者や利用者が安心して利用や相談をすることができる場を作っていく。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のフィードバックを丁寧に行う。 ・受け入れ時や支援中の時間での言葉かけを行っていく。 ・子育て支援室とつむぎカフェが連携した行事の実施
2	計画・ねらい	計画：保護者交流会や講座の実施。 ねらい：保護者同士の交流の機会として、子育てや就学をテーマにし、気軽に話すことのできる場を提供していく。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの情報収集、ニーズの把握。 ・就学に関する情報・知識を小学校と連携を図る。 ・スタッフの知識やスキル、法人の保育や支援を知る機会の提供。
3	計画・ねらい	計画：発達や子育てに関する相談会の実施。 ねらい：地域の方も気軽に相談できる場として、ちきんえっぐ「どーなっ

		つ」を活発させ、つむぎや保育園の保護者、地域の方との関わりを広げていく。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・つむぎカフェの充実化。 ・月1回、つくばエリアの系列保育園や地域の方を対象にした相談会の実施。広報を積極的に行う。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	<p>計画：発達や子育てに関する相談会の実施。</p> <p>ねらい：地域の方も気軽に相談できる場として、ちきんえっぐ「どーなっつ」を活発させ、つむぎや保育園の保護者、地域の方との関わりを広げていく。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・つむぎカフェの充実化。 ・月1回、つくばエリアの系列保育園や地域の方を対象にした相談会の実施。広報を積極的に行う。
2	計画・ねらい	<p>計画：地域の方を交えた体験学習の実施。</p> <p>ねらい：定期的に体験学習を行い、つむぎ利用者だけではなく、地域の方も参加ができる取り組みを行い、どろんこ会、発達支援、つむぎの存在を広めていく。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の実施する青空保育の場や支援のプログラムの中で、つむぎの支援を体験することのできる機会を作る。 ・活動の立案、準備。

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	<p>計画：「生きる力」を育むための日課・保育・支援の実施。</p> <p>ねらい：大人が背中を見せて一緒にいき、子どもが挑戦できる気持ちをつくる。子どもが自分で考え、選択し、実践しようとする機会を大切にす</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に入り、子どもとのコミュニケーションを通して、子どもの気持ちを知る。 ・スタッフの保育や支援の質を高めるための勉強会・研修の場を作り、積極的にアウトプットしていく。 ・子どもの成長に必要な活動、環境を用意する。
2	計画・ねらい	<p>計画：保護者と一緒に成長を楽しむことができる。安心のできる発達支援</p> <p>ねらい：日々の子どもの様子をスタッフ間で共有し、全体像を把握する。必要な支援や関わりから、子どもの様子を保護者に丁寧に伝えることを心掛け、「ここにしておかした」と思うことのできる支援と接遇をする。日々、保護者との信頼関係を築いていく。</p>
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のフィードバックを丁寧に行う。 ・受け入れ時や支援中の時間での言葉かけを行っていく。 ・社会人としてのマナーや接遇を知る研修の実施。

		・会議や振り返りの場で子どもの様子を共有する。
3	計画・ねらい	計画：事業形態にとられないスタッフの連携と協働。 ねらい：スタッフ間のコミュニケーションを密にすることで、誰もがすべての子どもに関わり、寄り添っていく。4つの事業所がひとつ屋根の下にある香取台どろんこの保護者や地域の方が安心して利用できる事業所を目指す。
	実践予定内容	・園会議や昼礼などの場での対話を実施。 ・会議や振り返りの場で子どもの様子を共有する。 ・スタッフの保育や支援の質を高めるための勉強会・研修の場を作り、積極的にアウトプットしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	計画：「つくばらしさ」を活かした保育・支援の実施。 ねらい：自然・科学・文化・国際性を支援に取り入れ、様々な活動を通して、子どもの将来の可能性の幅を広げる。
	実践予定内容	・戸外活動や自然体験が主となる保育・支援内容の立案。 ・社会科見学や施設訪問を積極的に行い、人との交流や伝統・文化に触れる。 ・子どもの「やってみたい」と思う気持ちを尊重し、様々な行事、経験の場を用意する。
2	計画・ねらい	計画：ゾーン保育の実施。 ねらい：子どもが集中して遊ぶことのできる環境の構築を図り、落ち着いた環境下で遊ぶことができるための室内環境の構築を図る。
	実践予定内容	・子どもの様子を把握し、子どもの経験に必要な道具や環境を用意する。 ・環境設定後の動線、子どもの変化の振り返りを定期的に行う。
3	計画・ねらい	計画：ホンモノに触れることのできる環境、すぐに手に取ることのできる道具と経験の場の提供。 ねらい：子どもたちに必要な経験が得られる環境を構築し、「やってみたい」を広げ、子どもの成長する機会を多く提供する。
	実践予定内容	・子どもの経験に必要な活動や環境を用意する。日々の保育の中で試行していく。 ・子どもの変化の振り返りを定期的に行う。

〈6〉インクルーシブ保育・教育、インクルーシブな社会の実践

1	計画・ねらい	計画：互いを認め合い、多角的な視点で行う保育と支援の実践。 ねらい：スタッフ間の対話を深め、互いを認め合っていく。協働し合い、個人の個性や専門性を発揮し、多角的な視点から子どもの様子を捉えていく。
	実践予定内容	・対話形式の会議の実施。 ・個人の個性や専門性をアウトプットできる会議や研修。 ・子どもの様子、保育や支援内容について振り返る。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

放課後等デイサービス 10人/日

〈2〉開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

機能訓練担当スタッフ3名 (言語聴覚士1名、作業療法士1名、理学療法士1名)

保育士1名

児童指導員1名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回 120分	<ul style="list-style-type: none"> ・専門士による支援技術の共有。 ・研究テーマ(造形、音楽、自然、食など)を設け、資料を使った研修を行う。 ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・給食内容の検討。 ・保育品質マニュアルの確認。 ・各クラスの給食状況の共有。 ・アレルギー食、アレルギー児童対応。 ・食育活動実施内容の立案、振り返り。
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット、インシデント、事故に関する分析と共有 ・ハザードマップの見直し。 ・自園及び系列園で起きた事故のケーススタディの実施。

支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援計画作成に伴い、開催時期の調整。 ・ 児童に関わるスタッフと児童発達支援管理者が必ず参加し、期間内の振り返りと次期の目標設定を行う。
つむぎ会議	週1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用児童等の情報共有。 ・ 支援プログラムの振り返りと立案。
昼礼	毎日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童に関する情報共有。 ・ 保育や支援に関する情報共有。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど。
施設長勉強会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマに即した計画的な研究の遂行。 ・ どんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進。
児発管会議	年2回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表。
併設園会議	四半期1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ インクルーシブ保育の研究と実践発表。
食育会議	年4回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 献立の内容改善、提案。 ・ 給食提供マニュアル及び運用ルールの作成と見直し。 ・ 食育計画策定。 ・ アレルギー食、アレルギー食対象児童の対応。
保健会議	年4回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症対策やガイドラインの作成と見直し。 ・ 保健計画の策定。
子育ての質を上げる会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の質上げ向上につながる研修。 ・ 保育内容と環境構成。

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導。
安全対策係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策。 ・ 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起。
防火管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災計画の立案、月2回の防災訓練の。実施、消防計画の立案。 ・ 近隣施設との連携の推進。

食品衛生責任者	・飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理と食品サンプルの管理。
畑係	・屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案。
生き物係	・生き物の飼育管理、ビオトープ作成の指揮、動物や植物に触れる機会の検討立案。

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係 (保育園合同)	・どろんこサポーターズとの連携。 ・行事の計画、準備、運営、振り返りのサポート。
運動会係 (保育園合同)	・行事の計画、準備、運営、振り返り。
生活発表会係 (保育園合同)	・行事の計画、準備、運営、振り返り。

4. 支援方針

〈1〉基本方針

保育内支援 (児童発達支援)	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の生活や活動に慣れ、子どもや大人と関わりを通して安心して過ごすことができるよう支援していく。 ・日課、戸外活動など活動を通して子どもの成長に必要な体験を日常的に行い、生きる力を育む。 ・生活を通して身辺動作への取り組み、基礎体力の向上を図る。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を通して、自分で考え、自分で選択できる力をつける。 ・他児と遊びを共有し、関わりを通して、コミュニケーション能力を高め、主体性を大切にしながら集団生活を楽しむ。 ・異年齢で過ごす中で、お互いを尊重し合い誰もが受け入れることができる。
グループ活動 (放課後等デイサービス)	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・集団を通してお互いを知ることからはじめ、対話・遊び・催し・仕事(学び)を軸に主体性と協働を尊重した支援を行う。 ・室内だけではなく、園庭や戸外での活動を増やし、「ホンモノ」に触れる機会を増やした支援を行う。 ・学童との関わりを通して人との関わりを学ぶ。
個別支援	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達を理解し、活動や遊びの中で子どもが「やってみ

(児発・放デイ)		たい」を引き出し、主体性を尊重した支援を行う。 ・室内だけではなく、園庭や戸外での遊びを増やし、ホンモノに触れる機会を増やした支援を行う。
事業所内相談支援	随時	・随時、希望する保護者に対し実施。 ・「相談支援記録」を活用。
保護者面談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施。 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用。
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整。 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用。

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	計画：空腹感を感じられる子ども、意欲的に食べられる子どもとなる。 ねらい：生活リズムの獲得、整える。
	実践予定内容	・「お腹がすくまで遊ぶ」「美味しく楽しく食事をとる」「旬を味わう」 「国内産・高品質の食材」「日本食・伝統食」を大切に考え、昼食・おやつ・夕食も全て手作りのものを提供する。
2	計画・ねらい	計画：食への関心を広げる・食の循環を知る。 ねらい：作物や食への興味を広げていくことで新しいことにチャレンジする。
	実践予定内容	・子どもたちが自分たちで盛り付け、配膳して食べる。 ・素材の味を味わえる状態で提供する。 ・自ら育てた作物を食する、命をいただく（捌く、解体する）体験を通して自然の恵み・命の大切さに気付く。 ・糞・ゴミの堆肥化から、そのサイクルを知る。 ・行事食・郷土食などと触れ合い、伝統文化を知る。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年…新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施。 11月頃…インフルエンザ、胃腸炎。
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	保管なし。
エピペン使用できるスタッフ	本日現在6名が、研修受講し、修得済み。 未受講の新入職員3名については3月21日までに受講予定。
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在6名が、研修受講し、修得済み。 未受講の新入職員名については3月21日までに受講予定。
その他保健に関する取組み	5歳児対象に性教育の実施予定。 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み。 ※香取台どろんこ保育園実施予定。
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日 ※香取台どろんこ保育園実施予定。
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日

	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	施設内虐待防止委員会	年2回／9・2月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	計画：「必要なモノ以外置かない」事業所。 ねらい：整理整頓を徹底し、利用する人、働く人が居心地のいいと思える環境作りを行い、安心して利用することのできる事業所を目指す。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の清掃、定期的な大掃除の実施。 ・スタッフが効率よく働くことのできるための整理整頓の徹底。 ・玄関や部屋などの配色やモノの配置・植物を定期的に変える。
2	計画・ねらい	計画：子どもの「やってみたい」が引き出せる室内環境。 ねらい：室内関係を充実化させ、子どもたちが自由に、そうぞう力を発揮できる環境を作る。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子を把握し、子どもの経験に必要な道具や環境を用意する。 ・子どもの「やってみたい」と思う気持ちを尊重し、様々な行事、経験の場を用意する。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

特になし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	<p>〈ケガ事故防止〉</p> <p>危機管理マニュアルに則り、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。</p>
2	実践予定内容	<p>〈防災〉</p> <p>危機管理マニュアルに則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自</p>

		衛消防訓練通知・救命救急資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策系の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う。
3	実践予定内容	〈防犯〉 危機管理マニュアルに則り、不審者侵入訓練の実施・笛の携帯・代理送迎者の把握・不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入時にはフローチャートに従う。
4	実践予定内容	〈光化学スモッグ〉 危機管理マニュアルに則り、光化学スモッグの知識を身に付け、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する。 つくば市においては、「光化学スモッグ注意報」が発令された場合には市役所から保育園・幼稚園・義務教育学校・公共施設・駅・郵便局等に情報を流し、運動の自粛や看板の設置などの対策をとっている。人体への影響が心配される場合、光化学スモッグ警報が発令される。「光化学スモッグ注意報」連絡体制に伴い、香取台どろんこ保育園でもそれに従い、発令中の間の外出を自粛する。
5	実践予定内容	〈ケガ事故防止〉 危機管理マニュアルに則り、事故防止チェック及び設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS防止策を行い、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

つむぎ香取台ルームは児童発達支援事業所・放課後等デイサービス・認可保育所・学童保育の4つの事業が併設している特徴的な事業所であり、インクルーシブな環境下で学ぶことができる。

保育士に限らず、作業療法士や言語聴覚士などを志す学生も実習の場として積極的に受け入れていく。児童発達支援や放課後等デイサービス、また保育所で専門士がどのような役割を担っているのかを実習生に伝えていく。

ボランティアや中高生の体験学習の受け入れ口としても積極的に行い、保育・発達支援の現場で働くきっかけとなる機会を提供していく。

1	実践予定内容	児童発達支援事業所、放課後等デイサービス、保育園、学童保育の基礎的な概要や知識を得る。
2	実践予定内容	子どもの様子を把握し、支援内容や方法を知る。また支援内容や活動を立案する。
3	実践予定内容	子どもとの関わり方、保護者とのフィードバックを知り、発達支援の全体を把握する。社会人としてのコミュニケーション力や接遇を学ぶ。

7. スタッフ育成と研修計画

つむぎ香取台ルームに所属するスタッフは香取台どろんこ保育園のスタッフと協力し、子どもたちの「生きる力」や「にんげん力」を育むための基礎となる保育に従事する。保育や発達支援のスキルアップに留まらず、子どもや大人への丁寧なコミュニケーションと接遇を心掛け、子どもや保護者が安心して利用することのできる施設運営を行う。

スタッフの知識向上やスキルアップ、または将来性を鑑みて、役職を担うことや資格取得の研修等の参加、学びの機会を尊重していく。

〈1〉2024年度 施設内研修計画

新人研修	新入社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■新入社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修 (年1回) ■園内研修 (月1回以上) ■保育スキル研修 (エリア別) ■リーダー養成研修 (9~2月) ■業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会 (月1回) ■デンマークインターンシップ (年1回) ■コンピテンシー自己採点 (月1回) ■人権チェック (4月・10月) ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習
<p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>		<p>←避難訓練研修</p>

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月18日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック ③ 子どもの人権 ④ 虐待防止研修 ⑤ 接遇	人権について考え、問題点の改善をはかる。 子どもに対する見方、捉え方を学ぶ 社会人としてのマナーや接遇について学ぶ。
5月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② さくらさくらんぼリズム ③ メンタルヘルスケア	実技の確認とともに、指導法のヒントを探る。 スタッフがいきいきと働けるための支援や環境作りの実践。
6月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 夏の感染症予防 ③ 危険植物・生物	夏に向けて、流行する感染症やその対策・予防について知り、考える。 危険な植物や生物について知り、応急処置等を学ぶ。
7月18日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ゾーン保育・環境について	子どもたちの「やってみたい」を引き出す保育環境。子どもたちの対話

		て ③ サークル対話について	力を引き出す方法を学ぶ。
8月22日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 行動分析	子どもの様子について、生活の中から見えてくる行動と支援方法について学ぶ。
9月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 利用者アンケートについて	利用者アンケート結果から見えてくる課題とその対策について考える。
10月17日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② ソーン保育・環境について ③ 人権チェック ④ 虐待防止研修	ゾーン保育について振り返り、環境構成について対話。 人権について考え、問題点の改善を図る。
11月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 冬の感染症 ③ アプローチカリキュラム	冬に流行する感染症について対策・予防について学ぶ。 小学校との接続に必要な知識を知り、アプローチカリキュラムやすたについて学び、保育への活かし方を考える。
12月19日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② プロポーザルに向けて ③ わらべうたの世界	次年度に向け、プロポーザル制度について知る。 わらべうたが与える効果とその基礎を知る。
1月16日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② レジリエンス ③ 策定会議に向けて	ストレスと上手に付き合う方法、困難を乗り越え、成長することができる方法を知る。
2月20日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 年度振り返り	一年を振り返り、それぞれの課題・園の課題を考える。
3月2日	9:00~18:00	① コンピテンシー自己採点 ② 次年度に向けて	課題への共通理解や協同性を高め、目標を設定し計画を立てる。

エリア研修予算内訳（万博公園どろんこ保育園合同開催）

開催日	開催時刻	名称・予算		開催場所
6月	9:00~12:00	救命救急講習	0円	香取台どろんこ保育園
6月	9:00~12:00	救命救急講習	0円	香取台どろんこ保育園

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用。											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定。											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
デモンクイターソシツ®	希望するスタッフが応募。											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。スタッフの保育・支援について振り返る機会をつくり、定期的に面談を行っていく。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：諏訪公園、吉祥寺公園にて。
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域行事の参加。

異年齢交流	小学校・特別支援学校訪問 他園・他事業所との交流。 中学生の体験活動やボランティアの受け入れ。 日々の生活の中で、クラスで分けることなく異年齢で共に過ごす。
地域拠点活動	ちきんえっぐによる活動、青空保育。 園庭開放やちきんえっぐの利用者には積極的に誘い掛け、行事参加やちきんえっぐやつむぎの広報に努める。

9. 小学校との連携の計画

- ① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
- ② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
- ③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
- ④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
- ⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。
- ⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。
- ⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

つくば市内の小学校、周辺地域の小学校や特別支援学校の見学を積極的に行い、教育機関との連携に努める。学校との連携や情報共有により、子どもや保護者が安心して学校生活を送ることのできる関係を目指す。幼保小連携、つくば市周辺地域の子育て会議や研修等に参加することで、関係機関との連携を図り、地域支援の体制を構築することに努めていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月1日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	香取台小学校 つくば特別支援学校	5名予定	学校見学	子ども間交流
7月頃	研究学園小学校 伊奈特別支援学校	5名予定	学校見学	子ども間交流
9月頃	島名小学校	5名予定	学校見学	スタッフ間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせを行う。
- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

原則6カ月以内に1回以上、支援計画の見直しを行い、保護者にモニタリングを実施する。保護者の希望を聞き取り、子どもの心身の状況、日常生活の様子を整理する。児童発達支援管理責任者と担当者らと策定会議を行い、目標設定と具体的な支援を検討し、個別支援計画書を作成する。個別支援計画書は保護者に提示し、説明と同意を得て支援を行う。

〈2〉 毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催予定 参加者：5名予定）

支援の様子や家庭での様子を踏まえ、必要に応じて対象となる子どもを対象とする。支援の様子と記録・保護者からの聞き取り・個別支援計画書内容等をもとにケース会議を行う。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

地域の学校との連携に努め、授業参観や体験授業に参加をする。就学や進級に関する情報の収集を積極的に行い、保護者に共有をしていく。相談や就学に関する文書（就学支援シート）の作成等を積極的に勧め、保護者・学校・児童発達支援事業所の3者間で共有していく。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30
つむぎカフェ	(月)～(土) 8:30～17:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30

自然食堂…親子ランチ交流	毎週（●）10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（●）10:00～12:00
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：諏訪公園・吉祥公園にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年12月27日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：13時30分

自己評価終了予定時刻：14時30分

自己評価実施予定者：森田 隆之介

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども、スタッフ、保護者、地域の方が安心して来所できる場として、勉強会等を通し、利用者が過ごしやすい環境設定、支援の質向上、保護者支援を丁寧に行うためのスタッフ育成を行う。 ・子どもの「やってみたい」が表現できる支援としてルーム内に留まらず、地域の施設や自然を活かした支援や活動を計画する。 ・保護者、地域の方に対して丁寧なコミュニケーションを図り、居心地のいい場であることを目指し、自然と保護者交流が盛んに行われることを目指す。
-------------	------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・「つくば」を知ることから始まり、併設している香取台どろんこ保育園と連携し、保育・支援内容に近隣の公園や施設の活用を試み、散歩や活動を通して、子どもたちの経験の機会の提供に努めた。しかし、近隣に留まってしまうことが多く、子どもたちの活動の幅や経験の機会を増やし、子どもたちが「やってみたい」と思える活動や環境を増やしていくために、次年度は新たな散歩先、活動や体験場所の開拓が必要である。 ・保護者や地域の方にとって、つむぎ香取台ルームが居心地の良い場となるよう美観や丁寧なコミュニケーションを心掛けた。しかし、保護者同士の交流やTSUMUGI CAFEの積極的な活用などは少なく、課題である。
--	------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	地域と連携した保育・支援の実施。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業所や教育機関との連携を図り、就学や進学を見据えた支援を行うため、幼保小の架け橋プログラムやスタートカリキュラム等の熟知、様々な情報の共有をすることに努める。 ・保護者、地域の方がTSUMUGI CAFEを憩いの場として、活用していただけることに活動の周知や存在を地域に広めていく。香取台どろんこ保育園の子育て支援室と連携し、講座や子育て支援を積極的に行い、地域とともにある子育て支援を行っていく。 ・子どもの成長を支える保育と支援の質の向上を図るために、「つくばらしさ」をいかした保育・支援から幼児期に育てほしい10の姿を育み、小学生は香取台どろんこ学童との活動を通して、友だちと互いに励まし合い、高め合うとともに、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていく。 一斉・一方向ではなく、個別・双方向の学びから思考力、判断力、表現力等を養うことのできる様々な経験と体験の機会を提供していく。
2025年度	目指す姿	地域に貢献できるルームとなる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの成長を見据え、子どもたち一人ひとりが主体的に活動し、自発性や探索意欲などを高めるとともに、自分への自信をもつことができるよう支援、畑仕事や活動を計画し行っていく。 ・様々なコミュニティの場で自分がアイデアや思いを実践していくことで、新たな支援や保育のきっかけを作っていく。 ・地域の子育てイベント参加、自ルームでの開催を積極的に行い普段利用していない方も参加し、子育てや教育に関する情報提供していく。
2026年度	目指す姿	地域を先導するルームとなる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの個性やスキルを最大限に活かし、事業内に留まらず、地域とともに子育てを行っていく、子どもの成長を楽しむことのできる施設運営を香取台どろんこ保育園とともにつむぎ香取台ルームが中心となり役割を担っていく。

以上

2024年度 発達支援つむぎ 北朝霞ルーム 事業計画書

1. 基本方針

「保育所保育指針」「児童発達ガイドライン」に基づき、どろんこ会の「にんげん力。育てます。」を理念のもと、インクルーシブ保育の実践を行っていく。

守る支援・矯正する支援ではなく子どもたち一人ひとりが主体的に意欲的な活動が出来る環境を整え計画的に配置をしていく。子どもたちの『やってみたい』という気持ちを尊重し、自分で出来ることは自身で取り組む、『やってみよう』という自主的な芽生えが育つよう職員が関わり支援していく。一人ひとりの個性を大切にしながら、年齢、国籍、障害の有無で隔てることなく、全ての子どもたちが共に協力し合い、安心して生活ができる場となる。保育者、支援員問わず全てのスタッフが全ての子どもたちと関わりながら、子どもたちが自ら「混ざり」「自己決定」ができる環境を構成していく

子どもが持つ興味を始め、体験を広げていくこと真ん中に置きながら子どもの『今』に合った環境を用意していく。職員間では子どもについて大人同士で語り合い、保護者と共に子どもたちの成長を喜ぶ機会を大事にしていくこととする。幼児期に育つ10の姿を逆算したアプローチカリキュラムを取り入れ、質の高い保育・支援を行う。子どもがのびのびと育つことを見守り、すべてをユーモアのある遊び(=学び)に発展的に関わっていく。

社内の立場関係なく意見が言いやすい環境づくりを目指し、職員の個性も尊重される職場で在り続ける。職員一人ひとりの能力をお互いが認め合いながら仕事を任せられる関係性を築いていく。職員が同じ方向を向きながら支援に携わり、職員自身のやりたいことを叶えながら大人のにんげん力アップに貢献する。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもの発達段階を捉え、職員の方向性を合わせた支援の取り組み
	実践予定内容	職員間にて情報交換を密に行いながら園側とも共有し、全職員が同じ方向性を向いたぶれない支援を行っていく
2	計画・ねらい	日課・基本保育活動の促進
	実践予定内容	一日の活動に見通しを持ちながら日課をこなし、戸外活動や雑巾がけ、畑仕事の活動に取り組み、習慣化する。また子どもたちが自ら考え、体を動かせる環境設定を行っていく
3	計画・ねらい	職員間の交流を大事にしながら子どもを真ん中に置いた環境の構築、子どもにとって最善な利益の獲得が出来る施設づくり

	実践予定内容	職員間で子どもの日常や成長を語り合う機会を持ちながら、子どもにとって何が最善の利益なのか考え、ディスカッションを行う。また支援の散る組を見える化しながら誰もが子どもと関わり、成長を喜び合えるコミュニケーションを積極的にとっていく
--	--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

保

1	計画・ねらい	フィードバックの充実化
	実践予定内容	日常の様子を写真や動画を通して保護者達へ伝えていく。専門的視点を持ったアドバイスや保護者の子育ての悩みや支援の共通理解を図っていく
2	計画・ねらい	利用者のニーズに応え、サービスの向上を図る
	実践予定内容	日頃から保護者と密な連携を行い、保護者の声を受け止め、どのようにニーズに応えるか職員間にて考え実行していく。
3	計画・ねらい	所属園、就学先、相談支援事業所等、各関係機関との連携
	実践予定内容	保護者の同意のもと、所属園への園訪問、就学先への就学支援シートの作成及び情報共有、サービス担当者会議への参加を行い多面的な支援を行う

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	小学校、自治体、相談支援事業所等の関係機関の連携強化
	実践予定内容	就学を見据えた小学校訪問の実施、スタッフが地域子育て講習会の参加後、地域子育てイベントを保護者へ案内を行う
2	計画・ねらい	地域に根付いた子育て相談場所、情報提供の場となる
	実践予定内容	地域の子育てしている方も気軽に入れるよう入口につむぎカフェのパンフレットを設置、ほっと一息つきながら保護者間の情報交換できる場所の提供を行う
3	計画・ねらい	つむぎの取り組み内容を地域に発信
	実践予定内容	つむぎの支援内容の発信をパンフレットやブログを通して情報発信を積極的に行い、地域の理解や認知を得る。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	研修、勉強会の充実
	実践予定内容	スタッフそれぞれが悩む支援について個別的に聞き取りし、内容に沿った定期的な勉強会の実施を行う。またスキルアップに向けた研修を積極的に発信しながら一人ひとりが参加できる機会を増やしていく
2	計画・ねらい	リーダーの育成

	実践予定内容	自身で学んだこと、子どもの支援に携わった経験などを後輩に指導、助言ができる場の発表を行うなど環境をつくっていく。チーム内で円滑・スムーズな連携がとれるようパイプ役となれるような立場の配置を行う
3	計画・ねらい	子どもの成長を見逃さず一緒に喜びを分かち合えるスタッフの育成
	実践予定内容	子ども一人ひとりの個性や発達を尊重し、10の姿を深めながら成長を見守り支援を行う

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	季節感ある環境づくり
	実践予定内容	毎月の製作物等を掲示しながら季節を感じられる環境づくりを行う 戸外活動に取り組む中で季節の変わり目を感じられるような発見、気づきを持って子どもたちと共有する
2	計画・ねらい	畑仕事、食材加工、捌いて食べる命をいただく等の活動を通し、食材や食の循環へ意識を育む環境の配置、実践する
	実践予定内容	子どもたちと畑で育てた野菜を収穫し、食する経験を通じ、食について考える機会を作る。魚の解体を見ることで食の循環について学ぶ
3	計画・ねらい	散歩コース、公園等の地域清掃活動
	実践予定内容	登園降園時に通る保育園周辺の清掃を毎日行い、美化に努める。 散歩先の公園設備を綺麗に使い、必要であればゴミ拾いを行う。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	子どもが混ざり合い、助け合って生活する仕組みづくりに取り組む
	実践予定内容	子どもたちが主体となって活動し、自身が気付きをもって積極的に他者を助けようとする心を持てるよう大人が見本となり背中を見せる。
2	計画・ねらい	子どもの成長に気づきを持ち、一人ひとりに合わせた支援を行う
	実践予定内容	月の振り返りを行いながら発達段階を見極め、子ども一人ひとりに合わせた支援を職員全員が同じ方向性を向いた支援を行っていく
3	計画・ねらい	併設園の機能性を活かした異年齢の関わりを充実化
	実践予定内容	併設園を運営する上の質を上げた仕組みづくりを常に追求しながら保育園側と並行して子どもたちが伸び伸びと過ごす環境を配置していく

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長兼児童発達支援管理責任者1名

保育士1名

児童指導員2名

機能訓練担当スタッフ1名(心理士1名)

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
園全体会議	月1回120分	<ul style="list-style-type: none"> ・次月の行事確認、内容検討共有 ・各係からの共有、検討事項話し合い ・研修計画に基づいた園内研修の実施
給食運営会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・食育活動実践報告、喫食状況確認、配膳方法等
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデント、事故記録簿、ヒヤリハットの共有 ・再発防止に向けた検証
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子、状況の共有、対応について ・つむぎと園との連携、情報共有と検討 ・支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。
マンスリー会議	月1回	マンスリー児の週目標設定や、様子の共有

つむぎスタッフ会議	月1回	ルーム運営の各担当進捗報告 体験活動の企画や検討事項の話し合い
朝礼、昼礼、終礼	毎日	その日の確認と振り返り、園との情報共有

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	四半期1回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	食育計画振り返り、実践報告
保健会議	年4回	衛生、感染症マニュアルの確認、検討、実践報告
子育ての質を上げる会議	月1回	コンピテンシー実践の共有、テーマに即した実践の共有と振り返り、エリア内での情報交換

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑・植物係	園庭の畑やプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	魚の飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保育園と共に計画・実行を行う

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して過ごすことのできる環境を整える ・情緒の安定を図りつつ、生活リズムを安定させていく ・身近な大人との安心した関りの中で、人と関わることの楽しさを感じ人間関係の基礎となる部分を養う ・やりとりを通して身振り・手振りや簡単な言葉を用いて、自分の気持ちや要求を表現する力を育む ・様々な体験を通し「やってみたい」と思う気持ちを育てる
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に基づいた身近な原体験を重ねていく ・異年齢の友だちとの関りの中で友だちと過ごすことの楽しさややりとりするためのコミュニケーション力を育む ・やりたいことを自ら選択し自己決定して参加していく中で興味や探求心を育む ・主体的な参加（どう参加するか）を大切にする ・小さなことから大きなことの成功体験を積み重ね、自己肯定感を高めていく
ビジターグループ	上半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して過ごすことのできる環境を整える ・小集団での他者との関りの中でコミュニケーション能力を育む ・様々な体験を通し「やってみたい」と思う気持ちを育てる ・園庭遊び、散歩、公園など戸外に積極的に出かけ四季折々に触れる経験や、身体を動かすことを楽しめる環境を整える
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・四季折々の事象に触れ、様々な原体験を重ねる ・小集団の中で、自分の気持ちを伝えつつ、相手の気持ちにも触れながら関わる経験を積む ・活動内容を話し合う、作る物を話し合いで決める、必要な物を考えるなど子ども同士のやりとりをする機会を多く設ける ・主体的な参加（どう参加するか）を大切にする ・小さなことから大きなことの成功体験を積み重ね、自己肯定感を高めていく
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」の実施と記録

保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・ 就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・ 所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い 「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	畑の野菜を使った食育活動
	実践予定内容	併設園の子どもたちと一緒に何を育てるのか子どもを主体に話し合いの場を持ち育てる野菜を決める 週2回の畑活動にて、種植えや収穫等実際に土に触れて子どもたち自身で栽培を行っていく
2	計画・ねらい	子どもが好きなタイミングで好きな場所で食べることの楽しさを味わい、食への関心を広めていく
	実践予定内容	日々の日課、散歩、運動遊びを取り入れながら空腹を感じ、自然とご飯を食べたいと思う機会を増やしながらか関心を広めていく

〈4〉保健計画

保健だより	月1回（毎25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月頃・・・手足口病、咽頭結膜炎、ヘルパンギーナ

	12月頃・・・ウイルス性胃腸炎、インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	特になし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在1名が、研修受講し、修得済み 未受講、新入職員4名については4月30日までに受講予定
AED使用できるスタッフ (AED設置施設のみ)	本日現在5名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する出勤時のマスク交換 子どもは登園時、体温測定／定期的に手洗いうがいを実施 保育室内の換気、1日1回の消毒(椅子などの備品、玩具)

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
運営管理	児童・保護者の人権に関する	年2回／4・10月の施設内会議時

	るチェック	
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	園庭、室内の整理整頓を徹底する 子どもたちが自然と片付けの習慣が身につくような環境を整える
	実践予定内容	大人が片付けている姿勢を見せていく 物の場所が分かるようにすることで片づけやすい環境作りを行う
2	計画・ねらい	好きな遊びを気の合う友達と一緒に遊ぶ
	実践予定内容	異年齢で室内を行き来しながら好きな遊びを選択できるよう環境を設定する 子どもたちのコミュニケーションの場が広がるよう乳児、幼児の施設を 行き来できる時間を毎日作っていく
3	計画・ねらい	生活の中で感じたもの、心を動かされたことを自由に描いたり作ったり表現できる環境を設定する
	実践予定内容	普段の遊び、生活の中でいつでも自由に表現できる場を作り、廃材を工夫することで再利用し、遊びの資源に使っていくこととする

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	設置なし		

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災対策	非常災害時の対策として、消防計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施、危機管理マニュアルの整備、自衛消防組織と安全対策の配置、災害時に対応のフローチャートに従う
2	ケガ事故防止	事故防止チェックリスト、設備点検チェックの実施 ケガ発生時、対応フローチャートに従い迅速に対応する ケガを未然に防ぐためにヒヤリハットの共有やインシデント発生時の検証を行い見直ししていく
3	防犯	年2回の不審者侵入訓練実施 笛の所持、インターホンでの確認、地域の不審者情報の把握と共有、不審者侵入時に対応フローチャートに従う、保護者様に送迎者登録の依頼

4	光化学スモック	光化学スモック発令配信メールを職員全員が登録、発令時は行政指導に従う
---	---------	------------------------------------

6. 実習生・中高生の受入

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

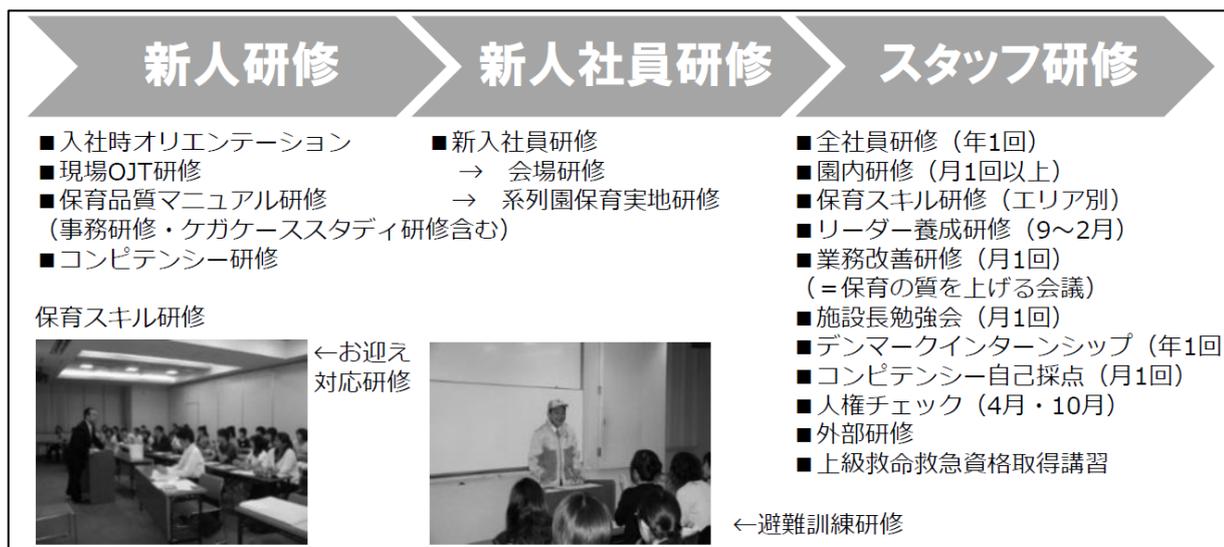
種類) 中高生の体験学習の受入/保育養成校・専門士養成校の学生の実習受け入れ/一般および学生の各種ボランティアの受け入れ

〈1〉今年度の方針・テーマ

関連のある学校と連携をとりながら、実習生の受け入れ依頼があった際には可能な限り積極的に受け入れをおこなっていく。ボランティア、地域の中高生の職場体験の場としても提供し次世代育成支援を行う。

1	実習生の受け入れ	近隣の中学校や高等学校、専門学校、大学などから実習生の受け入れ依頼があった際に積極的に受け入れを行う
2	職業体験の受け入れ	依頼があった際は随時受け入れを行う
3	ボランティアの受け入れ	依頼があった際は随時受け入れを行う

7. スタッフ育成と研修計画



〈1〉2023年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック ハザードマップの確認と共有	・コンピテンシーを深め極める ・子どもの人権について考える ・園内外、散歩ルート、公園のハザードマップ確認見直しの共有
5月24日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② エピソード研修 神接遇・3分間対応の秘訣	・コンピテンシーを深め極める ・保護者の気持ちになって考える ・3分間のお迎え対応共有
6月28日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② エピソード研修 水の事故	・コンピテンシーを深め極める ・子どもの姿から子ども同士、職員との関わりを考える ・水遊びの楽しさ、危険について考える
7月26日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② エピソード研修 環境設定の見直し	・コンピテンシーを深め極める ・子どもの成長に合った環境が設定されているか見直す
8月23日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② エピソード研修 インクルーシブ保育の実践振り返り	・コンピテンシーを深め極める ・子どもの姿から子ども同士、職員との関わりを考える ・子どもに対する対応や言葉がけ
9月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② エピソード研修 前期の振り返り	・コンピテンシーを深め極める ・子どもの姿から子ども同士、職員との関わりを考える ・後半の環境を考えて共有する
10月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② エピソード研修 園内研修(園主任orリーダー層)	・コンピテンシーを深め極める ・子どもの姿から子ども同士、職員との関わりを考える ・前半の振り返りを行い、後半に向けて共有する
11月22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② エピソード研修 園内研修(つむぎリーダー層)	・コンピテンシーを深め極める ・子どもの姿から子ども同士、職員との関わりを考える ・職員の得意分野の発表や学びの共有

12月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 環境設定の見直し	・コンピテンシーを深め極める ・子どもの姿から子ども同士、 職員との関わりを考える
1月24日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② エピソード研修 1年間の振り返り	・コンピテンシーを深め極める ・子どもの姿から子ども同士、 職員との関わりを考える ・振り返りを行い次年度につな げる
2月16日	18:00～20:00	第一回策定会議	・2024年度の事業計画発表 ・園目標の決定
3月2日	9:00～18:00	第二回策定会議	・2024年度の年間計画策定会議 ・畑研修

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子 育ての質を上げる 会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士 大学講座および社 内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
デノマークインターンシップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

① 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

併設園であるメリー★ポピンズ 北朝霞ルームと共に、地域との関係を深め、地域に開かれた子育て支援事業所として、近隣園や近隣施設との交流の機会を設けていく。地域に根付いた保育園、児童発達支援を目指す。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：北朝霞公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	介護施設訪問 月1回：多機能ホーム安心のおせわ〜く
異年齢交流	法人内近隣施設との合同保育 小学校訪問 中学生職業体験の受け入れ
地域拠点活動	園開放 随時 子育て支援事業
銭湯でお風呂の日	月1回 3～5才児

② 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

併設園であるメリー★ポピンズ 北朝霞ルームと共に、地域との関係を深め、地域に開かれた子育て支援事業所として、近隣園や近隣施設との交流の機会を設けていく。地域に根付いた保育園、児童発達支援を目指す。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議11月1日（金）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
6月頃	朝霞市立朝霞第7小学校	9名予定	小学校探検(校舎)	子ども間交流
11月頃	朝霞市立朝霞第7小学校	2名予定	特別支援学級と情報交換	職員間交流

	特別支援学級			
12月頃	進学先の小学校	2名予定	連絡会(施設)	職員間交流

③ 個別支援計画の作成と更新について

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせる行う。
- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

子どもや家族への面談を行い、専門的視点からアセスメントを実施する。アセスメントでの情報を多面的に捉えて、課題を整理し具体的な手立てを検討し個別支援計画を作成する。支援内容について課題に着目しすぎずに、個の強みに注目し更に伸ばしていくことができるような支援計画の作成を行う。

〈2〉 毎月のケース会議開催 （4～3月に計12回開催予定 参加者：8名予定）

園と情報共有と支援内容の検討

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

就学支援シートの作成を行い、行ってきた支援や手立てを引き継ぐ

④ 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30

つむぎカフェ	(月)～(土) 9:00～17:00
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(金) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名:北朝霞公園にて開催

⑤ 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2023年度内に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。
自己評価実施予定者:全スタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月25日に利用者アンケートを配布し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

8. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	法人内研修や外部研修、園内の勉強会を併設園との会議等で知識・情報を共有し、子ども一人ひとりの特性や情緒の安定、どういった支援内容なのか共通理解を図る。子どものにげん力を育みながらスタッフものにげん力を育み、併設園、児童発達支援の在り方とニーズを確立できるよう認識を行っていく
	振り返り	週会議や園会議を通して職員一人ひとりのスキルアップが出来る勉強会を都度行った。各職員、知識として取り入れることは出来たがその知識を生かした支援、関わりが出来たかの振り返りの時間までを持つことは出来なかった。各自で振り返り、反省までを行いその後の情報共有を行えたら尚よい。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	地域に根付く保育園併設の児童発達支援
	重点施策	朝霞市にあるどろんこ会法人唯一の児童発達支援として地域の認識を図るため子どもたちの積極的な戸外活動、青空保育、つむぎカフェなど宣伝に取り組む。また自治体、児童発達支援センター、相談支援事業所などの各連携機関との交流や情報交換など積極的に行う
2025年度	目指す姿	インクルーシブ保育で併設園とつむぎが1つの大きな家となり、子ども、保護者が行きたい場所、帰りたい場所となる園を目指す
	重点施策	保護者と共にインクルーシブ保育の理解を深めながら取り組み内容の発信を積極的に行う。担任、クラスの壁を越えたインクルーシブ保育の環境を自分たちで作り上げていく
2026年度	目指す姿	幼児期までに育つ10の姿を逆算したアプローチカリキュラムを取り入れたどろんこ会のモデル園となる併設の児童発達支援施設
	重点施策	職員一人ひとりが「質の高い保育・支援」を理解し、実践していく。子どもの最善の利益となる支援を計画的に取り組み、振り返りを行うことで子ども一人ひとりに還元できるスキルや知識を取り入れていくこととする。

以上

作成日：2024年2月1日 作成者：発達支援つむぎ 北朝霞ルーム 施設長 小酒井 菜央

2024年度 発達支援つむぎ 田無ルーム 事業計画書

1. 基本方針

「にんげん力。育てます」の理念に基づき、障害の有無、種別に関わらず、子どもが自ら考え行動できるように支援することを基本方針とする。苦手なことや危険なことに対して、スタッフがすぐ介入するのではなく、身の回りの事など自分でできることは自分で行うよう促し、サポートが必要であっても、部分的な介助にする、または段階的に行うように見守っていく。そうすることで困難が生じた際に自分で乗り越えられる力を育くむと共に、助けが必要な場面では、適切に周りの人に助けをもらうための方法を身に付けるなど、生涯にわたって必要なスキルを支援の中で身に付けていく。

法人の特徴である戸外活動を主とする支援の中で、肌で感じる温度や風の匂い、虫の声など体験を通して思考力や自然への興味を拓げ、言葉や数などの学びに繋げる。

現在、園で行っている畑仕事の規模を拡大し、実際に畑に行き土を踏みしめたり道具を使ったりなどホンモノの経験の中から身体の使い方など体得する。

更なる質の高い支援を目指し法人内のコンピテンシーを基盤に、自分たちの支援が子どもたちの「最善の利益」を保証しているか追及する。自ら学んだことを他のスタッフに向けてアウトプットすることや保護者向けの勉強会を行い、より理解を深めながら学ぶ習慣を定着させる。

開園2年目を迎え、これまで以上に地域の方々につむぎの理念や方針を理解して頂けるよう、積極的に地域に出向き、特色を知り、交流の機会を増やす。

来所して下さる全ての方にとって、安心できる場所、また通いたいと思って頂ける愛される事業所を目指す。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子どもたちに様々な環境を用意する。（社会生活との関わり）
	実践予定内容	地域の園や施設、公園など環境の見直しを行う。日課や体験学習で出かける先を増やす。 地域と交流する中で、様々な大人や子どもたちと関わる機会を設ける。 自分の気持ちを伝える、助ける／助けられるといったコミュニケーションを通して、他者との関わり方を学ぶ。 自我の芽生え、信頼関係の構築、感情のコントロールを促す。
2	計画・ねらい	子どもの「したい」「やりたい」を実現する（自立心、言葉による伝えあい、豊かな感性と表現）。
	実践予定内容	支援内容をスタッフが一方的に提示するのではなく、子ども同士話し合う時間を設け、言葉が難しい子には当番表などを活用するなど、一人ひとりの気持ちや意見を反映できるようにする。 やらされた経験ではなく、子ども自身が「やってみたい」と思った活動をする存分経験できるように計画、準備を行う。 集団場面であっても、一人に焦点を当てすぎないように、それぞれが主体的に参加できるように支援を行う。
3	計画・ねらい	生き物との触れ合いを通して生死を知る。命の理解。思いやりの心を育む（道徳性、共感性、責任感）。

	実践予定内容	<p>生き物との触れ合いなど、原体験を通して生死を知り、世話をすることで自立心を養う。</p> <p>小さな虫や魚に触れる際には、乱暴に触れると死んでしまうことを経験し、力のコントロール、命の尊さを学べる環境を用意する。</p> <p>食育にも力を入れ、実際に鶏を絞める／魚を捌くなどの機会を提供する。</p>
--	--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子育て全般に関わる相談、及び支援の様子を丁寧に共有する。
	実践予定内容	<p>事業所内相談支援（月1回）の制度を保護者へ周知し、必要に応じて案内する。</p> <p>日々の振り返りでは、単に生活の様子を伝えるだけでなく、遊び方や心情の変化、第三者視点で見られた成長等を写真や動画等も活用しながら、子どもの様子を具体的にイメージできるよう丁寧に説明する。</p> <p>また、家庭や所属園での過ごし方について、適宜アドバイスを行いながら、生活の中で般化していけるように支援を行う。</p>
2	計画・ねらい	関係機関との連携を通じて、多角的な支援を提供する。
	実践予定内容	<p>所属園や他事業所と連携が可能なことを保護者に周知する。連携後は連携内容をスタッフ及び保護者と共有する。</p> <p>連携内容を個別支援計画書に追記し、必要があれば支援方針を見直し保護者に丁寧に説明する。</p> <p>他事業所の支援方針や支援方法を相談支援事業所を通じて共有し、本児のためにできることを様々な角度から検討する。</p>
3	計画・ねらい	保護者同士のつながりを強化する。
	実践予定内容	<p>同年齢や同じ目標の子ども同士をグループ化し、共通の目標を目指す中で、スタッフが間に入り保護者同士の交流を深める。</p> <p>保護者向けの座談会や勉強会も開催し、子育てに悩む方々の情報共有の場になるように努める。</p> <p>卒園した保護者の方に協力をお願いし、就学前や就学後の実際の様子など当事者の話を聞く機会を提供する。</p>

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	情報共有の場として、地域に開かれたカフェスペースを目指す。
	実践予定内容	<p>利用いただく方の意見を取り入れながら、カフェスペースの機能を充実させる。</p> <p>カフェ内には地域の子育て支援に関わる情報を集め、保護者同士が情報交</p>

		換できる場として開放する。 契約の有無に関わらず子育てに関わる情報発信ができるよう、スタッフは地域の子育て資源や教育に関する情報収集を行い理解を深める。
2	計画・ねらい	青空保育の開催し、地域の方につむぎを知ってもらう。
	実践予定内容	日々の散歩や毎月の青空保育で、他の園の方や地域の方と交流する機会が多いため、その中で発達支援事業所の役割を知ってもらい、些細なことでも相談してもらえよう関係性を築いていく。
3	計画・ねらい	勝手籠の設置し、地域との交流を促進する。
	実践予定内容	着られなくなった衣類を誰もが自由に提供でき、持ち帰ることができる勝手籠を設置する。地域の方へも積極的に協力をお願いする。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育所保育指針、児童発達支援ガイドライン、小学校学習指導要領から支援の基礎を学ぶ。
	実践予定内容	児童発達支援事業に関わる者として正しい知識を全スタッフが持てるように勉強会を実施する。読み合わせと自分たちの支援がこれらの指針に沿った物になっているか、日々、振り返りながら質の高いサービスを目指す。
2	計画・ねらい	リスク管理（事故、病気、怪我）の知識とその対応について理解する。
	実践予定内容	熱発、怪我、嘔吐など想定される子どもの状態に対して、全スタッフが落ち着いて対応できるようロールプレイングを実施する。期の途中で入社したスタッフも、法人内の保育園でOJT研修を実施し、入社後すぐに子どもと関わるためにスキルを獲得できるように育成する。
3	計画・ねらい	自分の行った支援について正しく根拠を述べられるようになる。
	実践予定内容	定期的に児童発達管理責任者と会議を行い、個別支援計画の目標に対してどの程度達成できているかを確認しながら活動を設定する。そのうえで目標に対してどうだったか、家庭や園でどのようなフォローが必要かなど正確に保護者に伝えられるようにする。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	生き物や植物の世話を通して生命の尊さに気づき、労わる気持ちや大切に する心を育む。
	実践予定内容	戸外活動で自然の変化など身近な事象に興味を持ち、自然のものを活用した支援を充実させる。 生き物や植物の世話を子どもが主体的に行えるよう環境調整する。

		亡くなってしまった生き物をスタッフだけで処置せず、子どもと共に埋めるなど直接体験させることで、生命の尊さや子ども自身が心の動きに気が付けることを大切にする。
2	計画・ねらい	危険をすべて排除してしまうのではなく、怪我を通じて自分の身体の使い方や力のコントロールができる環境を用意する。
	実践予定内容	子どもが自由に遊べる環境を用意するが、リスクを排除し過ぎてしまうのではなく、安全な環境の中で怪我をしても重大事故にならないような設定を意識する。 経験を通して、子どもが何度も挑戦し諦めずに達成することで、身体の使い方を知り、自己解決能力や成功体験できる環境を用意する。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 20人/日

〈2〉開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長兼児童発達支援管理責任者1名

保育士3名

機能訓練担当スタッフ3名(公認心理師1名、言語聴覚士1名、作業療法士1名)

栄養士1名

社会福祉士2名

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
--------	----	------

施設内会議	月1回 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門士による支援技術の共有 ・ 研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う） ・ つむぎ内外から講師を招いた研修を行う
給食運営会議	月1回	月毎の献立の検討、代案の検討、食に関する子どもの情報共有
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデント、事故報告の共有、改善検討
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援計画作成に伴い、開催時期を調整する ・ 個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する
ケース会議	適宜	・ 事例検討、ケースの情報共有、支援方法の検討を行う
虐待防止委員会	9月・2月	・ 子どもの人権について考える。虐待の定義について学び、その防止策について検討する

〈2〉 法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	月1回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
食育会議	年4回	年間食育計画の作成、アレルギーに関する情報共有
保健会議	年4回	感染症対策などの情報共有
子育ての質を上げる会議	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での状況共有と連携の推進
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど

〈3〉 各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導

安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月1回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、 近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食 品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかの飼育管理、ビオトープ作成の指揮、動物や植物に触れる機 会の検討立案
体験学習係	体験内容の精査、企画の上程、準備、収支報告等

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
地域交流係	園との連携、企画の立案、遂行

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・つむぎに来ることに慣れる ・散歩や給食など生活に必要な力を育てる ・他の子どもを意識し、遊びや興味の幅を拡げる ・水、土など様々な感覚に触れる ・様々な体験を通じてイメージする力を育てる
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士の関わりを促し、協働する楽しさを学び、その中で成功体験を重ね、自己肯定感や自信を高める ・散歩の距離を増やし、体力をつける ・他の子どもと共通の目的を見だし、工夫したり、協力したり、人間関係を円滑にする社会性の基礎を養う ・（希望者のみ）食育、性教育の機会を提供する
親子グループ	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・つむぎに来ることに慣れる ・安心した環境で他の子どもと一緒に活動を楽しむ ・水、土など様々な感覚に触れる ・安心した場所で好きな遊びを繰り返し楽しむ

		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者以外の大人と関わる ・保護者と成長を共感しながら、子育てに関わる
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・他の子どもに興味を持ち、やり取りする経験を増やす ・新しい場所や物に人に慣れ、安心できる環境を拡大する ・表現する楽しさを知る ・保護者同士が情報交換をしながら、悩みを共有できる時間にする
個別支援 事業所内相談支援	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画に基づき、子どもに合わせた支援を実施する ・活動は子どもの希望を尊重し、戸外を中心に行う ・個別支援であっても、他の子どもたちと関わる機会を設け、集団に場面における課題も合わせて支援する
	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」の作成
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・就学／就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食事を通じたコミュニケーション
	実践予定内容	スタッフは役職、資格関係なく、子どもと一緒に食事を取り、コミュニケーションの楽しさを共有する
2	計画・ねらい	畑仕事を通じて自然の興味、食への関心を広げる
	実践予定内容	畑、またはプランターで野菜を育てる。 土づくりから収穫後の堆肥づくりまで一貫して子どもたちと行き、自然への興味、食への関心を広げる。

3	計画・ねらい	子どもが「食」そのものを楽しめるように関わる
	実践予定内容	食への意欲を最大限に高められるよう、午前中は精一杯遊び、お腹を空かせられるように環境を用意する 障害児一人ひとりに口腔発達に合わせた食事形態にすることでリスク管理を徹底する 食具操作が未発達の段階では手づかみ食べを推奨しながら、発達に応じて食具操作を段階的に支援する

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス、マイコプラズマ肺炎 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～8月頃・・・手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱（プール熱）、流行性角結膜炎（はやり目）、伝染性軟属腫（水いぼ）、伝染性膿痂疹（とびひ）、アデノウイルス感染症 11月～2月頃・・・溶結性連鎖球菌感染症、ウイルス性胃腸炎、RSウイルス感染症、インフルエンザなど
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	預かり未定 今後預かりの際は、預かり札を用いて冷蔵庫内に保管予定
エピペン使用できるスタッフ	本日現在10名が研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフについては入社後1ヶ月以内に受講予定
AED使用できるスタッフ（AED設置施設のみ）	本日現在10名が研修受講し、修得済み 未受講の新入スタッフについては入社後1ヶ月以内に受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日

	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもが自己選択できる環境を目指す
	実践予定内容	決められた遊びだけをするのではなく、何がしたいか、どこでしたいか、誰としたいかなどを自ら選択できるように環境を用意する ただ複数のおもちゃを用意するだけでなく、支援目標を達成できるようにスタッフが遊び方を工夫したり、仕掛けをしたりするなど、子どもにとって楽しい活動の中に支援目標達成の手段が含まれる形式を基本とする
2	計画・ねらい	清潔で快適に過ごせる環境づくり
	実践予定内容	毎日の清掃を行う際に、設備の欠損や汚れなど、気付いた箇所を施設長に報告し、必要に応じて改修を迅速に行う。また経年劣化等による事故のリスクがある場合には、安全が確認されるまでは使用しないように徹底する。誰にとっても安心して過ごせる環境づくりを心掛ける

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
----	--------	------	--------

1	取り扱いなし		
2			
3			

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	<ul style="list-style-type: none"> ・火災や地震が発生した場合を想定し、毎月防災訓練を行う ・非常時に備え、備蓄品の確認を行う ・発生時はフローチャートに従って行動する
2	インシデント・ヒヤリハット	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデント、ヒヤリハットを毎月ルーム内で共有し、要因分析と防止対策を検討する ・発生時はフローチャートに従って行動する
3	防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者対応訓練（室内時、戸外時）を年2回実施する。笛の所持、合言葉の確認等を実施する ・発生時はフローチャートに従って行動する
4	光化学スモッグ	<ul style="list-style-type: none"> ・光化学スモッグ発生時の対応をルームで共有する ・自治体から発令される注意報に従い、戸外活動の予定は室内活動へ変更する ・発生時はフローチャートに従って行動する

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

1	ボランティアの受け入れ	地域ボランティア、学生の体験学習の受入
2	実習生	保育養成校、専門士養成校の学生の実習を受入

7. スタッフ育成と研修計画

① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性を全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法

や教材教具の活用、またひとりひとりの子どもに対する支援についてのポイントを全体で共有する。

- ② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「事業所での活動」「親子支援」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招くなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p style="text-align: right;">←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修  <p style="text-align: right;">←避難訓練研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9~2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (= 保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習

行う。

- ③ ケース会議：児童個人の支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。基本的には月1回としケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケース会議を希望するがいれば回数を増やし随時開催する。
- ④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を越えた研修会を実施する。
- ⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：一人年間6回を目標とし、課長・施設長で機会の調整し積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。
- ⑥ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、検知を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低1名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。
- ⑦ 朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。

〈1〉 2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日	15:00~17:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 緊急時の対応方法 ③ 法人理念・方針・ミッションの共有 	<p>緊急時の対応を誰もが落ち着いて行えるようにロールプレイを実施</p> <p>中途採用のスタッフを交えて全員で改めて法人理念、方針、ミッション</p>

			の共有を実施する
5月24日	18:00～17:00	① コンピテンシー自己採点 ② 研究テーマの決定と計画	ひとつの研究テーマを年間通じて全員で行っていく。そのための対象児、期間、内容、それぞれのスタッフの役割決め等を行う
6月28日	15:00～17:00	① コンピテンシー自己採点 ③ 人権チェック・虐待防止研修 ③ 園長大学®保育士大学の講義を用いた研修 I	コンピテンシーを基盤とした法人の理念や方針、自ルームの目標について知る 子どもの人権を考える 園長大学®保育士大学の動画「実践から学ぶ、インクルーシブ保育」を用いた研修を実施し、自己学習を促す
7月26日	15:00～17:00	② コンピテンシー自己採点 ② 児童発達支援ガイドライン ④ アレルギー対応、 ⑤ 薬剤の使用について	事業概要を学び、制度を理解する。 アレルギーに関する基本的な知識を学び対応方法を知る。投薬のルールや処置のルールを確認する
8月23日	15:00～17:00	③ コンピテンシー自己採点 ④ 保育所保育指針について	保育所保育指針から見た子どもの発達を理解する。保育所と発達支援の共通点を考える
9月27日	15:00～17:00	① コンピテンシー自己採点 ② 専門的視点の共有 ③ 園長大学®保育士大学の講義を用いた研修 II	有資格者の視点や支援するうえでもとになっている理論を共有する 動画「乳幼児期に大切に育みたい力とは？」を用いた研修を実施
10月25日	15:00～17:00	① コンピテンシー自己採点 ② 人権チェック・虐待防止研修	子どもの人権や虐待について考えると共にその防止策について学ぶ
11月22日	15:00～17:00	① コンピテンシー自己採点 ② 小学校学習指導要領 ⑤ 特別支援教育要領	就学後を見据えたそれぞれの学習指導要領について学ぶ
12月27日	15:00～17:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今期振り返りと今後の取	開園から半年が経過し、いま一度支援方法、方針についてぶれていないか振り返りを行う。そのうえで今後

		り組みについて ③ 園長大学®保育士大学の講義を用いた研修Ⅲ	の在り方について話し合いを行う 動画「ハイリョ?ハイジョ?気になる子への視点整理」を用いた研修を実施
1月24日	15:00～17:00	① コンピテンシー自己採点 ② 文献研修／研修報告	スタッフがそれぞれ学んだ研修内容をアウトプットする 知識の共有と相手にロジカルに説明する訓練を行う
2月28日	15:00～17:00	① コンピテンシー自己採点 ② 環境について	ルーム内、戸外の行き先など現状に不満はないか、改善点はないか話し合う。保護者からの意見も検討していく
3月28日	15:00～17:00	① コンピテンシー自己採点 ② 事業計画、事業報告について	2025年度により質の高いサービスを目指すため、方針の再確認を行う

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
デノマークインターンシップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認

をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

地域に根差す事業所となるよう、交流を大切にする。世代間交流、異年齢交流、インクルーシブな交流、近隣交流など開かれた視点で利域に目を向ける。また、スタッフが地域のイベントに参加するなどスタッフも地域交流に積極的に関わる。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：おおぞら公園にて
商店街ツアー	週1回 （戸外ルートマップ内に商業エリアを入れて実施予定）
保育園交流	当法人グループ保育園や近隣保育園と交流ができる機会を設ける
地域交流	事業所内にカフェを設置し、地域の方が自由に来所頂けるスペースを用意する。発達に関する相談や子ども同士自由に交流できる機会を提供する

9. 小学校との連携の計画

- ① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
- ② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
- ③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
- ④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
- ⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。
- ⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。
- ⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の小学校や特別支援学校について行政から情報を集め、公開授業に積極的に参加する。小学校を知り、安心して就学が迎えられるよう保護者へ情報発信していく。相談支援事業と連携し、幼児期から小学校の接続だけでなく、成人期までのイメージを持ちながら必要に応じて就学支援シートやサポートブックを活用する。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
4月頃	田無特別支援学校	1名予定	学校公開（田無特別支援学校）	スタッフ間交流
7月頃	就労支援つむぎ武蔵野ルーム	10名程度	職業体験（コーヒー詰め、シール貼り）	世代間交流
11月頃	田無小学校	若干名	学校体験（当園幼児保育室）	スタッフ間交流
年間	武蔵野どろんこ保育園	10名予定	保育園交流（武蔵野どろんこ保育園）	子ども間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせを行う。
- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈2〉毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催予定 参加者：10名予定）

毎月ケース会議を行い、子どもの最善の利益を考え、より質の高い支援を提供できるよう複数のスタッフで多角的に検討していく。子どもの情報共有（子どもの様子、生育環境）、支援計画、活動の

検討と見直しを行う。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

就学支援シートを活用し、児童発達支援が行ってきた支援内容、子どもの特性や状況、配慮事項など、小学校生活がより豊かになるように情報提供に努める。

11. 子育て支援事業

施設に訪れた親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:00～17:00
つむぎカフェ	(月)～(土) 9:00～17:00
子育て相談	随時
勝手籠設置	(月)～(土) 9:00～17:00
青空保育	公園名：おおぞら公園にて武蔵野どろんこ保育園と合同開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年上期、下期に1回ずつ「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：8時30分

自己評価終了予定時刻：17時30分

自己評価実施予定者：内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2024年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	つむぎの支援の確立と開かれた事業所づくり 保育所等訪問支援を地域に周知する
	振り返り	開園初年度あったが、事業所の目的やどういった子どもたちが通っているか多くの方々に理解頂けたと感じている。高齢者の方を中心に、ロコミが拡がり、そこから法人内の就労支援事業所へ足を運んでいただく方もいるなど、福祉の輪が広がっていくことを肌で感じる事ができた。保育所等訪問に関しては地域のニーズや利用状況を確認し、利用に当たって必要な手続きについて理解に努めた。

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	つむぎの支援の確立と開かれた事業所づくり 保育所等訪問支援を地域に周知する
	重点施策	当法人運営マニュアル、法人で大切にしている畑仕事や生き物と世話といった支援方法をスタッフが理解し、子どもに背中を見せながら体现する 地域の方につむぎを知ってもらえるよう積極的に戸外に出向く 来所された方に過ごしやすい場所、安心できる場所と思ってもらえるよう、事業所内の美観を意識し、綺麗な状態を保ち続ける 地域の保育所等に訪問し、つむぎの保育所等訪問支援自体を広く知ってもらう
2025年度	目指す姿	つむぎの支援の質の向上 地域の中で支援する仕組みづくり
	重点施策	自分たちの支援が子どもたちどういった影響を与えているのか、仮説と検証を繰り返し支援の質を高める 数値化できるデータは記録していき、子どもたちの成長を分かりやすく保護者へフィードバックできるよう仕組みを作る 法人ホームページのブログやSNSを活用して、つむぎの活動や地域の特色を伝え、地域に浸透する足掛かりとする 保育所等訪問支援は、子どもの生活の場に介入しての支援になるため、そのノウハウを蓄積し、保育園と併設でない自園においてもインクルーシブ環境下における支援について理解を深める
2026年度	目指す姿	地域を巻き込み支援の中心になることを目指す 就学後も継続して利用される施設へ
	重点施策	児童発達支援、保育所等訪問支援、相談支援という3つの事業で連携し、一方的に支援や訪問するだけではなく、地域の方が参加できる活動や勉強会、座談会を積極的に行い、地域の方を巻き込んで地域へ還元していける仕組みを作る 気軽に相談できる場所として地域に定着し、契約の有無に関わらず近隣の方

		の交流の中心になれる事業所を目指す 就学後も気軽に相談に来られるよう、小学校、特別支援学級、特別支援学級 と就学前から連携し、子どもたちの居場所になれる施設を目指す
--	--	------------------------------------------------------------------------------------------

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 田無ルーム 施設長 井坂 僚

2024年度 子ども発達支援センターつむぎ 東大和 事業計画書

1. 基本方針

地域に開かれ、地域に根ざし、頼られ必要とされる子ども発達支援センターとしての役割を担っていく。施設運営方針のもと、「生活力の体得」「10の姿の体得」「子ども自らがいつでも経験を選び取ることができる物的環境の設定」「命をいただく活動の実践」の運営本部ミッションを実践していく。子ども発達支援センターと認可保育園の併設という新しい取り組みが、日本の保育・療育の先駆者としての実績と結果を残せるように、法人が目指す完全なインクルーシブ保育を目指していく。

子どもだけでなく、大人のにんげん力を高めることを大切に、幅広く様々なことを学び、学んだことを子どもへの支援や現場にどう反映するのか考え、子どものにんげん力と生きる力を育むために、主体的に行動するスタッフを育成していく。スタッフが同じ目線で自身の経験や専門性を活かしながら、支援の立案、提供、振り返り、改善のサイクルを日常的に行い、より質の高い、子どもにとって最善の利益となる支援の実践に力を入れていく。

開園年度となるため、地域に積極的に出向き、関係機関や近隣の方々との交流を増やし、地域の多くの方に子ども発達支援センターつむぎ 東大和を知ってもらおう。来所される方にとって、くつろげ安心できる場所、また来たいと思える場所となるよう、挨拶や立ち振る舞いなどスタッフの接遇のレベルを高め、美観の維持と向上に努めていく。またブログやSNSなどを用いて外部への発信にも力を入れ、社会にも認知されるよう働きかけていく。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	子ども一人ひとりに合わせた支援
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの特性や発達段階を理解し、最善の利益を追求した支援を行う。 ・初めて利用する子どもや保護者が安全で安心し、安定して過ごすための環境や関係の構築を行う。 ・スタッフが研修で学んだことや自身の知識や技術をアウトプットする機会やケース検討で話し合う機会を設け、ルームとして、どろんこ会としてどのように支援を展開していくかを考え、支援の質の向上に努める。
2	計画・ねらい	インクルーシブ保育を実践する環境を充実させる
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日課、戸外活動、経験できる環境、体験活動などに取り組む中で、一人ひとりに合わせて配慮・支援をし、受け入れられ混ざり合いながら生活を送れるよう努める。
3	計画・ねらい	大人のにんげん力向上
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものために、保護者のために、社会のために、一緒に働くスタッフのために、様々な相手の立場に立って物事を考え、速やかに行動できる人材を育成する。 ・スタッフ一人ひとりの価値観や考え方、これまでの生き方などを把握し、個人の主張は尊重しつつ、どろんこ会の一員として何をすべきなのかを皆で考え実践していく。 ・「こうするもの」「こうすべき」という固定概念にとらわれず、最善の利益の追求をするために常に思考を止めず、新しいことに挑戦し続ける。

〈2〉 事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	保護者の気持ちに寄り添う
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での子どもの様子、保護者の悩みや不安などを日々のフィードバックの中で丁寧に聞き取り、適時助言などを行っていく。一緒に子育てをしていく気持ちを常に忘れず、継続して関わり続ける。 ・日々の子どもの様子や成長を感じるエピソードなどを、口頭だけでなく写真や動画も用いてお伝えし、子どもの成長を点でなく線で捉えて一緒に成長を感じていくよう努める。
2	計画・ねらい	安心できる場の提供
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・一般相談、相談支援事業、ちきんえっぐなどで来所される保護者が、安心をしてスタッフや保護者同士で話をできる人間関係や環境を構築する。
3	計画・ねらい	誰もが気持ちよく過ごせる環境
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ誰が来ても、ゆっくり落ちついてくつろげる環境を整備し、美観を維持していく。 ・急な来訪や忙しい中でも声をかけたたら手を止め丁寧に接する接遇や、スタッフの整理整頓清潔清掃の意識を高める。

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	子育て支援、相談支援
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて我が子について悩みを相談する保護者もいるため、まずは丁寧に話を聞き、一般相談及び相談支援事業と共に子育て支援を行っていく。 ・必要な福祉の提案や提供のために、地域資源の把握と連携を強める。
2	計画・ねらい	保育所等訪問支援
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の保育所や学校などに訪問をし、専門的な助言をしていく。 ・保育所等に訪問をした際に、子ども発達支援センターつむぎ東大和の取り組みなども伝えていく。
3	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援のために、地域に情報を発信していく
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所を利用している保護者だけでなく、子育てについて相談をする機会がない保護者様にも子ども発達支援センターつむぎ東大和を知り、頼ってもらえるよう、地域に発信をしていく。誰もが訪れやすい、敷居のない施設運営を目指す。

		・地域の小学校や放課後等デイサービス、保育園・幼稚園や関係機関との連携を図り、地域と連携して子育てをしていく中心となる。
--	--	--------------------------------------------------------------

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	保育所保育指針、児童発達支援ガイドライン、小学校学習指導要領の理解
	実践予定内容	・児童発達支援を行う上で必要な知識を学ぶ機会を定期的に設け、自分たちの仕事の根拠・目的・目標を理解する。自分たちの支援がこれらの指針と齟齬がないか振り返り話し合い、質の高い支援を行えるスタッフを育成していく。
2	計画・ねらい	人財育成
	実践予定内容	・新人育成・異動スタッフの育成を丁寧に行い、課題や問題は早期発見早期対処に努め、長く働く意欲をもつスタッフを育成する。 ・法人の理念、実践内容、インクルーシブ保育を語るスタッフの育成に努め、他のスタッフを育成することができる人財を育成していく。 ・人対人コミュニケーションの理念のもと、研修や意見交換、面談の場を設け、スタッフ一人ひとりのコミュニケーションスキルの向上を目指す。
3	計画・ねらい	業務の効率化
	実践予定内容	・業務の可視化、無駄の排除、効率化と最適化を行い、スタッフの負担軽減に努める。
4	計画・ねらい	リスク管理(事故、怪我、病気)の知識と対応方法の理解を深める
	実践予定内容	・事故、病気、怪我が発生した際に、全スタッフが冷静に対処できるよう、フローチャートの読み合わせやロールプレイを行う。管理職、リーダー層は不測の事態にスタッフへの確かな指示ができるよう、より理解を深める。 ・他園や過去の事件事例などを検討する機会を設け、見失いや大きな怪我を予防するために必要なことを共通認識し、実行する。スタッフの立ち位置、報連相、コミュニケーション、子どもの動きを予測する力など、スタッフ一人ひとりの危機管理意識の向上に努める。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	子どもが経験を選び取ることができる環境
---	--------	---------------------

	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内、園外共に子どもが遊びや経験を選び取れる様々な物的環境をスタッフ全員で考え構成していく。園スタッフ、つむぎスタッフ共にお互いを尊重し、混ざり合いやすい心の環境整備も行っていく。 ・子どもが生きる力を身に着けるために必要な経験や環境の仕掛けづくりについて、他園や他事業所の取り組みを学び、自園に活かす方法を考える。 ・子どもが主体的に参加したくなる体験活動を複数用意し実行する。
2	計画・ねらい	日課活動の実践
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらさくらんぼリズム体操、雑巾がけ、座禅、生き物の世話、9時散歩出発、裸足保育、畑仕事などの日課に取り組む中で、健康な体と心づくりを行っていく。
3	計画・ねらい	食材や食の循環教育
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌作り、種を植える、毎日の水やり、収穫、調理、実食などの畑仕事からの労働や、命をいただく活動を通して、食材や食について興味関心をもって関われるよう支援に取り入れてく。

〈6〉インクルーシブ保育の実践

1	計画・ねらい	ゼロから環境と関係を作る
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ保育について、生活環境、生活方法、行事などについて、園のスタッフとゼロから一緒に計画を立て、実行する。 ・保育、療育共にお互いのことを学び合い、尊敬し合い、混ざり合う環境と関係を作っていく。スタッフ同士が語り合う時間を定期的に設ける。
2	計画・ねらい	多様性の受容
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園とつむぎの子ども、保護者、スタッフがお互いの存在を受け入れ認め合い、尊敬し合える保育と支援を行っていく。
3	計画・ねらい	一人ひとりの成長に合わせた支援
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園児、つむぎの子ども一人ひとりに目を向け、専門性をもってチームで最善の利益を追求した支援をしていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 30人/日

〈2〉 開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉 スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

人事発表前のため未定

3. 運営方針

〈1〉 施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門士による支援技術の共有。 ・ 研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う。 ・ つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	食に関する子どもの共有、介助方法の検討、献立検討、畑仕事との連携。
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデント、事故記録簿の検証（自園他園）、改善方法の検討。
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・ 個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
幼児会議	隔週	・ 月案、週案を基に園の保育者と共に子どもの姿を共有
乳児会議	隔週	・ 月案、週案を基に園の保育者と共に子どもの姿を共有
ケース会議	随時	・ 園の保育者と共に子どもの姿を振り返り共有する。その中で、子どもにとって最善の関わり方について検討をする。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	未定	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	・法人全体での共有、勉強 ・食育会議の内容を施設長や調理員から全スタッフに伝え、園内で協議する
保健会議	年4回	・法人全体での共有、勉強 ・感染症対策やガイドラインの作成、改善
子育ての質を上げる会議	月1回	・子育ての質を上げるための共有と学び ・会議参加者から全スタッフへ情報や課題を共有。園として、課題に取り組む

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	畑やプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	山羊、鶏などの飼育管理、動物や植物に触れる機会の検討立案
行事係	園との合同の行事の役割分担、計画の立案と実行

〈4〉 行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保育園と一緒に企画、運営を行う。保護者と協働的に準備・進行を行う。地域の方々が多く来ていただけるような企画を行う。
運動会係	会を通して子どもの日々の成長を通して見てもらい、保護者も一緒に参加できる運動会を開催する。
生活発表会係	日々の成長を保護者に伝える場として設定し、開催する。

4. 支援方針

〈1〉 基本方針

マンスリー	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・つむぎ東大和という場所や一日の生活の流れに慣れ、安心して通える環境を整える。 ・個々の発達特性や性格などを把握し、一人ひとりに合った支援を行う。必要時、専門職による専門的な支援も行う。 ・園児との触れ合う機会や環境を設定し、子どもたちが主体的に関われるよう支援をする。 ・一人ひとりの人権、生活、主張や要求を守ることで情緒の安定を図り、安定した生活を送る。 ・日課については、子どもの発達状況を鑑みながら、できる部分から取り組んでいく。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・見たい、触りたい、やりたい、行きたいなどの意思や要求を表出し、主体的に行動する姿が増えるよう支援する。 ・園児や異年齢児と関わる中で、一緒に遊ぶ楽しさやコミュニケーションの楽しさを感じ、自ら表現する姿が増えるよう支援する。 ・日課に意欲的に取り組めるよう関わる。 ・園との合同行事や体験活動に主体的に参加できるよう環境を整えていく。
ビジターグループ	上半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・つむぎ東大和に慣れ、安心して通える環境を整える。 ・個々の発達特性や性格を把握し、一人ひとりを理解しながら小集団での活動を楽しめるよう活動を計画する。 ・子どもが主体的に活動を選択して参加できるよう、様々な体験活動を準備する。 ・戸外活動は近い公園から徐々に遠い公園へ行き、交通ルールの

		意識や歩き方を身に付ける。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を子どもたちで話し合い、考え、決める。その日の活動だけでなく、月毎の遊びの計画も立て、計画性や見通しをもつ力を育む。 ・畑仕事や協働作業を通して、労働をすることの良さや他児と協力をする大切さを感じる。
遊びの会	にわとり・やぎ 1歳半～3歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・つむぎ東大和に慣れ、安心して楽しく通える環境を整える。 ・戸外活動、生き物との触れ合い、畑仕事、触れ合い遊びなど様々な活動を通して、他児や保護者以外の大人と関わる機会を増やしていく。 ・子育てについての悩みなどを聞き、助言をしていく。また、保護者同士が交流や情報交換をする時間も設ける。 ・就園、就学や地域の社会資源について情報を提供する。
個別支援	適時	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画に基づき、個々の発達に合わせた支援や機能訓練を行っていく。 ・フィードバックの際には、子どもの成長を保護者と一緒に感じられるように話をすると共に、保護者の悩みや相談なども聞き、保護者支援も行っていく。必要であれば、事業所内相談支援も勧めていく。
外来	退園児	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに居心地よく、楽しく遊べる場所として過ごしてもらう。子ども同士、保護者同士の繋がりを大切にしていく。
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024」年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉 給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	大人と一緒に食を楽しむ
	実践予定内容	楽しい雰囲気の中で安心して食べられる環境を整える。
2	計画・ねらい	児に合わせた食事の提供
	実践予定内容	子どもたちの摂食状況を把握しながら、食べることが訓練、苦痛にならないように、場を楽しむことから始められる空間を作っていく。
3	計画・ねらい	収穫したものを調理
	実践予定内容	その場で食べたり、加工したり、献立を考えることを子どもと一緒に取り組んでいき、食への興味関心の幅を広げていく。

〈4〉 保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6～8月頃・・・ヘルパンギーナ・手足口病 12月頃から1月・2月にかけて・・・インフルエンザ 冬場・・・ロタウイルス・アデノウイルス・ノロウイルス
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ・・・現時点では預かりの予定なし
エピペン使用できるスタッフ	現在2名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については、キックオフ若しくは入社後1カ月以内に受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	現在1名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員については、入社後1カ月以内に受講予定
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導 手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。 室温計を用い、湿度管理を実施。必要に応じて加湿器を使用し加湿 を行う。

〈5〉 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
------	---------------	-------------------

	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもが主体的に経験を選択できる環境
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物と触れ合う場所、労働をする場所、身体を動かす場所、静かに遊びこむ場所、それらに必要な道具や玩具を常設し、いつでも子どもが主体的に経験を選択できるよう環境を構成していく。 ・危険が予測されることも排除をせず、子どもが危険なものとの距離の取り方、使い方を考え、学び、身に付けられるようにする。
2	計画・ねらい	5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)に取り組む
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備係を設定し、毎月皆で掃除をする時間を設ける。 ・整理(必要なものだけを用意し、不要なものは処分)、整頓(決められた場所で保管、原状復帰)、清掃(マニュアルに則って正しい掃除をする)、清潔(汚れがない状態を維持する)、躰(習慣やルールを作る)を徹底し、来所される方が気持ちよく過ごせる環境を維持していく。
3	計画・ねらい	地域との繋がり、社会資源の把握
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の社会資源、公共施設、関係機関、学校情報など様々な情報を収集し、繋がりを構築していく。社会資源や就学に関する情報などは、保護者にも提供を行っていく。

〈7〉 手作り遊具安全点検計画

未定

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	消防計画に基づき、避難訓練を月1回行う。安全計画、業務継続計画を全スタッフが熟読し、災害時にはフローチャートに則って対応する。
2	怪我防止	事故防止チェックリスト、設備点検チェックを年4回行う。怪我や事故が発生した際は、フローチャートに則って対応する。 事故や怪我を未然に防ぐために、ヒヤリハット報告書、インシデント報告書、自園・他園の事故記録簿を全スタッフが把握し、検証の機会も設ける。
3	不審者対策	不審者訓練を行う年2回行う。避難訓練に併せ、不審者確保・撃退、通報の訓練を全スタッフで実施する。
4	光化学スモッグ	東村山市からの注意情報を把握する。注意報発令時は、フローチャートに則って対応する。

6. 実習生・中高生の受入

児童発達支援事業所は地域の社会福祉の共有資源であり地域研修の場でもあるため、実習生・研修生を積極的に受け入れ、地域におけるボランティアの養成とともに、次の世代を担う保育・福祉の現場で活躍する人材を育成する。

〈1〉 今年度の方針・テーマ

1	実習生の受け入れ	受け入れ依頼があった際は、積極的に受け入れを行う。
2	職場体験の受け入れ	受け入れ依頼があった際は、随時受け入れを行う。
3	ボランティアの受け入れ	受け入れ依頼があった際は、随時受け入れを行う。

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新入社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>←お迎え 対応研修</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■新入社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>←避難訓練研修</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修 (年1回) ■園内研修 (月1回以上) ■保育スキル研修 (エリア別) ■リーダー養成研修 (9~2月) ■業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会 (月1回) ■デンマークインターンシップ (年1回) ■コンピテンシー自己採点 (月1回) ■人権チェック (4月・10月) ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習

- ① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性を全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法や教材教具の活用、またひとりひとりの子どもに対する支援についてのポイントを全体で共有する。
- ② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「事業所での活動」「親子支援」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招くなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を行う。
- ③ ケース会議：児童個人の支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。基本的には月1回としケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケース会議を希望するがいれば回数を増やし随時開催する。
- ④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を越えた研修会を実施する。
- ⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：一人年間6回を目標とし、課長・施設長で機会の調整し積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。
- ⑥ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、検知を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低1名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。
- ⑦ 朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。

〈1〉2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題

4月26日（金）	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②人権チェック・虐待防止 ③接遇、電話マナー研修 ④さくらさくらんぼリズム ⑤散歩研修	・子どもの人権の保障 ・人権チェックを行い、虐待防止について考える ・電話対応マナー、接遇について学ぶ ・日課の理解 ・散歩のロールプレイ
5月24日（金）	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②アレルギー対応、与薬について ③I Oの姿	・アレルギーについての基礎知識や、対応方法について学ぶ。与薬方法について確認をする。 ・保育所保育指針のI Oの姿の理解を深める。
6月28日（金）	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②水の事故防止 ③危機管理、災害時の対応 ④人権	・水の事故事例検証と事故防止について学ぶ ・危機管理意識について、災害時の対応、ロールプレイ ・丁寧な保育
7月26日（金）	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②児童発達支援ガイドライン・保育所保育指針を学ぶ ③環境	・ガイドライン・指針の学び ・児童発達支援ガイドライン・保育所保育指針について理解を深める ・環境、ハザードマップ見直し
8月23日（金）	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②小学校教育要領の学び ③スタッフ研修(テーマはスタッフが決める)	・学校指導要領・特別支援教育について最新の動向を学ぶ。I Oの姿についての理解も深める。 ・スタッフ同士で自らの知識、経験、技術のアウトプットをする
9月27日（金）	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②保護者支援 ③全体研修	・保護者が感動をするような支援・関わり、保護者支援について学ぶ ・全社員への研修動画を視聴し、感想や意見を交換する
10月25日（金）	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②アプローチカリキュラムを学ぶ ③感染症対策 ④インクルーシブ保育	・アプローチカリキュラムを学び、支援への取り入れ方を具体的に考える ・季節性の感染症の特徴、感染経路、予防方法などを学ぶ ・半年の保育の振り返り
11月22日（金）	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②危機管理・安全・環境構成 ③就学支援シートについて	・施設環境構成の見直し・検討・改善。子どもが経験を選択できる環境構成を行う。 ・就学支援シートの書き方、就学先の把握、近隣小学校の見学など
12月27日（金）	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②スタッフ研修(テーマはスタッフが決める)	・スタッフ同士で自らの知識、経験、技術のアウトプットをする
1月24日（金）	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②今年度振り返り(支援内容や事業計画の取り組みなど) ③次年度支援方針・支援目標決め	・今年度の振り返りと、次年度の支援方針や支援目標を設定する。 ・事業報告と次年度事業計画の内容について、意見を出し合う。
2月28日（金）	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②スタッフ研修(テーマはスタッフが決める) ③一年間の振り返り(個人や係など)	・スタッフ同士で自らの知識、経験、技術のアウトプットをする ・個人や係などで一年間の振り返りを行い、次年度に向けた計画を立てる
3月28日（金）	18:00～20:00	①コンピテンシー自己採点 ②次年度に向けた話し合いや準備	・次年度準備

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
デモンクイターソシツ®	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

併設園である東大和どろんこ保育園と共に、地域との関係を深め、地域に開かれた子ども発達支援センターとして、近隣住民や近隣の園、近隣施設との交流の機会を設けていく。また、スタッフも地域のイベントや行事に参加をし、地域交流に積極的に関わっていく。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：東大和南公園にて（東大和どろんこ保育園と合同開催）
商店街ツアー	週1回
世代間交流	地域の方や高齢者との交流

異年齢交流	園庭開放、近隣施設の受け入れ
地域拠点活動	子育て相談、相談支援事業、保育所等訪問支援

9. 小学校との連携の計画

- ① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
- ② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
- ③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
- ④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
- ⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。
- ⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。
- ⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

地域の小学校や特別支援学級、特別支援学校について情報を集め、公開授業にも積極的に参加する。スタッフが小学校の現状を知り、保護者へ情報を発信することで、安心して就学へつなげられるように努める。相談支援事業と連携し、幼児期から小学校の接続だけでなく、成人期までのイメージを持ちながら必要に応じて就学支援シートやサポートブックを活用していく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月22日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	東大和市立第三小学校 なかよし学級	2名予定	特別支援学級の授業公開	特別支援学級の現状を知り、支援につなげる
6月頃	東大和市立第八小学校	2名予定	学校公開	隣接する小学校との関係構築、授業内容の把握
7月13日	羽村特別支援学校 小学部	2名予定	学校公開	特別支援学校の現状を知り、支援につなげる

10. 個別支援計画の作成と更新について

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認していく。子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を提示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせる。
- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈2〉毎月のケース会議開催（5～3月に計11回開催予定 参加者：12名予定）

児童発達支援管理責任者を中心に、事例を1つ挙げ、皆で支援方法について検討を行う。保育園のスタッフも一緒に加わりやすい時間に設定したり、保育園側から事例を提出してもらったりし、つむぎと保育園が互いに子どもへの関わり方について真剣に話し、考え、支援案を見いだせるように進行していく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

小学校への引継ぎに関しては、就学支援シートを作成し、保護者と内容を確認の後、小学校に提出する。就学の流れや必要な書類など、まずはつむぎスタッフがしっかり把握をし、就学の流れを保護者に説明できるように学んでおく。また、就学についての不安や心配な気持ちを受け止め、要望があれば事業所内相談支援などの形で保護者と一緒に就学について考えていくように努める。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30
つむぎカフェ	(月)～(土) 9:00～17:00
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週() 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週() 10:00～12:00

勝手籠設置	(月) ~ (土) 7:00~20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育 (支援センター主催)	月1回 公園名: 東大和南公園にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

日程未定だが、「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻: 8時30分

自己評価終了予定時刻: 17時30分

自己評価実施予定者: 内部監査室

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	丁寧な保育・支援が確立され、全員が主体的にインクルーシブ保育へチャレンジしていく。
	重点施策	<p>○丁寧な保育・支援の実践</p> <p>人権: 大人も子どもも一人の人として尊重され、居場所がある。 環境: 子どものどのような力を育てたいかの願い、ねらいがある環境設定。 日課: 日課を通して生活力が育まれる保育とそれに必要な環境設定。 教育: 10の姿、アプローチカリキュラムの理解を深め、実践していく。 保護者支援: 保育園の様子が分かるような発信力をプロの目線で展開していく。相手の立場にたったかわり。保護者と一緒に成長していける。子育てのパートナーになる。</p> <p>○インクルーシブ保育</p> <p>混ざる(認め合う): 大人も子どもも環境も。“分けず”に全てが混ざり合った活動・環境。子どもがやりたい遊び、経験を自分で考え、自分で決め、自分で行動する。</p> <p>学び: 保育、療育ともにお互いの知識を学びあい、理解しあう。(個を見る</p>

		力、集団を見る力)。大人のにんげん力向上のために、学びあえる集団。 発信：どろんこ会のインクルーシブ保育を社内、地域、関係機関等へ発信をしていく。ブログ、創園、SNS、社内会議、勉強会…。 育成：新人への教育を丁寧に行う。どろんこ会のインクルーシブ保育を語るスタッフの育成。スタッフを育成できる人材の育成。
2025年度	目指す姿	インクルーシブ保育が根付き、選ばれる施設になる。地域、社内、など外部への発信を広げ、インクルーシブ保育のモデル園として認知される
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・混ざり、認め合う環境と関係の構築。 ・保育園もつむぎも定員を満たしている。 ・インクルーシブ保育を実践するリーダー層の育成。 ・地域コミュニティの拠点になる。 ・どろんこ会の運営方針に沿った保育が実践され、研修の拠点施設になる。
2026年度	目指す姿	日本のインクルーシブ保育のモデル園として確立する。
	重点施策	主体的に考え、学び、動く。自律したプロの集団。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：子ども発達支援センターつむぎ東大和 施設長 中村大輔

2024年度 発達支援つむぎ 見附ルーム 事業計画書

1. 基本方針

新潟県内では初めてとなる、保育所と併設される発達支援事業所「つむぎ見附ルーム」は、「にんげん力。育てます。」の法人理念のもと、保育所保育指針・児童発達支援ガイドラインに基づき、インクルーシブ保育・支援を行います。

「見附どろんこ保育園」は広大な園庭を囲むように越後平野が広がる環境を生かし、障害の有無に関わらず日課の基本活動、保育プログラム、課外活動を通して「自然の中での体験」を共にし、子どもが身近な経験を通しやりたいことを自ら選び、「いきる力」が身につく環境を設けていきます。

そして、初年度インクルーシブ保育・支援をスタンダードとして行くために、「つむぎ見附ルーム」の周知活動を行う。利用する子ども・保護者支援、併設園だからこそできる支援を計画し、一人ひとりに最善の支援ができるように、研修を行いスタッフの支援の質、アプローチ内容等を積み上げていく。

また、2024年度の運営本部missionである「生活力の体得」「10の姿の体得」「子ども自らがいつでも経験を選びとることができる物的環境の設定」「命を頂く活動の実践」を保育園と協働し達成するために、開所初年度から全スタッフが対話し支援を振り返り、常に改善し実践を繰り返し行える環境や、支援人員配置の仕組み作りを行っていく。

〈1〉支援内容の充実・質の向上

初年度はまず、組織づくりを念頭に置き、保育所保育指針・児童発達支援ガイドラインを軸に、どろんこ会の方針への理解を深めスタッフ間の共通理解を図る。子どもの主体性を育む保育・支援とは何かを理解し、日課活動の定着を図ることで保育・支援内容の充実と質の向上につなげる。

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 保育所保育指針・児童発達支援ガイドラインの理解（どろんこ会が目指すもの）を深める園内研修。 どろんこ会が目指す保育の根拠となる保育所保育指針・児童発達支援ガイドラインの理解を深める。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> どろんこ会方針の根拠となる保育所保育指針・児童発達支援ガイドラインの理解を深めるため、研修を実施する。
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 日課活動の充実と子どものスムーズな動線づくり。 日課活動の意味を捉え、日課活動の定着が保育の充実に繋がる事をスタッフが理解するとともに、実践していく。 子どもの動線への配慮の重要性について理解し、スムーズな保育の流れに導く環境を整える。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> 雑巾がけ、座禅、さくらさくらんぼリズム体操、サークル、畑活動、生き物の世話及び9時散歩出発という日課活動を日々の保育に位置づけ、保育の充実を図る。 子どもの動線に配慮した環境を設定する。 全スタッフが参加し、日課活動を実践する。
3	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 主体性を育む保育・支援とは何かを、理解する研修と実践。 子どもの主体性を育む保育・支援への理解を深め、保育の質の向上を図る。

	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの主体性」とは何かをディスカッションし、共有し合う研修とエピソード研修を実施する。 ・子ども自身が次の行動を考え、流れるような生活スタイルとなる保育のイメージを共有し、実践へと繋げる。（時間軸から、空間軸へ）
4	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の安全管理体制づくり。 ・保育の安全管理への意識を高め、安全管理体制を作り、安全な保育環境を整備する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの意義について確認し、マニュアルを遵守する。 ・室内、園庭、散歩コース等のリスクの把握に努める。 ・事故防止のためヒヤリハットの収集に努め、重大事故防止の体制を整備する。 ・子どもの豊かな体験を保障するための安全管理であることを共有する。
5	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ保育の理解を深める研修の実施。 ・インクルーシブ保育は全ての子どもたちに必要な保育であることを深く理解し、実践に繋げる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・つむぎスタッフの専門性を活かした研修を開催し、実践に結び付けていく。（年3回） ・保育の中のエピソードを交え、スタッフの思いを共有する。生活の中での子どもの様子を語り合い、子どもが何に気づき、何を学んでいるのか、何を支援すればよいのか環境や手立てを話し合う。 ・子どもの主体性を考え、支援をする。全ての子どもが受け入れられながら生活をしていく。
6	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・内部監査を活用した保育の質を担保し、指摘数ゼロを目指す。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の標準化についてスタッフが理解し、保育の質を担保するために、内部監査項目を活用した仕組みを作る。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

保護者が安心して利用ができるよう、コミュニケーションを取り、悩みや課題を一緒に考え、保護者に寄り添った支援をしていく。関係機関との連携を図り、地域全体での支援をしていく。

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長や子育ての感動を保護者に伝える「お迎え3分対応」の充実。 ・保護者の立場に立ち、支援者としての役割を認識し、さらに子どもの育ちを共有することで、保育の質の向上につなげる。 ・保護者へのフィードバック内容・質の向上。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の迎え時に一番大切なものは、スタッフの笑顔と、子どもの成長の姿や感動するエピソードを伝えることであることを理解する。 ・子どもや保護者が保育者から、尊重されていると感ずることが出来る関りは、保護者支援の基本であることから、日々の何気ない会話などを大切にしている。 ・保護者が知らない、園でのいきいきとした子ども様子を伝えるロールプレイ新卒スタッフを中心に研修する。 ・子どもの様子を写真や動画を使ったエピソードで話していき、その日その日のフィードバックではなく、連続した支援の中での成長や課題を保護

		者様に伝える力をつけていく。
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・「うちのごアプリ」のタイムライン、連絡帳の充実。 ・「うちのごアプリ」は、保育者と保護者がつながるツールであるため、伝える技術を磨く。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムラインは毎日、スタッフ一人が1コマ以上アップし、発信力を高める。 ・連絡帳の書き方の基本について園内研修を実施する。 ・保護者支援は保護者のエンパワーメントを高めることが目的であることを理解する研修を実施。 ・写真撮り方研修、保護者支援講座等の園長大学・保育士大学活用。
3	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長の姿を伝える、感動あふれる行事の開催。（運動会、どろんこ祭り、生活発表会） ・子どもの成長は保護者にとって何よりの励みであることから、子どもの成長を伝える行事は、感動あふれる内容になるようにする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会、生活発表会は普段の保育活動から、行事へと繋げていく。 ・子どもの年齢によらない一人ひとりの姿を大切に、何かが出来た、出来ないではなく、子どもの内面の育ちに注目した内容を盛り込む。 ・行事は子ども主体で、子どもたちの成長を伝えるという目的を見失うことなく開催する。
4	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ保育の保護者理解と周知への取り組み。 ・インクルーシブ保育の本質について、全ての子どもに、必要な保育であることを発信し広めていく。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・行事、保護者会、日々のタイムラインなどで、インクルーシブ保育は全ての子どもたちに必要な保育であることを発信する。 ・集団の中での、子ども同士の関わりにおける成長の姿について、エピソードを通して保護者に伝える。 ・保護者の意向や気持ちを受け止め、障害の特性や発達各段階に応じて「育ち」や「暮らし」を安定させることを基本に保護者支援を行う。
5	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・どろんこサポーターズ募集と「どろんこ祭り」共催。 ・どろんこサポーター活動の活性化と活動の基盤づくり。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・どろんこサポーターの募集への理解と協力について発信する。 ・良い園づくりには保護者の協力が欠かせないことを理解いただき、保護者同士のつながりを支援する。
6	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携を密にしていき、地域資源を活用しながら、地域全体で支援を考えていく。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所、保育園、幼稚園と他機関との連携を図り、地域全体で支援をしていく。小学校、放課後等デイサービスなど就学に向けてのアプローチもしていく。

〈3〉 地域の子育て支援事業

地域の社会資源として、地域の子育て支援の役割を担うべく、初年度は子育て支援センター「ちきんえっぐ」の広報に重点を置き、見附どろんこ保育園の園環境を活かしたイベントを企画し、市内の

みならず近隣からの利用も視野に、利用数拡大に努める。

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センター「ちきんえっぐ」を地域に広め、気軽な利用を図るための広報活動。 ・開園初年度は見附どろんこ保育園の子育て支援センター「ちきんえっぐ」という名前を広め、利用促進を図る。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市内公共施設等に毎月の「ちきんえっぐ」たよりのQRコード付きチラシの掲示。（7カ所以上） ・自然食堂、寺親屋、自然学校などの親子参加型講座の利用拡大は参加者の口コミを重視する。
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・出前保育における勝手籠（子ども服フリーマーケット）の有効活用。 ・勝手籠は子育て親子が繋がり交流するきっかけとなるため、出前保育に勝手籠を持参し広める。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の親子の交流は何気ないきっかけが重要であり、そのきっかけ作りの有効な手段として、出前保育では毎回、出張勝手籠を実施する。 ・大人サイズなど勝手籠のバリエーションを広げる工夫をする。
3	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・広い園庭環境を活かした親子交流、地域交流の促進。 ・広い園庭環境で様々な人が交流できる機会を持ち、地域に開かれた園となる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物（山羊と鶏）との触れ合い、畑づくり、米づくりなど自園の特徴を生かして地域の方々を巻き込み、広い園庭を活用した子育て親子、地域の方々など世代を超えた交流を図る。 ・近隣の園や学校、老人施設、発達支援事業所などとの交流の機会を積極的に持つ。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・組織づくりに取り組む。 ・開園初年度に重要なのは組織づくりであることを理解し、自身が目指したいものを実現していくという見通しを持つ。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の中で働く一員として、自身が仕組み化に取り組むことを理解する研修と具体的に仕組み化する。 ・一人ひとりと対話を重ねながら、組織の基盤を作り上げる。 ・責任と役割の明確化。
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針が目指す日本の教育の方向を理解する。 ・保育所保育指針への理解を深め、目指すべき日本の教育について考え、保育の見通しを持つ。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに「育みたい資質能力 三つの柱」は、日本の教育が目指すものであり、乳幼児期に育てるべき力が何かを読み解く研修。 ・どろんこ会の理念や基本方針と保育所保育指針の繋がりを理解する研修を実施。
3	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・どろんこ会が目指す「いきる力」のキーワードの理解 ・非認知能力・主体性・インクルーシブ保育など、どろんこ会が目指す保育のキーワードを理解する。

	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な保育の中のキーワードを一つずつ読み解き、深く理解する内容を研修に盛り込み、共通理解を図る。 ・インクルーシブ保育が当たり前の世界を目指して、園スタッフとつむぎスタッフが連携会議を定期的開催する。
4	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・業務過多と言われる保育業界は自分たちで変える。 ・子どもたちに真に必要な業務を精査し、無駄な業務を洗い出し、業務改善に努める。
	実践予定内容	検討見直し委員会の設置から改善へ <ul style="list-style-type: none"> ・保育計画の内容の見直し「負担を減らして使える計画の作成」 ・雑務の整理と業務の仕組み化 ・行事の在り方改革 ・残業の在り方改革

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・給食残渣の有効活用と堆肥づくり。 ・適切な給食食材量の把握で残渣を減らし、残渣は有効に活用する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の残渣を常時把握し、残渣を減らす取り組みと同時に残渣を有効活用した堆肥づくりに取り組む。 ・山羊と鶏の糞、園庭の枯葉など堆肥となるものを集めて園庭の一角に堆肥場を作り、日課としての堆肥づくりを実施する。 ・野菜くずや野菜収穫時の間引き野菜等を山羊に与えるなど無駄なく活用する。
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・本物の食の循環を知る活動。 ・畑づくり、稲づくりは土壌づくりから苗の栽培、収穫まで本物の食の循環を通して、協同性、社会性、規範意識の芽生えへと導く。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日課としての畑活動等を通して、本物の食の循環を知る。 ・畑の作物は一朝一夕にできるものではなく、毎日、手間暇かける必要があることを体験から学べるように全スタッフ、全園児で取り組む。 ・自分の意志で動くことができるようになった0歳児から参加することで、卒園までの育ちの中に自然に協同性、社会性、規範意識が育つよう、日課活動の目的をスタッフが明確に持ち、保育を実施する。
3	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な食品の加工体験。 ・食品を加工する意義を知り、食品加工技術を体験する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・梅干し、味噌、干し柿、干し椎茸など食品を加工して食す体験を年間通して実施する。 ・食品の多くは長期間保存することができないことから、食品の品質保存、有効利用、安定供給を目的として、古くから生活の知恵として行われてきた食品加工技術を子どもたちとスタッフが共に試行錯誤しながら体験してゆく。
4	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木を保育環境に取り入れる。 ・様々な木に関心を持ち、木に触れる遊び環境を作る。

	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・雑木林に出かけ、四季を通して木の変化に気付き、興味を広げる。 ・薪づくり体験活動。（薪拾い、薪割り） ・年輪、木のかたさ、香りなど木々の特質について知る機会を作る。 ・身近に木がある保育環境を作る。
--	--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈6〉 地域とのネットワークの構築

1	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の方々との交流の機会を持つ。 ・地域の社会資源としての役割を担うため、初年度は地域に受け入れて頂けるような関係づくりに取り組む。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街ツアーなどで地域に出向いて関りの機会を持つ。 ・積極的に外に出向いて対話の機会を持つ。 ・地域コミュニティとのかかわりを模索する。
2	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・教育、福祉関係機関とのネットワークの構築。 ・保育に関わる関係機関とのつながりを明確にしながら、基盤づくりに取り組む。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所、医療機関、他の保育施設、小学校、中学校、特別支援学校など子どもたちの育ちに関わる関係機関とのネットワークを確立する。
3	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ご近所付き合いの輪を作る。 ・近隣住民の方々との良好な関係づくり。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に近所に出向き、挨拶や何気ない会話を大切に、地域に溶け込んでいけるよう、力を入れて取り組む。 ・すれ違う人と当たり前に、自然に挨拶を交わす事をスタッフと子どもたちが習慣化する。

〈7〉 保育の質を担保するスタッフの働き方改革

1	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・保育業界の当たり前を見直す。 ・保育業務の在り方について再考し、業務のスリム化と保育の質を担保するための業務改革に取り組む。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・業務過多と言われる保育業務について、当たり前を見直しながら、具体的な業務改善会議開催。 ・課題の抽出と改善策の実行。 ・業務見直しのためのPDCAサイクルの確立。
2	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な職員配置とタスク管理。 ・シフトの適正管理とスタッフの業務を管理し、無駄な超過勤務の無い風土づくり。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・超過勤務の在り方の確認とスタッフ間の協力、協働で生み出す働きやすい職場環境のイメージの共有と実践。 ・業界課題解決のためのPDCAの仕組みづくり。
3	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい職場環境は自分たちで作る。 ・保育の質を担保する、業務のスリム化でワークライフバランスを実現す

		る。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休暇の取得や休息のとり方等、働きやすいと思える職場風土を自分たちで作り上げる。 ・ ノンコンタクトタイムの活用。 ・ 子どもたちに必要ではない業務を洗い出し、業務のスリム化する。 ・ 子どもたちに必要な業務は力を入れて取り組む。

〈7〉 組織づくりによる強固なチームづくり

1	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織づくりとは何かを理解する。 ・ 組織の一員として機能することがチームづくりにつながる事を理解する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ マニュアルの意義、責任の明確化、権限の明確化、業務の仕組み化など、園を運営する際に必要とされる事項について確実に伝わるような機会を持つ。 ・ 組織としての成長の過程があることについて、タックマンモデルを用いて、スタッフに組織の成長の見通しを伝える。 ・ つむぎスタッフも含めて、仕組み化する。
2	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対話型組織づくり。 ・ 経験が異なるスタッフの個を活かしながら、チームとして稼働していく組織づくり。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個の力を発揮させるスタッフの個別の面談を定期的実施し、組織づくりへのモチベーションを向上させる。 ・ 個の力をチームの力に変えるための支援体制づくり。

〈9〉 インクルーシブ保育の実践

1	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達支援事業所と保育園の連携。 ・ 互いの立場を尊重し合い、協同する関係性を構築する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ どんぐりこ会が目指す保育園併設の児童発達支援事業所への理解を深める。 ・ インクルーシブ保育の実現に向け、スタッフ同士が語り合う場を作る。 ・ 子ども同士の関りの中で育てる意義について、共通認識する。
2	計画 ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職種の違いを超えた連携。 ・ スタッフの専門性を活かした保育が実現できるように、職種の理解を深める。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の場面やケースを通して、互いの理解を深め共有する機会を持ち、インクルーシブを確立して行く。 ・ 子どもの姿を共通の軸にして、意見交換できる風土を作る。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

保育士2名

機能訓練担当スタッフ2名（言語聴覚士1名、作業療法士1名）

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門士による支援技術の共有 ・ 研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う。 ・ つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	喫食状況、嗜好、アレルギー児等に係ることの共有、検討。
事故防止委員会	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人から発信された事故の情報や自園のヒヤリハット・インシデント・事故分析の結果から改善の検討。 ・ 発生した自園の事故は都度実施。
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・ 個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要支援児のアセスメント実施、モニタリングの結果を共有。
ルーム会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の様子、支援内容の検討

業務改善会議	年3回 (5・9・12月)	・業務改善会議保育の質の向上と効率化を目指して、年3回スタッフの気づきを共有し、内容の精査を行う。
ちきんえっぐ会議	月1回	子育て支援事業に関する利用拡大のための検討。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議	四半期1回	障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	施設長、調理担当者による食育の取り組み状況、給食に関する情報共有とレベルアップのための内容。
保健会議	年4回	施設長、看護師による保健・衛生指導関係の情報共有とレベルアップのための内容。
子育ての質を上げる会議	月1回	ミドルリーダー参加による、次世代育成のための内容。

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	看護師を中心として子どもの健康管理・衛生管理に関わる事項全般
安全対策係	・事故防止に関する事項 ヒヤリハット集計・分析 改善策の検討と周知 ・施設設備点検及び管理
防火管理者	園長：若杉絵里子 防火設備点検管理 消防計画作成
食品衛生責任者	調理師：関口理絵 食品衛生管理
畑係	畑・田んぼ・ビオトープに関わる管理運営

生き物係	山羊・鶏・飼育コーナー小動物に関わる管理運営
ハザードマップ係	散歩コース・園内外のハザードマップ作成（4・7・10・1月改定）
環境整備係	園舎内外の清掃、整理整頓に関わる事項の運営
保育環境係	ゾーン保育のための室内・園庭の環境を構成する
仕組み化委員会	保育業務全般に渡り、リーダー的な視点で園全体の運営に関わる委員 保育の質の向上・研修・内部監査項目理解・内部監査項目理解などを主に担当

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこサポーターズを中心として、7月に開催。
運動会係	運動会開催に関わる計画運営
生活発表会係	生活発表会に関わる計画運営

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の生活に慣れ、安心して生活を送れるようにする。 ・戸外活動を通して異年齢や友だちとやり取りを楽しみ、遊びを見つけられるように環境を作り、丁寧にかかわっていく。 ・興味関心をもったことに、主体的にかかわり発見を楽しんだり考えたり遊びにとりいれる。
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢のかかわりの中で、生活や遊びに達成感や充実感を味わう経験を保証する。 ・様々な体験を通して感性を豊かにし創造性の芽生えを育てる。 ・友だちへの興味を広げ、遊びの中で共に育ちあう。
ビジターグループ	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に慣れ、安心して過ごせる場を作る。 ・見通しを持てるようにかかわり、身の回りの事を自分で行う。 ・興味関心をもったことに、主体的にかかわり発見を楽しんだり

		考えたり遊びにとりいれる。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団の中での簡単なルールや約束を守れるようにしていく。 ・ 遊びを通して興味関心を広げ、友だちとのかかわりを増やす。 ・ 友だちの様々な考えに触れる中で、自ら判断したり、考えたりし新しい考えを生み出す。
個別支援		・ 個々の発達課題に合わせ、就学に向けてアプローチをしていく。
事業所内相談支援	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・ 所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちと全スタッフが共に味わう縁側給食の実施。 ・ 園庭や景色を眺めながら、共に味わう縁側給食を日常の食事風景とする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日、子どもたちと全スタッフが園庭の景色を眺めながら四季を感じながら共に味わう縁側給食を実施する。 ・ 大人も子どもも一緒に味わい、食を楽しむ。
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 素材の味を噛みしめて味わい、噛む力を育てる給食提供。 ・ 発達に配慮しながら、給食の素材の旨味を味わうことができる調理に配慮し、噛む力を育てることに配慮する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調理担当者と保育者の給食会議や施設長の日々の検食の機会を重視し、子どもたちの体づくりの基本である給食提供に関しては、緊密な連携を行う。 ・ 食材の大きさ、硬さなど子どもたちの噛む力に留意する。
3	計画・ねらい	・ バイキング給食の実施で、食べるのが好きになる。

		・自分で盛付・配膳をスムーズに行える食事環境を作り、好きな人と食べる給食で食への意欲を育てる。
	実践予定内容	・食べる順番、食べる量などを制限するのではなく、食べるのが楽しみになるように、子どもたち一人ひとりの状態に配慮しながら、バイキング給食を実施する。 ・子どもの動線に配慮し、年齢の異なる子どもたちがスムーズに盛付や配膳が行えるように配慮する。
4	計画・ねらい	・計画的に食育を推進し、豊かな食の経験を大切にする。 ・生きるために必要な食についての関心を高め、食べる意欲を育てるために必要な経験を盛り込んだ計画的な食育の実施。
	実践予定内容	・計画的に健康な体づくりに必要な食育に関する体験を実施する。 ※年間食育計画は別紙あり。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 12月～3月頃・・・インフルエンザ
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ・・・預かりなし
エピペン使用できるスタッフ	本日現在●名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員4名については4月30日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在●名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員4名については4月30日までに受講予定
その他保健に関する取組	通年で新型コロナウイルス感染等に考慮し、消毒・換気の徹底 手洗い指導、うがい指導は定期的実施、感染予防に努める 流行する感染症により、アルコール消毒、塩素消毒を区別し対策を講じる ※10人以上の感染を確認した場合は法人本部、県、市に報告対応

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
------	---------------	-------------------

	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2024年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科検診 年2回／5・10月 歯科検診 年2回／5・10月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でやりたい遊びを選べる室内コーナー保育環境。 ・自分でやりたいコーナー遊びの玩具が十分に整えられ、子どもたちが毎日、意欲を持って遊べる環境設定。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室の動のスペースと静のスペースを分けし、一人ひとりの子どもたちのやりたい遊びが実現できるコーナー環境を整える。 ・年齢や発達に合わせて選べるように、十分な玩具を揃え、子どもの興味に応じて環境を変える。
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・探索行動が十分に行え、子どもの興味を引き出す園庭。 ・子どもたちの探索意欲を高めるために保育者が意図とねらいを持って、

		園庭の環境を整備する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭の広さを有効に活かして、子どもたちの探索意欲を高める環境設定においては、安全管理を基盤として、保育者が明確な意図とねらいを持って設定する。 ・子どもたちが夢中で遊び試行錯誤する環境づくり。
3	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・探索意欲が高まる園庭の、レイアウトを作成し魅力ある環境づくり。 ・魅力ある園庭にするためのねらいを持ってレイアウトし、子どもたちが夢中で遊べる環境にする。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが遊びに見通しを持ち、様々な素材に触れ試行錯誤でき、探索意欲が高まる環境整備。 ・遊びを充実させるレイアウトされた園庭の整備と維持管理。 ・冬は雪国であることを、最大限生かした雪遊びを積極的に実施する。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	設置無し		
2			
3			
4			

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・非常事態発生の場合は法人のマニュアルに従い迅速な対応が出来るよう、緊急時の連絡体制などを掲示するなど対応に最善を期す。
2	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の避難訓練を基本に、日ごろより、火災・地震・風水害等に対する意識を高める。災害は突然に起こるものであり、日ごろよりシミュレーションを行い、避難訓練の動作を基本として、どんな状況でも最善を尽くす意識を高める。 ・風水害については、刈谷田川の側に位置する浸水地域内にあるため水害対策マニュアルに従い、移動が困難な乳幼児であることに配慮し、早めの情報キャッチと避難を心がける。近隣施設との連携、協働を図る。
3	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事故・怪我においては、法人ルールに従い迅速かつ確かな対応をする。 ・園内の事故防止委員会設置。 ・ヒヤリハットの収集に努め、園内で集計・分析・改善・実行のPDCAサイクルで重大事故防止に努める。 ・開園初年度は園内外のハザードのスタッフ間共有と園庭でのタスキール、園内のリスクなど安全管理には十分な配慮をする。 <p>※ケガ・ケーススタディ研修 4月に実施</p>

4	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯、不審者に対する訓練は年2回実施する。日々の生活の中で常に意識することが重要であり、年1回、新町交番の警察官より訓練時に指導を受ける。 ・散歩時における対応や園内における対応の仕方など、会議などで意識統一をする。
5	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・Jアラートが発令された際に備え、市からの防災メール情報を頼りに、避難場所は屋内幼児室と定める。
6	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報漏洩や管理については万全を期し、定期的にスタッフの意識を高めるための啓発を行う。
7	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・広域災害によるライフライン停止、調理担当者感染症発生による給食提供停止などを想定した、外注による食事提供訓練の実施。《広域災害食訓練の実施》 ・その他、年1回、非常時の炊き出し訓練を実施する。 ・備蓄品の点検は定期的に行う。 <p>(業務継続計画 作成)</p>
8	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県柏崎市に原子力発電所があることを踏まえ、災害対策重点区域(半径30キロ圏内)にあるため、影響を受けやすい乳幼児の安全に最大限配慮し、屋内にとどまって待機する。原子力事故の際には見附市の対応マニュアルに従い、速やかに行動する。ヨウ素剤の服用、圏外への移動などが必要となる避難勧告が出された場合は、保護者へ緊急連絡アプリで速やかな迎えを要請する。
9	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・熊の出没が相次ぎ園外保育を見合わせる事態が発生しており、熊出没情報を常に把握して万全を期す。
10	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス等の地域の感染状況を把握し、法人や区市町村からの指示に従い、対応しつつ、園内での感染対策には万全を期す。
11	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・雪害についての意識を高め、降雪量などの気象状況の情報収集に努め、こまめな除雪で安全を確保する。 ・気象状況を把握し、落雪、陥没、転落事故などの防止に努める。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

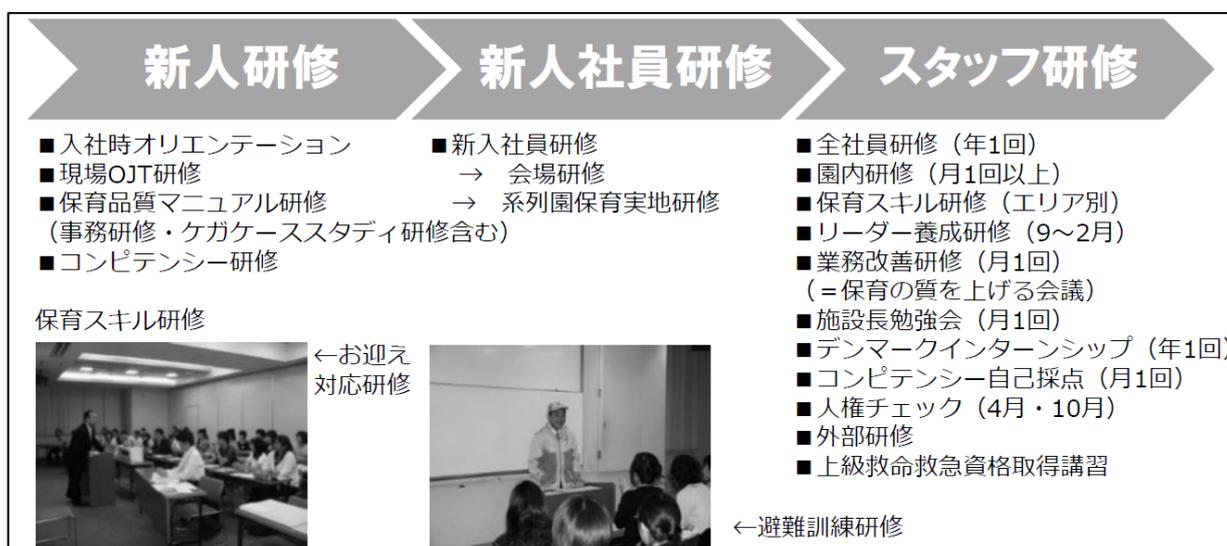
次世代を担う実習生・中高生・ボランティア等の受け入れについては、地域の社会資源としての役割と共に将来、福祉の現場で活躍する人材育成の一助になることを願い積極的な受け入れを行う。各校等とも連携し、一人ひとりの学生に対する指導援助が適切に行われ、生徒にとって将来、目指したい職業に夢と希望を持ち、実りある体験の機会となるように配慮する。特に保育実習生についてはコロナ禍で学生生活を過ごし、コミュニケーションの機会が十分でないことを踏まえ、受け入れ側としては不安を取り除き、保育現場の楽しさを伝えることが最優先事項であると考えている。さらにはスタッフも自己の振り返りの機会と捉え、次世代の人材育成についての学びを深める。

1	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実習受け入れ担当窓口として担当者を置く。 ・丁寧なオリエンテーションの実施。 ・不安のない現場実習とする。
2	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各校との緊密な連携体制の確立。 ・事前打ち合わせと情報交換。信頼関係の確立。

3	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実習中の日々の振り返りの実施。フォロー体制づくり。 ・保育の楽しさを引き出す実習への配慮。
---	--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------

7. スタッフ育成と研修計画

- ① 施設内研修：各職種のスタッフが自らの専門性を全スタッフにわかりやすく解説し、その支援方法や教材教具の活用、またひとりひとりの子どもに対する支援についてのポイントを全体で共有する。
- ② 施設内テーマ別研修：「表現活動」「事業所での活動」「親子支援」「就学に向けた支援」など、施設内から学びを希望する声の中から全体テーマとなり得る課題を施設長が統括し、資料を用い、場合によってはつむぎ施設内外から講師を招くなどしてテーマとなる事柄を深く掘り下げる研修を行う。
- ③ ケース会議：児童個人の支援の現状や課題について、またはグループ支援のあり方についてなど切り口を変えて様々なケースを題材にし、支援の検証をする。基本的には月1回としケース提案者は全スタッフ持ち回りとするが、ケース会議を希望するがいれば回数を増やし随時開催する。
- ④ つむぎ施設間での研修：各職種でのつむぎ施設間研修には各自積極的に参加し、研鑽を積む努力をする。また、施設内の支援の現状から施設長・児発管が必要と判断した課題・テーマについては他施設の人材に協力を仰ぎ、拠点を越えた研修会を実施する。
- ⑤ つむぎ他施設、どろんこ保育園への研修：一人年間6回を目標とし、課長・施設長で機会の調整し積極的に実施する。また、自施設でもどろんこ会内の研修を積極的に受け入れ保育やつむぎ各施設の特色を共有することで互いのよりよい支援につなげる。
- ⑥ 外部施設への見学：近隣の保育園や福祉事業所、放課後等デイサービスや私公立小学校、特別支援学校の公開講座や見学に行く機会を設定し、検知を広げるよう努める。また、地域行政が行う研修には最低1名は参加し、連携を深める意味でも積極的に学びの場を得る。
- ⑦ 朝礼や全体ミーティング、施設内研修の中で、その都度各自が研修で得た内容を全体に共有する機会を持つ。



〈1〉2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② どんご会の方針と保育指針の理解	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② 保育所保育指針の柱となる考え方の理解とどんご会の基本理念のつながりに気付く。
5月15日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 仕組み化の必要性と内部監査の意義	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② 組織づくりに必要な仕組み化の理解。合わせて内部監査担当リーダー制の分担。
6月19日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② マニュアルの必要性とリスク管理	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② なぜマニュアルが必要なのか、その活用とリスク軽減の仕組みの理解。
7月17日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの主体性と日課	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② 主体性とは何かについて、日課への取り組みと理解を深める。
8月21日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 探索意欲を高める保育環境とは。	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② 子どもたちが遊びを選び取れる保育環境について考察する。探索こそが遊びである事への理解を深める。
9月18日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育の実践と理解	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② 子ども同士の関りの中で育つ「いきる力」について、事例を通して共有を図る。
10月16日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 仕組み化の振り返りと業務改善提案	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② 年度初に仕組み化した業務の振り返りとスタッフ提案を改善につなげるPDCAサイクル確認。
11月20日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 就学までに育みたい10の姿とアプローチカリキュラム、保育児童要録	① 自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ② 文部科学省が推進する架け橋プログラムの理解。自園のアプローチカリキュラムに目を向け、就学までに

			育みたい10の姿について学ぶ。
12月18日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ② 非認知能力の理解・コミュニケーションでチームづくり	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②非認知能力とは何かについて理解を深める。生きていく上で必要とされる力について考察し、理解を深める。
1月15日	18:00~20:00	①コンピテンシー自己採点 ② 年間の振り返りと次年度への抱負	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②1年を振り返り、自身の成長と次年度への思いについて、スタッフ一人ひとりが思いを伝え合う。
2月14日	18:00~20:00	策定会議 ①コンピテンシー自己採点 ② 次年度の方針説明	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②次年度に向けた事業計画の説明。 ③次年度、園目標決定。
3月2日	18:00~20:00	策定会議 ①コンピテンシー自己採点 ② 次年度の計画策定 ③子どもの人権 ④保育のリスク管理	①自園の課題から抽出した項目について、ディスカッション。 ②次年度の行事計画等の計画策定。 ③園会議 次年度スタートに当たって、再確認すべき事項について研修する。

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											

リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）
デモンクインテンシブ	希望するスタッフが応募

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

開園初年度は、積極的に地域に出向き園が地域に認知されるよう広報する。北谷みつば地域コミュニティとのつながりや老人施設、就労支援施設、野菜直売所など地域の方々が集まる場所との交流。熱田神社の神楽、名木野小学校の草薙太鼓、田井小学校のみつば太鼓など地域の文化に触れる機会を持ち、近い将来に、どんなつながりが持てるか模索していく。特に大切にしていきたいのは、地域の方々とお会ったときの日常の挨拶であり、明るい声で自ら挨拶する姿を、スタッフが子どもたちに背中で見せていく。挨拶はコミュニケーションの第一歩であり、何よりも大切にしたい姿勢である。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：なかよし広場にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人施設「越の里」様訪問交流
異年齢交流	<ul style="list-style-type: none"> ・他園交流訪問受け入れ 遠足目的地として交流保育 ・名木野小学校 草薙太鼓見学 マラソン大会応援 ・田井小学校 みつば太鼓見学 ・葛巻小学校 アルパカ見学 ・見附南中学校 体育祭練習見学
地域拠点活動	<ul style="list-style-type: none"> ・北谷南部地区みつばコミュニティ訪問 ・葛巻地区まちづくり協議会訪問 ・北谷北部くさなぎコミュニティ訪問
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

- ① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
- ② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
- ③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
- ④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
- ⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。
- ⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。
- ⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

名木野小学校、田井小学校、葛巻小学校、見附小学校の4校を散歩コースに入れ、日常的に小学校の様子を目にする機会を作る。子どもたちが実際に授業の様子等を見学できる機会を持ち、小学校からの訪問も積極的に誘致する。スタッフもオープンスクール等で積極的に学校の授業を見学する。保護者を交えてアプローチカリキュラムに沿った保育実践や保育所保育指針が目指す姿から、学習指導要領が到達目標に変わる流れについて理解を深める機会を持つ。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を6月3日（月）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	田井小学校 1年	6名予定	運動会練習見学（田井小学校小校庭）	子ども間交流 職員間交流
5月頃	名木野小学校 1年	15名予定	運動会練習見学（名木野小学校校庭）	子ども間交流 職員間交流
6月頃	葛巻小学校	6名予定	葛巻の森アルパカ見学（葛巻小学校）	子ども間交流
10月頃	名木野小学校 田井小学校 葛巻小学校	15名予定	マラソン大会応援見学	子ども間交流
9月頃	名木野小学校 田井小学校 葛巻小学校 今町小学校	10名予定	授業参観（各校1年生教室）	職員間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

子育ての基本は、子どもが持っている力をどう発揮させるかが保育者の役割であると考えます。集団における子どもの成長の機会を重視し、大人が先回りし、手を出しすぎるのではなく、本来持っている子どもの能力が十分に発揮されるように、個別支援計画を立案し具体的な対応を月1回のケース会議（必要によっては都度開催）でスタッフ全員が共有し計画を見直し、保護者の意向確認、つむぎスタッフによる専門性を活かして、子どもの成長発達を多角的に捉えて共有する体制を確立する。さらにインクルーシブ保育の観点から計画との整合性があるか具体的事例に基づいて、検証していく。何よりも、子ども自身が安心した園生活が送れるように援助するという視点に立ち、アセスメントシートを用いて、モニタリングを十分に行う。

児童発達支援管理責任者が、保護者の意向を聞き、子どもの適正、特性を踏まえて適切な支援内容を検討し作成する。また、6カ月以内に1回以上のモニタリングを保護者に実践し、子どもの様子や保護者のニーズ、それに伴う適切な支援を提供する。

〈2〉毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催予定 参加者：5名予定）

特別支援児のみではなく、気になる子の様子についても記録し経過を観る。発達段階の関わり方の共有を目的として施設長と担当スタッフで開催し、必要な情報は関係するスタッフに共有する。インクルーシブによる集団の中での育ちに着目し、スタッフの関り方の共有や保護者のニーズ等について、つむぎスタッフの専門的知見を入れて、建設的な意見交換の場とする。

策定会議だけでなく、ケース会議を実施することで、子どもへの理解をスタッフ全員で深め、支援の内容を充実させていく。

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

就学に向けては、毎年2月頃に保育児童要録を就学先小学校へ提出する。小学校への接続期の重要性に鑑み、スタートカリキュラムの確認、自園のアプローチカリキュラムによる環境の変化に適應する保育内容。保護者や関係機関、小学校との連携を重視し、情報の共有を密にする。進級に向けて、必要なケースについてはつむぎとの連携、5月頃までには、アセスメント面談を実施。その後は定期的な保護者面談を実施し、関係機関との連携から就学へと接続する。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30
つむぎカフェ	(月)～(土) 9:00～17:00
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(木) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00

ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 公園名：なかよし広場にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年6月3日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：13時00分

自己評価終了予定時刻：15時00分

自己評価実施予定者：施設長

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	新規開設のため、記載なし
	振り返り	

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・組織づくりとは何かをスタッフが理解し、仕組み化に取り組む。 ・保育の質の向上をめざして、園内研修が計画的に行われている。 ・保育園と協働し、インクルーシブ保育を目指す。 ・地域に周知され、様々な視察・見学者が年間100名を超えている。 ・「つむぎ見附ルーム」が目指す、インクルーシブ保育・支援を地域に知ってもらう。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは組織づくり、仕組み化に着手する。 ・計画した園内研修は法人理念の理解、保育所保育指針・児童発達支援ガイドラインの理解など保育の基本となる研修を中心に、保育の質の向上におけた土台づくり。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園との連携と役割の明確化。 ・ 地域に広く広報し、様々な形で視察・見学者を増やす。
2025年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕組み化の基盤ができあがり、稼働している。 ・ 現場の課題を通して、学び合いの風土がある。 ・ 業務改善がスタッフの提案を中心に具体的改善策となっている。 ・ 連携の基盤が確立し、インクルーシブ保育が実践されている。 ・ 児童発達支援の、利用実績が定員の10名 /日に近くなる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕組み化を適宜見直し、調整を行う。 ・ 現場における課題を通して、園内で更なる学びの機会を創出する。 ・ 批判的思考力を高める研修から、柔軟な考えによりアップデートしていくチームづくり。 ・ 保育園スタッフと児童発達支援事業所スタッフの互いの理解を深める研修実施。
2026年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織を基盤とし、全スタッフの保育の質の向上が図られている。 ・ スタッフ一人ひとりがやりがいを持って、保育の魅力を感じている。 ・ 働きやすさが数値化された結果からも見える。 (超過勤務時間数、有給休暇取得率、離職率等) ・ どんご会が目指す方針が理解され、保育内容に共感して、入園児が定員に達している。 ・ 児童発達支援事業所「見附つむぎルーム」との連携によるインクルーシブ保育が実現している。 ・ 児童発達支援の、年間を通して利用実績が定員の10名 /日に近くなる。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務の仕組み化の定着。 ・ リーダー的視点を持ったスタッフを増やし、保育の質の向上に向けて園内研修をスタッフ主導で実施。 ・ 自園を誇りに勤務しているスタッフが増え、積極的な業務改善提案。 ・ ロコミによる入園児数拡大。

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ見附ルーム 施設長 坂井 剛

2024年度 発達支援つむぎ 袖ヶ浦ルーム 事業計画書

1. 基本方針

児童発達支援事業所として、併設された袖ヶ浦どろんこ保育園と共に生活を送り、ひとつの組織として共に協力し合いながらインクルーシブ保育を推進していく。

① 応答的な関わりの中で、10より100の実体験の積み重ねをする。

身の回りの人との応答的な関わりの中で、やりたいことを実現させる方法を自ら学び、自身を取り巻く社会の中で経験をつかみ取る力を育てていく。

② よく食べよく遊び、自らが活動を選択し考え、行動ができる子どもを育てる。

日々の生活の中でよく食べよく遊び、生活リズムを整えていく。「じぶんで」を大切に、積み重ねの経験の中で、基本的生活動作の獲得、心身の行動調節力の向上を目指す。

③ 専門性を生かし、子どもを真ん中においた保育、療育を追求する集団である。

症例研究や丁寧なアセスメント、フィードバックの実施をし、子どもを真ん中においた支援を追求していく。

④ ありのままの姿を受け止め、苦楽を共にし、助け合える仲間がいる園

全ての人のありのままの姿を受け止め、様々な経験の中で助け合える仲間を増やしていく。

園目標「みんなの『やりたい』をやってみよう」

ひとつ屋根の下、人とのつながりを大切に、みんなのやってみたいを実現できる施設を目指す。

以上を発達支援つむぎ 袖ヶ浦ルームの基本方針とする。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	好きな遊びを見つけ、繰り返し遊びこむことを楽しむ。
	実践予定内容	生活の中にある様々な素材や資源に触れたり気づいたりができるような環境を作っていく。
2	計画・ねらい	友だちとの関わりを楽しみ、相手の気持ちに気づく。 気持ちや行動を調整する力をつける。
	実践予定内容	友だちとの関わりの中で、主張のぶつかり合いを大に行えるよう保育者は安全に留意しながら見守っていく。感情を言葉で表現しながら気持ちや行動のコントロールができるようにしていき、気持ちに折り合いをつける経験が沢山出来るように環境を整えていく。
3	計画・ねらい	・保育者と信頼関係を作り、安心して園生活を楽しむ。 ・ペアレントトレーニングについて学習する機会を作る。
	実践予定内容	・身近な保育者と信頼関係を築き、保育者に見守られながら安心して遊び込める雰囲気を作っていく。 ・ペアレントトレーニングについて知識を深め、実践できるようにしていく。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	子どもを真ん中に置いた支援内容を子育ての伴走者として相談してもらえ る関係を作っていく。
	実践予定内容	保護者の困り感の傾聴を行い、子どもの困り感が何かを一緒に考え、困り 感を減らす為に必要な経験が積めるよう、アセスメントをとり、支援のプ ランを一緒に考えていく。
2	計画・ねらい	子どもの発達におけるつまずきや困り感の理解を深められるようなフィー ドバック、きょうだい児支援の実施
	実践予定内容	子どもの発達におけるつまずきへの理解が深められるよう、傾聴やアドバ イスを専門的な視点で行う。きょうだい児も気軽に立ち寄れる雰囲気を作 る。
3	計画・ねらい	保護者同士の交流の場を作り、楽しみや悩みを共有することができるよう にしていく。
	実践予定内容	保護者参加行事の開催、交流できる場の提供を積極的に行っていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	施設の知名度を向上させ、来園者を増やす。
	実践予定内容	地域資源のひとつとして広報活動を行い、施設機能の理解を深めてもら い、利用していただく。
2	計画・ねらい	ちきんえっぐ企画を一緒に行う。
	実践予定内容	青空保育、自然食堂などちきんえっぐの企画を一緒に行い、つむぎへの関 心を持っていただき、利用のきっかけ作りをしていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	どろんこ会の保育の理解と実践からわくわくする保育を提供する保育者に なる。
	実践予定内容	朝の日課、長距離散歩、だめと言わない保育を実践していきながら、子ど もの成長をポートフォリオに記録し、保育の楽しさや魅力、探求心につな げる。
2	計画・ねらい	つむぎ内研修の実施、子どもの発達について理解する。
	実践予定内容	子どもの心身の発達の目安について研修を開く。実際の子どもの姿と照ら し合わせながら、途切れない飛び越さない発達を促せるようにしていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環を意識した環境を作る。
	実践予定内容	畑活動やコンポストの設置を行い「もったいない」について話をしていく。 実際に食の循環を身近にしていき、食の循環が体感できるように進めていく。

〈6〉症例研究と発表（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	症例研究を通して専門的な視点や支援の質の向上を図っていく。
	実践予定内容	ポートフォリオやアセスメント表などを作成し、子どもの姿の変化、発達の状況などを丁寧に読み取りながら症例研究を行っていく。近隣のつむぎ園と意見交換ができるようにしていく。
2	計画・ねらい	障害の理解を深める
	実践予定内容	研修会を開き、保育士大学講座などを利用しながら障害の特徴について理解を深める。

〈7〉ユニバーサルデザインを意識した環境づくり（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	ユニバーサルデザインについての理解
	実践予定内容	ユニバーサルデザインについて理解し、保育にどういかせるかを考える。
2	計画・ねらい	ユニバーサルデザインの環境づくり
	実践予定内容	誰もが公平に個人の主体性を基にした選択ができる環境の整備や物事の見える化を進めつつも視覚的刺激が少ない必要最低限のすっきりとした環境に整えていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

児童指導員1名

機能訓練担当スタッフ1名(理学療法士1名)

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回120分	<ul style="list-style-type: none"> ・専門士による支援技術の共有 ・研究テーマ(造形、音楽、自然、食などを設け、資料を使った研修を行う。) ・つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	各クラス食事の様子、食育、アレルギー対応、クッキング内容共有
事故防止委員会	月1回	当月のヒヤリハット、インシデント、事故記録の振り返り、分析と再発防止
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議		障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	エリアごとに課題やスキルアップのため、討議を重ねる
保健会議	年4回	各園の状況報告や衛生面などについて意識の統一を図る
子育ての質を上げる会議	月1回	各園のミドルリーダーが自園の保育の質の向上推進のため、アクティビティを実践しながら保育を深めることについて学び合う

〈3〉各種系の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所の点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかの飼育管理、ビオトープ作成の指揮、動物や植物に触れる機会の検討立案
体験学習係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導

〈4〉行事別系の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	どろんこ祭りの企画・運営、どろんこサポーターズとの連携
運動会係	運動会の企画、調整
生活発表会係	生活発表会の企画、調整
卒園・入園式係	卒園式・入園式の企画、調整、卒園アルバムの作成

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期	・保育者との愛着関係や信頼関係の構築、応答的な関わりの中で園の雰囲気慣れ徐々に自ら環境に関わっていける力の基礎を育む。
	下半期	・応答的な関わりや見守りのもと、子ども自身のやってみよう気持を引き出し、やりたいことをするにはどうしたらいいか考えたり、周りの人に協力を求めたりすることができるようにしていく。
個別支援		・子どもの発達段階に合わせて、飛び越さない連続性のある育ちを促していく。
事業所内相談支援	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	食べる楽しさや心身が満たされる感覚を味わい、食べる意欲や関心につなげる
	実践予定内容	子どもに関わる全ての人が食卓を共にする。一緒に食事をする仲間との会話や雰囲気など通して食べる楽しさやマナー、食への意欲や関心につなげていく。
2	計画・ねらい	自分の食べられる適量を知り、満足いくまで食べる
	実践予定内容	バイキング給食を通して、自分が食べられる食材の判断や量の調整ができるようにしていく。姿勢を整え、よく噛んで食べることを伝えながら、体に合った適量の食事で満足感が得られるように支援していく。
3	計画・ねらい	3色食品群を身近にした食育の推進
	実践予定内容	給食で使われる食材を3色食品群に分けて紹介し、子どもと一緒に分けながら、体にとって何がいいのかを知らながら食べる意欲に繋げる。
4	計画・ねらい	食の循環が意識できる環境を作る
	実践予定内容	残食や収穫後の苗などを使ったコンポストの実施 畑活動を通して、種植え、栽培から収穫、実際に食種を収穫しまた植えるなど、食べ物の無駄のなさが理解できるよう日常に根付いた活動を行っていく。

〈4〉保健計画

スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
流行が予測される感染症	通年…新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6月頃…手足口病、ヘルパンギーナ、とびひ、 11月頃…RSウイルス感染症、溶連菌感染症 12月頃…インフルエンザ、感染性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	未定
エピペン使用できるスタッフ	未受講の新入職員については3月22日までに受講予定
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	AED未設置

その他保健に関する取組	自治体からのお知らせ掲示、保健関係研修の受講 新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する。
-------------	---------------------------------------------------------------------------------

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	遊びを選び取れるゾーンが充実した園舎づくり。
	実践予定内容	保育室や園庭は、子どもが自由に行き来でき、決まった物が決まった場所に置いてあり、遊びをじっくりできる環境を整える。
2	計画・ねらい	「外で遊びたい」気持ちをかき立てる園庭づくり。
	実践予定内容	登りたくなる築山、思い切り遊びたくなる泥場や砂場、虫探しをしたくなる花壇や植え込みなど、子どもたちが様々な経験を重ね「やりたい」が実現できる園庭整備。 石拾いなどの安全対策は、定期的に子どもたちと行う。
3	計画・ねらい	子どもたちの「今」を大事にした室内環境づくり。

	実践予定内容	子どもたちの成長発達を理解し、興味関心に常にアンテナを張り、その時々に必要な環境を提供する。
4	計画・ねらい	散歩の充実を図る。
	実践予定内容	子どもたちの成長発達を理解し、興味関心に常にアンテナを張り、その時々に必要な環境を提供する。

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	事故防止委員会	過去の事例や予測される事故には、自園だったらどのような課題があり、それを防ぐ為にはどのように行動しなければならないかなど検証し、職員全員周知の上、事故に発展することが無いようにリスクマネジメントを行う。保育者は見通しや予測を立ててそれを互いに共有しながら行動する。 ・ヒヤリハット・インシデントの事例は、事故防止委員会やクラス会議の中で様々な視点から統計を出した上でケース検証を行い、事故防止につなげる。
2	避難訓練・不審者侵入訓練	・事故防止委員会、避難訓練係を中心に、防犯・防災に対する意識を高める。不審者侵入・災害は突然起こることを十分に意識し、日ごろより防犯・防災に対する意識を高め、シミュレーションを行い、避難訓練・不審者侵入訓練を有効に活用する。 ・非常災害時の対策として、消防計画に基づいた毎月の消防避難訓練、消火訓練の実施、年二回の不審者訓練の実施を行う。 ・防犯設備点検の実施（自動火災探知機、煙感知器、誘導灯、排煙窓）
3	光化学スモッグ	光化学スモッグ発生時には、市役所などが発信する情報をこまめにチェックし、屋外の活動を控えるなど対応する。
4	ハザードマップ	園内外のハザードマップを作成し、危険箇所の確認と安全確認の周知を都度更新していく。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

地域における福祉サービスへのやりがいや楽しさを知っていただき未来の担い手を増やす。

1	実践予定内容	子どもたちと実際にふれ合い、全力で遊んでもらう
2	実践予定内容	どろんこ祭り、運動会、生活発表会などの運営ボランティアの募集

3	実践予定内容	各世代の実習生の受け入れ
---	--------	--------------

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■入社時オリエンテーション ■現場OJT研修 ■保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■コンピテンシー研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■全社員研修 (年1回) ■園内研修 (月1回以上) ■保育スキル研修 (エリア別) ■リーダー養成研修 (9~2月) ■業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■施設長勉強会 (月1回) ■デンマークインターンシップ (年1回) ■コンピテンシー自己採点 (月1回) ■人権チェック (4月・10月) ■外部研修 ■上級救命救急資格取得講習
<p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	 <p>←避難訓練研修</p>	

〈1〉2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 子どもの人権	子どもの人権を「守り」「育む」ために、まずはこどもの権利条約について理解を深める。
5月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日常・基本活動の理解を深める。	「なぜやるのか？」を語り合いにより深めていく。形だけ行うのではなく、意味を持って日々実践できるよう理解する。
6月28日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 危機管理	・危険予測トレーニング、園のルール、ケガ発生時の対応などの再確認。 ・水辺のリスクマネジメント
7月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 10の姿「保育所保育指針」	保育所保育指針の読み合わせを行いながら、理解を深める。
8月23日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 発達と遊び~環境構成~	・子どもの理解するために、まず発達を知り理解を深める。今、目の前の子どもにどんな環境が必要なのか

			考え、実践に結び付ける。
9月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② アプローチカリキュラム	・10の姿を手がかりとしながら、小学校へのスムーズな接続をするために、自分たちにできることは何かを考える。
10月25日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 虐待防止	・保護者支援・子育て支援の充実。 ・虐待の早期発見に向けた流れを知る。
11月22日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育・要支援児の対応	・気になる子への対応、実践の振り返り。 ・就学に向けた支援の流れ
12月27日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 感染症対策	・嘔吐処理、衛生管理、感染症流行時の対策。
1月24日	18:00～20:00	② コンピテンシー自己採点 ③ 事業計画振り返り	・事業計画・園目標に基づき、一年を振り返る。
2月21日	18:00～20:00	策定会議1のため無し	
3月21日	18:00～20:00	キックオフのため無し	

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											

デンマークインターソップ	希望するスタッフが応募
--------------	-------------

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

まずは近隣に施設の存在を知ってもらうところから始める。

地域の様々な場所に積極的に出向き、施設のPRやちきんえっぐのお知らせとともにチラシを配布する。

日々の散歩時にすれ違う近隣の方々や商店街ツアーなどの園外活動中に出会うすべての方に、スタッフ自ら笑顔で挨拶をし、その背中を見て子どもたちも元気よく挨拶をすることを習慣化する。

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：袖ヶ浦駅海側地区近隣公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	月1回 老人施設「シェアハウス彩輝」に訪問予定
異年齢交流	袖ヶ浦市立奈良輪小学校
地域拠点活動	未定

9. 小学校との連携の計画

国の指針に準じ、『職員間交流』と『子ども間交流』の両者を計画的にバランス良く盛り込んで記載してください。実施に際しては、年度初めまでに「5歳児と小学校1年生との年間連携系計画および報告書」を作成して実施してください。

小学校教諭および保護者を交えた学習指導要領の読み解きについて実行できる施設は積極的に行ってください。

- ① 子どもの事故やけが、健康状態の急変が生じた場合に備え、近隣の協力医療機関との連携を図る。
- ② 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、子ども本人の発達の状況や障害の特性、児童発達支援として行ってきた支援内容が引き継がれるようにする。
- ③ 保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校等との交流や同年代の障害のない子どもと活動する機会を確保する。
- ④ 他の事業所を併せて利用する子どもについて、支援内容を相互に理解する為、保護者の了解を得た上で、他事業所との間で、相互の支援内容や個別の支援計画の内容等について情報共有を図る。
- ⑤ 子どもの発達支援の連続性を図るため、保護者の了解を得た上で、小学校や特別支援学校と連携し、児童発達支援の内容だけでなく、子ども本人の発達の状況や障がいの特性、児童発達支援として行ってきた支援内容等について情報共有を図り、円滑に支援が引き継がれるようにする。

- ⑥ 放課後等デイサービスを利用する際には、放課後等デイサービス計画が適切に作成されるよう、学校の場合と同様に情報の共有をし、連携体制を継続しながら必要な情報提供や助言を行う。
- ⑦ 地域の子育て会議、要保護児童対策地域協議会等へ積極的に参加することで、関係機関、団体等と連携して地域支援体制を構築することに努める。

〈1〉今年度方針・テーマ

小学校接続に向けて、近隣の支援学校や福祉施設へアプローチしていき、できるだけ多くの選択肢ができるような連携が取れるように関わりを作っていく。併設の袖ヶ浦どろんこ保育園の園児や地域の小学生など、同年代の子ども同士の間を多くとりながら、段差を感じにくい環境づくりを行い、スムーズな小学校接続が行えるようにしていく。

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を4月5日（金）より開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
4月頃	袖ヶ浦市立奈良輪小学校 1年生	2名予定	自己紹介、簡単な集団遊びなど（奈良輪小校庭）	子ども間交流
10月頃	袖ヶ浦市立奈良輪小学校 1年生	2名予定	（当園幼児保育室）	子ども間交流
3月頃	千葉県立袖ヶ浦特別支援学校 1年生	2名予定	授業参観	スタッフ間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせで行う。
- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

原則6ヶ月に1回以上支援計画の見直しを行い、保護者にモニタリングを実施する。保護者の希望を聞き取り、子どもの心身の状況、日常生活の様子を整理する。児童発達管理責任者を中心とし、策定会議を行い、目標設定と具体的な支援を検討し、個別支援計画書を作成する。
個別支援計画書は保護者に提示し、説明と同意を得て支援を行う。

〈2〉 毎月のケース会議開催（4～3月に計12回開催予定 参加者：10名予定）

（4～3月に計12回開催予定 参加者：10名予定）

支援児については毎月ケース会議を行い、現在の様子などの情報共有、支援計画書を元に次月の支援目標を確認し、全スタッフが同じ関わりができるように周知していく。

〈3〉 進級引継、および、小学校への引継

児童要録や支援記録をもとに、小学校接続への段差がないように引継ぎを行っていく。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30
つむぎカフェ	(月)～(土) 9:00～17:00
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週(金) 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：袖ヶ浦駅海側近隣公園にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉 施設による自己評価の実施

2024年6月3日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：12時00分

自己評価終了予定時刻：14時00分

自己評価実施予定者：施設長

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	つむぎ袖ヶ浦ルームとして地域の方に認知してもらう。つむぎ園としてにんげん力を育てる療育の基礎を作る。
	重点施策	地域の子育て層に認知していただけるよう、近隣のコミュニティーに広報活動を行う。研修や症例研究を通して専門的な知識を蓄え、つむぎならではの10よりも100の経験ができる保育と療育の基礎を作る。
2025年度	目指す姿	専門性を生かし、地域に愛される施設になる。
	重点施策	広報活動の継続、子どもと地域へ飛び出し、より多く様々な経験をしながら大人も子どもも生きる力を伸ばす。地域の方に見守られながら専門的な視点で研究や発表を行い、専門性の高い保育と療育が行える集団になる。
2026年度	目指す姿	地域に馴染み、発達に躓きのある子や悩みを持つ保護者が気軽に立ち寄れる発達支援の拠点となる。
	重点施策	地域へ飛び出し、つむぎの療育の良さを全面に出していく。どんな境遇の子どもでも公平に様々な経験ができる機会を作れるよう専門的な知識を蓄え、フィードバックや発達相談の傾聴を丁寧に行える集団になる。

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ袖ヶ浦ルーム 施設長 坂井 直子

2024年度 発達支援つむぎ 前原ルーム 事業計画書

1. 基本方針

沖縄県内では初めてとなる、保育園と併設される発達支援事業所「つむぎ前原ルーム」は、法人理念である「にんげん力。育てます。」及び保育方針である「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」を鑑みて、併設された前原どろんこ保育園と共に生活を送り、一つの組織として共に協力し合いながらインクルーシブ保育を推進していく。

前原どろんこ保育園の広大な園庭環境を生かし、障害の有無に関わらず日課の基本活動、保育プログラム、課外活動を通して「自然の中での体験」を共にし、子どもが身近な経験を通してやりたいことを自ら選び、「生きる力」が身に着く環境を設けていきます。

そして、インクルーシブ保育・支援をスタンダードとして行くために、つむぎ前原ルームの周知活動を行う。利用する子ども・保護者支援、併設園だからこそできる支援を計画し、一人ひとりに最善の支援ができるように、研修を行いスタッフの支援の質、アプローチ内容等を積み上げていく。

また、2024年度の運営本部missionである「生活力の体得」「10の姿の体得」「子ども自らがいつでも経験を選びとることができる物的環境の設定」「命を頂く活動の実践」を保育園と協働し達成するために、開所初年度から全スタッフが対話し支援を振り返り、常に改善し実践を繰り返し行える環境や、支援人員配置の仕組み作りを行っていく。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針・児童発達ガイドラインの理解（どろんこ会が目指すもの）を深める園内研修。 ・ どろんこ会が目指す保育の根拠となる保育所保育指針・児童発達ガイドラインの理解を深める。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ どろんこ会方針の根拠となる保育所保育指針・児童発達ガイドラインの理解を深めるため、研修を実施する。
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他者と過ごす時間を深め、子ども同士のやり取りが広がる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な大人や子どもと信頼関係を築き、安心して生活できるように寄り添いながら大人が適切な距離で支援を行い、子ども自らが他者と関わるきっかけづくりを行う。
3	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の安全管理体制づくり ・ 保育の安全管理への意識を高め、安全管理体制を作り、安全な保育環境を整備する。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ マニュアルの意義について確認し、マニュアルを遵守する。 ・ 室内、園庭、散歩コース等のリスクの把握に努める。 ・ 事故防止のためヒヤリハットの収集に努め、重大事故防止の体制を整備する。 ・ 子どもの豊かな体験を保证するための安全管理であることを共有する。

〈2〉事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・「うちのコアプリ」のタイムライン、連絡帳の充実。 ・「うちのコアプリ」は、保育者と保護者がつながるツールであるため、伝える技術を磨く。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムラインは毎日アップし、発信力を高める。 ・連絡帳の書き方の基本について園内研修で実施する。 ・写真撮り方研修、保護者支援講座等の園長大学・保育士大学活用。
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ保育の保護者理解と周知への取り組み。 ・インクルーシブ保育の本質について、すべての子どもに必要な保育であることを発信し広めていく。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・行事、保護者会、日々のタイムラインなどで、インクルーシブ保育は拗ねての子どもたちに必要な保育であることを発信する。 ・集団の中での、子ども同士の関わりにおける成長の姿について、エピソードを通して保護者に伝える。 ・保護者の意向や気持ちを受け止め、障害の特性や発達の各段階に応じて「育ち」や「暮らし」を安定させることを基本に保護者支援を行う。
3	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携を密にしていき、値域資源を活用しながら、地域全体で支援を考えていく。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所、保育園、幼稚園と他機関との連携を図り、地域全体で支援をしていく。小学校、放課後等デイサービスなど就学に向けてのアプローチもしていく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て支援事業として地域に開かれたルーム運営を行う。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ルームパンフレットに園庭開放やちきんえっぐの情報を記載し、ルーム見学時や電話での問い合わせがあったときに案内する。
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・広い園庭環境を活かした親子交流、地域交流の促進。 ・広い園庭環境で様々な人が交流できる機会を持ち、地域に開かれたルームとなる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物との触れ合い、畑づくり、米づくりなど自園の特徴を生かして地域の方々を巻き込み、広い園庭を活用した子育て親子、地域の方々など世代を超えた交流を図る。 ・近隣の園や学校、老人施設、発達支援事業所などとの交流の機会を積極的に持つ。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・組織づくりに取り組む。 ・開園初年度に重要なのは組織づくりであることを理解し、自身が目指していたものを実現していくという見通しを持つ。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の中で働く一員として、自身が仕組み化に取り組むことを理解する研修と具体的に仕組み化する。 ・一人ひとりと対話を重ねながら、組織の基盤を作り上げる。 ・責任と役割の明確化。
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ保育の中でのより良い支援を考え、学びを深める。スタッフ間の情報共有を自主的に行い質の高い支援につなげる。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針・児童発達ガイドラインの内容の理解を深め、実践する。アセスメント評価を継続的に繰り返し、日々の活動に落とし込むためにスタッフ間の情報共有を日報だけでなく昼礼または終礼を用いてスタッフ間の情報格差をなくし、自らが主体的に必要なことを支援にあたることのできるスタッフを目指す。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の世話をを行う。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤギ小屋掃除や餌やりなどから生き物を大切に育てることを学ぶ。カブトムシやバッタなど様々な生き物の世話を図鑑や他児の関わりかた学び、実践する。
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・本物の食の循環を知る活動。 ・畑づくり、稲づくりは土壌づくりから苗を栽培、収穫まで本物の食の循環を通して、協同性、社会性、規範意識の芽生えへと導く。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日課としての畑活動等を通して、本物の食の循環を知る。 ・畑の作物は毎日、手間暇かける必要があることを体験から学べるように全スタッフ、全園児で取り組む。 ・自分の意志で動くことができるようになった0歳児から参加することで卒園までの育ちの中に自然に協同性、社会性、規範意識が育つよう、日課活動の目的をスタッフが明確に持ち、保育を実施する。

〈6〉インクルーシブ保育の実践（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・職種の違いを超えた連携。 ・スタッフの専門性を活かした保育が実践できるように、職種の理解を深める。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の場面やケースを通して、互いの理解を深め共有する機会を持ち、インクルーシブを確立して行く。 ・子どもの姿を共通の軸にして、意見交換できる風土を作る。

〈7〉 地域とのネットワークの構築（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・教育、社会福祉機関とのネットワークの構築。 ・保育に関わる関係機関とのつながりを明確にしながら、基盤づくりに取り組む。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所、医療機関、他の保育施設、小学校、中学校、特別支援学校など子どもたちの育ちに関わる関係機関とのネットワークを確立する。
2	計画・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ご近所付き合いの軸を作る。 ・近隣住民の方々との良好な関係づくり。
	実践予定内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に近所に出向き、挨拶や何気ない会話を大切にし、地域に溶け込んでいけるよう力を入れて取り組む。 ・すれ違う人と当たり前に自然に挨拶を交わす事をスタッフと子どもたちが習慣化する。

2. 施設運営

〈1〉 施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

放課後等デイサービス 10人/日

〈2〉 開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉 スタッフ構成 （3月1日時点）

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

児童発達支援員3名

機能訓練担当スタッフ1名（作業療法士1名）

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門士による支援技術の共有 ・ 研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設 け、資料を使った研修を行う。 ・ つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	・ 喫食状況確認、アレルギー児確認、食育指導
事故防止委員会	月1回	ヒヤリハット、インシデントの前月分検証、法人内で起きた事故の共有、危機管理、安全対策
支援計画策定会議	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・ 個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	月1回	気になる子についての状況共有、支援計画書の見直し
リーダー会議	月2回	園の課題を抽出し、解決策を検討
週会議	週1回	各クラスの情報共有、行事の検討
週案会議	週1回	全クラスの保育計画の調整と連携

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議		障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	法人全体での食育活動の共有、意見交換、成果発表 等
保健会議	年4回	保健衛生に関する事項についての共有、意見交換 等
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の質向上を目的としたディスカッション 課題の取り組み 等

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割
衛生管理係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導
安全対策係	事業所内、または周辺の安全管理、危険箇所点検と対策 計画的な安全点検の提案、利用者への注意喚起
防火管理者	防災計画の立案、月2回の防災訓練の実施、消防計画の見直し、近隣施設との連携の推進
食品衛生責任者	飲料水の管理、調理活動の際の衛生点検、冷蔵庫の清掃管理、食品サンプルの管理
畑係	屋上、玄関のプランターの整備、計画的な活動の立案
生き物係	めだかの飼育管理、ビオトープ作成の指揮、動物や植物に触れる機会の検討立案
体験学習係	毎日の消毒の点検、感染対策の検討と提案、保健指導

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	祭りの計画・実行、地域への広報
運動会係	運動会の計画・実行、地域への広報
生活発表会係	生活発表会の計画・実行、地域への広報

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の生活に慣れ、安心して生活を送れるようにする ・スタッフとの愛着形成を行い、安心して過ごせるようになる ・戸外活動を通して身体土台作りを行う ・他者への興味・関心を育てる
	下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを他者に伝えようとする意欲を育む ・戸外活動を通して身体土台作りを行い、異年齢や友だちとのやり取りを楽しむ。

		・様々な体験を通して感性を豊かにし創造性の芽生えを育てる
ビジターグループ	上半期 3～5歳児	・環境に慣れ、安心して過ごせる場を作る ・見通しを持てるように関わり、身の周りの事を自分で行う ・興味関心をもったことに、主体的に関わり発見を楽しみ考え遊びにとり入れる
	下半期 2～5歳児	・集団の中での簡単なルールや約束を守れるようにしていく ・遊びを通して興味関心を広げ、友だちとの関わりを増やす ・友だちの様々な考えに触れる中で、自ら判断したり、考えたりし新しい考えを生み出す
個別支援		・個々の発達課題に合わせ、就学に向けてアプローチをしていく
事業所内相談支援	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・随時、希望する保護者に対し実施 ・「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	実体験を通して食や食の循環について興味関心を持つ
	実践予定内容	鶏やヤギの糞、廃棄食材で肥料を作り、畑に使用して、食の循環を認知する ・季節に応じた作物を育てて畑活動の充実を図り、失敗と成功を経験しながら、作物が育つまでの世話の大変さ、収穫、食すことのうれしさや喜びを感じられるようにする ・食材を加工し、手間をかけることで食べられるものや長期保存できるものを知らせ、魚の解体を通して命をいただくことの意味を実体験として伝えるなど食の知識を学びながら食べることの大切さを学んでいく
2	計画・ねらい	食べる意欲を育てる

	実践予定内容	<p>食べたい環境を自分で選択できるようにし、共に食べる喜びを感じながら心地よく食事を楽しめるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイキング給食を実施し、自分の食べたいものを自分で盛り付け、自分の食べきれる量を知る ・日々の活動の中で、空腹感を感じることでできる活動を保証し、食欲につなげる。
--	--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〈4〉保健計画

児童健康診断	年2回（5月・11月）
歯科検診	年2回（6月・12月）
保健だより	月1回（25日）発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回（5日）
児童への保健指導・取組等	手洗い指導、歯磨き指導、体の仕組み、等
流行が予測される感染症	<p>通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 6から8月頃・・・胃腸炎、手足口病、プール熱 1から2月頃・・・インフルエンザ、溶連菌、胃腸炎</p>
発作・痙攣等の対応のための薬の預り	ダイアップ・・・0名より預かり済み
エピペン使用できるスタッフ	<p>本日現在6名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員5名については4月までに受講予定</p>
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	<p>本日現在2名が、研修受講し、修得済み 未受講の新入職員4名については3月21日までに受講予定</p>
その他保健に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の子どもの健康状態の把握、近隣園、地域での感染症流行情報の把握、情報発信 ・生存確認、嘔吐処理、おむつ交換、与薬、アレルギー食の提供、定期的なロールプレイを実施 ・新型コロナウイルス及び他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また、消毒・換気を徹底する

〈5〉 各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	年2回／6・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の施設内会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／施設内会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉 環境整備

1	計画・ねらい	一人ひとりにあった教育的意図を持った環境構成（室内・戸外）を考察し続ける
	実践予定内容	子どもにとって最適な環境設定を行うために月1回保育Webマップを用いて、子どもの興味関心を理解するため、の会議を行う
2	計画・ねらい	防犯、防災、怪我防止の視点での事故防止チェック、設備点検を定期的に行い、破損などは速やかに修繕する

	実践予定内容	様々な視点で点検できるように交代で行う。 門のカギ閉めの注意喚起を定期的に行う
3	計画・ねらい	保護者、来訪者が見ても、気持ちの良い環境を維持する
	実践予定内容	清掃分担チェック表を利用し、園全体の清掃に努める

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検予定時期
1	マルチ棒	屋上園庭倉庫	毎日

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検（備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ
運営	児童・保護者の人権に関する	年2回／4・10月の園会議時

管理	エック	
	コンピテンシー 自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の方針・テーマ

児童発達支援事業所として次世代育成の観点から、積極的に実習生やボランティアの受け入れを実施し、一人ひとりに応じた保育・福祉の現場で活躍する人材育成を実施する。また、地域に根付いた開かれた事業所となるよう、積極的に受け入れを実施する。

1	実践予定内容	中高生の職場体験の受け入れを行い、施設を知ってもらう
2	実践予定内容	保育養成校・専門士養成校の学生の実習を受け入れ、学びを深める場とする

7. スタッフ育成と研修計画

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 <p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9～2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (= 保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習 <p>←避難訓練研修</p>

〈1〉2024年度 施設内研修計画

(毎月開催の施設内会議の時間内を使用して自施設にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
-----	------	--------	----------------

4月12日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 保育理念・日課の理解 子どもの人権について	保育の振り返り、共有を行う 保育のねらいや計画の重要性 園全体としての課題を抽出し改善に向けて話し合いを行う
5月10日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インクルーシブ保育について学ぶ	インクルーシブ保育への理解 つむぎ担当 園全体としての課題を抽出し改善に向けて話し合いを行う リズム研修
6月14日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② リスクマネジメント研修 保護者支援	プールや水遊び活動時におけるリスクの抽出や活動の見守り方について学ぶ
7月12日	18:00～20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 0歳：3つの視点	乳児リーダーによる研修 園全体としての課題を抽出し改善に向けて話し合いを行う
8月9日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 5領域について	幼児リーダーによる研修 園全体としての課題を抽出し改善に向けて話し合いを行う
9月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 小学校との接続	就学リーダーによる研修 就学前教育の意義の必要性 「架け橋プログラム」の理解を深める
10月11日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 虐待防止研修	事業計画進捗状況確認 虐待防止研修 安全計画・人権チェック
11月8日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 相手の視点から考える接遇	接遇リーダーによる研修 園全体としての課題を抽出し改善に向けて話し合いを行う
12月13日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度の振り返り①	園全体としての課題を抽出し改善に向けて話し合いを行う
1月10日	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 今年度の振り返り②	今年度の振り返りを行い、次年度へつなげていく
2月	18:00～20:00	② コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	次年度に向けての計画を行う
3月	18:00～20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 策定会議	次年度に向けての計画を行う

エリア研修予算内訳（園合同開催）

開催日	予算	予算の内訳		例) ●園で按分した自園負担額
6月23日	12000円	交通費	0円	3園での命を頂く職員研修 食材費は分担 ●●●●円
		食材費	300円	
			円	
1月25日	12000円	交通費	0円	3園での命を頂く研修 (親子参加行事) 食材費は分担 ●●●●円
		食材費	3000円	
合計	24000円			●●●●円

〈2〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
デノマークインターンシップ	希望するスタッフが応募											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

青空保育、商店街ツアー、散歩時など、基本活動の際に、地域の方との交流を大切にしながら、異世代交流、シルバー交流を行っていく

〈2〉具体的な地域交流計画

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：前原公園にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	老人ホーム訪問、ボランティアや行事を通じた学生との交流
異年齢交流	青空保育時や近隣の小学生との交流
地域拠点活動	青空保育、ちきんえっぐ運営

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

うるま市の方針に基づき、近隣保育園との年長児交流や情報交換、また、小学校を知るための取り組みを積極的に行う。「5歳児と小学校1年生との年間連携計画」に沿って、子ども間、スタッフ間の交流を深める。アプローチカリキュラムを保育計画に取り込み、小学校への接続がスムーズになるような学びに向かう準備をしていく

〈2〉具体的な連携計画

以下計画について、小学校と相談・協議を開始する。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	うるま市保幼小連携会議	1名予定	進学先学校	職員間交流
9月頃	小学校、保育園	職員	勉強会	職員間交流
1月頃	近隣小学校お招き会	2名予定	進学先にて交流	子ども間交流
2月頃	うるま市保幼少連携会議	1名予定	進学先学校	職員間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

〈1〉個別支援計画の作成・見直し

前原どろんこ保育園と連携しながら、共に子どもたちを見的过程中で、要支援児の個別支援計画、課題の整理表を作成し、多様な人との関わりの中での子どもの姿、変化をスタッフ同士で共有し、多様な視点から、子どもを援助していくようにする。また、保護者との対話を密に行う中で、子どもの成長を保護者、スタッフ間で共有していく

〈2〉毎月のケース会議開催

4～3月に計12回開催予定 参加者：10名予定

特別支援児のみではなく、気になる子の様子についても記録し経過を観る。発達段階の関わり方の共有を目的として施設長と各リーダーで開催し、必要な情報は関係するスタッフに共有する

〈3〉進級引継、および、小学校への引継

安心して新旧・進学ができるように必要な情報の開示及び交流を積極的に行う。
保護者や関係機関、小学校との連携を重視し、情報の共有を密にする。

11. 子育て支援事業

施設に来訪した親子に都度署名をもらい、月間延来場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
施設開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	月2回 10:00～12:00
どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	月2回以上 10:00～12:00
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育(支援センター主催)	月1回 公園名：前原公民館にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉施設による自己評価の実施

2024年8月に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：9時00分

自己評価終了予定時刻：12時00分

自己評価実施予定者：施設長、児童発達支援管理責任者、児童発達支援員

〈3〉利用者アンケートの実施

2024年8月に利用者アンケートを実施し、2025年1月に評価結果を開示予定である。同時期に、職員アンケートも実施し、自己評価結果を開示予定である。

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉昨年度の振り返り

3月末までに目指した姿	重点施策	新規開設のため、記載なし
	振り返り	

〈2〉当年度以降の3カ年計画

2024年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・組織づくりとは何かをスタッフが理解し、仕組み化に取り組む。 ・つむぎ前原ルームが目指す、インクルーシブ保育・支援を地域に知ってもらおう。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・組織づくり、仕組み化に取り組む ・保育園との連携と役割の明確化 ・地域に広く広報し、様々な形で視察、見学者を増やす
2025年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・仕組み化の基盤ができあがり、稼働している ・業務改善がスタッフの提案を中心に具体的改善策となっている ・連携の基盤が確立し、インクルーシブ保育が実践されている。
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・仕組み化を適宜見直し、調整を行う ・現場における課題を通して、園内で更なる学びの機会を設ける
2026年度	目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・組織を基盤とし、全スタッフの保育の質の向上が図られている ・どろんこ会が目指す方針が理解され、保育内容に共感して、入園児が定員に達している ・前原どろんこ保育園との連携によりインクルーシブ保育が実現している
	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の仕組み化の定着 ・園内研修のスタッフ主導で実施

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 前原ルーム 施設長 山田 千秋

2024年度 発達支援つむぎ 篠栗ルーム 事業計画書

1. 基本方針

つむぎルームの目標「共に生きる人～生活を生活で生活へ～」
「手と手を繋いで紡いでく」

保育理念「にんげん力。育てます。」および、法人保育方針「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」に鑑み、つむぎ 篠栗ルーム及びこども園の乳幼児・保護者・職員・地域が相互的かつ協働的にかかわりあえるようにし、それぞれ一人ひとりの自主性を重んじ、篠栗町の地域に密着した教育機関・福祉施設を目指す。

つむぎ 篠栗ルームが色々な背景のある子どもたちが集まる場であり、おとな一人ひとりも自分達のこども園での生活がスムーズで安定し充実した時間になるよう、それぞれがやさしさや思いやり、常に感謝する心もちをもって、子どもたちとの生活を丁寧に紡ぎだしながら相互扶助していく。こども園での暮らしぶりが全ての子どもやおとなにとって「安定した生活の場・時間・人」となるようにする。

〈1〉 支援内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	つむぎ 篠栗ルーム併設開所に際しては、子ども一人ひとりの姿に応じた養護をきめ細やかにし、実質的な体験を大切にしながら毎日の保育内容を丁寧に実践する。
	実践予定内容	四季を感じられる戸外活動や趣のある乳幼児の生活
2	計画・ねらい	園内にとどまらず、様々な環境（ひと・もの・とき）に慣れ親しみ、子どもも大人も豊かな経験をする。
	実践予定内容	保育園周辺への近隣さんぽ、公園の利用、世代間交流など
3	計画・ねらい	温かい言葉、温かい食事といった、子どもにとってうれしい人と温かい心配りに囲まれる、深い愛情を基本とした生活を送る。
	実践予定内容	かわいい歌、楽しいリズム運動、微笑みあふれる食育、心安らぐ触れ合い遊びなど

〈2〉 事業所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	つむぎ 篠栗ルーム併設開所に際し、保育内容や保育目標、保育理念についての説明を丁寧にし、不安なく利用してもらえるように特に気を配る。
	実践予定内容	日々の会話を大切にしながら並行して連絡帳アプリの活用

2	計画・ねらい	幼保連携型認定こども園・つむぎ 篠栗ルームの併設園として、養護と教育が一体となった生活を丁寧に担保しながら、その様子を保護者と共有していく。
	実践予定内容	行事の参加。つむぎ 篠栗ルームの併設園のオリジナリティあふれるポートフォリオのスタートなど、ヴィジブルな情報共有

〈3〉 地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開かれた子育て支援を実現すべく、こども園の園庭を活用した支援活動を行う。
	実践予定内容	こども園と連携しながら園庭や保育室の解放
2	計画・ねらい	子育て世帯を取り巻く様々な人との繋がりを見つけ、実際に繋がり、広がっていくためのフィールド作りを始める。
	実践予定内容	ささぐりDoronko+Tsumuideパーク（異世代交流コミュニティ広場）

〈4〉 次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	乳幼児の発達の道すじや連続性をとらえ、生活や遊びを明るく楽しく穏やかに展開しながら、子ども一人ひとりを大切にできる保育教諭として成長していく。
	実践予定内容	教育的な教育だけでなく、養護の懇切（温かい心配り）を教育として捉えた日々の丁寧な生活、児童発達支援ガイドライン、幼保連携型認定こども園教育保育要領に係る乳児期の育ちと3つの視点・幼児期の育ちと5領域や10の姿についての学び
2	計画・ねらい	子どももおとなも一人ひとりが尊重される園を目指し、その人の持ち味やチームワークが生かされる保育・教育を行う。
	実践予定内容	畑や動物飼育の役割分担・コンポストでの堆肥づくり・ヴィジブルな保育評価などの幅広い取り組み

〈5〉 環境実施目標

1	計画・ねらい	発達支援事業、保育事業および子育て支援事業の双方を通し、つむぎ 篠栗ルーム・篠栗どろんこ保育園の環境そのものが地域における総合的な学びの場、相互的な育ちの場になることを目指す。
	実践予定内容	インタープリテーションを通じた保育アプローチ（自然事象や豊かな文化を基に「感じる体験」の展開）を行い、農作物や草花、樹木に囲まれ、子どももおとなも自主的に生活し、自発的に繋がりあっていける、そのような生き生きとした温かく美しい潤いのある園（その）となっていく。
2	計画・ねらい	食材や食の循環、環境への意識を育む環境教育を実践する。
	実践予定内容	子ども自ら野菜の種まき、水やり、雑草抜き、収穫、加工などを体験する。（梅干し、味噌、たくあん、ケチャップ、マヨネーズなど） 命をいただく体験をする。 （魚をさばく、鶏を絞める、猪を駆除しさばく）
3	計画・ねらい	食の循環サイクルの実践を行う。

	実践予定内容	食の残渣を記録し、グラフで可視化や実際に天秤に乗せるなどし、子どもが関心を持ち残渣が少なくなるよう工夫する。 コンポストを設置し、調理くずやヤギの糞を利用した肥料の生産、利用を行う。
--	--------	------------------------------------------------------------------------------------------------

〈6〉インクルーシブ保育の実践

児童発達支援事業との併設園である強みを最大限活かせるよう、両施設のスタッフがともに子ども一人ひとりをよく見て必要な援助を行う。また両施設の相互の関係性や協働が十分に発揮される土台作りを行う。

1	計画・ねらい	つむぎ 篠栗ルーム及びこども園の子ども一人ひとりを多面的に捉え、肯定的に子どもを理解しようとする。
	実践予定内容	園内研修で子どものエピソードを基にした考察の機会を設ける。 話し合いの場を多く持ち、子どもの発達理解に努める。
2	計画・ねらい	自然に協働するチームを構築する。
	実践予定内容	普段の保育活動、行事、研修、会議等施設内のおおむねの物事において、ともに協力しあう体制をとり、互いの専門性を活かしながら、地域に必要なとされる施設になる土台を築いていく。

2. 施設運営

〈1〉施設情報

利用定員

児童発達支援 10人/日

〈2〉開所時間

8時30分～17時30分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

施設長1名

児童発達支援管理責任者1名

児童指導員2名

保育士1名

機能訓練担当スタッフ1名 (作業療法士1名)

3. 運営方針

〈1〉施設内会議の開催(勤務時間内)

施設内会議名	頻度	会議内容
施設内会議	月1回 20分	・ 専門士による支援技術の共有 ・ 研究テーマ（造形、音楽、自然、食などを設 け、資料を使った研修を行う。 ・ つむぎ内外から講師を招いた研修を行う。
給食運営会議	月1回	・ 乳児の離乳食進行検討、乳幼児の喫食状況検討
事故防止委員会	月1回	・ 園内外におけるヒヤリハットやインシデント事例に鑑み、事故予防と防止の具体的施策に係る検討
支援計画策定会議	適宜	・ 支援計画作成に伴い、開催時期を調整する。 ・ 個別支援・グループ支援それぞれの担当者と児童発達支援管理者が必ず参加する。
ケース会議	週1回	・ 児童処遇改善個別ケース検討（こども園の0～2歳児対象）

〈2〉法人指定施設外会議への参加(勤務時間内)

施設外会議名	頻度	会議内容
施設長会議	月1回	各部門からの伝達、つむぎ間の情報共有、運営状況の見直しなど
施設長勉強会	月1回	テーマに即した計画的な研究の遂行 どろんこ会内の施設同士での情報共有と連携の推進
児発管会議		障害児支援の最新の理論、技術の研究と実践発表
併設園会議	四半期1回	インクルーシブ保育の研究と実践発表
食育会議	年4回	給食提供および食育に係る検討、各種マニュアル等の改訂
保健会議	年4回	園全体の保健に係る検討、各種マニュアル等の改訂
子育ての質を上げる会議	月1回	保育の内容や質の向上に係る相互学習や検討を行った上での実践的な業務改善アクションプラン作成とその実施

〈3〉各種係の設置

係名	職務内容・役割

衛生管理係	児童保健衛生に係る身体測定・定期健康診断・歯科検診・眼科検診・耳鼻科検診の実施と保護者との連携、施設の清掃と衛生管理、衛生管理に係る消耗品および備品の管理、感染症予防対策の管理点検、園内外の環境整備状況の管理、備品の点検と補充
安全対策係	避難訓練及び消火訓練の実施、防災自主点検の実施管理、消防署との連携窓口業務、救命講習計画と実施、施設内外の設備点検および事故防止点検の実施、交通安全教室の実施
防火管理者	施設の火元の管理、消防計画の作成と届出、防火・消火についての毎月1回の職員訓練と日常的な啓蒙を行う
食品衛生責任者	給食食材および提供食材の衛生管理と在庫状況の管理
畑係	畑状況の管理、道具類の維持補充、乳幼児や職員の畑活動の把握や課題検討におけるイニシアチブをとる
生き物係	飼育動物の健康管理、乳幼児や職員の生き物飼育活動の把握や課題検討におけるイニシアチブをとる

〈4〉行事別係の設置

係名	職務内容・役割
どろんこ祭り係	保護者と協働的に準備・進行を行う

4. 支援方針

〈1〉基本方針

マンスリー	上半期 0～2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい生活リズムの安定を図り、生活、遊び、食育を通して生きる力の基礎を培う。 ・保育者との安定した信頼関係を基礎にして自己肯定感を育て、自分の気持ちを素直に表現できるようにしていく。 ・様々な行動や欲求に適切に応え、特定のおとなとの情緒的な絆を形成できるようにする。 ・活発な探索活動を楽しみながら、様々な感覚を育てる。 <p>生活の中の様々なあそびや人との関わりを通して、自我が芽生え拡大し充実できるようにする。</p>
	下半期 0～1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム遊び、運動遊び、戸外活動を積極的に行いながら丈夫な体を作れるようにする。 ・豊かな環境の中、子どもが主体的に活動する中で好奇心や探究心や考える力を育てる。 ・身近な大人や異年齢児と遊ぶ楽しさを経験する中で、人への関

		心や優しさ、思いやりの心を育てる。
	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム遊び、運動遊び、戸外活動を積極的に行いながら丈夫な体を作れるようにする。 ・豊かな環境の中、子どもが主体的に活動する中で好奇心や探究心や考える力を育てる。 ・仲間や異年齢児と遊ぶ楽しさを経験する中で、友達への関心や優しさ、思いやりの心を育てる。 ・自分の要求や思いを言葉や行動で相手に表現しながら、他者を受容する感情を育てる。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本、お話、音楽、自然にふれる中で、豊かな感性や表現力を育み創造性の芽を培う。 ・毎日の生活やあそびの中で、基本的な生活習慣や運動が心地よい感覚として身につくようにする。 ・友だちとの関わりを通し、自分の気持ちを言葉や行動で表現し、熱中して遊べるようにする。 ・生活やあそびの中で、達成感や充実感を味わう経験をし、目標に向かって友だちと力を合わせて活動できるようにする。 ・家庭との連携をとり、子育てのパートナーとしての信頼関係を作っていく。
	上半期 3～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム遊び、運動遊び、戸外活動を積極的に行いながら丈夫な体を作れるようにする。 ・豊かな環境の中、子どもが主体的に活動する中で好奇心や探究心や考える力を育てる。 ・仲間や異年齢児と遊ぶ楽しさを経験する中で、友達への関心や優しさ、思いやりの心を育てる。 ・自分の要求や思いを言葉や行動で相手に表現しながら、他者を受容する感情を育てる。
	下半期 2～5歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本、お話、音楽、自然にふれる中で、豊かな感性や表現力を育み創造性の芽を培う。 ・毎日の生活やあそびの中で、基本的な生活習慣や運動が心地よい感覚として身につくようにする。 ・友だちとの関わりを通し、自分の気持ちを言葉や行動で表現し、熱中して遊べるようにする。 ・生活やあそびの中で、達成感や充実感を味わう経験をし、目標に向かって友だちと力を合わせて活動できるようにする。 ・家庭との連携をとり、子育てのパートナーとしての信頼関係を作っていく。
個別支援	常時	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に対する正当な評価（アセスメント）を行い、保護者の主訴に鑑みながら、常に包括的な視点から具体的で実践的な支援を行う。

事業所内相談支援	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「相談支援記録」
保護者面談 発達相談	随時	・ 随時、希望する保護者に対し実施 ・ 「保護者面談記録」「子育て相談記録」を活用
関係機関との連携	随時	・ 就学・就園に関する各関係機関との連絡調整 ・ 所属している保育園・幼稚園との連携し、自施設における支援内容の調整を行う。
意見・要望への対応	随時	・ 連絡帳、口頭でのご意見についても苦情対応マニュアルに従い 「ご意見ご提案シート」を活用

〈2〉年間行事計画

2024年2月及び3月に開催の「年間計画策定会議第1回・第2回」にて決定し、別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載

〈3〉給食・食育運営方針

1	計画・ねらい	どろんこ会の食育方針 ((1)調理員・保育士・施設長はこどもと一緒に食べる (2)噛む力を育て素材の味を味わえる状態で提供する (3)子どもが自分たちで盛付・配膳して食べる を基本として食欲と意欲を育てる) を基本として食欲と意欲を育てる。
	実践予定内容	子どもの成長発達に即した食育の推進
2	計画・ねらい	日常の生活に密着した楽しい食育を充実させる。 分かち合う事の素晴らしさや大切さを感じられるよう工夫する。
	実践予定内容	大人も子どもも一緒に卓を囲む食事風景
3	計画・ねらい	1年を通して安心できる環境のもと、縁側や戸外で気持ちよく食べる。 友だちや身近なおとなと親しみを持って、楽しく食べる。
	実践予定内容	季節の花を飾った食卓、文化としての食事

〈4〉保健計画

園児健康診断	入園前健診および、年2回 (6月・11月)
歯科検診	年2回 (6月・11月月)
保健だより	月1回 (25日) 発行
スタッフ健康診断	年1回
スタッフ検便	全スタッフ月1回 (5日)

園児への保健指導・取組等	安全な歯磨き指導（座って行う習慣付け）、正しい手洗いうがい指導
流行が予測される感染症	通年・・・新型コロナウイルス 感染症予防のためのうがい・手洗い指導、定期的な換気と消毒の実施 10月頃～5月頃・・・インフルエンザ 11月頃～3月頃・・・感染性胃腸炎
発作・痙攣等の対応のための薬の預かり	ダイアップ・・・預かり無し
エピペン使用できるスタッフ	本日現在1名が、研修受講し、修得済み
AED使用できるスタッフ （AED設置施設のみ）	本日現在1名が、研修受講し、修得済み
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、元気な体づくり体操・うがい指導・手洗い指導などを行う。また消毒・換気を徹底する。

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	防災自主点検 （備蓄品点検含む）	年2回／6・12月の25日
	避難消火訓練	毎月1回／15日
	不審者侵入訓練	年2回／6・12月の25日
	情報セキュリティチェック	年2回／5・11月
	誤飲・誤嚥防止チェック	年4回／4・7・10・1月の25日
	フロン点検（定期1回/3年）	業者による対象物の定期点検 2023年に実施済み
	フロン点検（簡易）	年4回／4・7・10・1月の25日
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日
	個人衛生点検簿／毎日	毎日業務開始前
	検便・細菌検査	毎月1回／5日／全スタッフ

健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月
	身長体重測定	毎月1回／20日
	児童健康診断	内科検診 年2回／6・11月 歯科検診 年2回／6・11月
運営管理	児童・保護者の人権に関する チェック	年2回／4・10月の園会議時
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間
	利用者アンケート調査	年1回

〈6〉環境整備

1	計画・ねらい	子どもたち自身の生活やあそびは子どもたち自身でまかなう事ができるよう、乳幼児の育ちをとらえ児童処遇を考察し、環境設定や環境構成を具体的かつ意図的に整え、継続的に点検と整備、改善を具体的に行う。
	実践予定内容	特に認定こども園への移行期間の工事個所について安全確保
2	計画・ねらい	新型コロナウイルスに係る外出自粛要請などの特別な措置が講じられた場合、活動内容の縮小や制限により子どもの育ちや学びが大きく阻害されないよう特に配慮し、新たな工夫や構想を以て健全な成長発達に確実に寄与していく。
	実践予定内容	園庭など戸外での活動を主とした感染しない環境と体作り

〈7〉手作り遊具安全点検計画

手作り遊具一覧

該当なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	防災	危機管理マニュアルNo.3の災害対策に則り、消防訓練・避難訓練・避難訓練開催通知・自衛消防訓練通知・上級救急救命資格取得（継続）手続き・防災自主点検・危機管理マニュアルの整備・自衛消防組織と安全対策係の設置・緊急地震速報運用を行い、災害発生時には対応フローチャートに従う。 また、土石流及び大規模災害や広域災害に備え、備蓄品の入れ替えや補充といった施設機能強化を継続して行う。
2	ケガ事故防止	危機管理マニュアルNo.3のけが事故防止策・安全点検と保全に則り、事故防止チェックおよび設備点検チェックの実施、安全教育、SIDS防止策を行い、けが発生時には対応フローチャートに従う。
3	防犯	危機管理マニュアルNo.3の不審者対策に則り、不審者侵入訓練の実施、笛の携帯、代理送迎者の把握、不審者情報の収集と共有を行い、不審者侵入

		時にはフローチャートに従う。
4	光化学スモッグ	危機管理マニュアルNo.3の光化学スモッグ対策（P.21～）に則り、光化学スモッグの知識を身につけ、注意報発令の把握を行いながら、発生時には光化学スモッグ発生時対応および行政連絡に従って対応する。

6. 実習生・中高生の受入

次世代育成の観点から、実習生や研修生、地域ボランティア受け入れを積極的に行い、その一人ひとりの様子を合わせて具体的かつ家庭的に援助や指導を行う。

7. スタッフ育成と研修計画

〈1〉今年度方針・テーマ

スタッフ全員が日々の保育実践を通じて、必要な知識および技術の習得、維持および向上を図るとともに、保育の課題などへの共通理解や協働性を高め、保育所全体としての保育の質の向上を図る。そのために日常的にスタッフ同士が主体的に学びあう姿勢と環境が重要であり、研修の充実を図る。

1	実践予定内容	養護と教育が一体となった「生活の場」としてのこども園作りを行う。
2	実践予定内容	幼保連携型認定こども園教育保育要領に係る乳児期の育ちと3つの視点・幼児期の育ちと5領域や10の姿、アプローチプログラムについての学びを深める。
3	実践予定内容	タイムラインやポートフォリオに代表されるヴィジブルな保育評価手法を学ぶ。

新人研修	新人社員研修	スタッフ研修
<ul style="list-style-type: none"> ■ 入社時オリエンテーション ■ 現場OJT研修 ■ 保育品質マニュアル研修 (事務研修・ケガケーススタディ研修含む) ■ コンピテンシー研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新人社員研修 → 会場研修 → 系列園保育実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全社員研修 (年1回) ■ 園内研修 (月1回以上) ■ 保育スキル研修 (エリア別) ■ リーダー養成研修 (9～2月) ■ 業務改善研修 (月1回) (=保育の質を上げる会議) ■ 施設長勉強会 (月1回) ■ デンマークインターンシップ (年1回) ■ コンピテンシー自己採点 (月1回) ■ 人権チェック (4月・10月) ■ 外部研修 ■ 上級救命救急資格取得講習
<p>保育スキル研修</p>  <p>←お迎え 対応研修</p>		<p>←避難訓練研修</p>

〈2〉2024年度 園内研修計画

(毎月開催の園会議の時間内を使用して自園にて実施)

開催日	開催時刻	名称・テーマ	ねらい・共通理解する保育課題
4月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 日課・基本活動と役割分担 ③ 事故・怪我の予防	「チームワークを大切にする～畑や動物飼育の役割分担・コンポストで堆肥づくり～」※ディスカッション形式 具体的な事故・怪我の予防方法を知る。 ※グループワーク・ロールプレイ形式
5月24日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② アプローチカリキュラム ③ ヴィジブルな保育記録	・アプローチカリキュラムを策定する～幼児教育の3つの「資質・能力」・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」が現れ出る保育を考える～ ※講義・ディスカッションとワーク形式 ・「篠栗どろんこのポートフォリオを考える～ヴィジブルな保育記録および評価（ポートフォリオを知る）～」 ※ディスカッション形式
6月21日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 水遊びとプール遊びの安全	・水遊びとプール遊びの安全について学び、技術を習得する。 ※講義・ロールプレイ・ディスカッション形式
7月26日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② インタープリテーション ③ 充実した食育	・「インタープリテーションを通じた保育アプローチを学ぶ～自然事象や豊かな文化を基に「感じる体験」の展開～」 ※講義形式 ・コロナ禍を経験した上での充実した食育を考える。 ※ディスカッション形式
8月23日	18:00~20:00	① コンピテンシー自己採点 ② 幼保連携型認定こども園教育保育要領 ③ 健康な体作りと運動遊び	・「幼保連携型認定こども園教育保育要領について～乳児期の育ちと3つの視点について学ぶ～」 ※講義形式

			<ul style="list-style-type: none"> ・夏季以降の健康的な生活と丈夫な体作りについて考える。 ※ディスカッション形式
9月27日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 幼保連携型認定こども園教育保育要領 ③ 丈夫な体作りと行事 	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼保連携型認定こども園教育保育要領について～幼児期の育ちと5領域について学ぶ～」 ※講義形式 ・ダイナミックな遊びの高まりと身体と頭と心の協応を知る～子ども主体の運動会を考える～ ※ディスカッション形式
10月25日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 食育基本法 ③ 生活を生活で生活へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育基本法の基本を学ぶ～本当の意味の楽しい食卓とは～ ※講義とディスカッション形式 ・日々の生活とそのサイクルの重要性を学ぶ～生活を生活で生活へ～ ※ディスカッション形式
11月15日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を学ぶ。 ※講義とディスカッション形式
12月20日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 子ども主体の生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育ちと学びを“見える化”する～子ども主体の生活発表会とは～ ※ディスカッション形式
1月24日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 生活発表会の在り方 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活発表会について～生活を発表する～ ※グループワーク形式 ※準備作業など
2月21日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 今年度の保育のリフレクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の実践の振り返りとまとめを行う。 ・全体的な計画、指導計画の見直しを行う。 ※クラス、グループ単位でのディカッション形式および、実践報告会
3月21日	18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピテンシー自己採点 ② 新年度に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・新年度の見通しを立てる。 ・事業計画を知り、具体的な指導計画の策定を行う。 ※講義とワーク形式

			・エピペン実技研修 ※ロールプレイ形式
--	--	--	------------------------

〈3〉外部研修への出席

事業継続に必要な外部研修については、承認を得たうえで出席する。

〈4〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修（子育ての質を上げる会議）	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
施設長勉強会	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回
園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座	園長大学®保育士大学講座および社内限定公開講座を活用											
全社員研修	9月1日～30日までの間に録画視聴（全スタッフ対象）											
リーダー養成研修	選ばれたスタッフが参加予定											
デンマークインターンシップ	希望するスタッフが応募											

〈5〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝える。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をする。

8. 地域交流計画

〈1〉今年度方針・テーマ

法人理念における保育方針「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」にある通り、園外に出かけ近隣住民や身近な人と様々ななかかわりを経験し、子どもたち一人ひとりが地域に愛される存在になるよう計画し実践する。

〈2〉具体的な地域交流計画

青空保育（保育園主催）	月1回 園庭にて
商店街ツアー	週1回
世代間交流	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の様子に応じて、高齢者福祉施設や近隣住民、子育て支援ゾーン来所利用親子との交流を計画し、日常の保育活動の中で積極的に交流を行う。 ・保育士養成校の実習生の受け入れ、小中高大生の職場体験や社会人といった幅広い年齢層のボランティア受け入れを随時行う。
異年齢交流	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの様子に応じて異年齢で過ごせる機会を設け、様々な人とのかかわりが充実するよう配慮する。
地域拠点活動	<ul style="list-style-type: none"> ・園児保護者の保育参加の随時受け入れ、保護者との協働によるどろんこ祭の開催を行う。 ・一時保育事業を実施する。 ・地域親子に向けて、子育て支援ちきんえっぐと協同による園庭開放や給食体験、どろんこ祭への誘致を行う。
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉

9. 小学校との連携の計画

〈1〉今年度方針・テーマ

創造的な思考や主体的な生活態度の基礎を培う。こども園における遊びや生活を通しての体験を中心とした総合的な指導と、小学校における時間割に基づき教科・教材を用いて学習を行う教育への円滑な接続に向け、アプローチカリキュラムの策定に取り掛かり、順次その改善を図る。また、児童等との交流、教師の意見交換や合同研究の機会を図る。

〈2〉具体的な連携計画

以下の計画について、小学校と相談・協議を4月より開始する。篠栗小学校を中心に交流を図り、他小学校とも連携を進めていく。スムーズな就学を目的とし、情報交換や発達・成長の様子をはじめ、子どもの姿を共有できるように働きかけていく。

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動計画(会場)	目的
5月頃	篠栗小学校 1年次クラス	1～2名予定	授業参観	職員間交流
1月頃	篠栗小学校 1年生	29名予定	小学生との交流会 (当園幼児保育室)	子ども間交流
3月頃	篠栗小学校 等	1～2名予定	保幼小連絡協議会	職員間交流

10. 個別支援計画の作成と更新について

- ① 子どもや家族への面談等により専門的な視点からアセスメントを実施する。子どもの障害がいの状態だけでなく、子どもの適応行動の状況を適切な観点からみることが出来るツールを使って確認していき、子どもの発育状況、自己理解、心理的課題、これまで受けてきた支援などを鑑み、保護者のニーズに照らして子ども自身の持つニーズを明確にしていくことに重点を置く。
- ② アセスメントでの情報について課題を整理し、具体的な支援目標やその達成時期、生活全般の質を向上させる為の課題、児童発達支援の内容や具体的な手立てを検討し、個別の支援計画を作成する。
- ③ 支援内容については、「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「どれくらい」支援するということが計画の中で明確になるようにする。
- ④ 子どもや保護者に対し、ガイドラインに沿った児童発達支援の提供すべき支援を鑑みながらこれに基づき作成された「個別支援計画」を示して説明を行い、子どもに必要な支援が提供させる内容になっているかどうか、同意を得る。
- ⑤ 支援手法においては、個別支援・グループ支援などその子どもの課題に応じて適宜組み合わせる。
- ⑥ 原則として6カ月に1回以上のモニタリングを実施するが、子どもの状態や家庭状況に変化があった場合などは、改めて提供している支援の客観的評価を行い、支援計画の見直しをする。

〈1〉 個別支援計画の作成・見直し

特別な支援が必要な乳幼児については、個別に保育計画を作成し、家庭や関係機関と連携しながら、計画的かつ継続的に一人ひとりに応じた保育内容や配慮を実践する。

〈2〉 毎月のケース会議開催

(4～3月に計12回開催予定 参加者：2名予定)

特別な支援が必要な乳幼児については、個別に保育計画を作成し、家庭や関係機関と連携しながら、計画的かつ継続的に一人ひとりに応じた保育内容や配慮を実践する。

〈3〉 進級引継および、小学校への引継

町内や糟屋郡の地域での保幼小連絡会に参加し、園での取り組みや情報の共有を行う。就学時健康診断前後には対象小学校と密に連絡を取っていく。また、保護者の同意を得て家庭支援センターや療育など関係機関との連携を行い、安心して通える状況を作る。

11. 子育て支援事業

園に來訪した親子に都度署名をもらい、月間延來場者数を自治体に報告する。

実施項目	詳細
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30
自然食堂…親子ランチ交流	毎週(水) 10:00～12:00

どろんこ芸術学校 どろんこ自然学校	毎週（金）10:00～12:00
勝手籠設置	（月）～（土）7:00～20:00
ちきんえっぐだより	毎月1日発行
青空保育（支援センター主催）	月1回 園庭にて開催

12. 施設運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

受審予定なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年9月30日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施予定である。

自己評価開始予定時刻：10時30分

自己評価終了予定時刻：15時00分

自己評価実施予定者：藤井

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用保護者に対してアンケートを実施し、評価結果を開示する。

アンケート配布予定日：8月25日

13. 3カ年計画の具体化

〈1〉当年度以降の3カ年計画

‘24年度	目指す姿	・つむぎ 篠栗ルームとこども園と共に生きるインクルーシブな生活へ。大人も子どももトライ&エラー。
	重点施策	・インクルーシブ保有をしていくために、必要な事を考え、子どもの興味、関心、好奇心をとらえ、適切な支援と保育の実践を行う。 ・つむぎ 篠栗ルームと保育園合同での振り返りの時間を設け、こども園スタッフのスキル向上に努める。
‘25年度	目指す姿	つむぎ 篠栗ルームとこども園、併設の絆をつむぐ旅。支援の質の向上とつむぎ 篠栗ルームの強みを進化させる。
	重点施策	つむぎ 篠栗ルームとこども園合同の研修会を実施。ポートフォリオ取り組みのスタート。
‘26年度	目指す姿	インクルーシブ保育、非認知能力の発達を意識してさらなる質の向上へ、そして地域との交流をスタートさせる。

	重点施策	つむぎ 篠栗ルームとこども園併設での取り組みを発信していく。 選んでいただける施設へ、地域を包括した遊び場へ。
--	------	------------------------------------------------------------

以上

作成日：2024年3月15日 作成者：発達支援つむぎ 篠栗ルーム 施設長 藤井 美香